

開講科目名 Course	多様な言語の世界 / The World of Multilingualism
時間割コード Course Code	10000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	金村 久美
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金村 久美 (経済学部)
授業の目標	<p>・知識・理解の領域</p> <p>1) 本学留学生の母国の言語の概要を知る。</p> <p>2) 本学留学生と挨拶し、親しみを表すことができる程度の、簡単な語彙やフレーズを知る。</p> <p>3) 本学留学生の母国の地理、気候、歴史、文化についての最も基本的な知識を知る。</p> <p>・技能の領域</p> <p>1) この授業で扱う言語の文字を目にしたたり、音を聞いて、何語か同定することができる。</p> <p>2) 発音の全体像をつかみ、知っている言葉を聞き取ることができ、簡単な語彙やフレーズをネイティブに通じる発音で言うことができる。</p> <p>3) あいさつ、自己紹介、数字、その他、親しみを表す表現を使ってみることができる。</p> <p>・態度・志向性の領域</p> <p>1) 日本の周辺国の一つである、留学生の母国に親しみをもち、友好的な態度を示すことができる。</p>
授業の概要	<p>1) 表記・発音：本学留学生の母国の言語（2022年度の学習言語は授業第1週目に説明する）の表記と発音について学び、文字を見たり、会話を聞いて何語かわかる程度に練習する。また、いくつかの代表的な文字の書き方を覚え、書けるように練習する。</p> <p>2) 会話：本科目で学ぶ3言語の母語話者と知り合い、親しみを表すための語彙や表現を覚え、話しかける練習をする。あいさつ、名前の呼び方、「～人ですか」、「～語がわかりますか」、「元気ですか」、「ありがとう」「ごめんなさい」などの表現を言い、実際に留学生と会話をする。</p> <p>3) 基礎知識：本科目で学ぶ3つの国についての基礎知識（地理、気候、文化、宗教など）を学ぶ。</p> <p>【この科目を履修する学生の条件】</p> <p>この科目の履修を希望する学生は、次のことを行えることを条件とする。</p> <p>1) この科目を履修したい学生は、SAやクラスメイトと質問などのやりとりを行わなければならない。その際には、積極的に発言し、相手の話に耳を傾ける態度が必要である。これに同意できない学生には、履修を認めない。</p> <p>2) この科目では、留学生のSAが先生役となり、プレゼンテーションを行い、そこから学ぶ。留学生はプロの先生ではなく参加学生と同じ学生であるので、完璧な準備やプレゼンテーションを求めない。参加学生には、留学生のSAのプレゼンテーションが完璧でなくても協力し、クラスメイト全員がお互いに学びあう環境作りに協力しなければならない。これに同意できない学生には、履修を認めない。</p> <p>3) この科目では、参加学生同士がビデオ課題を作成したり、質問やコメントをしたりするために、授業時間外の交流活動が行われる。そのため、授業時間外にこのような時間を割く必要がある。これに参加できない学生は、単位を取得できない。</p> <p>4) この科目に参加する学生には、異なる国や文化を尊重し、違う習慣や考え方を持つ人から学ぶ姿勢が必要である。この姿勢がない学生は、単位を取得できない。</p>

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業期間中に、各言語の会話のビデオ課題を提出する。評価：計30% ・毎週の授業にて、クイズ(前回の授業の復習)を提出する。評価：30% ・毎回の授業でのコメント及び質問の提出：40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	他の言語や文化を尊重しない態度を表す学生は、教員の判断で失格にすることがあります。
授業計画	1週目 オリエンテーション、SAの紹介、予備知識(地理?場所、首都、言語の名前)、会話(あいさつ1の1) 2週目 基礎知識1、表記・発音1、会話1の2(あいさつ) 3週目 基礎知識2、表記・発音2、会話1の3(あいさつ) 4週目 基礎知識3、表記・発音3、会話2の1(~人ですか) 5週目 基礎知識4、表記・発音4、会話2の2(~人ですか) 6週目 基礎知識5、表記・発音5、会話2の3(~人ですか) 7週目 基礎知識6、表記・発音6、会話3の1(名前は?) 8週目 基礎知識7、表記・発音7、会話3の2(名前は?) 9週目 基礎知識8、表記・発音8、会話3の3(名前は?) 10週目 基礎知識9、表記・発音9、会話4の1(~語わかる?) 11週目 基礎知識10、表記・発音10、会話4の2(~語わかる?) 12週目 基礎知識11、表記・発音11、会話4の3(~語わかる?) 13週目 基礎知識12、表記・発音12、会話5の1(元気?) 14週目 基礎知識13、表記・発音13、会話5の2(元気?) 15週目 基礎知識14、表記・発音14、会話5の3(元気?)、課題提出
テキスト	授業内で指示する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内で質問に対応する。
フィードバックの方法	Googleクラスルームを使用し、教員はコメントに対してフィードバックを毎週返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	復習のためのクイズや課題・コメント作成のため、毎週最低30分の復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 7.課題発見力

開講科目名 Course	アジアの中の思想 / Thoughts in Asia
時間割コード Course Code	10020
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	李 彩華
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華 (経営学部)
授業の目標	<p>日本を軸に据えながら、アジア、なかでも特に東アジアの歴史の中で培われた様々な思想を広く学習・理解してゆくことをこの授業の目標とします。</p> <p>社会科学としての思想は、哲学や歴史・文学・政治学といった学問と広く関連しています。この講義は、思想を対話・メッセージ、総合的な学知としてとらえ、特に思想の結びつき、価値観の相互の影響という思想連鎖の視点から、アジア、とりわけ東アジアの様々な思想について学習していきます。多様な思想及びその連鎖について学ぶことにより、自らの認識を相対化し思考の幅を広げることがめざします。</p> <p>知識・理解の領域 アジアの中の思想を、アジア、特に東アジア各国の関係性の中で理解することができる。</p> <p>思考判断の領域 アジアにおける多様な思想を自分の中に取り込んで考えることにより、自らの認識を相対化し思考の幅を広げることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 アジアの中の思想のつながりをとらえ直すことにより、アジアに関わる今日的な問題について、よりグローバルな視点から展望することができる。</p>
授業の概要	<p>本講義では、まずインドの仏教と中国の儒教、西洋のキリスト教思想のアジア、特に東アジアへの展開の様相を概説します。そのうえで近世と幕末期に目を転じ、日本・中国と朝鮮との間で、相互に影響しあいながら繰り広げられた様々な革新思想の足跡を辿ってゆきます。さらに近代の思想として、自由、平等、民権、平和、日本とアジアといったモチーフをベースに説き明かされた様々な言説に触れてみたいと思います。こうした過去の思想との対話を通して、皆さんとともに「今日」を考える何らかのヒントをつかむことができればと考えています。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題提出、授業態度、期末試験などにより、総合的に成績評価します。 ・課題提出、授業態度：30% ・期末試験70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、欠席が6回を超えた場合は失格(X)となります。無断欠席は認めません。

授業計画	第1回 導入：「空間アジア」と「東アジア文化圏」（ガイダンスを含む） 第2回 儒教・儒学と東アジア 第3回 仏教の東アジアへの展開と影響 第4回 東アジアにおけるキリスト教思想の受容 第5回 幕末期における東アジアの思想連鎖 第6回 幕末期における東アジアの維新革命思想 第7回 アジアの平和思想の水脈 第8回 福沢諭吉の思想と東アジア 第9回 中江兆民の思想と東アジア 第10回 日本の初期社会主義思想とアジア 第11回 明治中後期のアジア主義とアジア諸国からの反応 第12回 岡倉天心のアジア主義とインド 第13回 孫文・南方熊楠・宮崎滔天 第14回 大正デモクラシーと中国・朝鮮 第15回 まとめと振り返り
テキスト	
参考書	初級 菊地章太『儒教・仏教・道教/東アジアの思想空間』講談社2015年 中級 山室信一『アジアの思想史脈』人文書院2017年 上級 溝口雄三他編『（アジアから考える）【1】交錯するアジア』東京大学出版会1993年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・提出した課題について、授業中で講評し、ポイントについてまとめて、できる限り隣同士で確認してもらいます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業の後やメールなどで対応します。
フィードバックの方法	・授業中に講評するといった方法でフィードバックします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・配布した資料および自分のレベルにあった参考書をよく読んで予習・復習してもらいます。一回の講義につき、4時間程度をかけて予習・復習してもらいます。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	アートと現代社会 / Art in contemporary Society
時間割コード Course Code	10030
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	小西 信之
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小西 信之 (法学部)
授業の目標	現代アートとは何かについて理解する。 現代アートに対して自分の考えを持てるようになる。
授業の概要	世界と日本の近代から現代までのアートについて、その歴史と現況について学ぶ。 そのことを通じて、アートに対する認識を深め、知識と感性を高めてもらうため、多くのアーティストやその作品を紹介していく。
評価方法	参加態度50%。「レポート」50%。 注意事項；レポートのほとんどがいわゆる「コピペ」である場合、評価対象とならないので注意されたい。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が8回に満たない場合
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	教員作成のパワーポイント。
参考書	『カラー版 20世紀の美術』『現代アート事典』（美術出版社） 西村清和『現代アートの哲学』（産業図書）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応します。
フィードバックの方法	授業中に対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業で知って関心を持ったアーティストがいたら、後でインターネットで調べるなどして復習しましょう。また見るべき展覧会が開催される時はお知らせしますので、見に行きアートについての知見を深めましょう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス。 アートとは何か？そして現代アートとは何か？		
2	トピック1：「アート・ワールド」について。 高度資本主義社会の中のアートについて。		
3	現代アートの歴史I 写真、印象派、キュビズム、フォーヴィスム		
4	現代アートの歴史II 表現主義、ダダ、シュルレアリスム		
5	現代アートの歴史III 抽象絵画、抽象表現主義		
6	現代アートの歴史IV ポップ・アート、ミニマル・アート		
7	現代アートの歴史V コンセプチャル・アート、アースワーク、インスタレーション		
8	日本の現代アートの歴史1 明治・大正・昭和(戦前)の美術		
9	日本の現代アートの歴史2 昭和(戦中・戦後)の美術		
10	日本の現代アートの歴史3 昭和後期・平成以降の美術		
11	日本の現代アートの歴史4 漫画、アニメーションはアートなのか？		
12	現代アートの歴史VI フェミニズム・アート、ポスト・モダニズム		
13	現代アートの歴史VII 文化多元主義、ニューフォトグラフィー、ポスト植民地主義		
14	現代アートの歴史VIII 1990年代のアート、リレーショナル・アート		
15	現代アートの歴史IX 政治とアート。アーティストはどのように社会と関わるか？		

開講科目名 Course	地理学 I (地誌を含む。) / Geography I
時間割コード Course Code	10050
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 正之 (経済学部)
授業の目標	<p>【地理学 (地誌学) の理解】</p> <p>読図・作図を通して、世界のさまざまな地域の特色や、地域区分の手法や意味について学び、その背景にある自然的・社会的要因について説明することができるようになる。</p> <p>知識・理解の領域 読図：世界各地の自然・社会環境について説明することができる。 作図：様々なスケールで発生している問題について、その要因も含めて説明することができる。 思考判断の領域 読図：各地域の共通点や相違点を考察するための、空間的思考を身につけることができる。 態度・志向性の領域 読図：空間的思考を前提に、世界各地の問題を自ら設定して調べることができる。 技能の領域 作図：地域の特徴を主題とした地図を描くことができる。</p>
授業の概要	<p>授業形態</p> <p>講義を中心に授業を進める。地域の特色や地球的課題についての基本的事項を理解する。さらに、これらの地域的特色や地球的課題の背景にある自然的・社会的要因について理解する。また、地域または地球的課題について各自がテーマを設定し、そのテーマについての調査結果をレポートとして提出する。</p> <p>関連事項</p> <p>本講義は「地域」をキーワードとした学びを深めるための基礎的な知識と技能を習得する科目として位置づけられる。なお、GISや経済地理学を学ぶ上での関連科目であり、当該科目を履修する予定のある者は、履修しておくことが望ましい。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 講義へのリアクションを重視する (単に聴講するだけでは単位取得できない)。 講義ではリアクションについて補足を行う。それを踏まえたレポート作成を心がけること。 講義のなかで求める課題 (リアクションペーパー (40%)、中間レポート (30%)、最終レポート (30%)) で評価する。ただしレポートの未提出が1回でもあれば不合格とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> 講義で指示のあった課題に取り組まない者、無断欠席4回以上の者は失格とする。なお、欠席した場合も次の講義で課題を提出すること。 「欠席届」の提出は無効である。講義開始後25分を越えての入室は認めない。授業態度等で講義の妨げになると判断した場合、退出させることがある。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	毎回の講義内容に応じて内容を記載した資料がテキストとなる。

参考書	参考図書：「ジオ・パルNEO」（2012）海青社。「詳細資料地理の研究」（2010）帝国書院。「フィールド映像術」古今書院(2015)。「フィールド写真術」古今書院（2016）。「情報科教育法 改訂2版」オーム社（2009）。 その他、参考図書・文献については適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	1．classroomを、講義の計画や内容の確認、受講した際の資料閲覧や課題提出に使用します。 2．ドライブを、講義資料の共有など、自分の資料やレポートを保存に使用します。 3．Gmail、ドキュメントを、各自が提出するレポート作成に使用します。 4．その他、googleformsや会議アプリを必要に応じ使用します。 上記にあたり、ネットワーク環境のあるPCの利用が望ましい。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	内容についての質問は授業後およびオフィスアワーで受け付ける。 大学のgooleアカウント利用が必須。mailとclassroom、その他、会議アプリも必要に応じて使用する。
フィードバックの方法	大学のgooleアカウント利用が必須。mailとclassroom、その他、会議アプリも必要に応じて使用する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各自が、課題やリアクションを回答するための、講義時間に相当する復習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 地理学への招待	講義全体の内容、授業の進め方など。書籍や新聞、雑誌、テレビなどにおいて、「地理」がいかにして利用、分析、表現されているかを観察・考察することを求める。	
2	地理学を学ぶ前に(1) 地理学のイメージ	なぜ地理学を学ぶのかを講義	
3	地理学を学ぶ前に(2) 基礎としての地理学の概要	系統地理学と地誌学について講義	
4	地理学とは 地理学の枠組み、歴史	地理学の誕生から発展に至る過程について講義	
5	地球の自然環境 地域区分1	地形・気候について講義	
6	地域区分2	植生・土壌・水について講義	
7	資源と産業 地域区分1	世界の農業地域について講義	
8	地域区分2	エネルギー資源、工業地域について講義	
9	世界の諸地域 東アジア	様々な地域区分、中国と周辺地域について講義	
10	その他アジア	東南アジア、南アジア、中央アジア、西アジアの自然と国々について講義	
11	アフリカ	自然と国々について講義	
12	ヨーロッパ	ヨーロッパ、ロシアの自然と国々について講義	
13	北アメリカ	アメリカ、カナダについて講義	
14	ラテンアメリカ他	中央、南アメリカ、オセアニアについて講義	
15	地理学の今日的意義	レポートに関する質疑、ディスカッション(総括・全体質疑・課題提出)	

開講科目名 Course	心の科学I / Psychology I
時間割コード Course Code	10070
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	野副 紫をん
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	野副 紫をん (経済学部)
授業の目標	<p>「心理学」は「心の科学」と言われる。「心理学」というと特殊なものと思われるかもしれないが、実は普通の何気ない生活の中に心理学の理論が多数活かされている。本講義では、身近な生活の中から心理学的なトピックスを取り上げ、社会の中で「人間の心理」がどのように活用されているかについて理解を深めるとともに、心理テスト等を用いて自分自身の心と体について探究し、自己の内面について理解を深めることを目標とする。</p> <p>学習成果 知識・理解の領域～日常の社会的な事柄を心理学的な視点から考える枠組みを持てる。自分の内面に触れ、自己理解を深めることができる。 技能の領域～心の病気について理解し、心の健康に役立つ方法を習得できる。 態度・志向性の領域～人間の心の多様性に気づき、“心”について日頃から関心を持つことができる。</p>
授業の概要	<p>例えば公衆の場で見かける貼り紙、営業マンのテクニクなど、普段、身の周りにある題材を使って、それが心理学のどのような知見に基づいたものであるのかを学習する。また、心理テストやワーク等、心理学の手法を用いて自分の内面をふり返り、自己理解を深める。</p> <p>講義に加え各種ワークを取り入れる予定である。</p> <p>また、原則として毎回、学習した内容について小レポートを提出してもらう。</p> <p>後期に開講される「心の科学2」とは、取り挙げるトピックが異なる。このため、「心の科学1」「心の科学2」いずれかのみを受講も可能であるが、両講義を受講することで、人間の“心”についてさらに理解を深めることができる。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. 授業によく出席し、まじめな態度で講義・ワークに取り組むこと(20%)。</p> <p>2. 小レポート(60%)および最終レポート(20%)に自分の考えを明確に記述できること。学んだことをそのまま書くのではなく、特に自分の「感じたこと」や「考えたこと」を「自分の言葉」で書くことが求められる。</p> <p>第1回目の授業で評価の詳細を述べるため、必ず出席すること。</p> <p>また、私語、スマートフォンの使用、新型コロナウイルス感染予防等の受講態度について、注意しても行動が改善されない場合は、失格とする場合もあるので注意すること。</p> <p>また、遠隔授業の場合、配布された資料を視聴せずに課題のみ提出していることが確認された場合は、減点する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>欠席が5回以上の場合には原則失格(遅刻は3回で欠席1回とする。学生証不携帯の場合は欠席とするので、受講時は必ず学生証を携帯すること)。</p> <p>また、他者のレポートを代行して作成した場合や写して提出した場合、あるいは他者に自分のレポートをコピーさせた場合等、不正行為が認められた時は、失格とする。</p>

授業計画	<p>1回目：初回ガイダンス・“こころ”とは？</p> <p>2回目：楽しいキャンパスライフを送ろう：大学生活マップ</p> <p>3回目：席順に表れる人の心：パーソナルスペース・対人距離</p> <p>4回目：「この線、同じ長さなの!？」：視覚の不思議</p> <p>5回目：好きなのに、ケンカになるのはなぜ？：恋愛を読む心理学</p> <p>6回目：人はなぜ権威に弱いのか？：制服の威力・他者への服従</p> <p>7回目：「私でなくても誰かが...」：集団の心理・同調行動</p> <p>8回目：説得のテクニック：交渉のコツ・ランチョンテクニック</p> <p>9回目：価格設定で客の心をつかむ：セールスに活かす心理学</p> <p>10回目：お酒とうまくつき合おう：アルコールパッチテスト</p> <p>11回目：心のかげ“うつ病”を知る（1）：うつ病と躁うつ病</p> <p>12回目：心のかげ“うつ病”を知る（2）：うつ病の実際</p> <p>13回目：自己理解を深める（1）：性格のタイプ</p> <p>14回目：自己理解を深める（2）：自分と向き合うワーク</p> <p>15回目：まとめと振り返り・最終レポート</p>
テキスト	<p>使用しない。</p> <p>適宜、プリントを配布する。</p>
参考書	参考文献は講義の中で紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	アルコールパッチテスト、心理テスト（向性検査）、セルフモニタリング・ワーク等、実習を多数取り入れ、その結果を自ら分析してレポートにまとめる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	公認心理師及び臨床心理士の資格を有し心理治療の経験を持つ教員が、授業の中で一般的によく見られる精神疾患やセルフモニタリング等，学生の心身健康に関する知識や対処法を教授し，学生のメンタルヘルスの維持増進に寄与する。
質問への対応方法	授業中、もしくは授業後に随時、質問を受け付ける。
フィードバックの方法	授業内で課したレポートや質問に対して、翌週、コメントを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回、当該回の授業テーマに関する課題を課し、レポートを作成させる（復習2時間）。また、同様に次回の授業テーマに関する課題を課し、予習に取り組みさせる（予習2時間）。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	日本の文化と社会 / Japanese Culture and Society
時間割コード Course Code	10090
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	四辻 秀紀
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	四辻 秀紀 (経営学部)
授業の目標	日本人が育んできた美意識に内在する本質について、変革期の時世粧を通じて考え、理解すること。 日本の歴史の中で培われてきた文化諸相において、大きく変革を遂げていった三つの時代について理解を深めること。
授業の概要	日本の歴史の中で培われてきた文化諸相において、大きく変革を遂げていった三つの時代について理解を深めること。
評価方法	レポートが50%、授業参加への意欲度が50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合。
授業計画	1 概説 2 仏教の伝来と寺院 3 天平の美術 4 空海と密教寺院 5 末法の時代 弥勒信仰・浄土教信仰・法華経信仰 6 造寺造仏と風流・過差 7 写経の盛行と風流・過差・美麗 8 王朝の生活と風流 9 鎌倉時代の信仰と美術 8 婆娑羅の時代 唐物数寄と茶寄合 9 室町将軍家のコレクション 10 花道・香道・茶の湯の文化 11 戦国武将たちの美意識 12 桃山から江戸時代へ 金と銀が湧き出た時代 13 かぶく美の時代—近世初期の美意識 1 14 かぶく美の時代—近世初期の美意識 2 15 まとめ
テキスト	必要に応じて資料を配信します。
参考書	授業の中で随時紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	この科目は、徳川美術館・学芸員の経験を有する教員が、日本の歴史の中で培われてきた文化諸相を通覧し、内在する伝統と変遷を探究する「実務経験のある教員による授業科目」です。
質問への対応方法	随時、メール対応。
フィードバックの方法	翌週に返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習・復習は全体で60時間の学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	地域創生と文化遺産 / Cultural Heritage and Regional Revitalization
時間割コード Course Code	10100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	赤塚 次郎
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	赤塚 次郎 (法学部)
授業の目標	名古屋経済大学が存在する犬山・小牧地域には数多くの有形無形の文化遺産が存在し、その多様性は当地域の特色であり、またその特色をいかした街づくりが積極的に行われています。そこには一般の文化財の枠を超えて、さまざまな関連性の総体が、何となくその場の雰囲気を作っている場合が多いようです。 本授業では地域に残るこうした多様な文化遺産を具体的に学びながら、特色ある地域の街づくり・地域創生の柱を「文化遺産」と考え、文献資料を交えて地域の伝承や残されてきた文化財との関係を総合的に理解する「文化遺産学」を学びます。 また街づくりの具体的なヒントや現代社会の出来事を的確にとらえる力を身につけることができます。
授業の概要	文化遺産を活用した地域創生・街づくりに生かす活動を 1) 文化遺産学の基礎講座、日本を中心とする文化遺産(日本遺産・世界遺産を含む)をはじめ、地域にのこる有形無形の文化財について学ぶことができます。 2) 犬山・小牧地域の具体的な事例などを利用し、文化遺産を文化資源として広く地域社会で活用してもらうための機会と場を考えていきます。
評価方法	主に各授業内での課題解答の集計により実施。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第1～3回：日本の世界遺産と日本遺産の概要 第4～9回：桃太郎伝承・日本100名城・妖怪・狛犬・街道など、身近な文化遺産を通じて街づくりとその歴史を考える。 第10～15回：無形文化財や伝統的な街並みから地域の歴史・観光、その街づくりの具体例を学ぶ。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業単位での回答用紙に記載
フィードバックの方法	次の授業等にてまとめて回答

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	なるべく次の授業の内容等を簡潔にテキスト化 提示した情報内で事前にHP等を確認
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 13.気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	ジェンダーと現代社会 / Gender and Contemporary Society
時間割コード Course Code	10110
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	川津 雅江
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	川津 雅江 (法学部)
授業の目標	<p>当たり前と思いがちな「性別」の観念が実は歴史的社会的構造物であることを知るため、ジェンダー構築の歴史を学ぶとともに、それが現在の社会構造にどのように組み込まれ、問題を生じさせているのかを具体例を通して考えます。そして、社会や自分自身に潜むジェンダー問題を考察し、その是正のあり方を模索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解の領域 ジェンダー・セクシュアリティに関する知識の理解ができる。 ・技能の領域 情報・知識を論理的に分析し、表現できる。 ・態度・志向性の領域 社会・家族の一員としての意識を持ち、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
授業の概要	<p>この授業は、西洋において現代的なジェンダー・セクシュアリティ観が成立するまでの歴史を学ぶとともに、私たちの性やジェンダーに関する現在のさまざまな問題について考えます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート 70% ・期末レポート 30% <p>毎回のレポートの結果と期末レポートの結果を総合して評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が5回を超えた場合、失格になります。
授業計画	<p>授業の資料や毎回のレポートの課題は、Google Classroomを通じて配布します。レポートは、期限までにGoogle Classroomを通して提出してください。期限までに提出しないと評価がつきませんので、注意してください。</p> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	加藤秀一 『はじめてのジェンダー論』 有斐閣ストゥディア, 2017.

参考書	<p>入門・初級： 伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子『女性学・男性学：ジェンダー論入門』第3版，有斐閣アルマ，2019。 上野瞭『アリスの穴の中で』新潮社，1989。 ウルフ，ヴァージニア『オーランド』杉山洋子訳，ちくま文庫，1998。 オウィディウス『変身物語』中村善也訳，岩波文庫，1984。 プラトン『饗宴』久保勉訳，岩波書店，1965。</p> <p>中・上級： ウルストンクラフト，メアリ『女性の権利の擁護：政治および道徳問題の批判をこめて』白井堯子訳，未来社，1980。 川津雅江『サッポータちの十八世紀：近代イギリスにおける女性・ジェンダー・セクシュアリティ』音羽書房鶴見書店，2012。 グライコ，パトリック『両性具有：ヨーロッパ文化のなかの「あいまいな存在」の歴史』吉田春美訳，原書房，2003。 シーピンガー，ロンダ『女性を弄ぶ博物学：リンネはなぜ乳房にこだわったのか?』小川眞里子・財部香枝訳，工作舎，1996。 デッカー，ルドルフ・M，ロッテ・C・ファン・ドゥ・ポル『兵士になった女性たち：近世ヨーロッパにおける異性装の伝統』大木昌訳，法政大学出版局，2007。 内閣府『男女共同参画白書』 フーコー，ミシェル『性の歴史I：知への意志』渡辺守章訳，新潮社，1986。 ラカー，トマス『セックスの発明：性差の観念史と解剖学のアボリア』高井宏子・細谷等訳，工作舎，1998。 ラセット，シンシア・イーグル『女性を捏造した男たち：ヴィクトリア時代の性差の科学』上野直子訳，工作舎，1994。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は、授業後とメール(mkawatsu@nagoya-ku.ac.jp)にて対応します。
フィードバックの方法	毎回提出される小レポートに点数・コメントをつけて返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業1回につき、準備学習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 4.感情制御力 6.行動持続力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ジェンダー論への導入 さまざまなジェンダー現象、ジェンダーの定義	テキスト p.1-14 1時間の予習と3時間の復習を課す 参考:『女性学・男性学』、テキスト「読書案内」掲載文献	
2	女性/男性であることとは何か 身体・性・ジェンダー観の変容の歴史、両性具有者神話とインターセックス	テキストp.15-29 2時間の予習と2時間の復習を課す 参考:『セックスの発明』、『両性具有』、テキスト「読書案内」掲載文献	
3	性の多様性 ジェンダー・アイデンティティ(性自認)、異性装文化の歴史とトランスジェンダー	テキストp.31-44 2時間の予習と2時間の復習を課す 参考:『変身物語』、『オーランドー』、テキスト「読書案内」掲載文献	
4	ジェンダーとセクシュアリティ(1) 性自認と性的指向、同性愛の歴史	テキストp.45-60 2時間の予習と2時間の復習を課す 参考:『饗宴』、『性の歴史』、テキスト「読書案内」掲載文献	
5	ジェンダーとセクシュアリティ(2) 結婚とジェンダー、「女性の夫」の話、同性婚	テキストp.45-60 2時間の予習と2時間の復習を課す 参考:『サッポータちの十八世紀』、テキスト「読書案内」掲載文献	
6	性役割 家父長制社会における性役割の歴史、近代家族の特徴	テキストp.61-76 2時間の予習と2時間の復習を課す 参考:『女性の権利の擁護』、テキスト「読書案内」掲載文献	
7	生物学的性差 生物学的性差とジェンダー・バイアスの歴史と現在	テキストp.77-93 2時間の予習と2時間の復習を課す 参考:『女性を弄ぶ博物学』、『女性を捏造した男たち』、テキスト「読書案内」掲載文献	
8	ジェンダー・ステレオタイプの形成史、教育とメディアがつくるジェンダー	テキストp.95-114 2時間の予習と2時間の復習を課す 参考:『女性の権利の擁護』、テキスト「読書案内」掲載文献	
9	恋愛と性行動 恋愛の歴史、性欲のジェンダー・バイアス、恋愛の多様性	テキストp.115-31 2時間の予習と2時間の復習を課す 参考:『女性学・男性学』、テキスト「読書案内」掲載文献	
10	性暴力(1) 強姦と妊娠をめぐる議論の歴史、強姦神話	テキストp.133-46 2時間の予習と2時間の復習を課す 参考:テキスト「読書案内」掲載文献	
11	性暴力(2) セクシュアル・ハラスメント、DV	テキストp.147-62 2時間の予習と2時間の復習を課す 参考:『女性学・男性学』、テキスト「読書案内」掲載文献	
12	ジェンダーと職業 性別職業分離の歴史、「女性の兵士」の話、男女経済格差	テキストp.163-79 2時間の予習と2時間の復習を課す 参考:『サッポータちの十八世紀』、『兵士になった女性たち』、テキスト「読書案内」掲載文献	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	ワーク・ライフ・バランスを阻む性別役割分業、メリット	テキストp.181-98 2時間の予習と2時間の復習を課す 参考: テキスト「読書案内」掲載文献	
14	出産と育児のジェンダー・バイアスの歴史、母性愛神話、リプロダクティブ・ヘルス	テキストp.199-219 2時間の予習と2時間の復習を課す 参考: テキスト「読書案内」掲載文献	
15	理想の共生社会 ジェンダー・フリー論争、男女共同参画社会、SDGs	2時間の予習と2時間の復習を課す 参考: 『女性学・男性学』、『男女共同参画白書』、テキスト「読書案内」掲載文献	

開講科目名 Course	政治の世界 / The World of Politics
時間割コード Course Code	10130
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	1 政治への興味・関心を高め、ニュース(時事問題)に親しみ、自ら理解できるようにする。 2 「政治」と「政治学」を理解し、現代社会の諸課題について、どのような解決方法が望ましいかを考察できるようにする。 3 人間社会における対立と合意形成について考察できるようにする。
授業の概要	「政治」とは、人間社会の意見や利害の対立を調整して、秩序を維持していこうとすることである。よって、「政治学」とは、人々がより幸せで満足のいく生活を送るためにはどのような政治が行われるべきか、研究する学問になる。知識の吸収だけでは、どのような政治が行われるべきかを考察できない。議論を中心とした探究活動を活発に行う。
評価方法	レポート(100%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第1回：政治とは何か？ 第2回：選挙、投票の意義 第3回：「投票率向上」の探究 第4回：「原子力発電」の探究 第5回：「アフターマティブ・アクション」の探究 第6回：「グローバル化と反グローバル化」の探究 第7回：「日本とアメリカの外交戦略」の探究 第8回：「サマータイム」の探究 第9回：「同性婚」の探究 第10回：「ベーシック・インカム」の探究 第11回：「職業選択の自由、居住の自由」の探究 第12回：「生命倫理」の探究 第13回：「司法取引」の探究 第14回：「サマータイム」の探究 第15回：現代社会の諸課題とどのように向き合うか？
テキスト	『恋ではなく愛で学ぶ政治と経済』高橋勝也(清水書院)
参考書	『ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編』(毎日新聞出版)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	コメントネットを活用した議論を毎時間、取り入れます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎時間、15分間程度フィードバックの時間を設定して、リアクションペーパーの提出により担当教員が状況を把握する。 次の時間の対面による指導の他、メール、グーグルクラスルームを活用してフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	現代社会における諸課題を把握しておく必要があるため、マスコミュニケーションツールを活用して、ニュースに触れておく。（予習：合計30時間） 現代社会における諸課題と向き合い、解決に向けて方策について検討する。（復習&授業準備：合計30時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 5. ジェンダー平等を実現しよう 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力 9. 実践力

開講科目名 Course	歴史との対話 / Dialogue with History
時間割コード Course Code	10140
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	水谷 仁
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水谷 仁 (法学部)
授業の目標	歴史とは、単なる過去に起こった出来事のことではなく、「過去と現在の対話」(E. H. カー『歴史とは何か』)です。ただし、一口に「歴史」といっても、様々な切り口があることはたしかです。そこでこの授業では、人間が生きていくうえで避けて通ることのできない政治という営みに着目して、歴史との対話を試みます。私たちもその一部である歴史との対話を通して、私たちの過去・現在・未来を考えていくことが、この授業の目的です。
授業の概要	この授業は「政治思想史」という学問を通して歴史との対話を行います。具体的には、「政治思想史」の講義を行います。政治思想史とは、「政治とは何か」「政治は何のためのものか」「政治はどのように行われるべきなのか」といった政治をめぐる様々な問いについて、過去の思想家たちが考えていたことを学ぶ学問です。 政治は、私たちの生存、日常生活、人生、そして生きるということと、否が応にも関係せざるをえないものです。この授業では、こうした政治と私たちの生との関係について、過去の思想家たちの思想と彼らが生きた時代の政治状況とを結びつけながら学んでいきます。過去の思想家の考えは、ときには古臭いものや当然のものに感じることもあるかもしれませんが、しかし彼らの政治思想は、そのほとんどが、彼らの置かれた歴史的な状況下で、彼ら自身が生きていく中で直面した問題との命がけの格闘から生み出されてきたものです。彼らの政治思想から、時代や地域を超え、現代の日本で生きる私たち自身が直面する問題を乗り越え、生き抜いていくためのヒントを学び取っていきましょう。 今年度は、特に近現代以降の政治思想を中心的に取り扱います。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照してください。
評価方法	期末レポート(100%)で評価します。ただし、受講態度によって加点or減点を行います。特に、授業妨害に当たる行為(私語、飲食など)は大幅な減点となるので十分注意してください。授業の進め方については初回ガイダンスで説明するので注意してください。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業中に複数回注意を受けた場合や、正当な理由のない欠席が6回以上となった場合は、失格の対象となります。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス：政治思想史を通じた歴史との対話</p> <p>第2回 古代の政治思想（古代ギリシャの民主主義）</p> <p>第3回 古代の政治思想（古代ローマの共和主義）</p> <p>第4回 近代の政治思想（マキアヴェリ）</p> <p>第5回 近現代の政治思想（マルクスⅠ）</p> <p>第6回 近現代の政治思想（マルクスⅡ）</p> <p>第7回 近現代の政治思想（ヴェーバーⅠ）</p> <p>第8回 近現代の政治思想（ヴェーバーⅡ）</p> <p>第9回 現代の政治思想（シュミットⅠ）</p> <p>第10回 現代の政治思想（シュミットⅡ）</p> <p>第11回 現代の政治思想（アーレントⅠ）</p> <p>第12回 現代の政治思想（アーレントⅡ）</p> <p>第13回 現代の政治思想（レーヴィットⅠ）</p> <p>第14回 現代の政治思想（レーヴィットⅡ）</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>受講生の興味・関心によって、上記の授業計画は一部変更になることがあります。</p>
テキスト	レジュメを配布します。
参考書	<p>授業全体を通して関係するもの（個別のものは適宜紹介します）</p> <p>小笠原弘親他『政治思想史』（有斐閣、1987年）</p> <p>中谷猛他『概説西洋政治思想史』（ミネルヴァ書房、1994年）</p> <p>佐々木毅他『西洋政治思想史』（北樹出版、1995年）</p> <p>藤原保信他『西洋政治思想史 1 2』（新評論、1995、1996年）</p> <p>宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問やコメントは、授業後もしくはオフィスアワーに受け付けます。
フィードバックの方法	受け付けた質問やコメントは、次回以降の授業でフィードバックします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	参考書の該当箇所を読んで予習（1時間）し、授業中の説明と参考文献を基に授業内容を自分で説明できるように復習（1時間）すると、内容理解が非常に深まります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>3.すべての人に健康と福祉を</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p> <p>4.構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1.親和力</p> <p>2.協同力</p> <p>4.感情制御力</p> <p>6.行動持続力</p> <p>7.課題発見力</p> <p>9.実践力</p>

開講科目名 Course	情報と社会行動の科学 / Informatics and the Science of Social Behaviors
時間割コード Course Code	10150
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	大谷 尚
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大谷 尚 (教育保育学科)
授業の目標	<p>社会の急速な情報化によって、人々の行動が変わってきているだけでなく、人々の価値観や社会的な規範も徐々に変化し続けている。またそこには、さまざまな問題や課題が生じている。この授業では、まず情報技術の基礎について学ぶ。つづいて社会の情報化のさまざまな事例について学びながら、それらが社会とそこでの人々の行動に与える影響について理解する。これらを通して、情報化社会の人間の行動について理解する。またこの理解をとおして、将来の一層の情報化によって生じる問題や課題を予測するとともに、それに対応するための考え方の基礎を獲得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報技術の基礎について理解し説明できる。 ・情報化による人々の行動や社会の変化の具体的な例について理解し説明できる。 ・情報化のもたらす問題や課題について理解し説明できる。 ・情報化社会における非情報技術の意義について理解し説明できる。 ・今後の社会の情報化によって生じる可能性のあることについて自分で予測し考え説明することができる。
授業の概要	<p>他に比べるもののないほどの情報技術の急速な発展について理解する。文字情報や音声情報の記録の仕組みについて理解する。そのような情報技術が人々の生活に与える影響について事例を通して理解する。また情報技術が引き起こす問題とそれへの社会の対応について理解する。情報技術に囲まれた社会において、非情報技術にどのような意義があるかを理解する。これらを各回のトピックとし、授業者は各回のトピックに応じた具体的な事例を紹介する。その際、映像資料などを用いるように努める。受講者はそれに関連する自身の体験等について、受講者同士少人数で、または隣席の受講者と情報交換し、その問題や課題を検討した上で、それを他の受講者全体に紹介する。これらを通して、各回のトピックについての理解を得、それを深める。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における課題提出と期末試験により総合的に行う。授業への参加度などの学習態度・姿勢（毎回の課題を含む）を60%、期末試験を40%とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は失格となる。 ・出席不正（いわゆる「ビ逃げ」や、トイレに行くと言って教室を出て帰って来ないなど）を行った受講者は失格とする。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとイントロダクション：今のパソコンは受講者が生まれた頃のパソコンと比べて何倍高性能なのか？ 他に比べるものがないほどの情報技術の急速な発展について理解する。 2. USBメモリー1個に新聞何日分が入るのか？ 文字情報の記録の仕組みを理解する。 3. 音楽はスマホの中でデータとしてどのように記録されているのか？ 音声情報の記録の仕組みを理解する。 4. ケータイ・スマホは若者に何を与え若者から何を奪うのか？ 若者の暮らしへの携帯情報端末の影響を考える。 5. コンパガチャはどうして違法とされたのか？ ソーシャルゲームの社会的問題を検討し理解する。 6. 仮想のお金を現金でやりとりできるのか？ ゲームマネーのリアルマネートレードの問題を考える。 7. インターネットは人権にとって敵か味方か？ インターネットと人権侵害・人権擁護について考える。 8. ネットで誰かを誹謗中傷した者はどう特定されるのか？ 投稿者の特定のためのプロバイダ責任制限法の意義を理解する。 9. 企業はなぜ就活生の裏アカ特定をしようとするのか？ ネット上の多重人格の行為の危険性について理解する。 10. カーシェアで借りた車を4割もの人が移動させないで使いたいと考えているのはなぜか？ 対面だとしにくい非本来の利用を可能にする非対面的契約について考える。 11. 最新の情報テクノロジーは今後の社会をどう変えるか？ スーパーコンピュータ、ビッグデータ、AI、量子コンピュータなどが社会に与える影響を理解する。 12. Society 5.0の時代における Society 4.0までの古いメディアの意義は何か？ Society 4.0までのメディアの意義を考える。 13. ペルーのボラ族の伝統的太鼓「マンガワレ」で何が通信できるのか？ 「非」情報メディアに固有の機能を考える。 14. 中国チベット自治区の巡回映画隊は何を運んでいるのか？ 人と社会にとっての「非」情報メディアの意義を考える。 15. 情報化は社会をどう変えていくのか？ 授業全体を振り返り受講者が全体から得たものを確認する。
テキスト	
参考書	・必要に応じて授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・受講者同士の対話・話し合いとその発表に基づく討論。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	・2010-2012の3年度に渡る名古屋大学教育学部附属中・高等学校長としての実務経験を、本授業の学校教育に関する内容に反映させる。
質問への対応方法	・随時対応 ・メール対応
フィードバックの方法	・毎回の課題に対するフィードバックは授業のなかで行う。 ・必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・準備学習として、シラバスに示された各回のトピックについて図書、雑誌、インターネット等で調べ、予備知識や疑問を持って授業に参加すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	情報と社会行動の科学 / Informatics and the Science of Social Behaviors
時間割コード Course Code	10151
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	大谷 尚
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大谷 尚 (教育保育学科)
授業の目標	<p>社会の急速な情報化によって、人々の行動が変わってきているだけでなく、人々の価値観や社会的な規範も徐々に変化し続けている。またそこには、さまざまな問題や課題が生じている。この授業では、まず情報技術の基礎について学ぶ。つづいて社会の情報化のさまざまな事例について学びながら、それらが社会とそこでの人々の行動に与える影響について理解する。これらを通して、情報化社会の人間の行動について理解する。またこの理解をとおして、将来の一層の情報化によって生じる問題や課題を予測するとともに、それに対応するための考え方の基礎を獲得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報技術の基礎について理解し説明できる。 ・情報化による人々の行動や社会の変化の具体的な例について理解し説明できる。 ・情報化のもたらす問題や課題について理解し説明できる。 ・情報化社会における非情報技術の意義について理解し説明できる。 ・今後の社会の情報化によって生じる可能性のあることについて自分で予測し考え説明することができる。
授業の概要	<p>他に比べるもののないほどの情報技術の急速な発展について理解する。文字情報や音声情報の記録の仕組みについて理解する。そのような情報技術が人々の生活に与える影響について事例を通して理解する。また情報技術が引き起こす問題とそれへの社会の対応について理解する。情報技術に囲まれた社会において、非情報技術にどのような意義があるかを理解する。これらを各回のトピックとし、授業者は各回のトピックに応じた具体的な事例を紹介する。その際、映像資料などを用いるように努める。受講者はそれに関連する自身の体験等について、受講者同士少人数で、または隣席の受講者と情報交換し、その問題や課題を検討した上で、それを他の受講者全体に紹介する。これらを通して、各回のトピックについての理解を得、それを深める。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における課題提出と期末試験により総合的に行う。授業への参加度などの学習態度・姿勢（毎回の課題を含む）を60%、期末試験を40%とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は失格となる。 ・出席不正（いわゆる「ビ逃げ」や、トイレに行くと言って教室を出て帰って来ないなど）を行った受講者は失格とする。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとイントロダクション：今のパソコンは受講者が生まれた頃のパソコンと比べて何倍高性能なのか？ 他に比べるものがないほどの情報技術の急速な発展について理解する。 2. USBメモリー1個に新聞何日分が入るのか？ 文字情報の記録の仕組みを理解する。 3. 音楽はスマホの中でデータとしてどのように記録されているのか？ 音声情報の記録の仕組みを理解する。 4. ケータイ・スマホは若者に何を与え若者から何を奪うのか？ 若者の暮らしへの携帯情報端末の影響を考える。 5. コンパガチャはどうして違法とされたのか？ ソーシャルゲームの社会的問題を検討し理解する。 6. 仮想通貨のお金を現金でやりとりできるのか？ ゲームマネーのリアルマネートレードの問題を考える。 7. インターネットは人権にとって敵か味方か？ インターネットと人権侵害・人権擁護について考える。 8. ネットで誰かを誹謗中傷した者はどう特定されるのか？ 投稿者の特定のためのプロバイダ責任制限法の意義を理解する。 9. 企業はなぜ就活生の裏アカ特定をしようとするのか？ ネット上の多重人格の行為の危険性について理解する。 10. カーシェアで借りた車を4割もの人が移動させないで使いたいと考えているのはなぜか？ 対面だとしにくい非本来の利用を可能にする非対面的契約について考える。 11. 最新の情報テクノロジーは今後の社会をどう変えるか？ スーパーコンピュータ、ビッグデータ、AI、量子コンピュータなどが社会に与える影響を理解する。 12. Society 5.0の時代における Society 4.0までの古いメディアの意義は何か？ Society 4.0までのメディアの意義を考える。 13. ペルーのボラ族の伝統的太鼓「マンガワレ」で何が通信できるのか？ 「非」情報メディアに固有の機能を考える。 14. 中国チベット自治区の巡回映画隊は何を運んでいるのか？ 人と社会にとっての「非」情報メディアの意義を考える。 15. 情報化は社会をどう変えていくのか？ 授業全体を振り返り受講者が全体から得たものを確認する。
テキスト	
参考書	・必要に応じて授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・受講者同士の対話・話し合いとその発表に基づく討論。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	・2010-2012の3年度に渡る名古屋大学教育学部附属中・高等学校長としての実務経験を、本授業の学校教育に関する内容に反映させる。
質問への対応方法	・随時対応 ・メール対応
フィードバックの方法	・毎回の課題に対するフィードバックは授業のなかで行う。 ・必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・準備学習として、シラバスに示された各回のトピックについて図書、雑誌、インターネット等で調べ、予備知識や疑問を持って授業に参加すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	日本史 / Japanese History
時間割コード Course Code	10160
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	1. 歴史を学ぶ意味を理解する。 2. 歴史教育の意義を理解する。 3. 日本史の論点を理解する。 4. 対話する力、考える力、考えを表現する力を身につける。
授業の概要	1. 日本史の流れと時代ごとの論点を理解する。 2. 文献を使って日本史に必要な事項を調べるための方法を学ぶ。 3. 日本史を外国史との比較から特徴を理解する比較史の視点を学ぶ。 4. 日本史について自分の考えを他者に説明できるようになる。
評価方法	授業における課題提出と期末試験により、総合的に成績評価します。 授業への参加などの学習態度 (毎回の課題) は75点、期末レポートの結果は25点という割合で成績を判定します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合には、失格とします。
授業計画	第1回．歴史を学ぶ意味、感染症の歴史から考える 第2回．日本の古代国家 第3回．律令国家の光と影 第4回．摂関政治の時代 第5回．武士の時代 第6回．鎌倉幕府 第7回．南北朝の動乱 第8回．南北朝の統一から応仁の乱へ 第9回．戦国時代 第10回．織豊政権 第11回．江戸幕府 第12回．江戸時代の社会と文化 第13回．江戸幕府の動揺 第14回．幕末・維新 第15回．日本近代史の論点
テキスト	とくに定めない
参考書	木村茂光他編『大学でまなぶ日本の歴史』（吉川弘文館、2016年） 外園豊基他編『概論 日本歴史』（吉川弘文館、2000年） 阿部謹也『日本人の歴史意識』（岩波書店、2004年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業後に対応 ・ メールで随時対応 (masaki . n@nagoya-ku . ac . jp)
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>各回の授業では、翌週の授業内容に関わる参考文献の該当箇所を指示するので、翌週までに各自で予習します。</p> <p>その参考文献を読んだ前提で、次回の授業を行いますので、予習は必須です。</p> <p>また、授業で配布した資料を家で読み、復習します。</p> <p>これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、期末レポートの準備につながります。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	西洋史 / Western History
時間割コード Course Code	10170
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	水谷 仁
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水谷 仁 (法学部)
授業の目標	この授業では、「西洋」という地域の歴史を学びます。私たちは現在、「東洋」という地域の日本という国に住み、毎日生活しています。しかし、私たちの生きている現在の「東洋」で馴染みの深い仕組みや考え方の中には、「西洋」という地域で生まれたり、発達したりしたものが少なくありません。そのため、現在私たちが生き、そしてこれからも生きていく「東洋」という地域を考えていくために、「西洋」という地域の歴史についての基礎的な知識を確実に修得し、その中から様々な重要性や問題点を考えていくことを、この授業の目標とします。
授業の概要	古代・中世・近世・近代・近現代・現代という流れで、「西洋」の歴史を学びます。その際、ある歴史的な出来事がなぜ・どのように起きたのか、その出来事にはどのような特徴があるのか、その後の出来事をどのように方向づけていったのかといった点に注目して詳しく解説していきます。さらに、「西洋」の歴史には、人類にとって「良い」と言えることも、「悪い」と言えることも、さらにはどちらとも言い切れないこともたくさんありました。「西洋」の歴史を、理想的なモデルとしてではなく、いろいろな出来事が複雑に絡み合った人類における多様な歴史の一つとして学び、考えていきましょう。
評価方法	期末レポート(100%)で評価します。ただし、受講態度によって加点or減点を行います。特に、授業妨害に当たる行為(私語、飲食など)は大幅な減点となるので十分注意してください。授業の進め方については初回ガイダンスで説明するので注意してください。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業中に複数回注意を受けた場合や、正当な理由のない欠席が6回以上となった場合は、失格の対象となります。
授業計画	第1回 ガイダンス：なぜいま西洋史を学ぶのか 第2回 古代：古代ギリシャ 第3回 古代：古代ローマ 第4回 中世：キリスト教 第5回 中世：封建社会 第6回 近世：主権国家・絶対王政 第7回 近代：産業革命と資本主義 第8回 近代：市民革命と国民国家 第9回 近代：ヨーロッパの内と外 第10回 近現代：第一次世界大戦 第11回 近現代：戦間期 第12回 近現代：第二次世界大戦 第13回 現代：冷戦期 第14回 現代：ヨーロッパの今 第15回 まとめ 受講生の興味・関心によって、上記の授業計画は一部変更になることがあります。
テキスト	

参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問やコメントは、授業後もしくはオフィスアワーに受け付けます。
フィードバックの方法	受け付けた質問やコメントは、次回以降の授業でフィードバックして他の受講生と共有することがあります。 (フィードバックする場合は匿名で行います。)
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	参考書の該当箇所を読んで予習(1時間)し、授業中の説明と参考文献を基に授業内容を自分で説明できるように復習(1時間)すると、内容理解が非常に深まります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 2.飢餓をゼロに 3.すべての人に健康と福祉を 6.安全な水とトイレを世界中に 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	アジア史 / Asian History II
時間割コード Course Code	10182
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	傘谷 祐之
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	傘谷 祐之(経営学部)、櫻井 雅俊(経営学部)
授業の目標	(1)東南アジアの歴史に関する基本的な知識を学ぶ。 (2)東南アジア各国の多様性・共通性について学ぶ。 (3)現在の東南アジアが直面する課題を歴史的な視点から理解し、説明できるようになる。
授業の概要	この授業では、東南アジアの歴史について、近現代史を中心に学びます。第1回の授業で東南アジアの各国の多様性・共通性について簡単に学んだのち、第2回から第8回では主として東南アジアの大陸部諸国を、第9回から第15回では主として島嶼部諸国を取り上げ、その歴史を学んでいきます。この授業を学ぶことにより、現在の東南アジアがどのような歴史を経て成立したのか、東南アジア各国の多様性・共通性とは何か、現在の東南アジアが直面する課題とは何かを歴史的な視点から理解することをめざします。
評価方法	授業後の課題(小テスト・小レポートなど)50% 期末レポート50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 導入・東南アジアの多様性と共通性 第2回 (大陸部1) 近世以前の東南アジア：外部文明の受容を手がかりに 第3回 (大陸部2) 近世国家群と西洋諸国の進出 第4回 (大陸部3) 植民地支配下の東南アジア 第5回 (大陸部4) 植民地支配への対応：ナショナリズムの形成 第6回 (大陸部5) 日本と東南アジア：大東亜共栄圏の目指したもの 第7回 (大陸部6) 東西冷戦と「熱戦」：インドシナ戦争を中心に 第8回 (大陸部7) 冷戦の終焉とインドシナ3国の「体制移行」 第9回 (島嶼部1) 「交易の時代」とマレー世界の形成 第10回 (島嶼部2) 植民地支配と近代国家建設 第11回 (島嶼部3) ナショナリズムと国際共産主義運動 第12回 (島嶼部4) アジア太平洋戦争と独立闘争 第13回 (島嶼部5) 冷戦と開発独裁 第14回 (島嶼部6) ポスト冷戦と民主化 第15回 (島嶼部7) 21世紀の東南アジア
テキスト	授業の際に資料を配布します。

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・古田元夫編著『東南アジアの歴史』（放送大学教育振興会、2018年）。 ・今井昭夫編集代表・東京外国語大学東南アジア課程編『東南アジアを知るための50章』（明石書店、2014年）。 ・ユーク・テルトレ著、鳥取絹子訳『地図で見る東南アジアハンドブック』（原書房、2018年）。 ・白石隆『海の帝国：アジアをどう考えるか』（中央公論新社、2000年）。 ・増原ほか『はじめての東南アジア政治』（有斐閣ストゥディア、2018年）。 ・清水・田村・横山編著『東南アジア現代政治入門』（ミネルヴァ書房、改訂版、2018年）。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業に関する質問は、(1)授業後、(2)電子メール(kasaya-y@nagoya-ku.ac.jp、または、sakuraim@nagoya-ku.ac.jp)、(3)Google Classroomなどで受け付けます。
フィードバックの方法	課題等に対するフィードバックは、翌週の授業で行う他、Google Classroomも利用します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の授業で、授業内容に関わる参考文献を紹介します。翌週以降の授業内容に関わる部分については、翌週までに各自で予習してください。それ以外の部分については、期末レポートまでに各自で復習してください。授業で配布した資料も、復習に活用してください。また、各回の授業後に、課題（小テスト・小レポートなど）を課す場合があります。これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、期末レポートの準備につながります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	<ul style="list-style-type: none"> 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> 7. 課題発見力

開講科目名 Course	アジア史 / Asian History III
時間割コード Course Code	10183
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	(1) 中央アジア・南アジアの歴史に関する基本的な知識を学ぶ。 (2) 中央アジア・南アジア各国・地域に共通する特徴と差異について学ぶ。 (3) 現在の中央アジア・南アジアが直面する課題を歴史的な視点から理解し、説明できるようになる。
授業の概要	この授業では、中央アジア・南アジアの歴史について近現代史を中心に学びます。 まず総論で中央アジア・南アジア各国・地域に共通する特徴と差異について学び、その後で地域別の歴史(中央アジア5ヶ国、インド、アフガニスタン、パキスタンなど)について学んでいきます。とりわけ、中央アジア・南アジアの伝統的な知・制度の体系と西欧の近代思想・制度・科学技術の衝突、中央アジア・南アジアの知識人の思想と行動、植民地化と独立・革命、現在の中央アジア・南アジアが直面する課題の歴史的な意味について理解を深め、受講者が自分なりの考えを説明できるようになるための基本的な知識を提供します。 この授業を学ぶことにより、現在の中央アジア・南アジアがどのような歴史を経て成立したのか、中央アジア・南アジア各国・地域に共通する特徴と差異とは何か、現在直面する課題を歴史的な視点から理解することなどをめざします。
評価方法	各回の課題75%、期末レポートの内容25%で総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合には、失格とします。

授業計画	第1回 イントロダクション(1) 中央アジア・南アジアとは何か 第2回 中央アジア(1) 前近代の中央アジア 第3回 中央アジア(2) ロシア帝国支配下の中央アジア 第4回 中央アジア(3) ロシア革命と中央アジア 第5回 中央アジア(4) 中央アジアの社会主義建設 第6回 中央アジア(5) 中央アジア諸国の独立と市場経済化 第7回 南アジア(1) 前近代の南アジア 第8回 南アジア(2) ムガル帝国と英国東インド会社 第9回 南アジア(3) インド帝国の成立 第10回 南アジア(4) インド国民会議 第11回 南アジア(5) インド独立 第12回 南アジア(6) ネパール 第13回 南アジア(7) パキスタン 第14回 南アジア(8) アフガニスタン 第15回 まとめ：現在の中央アジア・南アジアの直面する課題
テキスト	必要に応じて授業中に配布する。
参考書	1. 羽田正『東インド会社とアジアの海』(講談社、2017年) 2. 辛島昇編『南アジア史』(山川出版社、2004年) 3. 辛島昇『インド史 南アジアの歴史と文化』(角川書店、2021年) 4. 小松久男編『中央ユーラシア史(新版世界各国史)』(山川出版社、2000年) 5. 小松久男ほか編『中央ユーラシア史研究入門』(山川出版社、2018年)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業後に対応 ・メールで随時対応(masaki.n@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の授業では、翌週の授業内容に関わる参考文献の該当箇所を指示するので、翌週までに各自で予習します。 その参考文献を読んだ前提で、次回の授業を行いますので、予習は必須です。 また、授業で配布した資料を家で読み、復習します。 これらの予習・復習(計60時間)を行うことが、期末レポートの準備につながります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	世界の中のアジア / Introduction to Asian Studies
時間割コード Course Code	10190
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	牛山 隆一
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	牛山 隆一 (経済学部)
授業の目標	<p>政治、経済、社会、文化など様々な面からアジアの国々について学ぶ。アジアに関する基礎的な知識、情報を吸収し、日本もその一員であるアジア地域に対する理解を深める。日本がアジアとの共生を図るためには何が必要なのか、自分の考えを持てるようにする。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理科の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 政治、経済、社会、文化など多彩な分野からアジアがどのような地域か概観する。 アジアを構成する個別の国・地域の政治、経済、社会の特徴について学ぶ。 <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> アジアに関する知識が深まり、日本とアジアの関係に対する関心も高まる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 統計を調べ、それに基づいて説明し、自らの考えを説明できるようになる。
授業の概要	<p>数多くの日本企業が進出するなど、日本にとって関わりの深い地域がアジアである。そのアジアは、政治や経済、社会、文化など様々な面で多様性に富む国々で構成されている。従って、アジアに対する理解を深めるためには、各国・地域の個別の状況を丁寧に学ぶ努力が不可欠である。本講義ではまず、政治や経済などの切り口からアジアを横断的に概観する。そのうえで、北東アジア(中国、香港、韓国、台湾)、東南アジア(シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナムなど)、南アジア(インドなど)の順に、各国・地域の特徴を平易に解説していく。</p> <p>受講者の関心や理解度、授業の進捗状況等により、シラバスの内容を変更する場合もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 質問は授業の後やオフィスアワーにて対応する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト、レポート等 80% ・参加姿勢(受講態度や発言・質問等) 20% <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価方法の詳細は、初回の授業で説明する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が多いと、「失格」になる可能性がある。

授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 アジアの政治 第3回 アジアの経済 第4回 アジアの社会 第5回 アジアの文化 第6回 中国・香港 第7回 韓国・台湾 第8回 シンガポール、マレーシア 第9回 インドネシア、フィリピン 第10回 タイ、ミャンマー 第11回 ベトナム、カンボジア、ラオス 第12回 インド 第13回 パキスタン、バングラデシュ 第14回 アジアと日本 第15回 まとめ
テキスト	指定しない。
参考書	遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太編(2018)『現代アジア経済論』有斐閣ブックス。 今井昭夫編(2005)『東南アジアを知るための50章』明石書店。 渡辺利夫編(2009)『アジア経済読本(第4版)』東洋経済新報社。 その他授業で随時紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業前に参考書などの該当箇所をチェックし、予備知識を得たうえで授業に臨み、授業後は各回の主要なポイントは最低限押さえるように復習に力を入れる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	交通と社会 / Transportation and Society
時間割コード Course Code	10200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 博司
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 博司 (経済学部)
授業の目標	<p>我々の誰もが日常生活の中で直面し、或いは生涯に亘って暮らしの中にある、現代日本の生活基盤でもある“交通”について、その本質に戻って検討しそれぞれ自分の意見を述べられるようにする。</p> <p>○知識・理解の領域...交通経済学の基本的な考え方や交通に関する知識を身に付けることが出来る。</p> <p>○思考判断の領域...様々な情報から必要なものを選び、自らの知見と照らして物事を考える訓練が出来る。</p> <p>○関心意欲の領域...交通は与えられるものではなく我々が自ら作り上げて行くものである、という積極的な認識を得ることが出来る。</p>
授業の概要	<p>我が国は高齢化・人口減少・経済的停滞という避け難い新しい時代を迎えており、これまでは「利用者」「受益者」として接してきた“交通”について、我々自身が“交通主体”としてどのように考え、行動して良好なモビリティを確保・維持して行くのか、自らが考えるためのきっかけを作る授業とする。</p> <p>従って“正解”や“結果”を求めるものではなく、受講者自らが当事者として主体的に考えることを重視する。</p> <p>そして、授業時に提供した素材(教材)に基づいてひとり一人が自ら考えることを目指しており、そのような意味で大学教育の入口として新入生・低学年(1・2年生)を主たる受講対象としたい。</p> <p>この科目の位置付けについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>基本的には期末試験の成績により評価を行うが、授業への参加姿勢(授業内での質疑や意見開陳、コメントなどの提出内容ほか)、受講態度などを一定程度重視したい。</p> <p>出席回数による加点・減点を行わないが、授業内での提出物(ワークシート・コメントなど)の記述内容などについては、最終評価の際にある程度考慮する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	詳細は「授業計画詳細情報」を参照のこと。
テキスト	<p>テキストは使用しないが、各授業の1週間前を目途にgoogle classroomで「教科書」を告知するので、それに基づいて予習を行うことを前提とする。授業の際には、講師が作成したレジュメ(作業シート)や資料集などを適宜配布する。配布する資料集としては、統計資料や新聞の連載記事コピー(初回授業時に配布)などで構成し、これらを授業時の検討材料(教材)とする。</p>
参考書	参考文献などは授業内で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は、教員着任以前に大手私鉄企業の企画部門で、約10年間程度に亘り交通政策の調査・企画を担当した。この経験に基づいた授業内容とする予定である。
質問への対応方法	質問があれば、授業内または授業前後の時間帯に個別に対応する。
フィードバックの方法	提出されたワークシート・コメントなどについては、点検検討を行った上で、授業内で受講生全体に対して解説・論評を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業の1週間前を目途に、google classroomにより「教科書(各回8ページ程度)」と「資料(各回2~6ページ程度)」を告知するので、これらをよく読解して概要を理解してから授業に臨むことを受講生に期待したい。 各回の授業に先立って、それに対応する「教科書」と「資料」を精読理解し関連情報などをチェックするには、正味の授業時間の2倍程度の時間を要するものと考えられる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	「交通」に関する基本的な考え方(1) イントロダクション	日本経済新聞「やさしい経済学」平成30年6月連載『人口減少時代の公共交通』(全講を通じて使用) さらに、講師自身の“交通体験”に基づいた問題提起を行う。	
2	「交通」に関する基本的な考え方(2) 交通市場について	「市場の失敗」について理解する。	
3	「交通」に関する基本的な考え方(3) 「運賃」について	代表的な運賃学説を紹介するとともに、現代日本の運賃決定の仕組みを理解する。 混雑料金、ピークロードプライシングについて理解する。	
4	「交通」に関する基本的な考え方(4) 交通政策について	事業者間競争の事例などを紹介する。	
5	「交通」に関する基本的な考え方(5) 補助及び交通社会資本整備	公共交通事業の収益性についてどのように考えるべきか議論したい。	
6	交通の諸様相 自動車交通・道路交通 について	国民生活上の道路交通の重要性、“物流”の重要性について再認識する。	
7	日本の鉄道(1) 明治維新から明治末期まで(官設鉄道の時代)	文明開化と鉄道の導入、官設鉄道と民設鉄道、鉄道の国有化について理解する。 事例として、官設鉄道と民設鉄道の破滅的競争について触れる。	
8	日本の鉄道(2) 大正期から第2次大戦後の復興期・高度成長期まで(国有鉄道の時代)	近代日本の発展と全国鉄道網形成について理解する。 ビジネスモデルとしての新幹線について考える。	
9	日本の鉄道(3) 国鉄改革・分割民営化とJRの設立(JRの時代)	国鉄の経営破たんの原因について考える。 JRによる鉄道の再生と、3島問題など残された課題について考える。	
10	日本の私鉄企業について(1) 大都市近郊大手私鉄の発展	代表的大手私鉄企業の事例として、阪急電鉄・東急電鉄についてその実態を見る。	
11	日本の私鉄企業について(2) 地方型私鉄の苦闘(名鉄の事例など)	地方型私鉄の集合体としての名古屋鉄道を事例に、地方鉄道のあるべき姿や関連事業について考える。 名古屋鉄道の事業展開と、特色ある文化・レジャー事業についてその実態を見る。	
12	現代日本の交通(1) 国土幹線交通 について	新幹線網・高速道路網の拡大・充実と、それらが果たしてきた役割について考える。 「新幹線対航空」のシェアの実態や競争について考える。	
13	現代日本の交通(2) 大都市圏の交通 について	人口増加・過密社会の終焉を間近にして、次の時代のモビリティを考える。 新交通システムの開発と展開について(地元の話として桃花台線の廃止を含む)考える。	
14	現代日本の交通(3) 地方都市圏・地域 社会の交通について	この地域でのローカル交通(旧国鉄地方交通線や近鉄・名鉄のローカル線)の維持について考える。 事例として「えちぜん鉄道」の挑戦を紹介する。	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	新しい社会と交通 ...全15講のまとめと「交通」のあり方 について 交通	“交通”に関して次の時代に希望を見出すには? 受講生の考えを聴きたい。	

開講科目名 Course	生活と数 / Mathematics in Everyday Life
時間割コード Course Code	10220
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	下村 尚司
科目区分 Course Group	共通科目群 科学と自然
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	下村 尚司 (経済学部)
授業の目標	<p>数の世界は、実は皆さんの生活にもひそんでいるのです。例えばWebページの色やその他の多くの情報が「16進法」で記述されています。生活にひそんでいる数の世界を探り、2進法・16進法の基礎計算ができるようになります。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 Webページなどにひそんでいる数の世界に触れることが出来る。</p> <p>技能の領域 2進法・16進法についての計算ができる。</p> <p>態度・志向性の領域 数理的技能の幾ばくかについて、初心者的な探求をはじめることが出来る。</p> <p>思考判断の領域 数の世界が私たちの生活を支えていること、こうした技術の習得が社会にとって有意義であることを知ることができる。</p> <p>関心意欲の領域 世の中の様々な場所で、どんな数の世界がひそんでいるか興味を持てる。</p> <p>体験探究の領域 数の世界に興味を持てます。</p>
授業の概要	<p>対面授業で行います。しかし毎回 Google Classroom で課題を提出します。対面授業の場合でも Google Classroomの課題提出は同じようにあります。</p> <p>この科目は共通科目群に属している選択科目です。</p> <p>まず、指数計算の基礎をもとにして、情報技術で基礎的に使われる、2進法や16進法の計算を行います。</p> <p>対面授業の場合は、毎回の授業で、ノートを取り、その日のうちにGoogle Classroomにログインして、Googleフォームで回答することが基本です。オンデマンドの場合は、Google Classroomにログインして、資料を読んでから課題に回答します。</p> <p>オンデマンドの場合でも資料を読んでノートを取るによって、これまで数学が苦手だった学生諸君も、数学の修得のコツを得ることになるでしょう。</p> <p>質問への対応方法 授業中とGoogle Classroomおよびメールで対応する。 「この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。」</p>

評価方法	<p>対面授業の場合は毎回授業を受けた後で、Google Classroomに入ってもらって、資料を読みGoogleフォームでレポートを回答してもらうことで評価します。</p> <p>オンデマンド授業の場合は、Google Classroomに入ってもらって、資料を読みGoogleフォームでレポートを回答してもらうことになります。</p> <p>毎回のレポート評価で100%</p> <p>欠席した場合は課題を提出しても0点ですよ。ただし、特別欠席など例外もありますよ。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席6回で一応失格とします。
授業計画	<p>おおよその方針は以下のとおりですが、授業の進展によって、一部変更があり得ます。</p> <p>第1回 2進法的前提になる指数の計算を学びましょう。その後Google Formで課題を提出します。指数の計算に慣れていない人には2時間の復習を課します。</p> <p>第2回 2進法の基礎となる計算を学びます。その後Google Formで回答してもらいます。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第3回 2進法の基礎的計算を発展させます。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第4回 2進法の基礎的計算を発展させて、応用力を養います。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第5回 16進法の基礎を学びます。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第6回 2進法を16進法に直す方法を学びます。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第7回 10進法, 2進法, 16進法の関係を学びます。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第8回 16進法を2進法に直す方法を学びます。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第9回 16進法を10進法に直す方法を学びます。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第10回 16進法を10進法に直すことをもう一度練習しましょう。Google Formを回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第11回 10進法を2進法に直す方法を学びます。GoogleFormで回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第12回 10進法を2進法に直す方法をもう一度練習します。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第13回 これまでの練習を復習します。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には4時間の復習を課します。</p> <p>第14回 これまでの練習を復習します。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には4時間の復習を課します。</p> <p>第15回 これまでの計算内容について、練習します。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には4時間の復習を課します。</p>
テキスト	追って指示する。
参考書	追って指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	対面授業がある場合は、時間内であれば、自由に質問してもらって構いません。ただし、授業後まで回答を待ってもらう場合もあるかも知れません。 オンデマンド授業の場合は、Google Classroomの個別質問の方法や私宛 tkshimo@nagoya-ku.ac.jp のメールを送って下さい。通常2～3日中には回答出来ていると思います。
フィードバックの方法	Google Classroomの課題提出時に、回答が分かると思います。質問などが多い場合は、別途コンテンツを作成してメールやGoogle Classroomを使って配信したいと思います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	初回の授業を受けるときは、資料や板書を見てノートを取りましょう。 次回以後は、前回に勉強した内容をくり返し練習してくださいね。このように予習しましょう！ 毎回、Googleフォームに回答したあとで、もう一度回答してみましよう！このように復習しましょう！
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	生活の中の科学 / Science in Everyday Life
時間割コード Course Code	10230
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	井上 晋一郎
科目区分 Course Group	共通科目群 科学と自然
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	野間 健太郎(法学部)、井上 晋一郎(法学部)、永井 啓祐(法学部)、水谷 彩美(法学部)
授業の目標	<p>我々が生活していく上で密接に関係している科学的な現象について学び、主に生物学と化学の理解を深めることを目指す。</p> <p>知識・理解の領域 生物の基本的な生命活動の営み、生物を構成する物質、植物科学、育種学、脳科学、について広く学ぶことができる。また、科学がどのように現代の我々の生活に結びついているのか理解し、農業・遺伝子検査・臨床応用への貢献を説明できる。</p> <p>技能の領域 身近な科学的現象について、専門書、事典、雑誌などを調べ、さらに理解を深めたい場合は本講義の講師を通じて専門家の意見を聞き、内容をより理解することができる。</p> <p>関心意欲の領域 本講義をもとに、身近な科学的現象についてさらに興味や疑問をもち、自分で調べることができるようになる。また、興味を持ち続けることができる。</p>
授業の概要	<p>地球上に暮らす私たちの生活は、非常に多くの科学的な現象にあふれている。ところが、普段はそれらの現象の仕組みや意味にはあまり目を向けずに暮らしていることが多いのではないだろうか。そもそも、人が生命活動を営むこととは、どういうことなのか？ 人と他の生物との違いは何なのか？ 人はどのように自分たちの生活を良くしてきたのか？</p> <p>このような疑問に対してこの講義では、4人の講師による生物学や化学に関連した身近な話題や近年の科学の進歩について解説することで、科学に対する理解をより深めていきたい。この講義は、授業計画の通り、以下の4部構成で進める。</p> <p>第1部では、基礎的な生物の細胞の特徴から遺伝子の働きについて学ぶ。また、近年話題となっている新型コロナウイルスや再生医療についても学ぶ。第2部では、人類と農耕について、栽培植物の進化や新しい技術を組み込んだ育種に焦点を当てて、植物育種学や遺伝子組換え作物についての理解を深める。第3部では、生物の活動を支えるホルモンについて概説する。また、科学が我々の生活にどのように応用されているのか、遺伝子検査・臨床応用・ワイン作りを例に学ぶ。さらに第4部では、人間誰もが持つ脳について学ぶ。これほど身近であるにも関わらず謎につつまれた脳について、その仕組みを概説するとともに、最新の研究動向についても触れる。</p>
評価方法	担当教員ごとに小テストなどの課題を課し、その結果により成績を評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	第1回 生物の特徴と植物の営み 第2回 遺伝情報の発現と新型コロナウイルスに関して 第3回 ゲノム情報と再生医療について 第4回 小テスト1 第5回 世界の食糧不足を救った緑の革命 第6回 農業と気候変動 第7回 意外と身近な遺伝子組換え作物 第8回 小テスト2 第9回 遺伝子検査や臨床応用 第10回 様々なホルモン 第11回 ワインの歴史と製造方法 第12回 脳がつくりだす世界 第13回 脳を理解するとは？ 第14回 脳の中のできごと 第15回 壊れゆく脳
テキスト	特に用いない。
参考書	適宜指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	講義中に、学生自らPCやスマートフォンなどで重要事項を検索するなど、アクティブ・ラーニングの時間を設けている。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワーにおいて対応する。
フィードバックの方法	各講義の内容への質問は、講義中や講義後に対面・メールで受け付け、回答する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各講義で配布する講義資料をもとに各自復習してもらうとともに、内容を発展させる図書を紹介し、予備的な学習を推奨する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
SDGs 17の目標（11～17）	13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力

開講科目名 Course	科学と人間社会II / Science and Human Society II
時間割コード Course Code	10270
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高橋 裕平
科目区分 Course Group	共通科目群 文理ハイブリッド
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 裕平(法学部)、野口 道代(法学部)
授業の目標	地質・鉱物・環境について学び、それらと人間社会とのかかわりを理解し説明できるようになる。 1.知識・理解の領域 ・資源の地域的な偏りは地質の違いによることを理解する。 2.技術の能力 ・資源調査のための地質学の体系と資源開発に伴う環境負荷を理解する。 3.態度・志向性の領域 ・資源開発とそれに伴う環境問題から、科学と人間社会を考える。
授業の概要	地学の基礎を知った上で、鉱物資源と環境問題にからめて科学と人間社会を以下の章立てで論じる。 第1回 資源と地質入門、第2回 資源開発と経済、第3回 地球の歴史、第4回 地球の仲間、第5回 日本の地質・鉱床、第6回 地学史、第7回 測量と地形図、第8回 地質調査と地質図、第9回 岩石と鉱物、第10回 資源各論(その1)、第11回 資源各論(その2)、第12回 2030持続可能な社会へ-SDGs、第13回 化石燃料と地球温暖化、第14回 調査事例1、第15回 調査事例2 なお、この科目の位置づけについては本学HPのナンバリングを参照する。
評価方法	・随時小レポートを課す。そのレポートの内容(50%)。 ・発言などの授業への取り組み態度(50%) 遠隔となった場合、出欠確認、小レポート提出、発言をGoogleフォーム利用で代替する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席(特別欠席を含む)が半分に満たない場合

授業計画	<p>第1回 資源と地質 a. 鉱物資源のかたより(その1), b. 元素の復習, c. 地質序論</p> <p>第2回 資源開発と経済 a. 資源のかたより(その2), b. 鉱物資源と経済, c. 鉱物資源の動向</p> <p>第3回 地球の歴史 a. 相対年代, b. 地質時代区分, c. 放射年代</p> <p>第4回 地球の仲間 a. 惑星, b. 月と隕石, c. 地球の運動</p> <p>第5回 日本の地質・鉱床 a. 日本の地質, b. 日本の鉱物資源, c. 日本の鉱山例</p> <p>第6回 地学史 a. ギリシャ時代と中世ヨーロッパ, b. 地質学の近代化, c. グローバルテクトニクスの導入</p> <p>第7回 測量と地形図 a. 国土の基本-地形図, b. 測量とその応用, c. 測量技術の進展</p> <p>第8回 地質調査と地質図 a. 地質学黎明期(れいめいき), b. 日本の地質図, c. 地質図の書き方と読み方</p> <p>第9回 岩石と鉱物 a. 主な鉱物, b. 岩石の分類, c. 偏光顕微鏡</p> <p>第10回 資源各論(その1) a. 金, b. 白金, c. 銅</p> <p>第11回 資源各論(その2) a. 花こう岩とは, b. 花こう岩系列, c. タングステンとモリブデン鉱床</p> <p>第12回 2030持続可能な社会へ-SDGs a. 持続可能な開発目標(SDGs), b. 地方におけるSDGsの推進, c. 海洋プラスチックごみ問題</p> <p>第13回 化石燃料(石炭)と環境問題 a. 石炭生産と二酸化炭素, b. 地球温暖化, c. 二酸化炭素地中貯留</p> <p>第14回 調査各論1(モンゴル) a. モンゴル概略, b. モンゴルの地質調査史, c. パンペリーの業績</p> <p>第15回 調査各論2(南極) a. 南極概略, b. 南極点をめざして, c. 日本の南極観測</p>
テキスト	なし。資料を用意する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・もういちど読む数研の高校地学。数研出版, pp. 400。 ・ウェブサイト(一人で学ぶ地質学) <p>日本語: http://y95480.g1.xrea.com/indexjp.htm#CH4 英語版: http://y95480.g1.xrea.com/indexen.htm#Ch4</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	岩石・鉱物試料の実物観察。 地形図や地質図に関する作図実習。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	地質調査所技官、南極地域観測隊隊員、JICA専門家(地質学)の経験を授業に反映する。
質問への対応方法	授業の中で対応する。遠隔となった場合、Google Classroomで対応する。
フィードバックの方法	授業の中で対応する。遠隔となった場合、Google Classroomで対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業について内容を深める資料のウェブサイトを設ける。また、そのサイトには関連するYouTubeや参考文献を紹介する。これらを利用して準備学習・予習と復習にあてる。 準備学習と予習: 参考資料サイトを参照し、さらにサイト中の問いを解く。 復習: 関連動画を見る。参考文献(e-Bookを含む)を読む。質問や感想に対するフィードバックを参照し理解を深める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	13. 気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 3. 統率力

開講科目名 Course	環境共生の探究I / Environment and SocietyI
時間割コード Course Code	10290
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	郡 麻里
科目区分 Course Group	共通科目群 文理ハイブリッド
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	郡 麻里 (経営学部)
授業の目標	日常生活において、私たちは何らかの形で環境に負荷を与えている。今まで無意識に行ってきた選択(商品の購入・消費活動・行動)を振り返り、Life Cycle Assessmentの概念で責任ある生産と消費について考えてみる。 具体的には、日々購入したり口にしたりする水や食品、衣類が、どのような過程で生産され、どのような手段で運搬、使用され、処分されるのか、すべての工程について環境問題と関連付けて考えてみよう。
授業の概要	日々耳にする災害や事故について、なぜそうなったのか原因について考え、予防・軽減の手段や回避対策を環境問題として考えてみる。このように、常に疑問を持ち、今一度考えてみる姿勢をクリティカルな思考と呼ぶ。 本コースでは、地域や世界で起きている環境問題を知り、複数の情報源から原因や対策を追究し、自ら調べる姿勢を身に着ける。さらに、地域の資源や自然を持続的に活用する手段やアイデアに触れることで、生物多様性や生態系の健全性を維持する重要性と持続可能な自然共生社会の実現方法を学ぶ。
評価方法	数週間ごとに出される課題等の提出物：50%、 期末レポート：40%、 質問やディスカッションへの積極的な参加：10%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	やむをえず欠席等する際は事前に理由を連絡すること。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日常生活での環境問題 第3回 Remote responsibilityとは何か 第4回 食料自給率の低下の原因と対策 第5回 Carbon footprintとは何か 第6回 化石燃料に依存したグローバル化社会から脱炭素社会へ 第7回 再生可能エネルギーの重要性と循環的資源利用 第8回 グリーン・インフラとは何か 第9回 自然環境保全は災害リスク軽減に貢献する 第10回 生物多様性保全は感染症リスク軽減に貢献する 第11回 人獣共通感染症の拡大と大量生産・大量消費の経済の関係 第12回 持続可能な地域循環経済と自然共生社会 第13回 戦争による環境破壊 第14回 自然環境との共生 第15回 まとめ * 内容や順番は変更になる可能性がある。
テキスト	特になし。毎回参考文献を紹介する。

参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は環境省など国の委託事業や補助事業を担当した経験がある。現在の国の生物多様性保全や気候変への対策・方針について紹介する。
質問への対応方法	授業の後や電子メール等に対応する。
フィードバックの方法	授業の後や電子メール等に対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習復習を各1時間ほどすることを勧める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	全学ゼミナール(1) / Interdepartmental Seminar
時間割コード Course Code	10311
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中津 将樹
科目区分 Course Group	共通科目群 全学ゼミナール
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中津 将樹 (経済学部)
授業の目標	<p>Through group discussion, students are expected to learn the basic method of Project Cycle Management (PCM) and to obtain its skills.</p> <p>PCM is commonly used to implement the overseas development assistance projects done by the Government of Japan.</p> <p>This course is conducted in English. However, some academic and technical terms will be translated into Japanese.</p> <p>Expected Results</p> <p>Knowledge The students can obtain basic knowledge on project management and social issues and problems in underdeveloped countries.</p> <p>Skill The students can obtain the basic method and skills of PCM.</p> <p>Attitude The students can acquire the positive attitude for discussion.</p> <p>Thinking The students can obtain logical, critical and creative thinking skills.</p> <p>Interest The students can deepen their interest in various cultures and different ways of thinking.</p> <p>Experience The students can plan and manage the projects (simulation).</p>
授業の概要	<p>The students plan and manage the simulated overseas projects through several steps as follows;</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Learning Issues and Problems on Infrastructure/Education 2. Analyzing Issues and Problems on Infrastructure/Education 3. Planning and Managing Projects 4. Monitoring and Evaluating Projects <p>Please check the course code of this course on the university website.</p>
評価方法	<p>Class Participation - 50 %</p> <p>Matrix/Essay - 50 %</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	None
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Stakeholders Analysis (1-Introductory) 3. Problems Analysis (1-Introductory) 4. Objective Analysis (1-Introductory) 5. Project Selection (1-Introductory) 6. Formulation of the PDM (1-Introductory) 7. PDM Appraisal and Plan of Operations (1-Introductory) 8. Monitoring and Evaluation (1-Introductory) 9. Stakeholders Analysis (2-Practice) 10. Problems Analysis (2-Practice) 11. Objective Analysis (2-Practice) 12. Project Selection (2-Practice) 13. Formulation of the PDM (2-Practice) 14. PDM Appraisal and Plan of Operations (2-Practice) 15. Monitoring and Evaluation (2-Practice)
テキスト	None
参考書	Foundation for Advanced Studies on International Development (FASID), PCM-Management Tool for Development Assistance (Participatory Planning), FASID, 2008
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>Through group discussion, students are expected to learn the basic method of Project Cycle Management (PCM) and to obtain its skills.</p> <p>Since a lot of group discussion in English are required in the classroom, the students are expected to have intermediate level of English proficiency (2nd grade of EIKEN or equivalent – high school graduate level). In addition, the students who are interested in studying abroad or working overseas, especially in underdeveloped countries, are welcome to this course, as it focuses on issues and problems existed in these places.</p> <p>Note: The students who have basic level of English proficiency (3rd grade of EIKEN or equivalent - junior high school graduate level), please take "全学ゼミナール(2)" offered in 2nd semester.</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	Some cases based on the instructor's previous working experience will be introduced for information and references.
質問への対応方法	<p>Questions by students are always more than welcome.</p> <p>The instructor can answer them promptly before/during/after the class.</p>
フィードバックの方法	<p>The matrix designed by the students is commented and revised during the class.</p> <p>Papers (including the quiz) written by the students are graded and returned to the students.</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>4 hour pre-study and review per lesson is strongly recommended.</p> <p>Since a lot of group discussion on issues and problems in English are required in the classroom, the students are expected to study English and improve its skills (writing/listening/speaking/reading) and to learn about global issues through the media and readings.</p>
使用言語	英語
SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

SDGs 17の目標 (11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(日)基礎力養成I(A) / Basic academic skills training I
時間割コード Course Code	11000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	下村 尚司
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	下村 尚司(経済学部)、PSES(他大学)
授業の目標	基礎数学講義では、数学的な論理的思考能力、問題処理能力、計算スキルの基本事項を復習し、より確かな基礎学力を身につけていきます。将来の公務員試験、就職試験に備えた数学、国語の基盤となる基礎学力をつくることを目標とします。
授業の概要	講義において、まずは必須となる基本事項を整理し、その基本知識を活用して実際に問題を解くプロセスを演習によって繰り返し学習することにより数学の基本を身につけていきます。本講義ではとりわけ数的推理の問題を解く上での基本事項を習熟させ、問題への対応力を高めていきます。公務員試験、就職試験において最も比重の高い数学分野の問題ですが、文系学生にとっては苦手意識の高い分野でもあります。本講義を通じて、問題の解法の基本パターンを効率よく理解し、数学的思考能力を高めていきます。
評価方法	定期試験 80% 日常点(参加姿勢) 20%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第1週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、学力診断テスト 第2週 分数・少数・累乗計算 第3週 1次方程式・不等式 第4週 連立方程式 第5週 平方根 第6週 2次方程式 第7週 約数と倍数 第8週 比と割合 第9週 比と割合 第10週 損益算 第11週 濃度算 第12週 N進法 第13週 仕事算・水槽算 第14週 漢字、同音異義語、同訓異義語 第15週 対義語、類義語、四字熟語、ことわざ、慣用句
テキスト	基礎学力養成プログラム BASIC 1,500円(税別)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール対応 (pses@pses.co.jp)
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受講した講義の復習1時間 翌週の講義の予習 1時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1 ~ 10)	
SDGs 17の目標 (11 ~ 17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)基礎力養成I(B) / Basic academic skills training I
時間割コード Course Code	11001
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)、P S E S (他大学)
授業の目標	基礎数学講義では、数学的な論理的思考能力、問題処理能力、計算スキルの基本事項を復習し、より確かな基礎学力を身につけていきます。将来の公務員試験、就職試験に備えた数学、国語の基盤となる基礎学力をつくることを目標とします。
授業の概要	講義において、まずは必須となる基本事項を整理し、その基本知識を活用して実際に問題を解くプロセスを演習によって繰り返し学習することにより数学の基本を身につけていきます。本講義ではとりわけ数的推理の問題を解く上での基本事項を習熟させ、問題への対応力を高めていきます。公務員試験、就職試験において最も比重の高い数学分野の問題ですが、文系学生にとっては苦手意識の高い分野でもあります。本講義を通じて、問題の解法の基本パターンを効率よく理解し、数学的思考能力を高めていきます。
評価方法	定期試験 80% 日常点(参加姿勢) 20%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第 1 週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、学力診断テスト 第 2 週 分数・少数・累乗計算 第 3 週 1次方程式・不等式 第 4 週 連立方程式 第 5 週 平方根 第 6 週 2次方程式 第 7 週 約数と倍数 第 8 週 比と割合 第 9 週 比と割合 第 10 週 損益算 第 11 週 濃度算 第 12 週 N進法 第 13 週 仕事算・水槽算 第 14 週 漢字、同音異義語、同訓異義語 第 15 週 対義語、類義語、四字熟語、ことわざ、慣用句
テキスト	基礎学力養成プログラム BASIC 1,500円(税別)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール対応 (pses@pses.co.jp)
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受講した講義の復習1時間 翌週の講義の予習 1時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1 ~ 10)	
SDGs 17の目標 (11 ~ 17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)基礎力養成I(C) / Basic academic skills training I
時間割コード Course Code	11002
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	早川 結人
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 結人(法学部)、PSES(他大学)
授業の目標	基礎数学講義では、数学的な論理的思考能力、問題処理能力、計算スキルの基本事項を復習し、より確かな基礎学力を身につけていきます。将来の公務員試験、就職試験に備えた数学、国語の基盤となる基礎学力をつくることを目標とします。
授業の概要	講義において、まずは必須となる基本事項を整理し、その基本知識を活用して実際に問題を解くプロセスを演習によって繰り返し学習することにより数学の基本を身につけていきます。本講義ではとりわけ数的推理の問題を解く上での基本事項を習熟させ、問題への対応力を高めていきます。公務員試験、就職試験において最も比重の高い数学分野の問題ですが、文系学生にとっては苦手意識の高い分野でもあります。本講義を通じて、問題の解法の基本パターンを効率よく理解し、数学的思考能力を高めていきます。
評価方法	定期試験 80% 日常点(参加姿勢) 20%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第1週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、学力診断テスト 第2週 分数・少数・累乗計算 第3週 1次方程式・不等式 第4週 連立方程式 第5週 平方根 第6週 2次方程式 第7週 約数と倍数 第8週 比と割合 第9週 比と割合 第10週 損益算 第11週 濃度算 第12週 N進法 第13週 仕事算・水槽算 第14週 漢字、同音異義語、同訓異義語 第15週 対義語、類義語、四字熟語、ことわざ、慣用句
テキスト	基礎学力養成プログラム BASIC 1,500円(税別)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール対応 (pses@pses.co.jp)
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受講した講義の復習1時間 翌週の講義の予習 1時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1 ~ 10)	
SDGs 17の目標 (11 ~ 17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)公務員・就職試験基礎力養成 (SPI含む) / Basic Skills Training for Civil Service Examination and Employment Examination I
時間割コード Course Code	11020
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)、P S E S (他大学)
授業の目標	各種公務員採用試験及び教員採用試験に出題される一般知識分野の出題事項とそのレベルの確認を行い、一般知識分野の基礎力を養う。また、公務員志望者のみならず民間企業への就職を志望する学生の就職支援を行い、基礎学力アップを図ることを目的とする。
授業の概要	公務員試験及び教員採用試験に出題される一般知識分野のうち社会科学、人文科学、自然科学について講義をする。頻出テーマの基本知識をわかりやすく整理していき、各項目の仕組みの基本を理解させていく。
評価方法	定期試験 80% 日常点 (参加姿勢) 20%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第 1 週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、実力確認テスト 第 2 週 日本国憲法(総論)、基本的人権(総論)、基本的人権(各論) 第 3 週 選挙制度と政党、世界の政治体制 第 4 週 国際連合、金融政策・日本銀行 第 5 週 物価の変動、予算・租税 第 6 週 社会集団・自己防衛機制、日本の貿易 第 7 週 朝鮮半島問題、消費税 第 8 週 オリンピックと国際博覧会、古代 第 9 週 中世、近世 第 10 週 中国王朝史、農業 第 11 週 鉱工業、西洋思想 第 12 週 電気回路、酸化還元反応 第 13 週 化学反応式 第 14 週 細胞組織、遺伝 第 15 週 地球の内部構造とプレート、岩石と火山
テキスト	公務員試験一般知識過去問特講 vol.3 2,500円 (税別)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	メール対応 (pses@pses.co.jp)
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受講した講義の復習1時間 翌週の講義の予習 1時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1 ~ 10)	
SDGs 17の目標 (11 ~ 17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)公務員・就職試験基礎力養成 (SPI含む) / Basic Skills Training for Civil Service Examination and Employment Examination II
時間割コード Course Code	11030
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	家接 哲次
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	家接 哲次 (教育保育学科)、P S E S (他大学)
授業の目標	各種公務員採用試験に出題される一般知能分野の出題事項とそのレベルの確認を行い、一般知能分野の基礎力を養う。また、公務員志望者のみならず民間企業への就職を志望する学生の就職支援を行い、基礎学力アップを図ることを目的とする。
授業の概要	公務員試験において、出題ウエイトの高い「一般知能」分野の数的推理、資料解釈の基本的な解法をマスターしていく。問題を解く上での基本的な数学上の確認事項を整理しつつ、問題解法のポイントを理解させ、基本的な問題に関して確実に解答へと導くことのできる基礎力を身に付けていく。また類似問題に応用できるような問題への対応能力が養われるよう講義していく。
評価方法	定期試験 80% 日常点 (参加姿勢) 20%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第 1 週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、実力確認テスト 第 2 週 約数・倍数、割り算と余り 第 3 週 数列、N進法 第 4 週 場合の数と順列、組み合わせ 第 5 週 確率 第 6 週 旅人算、速度 第 7 週 流水算、通過算 第 8 週 原価・定価・売価、比 第 9 週 濃度算 第 10 週 仕事算 第 11 週 3 角形の性質、平面図形の面積 第 12 週 円の性質、立体図形 第 13 週 その他の問題 第 14 週 割合、構成比 第 15 週 指数、増減率
テキスト	公務員試験対策テキスト 一般知能 Vol.1 2,000円 (税別)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール対応 (pses@pses.co.jp)
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受講した講義の復習1時間 翌週の講義の予習 1時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1 ~ 10)	
SDGs 17の目標 (11 ~ 17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(日)公務員・就職試験対策 (SPI含む) / Preparation for Civil Service Examination and Employment Examination I
時間割コード Course Code	11060
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之(経営学部)、PSES(他大学)
授業の目標	各種公務員採用試験に出題される一般知能分野の過去問題の問題演習を行い、一般知能分野の解答力を養う。また、公務員志望者のみならず民間企業への就職を志望する学生の就職支援を行い、基礎学力アップを図ることを目的とする。
授業の概要	公務員試験において、出題ウエイトの高い「一般知能」分野の得点力向上を目的として、過去問題を使用した演習授業を行っていく。公務員・就職試験基礎力養成で学習した内容の確認を行い、問題解法のポイントを理解させ、過去問題レベルを確実に解答へ導くことのできる実践力を身に付けていく。
評価方法	定期試験 80% 日常点(参加姿勢) 20%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第1週 講座の主旨説明と流れのガイダンス、実力確認テスト 第2週 速度、旅人算 第3週 通過算、流水算 第4週 原価・定価・売価、比 第5週 濃度算、仕事算 第6週 順位・順序、試合 第7週 所属の類推 第8週 嘘と真実からの類推 第9週 数値の類推 第10週 立方体の展開図(4面体、6面体、8面体) 第11週 軌跡 第12週 割合 第13週 構成比 第14週 現代文 第15週 英文
テキスト	公務員試験対策問題集 一般知能 Vol.2 2,000円(税別)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール対応 (pses@pses.co.jp)
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受講した講義の復習1時間 翌週の講義の予習 1時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1 ~ 10)	
SDGs 17の目標 (11 ~ 17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報リテラシー(済1) / Information literacy
時間割コード Course Code	11300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	山住 富也
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山住 富也(経営学部)
授業の目標	ワープロ(Word)を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト(Excel)によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールを行い、レポートや卒業論文を作成する準備を行う。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理 第2週 ノートパソコン実習：無線LANの利用、電子メール、ソフトウェアのインストール 第3週 ワープロ実習1：文字の入力、文書の作成と整形 第4週 ワープロ実習2：テキストボックス、オブジェクトの貼り付け 第5週 ワープロ実習3：段組み、表の挿入 第6週 ワープロ実習4：ページ設定、ヘッダーとフッター 第7週 ワープロ実習5：SmartArt、図表番号 第8週 表計算1：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力 第9週 表計算2：統計関数 第10週 表計算3：論理関数 第11週 表計算4：グラフの描画 第12週 データサイエンスとAI活用、データ活用の留意事項 第13週 スライド作成1：スライドの作成の基礎 第14週 スライド作成2：スライドショーの実行とプレゼンテーション 第15週 スライド作成3：特殊効果を利用したスライドの作成 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版 定平誠，技術評論社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理、ELSIと情報セキュリティ	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備としてTeamsの使用方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。	
2	ノートパソコン実習	各自のノートパソコンを持参し、基本設定とソフトウェアのインストールを行う。学内無線LANへの接続方法、電子メールの活用、OfficeソフトウェアおよびTeamsのインストールを行う。	
3	ワープロ実習1	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。	
4	ワープロ実習2	テキストボックスや基本図形などWordで標準で用意されているオブジェクトの貼り付けを行う。	
5	ワープロ実習3	2段組みの文章を作成する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。	
6	ワープロ実習4	ページ単位で行う設定について学習する。またヘッダーとフッターの挿入・編集について学ぶ。	
7	ワープロ実習5	SmartArtを活用する法補について学ぶ。図表番号の設定方法について学習する。	
8	表計算1	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
9	表計算2	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
10	表計算3	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
11	表計算4	棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの描画について学習する。	
12	データサイエンスとAI活用	AIについて社会で起きているさまざまな変化やデータ・AIの活用領域について学習する。人間の知的活動とAIの関係性、AIが活用したビジネスモデルについて近年のAI技術の動向や事例を調べる。また、ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)や情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学ぶ。	
13	スライド作成1	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。テキストと図表の挿入方法を学習する。	
14	スライド作成2	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。	
15	スライド作成3	スライドにアニメーションや画面の桐け糸効果を設定し、効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(済2) / Information literacy
時間割コード Course Code	11301
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	櫻井 由香
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	櫻井 由香 (経済学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールを行い、レポートや卒業論文を作成する準備を行う。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理 第2週 ノートパソコン実習：無線LANの利用、電子メール、ソフトウェアのインストール 第3週 ワープロ実習1：文字の入力、文書の作成と整形 第4週 ワープロ実習2：テキストボックス、オブジェクトの貼り付け 第5週 ワープロ実習3：段組み、表の挿入 第6週 ワープロ実習4：ページ設定、ヘッダーとフッター 第7週 ワープロ実習5：SmartArt、図表番号 第8週 表計算1：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力 第9週 表計算2：統計関数 第10週 表計算3：論理関数 第11週 表計算4：グラフの描画 第12週 データサイエンスとAI活用、データ活用の留意事項 第13週 スライド作成1：スライドの作成の基礎 第14週 スライド作成2：スライドショーの実行とプレゼンテーション 第15週 スライド作成3：特殊効果を利用したスライドの作成 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版 定平誠，技術評論社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理、ELSIと情報セキュリティ	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備としてTeamsの使用方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。	
2	ノートパソコン実習	各自のノートパソコンを持参し、基本設定とソフトウェアのインストールを行う。学内無線LANへの接続方法、電子メールの活用、OfficeソフトウェアおよびTeamsのインストールを行う。	
3	ワープロ実習1	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。	
4	ワープロ実習2	テキストボックスや基本図形などWordで標準で用意されているオブジェクトの貼り付けを行う。	
5	ワープロ実習3	2段組みの文章を作成する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。	
6	ワープロ実習4	ページ単位で行う設定について学習する。またヘッダーとフッターの挿入・編集について学ぶ。	
7	ワープロ実習5	SmartArtを活用する法補について学ぶ。図表番号の設定方法について学習する。	
8	表計算1	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
9	表計算2	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
10	表計算3	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
11	表計算4	棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの描画について学習する。	
12	データサイエンスとAI活用	AIについて社会で起きているさまざまな変化やデータ・AIの活用領域について学習する。人間の知的活動とAIの関係性、AIが活用したビジネスモデルについて近年のAI技術の動向や事例を調べる。また、ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)や情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学ぶ。	
13	スライド作成1	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。テキストと図表の挿入方法を学習する。	
14	スライド作成2	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。	
15	スライド作成3	スライドにアニメーションや画面の桐け糸効果を設定し、効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(済3) / Information literacy
時間割コード Course Code	11302
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールを行い、レポートや卒業論文を作成する準備を行う。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理 第2週 ノートパソコン実習：無線LANの利用、電子メール、ソフトウェアのインストール 第3週 ワープロ実習1：文字の入力、文書の作成と整形 第4週 ワープロ実習2：テキストボックス、オブジェクトの貼り付け 第5週 ワープロ実習3：段組み、表の挿入 第6週 ワープロ実習4：ページ設定、ヘッダーとフッター 第7週 ワープロ実習5：SmartArt、図表番号 第8週 表計算1：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力 第9週 表計算2：統計関数 第10週 表計算3：論理関数 第11週 表計算4：グラフの描画 第12週 データサイエンスとAI活用、データ活用の留意事項 第13週 スライド作成1：スライドの作成の基礎 第14週 スライド作成2：スライドショーの実行とプレゼンテーション 第15週 スライド作成3：特殊効果を利用したスライドの作成 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版 定平誠，技術評論社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理、ELSIと情報セキュリティ	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備としてTeamsの使用方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。	
2	ノートパソコン実習	各自のノートパソコンを持参し、基本設定とソフトウェアのインストールを行う。学内無線LANへの接続方法、電子メールの活用、OfficeソフトウェアおよびTeamsのインストールを行う。	
3	ワープロ実習1	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。	
4	ワープロ実習2	テキストボックスや基本図形などWordで標準で用意されているオブジェクトの貼り付けを行う。	
5	ワープロ実習3	2段組みの文章を作成する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。	
6	ワープロ実習4	ページ単位で行う設定について学習する。またヘッダーとフッターの挿入・編集について学ぶ。	
7	ワープロ実習5	SmartArtを活用する法補について学ぶ。図表番号の設定方法について学習する。	
8	表計算1	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
9	表計算2	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
10	表計算3	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
11	表計算4	棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの描画について学習する。	
12	データサイエンスとAI活用	AIについて社会で起きているさまざまな変化やデータ・AIの活用領域について学習する。人間の知的活動とAIの関係性、AIが活用したビジネスモデルについて近年のAI技術の動向や事例を調べる。また、ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)や情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学ぶ。	
13	スライド作成1	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。テキストと図表の挿入方法を学習する。	
14	スライド作成2	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。	
15	スライド作成3	スライドにアニメーションや画面の桐ヶ糸効果を設定し、効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(済4) / Information literacy
時間割コード Course Code	11303
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	櫻井 由香
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	櫻井 由香 (経済学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールを行い、レポートや卒業論文を作成する準備を行う。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理 第2週 ノートパソコン実習：無線LANの利用、電子メール、ソフトウェアのインストール 第3週 ワープロ実習1：文字の入力、文書の作成と整形 第4週 ワープロ実習2：テキストボックス、オブジェクトの貼り付け 第5週 ワープロ実習3：段組み、表の挿入 第6週 ワープロ実習4：ページ設定、ヘッダーとフッター 第7週 ワープロ実習5：SmartArt、図表番号 第8週 表計算1：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力 第9週 表計算2：統計関数 第10週 表計算3：論理関数 第11週 表計算4：グラフの描画 第12週 データサイエンスとAI活用、データ活用の留意事項 第13週 スライド作成1：スライドの作成の基礎 第14週 スライド作成2：スライドショーの実行とプレゼンテーション 第15週 スライド作成3：特殊効果を利用したスライドの作成 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版 定平誠，技術評論社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理、ELSIと情報セキュリティ	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備としてTeamsの使用方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。	
2	ノートパソコン実習	各自のノートパソコンを持参し、基本設定とソフトウェアのインストールを行う。学内無線LANへの接続方法、電子メールの活用、OfficeソフトウェアおよびTeamsのインストールを行う。	
3	ワープロ実習1	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。	
4	ワープロ実習2	テキストボックスや基本図形などWordで標準で用意されているオブジェクトの貼り付けを行う。	
5	ワープロ実習3	2段組みの文章を作成する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。	
6	ワープロ実習4	ページ単位で行う設定について学習する。またヘッダーとフッターの挿入・編集について学ぶ。	
7	ワープロ実習5	SmartArtを活用する法補について学ぶ。図表番号の設定方法について学習する。	
8	表計算1	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
9	表計算2	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
10	表計算3	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
11	表計算4	棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの描画について学習する。	
12	データサイエンスとAI活用	AIについて社会で起きているさまざまな変化やデータ・AIの活用領域について学習する。人間の知的活動とAIの関係性、AIが活用したビジネスモデルについて近年のAI技術の動向や事例を調べる。また、ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)や情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学ぶ。	
13	スライド作成1	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。テキストと図表の挿入方法を学習する。	
14	スライド作成2	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。	
15	スライド作成3	スライドにアニメーションや画面の桐ヶ糸効果を設定し、効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(営1) / Information literacy
時間割コード Course Code	11304
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールを行い、レポートや卒業論文を作成する準備を行う。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理 第2週 ノートパソコン実習：無線LANの利用、電子メール、ソフトウェアのインストール 第3週 ワープロ実習1：文字の入力、文書の作成と整形 第4週 ワープロ実習2：テキストボックス、オブジェクトの貼り付け 第5週 ワープロ実習3：段組み、表の挿入 第6週 ワープロ実習4：ページ設定、ヘッダーとフッター 第7週 ワープロ実習5：SmartArt、図表番号 第8週 表計算1：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力 第9週 表計算2：統計関数 第10週 表計算3：論理関数 第11週 表計算4：グラフの描画 第12週 データサイエンスとAI活用、データ活用の留意事項 第13週 スライド作成1：スライドの作成の基礎 第14週 スライド作成2：スライドショーの実行とプレゼンテーション 第15週 スライド作成3：特殊効果を利用したスライドの作成 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版 定平誠，技術評論社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理、ELSIと情報セキュリティ	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備としてTeamsの使用方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。	
2	ノートパソコン実習	各自のノートパソコンを持参し、基本設定とソフトウェアのインストールを行う。学内無線LANへの接続方法、電子メールの活用、OfficeソフトウェアおよびTeamsのインストールを行う。	
3	ワープロ実習1	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。	
4	ワープロ実習2	テキストボックスや基本図形などWordで標準で用意されているオブジェクトの貼り付けを行う。	
5	ワープロ実習3	2段組みの文章を作成する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。	
6	ワープロ実習4	ページ単位で行う設定について学習する。またヘッダーとフッターの挿入・編集について学ぶ。	
7	ワープロ実習5	SmartArtを活用する法補について学ぶ。図表番号の設定方法について学習する。	
8	表計算1	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
9	表計算2	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
10	表計算3	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
11	表計算4	棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの描画について学習する。	
12	データサイエンスとAI活用	AIについて社会で起きているさまざまな変化やデータ・AIの活用領域について学習する。人間の知的活動とAIの関係性、AIが活用したビジネスモデルについて近年のAI技術の動向や事例を調べる。また、ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)や情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学ぶ。	
13	スライド作成1	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。テキストと図表の挿入方法を学習する。	
14	スライド作成2	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。	
15	スライド作成3	スライドにアニメーションや画面の桐ヶ糸効果を設定し、効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(営2) / Information literacy
時間割コード Course Code	11305
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	萬代 みどり
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萬代 みどり(経済学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールを行い、レポートや卒業論文を作成する準備を行う。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理 第2週 ノートパソコン実習：無線LANの利用、電子メール、ソフトウェアのインストール 第3週 ワープロ実習1：文字の入力、文書の作成と整形 第4週 ワープロ実習2：テキストボックス、オブジェクトの貼り付け 第5週 ワープロ実習3：段組み、表の挿入 第6週 ワープロ実習4：ページ設定、ヘッダーとフッター 第7週 ワープロ実習5：SmartArt、図表番号 第8週 表計算1：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力 第9週 表計算2：統計関数 第10週 表計算3：論理関数 第11週 表計算4：グラフの描画 第12週 データサイエンスとAI活用、データ活用の留意事項 第13週 スライド作成1：スライドの作成の基礎 第14週 スライド作成2：スライドショーの実行とプレゼンテーション 第15週 スライド作成3：特殊効果を利用したスライドの作成 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版 定平誠，技術評論社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理、ELSIと情報セキュリティ	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備としてTeamsの使用方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。	
2	ノートパソコン実習	各自のノートパソコンを持参し、基本設定とソフトウェアのインストールを行う。学内無線LANへの接続方法、電子メールの活用、OfficeソフトウェアおよびTeamsのインストールを行う。	
3	ワープロ実習1	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。	
4	ワープロ実習2	テキストボックスや基本図形などWordで標準で用意されているオブジェクトの貼り付けを行う。	
5	ワープロ実習3	2段組みの文章を作成する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。	
6	ワープロ実習4	ページ単位で行う設定について学習する。またヘッダーとフッターの挿入・編集について学ぶ。	
7	ワープロ実習5	SmartArtを活用する法補について学ぶ。図表番号の設定方法について学習する。	
8	表計算1	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
9	表計算2	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
10	表計算3	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
11	表計算4	棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの描画について学習する。	
12	データサイエンスとAI活用	AIについて社会で起きているさまざまな変化やデータ・AIの活用領域について学習する。人間の知的活動とAIの関係性、AIが活用したビジネスモデルについて近年のAI技術の動向や事例を調べる。また、ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)や情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学ぶ。	
13	スライド作成1	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。テキストと図表の挿入方法を学習する。	
14	スライド作成2	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。	
15	スライド作成3	スライドにアニメーションや画面の桐ヶ糸効果を設定し、効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(営3) / Information literacy
時間割コード Course Code	11306
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールを行い、レポートや卒業論文を作成する準備を行う。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理 第2週 ノートパソコン実習：無線LANの利用、電子メール、ソフトウェアのインストール 第3週 ワープロ実習1：文字の入力、文書の作成と整形 第4週 ワープロ実習2：テキストボックス、オブジェクトの貼り付け 第5週 ワープロ実習3：段組み、表の挿入 第6週 ワープロ実習4：ページ設定、ヘッダーとフッター 第7週 ワープロ実習5：SmartArt、図表番号 第8週 表計算1：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力 第9週 表計算2：統計関数 第10週 表計算3：論理関数 第11週 表計算4：グラフの描画 第12週 データサイエンスとAI活用、データ活用の留意事項 第13週 スライド作成1：スライドの作成の基礎 第14週 スライド作成2：スライドショーの実行とプレゼンテーション 第15週 スライド作成3：特殊効果を利用したスライドの作成 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版 定平誠，技術評論社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理、ELSIと情報セキュリティ	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備としてTeamsの使用方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。	
2	ノートパソコン実習	各自のノートパソコンを持参し、基本設定とソフトウェアのインストールを行う。学内無線LANへの接続方法、電子メールの活用、OfficeソフトウェアおよびTeamsのインストールを行う。	
3	ワープロ実習1	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。	
4	ワープロ実習2	テキストボックスや基本図形などWordで標準で用意されているオブジェクトの貼り付けを行う。	
5	ワープロ実習3	2段組みの文章を作成する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。	
6	ワープロ実習4	ページ単位で行う設定について学習する。またヘッダーとフッターの挿入・編集について学ぶ。	
7	ワープロ実習5	SmartArtを活用する法補について学ぶ。図表番号の設定方法について学習する。	
8	表計算1	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
9	表計算2	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
10	表計算3	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
11	表計算4	棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの描画について学習する。	
12	データサイエンスとAI活用	AIについて社会で起きているさまざまな変化やデータ・AIの活用領域について学習する。人間の知的活動とAIの関係性、AIが活用したビジネスモデルについて近年のAI技術の動向や事例を調べる。また、ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)や情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学ぶ。	
13	スライド作成1	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。テキストと図表の挿入方法を学習する。	
14	スライド作成2	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。	
15	スライド作成3	スライドにアニメーションや画面の桐け糸効果を設定し、効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(営4) / Information literacy
時間割コード Course Code	11307
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	萬代 みどり
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萬代 みどり(経済学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールを行い、レポートや卒業論文を作成する準備を行う。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理 第2週 ノートパソコン実習：無線LANの利用、電子メール、ソフトウェアのインストール 第3週 ワープロ実習1：文字の入力、文書の作成と整形 第4週 ワープロ実習2：テキストボックス、オブジェクトの貼り付け 第5週 ワープロ実習3：段組み、表の挿入 第6週 ワープロ実習4：ページ設定、ヘッダーとフッター 第7週 ワープロ実習5：SmartArt、図表番号 第8週 表計算1：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力 第9週 表計算2：統計関数 第10週 表計算3：論理関数 第11週 表計算4：グラフの描画 第12週 データサイエンスとAI活用、データ活用の留意事項 第13週 スライド作成1：スライドの作成の基礎 第14週 スライド作成2：スライドショーの実行とプレゼンテーション 第15週 スライド作成3：特殊効果を利用したスライドの作成 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版 定平誠，技術評論社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理、ELSIと情報セキュリティ	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備としてTeamsの使用方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。	
2	ノートパソコン実習	各自のノートパソコンを持参し、基本設定とソフトウェアのインストールを行う。学内無線LANへの接続方法、電子メールの活用、OfficeソフトウェアおよびTeamsのインストールを行う。	
3	ワープロ実習1	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。	
4	ワープロ実習2	テキストボックスや基本図形などWordで標準で用意されているオブジェクトの貼り付けを行う。	
5	ワープロ実習3	2段組みの文章を作成する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。	
6	ワープロ実習4	ページ単位で行う設定について学習する。またヘッダーとフッターの挿入・編集について学ぶ。	
7	ワープロ実習5	SmartArtを活用する法補について学ぶ。図表番号の設定方法について学習する。	
8	表計算1	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
9	表計算2	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
10	表計算3	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
11	表計算4	棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの描画について学習する。	
12	データサイエンスとAI活用	AIについて社会で起きているさまざまな変化やデータ・AIの活用領域について学習する。人間の知的活動とAIの関係性、AIが活用したビジネスモデルについて近年のAI技術の動向や事例を調べる。また、ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)や情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学ぶ。	
13	スライド作成1	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。テキストと図表の挿入方法を学習する。	
14	スライド作成2	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。	
15	スライド作成3	スライドにアニメーションや画面の桐ヶ糸効果を設定し、効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(法1) / Information literacy
時間割コード Course Code	11308
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	村山 聡江
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 聡江 (経営学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールを行い、レポートや卒業論文を作成する準備を行う。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理 第2週 ノートパソコン実習：無線LANの利用、電子メール、ソフトウェアのインストール 第3週 ワープロ実習1：文字の入力、文書の作成と整形 第4週 ワープロ実習2：テキストボックス、オブジェクトの貼り付け 第5週 ワープロ実習3：段組み、表の挿入 第6週 ワープロ実習4：ページ設定、ヘッダーとフッター 第7週 ワープロ実習5：SmartArt、図表番号 第8週 表計算1：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力 第9週 表計算2：統計関数 第10週 表計算3：論理関数 第11週 表計算4：グラフの描画 第12週 データサイエンスとAI活用、データ活用の留意事項 第13週 スライド作成1：スライドの作成の基礎 第14週 スライド作成2：スライドショーの実行とプレゼンテーション 第15週 スライド作成3：特殊効果を利用したスライドの作成 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版 定平誠，技術評論社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理、ELSIと情報セキュリティ	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備としてTeamsの使用方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。	
2	ノートパソコン実習	各自のノートパソコンを持参し、基本設定とソフトウェアのインストールを行う。学内無線LANへの接続方法、電子メールの活用、OfficeソフトウェアおよびTeamsのインストールを行う。	
3	ワープロ実習1	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。	
4	ワープロ実習2	テキストボックスや基本図形などWordで標準で用意されているオブジェクトの貼り付けを行う。	
5	ワープロ実習3	2段組みの文章を作成する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。	
6	ワープロ実習4	ページ単位で行う設定について学習する。またヘッダーとフッターの挿入・編集について学ぶ。	
7	ワープロ実習5	SmartArtを活用する法補について学ぶ。図表番号の設定方法について学習する。	
8	表計算1	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
9	表計算2	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
10	表計算3	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
11	表計算4	棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの描画について学習する。	
12	データサイエンスとAI活用	AIについて社会で起きているさまざまな変化やデータ・AIの活用領域について学習する。人間の知的活動とAIの関係性、AIが活用したビジネスモデルについて近年のAI技術の動向や事例を調べる。また、ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)や情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学ぶ。	
13	スライド作成1	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。テキストと図表の挿入方法を学習する。	
14	スライド作成2	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。	
15	スライド作成3	スライドにアニメーションや画面の桐ヶ糸効果を設定し、効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(法2) / Information literacy
時間割コード Course Code	11309
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	萬代 みどり
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萬代 みどり(経済学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールを行い、レポートや卒業論文を作成する準備を行う。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理 第2週 ノートパソコン実習：無線LANの利用、電子メール、ソフトウェアのインストール 第3週 ワープロ実習1：文字の入力、文書の作成と整形 第4週 ワープロ実習2：テキストボックス、オブジェクトの貼り付け 第5週 ワープロ実習3：段組み、表の挿入 第6週 ワープロ実習4：ページ設定、ヘッダーとフッター 第7週 ワープロ実習5：SmartArt、図表番号 第8週 表計算1：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力 第9週 表計算2：統計関数 第10週 表計算3：論理関数 第11週 表計算4：グラフの描画 第12週 データサイエンスとAI活用、データ活用の留意事項 第13週 スライド作成1：スライドの作成の基礎 第14週 スライド作成2：スライドショーの実行とプレゼンテーション 第15週 スライド作成3：特殊効果を利用したスライドの作成 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版 定平誠，技術評論社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理、ELSIと情報セキュリティ	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備としてTeamsの使用方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。	
2	ノートパソコン実習	各自のノートパソコンを持参し、基本設定とソフトウェアのインストールを行う。学内無線LANへの接続方法、電子メールの活用、OfficeソフトウェアおよびTeamsのインストールを行う。	
3	ワープロ実習1	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。	
4	ワープロ実習2	テキストボックスや基本図形などWordで標準で用意されているオブジェクトの貼り付けを行う。	
5	ワープロ実習3	2段組みの文章を作成する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。	
6	ワープロ実習4	ページ単位で行う設定について学習する。またヘッダーとフッターの挿入・編集について学ぶ。	
7	ワープロ実習5	SmartArtを活用する法補について学ぶ。図表番号の設定方法について学習する。	
8	表計算1	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
9	表計算2	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
10	表計算3	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
11	表計算4	棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの描画について学習する。	
12	データサイエンスとAI活用	AIについて社会で起きているさまざまな変化やデータ・AIの活用領域について学習する。人間の知的活動とAIの関係性、AIが活用したビジネスモデルについて近年のAI技術の動向や事例を調べる。また、ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)や情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学ぶ。	
13	スライド作成1	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。テキストと図表の挿入方法を学習する。	
14	スライド作成2	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。	
15	スライド作成3	スライドにアニメーションや画面の桐け糸効果を設定し、効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(法3) / Information literacy
時間割コード Course Code	11310
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	村山 聡江
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 聡江 (経営学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールを行い、レポートや卒業論文を作成する準備を行う。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理 第2週 ノートパソコン実習：無線LANの利用、電子メール、ソフトウェアのインストール 第3週 ワープロ実習1：文字の入力、文書の作成と整形 第4週 ワープロ実習2：テキストボックス、オブジェクトの貼り付け 第5週 ワープロ実習3：段組み、表の挿入 第6週 ワープロ実習4：ページ設定、ヘッダーとフッター 第7週 ワープロ実習5：SmartArt、図表番号 第8週 表計算1：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力 第9週 表計算2：統計関数 第10週 表計算3：論理関数 第11週 表計算4：グラフの描画 第12週 データサイエンスとAI活用、データ活用の留意事項 第13週 スライド作成1：スライドの作成の基礎 第14週 スライド作成2：スライドショーの実行とプレゼンテーション 第15週 スライド作成3：特殊効果を利用したスライドの作成 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版 定平誠，技術評論社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理、ELSIと情報セキュリティ	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備としてTeamsの使用方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。	
2	ノートパソコン実習	各自のノートパソコンを持参し、基本設定とソフトウェアのインストールを行う。学内無線LANへの接続方法、電子メールの活用、OfficeソフトウェアおよびTeamsのインストールを行う。	
3	ワープロ実習1	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。	
4	ワープロ実習2	テキストボックスや基本図形などWordで標準で用意されているオブジェクトの貼り付けを行う。	
5	ワープロ実習3	2段組みの文章を作成する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。	
6	ワープロ実習4	ページ単位で行う設定について学習する。またヘッダーとフッターの挿入・編集について学ぶ。	
7	ワープロ実習5	SmartArtを活用する法補について学ぶ。図表番号の設定方法について学習する。	
8	表計算1	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
9	表計算2	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
10	表計算3	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
11	表計算4	棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの描画について学習する。	
12	データサイエンスとAI活用	AIについて社会で起きているさまざまな変化やデータ・AIの活用領域について学習する。人間の知的活動とAIの関係性、AIが活用したビジネスモデルについて近年のAI技術の動向や事例を調べる。また、ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)や情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学ぶ。	
13	スライド作成1	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。テキストと図表の挿入方法を学習する。	
14	スライド作成2	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。	
15	スライド作成3	スライドにアニメーションや画面の桐け糸効果を設定し、効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(法営留) / Information literacy
時間割コード Course Code	11311
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	萬代 みどり
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萬代 みどり(経済学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールを行い、レポートや卒業論文を作成する準備を行う。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理 第2週 ノートパソコン実習：無線LANの利用、電子メール、ソフトウェアのインストール 第3週 ワープロ実習1：文字の入力、文書の作成と整形 第4週 ワープロ実習2：テキストボックス、オブジェクトの貼り付け 第5週 ワープロ実習3：段組み、表の挿入 第6週 ワープロ実習4：ページ設定、ヘッダーとフッター 第7週 ワープロ実習5：SmartArt、図表番号 第8週 表計算1：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力 第9週 表計算2：統計関数 第10週 表計算3：論理関数 第11週 表計算4：グラフの描画 第12週 データサイエンスとAI活用、データ活用の留意事項 第13週 スライド作成1：スライドの作成の基礎 第14週 スライド作成2：スライドショーの実行とプレゼンテーション 第15週 スライド作成3：特殊効果を利用したスライドの作成 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版 定平誠，技術評論社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理、ELSIと情報セキュリティ	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備としてTeamsの使用方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。	
2	ノートパソコン実習	各自のノートパソコンを持参し、基本設定とソフトウェアのインストールを行う。学内無線LANへの接続方法、電子メールの活用、OfficeソフトウェアおよびTeamsのインストールを行う。	
3	ワープロ実習1	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。	
4	ワープロ実習2	テキストボックスや基本図形などWordで標準で用意されているオブジェクトの貼り付けを行う。	
5	ワープロ実習3	2段組みの文章を作成する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。	
6	ワープロ実習4	ページ単位で行う設定について学習する。またヘッダーとフッターの挿入・編集について学ぶ。	
7	ワープロ実習5	SmartArtを活用する法補について学ぶ。図表番号の設定方法について学習する。	
8	表計算1	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
9	表計算2	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
10	表計算3	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
11	表計算4	棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの描画について学習する。	
12	データサイエンスとAI活用	AIについて社会で起きているさまざまな変化やデータ・AIの活用領域について学習する。人間の知的活動とAIの関係性、AIが活用したビジネスモデルについて近年のAI技術の動向や事例を調べる。また、ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)や情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学ぶ。	
13	スライド作成1	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。テキストと図表の挿入方法を学習する。	
14	スライド作成2	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。	
15	スライド作成3	スライドにアニメーションや画面の桐け糸効果を設定し、効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(教) / Information literacy
時間割コード Course Code	11312
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	山本 雅也
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山本 雅也 (経営学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールを行い、レポートや卒業論文を作成する準備を行う。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理 第2週 ノートパソコン実習：無線LANの利用、電子メール、ソフトウェアのインストール 第3週 ワープロ実習1：文字の入力、文書の作成と整形 第4週 ワープロ実習2：テキストボックス、オブジェクトの貼り付け 第5週 ワープロ実習3：段組み、表の挿入 第6週 ワープロ実習4：ページ設定、ヘッダーとフッター 第7週 ワープロ実習5：SmartArt、図表番号 第8週 表計算1：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力 第9週 表計算2：統計関数 第10週 表計算3：論理関数 第11週 表計算4：グラフの描画 第12週 データサイエンスとAI活用、データ活用の留意事項 第13週 スライド作成1：スライドの作成の基礎 第14週 スライド作成2：スライドショーの実行とプレゼンテーション 第15週 スライド作成3：特殊効果を利用したスライドの作成 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版 定平誠，技術評論社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理、ELSIと情報セキュリティ	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備としてTeamsの使用方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。	
2	ノートパソコン実習	各自のノートパソコンを持参し、基本設定とソフトウェアのインストールを行う。学内無線LANへの接続方法、電子メールの活用、OfficeソフトウェアおよびTeamsのインストールを行う。	
3	ワープロ実習1	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。	
4	ワープロ実習2	テキストボックスや基本図形などWordで標準で用意されているオブジェクトの貼り付けを行う。	
5	ワープロ実習3	2段組みの文章を作成する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。	
6	ワープロ実習4	ページ単位で行う設定について学習する。またヘッダーとフッターの挿入・編集について学ぶ。	
7	ワープロ実習5	SmartArtを活用する法補について学ぶ。図表番号の設定方法について学習する。	
8	表計算1	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
9	表計算2	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
10	表計算3	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
11	表計算4	棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの描画について学習する。	
12	データサイエンスとAI活用	AIについて社会で起きているさまざまな変化やデータ・AIの活用領域について学習する。人間の知的活動とAIの関係性、AIが活用したビジネスモデルについて近年のAI技術の動向や事例を調べる。また、ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)や情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学ぶ。	
13	スライド作成1	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。テキストと図表の挿入方法を学習する。	
14	スライド作成2	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。	
15	スライド作成3	スライドにアニメーションや画面の桐ヶ糸効果を設定し、効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(管1) / Information literacy
時間割コード Course Code	11314
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	村山 聡江
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 聡江 (経営学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールを行い、レポートや卒業論文を作成する準備を行う。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理 第2週 ノートパソコン実習：無線LANの利用、電子メール、ソフトウェアのインストール 第3週 ワープロ実習1：文字の入力、文書の作成と整形 第4週 ワープロ実習2：テキストボックス、オブジェクトの貼り付け 第5週 ワープロ実習3：段組み、表の挿入 第6週 ワープロ実習4：ページ設定、ヘッダーとフッター 第7週 ワープロ実習5：SmartArt、図表番号 第8週 表計算1：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力 第9週 表計算2：統計関数 第10週 表計算3：論理関数 第11週 表計算4：グラフの描画 第12週 データサイエンスとAI活用、データ活用の留意事項 第13週 スライド作成1：スライドの作成の基礎 第14週 スライド作成2：スライドショーの実行とプレゼンテーション 第15週 スライド作成3：特殊効果を利用したスライドの作成 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版 定平誠，技術評論社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理、ELSIと情報セキュリティ	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備としてTeamsの使用方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。	
2	ノートパソコン実習	各自のノートパソコンを持参し、基本設定とソフトウェアのインストールを行う。学内無線LANへの接続方法、電子メールの活用、OfficeソフトウェアおよびTeamsのインストールを行う。	
3	ワープロ実習1	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。	
4	ワープロ実習2	テキストボックスや基本図形などWordで標準で用意されているオブジェクトの貼り付けを行う。	
5	ワープロ実習3	2段組みの文章を作成する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。	
6	ワープロ実習4	ページ単位で行う設定について学習する。またヘッダーとフッターの挿入・編集について学ぶ。	
7	ワープロ実習5	SmartArtを活用する法補について学ぶ。図表番号の設定方法について学習する。	
8	表計算1	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
9	表計算2	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
10	表計算3	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
11	表計算4	棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの描画について学習する。	
12	データサイエンスとAI活用	AIについて社会で起きているさまざまな変化やデータ・AIの活用領域について学習する。人間の知的活動とAIの関係性、AIが活用したビジネスモデルについて近年のAI技術の動向や事例を調べる。また、ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)や情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学ぶ。	
13	スライド作成1	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。テキストと図表の挿入方法を学習する。	
14	スライド作成2	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。	
15	スライド作成3	スライドにアニメーションや画面の桐ヶ糸効果を設定し、効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(管2) / Information literacy
時間割コード Course Code	11315
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	萬代 みどり
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萬代 みどり(経済学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールを行い、レポートや卒業論文を作成する準備を行う。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理 第2週 ノートパソコン実習：無線LANの利用、電子メール、ソフトウェアのインストール 第3週 ワープロ実習1：文字の入力、文書の作成と整形 第4週 ワープロ実習2：テキストボックス、オブジェクトの貼り付け 第5週 ワープロ実習3：段組み、表の挿入 第6週 ワープロ実習4：ページ設定、ヘッダーとフッター 第7週 ワープロ実習5：SmartArt、図表番号 第8週 表計算1：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力 第9週 表計算2：統計関数 第10週 表計算3：論理関数 第11週 表計算4：グラフの描画 第12週 データサイエンスとAI活用、データ活用の留意事項 第13週 スライド作成1：スライドの作成の基礎 第14週 スライド作成2：スライドショーの実行とプレゼンテーション 第15週 スライド作成3：特殊効果を利用したスライドの作成 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版 定平誠，技術評論社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理、ELSIと情報セキュリティ	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備としてTeamsの使用方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。	
2	ノートパソコン実習	各自のノートパソコンを持参し、基本設定とソフトウェアのインストールを行う。学内無線LANへの接続方法、電子メールの活用、OfficeソフトウェアおよびTeamsのインストールを行う。	
3	ワープロ実習1	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。	
4	ワープロ実習2	テキストボックスや基本図形などWordで標準で用意されているオブジェクトの貼り付けを行う。	
5	ワープロ実習3	2段組みの文章を作成する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。	
6	ワープロ実習4	ページ単位で行う設定について学習する。またヘッダーとフッターの挿入・編集について学ぶ。	
7	ワープロ実習5	SmartArtを活用する法補について学ぶ。図表番号の設定方法について学習する。	
8	表計算1	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
9	表計算2	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
10	表計算3	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
11	表計算4	棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの描画について学習する。	
12	データサイエンスとAI活用	AIについて社会で起きているさまざまな変化やデータ・AIの活用領域について学習する。人間の知的活動とAIの関係性、AIが活用したビジネスモデルについて近年のAI技術の動向や事例を調べる。また、ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)や情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学ぶ。	
13	スライド作成1	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。テキストと図表の挿入方法を学習する。	
14	スライド作成2	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。	
15	スライド作成3	スライドにアニメーションや画面の桐け糸効果を設定し、効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(再1) / Information literacy
時間割コード Course Code	11316
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	村山 聡江
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 聡江 (経営学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールを行い、レポートや卒業論文を作成する準備を行う。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理 第2週 ノートパソコン実習：無線LANの利用、電子メール、ソフトウェアのインストール 第3週 ワープロ実習1：文字の入力、文書の作成と整形 第4週 ワープロ実習2：テキストボックス、オブジェクトの貼り付け 第5週 ワープロ実習3：段組み、表の挿入 第6週 ワープロ実習4：ページ設定、ヘッダーとフッター 第7週 ワープロ実習5：SmartArt、図表番号 第8週 表計算1：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力 第9週 表計算2：統計関数 第10週 表計算3：論理関数 第11週 表計算4：グラフの描画 第12週 データサイエンスとAI活用、データ活用の留意事項 第13週 スライド作成1：スライドの作成の基礎 第14週 スライド作成2：スライドショーの実行とプレゼンテーション 第15週 スライド作成3：特殊効果を利用したスライドの作成 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版 定平誠，技術評論社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理、ELSIと情報セキュリティ	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備としてTeamsの使用方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。	
2	ノートパソコン実習	各自のノートパソコンを持参し、基本設定とソフトウェアのインストールを行う。学内無線LANへの接続方法、電子メールの活用、OfficeソフトウェアおよびTeamsのインストールを行う。	
3	ワープロ実習1	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。	
4	ワープロ実習2	テキストボックスや基本図形などWordで標準で用意されているオブジェクトの貼り付けを行う。	
5	ワープロ実習3	2段組みの文章を作成する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。	
6	ワープロ実習4	ページ単位で行う設定について学習する。またヘッダーとフッターの挿入・編集について学ぶ。	
7	ワープロ実習5	SmartArtを活用する法補について学ぶ。図表番号の設定方法について学習する。	
8	表計算1	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
9	表計算2	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
10	表計算3	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
11	表計算4	棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの描画について学習する。	
12	データサイエンスとAI活用	AIについて社会で起きているさまざまな変化やデータ・AIの活用領域について学習する。人間の知的活動とAIの関係性、AIが活用したビジネスモデルについて近年のAI技術の動向や事例を調べる。また、ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)や情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学ぶ。	
13	スライド作成1	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。テキストと図表の挿入方法を学習する。	
14	スライド作成2	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。	
15	スライド作成3	スライドにアニメーションや画面の桐ヶ糸効果を設定し、効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。	

開講科目名 Course	情報リテラシー(再2) / Information literacy
時間割コード Course Code	11317
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	萬代 みどり
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萬代 みどり (経済学部)
授業の目標	ワープロ (Word) を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト (Excel) によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。 各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールを行い、レポートや卒業論文を作成する準備を行う。 ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。
授業の概要	情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよびAIについて、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理 第2週 ノートパソコン実習：無線LANの利用、電子メール、ソフトウェアのインストール 第3週 ワープロ実習1：文字の入力、文書の作成と整形 第4週 ワープロ実習2：テキストボックス、オブジェクトの貼り付け 第5週 ワープロ実習3：段組み、表の挿入 第6週 ワープロ実習4：ページ設定、ヘッダーとフッター 第7週 ワープロ実習5：SmartArt、図表番号 第8週 表計算1：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力 第9週 表計算2：統計関数 第10週 表計算3：論理関数 第11週 表計算4：グラフの描画 第12週 データサイエンスとAI活用、データ活用の留意事項 第13週 スライド作成1：スライドの作成の基礎 第14週 スライド作成2：スライドショーの実行とプレゼンテーション 第15週 スライド作成3：特殊効果を利用したスライドの作成 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版 定平誠，技術評論社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンにOfficeソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理、ELSIと情報セキュリティ	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備としてTeamsの使用方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。	
2	ノートパソコン実習	各自のノートパソコンを持参し、基本設定とソフトウェアのインストールを行う。学内無線LANへの接続方法、電子メールの活用、OfficeソフトウェアおよびTeamsのインストールを行う。	
3	ワープロ実習1	タッチタイピングの基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。	
4	ワープロ実習2	テキストボックスや基本図形などWordで標準で用意されているオブジェクトの貼り付けを行う。	
5	ワープロ実習3	2段組みの文章を作成する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。	
6	ワープロ実習4	ページ単位で行う設定について学習する。またヘッダーとフッターの挿入・編集について学ぶ。	
7	ワープロ実習5	SmartArtを活用する法補について学ぶ。図表番号の設定方法について学習する。	
8	表計算1	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM関数、オートフィル、絶対参照(割合)について学習する。	
9	表計算2	統計関数(AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数)の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	
10	表計算3	論理関数(COUNT関数、COUNTA関数、IF関数、IFS関数、AND関数、OR関数)の活用について学ぶ。	
11	表計算4	棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの描画について学習する。	
12	データサイエンスとAI活用	AIについて社会で起きているさまざまな変化やデータ・AIの活用領域について学習する。人間の知的活動とAIの関係性、AIが活用したビジネスモデルについて近年のAI技術の動向や事例を調べる。また、ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)や情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)について学ぶ。	
13	スライド作成1	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。テキストと図表の挿入方法を学習する。	
14	スライド作成2	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。	
15	スライド作成3	スライドにアニメーションや画面の桐ヶ糸効果を設定し、効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。	

開講科目名 Course	情報(Word)(1) / ICT-MS Word
時間割コード Course Code	11400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	川本 和子
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	2 A 2 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	川本 和子 (経済学部)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育目標 ワープロソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Word の基礎的操作技能・知識を修得する。 2. この科目の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft Office Specialist Word 2019の資格を取得する。 ・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。 3. MOS資格を取得し、就活に活用する。 4. 選択必修科目の中の1科目です。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対面授業形式で行います。 ・ 例題を解きながら、多機能、高機能なソフトウェアの確実な操作方法を学びます。 2. 予習・復習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習と復習による反復練習を繰り返し行うことが重要です。 3. 初回のMOS受験料6,000円(+消費税)のみは、大学が負担します。不合格の場合、後の受験料は自己負担となります。)
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分のテキストを購入して授業に臨むこと。 著作権のある模擬問題をインストールしているため、各自テキストを購入する必要があります。 2. Microsoft Office Specialist Word 2019試験に合格することが必要です。試験日程については後日告知します。 3. 半期週1回(計15回)授業では、2/3以上(=10回以上)授業に出席することが必要です。 出席回数を満たさない場合は、失格(X評価)とします。 4. MOS試験結果は、成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.文字列操作 1 -IME操作、辞書、外字、記号、異字体、難読文字入力 2.文字列操作 2 -コピー、移動、文字書式、文字装飾、検索、置換 3.文書操作 1 -ページレイアウト設定、印刷、差し込印刷 4.文書操作 2 -セクション区切り、複数書式の混在 5.文書操作 3 -長文編集、脚注、索引、目次 6.文書操作 4 -テンプレート利用、データベース操作、文書保護 7.段落操作 1 -スタイル利用 8.段落操作 2 -段落書式、インデント、タブの利用 9.表の使用 1 -行列操作、計算式 10.表の使用 2 -表書式設定、改ページ、改行設定 11.図とグラフの操作 1 ?表データからのグラフ作成、Excelデータ操作 12.図とグラフの操作 2 -オブジェクトの描画、編集と補助機能操作 13.図とグラフの操作 3 -図の挿入、レイアウト操作 14.ホームページの作成 1 -統一デザインの設定 15.まとめ
テキスト	『よくわかるマスターMOS Word 365&2019対策テキスト&問題集』（FOM出版の最新版）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Word)(2) / ICT-MS Word
時間割コード Course Code	11401
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	川本 和子
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	2 B 2 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	川本 和子 (経済学部)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育目標 ワープロソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Word の基礎的操作技能・知識を修得する。 2. この科目の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft Office Specialist Word 2019の資格を取得する。 ・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。 3. MOS資格を取得し、就活に活用する。 4. 選択必修科目の中の1科目です。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対面授業形式で行います。 ・ 例題を解きながら、多機能、高機能なソフトウェアの確実な操作方法を学びます。 2. 予習・復習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習と復習による反復練習を繰り返し行うことが重要です。 3. 初回のMOS受験料6,000円(+消費税)のみは、大学が負担します。不合格の場合、後の受験料は自己負担となります。)
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分のテキストを購入して授業に臨むこと。 著作権のある模擬問題をインストールしているため、各自テキストを購入する必要があります。 2. Microsoft Office Specialist Word 2019試験に合格することが必要です。試験日程については後日告知します。 3. 半期週1回(計15回)授業では、2/3以上(=10回以上)授業に出席することが必要です。 出席回数を満たさない場合は、失格(X評価)とします。 4. MOS試験結果は、成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.文字列操作 1 -IME操作、辞書、外字、記号、異字体、難読文字入力 2.文字列操作 2 -コピー、移動、文字書式、文字装飾、検索、置換 3.文書操作 1 -ページレイアウト設定、印刷、差し込印刷 4.文書操作 2 -セクション区切り、複数書式の混在 5.文書操作 3 -長文編集、脚注、索引、目次 6.文書操作 4 -テンプレート利用、データベース操作、文書保護 7.段落操作 1 -スタイル利用 8.段落操作 2 -段落書式、インデント、タブの利用 9.表の使用 1 -行列操作、計算式 10.表の使用 2 -表書式設定、改ページ、改行設定 11.図とグラフの操作 1 ?表データからのグラフ作成、Excelデータ操作 12.図とグラフの操作 2 -オブジェクトの描画、編集と補助機能操作 13.図とグラフの操作 3 -図の挿入、レイアウト操作 14.ホームページの作成 1 -統一デザインの設定 15.まとめ
テキスト	『よくわかるマスターMOS Word 365&2019対策テキスト&問題集』（FOM出版の最新版）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Word)(3) / ICT-MS Word
時間割コード Course Code	11402
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	2 A 2 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育目標 ワープロソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Word の基礎的操作技能・知識を修得する。 2. この科目の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft Office Specialist Word 2019の資格を取得する。 ・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。 3. MOS資格を取得し、就活に活用する。 4. 選択必修科目の中の1科目です。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対面授業形式で行います。 ・ 例題を解きながら、多機能、高機能なソフトウェアの確実な操作方法を学びます。 2. 予習・復習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習と復習による反復練習を繰り返し行うことが重要です。 3. 初回のMOS受験料6,000円(+消費税)のみは、大学が負担します。不合格の場合、後の受験料は自己負担となります。)
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分のテキストを購入して授業に臨むこと。 著作権のある模擬問題をインストールしているため、各自テキストを購入する必要があります。 2. Microsoft Office Specialist Word 2019試験に合格することが必要です。試験日程については後日告知します。 3. 半期週1回(計15回)授業では、2/3以上(=10回以上)授業に出席することが必要です。 出席回数を満たさない場合は、失格(X評価)とします。 4. MOS試験結果は、成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.文字列操作 1 -IME操作、辞書、外字、記号、異字体、難読文字入力 2.文字列操作 2 -コピー、移動、文字書式、文字装飾、検索、置換 3.文書操作 1 -ページレイアウト設定、印刷、差し込印刷 4.文書操作 2 -セクション区切り、複数書式の混在 5.文書操作 3 -長文編集、脚注、索引、目次 6.文書操作 4 -テンプレート利用、データベース操作、文書保護 7.段落操作 1 -スタイル利用 8.段落操作 2 -段落書式、インデント、タブの利用 9.表の使用 1 -行列操作、計算式 10.表の使用 2 -表書式設定、改ページ、改行設定 11.図とグラフの操作 1 ?表データからのグラフ作成、Excelデータ操作 12.図とグラフの操作 2 -オブジェクトの描画、編集と補助機能操作 13.図とグラフの操作 3 -図の挿入、レイアウト操作 14.ホームページの作成 1 -統一デザインの設定 15.まとめ
テキスト	『よくわかるマスターMOS Word 365&2019対策テキスト&問題集』（FOM出版の最新版）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報入門(1)
時間割コード Course Code	11410
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	村山 聡江
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室 A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 聡江 (経営学部)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育目標 ワープロソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Word の基礎的操作技能・知識を修得する。 2. この科目の学習成果 ・ Microsoft Office Specialist Word 2019の資格を取得する。 ・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。 3. MOS資格を取得し、就活に活用する。 4. 必修科目です。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方 ・ 対面授業形式で行います。 ・ 例題を解きながら、多機能、高機能なソフトウェアの確実な操作方法を学びます。 2. 予習・復習 ・ 予習と復習による反復練習を繰り返し行うことが重要です。 3. 初回のMOS受験料6,000円(+消費税)のみは、大学が負担します。不合格の場合、後の受験料は自己負担となります。)
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分のテキストを購入して授業に臨むこと。 著作権のある模擬問題をインストールしているため、各自テキストを購入する必要があります。 2. Microsoft Office Specialist Word 2019試験に合格することが必要です。試験日程については後日告知します。 3. 半期週1回(計15回)授業では、2/3以上(=10回以上)授業に出席することが必要です。 出席回数を満たさない場合は、失格(X評価)とします。 4. MOS試験結果は、成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.文字列操作 1 -IME操作、辞書、外字、記号、異字体、難読文字入力 2.文字列操作 2 -コピー、移動、文字書式、文字装飾、検索、置換 3.文書操作 1 -ページレイアウト設定、印刷、差し込印刷 4.文書操作 2 -セクション区切り、複数書式の混在 5.文書操作 3 -長文編集、脚注、索引、目次 6.文書操作 4 -テンプレート利用、データベース操作、文書保護 7.段落操作 1 -スタイル利用 8.段落操作 2 -段落書式、インデント、タブの利用 9.表の使用 1 -行列操作、計算式 10.表の使用 2 -表書式設定、改ページ、改行設定 11.図とグラフの操作 1 ?表データからのグラフ作成、Excelデータ操作 12.図とグラフの操作 2 -オブジェクトの描画、編集と補助機能操作 13.図とグラフの操作 3 -図の挿入、レイアウト操作 14.ホームページの作成 1 -統一デザインの設定 15.まとめ
テキスト	『よくわかるマスターMOS Word 365&2019対策テキスト&問題集』（FOM出版の最新版）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報入門(2)
時間割コード Course Code	11411
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	萬代 みどり
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萬代 みどり(経済学部)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育目標 ワープロソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Word の基礎的操作技能・知識を修得する。 2. この科目の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft Office Specialist Word 2019の資格を取得する。 ・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。 3. MOS資格を取得し、就活に活用する。 4. 必修科目です。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対面授業形式で行います。 ・ 例題を解きながら、多機能、高機能なソフトウェアの確実な操作方法を学びます。 2. 予習・復習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習と復習による反復練習を繰り返し行うことが重要です。 3. 初回のMOS受験料6,000円(+消費税)のみは、大学が負担します。不合格の場合、後の受験料は自己負担となります。)
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分のテキストを購入して授業に臨むこと。 著作権のある模擬問題をインストールしているため、各自テキストを購入する必要があります。 2. Microsoft Office Specialist Word 2019試験に合格することが必要です。試験日程については後日告知します。 3. 半期週1回(計15回)授業では、2/3以上(=10回以上)授業に出席することが必要です。 出席回数を満たさない場合は、失格(X評価)とします。 4. MOS試験結果は、成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.文字列操作 1 -IME操作、辞書、外字、記号、異字体、難読文字入力 2.文字列操作 2 -コピー、移動、文字書式、文字装飾、検索、置換 3.文書操作 1 -ページレイアウト設定、印刷、差し込印刷 4.文書操作 2 -セクション区切り、複数書式の混在 5.文書操作 3 -長文編集、脚注、索引、目次 6.文書操作 4 -テンプレート利用、データベース操作、文書保護 7.段落操作 1 -スタイル利用 8.段落操作 2 -段落書式、インデント、タブの利用 9.表の使用 1 -行列操作、計算式 10.表の使用 2 -表書式設定、改ページ、改行設定 11.図とグラフの操作 1 ?表データからのグラフ作成、Excelデータ操作 12.図とグラフの操作 2 -オブジェクトの描画、編集と補助機能操作 13.図とグラフの操作 3 -図の挿入、レイアウト操作 14.ホームページの作成 1 -統一デザインの設定 15.まとめ
テキスト	『よくわかるマスターMOS Word 365&2019対策テキスト&問題集』（FOM出版の最新版）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Excel)(1) / ICT-MS Excel
時間割コード Course Code	11500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	柴田 良一
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	柴田 良一 (経営学部)
授業の目標	<p>1教育目標 表計算ソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Excelの基礎的操作技能・知識を習得する。</p> <p>2.この科目の学習成果 ・ Microsoft Office Specialist Excel 2019の資格を取得する。 ・ 社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</p> <p>3.MOS資格を取得し、就活に活用する。</p> <p>4. 選択必修科目の中の1科目です。</p>
授業の概要	<p>1.授業の進め方 ・ 大学情報教室での対面授業で行います。 ・ 例題を解きながら、多機能、高機能なソフトウェアの確実な操作方法を学びます。</p> <p>2.予習・復習 ・ 予習と復習による反復練習を繰り返し行うことが重要です。 ・ 情報 (Word)、(Excel)、(PowerPoint) のいずれか1科目の選択必修科目の一つです。</p> <p>3.初回のMOS受験料6,000円(+消費税)のみは、大学が負担します。不合格の場合、後の受験料は自己負担となります。)</p> <p>4.この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. 自分のテキストを購入して授業に臨むこと。 著作権のある模擬問題をインストールしているため、各自テキストを購入する必要があります。</p> <p>2. Microsoft Office Specialist Word 2019試験に合格することが必要です。試験日程については後日告知します。</p> <p>3. 半期週1回 (計15回) 授業では、2/3以上 (= 10回以上) 授業に出席することが必要です。出席回数を満たさない場合は、失格 (X評価) とします。</p> <p>4. MOS試験結果は、成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 データとコンテンツの作成(1) 第3回 データとコンテンツの作成(2) 第4回 データとコンテンツの書式設定 第5回 ブックの管理(1) 第6回 ブックの管理(2) 第7回 データの分析(1) 第8回 データの分析(2)およびグループ作業 第9回 模擬検定試験1 第10回 模擬検定試験2 第11回 模擬検定試験3 第12回 模擬検定試験4 第13回 模擬検定試験5 第14回 模擬検定試験6 第15回 模擬検定試験1～6までのランダム問題取り組み
テキスト	『よくわかるマスター-MOS Excel 365&2019対策テキスト&問題集』(FOM出版の最新版)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Excel)(2) / ICT-MS Excel
時間割コード Course Code	11501
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	川本 和子
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	2 A 2 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	川本 和子 (経済学部)
授業の目標	<p>1教育目標 表計算ソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Excelの基礎的操作技能・知識を習得する。</p> <p>2.この科目の学習成果 ・ Microsoft Office Specialist Excel 2019の資格を取得する。 ・ 社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</p> <p>3.MOS資格を取得し、就活に活用する。</p> <p>4. 選択必修科目の中の1科目です。</p>
授業の概要	<p>1.授業の進め方 ・ 大学情報教室での対面授業で行います。 ・ 例題を解きながら、多機能、高機能なソフトウェアの確実な操作方法を学びます。</p> <p>2.予習・復習 ・ 予習と復習による反復練習を繰り返し行うことが重要です。 ・ 情報 (Word)、(Excel)、(PowerPoint) のいずれか1科目の選択必修科目の一つです。</p> <p>3.初回のMOS受験料6,000円(+消費税)のみは、大学が負担します。不合格の場合、後の受験料は自己負担となります。)</p> <p>4.この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. 自分のテキストを購入して授業に臨むこと。 著作権のある模擬問題をインストールしているため、各自テキストを購入する必要があります。</p> <p>2. Microsoft Office Specialist Word 2019試験に合格することが必要です。試験日程については後日告知します。</p> <p>3. 半期週1回 (計15回) 授業では、2/3以上 (= 10回以上) 授業に出席することが必要です。出席回数を満たさない場合は、失格 (X評価) とします。</p> <p>4. MOS試験結果は、成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 データとコンテンツの作成(1) 第3回 データとコンテンツの作成(2) 第4回 データとコンテンツの書式設定 第5回 ブックの管理(1) 第6回 ブックの管理(2) 第7回 データの分析(1) 第8回 データの分析(2)およびグループ作業 第9回 模擬検定試験1 第10回 模擬検定試験2 第11回 模擬検定試験3 第12回 模擬検定試験4 第13回 模擬検定試験5 第14回 模擬検定試験6 第15回 模擬検定試験1～6までのランダム問題取り組み
テキスト	『よくわかるマスターMOS Excel 365&2019対策テキスト&問題集』(FOM出版の最新版)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Excel)(3) / ICT-MS Excel
時間割コード Course Code	11502
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	川本 和子
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	2 A 2 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	川本 和子 (経済学部)
授業の目標	<p>1教育目標 表計算ソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft Excelの基礎的操作技能・知識を習得する。</p> <p>2.この科目の学習成果 ・ Microsoft Office Specialist Excel 2019の資格を取得する。 ・ 社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。</p> <p>3.MOS資格を取得し、就活に活用する。</p> <p>4. 選択必修科目の中の1科目です。</p>
授業の概要	<p>1.授業の進め方 ・ 大学情報教室での対面授業で行います。 ・ 例題を解きながら、多機能、高機能なソフトウェアの確実な操作方法を学びます。</p> <p>2.予習・復習 ・ 予習と復習による反復練習を繰り返し行うことが重要です。 ・ 情報 (Word)、(Excel)、(PowerPoint) のいずれか1科目の選択必修科目の一つです。</p> <p>3.初回のMOS受験料6,000円(+消費税)のみは、大学が負担します。不合格の場合、後の受験料は自己負担となります。)</p> <p>4.この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1. 自分のテキストを購入して授業に臨むこと。 著作権のある模擬問題をインストールしているため、各自テキストを購入する必要があります。</p> <p>2. Microsoft Office Specialist Word 2019試験に合格することが必要です。試験日程については後日告知します。</p> <p>3. 半期週1回 (計15回) 授業では、2/3以上 (= 10回以上) 授業に出席することが必要です。出席回数を満たさない場合は、失格 (X評価) とします。</p> <p>4. MOS試験結果は、成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 データとコンテンツの作成(1) 第3回 データとコンテンツの作成(2) 第4回 データとコンテンツの書式設定 第5回 ブックの管理(1) 第6回 ブックの管理(2) 第7回 データの分析(1) 第8回 データの分析(2)およびグループ作業 第9回 模擬検定試験1 第10回 模擬検定試験2 第11回 模擬検定試験3 第12回 模擬検定試験4 第13回 模擬検定試験5 第14回 模擬検定試験6 第15回 模擬検定試験1～6までのランダム問題取り組み
テキスト	『よくわかるマスター-MOS Excel 365&2019対策テキスト&問題集』(FOM出版の最新版)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報(Power Point)(1) / ICT-MS Power Point
時間割コード Course Code	11600
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	萬代 みどり
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	情報実習室 B
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萬代 みどり(経済学部)
授業の目標	<p>プレゼンテーションソフトのグローバル・スタンダードといえる Microsoft PowerPoint の基礎的 操作技能・知識を修得する。</p> <p>2.この科目の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft Office Specialist PowerPoint 2019の資格を取得する。 ・ 学生、社会人に求められる情報処理能力の基本を身につける。 <p>3.MOS資格を取得し、就活に活用する。</p> <p>4. 選択必修科目の中の1科目です。</p>
授業の概要	<p>1.授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学情報教室での対面授業で行います。 ・ 例題を解きながら、多機能、高機能なソフトウェアの確実な操作方法を学びます。 <p>2.予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習と復習による反復練習を繰り返すことが重要です。 ・ 情報 (Word)、(Excel)、(PowerPoint) のいずれか1科目の選択必修科目の一つです。 <p>3.初回のMOS受験料6,000円(+消費税)のみは、大学が負担します。不合格の場合、後の受験料は自己負担となります。)</p>
評価方法	<p>1. 自分のテキストを購入して授業に臨むこと。 著作権のある模擬問題をインストールしているため、各自テキストを購入する必要があります。</p> <p>2. Microsoft Office Specialist Word 2019試験に合格することが必要です。試験日程については後日告知します。</p> <p>3. 半期週1回(計15回)授業では、2/3以上 (= 10回以上) 授業に出席することが必要です。 出席回数を満たさない場合は、失格 (X評価) とします。</p> <p>4. MOS試験結果は、成績評価の一基準であり、受講状況等を加味して総合的に評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. テンプレートの利用、テキストの挿入、編集 2. 表、グラフ、図表の挿入、 3. 図、図形、グラフィックの挿入、オブジェクトの挿入、編集 4. テキストの書式設定 5. 図、図形、グラフィックの書式設定 6. スライドの書式設定 7. アニメーションの一括設定、適用 8. 画面切り替えの適用 9. スライドテンプレートのカスタマイズ、マスターの使用 10. 変更履歴の記録、変更の記録、プレゼンの比較と反映 11. スライドショーの設定 12. 配付資料、発表者ノートの表示、印刷 13. 模擬試験1 14. 模擬試験2 15. MOS検定試験
テキスト	『よくわかるマスター-MOS PowerPoint 365 & 2019対策テキスト&問題集』（FOM出版の最新版）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	ビジネス情報処理 I / Business Data Processing I
時間割コード Course Code	11700
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	共通科目群 情報
教室 Classroom	2 B 2 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	<p>資格「ビジネス統計スペシャリスト」の「エクセル分析ベーシック」を取得することを目標とする。</p> <p>また、ビジネスの現場で様々なデータを活用するための基本的な知識を取得し、エクセルを使ったデータ分析ができるようになることを目指す。</p> <p>知識・理解の領域 外れ値の検出方法，度数分布表の作成方法，データの標準化や季節調整の仕方などを理解する。</p> <p>技能の領域 初歩的なデータ分析が一通り最低限できる。</p> <p>態度・志向性の領域 「データ分析ができる」，「データ活用ができる」人材が社会に必要なものであるという認識を持つ。</p> <p>思考判断の領域 根拠の確かな事実に基づき統計学的に正しく推論することができる能力を持つ。</p> <p>関心意欲の領域 統計学の基礎理論を習得し，自分でデータ解析を行う意欲を持つ。</p>
授業の概要	<p>エクセルを使って，統計の基礎の学習から始める。 教科書に従い無理のない進度で進めていく。</p> <p>エクセルでグラフを作成したり，平均値，中央値，最頻値，分散や標準偏差などの統計量を求めたりする。 データの標準化，季節調整，ピボットテーブルによるデータの集計，回帰分析，ソルバーを使った最適化を学習し，自分でできるようになるまで繰り返し演習を行う。</p> <p>問題演習や課題の作成は授業中に指導，対話しながら行う。 受講生の知識や理解度を毎回確認して，それに応じて授業内容を合わせる予定である。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業中にエクセルで作成した課題などを毎回提出し，その評価の合計で総合評価する。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	Excelで学ぶビジネスデータ分析の基礎（Odyssey communications）
参考書	例題で学ぶExcel統計入門 白石修二 著（森北出版株式会社）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	エクセルを使ってグラフを作成したり、データ分析を行ったりなどの実習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。Teamsのチャットでも対応。 メールでも対応（tomoko@nagoya-ku.ac.jp）。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の内容についての予習や復習をそれぞれ2時間行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	基本統計量	授業内容の具体的な説明と準備。 (下記の内容はすべてエクセルを使って学習する。) 代表値とは。 基本統計量について。	
2	基本統計量 平均値, 中央値, 最頻値, 分散, 標準偏差, 平均偏差とは	平均, 中央値, 最頻値, 分散, 標準偏差とは。 中央値を求める問題。 最頻値を求める問題。	
3	基本統計量 エクセルでの平均値, 中央値, 最頻値, レンジの求め方	平均値, 中央値, 最頻値, レンジを関数で求める。 代表値の性質の違い。 平均値が必ずしも実態を表していないとされる典型的な例として, 貯蓄額について平均値, 中央値, 最頻値を考察する。 平均値, 中央値, 最頻値がビジネスにおいて何の役に立つかを理解する。	
4	基本統計量 不偏分散, 不偏分散による標準偏差とは	データのばらつきを調べる。 不偏分散とは何か。分散と不偏分散を求める問題。 標準偏差の意味。 標準偏差と不偏分散による標準偏差を求める問題。 標準偏差がビジネスにおいて何の役に立つかを理解する。	
5	度数分布表 度数分布表とは	度数分布表の定義。 データに基づいて, 階級値, 度数, 相対度数, 累積度数, 累積相対度数を求め, ひとつにまとめて度数分布表を作る。	
6	度数分布表 ヒストグラムの作成方法	度数分布表を作る問題。 ヒストグラムの作成方法。 度数分布表を基にしてヒストグラムを作成する問題。	
7	外れ値 エクセルでの外れ値の検出方法	散布図において近似曲線を使って外れ値を検出する。 折れ線グラフに補助線を引き外れ値を検出する。	
8	標準化 標準化とは	データの標準化の定義。 標準化したデータを比較する。 標準化したデータの平均は0, 標準偏差は1になる理由を考える。 標準化がビジネスのどのような場面で役立つのかを理解する。	
9	標準化 標準化の問題	分散, 不偏分散を求める問題。 各データの平均と標準偏差, 各データから平均を引いたデータの平均と標準偏差, その各データを標準偏差で割ったデータの平均と標準偏差を求める問題。	
10	移動平均 トリム平均とは, 移動平均とは	トリム平均とは何か。 トリム平均を求める問題。 移動平均を用いて時系列データの傾向を読み取る。	
11	季節調整 季節調整とは	時系列データの季節調整をする。 季節調整の意味を理解する。	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	データの集計, 散布図 エクセルでのデータの集計方法, 散布図の作成方法	クロス集計表を作成する. グループごとに要約する. 変数を原因と結果という視点で区別する. 質的変数と量的変数を区別する. 量的変数と量的変数の関係を折れ線グラフや散布図から確認する. 2軸グラフを作成する. 複数の散布図を比較する.	
13	相関 相関係数とは	散布図のタイプを考える. 相関係数を求める問題. 散布図, 相関係数と回帰直線の関係. 散布図の傾向と相関の大きさを対応づける. 疑似相関について理解する.	
14	回帰分析, 最適化 エクセルでの回帰分析方法, 最適化方法	教師あり学習により予測する. 回帰分析を使って直線関係を具体化する. R-2乗値を使って原因の説明力を検討する. シミュレーションにより原因を動かしたときの結果を検討し, 予測値を求める. ソルバーを使って最適化問題を解く.	
15	まとめ	今までのまとめ.	

開講科目名 Course	基礎英語I(A) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ダグラス アダム
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ダグラス アダム (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 30% Midterm Review 30% Final Review 40%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。 Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1 Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>2回 Unit 2 Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>3回 Unit 3 Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>4回 Unit 4 More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>5回 Unit 5 Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>6回 Unit 6 Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8回 Review Midterm Review</p> <p>9回 Unit 7 because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>10回 Unit 8 Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>11回 Unit 9 Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>12回 Unit 10 'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>13回 Unit 11 Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>14回 Unit 12 Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	基礎英語I(B) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12001
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	片山 カロリナ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	片山 カロリナ (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 30% Midterm Review 30% Final Review 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。 Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1 Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>2回 Unit 2 Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>3回 Unit 3 Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>4回 Unit 4 More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>5回 Unit 5 Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>6回 Unit 6 Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8回 Review Midterm Review</p> <p>9回 Unit 7 because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>10回 Unit 8 Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>11回 Unit 9 Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>12回 Unit 10 'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>13回 Unit 11 Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>14回 Unit 12 Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	基礎英語I(C) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12002
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ベイリー ジェイファーズ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ベイリー ジェイファーズ(経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 30% Midterm Review 30% Final Review 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。 Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1 Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>2回 Unit 2 Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>3回 Unit 3 Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>4回 Unit 4 More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>5回 Unit 5 Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>6回 Unit 6 Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8回 Review Midterm Review</p> <p>9回 Unit 7 because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>10回 Unit 8 Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>11回 Unit 9 Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>12回 Unit 10 'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>13回 Unit 11 Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>14回 Unit 12 Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	基礎英語I(D) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12003
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ハリスジュニア ジョセフ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハリスジュニア ジョセフ (経済学部)
授業の目標	<p>日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。</p>
授業の概要	<p>This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 30%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 40%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。</p> <p>2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.</p>

授業計画	<p>1回 Unit 1 Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>2回 Unit 2 Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>3回 Unit 3 Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>4回 Unit 4 More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>5回 Unit 5 Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>6回 Unit 6 Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8回 Review Midterm Review</p> <p>9回 Unit 7 because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>10回 Unit 8 Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>11回 Unit 9 Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>12回 Unit 10 'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>13回 Unit 11 Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>14回 Unit 12 Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	基礎英語I(E) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12004
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ファン ジャスティン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ファン ジャスティン(経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 30% Midterm Review 30% Final Review 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。 Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1 Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>2回 Unit 2 Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>3回 Unit 3 Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>4回 Unit 4 More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>5回 Unit 5 Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>6回 Unit 6 Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8回 Review Midterm Review</p> <p>9回 Unit 7 because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>10回 Unit 8 Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>11回 Unit 9 Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>12回 Unit 10 'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>13回 Unit 11 Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>14回 Unit 12 Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	基礎英語I(F) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12005
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ヴィグロウ サイモン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ヴィグロウ サイモン (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 30% Midterm Review 30% Final Review 40%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。

授業計画	<p>1回 Unit 1 Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>2回 Unit 2 Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>3回 Unit 3 Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>4回 Unit 4 More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>5回 Unit 5 Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>6回 Unit 6 Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8回 Review Midterm Review</p> <p>9回 Unit 7 because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>10回 Unit 8 Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>11回 Unit 9 Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>12回 Unit 10 'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>13回 Unit 11 Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>14回 Unit 12 Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	基礎英語I(G) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12006
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ダグラス アダム
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ダグラス アダム (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 30% Midterm Review 30% Final Review 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。 Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1 Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>2回 Unit 2 Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>3回 Unit 3 Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>4回 Unit 4 More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>5回 Unit 5 Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>6回 Unit 6 Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8回 Review Midterm Review</p> <p>9回 Unit 7 because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>10回 Unit 8 Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>11回 Unit 9 Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>12回 Unit 10 'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>13回 Unit 11 Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>14回 Unit 12 Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	基礎英語I(H) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12007
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ファン ジャスティン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ファン ジャスティン(経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 30% Midterm Review 30% Final Review 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。 Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1 Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>2回 Unit 2 Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>3回 Unit 3 Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>4回 Unit 4 More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>5回 Unit 5 Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>6回 Unit 6 Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8回 Review Midterm Review</p> <p>9回 Unit 7 because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>10回 Unit 8 Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>11回 Unit 9 Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>12回 Unit 10 'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>13回 Unit 11 Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>14回 Unit 12 Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	基礎英語I(I) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12008
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ベイリー ジェイファーズ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ベイリー ジェイファーズ(経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 30% Midterm Review 30% Final Review 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。 Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1 Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>2回 Unit 2 Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>3回 Unit 3 Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>4回 Unit 4 More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>5回 Unit 5 Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>6回 Unit 6 Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8回 Review Midterm Review</p> <p>9回 Unit 7 because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>10回 Unit 8 Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>11回 Unit 9 Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>12回 Unit 10 'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>13回 Unit 11 Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>14回 Unit 12 Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	基礎英語I(J) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12009
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ヴィグロウ サイモン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ヴィグロウ サイモン (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 30% Midterm Review 30% Final Review 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。 Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1 Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>2回 Unit 2 Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>3回 Unit 3 Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>4回 Unit 4 More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>5回 Unit 5 Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>6回 Unit 6 Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8回 Review Midterm Review</p> <p>9回 Unit 7 because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>10回 Unit 8 Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>11回 Unit 9 Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>12回 Unit 10 'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>13回 Unit 11 Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>14回 Unit 12 Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	基礎英語I(K) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12010
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	片山 カロリナ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	片山 カロリナ (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 30% Midterm Review 30% Final Review 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。 Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1 Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>2回 Unit 2 Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>3回 Unit 3 Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>4回 Unit 4 More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>5回 Unit 5 Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>6回 Unit 6 Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8回 Review Midterm Review</p> <p>9回 Unit 7 because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>10回 Unit 8 Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>11回 Unit 9 Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>12回 Unit 10 'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>13回 Unit 11 Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>14回 Unit 12 Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	基礎英語I(L) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12011
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ハリスジュニア ジョセフ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハリスジュニア ジョセフ (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 30% Midterm Review 30% Final Review 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。 Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1 Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>2回 Unit 2 Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>3回 Unit 3 Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>4回 Unit 4 More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>5回 Unit 5 Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>6回 Unit 6 Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8回 Review Midterm Review</p> <p>9回 Unit 7 because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>10回 Unit 8 Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>11回 Unit 9 Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>12回 Unit 10 'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>13回 Unit 11 Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>14回 Unit 12 Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	Unit 12	Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.	
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	基礎英語I(再)(1) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12012
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ハリスジュニア ジョセフ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハリスジュニア ジョセフ (経済学部)
授業の目標	<p>日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。</p>
授業の概要	<p>This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 30%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 40%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。</p> <p>2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p>

授業計画	<p>1回 Unit 1 Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>2回 Unit 2 Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>3回 Unit 3 Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>4回 Unit 4 More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>5回 Unit 5 Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>6回 Unit 6 Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8回 Review Midterm Review</p> <p>9回 Unit 7 because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>10回 Unit 8 Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>11回 Unit 9 Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>12回 Unit 10 'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>13回 Unit 11 Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>14回 Unit 12 Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	基礎英語I(再)(2) / Fundamental English Grammar
時間割コード Course Code	12013
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ファン ジャスティン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ファン ジャスティン(経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students, especially false beginners, a first step to gaining confidence and functionality with English. The course utilizes a motivating and functional approach to re-introduce students to the foundation aspects of English grammar. Vocabulary is also a key element, and self expression and choice plays an important role in how vocabulary is introduced and practiced. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. Parts of speech will also be introduced and practiced because they are essential to sentence interpretation and simple composition. In class we will focus on developing rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers. The topics of practice and discussion are contemporary and relevant to the students own lives and situations. Students should review each lesson and also prepare for each lesson outside of class.
評価方法	Participation and effort in class, including project work 30% Midterm Review 30% Final Review 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。 Students absent more than five times without an appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Unit 1 Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>2回 Unit 2 Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>3回 Unit 3 Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>4回 Unit 4 More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>5回 Unit 5 Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>6回 Unit 6 Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8回 Review Midterm Review</p> <p>9回 Unit 7 because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>10回 Unit 8 Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>11回 Unit 9 Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>12回 Unit 10 'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>13回 Unit 11 Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>14回 Unit 12 Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.</p> <p>15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 1 ISBN 978-4-9909172-4-1 Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama Published by Stella Innovations</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Subject Verb Agreement and Basic Sentence Structure Homework will be assigned by the instructor.	
2	Unit 2	Positive and Negative Forms Homework will be assigned by the instructor.	
3	Unit 3	Present Tense and Time Phrases / Prepositions Homework will be assigned by the instructor.	
4	Unit 4	More Time Phrases + Adverbs and Gerunds Homework will be assigned by the instructor.	
5	Unit 5	Past Form of 'be' verbs and 'do' and Review Negative Forms and Contractions Homework will be assigned by the instructor.	
6	Unit 6	Regular Past Tense Verbs and Pronunciations of -ed Homework will be assigned by the instructor.	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	because, so and but [conjunctions] and compound sentences Homework will be assigned by the instructor.	
10	Unit 8	Future Tense 'will' and 'be going to' Homework will be assigned by the instructor.	
11	Unit 9	Ability and Permission Using 'can' and 'can't' Homework will be assigned by the instructor.	
12	Unit 10	'There is' and 'There are' and Countable Nouns + Plural 's' Homework will be assigned by the instructor.	
13	Unit 11	Irregular Past Tense Verbs Homework will be assigned by the instructor.	
14	Unit 12	Uncountable Nouns Homework will be assigned by the instructor.	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(A) / Primary English I
時間割コード Course Code	12040
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」、「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、実用英語の標準的テストであるTOEICへの橋渡しとなるビジネス英語の入門演習を行います。毎回の授業で多様な演習を通じて、ビジネスで使われる英文を聞き取り、リーディング演習で語彙力と読解力を身につけることを目標とします。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 ビジネスにおける重要語彙が身につく、長めの会話やパッセージが聞き取れ、理解できるようになる。</p> <p>技能の領域 多様な状況における英会話やモノローグを聞きとり、理解することができ、単純な文の発話ができるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 ビジネスを想定して英語のリスニングやリーディングを楽しむ姿勢を培うことができる。状況に応じた英語を使いたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 実用的な英語の理解力、表現力を高めるために、その背景となる異文化についても知りたくなる。英語を聞いたり、読んだ内容に関連して自分で調べる姿勢が身につく。</p>
授業の概要	<p>この授業では、本格的なビジネス英語標準試験TOEICに基づく総合教材を使用して、ビジネスシチュエーションを想定した英語会話とパッセージのリスニングとリーディングに焦点をあてつつも、4技能をバランスよく学習します。</p> <p>授業は演習形式で、毎週半ユニットずつすすめ、授業前半はリスニング、後半はリーディングの問題を解いていきます。それぞれにどのような状況や目的で英語が話され、書かれているのかを想定しながら理解を深めることが求められます。1回の授業でたくさんのリスニング、リーディング演習をしますので、受講者には十分な準備と、授業への活発な参加が求められます。また英語の重要構文や表現、会話や英文の背景となる状況について詳しい解説をします。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20 % 小テストおよび期末定期試験の結果 80 % (なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	毎回の授業で原則として半ユニットのリスニング、リーディングを学びます。重要な表現や構文については教員作成の資料を用いて詳しく解説します。 第1回 インTRODクシヨン 第2回 Sightseeing/Guided Tour (part 1) 第3回 Sightseeing/Guided Tour (part 2) 第4回 Restaurant (part 1) 第5回 Restaurant (part 2) 第6回 Employment(part 1) 第7回 Employment (part 2) 第8回 Entertainment (part 1) 第9回 Entertainment(part 2) 第10回 Shopping/Purchases (part 1) 第11回 Shopping/Purchases (part 2) 第12回 Sports/Health (part 1) 第13回 Sports/Health (part 2) 第14回 Doctor ' s Office/Pharmacy (part 1) 第15回 Doctor ' s Office/Pharmacy (part 2)
テキスト	Progressive Strategy for the TOEIC L&D Test, 成美堂、ISBN 978-4-7919-7233-3
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	小テスト、試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原則として毎回の授業で半ユニットすすむので、リスニングとリーディングパートそれぞれで、2時間の予習と2時間の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(B) / Primary English I
時間割コード Course Code	12041
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ダグラス アダム
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ダグラス アダム (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。</p> <p>英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 30%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 40%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	<p>1 1回 Unit 1 Plurals Nouns and Proper Nouns</p> <p>2 2回 Unit 2 Abstract Nouns and Gerund Nouns</p> <p>3 3回 Unit 3 Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs</p> <p>4 4回 Unit 4 Linking Verbs and Auxiliary Verbs</p> <p>5 5回 Unit 5 Modal Verbs and Stative Verbs</p> <p>6 6回 Unit 6 Continuous form and Infinitive form</p> <p>7 7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8 8回 Review Midterm Review</p> <p>9 9回 Unit 7 Adjectives vs. Adverbs</p> <p>10 10回 Unit 8 Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives</p> <p>11 11回 Unit 9 Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives</p> <p>12 12回 Unit 10 Subject Pronouns vs. Object Pronouns</p> <p>13 13回 Unit 11 Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns</p> <p>14 14回 Unit 12 Determiners</p> <p>15 15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Plurals Nouns and Proper Nouns	
2	Unit 2	Abstract Nouns and Gerund Nouns	
3	Unit 3	Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs	
4	Unit 4	Linking Verbs and Auxiliary Verbs	
5	Unit 5	Modal Verbs and Stative Verbs	
6	Unit 6	Continuous form and Infinitive form	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	Adjectives vs. Adverbs	
10	Unit 8	Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives	
11	Unit 9	Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives	
12	Unit 10	Subject Pronouns vs. Object Pronouns	
13	Unit 11	Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns	
14	Unit 12	Determiners	
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(C) / Primary English I
時間割コード Course Code	12042
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	片山 カロリナ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	片山 カロリナ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 30%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 40%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	<p>1 1回 Unit 1 Plurals Nouns and Proper Nouns</p> <p>2 2回 Unit 2 Abstract Nouns and Gerund Nouns</p> <p>3 3回 Unit 3 Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs</p> <p>4 4回 Unit 4 Linking Verbs and Auxiliary Verbs</p> <p>5 5回 Unit 5 Modal Verbs and Stative Verbs</p> <p>6 6回 Unit 6 Continuous form and Infinitive form</p> <p>7 7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8 8回 Review Midterm Review</p> <p>9 9回 Unit 7 Adjectives vs. Adverbs</p> <p>10 10回 Unit 8 Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives</p> <p>11 11回 Unit 9 Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives</p> <p>12 12回 Unit 10 Subject Pronouns vs. Object Pronouns</p> <p>13 13回 Unit 11 Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns</p> <p>14 14回 Unit 12 Determiners</p> <p>15 15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Plurals Nouns and Proper Nouns	
2	Unit 2	Abstract Nouns and Gerund Nouns	
3	Unit 3	Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs	
4	Unit 4	Linking Verbs and Auxiliary Verbs	
5	Unit 5	Modal Verbs and Stative Verbs	
6	Unit 6	Continuous form and Infinitive form	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	Adjectives vs. Adverbs	
10	Unit 8	Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives	
11	Unit 9	Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives	
12	Unit 10	Subject Pronouns vs. Object Pronouns	
13	Unit 11	Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns	
14	Unit 12	Determiners	
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(D) / Primary English I
時間割コード Course Code	12043
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ファン ジャスティン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ファン ジャスティン(経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。</p> <p>英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 30%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 40%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	<p>1 1回 Unit 1 Plurals Nouns and Proper Nouns</p> <p>2 2回 Unit 2 Abstract Nouns and Gerund Nouns</p> <p>3 3回 Unit 3 Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs</p> <p>4 4回 Unit 4 Linking Verbs and Auxiliary Verbs</p> <p>5 5回 Unit 5 Modal Verbs and Stative Verbs</p> <p>6 6回 Unit 6 Continuous form and Infinitive form</p> <p>7 7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8 8回 Review Midterm Review</p> <p>9 9回 Unit 7 Adjectives vs. Adverbs</p> <p>10 10回 Unit 8 Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives</p> <p>11 11回 Unit 9 Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives</p> <p>12 12回 Unit 10 Subject Pronouns vs. Object Pronouns</p> <p>13 13回 Unit 11 Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns</p> <p>14 14回 Unit 12 Determiners</p> <p>15 15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Plurals Nouns and Proper Nouns	
2	Unit 2	Abstract Nouns and Gerund Nouns	
3	Unit 3	Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs	
4	Unit 4	Linking Verbs and Auxiliary Verbs	
5	Unit 5	Modal Verbs and Stative Verbs	
6	Unit 6	Continuous form and Infinitive form	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	Adjectives vs. Adverbs	
10	Unit 8	Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives	
11	Unit 9	Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives	
12	Unit 10	Subject Pronouns vs. Object Pronouns	
13	Unit 11	Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns	
14	Unit 12	Determiners	
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(E) / Primary English I
時間割コード Course Code	12044
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ハリスジュニア ジョセフ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	13C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハリスジュニア ジョセフ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 30%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 40%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	<p>1 1回 Unit 1 Plurals Nouns and Proper Nouns</p> <p>2 2回 Unit 2 Abstract Nouns and Gerund Nouns</p> <p>3 3回 Unit 3 Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs</p> <p>4 4回 Unit 4 Linking Verbs and Auxiliary Verbs</p> <p>5 5回 Unit 5 Modal Verbs and Stative Verbs</p> <p>6 6回 Unit 6 Continuous form and Infinitive form</p> <p>7 7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8 8回 Review Midterm Review</p> <p>9 9回 Unit 7 Adjectives vs. Adverbs</p> <p>10 10回 Unit 8 Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives</p> <p>11 11回 Unit 9 Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives</p> <p>12 12回 Unit 10 Subject Pronouns vs. Object Pronouns</p> <p>13 13回 Unit 11 Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns</p> <p>14 14回 Unit 12 Determiners</p> <p>15 15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Plurals Nouns and Proper Nouns	
2	Unit 2	Abstract Nouns and Gerund Nouns	
3	Unit 3	Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs	
4	Unit 4	Linking Verbs and Auxiliary Verbs	
5	Unit 5	Modal Verbs and Stative Verbs	
6	Unit 6	Continuous form and Infinitive form	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	Adjectives vs. Adverbs	
10	Unit 8	Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives	
11	Unit 9	Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives	
12	Unit 10	Subject Pronouns vs. Object Pronouns	
13	Unit 11	Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns	
14	Unit 12	Determiners	
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(F) / Primary English I
時間割コード Course Code	12045
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ベイリー ジェイファーズ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ベイリー ジェイファーズ(経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 30%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 40%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	<p>1 1回 Unit 1 Plurals Nouns and Proper Nouns</p> <p>2 2回 Unit 2 Abstract Nouns and Gerund Nouns</p> <p>3 3回 Unit 3 Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs</p> <p>4 4回 Unit 4 Linking Verbs and Auxiliary Verbs</p> <p>5 5回 Unit 5 Modal Verbs and Stative Verbs</p> <p>6 6回 Unit 6 Continuous form and Infinitive form</p> <p>7 7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8 8回 Review Midterm Review</p> <p>9 9回 Unit 7 Adjectives vs. Adverbs</p> <p>10 10回 Unit 8 Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives</p> <p>11 11回 Unit 9 Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives</p> <p>12 12回 Unit 10 Subject Pronouns vs. Object Pronouns</p> <p>13 13回 Unit 11 Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns</p> <p>14 14回 Unit 12 Determiners</p> <p>15 15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Plurals Nouns and Proper Nouns	
2	Unit 2	Abstract Nouns and Gerund Nouns	
3	Unit 3	Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs	
4	Unit 4	Linking Verbs and Auxiliary Verbs	
5	Unit 5	Modal Verbs and Stative Verbs	
6	Unit 6	Continuous form and Infinitive form	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	Adjectives vs. Adverbs	
10	Unit 8	Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives	
11	Unit 9	Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives	
12	Unit 10	Subject Pronouns vs. Object Pronouns	
13	Unit 11	Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns	
14	Unit 12	Determiners	
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(G) / Primary English I
時間割コード Course Code	12046
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、リスニング、リーディングを中心に、4技能をバランスよく伸ばすことを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 日常レベルの語彙力と構文が理解できるようになる。英語会話や長文の流れを把握できるようになる。</p> <p>技能の領域 通常の速度の英会話を聞き取れるようになり、また長めのパッセージを大意をつかみながら理解できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 さまざまな文化に触れながら英語を学ぶことにより、学習を楽しむ姿勢を培うこい、英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>演習形式で授業で実施します。哲学や芸術を扱う総合教材を使用して、文法項目の復習とともに「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく向上させるような授業を行います。</p> <p>受講者を指名して答えさせる機会がありますので、活発な参加が求められます。テキストは英語だけでなく異文化についても学べるようになっていきますので、リスニングや動画を効果的に活用して予習・復習してください。</p> <p>授業前：音声教材をダウンロードして指定したページの演習は事前にやってくること。</p> <p>授業：リスニングを多用して実践的に演習を行いながら、背景となる自然や文化についても議論します。質問は随時受け付け、またディスカッションのトピックとすることもあります。</p> <p>授業後：構文や表現、その日に学習した内容について、しっかり復讐すること。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20 % 期末定期試験の結果 80 % (なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	<p>この授業は毎回リスニングとリーディングを中心に演習形式で行います。指名して回答させる機会があるので、受講生は事前に必ず予習をして授業に臨んでください。トピックは世界の哲学や芸術について興味深いテーマを取り上げていますので、自らもインターネットで関連サイトの英語プログラムを聞いてください。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 The concept of beauty (part 1) 第3回 The concept of beauty (part 2) 第4回 Greek mythology (part 1) 第5回 Greek mythology (part 2) 第6回 The Bible(part 1) 第7回 The Bible (part 2) 第8回 Renaissance (part 1) 第9回 Renaissance (part 2) 第10回 The structure of fictional literature (part 1) 第11回 The structure of fictional literature (part 2) 第12回 The theater and acting (part 1) 第13回 The theater and acting (part 2) 第14回 The English language (part 1) 第15回 The English language (part 2)</p>
テキスト	Transculture Transcending Time, Region and Ethnicity、金星堂、ISBN978-4-7647-4042-6
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	小テスト、試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	リスニングとリーディングについて、2時間の予習と2時間の復習を課す。予習、復習課題はGoogleクラスルームで指示します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(H) / Primary English I
時間割コード Course Code	12047
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ダグラス アダム
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ダグラス アダム (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。</p> <p>英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 30%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 40%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	<p>1 1回 Unit 1 Plurals Nouns and Proper Nouns</p> <p>2 2回 Unit 2 Abstract Nouns and Gerund Nouns</p> <p>3 3回 Unit 3 Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs</p> <p>4 4回 Unit 4 Linking Verbs and Auxiliary Verbs</p> <p>5 5回 Unit 5 Modal Verbs and Stative Verbs</p> <p>6 6回 Unit 6 Continuous form and Infinitive form</p> <p>7 7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8 8回 Review Midterm Review</p> <p>9 9回 Unit 7 Adjectives vs. Adverbs</p> <p>10 10回 Unit 8 Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives</p> <p>11 11回 Unit 9 Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives</p> <p>12 12回 Unit 10 Subject Pronouns vs. Object Pronouns</p> <p>13 13回 Unit 11 Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns</p> <p>14 14回 Unit 12 Determiners</p> <p>15 15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Plurals Nouns and Proper Nouns	
2	Unit 2	Abstract Nouns and Gerund Nouns	
3	Unit 3	Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs	
4	Unit 4	Linking Verbs and Auxiliary Verbs	
5	Unit 5	Modal Verbs and Stative Verbs	
6	Unit 6	Continuous form and Infinitive form	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	Adjectives vs. Adverbs	
10	Unit 8	Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives	
11	Unit 9	Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives	
12	Unit 10	Subject Pronouns vs. Object Pronouns	
13	Unit 11	Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns	
14	Unit 12	Determiners	
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(I) / Primary English I
時間割コード Course Code	12048
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	片山 カロリナ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	片山 カロリナ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 30%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 40%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	<p>1 1回 Unit 1 Plurals Nouns and Proper Nouns</p> <p>2 2回 Unit 2 Abstract Nouns and Gerund Nouns</p> <p>3 3回 Unit 3 Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs</p> <p>4 4回 Unit 4 Linking Verbs and Auxiliary Verbs</p> <p>5 5回 Unit 5 Modal Verbs and Stative Verbs</p> <p>6 6回 Unit 6 Continuous form and Infinitive form</p> <p>7 7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8 8回 Review Midterm Review</p> <p>9 9回 Unit 7 Adjectives vs. Adverbs</p> <p>10 10回 Unit 8 Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives</p> <p>11 11回 Unit 9 Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives</p> <p>12 12回 Unit 10 Subject Pronouns vs. Object Pronouns</p> <p>13 13回 Unit 11 Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns</p> <p>14 14回 Unit 12 Determiners</p> <p>15 15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Plurals Nouns and Proper Nouns	
2	Unit 2	Abstract Nouns and Gerund Nouns	
3	Unit 3	Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs	
4	Unit 4	Linking Verbs and Auxiliary Verbs	
5	Unit 5	Modal Verbs and Stative Verbs	
6	Unit 6	Continuous form and Infinitive form	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	Adjectives vs. Adverbs	
10	Unit 8	Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives	
11	Unit 9	Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives	
12	Unit 10	Subject Pronouns vs. Object Pronouns	
13	Unit 11	Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns	
14	Unit 12	Determiners	
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(J) / Primary English I
時間割コード Course Code	12049
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ファン ジャスティン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ファン ジャスティン(経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 30%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 40%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	<p>1 1回 Unit 1 Plurals Nouns and Proper Nouns</p> <p>2 2回 Unit 2 Abstract Nouns and Gerund Nouns</p> <p>3 3回 Unit 3 Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs</p> <p>4 4回 Unit 4 Linking Verbs and Auxiliary Verbs</p> <p>5 5回 Unit 5 Modal Verbs and Stative Verbs</p> <p>6 6回 Unit 6 Continuous form and Infinitive form</p> <p>7 7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8 8回 Review Midterm Review</p> <p>9 9回 Unit 7 Adjectives vs. Adverbs</p> <p>10 10回 Unit 8 Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives</p> <p>11 11回 Unit 9 Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives</p> <p>12 12回 Unit 10 Subject Pronouns vs. Object Pronouns</p> <p>13 13回 Unit 11 Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns</p> <p>14 14回 Unit 12 Determiners</p> <p>15 15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Plurals Nouns and Proper Nouns	
2	Unit 2	Abstract Nouns and Gerund Nouns	
3	Unit 3	Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs	
4	Unit 4	Linking Verbs and Auxiliary Verbs	
5	Unit 5	Modal Verbs and Stative Verbs	
6	Unit 6	Continuous form and Infinitive form	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	Adjectives vs. Adverbs	
10	Unit 8	Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives	
11	Unit 9	Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives	
12	Unit 10	Subject Pronouns vs. Object Pronouns	
13	Unit 11	Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns	
14	Unit 12	Determiners	
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(K) / Primary English I
時間割コード Course Code	12050
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ベイリー ジェイファーズ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ベイリー ジェイファーズ(経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 30%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 40%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	<p>1 1回 Unit 1 Plurals Nouns and Proper Nouns</p> <p>2 2回 Unit 2 Abstract Nouns and Gerund Nouns</p> <p>3 3回 Unit 3 Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs</p> <p>4 4回 Unit 4 Linking Verbs and Auxiliary Verbs</p> <p>5 5回 Unit 5 Modal Verbs and Stative Verbs</p> <p>6 6回 Unit 6 Continuous form and Infinitive form</p> <p>7 7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8 8回 Review Midterm Review</p> <p>9 9回 Unit 7 Adjectives vs. Adverbs</p> <p>10 10回 Unit 8 Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives</p> <p>11 11回 Unit 9 Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives</p> <p>12 12回 Unit 10 Subject Pronouns vs. Object Pronouns</p> <p>13 13回 Unit 11 Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns</p> <p>14 14回 Unit 12 Determiners</p> <p>15 15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Plurals Nouns and Proper Nouns	
2	Unit 2	Abstract Nouns and Gerund Nouns	
3	Unit 3	Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs	
4	Unit 4	Linking Verbs and Auxiliary Verbs	
5	Unit 5	Modal Verbs and Stative Verbs	
6	Unit 6	Continuous form and Infinitive form	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	Adjectives vs. Adverbs	
10	Unit 8	Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives	
11	Unit 9	Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives	
12	Unit 10	Subject Pronouns vs. Object Pronouns	
13	Unit 11	Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns	
14	Unit 12	Determiners	
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(L) / Primary English I
時間割コード Course Code	12051
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ハリスジュニア ジョセフ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハリスジュニア ジョセフ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 30%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 40%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	<p>1 1回 Unit 1 Plurals Nouns and Proper Nouns</p> <p>2 2回 Unit 2 Abstract Nouns and Gerund Nouns</p> <p>3 3回 Unit 3 Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs</p> <p>4 4回 Unit 4 Linking Verbs and Auxiliary Verbs</p> <p>5 5回 Unit 5 Modal Verbs and Stative Verbs</p> <p>6 6回 Unit 6 Continuous form and Infinitive form</p> <p>7 7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8 8回 Review Midterm Review</p> <p>9 9回 Unit 7 Adjectives vs. Adverbs</p> <p>10 10回 Unit 8 Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives</p> <p>11 11回 Unit 9 Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives</p> <p>12 12回 Unit 10 Subject Pronouns vs. Object Pronouns</p> <p>13 13回 Unit 11 Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns</p> <p>14 14回 Unit 12 Determiners</p> <p>15 15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Plurals Nouns and Proper Nouns	
2	Unit 2	Abstract Nouns and Gerund Nouns	
3	Unit 3	Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs	
4	Unit 4	Linking Verbs and Auxiliary Verbs	
5	Unit 5	Modal Verbs and Stative Verbs	
6	Unit 6	Continuous form and Infinitive form	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	Adjectives vs. Adverbs	
10	Unit 8	Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives	
11	Unit 9	Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives	
12	Unit 10	Subject Pronouns vs. Object Pronouns	
13	Unit 11	Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns	
14	Unit 12	Determiners	
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(再)(1) / Primary English I
時間割コード Course Code	12052
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	ベイリー ジェイファーズ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ベイリー ジェイファーズ(経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 30%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 40%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	<p>1 1回 Unit 1 Plurals Nouns and Proper Nouns</p> <p>2 2回 Unit 2 Abstract Nouns and Gerund Nouns</p> <p>3 3回 Unit 3 Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs</p> <p>4 4回 Unit 4 Linking Verbs and Auxiliary Verbs</p> <p>5 5回 Unit 5 Modal Verbs and Stative Verbs</p> <p>6 6回 Unit 6 Continuous form and Infinitive form</p> <p>7 7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8 8回 Review Midterm Review</p> <p>9 9回 Unit 7 Adjectives vs. Adverbs</p> <p>10 10回 Unit 8 Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives</p> <p>11 11回 Unit 9 Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives</p> <p>12 12回 Unit 10 Subject Pronouns vs. Object Pronouns</p> <p>13 13回 Unit 11 Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns</p> <p>14 14回 Unit 12 Determiners</p> <p>15 15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Plurals Nouns and Proper Nouns	
2	Unit 2	Abstract Nouns and Gerund Nouns	
3	Unit 3	Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs	
4	Unit 4	Linking Verbs and Auxiliary Verbs	
5	Unit 5	Modal Verbs and Stative Verbs	
6	Unit 6	Continuous form and Infinitive form	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	Adjectives vs. Adverbs	
10	Unit 8	Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives	
11	Unit 9	Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives	
12	Unit 10	Subject Pronouns vs. Object Pronouns	
13	Unit 11	Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns	
14	Unit 12	Determiners	
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	スキルアップ英語I(再)(2) / Primary English I
時間割コード Course Code	12053
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	ハリスジュニア ジョセフ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハリスジュニア ジョセフ (経済学部)
授業の目標	<p>「基礎英語 I」「基礎英語 II」で身に付けた英語力を基礎として、基本的な文法事項を学び、英語の4技能を伸ばすことを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域 語順や基本的な文法事項の知識をもとに英語で書かれたものを読んで理解できる。 簡潔な英文を書くことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 英語で書かれたものを積極的に読みたいと思うようになる。 英語で表現するために語彙力をつけたいと思うようになる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で表現したくなる。異文化について知りたくなる。 英語で読んだ内容に関連して自分で調べてみようとする。</p>
授業の概要	<p>This two part course offers students a second layer to the foundation course and continues to develop the students' English with a motivating and functional approach. Parts 3 and 4 of the Get Started course focuses much more on the nine parts of speech nouns, verbs, adjectives, pronouns, determiners, in the first half and prepositions, adverbs, conjunctions interjections with a review and summary of all nine parts of speech in the last four units. The aim is to hone the productive language skills of the students. The grammar will be introduced in parts and explained with several relevant examples. In class we will focus on improving rudimentary communicative language skills by isolating grammar points in context and incentivizing the learners to create their own questions and answers for contemporary and relevant topics of discussion.</p>
評価方法	<p>Participation and effort in class, including project work 30%</p> <p>Midterm Review 30%</p> <p>Final Review 40%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。</p> <p>Students absent more than 5 times without an appropriate reason and documentation will be unable to pass this course.</p>

授業計画	<p>1 1回 Unit 1 Plurals Nouns and Proper Nouns</p> <p>2 2回 Unit 2 Abstract Nouns and Gerund Nouns</p> <p>3 3回 Unit 3 Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs</p> <p>4 4回 Unit 4 Linking Verbs and Auxiliary Verbs</p> <p>5 5回 Unit 5 Modal Verbs and Stative Verbs</p> <p>6 6回 Unit 6 Continuous form and Infinitive form</p> <p>7 7回 Review Review of Units 1 to 6</p> <p>8 8回 Review Midterm Review</p> <p>9 9回 Unit 7 Adjectives vs. Adverbs</p> <p>10 10回 Unit 8 Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives</p> <p>11 11回 Unit 9 Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives</p> <p>12 12回 Unit 10 Subject Pronouns vs. Object Pronouns</p> <p>13 13回 Unit 11 Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns</p> <p>14 14回 Unit 12 Determiners</p> <p>15 15回 Review Review of Units 7 to 12</p>
テキスト	<p>Get Started 3 ISBN 987-4-9909172-6-5 Published by Stella Innovations Co., Ltd. Robert Colqui, Nicholas Yaxley and Carolina Katayama</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Unit 1	Plurals Nouns and Proper Nouns	
2	Unit 2	Abstract Nouns and Gerund Nouns	
3	Unit 3	Transitive Verbs vs. Intransitive Verbs	
4	Unit 4	Linking Verbs and Auxiliary Verbs	
5	Unit 5	Modal Verbs and Stative Verbs	
6	Unit 6	Continuous form and Infinitive form	
7	Review	Review of Units 1 to 6	
8	Review	Midterm Review	
9	Unit 7	Adjectives vs. Adverbs	
10	Unit 8	Comparative Adjectives . vs. Superlative Adjectives	
11	Unit 9	Quantitative Adjectives, Demonstrative Adjectives, and interrogative Adjectives	
12	Unit 10	Subject Pronouns vs. Object Pronouns	
13	Unit 11	Interrogative Pronouns, Reflexive Pronouns, Possessive Pronouns and Demonstrative Pronouns	
14	Unit 12	Determiners	
15	Review	Review of Units 7 to 12	

開講科目名 Course	トピック対策英語I(1) / TOEIC Training I
時間割コード Course Code	12080
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では、ビジネスにおける英語コミュニケーション能力を測るTOEIC受験を目指す学生に本テストの形式や英語表現に慣れることを目標とします。ただTOEICのスコアをあげることのみが目的ではなく、実用英語の理解力を高めることで、国際的なビジネスの習慣に習熟することを目指します。</p> <p>< 学習成果 ></p> <p>知識・理解の領域 TOEICテストの形式に慣れ、実用英語の基礎語彙と基本構文が理解できる。 基礎必修語彙の範囲を理解する。</p> <p>思考判断の領域 文脈にふさわしい英語表現を判断できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語によるコミュニケーション力の必要性に気づくようになる。</p> <p>技能の領域 英語運用能力のうち、基礎的な聴解力と読解力が身につく。</p> <p>関心意欲の領域 TOEICのスコアアップを目指すとともに、ビジネスについて関心をもてる。 英語学習を継続する意欲がわく。</p>
授業の概要	<p>実用英語のリスニングと語彙・読解力を涵養するために、TOEICに対応する演習問題をたくさん解きます。とくに日常生活やビジネスにおいて異なる文脈にふさわしい英語表現を演習形式で学習します。</p> <p>指定テキストはTOEICテスト初心者を対象に本試験形式のPart 1 Part 7のすべてを扱っています。各ユニットはテーマをもち、3つのステップから構成されています。</p> <p>Step 1: 各Unitで学ぶべきビジネス関係語彙の発音、意味を学ぶ</p> <p>Step 2: トレーニングポイントでUnitのテーマに即した語法と文法を学ぶ</p> <p>Step 3: 実際のテストと同形式のリスニング&リーディング問題</p> <p>授業では、ビジネス英語の重要語彙を音声と共に学び、前半はリスニング演習、後半はリーディング演習を行います。問題演習をしながら、聞き取りのポイント、表現・文法の重要事項、ビジネスの定型表現、文化的な背景などの解説をします。必要に応じてスクリプトを配布します。予習のために宿題を出し、学習成果を確認するため、復習テストを実施します。さらに英語を使って仕事をする状況を想定して理解できるようにします。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	授業への参加姿勢と発表 20 % 小テストおよび期末定期試験の結果 80 % (なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	毎回の授業で原則として半ユニットのリスニング、リーディングを学びます。重要な表現や構文については教員作成の資料を用いて詳しく解説します。 第1回 インTRODクシヨn 第2回 Restaurants 第3回 Entertainment 第4回 Business 第5回 Office 第6回 Telephone 第7回 Letters and E-mails 第8回 Health 第9回 The Bank and the Post Office 第10回 New Products 第11回 Travel 第12回 Daily Life 第13回 Job Applications 第14回 Shopping 第15回 Education
テキスト	Best Practice for the TOEIC L&R Test -Basic, 成美堂、ISBN 978-4-7919-4831-4
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	小テスト、試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原則として毎回の授業で1ユニットすすむので、リスニングとリーディングパートそれぞれで、2時間の予習と2時間の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	トピック対策英語II(1) / TOEIC Training II
時間割コード Course Code	12091
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ファン ジャスティン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ファン ジャスティン (経済学部)
授業の目標	<p>This course is designed to support beginner levels to improve their TOEIC score. This course is well-suited to individuals who are taking TOEIC for the first time. You will encounter and learn frequently used conversational phrases and review basic grammar structures.</p> <p>While these are essential for success on the TOEIC test, they also serve as an excellent base for building better communication skills in English.</p> <p>Therefore, this course will not only help you with TOEIC test preparation, but will improve your overall English language skills.</p> <p>本クラスは、初級者のTOEICスコアアップをサポートするコースであり、初めてTOEICを受験する学生にも最適な内容です。講義では、頻繁に使われる会話フレーズをたくさん学び、基本的な文法構造を再確認します。</p> <p>TOEICスコアを伸ばすために必要な基礎を学びながら、同時に英語でのコミュニケーション能力を高めていきます。本コースはTOEICテスト対策に役立つだけでなく、総合的な英語力の向上を目指します。</p>
授業の概要	<p>Lectures will present you with a variety of language tasks that will focus on listening, reading and speaking.</p> <p>You will also encounter important new words and phrases. You will be expected to keep a record or journal of these new words and phrases as instructed by the lecturer.</p> <p>This course will also include vocabulary quizzes, so it is important to keep your record of new vocabulary up-to-date. To enhance your communicative skills and encourage learner independence lectures will include pair work or group work. It is essential that you participate in these activities. You will be given homework from the textbook or possibly supplemental materials. This homework must be done before each class.</p> <p>講義では、リスニング、リーディング、スピーキングに重点を置いたさまざまな言語タスクが課されます。</p> <p>多くの新出単語やフレーズに触れ、これらの新しい単語やフレーズを自身で使えるものにするため、ノートを取り、記録、記憶することが大切です。</p> <p>このコースでは、語彙の小テストも行われますので、常に新しい語彙など習得に意欲的に取り組み、学習を持続することが重要です。</p> <p>コミュニケーション能力を高めるために、授業内ではペアワークやグループワークなどのアクティビティに参加することが重要です。</p> <p>教科書や補足資料から宿題が出されます。宿題は、次の授業までに必ず行ってください。</p>

評価方法	Grading Participation in Class Activities and Pair Work 30% Quizzes 15%% Mid Term Test 20% Final Test 35%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業への出席・遅刻が著しく多い、授業に積極的参加が見られないなどの事由においては、教員と面談、または学務課との相談の上、改善がない場合はクラスへの参加を拒否、または失格となる場合があります。
授業計画	1. Course Orientation 2. Planning – Verbs + Sentence Structure 3. Quantities – Nouns 4. Obligation and Imperatives – Adjectives and Adverbs 5. Advertisements and Promotions – Catching Phrases 6. Time in English – Gerunds 7. Locations in English – Infinitives 8. Midterm Test 9. Confirming – Participles 10. Voice Messages – Scanning 11. Advice in English – Passive Form 12. Invitations – Comparisons 13. Offering – Relative Pronouns 14. Business Greetings and Introductions - Skimming 15. Review and Preparation for the Final Test 16. Final Test
テキスト	THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 470 (Revised edition) 山口昌彦, George W. Pifer 著 東京 : センゲージラーニング , 2015.2 ISBN 9784863122604 価格 2,000円 (+消費税)
参考書	必要に応じて、教師より適宜配布します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	TOEICスコアアップだけでなく、コミュニケーション能力を高めるために、授業内ではペアワークやグループワークなどのアクティビティが多く行われます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業ごとに、2時間の予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	英語ライティング / English Writing
時間割コード Course Code	12100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では、英語の重要事項をしっかりと復習しながら、身近なできごとについての説明や自分の意見を自然な英語で書けるようになることを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 英語の基本文型がわかり、英作文に応用できる。コミュニケーションに必要な英語表現に習熟できる。</p> <p>技能の領域 文法的に正しく、適切な語彙を使って英文が書けるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 自らの考えを伝えるための表現を工夫して、英語によるコミュニケーションを積極的にしたいと思えるようになる。</p> <p>関心意欲の領域 モデルのエッセイのリスニング、リーディングから伝えるための英語を書いてみることで、外国の文化や風習を調べ、状況にふさわしい英語を書きたいと思うようになる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、ネイティブが書いた模範エッセイのリスニング、リーディングを学び、パラグラフライティングの効果的な作文技術を学びます。つぎに、英語の構文を復習しながら、たくさんの短い英文を書き、最終的には短い英文エッセイを書くことで、目的や状況にふさわしい英文を書く技術を身につけます。</p> <p>ライティングの課題は毎週提出されるので、次回の授業でかならず提出してください。授業で解答例を示すとともに、個別の提出課題を添削して返却します。添削された部分は必ず見直すこと。必要な場合、添削箇所について個別指導をします。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20%</p> <p>毎回のライティング課題 30%</p> <p>2回のエッセイライティングレポート 50%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	毎回の授業では、前半母国語話者による模範エッセイを通じて、目的別のエッセイの書き方を学びます。次に、英語構文の重要事項を復習したあと、短文の英作文演習を行います。またモデルエッセイのように、トピック文、3つのサポート文、結論から構成されるエッセイを書くことが求められます。 第1回 インTRODクシヨン 第2回 Conclusion/Reasons 第3回 Social trends 第4回 Results/Causes 第5回 Several explanations 第6回 Comparison 第7回 For and against 第8回 Classification 第9回 History 第10回 Processes 第11回 Causes and effects 第12回 Definition of a new word 第13回 Research 第14回 New products 第15回 Reading graphs
テキスト	Skills for better writing <Intermediate>、南雲堂、ISBN 978-4-5233-17933-7。
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	小テスト、試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習としてモデルエッセイを事前に読んでくること、復習としてライティングの表現法と構文について見直し、課題として出される英文を書いてくること。それぞれで2時間の予習と2時間の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	英語リーディング(1) / English Reading
時間割コード Course Code	12120
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では、リーディングを通じて日本の歴史に関する英語に習熟することを目標とします。英語に慣れるために、リスニングなどを通じて基本的な語彙力と読解力を涵養して、論理的な英語を理解できるようになり、英文の単なる和訳ではなく、内容を理解して説明できるようになることを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 英語の基礎語彙と基本構文が理解できるようになる。</p> <p>技能の領域 リスニングの練習をすることにより、長めの英語のパッセージを聞き取り、要点を把握できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 日本の歴史に関するにテーマを絞った英文を聞いて読むために、主体的に英語を学ぶ態度が身につく。</p> <p>関心意欲の領域 受講生が関心の高い分野の英語のリーディング、リスニングを通じて、自らも問題意識を持ち、インターネットなどで調べる意欲が高まる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、毎回ひとつのUnitをすすみ、そのUnitのテーマに沿って次の4つのステップで学習していきます。</p> <p>Step 1: 各Unitで学ぶべき基本語彙</p> <p>Step 2: ディクテーションなどリスニングの演習。</p> <p>Step 3: 日本の歴史に関するエッセイの読解</p> <p>Step 4: エッセイの内容理解に関するエクササイズ演習と解説</p> <p>授業では演習形式により、指名して発表させる場合があるのでかならず予習してきてください。この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20 % 期末定期試験の結果 80 % (なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	<p>この授業では栄養・食育・健康における様々なトピックを扱いながら、リスニングを多用して科学分野の基礎語彙、構文、読解演習を行います。</p> <p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 The Meiji Period (part 1)</p> <p>第3回 The Meiji Period (part 2)</p> <p>第4回 The Meiji Period (part 3)</p> <p>第5回 The Edo Period (part 1)</p> <p>第6回 The Edo Period (part 2)</p> <p>第7回 The Edo Period (part 3)</p> <p>第8回 The Edo Period (part 4)</p> <p>第9回 The Azuchi-Momoyama Period (part 1)</p> <p>第10回 The Azuchi-Momoyama Period (part 2)</p> <p>第11回 The Muromachi Period (part 1)</p> <p>第12回 The Muromachi Period (part 2)</p> <p>第13回 The Kamakura Period (part 1)</p> <p>第14回 The Kamakura Period (part 2)</p> <p>第15回 The End of the Heian Period and the Rise of the Bushi</p> <p>授業では指名して演習問題や内容把握について受講生に答えさせることがあります。受講生は予習をして授業では積極的な姿勢で臨むことが求められます。</p>
テキスト	The General History of Japan、南雲堂、ISBN 978-4-523-17824-8。
参考書	授業の中で適宜指定する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原則として毎回の授業で1ユニットすすむので、2時間の語彙、リスニング、リーディングの予習と、2時間の内容理解の復習を課す。予習、復習課題はGoogleクラスルームなどで指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	英語リーディング(再)(1) / English Reading
時間割コード Course Code	12122
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では、リーディングを通じて日本の歴史に関する英語に習熟することを目標とします。英語に慣れるために、リスニングなどを通じて基本的な語彙力と読解力を涵養して、論理的な英語を理解できるようになり、英文の単なる和訳ではなく、内容を理解して説明できるようになることを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 英語の基礎語彙と基本構文が理解できるようになる。</p> <p>技能の領域 リスニングの練習をすることにより、長めの英語のパッセージを聞き取り、要点を把握できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 日本の歴史に関するにテーマを絞った英文を聞いて読むために、主体的に英語を学ぶ態度が身につく。</p> <p>関心意欲の領域 受講生が関心の高い分野の英語のリーディング、リスニングを通じて、自らも問題意識を持ち、インターネットなどで調べる意欲が高まる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、毎回ひとつのUnitをすすみ、そのUnitのテーマに沿って次の4つのステップで学習していきます。</p> <p>Step 1: 各Unitで学ぶべき基本語彙</p> <p>Step 2: ディクテーションなどリスニングの演習。</p> <p>Step 3: 日本の歴史に関するエッセイの読解</p> <p>Step 4: エッセイの内容理解に関するエクササイズ演習と解説</p> <p>授業では演習形式により、指名して発表させる場合があるのでかならず予習してきてください。この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20 % 期末定期試験の結果 80 % (なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	<p>この授業では栄養・食育・健康における様々なトピックを扱いながら、リスニングを多用して科学分野の基礎語彙、構文、読解演習を行います。</p> <p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 The Meiji Period (part 1)</p> <p>第3回 The Meiji Period (part 2)</p> <p>第4回 The Meiji Period (part 3)</p> <p>第5回 The Edo Period (part 1)</p> <p>第6回 The Edo Period (part 2)</p> <p>第7回 The Edo Period (part 3)</p> <p>第8回 The Edo Period (part 4)</p> <p>第9回 The Azuchi-Momoyama Period (part 1)</p> <p>第10回 The Azuchi-Momoyama Period (part 2)</p> <p>第11回 The Muromachi Period (part 1)</p> <p>第12回 The Muromachi Period (part 2)</p> <p>第13回 The Kamakura Period (part 1)</p> <p>第14回 The Kamakura Period (part 2)</p> <p>第15回 The End of the Heian Period and the Rise of the Bushi</p> <p>授業では指名して演習問題や内容把握について受講生に答えさせることがあります。受講生は予習をして授業では積極的な姿勢で臨むことが求められます。</p>
テキスト	The General History of Japan、南雲堂、ISBN 978-4-523-17824-8。
参考書	授業内で提示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原則として毎回の授業で1ユニットすすむので、2時間の語彙、リスニング、リーディングの予習と、2時間の内容理解の復習を課す。予習、復習課題はGoogleクラスルームなどで指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	英語リーディング(2) / English Reading
時間割コード Course Code	12130
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では、リーディングを通じて日本の歴史に関する英語に習熟することを目標とします。英語に慣れるために、リスニングなどを通じて基本的な語彙力と読解力を涵養して、論理的な英語を理解できるようになり、英文の単なる和訳ではなく、内容を理解して説明できるようになることを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 英語の基礎語彙と基本構文が理解できるようになる。</p> <p>技能の領域 リスニングの練習をすることにより、長めの英語のパッセージを聞き取り、要点を把握できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 日本の歴史に関するにテーマを絞った英文を聞いて読むために、主体的に英語を学ぶ態度が身につく。</p> <p>関心意欲の領域 受講生が関心の高い分野の英語のリーディング、リスニングを通じて、自らも問題意識を持ち、インターネットなどで調べる意欲が高まる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、毎回ひとつのUnitをすすみ、そのUnitのテーマに沿って次の4つのステップで学習していきます。</p> <p>Step 1: 各Unitで学ぶべき基本語彙</p> <p>Step 2: ディクテーションなどリスニングの演習。</p> <p>Step 3: 日本の歴史に関するエッセイの読解</p> <p>Step 4: エッセイの内容理解に関するエクササイズ演習と解説</p> <p>授業では演習形式により、指名して発表させる場合があるのでかならず予習してきてください。この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20 %</p> <p>期末定期試験の結果 80 %</p> <p>(なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	<p>この授業では栄養・食育・健康における様々なトピックを扱いながら、リスニングを多用して科学分野の基礎語彙、構文、読解演習を行います。</p> <p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 The Meiji Period (part 1)</p> <p>第3回 The Meiji Period (part 2)</p> <p>第4回 The Meiji Period (part 3)</p> <p>第5回 The Edo Period (part 1)</p> <p>第6回 The Edo Period (part 2)</p> <p>第7回 The Edo Period (part 3)</p> <p>第8回 The Edo Period (part 4)</p> <p>第9回 The Azuchi-Momoyama Period (part 1)</p> <p>第10回 The Azuchi-Momoyama Period (part 2)</p> <p>第11回 The Muromachi Period (part 1)</p> <p>第12回 The Muromachi Period (part 2)</p> <p>第13回 The Kamakura Period (part 1)</p> <p>第14回 The Kamakura Period (part 2)</p> <p>第15回 The End of the Heian Period and the Rise of the Bushi</p> <p>授業では指名して演習問題や内容把握について受講生に答えさせることがあります。受講生は予習をして授業では積極的な姿勢で臨むことが求められます。</p>
テキスト	The General History of Japan、南雲堂、ISBN 978-4-523-17824-8。
参考書	授業内で提示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原則として毎回の授業で1ユニットすすむので、2時間の語彙、リスニング、リーディングの予習と、2時間の内容理解の復習を課す。予習、復習課題はGoogleクラスルームなどで指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	英語リーディング(再)(2) / English Reading
時間割コード Course Code	12132
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業では、リーディングを通じて日本の歴史に関する英語に習熟することを目標とします。英語に慣れるために、リスニングなどを通じて基本的な語彙力と読解力を涵養して、論理的な英語を理解できるようになり、英文の単なる和訳ではなく、内容を理解して説明できるようになることを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 英語の基礎語彙と基本構文が理解できるようになる。</p> <p>技能の領域 リスニングの練習をすることにより、長めの英語のパッセージを聞き取り、要点を把握できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 日本の歴史に関するにテーマを絞った英文を聞いて読むために、主体的に英語を学ぶ態度が身につく。</p> <p>関心意欲の領域 受講生が関心の高い分野の英語のリーディング、リスニングを通じて、自らも問題意識を持ち、インターネットなどで調べる意欲が高まる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、毎回ひとつのUnitをすすみ、そのUnitのテーマに沿って次の4つのステップで学習していきます。</p> <p>Step 1: 各Unitで学ぶべき基本語彙</p> <p>Step 2: ディクテーションなどリスニングの演習。</p> <p>Step 3: 日本の歴史に関するエッセイの読解</p> <p>Step 4: エッセイの内容理解に関するエクササイズ演習と解説</p> <p>授業では演習形式により、指名して発表させる場合があるのでかならず予習してきてください。この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢と発表 20 %</p> <p>期末定期試験の結果 80 %</p> <p>(なお、授業の進行状況により、多少変更することがあります)</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	<p>この授業では栄養・食育・健康における様々なトピックを扱いながら、リスニングを多用して科学分野の基礎語彙、構文、読解演習を行います。</p> <p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 The Meiji Period (part 1)</p> <p>第3回 The Meiji Period (part 2)</p> <p>第4回 The Meiji Period (part 3)</p> <p>第5回 The Edo Period (part 1)</p> <p>第6回 The Edo Period (part 2)</p> <p>第7回 The Edo Period (part 3)</p> <p>第8回 The Edo Period (part 4)</p> <p>第9回 The Azuchi-Momoyama Period (part 1)</p> <p>第10回 The Azuchi-Momoyama Period (part 2)</p> <p>第11回 The Muromachi Period (part 1)</p> <p>第12回 The Muromachi Period (part 2)</p> <p>第13回 The Kamakura Period (part 1)</p> <p>第14回 The Kamakura Period (part 2)</p> <p>第15回 The End of the Heian Period and the Rise of the Bushi</p> <p>授業では指名して演習問題や内容把握について受講生に答えさせることがあります。受講生は予習をして授業では積極的な姿勢で臨むことが求められます。</p>
テキスト	The General History of Japan、南雲堂、ISBN 978-4-523-17824-8。
参考書	授業内で提示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中および授業後、オフィスアワー、Eメール(ido-y@nagoya-ku.ac.jp)で対応します。
フィードバックの方法	試験や提出課題は採点后すみやかに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原則として毎回の授業で1ユニットすすむので、2時間の語彙、リスニング、リーディングの予習と、2時間の内容理解の復習を課す。予習、復習課題はGoogleクラスルームなどで指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	英語コミュニケーション(1) / English Communication
時間割コード Course Code	12160
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	クレイトン ロバート
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	クレイトン ロバート (経済学部)
授業の目標	<p>日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。</p>
授業の概要	<p>The goal of this course is to improve your ability to communicate in English. このコースの目的は、英語によるコミュニケーション能力を向上させることです。 All classes will be completed in class and weekly activities will include listening, speaking, reading and writing skill practice. 対面授業の形態で毎週のアクティビティには、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングスキルの練習が含まれます。 Students are required to prepare before each class by studying the textbook. 生徒は各授業の前に教科書を勉強して準備する必要があります。 Students are encouraged to ask questions both during class and after class. [All classes are taught in English.] 生徒は授業中または授業後に質問をすることができます。</p>
評価方法	<p>Tests (50%) + attendance & participation (25%) + online homework (25%). テスト (50%)、出席・参加 (25%)、オンライン宿題 (25%)。 Arriving late and leaving early will be counted as 1/2 of 1 absence. 遅刻・早退は欠席の2分の1回分とします。 Students who are absent 5 or more times will not earn credit. 5回以上の欠席は失格とします。 Students who do not take the final exam will not earn credit. 期末試験を受けないと失格となります。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	Students must accomplish the minimum goal to obtain a passing grade C. C (合格) となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。

授業計画	<p>Week 01 : Course introduction and class registration - コース概要とクラス登録</p> <p>Week 02 : Unit 01 - Greeting - 挨拶</p> <p>Week 03 : Unit 02 - Personal information - 個人情報</p> <p>Week 04 : Unit 03 - Friends and family - 友人と家族</p> <p>Week 05 : TEST Units 01-03 - テスト ユニット1 - 3</p> <p>Week 06 : Unit 04 - Possessions - 所有物</p> <p>Week 07 : Unit 05 - Interests - 興味</p> <p>Week 08 : Unit 06 - Lifestyles - ライフスタイル</p> <p>Week 09 : TEST Units 04-06 - テスト ユニット4 - 6</p> <p>Week 10 : Unit 07 - Home - ホーム</p> <p>Week 11 : Unit 08 - Daily routines - 日課</p> <p>Week 12 : Unit 09 - Leisure - レジャー</p> <p>Week 13 : Unit 10 - Sports - スポーツ</p> <p>Week 14 : Unit 11 - Food - 食品</p> <p>Week 15 : Unit 12 - Vacations - 休暇</p> <p>試験 : TEST Units 07 - 12 - テスト ユニット 7 - 120</p>
テキスト	Breakthrough Plus 2nd Edition Intro SB - ブレークスルー・プラス セカンド イントロ ISBN 978-1-3800-0328-7
参考書	Handouts and access to Digital Student's Book and Student's Resource Center. 配布資料、Digital Student's BookとStudent's Resource Centerへのアクセス。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	Students are giving assignments which require thought and participation both in-class and at-home. 学生は、クラス内と自宅の両方で考え、参加する必要がある課題を出しています。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	Native English speaker who reflects cultural & social experiences. ネイティブスピーカーによる授業で、英会話を自分の持つ文化や社会経験を反映させながら指導することができる
質問への対応方法	Students are encouraged to ask questions anytime during class. 授業中はいつでも質問してください。 Students may contact the teacher directly by email or by leaving a message in Google Classroom. 皆さんは、メールやGoogle Classroomにメッセージを残すことで、直接先生に連絡することができます。
フィードバックの方法	In-class tests are corrected during the same class. 授業中のテストは、同じ授業中に添削します。 Online homework grading is available immediately upon completion. 宿題の採点は、終了後すぐにオンライン上で行われます。 Students may redo online homework to improve their grades. 生徒はオンライン宿題をやり直し、成績を向上させることができます
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	Students should prepare for class, review and complete homework at least 2 hours a week outside of class. 授業以外の時間に週2時間以上、授業の予習、復習、宿題をこなすこと。
使用言語	英語
SDGs 17の目標(1~10)	10. 人や国の不平等をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力

PROGコンピテンシーの要素

1. 親和力
2. 協同力
3. 統率力
4. 感情制御力
5. 自信創出力
6. 行動持続力
7. 課題発見力
8. 計画立案力
9. 実践力

開講科目名 Course	英語コミュニケーション(再)(1) / English Communication
時間割コード Course Code	12161
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	クレイトン ロバート
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	クレイトン ロバート (経済学部)
授業の目標	<p>日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。</p>
授業の概要	<p>The goal of this course is to improve your ability to communicate in English. このコースの目的は、英語によるコミュニケーション能力を向上させることです。 All classes will be completed in class and weekly activities will include listening, speaking, reading and writing skill practice. 対面授業の形態で毎週のアクティビティには、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングスキルの練習が含まれます。 Students are required to prepare before each class by studying the textbook. 生徒は各授業の前に教科書を勉強して準備する必要があります。 Students are encouraged to ask questions both during class and after class. [All classes are taught in English.] 生徒は授業中または授業後に質問をすることができます。</p>
評価方法	<p>Tests (50%) + attendance & participation (25%) + online homework (25%). テスト (50%)、出席・参加 (25%)、オンライン宿題 (25%)。 Arriving late and leaving early will be counted as 1/2 of 1 absence. 遅刻・早退は欠席の2分の1回分とします。 Students who are absent 5 or more times will not earn credit. 5回以上の欠席は失格とします。 Students who do not take the final exam will not earn credit. 期末試験を受けないと失格となります。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>Students must accomplish the minimum goal to obtain a passing grade C. C (合格) となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。</p>

授業計画	<p>Week 01 : Course introduction and class registration - コース概要とクラス登録</p> <p>Week 02 : Unit 01 - Greeting - 挨拶</p> <p>Week 03 : Unit 02 - Personal information - 個人情報</p> <p>Week 04 : Unit 03 - Friends and family - 友人と家族</p> <p>Week 05 : TEST Units 01-03 - テスト ユニット1 - 3</p> <p>Week 06 : Unit 04 - Possessions - 所有物</p> <p>Week 07 : Unit 05 - Interests - 興味</p> <p>Week 08 : Unit 06 - Lifestyles - ライフスタイル</p> <p>Week 09 : TEST Units 04-06 - テスト ユニット4 - 6</p> <p>Week 10 : Unit 07 - Home - ホーム</p> <p>Week 11 : Unit 08 - Daily routines - 日課</p> <p>Week 12 : Unit 09 - Leisure - レジャー</p> <p>Week 13 : Unit 10 - Sports - スポーツ</p> <p>Week 14 : Unit 11 - Food - 食品</p> <p>Week 15 : Unit 12 - Vacations - 休暇</p> <p>試験 : TEST Units 07 - 12 - テスト ユニット 7 - 120</p>
テキスト	Breakthrough Plus 2nd Edition Intro SB - ブレークスルー・プラス セカンド イントロ ISBN 978-1-3800-0328-7
参考書	Handouts and access to Digital Student's Book and Student's Resource Center. 配布資料、Digital Student's BookとStudent's Resource Centerへのアクセス。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	Students are giving assignments which require thought and participation both in-class and at-home. 学生は、クラス内と自宅の両方で考え、参加する必要がある課題を出しています。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	Native English speaker who reflects cultural & social experiences. ネイティブスピーカーによる授業で、英会話を自分の持つ文化や社会経験を反映させながら指導することができる
質問への対応方法	Students are encouraged to ask questions anytime during class. 授業中はいつでも質問してください。 Students may contact the teacher directly by email or by leaving a message in Google Classroom. 皆さんは、メールやGoogle Classroomにメッセージを残すことで、直接先生に連絡することができます。
フィードバックの方法	In-class tests are corrected during the same class. 授業中のテストは、同じ授業中に添削します。 Online homework grading is available immediately upon completion. 宿題の採点は、終了後すぐにオンライン上で行われます。 Students may redo online homework to improve their grades. 生徒はオンライン宿題をやり直し、成績を向上させることができます
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	Students should prepare for class, review and complete homework at least 2 hours a week outside of class. 授業以外の時間に週2時間以上、授業の予習、復習、宿題をこなすこと。
使用言語	英語
SDGs 17の目標 (1~10)	<p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標 (11~17)	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>

PROGコンピテンシーの要素

1. 親和力
2. 協同力
3. 統率力
4. 感情制御力
5. 自信創出力
6. 行動持続力
7. 課題発見力
8. 計画立案力
9. 実践力

開講科目名 Course	英語コミュニケーション(2) / English Communication
時間割コード Course Code	12170
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	クレイトン ロバート
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	クレイトン ロバート (経済学部)
授業の目標	<p>日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。</p> <p>関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。</p>
授業の概要	<p>The goal of this course is to improve your ability to communicate in English. このコースの目的は、英語によるコミュニケーション能力を向上させることです。 All classes will be completed in class and weekly activities will include listening, speaking, reading and writing skill practice. 対面授業の形態で毎週のアクティビティには、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングスキルの練習が含まれます。 Students are required to prepare before each class by studying the textbook. 生徒は各授業の前に教科書を勉強して準備する必要があります。 Students are encouraged to ask questions both during class and after class. [All classes are taught in English.] 生徒は授業中または授業後に質問をすることができます。</p>
評価方法	<p>Tests (50%) + attendance & participation (25%) + online homework (25%). テスト (50%)、出席・参加 (25%)、オンライン宿題 (25%)。 Arriving late and leaving early will be counted as 1/2 of 1 absence. 遅刻・早退は欠席の2分の1回分とします。 Students who are absent 5 or more times will not earn credit. 5回以上の欠席は失格とします。 Students who do not take the final exam will not earn credit. 期末試験を受けないと失格となります。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	Students must accomplish the minimum goal to obtain a passing grade C. C (合格) となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。

授業計画	<p>Week 01 : Course introduction and class registration - コース概要とクラス登録</p> <p>Week 02 : Unit 01 - Greeting - 挨拶</p> <p>Week 03 : Unit 02 - Personal information - 個人情報</p> <p>Week 04 : Unit 03 - Friends and family - 友人と家族</p> <p>Week 05 : TEST Units 01-03 - テスト ユニット1 - 3</p> <p>Week 06 : Unit 04 - Possessions - 所有物</p> <p>Week 07 : Unit 05 - Interests - 興味</p> <p>Week 08 : Unit 06 - Lifestyles - ライフスタイル</p> <p>Week 09 : TEST Units 04-06 - テスト ユニット4 - 6</p> <p>Week 10 : Unit 07 - Home - ホーム</p> <p>Week 11 : Unit 08 - Daily routines - 日課</p> <p>Week 12 : Unit 09 - Leisure - レジャー</p> <p>Week 13 : Unit 10 - Sports - スポーツ</p> <p>Week 14 : Unit 11 - Food - 食品</p> <p>Week 15 : Unit 12 - Vacations - 休暇</p> <p>試験 : TEST Units 07 - 12 - テスト ユニット 7 - 120</p>
テキスト	Breakthrough Plus 2nd Edition Intro SB - ブレークスルー・プラス セカンド イントロ ISBN 978-1-3800-0328-7
参考書	Handouts and access to Digital Student's Book and Student's Resource Center. 配布資料、Digital Student's BookとStudent's Resource Centerへのアクセス。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	Students are giving assignments which require thought and participation both in-class and at-home. 学生は、クラス内と自宅の両方で考え、参加する必要がある課題を出しています。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	Native English speaker who reflects cultural & social experiences. ネイティブスピーカーによる授業で、英会話を自分の持つ文化や社会経験を反映させながら指導することができる
質問への対応方法	Students are encouraged to ask questions anytime during class. 授業中はいつでも質問してください。 Students may contact the teacher directly by email or by leaving a message in Google Classroom. 皆さんは、メールやGoogle Classroomにメッセージを残すことで、直接先生に連絡することができます。
フィードバックの方法	In-class tests are corrected during the same class. 授業中のテストは、同じ授業中に添削します。 Online homework grading is available immediately upon completion. 宿題の採点は、終了後すぐにオンライン上で行われます。 Students may redo online homework to improve their grades. 生徒はオンライン宿題をやり直し、成績を向上させることができます
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	Students should prepare for class, review and complete homework at least 2 hours a week outside of class. 授業以外の時間に週2時間以上、授業の予習、復習、宿題をこなすこと。
使用言語	英語
SDGs 17の目標 (1~10)	10. 人や国の不平等をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力

PROGコンピテンシーの要素

1. 親和力
2. 協同力
3. 統率力
4. 感情制御力
5. 自信創出力
6. 行動持続力
7. 課題発見力
8. 計画立案力
9. 実践力

開講科目名 Course	英語コミュニケーション(再)(2) / English Communication
時間割コード Course Code	12171
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	クレイトン ロバート
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	クレイトン ロバート(経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	The goal of this course is to improve your ability to communicate in English. このコースの目的は、英語によるコミュニケーション能力を向上させることです。 All classes will be completed in class and weekly activities will include listening, speaking, reading and writing skill practice. 対面授業の形態で毎週のアクティビティには、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングスキルの練習が含まれます。 Students are required to prepare before each class by studying the textbook. 生徒は各授業の前に教科書を勉強して準備する必要があります。 Students are encouraged to ask questions both during class and after class.[All classes are taught in English.] 生徒は授業中または授業後に質問をすることができます。
評価方法	Tests (50%) + attendance & participation (25%) + online homework (25%). テスト(50%)、出席・参加(25%)、オンライン宿題(25%)。 Arriving late and leaving early will be counted as 1/2 of 1 absence. 遅刻・早退は欠席の2分の1回分とします。 Students who are absent 5 or more times will not earn credit. 5回以上の欠席は失格とします。 Students who do not take the final exam will not earn credit. 期末試験を受けないと失格となります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	Students must accomplish the minimum goal to obtain a passing grade C. C(合格)となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。

授業計画	<p>Week 01 : Course introduction and class registration - コース概要とクラス登録</p> <p>Week 02 : Unit 01 - Greeting - 挨拶</p> <p>Week 03 : Unit 02 - Personal information - 個人情報</p> <p>Week 04 : Unit 03 - Friends and family - 友人と家族</p> <p>Week 05 : TEST Units 01-03 - テスト ユニット1 - 3</p> <p>Week 06 : Unit 04 - Possessions - 所有物</p> <p>Week 07 : Unit 05 - Interests - 興味</p> <p>Week 08 : Unit 06 - Lifestyles - ライフスタイル</p> <p>Week 09 : TEST Units 04-06 - テスト ユニット4 - 6</p> <p>Week 10 : Unit 07 - Home - ホーム</p> <p>Week 11 : Unit 08 - Daily routines - 日課</p> <p>Week 12 : Unit 09 - Leisure - レジャー</p> <p>Week 13 : Unit 10 - Sports - スポーツ</p> <p>Week 14 : Unit 11 - Food - 食品</p> <p>Week 15 : Unit 12 - Vacations - 休暇</p> <p>試験 : TEST Units 07 - 12 - テスト ユニット 7 - 120</p>
テキスト	Breakthrough Plus 2nd Edition Intro SB - ブレークスルー・プラス セカンド イントロ ISBN 978-1-3800-0328-7
参考書	Handouts and access to Digital Student's Book and Student's Resource Center. 配布資料、Digital Student's BookとStudent's Resource Centerへのアクセス。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	Students are giving assignments which require thought and participation both in-class and at-home. 学生は、クラス内と自宅の両方で考え、参加する必要がある課題を出しています。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	Native English speaker who reflects cultural & social experiences. ネイティブスピーカーによる授業で、英会話を自分の持つ文化や社会経験を反映させながら指導することができる
質問への対応方法	Students are encouraged to ask questions anytime during class. 授業中はいつでも質問してください。 Students may contact the teacher directly by email or by leaving a message in Google Classroom. 皆さんは、メールやGoogle Classroomにメッセージを残すことで、直接先生に連絡することができます。
フィードバックの方法	In-class tests are corrected during the same class. 授業中のテストは、同じ授業中に添削します。 Online homework grading is available immediately upon completion. 宿題の採点は、終了後すぐにオンライン上で行われます。 Students may redo online homework to improve their grades. 生徒はオンライン宿題をやり直し、成績を向上させることができます
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	Students should prepare for class, review and complete homework at least 2 hours a week outside of class. 授業以外の時間に週2時間以上、授業の予習、復習、宿題をこなすこと。
使用言語	英語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>

PROGコンピテンシーの要素

1. 親和力
2. 協同力
3. 統率力
4. 感情制御力
5. 自信創出力
6. 行動持続力
7. 課題発見力
8. 計画立案力
9. 実践力

開講科目名 Course	英語コミュニケーション(3) / English Communication
時間割コード Course Code	12180
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ダグラス アダム
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ダグラス アダム (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students a foundation course that aims to build-up your vocabulary on a variety of common topics, as well as introduces common grammar patterns and functions that will help you to practice and increase your confidence to express yourself in English. By focusing on self-expression you will soon discover where your gaps are in your vocabulary and grammar, and with support from your own research, your peers and your instructor, you will be able to fill those gaps and feel a sense of achievement and increase you motivation. Classes begin with an exploration of the vocabulary and sentence patterns, as well as practicing pronunciation and intonation patterns. Students will then make use of Q&A / Survey type activities to have conversations with many class members. This repetition will allow for better language acquisition and allow students to get-to-know one another and make new friends and strengthen relationships.
評価方法	参加度 20% 1st Review 20% 2nd Review 20% 課題提出 40% Group and individual feedback will be given.
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。 Students absent from more than 5 classes without appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Learning a New Language "Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"</p> <p>2回 Tell Me about Yourself "Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"</p> <p>3回 Daily Routines "Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"</p> <p>4回 Food "Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"</p> <p>5回 Are you health conscious? "Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"</p> <p>6回 Sickness "Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"</p> <p>7回 1st Review Quiz and Activity</p> <p>8回 Japan "Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"</p> <p>9回 Hobbies and free time "Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"</p> <p>10回 Personality "Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "</p> <p>11回 Weather "Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"</p> <p>12回 Pets "Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>13回 Chocolate "Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>14回 Vacations "Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"</p> <p>15回 2nd Review Quiz and Activity</p>
テキスト	<p>Get Talking by Ayumi Iwata ISBN: 978-4-9909172-3-4 出版社：株式会社ステライノベーションズ Stella Innovations Co., Ltd</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Learning a New Language	"Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"	
2	Tell Me about Yourself	"Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"	
3	Daily Routines	"Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"	
4	Food	"Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"	
5	Are you health conscious?	"Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"	
6	Sickness	"Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"	
7	1st Review Quiz and Activity		
8	Japan	"Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"	
9	Hobbies and free time	"Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"	
10	Personality	"Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "	
11	Weather	"Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"	
12	Pets	"Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	Chocolate	"Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"	
14	Vacations	"Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"	
15	2nd Review Quiz and Activity		

開講科目名 Course	英語コミュニケーション(再)(3) / English Communication
時間割コード Course Code	12181
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ダグラス アダム
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ダグラス アダム (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students a foundation course that aims to build-up your vocabulary on a variety of common topics, as well as introduces common grammar patterns and functions that will help you to practice and increase your confidence to express yourself in English. By focusing on self-expression you will soon discover where your gaps are in your vocabulary and grammar, and with support from your own research, your peers and your instructor, you will be able to fill those gaps and feel a sense of achievement and increase you motivation. Classes begin with an exploration of the vocabulary and sentence patterns, as well as practicing pronunciation and intonation patterns. Students will then make use of Q&A / Survey type activities to have conversations with many class members. This repetition will allow for better language acquisition and allow students to get-to-know one another and make new friends and strengthen relationships.
評価方法	参加度 20% 1st Review 20% 2nd Review 20% 課題提出 40% Group and individual feedback will be given.
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。 Students absent from more than 5 classes without appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Learning a New Language "Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"</p> <p>2回 Tell Me about Yourself "Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"</p> <p>3回 Daily Routines "Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"</p> <p>4回 Food "Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"</p> <p>5回 Are you health conscious? "Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"</p> <p>6回 Sickness "Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"</p> <p>7回 1st Review Quiz and Activity</p> <p>8回 Japan "Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"</p> <p>9回 Hobbies and free time "Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"</p> <p>10回 Personality "Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "</p> <p>11回 Weather "Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"</p> <p>12回 Pets "Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>13回 Chocolate "Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>14回 Vacations "Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"</p> <p>15回 2nd Review Quiz and Activity</p>
テキスト	<p>Get Talking by Ayumi Iwata ISBN: 978-4-9909172-3-4 出版社：株式会社ステライノベーションズ Stella Innovations Co., Ltd</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Learning a New Language	"Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"	
2	Tell Me about Yourself	"Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"	
3	Daily Routines	"Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"	
4	Food	"Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"	
5	Are you health conscious?	"Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"	
6	Sickness	"Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"	
7	1st Review Quiz and Activity		
8	Japan	"Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"	
9	Hobbies and free time	"Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"	
10	Personality	"Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "	
11	Weather	"Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"	
12	Pets	"Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	Chocolate	"Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"	
14	Vacations	"Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"	
15	2nd Review Quiz and Activity		

開講科目名 Course	(管栄)英語コミュニケーション(A) / English Communication
時間割コード Course Code	12240
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ファン ジャスティン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ファン ジャスティン(経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students a foundation course that aims to build-up your vocabulary on a variety of common topics, as well as introduces common grammar patterns and functions that will help you to practice and increase your confidence to express yourself in English. By focusing on self-expression you will soon discover where your gaps are in your vocabulary and grammar, and with support from your own research, your peers and your instructor, you will be able to fill those gaps and feel a sense of achievement and increase you motivation. Classes begin with an exploration of the vocabulary and sentence patterns, as well as practicing pronunciation and intonation patterns. Students will then make use of Q&A / Survey type activities to have conversations with many class members. This repetition will allow for better language acquisition and allow students to get-to-know one another and make new friends and strengthen relationships.
評価方法	参加度 20% 1st Review 20% 2nd Review 20% 課題提出 40% Group and individual feedback will be given.
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。 Students absent from more than 5 classes without appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Learning a New Language "Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"</p> <p>2回 Tell Me about Yourself "Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"</p> <p>3回 Daily Routines "Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"</p> <p>4回 Food "Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"</p> <p>5回 Are you health conscious? "Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"</p> <p>6回 Sickness "Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"</p> <p>7回 1st Review Quiz and Activity</p> <p>8回 Japan "Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"</p> <p>9回 Hobbies and free time "Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"</p> <p>10回 Personality "Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "</p> <p>11回 Weather "Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"</p> <p>12回 Pets "Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>13回 Chocolate "Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>14回 Vacations "Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"</p> <p>15回 2nd Review Quiz and Activity</p>
テキスト	<p>Get Talking by Ayumi Iwata ISBN: 978-4-9909172-3-4 出版社：株式会社ステライノベーションズ Stella Innovations Co., Ltd</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Learning a New Language	"Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"	
2	Tell Me about Yourself	"Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"	
3	Daily Routines	"Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"	
4	Food	"Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"	
5	Are you health conscious?	"Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"	
6	Sickness	"Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"	
7	1st Review Quiz and Activity		
8	Japan	"Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"	
9	Hobbies and free time	"Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"	
10	Personality	"Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "	
11	Weather	"Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	Pets	"Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"	
13	Chocolate	"Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"	
14	Vacations	"Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"	
15	2nd Review Quiz and Activity		

開講科目名 Course	(管栄)英語コミュニケーション(B) / English Communication
時間割コード Course Code	12241
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ハリスジュニア ジョセフ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ハリスジュニア ジョセフ (経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students a foundation course that aims to build-up your vocabulary on a variety of common topics, as well as introduces common grammar patterns and functions that will help you to practice and increase your confidence to express yourself in English. By focusing on self-expression you will soon discover where your gaps are in your vocabulary and grammar, and with support from your own research, your peers and your instructor, you will be able to fill those gaps and feel a sense of achievement and increase you motivation. Classes begin with an exploration of the vocabulary and sentence patterns, as well as practicing pronunciation and intonation patterns. Students will then make use of Q&A / Survey type activities to have conversations with many class members. This repetition will allow for better language acquisition and allow students to get-to-know one another and make new friends and strengthen relationships.
評価方法	参加度 20% 1st Review 20% 2nd Review 20% 課題提出 40% Group and individual feedback will be given.
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1 . 教員と面談する。 2 . 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。 Students absent from more than 5 classes without appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Learning a New Language "Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"</p> <p>2回 Tell Me about Yourself "Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"</p> <p>3回 Daily Routines "Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"</p> <p>4回 Food "Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"</p> <p>5回 Are you health conscious? "Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"</p> <p>6回 Sickness "Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"</p> <p>7回 1st Review Quiz and Activity</p> <p>8回 Japan "Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"</p> <p>9回 Hobbies and free time "Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"</p> <p>10回 Personality "Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "</p> <p>11回 Weather "Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"</p> <p>12回 Pets "Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>13回 Chocolate "Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>14回 Vacations "Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"</p> <p>15回 2nd Review Quiz and Activity</p>
テキスト	<p>Get Talking by Ayumi Iwata ISBN: 978-4-9909172-3-4 出版社：株式会社ステライノベーションズ Stella Innovations Co., Ltd</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Learning a New Language	"Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"	
2	Tell Me about Yourself	"Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"	
3	Daily Routines	"Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"	
4	Food	"Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"	
5	Are you health conscious?	"Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"	
6	Sickness	"Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"	
7	1st Review Quiz and Activity		
8	Japan	"Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"	
9	Hobbies and free time	"Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"	
10	Personality	"Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "	
11	Weather	"Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"	
12	Pets	"Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	Chocolate	"Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"	
14	Vacations	"Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"	
15	2nd Review Quiz and Activity		

開講科目名 Course	(教保)英語コミュニケーション(A) / English Communication
時間割コード Course Code	12242
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ファン ジャスティン
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ファン ジャスティン(経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students a foundation course that aims to build-up your vocabulary on a variety of common topics, as well as introduces common grammar patterns and functions that will help you to practice and increase your confidence to express yourself in English. By focusing on self-expression you will soon discover where your gaps are in your vocabulary and grammar, and with support from your own research, your peers and your instructor, you will be able to fill those gaps and feel a sense of achievement and increase you motivation. Classes begin with an exploration of the vocabulary and sentence patterns, as well as practicing pronunciation and intonation patterns. Students will then make use of Q&A / Survey type activities to have conversations with many class members. This repetition will allow for better language acquisition and allow students to get-to-know one another and make new friends and strengthen relationships.
評価方法	参加度 20% 1st Review 20% 2nd Review 20% 課題提出 40% Group and individual feedback will be given.
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。 Students absent from more than 5 classes without appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Learning a New Language "Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"</p> <p>2回 Tell Me about Yourself "Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"</p> <p>3回 Daily Routines "Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"</p> <p>4回 Food "Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"</p> <p>5回 Are you health conscious? "Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"</p> <p>6回 Sickness "Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"</p> <p>7回 1st Review Quiz and Activity</p> <p>8回 Japan "Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"</p> <p>9回 Hobbies and free time "Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"</p> <p>10回 Personality "Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "</p> <p>11回 Weather "Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"</p> <p>12回 Pets "Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>13回 Chocolate "Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>14回 Vacations "Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"</p> <p>15回 2nd Review Quiz and Activity</p>
テキスト	<p>Get Talking by Ayumi Iwata ISBN: 978-4-9909172-3-4 出版社：株式会社ステライノベーションズ Stella Innovations Co., Ltd</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Learning a New Language	"Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"	
2	Tell Me about Yourself	"Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"	
3	Daily Routines	"Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"	
4	Food	"Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"	
5	Are you health conscious?	"Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"	
6	Sickness	"Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"	
7	1st Review Quiz and Activity		
8	Japan	"Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"	
9	Hobbies and free time	"Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"	
10	Personality	"Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "	
11	Weather	"Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"	
12	Pets	"Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	Chocolate	"Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"	
14	Vacations	"Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"	
15	2nd Review Quiz and Activity		

開講科目名 Course	(教保)英語コミュニケーション(B) / English Communication
時間割コード Course Code	12243
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	ベイリー ジェイファーズ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ベイリー ジェイファーズ(経済学部)
授業の目標	日常生活のさまざまな場面において、初歩的な英会話ができるようになることを目指します。 <学習成果> 技能の領域 基礎的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 英語を楽しむ姿勢を培うことができる。 関心意欲の領域 積極的に英語で話したくなる。異文化について知りたくなる。
授業の概要	This course offers students a foundation course that aims to build-up your vocabulary on a variety of common topics, as well as introduces common grammar patterns and functions that will help you to practice and increase your confidence to express yourself in English. By focusing on self-expression you will soon discover where your gaps are in your vocabulary and grammar, and with support from your own research, your peers and your instructor, you will be able to fill those gaps and feel a sense of achievement and increase you motivation. Classes begin with an exploration of the vocabulary and sentence patterns, as well as practicing pronunciation and intonation patterns. Students will then make use of Q&A / Survey type activities to have conversations with many class members. This repetition will allow for better language acquisition and allow students to get-to-know one another and make new friends and strengthen relationships.
評価方法	参加度 20% 1st Review 20% 2nd Review 20% 課題提出 40% Group and individual feedback will be given.
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1. 教員と面談する。 2. 学務課との相談の上決定する。 改善がない場合はクラスへの参加を拒否する場合があります。 Students absent from more than 5 classes without appropriate reason and documentation will not be able to pass this course.

授業計画	<p>1回 Learning a New Language "Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"</p> <p>2回 Tell Me about Yourself "Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"</p> <p>3回 Daily Routines "Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"</p> <p>4回 Food "Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"</p> <p>5回 Are you health conscious? "Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"</p> <p>6回 Sickness "Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"</p> <p>7回 1st Review Quiz and Activity</p> <p>8回 Japan "Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"</p> <p>9回 Hobbies and free time "Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"</p> <p>10回 Personality "Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "</p> <p>11回 Weather "Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"</p> <p>12回 Pets "Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>13回 Chocolate "Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"</p> <p>14回 Vacations "Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"</p> <p>15回 2nd Review Quiz and Activity</p>
テキスト	<p>Get Talking by Ayumi Iwata ISBN: 978-4-9909172-3-4 出版社：株式会社ステライノベーションズ Stella Innovations Co., Ltd</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークやグループディスカッションのある講義です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接教員と相談することができます。
フィードバックの方法	E-MAILまたは直接フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2時間予習・復習・準備を要します。
使用言語	英語

SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	Learning a New Language	"Target: Express your motivations, goal and opinions about learning English Vocabulary/Grammar Points: Country Adjectives, Adverbs of Frequency, Opinion Phrases"	
2	Tell Me about Yourself	"Target: Express your favorite things and why you like them Vocabulary/Grammar Points: Gerunds and Occupations"	
3	Daily Routines	"Target: Express your routines and daily activities Vocabulary/Grammar Points: Daily Activities and Adverbs of Frequency"	
4	Food	"Target: Express your eating habits Vocabulary/Grammar Points: Fruits and Vegetables"	
5	Are you health conscious?	"Target: Express your opinions about being healthy Vocabulary/Grammar Points: Expressions for Giving Advice"	
6	Sickness	"Target: Express your experiences with feeling sick Vocabulary/Grammar Points: Expressions to use when visiting the hospital, Present Perfect"	
7	1st Review Quiz and Activity		
8	Japan	"Target: Express your feelings, stories and opinions about Japan Vocabulary/Grammar: Seasons and Numbers, Comparatives and Superlatives"	
9	Hobbies and free time	"Target: Express what you like to do in your free time Vocabulary/Grammar: Follow Up Questions"	
10	Personality	"Target: Express your character and tendencies about yourself and others Vocabulary/Grammar: Positive and Negative Adjectives "	
11	Weather	"Target: Express your feelings about different kinds of weather Vocabulary/Grammar: Weather Nouns and Adjectives"	
12	Pets	"Target: Express your animal likes and dislikes Vocabulary/Grammar: Nouns and Adjectives to Describe Animals, Expressions for Giving Opinions"	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	Chocolate	"Target: Express your experiences and opinions about chocolate Vocabulary/Grammar: Review of Gerunds, Present Perfect and Adverbs of Frequency, Expressions for Giving Opinions"	
14	Vacations	"Target: Express your plans for your summer or spring vacation Vocabulary/Grammar: Future Forms"	
15	2nd Review Quiz and Activity		

開講科目名 Course	中国語入門 / Elementary Chinese I
時間割コード Course Code	12500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	谷川 毅
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	谷川 毅 (経営学部)
授業の目標	<p>中国語らしい発音ができるようになること。 簡単な会話を覚えて自分で言えるようになること。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 中国語についての基本的な知識を身につける。 中国語の発音の基礎を身につける。 中国語の言葉の組み立て方について理解する。</p> <p>技能の領域 日本語にはない中国語独特の発音を意識して発音することができる。 中国語の言葉の組み立て方のルールに従って作文することができる。 習った会話文の全てを暗誦することができる。</p>
授業の概要	<p>日常会話を使いながら中国語の発音と表現を覚えます。 外国語の勉強はとにかく発音の練習が第一。 そして書く練習、聞く練習。 まず模範を発音を聞いて、しっかり声を出して練習し、そして覚えるためにプリントで各練習をします。 授業では声に出して練習することに重点を置きます。 できるだけ一人一人ていねいに発音を指導することを心がけて授業を進めます。 語学の授業は復習が大切です。授業のある日は必ず復習すること。できれば毎日少しずつでよいので繰り返し練習すること。 提出してもらったプリントについては翌週返却します。 〔授業形態〕 この授業は対面で実施します。</p>

評価方法	遅刻・欠席は厳しくします。4回以上欠席で失格、2回続けて休んだら即失格。遅刻2回で1回欠席。最後の授業で単語のテストを実施します。 期末試験で会話文の暗誦を実施します。 出席、プリント、単語のテスト、会話の暗誦を総合して評価します。 ・成績の目安 A A：出席100%、単語テスト正答率90%以上、 発音テストで中国語独特の発音を意識しながらていねいにうまく発音できる。 A：出席100%、単語テスト正答率80%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。 B：欠席1回、単語テスト正答率70%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。 C：欠席2～3回、単語テスト正答率60～69%、 発音テストでなんとか最後まで言うことができる。 D：単語テスト正答率59%以下、発音テストでちゃんと発音できない。 X：欠席4回以上、連続2回欠席。 Z：試験を受けなかった。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	4回以上欠席で失格、2回続けて休んだら即失格。
授業計画	第1回：ガイダンス・導入 第2回：声調・軽声・数字 第3回：主語＋動詞 第4回：動詞＋目的語 第5回：復習 第6回：AはBです。(1) 第7回：AはBです。(2) 第8回：復習 第9回：Aは～だ。(形容詞述語文)(1) 第10回：Aは～だ。(形容詞述語文)(2) 第11回：復習 第12回：よく使われる表現(1) 第13回：よく使われる表現(2) 第14回：よく使われる表現(3) 第15回：会話文の暗誦
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問を受けたらその都度対応する。 メールでの質問についてはメールで対応する。
フィードバックの方法	提出されたプリントについては翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まずはその週に勉強した内容についてしっかり復習すること。 毎日単語や会話文を声に出して読み、書いて練習してしっかり覚えること。 週に60時間の学習が必要。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	中国語入門 / Elementary Chinese I
時間割コード Course Code	12501
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	谷川 毅
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	谷川 毅 (経営学部)
授業の目標	<p>中国語らしい発音ができるようになること。 簡単な会話を覚えて自分で言えるようになること。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 中国語についての基本的な知識を身につける。 中国語の発音の基礎を身につける。 中国語の言葉の組み立て方について理解する。</p> <p>技能の領域 日本語にはない中国語独特の発音を意識して発音することができる。 中国語の言葉の組み立て方のルールに従って作文することができる。 習った会話文の全てを暗誦することができる。</p>
授業の概要	<p>日常会話を使いながら中国語の発音と表現を覚えます。 外国語の勉強はとにかく発音の練習が第一。 そして書く練習、聞く練習。 まず模範を発音を聞いて、しっかり声を出して練習し、そして覚えるためにプリントで各練習をします。 授業では声に出して練習することに重点を置きます。 できるだけ一人一人ていねいに発音を指導することを心がけて授業を進めます。 語学の授業は復習が大切です。授業のある日は必ず復習すること。できれば毎日少しずつでよいので繰り返し練習すること。 提出してもらったプリントについては翌週返却します。 〔授業形態〕 この授業は対面で実施します。</p>

評価方法	<p>遅刻・欠席は厳しくします。4回以上欠席で失格、2回続けて休んだら即失格。遅刻2回で1回欠席。最後の授業で単語のテストを実施します。</p> <p>期末試験で会話文の暗誦を実施します。</p> <p>出席、プリント、単語のテスト、会話の暗誦を総合して評価します。</p> <p>・成績の目安</p> <p>A A：出席100%、単語テスト正答率90%以上、 発音テストで中国語独特の発音を意識しながらていねいにうまく発音できる。</p> <p>A：出席100%、単語テスト正答率80%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。</p> <p>B：欠席1回、単語テスト正答率70%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。</p> <p>C：欠席2～3回、単語テスト正答率60～69%、 発音テストでなんとか最後まで言うことができる。</p> <p>D：単語テスト正答率59%以下、発音テストでちゃんと発音できない。</p> <p>X：欠席4回以上、連続2回欠席。</p> <p>Z：試験を受けなかった。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	4回以上欠席で失格、2回続けて休んだら即失格。
授業計画	<p>第1回：ガイダンス・導入</p> <p>第2回：声調・軽声・数字</p> <p>第3回：主語＋動詞</p> <p>第4回：動詞＋目的語</p> <p>第5回：復習</p> <p>第6回：AはBです。(1)</p> <p>第7回：AはBです。(2)</p> <p>第8回：復習</p> <p>第9回：Aは～だ。(形容詞述語文)(1)</p> <p>第10回：Aは～だ。(形容詞述語文)(2)</p> <p>第11回：復習</p> <p>第12回：よく使われる表現(1)</p> <p>第13回：よく使われる表現(2)</p> <p>第14回：よく使われる表現(3)</p> <p>第15回：会話文の暗誦</p>
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>質問を受けたらその都度対応する。</p> <p>メールでの質問についてはメールで対応する。</p>
フィードバックの方法	提出されたプリントについては翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>まずはその週に勉強した内容についてしっかり復習すること。</p> <p>毎日単語や会話文を声に出して読み、書いて練習してしっかり覚えること。</p> <p>週に60時間の学習が必要。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	中国語入門 / Elementary Chinese I
時間割コード Course Code	12502
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	谷川 毅
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	谷川 毅 (経営学部)
授業の目標	<p>中国語らしい発音ができるようになること。 簡単な会話を覚えて自分で言えるようになること。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 中国語についての基本的な知識を身につける。 中国語の発音の基礎を身につける。 中国語の言葉の組み立て方について理解する。</p> <p>技能の領域 日本語にはない中国語独特の発音を意識して発音することができる。 中国語の言葉の組み立て方のルールに従って作文することができる。 習った会話文の全てを暗誦することができる。</p>
授業の概要	<p>日常会話を使いながら中国語の発音と表現を覚えます。 外国語の勉強はとにかく発音の練習が第一。 そして書く練習、聞く練習。 まず模範を発音を聞いて、しっかり声を出して練習し、そして覚えるためにプリントで各練習をします。 授業では声に出して練習することに重点を置きます。 できるだけ一人一人ていねいに発音を指導することを心がけて授業を進めます。 語学の授業は復習が大切です。授業のある日は必ず復習すること。できれば毎日少しずつでよいので繰り返し練習すること。 提出してもらったプリントについては翌週返却します。 〔授業形態〕 この授業は対面で実施します。</p>

評価方法	遅刻・欠席は厳しくします。4回以上欠席で失格、2回続けて休んだら即失格。遅刻2回で1回欠席。最後の授業で単語のテストを実施します。 期末試験で会話文の暗誦を実施します。 出席、プリント、単語のテスト、会話の暗誦を総合して評価します。 ・成績の目安 A A：出席100%、単語テスト正答率90%以上、 発音テストで中国語独特の発音を意識しながらていねいにうまく発音できる。 A：出席100%、単語テスト正答率80%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。 B：欠席1回、単語テスト正答率70%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。 C：欠席2～3回、単語テスト正答率60～69%、 発音テストでなんとか最後まで言うことができる。 D：単語テスト正答率59%以下、発音テストでちゃんと発音できない。 X：欠席4回以上、連続2回欠席。 Z：試験を受けなかった。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	4回以上欠席で失格、2回続けて休んだら即失格。
授業計画	第1回：ガイダンス・導入 第2回：声調・軽声・数字 第3回：主語＋動詞 第4回：動詞＋目的語 第5回：復習 第6回：AはBです。(1) 第7回：AはBです。(2) 第8回：復習 第9回：Aは～だ。(形容詞述語文)(1) 第10回：Aは～だ。(形容詞述語文)(2) 第11回：復習 第12回：よく使われる表現(1) 第13回：よく使われる表現(2) 第14回：よく使われる表現(3) 第15回：会話文の暗誦
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問を受けたらその都度対応する。 メールでの質問についてはメールで対応する。
フィードバックの方法	提出されたプリントについては翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まずはその週に勉強した内容についてしっかり復習すること。 毎日単語や会話文を声に出して読み、書いて練習してしっかり覚えること。 週に60時間の学習が必要。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	中国語入門 / Elementary Chinese I
時間割コード Course Code	12503
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	谷川 毅
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	谷川 毅 (経営学部)
授業の目標	<p>中国語らしい発音ができるようになること。 簡単な会話を覚えて自分で言えるようになること。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 中国語についての基本的な知識を身につける。 中国語の発音の基礎を身につける。 中国語の言葉の組み立て方について理解する。</p> <p>技能の領域 日本語にはない中国語独特の発音を意識して発音することができる。 中国語の言葉の組み立て方のルールに従って作文することができる。 習った会話文の全てを暗誦することができる。</p>
授業の概要	<p>日常会話を使いながら中国語の発音と表現を覚えます。 外国語の勉強はとにかく発音の練習が第一。 そして書く練習、聞く練習。 まず模範を発音を聞いて、しっかり声を出して練習し、そして覚えるためにプリントで各練習をします。 授業では声に出して練習することに重点を置きます。 できるだけ一人一人ていねいに発音を指導することを心がけて授業を進めます。 語学の授業は復習が大切です。授業のある日は必ず復習すること。できれば毎日少しずつよいので繰り返し練習すること。 提出してもらったプリントについては翌週返却します。 〔授業形態〕 この授業は対面で実施します。</p>

評価方法	遅刻・欠席は厳しくします。4回以上欠席で失格、2回続けて休んだら即失格。遅刻2回で1回欠席。最後の授業で単語のテストを実施します。 期末試験で会話文の暗誦を実施します。 出席、プリント、単語のテスト、会話の暗誦を総合して評価します。 ・成績の目安 A A：出席100%、単語テスト正答率90%以上、 発音テストで中国語独特の発音を意識しながらていねいにうまく発音できる。 A：出席100%、単語テスト正答率80%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。 B：欠席1回、単語テスト正答率70%以上、発音テストでまずまず上手に発音できる。 C：欠席2～3回、単語テスト正答率60～69%、 発音テストでなんとか最後まで言うことができる。 D：単語テスト正答率59%以下、発音テストでちゃんと発音できない。 X：欠席4回以上、連続2回欠席。 Z：試験を受けなかった。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	4回以上欠席で失格、2回続けて休んだら即失格。
授業計画	第1回：ガイダンス・導入 第2回：声調・軽声・数字 第3回：主語＋動詞 第4回：動詞＋目的語 第5回：復習 第6回：AはBです。(1) 第7回：AはBです。(2) 第8回：復習 第9回：Aは～だ。(形容詞述語文)(1) 第10回：Aは～だ。(形容詞述語文)(2) 第11回：復習 第12回：よく使われる表現(1) 第13回：よく使われる表現(2) 第14回：よく使われる表現(3) 第15回：会話文の暗誦
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問を受けたらその都度対応する。 メールでの質問についてはメールで対応する。
フィードバックの方法	提出されたプリントについては翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まずはその週に勉強した内容についてしっかり復習すること。 毎日単語や会話文を声に出して読み、書いて練習してしっかり覚えること。 週に60時間の学習が必要。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	中国語初級 / Elementary Chinese II
時間割コード Course Code	12510
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	谷川 毅
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	谷川 毅 (経営学部)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中国語入門に引き続いて行います。目標は同じです。「少しでも中国語らしい発音ができるようになろう、簡単な会話を覚えて自分で言えるようになろう」です。 <p>〔学習成果〕</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国語についての基本的な知識を身につける。 ・中国語の発音の基礎を身につける。 ・中国語の言葉の組み立て方について理解する。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語にはない中国語独特の発音を意識して発音することができる。 ・中国語の言葉の組み立て方のルールに従って作文することができる。 ・習った会話文の全てを暗誦することができる。
授業の概要	<p>〔授業形態〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この授業は「面談型」の授業です。 <p>〔授業の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この科目は、入門の単位が取れた人が対象です。入門で中国語に興味を持って引き続き勉強したい人のための科目です。 ・入門よりも内容は難しくなりますし、量もたくさんになります(3倍くらい)。Zoomでやった入門の授業と比べるとかなりハードになりますので、そこを理解した上で履修を希望して下さい。 ・授業では声に出して練習することに重点を置きます。できるだけ一人一人ていねいに発音を指導することを心がけて授業を進めます。 ・毎回プリントを配って、ノートを取り、書く練習をしてもらいます。 <p>〔質問への対応〕</p> <p>質問については授業の後や、メールなどでも対応します。</p>
評価方法	<p>〔出席について〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4回以上休んだら失格。2回続けて休んでも失格。 ・毎回のプリントの提出は出席の条件です(授業に出ているでもプリントをちゃんとやらないと欠席です) <p>〔試験について〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後に単語のテストと会話本文の暗誦(何も見ないで言う)テストをします。 <p>〔評価方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席、プリント、単語のテスト、会話本文の暗誦テストを総合して、AA、A、B、C、Dで評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	4回以上欠席、または2回続けて欠席で失格。遅刻は2回で欠席一回扱い。

授業計画	第1回 最近何してる？（持続・継続の表現） 第2回 しかたがないよ。（“有”を使った表現） 第3回 これは何？（特定疑問） 第4回 誰の？（“的”の使いかた） 第5回 来週の土曜日に見に行くんだ。（日時の表現） 第6回 もうひとりいるよ。（副詞の使い方1） 第7回 きっと彼女だろう？（副詞の使い方2） 第8回 彼女できた？（“了”の使い方） 第9回 どこに探しに行くの？（連動式の表現） 第10回 きっと見つかるよ。（“会”の使い方） 第11回 やめた。（“不”“了”の使い方） 第12回 復習 第13回 単語のテスト（1） 第14回 単語のテスト（2） 第15回 会話の暗誦テスト
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問についてはその場で答えられるものについてはその場で答える。 あるいは授業後、メールで適宜対応する。
フィードバックの方法	提出されたプリントについては翌週返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	発音、単語、文法などをしっかり覚えるために60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	中国語中級 / Elementary Chinese III
時間割コード Course Code	12520
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	谷川 毅
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	谷川 毅 (経営学部)
授業の目標	<p>基本的には入門と初級と変わりありません。 中国語らしい発音を身につけることと、さらに多くの表現を覚えて、少しでもたくさんの中国語が自分の口から出るようにします。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 中国語についての基本的な知識を身につける。 中国語の発音の基礎を身につける。 中国語の言葉の組み立て方について理解する。</p> <p>技能の領域 日本語にはない中国語独特の発音を意識して発音することができる。 中国語の言葉の組み立て方のルールに従って作文することができる。 習った会話文の全てを暗誦することができる。</p>
授業の概要	<p>この授業は面談型です。</p> <p>これまでと基本的に変更はありません。 発音の練習が軸になりますが、言い換え練習の量が増えます。 言い換え練習をたくさんすることで、表現の幅を広げることができます。 語学の勉強は繰り返して復習することが必要です。毎週新しいことを習った後は必ず復習すること。 できれば毎日少しずつでもいいから繰り返し復習することが望ましい。</p> <p>〔授業形態〕 この授業は対面で実施します。 〔質問への対応〕 質問についてはメール連絡などで随時対応します。</p>
評価方法	最後の授業で会話文の暗誦のテストを行う。出席、プリント、テストで総合判断して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	4回以上欠席、または2回連続欠席で失格。遅刻は2回で欠席1回計算。

授業計画	第1回 どこですか？（「ある・いる」の表現） 第2回 ありがとう。（「～すれば...する」条件節の表現） 第3回 どのくらい買いますか？（「どのくらい・いくら」数の表現） 第4回 細かいのはありますか？（「持っている」所有の表現） 第5回 おつりです。（中国のお金の単位） 第6回 まとめ 第7回 この記念切手を...（ものを数える言葉） 第8回 いいですよ。（「～してもよろしい」可能の表現） 第9回 この手紙書留で。 第10回 郵便番号を書いて下さい。（「どうぞ～してください」） 第11回 あら、忘れた。（了の使い方） 第12回 まとめ 第13回 教えてくれてありがとう。（「幸いにも～」） 第14回 どういたしまして。（基本的挨拶表現の補充） 第15回 会話文の暗誦
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	その場で答えられるものについてはその場で答える。 あるいは授業後、メールなどで適宜対応する。
フィードバックの方法	提出されたプリントは翌週返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	発音、単語、文章をしっかりと理解し覚えるために、60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	スペイン語入門 / Introductory Spanish
時間割コード Course Code	12530
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中川 智彦
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中川 智彦 (経済学部)
授業の目標	<p>スペイン語のあいさつ表現や好き嫌い・飲食など日常生活に関する基本的な表現を中心とする会話練習をとおして、初歩的な文法を身に付けながら、自信をもってスペイン語を話せるようになることを目標とする。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 スペイン語のアルファベットと発音の関係を正確に理解することができる。 母語人口世界第三位〔3億人超(cf. 言語使用者数世界第4位の4億人超)〕のスペイン語を使用する国々〔公用語21の国と地域(cf. ほかに、アメリカ合衆国など多くの使用国あり)〕に共通する文化について理解が深まる。 日本とスペイン語圏との関わり、日系移民や在日ペルー人の存在について理解が深まる。</p> <p>思考判断の領域 混成文化を顕著に体現しているスペイン語圏に触れることで、異文化理解と文化的多様性について考えるきっかけを持つことができる。</p> <p>関心意欲の領域 スペインやラテンアメリカ諸国の多様な文化に関心を持つことができる。</p> <p>技能の領域 スペイン語で簡単なあいさつ、自己紹介ができる。</p> <p>態度・志向性の領域 スペイン語学習をとおして、英語の特異性を認識できることで、英語に対するコンプレックスを減らし、英語の学習意欲の向上につなげられる。 スペイン語を理解することで、在日ペルー人など身近なスペイン語話者とのコミュニケーションを図ることができる。</p>
授業の概要	<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリジナル解説プリントに沿って、スペイン語の文字と発音の理路整然とした関係を解説する。 2. オリジナルテキストの会話表現をとおして、初歩的な文法を段階的に習得する。 3. オリジナルテキストの会話表現や応用表現の発音練習と、一人芝居・ロールプレイをとおして、スペイン語のリズムと音韻を習得する。 4. オリジナルテキストで学習する短い表現をいくつか繋ぎ合わせることで、寸劇を作り、暗誦して、発表する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・参加姿勢(一人芝居・ロールプレイ・寸劇[講義冒頭の復習口頭テスト]への取り組み) 30% ・中間テスト(一人芝居・ロールプレイ[=講義前半のまとめの口頭テスト]) 40% ・期末テスト筆記試験 30%

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	初修外国語の習得・会話中心の授業という性格上、この授業の履修者は、15回(授業)+1回(期末試験)はすべて無遅刻無欠席を目指すことを基本と考えましょう。「何回欠席できる」という発想をする学生は履修を控えるようにしましょう。 失格基準：初回から4回目までの授業を複数回欠席した者、出席回数が授業回数 \times 3分の2に満たない者、中間テストを受けなかった者、第6回授業までの出席率が5割以下の者。
授業計画	授業計画 第一回 イントロダクションと、オリジナルテキスト(以下、OTとする。)表現1と表現2 1で、基本あいさつの練習+GoogleClassroom登録作業 第二回 OT表現2と2 2で、フォーマルとインフォーマルな自己紹介の聞き方答え方の練習 第三回 OT表現3と4、2 3と2 4で、フォーマルとインフォーマルな出身地の聞き方答え方の練習 第四回 OT表現5と2 5で、他己紹介の練習と指示詞+ 第五回 OT表現6と7、2 6と2 7で、勉強やアルバイトに関する表現の練習 第六回 OT表現8～1 0で、ボキャブラリーやスベルを増やす表現とお礼の練習 第七回 OT表現1 1と3 1で、日常的なあいさつの練習、および、これまでの会話表現の実演(評価) 第八回 OT表現1 2と3 2で、居住地の聞き方答え方の練習 第九回 OT表現1 3と3 3で、大学の所在と交通手段の聞き方答え方の練習 第十回 OT表現1 4と3 4で、好き嫌いや趣味の伝え方の練習 第十一回 OT表現1 9と3 9で、時の経過の伝え方の練習と、数字の学習 第十二回 OT表現2 0と4 0で、誕生日の聞き方答え方の練習と、月や曜日の学習 第十三回 OT表現1 5と3 5で、飲食に関わる表現の練習 第十四回 OT表現1 6と3 6で、飲物に関わる表現の練習 第十五回 OT表現1 7と3 7で、食べ物に関わる表現の練習
テキスト	オリジナルテキスト『名古屋経済大学「スペイン語入門」EXPRESSIONES BASICAS 40』 テキストについては、GoogleClassroomの授業資料として掲示する。
参考書	『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』小学館、または、『デイリーコンサイズ 西和和西辞典』三省堂。 本格的な辞典を希望する学生は、『現代スペイン語辞典』白水社、および、『クラウン和西辞典』三省堂。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間中随時、授業後は、GoogleClassroomまたはメールにて対応する。
フィードバックの方法	授業内での発音改良指導、即時講評、次回返却、または、学内向け授業支援システム等を通じて適宜行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	週に4時間(毎日35分)は予習・復習を行うこと。毎講義後4日間(合計約2時間半)は復習を中心として、当該講義時に練習した一人芝居の練習とボキャブラリーの定着を図り、翌週講義の3日前から(合計約1時間半)は次の講義予定範囲の単語調べや単語帳の作成を行いましょ。万が一欠席してしまった回についても、授業計画、Classroomのストリームに掲示される指示や授業内容報告に従い、各自準備をして次の授業に出席すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	スペイン語入門 / Introductory Spanish
時間割コード Course Code	12531
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中川 智彦
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中川 智彦 (経済学部)
授業の目標	<p>スペイン語のあいさつ表現や好き嫌い・飲食など日常生活に関する基本的な表現を中心とする会話練習をとおして、初歩的な文法を身に付けながら、自信をもってスペイン語を話せるようになることを目標とする。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 スペイン語のアルファベットと発音の関係を正確に理解することができる。 母語人口世界第三位〔3億人超(cf. 言語使用者数世界第4位の4億人超)〕のスペイン語を使用する国々〔公用語21の国と地域(cf. ほかに、アメリカ合衆国など多くの使用国あり)〕に共通する文化について理解が深まる。 日本とスペイン語圏との関わり、日系移民や在日ペルー人の存在について理解が深まる。</p> <p>思考判断の領域 混成文化を顕著に体現しているスペイン語圏に触れることで、異文化理解と文化的多様性について考えるきっかけを持つことができる。</p> <p>関心意欲の領域 スペインやラテンアメリカ諸国の多様な文化に関心を持つことができる。</p> <p>技能の領域 スペイン語で簡単なあいさつ、自己紹介ができる。</p> <p>態度・志向性の領域 スペイン語学習をとおして、英語の特異性を認識できることで、英語に対するコンプレックスを減らし、英語の学習意欲の向上につなげられる。 スペイン語を理解することで、在日ペルー人など身近なスペイン語話者とのコミュニケーションを図ることができる。</p>
授業の概要	<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリジナル解説プリントに沿って、スペイン語の文字と発音の理路整然とした関係を解説する。 2. オリジナルテキストの会話表現をとおして、初歩的な文法を段階的に習得する。 3. オリジナルテキストの会話表現や応用表現の発音練習と、一人芝居・ロールプレイをとおして、スペイン語のリズムと音韻を習得する。 4. オリジナルテキストで学習する短い表現をいくつか繋ぎ合わせることで、寸劇を作り、暗誦して、発表する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・参加姿勢(一人芝居・ロールプレイ・寸劇[講義冒頭の復習口頭テスト]への取り組み) 30% ・中間テスト(一人芝居・ロールプレイ[=講義前半のまとめの口頭テスト]) 40% ・期末テスト筆記試験 30%

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	初修外国語の習得・会話中心の授業という性格上、この授業の履修者は、15回(授業)+1回(期末試験)はすべて無遅刻無欠席を目指すことを基本と考えましょう。「何回欠席できる」という発想をする学生は履修を控えるようにしましょう。 失格基準：初回から4回目までの授業を複数回欠席した者、出席回数が授業回数 \times 3分の2に満たない者、中間テストを受けなかった者、第6回授業までの出席率が5割以下の者。
授業計画	授業計画 第一回 イントロダクションと、オリジナルテキスト(以下、OTとする。)表現1と表現2 1で、基本あいさつの練習+GoogleClassroom登録作業 第二回 OT表現2と2 2で、フォーマルとインフォーマルな自己紹介の聞き方答え方の練習 第三回 OT表現3と4、2 3と2 4で、フォーマルとインフォーマルな出身地の聞き方答え方の練習 第四回 OT表現5と2 5で、他己紹介の練習と指示詞+ 第五回 OT表現6と7、2 6と2 7で、勉強やアルバイトに関する表現の練習 第六回 OT表現8～1 0で、ボキャブラリーやスベルを増やす表現とお礼の練習 第七回 OT表現1 1と3 1で、日常的なあいさつの練習、および、これまでの会話表現の実演(評価) 第八回 OT表現1 2と3 2で、居住地の聞き方答え方の練習 第九回 OT表現1 3と3 3で、大学の所在と交通手段の聞き方答え方の練習 第十回 OT表現1 4と3 4で、好き嫌いや趣味の伝え方の練習 第十一回 OT表現1 9と3 9で、時の経過の伝え方の練習と、数字の学習 第十二回 OT表現2 0と4 0で、誕生日の聞き方答え方の練習と、月や曜日の学習 第十三回 OT表現1 5と3 5で、飲食に関わる表現の練習 第十四回 OT表現1 6と3 6で、飲物に関わる表現の練習 第十五回 OT表現1 7と3 7で、食べ物に関わる表現の練習
テキスト	オリジナルテキスト『名古屋経済大学「スペイン語入門」EXPRESSIONES BASICAS 40』 テキストについては、GoogleClassroomの授業資料として掲示する。
参考書	『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』小学館、または、『デイリーコンサイズ 西和和西辞典』三省堂。 本格的な辞典を希望する学生は、『現代スペイン語辞典』白水社、および、『クラウン和西辞典』三省堂。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間中随時、授業後は、GoogleClassroomまたはメールにて対応する。
フィードバックの方法	授業内での発音改良指導、即時講評、次回返却、または、学内向け授業支援システム等を通じて適宜行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	週に4時間(毎日35分)は予習・復習を行うこと。毎講義後4日間(合計約2時間半)は復習を中心として、当該講義時に練習した一人芝居の練習とボキャブラリーの定着を図り、翌週講義の3日前から(合計約1時間半)は次の講義予定範囲の単語調べや単語帳の作成を行いましょ。万が一欠席してしまった回についても、授業計画、Classroomのストリームに掲示される指示や授業内容報告に従い、各自準備をして次の授業に出席すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	ベトナム語入門 / Introductory Vietnamese
時間割コード Course Code	12540
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ゲン タン タム
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ゲン タン タム (経済学部)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ベトナム語の表記と発音の対応を知り、読むことができる。 2. ベトナム人と挨拶し、友達関係を築くことができる程度の簡単なやりとりができる。 3. 日本の周辺国の一つであるベトナムの国・人・文化に親しみ、友好的な姿勢を育む。
授業の概要	<p>【授業で行われる活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ベトナム語の表記と発音について学び、1～数語から成る文を表記のルールに沿ってある程度正しく読み上げられるように練習する。 2. 身近なベトナム人学生と友達関係を築くための語彙・文法とやりとり（挨拶、名前・年を尋ねる、出身地/家を尋ねる、言葉を教わる、好き嫌いを尋ねる）を練習する。 3. ベトナムについての基礎知識（地理、気候、文化）を学ぶ。 <p>【提出物】</p> <p>毎回ミニットペーパー（授業へのコメント、感想、要望の記入や授業理解度をチェックするもの）の提出 録音・ビデオ課題（ベトナム人と会話する動画をGoogle Classroomを通じて提出します）</p>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の授業のミニットペーパーの提出：1枚 = 1点 計15点 2. 会話課題の評価：3回、ビデオを撮影して提出、一つ10点 計30点 3. ミニテスト 5回 5点 計25点 4. 学期末の表記・発音テストの評価 30点 <p>計 90点以上：AA、80～89点：A、70～79点：B、60～69点：C、59点以下：D</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>4回欠席すると失格です。30分遅刻すると欠席になります。 課題やミニットペーパーを提出しない学生は不合格になります。試験を受けない学生は失格になります。</p>

授業計画	<p>1週目 オリエンテーション、基礎知識1（ベトナム人の名前・ベトナムの漢語）</p> <p>2週目 表記・発音1-0、代名詞、会話1（挨拶）</p> <p>3週目 表記・発音1-1、名詞文「la」、会話1練習</p> <p>4週目 表記・発音1-1、会話2（国を尋ねる）、ミニテスト1</p> <p>5週目 表記・発音1-2、疑問詞「~may」、会話2（学年・年齢を尋ねる）、基礎知識2（地理と気候）</p> <p>6週目 表記・発音1-2、疑問詞「may/bao nhieu」、会話2練習</p> <p>7週目 表記・発音1-3、疑問詞「o dau」、会話3（出身地・家を尋ねる）、ミニテスト2</p> <p>8週目 表記・発音1-3、疑問詞「~gi」、会話3（出身地・家を尋ねる）基礎知識3（ベトナムの観光）</p> <p>9週目 表記・発音1-4、動詞文「S+V+O.+o~+P.」、会話3練習</p> <p>10週目 表記・発音1-4、会話4（場所を聞く）、ミニテスト3</p> <p>11週目 表記・発音1-5、会話4（言葉を教わる）、基礎知識4（ベトナム料理の名前）</p> <p>12週目 表記・発音1-5、お願い・要求「Hay/Cho toi」+V.、会話4練習</p> <p>13週目 表記・発音1-6、「thich」+N./V.、会話5（好き嫌いを尋ねる）、ミニテスト4</p> <p>14週目 表記・発音1-6、会話5（好き嫌いを尋ねる）、基礎知識5（日本とベトナム）</p> <p>15週目 復習、会話5練習、ミニテスト5</p> <p>試験 表記・発音試験</p>
テキスト	「日本人のためのベトナム語の発音レベル1」、会話テキスト（授業内で配布します）
参考書	「ベトナム語レッスン初級1」五味政信 著 スリーエーネットワーク
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・随時対応・メールにて対応 <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・随時対応・メールにて対応 <p>Google Classroomにて提出した課題についてフィードバック・評価をします。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>この科目では、Google classroom を使って課題を提出します。授業の連絡にも使います。Google classroomを使えない学生は、単位を取ることができません。1回目の授業で使い方を説明します。必ず使ってください。</p> <p>ぜひベトナム人留学生に、ベトナム語の勉強や会話課題を手伝ってもらってください。</p> <p>毎週の授業の内容を学習しない学生、課題を提出しない学生は、単位を取ることができません。単位を取りたい学生は、毎週少しずつ学習してください。</p> <p>予習・復習等時間は約60時間です。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	<p>1.親和力</p> <p>8.計画立案力</p> <p>9.実践力</p>

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション、基礎知識1(ベトナム人の名前・ベトナムの漢語)	授業及びGoogle Classroomにて受講	
2	表記・発音1-0、代名詞、会話1(挨拶)	授業及びGoogle Classroomにて受講	
3	表記・発音1-1、名詞文「là」、会話1練習	授業及びGoogle Classroomにて受講	
4	表記・発音1-1、会話2(国を尋ねる)、ミニテスト1	授業及びGoogle Classroomにて受講	
5	表記・発音1-2、疑問詞~m y、会話2(学年・年齢を尋ねる)、基礎知識2(地理と気候)	授業及びGoogle Classroomにて受講	
6	表記・発音1-2、疑問詞 m y/bao nhiêu、会話2練習	授業及びGoogle Classroomにて受講	
7	表記・発音1-3、疑問詞 âu、会話3(出身地・家を探ねる)、ミニテスト2	授業及びGoogle Classroomにて受講	
8	表記・発音1-3、疑問詞~gi、会話3(出身地・家を探ねる)基礎知識3(ベトナムの観光)	授業及びGoogle Classroomにて受講	
9	表記・発音1-4、動詞文 S+V+0. ~、会話3練習	授業及びGoogle Classroomにて受講	
10	表記・発音1-4、会話4(場所を聞く)、ミニテスト3	授業及びGoogle Classroomにて受講	
11	表記・発音1-5、会話4(言葉を教わる)、基礎知識4(ベトナム料理の名前)	授業及びGoogle Classroomにて受講	
12	表記・発音1-5、お願い・要求 Hây/Cho tôi + V.、会話4練習	授業及びGoogle Classroomにて受講	
13	表記・発音1-6、thích+ N./V.、会話5(好き嫌いを尋ねる)、ミニテスト4	授業及びGoogle Classroomにて受講	
14	表記・発音1-6、会話5(好き嫌いを尋ねる)、基礎知識5(日本とベトナム)	授業及びGoogle Classroomにて受講	
15	復習、会話5練習、ミニテスト5	授業及びGoogle Classroomにて受講	

開講科目名 Course	ポルトガル語入門 / Introductory Portuguese
時間割コード Course Code	12550
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	久保園 村ノヅエキミ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	13A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	久保園 村ノヅエキミ (経済学部)
授業の目標	<p>ブラジル・ポルトガル語の基本的な文法・会話を学習する中で、ブラジルやブラジル人に対して理解を深め、親近感を持てるようになることを目標とする。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 ポルトガル語の基本的な文法を理解することができる。 ブラジルの文化について理解が深まる。 在日ブラジル人の直面している問題について理解が深まる。</p> <p>思考判断の領域 多文化共生、在日外国人との関わり方について自分の考えを持つことができる。</p> <p>関心意欲の領域 ブラジル人に関する報道に関心を持つことができる。</p> <p>技能の領域 ポルトガル語で簡単なあいさつ、自己紹介ができる。</p> <p>態度・志向性の領域 ブラジル人と接する際に、その文化的背景に関する知識を持って臨める。 ポルトガル語を理解することで、ブラジル人とのコミュニケーションが円滑になる。</p>
授業の概要	<p>1. テキストに沿って文法事項の解説をする。</p> <p>2. 単語、文など発話を多くすることで、ポルトガル語のリズムを習得する。</p> <p>3. テキストの練習問題を解くことで、理解を整理する。</p> <p>4. 簡単な会話のシナリオを暗唱し、発表する。</p> <p>質問への対応方法 随時対応、又は授業後に対応します。 本授業は対面授業で行います。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・参考姿勢 30% ・小テスト 30% ・期末テスト 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	理由もなく6回欠席した場合。

授業計画	<p>第一回 ブラジルとポルトガル語</p> <p>第二回 文字と発音</p> <p>第三回 ブラジルの曲でポルトガル語を学ぼう「Fico assim sem voce」</p> <p>第四回 ブラジルの曲でポルトガル語を学ぼう 発表</p> <p>第五回 ser動詞の活用と用法 1</p> <p>第六回 ser動詞の活用と用法 2</p> <p>第七回 ser動詞の活用と用法 3</p> <p>第八回 小テスト 1</p> <p>第九回 ブラジル食文化の紹介</p> <p>第十回 指示詞と所有詞 1</p> <p>第十一回 指示詞と所有詞 2</p> <p>第十二回 指示詞と所有詞 3</p> <p>第十三回 小テスト 2</p> <p>第十四回 異文化で学ぼう「私はカポエイラをするために生まれたのではない。送りこまれたのだ」</p> <p>第十五回 総まとめ</p>
テキスト	<p>ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語 初級</p> <p>著者名 兼安シルビア典子</p> <p>出版社 同学社</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	翌週返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>1 文法文字、発音、SER動詞の活用、指示詞、所有詞を学習する。 テキストP1からP34 20時間の予習と20時間の復習</p> <p>2 ブラジルの曲 プリント配布。読み方、発音の練習 3時間の予習と10時間の復習</p> <p>3 ブラジル文化 ブラジルの食文化とカポエイラについて 2時間の予習と5時間の復習</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ブラジルとポルトガル語 日本移民、日系社会	ブラジル社会やポルトガル語、日本のブラジル・コミュニティについての概説	
2	文字と発音 ポルトガル語の特殊文字、アクセント記号	英語にないポルトガル語の文字や発音記号、アクセントなどを学ぶ。綴りを見るだけで発音できるのを目標とする。	
3	ブラジルの曲でポルトガル語を学ぼう「Fico assim sem voce」 リズム、聞き取り言葉	ブラジルの曲「Fico assim sem voce」の歌詞を通じて、意味をすること。	
4	ブラジルの歌を通じてポルトガル語を学ぼう「Fico assim sem voce」発表、リズム、発音	ブラジルの音楽を通じて、少しでもブラジルの文化を近くに感じるように。	
5	ser動詞の活用と用法1 自己紹介	ser動詞の様々な用法。名前、出身地、国籍、職業、既婚・未婚の別などの聞き方と答え方。英語にない特徴である名詞や形容詞の性別について理解する。	
6	ser動詞の活用と用法2 会話練習、暗唱	自己紹介をテーマとした会話の練習。会話文を暗唱し、基本的な表現を定着させる。日本語で作成した文をポルトガル語に訳したうえで、暗唱する。	
7	ser動詞の活用と用法3 暗唱	前の週に暗唱したものを発表する。	
8	小テスト ser動詞の理解度確認	ser動詞のまとめ。会話練習で暗唱した文の書きとりなど。	
9	ブラジル食文化を紹介 ブラジル料理、文化	ブラジル料理の紹介と試食体験	
10	指示詞と所有詞1 師事し、所有詞	指示詞「この」「その」「あの」と所有詞「私の」「あなたの」「私たちの」の用法を学ぶ。	
11	指示詞と所有詞2 会話練習、暗唱	指示詞と所有詞を含んだ会話の練習。会話文を暗唱し、基本的な表現を定着させる。日本語で作成した文をポルトガル語に訳したうえで暗唱する。	
12	指示詞と所有詞3 暗唱	前の週に暗唱したものを発表する。	
13	小テスト 指示詞、所有詞の理解度確認	指示詞と所有詞のまとめ。会話練習で暗唱した文の書きとりなど。	
14	ビデオ学習「私はカポエイラをするために生まれたのではない。送りこまれたのだ」カポエイラの歴史	ドキュメンタリー映画を鑑賞し、人種差別主義について考える。またカポエイラの楽器、歌を体験する。	
15	総まとめ ser動詞、指示詞、所有詞	半年間の総まとめをする。	

開講科目名 Course	ポルトガル語入門 / Introductory Portuguese
時間割コード Course Code	12551
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	久保園 村ノヅエキミ
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	13A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	久保園 村ノヅエキミ (経済学部)
授業の目標	<p>ブラジル・ポルトガル語の基本的な文法・会話を学習する中で、ブラジルやブラジル人に対して理解を深め、親近感を持てるようになることを目標とする。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 ポルトガル語の基本的な文法を理解することができる。 ブラジルの文化について理解が深まる。 在日ブラジル人の直面している問題について理解が深まる。</p> <p>思考判断の領域 多文化共生、在日外国人との関わり方について自分の考えを持つことができる。</p> <p>関心意欲の領域 ブラジル人に関する報道に関心を持つことができる。</p> <p>技能の領域 ポルトガル語で簡単なあいさつ、自己紹介ができる。</p> <p>態度・志向性の領域 ブラジル人と接する際に、その文化的背景に関する知識を持って臨める。 ポルトガル語を理解することで、ブラジル人とのコミュニケーションが円滑になる。</p>
授業の概要	<p>授業の概要 1.テキストに沿って文法事項の解説をする。 2.単語、文など発話を多くすることで、ポルトガル語のリズムを習得する。 3.テキストの練習問題を解くことで、理解を整理する。 4.簡単な会話のシナリオを暗唱し、発表する。</p> <p>質問への対応方法 随時対応、又は授業後に対応します。 本授業は対面授業で行います。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・参考姿勢 30% ・小テスト 30% ・期末テスト 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	理由もなく6回欠席した場合。

授業計画	<p>第一回 ブラジルとポルトガル語</p> <p>第二回 文字と発音</p> <p>第三回 ブラジルの曲でポルトガル語を学ぼう「Fico assim sem voce」</p> <p>第四回 ブラジルの曲でポルトガル語を学ぼう 発表</p> <p>第五回 ser動詞の活用と用法 1</p> <p>第六回 ser動詞の活用と用法 2</p> <p>第七回 ser動詞の活用と用法 3</p> <p>第八回 小テスト 1</p> <p>第九回 ブラジル食文化の紹介</p> <p>第十回 指示詞と所有詞 1</p> <p>第十一回 指示詞と所有詞 2</p> <p>第十二回 指示詞と所有詞 3</p> <p>第十三回 小テスト 2</p> <p>第十四回 異文化で学ぼう「私はカポエイラをするために生まれたのではない。送りこまれたのだ」</p> <p>第十五回 総まとめ</p>
テキスト	<p>ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語 初級</p> <p>著者名 兼安シルビア典子</p> <p>出版社 同学社</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	翌週返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>1 文法 文字、発音、SER動詞の活用、指示詞、所有詞を学習する。 テキストP1からP34 20時間の予習と20時間の復習</p> <p>2 ブラジルの曲 プリント配布。読み方、発音の練習 3時間の予習と10時間の復習</p> <p>3 ブラジル文化 ブラジルの食文化とカポエイラについて 2時間の予習と5時間の復習</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ブラジルとポルトガル語 日本移民、日系社会	ブラジル社会やポルトガル語、日本のブラジル・コミュニティについての概説。	
2	文字と発音 ポルトガル語の特殊文字、アクセント記号	英語にないポルトガル語の文字や発音記号、アクセントなどを学ぶ。綴りを見るだけで発音できるのを目標とする。	
3	ブラジルの曲でポルトガル語を学ぼう「Fico assim sem voce」 リズム、聞き取り言葉	ブラジルの曲「Fico assim sem voce」の歌詞を通じて、意味をすること。	
4	ブラジルの歌を通じてポルトガル語を学ぼう「Fico assim sem voce」発表、リズム、発音	ブラジルの音楽を通じて、少しでもブラジルの文化を近くに感じるように。	
5	ser動詞の活用と用法1 自己紹介	ser動詞の様々な用法。名前、出身地、国籍、職業、既婚・未婚の別などの聞き方と答え方。英語にない特徴である名詞や形容詞の性別について理解する。	
6	ser動詞の活用と用法2 会話練習、暗唱	自己紹介をテーマとした会話の練習。会話文を暗唱し、基本的な表現を定着させる。日本語で作成した文をポルトガル語に訳したうえで、暗唱する。	
7	ser動詞の活用と用法3 暗唱発表	前の週に暗唱したものを発表する。	
8	小テスト ser動詞の理解度確認	ser動詞のまとめ。会話練習で暗唱した文の書きとりなど。	
9	ブラジル食文化を紹介 ブラジル料理、文化	ブラジル料理の紹介と試食体験	
10	指示詞と所有詞1 師事し、所有詞	指示詞「この」「その」「あの」と所有詞「私の」「あなたの」「私たちの」の用法を学ぶ。	
11	指示詞と所有詞2 会話練習、暗唱	指示詞と所有詞を含んだ会話の練習。会話文を暗唱し、基本的な表現を定着させる。日本語で作成した文をポルトガル語に訳したうえで暗唱する。	
12	指示詞と所有詞3 暗唱の発表	前の週に暗唱したものを発表する。	
13	小テスト 指示詞、所有詞の理解度確認	指示詞と所有詞のまとめ。会話練習で暗唱した文の書きとりなど。	
14	ビデオ学習「私はカポエイラをするために生まれたのではない。送りこまれたのだ」カポエイラの歴史	ドキュメンタリー映画を鑑賞し、人種差別主義について考える。またカポエイラの楽器、歌を体験する。	
15	総まとめ ser動詞、指示詞、所有詞	半年間の総まとめをする。	

開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12580
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	風間 千秋
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	風間 千秋 (経済学部)
授業の目標	<p>韓国の言葉と文化を知る。具体的には次のようです。</p> <p>(1-1) 文字の読み書きができる (1-2) コリア語のしくみを理解する (1-3) しくみを理解した上で、作文や発音でそれを実践できる (2) 韓国の文化や社会を知り、自分自身の文化的背景について振り返る</p>
授業の概要	<p>暗記よりも、しくみを理解し実践できること、さらに応用できることを目標にしています。この授業は、文字をすべて覚えなくとも、調べることができれば理解できますが、文字のしくみと作文のルール、文字の一覧表の見方・使い方は理解し、慣れておかなければなりません。</p> <p>第2～10回の課題では、発音変化の実例等を示し、どのような条件下で何が起きているかを自ら見つけ、それを自分の言葉で説明する練習をします。また、その日に何を学んだかを自分の言葉で説明する練習もします。</p> <p>授業概要 (1) 文字のしくみ (2) 発音変化 (3) 名詞・動詞・形容詞の作文 (4) 韓国の文化・社会への理解を深めながら作文演習</p> <p>授業形態 教室での対面授業です。座席指定。</p>
評価方法	<p>毎回の課題 = 70% 期末試験 (第15回授業で実施) = 30%</p> <p>毎回、授業の最後に課題(小テスト)を実施します。課題は授業終了時に提出、次回授業時に返却します。</p> <p>授業や課題に積極的に取り組んだか、理解しようと努めたかも評価対象です。授業の内容やテーマに関する質問はもちろん、韓国事情・日韓関係など隣接領域に関する質問をした場合も、評価対象となります。</p> <p>課題の提出がない場合は欠席となります。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別欠席以外の理由による欠席は、計4回で失格。 遅刻は2回で欠席1回分とします。 授業中に緊急以外でスマートホン、スマートウォッチ等の操作を行った場合は、退室または失格。 授業開始時に着席していない場合は、タブレット認証が済んでいても遅刻とみなします。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 文字の基礎1 第3回 文字の基礎2、発音変化1 第4回 文字の基礎3、発音変化2、名詞のていねい形 第5回 文字の基礎4 第6回 文字の基礎5 第7回 韓国の食文化 第8回 発音変化3、助詞の使い方 第9回 長文作文、疑問形 第10回 韓国人の人生行事1、動詞・形容詞のていねい形 第11回 韓国人の人生行事2、発音変化4 第12回 韓国人の人生行事3、作文演習 第13回 韓国の学生生活、作文演習 第14回 韓国の年中行事、作文演習 第15回 総復習、期末試験
テキスト	テキストはありません。授業はパワーポイントを使って進めます。 毎回、その回で使用するプリントを配布します。 第2回の授業で配布する文字の一覧表は、各自管理し、毎回持参すること。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業後、もしくはメールで受け付けます。提出物に記入しても構いません。 メールアドレス：kazama-c@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	毎回の課題のフィードバック 提出した課題は、次回授業時に返却します。 授業のはじめに返却した課題の答え合わせを行います。 あわせて、前回の授業内容の復習も行います。 期末試験について 期末試験は第15回授業時に実施します。 授業の前半でこれまでの総復習を行い、後半の時間（約60分間）で期末試験を実施します。 試験問題の出題形式は第14回の授業内で説明します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内容が理解できなかった場合は、必ずその回のうちに質問して、できるようになっておいてください。 分からないままにしておくと、その後の授業が理解できなくなります。 自宅学習の方法などを知りたい場合は、随時質問してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12581
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	風間 千秋
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	風間 千秋 (経済学部)
授業の目標	<p>韓国の言葉と文化を知る。具体的には次のようです。</p> <p>(1-1) 文字の読み書きができる (1-2) コリア語のしくみを理解する (1-3) しくみを理解した上で、作文や発音でそれを実践できる (2) 韓国の文化や社会を知り、自分自身の文化的背景について振り返る</p>
授業の概要	<p>暗記よりも、しくみを理解し実践できること、さらに応用できることを目標にしています。この授業は、文字をすべて覚えなくとも、調べることができれば理解できますが、文字のしくみと作文のルール、文字の一覧表の見方・使い方は理解し、慣れておかなければなりません。</p> <p>第2～10回の課題では、発音変化の実例等を示し、どのような条件下で何が起きているかを自ら見つけ、それを自分の言葉で説明する練習をします。また、その日に何を学んだかを自分の言葉で説明する練習もします。</p> <p>授業概要 (1) 文字のしくみ (2) 発音変化 (3) 名詞・動詞・形容詞の作文 (4) 韓国の文化・社会への理解を深めながら作文演習</p> <p>授業形態 教室での対面授業です。座席指定。</p>
評価方法	<p>毎回の課題 = 70% 期末試験 (第15回授業で実施) = 30%</p> <p>毎回、授業の最後に課題(小テスト)を実施します。課題は授業終了時に提出、次回授業時に返却します。</p> <p>授業や課題に積極的に取り組んだか、理解しようと努めたかも評価対象です。授業の内容やテーマに関する質問はもちろん、韓国事情・日韓関係など隣接領域に関する質問をした場合も、評価対象となります。</p> <p>課題の提出がない場合は欠席となります。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別欠席以外の理由による欠席は、計4回で失格。 遅刻は2回で欠席1回分とします。 授業中に緊急以外でスマートホン、スマートウォッチ等の操作を行った場合は、退室または失格。 授業開始時に着席していない場合は、タブレット認証が済んでいても遅刻とみなします。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 文字の基礎1 第3回 文字の基礎2、発音変化1 第4回 文字の基礎3、発音変化2、名詞のていねい形 第5回 文字の基礎4 第6回 文字の基礎5 第7回 韓国の食文化 第8回 発音変化3、助詞の使い方 第9回 長文作文、疑問形 第10回 韓国人の人生行事1、動詞・形容詞のていねい形 第11回 韓国人の人生行事2、発音変化4 第12回 韓国人の人生行事3、作文演習 第13回 韓国の学生生活、作文演習 第14回 韓国の年中行事、作文演習 第15回 総復習、期末試験
テキスト	テキストはありません。授業はパワーポイントを使って進めます。 毎回、その回で使用するプリントを配布します。 第2回の授業で配布する文字の一覧表は、各自管理し、毎回持参すること。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業後、もしくはメールで受け付けます。提出物に記入しても構いません。 メールアドレス：kazama-c@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	毎回の課題のフィードバック 提出した課題は、次回授業時に返却します。 授業のはじめに返却した課題の答え合わせを行います。 あわせて、前回の授業内容の復習も行います。 期末試験について 期末試験は第15回授業時に実施します。 授業の前半でこれまでの総復習を行い、後半の時間（約60分間）で期末試験を実施します。 試験問題の出題形式は第14回の授業内で説明します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内容が理解できなかった場合は、必ずその回のうちに質問して、できるようになっておいてください。 分からないままにしておくと、その後の授業が理解できなくなります。 自宅学習の方法などを知りたい場合は、随時質問してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12582
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	風間 千秋
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	風間 千秋 (経済学部)
授業の目標	<p>韓国の言葉と文化を知る。具体的には次のようです。</p> <p>(1-1) 文字の読み書きができる (1-2) コリア語のしくみを理解する (1-3) しくみを理解した上で、作文や発音でそれを実践できる (2) 韓国の文化や社会を知り、自分自身の文化的背景について振り返る</p>
授業の概要	<p>暗記よりも、しくみを理解し実践できること、さらに応用できることを目標にしています。この授業は、文字をすべて覚えなくとも、調べることができれば理解できますが、文字のしくみと作文のルール、文字の一覧表の見方・使い方は理解し、慣れておかなければなりません。</p> <p>第2～10回の課題では、発音変化の実例等を示し、どのような条件下で何が起きているかを自ら見つけ、それを自分の言葉で説明する練習をします。また、その日に何を学んだかを自分の言葉で説明する練習もします。</p> <p>授業概要 (1) 文字のしくみ (2) 発音変化 (3) 名詞・動詞・形容詞の作文 (4) 韓国の文化・社会への理解を深めながら作文演習</p> <p>授業形態 教室での対面授業です。座席指定。</p>
評価方法	<p>毎回の課題 = 70% 期末試験 (第15回授業で実施) = 30%</p> <p>毎回、授業の最後に課題(小テスト)を実施します。課題は授業終了時に提出、次回授業時に返却します。</p> <p>授業や課題に積極的に取り組んだか、理解しようと努めたかも評価対象です。授業の内容やテーマに関する質問はもちろん、韓国事情・日韓関係など隣接領域に関する質問をした場合も、評価対象となります。</p> <p>課題の提出がない場合は欠席となります。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別欠席以外の理由による欠席は、計4回で失格。 遅刻は2回で欠席1回分とします。 授業中に緊急以外でスマートホン、スマートウォッチ等の操作を行った場合は、退室または失格。 授業開始時に着席していない場合は、タブレット認証が済んでいても遅刻とみなします。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 文字の基礎1 第3回 文字の基礎2、発音変化1 第4回 文字の基礎3、発音変化2、名詞のていねい形 第5回 文字の基礎4 第6回 文字の基礎5 第7回 韓国の食文化 第8回 発音変化3、助詞の使い方 第9回 長文作文、疑問形 第10回 韓国人の人生行事1、動詞・形容詞のていねい形 第11回 韓国人の人生行事2、発音変化4 第12回 韓国人の人生行事3、作文演習 第13回 韓国の学生生活、作文演習 第14回 韓国の年中行事、作文演習 第15回 総復習、期末試験
テキスト	テキストはありません。授業はパワーポイントを使って進めます。 毎回、その回で使用するプリントを配布します。 第2回の授業で配布する文字の一覧表は、各自管理し、毎回持参すること。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業後、もしくはメールで受け付けます。提出物に記入しても構いません。 メールアドレス：kazama-c@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	毎回の課題のフィードバック 提出した課題は、次回授業時に返却します。 授業のはじめに返却した課題の答え合わせを行います。 あわせて、前回の授業内容の復習も行います。 期末試験について 期末試験は第15回授業時に実施します。 授業の前半でこれまでの総復習を行い、後半の時間（約60分間）で期末試験を実施します。 試験問題の出題形式は第14回の授業内で説明します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内容が理解できなかった場合は、必ずその回のうちに質問して、できるようになっておいてください。 分からないままにしておくと、その後の授業が理解できなくなります。 自宅学習の方法などを知りたい場合は、随時質問してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12583
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	風間 千秋
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	風間 千秋 (経済学部)
授業の目標	<p>韓国の言葉と文化を知る。具体的には次のようです。</p> <p>(1-1) 文字の読み書きができる (1-2) コリア語のしくみを理解する (1-3) しくみを理解した上で、作文や発音でそれを実践できる (2) 韓国の文化や社会を知り、自分自身の文化的背景について振り返る</p>
授業の概要	<p>暗記よりも、しくみを理解し実践できること、さらに応用できることを目標にしています。この授業は、文字をすべて覚えなくとも、調べることができれば理解できますが、文字のしくみと作文のルール、文字の一覧表の見方・使い方は理解し、慣れておかなければなりません。</p> <p>第2～10回の課題では、発音変化の実例等を示し、どのような条件下で何が起きているかを自ら見つけ、それを自分の言葉で説明する練習をします。また、その日に何を学んだかを自分の言葉で説明する練習もします。</p> <p>授業概要 (1) 文字のしくみ (2) 発音変化 (3) 名詞・動詞・形容詞の作文 (4) 韓国の文化・社会への理解を深めながら作文演習</p> <p>授業形態 教室での対面授業です。座席指定。</p>
評価方法	<p>毎回の課題 = 70% 期末試験 (第15回授業で実施) = 30%</p> <p>毎回、授業の最後に課題(小テスト)を実施します。課題は授業終了時に提出、次回授業時に返却します。</p> <p>授業や課題に積極的に取り組んだか、理解しようと努めたかも評価対象です。授業の内容やテーマに関する質問はもちろん、韓国事情・日韓関係など隣接領域に関する質問をした場合も、評価対象となります。</p> <p>課題の提出がない場合は欠席となります。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別欠席以外の理由による欠席は、計4回で失格。 遅刻は2回で欠席1回分とします。 授業中に緊急以外でスマートホン、スマートウォッチ等の操作を行った場合は、退室または失格。 授業開始時に着席していない場合は、タブレット認証が済んでいても遅刻とみなします。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 文字の基礎1 第3回 文字の基礎2、発音変化1 第4回 文字の基礎3、発音変化2、名詞のていねい形 第5回 文字の基礎4 第6回 文字の基礎5 第7回 韓国の食文化 第8回 発音変化3、助詞の使い方 第9回 長文作文、疑問形 第10回 韓国人の人生行事1、動詞・形容詞のていねい形 第11回 韓国人の人生行事2、発音変化4 第12回 韓国人の人生行事3、作文演習 第13回 韓国の学生生活、作文演習 第14回 韓国の年中行事、作文演習 第15回 総復習、期末試験
テキスト	テキストはありません。授業はパワーポイントを使って進めます。 毎回、その回で使用するプリントを配布します。 第2回の授業で配布する文字の一覧表は、各自管理し、毎回持参すること。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業後、もしくはメールで受け付けます。提出物に記入しても構いません。 メールアドレス：kazama-c@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	毎回の課題のフィードバック 提出した課題は、次回授業時に返却します。 授業のはじめに返却した課題の答え合わせを行います。 あわせて、前回の授業内容の復習も行います。 期末試験について 期末試験は第15回授業時に実施します。 授業の前半でこれまでの総復習を行い、後半の時間（約60分間）で期末試験を実施します。 試験問題の出題形式は第14回の授業内で説明します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内容が理解できなかった場合は、必ずその回のうちに質問して、できるようになっておいてください。 分からないままにしておくと、その後の授業が理解できなくなります。 自宅学習の方法などを知りたい場合は、随時質問してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12584
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	風間 千秋
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	風間 千秋 (経済学部)
授業の目標	<p>韓国の言葉と文化を知る。具体的には次のようです。</p> <p>(1-1) 文字の読み書きができる (1-2) コリア語のしくみを理解する (1-3) しくみを理解した上で、作文や発音でそれを実践できる (2) 韓国の文化や社会を知り、自分自身の文化的背景について振り返る</p>
授業の概要	<p>暗記よりも、しくみを理解し実践できること、さらに応用できることを目標にしています。この授業は、文字をすべて覚えなくとも、調べることができれば理解できますが、文字のしくみと作文のルール、文字の一覧表の見方・使い方は理解し、慣れておかなければなりません。</p> <p>第2～10回の課題では、発音変化の実例等を示し、どのような条件下で何が起きているかを自ら見つけ、それを自分の言葉で説明する練習をします。また、その日に何を学んだかを自分の言葉で説明する練習もします。</p> <p>授業概要 (1) 文字のしくみ (2) 発音変化 (3) 名詞・動詞・形容詞の作文 (4) 韓国の文化・社会への理解を深めながら作文演習</p> <p>授業形態 教室での対面授業です。座席指定。</p>
評価方法	<p>毎回の課題 = 70% 期末試験 (第15回授業で実施) = 30%</p> <p>毎回、授業の最後に課題(小テスト)を実施します。課題は授業終了時に提出、次回授業時に返却します。</p> <p>授業や課題に積極的に取り組んだか、理解しようと努めたかも評価対象です。授業の内容やテーマに関する質問はもちろん、韓国事情・日韓関係など隣接領域に関する質問をした場合も、評価対象となります。</p> <p>課題の提出がない場合は欠席となります。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別欠席以外の理由による欠席は、計4回で失格。 遅刻は2回で欠席1回分とします。 授業中に緊急以外でスマートホン、スマートウォッチ等の操作を行った場合は、退室または失格。 授業開始時に着席していない場合は、タブレット認証が済んでいても遅刻とみなします。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 文字の基礎1 第3回 文字の基礎2、発音変化1 第4回 文字の基礎3、発音変化2、名詞のていねい形 第5回 文字の基礎4 第6回 文字の基礎5 第7回 韓国の食文化 第8回 発音変化3、助詞の使い方 第9回 長文作文、疑問形 第10回 韓国人の人生行事1、動詞・形容詞のていねい形 第11回 韓国人の人生行事2、発音変化4 第12回 韓国人の人生行事3、作文演習 第13回 韓国の学生生活、作文演習 第14回 韓国の年中行事、作文演習 第15回 総復習、期末試験
テキスト	テキストはありません。授業はパワーポイントを使って進めます。 毎回、その回で使用するプリントを配布します。 第2回の授業で配布する文字の一覧表は、各自管理し、毎回持参すること。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業後、もしくはメールで受け付けます。提出物に記入しても構いません。 メールアドレス：kazama-c@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	毎回の課題のフィードバック 提出した課題は、次回授業時に返却します。 授業のはじめに返却した課題の答え合わせを行います。 あわせて、前回の授業内容の復習も行います。 期末試験について 期末試験は第15回授業時に実施します。 授業の前半でこれまでの総復習を行い、後半の時間（約60分間）で期末試験を実施します。 試験問題の出題形式は第14回の授業内で説明します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内容が理解できなかった場合は、必ずその回のうちに質問して、できるようになっておいてください。 分からないままにしておくと、その後の授業が理解できなくなります。 自宅学習の方法などを知りたい場合は、随時質問してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12590
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	金 恩貞
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金 恩貞 (経済学部)
授業の目標	韓国で実際使われている実用的な韓国語を身につけるために読む・書く・聞くを総合的な側面から学習する。様々な場面で韓国語で対話ができることを目標とする。
授業の概要	韓国語の文字体系を理解する。読み書き聞き話しを中心に講義を行う。日常生活に必要な単語やフレーズを学習して会話ができるようになるように練習を行う。
評価方法	授業態度40%、期末テスト40%、小テスト20%。欠席・遅刻・早退はその回数に応じて減点を行う。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業中に他の人との私語と携帯など電子機器を使用禁止。指摘を受けても改善されない場合失格とする。
授業計画	授業計画の詳細は授業計画詳細情報を参照すること。
テキスト	NewカナタKOREAN初級 1 出版社 : 国書刊行会
参考書	テキストを参考にする。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学内電子メールにて対応。
フィードバックの方法	学内電子メールにて対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 : 30分 復習 : 60分
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	授業に関するオリエンテーション及び韓国語の文字体系に関する説明	
2	子音と母音 1	子音と母音の体系を理解する	
3	子音と母音 2	子音と母音の体系を理解する	
4	二重母音	二重母音の体系を理解する	
5	バッチム	バッチムの体系を理解する	
6	文字読みの練習	文字体系を理解し、韓国語が読めるように練習を行う	
7	こんにちは 1	は / である / 私 / 私の簡単な挨拶表現を使い自己紹介を行う	
8	こんにちは 2	は / である / 私 / 私の簡単な挨拶表現を使い自己紹介を行う	
9	これがなんですか 1	指示代名詞 / 何 / が / の / ではない物事を尋ねたり答えることができる	
10	これがなんですか 2	指示代名詞 / 何 / が / の / ではない物事を尋ねたり答えることができる	
11	この人達は誰ですか 1	指示代名詞 / 誰 / です・ます知り合いを紹介することができる	
12	この人達は誰ですか 2	指示代名詞 / 誰 / です・ます知り合いを紹介することができる	
13	山田さん、何をしますか 1	を 目的語と動詞で話すことができる	
14	山田さん、何をしますか 2	を 目的語と動詞で話すことができる	
15	まとめ	まとめを行う。	

開講科目名 Course	코리아語入門 / introductory Korean
時間割コード Course Code	12591
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	金 恩貞
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金 恩貞 (経済学部)
授業の目標	韓国で実際使われている実用的な韓国語を身につけるために読む・書く・聞くを総合的な側面から学習する。様々な場面で韓国語で対話ができることを目標とする。
授業の概要	韓国語の文字体系を理解する。読み書き聞き話しを中心に講義を行う。日常生活に必要な単語やフレーズを学習して会話ができるようになるように練習を行う。
評価方法	授業態度40%、期末テスト40%、小テスト20%。欠席・遅刻・早退はその回数に応じて減点を行う。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業中に他の人との私語と携帯など電子機器を使用禁止。指摘を受けても改善されない場合失格とする。
授業計画	授業計画の詳細は授業計画詳細情報を参照すること。
テキスト	NewカナタKOREAN初級1 出版社 : 国書刊行会
参考書	テキストを参考にする。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学内電子メールにて対応。
フィードバックの方法	学内電子メールにて対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 : 30分 復習 : 60分
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	授業に関するオリエンテーション及び韓国語の文字体系に関する説明	
2	子音と母音 1	子音と母音の体系を理解する	
3	子音と母音 2	子音と母音の体系を理解する	
4	二重母音	二重母音の体系を理解する	
5	バッチム	バッチムの体系を理解する	
6	文字読みの練習	文字体系を理解し、韓国語が読めるように練習を行う	
7	こんにちは 1	は / である / 私 / 私の簡単な挨拶表現を使い自己紹介を行う	
8	こんにちは 2	は / である / 私 / 私の簡単な挨拶表現を使い自己紹介を行う	
9	これがなんですか 1	指示代名詞 / 何 / が / の / ではない物事を尋ねたり答えることができる	
10	これがなんですか 2	指示代名詞 / 何 / が / の / ではない物事を尋ねたり答えることができる	
11	この人達は誰ですか 1	指示代名詞 / 誰 / です・ます知り合いを紹介することができる	
12	この人達は誰ですか 2	指示代名詞 / 誰 / です・ます知り合いを紹介することができる	
13	山田さん、何をしますか 1	を 目的語と動詞で話すことができる	
14	山田さん、何をしますか 2	を 目的語と動詞で話すことができる	
15	まとめ	まとめを行う。	

開講科目名 Course	코리아語初級 / Elementary Korean
時間割コード Course Code	12600
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	風間 千秋
科目区分 Course Group	共通科目群 語学
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	風間 千秋 (経済学部)
授業の目標	<p>코리아語を使って、「話す・聞く・表現する」体験をしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字を覚え、自然に発音できるようになりましょう ・ペアワークを通して、코리아語でのやりとりに慣れましょう ・リスニングで、「外国語が聞き取れる」経験を増やしましょう ・定型表現以外にも、自分自身のことを表現し、覚えましょう
授業の概要	<p>会話で多用される語尾の活用を理解し、口と耳を慣らしていきます。実際の会話を想定したやり取りの練習では、定型フレーズに加え、自分自身の答えを코리아語で表現できるように練習していきます。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 実際の会話で使用される語尾・表現と活用 (2) 質問に対して正確に答える (3) 自分自身のことを表現する (4) 外国語を聞き取る耳を育てる <p>授業形態</p> <p>対面授業です。座席指定。 授業ではペアワークを実施します。</p>
評価方法	<p>毎回の小テスト = 70点 (各回5点×14回) 期末試験 = 30点 (第15回授業時に実施)</p> <p>毎回授業の終わりに、口頭による個別小テストを実施します。 (活用の理解度チェックや、ペアワークを覚えて披露する、など)</p>
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	<p>特別欠席以外の理由による欠席は、計4回で失格。 遅刻は2回で欠席1回分とします。</p> <p>授業開始時に着席していない場合は、タブレット認証が済んでいても遅刻とみなします。</p>

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、文字の復習</p> <p>第2回 あいさつ・あいづち表現を使つての文字と発音変化の復習</p> <p>第3回 体(会話語)の作り方1</p> <p>第4回 名詞の否定形</p> <p>第5回 体(会話語)の作り方2</p> <p>第6回 動詞・形容詞の否定形</p> <p>第7回 固有数字、存在詞</p> <p>第8回 漢数字、可能・不可能表現</p> <p>第9回 第3～8回のまとめ</p> <p>第10回 希望・願望表現</p> <p>第11回 過去形1</p> <p>第12回 過去形2</p> <p>第13回 手段と目的の表現</p> <p>第14回 第10～13回のまとめ、期末試験の準備</p> <p>第15回 期末試験</p>
テキスト	<p>テキストはありません。授業はパワーポイントを使って進めます。</p> <p>毎回、その回で使用するプリントを配布します。</p> <p>作文演習の際、単語を調べるために、スマートフォン等の使用を求めることがあります。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>質問は授業後、もしくはメールで受け付けます。</p> <p>メールアドレス：kazama-c@nagoya-ku.ac.jp</p>
フィードバックの方法	<p>授業のはじめに、前回の授業内容を復習します。</p> <p>第9回・第14回の授業でそれまでに学んだ内容を復習し、知識とスキルの定着を促します。</p> <p>期末試験は第15回授業時に実施します。発表形式です。</p> <p>第14回の授業で試験実施方法を説明し、準備を行います。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>授業内容が理解できなかった場合は、必ずその回のうちに質問して、できるようになっておいてください。</p> <p>自宅学習の方法などを知りたい場合は、随時質問してください。</p> <p>受講期間中は韓国ドラマや映画をなるべく視聴して、授業で学んだ表現を劇中で探してみましよう。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	生涯スポーツ実習I(フットサル)
時間割コード Course Code	13000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	三壁 雄介
科目区分 Course Group	共通科目群 健康とスポーツ
教室 Classroom	体育館
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	三壁 雄介 (法学部)
授業の目標	<p>健康維持のために取り組めるスポーツ実践能力を身につけて、学生生活および生涯の健康生活に役立てることができるようにすることが目標です。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 スポーツを通じた身体活動の実践方法を学ぶことができる。 授業中に取り組んだスポーツ種目の歴史的・文化的背景を学ぶことができます。</p> <p>思考判断の領域 心身の統合を常に考えることができるようになります。</p> <p>関心意欲の領域 自らスポーツに取り組むことができるようになります。 メディアに見るスポーツに、より深い興味を持つことが可能となります。 さまざまなスポーツ技能を高めようと積極的な行動をとれるようになります。</p> <p>態度・志向性の領域 他の人とのコミュニケーションを通して仲間意識が高まります。 豊かな人間性を養うことが可能となります。</p> <p>技能の領域 スポーツへの正しい取り組み方法を身につけることができます。</p> <p>体験探求の領域 スポーツを通して身体活動の楽しさを体験することが可能となります。</p>
授業の概要	<p>この授業では、『フットサル』を題材として身体技法および運動技法の理論と実践方法を習得して、スポーツを安全に実施できる能力を身につけることができ、さらには『フットサル』の技術を習得するとともに、『フットサル』の歴史的・文化的背景およびルール、用語についての理解を得ることになります。これらの授業内容を習得することで、生涯にわたって健康に過ごすための一手段として、安全で長期的に取り組むことができるスポーツ実践方法を身につけることになります。また、多くの学生と共にスポーツの集団活動を通しての体験によって、心身の調和を図り、人間関係を深めていくことにつながり、ソーシャルスキルを学ぶとても有意義な時間を過ごすことができます。</p>
評価方法	<p>評価：参加姿勢、および運動学習への意欲を重要視します。授業の準備、片づけへの参加も重要です。健康を意識した運動実践能力を高めることをねらいとしていることから、知識についてレポートを課します。</p> <p>以上のような運動学習に関する課題についてきちんと取り組み、レポートなどはしっかりと作成して提出することが必要です。さらに、まとめのために行われたテストについても運動学習を確認する上でとても大切です。評価は、以下のような基準でいたします。</p> <p>出席・参加姿勢 40%</p> <p>準備・レポート 30%</p> <p>実技課題 30%</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>ガイダンス 授業概要説明 フットサルの歴史と期待される運動効果 スポーツ障害と予防 自己の体力を知る（体力について、からだの動き） ゲーム 基礎練習（キック、ドリブル・基礎となる技術の構成要素の理解） 基礎練習（ボールタッチ、パス、ドリブル・基礎となる技術の構成要素の理解） 基礎練習（パス&コントロール、シュート、1 v s 1） 基礎練習（パス&コントロール、シュート、2 v s 2） ゲーム 基礎練習（ボール保持）、ゲーム 基礎練習（シュート）、ゲーム ゲーム ゲーム ゲーム ゲーム ゲーム テスト（ゲーム）</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実技の中で、グループ内で問題点、分析、改善についてのディスカッションの時間をとります。その中でコミュニケーション能力を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	日頃より、サッカーの指導者として、また、指導者の講習会を開催している担当教員が生涯スポーツのとしてフットサルの楽しみ方を指導する科目である。
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後に対応 ・メール対応(mi kabe@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>スポーツを行うにあたり、心身ともに充実した実技を行えるよう日頃より、生活のリズムを整え体調に配慮すること。 競技特性のイメージを取得し実技に臨めるように、映像を見るなどして授業計画にあるテクニックを把握しておくとい。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3. すべての人に健康と福祉を 5. ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	<p>1. 親和力 2. 協同力</p>

開講科目名 Course	生涯スポーツ実習Ⅰ(ゴルフ)
時間割コード Course Code	13001
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	三壁 雄介
科目区分 Course Group	共通科目群 健康とスポーツ
教室 Classroom	体育館
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	三壁 雄介 (法学部)
授業の目標	<p>健康維持のために取り組めるスポーツ実践能力を身につけて、学生生活および生涯の健康生活に役立てることができるようにすることが目標です。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 スポーツを通じた身体活動の実践方法を学ぶことができる。 授業中に取り組んだスポーツ種目の歴史的・文化的背景を学ぶことができます。</p> <p>思考判断の領域 心身の統合を常に考えることができるようになります。</p> <p>関心意欲の領域 自らスポーツに取り組むことができるようになります。 メディアに見るスポーツに、より深い興味を持つことが可能となります。 さまざまなスポーツ技能を高めようと積極的な行動をとれるようになります。</p> <p>態度・志向性の領域 他の人とのコミュニケーションを通して仲間意識が高まります。 豊かな人間性を養うことが可能となります。</p> <p>技能の領域 スポーツへの正しい取り組み方法を身につけることができます。</p> <p>体験探求の領域 スポーツを通して身体活動の楽しさを体験することが可能となります。</p>
授業の概要	<p>この授業では、『ゴルフ』を題材として身体技法および運動技法の理論と実践方法を習得して、スポーツを安全に実施できる能力を身につけることができ、さらには『ゴルフ』の技術を習得するとともに、『ゴルフ』の歴史的・文化的背景およびルール、用語についての理解を得ることになります。これらの授業内容を習得することで、生涯にわたって健康に過ごすための一手段として、安全で長期的に取り組むことができるスポーツ実践方法を身につけることとなります。また、多くの学生と共にスポーツの集団活動を通しての体験によって、心身の調和を図り、人間関係を深めていくことにつながり、ソーシャルスキルを学ぶとても有意義な時間を過ごすことができます。</p>
評価方法	<p>評価：参加姿勢、および運動学習への意欲を重要視します。授業の準備、片づけへの参加も重要です。健康を意識した運動実践能力を高めることをねらいとしていることから、知識についてレポートを課します。</p> <p>以上のような運動学習に関する課題についてきちんと取り組み、レポートなどはしっかりと作成して提出することが必要です。さらに、まとめのために行われたテストについても運動学習を確認する上でとても大切です。評価は、以下のような基準でいたします。</p> <p>参加姿勢 30% レポート 30% 実技課題 40%</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>ガイダンス 授業概要説明 ゴルフの歴史と期待される運動効果 スポーツ障害と予防 授業の概要、基本スイング 用具説明、基本スイング構成要素 スイングの構成要素（構え、テイクバック、インパクト、フォロースルー） スイングの構成要素（構え、テイクバック、インパクト、フォロースルー） アイアンショット（狙いを定めたアプローチショット） アイアンショット アイアンショット（狙いを定めたアプローチショット） アイアンショット（狙いを定めたアプローチショット）評価テスト ドライバーショット ドライバーショット ドライバーショット ゴルフ ゲーム狙いを定めた打数競争 ゴルフ スイングの復習と簡易ゲーム</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実技の中で、グループ内で問題点、分析、改善についてのディスカッションの時間をとります。その中でコミュニケーション能力を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後に対応 ・メール対応(mikabe@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>スポーツを行うにあたり、心身ともに充実した実技を行えるよう日頃より、生活のリズムを整え体調に配慮すること。 競技特性のイメージを取得し実技に臨めるように、映像を見るなどして授業計画にあるテクニックを把握しておくことよい。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3. すべての人に健康と福祉を 5. ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	4.感情制御力

開講科目名 Course	生涯スポーツ実習I
時間割コード Course Code	13002
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	神谷 知里
科目区分 Course Group	共通科目群 健康とスポーツ
教室 Classroom	体育館
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 知里 (法学部)
授業の目標	<p>多くのスポーツ種目を体験・経験することで、様々な運動実践方法や健康維持のための運動実践能力を身につけて、学生生活および生涯の健康生活に役立てることができるようにします。</p> <p>知識・理解の領域 簡単な運動を通じた身体活動の実践方法を学ぶことができます。 授業中に取り組んだスポーツ種目の歴史的・文化的背景を学ぶことができます。</p> <p>思考判断の領域 心身の統合を常に考え、バランスを保とうと行動するようになります。</p> <p>関心意欲の領域 どのような場所でも自ら身体活動に取り組むことができるようになります。 メディアを通して見るスポーツに、より深い興味を持つことが可能となります。</p> <p>態度・志向性の領域 どのような状況下でも何ができるかという発想力をみにつけることができます。 自分自身に合った活動を見つけ出そうとすることで積極的な行動がとれるようになります。</p>
授業の概要	<p>下記に示したスポーツ種目の中から、3種目を選択して取り組みます。 複数の種目に取り組むことによって、それぞれの種目のルールや用語の理解を深めるとともに、実技実践を通して幅広く基礎的運動技法を習得することができます。また、健康に生活を送ることができるように、生涯にわたっての健康増進法として長期的に取り組むことができるスポーツ実践方法を身につけることが可能となります。 スポーツ活動を通して、講義科目では体験できない豊かな人間関係を習得することができます。</p> <p>《開講予定のスポーツ種目》 1.卓球 2.バドミントン 3.バスケットボール 4.硬式テニス 5.フットサル 6.ゴルフ 7.バレーボール</p>
評価方法	<p>平常点60%：参加姿勢、および運動学習への意欲、授業の準備、片づけへの参加 授業内記録40%：授業内で定期的実施する基礎スキルの達成状況</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>6回以上の「欠席」は失格とします。 (「遅刻・早退」は、0.5回の欠席扱いとします)</p>

授業計画	<p>第1週 ガイダンス（授業説明・種目選択・感染予防） 第2週～第6週 1種目（5週） 第7週～第11週 2種目（5週） 第12週～第15週 3種目（4週）</p> <p>合わせて3種目のスポーツに取り組みます。</p> <p><卓球：5週分のシラバス> 1回目：基本練習（サーブ・フォアハンド、ショート、ラリー、スマッシュ） 2回目：簡易ゲーム 3回目：シングルスゲーム 4回目：ダブルスゲーム 5回目：シングルスゲーム（リーグ戦）</p> <p><バドミントン：5週分のシラバス> 1回目：基本練習（クリヤー、ドロップ、スマッシュ、ドライブ、アンダークリアー、ヘアピン） 2回目：簡易ゲーム 3回目：シングルスゲーム 4回目：ダブルスゲーム 5回目：シングルスゲーム（リーグ戦）</p> <p><バスケットボール：5週分のシラバス> 1回目：基本練習（ドリブル、パス、シュート） 2回目：対人練習（1on1、2on2） 3回目：3 on 3 4回目：5 on 5 5回目：リーグ戦</p> <p><硬式テニス：5週分のシラバス> 1回目：基本練習（グランドストローク（フォアとバック、サーブ） 2回目：簡易ゲーム 3回目：シングルスゲーム 4回目：ダブルスゲーム 5回目：シングルスゲーム（リーグ戦）</p> <p><フットサル：5週分のシラバス> 1回目：基本練習（ドリブル、パス、シュート） 2回目：対人練習 3回目：簡易ゲーム 4回目：ゲーム 5回目：リーグ戦</p> <p><ゴルフ：5週分のシラバス> 1回目：基本練習（スイングづくり） 2回目：クラブの使い分け1（ショートアイアン） 3回目：クラブの使い分け2（ミドルアイアン） 4回目：クラブの使い分け3（ドライバー） 5回目：クラブをランダムに使い分けて目標地点へよせる</p> <p><バレーボール：5週分のシラバス> 1回目：基本練習1（オーバーパス、アンダーパス、サーブ） 2回目：基本練習2 3回目：簡易ゲーム 4回目：ゲーム（ソフトバレーボール） 5回目：ゲーム（リーグ戦）</p>
テキスト	必要に応じて、資料を配布します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	質問への対応は、授業内での質疑応答、またはメールにて随時対応します。
フィードバックの方法	種目ごとに、基礎的なスキル練習などを実施、ゲーム形式で練習成果を振り返ります。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で行われるあらゆる個人スキルやプレーション、状況を想定し、インターネット配信動画などを観てイメージする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	生涯スポーツ実習I
時間割コード Course Code	13003
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	神谷 知里
科目区分 Course Group	共通科目群 健康とスポーツ
教室 Classroom	体育館
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 知里 (法学部)
授業の目標	<p>多くのスポーツ種目を体験・経験することで、様々な運動実践方法や健康維持のための運動実践能力を身につけて、学生生活および生涯の健康生活に役立てることができるようにします。</p> <p>知識・理解の領域 簡単な運動を通じた身体活動の実践方法を学ぶことができます。 授業中に取り組んだスポーツ種目の歴史的・文化的背景を学ぶことができます。</p> <p>思考判断の領域 心身の統合を常に考え、バランスを保とうと行動するようになります。</p> <p>関心意欲の領域 どのような場所でも自ら身体活動に取り組むことができるようになります。 メディアを通して見るスポーツに、より深い興味を持つことが可能となります。</p> <p>態度・志向性の領域 どのような状況下でも何ができるかという発想力をみにつけることができます。 自分自身に合った活動を見つけ出そうとすることで積極的な行動がとれるようになります。</p>
授業の概要	<p>下記に示したスポーツ種目の中から、3種目を選択して取り組みます。 複数の種目に取り組むことによって、それぞれの種目のルールや用語の理解を深めるとともに、実技実践を通して幅広く基礎的運動技法を習得することができます。また、健康に生活を送ることができるように、生涯にわたっての健康増進法として長期的に取り組むことができるスポーツ実践方法を身につけることが可能となります。 スポーツ活動を通して、講義科目では体験できない豊かな人間関係を習得することができます。</p> <p>《開講予定のスポーツ種目》 1．卓球 2．バドミントン 3．バスケットボール 4．硬式テニス 5．フットサル 6．ゴルフ 7．バレーボール</p>
評価方法	<p>平常点60%：参加姿勢、および運動学習への意欲、授業の準備、片づけへの参加 授業内記録40%：授業内で定期的実施する基礎スキルの達成状況</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>6回以上の「欠席」は失格とします。 (「遅刻・早退」は、0.5回の欠席扱いとします)</p>

授業計画	<p>第1週 ガイダンス（授業説明・種目選択・感染予防） 第2週～第6週 1種目（5週） 第7週～第11週 2種目（5週） 第12週～第15週 3種目（4週）</p> <p>合わせて3種目のスポーツに取り組みます。</p> <p><卓球：5週分のシラバス> 1回目：基本練習（サーブ・フォアハンド、ショート、ラリー、スマッシュ） 2回目：簡易ゲーム 3回目：シングルスゲーム 4回目：ダブルスゲーム 5回目：シングルスゲーム（リーグ戦）</p> <p><バドミントン：5週分のシラバス> 1回目：基本練習（クリヤー、ドロップ、スマッシュ、ドライブ、アンダークリアー、ヘアピン） 2回目：簡易ゲーム 3回目：シングルスゲーム 4回目：ダブルスゲーム 5回目：シングルスゲーム（リーグ戦）</p> <p><バスケットボール：5週分のシラバス> 1回目：基本練習（ドリブル、パス、シュート） 2回目：対人練習（1on1、2on2） 3回目：3 on 3 4回目：5 on 5 5回目：リーグ戦</p> <p><硬式テニス：5週分のシラバス> 1回目：基本練習（グランドストローク（フォアとバック、サーブ） 2回目：簡易ゲーム 3回目：シングルスゲーム 4回目：ダブルスゲーム 5回目：シングルスゲーム（リーグ戦）</p> <p><フットサル：5週分のシラバス> 1回目：基本練習（ドリブル、パス、シュート） 2回目：対人練習 3回目：簡易ゲーム 4回目：ゲーム 5回目：リーグ戦</p> <p><ゴルフ：5週分のシラバス> 1回目：基本練習（スイングづくり） 2回目：クラブの使い分け1（ショートアイアン） 3回目：クラブの使い分け2（ミドルアイアン） 4回目：クラブの使い分け3（ドライバー） 5回目：クラブをランダムに使い分けて目標地点へよせる</p> <p><バレーボール：5週分のシラバス> 1回目：基本練習1（オーバーパス、アンダーパス、サーブ） 2回目：基本練習2 3回目：簡易ゲーム 4回目：ゲーム（ソフトバレーボール） 5回目：ゲーム（リーグ戦）</p>
テキスト	必要に応じて、資料を配布します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問への対応は、授業内での質疑応答、またはメールにて随時対応します。
フィードバックの方法	種目ごとに、基礎的なスキル練習などを実施、ゲーム形式で練習成果を振り返ります。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で行われるあらゆる個人スキルやプレーション、状況を想定し、インターネット配信動画などを観てイメージする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	健康生活と生涯スポーツ
時間割コード Course Code	13040
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	神谷 知里
科目区分 Course Group	共通科目群 健康とスポーツ
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 知里 (法学部)
授業の目標	<p>運動不足による生活習慣病の実態について知識を深めることによって、生涯にわたって健康について意識した生活をおくることができるようになります。</p> <p>知識・理解の領域 運動不足による生活習慣病の実態について学ぶことができます。 運動やスポーツを実践することによる身体への好影響を学ぶことができます。</p> <p>思考判断の領域 日常生活における健康を阻害するものを自ら選別することが可能となる。</p> <p>関心意欲の領域 日常生活の運動不足解消のため、積極的に運動を取り込もうとするようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 健康に関する意識を高くし、運動を取り入れた生活習慣を得られるようになる。</p> <p>技能の領域 日常生活の中で取り組める運動について、正しい知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>1) “健康に生活できる”とはどのようなことなのかを、しっかり考えてみましょう。</p> <p>2) 自分自身の身体がどのようなつくりになっているかを理解します。</p> <p>3) 身体を形成している骨や筋肉の構成、動き、形成などについて詳しく学びましょう。</p> <p>4) 運動実践やスポーツ実践による身体への影響について学びましょう(長所・短所)。</p> <p>5) 運動、またはスポーツを通じた健康的な生活設計を立てられるようにしましょう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	<p>授業内評価75%：毎回の授業内で実施する小レポートや課題の評価</p> <p>試験25%：学期末に実施される定期試験</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>6回以上の「欠席」は失格とします。</p> <p>(「遅刻・早退」は、0.5回の欠席扱いとします)</p>

授業計画	第1週 講義の概要説明 / 健康水準と健康問題 第2週 健康とは / 健康に関する環境づくり 第3週 生活習慣病とその予防 / 食事と健康 第4週 運動・休養・睡眠と健康 第5週 喫煙・飲酒と健康 第6週 薬物乱用と健康 / ドーピング 第7週 感染症とその予防 第8週 応急手当と心肺蘇生法 第9週 生涯にわたる健康づくり 第10週 身体のしくみと働き 第11週 呼吸循環器系の働きとエネルギー供給 第12週 スキルの獲得と獲得過程 第13週 ストレスと心の健康 第14週 心の健康と自己実現 / スポーツと心理 第15週 生涯スポーツの見方・考え方
テキスト	必要に応じて、資料を配布します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問への対応は、授業内での質疑応答、またはメールにて随時対応します。
フィードバックの方法	授業内で実施した小レポートや課題などについて、返却いたします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で、次週に学習予定のテーマ、内容について告知します。 それぞれの身近な話題や事例についてまとめたり、リサーチ、用語を調べるなどをして、各自、事前学習を進めてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(C)模型 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	谷川 毅
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	5 A 2 商品学実験室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	谷川 毅 (経営学部)、李 彩華 (経営学部)
授業の目標	<p>静岡の模型文化の歴史を知り、実際に模型を作ることによりその進化を体験し、その経験をまとめて発表する。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 静岡が模型文化の中心になった歴史背景を知ることができる。 模型のパッケージ、部品、説明書などにどのような工夫がされているかを知ることができる。</p> <p>思考・判断の領域 模型の進化をたどることで、その原因・理由について実際に体験を通して考えることができる。 実際に自分の手で作ることによって、その場その場でどのようにしたら良いか考え、自分で判断して実行する力が身に付く。 組み立て説明書を読み解く力、それに基づいて組み立ての工程を自分で考える力を身につけることができる。</p> <p>技能の領域 模型作成の技術を向上させることができる。 自分の経験をまとめる力が身に付く。</p> <p>関心・意欲の領域 こんなふうに工夫すればもっとうまくできる、こうすればもっと効率よくできるなど、積極的に様々なことを考えることができるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 手づくり、ものづくりについて関心を深めることができる。</p> <p>体験探求の領域 ひとつのことを覚えることで満足することなく、さらにどのようなことができるか探求するようになる。</p>

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は対面型です。新型コロナの状況次第では家で作業をしてもらう可能性もあります。 ・愛知県のお隣り静岡県は日本の模型文化の聖地と呼ばれ、日本を代表する模型会社が集結しています。 ・その中でもバンダイがシリーズ化したアニメーション『機動戦士ガンダム』のプラモデルは「ガンプラ」と呼ばれ、プラモデルの世界にひとつのジャンルを作り上げました。 ・そのガンプラを中心に、木工模型、プラモデルなどを実際に自分で組み立て、それぞれの面白さ、楽しさ、難しさを体験し、日本の模型文化について見識を広めます。 ・プロのモデラーの方に来ていただいて、講演とプラモデル作成の指導をしてもらいます。来ていただくのは「プラモつくるーぜ会」を主催し、東海地区で幅広く活動している山田良太さんです。山田さんはプラモデルの専門雑誌『モデルグラフィックス』にも記事を執筆、ご自身の作品を提供しています。 ・授業は単に模型を作るだけでなく、その中で自分が体験した様々なことを記録し、最後にまとめて発表してもらいます。WordやPowerPointの基本的なスキルが必要です。 <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席については出てくるのが基本なのできびしく対応します。 ・無断欠席、2回続けて欠席した場合はその時点で失格とします。特に外部での活動は必須。外部での活動は重要度が高いので欠席した場合は失格扱いとします。 <p>成績はそれぞれの課題・活動にどれだけ取り組んだかによって評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	無断欠席、2回続けて欠席した場合は失格。
授業計画	<p>第1回・第2回 模型作成（1）木工模型（帆船組み立てキット）</p> <p>第3回・第4回 模型作成（2）ガンダム（初期）：接着剤を使って組み立てる プロのモデラーの講演・実技指導</p> <p>第5回・第6回 模型作成（3）ガンダム〔2をリニューアルしたもの〕：接着剤不要のスナップキット</p> <p>第7回から第9回 模型作成（4）ガンダム（HG）：色分けランナー・関節可動域が大きい</p> <p>第10回から第12回 模型作成（5）30MM（30 MINUTES MISSIONS）：新しいコンセプトのロボット模型</p> <p>第13回 模型作成（6）ガンダム・エントリーグレード〔最新の入門版〕</p> <p>第14回 これまでの作業についてまとめる</p> <p>第15回 まとめた内容をプレゼンテーション</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	その都度対応する。授業の後や、メールでの対応も可。
フィードバックの方法	作成した作品への講評や、プレゼンテーションについての評価はその場でコメントを返す。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	プラモデルの作成方法については事前にインターネットを使って調べて予習したり、PowerPointにまとめるために毎回自分の気になったところをきちんと整理したり、模型文化について調べたりするために60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(G)Webサイト / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13401
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	情報実習室 A
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>Webサイトは広く情報を発信して、コミュニケーションを行うツールとして、今やビジネスを行う上でなくてはならないものになっている。本授業ではWebサイトに注目をして、Webサイトを制作するプロセスを体験しながら、情報発信におけるWebサイトの役割や特性などを学んでいく。</p> <p><学習成果> 思考判断の領域 Webサイトを経営やマーケティングの視点で捉えることができるようになる。 態度・志向性の領域 Webサイトの技術に興味を持ち、経営と技術の関わりを理解できるようになる。 知識・理解の領域 Webサイトの仕組みとWebサイトができるまでの制作プロセスを理解することができる。 技能の領域 コンセプト・企画立案、画像処理方法などが習得できる。 態度・志向性の領域 Webサイトの仕組みやデザインに関心を持ち、Webサイトを通じたコミュニケーションに関心を持つ。 体験探究の領域 作成したWebサイトをプレゼンテーションする力を付けることができる。</p>
授業の概要	<p>Webサイトの仕組みや作成方法を学んだ上で、コンピュータを使いながら、Webサイトを実際に作成していく。授業の流れとしては、Webサイトの基本的な事項から、構造、デザインなどの知識を身に付け、学外取材によるコンテンツ収集などを行いながら、各自でWebサイトを実際に作成する。最終回には、作成したWebサイトの発表を行う。</p> <p>〔授業形態〕 この授業は対面授業で実施します。 授業内容（シラバス）に関する質問は担当教員の授業後、オフィスアワーの時間にしてください。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業への取り組み姿勢と最終発表の内容で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席の回数が3回以上の場合

授業計画	< 授業計画 > 1回目 メディアの役割、概略 2回目 画像編集ソフト演習 (photoshop) 3回目 学外取材 4回目 画像編集ソフト演習 (photoshop) 5回目 学外取材 6回目 HTML演習 7回目 HTML演習 8回目 学外取材 9回目 HTML演習 10回目 CSS演習 11回目 CSS演習 12回目 webサイト制作 13回目 webサイト制作 14回目 webサイト制作 15回目 webサイト制作
テキスト	なし
参考書	適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	基本的にはメールで回答する。
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1～10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11～17)	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(I)学習支援(前) / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13402
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	3 4 A多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山下 幸裕(経営学部)、水谷 仁(法学部)、人見 浩司(経済学部)
授業の目標	<p>学ぶことは、本来、楽しいことなのです。本学の周りは未知の学びの体験ゾーンです。グループ仲間と助け合って学びを味わう活動をプロジェクトと呼びます。あなたは、この体験型プロジェクトで何を見つけてみましょうか？</p> <p>この学びのプランでは、近隣の小学校で、放課後の学習支援を体験することにより、「教育」や「地域貢献」とは何か、また社会的責任をとることの大切さについて理解を深めることを目標とします。</p> <p>< 学習成果 ></p> <p>知識・理解の観点 「教育」や「地域貢献」とは何かを学習支援の実践の中で体得し説明することができる。 地域との連携の課題や意義を理解し説明することができる。</p> <p>思考・判断の観点 児童たちの学習を支援する過程で出会う問題について自主的に考え判断し適切に対応することができる。</p> <p>関心・意欲の観点 児童たちの学習を支援する活動を経験することにより、教育の厳しさや喜びを体で覚え、自ら学び続ける自覚を高めることができる。</p> <p>態度の観点 熱意をもって補習授業の学習支援を行うことができる。 児童たちへの学習支援を行うことを通じて、責任を感じ、責任ある行動を取ることができるようになる。</p> <p>学習支援の効果的な方法を自ら進んで考えたり調べたりするようになる。</p> <p>技能・表現の観点 児童たちの学習を補助指導するノウハウが身につく。 「教育」や「地域貢献」などについて理解が深化し、まとめを自らの言葉で作成することができる。</p> <p>体験・探究の観点 教育の現場、地域を深く知ることを通じて自主的に学習することの大切さを再認識し、新たな問題を探求する力を育てゆく。</p>

授業の概要	<p>このプロジェクトでは、小牧小学校3年生の放課後の補習授業（「学びっ子教室」）への学習支援活動を行います。学生の皆さんは、放課後の「学びっ子教室」に参加し、小牧小3年生の補助教材（算数と国語のドリル）を利用した自学自習の補助・支援を実施します。</p> <p>学校教育または地域貢献に関心のある学生、特に教職を目指す学生は、ぜひこのプロジェクトに参加していただきたいと思います。児童たちの自習を温かく見守り、ともに成長していくことを願っています。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>AA,A,B,C,D,S,X方式で評価します。</p> <p>出席状況、支援活動に取り組む熱意、レポートなどで総合的に評価します。児童たち・小学校への対外的責任がありますので、出席を特に重視します。正当な理由なく欠席したり遅刻したりした場合は失格(X)にすることがあります。特に事前学習に参加しない学生は、後日の小学校での学習支援には参加できません。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正当な理由なく欠席したり遅刻したりした場合 ・ 連絡なく欠席・遅刻があった場合 ・ 事前学習に参加しなかった場合 ・ 学習支援活動に支障をきたす言動があった場合
授業計画	<p>第1週（1～2回）ガイダンス、事前学習（ファシリテーション等）</p> <p>第2週（3～4回）事前学習（ファシリテーション、学習支援演習等）</p> <p>第3週（5～6回）小牧小教員による事前指導（小牧小）</p> <p>第4週（7～8回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第5週（9～10回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第6週（11～12回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第7週（13～14回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第8週（15～16回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第9週（17～18回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第10週（19～20回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第11週（21～22回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第12週（23～24回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第13週（25～26回）「学びっ子教室」の学習支援（小牧小）</p> <p>第14週（27～28回）振り返り、レポート準備</p> <p>第15週（29～30回）レポート作成と提出（発表）</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大や学びっ子教室の日程調整により授業計画や評価方法が変更する場合があります。</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習において、学生同士でインタビューを実施し、インタビュー内容を記録し、グループで共有し、振り返りを実施する。 ・ 学習支援において、小牧小学校3年生の放課後補習授業（「学びっ子教室」）の学習を補助・支援し、補助授業終了後に振り返りを実施する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問があれば、簡単なものはその場で、複雑な内容のものは、主としてオフィスアワー等を用いて、授業後に答えます。
フィードバックの方法	授業中に実施します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	120時間の準備学習を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(L)飛行機 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13404
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	水島 玲央
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水島 玲央 (法学部)
授業の目標	<p>知識と理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の関心のあることについてさらに深く掘り下げて調べる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なテーマを通じて、図書館などで資料を集められるようにする。 <p>態度と志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に参加できるようにする。 ・無駄な遅刻や欠席はしないようにする。
授業の概要	<p>東海地方は航空産業が盛んな地域である。例えば（残念ながら開発が中止となってしまったが）三菱スペースジェットの工場は愛知県にあったし、ボーイング787の部品の多くがこの地域で生産されたことから初号機が中部国際空港（セントレア）内の施設「フライト・オブ・ドリームズ」に寄贈されたといわれている。この授業では、東海地方が日本の航空産業に大きな役割を果たしている点に注目し、航空関連の施設や博物館などを見学することで、東海地方の航空産業について学習してみたい。飛行機が好きな方々の受講を歓迎したい。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は、受講態度60%、課題40%とする。 ・授業の3分の2以上「出席」しない場合、失格とする（遅刻は出席にカウントしない）。 ・また2週連続で出席しなかった者も、失格とする。 ・パソコンを必ず持参すること。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>○次の行為があった場合、学習の意思がないものとみなし、即座に失格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手ぶらで授業に来ること。 ・小物しか入らないポシェットやペンケースのみ持ってくる者もいるが、A4の書類やパソコンを収納できる鞆を持ってこない者も、同様とする。（勉強する格好で学校に来ること） ・出欠確認後の逃亡。 <p>字数の関係上、詳細は初回の授業で述べたい。</p>

授業計画	授業計画（予定）（見学場所とその順序や日時には変更がありうる） <ul style="list-style-type: none"> ・第1週 ガイダンス ・第2週 見学前の準備 ・第3週 あいち航空ミュージアム ・第4集 見学後のまとめ ・第5週 見学前の準備 ・第6週 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館 ・第7週 見学後のまとめ ・第8週 見学前の準備 ・第9週 フライト・オブ・ドリームズ ・第10週 見学後のまとめ ・第11週 見学前の準備 ・第12週 航空自衛隊小牧基地 ・第13週 見学後のまとめ ・第14週 最終課題の準備 ・第15週 最終課題の発表と提出
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に応じる。
フィードバックの方法	学生の提出した課題については、採点して後日コメントしたい。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	施設の見学の前後の回に予習と復習を行うが、それだけでは足りないので、各自当該施設のHPを事前に調べるなど予習を行い、施設見学後は忘れないうちに自分がみたものを整理しておくこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	9.実践力

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(P)自動車産業 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13405
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	近藤 久雄 (法学部)、大曾 暢烈 (経営学部)、ウミリデノブ アリシェル (法学部)
授業の目標	<p>1. 自動車産業の歴史について理解すること。 2. 自動車産業について学習することを通じて、企業経営に関する知識を獲得すること。</p> <p>【学習成果】</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本のクルマの歴史について説明することができる ・クルマの魅力や走ることの楽しさについて説明することができる ・トヨタ生産方式の特徴について説明することができる ・自動車販売の心得について説明することができる <p>思考・判断の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車産業の学習を通じて、企業経営の基礎を学び、論理的思考を身につけることができる <p>関心・意欲の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞・雑誌・インターネットを通じて、クルマや自動車会社に関心を寄せるようになる ・新聞・雑誌・インターネットでクルマに関する情報を的確に探することができるようになる <p>態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車産業について学習することを通じて、自律的な学習姿勢を身につけることができる ・チームでプレゼン資料を作成することによりチームで働く力を身につけることができる <p>技能・表現の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら調査し、考え、まとめ、発表する力が身につく <p>体験・探究の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「予習する 学外で体験する 振り返る」のプロセスを繰り返すことで、体験を自らの生きた知恵にすることができる

授業の概要	<p>【授業の概要】</p> <p>愛知県は、トヨタ自動車をはじめとして、自動車に関連する産業が盛んな地域です。そうした環境を活かして、本プロジェクトは、自動車産業について学習することに取り組みます。</p> <p>自動車がどのように製造され、販売されるのか、その一連の企業活動について学習します。また、トヨタ自動車の博物館などの見学を通して、日本における自動車産業の生成と発展を学びます。こうした点を学ぶことで、日本の代表的な製造業である自動車産業について理解すること、さらに、自動車産業を通じて、どのように企業経営が行われているのかを学習するきっかけを提供します。</p> <p>具体的に、以下の活動を予定しています（学外での学習に伴い、予定した活動内容を変更する可能性があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーキット体験、部品工場見学、自動車組立工場見学、販売店の訪問または営業社員によるレクチャー、博物館・記念館などの見学、自動車産業に関連したグループワーク（自動車産業への理解、各自動車メーカーの企業経営の理解、ディスカッション） <p>【講義の進め方】</p> <p>このプロジェクトは、4月～7月の毎週火曜日の午後を実施します。週によって、3時限だけの場合、3～4時限と連続する場合、3～5時限と連続する場合と様々です。学外に出て学ぶ場合は3～5時限となります。学び方は、予習する 学外で体験する 振り返る 予習する・・・というサイクルとなります。また、学外での学習に伴い、授業計画を変更する可能性があります。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>G, S方式で評価します。</p> <p>プロジェクトへの取組姿勢等と提出課題を総合して評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	著しく欠席が多い場合
授業計画	<p>第1週 ガイダンス</p> <p>第2週 自動車に関する映像資料を見る (1)</p> <p>第3週 自動車に関する映像資料を見る (2)、振り返りと次回の準備 (モータースポーツについて)</p> <p>第4週 「見て」、「乗って」、「走って」、クルマの魅力を体感する</p> <p>第5週 振り返りと次回の準備 (産業技術記念館で何を学ぶか)</p> <p>第6週 産業技術記念館でクルマの歴史を学ぶ</p> <p>第7週 振り返りと次回の準備 (部品工場で何を学ぶか)</p> <p>第8週 部品工場でクルマの製造を学ぶ</p> <p>第9週 振り返りと次回の準備 (組立工場で何を学ぶか)</p> <p>第10週 組立工場でクルマの製造を学ぶ</p> <p>第11週 振り返りと次回の準備 (トヨタ博物館で何を学ぶか)</p> <p>第12週 トヨタ博物館でクルマの歴史を学ぶ</p> <p>第13週 グループワーク</p> <p>第14週 グループワーク</p> <p>第15週 プレゼンテーション</p>
テキスト	教科書は用いず、必要に応じてプリントを配布します。
参考書	適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ディスカッションや発表などを実施する予定です。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	授業中に講評する
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の講義内容について、予習4時間、復習4時間が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1～10)	<p>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>

SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(XC)犬山学/名大博物館(前)/Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13406
開講所属 Course Offered by	大学共通/
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度/Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火/Tue 3, 火/Tue 4
開講区分 semester offered	前期/.
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	足立 守
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	足立 守(法学部)
授業の目標	地球の自然物は動物と植物と鉱物(鉱物の集合体が岩石)の3つからできていて、互いに密接に関連し、水を介して生態系を作っています。 この体験型プロジェクトでは、岩石(石が風化した土壌も含めて)に着目し、自然(自然物)を五感のすべてを使ってよく観察し、「自然の成り立ち」、「生物の進化」、「ヒトと自然との関わり」を自然の中で学び、『自然に学ぶ(自然から教えてもらう)』というスタンスを身につけることが目標になります。
授業の概要	授業は初回と最終回を除き学外で行ないます。 本物の自然(および自然物)を木曽川・飛騨川の河床、犬山城や名古屋城、岩屋古墳や二ノ宮古墳、名古屋大学博物館、日本最古の石博物館、中津川市鉱物博物館、瑞浪市化石博物館、関ヶ原石材ストーンギャラリーなどで観察し、自然の仕組みおよびヒトが石をどのように利用してきたかを学びます。 飛騨金山・中津川・関ヶ原などの遠い場所の自然観察には、平日ではなく土日祝日の一日を使ってバス見学授業で行います。
評価方法	体験型の授業なので、基本的に全回出席が前提となります。 授業への出席率やレポート・小テストの結果などに基づいて、評定(AA, A, B, C, D)方式で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第1回 ガイダンス、本学の建物・石垣の石材 第2回 犬山城、段丘、木ノ下城趾 第3回 木曽川河床の中生代堆積岩 第4・5回 関ヶ原石材ストーンギャラリー、赤坂石灰岩 第6回 木曽川泥流堆積物、鷺沼石、二ノ宮古墳 第7回 田原神社、熊野神社、岩屋古墳 第8回 名古屋城、愛知県護国神社 第9回 名古屋大学博物館、2008ノーベル賞展示室 第10回 名古屋市内の地形、東桜開館 第11・12回 日本最古の石博物館、上麻生礫岩、飛騨金山甌穴群 第13・14回 中津川市鉱物博物館、瑞浪市化石博物館 第15回 まとめの授業、岐阜県の天然記念物
テキスト	特になし
参考書	特になし

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業で実施する小テストの最後の設問が質問になっているので、原則として質問はそこで受け付けるがメールでも受け付ける。
フィードバックの方法	質問への回答は翌週の授業の時あるいはメールで行なう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習が必要な場合にはメール等で連絡をするので、それに従って各自で下調べを行う。復習については小テストの設問を見て各自で行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(XE)犬山学/徳川美術館(前)/Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13407
開講所属 Course Offered by	大学共通/
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度/Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火/Tue 3, 火/Tue 4
開講区分 semester offered	前期/.
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	四辻 秀紀
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	富岡 仁(管理栄養学科)、四辻 秀紀(経営学部)、安部 伸哉(経済学部)
授業の目標	この地域で育まれてきた歴史や文化をたどりつつ、その本質について知識と理解を深めていくことを目指します。
授業の概要	地元の歴史・文化に関心を寄せ、古典や歴史に対する理解度を高めるとともに、その後の日本人の美意識、日本文化の諸相を思考する目を養っていきます。犬山城や名古屋城をはじめとする史跡をめぐり、刀剣や甲冑に触れ、あるいは茶道や香道を実際に体験することで、日本文化に親しみ、知識を身につけます。
評価方法	体験型の授業なので、全回出席が前提となります。授業への参加、提出物、期末課題制作への貢献に基づいてG/S方式で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 尾張の歴史と文化(本学) 第3回 犬山の歴史と祭りを調べる(本学) 第4回 犬山城とどんでん館・白帝文庫見学 第5回 名古屋城の歴史と本丸御殿の機能を知る(本学) 第6回 名古屋城本丸御殿および周辺の見学 第7回 徳川美術館の歴史と収蔵品(本学) 第8回 徳川美術館の収蔵品について調べる(本学) 第9回 徳川美術館展覧会見学 第10回 徳川美術館ワークショップ(刀剣・鉄砲に触れ、甲冑を着装する) 第11回 茶の湯の歴史を学ぶ(本学) 第12回 徳川美術館ワークショップ(茶の湯に親しみ香の文化を体験する) 第13回 美濃焼ミュージアム ワークショップ(焼き物の歴史を学・作陶体験) 第14回 関市刀剣ミュージアム ワークショップ 刀の鍛錬見学・体験 第15回 まとめ</p> <p>体験型の授業なので、全回出席が前提となります。天候や受け入れ先の都合で、カリキュラムを変更一部変更する場合があります。また土曜日・日曜日に見学を実施する場合がありますので承知しておいて下さい。 交通費・名古屋城入場料・美濃焼ミュージアムなど、施設により実費が必要となります。</p>
テキスト	必要に応じて配布します
参考書	必要に応じて授業中に紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	この科目は、徳川美術館・学芸員の経験を有する教員が、地元の歴史・文化に関心を寄せ、古典や歴史に対する知識と理解度を高める「実務経験のある教員による授業科目」です
質問への対応方法	随時対応・メール対応。
フィードバックの方法	翌週返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習・復習は全体で60時間の学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(XG)犬山学 / 名鉄のテーマパーク / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13408
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 博司
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 博司 (経済学部)
授業の目標	<p>・名古屋鉄道が永年に亘って犬山で展開して来た文化・レジャー事業について、その歴史や経緯、各事業が犬山の観光資源として持つ意味などを、わが国の動物園・遊園地・博物館・テーマパークなどレジャー産業としての観点から理解を深める。</p> <p>○知識・理解の領域 = 各テーマパークの基盤である人間・文化・歴史・自然に関し知識の拡大が出来る。</p> <p>○思考・判断の領域 = テーマパークを通じてレジャーのあり方、人間の生き方を考察する訓練が出来る。</p> <p>○関心・意欲の領域 = テーマパークを通じてひとり一人の積極的な生き方を思索し表現できる。</p> <p>・地元犬山のテーマパークを考えることにより、社会の在り方・人としての生き方を考える機会としたい。</p>
授業の概要	<p>・地元で身近に存在するテーマパーク・レジャー施設を体験して、レジャーのあり方や犬山の観光を再発見し、犬山の観光資源の一層の活性化と将来に亘る活用を考える。</p> <p>・名鉄犬山線の開通(110年前)と観光開発の歴史、そして第二次世界大戦後の犬山の地におけるモンキーセンター・ラインパーク・明治村・リトルワールドなど各施設の開設の理由、これまでの運営などを学び、各施設の特質を体感するとともに、名古屋鉄道の経営と企業文化について考える。</p> <p>・各施設の現状を理解・分析するとともに、欠点や弱点も見直し、将来に向けての整備の方向性、改良・改善案などを具体的に提案することを最終目標とする。</p>
評価方法	<p>・講座の各段階における提出物や、授業内での受講生の発言などを重視したい。</p> <p>・最終的には、受講生各自が1施設を選択してその整備改善案を作成し、それらをプレゼンテーションする機会を設けて、その内容を評価の対象としたい。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>・各テーマパークの実地見学に出席することが前提となるので、これに欠席すると失格となる。</p> <p>なお、全15回の授業の内、4回程度はテーマパーク現地での見学・体験となる。</p> <p>テーマパーク見学は土曜日に実施したいと考えており、クラブ活動の練習日やアルバイトなどで時間を都合できない場合は、受講登録をしないようにしてもらいたい。</p>
授業計画	・詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	<p>・特定のテキストは無いが、授業の内容に応じて講師が資料等のプリントを用意する。</p> <p>・その他、講座に関連して推薦図書を紹介することがある。</p>
参考書	・授業の際に、適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	・担当教員は、教員着任の直前まで名古屋鉄道系列の文化レジャー事業・テーマパーク事業で通算約10年間に亘り経営者としての経験を有しており、それらに基づいての講座となる。
質問への対応方法	・質問などに関しては、授業内または授業の前後の時間帯に個別に対応する。
フィードバックの方法	・提出を求めたワークシート・コメントなどについては、点検検討を行った上で、授業内で受講生に対して積極的に活用する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・授業内で紹介する書籍などを、事前に購読することを期待している。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	14.海の豊かさを守ろう 16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス・オリエンテーション	○講座全体の内容・方針を説明 ○日本の観光事業・レジャー事業について	(教室にて)4月11日
2	レジャー産業の総論	○日本のレジャー産業の歴史 ○鉄道事業とレジャー事業について	(教室にて)4月18日 私鉄経営モデルと小林一三について
3	犬山における名鉄の文化・レジャー事業	○名鉄犬山線と観光開発(大正期～) ○戦後の観光開発と名鉄 ○モンキーパーク見学前講座	(教室にて)4月25日
4	「日本モンキーパーク&モンキーセンター」体験	○モンキーパークの事業内容体験 ○モンキーセンターの存在意義 ○動物園に遊園地を併設した理由	(モンキーパーク現地) 5月13日(土)予定
5	モンキーパークのまとめ&動物園・遊園地論	○もんきーぱーく・モンキーセンター見学のまとめ ○動物園論・遊園地論について	(教室にて)5月16日
6	文化事業とは&明治村について	○文化事業論とメセナとは ○明治村見学前講座	(教室にて)5月23日
7	「博物館明治村」体験	○明治村の存在意義 ○開村以来の歩みと現在の状況	(明治村現地) 5月27日(土)予定
8	明治村のまとめ&リトルワールドについて	○明治村見学のまとめ ○リトルワールド見学前講座	(教室にて)6月6日
9	「野外民族博物館リトルワールド」体験	○リトルワールドの存在意義 ○開館以来の歩みと現在の状況	(リトルワールド現地) 6月10日(土)予定
10	リトルワールドまとめ&ビーチランドについて	○リトルワールド見学のまとめ ○ビーチランド見学前講座	(教室にて)6月20日
11	「南知多ビーチランド」体験	○ビーチランドの存在意義 ○開園以来の歩みと現在の状況	(ビーチランド現地) 6月24日(土)予定
12	ビーチランドまとめ&水族館論・4施設総括	○ビーチランド見学のまとめ ○水族館論について ○おもちゃ王国について ○見学4施設の総括など	(教室にて)7月4日
13	現代社会とレジャー産業	○レジャー産業の新潮流について ○個人別深掘テーマの選定	(教室にて)7月11日
14	現代社会とレジャー産業	○レジャー産業の将来は? ○個人別深掘テーマの調査検討	(教室にて)7月18日
15	体験講座「名鉄のテーマパーク」総括	○個人別深掘テーマの発表会 ○見学施設に関する提案発表	(教室にて)7月25日予定

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(XI)犬山学/モンキーセンター / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13409
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高野 智
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	6 3 E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高野 智 (法学部)
授業の目標	<p>名古屋経済大学と同様、愛知県犬山市にある日本モンキーセンターは、世界でも珍しい霊長類を専門とする博物館としての動物園です。世界各地に生息するおよそ60種の生きたサル類のほか、骨格やはく製などの標本を展示しています。この授業では、日本モンキーセンターを貴重な学びの場として、人間にもっとも近い動物である霊長類について学びます。サルを知ることは、「ヒト」や「ヒト」が作る社会についてより深く知ることにもつながります。生きたサルや標本をじっくり観察して、サルがヒトと似ているところ、違っているところに気づき、動物たちの進化や人類の由来、自然環境の大切さについて理解を深めていきます。また、日本モンキーセンターでの展示・教育活動の舞台裏などを詳しく見ることによって、博物館を通じての学びを深めるミュージアム・リテラシーの獲得を目指します。</p> <p>< 学習成果 ></p> <p>知識・理解の領域 動物たちの進化や人類の由来を知る。</p> <p>思考・判断の領域 動物園、博物館と社会との連携に関して批判的に考える。</p> <p>関心・意欲の領域 博物館を通じての学びへの関心・意欲を深める。</p> <p>態度・志向性の領域 自然環境を大切にできる態度・志向性を身に付ける</p> <p>技能の領域 自分の考えをまとめ、発表する力をつける。</p> <p>体験探究の領域 動物園運営の実際を体験を通じて知る。</p>
授業の概要	<p>1) 本学での講義、2) 日本モンキーセンターでの体験型授業、3) 日本モンキーセンターでの講義・施設見学、4) 日本モンキーセンターと本学での期末課題制作と発表、の4種類の授業からなります。期末課題では、それまでに学んだことを踏まえて、2~4人のグループに分かれて、それぞれのグループが博物館としての日本モンキーセンターと地域との連携のための提案を行います。</p> <p>長期にわたっての日本モンキーセンターでの学びが大事となるため、「日本モンキーセンター友の会」(年会費3000円)への入会が受講条件となります。授業期間中の入園はこれで無料となります。</p>
評価方法	体験型の授業なので、全回出席が前提となります。授業への参加、提出物、期末課題制作への貢献に基づいて評定方式で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回を超えて授業を欠席した場合、また期末課題制作に参加できない場合は失格となります。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス（本学）</p> <p>第2回 霊長類学の歴史とモンキーセンター+事前学習（本学）</p> <p>第3・4回 霊長類の多様性（モンキーセンター）</p> <p>第5・6回 霊長類行動観察入門（モンキーセンター）</p> <p>第7回 霊長類学の最前線（1）（モンキーセンター）</p> <p>第8・9回 動物の進化を学ぶ（モンキーセンター）</p> <p>第10回 霊長類学の最前線（2）（モンキーセンター）</p> <p>第11回 環境問題と霊長類（モンキーセンター）</p> <p>第12回 博物館としての動物園（モンキーセンター）</p> <p>第13回 期末課題制作（モンキーセンター）</p> <p>第14回 期末課題制作（本学）</p> <p>第15回 期末課題発表（本学）</p> <p>（訪問先の都合などにより変更することがあります）</p> <p>実務経験のある教員による指導</p> <p>現役博物館キュレーターによる講義、実習指導を中心に授業を行います。</p>
テキスト	特になし
参考書	公益財団法人日本モンキーセンター編『霊長類図鑑 サルを知るとはヒトを知ること』京都通信社 その他、授業中に適宜指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	日本モンキーセンターにおける体験型授業では、動物や標本の観察にもとづいてディスカッションをおこない、発表の場を設ける。また、期末課題制作では少人数のチームで課題の制作に取り組み、プレゼンテーションをおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	担当教員は日本モンキーセンターの現役の学芸員でもあり、霊長類学、博物館学の専門家の立場から授業をおこなう。また、本授業で招聘する外部講師も、いずれも各分野の専門家である。
質問への対応方法	授業後ないし授業中に対応する。
フィードバックの方法	体験型授業中のプレゼンテーションの場では、その場でフィードバックをおこなう。また、回収した筆記課題等は翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業の内容は期末課題制作に必要となるため、授業後には復習をおこない、知識の定着を図ること。また、各授業の終了時に翌週の授業に向けた調べ学習による予習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	15.陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(XL)犬山学/伝統産業 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13410
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	奥田 沙織
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	市橋 克哉 (法学部)、奥田 沙織 (経済学部)
授業の目標	<p>名古屋経済大学のある犬山市は尾張・美濃の境界にあたりますが、この地域は中山道（東山道）と木曾川の交差する交通の要衝であり、また木材・粘土・水などの自然資源に恵まれてきたことから、古代から多くの伝統産業（美濃和紙、関の刃物、美濃焼、赤津焼、常滑焼、尾張七宝、岐阜提灯、酒造、尾張漆器など）が育まれてきました。</p> <p>これらの伝統産業は、現在では日本を代表する伝統産業として世界的にも人気があり、地域の伝統産業の生き残り戦略を考える上で興味深い事例と言えます。そこで、本プランでは、美濃和紙の里会館、多治見市美濃焼ミュージアム、あま市七宝焼アートヴィレッジなどの伝統産業に関する博物館を訪問して、伝統産業の技術・経営手法・課題について学んでいきます。</p> <p>また、本プランでは、伝統産業の魅力について日本人学生と留学生がグループとなって議論し、日本全国や世界に発信していく方法を考え、実践することをめざします。</p>
授業の概要	<p>1．初めに尾張・美濃の伝統産業について学んだあと、実際に犬山周辺にある伝統産業の施設を各自の問題意識に基づいて見学し、議論します。</p> <p>2．伝統産業の担い手たちと議論します。</p> <p>3．グループごとに伝統産業の現状と課題について、期末の報告会で報告を行います。</p>
評価方法	本授業では、各自の意見の発信を重視します。そのため、成績評価にあたっては、見学後に提出するレポート、議論への参加状況、報告書の提出、報告会での発表内容によって、総合的に成績評価を行います（合格・不合格（G/S）方式）。定期試験は行いません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 講義（尾張・美濃の伝統産業について） 第3回 講義（七宝焼） 第4回 見学（あま市七宝焼アートヴィレッジ） 第5回 講義（美濃焼） 第6回 見学（多治見市美濃焼ミュージアム） 第7回 講義（美濃和紙） 第8回 見学（美濃和紙の里会館） 第9回 講義（酒造業） 第10回 愛知県あるいは犬山市の観光戦略を学ぶために外部講師を招聘し、課外授業を実施する。 第11回 報告準備 第12回 報告準備 第13回 報告準備 第14回 報告会 第15回 まとめ</p> <p>なお、見学先および実地見学日については変更あり。</p>
テキスト	適宜、資料を配布する。
参考書	授業の中で紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・随時対応を基本とし、 オフィスアワ、授業後、あるいは、メール（アドレス記載）で対応する。
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回実地見学終了後には感想・コメント提出を課している。そのコメントについて、次回の授業において、各自の感想について、こちらからコメントを行う。 ・最終報告書の提出を課している。その報告書はパソコンを使って作成するため、報告書作成時は情報室において授業を行う。その際に、報告書の内容について指導を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ol style="list-style-type: none"> 1 尾張・美濃の伝統産業に関する資料をガイダンスで配布する。その資料をもとに、ある程度の予習をし、次回の授業の準備を行う。（15時間） 2 実地見学後の感想・コメント作成を課する。（10時間） 3 グループごとに伝統産業の現状と課題についての報告書作成（5時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(XA)犬山学/文化遺産学・堀部塾(前)/Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13411
開講所属 Course Offered by	大学共通/
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度/Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火/Tue 3, 火/Tue 4
開講区分 semester offered	前期/.
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	赤塚 次郎
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	14H演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	赤塚 次郎(法学部)
授業の目標	本授業では地域に残るこうした貴重な遺跡や文化遺産を具体的に調査し、特色ある地域の歴史を探り、その意味を理解することの大切さを学びます。また地域の伝承や残されてきた文化財との関係を総合的に理解し、地域の街づくりに活かすさまざまな視点を、主にフィールド調査を通じて学びます。
授業の概要	名古屋経済大学周辺の犬山・小牧市域には数多くの特色ある「文化遺産」が存在し、その多様性は当地域の文化を育ててきました。そこでまずは犬山城下町、登録有形文化財「堀部邸」をベース基地として城下町界限(犬山・岐阜県各務原市鵜沼地区)の文化遺産の現地調査、城下町文化の体験などを行います。名古屋市「しだみ古墳群ミュージアム」(名古屋市守山区上志段味)での体験が含まれることがあります。終日の調査に参加できる形で受講してください。 授業は土日・祝日を含めて終日実施する場合があります。 体験型プロジェクトXA(担当赤塚)とXC(担当足立)は、犬山の自然・文化遺産・石の利用などについて、地質学と考古学の2つの専門領域をベースにして、“自然の成り立ち”や“ヒトと自然との関わり”を考える合同体験型プログラムを含んでいます。
評価方法	G/S
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	文化遺産を「街づくり」に生かす活動をしている「特定非営利活動法人 古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク」の仕事を含め体験していただきます。 1) 犬山市・国史跡青塚古墳の見学や体験ワークショップ 2) 犬山市城下町にある登録有形文化財「堀部邸」を起点に、犬山城下に残る文化遺産を訪ねるフィールド調査 3) 大学周辺の歴史文化を体験するフィールド調査
テキスト	体験に合わせて用意します
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内にて実施
フィードバックの方法	授業内にて対応

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	犬山・小牧市域の地形・地図を事前に確認
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 A
時間割コード Course Code	14000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	百々 奈美
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	百々 奈美 (経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 (JLPT) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけ、受講するクラスを決めます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2) JLPTの分野別に、クラスを開きます。N2文字語彙、N2文法、N2読解、N2聴解、N1文字語彙、N1文法、N1読解、N1聴解、の8つです。学生は、模擬試験の結果によって、自分に合ったクラスに入り、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3) ホームルームで、毎週の学習内容を報告してください。報告する内容は、(1) 毎週の課題の合計点 (2) コメントの2点です。ホームルームの教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 (模擬試験問題含む) の合計点で算出します。 課題 (問題と復習課題) の提出と毎回のコメント (質問含む) で出席をつけます。 (週1回、15回) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。 期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 (1) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 (2)

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。 指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。 教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/06/05 ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/09/05 ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200 「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200 「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760 「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760 「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320 「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320 「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980 「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980 「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980 「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760 「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200 「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320 「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760 「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540 「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 A
時間割コード Course Code	14001
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	百々 奈美
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	百々 奈美 (経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 (JLPT) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけ、受講するクラスを決めます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2) JLPTの分野別に、クラスを開きます。N2文字語彙、N2文法、N2読解、N2聴解、N1文字語彙、N1文法、N1読解、N1聴解、の8つです。学生は、模擬試験の結果によって、自分に合ったクラスに入り、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3) ホームルームで、毎週の学習内容を報告してください。報告する内容は、(1) 毎週の課題の合計点 (2) コメントの2点です。ホームルームの教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 (模擬試験問題含む) の合計点で算出します。 課題 (問題と復習課題) の提出と毎回のコメント (質問含む) で出席をつけます。 (週1回、15回) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。 期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 (1) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 (2)

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。 指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。 教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/06/05 ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/09/05 ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200 「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200 「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760 「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760 「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320 「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320 「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980 「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980 「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980 「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760 「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200 「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320 「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760 「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540 「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 A
時間割コード Course Code	14002
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,4
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真(経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験(JLPT)のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけ、受講するクラスを決めます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2) JLPTの分野別に、クラスを開きます。N2文字語彙、N2文法、N2読解、N2聴解、N1文字語彙、N1文法、N1読解、N1聴解、の8つです。学生は、模擬試験の結果によって、自分に合ったクラスに入り、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3) ホームルームで、毎週の学習内容を報告してください。報告する内容は、(1)毎週の課題の合計点 (2)コメントの2点です。ホームルームの教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題(模擬試験問題含む)の合計点で算出します。 課題(問題と復習課題)の提出と毎回のコメント(質問含む)で出席をつけます。(週1回、15回) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。 期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1週目: 模試(1) 2週目~15週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試(2)

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。 指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。 教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/06/05 ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/09/05 ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200 「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200 「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760 「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760 「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320 「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320 「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980 「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980 「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980 「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760 「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200 「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320 「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760 「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540 「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 A
時間割コード Course Code	14003
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真(経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験(JLPT)のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけ、受講するクラスを決めます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2) JLPTの分野別に、クラスを開きます。N2文字語彙、N2文法、N2読解、N2聴解、N1文字語彙、N1文法、N1読解、N1聴解、の8つです。学生は、模擬試験の結果によって、自分に合ったクラスに入り、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3) ホームルームで、毎週の学習内容を報告してください。報告する内容は、(1)毎週の課題の合計点 (2)コメントの2点です。ホームルームの教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題(模擬試験問題含む)の合計点で算出します。 課題(問題と復習課題)の提出と毎回のコメント(質問含む)で出席をつけます。(週1回、15回) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。 期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1週目: 模試(1) 2週目~15週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試(2)

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。 指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。 教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/06/05 ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/09/05 ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200 「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200 「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760 「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760 「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320 「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320 「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980 「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980 「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980 「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760 「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200 「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320 「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760 「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540 「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 A
時間割コード Course Code	14004
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	村田 竜樹
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村田 竜樹(経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験(JLPT)のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけ、受講するクラスを決めます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2) JLPTの分野別に、クラスを開きます。N2文字語彙、N2文法、N2読解、N2聴解、N1文字語彙、N1文法、N1読解、N1聴解、の8つです。学生は、模擬試験の結果によって、自分に合ったクラスに入り、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3) ホームルームで、毎週の学習内容を報告してください。報告する内容は、(1)毎週の課題の合計点 (2)コメントの2点です。ホームルームの教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題(模擬試験問題含む)の合計点で算出します。 課題(問題と復習課題)の提出と毎回のコメント(質問含む)で出席をつけます。(週1回、15回) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。 期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1週目: 模試(1) 2週目~15週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試(2)

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。 指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。 教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/06/05 ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/09/05 ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200 「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200 「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760 「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760 「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320 「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320 「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980 「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980 「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980 「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760 「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200 「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320 「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760 「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540 「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がGoogleクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	Googleクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がGoogleクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 A
時間割コード Course Code	14005
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	宮島 良子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮島 良子 (経営学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 (JLPT) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけ、受講するクラスを決めます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2) JLPTの分野別に、クラスを開きます。N2文字語彙、N2文法、N2読解、N2聴解、N1文字語彙、N1文法、N1読解、N1聴解、の8つです。学生は、模擬試験の結果によって、自分に合ったクラスに入り、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3) ホームルームで、毎週の学習内容を報告してください。報告する内容は、(1) 毎週の課題の合計点 (2) コメントの2点です。ホームルームの教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 (模擬試験問題含む) の合計点で算出します。 課題 (問題と復習課題) の提出と毎回のコメント (質問含む) で出席をつけます。 (週1回、15回) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。 期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 (1) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 (2)

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。 指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。 教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/06/05 ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/09/05 ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200 「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200 「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760 「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760 「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320 「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320 「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980 「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980 「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980 「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760 「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200 「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320 「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760 「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540 「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	(遠)(留)日本語特別支援 A
時間割コード Course Code	14006
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	金村 久美
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金村 久美 (経済学部)
授業の目標	この科目では、日本語能力試験 (JLPT) のN1またはN2に合格するための学習を行います。特に、模擬試験、各試験分野の答練と解説をします。 日本で就職を目指す留学生は、JLPTの N1に合格しましょう。N1がないと説明会にも参加できない場合や最低でもN2に合格していることが就職の条件になる場合などがあります。また、N1に合格していることによって、ビザの取得が有利になったり、より条件の良い仕事につける場合もあります。大学生の間にできるだけ早くN1に合格できるようにがんばってください。 N1、N2合格のために、一人で勉強するのはとても大変です。教員からのアドバイスを受けて、自分の苦手な点を見つけて、集中的に勉強してください。クラスメイトと助け合って勉強してください。この科目ではみなさんが合格できるよう支援します。
授業の概要	1) 模擬試験を2回行います。最初の模擬試験で、あなたの苦手な分野を見つけ、受講するクラスを決めます。最後の模擬試験の点数は、この科目の成績の一部です。単位を取得したい学生は、2回の模擬試験を必ず受けてください。 2) JLPTの分野別に、クラスを開きます。N2文字語彙、N2文法、N2読解、N2聴解、N1文字語彙、N1文法、N1読解、N1聴解、の8つです。学生は、模擬試験の結果によって、自分に合ったクラスに入り、毎週課題を提出します。毎週の課題の合計点は、この科目の成績の一部です。 3) ホームルームで、毎週の学習内容を報告してください。報告する内容は、(1) 毎週の課題の合計点 (2) コメントの2点です。ホームルームの教員が返信やアドバイスをします。コメントの提出をすると、出席になります。コメントの提出をしないと、欠席になります。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績評価 提出した課題 (模擬試験問題含む) の合計点で算出します。 課題 (問題と復習課題) の提出と毎回のコメント (質問含む) で出席をつけます。 (週1回、15回) その週の学習についてのコメントを提出してください。 課題の提出だけでコメントを提出しない人は、欠席になるので注意しましょう。 期間中に必ず模試を2回受験してください。模試を2回受験しない人は、失格になります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	模試を2回受験しない人は、失格になります。
授業計画	1 週目 : 模試 (1) 2 週目 ~ 15 週目 各クラスの課題提出、コメント提出、本番直前模試 (2)

テキスト	<p>この科目では、クラスで指定する教科書を購入する必要があります。 指定の教科書を買わないと、クラスの課題を提出しても評価の得点に入れることができません。 教科書を指定しますので、2週目以降に間に合うようにすぐに購入してください。</p> <p>N1:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/06/05 ISBN 978-4-7890-1781-7</p> <p>N2:全科目攻略！ JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2（ジャパンタイムズ出版）定価1,980円 著者 五十嵐 香子 著 佐藤 茉奈花 著 金澤 美香子 著 杉山 舞 著 植村 有里沙 著 出版年月日 2021/09/05 ISBN 978-4-7890-1782-4</p>
参考書	<p>【N1】</p> <p>「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN1」アルク ￥2200 「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1」アルク ￥2200 「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1」アルク ￥1760 「日本語能力試験N1読解必須パターン」ジェイ・リサーチ出版 ￥1760 「新完全マスター漢字 日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320 「新完全マスター文法日本語能力試験N1」スリーエーネットワーク ￥1320 「TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版」アスク ￥1980 「日本語総まとめN1漢字「日本語能力試験」対策 英語・ベトナム語訳 ￥1320</p> <p>【N2】</p> <p>「必ずできる！ JLPT「読解」N2」アルク ￥1980 「耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN2」アルク ￥1980 「耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2」アルク ￥1760 「耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2」アルク ￥2200 「新完全マスター文法日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1320 「新完全マスター聴解日本語能力試験N2」スリーエーネットワーク ￥1760 「新完全マスター漢字日本語能力試験N2」 ￥1540 「一発合格！日本語能力試験N2完全攻略テキスト&実践問題集」ナツメ社 ￥1980</p> <p>【N3】</p> <p>「新完全マスター文法日本語能力試験N3」3Aネットワーク ￥1320</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各クラス担当がグーグルクラスルームなどで質問を受け付けます。 また、日本語科目担当のオフィスアワーなどに対応します。オフィスアワー以外の場合は、できるだけ来室前にEmail(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡してください。
フィードバックの方法	グーグルクラスルームなどを利用し返信します。毎回の解説などにも含めます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	問題や復習課題、解説がグーグルクラスルームに投稿されます。そのため、最低でも60時間の準備学習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	Q1(留)アカデミック日本語レベル1(月3,水3) / Academic Japanese level1
時間割コード Course Code	14100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3, 水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習、生活に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を復習し、知識を整理する。日本語で講義を聴く際にどのようにノートを取ればよいのかについて知る。図書館の利用方法、資料の探し方、読書習慣の重要性や効果について知る。日本の大学で求められるレポートについて、作文とは何が異なるのか、何をどのように書くことが求められるのか、書くためにはどのような基本ルールがあるのかを理解する。日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。</p> <p>グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。自ら進んでわからないことを調べるようになる。プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。</p> <p>自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を知り、活用できる。身近な既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解できる。大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル1のクラスである。 大学での学習に必要な日本語（漢字・語彙・文法など）を理解し、使用できるようになる。特に講義（こうぎ）を聞き、テキストを読んで理解し、筆記試験（ひっきしけん）やレポートなどの文章を書くこと等ができるようになる。 数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出すことができる。 身近な既知のテーマであれば、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめる。 数パラグラフからなる説明文を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知っていて、自分でも書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題から算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合は、事情を含め、担当教員にメールなどで連絡をすること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要がある。</p>
授業計画	<p>・1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。 ・この科目は、「アカデミック日本語レベル2」に接続する。 このクラスでは次のことを行う計画である。 1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。 2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。 3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学ぶ。 4) 多読を通して読む習慣を形成する。 5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）活動</p> <p>1. 予習（読解、記述） 2. 講義理解・レポート作成のための活動 3. 学習管理</p> <p>流れ 1. 読解・記述 予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <p>2. レポート作成のルールを知る テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。 3. 協同学習 公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/ 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献） https://quizlet.com/meikeiacademic 大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。 ・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。 ・質疑応答を行う。 ・テーマは、大学生活に関わるもので（「自分の学部について知る」「名古屋経済大学のさまざまなルール」「日本語のEメールの書き方やマナー」「図書館でできること」「授業で学んだこと」「ゼミの仲間」「名経大の先生」「SDG's」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときのとりかかりにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜Googleクラスルームなどで質問すること。 そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やGoogleクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	Q1(留)アカデミック日本語レベル1(月3,水3) / Academic Japanese level1
時間割コード Course Code	14101
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3, 水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	神谷 佳那
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	73A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 佳那 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習、生活に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を復習し、知識を整理する。 日本語で講義を聴く際にどのようにノートを取ればよいのかについて知る。 図書館の利用方法、資料の探し方、読書習慣の重要性や効果について知る。 日本の大学で求められるレポートについて、作文とは何が異なるのか、何をどのように書くことが求められるのか、書くためにはどのような基本ルールがあるのかを理解する。 日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。</p> <p>グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を知り、活用できる。 身近な既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解できる。大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。</p> <p>「大学での学習に必要な日本語能力」レベル1のクラスである。</p> <p>大学での学習に必要な日本語（漢字・語彙・文法など）を理解し、使用できるようになる。特に講義（こうぎ）を聞き、テキストを読んで理解し、筆記試験（ひっきしけん）やレポートなどの文章を書くこと等ができるようになる。</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出すことができる。</p> <p>身近な既知のテーマであれば、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめる。</p> <p>数パラグラフからなる説明文を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知っていて、自分でも書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題から算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。</p> <p>欠席する場合は、事情を含め、担当教員にメールなどで連絡をすること。</p> <p>ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要がある。</p>
授業計画	<p>・1回目の授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。</p> <p>・この科目は、「アカデミック日本語レベル2」に接続する。</p> <p>このクラスでは次のことを行う計画である。</p> <p>1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。</p> <p>2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。</p> <p>3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学ぶ。</p> <p>4) 多読を通して読む習慣を形成する。</p> <p>5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）活動</p> <p>1. 予習（読解、記述）</p> <p>2. 講義理解・レポート作成のための活動</p> <p>3. 学習管理</p> <p>流れ</p> <p>1. 読解・記述</p> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。</p> <p>多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <p>2. レポート作成のルールを知る</p> <p>テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。</p> <p>3. 協同学習</p> <p>公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。</p> <p>https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/</p> <p>他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献）</p> <p>https://quizlet.com/meikeiacademic</p> <p>大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。</p> <p>・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。</p> <p>・質疑応答を行う。</p> <p>・テーマは、大学生活に関わるもので（「自分の学部について知る」「名古屋経済大学のさまざまなルール」「日本語のEメールの書き方やマナー」「図書館でできること」「授業で学んだこと」「ゼミの仲間」「名経大の先生」「SDG's」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときのとりかかりにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。</p> <p>そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	Q1(留)アカデミック日本語レベル1(月4,水4) / Academic Japanese level1
時間割コード Course Code	14102
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4, 水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習、生活に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を復習し、知識を整理する。 日本語で講義を聴く際にどのようにノートを取ればよいのかについて知る。 図書館の利用方法、資料の探し方、読書習慣の重要性や効果について知る。 日本の大学で求められるレポートについて、作文とは何が異なるのか、何をどのように書くことが求められるのか、書くためにはどのような基本ルールがあるのかを理解する。 日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。</p> <p>グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を知り、活用できる。 身近な既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解できる。大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル1のクラスである。 大学での学習に必要な日本語（漢字・語彙・文法など）を理解し、使用できるようになる。特に講義（こうぎ）を聞き、テキストを読んで理解し、筆記試験（ひっきしけん）やレポートなどの文章を書くこと等ができるようになる。 数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出すことができる。 身近な既知のテーマであれば、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめる。 数パラグラフからなる説明文を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知っていて、自分でも書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題から算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合は、事情を含め、担当教員にメールなどで連絡をすること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要がある。</p>
授業計画	<p>・1回目の授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。 ・この科目は、「アカデミック日本語レベル2」に接続する。 このクラスでは次のことを行う計画である。 1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。 2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。 3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学ぶ。 4) 多読を通して読む習慣を形成する。 5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）活動</p> <p>1. 予習（読解、記述） 2. 講義理解・レポート作成のための活動 3. 学習管理</p> <p>流れ 1. 読解・記述 予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <p>2. レポート作成のルールを知る テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。 3. 協同学習 公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/ 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献） https://quizlet.com/meikeiacademic 大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。 ・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。 ・質疑応答を行う。 ・テーマは、大学生活に関わるもので（「自分の学部について知る」「名古屋経済大学のさまざまなルール」「日本語のEメールの書き方やマナー」「図書館でできること」「授業で学んだこと」「ゼミの仲間」「名経大の先生」「SDG's」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときのとりかかりにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜Googleクラスルームなどで質問すること。 そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やGoogleクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	Q1(留)アカデミック日本語レベル1(月4,水4) / Academic Japanese level1
時間割コード Course Code	14103
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4, 水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	神谷 佳那
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 佳那 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習、生活に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を復習し、知識を整理する。 日本語で講義を聴く際にどのようにノートを取ればよいのかについて知る。 図書館の利用方法、資料の探し方、読書習慣の重要性や効果について知る。 日本の大学で求められるレポートについて、作文とは何が異なるのか、何をどのように書くことが求められるのか、書くためにはどのような基本ルールがあるのかを理解する。 日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。</p> <p>グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を知り、活用できる。 身近な既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解できる。大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル1のクラスである。 大学での学習に必要な日本語（漢字・語彙・文法など）を理解し、使用できるようになる。特に講義（こうぎ）を聞き、テキストを読んで理解し、筆記試験（ひっきしけん）やレポートなどの文章を書くこと等ができるようになる。 数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出すことができる。 身近な既知のテーマであれば、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめる。 数パラグラフからなる説明文を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知っていて、自分でも書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題から算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合は、事情を含め、担当教員にメールなどで連絡をすること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要がある。</p>
授業計画	<p>・1回目の授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。 ・この科目は、「アカデミック日本語レベル2」に接続する。 このクラスでは次のことを行う計画である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。 2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。 3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学ぶ。 4) 多読を通して読む習慣を形成する。 5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入） <p>活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予習（読解、記述） 2. 講義理解・レポート作成のための活動 3. 学習管理 <p>流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 読解・記述 <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. レポート作成のルールを知る <p>テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 協同学習 <p>公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/ 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献） https://quizlet.com/meikeiacademic 大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。 ・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。 ・質疑応答を行う。 ・テーマは、大学生活に関わるもので（「自分の学部について知る」「名古屋経済大学のさまざまなルール」「日本語のEメールの書き方やマナー」「図書館でできること」「授業で学んだこと」「ゼミの仲間」「名経大の先生」「SDG's」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときのとりかかりにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	Q2(留)アカデミック日本語レベル2(月3,水3) / Academic Japanese level2
時間割コード Course Code	14200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3, 水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」 日本の大学での学習に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を整理し、知識を増やす。 日本語で講義を聴く際にどのように大切なところを理解し、必要に応じてメモが取れるようになる。 図書館を活用し、資料の探したり、読書習慣が身に付くようになる。 日本の大学で求められるレポートについて、基本ルールに沿って書くことが意識できるようになる。 日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。 グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」 人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」 数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用できる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」 自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践できる。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル2のクラスである。 大学での学習に必要な日本語能力、特にレジュメやスライドなどを見ながら講義を聞き、テキストを読んで理解することができるようになる。 筆記試験やコメントシート、レポートなどの文章を書く学習の準備が整う。 読解文中にある、漢字・語彙・文法の意味がとれるようになる。 数パラグラフからなる、主に社会科学分野の数パラグラフからなる説明文・論説文から効率よく必要な情報を取り出すことができる。 未習語彙などが少しあっても、一般的・社会的な内容諺、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめ、重要な語彙などの簡単なメモが取れる。支援を受ければ、段落構成・接続詞・文末表現などをある程度正しく使い、短い説明文を書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題などから算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。</p>
授業計画	<p>・1回目の授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。 ・この科目は、「アカデミック日本語レベル3」に接続する。 このクラスでは次のことを行う計画である。 1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。 2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。 3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。 4) 多読を通して読む習慣を形成する。 5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）活動</p> <p>1. 予習（読解、記述） 2. 講義理解・レポート作成のための活動 3. 学習管理 流れ 1. 読解・記述</p> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <p>2. レポート作成のルールを知る テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。 3. 協同学習 公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/ 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献） https://quizlet.com/meikeiacademic 大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。 ・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。 ・質疑応答を行う。 ・テーマは、大学生活に関わるもので（「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに活用できるようにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グーグルクラスルームなどで質問すること。 そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグーグルクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	Q2(留)アカデミック日本語レベル2(月3,水3) / Academic Japanese level2
時間割コード Course Code	14201
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3, 水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	神谷 佳那
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 佳那 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を整理し、知識を増やす。 日本語で講義を聴く際にどのように大切なところを理解し、必要に応じてメモが取れるようになる。</p> <p>図書館を活用し、資料の探したり、読書習慣が身に付くようになる。 日本の大学で求められるレポートについて、基本ルールに沿って書くことが意識できるようになる。</p> <p>日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。 グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用できる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践できる。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル2のクラスである。 大学での学習に必要な日本語能力、特にレジュメやスライドなどを見ながら講義を聞き、テキストを読んで理解することができるようになる。 筆記試験やコメントシート、レポートなどの文章を書く学習の準備が整う。 読解文中にある、漢字・語彙・文法の意味がとれるようになる。 数パラグラフからなる、主に社会科学分野の数パラグラフからなる説明文・論説文から効率よく必要な情報を取り出すことができる。 未習語彙などが少しあっても、一般的・社会的な内容諺、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめ、重要な語彙などの簡単なメモが取れる。支援を受ければ、段落構成・接続詞・文末表現などをある程度正しく使い、短い説明文を書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題などから算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。</p>
授業計画	<p>・1回目の授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。 ・この科目は、「アカデミック日本語レベル3」に接続する。 このクラスでは次のことを行う計画である。 1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。 2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。 3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。 4) 多読を通して読む習慣を形成する。 5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）活動</p> <p>1. 予習（読解、記述） 2. 講義理解・レポート作成のための活動 3. 学習管理 流れ 1. 読解・記述</p> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <p>2. レポート作成のルールを知る テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。 3. 協同学習 公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/ 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献） https://quizlet.com/meikeiacademic 大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。 ・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。 ・質疑応答を行う。 ・テーマは、大学生活に関わるもので（「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに活用できるようにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グーグルクラスルームなどで質問すること。 そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグーグルクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	9.実践力

開講科目名 Course	Q2(留)アカデミック日本語レベル2(月4,水4) / Academic Japanese level2
時間割コード Course Code	14202
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4, 水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	渡邊 真
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	渡邊 真 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を整理し、知識を増やす。 日本語で講義を聴く際にどのように大切なところを理解し、必要に応じてメモが取れるようになる。</p> <p>図書館を活用し、資料の探したり、読書習慣が身に付くようになる。 日本の大学で求められるレポートについて、基本ルールに沿って書くことが意識できるようになる。</p> <p>日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。 グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用できる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践できる。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル2のクラスである。 大学での学習に必要な日本語能力、特にレジュメやスライドなどを見ながら講義を聞き、テキストを読んで理解することができるようになる。 筆記試験やコメントシート、レポートなどの文章を書く学習の準備が整う。 読解文中にある、漢字・語彙・文法の意味がとれるようになる。 数パラグラフからなる、主に社会科学分野の数パラグラフからなる説明文・論説文から効率よく必要な情報を取り出すことができる。 未習語彙などが少しあっても、一般的・社会的な内容諺、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめ、重要な語彙などの簡単なメモが取れる。支援を受ければ、段落構成・接続詞・文末表現などをある程度正しく使い、短い説明文を書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題などから算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。</p>
授業計画	<p>・1回目の授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。 ・この科目は、「アカデミック日本語レベル3」に接続する。 このクラスでは次のことを行う計画である。 1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。 2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。 3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。 4) 多読を通して読む習慣を形成する。 5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）活動</p> <p>1. 予習（読解、記述） 2. 講義理解・レポート作成のための活動 3. 学習管理 流れ 1. 読解・記述</p> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <p>2. レポート作成のルールを知る テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。 3. 協同学習 公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/ 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献） https://quizlet.com/meikeiacademic 大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。 ・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。 ・質疑応答を行う。 ・テーマは、大学生活に関わるもので（「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに活用できるようにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グーグルクラスルームなどで質問すること。 そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグーグルクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	Q2(留)アカデミック日本語レベル2(月4,水4) / Academic Japanese level2
時間割コード Course Code	14203
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4, 水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	神谷 佳那
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 佳那 (経営学部)
授業の目標	<p>「知識・理解の領域」</p> <p>日本の大学での学習に必要な漢字、語彙(ごい)、文法を整理し、知識を増やす。 日本語で講義を聴く際にどのように大切なところを理解し、必要に応じてメモが取れるようになる。</p> <p>図書館を活用し、資料の探したり、読書習慣が身に付くようになる。 日本の大学で求められるレポートについて、基本ルールに沿って書くことが意識できるようになる。</p> <p>日本語で数パラグラフの説明文や要約を書く上で必要な、段落構成・接続詞・文末表現などの用法を知る。 グループディスカッションやプレゼンテーション(プレゼン)を通して、日本ではどのような発表がよいと評価されるのかを知る。</p> <p>「態度・志向性の領域」</p> <p>人の発表を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作ることができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用できる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある3分程度の短い話の要点がつかめる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないときには尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践できる。</p>

授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の基礎を固める。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル2のクラスである。 大学での学習に必要な日本語能力、特にレジュメやスライドなどを見ながら講義を聞き、テキストを読んで理解することができるようになる。 筆記試験やコメントシート、レポートなどの文章を書く学習の準備が整う。 読解文中にある、漢字・語彙・文法の意味がとれるようになる。 数パラグラフからなる、主に社会科学分野の数パラグラフからなる説明文・論説文から効率よく必要な情報を取り出すことができる。 未習語彙などが少しあっても、一般的・社会的な内容諺、テーマに関係のある3分程度の短い話の要点がつかめ、重要な語彙などの簡単なメモが取れる。支援を受ければ、段落構成・接続詞・文末表現などをある程度正しく使い、短い説明文を書くことができる。</p>
評価方法	<p>授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）と提出された課題などから算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。</p>
授業計画	<p>・1回目の授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。 ・この科目は、「アカデミック日本語レベル3」に接続する。 このクラスでは次のことを行う計画である。 1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。 2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。 3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。 4) 多読を通して読む習慣を形成する。 5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート（この授業や授業外における学習状況を記入）活動</p> <p>1. 予習（読解、記述） 2. 講義理解・レポート作成のための活動 3. 学習管理 流れ 1. 読解・記述</p> <p>予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。</p> <p>2. レポート作成のルールを知る テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。 3. 協同学習 公式の場（ゼミ、面接、観客などがある発表の場など）を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。</p>
テキスト	<p>大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/ 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。</p>
参考書	<p>『大学生学びのハンドブック』（基礎演習の参考文献） https://quizlet.com/meikeiacademic 大学生になるための漢字500（名経大入学前教育課題）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>・課題を決め、テーマに関する日本語の文章を探したり、読んだりする。 ・3人ずつくらいのグループに分かれ、読んだ情報を確認する。 ・質疑応答を行う。 ・テーマは、大学生活に関わるもので（「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など）発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに活用できるようにする。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>担当教員の授業の前後、適宜グーグルクラスルームなどで質問すること。 そのほか、日本語科目担当（nihongo@nagoya-ku.ac.jp）のオフィスアワーでも対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグーグルクラスルームなどを通じて実施する。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(留)アカデミック日本語レベル3 / Academic Japanese level3
時間割コード Course Code	14350
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	柴倉 映子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	柴倉 映子 (経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」 講義を聞いてもっと知りたいと思い、よい質問ができるようになる。 自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じるようになる。 自ら進んでわからないことを調べるようになる。 プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思うようになる。 大学で学ぶことの意味や意義について考え、行動することができるようになる。 日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識できるようになる。 自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用することができる。</p> <p>「技能の領域」 数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、まとめられる。 社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、まとめられる。 自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝えることができる。 受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡単に話したりできる。</p> <p>「思考判断」 自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認することができる。 相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねることができる。 自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整しようとするすることができる</p>
授業の概要	<p>大学での学習に必要な日本語能力の学び方を知る。 「大学での学習に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。 大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、に取り組むための方略を知る。 講義のテキストや資料から、用語など単純な事項の予習ができる。 講義の構造を知り、講義のどの部分に注意を向けて聞けばよいかわかる。 キーワードを理解し、メモが取れる。 大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ程度読文章を辞書を引ながら読み、内容に関する質問に答えることができる。 勉強したことをまとめたり記憶したりするための自分なりの方法を試す。 論述形式の試験や、数パラグラフの説明文・論説文の構造及び文法を知っている。</p>

評価方法	授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題などをもとに算出して評価する。 期末試験は実施しません
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。 欠席する場合には、事情を含め、担当教員に連絡を入れること。 ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要があります。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。 ・ この科目は、「アカデミック日本語レベル4」に接続する。 このクラスでは次のことを行う計画である。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 大学での学習に必要な漢字・語彙・文法を確認しながら、日本語の文章を読み、内容を理解する。分からない言葉があっても大意把握（文章全体のだいたいの意味を理解）する。 2) の文章を参考にして、段落構成・接続詞・文末表現の用法を学習する。 3) メモの取り方、コメントシートやレポートの書き方を学び、書けるようになる。 4) 多読を通して読む習慣を形成する。 5) 学生は課題や学習状況把握(はあく)シート(この授業や授業外における学習状況を記入) 活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 予習(読解、記述) 2. 講義理解・レポート作成のための活動 3. 学習管理 流れ <ol style="list-style-type: none"> 1. 読解・記述 予習として、日本語の文章を読んで、大切なポイントが何かをまとめる。 多読活動として、自分のレベルに合った本を読み、そのタイトルと簡単な紹介と感想を書き紹介する。 <ol style="list-style-type: none"> 2. レポート作成のルールを知る テーマを決め、レポートの作成に必要なことを学ぶ。レポートの書き方を真似る。 <ol style="list-style-type: none"> 3. 協同学習 公式の場(ゼミ、面接、観客などがある発表の場など)を想定して、「自分の考えや説明を簡単な言葉で丁寧に伝え合えるようになる」を目標に行う。
テキスト	大学から配布される「学生生活ハンドブック」を授業に持参すること。 https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/ 他の教材はこちらで用意し授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	『大学生学びのハンドブック』(基礎演習の参考文献) https://quizlet.com/meikeiacademic 大学生になるための漢字500(名経大入学前教育課題)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を決め、テーマに関する日本語の文章を批判的に読んだりする。 ・ 3人ずつくらいのグループに分かれ、情報を確認し、整理して意見を述べ合う。 ・ 質疑応答を行う。 ・ テーマは、専門分野に関わるもので(「SDG's」「履修中の授業で学んでいること」など)発表し、また他の人の考えを聞くことで、レポートやコメントシートを書くときに有効に活用できるようにする。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後、適宜グループクラスルームなどで質問すること。 日本語科目担当のオフィスアワーでも対応するので、まずはメール(nihongo@nagoya-ku.ac.jp)で連絡をすること。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグループクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none">1. 貧困をなくそう10. 人や国の不平等をなくそう2. 飢餓をゼロに3. すべての人に健康と福祉を4. 質の高い教育をみんなに5. ジェンダー平等を実現しよう6. 安全な水とトイレを世界中に7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに8. 働きがいも経済成長も9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none">11. 住み続けられるまちづくりを12. つくる責任つかう責任13. 気候変動に具体的な対策を14. 海の豊かさを守ろう15. 陸の豊かさを守ろう16. 平和と公正をすべての人に17. パートナースhipで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none">1. 情報収集力2. 情報分析力3. 課題発見力4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none">1. 親和力2. 協同力3. 統率力4. 感情制御力5. 自信創出力6. 行動持続力7. 課題発見力8. 計画立案力9. 実践力

開講科目名 Course	(留)アカデミック日本語レベル5 / Academic Japanese level5
時間割コード Course Code	14550
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	宮島 良子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮島 良子 (経営学部)
授業の目標	<p>「態度・志向性の領域」</p> <p>講義を聞いて、何が重要であるのかを理解し、もっと知りたいと思い、よい質疑ができるようになる。</p> <p>自分の考えを述べ、理解してもらい喜びを感じ、積極的に工夫したり練習したりするようになる。</p> <p>自ら進んでわからないことを調べ、整理するようになる。</p> <p>プレゼン能力を高め、多くの人に理解してもらいたいと思い、さまざまな練習を積極的に行うようになる。</p> <p>大学で学ぶことの意味や意義について考え、積極的に行動することができるようになる。</p> <p>日本語で「書くこと」や「話すこと」の多様性を再確認し、相手、場面、目的などに応じた書き方、話し方を意識し、使い分けができるようになる。</p> <p>自分の学習状況(じょうきょう)を自分で管理(かんり)し、自律学習の基盤(きばん)を作り、活用し、問題があれば調整することができる。</p> <p>「技能の領域」</p> <p>数パラグラフからなる説明文・論説文から必要な情報を取り出す方法を身につけ、活用し、整理してまとめられる。</p> <p>社会科学分野に関連する既知(きち)のテーマであれば、テーマのある話の要点をつかみ、整理してまとめられる。</p> <p>自分の考えを平易(へいい)な言葉で丁寧(ていねい)に伝え、よい印象を与えようと調整することができる。</p> <p>受け取った情報等を形を変えて発信することができる。たとえば、聞いたものを書いてまとめたり、読んだものを簡潔に話したりできる。</p> <p>「思考判断」</p> <p>自分の主張などに対して、深く考え、論理的に説明し、相手の理解を確認しながら調整することができる。</p> <p>相手の主張などに対して、よく聞き、理解でき、わからないポイントを整理して尋ねたり反論したりすることができる。</p> <p>自分が理解したことや自分の考えを伝えるためには、どのような工夫が必要であるかについて理解し、実践し、相手の反応をみて調整することができる</p>

授業の概要	<p>大学で学ぶ上での日本語能力と学習方略を使いこなし、学びたいことを自在に学べるようになる。「大学での学習に必要な日本語能力」レベル5のクラスである。</p> <p>大学での学習、特に講義を聞き、テキストを読んで理解すること、筆記試験やレポートなどの文章を書くこと、議論に参加すること、に必要な日本語能力と学習方略を活用し、自ら学びたいことを積極的に学ぶことができる。</p> <p>講義やゼミ諺前に予習をし、質問を用意することができる。大学の各科目で学んでいるテーマに関する、10パラグラフ以上諺文章を読み、その中で提示されている概念や、主な主張とその根拠を、口頭また諺文章でまとめることができる。</p> <p>講義を聞きながら、講義の流れを箇条書き形式で表したメモを取ることができる。</p> <p>典型的な質問の形式を知っている。講義を聞いたりテキストを読んだりして、わかったこと・わからないことをはっきりさせた上で、わからないことを質問することができる。</p> <p>読み手の知識や興味に配慮した説明文、事実や根拠に基づいて意見を述べる論説文を、数パラグラフ程度で書くことができる。複数の断片的な情報を要約することができる。文章の一節を簡単に言い換えることができる。</p>
評価方法	<p>評価は、授業時間内に行うテスト（漢字・語彙・文法・内容理解）や提出された課題などをもとに算出して評価する。</p> <p>期末試験は実施しません</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となる。</p> <p>欠席の場合には、事情を含め、担当教員に連絡すること。</p> <p>ただし、留学生は失格となった後も在留資格に求められる学習活動が必要ですので出席する必要がある。</p>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回めの授業で詳細についてオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。 ・ この科目は、「アカデミック日本語レベル6」に接続する。 <p>このクラスでは次のことを行う計画である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この科目を受講する学生は、大学で学ぶために必要な日本語能力のうち、次のことができるように練習する。 <p>予習をし、質問を用意する。</p> <p>テーマに関する、10パラグラフ以上の文章を読む。</p> <p>提示されている概念、主張とその根拠を、口頭または文章でまとめる。</p> <p>話を聞きながら、話の流れを箇条書き形式で表したメモを取ることができる。</p> <p>典型的な質問の形式を知っている。講義を聞いたりテキストを読む。</p> <p>わかったこと・わからないことをはっきりさせた上で、わからないことを質問することができる。</p> <p>読み手の知識や興味に配慮した説明文、事実や根拠に基づいて意見を述べる論説文を、数パラグラフ程度で書く。</p> <p>複数の断片的な情報を要約する。</p> <p>文章の一節を簡単に言い換える。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	課題を決め、それを達成するための話し合いや情報共有、意見交換などを行いながら、進める。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	担当教員の授業の前後やEmail、グーグルクラスルームなどで質問すること。 日本語科目担当のオフィスアワーやEmail (nihongo@nagoya-ku.ac.jp)などでも受け付ける。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックについては翌週以降の授業内やグーグルクラスルームなどを通じて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の前後に資料を探したり、資料を読んだり、短いレポートを書いたりする必要がある。最低でも60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

SDGs 17の目標 (11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	(留)アカデミック日本語レベル7 / Academic Japanese level7
時間割コード Course Code	14750
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	村田 竜樹
科目区分 Course Group	専門科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村田 竜樹 (経営学部)
授業の目標	1. 相手に伝わるスライドを作成することができる。 2. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 3. 建設的な質疑応答を行うことができる。
授業の概要	この授業は、「大学での学習に必要な日本語能力」レベル7の授業です。 この授業では、わかりやすいプレゼンテーションの方法を学びます。前半では、自身が受講している専門科目などの理解を深め、プレゼンテーションを通して、専門について学んだことを他者に伝えます。後半では、自らの専門に関わるテーマを決め、文献調査などを行い、プレゼンを行います。これらの活動を通して、大学生活や仕事などで必要となる効果的なプレゼンテーションの方法を学び、説得力を有したわかりやすいプレゼンテーションを行うことを目指します。 1. PowerPointなどを用い、テーマに沿ったスライドを作成します。 2. 自らの関心に沿ってテーマを決め、調査し、まとめます。 3. まとめた内容でスライドを作成し、プレゼンを行います。 4. 毎回の授業のあとでコメントを書いて出します。 <質問への対応方法> 教員によって異なります。授業時に確認してください。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	A) 授業の振り返り (15点) B) ワークシート (WS) (25点) C) プレゼンテーション (15点) D) 最終プレゼンテーション (40点) E) 授業態度 (5点) 期末試験は実施しません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この授業は、自ら(グループ)でテーマを決め、そのテーマについてディスカッションを行いながらプレゼンの準備を進めます。基本的に、毎回の授業はディスカッションをメインに行います。

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業に関する質問は、授業時間、授業前後の時間に対応します。メールでの質問は随時受け付けています。
フィードバックの方法	授業課題については、次回授業時にコメントを付し返却します。プレゼン等のフィードバックは、その都度、授業内でコメントします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	この授業はプレゼンテーションを行うことをメインに進めますので、授業外の時間にもプレゼンの準備を行う必要があります。各コマにおいては、各課題の準備や予習に1～2時間、各課題の実施や振り返りに1～2時間を想定しています。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 7.課題発見力 8.計画立案力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション/良いプレゼンテーションとは	授業について説明します。 良いプレゼンとはどのようなものか話し合います。	
2	プレゼン 「わたしのおすすめ」作成	プレゼンの準備をします。	
3	プレゼン 「わたしのおすすめ」発表と振り返り	プレゼンとふりかえりを行います。	
4	専門科目を振り返る: わたしが学んだこと	専門科目で学んできたことをふりかえります。	
5	プレゼン 「専門科目で学んだこと」作成	プレゼンの準備をします。	
6	プレゼン 「専門科目で学んだこと」発表と振り返り	プレゼンとふりかえりを行います。	
7	最終発表テーマ決め	最終発表のテーマを決めます。	
8	プレゼンでの話し方・伝え方	プレゼンを行う際の注意点について考えます。	
9	質疑応答の方法	質疑応答のやり方について考えます。	
10	発表原稿作成	発表原稿を作成します	
11	プレゼン準備	最終プレゼンの準備をします。	
12	プレゼン準備	最終プレゼンの準備をします。	
13	プレゼン準備	最終プレゼンの準備をします。	
14	最終プレゼン	最終プレゼンを行います。	
15	授業のふりかえり	この授業をふりかえります。	

開講科目名 Course	Q1(留)日本語コミュニケーションレベル1(木3,金3)
時間割コード Course Code	15100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	本田 有子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	本田 有子 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力の基礎を固める。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル1のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>レベル1の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。 <p>案内や駅でのアナウンスなど、短く単純ではっきりした説明が理解できる。 広告、メニュー、時刻表、インターネット上のリスト状の情報などから、予め予測した特定の情報を見つけることができる。 聞き手が助けてくれれば、予測できる状況で短い会話が容易にでき、質問にも答えられる。 招待・提案・謝罪のやりとり、好き嫌いの表現ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このレベル1は、レベル2に接続する。
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none">1. 情報収集力2. 情報分析力3. 課題発見力4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none">1. 親和力2. 協同力3. 統率力4. 感情制御力5. 自信創出力6. 行動持続力7. 課題発見力8. 計画立案力9. 実践力

開講科目名 Course	Q1(留)日本語コミュニケーションレベル1(木4,金4)
時間割コード Course Code	15101
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4, 金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	本田 有子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	本田 有子 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力の基礎を固める。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル1のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>レベル1の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。 <p>案内や駅でのアナウンスなど、短く単純ではっきりした説明が理解できる。 広告、メニュー、時刻表、インターネット上のリスト状の情報などから、予め予測した特定の情報を見つけることができる。 聞き手が助けてくれれば、予測できる状況で短い会話が容易にでき、質問にも答えられる。 招待・提案・謝罪のやりとり、好き嫌いの表現ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このレベル1は、レベル2に接続する。
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none">1. 情報収集力2. 情報分析力3. 課題発見力4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none">1. 親和力2. 協同力3. 統率力4. 感情制御力5. 自信創出力6. 行動持続力7. 課題発見力8. 計画立案力9. 実践力

開講科目名 Course	Q2(留)日本語コミュニケーションレベル2(木3,金3)
時間割コード Course Code	15200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	本田 有子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	本田 有子 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力の基礎を固める。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル2のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>レベル2の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。 機器の取扱説明のような、専門的だが単純な指示や説明、ごく身近な話題の短いニュースを聞き取れる。 映像があれば、出来事や事故などの短いテレビニュースの要点が分かる。 身近な話題の会話に準備なしで加わることができる。 身近な話題について意見を表明したり情報交換したりできる。 挨拶・別れ・紹介などの社会的関係が作れる。 自分の感情の表現や感謝の表現ができる。 対面での簡単な対話を始め、続け、終わらせることができる。 わからない時に繰り返しや説明を求めることができる。 <p>・この科目は、レベル3に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	Q2(留)日本語コミュニケーションレベル2(木4,金4)
時間割コード Course Code	15201
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4, 金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	本田 有子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	本田 有子 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力の基礎を固める。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル2のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>レベル2の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。 機器の取扱説明のような、専門的だが単純な指示や説明、ごく身近な話題の短いニュースを聞き取れる。 映像があれば、出来事や事故などの短いテレビニュースの要点が分かる。 身近な話題の会話に準備なしで加わることができる。 身近な話題について意見を表明したり情報交換したりできる。 挨拶・別れ・紹介などの社会的関係が作れる。 自分の感情の表現や感謝の表現ができる。 対面での簡単な対話を始め、続け、終わらせることができる。 わからない時に繰り返しや説明を求めることができる。 <p>・この科目は、レベル3に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	Q1(留)日本語コミュニケーションレベル3(木3,金3)
時間割コード Course Code	15300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	立見 洸貴
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	百々 奈美(経営学部)、立見 洸貴(経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	次の目標を達成することを目指し学習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・わからない時に詳しい説明を求めることができる。 ・コミュニケーションが失敗しても他の方法でやり直すことができる。 ・パンフレットなどの日常の資料の中から重要な情報を探し出し理解できる。 ・店・郵便局・銀行などで、例えば品物を返品するなどの、あまり日常では起きない状況に対処することができる。 ・苦情をいうことができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・この科目は、後期のレベル4に接続する。
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none">1. 情報収集力2. 情報分析力3. 課題発見力4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none">1. 親和力2. 協同力3. 統率力4. 感情制御力5. 自信創出力6. 行動持続力7. 課題発見力8. 計画立案力9. 実践力

開講科目名 Course	Q1(留)日本語コミュニケーションレベル3(木4,金4)
時間割コード Course Code	15301
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4, 金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	立見 洸貴
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	百々 奈美(経営学部)、立見 洸貴(経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	次の目標を達成することを目指し学習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・わからない時に詳しい説明を求めることができる。 ・コミュニケーションが失敗しても他の方法でやり直すことができる。 ・パンフレットなどの日常の資料の中から重要な情報を探し出し理解できる。 ・店・郵便局・銀行などで、例えば品物を返品するなどの、あまり日常では起きない状況に対処することができる。 ・苦情をいうことができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・この科目は、後期のレベル4に接続する。
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none">1. 情報収集力2. 情報分析力3. 課題発見力4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none">1. 親和力2. 協同力3. 統率力4. 感情制御力5. 自信創出力6. 行動持続力7. 課題発見力8. 計画立案力9. 実践力

開講科目名 Course	(留)日本語コミュニケーションⅡ3
時間割コード Course Code	15351
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	柴倉 映子
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	柴倉 映子 (経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル3のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	次の目標を達成することを目指し学習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・わからない時に詳しい説明を求めることができる。 ・コミュニケーションが失敗しても他の方法でやり直すことができる。 ・パンフレットなどの日常の資料の中から重要な情報を探し出し理解できる。 ・店・郵便局・銀行などで、例えば品物を返品するなどの、あまり日常では起きない状況に対処することができる。 ・苦情をいうことができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・この科目は、後期のレベル4に接続する。
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none">1. 情報収集力2. 情報分析力3. 課題発見力4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none">1. 親和力2. 協同力3. 統率力4. 感情制御力5. 自信創出力6. 行動持続力7. 課題発見力8. 計画立案力9. 実践力

開講科目名 Course	Q2(留)日本語コミュニケーションレベル4(木3,金3)
時間割コード Course Code	15400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	立見 洸貴
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	百々 奈美(経営学部)、立見 洸貴(経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	これは、「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル4のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>レベル4の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。 指摘されたら、誤解を招きそうな誤りを修正することができる。 聞いたり読んだりする中で出会う知らないことばの意味を文脈からある程度推測できる。 標準語で話されていれば、関心のある話題についての短いドキュメンタリー番組などの内容の大半を理解できる。 映像でストーリーの大筋が伝えられているような映画やドラマを楽しむことができる。 驚き・幸せ・悲しみ・興味・無関心などの感情を表現し、相手の感情に反応することができる。 経験、感情や出来事を多少詳細に記した個人的な手紙を書くことができる。 日本の明示的な礼儀慣習を認識し、母国との主な違いを意識して、適切に行動できる。 <p>・この科目は、日本語コミュニケーションレベル5に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	Q2(留)日本語コミュニケーションレベル4(木4,金4)
時間割コード Course Code	15401
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4, 金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	立見 洸貴
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	百々 奈美(経営学部)、立見 洸貴(経営学部)
授業の目標	社会的な活動に必要な日本語能力、特に聞く・読む・やりとりする能力を養成し、伝えたいことを十分伝えられるようになる。
授業の概要	これは、「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル4のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>レベル4の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。 指摘されたら、誤解を招きそうな誤りを修正することができる。 聞いたり読んだりする中で出会う知らないことばの意味を文脈からある程度推測できる。 標準語で話されていれば、関心のある話題についての短いドキュメンタリー番組などの内容の大半を理解できる。 映像でストーリーの大筋が伝えられているような映画やドラマを楽しむことができる。 驚き・幸せ・悲しみ・興味・無関心などの感情を表現し、相手の感情に反応することができる。 経験、感情や出来事を多少詳細に記した個人的な手紙を書くことができる。 日本の明示的な礼儀慣習を認識し、母国との主な違いを意識して、適切に行動できる。 <p>・この科目は、日本語コミュニケーションレベル5に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	(留)日本語コミュニケーションレベル5
時間割コード Course Code	15550
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	金村 久美
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金村 久美 (経済学部)
授業の目標	社会的な活動をするための日本語能力を養成し、伝えたいことを流暢に伝えることを目指す。
授業の概要	「社会的な活動に必要な日本語能力」レベル5、および総合的活動・学習・生活の調整・学習の動機付けレベル5のクラスである。日本での生活・仕事・人間関係の維持のために必要な、聞く・読む・やりとりする能力の訓練を行う。自らの学習や生活を客観的に評価し調整する能力を身につける。学習や生活を助けあう仲間づくりをする。学習の動機づけを高める。
評価方法	各クラスで定めた評価基準を達成したかどうか評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>レベル5の評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この科目を受講する学生は、社会的な活動をするための日本語能力のうち、次のことができるようになる。 日本人の仕事仲間や友人などの間で話題になるような話題を、メディアを通じて時々受け取れる。新聞やウェブ上の長い記事(時には複数)にざっと目を通し、様々な部分から特定の課題遂行のための情報を集められる。 買い物やサービスなどの場面で、問題が起きたことを説明し、自分の立場や譲歩の可能性などの説明をすることができる。 ある程度の自信を持って、日常・また非日常的な事柄について情報交換をし、チェックし、確認することができる。 言いたいことを全て言えないこともあるが、会話や議論を続けることができる。 受け手に与える影響を考慮することができる。 あまりスムーズではなくても、対話の発言権をとったり、時間稼ぎをして発言権を保ち続けたり、終わらせたりすることができる。 <p>・この科目は、レベル6に接続する。</p>
テキスト	授業内でハンドアウトを配布する。
参考書	授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。

フィードバックの方法	教室内およびGoogleクラスルームを利用し随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で実施する課題の準備のため、毎回最低30分程度の予復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(留)日本語コミュニケーションⅦ
時間割コード Course Code	15750
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高木 香与呼
科目区分 Course Group	専門科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高木 香与呼 (経営学部)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動やビジネス場面の会話、やりとりに挑戦し、仕事の際に必要な表現や、コミュニケーションスキルを身に付ける。 ・自分の話し方や表現の問題に気づいて、自分で修正できるようになる。 ・モデル会話や他の人が使ったよい表現を取り入れて、よりよい伝え方に改善できるようになる。
授業の概要	<p>日本での生活・仕事・人間関係維持など、社会人として求められる基礎的な日本語能力及びコミュニケーションスキルを身に付けるために、聞く・読む・やりとりをする活動を行います。特に、ビジネス場面のコミュニケーションを扱います。</p> <p>内容(1)ウォームアップクイズ 授業の冒頭に、BJTビジネス日本語能力テストの問題を参考に作ったビジネス日本語のクイズを行います。</p> <p>内容(2)活動 ロールプレイの活動を予定しています。場面を理解し適切なやりとりを考える「準備」をし、ロールプレイを披露する「実践」を行います。その後、「ふりかえり」で「実践」のビデオを見て、自分の発音・伝え方の問題を理解し改善します。</p> <p>原則対面で行います。 質問は、授業後またはメールで対応します。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォームアップクイズ 15% ・活動(ロールプレイ、その他) 40% ・提出課題 40% ・参加態度 5%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席5回以上で失格とします。

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 企業が外国人社員に求めていること</p> <p>第3回 活動1 準備</p> <p>第4回 活動1 ロールプレイ、実践</p> <p>第5回 活動1 ふりかえり・改善</p> <p>第6回 活動2 準備</p> <p>第7回 活動2 ロールプレイ、実践</p> <p>第8回 活動2 ふりかえり・改善</p> <p>第9回 活動3 準備</p> <p>第10回 活動3 ロールプレイ、実践</p> <p>第11回 活動3 ふりかえり、改善</p> <p>第12回 活動4 準備</p> <p>第13回 活動4 ロールプレイ、実践</p> <p>第14回 活動4 ふりかえり</p> <p>第15回 全体のふりかえり、自己評価、目標を立てる</p> <p>学習状況により進度・授業内容を調整・変更することがあります。</p> <p>期末試験は行いません。</p>
テキスト	授業内で指示します。学生は購入の必要はありません。
参考書	村野節子・山辺真理子・向山陽子（2012）「上級レベルロールプレイで学ぶビジネス日本語」スリーエーネットワーク
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	原則、授業内で対応します。Classroomを併用しますので、授業時間以外はClassroomで対応することになります。
フィードバックの方法	録音・録画した画像や音声に対してフィードバックをします。 提出された課題返却時。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	この授業では、授業で実践したロールプレイを自分で見て聞いて書き起こして分析します。この分析が、自身の日本語の成長につながります。1回の授業に対し最低30分以上はかけてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 7. 課題発見力

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1			
2			
3			
4			

開講科目名 Course	(留)日本事情Ⅰ / Introduction to Japan I
時間割コード Course Code	17000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	1. 国際関係を学ぶ意味を理解する。 2. 国際関係の基本的な考え方と論点を理解する。 3. 日本語で読解する力、対話する力、論理的に考える力、考えを表現する力を身につける。
授業の概要	1. 国際関係の基本用語を理解する。 2. 国際関係の歴史と論点を理解する。 3. 細かな知識を覚えるのではなく、「なぜそうなったのか」という論理的思考の訓練を日本語で行う。 4. 国際関係に関する自分の考えを他者に日本語で説明できるようになる。
評価方法	授業における学習態度と毎回の課題提出により、総合的に成績評価します。 授業への参加などの学習態度は25点、課題の成果は75点という割合で成績を判定します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合には、失格とします。
授業計画	第1回．イントロダクション 第2回．主権国家と国民国家 第3回．産業革命と帝国主義 第4回．第一次世界大戦と国際連盟 第5回．世界恐慌と第二次世界大戦 第6回．国際協力と国際連合の課題 第7回．冷戦 第8回．東西冷戦の終結 第9回．地域経済統合の模索 第10回．人種・民族問題と地域紛争 第11回．グローバル化と現代資本主義経済 第12回．WTO体制下の自由貿易 第13回．新興国の台頭 第14回．貧困の克服 第15回．地球規模の環境問題
テキスト	授業中に配布する
参考書	初瀬龍平・野田岳人編『日本で学ぶ国際関係論』（法律文化社、2007年） 原彬久『国際関係学講義』（第五版）（有斐閣、2016年） 細谷雄一『国際秩序 18世紀ヨーロッパから21世紀アジアへ』（中央公論新社、2012年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間中および授業終了後に対応する。
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックを次の授業で行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の授業では、翌週の授業内容に関わる資料を配布するので、翌週までに各自で予習します。その資料を読んだ前提で、次回の授業を行いますので、予習は必須です。また、授業で配布した資料を家で読み、復習します。これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、本授業では必須です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(留)日本事情II / Introduction to Japan II
時間割コード Course Code	17100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	李 彩華
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華 (経営学部)
授業の目標	<p>本講義の目標は、日本の企業に関する基礎知識の一端を理解することです。とくに経営哲学と企業倫理の視点から企業について理解を深めます。現代日本企業が直面する様々な問題を理解することをめざします。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な日本企業の良き哲学 (philosophy) について学習し、理解することができる。 ・なぜ経営哲学と経営倫理の視点から企業を理解しなければならないかについて、積極的に考えることができる。 ・現代日本企業の変化について理解し、説明することができる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代日本の企業が直面する様々な問題について簡単な小論文をまとめることができる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自国の企業事情と比較して考えを深めることができる。
授業の概要	<p>昨今の日本では、企業による不祥事は様々な形で頻繁(ひんばん)に起こるようになりました。創業100年や200年以上の老舗(しにせ)企業さえ例外ではなくなりました。企業経営の「哲学」や「倫理観」が問題となっています。なぜ企業のモラルが低下したのか、その背景には何があるのか、この授業では、日本の経営哲学や倫理の良き伝統を踏まえたくて、現代日本の企業を理解する手がかりを提供したいと思います。同時に自国の企業をめぐる諸問題との比較の視点を養うことができればとも思っています。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	・参加姿勢や授業中の小レポートは50%、期末試験は50%で成績評価をします。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・原則として、欠席回数5回を超えた場合は失格(X)となる可能性があります。

授業計画	第1回 日本の近代的な企業の始まり（ガイダンスを含む） 第2回 渋沢栄一の功績と経営哲学 第3回 経営理念を重視する日本企業の良き伝統 第4回 松下幸之助の経営理念と経営哲学 第5回 「日本的経営」と時代の変化 第6回 成果主義で会社はどう変わるのか 第7回 報連相を重視する日本の企業文化 第8回 ブラック企業の問題と政府の対策 第9回 労働者の権利と今日の労働問題 第10回 企業不祥事及びそのリスクマネジメントについて 第11回 企業不祥事の事例分析 第12回 内部告発と内部告発者の保護について 第13回 求められるコンプライアンス経営 第14回 CSRを重視する新しい経営 第15回 まとめ
テキスト	用いません。
参考書	初級 高巖『なぜ企業は誠実でなければならないのか』、モラロジ-研究所2006年。 中級 小島宏『理念なき会社は滅びる!』、プレジデント社2009年。 上級 R25編集部『「法令遵守」時代のビジネスNG事例集50』、R25新書2007年。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・提出した課題について、授業中で講評し、ポイントについてまとめて、できる限り隣同士で確認してもらいます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業の後やメールなどで対応します。
フィードバックの方法	・授業中に講評するといった方法でフィードバックします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・配布した資料および自分のレベルにあった参考書をよく読んで予習・復習してもらいます。一回の講義につき、4時間程度をかけて予習・復習してもらいます。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(留)日本事情III / Introduction to Japan III
時間割コード Course Code	17200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	傘谷 祐之
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	傘谷 祐之 (経営学部)
授業の目標	日本の歴史について学び、理解し、出身国の歴史と対比できるようになる。 ・知識・理解の領域：日本の制度・社会・文化が、歴史の中でどのように作られたのか、理解する。 ・技能の領域：出身国の歴史について、日本語で説明できるようになる。 ・態度・志向性の領域：出身国と日本との制度・社会・文化の共通点・相違点について、歴史的な観点から関心を持つ。
授業の概要	この授業では、古代から現代までの日本の歴史を学びます。日本の歴史を100年から200年ずつに区切り、それぞれの時代にはどんな制度・社会・文化だったのか、どんな問題があったのか、その問題をどうやって解決しようとしたのか、学びます。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	授業後の課題 (小テスト・小レポートなど) 50% 期末テスト50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1回 導入・日本の歴史について 2回 古代 (-11世紀) (1) 3回 古代 (-11世紀) (2) 4回 古代 (-11世紀) (3) 5回 中世 (12-13世紀) (1) 6回 中世 (12-13世紀) (2) 7回 中世 (14-16世紀) (1) 8回 中世 (14-16世紀) (2) 9回 近世 (17-18世紀) (1) 10回 近世 (17-18世紀) (2) 11回 近代 (19世紀) (1) 12回 近代 (19世紀) (2) 13回 近代 (20世紀) (1) 14回 近代 (20世紀) (2) 15回 近代 (20世紀) (3)
テキスト	授業の際に配布します (名古屋大学日本法教育研究センター編『日本法を学ぶための日本史・公民』を修正したものを使用します)。
参考書	授業の際に紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業に関する質問は、(1)授業後、(2)電子メール(kasaya-y@nagoya-ku.ac.jp)、(3)Google Classroomなどで受け付けます。
フィードバックの方法	課題等に対するフィードバックは、翌週の授業で行う他、Google Classroomも利用します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：テキストを読んでおいてください(1.5時間くらい)。 復習：テキストをもう一度読み直し、指定された動画を視聴した後、Google Foremsで課題に答えてください(1.5時間くらい)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	(留)日本事情IV / Introduction to Japan IV
時間割コード Course Code	17300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	傘谷 祐之
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	傘谷 祐之 (経営学部)
授業の目標	「公民 (citizen / citizen)」として必要な知識 (たとえば、政治についての考え方や、政治制度、法律など) を学び、理解し、出身国の考え方や制度と対比できるようになる。 ・知識・理解の領域: 日本での公民として必要な知識を理解する。 ・技能の領域: 出身国の考え方や制度について、日本語で説明できるようになる。 ・態度・志向性の領域: 出身国と日本との考え方や制度の共通点・相違点について、関心を持つ。
授業の概要	この授業では、「公民 (citizen / citizen)」として必要な知識 (たとえば、政治についての考え方や、政治制度、法律など) を学びます。立憲主義や民主政治といった考え方がどのように生まれたのか、日本国憲法はどのようにつくられ、何を定めているのか、学びます。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	授業後の課題 (小テスト・小レポートなど) 50% 期末テスト50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1回 導入・公民について 2回 民主政治の基本原則(1) 立憲主義とは? 3回 民主政治の基本原則(2) 民主政治の歴史 4回 民主政治の基本原則(3) 啓蒙思想とは? 5回 民主政治の基本原則(4) 議院内閣制と大統領制 6回 民主政治の基本原則(5) 民主主義の課題 7回 日本国憲法(1) 日本国憲法ができるまで(前半) 8回 日本国憲法(2) 日本国憲法ができるまで(後半) 9回 日本国憲法(3) 日本国憲法の基本原則 10回 日本国憲法(4) 自由権 11回 日本国憲法(5) 社会権 12回 日本国憲法(6) 人権保障のための権利と新しい人権 13回 日本国憲法(7) 立法権と行政権 14回 日本国憲法(8) 司法権 15回 日本国憲法(9) 地方自治・憲法改正
テキスト	授業の際に配布します (名古屋大学日本法教育研究センター編『日本法を学ぶための日本史・公民』を修正したものを使用します)。
参考書	授業の際に紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業に関する質問は、(1)授業後、(2)電子メール(kasaya-y@nagoya-ku.ac.jp)、(3)Google Classroomなどで受け付けます。
フィードバックの方法	課題等に対するフィードバックは、翌週の授業で行う他、Google Classroomも利用します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：テキストを読んでおいてください(1.5時間くらい)。 復習：テキストをもう一度読み直し、指定された動画を視聴した後、Google Foremsで課題に答えてください(1.5時間くらい)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	(留)日本事情V / Japanese Culture and Society V
時間割コード Course Code	17400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	四辻 秀紀
科目区分 Course Group	共通科目群 留学生対象科目
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	四辻 秀紀 (経営学部)
授業の目標	日本人の培ってきた文化事象や形態についての知識を得、理解を深める。
授業の概要	<p>本授業は対面授業で行います。</p> <p>日本人は、春夏秋冬四季に移ろいゆく季節感を愛するとともに、その季節ごとに行われる祭りをはじめとする歳時や年中行事を大切にしてきました。</p> <p>授業では、東アジアの文化的背景を視野に入れつつ、前半には節供や伝統的な祭りや儀礼を取り上げます。後半では日本を代表する伝統芸能を取り上げ、その歴史や魅力を紹介します。</p> <p>VTRやスライドを用いて授業を行い、日本人が培ってきた文化や美意識の伝統を考えていきます</p>
評価方法	授業への参加状況 (学習態度) 50%、レポートの結果 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 概説 2 暦の話 3 年中行事 五節供 1 4 年中行事 五節供 2 5 年中行事 五節供 3 6 日本の祭り 1 7 日本の祭り 2 8 日本の祭り 3 9 日本の芸能 雅楽と舞楽 10 日本の芸能 能と狂言 11 日本の芸能 文楽 12 日本の芸能 歌舞伎 1 13 日本の芸能 歌舞伎 2 14 茶道と香道 15 まとめ <p>コロナ感染の状況によりますが、オプションとして土曜日あるいは日曜日にバスによる日帰り研修ツアーを計画しています。経費が必要となります。</p>
テキスト	必要に応じて資料を配信します。
参考書	授業の中で随時紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	この科目は、徳川美術館・学芸員の経験を有する教員が、日本の代表的な伝統芸能を取り上げ、これらによって育まれた文化形態の理解を深める「実務経験のある教員による授業科目」です。
質問への対応方法	随時、メール対応
フィードバックの方法	翌週に返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習・復習は全体で60時間の学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 9.実践力

開講科目名 Course	市民生活と経済(済) / Civil life and Economics
時間割コード Course Code	18001
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	羽田 徹也
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	下村 尚司(経済学部)、酒井 愛(経済学部)、プ ティ ビック リエン(経済学部)、佐藤 正之(経済学部)、村山 徹(経済学部)、木村 牧郎(経済学部)、羽田 徹也(経済学部)、定森 亮(経済学部)、齋藤 敦(経済学部)、牛山 隆一(経済学部)、安部 伸哉(経済学部)
授業の目標	<p>この講義は、経済学ではどのようなことを学ぶのか、また、経済学と関連する分野にはどのような問題があるのかを理解することを目標とした入門科目です。 本講義によって、経済学の基本的な考え方や、経済あるいは社会的問題への多様な接近方法を修得することができます。</p> <p>知識・理解の領域 経済学および関連分野の基本的な考え方を理解できる。</p> <p>思考判断の領域 様々な経済問題の考察すべき事項を見抜くことができる。</p> <p>関心意欲の領域 今後の経済社会の望ましいあり方について自らの見解を構築できる。</p> <p>態度・志向性の領域 身近な経済の諸問題について自発的に調べることができる。</p> <p>技能の領域 経済的諸問題についての考察結果を自らの言葉で説明できる。</p> <p>体験探究の領域 専門科目への入り口として、関心を持ったことについて、文献や新聞記事等を利用して自分で調べることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>本講義では、経済学および関連分野の基本的な知識と考え方を、各分野の専門的知見に基づいて説明します。一見するとバラバラに見える各領域は、高度に複雑化する現代社会を多角的に読み解こうとする経済学の射程の広さを反映するものなのです。経済学がもつ、経済現象への多様なアプローチを学ぶことで、その後の専門科目の勉強のイメージもつかみやすくなるはずです。</p> <p>・この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	各回で出される課題等(各回で詳細は異なる)への取り組みを総合して評価する。課題提出期限を設けるので注意すること(第1回目のガイダンスにおける説明をよく聞くこと)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が多いと「失格」となる場合があります。
授業計画	<p>初回(第1回)講義は本科目の全体ガイダンスを行う。 最終回(第15回)講義は本科目の総まとめを行う。 第2回から第14回までは経済学関連の基本知識を経済学部教員のオムニバス形式で講義を行う。 なお、詳細な計画については、初回講義に周知する。</p>
テキスト	テキスト指定はなし。必要に応じて、各回で資料などが配られることもある。

参考書	各講義で指示するが、さしあたって以下のものを挙げておく。 横浜国立大学経済学部テキスト・プロジェクトチーム『ゼロからはじめる経済入門：経済学への招待』、有斐閣、2019年。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後の質問、オフィスアワー、メール等オンラインで対応します。各回の担当教員の指示に従ってください。
フィードバックの方法	全体と共有することで皆の理解を助ける内容の提出課題などは、必要に応じてフィードバックすることもある。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	専門的内容のオムニバスのため、特に各回終了後の復習に時間を使うことを推奨する。（1回あたり2時間程度）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	市民生活と経済(営) / Civil life and Economics
時間割コード Course Code	18002
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	牛山 隆一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	下村 尚司(経済学部)、酒井 愛(経済学部)、プ ティ ビック リエン(経済学部)、佐藤 正之(経済学部)、村山 徹(経済学部)、木村 牧郎(経済学部)、羽田 徹也(経済学部)、定森 亮(経済学部)、齋藤 敦(経済学部)、牛山 隆一(経済学部)、安部 伸哉(経済学部)
授業の目標	<p>この講義は、経済学ではどのようなことを学ぶのか、また、経済学と関連する分野にはどのような問題があるのかを理解することを目標とした入門科目です。 本講義によって、経済学の基本的な考え方や、経済あるいは社会的問題への多様な接近方法を修得することができます。</p> <p>知識・理解の領域 経済学および関連分野の基本的な考え方を理解できる。</p> <p>思考判断の領域 様々な経済問題の考察すべき事項を見抜くことができる。</p> <p>関心意欲の領域 今後の経済社会の望ましいあり方について自らの見解を構築できる。</p> <p>態度・志向性の領域 身近な経済の諸問題について自発的に調べることができる。</p> <p>技能の領域 経済的諸問題についての考察結果を自らの言葉で説明できる。</p> <p>体験探究の領域 専門科目への入り口として、関心を持ったことについて、文献や新聞記事等を利用して自分で調べることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>本講義では、経済学および関連分野の基本的な知識と考え方を、各分野の専門的知見に基づいて説明します。一見するとバラバラに見える各領域は、高度に複雑化する現代社会を多角的に読み解こうとする経済学の射程の広さを反映するものなのです。経済学がもつ、経済現象への多様なアプローチを学ぶことで、その後の専門科目の勉強のイメージもつかみやすくなるはずです。</p> <p>・この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	各回で出される課題等(各回で詳細は異なる)への取り組みを総合して評価する。課題提出期限を設けるので注意すること(第1回目のガイダンスにおける説明をよく聞くこと)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が多いと「失格」となる場合があります。
授業計画	<p>初回(第1回)講義は本科目の全体ガイダンスを行う。 最終回(第15回)講義は本科目の総まとめを行う。 第2回から第14回までは経済学関連の基本知識を経済学部教員のオムニバス形式で講義を行う。 なお、詳細な計画については、初回講義に周知する。</p>
テキスト	テキスト指定はなし。必要に応じて、各回で資料などが配られることもある。

参考書	各講義で指示するが、さしあたって以下のものを挙げておく。 横浜国立大学経済学部テキスト・プロジェクトチーム『ゼロからはじめる経済入門：経済学への招待』、有斐閣、2019年。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後の質問、オフィスアワー、メール等オンラインで対応します。各回の担当教員の指示に従ってください。
フィードバックの方法	全体と共有することで皆の理解を助ける内容の提出課題などは、必要に応じてフィードバックすることもある。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	専門的内容のオムニバスのため、特に各回終了後の復習に時間を使うことを推奨する。（1回あたり2時間程度）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス	各回でGoogle Classroomへのアクセスが必須です。事前にクラスコードがメール配信されるので、それにしただって確実に受講してください。	
2	ミクロ経済学	需要・供給・市場・価格	
3	マクロ経済学	家計・企業・政府と経済循環	
4	経済統計学	経済分析で重要な統計の基礎	
5	経済史	過去のできごとを経済学で評価してみよう	
6	経済学史	経済学という「学問の歴史」をたどる	
7	文化人類学	文化と人間生活	
8	経済政策	政府の役割について考える	
9	社会政策	「働くこと」と「暮らしを守ること」	
10	財政学	政府の経済活動、そのしくみ、社会とのかかわり	
11	金融論	経済におけるお金の重要性	
12	経済地理	経済に関わる「もの」「こと」を、空間で表現する？	
13	環境社会学	再生可能エネルギーによる持続可能な社会の構築	
14	地域政策	地域課題の解決は誰が？どのように？	
15	国際経済論	世界経済の現状と課題	

開講科目名 Course	市民生活と経済(法) / Civil life and Economics
時間割コード Course Code	18003
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	齋藤 敦
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	下村 尚司(経済学部)、酒井 愛(経済学部)、プ ティ ビック リエン(経済学部)、佐藤 正之(経済学部)、村山 徹(経済学部)、木村 牧郎(経済学部)、羽田 徹也(経済学部)、定森 亮(経済学部)、齋藤 敦(経済学部)、牛山 隆一(経済学部)、安部 伸哉(経済学部)
授業の目標	<p>この講義は、経済学ではどのようなことを学ぶのか、また、経済学と関連する分野にはどのような問題があるのかを理解することを目標とした入門科目です。 本講義によって、経済学の基本的な考え方や、経済あるいは社会的問題への多様な接近方法を修得することができます。</p> <p>知識・理解の領域 経済学および関連分野の基本的な考え方を理解できる。</p> <p>思考判断の領域 様々な経済問題の考察すべき事項を見抜くことができる。</p> <p>関心意欲の領域 今後の経済社会の望ましいあり方について自らの見解を構築できる。</p> <p>態度・志向性の領域 身近な経済の諸問題について自発的に調べることができる。</p> <p>技能の領域 経済的諸問題についての考察結果を自らの言葉で説明できる。</p> <p>体験探究の領域 専門科目への入り口として、関心を持ったことについて、文献や新聞記事等を利用して自分で調べることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>本講義では、経済学および関連分野の基本的な知識と考え方を、各分野の専門的知見に基づいて説明します。一見するとバラバラに見える各領域は、高度に複雑化する現代社会を多角的に読み解こうとする経済学の射程の広さを反映するものなのです。経済学がもつ、経済現象への多様なアプローチを学ぶことで、その後の専門科目の勉強のイメージもつかみやすくなるはずです。</p> <p>・この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	各回で出される課題等(各回で詳細は異なる)への取り組みを総合して評価する。課題提出期限を設けるので注意すること(第1回目のガイダンスにおける説明をよく聞くこと)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が多いと「失格」となる場合があります。
授業計画	<p>初回(第1回)講義は本科目の全体ガイダンスを行う。 最終回(第15回)講義は本科目の総まとめを行う。 第2回から第14回までは経済学関連の基本知識を経済学部教員のオムニバス形式で講義を行う。 詳細については、初回講義に周知する。</p>
テキスト	テキスト指定はなし。必要に応じて、各回で資料などが配られることもある。

参考書	各講義で指示するが、さしあたって以下のものを挙げておく。 横浜国立大学経済学部テキスト・プロジェクトチーム『ゼロからはじめる経済入門：経済学への招待』、有斐閣、2019年。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後の質問、オフィスアワー、メール等オンラインで対応します。各回の担当教員の指示に従ってください。
フィードバックの方法	全体と共有することで皆の理解を助ける内容の提出課題などは、必要に応じてフィードバックすることもある。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	専門的内容のオムニバスのため、特に各回終了後の復習に時間を使うことを推奨する。（1回あたり2時間程度）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	市民生活とビジネス(済) / Civil life and Business
時間割コード Course Code	18101
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)、大曾 暢烈 (経営学部)、山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>【授業の目標】 本講義の目標は、経営学の様々な専門領域を広く学ぶことを通じて、経営学やビジネスの基礎知識・全体像・専門用語を理解することです。</p> <p>【学習成果】</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学の全体像を理解することができる。 ・経営学の主要領域を理解することができる。 ・経営学に関連する用語を理解することができる。 <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの身近な事象を経営学の視点から考えることができる。 <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学の様々な専門領域に関心を持つことができる。 ・現実のビジネスの動向に関心を持つことができる。 ・ビジネスに関わる事象から関連領域 (法律、政治、経済など) について関心を持つことができる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学やビジネスに関わる身近な事象を自ら進んで調べることができる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学の基本的な知識を用いて、現実のビジネスについて説明することができる。 ・私たちの生活とビジネスの関わりについて自分の言葉で説明することができる。

授業の概要	<p>本講義は、経営学の導入科目です。「企業はどのように経営しているのか?」、「商品はどのように作られ私たちの手元に届くのか?」、「情報技術の発展が企業経営にどのような影響を与えているのか?」、「人をいかにマネジメントしていくのか?」など、経営学をはじめ学ぶ学生が、企業経営の仕組みを理解するために必要となる重要なトピックを説明します。</p> <p>毎回の講義では、経営学の専門領域から1つのトピックを取り上げて講義を行います。「市民生活とビジネス」を受講することによって、2年次以降に受講する経営学の専門科目をより理解することが可能となります。</p> <p>質問がある場合は、講義終了後に、それぞれのトピックを担当した教員が対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染拡大により授業形態の変更が必要になった場合は、講義内容や評価方法などを大きく変更する場合があります。</p>
評価方法	期末試験の成績をもとに総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合。
授業計画	<p>第1回 私たちの生活とビジネス</p> <p>第2回 企業経営と経営環境</p> <p>第3回 経営戦略</p> <p>第4回 グローバルマネジメント</p> <p>第5回 日本的経営</p> <p>第6回 企業と社会</p> <p>第7回 経営組織</p> <p>第8回 人的資源管理</p> <p>第9回 アントレプレナーシップ</p> <p>第10回 イノベーション</p> <p>第11回 情報と企業</p> <p>第12回 会計の役割</p> <p>第13回 マーケティング</p> <p>第14回 流通と商業</p> <p>第15回 広告の役割</p>
テキスト	配布するレジユメを使用する。
参考書	<p>井原久光 (2008) 『テキスト経営学 第3版 基礎から最新の理論まで』ミネルヴァ書房。</p> <p>石井淳蔵・廣田章光・清水信年 (2020) 『1からのマーケティング 第4版』碩学舎 (中央経済社)。</p> <p>加護野忠男・吉村典久編著 (2021) 『1からの経営学 第3版』碩学舎 (中央経済社)。</p> <p>片岡信弘・工藤司・石野正彦・五月女健治 (2018) 『インターネットビジネス概論 (第2版)』共立出版。</p> <p>川本淳・野口昌良・浅見裕子・山田純平・荒田映子 (2022) 『はじめて出会う会計学 (第3版)』有斐閣。</p> <p>近能善範・高井文子 (2010) 『コア・テキスト イノベーションマネジメント』新世社。</p> <p>佐久間信夫 編著 (2011) 『経営学概論』創成社。</p> <p>櫻井克彦編著 (2006) 『現代経営学 - 経営学研究の新潮流』税務経理協会。</p> <p>崔容熏・原頼利・東伸一 (2022) 『はじめての流通 (新版)』有斐閣。</p> <p>石崎徹 (2012) 『わかりやすい広告論 (第2版)』八千代出版。</p> <p>八代充史 (2019) 『人的資源管理論 理論と制度 第3版』中央経済社。</p> <p>山田幸三・江島由裕編著 (2017) 『1からのアントレプレナーシップ』碩学舎 (中央経済社)。</p> <p>その他の文献についても随時紹介する。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	授業中に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	市民生活とビジネス(営) / Civil life and Business
時間割コード Course Code	18102
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	李 美善
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)、大曾 暢烈 (経営学部)、山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>【授業の目標】 本講義の目標は、経営学の様々な専門領域を広く学ぶことを通じて、経営学やビジネスの基礎知識・全体像・専門用語を理解することです。</p> <p>【学習成果】</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学の全体像を理解することができる。 ・経営学の主要領域を理解することができる。 ・経営学に関連する用語を理解することができる。 <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの身近な事象を経営学の視点から考えることができる。 <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学の様々な専門領域に関心を持つことができる。 ・現実のビジネスの動向に関心を持つことができる。 ・ビジネスに関わる事象から関連領域 (法律、政治、経済など) について関心を持つことができる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学やビジネスに関わる身近な事象を自ら進んで調べることができる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学の基本的な知識を用いて、現実のビジネスについて説明することができる。 ・私たちの生活とビジネスの関わりについて自分の言葉で説明することができる。

授業の概要	<p>本講義は、経営学の導入科目です。「企業はどのように経営しているのか?」、「商品はどのように作られ私たちの手元に届くのか?」、「情報技術の発展が企業経営にどのような影響を与えているのか?」、「人をいかにマネジメントしていくのか?」など、経営学をはじめ学ぶ学生が、企業経営の仕組みを理解するために必要となる重要なトピックを説明します。</p> <p>毎回の講義では、経営学の専門領域から1つのトピックを取り上げて講義を行います。「市民生活とビジネス」を受講することによって、2年次以降に受講する経営学の専門科目をより理解することが可能となります。</p> <p>質問がある場合は、講義終了後に、それぞれのトピックを担当した教員が対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染拡大により授業形態の変更が必要になった場合は、講義内容や評価方法などを大きく変更する場合があります。</p>
評価方法	期末試験の成績をもとに総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合。
授業計画	<p>第1回 私たちの生活とビジネス</p> <p>第2回 企業経営と経営環境</p> <p>第3回 経営戦略</p> <p>第4回 グローバルマネジメント</p> <p>第5回 日本的経営</p> <p>第6回 企業と社会</p> <p>第7回 経営組織</p> <p>第8回 人的資源管理</p> <p>第9回 アントレプレナーシップ</p> <p>第10回 イノベーション</p> <p>第11回 情報と企業</p> <p>第12回 会計の役割</p> <p>第13回 マーケティング</p> <p>第14回 流通と商業</p> <p>第15回 広告の役割</p>
テキスト	配布するレジユメを使用する。
参考書	<p>井原久光 (2008) 『テキスト経営学 第3版 基礎から最新の理論まで』ミネルヴァ書房。</p> <p>石井淳蔵・廣田章光・清水信年 (2020) 『1からのマーケティング 第4版』碩学舎 (中央経済社)。</p> <p>加護野忠男・吉村典久編著 (2021) 『1からの経営学 第3版』碩学舎 (中央経済社)。</p> <p>片岡信弘・工藤司・石野正彦・五月女健治 (2018) 『インターネットビジネス概論 (第2版)』共立出版。</p> <p>川本淳・野口昌良・浅見裕子・山田純平・荒田映子 (2022) 『はじめて出会う会計学 (第3版)』有斐閣。</p> <p>近能善範・高井文子 (2010) 『コア・テキスト イノベーションマネジメント』新世社。</p> <p>佐久間信夫 編著 (2011) 『経営学概論』創成社。</p> <p>櫻井克彦編著 (2006) 『現代経営学 - 経営学研究の新潮流』税務経理協会。</p> <p>崔容熏・原頼利・東伸一 (2022) 『はじめての流通 (新版)』有斐閣。</p> <p>石崎徹 (2012) 『わかりやすい広告論 (第2版)』八千代出版。</p> <p>八代充史 (2019) 『人的資源管理論 理論と制度 第3版』中央経済社。</p> <p>山田幸三・江島由裕編著 (2017) 『1からのアントレプレナーシップ』碩学舎 (中央経済社)。</p> <p>その他の文献についても随時紹介する。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	授業中に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	市民生活とビジネス(法) / Civil life and Business
時間割コード Course Code	18103
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)、大曾 暢烈 (経営学部)、山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>【授業の目標】 本講義の目標は、経営学の様々な専門領域を広く学ぶことを通じて、経営学やビジネスの基礎知識・全体像・専門用語を理解することです。</p> <p>【学習成果】</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学の全体像を理解することができる。 ・経営学の主要領域を理解することができる。 ・経営学に関連する用語を理解することができる。 <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの身近な事象を経営学の視点から考えることができる。 <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学の様々な専門領域に関心を持つことができる。 ・現実のビジネスの動向に関心を持つことができる。 ・ビジネスに関わる事象から関連領域 (法律、政治、経済など) について関心を持つことができる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学やビジネスに関わる身近な事象を自ら進んで調べることができる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学の基本的な知識を用いて、現実のビジネスについて説明することができる。 ・私たちの生活とビジネスの関わりについて自分の言葉で説明することができる。

授業の概要	<p>本講義は、経営学の導入科目です。「企業はどのように経営しているのか?」、「商品はどのように作られ私たちの手元に届くのか?」、「情報技術の発展が企業経営にどのような影響を与えているのか?」、「人をいかにマネジメントしていくのか?」など、経営学をはじめ学ぶ学生が、企業経営の仕組みを理解するために必要となる重要なトピックを説明します。</p> <p>毎回の講義では、経営学の専門領域から1つのトピックを取り上げて講義を行います。「市民生活とビジネス」を受講することによって、2年次以降に受講する経営学の専門科目をより理解することが可能となります。</p> <p>質問がある場合は、講義終了後に、それぞれのトピックを担当した教員が対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染拡大により授業形態の変更が必要になった場合は、講義内容や評価方法などを大きく変更する場合があります。</p>
評価方法	期末試験の成績をもとに総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合。
授業計画	<p>第1回 私たちの生活とビジネス</p> <p>第2回 企業経営と経営環境</p> <p>第3回 経営戦略</p> <p>第4回 グローバルマネジメント</p> <p>第5回 日本的経営</p> <p>第6回 企業と社会</p> <p>第7回 経営組織</p> <p>第8回 人的資源管理</p> <p>第9回 アントレプレナーシップ</p> <p>第10回 イノベーション</p> <p>第11回 情報と企業</p> <p>第12回 会計の役割</p> <p>第13回 マーケティング</p> <p>第14回 流通と商業</p> <p>第15回 広告の役割</p>
テキスト	配布するレジユメを使用する。
参考書	<p>井原久光 (2008) 『テキスト経営学 第3版 基礎から最新の理論まで』ミネルヴァ書房。</p> <p>石井淳蔵・廣田章光・清水信年 (2020) 『1からのマーケティング 第4版』碩学舎 (中央経済社)。</p> <p>加護野忠男・吉村典久編著 (2021) 『1からの経営学 第3版』碩学舎 (中央経済社)。</p> <p>片岡信弘・工藤司・石野正彦・五月女健治 (2018) 『インターネットビジネス概論 (第2版)』共立出版。</p> <p>川本淳・野口昌良・浅見裕子・山田純平・荒田映子 (2022) 『はじめて出会う会計学 (第3版)』有斐閣。</p> <p>近能善範・高井文子 (2010) 『コア・テキスト イノベーションマネジメント』新世社。</p> <p>佐久間信夫 編著 (2011) 『経営学概論』創成社。</p> <p>櫻井克彦編著 (2006) 『現代経営学 - 経営学研究の新潮流』税務経理協会。</p> <p>崔容熏・原頼利・東伸一 (2022) 『はじめての流通 (新版)』有斐閣。</p> <p>石崎徹 (2012) 『わかりやすい広告論 (第2版)』八千代出版。</p> <p>八代充史 (2019) 『人的資源管理論 理論と制度 第3版』中央経済社。</p> <p>山田幸三・江島由裕編著 (2017) 『1からのアントレプレナーシップ』碩学舎 (中央経済社)。</p> <p>その他の文献についても随時紹介する。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	授業中に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	市民生活と法(済) / Civil life and Law
時間割コード Course Code	18201
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	佐藤 直史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 直史(法学部)、白出 博之(法学部)、謝 芸甜(法学部)
授業の目標	この講義は、日常生活と法律の基礎的な関係について、身近な事例から理解することで、今後法律を学習するための基本的な視点(法的な考え方はどういうものか、法解釈はどのように行うのかなど)を提供することを目標とします。 〔知識・理解の観点〕 日常生活が多くの法律に関係していることを理解できる。 〔思考・診断の観点〕 日常のある行動が、どのような法律と関係し、どのような解決が図られるか大まかに見通すことができる。 〔関心・意欲の観点〕 実社会のさまざまな出来事と法律の関係について興味を持つことができる。 〔態度の観点〕 現実の紛争の解決方法を自ら調べることができる。
授業の概要	例えば、アルバイトをする、日用品を買う、部屋を借りる、交通事故に遭う、家族を失う等、私たちの生活イベントには、一定のルールが定められています。この「ルール」が法律であり、法律を知るとは、トラブルの回避や解決方法を知ることでもあります。日常生活に関係する法律を、3人の教員が各5回ずつ設定されたテーマにそって、わかりやすく解説します。 〔この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること〕
評価方法	受講態度〔授業中に実施する小レポート・小テストなど課題への取り組み方から総合的に評価する〕(40%)および期末試験(60%)により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席した場合は失格とします。なお、特別欠席は欠席回数に含みません。出席不正等の不正行為を行った者は出席回数にかかわらず失格とします。

授業計画	<p>=・・・・・・・・・・・・・・=</p> <p>佐藤担当</p> <p>1 ガイダンス・法とは何か</p> <p>2 スポーツと法(1)</p> <p>3 スポーツと法(2)</p> <p>4 ビジネスと法</p> <p>5 SDGsと法</p> <p>=・・・・・・・・・・・・・・=</p> <p>白出担当</p> <p>6 身近なニュースと法(1)</p> <p>7 犯罪と法</p> <p>8 裁判と法</p> <p>9 統治機構と法</p> <p>10 人権の尊重と法</p> <p>=・・・・・・・・・・・・・・=</p> <p>濱口担当</p> <p>11 身近なニュースと法(2)</p> <p>12 日常生活と契約</p> <p>13 日常生活とアクシデント</p> <p>14 家族と法</p> <p>15 相続と法</p> <p>=・・・・・・・・・・・・・・=</p>
テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント・資料を配布します。
参考書	<p>(六法)</p> <p>『法学六法2023』(信山社、2022年)</p> <p>(自主学習のために)</p> <p>授業で扱ったテーマをより深く学びたい人には、以下の参考書をおすすめします。各自のレベルにあったものを選び、自主学習に役立ててください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入門：潮見佳男ほか『18歳からはじめる民法 第4版』(法律文化社 2019年) ・初級：池田真朗ほか『法の世界へ 第8版』(有斐閣、2020年) ・中級：緒方桂子ほか『日本の法 第2版』(日本評論社、2020年)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	一部の授業において、テーマを定めて議論を行うとともに、グーグルフォームを用いた振り返りを行います。また、リアルタイムアンケートツールの活用も検討しています。なお、議論は、感染症対策を充分に行った上で実施する予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況によっては中止する可能性もあります。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	弁護士としての経験を有する教員が法律実務上の経験を活用し、身近な法律について解説を行う授業です。
質問への対応方法	授業時間の前後およびオフィスアワーにおいて対応します。
フィードバックの方法	授業で実施する課題については、実施後または翌週の授業で講評・解説を行います。期末試験の結果に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	この授業では、毎回プリントを配布し、その日に行う授業内容をレジюмеで提示します。このレジюмеには黒板に書かれたことや解説内容を記載できるようにしてあるので、授業が終わってから、書き留めたことを整理するようにしてください。1回の授業につき必要な予習・復習は各2時間ずつが目安です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>3.すべての人に健康と福祉を</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>12.つくる責任つかう責任</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>5.自信創出力</p> <p>7.課題発見力</p> <p>9.実践力</p>

開講科目名 Course	市民生活と法(営) / Civil life and Law
時間割コード Course Code	18202
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	白出 博之
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 直史(法学部)、白出 博之(法学部)、謝 芸甜(法学部)
授業の目標	この講義は、日常生活と法律の基礎的な関係について、身近な事例から理解することで、今後法律を学習するための基本的な視点(法的な考え方はどういうものか、法解釈はどのように行うのかなど)を提供することを目標とします。 〔知識・理解の観点〕 日常生活が多くの法律に関係していることを理解できる。 〔思考・診断の観点〕 日常のある行動が、どのような法律と関係し、どのような解決が図られるか大まかに見通すことができる。 〔関心・意欲の観点〕 実社会のさまざまな出来事と法律の関係について興味を持つことができる。 〔態度の観点〕 現実の紛争の解決方法を自ら調べることができる。
授業の概要	例えば、アルバイトをする、日用品を買う、部屋を借りる、交通事故に遭う、家族を失う等、私たちの生活イベントには、一定のルールが定められています。この「ルール」が法律であり、法律を知るとは、トラブルの回避や解決方法を知ることでもあります。日常生活に関係する法律を、3人の教員が各5回ずつ設定されたテーマにそって、わかりやすく解説します。 〔この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること〕
評価方法	受講態度〔授業中に実施する小レポート・小テストなど課題への取り組み方から総合的に評価する〕(40%)および期末試験(60%)により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席した場合は失格とします。なお、特別欠席は欠席回数に含みません。出席不正等の不正行為を行った者は出席回数にかかわらず失格とします。

授業計画	<p>=・・・・・・・・・・・・・・=</p> <p>白出担当</p> <p>1 ガイダンス・法とは何か</p> <p>2 犯罪と法</p> <p>3 裁判と法</p> <p>4 統治機構と法</p> <p>5 人権の尊重と法</p> <p>=・・・・・・・・・・・・・・=</p> <p>濱口担当</p> <p>6 身近なニュースと法（1）</p> <p>7 日常生活と契約</p> <p>8 日常生活とアクシデント</p> <p>9 家族と法</p> <p>10 相続と法</p> <p>=・・・・・・・・・・・・・・=</p> <p>佐藤担当</p> <p>11 身近なニュースと法（2）</p> <p>12 スポーツと法（1）</p> <p>13 スポーツと法（2）</p> <p>14 ビジネスと法</p> <p>15 SDGsと法</p> <p>=・・・・・・・・・・・・・・=</p>
テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント・資料を配布します。
参考書	<p>（六法）</p> <p>『法学六法2023』（信山社、2022年）</p> <p>（自主学習のために）</p> <p>授業で扱ったテーマをより深く学びたい人には、以下の参考書をおすすめします。各自のレベルにあったものを選び、自主学習に役立ててください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入門：潮見佳男ほか『18歳からはじめる民法 第4版』（法律文化社 2019年） ・初級：池田真朗ほか『法の世界へ 第8版』（有斐閣、2020年） ・中級：緒方桂子ほか『日本の法 第2版』（日本評論社、2020年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	一部の授業において、テーマを定めて議論を行うとともに、グーグルフォームを用いた振り返りを行います。また、リアルタイムアンケートツールの活用も検討しています。 なお、議論は、感染症対策を充分に行った上で実施する予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況によっては中止する可能性もあります。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	弁護士としての経験を有する教員が法律実務上の経験を活用し、身近な法律について解説を行う授業です。
質問への対応方法	授業時間の前後およびオフィスアワーにおいて対応します。
フィードバックの方法	授業で実施する課題については、実施後または翌週の授業で講評・解説を行います。 期末試験の結果に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	この授業では、毎回プリントを配布し、その日に行う授業内容をレジюмеで提示します。このレジюмеには黒板に書かれたことや解説内容を記載できるようにしてあるので、授業が終わってから、書き留めたことを整理するようにしてください。1回の授業につき必要な予習・復習は各2時間ずつが目安です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3.すべての人に健康と福祉を</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>12.つくる責任つかう責任</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>5.自信創出力</p> <p>7.課題発見力</p> <p>9.実践力</p>

開講科目名 Course	市民生活と法(法) / Civil life and Law
時間割コード Course Code	18203
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	謝 芸甜
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 直史(法学部)、白出 博之(法学部)、謝 芸甜(法学部)
授業の目標	この講義は、日常生活と法律の基礎的な関係について、身近な事例から理解することで、今後法律を学習するための基本的な視点(法的な考え方はどういうものか、法解釈はどのように行うのかなど)を提供することを目標とします。 〔知識・理解の観点〕 日常生活が多くの法律に関係していることを理解できる。 〔思考・診断の観点〕 日常のある行動が、どのような法律と関係し、どのような解決が図られるか大まかに見通すことができる。 〔関心・意欲の観点〕 実社会のさまざまな出来事と法律の関係について興味を持つことができる。 〔態度の観点〕 現実の紛争の解決方法を自ら調べることができる。
授業の概要	例えば、アルバイトをする、日用品を買う、部屋を借りる、交通事故に遭う、家族を失う等、私たちの生活イベントには、一定のルールが定められています。この「ルール」が法律であり、法律を知ることは、トラブルの回避や解決方法を知ることであります。日常生活に関係する法律を、3人の教員が各5回ずつ設定されたテーマにそって、わかりやすく解説します。 〔この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること〕
評価方法	受講態度〔授業中に実施する小レポート・小テストなど課題への取り組み方から総合的に評価する〕(40%)および期末試験(60%)により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上欠席した場合は失格とします。なお、特別欠席は欠席回数に含みません。出席不正等の不正行為を行った者は出席回数にかかわらず失格とします。

授業計画	<p>=・・・・・・・・・・・・・・=</p> <p>濱口担当</p> <p>1 ガイダンス・法とは何か</p> <p>2 日常生活と契約</p> <p>3 日常生活とアクシデント</p> <p>4 家族と法</p> <p>5 相続と法</p> <p>=・・・・・・・・・・・・・・=</p> <p>佐藤担当</p> <p>6 身近なニュースと法（1）</p> <p>7 スポーツと法（1）</p> <p>8 スポーツと法（2）</p> <p>9 ビジネスと法</p> <p>10 SDGsと法</p> <p>=・・・・・・・・・・・・・・=</p> <p>白出担当</p> <p>11 身近なニュースと法（2）</p> <p>12 犯罪と法</p> <p>13 裁判と法</p> <p>14 統治機構と法</p> <p>15 人権の尊重と法</p> <p>=・・・・・・・・・・・・・・=</p>
テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント・資料を配布します。
参考書	<p>（六法）</p> <p>『法学六法2023』（信山社、2022年）</p> <p>（自主学習のために）</p> <p>授業で扱ったテーマをより深く学びたい人には、以下の参考書をおすすめします。各自のレベルにあったものを選び、自主学習に役立ててください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入門：潮見佳男ほか『18歳からはじめる民法 第4版』（法律文化社 2019年） ・初級：池田真朗ほか『法の世界へ 第8版』（有斐閣、2020年） ・中級：緒方桂子ほか『日本の法 第2版』（日本評論社、2020年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	一部の授業において、テーマを定めて議論を行うとともに、Googleフォームを用いた振り返りを行います。また、リアルタイムアンケートツールの活用も検討しています。 なお、議論は、感染症対策を充分に行った上で実施する予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況によっては中止する可能性もあります。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士としての経験を有する教員が法律実務上の経験を活用し、身近な法律について解説を行う授業です。
質問への対応方法	授業時間の前後およびオフィスアワーにおいて対応します。
フィードバックの方法	授業で実施する課題については、実施後または翌週の授業で講評・解説を行います。 期末試験の結果に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	この授業では、毎回プリントを配布し、その日に行う授業内容をレジュメで提示します。 このレジュメには黒板に書かれたことや解説内容を記載できるようにしてあるので、授業が終わってから、書き留めたことを整理するようにしてください。1回の授業につき必要な予習・復習は各2時間ずつが目安です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>3. 課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>5. 自信創出力</p> <p>7. 課題発見力</p> <p>9. 実践力</p>

開講科目名 Course	市民生活とキャリア形成(再1) / Civil life and Career-design
時間割コード Course Code	18311
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	水口 美知子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水口 美知子 (法学部)
授業の目標	<p>この授業の目標は、就職する際に必要な基本的能力、スキルを知り、有意義な学生生活を送れるよう、その基礎をあらためて学び、使えるようにすることにあります。</p> <p>そして、その基礎をもとに、社会に出る際に必要なスキルや能力（コミュニケーション能力、協働能力、創造力など）、スタンスを知る、磨く、みなさんの将来の選択肢（業界、企業、職業、職種、働き方など）を知る、考える、広げます。</p> <p>それらを目標に、講義、個人ワーク、ペアワーク等を通じ学び、考え、磨いてもらう授業です。2年以降のインターンシップ、3年後期以降の就職活動につながる、自身の将来を考えるために重要な考え方を学ぶ機会です。</p> <p>このクラスを履修する皆さんは、すでに「市民生活とキャリア形成」の一部、もしくはほとんどの授業を聴講しているかもしれませんが、あらためて残りの大学生活をどう過ごすか？を考える機会としてこの授業を活用してください。</p> <p><学習成果></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、本学のキャリア教育プログラムの全体像を理解し、有効活用する準備を整える 2、2年次以降に設定されているインターンシップ（選択必修）への参加の意味を考え、準備（書類作成、受入れ先選びを含む）を整える 3、世の中にある様々な生き方、働き方を知り、卒業後の自分自身のために残り短い学生生活という時間をどう過ごすか向き合い、考え、選択する <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の意味疎通に加えて、インターンシップや社会で必要に応じたルール等を理解し、社会人としてより円滑なコミュニケーションを行うためのノンバーバルコミュニケーションやメールコミュニケーションが行えるようになる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で働くうえで必要とされる能力や態度を理解し、学生とは異なる属性の他者と協調するために必要なことを理解できる。 ・学生生活を通じて、成長させたい汎用的技能を検討し、自律して成長させるための計画を立てられるようになることを目指す。 ・卒業後の人生について検討を行うことで、キャリア形成に必要な要素を理解し、自分の将来を検討できるレベルを目指す。

授業の概要	<p>各回を通して、 講義 個人ワーク ペアワーク・グループワーク等 個人ワーク・小レポート という流れで授業を進めていきます。 まずは、新しい情報を皆さんにお伝えし、それを個人で考え、他人と共有し、視野を広げ、改めて個人で考え選択する。 それを繰り返すことにより、視野を広げ、自身で考え選択するというキャリア選択において重要なプロセスを体験します。 また、実際にインターンシップ（就業体験）に参加した先輩の話しや、世の中の社会人、学生に実施した調査結果を基に、なぜそのキャリアを選択したのか、どんな大人になりたかったのかなど、他人の考え、価値観を知ること、自身の考えを明確にし、文章化することも体験して頂き、結果的に、大学での学びに必要な「レポートの書き方」「学び方」「考え方」などを体験して頂き、そして、社会で必要とされる「コミュニケーション力」「主体性」「創造力・想像力」などを磨きます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>定期試験期間中には筆記試験を実施しない。 全体で10回以上の出席を評価の前提とする。 遅刻、早退は原則として認めない。 授業への参加姿勢（10%） 授業後の小レポートの内容（35%） 学外活動レポートの内容（15%） 最後の授業の回のレポート等の課題の提出（5%） 最後の授業の回のレポートの内容（35%）</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1.カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。 2.毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1回 オリエンテーション（授業の目的・進め方、授業に必要な考え方） 第2回 授業に必要なスキルを学ぶ・体験する 第3回 これまでの評価基準とこれからの評価基準をもう一度考える 第4回 社会で求められる能力、スキル、スタンスを知り、自身を見つめる 第5回 仕事選び、会社選びを間違えるとどうなるのか？ 第6回 “働ければどこでもいい”は本当か？ 第7回 職業選び、企業選びの成功例から学ぶ 第8回 大学生生活、大学生生活のその後について考える 第9回 インターンシップの理解を深める 第10回 日本企業で働くについて知る、考える 第11回 自分自身の今の志向・夢について考え、まとめる 第12回 インターンシップ体験談1 第13回 インターンシップ体験談2 第14回 自身の現状（基礎力）を振り返り、学生生活の送り方、目標を考える 第15回 期末レポートの共有・提出「夏休みの過ごし方について」</p>
テキスト	<p>教科書は用いず、必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>授業で配布するプリントなどを整理しやすくするため、また授業で気になったことなどをメモするために、B5サイズのノートを購入しておいてください。期末レポートを書く際に便利です。ノートは方眼タイプ、罫線タイプどちらでも構わないですが、無地はあまりおすすめしません。他に必要なものはボールペン（油性・水性どちらでも。消えるペンはおすすめしません。）テープタイプののり</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップに関与した経験を持つ教員が、その当該経験を活かしキャリア形成の意義、方法について解説し、その上でキャリア形成を考える授業である。
質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時までの間で電話連絡を行うか、教員がキャリアセンターに在席している場合はその場で対応。
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の様子を撮影した動画や本講義で配布したプリントを用いて、2時間復習を行う。 合計:15×2時間=30時間 ジェネリックスキルや社会人基礎力を伸ばさせるための活動と振り返りを行う 15時間 学外活動とレポートの作成 15時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	市民生活とキャリア形成(再2) / Civil life and Career-design
時間割コード Course Code	18312
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	筒井 徹也
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	筒井 徹也 (法学部)
授業の目標	<p>この授業の目標は、就職する際に必要な基本的能力、スキルを知り、有意義な学生生活を送れるよう、その基礎をあらためて学び、使えるようにすることにあります。</p> <p>そして、その基礎をもとに、社会に出る際に必要なスキルや能力（コミュニケーション能力、協働能力、創造力など）、スタンスを知る、磨く、みなさんの将来の選択肢（業界、企業、職業、職種、働き方など）を知る、考える、広げます。</p> <p>それらを目標に、講義、個人ワーク、ペアワーク等を通じ学び、考え、磨いてもらう授業です。2年以降のインターンシップ、3年後期以降の就職活動につながる、自身の将来を考えるために重要な考え方を知る機会です。</p> <p>このクラスを履修する皆さんは、すでに「市民生活とキャリア形成」の一部、もしくはほとんどの授業を聴講しているかもしれませんが、あらためて残りの大学生活をどう過ごすか？を考える機会としてこの授業を活用してください。</p> <p><学習成果></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、本学のキャリア教育プログラムの全体像を理解し、有効活用する準備を整える 2、2年次以降に設定されているインターンシップ（選択必修）への参加の意味を考え、準備（書類作成、受入れ先選びを含む）を整える 3、世の中にある様々な生き方、働き方を知り、卒業後の自分自身のために残り短い学生生活という時間をどう過ごすか向き合い、考え、選択する <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の意味疎通に加えて、インターンシップや社会で必要に応じたルール等を理解し、社会人としてより円滑なコミュニケーションを行うためのノンバーバルコミュニケーションやメールコミュニケーションが行えるようになる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で働くうえで必要とされる能力や態度を理解し、学生とは異なる属性の他者と協調するために必要なことを理解できる。 ・学生生活を通じて、成長させたい汎用的技能を検討し、自律して成長させるための計画を立てられるようになることを目指す。 ・卒業後の人生について検討を行うことで、キャリア形成に必要な要素を理解し、自分の将来を検討できるレベルを目指す。

授業の概要	<p>各回を通して、 講義 個人ワーク ペアワーク・グループワーク等 個人ワーク・小レポート という流れで授業を進めていきます。 まずは、新しい情報を皆さんにお伝えし、それを個人で考え、他人と共有し、視野を広げ、改めて個人で考え選択する。 それを繰り返すことにより、視野を広げ、自身で考え選択するというキャリア選択において重要なプロセスを体験します。 また、実際にインターンシップ（就業体験）に参加した先輩の話しや、世の中の社会人、学生に実施した調査結果を基に、なぜそのキャリアを選択したのか、どんな大人になりたかったのかなど、他人の考え、価値観を知ること、自身の考えを明確にし、文章化することも体験します。 結果的に、大学での学びに必要な「レポートの書き方」「学び方」「考え方」などを体験して頂き、そして、社会で必要とされる「コミュニケーション力」「主体性」「創造力・想像力」などを磨きます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>定期試験期間中には筆記試験を実施しない。 全体で10回以上の出席を評価の前提とする。 遅刻、早退は原則として認めない。 授業への参加姿勢（10%） 授業後の小レポートの内容（35%） 学外活動レポートの内容（15%） 最後の授業の回のレポート等の課題の提出（5%） 最後の授業の回のレポートの内容（35%）</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1. カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。 2. 毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1回 オリエンテーション（授業の目的・進め方、授業に必要な考え方） 第2回 授業に必要なスキルを学ぶ・体験する 第3回 これまでの評価基準とこれからの評価基準をもう一度考える 第4回 社会で求められる能力、スキル、スタンスを知り、自身を見つめる 第5回 仕事選び、会社選びを間違えるとどうなるのか？ 第6回 “働けばどこでもいい”は本当か？ 第7回 職業選び、企業選びの成功例から学ぶ 第8回 大学生生活、大学生生活のその後について考える 第9回 インターンシップの理解を深める 第10回 日本企業で働くについて知る、考える 第11回 自分自身の今の志向・夢について考え、まとめる 第12回 インターンシップ体験談1 第13回 インターンシップ体験談2 第14回 自身の現状（基礎力）を振り返り、学生生活の送り方、目標を考える 第15回 期末レポートの共有・提出「夏休みの過ごし方について」</p>
テキスト	<p>教科書は用いず、必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>授業で配布するプリントなどを整理しやすくするため、また授業で気になったことなどをメモするために、B5サイズのノートを購入しておいてください。期末レポートを書く際に便利です。ノートは方眼タイプ、罫線タイプどちらでも構わないですが、無地はあまりおすすめしません。他に必要なものはボールペン（油性・水性どちらでも。消えるペンはおすすめしません。）テーブルタイプののり</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップに関与した経験を持つ教員が、その当該経験を活かしキャリア形成の意義、方法について解説し、その上でキャリア形成を考える授業である。
質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時までの間で電話連絡を行うか、教員がキャリアセンターに在席している場合はその場で対応。
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の様子を撮影した動画や本講義で配布したプリントを用いて、2時間復習を行う。 合計:15×2時間=30時間 ジェネリックスキルや社会人基礎力を伸長させるための活動と振り返りを行う 15時間 学外活動とレポートの作成 15時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	市民生活とキャリア形成(再3) / Civil life and Career-design
時間割コード Course Code	18313
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	倉橋 和世
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	倉橋 和世 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業の目標は、就職する際に必要な基本的能力、スキルを知り、有意義な学生生活を送れるよう、その基礎をあらためて学び、使えるようにすることにあります。</p> <p>そして、その基礎をもとに、社会に出る際に必要なスキルや能力（コミュニケーション能力、協働能力、創造力など）、スタンスを知る、磨く、みなさんの将来の選択肢（業界、企業、職業、職種、働き方など）を知る、考える、広げます。</p> <p>それらを目標に、講義、個人ワーク、ペアワーク等を通じ学び、考え、磨いてもらう授業です。2年以降のインターンシップ、3年後期以降の就職活動につながる、自身の将来を考えるために重要な考え方を知る機会です。</p> <p>このクラスを履修する皆さんは、すでに「市民生活とキャリア形成」の一部、もしくはほとんどの授業を聴講しているかもしれませんが、あらためて残りの大学生活をどう過ごすか？を考える機会としてこの授業を活用してください。</p> <p><学習成果></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、本学のキャリア教育プログラムの全体像を理解し、有効活用する準備を整える 2、2年次以降に設定されているインターンシップ（選択必修）への参加の意味を考え、準備（書類作成、受入れ先選びを含む）を整える 3、世の中にある様々な生き方、働き方を知り、卒業後の自分自身のために残り短い学生生活という時間をどう過ごすか向き合い、考え、選択する <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の意味疎通に加えて、インターンシップや社会で必要に応じたルール等を理解し、社会人としてより円滑なコミュニケーションを行うためのノンバーバルコミュニケーションやメールコミュニケーションが行えるようになる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で働くうえで必要とされる能力や態度を理解し、学生とは異なる属性の他者と協調するために必要なことを理解できる。 ・学生生活を通じて、成長させたい汎用的技能を検討し、自律して成長させるための計画を立てられるようになることを目指す。 ・卒業後の人生について検討を行うことで、キャリア形成に必要な要素を理解し、自分の将来を検討できるレベルを目指す。

授業の概要	<p>各回を通して、 講義 個人ワーク ペアワーク・グループワーク等 個人ワーク・小レポート という流れで授業を進めていきます。 まずは、新しい情報を皆さんにお伝えし、それを個人で考え、他人と共有し、視野を広げ、改めて個人で考え選択する。 それを繰り返すことにより、視野を広げ、自身で考え選択するというキャリア選択において重要なプロセスを体験します。 また、実際にインターンシップ(就業体験)に参加した先輩の話しや、世の中の社会人、学生に実施した調査結果を基に、なぜそのキャリアを選択したのか、どんな大人になりたかったのかなど、他人の考え、価値観を知ること、自身の考えを明確にし、文章化することも体験します。 結果的に、大学での学びに必要な「レポートの書き方」「学び方」「考え方」などを体験して頂き、そして、社会で必要とされる「コミュニケーション力」「主体性」「創造力・想像力」などを磨きます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>定期試験期間中には筆記試験を実施しない。 全体で10回以上の出席を評価の前提とする。 遅刻、早退は原則として認めない。 授業への参加姿勢(10%) 授業後の小レポートの内容(35%) 学外活動レポートの内容(15%) 最後の授業の回のレポート等の課題の提出(5%) 最後の授業の回のレポートの内容(35%)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1.カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。 2.毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方、授業に必要な考え方) 第2回 授業に必要なスキルを学ぶ・体験する 第3回 これまでの評価基準とこれからの評価基準をもう一度考える 第4回 社会で求められる能力、スキル、スタンスを知り、自身を見つめる 第5回 仕事選び、会社選びを間違えるとどうなるのか? 第6回 “働ければどこでもいい”は本当か? 第7回 職業選び、企業選びの成功例から学ぶ 第8回 大学生生活、大学生生活のその後について考える 第9回 インターンシップの理解を深める 第10回 日本企業で働くについて知る、考える 第11回 自分自身の今の志向・夢について考え、まとめる 第12回 インターンシップ体験談1 第13回 インターンシップ体験談2 第14回 自身の現状(基礎力)を振り返り、学生生活の送り方、目標を考える 第15回 期末レポートの共有・提出「夏休みの過ごし方について」</p>
テキスト	<p>教科書は用いず、必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>授業で配布するプリントなどを整理しやすくするため、また授業で気になったことなどをメモするために、B5サイズのノートを購入しておいてください。期末レポートを書く際に便利です。 ノートは方眼タイプ、罫線タイプどちらでも構わないですが、無地はあまりおすすめしません。 他に必要なものはボールペン(油性・水性どちらでも。消えるペンはおすすめしません。)テープタイプののり</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップに関与した経験を持つ教員が、その当該経験を活かしキャリア形成の意義、方法について解説し、その上でキャリア形成を考える授業である。

質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時までの間で電話連絡を行うか、教員がキャリアセンターに在席している場合はその場で対応。
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の様子を撮影した動画や本講義で配布したプリントを用いて、2時間復習を行う。 合計:15×2時間=30時間 ジェネリックスキルや社会人基礎力を伸長させるための活動と振り返りを行う 15時間 学外活動とレポートの作成 15時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	市民生活とキャリア形成(再4) / Civil life and Career-design
時間割コード Course Code	18314
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 繁生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 繁生 (経営学部)
授業の目標	<p>この授業の目標は、就職する際に必要な基本的能力、スキルを知り、有意義な学生生活を送れるよう、その基礎をあらためて学び、使えるようにすることにあります。</p> <p>そして、その基礎をもとに、社会に出る際に必要なスキルや能力（コミュニケーション能力、協働能力、創造力など）、スタンスを知る、磨く、みなさんの将来の選択肢（業界、企業、職業、職種、働き方など）を知る、考える、広げます。</p> <p>それらを目標に、講義、個人ワーク、ペアワーク等を通じ学び、考え、磨いてもらう授業です。2年以降のインターンシップ、3年後期以降の就職活動につながる、自身の将来を考えるために重要な考え方を学ぶ機会です。</p> <p>このクラスを履修する皆さんは、すでに「市民生活とキャリア形成」の一部、もしくはほとんどの授業を聴講しているかもしれませんが、あらためて残りの大学生活をどう過ごすか？を考える機会としてこの授業を活用してください。</p> <p><学習成果></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、本学のキャリア教育プログラムの全体像を理解し、有効活用する準備を整える 2、2年次以降に設定されているインターンシップ（選択必修）への参加の意味を考え、準備（書類作成、受入れ先選びを含む）を整える 3、世の中にある様々な生き方、働き方を知り、卒業後の自分自身のために残り短い学生生活という時間をどう過ごすか向き合い、考え、選択する <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の意味疎通に加えて、インターンシップや社会で必要に応じたルール等を理解し、社会人としてより円滑なコミュニケーションを行うためのノンバーバルコミュニケーションやメールコミュニケーションが行えるようになる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で働くうえで必要とされる能力や態度を理解し、学生とは異なる属性の他者と協調するために必要なことを理解できる。 ・学生生活を通じて、成長させたい汎用的技能を検討し、自律して成長させるための計画を立てられるようになることを目指す。 ・卒業後の人生について検討を行うことで、キャリア形成に必要な要素を理解し、自分の将来を検討できるレベルを目指す。

授業の概要	<p>各回を通して、 講義 個人ワーク ペアワーク・グループワーク等 個人ワーク・小レポート という流れで授業を進めていきます。 まずは、新しい情報を皆さんにお伝えし、それを個人で考え、他人と共有し、視野を広げ、改めて個人で考え選択する。 それを繰り返すことにより、視野を広げ、自身で考え選択するというキャリア選択において重要なプロセスを体験します。 また、実際にインターンシップ（就業体験）に参加した先輩の話しや、世の中の社会人、学生に実施した調査結果を基に、なぜそのキャリアを選択したのか、どんな大人になりたかったのかなど、他人の考え、価値観を知ること、自身の考えを明確にし、文章化することも体験します。 結果的に、大学での学びに必要な「レポートの書き方」「学び方」「考え方」などを体験して頂き、そして、社会で必要とされる「コミュニケーション力」「主体性」「創造力・想像力」などを磨きます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>定期試験期間中には筆記試験を実施しない。 全体で10回以上の出席を評価の前提とする。 遅刻、早退は原則として認めない。 授業への参加姿勢（10%） 授業後の小レポートの内容（35%） 学外活動レポートの内容（15%） 最後の授業の回のレポート等の課題の提出（5%） 最後の授業の回のレポートの内容（35%）</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1.カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。 2.毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1回 オリエンテーション（授業の目的・進め方、授業に必要な考え方） 第2回 授業に必要なスキルを学ぶ・体験する 第3回 これまでの評価基準とこれからの評価基準をもう一度考える 第4回 社会で求められる能力、スキル、スタンスを知り、自身を見つめる 第5回 仕事選び、会社選びを間違えるとどうなるのか？ 第6回 “働ければどこでもいい”は本当か？ 第7回 職業選び、企業選びの成功例から学ぶ 第8回 大学生生活、大学生生活のその後について考える 第9回 インターンシップの理解を深める 第10回 日本企業で働くについて知る、考える 第11回 自分自身の今の志向・夢について考え、まとめる 第12回 インターンシップ体験談1 第13回 インターンシップ体験談2 第14回 自身の現状（基礎力）を振り返り、学生生活の送り方、目標を考える 第15回 期末レポートの共有・提出「夏休みの過ごし方について」</p>
テキスト	<p>教科書は用いず、必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>授業で配布するプリントなどを整理しやすくするため、また授業で気になったことなどをメモするために、B5サイズのノートを購入しておいてください。期末レポートを書く際に便利です。 ノートは方眼タイプ、罫線タイプどちらでも構わないですが、無地はあまりおすすめしません。 他に必要なものはボールペン（油性・水性どちらでも。消えるペンはおすすめしません。）テープタイプののり</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップに関与した経験を持つ教員が、その当該経験を活かしキャリア形成の意義、方法について解説し、その上でキャリア形成を考える授業である。

質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時までの間で電話連絡を行うか、教員がキャリアセンターに在席している場合はその場で対応。
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の様子を撮影した動画や本講義で配布したプリントを用いて、2時間復習を行う。 合計:15×2時間=30時間 ジェネリックスキルや社会人基礎力を伸ばさせるための活動と振り返りを行う 15時間 学外活動とレポートの作成 15時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	企業と法 / Enterprise Laws
時間割コード Course Code	19140
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	美濃羽正康
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	美濃羽正康(法学部)、榊原 嘉明(法学部)
授業の目標	企業活動を規制する法律の予備的基礎知識を習得する。
授業の概要	<p>今日、我々の日常生活において企業と関わらない日はないといっても過言ではない。例えば、学生諸君がノートを購入する際を考えてみよう。そのノートを作っているメーカーは企業である。そして、そのノートは卸業者の手に渡り、その後、文房具屋さんの店頭にならべられ、今、君が手にしているのである。またノートをメーカーから卸業者へ、さらに文房具屋さんへと運んだのは運送会社という企業である。このように企業は、生産、流通、販売などを通じて経済活動全般を担っている。また、学生諸君の多くは、卒業後には企業に就職することになるであろう。このことは、企業は労働の場であり、家庭生活を経済面で支える重要な要素であることを意味している。近年、経済社会の劇的な発展にともない、企業を取り巻く環境も著しい変化をみせている。企業の社会的役割の重視や製造物責任などといった社会や消費者をも視野に入れた企業活動のあり方が議論されるようになった。</p> <p>そこで、本講義では、企業という組織・活動について学ぶことを主とする部分と、企業と労働者との関係について学ぶ部分とに分けて解説を行う。</p> <p>資料を配付するので、それを参考にしながら学習(復習を含む)を行ってほしい。</p> <p>知識・理解の領域 できるだけ平易な言葉を用いたわかりやすい解説に心掛け、「企業とはどのようなものであるか」、「企業活動とはどういうことをするのか」、「企業活動を通じてどのような法律関係が発生するのか」などの理解を深めることによって、企業活動を規制する法律の予備的基礎知識を習得することができる。</p> <p>思考・判断の領域 企業がどのように運営されているのかを理解し、企業が社会においてどのような存在であるかを認識し、その役割を多方面からとらえることができる。</p> <p>関心・意欲の領域 成人の多くにとって「社会」は、まさに「企業」であると言える。多くの卒業生は企業に就職することになる。そのような企業に関心をもち自己の将来に目を向けることができる。</p> <p>質問への対応 すべて遠隔授業で実施します。質問は、担当教員のメールアドレス(大学HP「法学部」「教員紹介」参照)にて、随時受け付けます。</p>
評価方法	期末試験により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で失格とする。

授業計画	<p>*1ブロック（美濃羽担当）</p> <p>1 経済活動と法との関係 企業法としての「商法」「会社法」の基本的特色について説明する。 <企業法の中心的法律である商法や会社法に貫流する基本的特色にはどのような事柄があるか理解することができる></p> <p>2 企業活動の主体（1） 企業活動の主体としての「商人」について説明する。や「会社」は、法律上どのような者とされているかについて説明する。 <あなたは、商人ですか？と聞かれたとき自分が商人であるかないかを法的に説明することができる。></p> <p>3 企業活動の主体（2） 企業活動の主体としての「会社」について説明する。 <会社とは何かと聞かれたときに、法的に説明できるようになる。また、会社の種類について、それぞれの特徴を説明できるようになる。></p> <p>4 企業の本拠地 企業は、その活動のために拠点なる施設を設けている。この施設を「営業所」という。営業所の法的意義について説明する。 <ビルやその中のオフィス、工場、倉庫など企業は多くの施設をもっている。そのすべてが法律上重要な施設ではない。どういう状況があると企業の拠点（営業所）となるのか理解できる。></p> <p>5 企業の名称 お店や会社は、その名称（名前）を持っている。これを「商号」という。商号とはどういう機能を有しているのか理解できる。 <お店の名前、会社の名前について、法律は何でも自由に付けていいとはなっていない。それがどのようなになっているのか理解できる。></p> <p>6 企業の取引活動 商行為とは具体的にどのような行為であるか説明する。 <商法に定められる「商行為」を行えば、誰でも商法が適用されることになっている。では商行為とはどのような行為をいうのかを理解できる></p> <p>7 企業不祥事とコンプライアンス 過去の企業による様々な不祥事について学び、企業において欠くことができない「コンプライアンス」という考え方について学ぶ。 <日本における数々の企業不祥事とその背景、さらに会社と経営者の責任とその後について学習することで、法律をまもって経営することが長期的企業成長につながることを説明できるようになる。></p> <p>8 まとめ 講義内容のまとめ。</p> <p>2ブロック（榊原担当）</p> <p>1 働くとは さまざまな働き方、「正規」と「非正規」、労働の経済的・社会的役割など。</p> <p>2 労働関係を規制する法律 労働組合法、労働基準法、労働契約法など。</p> <p>3 労働契約と法 内定取消・内定辞退、解雇・辞職など。</p> <p>4 労働条件と法 賃金規制、労働時間規制など。</p> <p>5 労働災害と法 安全衛生、災害補償など。</p> <p>6 労働紛争と法 個別紛争処理制度、地域ユニオン・労働NPOなど。</p> <p>7 まとめ 半期の講義内容まとめ 詳細については授業計画表を参照。</p>
テキスト	テキストは使用しない。六法は各自用意すること。授業中に適宜必要な資料等は、担当教員から配布する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後の直接の質問およびEメールで、質問を受け付ける。
フィードバックの方法	講義中の課題については、講義内で解説を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	時間 毎回の授業について、2時間の予習・復習（ノート整理を含む）を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 3.統率力 7.課題発見力 9.実践力

開講科目名 Course	企業と法 / Enterprise Laws
時間割コード Course Code	19150
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	榊原 嘉明
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	美濃羽正康(法学部)、榊原 嘉明(法学部)
授業の目標	企業活動を規制する法律の予備的基礎知識を習得する。
授業の概要	<p>今日、我々の日常生活において企業と関わらない日はないといっても過言ではない。例えば、学生諸君がノートを購入する際を考えてみよう。そのノートを作っているメーカーは企業である。そして、そのノートは卸業者の手に渡り、その後、文房具屋さんの店頭にならべられ、今、君が手にしているのである。またノートをメーカーから卸業者へ、さらに文房具屋さんへと運んだのは運送会社という企業である。このように企業は、生産、流通、販売などを通じて経済活動全般を担っている。また、学生諸君の多くは、卒業後には企業に就職することになるであろう。このことは、企業は労働の場であり、家庭生活を経済面で支える重要な要素であることを意味している。近年、経済社会の劇的な発展にともない、企業を取り巻く環境も著しい変化をみせている。企業の社会的役割の重視や製造物責任などといった社会や消費者をも視野に入れた企業活動のあり方が議論されるようになった。</p> <p>そこで、本講義では、企業という組織・活動について学ぶことを主とする部分と、企業と労働者との関係について学ぶ部分とに分けて解説を行う。</p> <p>資料を配付するので、それを参考にしながら学習(復習を含む)を行ってほしい。</p> <p>知識・理解の領域 できるだけ平易な言葉を用いたわかりやすい解説に心掛け、「企業とはどのようなものであるか」、「企業活動とはどういうことをするのか」、「企業活動を通じてどのような法律関係が発生するのか」などの理解を深めることによって、企業活動を規制する法律の予備的基礎知識を習得することができる。</p> <p>思考・判断の領域 企業がどのように運営されているのかを理解し、企業が社会においてどのような存在であるかを認識し、その役割を多方面からとらえることができる。</p> <p>関心・意欲の領域 成人の多くにとって「社会」は、まさに「企業」であると言える。多くの卒業生は企業に就職することになる。そのような企業に関心をもち自己の将来に目を向けることができる。</p> <p>質問への対応 すべて遠隔授業で実施します。質問は、担当教員のメールアドレス(大学HP「法学部」「教員紹介」参照)にて、随時受け付けます。</p>
評価方法	期末試験により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で失格とする。

授業計画	<p>*1ブロック（美濃羽担当）</p> <p>1 経済活動と法との関係 企業法としての「商法」「会社法」の基本的特色について説明する。 <企業法の中心的法律である商法や会社法に貫流する基本的特色にはどのような事柄があるか理解することができる></p> <p>2 企業活動の主体（1） 企業活動の主体としての「商人」について説明する。や「会社」は、法律上どのような者とされているかについて説明する。 <あなたは、商人ですか？と聞かれたとき自分が商人であるかないかを法的に説明することができる。></p> <p>3 企業活動の主体（2） 企業活動の主体としての「会社」について説明する。 <会社とは何かと聞かれたときに、法的に説明できるようになる。また、会社の種類について、それぞれの特徴を説明できるようになる。></p> <p>4 企業の本拠地 企業は、その活動のために拠点なる施設を設けている。この施設を「営業所」という。営業所の法的意義について説明する。 <ビルやその中のオフィス、工場、倉庫など企業は多くの施設をもっている。そのすべてが法律上重要な施設ではない。どういう状況があると企業の拠点（営業所）となるのか理解できる。></p> <p>5 企業の名称 お店や会社は、その名称（名前）を持っている。これを「商号」という。商号とはどういう機能を有しているのか理解できる。 <お店の名前、会社の名前について、法律は何でも自由に付けていいとはなっていない。それがどのようなになっているのか理解できる。></p> <p>6 企業の取引活動 商行為とは具体的にどのような行為であるか説明する。 <商法に定められる「商行為」を行えば、誰でも商法が適用されることになっている。では商行為とはどのような行為をいうのかを理解できる></p> <p>7 企業不祥事とコンプライアンス 過去の企業による様々な不祥事について学び、企業において欠くことができない「コンプライアンス」という考え方について学ぶ。 <日本における数々の企業不祥事とその背景、さらに会社と経営者の責任とその後について学習することで、法律をまもって経営することが長期的企業成長につながることを説明できるようになる。></p> <p>8 まとめ 講義内容のまとめ。</p> <p>2ブロック（榊原担当）</p> <p>1 働くとは さまざまな働き方、「正規」と「非正規」、労働の経済的・社会的役割など。</p> <p>2 労働関係を規制する法律 労働組合法、労働基準法、労働契約法など。</p> <p>3 労働契約と法 内定取消・内定辞退、解雇・辞職など。</p> <p>4 労働条件と法 賃金規制、労働時間規制など。</p> <p>5 労働災害と法 安全衛生、災害補償など。</p> <p>6 労働紛争と法 個別紛争処理制度、地域ユニオン・労働NPOなど。</p> <p>7 まとめ 半期の講義内容まとめ 詳細については授業計画表を参照。</p>
テキスト	テキストは使用しない。六法は各自用意すること。授業中に適宜必要な資料等は、担当教員から配布する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後の直接の質問およびEメールで、質問を受け付ける。
フィードバックの方法	講義内で解説を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業について、2時間の予習・復習（ノート整理を含む）を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 3.統率力 7.課題発見力 9.実践力

開講科目名 Course	裁判と法 / Litigation Process and Law
時間割コード Course Code	19160
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	張 瑞輝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	張 瑞輝(法学部)、遠山 圭一(法学部)
授業の目標	<p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 日本の裁判制度の概要を理解・把握することができる。 ある医療過誤事件の展開から民事裁判のしくみを理解・把握することができる。 刑法や刑事訴訟法の概要を理解・把握することができる。 事件発生から裁判まで刑事事件全体を理解・把握することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 法律家という専門職業について理解するとともに、その養成制度について知ること、将来の進路選択における一つの可能性として検討できるようになる。</p> <p>技能の領域 条文および判例を読み解くテクニックが身につく。</p>
授業の概要	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 講義の進行に関しては、裁判とは何か、法とは何か、民事裁判のしくみ、刑事裁判のしくみ、などについて、2名の担当教員(張、遠山)が交代で担当する。 本科目の履修を希望する場合、「市民生活と法」及び「犯罪と法」をあらかじめ履修していることが望ましい。 <p><科目の位置づけ></p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること</p>
評価方法	・平常点(受講態度、授業中の課題への取り組み)30%、期末試験70%の割合で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> 欠席が6回以上となった場合、失格となります。 授業開始時刻を過ぎて入室した場合は遅刻になります。 遅刻2回で欠席1回と換算します。

授業計画	<p>=== 第1回から第8回は、張担当 ===</p> <p>第1回 ガイダンス、総論 第2回 裁判とは何か 第3回 法とは何か 第4回 裁判所制度 第5回 法律家の役割 第6回 民事裁判のしくみ(1) 基本構造 第7回 民事裁判のしくみ(2) 手続きの流れ 第8回 裁判をめぐる現代的課題</p> <p>=== 第9回から第15回は、遠山担当 ===</p> <p>第9回 条文の構造や使い方 第10回 手続の概要、流れ 第11回 刑事事件の概要（刑法総論の視点から） 第12回 刑事事件の概要（刑法各論の視点から） 第13回 刑事事件の概要（事実認定の視点から） 第14回 刑事事件の概要（捜査手続の視点から） 第15回 刑事事件の概要（公判手続の視点から）</p> <p>実務経験のある教員による授業 弁護士として民事事件刑事事件などに携わっている教員が、実務経験を活かして、実務的な観点から、裁判手続の仕組みや法律の構造などについて解説する科目である。</p>
テキスト	プリントを配布する。
参考書	市川正人・酒巻匡・山本和彦『現代の裁判 第8版』（有斐閣、2022年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	・担当教員のうち、遠山圭一が弁護士として、民事事件刑事事件などの実務に携わっている教員である。その実務経験を活かして、実務的な観点から、裁判手続の仕組みや法律の構造などについて解説する科目である。
質問への対応方法	・オフィスアワー、授業の前後の相談等により随時対応する。
フィードバックの方法	・予習復習等、準備学習の内容については、参考書 市川正人・酒巻匡・山本和彦『現代の裁判 第8版』（有斐閣、2022年）の該当範囲、すなわち参考書の目次と前記授業計画が一致する箇所は予習復習等、準備学習の内容となる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・予習復習等、準備学習の時間については、各回で少なくとも4時間以上を要する内容となっているため、該当範囲を事前に閲読した上での受講が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	裁判と法 / Litigation Process and Law
時間割コード Course Code	19170
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	遠山 圭一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	張 瑞輝(法学部)、遠山 圭一(法学部)
授業の目標	<p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 日本の裁判制度の概要を理解・把握することができる。 ある医療過誤事件の展開から民事裁判のしくみを理解・把握することができる。 刑法や刑事訴訟法の概要を理解・把握することができる。 事件発生から裁判まで刑事事件全体を理解・把握することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 法律家という専門職業について理解するとともに、その養成制度について知ることで、将来の進路選択における一つの可能性として検討できるようになる。</p> <p>技能の領域 条文および判例を読み解くテクニックが身につく。</p>
授業の概要	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の進行に関しては、裁判とは何か、法とは何か、民事裁判や刑事裁判の仕組みなどについて、2名の担当教員(張、遠山)が交代で担当する。 ・本科目の履修を希望する場合、「市民生活と法」及び「犯罪と法」をあらかじめ履修していることが望ましい。 <p><科目の位置づけ></p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること</p>
評価方法	・平常点(受講態度、授業中の課題への取り組み)30%、期末試験70%の割合で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席が6回以上となった場合、失格となります。 ・授業開始時刻を過ぎて入室した場合は遅刻になります。 ・遅刻2回で欠席1回と換算します。

授業計画	<p>=== 第1回から第8回は、遠山担当 ===</p> <p>第1回 ガイダンス、総論 第2回 条文の構造や使い方 第3回 手続の概要、流れ 第4回 刑事事件の概要（刑法総論の視点から） 第5回 刑事事件の概要（刑法各論の視点から） 第6回 刑事事件の概要（事実認定の視点から） 第7回 刑事事件の概要（捜査手続の視点から） 第8回 刑事事件の概要（公判手続の視点から）</p> <p>=== 第9回から第15回は、張担当 ===</p> <p>第9回 裁判とは何か 第10回 法とは何か 第11回 裁判所制度 第12回 法律家の役割 第13回 民事裁判のしくみ(1) 基本構造 第14回 民事裁判のしくみ(2) 手続きの流れ 第15回 裁判をめぐる現代的課題</p> <p>実務経験のある教員による授業 弁護士として民事事件刑事事件などに携わっている教員が、実務経験を活かして、実務的な観点から、裁判手続の仕組みや法律の構造などについて解説する科目である。</p>
テキスト	プリントを配布する。
参考書	市川正人・酒巻匡・山本和彦『現代の裁判 第8版』（有斐閣、2022年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	・担当教員のうち、遠山圭一が弁護士として、民事事件刑事事件などの実務に携わっている教員である。その実務経験を活かして、実務的な観点から、裁判手続の仕組みや法律の構造などについて解説する科目である。
質問への対応方法	・オフィスアワー、授業の前後の相談等により随時対応する。
フィードバックの方法	・予習復習等、準備学習の内容については、参考書 市川正人・酒巻匡・山本和彦『現代の裁判 第8版』（有斐閣、2022年）の該当範囲、すなわち参考書の目次と前記授業計画が一致する箇所は予習復習等、準備学習の内容となる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・予習復習等、準備学習の時間については、各回で少なくとも4時間以上を要する内容となっているため、該当範囲を事前に関連した上での受講が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	国際社会と法 / International Society and Law
時間割コード Course Code	19180
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ウミリデノブ アリシエル
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	富岡 仁(管理栄養学科)、佐分 晴夫(法学部)、ウミリデノブ アリシエル(法学部)
授業の目標	国際社会にある法秩序について学ぶ。この授業を履修することにより、受講者は以下のような学習成果を得ることができる。(1)国際社会において存在する法制度および政治体制についての基礎的理解を得ることができる。(2)国際社会における法制度と国内社会における法制度の密接な関係を理解することができる。(3)現実の事例を多く取り上げ法制度の働きと政治体制の変動について理解することにより、国際化された現代社会において活躍するのに必要である技能を修得することができる。
授業の概要	私たちの日常生活は国際関係を抜きにしてはあり得ない。身の回りのものを見ても外国製品であふれている。また、仕事や観光などで外国に出かけることもよくあることである。このような国際交流がスムーズに行われるためには法秩序が必要である。この講義では、日常生活に密接に関わる国際法秩序について、具体例を多く取り上げて、わかりやすく説明する。日々の新しい出来事を取り上げることもあるので、シラバスの順序・内容は変更されることがある。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。 〔授業形態〕 この授業は対面で実施する。
評価方法	各回の授業後に実施する小テスト(80%)および第6回と13回の課題に関するレポート(20%)の結果により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 グローバリゼーションと国際社会</p> <p>第2回 国際社会の基本構造:なぜ国際社会に関する法は必要か。</p> <p>第3回 国際社会の基本構造:国家領域</p> <p>第4回 ロシア・ウクライナ戦争と国連の将来</p> <p>第5回 核兵器廃絶をめぐる議論と国際社会</p> <p>第6回 国際結婚と国境を越えた子どもの不法な連れ去り</p> <p>第7回 地域経済統合と経済安全保障</p> <p>第8回 企業が国家と契約を結べる?</p> <p>第9回 国際紛争はどのように解決されねばならないか</p> <p>第10回 地球環境を守るにはどうしたらよいか:地球温暖化問題</p> <p>第11回 世界は食糧危機を乗り越えられるか。</p> <p>第12回 世界の難民情勢と日本の選択</p> <p>第13回 出入力国管理・難民認定(1)</p> <p>第14回 出入力国管理・難民認定(2)</p> <p>第15回 まとめ・レポートの提出方法</p>
テキスト	指定しない。各回の講義前に講義で使用する資料等について指示するので、参照すること。
参考書	森川他編『国際法で世界がわかる』岩波書店、2016年。 渋谷 淳一、本田 量久『21世紀国際社会を考える:多層的な世界を読み解く38章』旬報社、2017年。 徳川信治、西村智朗『法と国際社会(第2版)』法律文化、2018年。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業前後、およびオフィスアワーで対応。さらに、毎回の授業で行う小テストの中に質問欄を設ける。いただいた質問には次回以降の授業で対応していく。
フィードバックの方法	・翌週返却(小テストの結果を自動通知するとともに、翌週解説)
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎週、授業テーマに関する新聞ニュースまたは自前配布資料の予習(60分)と復習(60分)を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>13. 気候変動に具体的な対策を</p> <p>14. 海の豊かさを守ろう</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	国際社会と法 / International Society and Law
時間割コード Course Code	19190
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	富岡 仁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	富岡 仁(管理栄養学科)、佐分 晴夫(法学部)、ウミリデノブ アリシェル(法学部)
授業の目標	国際社会にある法秩序について学ぶ。この授業を履修することにより、受講者は以下のような学習成果を得ることができる。(1)国際社会において存在する法制度および政治体制についての基礎的理解を得ることができる。(2)国際社会における法制度と国内社会における法制度の密接な関係を理解することができる。(3)現実の事例を多く取り上げ法制度の働きと政治体制の変動について理解することにより、国際化された現代社会において活躍するのに必要である技能を修得することができる。
授業の概要	私たちの日常生活は国際関係を抜きにしてはあり得ない。身の回りのものを見ても外国製品であふれている。また、仕事や観光などで外国に出かけることもよくあることである。このような国際交流がスムーズに行われるためには法秩序が必要である。この講義では、日常生活に密接に関わる国際法秩序について、具体例を多く取り上げて、わかりやすく説明する。日々の新しい出来事を取り上げることもあるので、シラバスの順序・内容は変更されることがある。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。 〔授業形態〕 この授業は対面で実施する。
評価方法	各回の授業後に実施する小テスト(80%)および第6回と13回の課題に関するレポート(20%)の結果により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 グローバリゼーションと国際社会</p> <p>第2回 国際社会の基本構造:なぜ国際社会に関する法は必要か。</p> <p>第3回 国際社会の基本構造:国家領域</p> <p>第4回 ロシア・ウクライナ戦争と国連の将来</p> <p>第5回 核兵器廃絶をめぐる議論と国際社会</p> <p>第6回 国際結婚と国境を越えた子どもの不法な連れ去り</p> <p>第7回 地域経済統合と経済安全保障</p> <p>第8回 企業が国家と契約を結べる?</p> <p>第9回 国際紛争はどのように解決されねばならないか</p> <p>第10回 地球環境を守るにはどうしたらよいか:地球温暖化問題</p> <p>第11回 世界は食糧危機を乗り越えられるか。</p> <p>第12回 世界の難民情勢と日本の選択</p> <p>第13回 出入力国管理・難民認定(1)</p> <p>第14回 出入力国管理・難民認定(2)</p> <p>第15回 まとめ・レポートの提出方法</p>
テキスト	指定しない。各回の講義前に講義で使用する資料等について指示するので、参照すること。
参考書	森川他編『国際法で世界がわかる』岩波書店、2016年。 渋谷 淳一、本田 量久『21世紀国際社会を考える:多層的な世界を読み解く38章』旬報社、2017年。 徳川信治、西村智朗『法と国際社会(第2版)』法律文化、2018年。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業前後、およびオフィスアワーで対応。さらに、毎回の授業で行う小テストの中に質問欄を設ける。いただいた質問には次回以降の授業で対応していく。
フィードバックの方法	・翌週返却(小テストの結果を自動通知するとともに、翌週解説)
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎週、授業テーマに関する新聞ニュースまたは自前配布資料の予習(60分)と復習(60分)を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>13. 気候変動に具体的な対策を</p> <p>14. 海の豊かさを守ろう</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>2. 協同力</p> <p>7. 課題発見力</p>

開講科目名 Course	戦後日本経済の動き / The Postwar Japanese Economy
時間割コード Course Code	19200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	安部 伸哉
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	安部 伸哉 (経済学部)
授業の目標	1) 現代社会が過去からの延長線上に形成されていることを理解する。 2) 現在の特徴や諸問題に対して、経済史の視点から考えて見ようとする。
授業の概要	この講義は、「連続と断絶」という経済史の視点に立ち、1937年の戦時経済期からバブル崩壊後の2000年頃までの約60年間の日本経済の歩みを学びます。 〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	Aパターン) 期末試験60% + 授業コメント40% Bパターン) 期末試験50% + 授業コメント20% + 読書レポート30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 戦時・戦後復興期の日本経済(1) 第3回 戦時・戦後復興期の日本経済(2) 第4回 戦時・戦後復興期の日本経済(3) 第5回 戦時・戦後復興期の日本経済(4) 第6回 補論 第7回 高度経済成長期の日本経済(1) 第8回 高度経済成長期の日本経済(2) 第9回 高度経済成長期の日本経済(3) 第10回 高度経済成長期の日本経済(4) 第11回 補論 第12回 安定成長期の日本経済(1) 第13回 安定成長期の日本経済(2) 第14回 平成不況期の日本経済 第15回 総括 * 講義内容は受講生の関心に基づき変更になる可能性があります。
テキスト	
参考書	沢井実・谷本雅之 [2016] 『日本経済史 近世から現代まで』, 有斐閣。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	補論や総括の時間を使って質問に対応します。
フィードバックの方法	感想コメントに基づき、次回の授業でフィードバックさせます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1) 予習および準備学習：キーワードを提示しますので、インターネット検索や新聞記事検索をしてみましょう。 2) 復習：講義内容を復習しながら、自分の言葉で説明してみましょう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力

開講科目名 Course	戦後日本経済の動き / The Postwar Japanese Economy
時間割コード Course Code	19210
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	安部 伸哉
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	安部 伸哉 (経済学部)
授業の目標	1) 現代社会が過去からの延長線上に形成されていることを理解する。 2) 現在の特徴や諸問題に対して、経済史の視点から考えて見ようとする。
授業の概要	この講義は、「連続と断絶」という経済史の視点に立ち、1937年の戦時経済期からバブル崩壊後の2000年頃までの約60年間の日本経済の歩みを学びます。 〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	Aパターン) 期末試験60% + 授業コメント40% Bパターン) 期末試験50% + 授業コメント20% + 読書レポート30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 戦時・戦後復興期の日本経済(1) 第3回 戦時・戦後復興期の日本経済(2) 第4回 戦時・戦後復興期の日本経済(3) 第5回 戦時・戦後復興期の日本経済(4) 第6回 補論 第7回 高度経済成長期の日本経済(1) 第8回 高度経済成長期の日本経済(2) 第9回 高度経済成長期の日本経済(3) 第10回 高度経済成長期の日本経済(4) 第11回 補論 第12回 安定成長期の日本経済(1) 第13回 安定成長期の日本経済(2) 第14回 平成不況期の日本経済 第15回 総括 * 講義内容は受講生の関心に基づき変更になる可能性があります。
テキスト	
参考書	沢井実・谷本雅之 [2016] 『日本経済史 近世から現代まで』, 有斐閣。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	補論や総括の時間を使って質問に対応します。
フィードバックの方法	感想コメントに基づき、次回の授業でフィードバックさせます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1) 予習および準備学習：キーワードを提示しますので、インターネット検索や新聞記事検索をしてみましょう。 2) 復習：講義内容を復習しながら、自分の言葉で説明してみましょう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力

開講科目名 Course	地域経済と産業 / Regional economics and industry
時間割コード Course Code	19220
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)、南宮 智娜 (経済学部)
授業の目標	<p>本講義では、地域経済論の観点を導入するかたちで地域経済の実態を探るとともに、地域特有の経済活動の基盤の1つとなる地域産業の現状や課題について考える。</p> <p>知識・理解の領域 地域経済とは何かを説明することができる。 地域産業にまつわる現状や課題を認識し、説明することができる。</p> <p>思考判断の領域 グローバル経済下における地域経済の問題点を評価できる。</p> <p>関心意欲の領域 今後の地域経済や産業のあるべき姿について自ら考えをまとめ、意見を述べることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 地域経済・産業をめぐる問題について自ら進んで調べるようになる。</p> <p>技能の領域 身近な地域問題についての考察結果を自らの言葉で分かりやすくレポートできる。</p> <p>体験探究の領域 専門領域科目への入り口として、自らの関心事に関し文献等を利用して調べることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>前半では、地域経済の基礎的な知識を学ぶ。また、地域間格差や少子高齢化など、都市と地方が直面する課題について考える。</p> <p>後半では、地域経済活動の基盤の1つである産業について学ぶ。各産業の特徴などについて理解し、産業政策について知る。また、地域産業の特徴に関するアクティブラーニングを授業内におこなう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>平常点 (40%) + 理解度確認テスト (60%) により評価する。</p> <p>評価の詳細は、第1週ガイダンスで案内します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	無断欠席 (課題の未提出含む) を繰り返した場合、評価対象とならない「失格」となる場合がある。

授業計画	<p>第1回 講義ガイダンス 第2回 場所と地域経済学 第3回 地域の概念と区分 第4回 グローバル化と地域経済 第5回 国内における地域間格差 第6回 集積の利益と集中に伴う問題 第7回 少子高齢化と人口減少 第8回 理解度確認テスト(1) 第9回 産業分類にみる特徴 第10回 日本産業史(1) 戦後復興から高度経済成長期 第11回 日本産業史(2) 石油危機の影響から構造転換 第12回 日本・アジアの地域産業の特徴 第13回 産業連関と地域内循環 第14回 第4次産業革命と今後の展開 第15回 理解度確認テスト(2)</p> <p>学習教材へのアクセスなどはガイダンス時に案内します。</p>
テキスト	使用しない
参考書	竹内淳彦・小田宏信(編著)『日本経済地理読本(第9版)』東洋経済新報社, 2014年 岡田知弘・川瀬光義・鈴木 誠・富樫幸一『国際化時代の地域経済学(第4版)』有斐閣アルマ, 2016年 富田和暁『地域と産業—経済地理学の基礎 新版』原書房, 2006年 枝廣淳子『地元経済を創りなおす—分析・診断・対策』岩波書店(岩波新書), 2018年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業終了直後、大学メールなどで受け付ける。連絡方法はガイダンス時に案内する。
フィードバックの方法	特になし
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	配布プリント、参考書などを用いて、各自で週2時間程度の予習・復習することが望ましい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	地域経済と産業 / Regional economics and industry
時間割コード Course Code	19230
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)、南宮 智娜 (経済学部)
授業の目標	<p>本講義では、地域経済論の観点を導入するかたちで地域経済の実態を探るとともに、地域特有の経済活動の基盤の1つとなる地域産業の現状や課題について考える。</p> <p>知識・理解の領域 地域経済とは何かを説明することができる。 地域産業にまつわる現状や課題を認識し、説明することができる。</p> <p>思考判断の領域 グローバル経済下における地域経済の問題点を評価できる。</p> <p>関心意欲の領域 今後の地域経済や産業のあるべき姿について自ら考えをまとめ、意見を述べるすることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 地域経済・産業をめぐる問題について自ら進んで調べるようになる。</p> <p>技能の領域 身近な地域問題についての考察結果を自らの言葉で分かりやすくレポートできる。</p> <p>体験探究の領域 専門領域科目への入り口として、自らの関心事に関し文献等を利用して調べることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>前半では、地域経済の基礎的な知識を学ぶ。また、地域間格差や少子高齢化など、都市と地方が直面する課題について考える。</p> <p>後半では、地域経済活動の基盤の1つである産業について学ぶ。各産業の特徴などについて理解し、産業政策について知る。また、地域産業の特徴に関するアクティブラーニングを授業内におこなう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>平常点 (40%) + 理解度確認テスト (60%) により評価する。</p> <p>評価の詳細は、第1週ガイダンスで案内します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	無断欠席 (課題の未提出含む) を繰り返した場合、評価対象とならない「失格」となる場合がある。

授業計画	<p>第1回 講義ガイダンス 第2回 場所と地域経済学 第3回 地域の概念と区分 第4回 グローバル化と地域経済 第5回 国内における地域間格差 第6回 集積の利益と集中に伴う問題 第7回 少子高齢化と人口減少 第8回 理解度確認テスト(1) 第9回 産業分類にみる特徴 第10回 日本産業史(1) 戦後復興から高度経済成長期 第11回 日本産業史(2) 石油危機の影響から構造転換 第12回 日本・アジアの地域産業の特徴 第13回 産業連関と地域内循環 第14回 第4次産業革命と今後の展開 第15回 理解度確認テスト(2)</p> <p>学習教材へのアクセスなどはガイダンス時に案内します。</p>
テキスト	使用しない
参考書	<p>竹内淳彦・小田宏信(編著)『日本経済地理読本(第9版)』東洋経済新報社, 2014年 岡田知弘・川瀬光義・鈴木 誠・富樫幸一『国際化時代の地域経済学(第4版)』有斐閣アルマ, 2016年 富田和暁『地域と産業—経済地理学の基礎 新版』原書房, 2006年 枝廣淳子『地元経済を創りなおす—分析・診断・対策』岩波書店(岩波新書), 2018年</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業終了直後、大学メールなどで受け付ける。連絡方法はガイダンス時に案内する。
フィードバックの方法	特になし
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	配布プリント、参考書などを用いて、各自で週2時間程度の予習・復習することが望ましい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	会計と資金の経営学 / Business Administration in accounting and finance
時間割コード Course Code	19320
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 豊和 (経営学部)
授業の目標	<p>会計は、現代の経済社会の中で非常に重要な役割を果たしています。企業は、獲得した利益や、所有している資産などについて、企業と関わりのある様々な人々に情報を提供する必要があります。また、一方で、企業の経営者は今後どうしたらもっと効率よく利益を上げられるかを考えるために、企業の様々な会計情報を分析する必要もあるでしょう。この授業では、まず基本的な会計用語を理解し、財務諸表を読み解く力を養うことを目標とします。</p> <p>学習の成果</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会計学の基本的な論点について理解できる。 ・ 財務会計の実務上の運用形態について説明できる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な貸借対照表および損益計算書を作成することができる。 <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の企業活動における会計または経理上の問題点を指摘できる。 <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財務会計およびその関連領域について進んで意見を述べるることができる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業実務における財務諸表作成と開示の現状について進んで調査することができる。
授業の概要	本講義においては、みなさんもよく知っている実在企業（たとえばトヨタ自動車、ソフトバンク、吉野家など）の会計の仕組みや決算書をテキストに用い、企業がどのようにして会計を行い、作成される決算書とはどのようなものかについて、わかりやすく解説していきます。また、それらを読み解くことによって実在企業の財務諸表の基本的な項目の内容を理解する力を養ってもらいます。
評価方法	授業内で毎回行う小テストもしくは小レポートの内容と提出状況（50%）及び期末試験（50%）で成績評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 会計の役割(1) 第3回 会計の役割(2) 第4回 利益計算の仕組み 第5回 利益計算のルール 第6回 売上高と売上債権 第7回 棚卸資産と売上原価 第8回 固定資産と減価償却 第9回 金融活動の資産と損益 第10回 営業上の負債と他人資本 第11回 資本の充実と剰余金の分配 第12回 財務諸表の作成と報告 第13回 連結財務諸表 第14回 外貨建取引と換算 第15回 まとめ
テキスト	毎回、プリントを配布します。
参考書	初級 桜井久勝『会計学入門(第5版)』日本経済新聞出版社 中級 神戸大学会計学研究室編『会計学基礎論(第6版)』同文館 上級 桜井久勝『財務会計講義(第23版)』中央経済社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	翌週講評。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は必要ありませんが、授業を受けたあと、配布したプリントおよび自分のレベルにあった参考書の該当箇所をよく読んで復習をよくしてください。一つの項目につき4時間程度をかけてじっくり振り返ってみてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	会計と資金の経営学 / Business Administration in accounting and finance
時間割コード Course Code	19330
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 豊和 (経営学部)
授業の目標	<p>会計は、現代の経済社会の中で非常に重要な役割を果たしています。企業は、獲得した利益や、所有している資産などについて、企業と関わりのある様々な人々に情報を提供する必要があります。また、一方で、企業の経営者は今後どうしたらもっと効率よく利益を上げられるかを考えるために、企業の様々な会計情報を分析する必要もあるでしょう。この授業では、まず基本的な会計用語を理解し、財務諸表を読み解く力を養うことを目標とします。</p> <p>学習の成果</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会計学の基本的な論点について理解できる。 ・ 財務会計の実務上の運用形態について説明できる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な貸借対照表および損益計算書を作成することができる。 <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の企業活動における会計または経理上の問題点を指摘できる。 <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財務会計およびその関連領域について進んで意見を述べるができる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業実務における財務諸表作成と開示の現状について進んで調査することができる。
授業の概要	本講義においては、みなさんもよく知っている実在企業（たとえばトヨタ自動車、ソフトバンク、吉野家など）の会計の仕組みや決算書をテキストに用い、企業がどのようにして会計を行い、作成される決算書とはどのようなものかについて、わかりやすく解説していきます。また、それらを読み解くことによって実在企業の財務諸表の基本的な項目の内容を理解する力を養ってもらいます。
評価方法	授業内で毎回行う小テストもしくは小レポートの内容と提出状況（50%）及び期末試験（50%）で成績評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 会計の役割(1) 第3回 会計の役割(2) 第4回 利益計算の仕組み 第5回 利益計算のルール 第6回 売上高と売上債権 第7回 棚卸資産と売上原価 第8回 固定資産と減価償却 第9回 金融活動の資産と損益 第10回 営業上の負債と他人資本 第11回 資本の充実と剰余金の分配 第12回 財務諸表の作成と報告 第13回 連結財務諸表 第14回 外貨建取引と換算 第15回 まとめ
テキスト	毎回、プリントを配布します。
参考書	初級 桜井久勝『会計学入門(第5版)』日本経済新聞出版社 中級 神戸大学会計学研究室編『会計学基礎論(第6版)』同文館 上級 桜井久勝『財務会計講義(第23版)』中央経済社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	翌週講評。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は必要ありませんが、授業を受けたあと、配布したプリントおよび自分のレベルにあった参考書の該当箇所をよく読んで復習をよくしてください。一つの項目につき4時間程度をかけてじっくり振り返ってみてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	商品と流通の経営学 / Business Administration in products and distribution
時間割コード Course Code	19340
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業では、近年、多様化する商品の生産・流通・消費という経済の仕組み・機能・役割・特性、そしてブランド弱者である中小企業のコーポレート・プロダクトのブランディング戦略や流通戦略、イノベーション戦略に関する基礎的知識を学ぶことで、次のような学習成果の向上を目指します。</p> <p>学習成果</p> <p>(1) 商品の生産・流通・消費に関する問題や課題を発見・分析・解決するのに必要な知識・技能・考え方 ([1] 商品・ブランドの定義・魅力・多様化、[2] 商品開発の重要性と基本的な考え方、[3] 商品企画と情報収集方法、[4] 新商品開発の7つのステップ、[5] 製品イノベーションの重要性と成功事例、[6] 消費者と生産者の側から見る流通、[7] 流通の仕組みとその担い手、[8] 流通構造の変化と取引慣行の変容)に関する基礎的・基本的な知識を身につけることができる。</p> <p>(2) ブランド構築に関する基本的な知識・用語を習得し、課題発見・解決能力を高めることができる。</p> <p>(3) 中小企業の成長に欠かせない商品ブランド戦略と流通戦略に関する理論的・実践的な知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>本授業では、近年多様化する商品の生産・流通・消費という経済の仕組み・機能・役割・特性を明確に理解したうえで、4つの経営資源とブランドとマーケティングの重要性、マーケティングにおける三角関係、イノベーションの定義とその成功事例、中小企業のブランディング戦略に関する課題を発見・分析・解決するための基本的な知識・技能・考え方を学びます。</p>
評価方法	授業の姿勢・態度(25点)、中間レポート(25点)、期末テスト(50点)を総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回 授業の概要と進め方、商品と流通チャネルの概要</p> <p>第2回 4つの経営資源と戦略的視点から見るブランドの重要性</p> <p>第3回 顧客・消費者と価値の定義、企業の目的のためのマーケティングやブランディングの重要性</p> <p>第4回 恋愛とマーケティングにおける三角関係、3C分析の定義と関係性</p> <p>第5回 3C分析の視点から見る中小企業のブランディング戦略</p> <p>第6回 マーケティングとは何か、「誰に」、「何を」、「どのように」の概念</p> <p>第7回 マーケティングの成功事例(1)</p> <p>第8回 マーケティングの成功事例(2)</p> <p>第9回 人々に驚きと感動を与える“すごいね”を連発させるイノベーションとは何か、大企業・中小企業の 成功事例(1)</p> <p>第10回 人々に驚きと感動を与える“すごいね”を連発させるイノベーションとは何か、大企業・中小企業の 成功事例(2)</p> <p>第11回 中小企業のブランディング戦略の成功事例(1)</p> <p>第12回 中小企業のブランディング戦略の成功事例(2)</p> <p>第13回 中小企業のブランディング戦略の成功事例(3)</p> <p>第14回 これまでのまとめ(1)</p> <p>第15回 これまでのまとめ(2)</p>
テキスト	徐誠敏・李美善(2022)『ブランド弱者の戦略：インターナル・ブランディングの理論と実践』ミネルヴァ書房。
参考書	田中洋(2014)『1ワード3分でわかる!基本から最新まで マーケティングキーワード ベスト50』ユーキャン自由国民社。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	含まない。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	数年間にわたるブランディング・コンサルタントや一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会のアドバイザーとしての経験を活かすことで、より実践的なブランディングに関する知識を教える。
質問への対応方法	授業後に対応する。またGmailでも対応する。
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>7. 課題発見力</p> <p>8. 計画立案力</p> <p>9. 実践力</p>

開講科目名 Course	商品と流通の経営学 / Business Administration in products and distribution
時間割コード Course Code	19350
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	専門科目群 専門共通基礎
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業では、近年、多様化する商品の生産・流通・消費という経済の仕組み・機能・役割・特性、そしてブランド弱者である中小企業のコーポレート・プロダクトのブランディング戦略や流通戦略、イノベーション戦略について学ぶことで、次のような学習成果の向上を目指します。</p> <p>学習成果</p> <p>(1) 商品の生産・流通・消費に関する問題や課題を発見・分析・解決するのに必要な知識・技能・考え方([1]商品・ブランドの定義・魅力・多様化、[2]商品開発の重要性と基本的な考え方、[3]商品企画と情報収集方法、[4]新商品開発の7つのステップ、[5]製品イノベーションの重要性と成功事例、[6]消費者と生産者の側から見る流通、[7]流通の仕組みとその担い手、[8]流通構造の変化と取引慣行の変容)に関する基礎的・基本的な知識を身につけることができる。</p> <p>(2) ブランド構築に関する基本的な知識・用語を習得し、課題発見・解決能力を高めることができる。</p> <p>(3) 中小企業の成長に欠かせない商品ブランド戦略と流通戦略に関する理論的・実践的な知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>本授業では、近年多様化する商品の生産・流通・消費という経済の仕組み・機能・役割・特性を明確に理解したうえで、4つの経営資源とブランドとマーケティングの重要性、マーケティングにおける三角関係、イノベーションの定義とその成功事例、中小企業のブランディング戦略に関する課題を発見・分析・解決するための基本的な知識・技能・考え方を学びます。</p>
評価方法	授業の姿勢・態度(25点)、中間レポート(25点)、期末テスト(50点)を総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回 授業の概要と進め方、商品と流通チャネルの概要</p> <p>第2回 4つの経営資源と戦略的視点から見るブランドの重要性</p> <p>第3回 顧客・消費者と価値の定義、企業の目的のためのマーケティングやブランディングの重要性</p> <p>第4回 恋愛とマーケティングにおける三角関係、3C分析の定義と関係性</p> <p>第5回 3C分析の視点から見る中小企業のブランディング戦略</p> <p>第6回 マーケティングとは何か、「誰に」、「何を」、「どのように」の概念</p> <p>第7回 マーケティングの成功事例(1)</p> <p>第8回 マーケティングの成功事例(2)</p> <p>第9回 人々に驚きと感動を与える“すごいね”を連発させるイノベーションとは何か、大企業・中小企業の 成功事例(1)</p> <p>第10回 人々に驚きと感動を与える“すごいね”を連発させるイノベーションとは何か、大企業・中小企業の 成功事例(2)</p> <p>第11回 中小企業のブランディング戦略の成功事例(1)</p> <p>第12回 中小企業のブランディング戦略の成功事例(2)</p> <p>第13回 中小企業のブランディング戦略の成功事例(3)</p> <p>第14回 これまでのまとめ(1)</p> <p>第15回 これまでのまとめ(2)</p>
テキスト	徐誠敏・李美善(2022)『ブランド弱者の戦略：インターナル・ブランディングの理論と実践』ミネルヴァ書房。
参考書	田中洋(2014)『1ワード3分でわかる!基本から最新まで マーケティングキーワード ベスト50』ユーキャン自由国民社。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	含まない。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	数年間にわたるブランディング・コンサルタントや一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会のアドバイザーとしての経験を活かすことで、より実践的なブランディングに関する知識を教える。
質問への対応方法	授業後に対応する。またGmailでも対応する。
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>7. 課題発見力</p> <p>8. 計画立案力</p> <p>9. 実践力</p>

開講科目名 Course	(遠)(ス)スポーツの歴史
時間割コード Course Code	19500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	吉澤 洋二
科目区分 Course Group	専門科目群 強化指定クラブ所属学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉澤 洋二 (経営学部)
授業の目標	<p>現代社会では、自らが実践して楽しむスポーツだけでなく、マスコミを通じた娯楽としてのスポーツもある。さらには、生活習慣病などの予防を目的とした、健康の維持・増進のためのスポーツもあり、スポーツへの関わり方は、多種多様である。</p> <p>しかし、その一方で、競技スポーツなどでは行き過ぎた勝利至上主義を背景に、ドーピングなどの不正行為が横行したり、商業主義によって競技の基本的な枠組みまでもが変更させられるなど、近代スポーツの負の側面も目立つようになってきている。この授業の目標は、人びとを惹きつけるスポーツや運動の歴史的・文化的側面に焦点を当て、「スポーツ観」の拡大と探究を目指す。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 競技者・指導者として基礎的知識を習得する。</p> <p>態度の領域 スポーツ指導者としての態度を習得する。</p>
授業の概要	<p>この授業は、すべてWeb授業で行なう。</p> <p>現在、メジャーなスポーツは、大部分が19世紀半ば以降に、欧米(特にイギリス)で成立したものが大部分である。それらは大陸や地域を越えて世界的に普及している。</p> <p>この授業では、どのような社会情勢の中で、現在のようなスポーツ文化を形成してきたのか、そして現在のスポーツ概念はどのような社会情勢の中で作られてきたのか、そしてスポーツは今後どうあるべきかを考えてみる。</p>
評価方法	<p>授業への出席状況，課題への取り組み，最終レポートによって評価する。</p> <p>評価基準 課題提出70% 確認テスト30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	1週 歴史に学ぶ「スポーツに関わる様々な考え方と取り組み」 2週 スポーツとは(定義) 3週 時代と社会との関わり 4週 さまざまなスポーツ種目の誕生と変遷 5週 日本への伝播と海外への伝播 6週 スポーツ種目ごとの技術・戦術・ルールの変遷 7週 社会の中におけるスポーツの価値 8週 政治的・政策的な価値とスポーツプロモーション 9週 文化としてのスポーツ 10週 スポーツの文化的特性 11週 「スポーツ宣言日本」におけるスポーツの意義と価値 12週 オリンピズムにおけるスポーツの意義と価値の捉え方 13週 スポーツの価値を守るスポーツ権 14週 スポーツ倫理について 15週 確認テスト
テキスト	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目I(公益財団法人 日本体育協会) 公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目II(公益財団法人 日本体育協会) 公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目III(公益財団法人 日本体育協会)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対処します
フィードバックの方法	特になし
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	シラバスに掲載された内容を、毎時間予習してから授業に取り組むようにしましょう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(遠)(ス)スポーツと心理 / Sport Psychology
時間割コード Course Code	19580
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	神谷 知里
科目区分 Course Group	専門科目群 強化指定クラブ所属学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	神谷 知里 (法学部)
授業の目標	<p>競技スポーツ場面で必要な心に関する正しい知識習得を目標としています。</p> <p>知識・理解の領域 競技スポーツにおける“緊張”や“あがり”とピークパフォーマンスとの関連性やスポーツメンタルトレーニングへの理解を深めることができ、スポーツにおける心理的側面について多様な観点から知識を備えることができるようになります。</p> <p>技能の領域 メンタルスキルを習得することによって、スポーツ活動において実力を発揮できるようになります。</p> <p>態度・志向性の領域 スポーツ活動において前向きな気持ちを持てるようになり、実力を発揮するために必要なメンタルスキルを高める気持ちを持てるようになります。</p>
授業の概要	<p>競技スポーツにおいて、勝利を得るためにさまざまな努力目標が立てられることでしょうか。その中のひとつに“こころ”の強化があります。競技レベルが高くなればなるほど、“こころ”が勝敗に関わってくる局面は増えてきます。そこで“こころ”とは何か、どうすれば“こころ”を強化することができるのかについて学習を深めることによって、スポーツ活動における自分自身の“こころ”と向き合い、前向きに取り組むことができるようになるでしょう。</p> <p>授業は、毎週Google classroomにアップされた学習教材に沿って学習を進め、Googleフォームにて課題を提出してもらいます。最終授業では、授業のまとめとして、レポート・課題に取り組んでももらいます。</p> <p>予習についてです。次週の授業内容について、予習を行なってもらいます。Googleクラスルーム内の「予習」トピックから、Googleフォーム(予習状況・内容レポート)を入力、送信してください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	<p>授業について、Google classroomで提示された授業用のGoogleフォームを提出期限内の提出をもって「出席」とします。</p> <p>提出期限以降の提出・未提出は「欠席」とします。</p> <p>6回以上の「欠席」は原則失格としますので、期限を守るように注意をしてください。</p> <p>予習について、Google classroomで提示された予習用のGoogleフォームを提出期限内の提出をもって、評価対象とします。</p> <p>毎時間のGoogleフォーム、レポート・課題、予習などで総合的に評価します。 毎時間Googleフォーム70%、レポート・課題20%、予習10%</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回以上の「欠席」は失格とします。 (「欠席」：毎時間のGoogleフォームの提出期限外の提出・未提出)
授業計画	<p>第1週 オリエンテーション (Web授業の進め方) スポーツと心</p> <p>第2週 スポーツにおける動機づけ</p> <p>第3週 メンタルマネジメント</p> <p>第4週 リラクゼーション</p> <p>第5週 イメージトレーニング</p> <p>第6週 指導者による心理的サポート 集中力のトレーニング</p> <p>第7週 性格・自己概念 心理的コンディショニング</p> <p>第8週 あがり、プレッシャー、スランプについて</p> <p>第9週 他者観察 個人差を考慮したコーチング</p> <p>第10週 日常生活における相談 運動感覚 (筋感覚・内部知覚) 運動学習 フィードバック</p> <p>第11週 コミュニケーションスキル</p> <p>第12週 リーダーシップスキル その他の対他者スキル</p> <p>第13週 コーチの学び</p> <p>第14週 コーチのセルフマネジメント さまざまな思考法や伝達法</p> <p>第15週 まとめ</p>
テキスト	レファレンスブック (日本スポーツ協会発行 / 4,400円) の購入が必須
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問への対応は随時、メールにて対応します。
フィードバックの方法	毎時間の授業用Googleフォームを送信後に、Googleフォームのスコアが表示されます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	次週の授業内容について、予習を行なってください。 Googleクラスルーム内の「予習」トピックから、Googleフォーム (予習状況・内容レポート) を入力、送信してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(遠)(ス)スポーツの指導法
時間割コード Course Code	19620
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	吉澤 洋二
科目区分 Course Group	専門科目群 強化指定クラブ所属学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉澤 洋二 (経営学部)
授業の目標	現代スポーツは、スポーツ科学の背景にあり、競技者・指導者ともに幅広い知識が要求される。 この講義では、スポーツ指導者として求められる理想像について理解を深め、スポーツ指導者の役割とはどういうことであるかを学習する。 知識・理解の領域 競技者・指導者として基礎的知識を習得する。 態度の領域 スポーツ指導者としての態度を習得する。
授業の概要	すべてWeb授業で行なう。 まずはスポーツ指導者としての心構えやプレーヤーとの関係など、望ましい指導者像について考える。そして指導計画の立て方、具体的な指導法、競技者の評価方法などを指導対象(年齢・性別・競技レベル)ごとに学ぶ。
評価方法	授業への出席状況, 課題への取り組み, 最終レポートによって評価する。 評価基準 課題提出70% 確認テスト30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>* 4 年生</p> <p>1 週 スポーツの指導者とは 2 週 指導者の心構え・視点 3 週 競技者育成プログラムの理念 4 週 プレイヤーと指導者の望ましい関係 5 週 ミーティングの方法 6 週 競技者育成プログラムの理念に基づく展開 7 週 指導計画の立て方 8 週 スポーツ活動と安全管理 9 週 中高年とスポーツ 10 週 競技者育成と評価 11 週 競技者育成システムにおける指導計画 12 週 競技力向上のためのチームマネジメント 13 週 競技スポーツとIT 14 週 女性とスポーツ・障がい者とスポーツ 15 週 確認テスト</p> <p>* 2・3 年生</p> <p>1 週 スポーツ指導者とは 2 週 公認スポーツ指導者が負う責任と求められる役割 3 週 肺パフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング 4 週 コーチに求められる役割 5 週 ファシリテーションスキルを磨こう 6 週 コーチングとは 7 週 コーチの果たすべき役割 8 週 確認テスト(中間) 9 週 安全なスポーツ環境の構築(予防)と問題発生時の対処法 10 週 中高年者へのコーチング(運動指導)の留意点 11 週 性別の考慮(ワークシート) 12 週 障がい者とスポーツ(ワークシート) 13 週 運動部活動でのコーチングの留意点(ワークシート) 14 週 コーチに求められる知識とスキル(ワークシート) 15 週 確認テスト(まとめ)</p>
テキスト	公認スポーツ指導者養成講習会テキスト リファレンスブック
参考書	『知的コーチングのすすめ』河野一郎監修 勝田隆著 大修館書店
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対処します。
フィードバックの方法	特になし
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎時間、予習をしてから授業に取り組みましょう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	キャリア支援講座I(済) / Career design support
時間割コード Course Code	19730
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 繁生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 繁生 (経営学部)
授業の目標	<p>キャリア支援講座(以下、本科目)の目標は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 一般的な就職活動で求められる基礎的な考え方、態度、能力を身につける。 2) 多様な業界、業種、職種、企業の存在を知り、その調べ方、選び方について知る。 3) 働き方、雇用条件について把握する。 4) 企業がどんな人物を求めているか、を知る。 5) 各種応募書類の作成、面接、グループディスカッションをできるようにする。 6) 就職ツールの使い方、マナー、身だしなみについて把握する <p>以上の6つを実践し、応募企業から評価されるレベルを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の人事担当者の講話を通じて、社会で必要とされるコミュニケーション能力の理解を深めることができるようになる。 ・履歴書作成を通じて、自分の特徴を理解し、端的に伝えられるようになる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で働くうえで必要な社会の規範やルールを理解したうえで、自分の特徴を伝えられる履歴書を作成できるようになる。
授業の概要	<p>就職活動に必要な情報、業界研究、書類作成のポイントなどを学びます。</p> <p>講義 個人ワーク グループ共有・ワーク 個人ワーク 小レポートといった活動を通して進めます。</p> <p>まずは新しい情報を皆さんに伝え、それを個人で考え、周囲と共有し視野を上げ、さらに個人で考えます。こうすることで働くことへの興味を高め「自分で未来を選択できる」ように学びます。この繰り返しにより、キャリア選択において重要なプロセスである「視野を上げ、自分で考え選択する」を体験します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	<p>合計5回の欠席で失格となります。 授業開始10分までは入室を認めますが、それ以降は欠席とします。 ただし、公共交通機関発行による遅延証明に日時、本人学生番号、本人氏名が明記されている場合はこの限りではありません。 また、毎回の授業後に提出する小レポートの提出が無い場合も欠席と扱います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回提出するコメントシートの内容(25%) ・授業への参加姿勢(10%) ・リクナビ、マイナビ等の就職活動関連のイベント参加に伴うレポート提出(20%) ・SPI試験の受験と試験結果の提出(10%) ・提出課題の仕上がり、内容への評価(35%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1.カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。 2.毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1週 オリエンテーション(授業の目的・進め方、就職活動のスケジュール確認) 第2週 就職活動の流れを知る 第3週 自分の価値観を知り、自分に合う業界・企業を考える1 第4週 自分の価値観を知り、自分に合う業界・企業を考える2 第5週 人事担当者から話を聞く1 第6週 人事担当者から話を聞く2 第7週 PROGの結果を基に、自己PRを作成する 第8週 学生時代に力をいれたことを振り返る 第9週 履歴書作成1 第10週 履歴書作成2 第11週 面接対策講座 第12週 面接練習 第13週 グループディスカッション対策講座 第14週 先輩の話聞く 第15週 履歴書作成&提出</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 必要に応じて紙の資料を配布します。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップ等に関与した経験を持つ教員が就職活動の全体像の説明、単位外でインターンシップを経験する意義、内容、メリット等を解説する。
質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時まで対応
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>ナビサイトの使い方を復習する(リクナビ) 2時間 ナビサイトの使い方を復習する(マイナビ) 2時間 授業で習った企業分析の方法を他の企業でも活用し、分析する 7時間 他の学部で登壇した企業の動画を視聴する 8時間 学外で開催される就職活動関連のイベントに参加する 8時間 SPI3を体感する 1時間 授業外で開催されるキャリアセンターのセミナー・相談会に参加する 11時間 インターンシップの情報を収集する 5時間 その他授業の様子を撮影された動画を視聴し、復習を行う 16時間 総計60時間</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	キャリア支援講座Ⅰ(営) / Career design support
時間割コード Course Code	19735
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	筒井 徹也
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	倉橋 和世(経営学部)、伊藤 繁生(経営学部)、筒井 徹也(法学部)
授業の目標	<p>キャリア支援講座(以下、本科目)の目標は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 一般的な就職活動で求められる基礎的な考え方、態度、能力を身につける。 2) 多様な業界、業種、職種、企業の存在を知り、その調べ方、選び方について知る。 3) 働き方、雇用条件について把握する。 4) 企業がどんな人物を求めているか、を知る。 5) 各種応募書類の作成、面接、グループディスカッションをできるようにする。 6) 就職ツールの使い方、マナー、身だしなみについて把握する <p>以上の6つを実践し、応募企業から評価されるレベルを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の人事担当者の講話を通じて、社会で必要とされるコミュニケーション能力の理解を深めることができるようになる。 ・履歴書作成を通じて、自分の特徴を理解し、端的に伝えられるようになる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で働くうえで必要な社会の規範やルールを理解したうえで、自分の特徴を伝えられる履歴書を作成できるようになる。
授業の概要	<p>就職活動に必要な情報、業界研究、書類作成のポイントなどを学びます。</p> <p>講義 個人ワーク グループ共有・ワーク 個人ワーク 小レポートといった活動を通して進めます。</p> <p>まずは新しい情報を皆さんに伝え、それを個人で考え、周囲と共有し視野を上げ、さらに個人で考えます。こうすることで働くことへの興味を高め「自分で未来を選択できる」ように学びます。この繰り返しにより、キャリア選択において重要なプロセスである「視野を上げ、自分で考え選択する」を体験します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	<p>合計5回の欠席で失格となります。 授業開始10分までは入室を認めますが、それ以降は欠席とします。 ただし、公共交通機関発行による遅延証明に日時、本人学生番号、本人氏名が明記されている場合はこの限りではありません。 また、毎回の授業後に提出する小レポートの提出が無い場合も欠席と扱います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回提出するコメントシートの内容(25%) ・授業への参加姿勢(10%) ・リクナビ、マイナビ等の就職活動関連のイベント参加に伴うレポート提出(20%) ・SPI試験の受験と試験結果の提出(10%) ・提出課題の仕上がり、内容への評価(35%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1.カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。 2.毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1週 オリエンテーション(授業の目的・進め方、就職活動のスケジュール確認) 第2週 就職活動の流れを知る 第3週 自分の価値観を知り、自分に合う業界・企業を考える1 第4週 自分の価値観を知り、自分に合う業界・企業を考える2 第5週 人事担当者から話を聞く1 第6週 人事担当者から話を聞く2 第7週 PROGの結果を基に、自己PRを作成する 第8週 学生時代に力をいれたことを振り返る 第9週 履歴書作成1 第10週 履歴書作成2 第11週 面接対策講座 第12週 面接練習 第13週 グループディスカッション対策講座 第14週 先輩の話聞く 第15週 履歴書作成&提出</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 必要に応じて紙の資料を配布します。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップ等に関与した経験を持つ教員が就職活動の全体像の説明、単位外でインターンシップを経験する意義、内容、メリット等を解説する。
質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時まで対応
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>ナビサイトの使い方を復習する(リクナビ) 2時間 ナビサイトの使い方を復習する(マイナビ) 2時間 授業で習った企業分析の方法を他の企業でも活用し、分析する 7時間 他の学部で登壇した企業の動画を視聴する 8時間 学外で開催される就職活動関連のイベントに参加する 8時間 SPI3を体感する 1時間 授業外で開催されるキャリアセンターのセミナー・相談会に参加する 11時間 インターンシップの情報を収集する 5時間 その他授業の様子を撮影された動画を視聴し、復習を行う 16時間 総計60時間</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	キャリア支援講座Ⅰ(法) / Career design support
時間割コード Course Code	19740
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	筒井 徹也
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水口 美知子(法学部)、伊藤 繁生(経営学部)、筒井 徹也(法学部)
授業の目標	<p>キャリア支援講座(以下、本科目)の目標は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 一般的な就職活動で求められる基礎的な考え方、態度、能力を身につける。 2) 多様な業界、業種、職種、企業の存在を知り、その調べ方、選び方について知る。 3) 働き方、雇用条件について把握する。 4) 企業がどんな人物を求めているか、を知る。 5) 各種応募書類の作成、面接、グループディスカッションをできるようにする。 6) 就職ツールの使い方、マナー、身だしなみについて把握する <p>以上の6つを実践し、応募企業から評価されるレベルを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の人事担当者の講話を通じて、社会で必要とされるコミュニケーション能力の理解を深めることができるようになる。 ・履歴書作成を通じて、自分の特徴を理解し、端的に伝えられるようになる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で働くうえで必要な社会の規範やルールを理解したうえで、自分の特徴を伝えられる履歴書を作成できるようになる。
授業の概要	<p>就職活動に必要な情報、業界研究、書類作成のポイントなどを学びます。</p> <p>講義 個人ワーク グループ共有・ワーク 個人ワーク 小レポートといった活動を通して進めます。</p> <p>まずは新しい情報を皆さんに伝え、それを個人で考え、周囲と共有し視野を拡げ、さらに個人で考えます。こうすることで働くことへの興味を高め「自分で未来を選択できる」ように学びます。この繰り返しにより、キャリア選択において重要なプロセスである「視野を拡げ、自分で考え選択する」を体験します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	<p>合計5回の欠席で失格となります。 授業開始10分までは入室を認めますが、それ以降は欠席とします。 ただし、公共交通機関発行による遅延証明に日時、本人学生番号、本人氏名が明記されている場合はこの限りではありません。 また、毎回の授業後に提出する小レポートの提出が無い場合も欠席と扱います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回提出するコメントシートの内容(25%) ・授業への参加姿勢(10%) ・リクナビ、マイナビ等の就職活動関連のイベント参加に伴うレポート提出(20%) ・SPI試験の受験と試験結果の提出(10%) ・提出課題の仕上がり、内容への評価(35%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1.カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。 2.毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1週 オリエンテーション(授業の目的・進め方、就職活動のスケジュール確認) 第2週 就職活動の流れを知る 第3週 自分の価値観を知り、自分に合う業界・企業を考える1 第4週 自分の価値観を知り、自分に合う業界・企業を考える2 第5週 人事担当者から話を聞く1 第6週 人事担当者から話を聞く2 第7週 PROGの結果を基に、自己PRを作成する 第8週 学生時代に力をいれたことを振り返る 第9週 履歴書作成1 第10週 履歴書作成2 第11週 面接対策講座 第12週 面接練習 第13週 グループディスカッション対策講座 第14週 先輩の話を書く 第15週 履歴書作成&提出</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 必要に応じて紙の資料を配布します。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップ等に関与した経験を持つ教員が就職活動の全体像の説明、単位外でインターンシップを経験する意義、内容、メリット等を解説する。
質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時まで対応
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>ナビサイトの使い方を復習する(リクナビ) 2時間 ナビサイトの使い方を復習する(マイナビ) 2時間 授業で習った企業分析の方法を他の企業でも活用し、分析する 7時間 他の学部で登壇した企業の動画を視聴する 8時間 学外で開催される就職活動関連のイベントに参加する 8時間 SPI3を体感する 1時間 授業外で開催されるキャリアセンターのセミナー・相談会に参加する 11時間 インターンシップの情報を収集する 5時間 その他授業の様子を撮影された動画を視聴し、復習を行う 16時間 総計60時間</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	キャリア支援講座I(人間) / Career design support
時間割コード Course Code	19745
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 繁生
科目区分 Course Group	共通科目群 キャリア
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水口 美知子(法学部)、伊藤 繁生(経営学部)
授業の目標	<p>キャリア支援講座(以下、本科目)の目標は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 一般的な就職活動で求められる基礎的な考え方、態度、能力を身につける。 2) 多様な業界、業種、職種、企業の存在を知り、その調べ方、選び方について知る。 3) 働き方、雇用条件について把握する。 4) 企業がどんな人物を求めているか、を知る。 5) 各種応募書類の作成、面接、グループディスカッションをできるようにする。 6) 就職ツールの使い方、マナー、身だしなみについて把握する <p>以上の6つを実践し、応募企業から評価されるレベルを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の人事担当者の講話を通じて、社会で必要とされるコミュニケーション能力の理解を深めることができるようになる。 ・履歴書作成を通じて、自分の特徴を理解し、端的に伝えられるようになる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で働くうえで必要な社会の規範やルールを理解したうえで、自分の特徴を伝えられる履歴書を作成できるようになる。
授業の概要	<p>就職活動に必要な情報、業界研究、書類作成のポイントなどを学びます。</p> <p>講義 個人ワーク グループ共有・ワーク 個人ワーク 小レポートといった活動を通して進めます。</p> <p>まずは新しい情報を皆さんに伝え、それを個人で考え、周囲と共有し視野を上げ、さらに個人で考えます。こうすることで働くことへの興味を高め「自分で未来を選択できる」ように学びます。この繰り返しにより、キャリア選択において重要なプロセスである「視野を上げ、自分で考え選択する」を体験します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	<p>合計5回の欠席で失格となります。 授業開始10分までは入室を認めますが、それ以降は欠席とします。 ただし、公共交通機関発行による遅延証明に日時、本人学生番号、本人氏名が明記されている場合はこの限りではありません。 また、毎回の授業後に提出する小レポートの提出が無い場合も欠席と扱います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回提出するコメントシートの内容(25%) ・授業への参加姿勢(10%) ・リクナビ、マイナビ等の就職活動関連のイベント参加に伴うレポート提出(20%) ・SPI試験の受験と試験結果の提出(10%) ・提出課題の仕上がり、内容への評価(35%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>1.カードリーダーの出席と毎回のレポートの提出の両方をもって出席とします。 2.毎回の授業におけるレポートは指定以上の文字数の記載を行ってまいります。</p>
授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。</p> <p>第1週 オリエンテーション(授業の目的・進め方、就職活動のスケジュール確認) 第2週 就職活動の流れを知る 第3週 自分の価値観を知り、自分に合う業界・企業を考える1 第4週 自分の価値観を知り、自分に合う業界・企業を考える2 第5週 人事担当者から話を聞く1 第6週 人事担当者から話を聞く2 第7週 PROGの結果を基に、自己PRを作成する 第8週 学生時代に力をいれたことを振り返る 第9週 履歴書作成1 第10週 履歴書作成2 第11週 面接対策講座 第12週 面接練習 第13週 グループディスカッション対策講座 第14週 先輩の話聞く 第15週 履歴書作成&提出</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 必要に応じて紙の資料を配布します。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内でペアワーク、もしくは少人数でのグループワークを行い、将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシップ等に関与した経験を持つ教員が就職活動の全体像の説明、単位外でインターンシップを経験する意義、内容、メリット等を解説する。
質問への対応方法	キャリアセンターにて対面で平日9時半から17時まで対応
フィードバックの方法	授業の冒頭に、前週のレポートについて良質な事例を取り上げ、ポイントを解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>ナビサイトの使い方を復習する(リクナビ) 2時間 ナビサイトの使い方を復習する(マイナビ) 2時間 授業で習った企業分析の方法を他の企業でも活用し、分析する 7時間 他の学部で登壇した企業の動画を視聴する 8時間 学外で開催される就職活動関連のイベントに参加する 8時間 SPI3を体感する 1時間 授業外で開催されるキャリアセンターのセミナー・相談会に参加する 11時間 インターンシップの情報を収集する 5時間 その他授業の様子を撮影された動画を視聴し、復習を行う 16時間 総計60時間</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	

開講科目名 Course	基本簿記(済) / Bookkeeping
時間割コード Course Code	19800
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之(経営学部)、中村 壽男(経営学部)、佐藤 豊和(経営学部)
授業の目標	<p>私たちが買い物をするコンビニや文房具店などの小売業は、その商売を継続的にこなうために、手許現金の管理や商品の仕入・販売の管理が不可欠となります。どんなに小さなお店でも日々発生する取引を、すべてしっかりと記録しなければなりません。そのために必要な技術が「簿記」です。</p> <p>この講義では、小規模企業が行っている基本的な取引を、記録・集計するための技術の修得を目標とします。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 小規模株式会社の決算書を作成するスキルを習得する。</p> <p>技能の領域 複式簿記の原理原則およびその体系を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 日商簿記検定3級にチャレンジするための基礎力を養う。</p>
授業の概要	<p>簿記は、実践的な性格の強い科目なので、理論的な理解を深めることに加え、実際の取引を記録・集計を経験してもらうため、演習問題を解答する形式で授業を展開します。演習は、簿記の初心者向けレベル(日本商工会議所簿記検定3級試験レベル)の問題を用いて行います。</p> <p>また毎回課題に取り組むことにより、それぞれの段階ごとに理解度をチェックしていきます。</p> <p>簿記は毎回の授業の積み上げで理解できる科目ですので、積極的に取り組むよう心がけましょう。</p> <p>当該回に学習した内容については、例題や演習問題をこまめに復習する習慣をつけてください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合および連続して3回欠席した場合には失格とする。

授業計画	第1回 オリエンテーション（簿記の目的と基本要素） 第2回 貸借対照表と損益計算書 第3回 簿記一巡の手続き 第4回 簿記上の取引と仕訳 第5回 試算表の作成 第6回 主要な取引を学ぶ（1）現金・預金の取引 第7回 主要な取引を学ぶ（2）収益と費用 第8回 主要な取引を学ぶ（3）商品売買取引 第9回 主要な取引を学ぶ（4）手形取引 第10回 主要な取引を学ぶ（5）債権・債務 第11回 主要な取引を学ぶ（6）有形固定資産 第12回 主要な取引を学ぶ（7）資本金と税金 第13回 決算を学ぶ（1）売上原価の算定 第14回 決算を学ぶ（2）減価償却と貸倒の見積もり 第15回 決算を学ぶ（3）精算表の作成
テキスト	「簿記入門 - 初めて学ぶ複式簿記 - 」中村壽男（名古屋経済大学）
参考書	日本商工会議所簿記検定3級試験対策用の問題集等
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	簿記検定試験委員として培った経験より、大学で学ぶ簿記の学習成果を確認するため、日本商工会議所簿記検定試験へのチャレンジを奨励している。
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	当回の課題を配信するので、2時間程度の予習を要す。 また、前回の課題の解答を配信するので、理解度確認のため2時間程度の復習を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基本簿記(営) / Bookkeeping
時間割コード Course Code	19801
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之(経営学部)、中村 壽男(経営学部)、佐藤 豊和(経営学部)
授業の目標	<p>私たちが買い物をするコンビニや文具店などの小売業は、その商売を継続的にこなうために、手許現金の管理や商品の仕入・販売の管理が不可欠となります。どんなに小さなお店でも日々発生する取引を、すべてしっかりと記録しなければなりません。そのために必要な技術が「簿記」です。</p> <p>この講義では、小規模企業が行っている基本的な取引を、記録・集計するための技術の修得を目標とします。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 小規模株式会社の決算書を作成するスキルを習得する。</p> <p>技能の領域 複式簿記の原理原則およびその体系を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 日商簿記検定3級にチャレンジするための基礎力を養う。</p>
授業の概要	<p>簿記は、実践的な性格の強い科目なので、理論的な理解を深めることに加え、実際の取引を記録・集計を経験してもらうため、演習問題を解答する形式で授業を展開します。演習は、簿記の初心者向けレベル(日本商工会議所簿記検定3級試験レベル)の問題を用いて行います。</p> <p>また毎回課題に取り組むことにより、それぞれの段階ごとに理解度をチェックしていきます。</p> <p>簿記は毎回の授業の積み上げで理解できる科目ですので、積極的に取り組むよう心がけましょう。</p> <p>当該回に学習した内容については、例題や演習問題をこまめに復習する習慣をつけてください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合および連続して3回欠席した場合には失格とする。

授業計画	第1回 オリエンテーション（簿記の目的と基本要素） 第2回 貸借対照表と損益計算書 第3回 簿記一巡の手続き 第4回 簿記上の取引と仕訳 第5回 試算表の作成 第6回 主要な取引を学ぶ（1）現金・預金の取引 第7回 主要な取引を学ぶ（2）収益と費用 第8回 主要な取引を学ぶ（3）商品売買取引 第9回 主要な取引を学ぶ（4）手形取引 第10回 主要な取引を学ぶ（5）債権・債務 第11回 主要な取引を学ぶ（6）有形固定資産 第12回 主要な取引を学ぶ（7）資本金と税金 第13回 決算を学ぶ（1）売上原価の算定 第14回 決算を学ぶ（2）減価償却と貸倒の見積もり 第15回 決算を学ぶ（3）精算表の作成
テキスト	「簿記入門 - 初めて学ぶ複式簿記 - 」中村壽男（名古屋経済大学）
参考書	日本商工会議所簿記検定3級試験対策用の問題集等
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	簿記検定試験委員として培った経験より、大学で学ぶ簿記の学習成果を確認するため、日本商工会議所簿記検定試験へのチャレンジを奨励している。
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	当回の課題を配信するので、2時間程度の予習を要す。 また、前回の課題の解答を配信するので、理解度確認のため2時間程度の復習を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基本簿記(法) / Bookkeeping
時間割コード Course Code	19802
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之(経営学部)、中村 壽男(経営学部)、佐藤 豊和(経営学部)
授業の目標	<p>私たちが買い物をするコンビニや文具店などの小売業は、その商売を継続的にこなうために、手許現金の管理や商品の仕入・販売の管理が不可欠となります。どんなに小さなお店でも日々発生する取引を、すべてしっかりと記録しなければなりません。そのために必要な技術が「簿記」です。</p> <p>この講義では、小規模企業が行っている基本的な取引を、記録・集計するための技術の修得を目標とします。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 小規模株式会社の決算書を作成するスキルを習得する。</p> <p>技能の領域 複式簿記の原理原則およびその体系を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 日商簿記検定3級にチャレンジするための基礎力を養う。</p>
授業の概要	<p>簿記は、実践的な性格の強い科目なので、理論的な理解を深めることに加え、実際の取引を記録・集計を経験してもらうため、演習問題を解答する形式で授業を展開します。演習は、簿記の初心者向けレベル(日本商工会議所簿記検定3級試験レベル)の問題を用いて行います。</p> <p>また毎回課題に取り組むことにより、それぞれの段階ごとに理解度をチェックしていきます。</p> <p>簿記は毎回の授業の積み上げで理解できる科目ですので、積極的に取り組むよう心がけましょう。当該回に学習した内容については、例題や演習問題をこまめに復習する習慣をつけてください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合および連続して3回欠席した場合には失格とする。

授業計画	第1回 オリエンテーション（簿記の目的と基本要素） 第2回 貸借対照表と損益計算書 第3回 簿記一巡の手続き 第4回 簿記上の取引と仕訳 第5回 試算表の作成 第6回 主要な取引を学ぶ（1）現金・預金の取引 第7回 主要な取引を学ぶ（2）収益と費用 第8回 主要な取引を学ぶ（3）商品売買取引 第9回 主要な取引を学ぶ（4）手形取引 第10回 主要な取引を学ぶ（5）債権・債務 第11回 主要な取引を学ぶ（6）有形固定資産 第12回 主要な取引を学ぶ（7）資本金と税金 第13回 決算を学ぶ（1）売上原価の算定 第14回 決算を学ぶ（2）減価償却と貸倒の見積もり 第15回 決算を学ぶ（3）精算表の作成
テキスト	「簿記入門 - 初めて学ぶ複式簿記 - 」中村壽男（名古屋経済大学）
参考書	日本商工会議所簿記検定3級試験対策用の問題集等
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	簿記検定試験委員として培った経験より、大学で学ぶ簿記の学習成果を確認するため、日本商工会議所簿記検定試験へのチャレンジを奨励している。
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	当回の課題を配信するので、2時間程度の予習を要す。 また、前回の課題の解答を配信するので、理解度確認のため2時間程度の復習を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基本簿記(済再) / Bookkeeping
時間割コード Course Code	19803
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之(経営学部)、中村 壽男(経営学部)、佐藤 豊和(経営学部)
授業の目標	<p>私たちが買い物をするコンビニや文具店などの小売業は、その商売を継続的にこなうために、手許現金の管理や商品の仕入・販売の管理が不可欠となります。どんなに小さなお店でも日々発生する取引を、すべてしっかりと記録しなければなりません。そのために必要な技術が「簿記」です。</p> <p>この講義では、小規模企業が行っている基本的な取引を、記録・集計するための技術の修得を目標とします。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 小規模株式会社の決算書を作成するスキルを習得する。</p> <p>技能の領域 複式簿記の原理原則およびその体系を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 日商簿記検定3級にチャレンジするための基礎力を養う。</p>
授業の概要	<p>簿記は、実践的な性格の強い科目なので、理論的な理解を深めることに加え、実際の取引を記録・集計を経験してもらうため、演習問題を解答する形式で授業を展開します。演習は、簿記の初心者向けレベル(日本商工会議所簿記検定3級試験レベル)の問題を用いて行います。</p> <p>また毎回課題に取り組むことにより、それぞれの段階ごとに理解度をチェックしていきます。</p> <p>簿記は毎回の授業の積み上げで理解できる科目ですので、積極的に取り組むよう心がけましょう。当該回に学習した内容については、例題や演習問題をこまめに復習する習慣をつけてください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合および連続して3回欠席した場合には失格とする。

授業計画	第1回 オリエンテーション（簿記の目的と基本要素） 第2回 貸借対照表と損益計算書 第3回 簿記一巡の手続き 第4回 簿記上の取引と仕訳 第5回 試算表の作成 第6回 主要な取引を学ぶ（1）現金・預金の取引 第7回 主要な取引を学ぶ（2）収益と費用 第8回 主要な取引を学ぶ（3）商品売買取引 第9回 主要な取引を学ぶ（4）手形取引 第10回 主要な取引を学ぶ（5）債権・債務 第11回 主要な取引を学ぶ（6）有形固定資産 第12回 主要な取引を学ぶ（7）資本金と税金 第13回 決算を学ぶ（1）売上原価の算定 第14回 決算を学ぶ（2）減価償却と貸倒の見積もり 第15回 決算を学ぶ（3）精算表の作成
テキスト	「簿記入門 - 初めて学ぶ複式簿記 - 」中村壽男（名古屋経済大学）
参考書	日本商工会議所簿記検定3級試験対策用の問題集等
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	簿記検定試験委員として培った経験より、大学で学ぶ簿記の学習成果を確認するため、日本商工会議所簿記検定試験へのチャレンジを奨励している。
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	当回の課題を配信するので、2時間程度の予習を要す。 また、前回の課題の解答を配信するので、理解度確認のため2時間程度の復習を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基本簿記(営再) / Bookkeeping
時間割コード Course Code	19804
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之(経営学部)、中村 壽男(経営学部)、佐藤 豊和(経営学部)
授業の目標	<p>私たちが買い物をするコンビニや文具店などの小売業は、その商売を継続的にこなうために、手許現金の管理や商品の仕入・販売の管理が不可欠となります。どんなに小さなお店でも日々発生する取引を、すべてしっかりと記録しなければなりません。そのために必要な技術が「簿記」です。</p> <p>この講義では、小規模企業が行っている基本的な取引を、記録・集計するための技術の修得を目標とします。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 小規模株式会社の決算書を作成するスキルを習得する。</p> <p>技能の領域 複式簿記の原理原則およびその体系を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 日商簿記検定3級にチャレンジするための基礎力を養う。</p>
授業の概要	<p>簿記は、実践的な性格の強い科目なので、理論的な理解を深めることに加え、実際の取引を記録・集計を経験してもらうため、演習問題を解答する形式で授業を展開します。演習は、簿記の初心者向けレベル(日本商工会議所簿記検定3級試験レベル)の問題を用いて行います。</p> <p>また毎回課題に取り組むことにより、それぞれの段階ごとに理解度をチェックしていきます。</p> <p>簿記は毎回の授業の積み上げで理解できる科目ですので、積極的に取り組むよう心がけましょう。当該回に学習した内容については、例題や演習問題をこまめに復習する習慣をつけてください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合および連続して3回欠席した場合には失格とする。

授業計画	第1回 オリエンテーション（簿記の目的と基本要素） 第2回 貸借対照表と損益計算書 第3回 簿記一巡の手続き 第4回 簿記上の取引と仕訳 第5回 試算表の作成 第6回 主要な取引を学ぶ（1）現金・預金の取引 第7回 主要な取引を学ぶ（2）収益と費用 第8回 主要な取引を学ぶ（3）商品売買取引 第9回 主要な取引を学ぶ（4）手形取引 第10回 主要な取引を学ぶ（5）債権・債務 第11回 主要な取引を学ぶ（6）有形固定資産 第12回 主要な取引を学ぶ（7）資本金と税金 第13回 決算を学ぶ（1）売上原価の算定 第14回 決算を学ぶ（2）減価償却と貸倒の見積もり 第15回 決算を学ぶ（3）精算表の作成
テキスト	「簿記入門 - 初めて学ぶ複式簿記 - 」中村壽男（名古屋経済大学）
参考書	日本商工会議所簿記検定3級試験対策用の問題集等
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	簿記検定試験委員として培った経験より、大学で学ぶ簿記の学習成果を確認するため、日本商工会議所簿記検定試験へのチャレンジを奨励している。
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	当回の課題を配信するので、2時間程度の予習を要す。 また、前回の課題の解答を配信するので、理解度確認のため2時間程度の復習を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基本簿記(法再) / Bookkeeping
時間割コード Course Code	19805
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之(経営学部)、中村 壽男(経営学部)、佐藤 豊和(経営学部)
授業の目標	<p>私たちが買い物をするコンビニや文房具店などの小売業は、その商売を継続的にこなうために、手許現金の管理や商品の仕入・販売の管理が不可欠となります。どんなに小さなお店でも日々発生する取引を、すべてしっかりと記録しなければなりません。そのために必要な技術が「簿記」です。</p> <p>この講義では、小規模企業が行っている基本的な取引を、記録・集計するための技術の修得を目標とします。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 小規模株式会社の決算書を作成するスキルを習得する。</p> <p>技能の領域 複式簿記の原理原則およびその体系を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 日商簿記検定3級にチャレンジするための基礎力を養う。</p>
授業の概要	<p>簿記は、実践的な性格の強い科目なので、理論的な理解を深めることに加え、実際の取引を記録・集計を経験してもらうため、演習問題を解答する形式で授業を展開します。演習は、簿記の初心者向けレベル(日本商工会議所簿記検定3級試験レベル)の問題を用いて行います。</p> <p>また毎回課題に取り組むことにより、それぞれの段階ごとに理解度をチェックしていきます。</p> <p>簿記は毎回の授業の積み上げで理解できる科目ですので、積極的に取り組むよう心がけましょう。当該回に学習した内容については、例題や演習問題をこまめに復習する習慣をつけてください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合および連続して3回欠席した場合には失格とする。

授業計画	第1回 オリエンテーション（簿記の目的と基本要素） 第2回 貸借対照表と損益計算書 第3回 簿記一巡の手続き 第4回 簿記上の取引と仕訳 第5回 試算表の作成 第6回 主要な取引を学ぶ（1）現金・預金の取引 第7回 主要な取引を学ぶ（2）収益と費用 第8回 主要な取引を学ぶ（3）商品売買取引 第9回 主要な取引を学ぶ（4）手形取引 第10回 主要な取引を学ぶ（5）債権・債務 第11回 主要な取引を学ぶ（6）有形固定資産 第12回 主要な取引を学ぶ（7）資本金と税金 第13回 決算を学ぶ（1）売上原価の算定 第14回 決算を学ぶ（2）減価償却と貸倒の見積もり 第15回 決算を学ぶ（3）精算表の作成
テキスト	「簿記入門 - 初めて学ぶ複式簿記 - 」中村壽男（名古屋経済大学）
参考書	日本商工会議所簿記検定3級試験対策用の問題集等
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	簿記検定試験委員として培った経験より、大学で学ぶ簿記の学習成果を確認するため、日本商工会議所簿記検定試験へのチャレンジを奨励している。
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	当回の課題を配信するので、2時間程度の予習を要す。 また、前回の課題の解答を配信するので、理解度確認のため2時間程度の復習を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	ミクロ経済学 / Microeconomics
時間割コード Course Code	20020
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ブ ティ ビック リエン
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ブ ティ ビック リエン(経済学部)
授業の目標	本講義では、ミクロ経済学の基礎知識を身につけるため、必要な専門用語とその経済学的な意味および演習問題の計算方法について講義する。 最終的には、ミクロ経済学における専門用語と基本的な考え方を理解する上に、日常生活の中に出てくる経済関係のニュースを聞き、新聞記事を読み、理解できることを目指す。
授業の概要	本講義は1年次後期開講の「市場の経済学」で学んだ「ミクロ経済学」の基本知識の続きを学ぶ。(「市場の経済学」で学んだ知識を前提にして、新たな内容を学ぶので、「市場の経済学」の単位修得済みの学生のための履修をお勧めする。)まず、完全競争市場における需要と供給の相互作用で決定される「市場メカニズム」とその応用の分析を復習する。 次に、市場メカニズムは何らかの理由で最も望ましい状態に達していない場合に発生する「市場の失敗」について学習する。 【重要】本講義はグラフによる分析に加えて、数学の計算問題がたくさん出る。そのために、中学・高等学校レベルの数学計算知識が必要である。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	下記のことを総合評価して成績を評価する。 1) 中間テスト (30%) 2) 期末試験 (70%) なお、詳細な説明は初回講義に行う。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1) 基本的に第1回から毎回ダブル出席をとる。 ダブル出席とは授業開始以降15分以内に出席端末で出席を取るほか、授業の最後に理解チェックシート等を提出する。 ダブル出席のある授業回はどちらか出席記録がないと「欠席」になる。 2) 欠席回数が全15回中に5回以上(つまり、欠席が5回に達した)学生は「失格」(つまり、期末試験の受験資格が失って、成績が「X」)になる。

授業計画	<p>第01回：イントロダクション</p> <p>第02回：ミクロ経済学の基本概念の紹介</p> <p>第03回：完全競争市場の復習(1) - 市場均衡と市場の効率性</p> <p>第04回：完全競争市場の復習(2) - 価格規制政策と数量規制政策の評価</p> <p>第05回：完全競争市場の復習(3) - 補助金政策と課税政策の評価</p> <p>第06回：完全競争市場の復習(4) - 演習(1)</p> <p>第07回：中間テスト</p> <p>第08回：市場の失敗(1) - 外部性</p> <p>第09回：市場の失敗(2) - 公共財</p> <p>第10回：演習(2) - 外部性の演習問題と公共財の演習問題</p> <p>第11回：市場の失敗(3) - 独占企業行動</p> <p>第12回：演習(3) - 独占の演習問題</p> <p>第13回：市場の失敗(4) - 情報の非対称性(1)</p> <p>第14回：市場の失敗(4) - 情報の非対称性(2)</p> <p>第15回：総まとめ・質疑応答</p> <p>なお、学生の理解に沿って、講義内容を多少変更することがある。</p>
テキスト	
参考書	<p>1) 田中久稔 [著] (2022) 『ミクロ経済学 超入門』SB クリエイティブ</p> <p>2) スティーヴン・レヴィット/オースタン・グールズビー/チャド・サイヴァーソン [著], 安田洋祐 [監督], 高遠裕子 [訳] (2017) 『レヴィットミクロ経済学 基礎編・発展編』東洋経済新報社</p> <p>3) N・グレゴリー・マンキュー [著], 足立英之/石川城太/小川英治/地主敏樹/中馬宏之/柳川隆 [訳] 『マンキュー経済学 I ミクロ編』東洋経済新報社</p> <p>4) 大川光/家森信善 [著] (2016) 『ミクロ経済学の基礎』中央経済社</p> <p>5) 安藤至大 [著] (2021) 『ミクロ経済学の第一歩』[新版]有斐閣ストウディア</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>1) 授業終了後、教室で対応する。</p> <p>2) オフィスアワーに研究室で対応する。</p> <p>3) 上記以外の場合は、アポイントを取って、対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>1) 授業終了後、教室で対応する。</p> <p>2) オフィスアワーに研究室で対応する。</p> <p>3) 上記以外の場合は、アポイントを取って、対応する。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>1) 本科目は各回授業の前後に密接な関係があるため、復習時間を特に多めに割いて、理解できるまで繰り返して復習する必要があります。</p> <p>2) 必要に応じて参考書に挙げたテキスト以外に自分が読めやすいミクロ経済学のテキストを探して、同時に学習するのを強くお勧めする。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	マクロ経済学 / Macroeconomics
時間割コード Course Code	20030
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	酒井 愛
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛 (経済学部)
授業の目標	<p>本講義では経済をマクロ的な視点から考察するための基礎理論を学びます。</p> <p>< 学習成果 ></p> <p>知識・理解の領域 マクロ経済学の主要な用語や経済指標を理解し、経済に関する記事や書物を正確に読み取れるようになる。</p> <p>技能の領域 マクロ経済学の基本的な分析ツールを習得し、受講生自身が活用できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 現実のマクロ経済の諸問題を論理的に考えることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>経済分析の二本の柱の一つである「マクロ経済学」の基礎理論を学びます。マクロ経済学ではミクロ経済学で取り扱う個々の経済主体の行動の結果をいくつかの代表的な変数に集計し、その動きを分析します。マクロ経済学の入門科目である「国民経済と政府」とミクロ経済学の入門科目である「市場の経済学」で学習した知識をベースに講義は進められます。3年次以降の専門演習における学びに役立つ内容を念頭に置きますので、「国民経済と政府」に比べ、数式的な理解が増えるほか、経済成長にまつわるトピックや財政・金融政策の効果等についてもより詳しく学びます。講義担当者は分かりやすい講義を心がけ、随時質問にも応じますので、積極的に履修して下さい。</p> <p>「この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。」</p>
評価方法	<p>小レポート (20%)</p> <p>中間試験 (30%)</p> <p>期末試験 (50%)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>【次の行為が発覚した場合には通告なく失格とします。】</p> <p>6回目の欠席がカウントされた。</p> <p>小レポート・小テスト等において、不正行為・剽窃行為を行った。</p> <p>小レポート・小テスト等において、受講生間での記載内容が酷似していることが発覚した。</p>

授業計画	第1回 インTRODクシヨN(「国民経済と政府」の復習と数学的ツールの確認) 第2回 財市場と貨幣市場の同時均衡(図および数式による理解) 第3回 乗数理論とIS-LM分析(再考) 第4回 財政政策とその効果 第5回 金融政策とその効果 第6回 ポリシー・ミックス 第7回 マクロ変数と統計データ 第8回 絶対所得仮説 第9回 ライフサイクル仮説 第10回 消費・貯蓄に関するその他の仮説 第11回 経済成長の源泉 第12回 人的資本 第13回 外生成長モデル 第14回 内生成長モデル 第15回 各種モデルのまとめ
テキスト	指定しません。
参考書	適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール(ai.sakai@nagoya-ku.ac.jp)にて受け付けます。 学生番号・氏名・科目名などを明記のうえご連絡下さい。
フィードバックの方法	小レポート・小テストについては翌週以降の講義の際に、出題の意図や解答におけるポイントを解説します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	「国民経済と政府」「市場の経済学」で学習した内容をよく確認しておいてください。経済理論の基礎を学ぶ講義であり、各講義回はそれまでの学習内容の積み重ねです。しっかりした土台に積み重ねることが肝要です。原則的には2時間の予習と2時間の復習を課すほか、準備学習として担当者から提示されるテーマやトピックを活用し、自発的に取り組む姿勢を心がけてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	経済統計学 / Economical Statistics
時間割コード Course Code	20070
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	下村 尚司
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	下村 尚司 (経済学部)
授業の目標	<p>この授業では、官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を修得することを目指します。</p> <p>経済学の習得に必要とされるデータ分析の基礎的な考え方を学びます。</p> <p>< 学習成果 ></p> <p>知識・理解の領域 統計についての基礎的な考え方を学ぶことができます。</p> <p>技能の領域 基礎的な統計用語を用いた、データのまとめ方を学ぶことができます。</p> <p>態度・志向性の領域 日常生活において溢れている様々な経済データの分析や扱い方をより深く理解でき、社会において必要不可欠な客観的考察力の基礎を養成できるようになることをねらいとしています。</p>

<p>授業の概要</p>	<p>対面授業で行われます。しかしGoogle Classroomにログインして、毎回資料をよく読み、毎回課題に回答してもらいます。</p> <p>が使える、1兆くらい数が表示できるだけでなく、指数計算の使える「関数電卓」と呼ばれる電卓アプリを用意してください。無料のもので大丈夫です（例：「万能電卓：多機能計算機」など）。もちろん、スマホアプリでなくても、実物の電卓でも、上記のようなものであれば構いません（実物の電卓は多分値が張ります。）</p> <p>授業の作業の指示は、上記の「万能電卓：多機能計算機」で行うつもりです。</p> <p>この科目は専門科目群の専門科目に属している専門科目です。</p> <p>対面授業の場合は、授業を受けた後でGoogle Classroomに入って、資料を読みGoogle Formで回答することによって進行してゆきます。</p> <p>オンデマンド授業の場合は、Google Classroomに入って資料を読み、Google Classroomに入ってGoogle Formで回答することによって進行してゆきます。</p> <p>経済学の習得に必要とされるデータ分析の基礎的な考え方を学びます。また、その分析方法を学びます。</p> <p>パソコンがあれば便利だと思います。けれどスマホがあってGoogle ClassroomやGoogle Formsが使えるれば、大丈夫です。実社会のデータを直接扱いませんが、それらを用いた集計方法（グラフの作成や記述統計の計算）の基礎的な考え方について学習することは可能です。パソコンの使える人は、是非授業で得られた知識を用いて、他の授業のレポートなどに活かして下さい。</p> <p>「この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。」</p>
<p>評価方法</p>	<p>対面授業の場合は毎回の出席が重要です。オンデマンドの場合も毎回のGoogle Classroomの課題（Googleフォーム）への回答が重要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の提出で 100% <p>欠席した場合は課題を提出しても0点ですよ。ただし、特別欠席など例外もありますよ。</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>欠席すると6回で失格としております。</p>

授業計画

おおよその流れは下記のようにです。

第1回： 皆さんそれぞれ、「万能電卓：多機能計算機（スマホアプリ）」など「関数電卓」と呼ばれるものを用意してくださいね。
授業（あるいは資料）では、予備的な説明をします。そしてGoogle Formsに回答できるかチェックします。

第2回： 平均値の計算を行います。平均値が代表値のひとつであることを学びます。
資料を読み Google Form で回答する。
レポートの結果によっては、電卓の操作や計算の概要について、4時間の予習・復習を必要とする。

第3回： 幾何平均と算術平均について学びます。
Google Form で回答する。
授業の内容について、4時間の復習を必要とする。

第4回： 代表値の計算の復習を行います。Google Form で回答する。
レポートの結果によっては、これまでの授業の内容について、4時間の復習を必要とする。

第5回： 単純集計、度数分布表の作成を行います。
Google Form で回答する。
授業で行った操作について、4時間の復習を必要とする。

第6回： 階級のある度数分布表について学びます。Google Form で回答する。
授業で行った操作について、4時間の復習を必要とする。

第7回： ヒストグラムについて学びます。Google Form で回答する。
4時間の予習・復習とする。

第8回： 代表値の意味と計算、度数分布表とヒストグラムの分析を行います。
Google Form で回答する。
4時間の復習を要する。

第9回： 主要な記述統計量（平均値・分散・標準偏差他）について学びます。
Google Form で回答する。
4時間の復習が必要。

第10回： 質的データを用いた単純集計・クロス集計を行います。
Google Form で回答する。
4時間の復習を必要とする。

第11回： 量的データを用いたクロス集計を行います。
Google Form で回答する。
4時間の復習を必要とする。

第12回： 相関関係、因果関係との区別、擬似相関の概念について説明します。
Google Form で回答する。
4時間の復習と実践を課す。

第13回： 相関関係について学びます。
資料を読み Google Form で回答する。
4時間の実践を課す。

第14回： これまでに学んだ事柄を総合的に復習します。
資料を読み Google Form で回答する。
4時間の実践が望ましい。

第15回： これまでに学んだ事柄を総合的に復習します。
資料を読み Google Form で回答する。
4時間の実践が望ましい。

毎回の講義内容は、進度に応じて前後する可能性がある。

テキスト	追って指示する。
参考書	追って指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	Google Classroomの個別質問の方法や、メール（私のアドレスは tkshimo@nagoya-ku.ac.jp）にメールしてください。通常2～3日中にはご返答出来ていると思います。
フィードバックの方法	Googleフォームを送信してください。すると、回答が分かると思います。質問が多い場合には、別途コンテンツを作ってGoogle Classroom内やメールに添付して返事したいと思います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	最初の授業の場合は、「万能電卓：多機能計算機」の基本的なところだけ使えるようにします。分からない場合は質問してくださいね。 2回目からは、授業の前に前回の授業の内容を復習してください。これをもって予習とします。授業後は、回答を送ってから、もう一度回答を計算してみましよう。これをもって復習とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	8.計画立案力

開講科目名 Course	雇用と労働 / Employment & Labor
時間割コード Course Code	20093
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	木村 牧郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	木村 牧郎 (経済学部)
授業の目標	<p>雇用と労働における実態やその背景を理解し、情報化社会やネットワーク型社会における雇用・労働の変化について具体的なイメージをつかめるようになることを目指す。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用や労働の実態や近年の政策的変化について具体的な事例に即して理解することができる。 ・情報化社会やネットワーク型社会における雇用・労働の変化を理解することができる。 <p>【技能の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用や労働に関する新聞記事などの報道を理解できるようになる。 ・アルバイト選びや就職活動の際に、希望就職先の働き方について具体的なイメージをもつことができる。 <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革など、近年の労働政策に対して関心が持てるようになる。 ・ワークルールへの理解を通じて、今後の職業人生を具体的にイメージできるようになる。
授業の概要	<p>雇用と労働に関する職場の実態や政策的課題とともに近年の労働市場における変化や動向について学習する。またその背景にある社会的変化、とりわけ情報化やネットワーク化についてどのような関連があるかを学ぶ。こうした学びのなかでは最新の統計や職場の実態に関する報道内容にふれつつ、アジアやヨーロッパなど国際比較の観点も取り入れる。職場には賃金やそれ以外の労働条件、雇用形態などさまざまなワークルールが存在する。こうしたワークルールの存在が今後の職業人生にどのように関わってくるのかを学ぶ。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	毎回の授業内容の振り返りを目的としてe-learning上から提出する課題のスコア(75%)と授業の前半(第7回終了時)と後半(第15回終了時)に同じくe-learning上から提出する「まとめの課題」のスコア(25%)により総合的に評価する。毎回の課題提出をもって出席扱いとする。提出した課題は翌週には正答とスコアをつけてオンライン上で返却する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が5回を超えた場合には失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。受講者の理解を優先し、講義計画の順序を変更する場合もある。
テキスト	なし レジュメと資料をe-learning上から配信する。
参考書	森岡孝二著『雇用身分社会』岩波新書、2015年 宮本太郎著『共生保障<支え合い>の戦略』岩波新書、2017年 前藤若菜著『物流危機は終わらない?暮らしを支える労働のゆくえ』岩波新書、2018年

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>質疑応答はつぎの三通りの方法で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ e-learningシステム上の「質問コーナー」への書き込みと応答 ・ 課題学習の感想・質問欄への書き込みと応答 ・ 担当教員へのメール (kimura.makio@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	<p>上記の質問への応答は授業期間の翌週までに行う。また、各自の課題学習の成果についても授業期間の翌週までに返却する。課題学習については成績（スコア）表示をして返却し、学習の理解度を可視化する。感想欄への書き込みがあった課題に対してはコメントをつけて返却する。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>毎回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を課す。</p> <p>予習は、あらかじめ提示された次回授業テーマに関する新聞記事や報道動画に目を通し、分からない用語等を調べる。復習は課題学習の解き直しをして、授業動画を再視聴する。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	授業の目的と目標、授業を受ける心がまえについて説明するとともに、人が働く目的や心がまえについて学ぶ。事前学習としてe-learningのガイダンス資料を熟読する。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
2	労働市場の機能と特徴	労働市場とは何か、その特徴と役割、日本における労働市場の規模について解説するとともに、労働政策の必要性や課題について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しを行う。	
3	産業社会と就労構造	産業社会におけるシステムの重要性を解説し、システムのなかでの仕事の特徴や就業構造について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
4	正社員という働き方	正社員の定義と数、その働き方の特徴について解説するとともに、正社員雇用の原理であるメンバーシップ型雇用の特徴について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
5	賃金体系と水準の決まり方	正社員の賃金体系である年功型賃金の仕組みや歴史について解説するとともに、近年における成果主義への移行や春闘の意義について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
6	労働時間の実態と政策的課題	日本の長時間労働の実態と原因、法律的な根拠について解説するとともに、近年の働き方改革をめぐる政策的課題について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
7	雇用形態と格差	非正規雇用の種類や正規雇用との違い、近年における増加の背景について解説するとともに、格差是正に向けた課題について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
8	社会における情報化とネットワーク化	情報化・ネットワーク化とは何かについて解説するとともに、今後の進展について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
9	情報化による影響：物流危機と働き方	ネット通販の拡大と物流危機の関わり、物流業界の働く実態について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
10	情報化による影響：ホワイトカラー労働の変容	ホワイトカラー労働の歴史と実態、ICT機器導入による働き方の変化について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
11	情報化による影響：テレワークの進展	テレワークの定義と実態、導入に向けた日本的雇用の課題について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
12	情報化による影響：シェアリング・エコノミーでの働き方	情報デジタル化のなかで進むシェアリング・エコノミーとそのなかで働き方がどのように変化するかについて学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
13	ネットワーク型社会と共生保障	重厚長大社会からネットワーク型社会への変容、そのなかでの共生保障のあり方について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
14	ネットワーク型社会におけるユニバーサル就労	ネットワーク型社会への移行にともなう新しい働き方、ユニバーサル就労の意義について学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	
15	まとめ	受講者からの各回の感想をフィードバックし、これまでの授業をふり返るとともに、社会人として働く際に心がけることが何かを学ぶ。事前学習として提示した参考資料を熟読し、分からない用語等を調べる。事後学習として授業動画の再視聴と課題の解き直し、提示した参考資料の見直しをする。	

開講科目名 Course	財政学 / Theory of Public Finance
時間割コード Course Code	20103
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	齋藤 敦
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	齋藤 敦 (経済学部)
授業の目標	<p>この授業では、有権者として財政の現状を理解し将来の姿について構想する力を身につけることを目指します。</p> <p>財政に関する新聞記事等を読んで、その内容を正確に理解し、自分の意見を的確に表現できるようになることが目標です。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政に関する基本的な用語や概念を正しく知ることができる。 ・財政に関わる諸制度の基本的な仕組みや問題を知ることができる。 ・財政を理解することができる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政をめぐる諸問題を自分の問題として考えることができるようになる。 ・制度改正や制度改革の動向に関心を持つようになる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政に関する新聞記事等の報道内容がある程度理解できるようになる。 ・話の要点や自分の考えをまとめ、文章にして説明することができるようになる。
授業の概要	<p>講義を通じて財政について関心を高め理解を深めます。日本財政を主に取り上げ、制度や実際を知ってもらい問題の所在を理解してもらいます。</p> <p>また、財政学の基礎知識を身につけます。財政学が様々な財政現象をどう理解してきたか、用語や理論を紹介します。</p> <p>この科目の位置づけについては本学HPのナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・基本は試験(80%)によって評価しますが、平常点(20%)も加味します。中間小レポート課題を課すこともあります。 ・基本的な用語や概念を正しく理解できているか、重要論点を把握できているか、これらを他者に伝えるように説明できるか等を評価基準とします。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>授業の妨げになる行為を禁止します。授業の妨げになる行為、欠席や遅刻が多い、こうしたことは失格や不合格になります。</p>

授業計画	以下のテーマと順序で授業を進める予定にしていますが、受講者の理解状況等に応じて適宜変更していきます。第1回には講義のガイダンス、オリエンテーションも行うので、受講希望者は出席が必要です。 第1回 財政とは何か 第2回 国の予算の仕組み 第3回 租税とは何か 第4回 公共支出の役割 第5回 国の予算の主要な経費(1) 公共事業関係費 第6回 国の予算の主要な経費(2) 社会保障関係費 第7回 国の予算の主要な経費(3) 社会保障関係費(その2) 第8回 国の予算の主要な経費(4) 文教・科学技術振興費、その他 第9回 国の予算の主要な経費(5) 国と地方の財政関係 第10回 公債 第11回 財政政策とマクロ経済 第12回 財政政策とマクロ経済(その2) 第13回 財政投融资と公企業 第14回 日本の戦後財政運営のあゆみ 第15回 まとめ～日本財政の課題
テキスト	植田和弘、諸富徹編(2016)『テキストブック現代財政学』有斐閣。
参考書	池上岳彦編(2015)『現代財政を学ぶ』有斐閣。 その他、授業の中で適宜提示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	国の予算編成の過程における実務上やあるいは政治過程などを通じる特徴などについて、また、それぞれの主要な経費の特性などに応じた特徴的な事柄などについて、できるだけ触れることとする。
質問への対応方法	質問へは主に授業の中で対応します。
フィードバックの方法	コメント等、適宜、授業の中で行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回について授業ノートをしっかり仕上げてください。指示された予習等の活動にもよく取り組んでください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう
SDGs 17の目標(11～17)	11. 住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	金融論 / Finance
時間割コード Course Code	20113
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	羽田 徹也
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	羽田 徹也 (経済学部)
授業の目標	人生を豊かにする手段の一つとして、金融の仕組みと活用方法を理解すること 知識・理解の領域 ・金融の基本的な仕組みを理解できる 技能の領域 ・金融の課題に対して、自らの言葉で対応策を述べること 態度・志向性の領域 ・金融に関する課題について自ら考え、独自の見解を持てるようになる
授業の概要	金融経済に関する理論および金融経済に関するデータ分析により、金融市場と我々の生活との関連性を解説する。加えて、人生を豊かにする手段としての金融の活用方法を解説する。前半ではミクロ金融、後半では証券市場およびマクロ金融について解説する。 授業は授業後に配布するスライドおよびテキスト、参考図書に基づいて行う。授業の最後に、google classroomを活用し、小テストを適時行う。google classroomを活用できるようにスマートフォン等の電子機器を授業に持参すること。尚、ミクロ経済およびマクロ経済を履修済みが望ましい。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること
評価方法	授業内で適時実施する小テスト(40%)および期末レポート(40%)、授業参加姿勢(20%)で評価する
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	6回目の欠席で失格とする。加えて、期末レポート未提出も失格とする
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照すること
テキスト	・金融(Money, Finance, and Financial System) 内田浩史 有斐閣 2016
参考書	・現代の金融入門 池尾和人 ちくま書房 2010 ・図説 日本の証券市場 公益財団法人 日本証券経済研究所 最新版(インターネットから入手可能)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	日米金融機関において、為替ディーラー、債券トレーダー、金融市場のストラテジストを経験した教員が、金融経済に関する理論と金融実務現場の関連性を、大学院での研究活動およびビジネス現場経験を踏まえて解説する科目である
質問への対応方法	質問は授業後の時間およびメール(hada-t@nagoya-ku.ac.jp)により対応する

フィードバックの方法	小テストおよび期末レポートについては解答および出題の意図をgoogle classroom経由で共有する
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内容の参考になるテキストおよび参考図書の該当ページを事前に共有するので、予習に活用すること(テキストおよび参考図書の内容が理解できなくても問題ありません。授業で身近な例を示すので、内容をイメージできるようになります)。 授業中は、スライドおよび解説を参考にし、メモを作成すること。 授業後に配布するスライドおよび小テスト、自作のメモ、テキスト、参考図書を活用し、自作のノートを作成することにより、復習に活用すること
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	金融論の授業内容について説明します	シラバスを確認しておいてください
2	貨幣(お金)にまつわるお話	貨幣の歴史、三つの機能、実際の貨幣、貨幣の価値について解説します	テキストの金融第1章1.1~1.4を予習に活用してください
3	貨幣(お金)の支払い・決済と暗号資産	支払い手段、決済システム、暗号資産の仕組みについて解説します	テキストの金融第1章1.5~1.7および参考図書の現代の金融入門の第2章を予習に活用してください
4	金融の基本的な仕組み	金融の基本、経済主体別の金融の実態、金融取引を行う理論的な背景について解説します	テキストの金融第2章および参考図書の現代の金融入門第1章を予習に活用してください
5	金融取引の阻害要因	金融取引費用、様々なリスク、情報の非対称性について解説します	テキストの金融第3章第4章を予習に活用してください
6	金融取引阻害要因の削減方法	流動化、証券設計、情報生産の基本的な仕組みについて解説します	テキストの金融5章を予習に活用してください
7	金融取引阻害要因の削減方法	担保、保証、債務不履行の基本的な仕組みについて解説します	テキストの金融6章を予習に活用してください
8	金融取引阻害要因の削減方法	分散化、証券化、デリバティブ取引の基本的な仕組みについて解説します	テキストの金融7章の7.1および参考図書の現代の金融入門の第6章2、日本の証券市場の第7,8,9章を予習に活用してください
9	金融資産選択問題(ポートフォリオ理論)	リスクとリターンのお考え方および最適ポートフォリオについて解説します	テキストの金融7章の7.2を予習に活用してください
10	金融資産選択問題(ポートフォリオ理論)	リスクとリターンのお考え方および最適ポートフォリオについて解説します	テキストの金融7章の7.2を予習に活用してください
11	金融機関とその役割	金融仲介機関、金融仲介機能、金融機関の経済的機能について解説します	テキストの金融8章を予習に活用してください
12	金融市場の機能(現場)と理論	金融市場の概要および理論について解説します	テキストの金融9章を予習に活用してください
13	債券市場および金利の分析	債券の種類、スポット・フォワードレート、割引債・利付債価格、金利の期間構造、デュレーション・コンベクシティ、債券ポートフォリオ運用について解説します	参考図書の日本の証券市場の第5,6章を予習に活用してください
14	債券市場および金利の分析	債券の種類、スポット・フォワードレート、割引債・利付債価格、金利の期間構造、デュレーション・コンベクシティ、債券ポートフォリオ運用について解説します	参考図書の日本の証券市場の第5,6章を予習に活用してください
15	金融政策	金融政策の目的、伝統的金融政策、非伝統的金融政策、金融政策と財政政策との関連性について解説します	テキストの金融第12章および参考図書の現代の金融入門の第3章を予習に活用してください

開講科目名 Course	経済学史 / History of Economic Thought
時間割コード Course Code	20153
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	定森 亮
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	定森 亮 (経済学部)
授業の目標	本講義の目標は、今日の日本の大学において学ばれている社会科学が、いかなる歴史的、文化的背景のなかで生まれ、それがいかなる役割を果たしてきたかを知ると同時に、これからの時代にいかなる役割を果たしうるかを共に考えていくことにある。
授業の概要	日本は、明治期に国家の文明化、つまりは近代化を目的としてヨーロッパの学問を取り入れた。本講義は、現代においてヨーロッパ文明の内容を問うことが、日本の社会の基礎を問うことといかに密接不可分に結び付いているかを受講者がより深く理解できるようになることを目標とする。 この目標を念頭に、本講義では、近代ヨーロッパ文明の基礎が形成された15世紀のイタリア・ルネサンスの時代から18世紀のイギリス、フランスを中心とする啓蒙の時代を経て、20世紀初頭に至る思想家たちを取り扱う。この長い時代を通じて、どのようにして人間、社会、国家に関する認識が精緻なものになり、そこから「経済学」が形成されていったのかを明らかにする。
評価方法	学期中に3、4回程度予定しているコメントカード：30% 学期末試験：70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 近代ヨーロッパ文明社会のなかの「経済学」 ：社会・歴史・文明とは何か？</p> <p>第2回 ハンナ・アーレント『人間の条件』における近代社会批判 ：20世紀、第二次世界大戦後の観点から</p> <p>第3回 ニッコロ・マキアヴェッリにおける古代共和主義思想の発見 ：16世紀のイタリア・ルネサンスにおける「政策科学」の誕生</p> <p>第4回 ジェイムズ・ハリントンにおける政治権力と富の配分の関係 ：17世紀イギリスでの共和主義思想の伝達</p> <p>第5回 17世紀、イギリス重商主義の「合理性」と植民地支配の拡大 ：トマス・マン、ジョサイア・チャイルド、ウィリアム・ペティ</p> <p>第6回 デイヴィッド・ヒュームの文明社会論と近代的統治機構の確立 ：商業、財政制度、出版印刷の発展</p> <p>第7回 モンテスキューの立憲思想と18世紀における商業の発展</p> <p>第8回 モンテスキューとヒュームにおける世界商業の分析と「人間性」認識の相違</p> <p>第9回 アダム・スミスにおける道徳哲学の一分野としての経済学 ：『道徳感情論』から『国富論』への展開</p> <p>第10回 スミス『国富論』における分業の原理と経済的自由の体系</p> <p>第11回 英仏戦争終結後の穀物法をめぐるリカードとマルサスの論争 ：自由貿易と保護主義</p> <p>第12回 マルクスの資本主義批判と社会運動の組織化</p> <p>第13回 ケインズにおける政府による市場介入の提案の意味 ：大恐慌期における「経済学」再考</p> <p>第14回 ハイエク：中央集権国家批判と自生的秩序の理想</p> <p>第15回 総論 グローバルな時代における資本主義の再検討と公正への問い ：経済格差・環境問題・女性の社会的地位、性的マイノリティ</p>
テキスト	各回の授業でプリントを配布する予定。
参考書	ロバート・L・ハイルブローナー『入門経済思想史 世俗の思想家たち』 八木甫、松原隆一郎ほか訳、ちくま学芸文庫、2001
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	講義中の質問は時宜を見計らって受け付ける。その他、授業内容も含めて質問がある際には授業終了後、もしくはオフィスアワーに受け付ける。
フィードバックの方法	学期中に複数回提出してもらう予定のコメントカードに関しては、重要と思われるものを選んで授業内で講評を行なう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の講義の後で、内容を400字程度にまとめ、その際に自分が理解した点と疑問点を整理しておくことが役に立つ。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナースhipで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	地域政策 / Regional information
時間割コード Course Code	20180
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	3 1 B 講義室, 情報実習室 A
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)
授業の目標	<p>本講義では、公共政策に関する知識・理論を学び、危機管理政策など事例を通じて課題解決の具体的な手法について習熟する。くわえて、地域特性や課題を把握するための地域分析も実習する。</p> <p>知識・理解の領域 地域の課題解決は誰がどのように行っているのかを知ることができる。また、自身が地域課題解決に果たせる役割などについて考えることができる。</p> <p>技能の領域 課題解決のための地域分析の技能を身に着けることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 自身が居住する地域、就学・就業する地域が抱える諸問題について興味を持つことができる。</p>
授業の概要	<p>地域にはさまざまな課題が存在する。経済不況、社会的貧困、工業生産拡大がもたらす環境破壊、異常気象などによる自然災害など多様である。そして、これらの地域課題を解決する手法として「政策」がある。政策の担い手は行政が中心であるが、近年では民間企業、NPO法人、町内会・自治会など多様化している。</p> <p>本講義は、多様化する政策の策定過程、策定方法、評価手法などを対象とする「公共政策論」について講義し、地域福祉、観光振興、危機管理などを具体例として取り上げる。</p> <p>くわえて、地域のさまざまな課題を地理的観点より把握するための「地域分析」（情報処理実習）も行う予定である。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>参加態度（20％）＋評価テストまたはレポート（80％）</p> <p>理解度確認テストやレポート課題を予定する。評価の詳細については、第1週ガイダンスにて案内する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の無断欠席は、テスト受験・レポート提出の資格を失うものとする。やむを得ない欠席などの場合は、必ず事前に連絡・相談すること。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス、「地域」について考える</p> <p>第2回 政策の目的と公共</p> <p>第3回 政策手段と合理的選択</p> <p>第4回 分野別政策と行政機構</p> <p>第5回 総合計画とPDCAサイクル</p> <p>第6回 地方自治とガバナンス</p> <p>第7回 市町村合併と広域連携</p> <p>第8回 地域福祉政策 高齢化社会における地域づくり</p> <p>第9回 観光振興政策 観光による地方創生と経済波及効果</p> <p>第10回 危機管理政策(1)災害対応と制度構築</p> <p>第11回 危機管理政策(2)防災情報の共有</p> <p>第12回 危機管理政策(3)地域防災力と復旧・復興</p> <p>第13回 地域分析実習(1)政策情報や統計情報の入手</p> <p>第14回 地域分析実習(2)地域特性や課題の可視化</p> <p>第15回 地域分析実習(3)分野別の地域政策分析</p> <p>第1回から第7回が「理論」、第8回から第12回が「事例」、第13回から第15回が「実践」。ただし、講義内容は状況によって変更します。</p>
テキスト	テキストは使用しない。資料等は授業中に配布する。
参考書	村山徹『新・災害と安全の情報—日本の災害対応の展開と災害情報の質的転換』晃洋書房, 2020年 蔣湧ほか『地域研究のための空間データ分析入門: QGISとPostGISを用いて』古今書院, 2019年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	講義内容の理解を促進するために簡単なエクササイズやリアクションペーパーを授業内もしくは宿題として課すことがある。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	市役所付置の自治体シンクタンクでの実務経験を有する教員が、行政の実践を紹介しながら地域課題の解決について解説する科目である。
質問への対応方法	分からないことなどは積み残すことなく、積極的に質問・相談してください。授業内で質問対応などオフィスアワーを紹介します。
フィードバックの方法	特になし
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	週2時間程度の予習復習することが望ましい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	アジア経済論 / Asian Economy
時間割コード Course Code	20190
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ブ ティ ビック リエン
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ブ ティ ビック リエン(経済学部)
授業の目標	本講義は、アジア各国はどのような道筋をたどって経済発展を遂げたかについて開発経済学の基礎知識を学び、理解を深めることを目指す。アジア諸国に興味をもつ履修者は本講義の内容を理解した上に、アジア各国の経済指標データを収集して、理論知識を実証して、卒業論文の研究に展開できればという狙いもある。
授業の概要	アジア諸国は第二次世界大戦後に世界に飛躍的な経済発展を見せた上に、経済学研究者の注目を同時に集めてきた。これらの国々の高い経済成長を促す背後要因として、技術革新、生産性向上、市場拡大、産業構造変化の高度という着実な国内的努力がある上に、海外直接投資、貿易の自由化や政府開発援助などの外的な要因も重要であることを検証された。本講義は、アジア諸国はどのような道筋をたどって経済発展を遂げたかについて、上記の重要な要因を含む開発経済学の理論を学び、理解を深めることを目指す。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	下記のことを総合評価して成績を評価する。 1) 中間テスト (30%) 2) 期末試験 (70%) なお、詳細な説明は初回講義に行う。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	1) 基本的に第1回から毎回ダブル出席をとる。 ダブル出席とは授業開始以降15分以内に出席端末等で出席を取るほか、授業の最後に理解チェックシート等を提出する。 ダブル出席のある授業回はどちらか出席記録がないと「欠席」になる。 2) 欠席回数が全15回中に5回以上(つまり、欠席が5回に達した)学生は「失格」(つまり、期末試験の受験資格が失われ、成績が「X」)になる。

授業計画	<p>第01回： イントロダクション</p> <p>第02回： 予備知識 - ミクロ経済学の基本概念の復習</p> <p>第03回： 貧困のメカニズム</p> <p>第04回： 人口転換 - アジアの人口問題(1)</p> <p>第05回： 人口転換 - アジアの人口問題(2)</p> <p>第06回： 「緑の革命」 - 農業の技術進歩(1)</p> <p>第07回： 「緑の革命」 - 農業の技術進歩(2)</p> <p>第08回： 工業発展(1) - 理論モデル</p> <p>第09回： 工業発展(2) - 工業化の初期条件</p> <p>第10回： 工業発展(3) - 工業化政策</p> <p>第11回： 貿易と海外直接投資</p> <p>第12回： 政府開発援助(ODA)</p> <p>第13回： 社会主義経済から市場経済への体制転換(1) - 中国</p> <p>第14回： 社会主義経済から市場経済への体制転換(2) - ベトナム</p> <p>第15回： 総まとめ・期末試験対策用の質疑応答</p>
テキスト	
参考書	<p>1) 渡辺利夫 (2005) 『開発経済学入門』 東洋経済新報社</p> <p>2) Le Thanh Nghiep (2005) 『ベトナム経済の発展過程』 三恵社</p> <p>3) 大野健一・桜井宏二郎 (1997) 『東アジアの開発経済学』 有斐閣</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>1) 授業終了後、教室で対応する。</p> <p>2) オフィスアワーに研究室で対応する。</p> <p>3) 上記以外の場合は、アポイントを取って、対応する。</p>
フィードバックの方法	<p>1) 授業終了後、教室で対応する。</p> <p>2) オフィスアワーに研究室で対応する。</p> <p>3) 上記以外の場合は、アポイントを取って、対応する。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	本科目は各回授業の前後に密接な関係があるため、復習時間を特に多めに割いて、理解できるまで繰り返して復習する必要があります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	地域調査(火3・火4) / Community Research
時間割コード Course Code	20310
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	郡 麻里
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	郡 麻里 (経営学部)
授業の目標	地域の自然環境や文化、経済など特色を発見し、持続可能な発展について考察する。そのためのデータ収集、整理、分析の方法を習得する。
授業の概要	犬山キャンパス周辺の神社や水田、雑木林などを対象に、住民がどのように地域資源を活用し保全しているか、仕組みと環境への貢献・効果について発見し、内外に発信する手法を身に着ける。
評価方法	現地調査を実施する。そのための下準備として、地図の利用方法、課題図の作成手法、アンケート用紙や野帳の作成方法等について事前に学ぶ。さらに、安全なフィールドワークのための講習をクラスルームで行う。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	やむをえず欠席等する場合は事前に事情を説明し了承を得ること。 また、フィールドワークにふさわしい服装で参加すること。
授業計画	第1回・第2回 ガイダンス 第3回・第4回 地域の環境や文化を調べる手法の紹介 第5回・第6回 下準備。必要な情報、資材、機材の収集、調達方法や予算の確認 第7回・第8回 調査計画作成 (テーマ選定、目的、手法等の確認)、文献調査 第9回・第10回 調査野帳の作成 第11回・第12回 効率的な調査ルートの選定 第13回・第14回 危険性やあらゆるリスクの洗い出しと対策立案 第15回・第16回 テーマ別環境マップのデザイン、設計 第17回・第18回 現地調査の実施 第19回・第20回 調査結果の点検 (記入漏れ等確認)、データ入力 第21回・第22回 現地調査資材・機材の片付け、整理、メンテナンス、補充 第23回・第24回 課題の整理 第25回・第26回 データ解析 第27回・第28回 データのまとめ 第29回・第30回 調査結果報告会 *状況に応じて内容を変更する場合がある。
テキスト	特になし。毎回、参考文献を紹介する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は環境省の自然環境保全基礎調査・植生調査や地理情報システム（GIS）を用いた各種環境マップ作成や希少種の保全計画立案を行った経験があるため、調査票（野帳）の作成や安全対策など、各種手法について紹介し、伝授する。
質問への対応方法	少人数制のため、常に質問を受け付ける。
フィードバックの方法	直接口頭で回答、または電子メール等に対応する。また、適切な参考資料を紹介する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習復習を各1時間はすること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	2. 飢餓をゼロに 4. 質の高い教育をみんなに 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 5. 自信創出力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	中小企業論 / Small Business
時間割コード Course Code	20440
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山口 靖雄
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山口 靖雄 (経済学部)
授業の目標	<p>日本の経済社会にとって不可欠の存在である中小企業の現状と課題を学び、中小企業の内側でどのような活動が行われているのかについて理解できるようになる。</p> <p>併せて日本経済についても理解を深めることができるようになる。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の経済社会における中小企業の現状について、具体的な事例に即して理解できるようになる。 <p>【技能の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中小企業の視点から経済社会や企業経営を見通す能力を身につけることができるようになる。 <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中小企業の課題克服、成長発展のために必要なことを積極的に調べ提案できるようになる。
授業の概要	<p>最近の日本の中小企業の経営状況を取り上げ、発展している中小企業や苦闘している中小企業の経営者や社員の活動を理解する。</p> <p>その理解と具体的な事例から学生が将来「働く」様子とその意味を理解できるようになる。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	適宜授業の最後に提出を求めるレポート及び確認テスト(30%)と定期試験(70%)に加えて、授業受講姿勢を考慮して(無断途中退席等、授業受講態度が著しく不芳である場合は減点の対象となる)総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が5回を超えた場合には失格となる。

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション、中小企業について学ぶ意義</p> <p>第2回：経済・産業における中小企業</p> <p>第3回：中小企業の経営課題</p> <p>第4回：中小企業の経営革新</p> <p>第5回：中小企業の経営者と事業承継</p> <p>第6回：中小企業と経営理念、経営ビジョン</p> <p>第7回：中小企業の経営戦略</p> <p>第8回：経営者講話</p> <p>第9回：中小企業の財務と中小企業金融</p> <p>第10回：中小企業の労務管理</p> <p>第11回：老舗企業と同族会社の特徴</p> <p>第12回：ファミリービジネスと事業承継</p> <p>第13回：技術革新と企業経営</p> <p>第14回：ベンチャー企業の成長と課題</p> <p>第15回：中小企業政策の役割と課題</p> <p>履修者の理解を優先し、授業内容を変更する場合がある。</p> <p>経営者講話については、諸状況を踏まえて別内容に振り返る場合や、ゲストスピーカーの都合で予定が前後する場合がある。</p>
テキスト	テキストは指定しませんが、適宜、資料やレジメを配布します。
参考書	<p>商工組合中央金庫編『中小企業の経済学』</p> <p>商工総合研究所編『図説 日本の中小企業2022/2023』</p> <p>中小企業庁編『2022年度中小企業白書』（閲覧・ダウンロードURL https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2022/chusho/index.html）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	中小企業白書で取り上げられている中小企業の経営特色、企業内で社員向けに行われている研修事例、喫緊の課題である事業承継を巡る課題等について、実際の事例をもとに解説する。
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の際に配布するレジメと参考書の関連箇所について、毎回4時間の復習を課す
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	経済地理学 / Economic Geography
時間割コード Course Code	20580
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 正之 (経済学部)
授業の目標	経済地理学の考え方を理解し、その視点から地域の多様な現状を具体的に説明することができる。
授業の概要	<p>経済地理学の研究方法と学問の流れを知る。経済地理学の基本（学問の背景と発展過程そして分化）として、フンボルトやリッターにはじまり、フリードリヒ・ラッツェルの環境決定論、ブラーシュの環境可能論などを理解する。その上で、現代日本の経済・社会システムを、空間的（場所的）な視点でとらえる手法を学ぶ。さらに、空間的な視点で地域を分析・評価するために、地理学的な思考を理解し獲得する。</p> <p>なお、本講義と関連する科目として地理学があり、履修しておくことが望ましい。さらに本講義はGISや地域政策を学ぶ上での知識習得科目に位置づけられるため、上記科目を履修する予定のある者は、履修しておくことが望ましい。</p> <p>【オンラインでの講義の場合、資料提示・配布型で実施します】</p>
評価方法	講義のなかで求める課題への取り組みの態度（リアクションペーパー（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%））で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの未提出が1回でもある場合は失格とする。無断欠席は3回以上で失格とする。なお、欠席した場合も次の講義で課題を提出すること。 ・講義開始後25分を越えての入室は認めない。授業態度等で講義の妨げになると判断した場合、退出させることがある。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 地図・地理・地理学・経済地理学 3. 経済地理学の背景と発展過程1 立地論 チューネン「孤立国」ヴェーバー A. 「工業立地論」 4. 経済地理学の背景と発展過程2 立地論 クリスタラー 「中心地理論」 レッシュ「経済立地論」、経済地理学の発展・分化 5. 経済地理学と地理空間情報 計量革命：P.ハゲット「立地分析」 6. 地理情報システム（GIS）の概念や枠組み：GISの広がり 7. 経済地理学と地理空間情報1：産業分野でのGISによる空間分析 8. 経済地理学と地理空間情報2：公共部門でのGISによる施設管理・シミュレーション 9. 経済地理学と地理空間情報3：空間分析の概念・ジオプロセッシング 10. 経済地理学と地理空間情報4：空間分析の概念・補間、分割） 11. 地域問題への接近（1970年代～）：立地論批判、地域構造論研究、地理的不均衡発展 12. マルクス主義的経済地理学：D.ハーヴェイ、新しい空間経済学 13. 地域問題への経済地理学的アプローチ1：地域問題の分析 14. 地域問題への経済地理学的アプローチ2：次の経済地理学（国土政策と地域問題） 15. 地域問題への経済地理学的アプローチ3：地域計画・地域政策（地域づくりへの参与、経済地理学の今後）
テキスト	毎回の講義内容に応じて内容を記載した資料がテキストとなる。

参考書	「日本経済地理読本」(2008)。「日本の経済地理学50年」(2014)。「ジオ・パルNEO第2版」(2017)。「ジオ・パルNEO」(2012)。「地理学演習帳」(2010)。「QGIS入門 第2版」(2015)。その他、参考図書・文献については適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	受講者は各自、大学のgooleアカウント利用が必須です。 1. classroomは、講義の計画や内容の確認、受講した際の資料閲覧や課題提出に使用します。 2. ドライブは、講義資料の共有など、自分の資料やレポートを保存に使用します。 3. Gmail、ドキュメントは、各自が提出するレポート作成に使用します。 4. その他、googleformsやMeet(会議アプリ)は必要に応じ使用します。 上記にあたり、ネットワーク環境のあるPCの利用が望ましい。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	内容についての質問は講義後およびオフィスアワーで受け付ける。 大学のgooleアカウント利用が必須。mailとclassroom、その他、会議アプリも必要に応じて使用する。 講義資料および課題の専門用語等については各自検索を推奨するが、課題への回答は検索しても出ない点に注意すること。
フィードバックの方法	大学のgooleアカウント利用が必須。mailとclassroom、その他、会議アプリも必要に応じて使用する。講義ではリアクションについて補足を行う。それを踏まえたレポート作成を心がけること。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義ではリアクションを求めるので、その回答のための復習が講義時間と同等の復習が必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	29100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	安部 伸哉
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	安部 伸哉 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	29101
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	木村 牧郎
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	木村 牧郎 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	29102
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	酒井 愛
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	29103
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	定森 亮
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	定森 亮 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）で実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）で実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」、「情報モラル」および「大学生のメンタルヘルス」といったテーマについて学びます。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」、「大学生を取り巻く危険（2）振り込め詐欺、マルチ商法など」および「大学生を取り巻く危険（3）ブラックバイトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、9回分の各ゼミのうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、試期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。</p> <p>授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	29104
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,3
主担当教員 Main Instructor	ブ ティ ビック リエン
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 B 3 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ブ ティ ビック リエン(経済学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール(通常「ゼミ」と呼んでいます)の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること(毎週出席が基本です)を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	29105
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	岡田 和明
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 和明 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 大学生そして社会人としてのルール・マナーを学ぶ。</p> <p>5. 大学生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>6. 自分の生まれたまち・育ったまち・生活するまちに関心を持ち社会の一員としての役割を理解する。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。</p> <p>学習および大学生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協働・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>

授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。また、目まぐるしく変化する社会情勢に常に興味を持ちそれに対応できるようにします。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。 2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。 3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。 <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）で実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）で実施します。</p> <p>1回目 【各ゼミ】ゼミの進め方 自己紹介等 2回目 【各ゼミ】自分のまちを知る（概要、地理、産業、人口など） 3回目 【各ゼミ】自分のまちを知る（行財政、歴史・文化など） 4回目 【合同ゼミ】（企画1） 5回目 【合同ゼミ】（企画2） 6回目 【合同ゼミ】（企画3） 7回目 【各ゼミ】住民・主権者の役割を考える 8回目 【各ゼミ】地方行政について考える（地方議会など） 9回目 【各ゼミ】レポートの書き方について 10回目 【合同ゼミ】（企画4） 11回目 【合同ゼミ】（企画5） 12回目 【合同ゼミ】（企画6） 13回目 【各ゼミ】まちを支える力、まちの国際化、まちの安心・安全を考える（企画4.5.6を受けて） 14回目 【各ゼミ】まちの施策の立案から実施を考える（公務員について考える） 15回目 【各ゼミ】まとめ・振り返り</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 各ゼミでは、自分が生まれたまち・育ったまち・生活するまちの基礎的情報を知るとともに、住民（主権者）としての責任や役割を考えます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック【5訂版】』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>後期には、各自が自分のまちへの提案を行うため、前期においても事例研究時に他市町との比較などの意見交換のためグループワークを行います。 また、行政関係者などと意見交換会も機会があれば実施します。</p>

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	長年の地方公務員経験がある教員が自治体の現状や抱える課題の解決に向けた施策を解説し、自分たちのまちづくりや地域再生に向けた手段・方法を考えます。
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め随時受け付けます。方式は対面・メールに拘らない
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	時間は指定しないが、予習復習だけでなく常に社会情勢や自分の関係するまちへの関心を深めるよう努めてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	29106
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	奥田 沙織
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	奥田 沙織 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能</p> <p>必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。</p> <p>文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な態度</p> <p>自らを律して行動できる。</p> <p>約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。</p> <p>仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	29107
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,3
主担当教員 Main Instructor	金村 久美
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金村 久美 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	29108
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	人見 浩司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	人見 浩司 (経済学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）で実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）で実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」、「情報モラル」および「大学生のメンタルヘルス」といったテーマについて学びます。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」、「大学生を取り巻く危険（2）振り込め詐欺、マルチ商法など」および「大学生を取り巻く危険（3）ブラックバイトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんと組み立ててください。なお、9回分の各ゼミのうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。</p> <p>授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	大学生活についてグループで意見交換を行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	牛山 隆一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 A 多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	牛山 隆一 (経済学部)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界/アジアの様々な国の政治, 経済, 社会, 文化などについて幅広く学習し, 国際的な視野を養う。 ・自らの関心テーマについて情報を集め, 整理し, 聞き手にうまく伝わるように発表する。 ・他のゼミ生と積極的に交流し, 協調性を養う。 <p>< 成果 ></p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々に関する知識を深めるとともに, 世界で何がなぜ問題になっているのか, 理解できるようになる。 <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界に目を向けることで, 日本の何がどのように世界と異なるのか, 興味が刺激される。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人前で何をどのように話すのか, というプレゼン能力が会得できる。 ・資料やデータをどう集め, どのように資料にまとめるのか, というテクニックを磨ける。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の国々の政治や経済, 社会, 文化, 芸能, スポーツなどから各ゼミ生が個々の関心に応じてテーマを選び, 発表し, ゼミ全体で議論する (学生の関心等によって授業の進め方を変更する場合があります)。 <p>この科目の位置づけについては, 本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミへの参加態度が最大の評価ポイント。具体的には, 報告・発表・議論に取り組む姿勢を最重視する。 ・プレゼンについては, 発表内容よりも, どれだけ準備したか, の方により重きを置いて評価する。 ・発表日にもかかわらず無断で休んだ場合は, 即「失格」とする。 ・授業に出ているにもかかわらずやる気のない態度を見せる者は, 大幅に減点し, 目に余る場合は「失格」とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	授業概要に基づき, 第1回のゼミで受講生の意向も踏まえて作成する。
テキスト	授業で適宜紹介する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	入念な準備を行ったうえで授業に参加し、授業で得た様々なフィードバックを次回以降の授業に活かす。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29201
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	齋藤 敦
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	齋藤 敦 (経済学部)
授業の目標	<p>大学での学び方は、社会に出て仕事をしていく時に活かすことができるものでもあります。1年次には大学での学び方がどのようなものかを知っただろうと思います。この演習では、大学での学びの技法を知るだけでなく実際に行うことができるようになることを目指します。取組みの中で、社会で起きている出来事や、経済や財政等について基本的な事柄を説明できるようになることも目標の一つです。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済分野（経済や財政等）に関する基礎的な知識を持つことができる。 ・論理的な文章を知ることができる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会、日本社会が抱えている問題に関心を持つようになる。 ・社会人として必要になる基本的なマナーを知ることができる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話の要点や自分の考えをまとめ、文章にして説明することができるようになる。 ・信頼できる情報を集め、適切に活用できるようになる。 ・自分の関心を洗い出すことができる。
授業の概要	<p>この基礎演習 II では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜、大学での学び方をおさらいしながら専門演習に向けて知的技能の基盤づくりを行っていきます。 ・グループでの活動や個人での活動を通じて学びの技法を身につけていきます。 ・授業は受講生が主体となって進み、皆に討論や議論の仕方も身につけてもらう予定です。質問へは主に授業の中で対応します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・報告発表・提出物（レジュメ・レポート等）の内容、ゼミへのかかわり方・取組み方、毎回の取組み等で総合的に評価します。試験を行う場合もあります。コメント等、適宜、授業の中で行います。 ・ゼミは休まず出席し、毎時間取り組む、きちんと連絡に答える、各種の指導をまもることが基本です。 ・学生同士がお互いから学び合う場でもあるので、学びの場の雰囲気や壊すような自分勝手なことは許されません。 ・15分以上の遅刻、正当な理由のない早退は欠席とします。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席や遅刻が多い、無断で欠席する、報告発表の担当や提出物を怠る等、こうしたことは失格や不合格になります。

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容は進行状況、受講生の理解度等に応じて適宜設定していきます。 ・ 各人が関心や対象を洗い出します。それについて報告発表を行います。 ・ 経済や財政等に関する資料文献を皆で読んでいき、その中で、まとめ方・読み方、発表の仕方を学んでいく計画です。 ・ 第1～2回にはガイダンス、オリエンテーション、担当決めを行い、第12～15回には最終の発表・課題提出をしてもらう予定です。 ・ 課題等の準備をしっかりと行き、指示された活動や改善向上によく取り組んでください。指示された予習等の活動にもよく取り組んでください。
テキスト	適宜指示する。
参考書	<p>適宜紹介しますが、さしあたり次のものをあげておきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界思想社編集部編（2021）『大学生学びのハンドブック[5訂版]』世界思想社。 2. 戸田山和久（2022）『論文の教室[最新版]』NHK出版。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問に対する対応は、主として授業中に行います。
フィードバックの方法	コメント等、フィードバックは、授業の中で行いますが、オフィス・アワーでの面談やメールでの対応も行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定された文献の読み込み、授業時間における質疑応答等の復習、指定された課題の提出、発表の準備などに取り組む必要があります。 ・ グループワークについては、授業時間外にも作業や学習を進める必要があります。 ・ 理想的には、目安として授業時間の2倍程度の自学が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29202
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	定森 亮
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	定森 亮 (経済学部)
授業の目標	<p>今日、国際化の進展によって種々の恩恵がもたらされている一方、国家の機能不全や経済的格差の拡大、環境破壊、移民など数多くの難題が生じてもいる。そうした世界的な状況のなかで市民一人ひとりが守るべき価値がどこにあり、そのために積極的に責任を引き受けて行くためには何をすればよいのか、履修生一人一人が独自の観点から考える力を付けることが目標となる。その際に以下の点を重視する。</p> <p>1) 言葉の一つ一つを正確に使っていくことで、自分自身の考えを少しずつ明瞭にし、さらには発展させていく。</p> <p>2) 相手の言葉の一つ一つにも慎重に耳を傾け、そこから自分が理解できる部分とそうでない部分をより分けることで、相手をより良く理解するための質問の仕方を工夫する。</p> <p>3) 議論をする際には、自分の考えを相手に一方的におしつけるのではなく、むしろ、相手の考えの最良と思われる部分を引き出した上で、自分の考えを伝える技術を身に付ける。</p>
授業の概要	<p>1) 指定の書籍を扱って輪読を行なう。</p> <p>2) 各回で報告者と司会を割り当て、レジュメの作り方、司会進行の仕方を学ぶ。</p> <p>3) 報告した者は、その担当個所に関して1200字程度のレポートを作成する。</p> <p>4) 学期末には履修生全員が、指定されたテーマに関して1200字程度のレポートを作成する。</p>
評価方法	<p>報告・司会 20%</p> <p>議論への参加度 20%</p> <p>2回のレポート 60%。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>齋藤幸平『人新生の資本論』をテキストとして輪読を行なう。</p> <p>第1回の授業で、自己紹介をした後、報告者や司会者の担当を決める。授業の進め方や、レジュメの作り方の注意点なども説明する。</p> <p>第2回と第3回は400字程度の自分で書いた短い文章を、何度も書き直すことを通じて、文章作成技術、ならびに独自の発想の導き出し方を学ぶ。</p> <p>第4回以降から輪読を始める予定。</p>
テキスト	齋藤幸平『人新生の資本論』集英社新書、2020。
参考書	特になし。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	履修生には学期中に1回は、読書会での報告あるいは司会を担当してもらう。毎回の講義では、報告者以外にも積極的に意見や疑問点を提示することが望まれる。また、意見や質問を述べる際に、どのようにすれば他の参加者によりよく自分の考えを理解してもらえるかを常に工夫してもらうことも重要になる。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後、あるいはオフィスアワーにて対応する。
フィードバックの方法	輪読での報告後に提出してもらうレポートは、コメントを加えた上で返却する。そのコメントを参考にした上で、内容を洗練させ、発展させた上で再提出してもらう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習： 該当範囲を丁寧に読み、内容の分からない点、疑問点、自分の考えを簡単にまとめておく。 復習： 授業での議論を通じて明らかになった、他の参加者と自分の考えが共通する点、あるいは異なる点を整理した上で、レポート作成の準備をしておく。また、その他の関連文献を読むことで、問題の焦点を絞り、自分の考えをさらに洗練させていく。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29203
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 D 1 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 正之 (経済学部)
授業の目標	<p>日常の中での、身のまわりの疑問や問題と思うことを各自が取り上げる。疑問や問題について、情報収集・記録、思考を整理し、ゼミ内で発表・議論・共有する。同時に、地域を空間的にとらえる地理的・空間的思考や情報スキルを習得する。</p> <p>< 成果 ></p> <p>【知識・理解の領域】疑問・課題の背景や現状を体験・理解し説明できる。 【思考判断の領域】論理的で説得力のある思考ができる。 【関心意欲の領域】ゼミでの議論（意見交換）ができる。 【態度・志向性の領域】他人の考えの認識、考えの違いの理解、相互に助言ができる。 【技能の領域(情報スキル(学内WEB、PC操作、文書作成、表計算))】 図書館・学術誌・WEBなどで、公的情報やオープンデータなど信頼できる情報を効率的に収集することができる(情報リテラシーを含む)。</p>
授業の概要	<p>地域の調査(フィールドワーク・巡検)を実施し、地域の研究を行う。 各自のテーマの範囲や分野などは限定しないが、身近な地域からの発見を目指す。 自分の認識を深めるために、仮説を立て、自ら実体験をもって検証することを推奨する。 ゼミの進行や運営は、ゼミ生が主体で行う。報告者も参加者もお互いに疑問点等を出し合うことが前提となる。 自分の疑問や問題への認識がより深まり、他の人にも知ってもらえることが大切である。 講義時間外でのフィールドワークや地域活動等の体験をすることがある。</p>
評価方法	ゼミには主体的、自律的な参加が求められる。とくに学外での時間外活動への参加が不可欠である。毎回の取り組み、演習課題(ゼミレポート)を考慮して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	課題の未提出、遅刻・欠席回数が多い、共同作業の無断欠席については、周りに迷惑がかかるため失格とする。

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常での疑問や問題の掘り起こし (ニュース、新聞、スポーツ、通学、趣味、バイトなど) ・ 疑問の明確化(客観化) ・ 情報収集と整理(文章と図表) ・ 分析と表現方法(文章と図表) ・ 情報収集から表現方法まで(アナログとデジタル) ・ 情報収集から表現方法まで(文書作成、表計算、プレゼン) ・ ディスカッションと修正 ・ 研究レポート作成 <p>上記の内容を、テーマや進捗に合わせて複数回実施する。 必要に応じて、フィールドワークや地域活動等を実施する予定がある。</p>
テキスト	使用しない。必要に応じ配布する。
参考書	戸田山和久(2012)『論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版 梶田,他(2007)『地域調査ことはじめ あるく・みる・かく』ナカニシヤ出版 吉川,他(2011)『考える 伝える 分かちあう 情報活用力』noa出版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	フィールドワークは、実際に地域に出て、調査や研究につなげる実習である。地域調査の考え方や手法を、体験しながら習得する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ中、classroom、メール等で受け付ける。
フィードバックの方法	classroomに情報を集約し、共有する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題やテーマに合わせた、情報収集や整理、集約の時間が、ゼミ時間と同様に必要である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 15.陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29204
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,4
主担当教員 Main Instructor	下村 尚司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	下村 尚司 (経済学部)
授業の目標	<p>1年ゼミに続き、大学ゼミとして基礎的な訓練を行います。コロナ感染症の状況によりますが、何れにせよ、Google Classroomも使いたいと思っています。</p> <p>この科目は演習科目群に属している必修科目です。</p> <p>Webによる調査を通して、「状況の論理」について 考えを及ぼせることが 出来ることを目標にしていました。この授業では「自動車と環境の問題」を考え、どのような「状況」と「論理」で世の中が動いているかを調べます。</p> <p>この授業を通して、関係の中で考えることができます。担当者の話を聞くだけでなく、各自Webで調べたりしながら、状況の論理をまとめてゆきます。</p> <p>その中で、次のことができるようになることを目指します。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で学んだ社会的な事例について自分が理解したことが説明できる。 <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 状況を調べ整理して考えることができる。 <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら確かめる、検証してみようとする態度を備える。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論理的に考え、他者にわかるように伝える。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウェブ公開の企業情報や政府関連機関の情報にアクセスし、卒業論文に活用するテクニックが身につく。 ・ 文章中に図や表を積極的に扱うことができる。 <p>体験探究の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実社会で起きていることを、系統立てて考える体験ができる。

授業の概要	<p>この基礎演習 Aでは、状況の論理という事柄を理解するためにWebによる探索を通して、「自動車と環境の問題」について調べます。そして調べたことをまとめてゆきます。これは各自で行うのです。</p> <p>そして調べたことを毎回スピーチしてもらいます。</p> <p>地球環境問題と自動車の関係について、例えば「今後電動車が主流になるのはわかったが、そうしてゆくためには、様々な課題がある。そのような課題についてどのようなアプローチがあるのだろうか？」などの疑問を見つけ、自分で答えを探して下さい。</p> <p>その過程で、読む、書く、他者に分かるように話すという知的技能の定着を図りつつ、3年次以後の演習や卒論に対する準備を行います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンパリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>まず第一に、担当者の信用をなくしたりするような態度、出欠状況は許容しません。本当は1回でも無断欠席すれば、手書きのレポートを1枚以上書いて貰いたい。それをしなければ、失格にしたいと思っています。</p> <p>授業時のことがらについて総合的に評価します。特に、出欠・遅刻等が多ければ許容出来ません。もちろん、授業を受ける態度が悪い場合は、不合格もあり得ます。</p> <p>このように、毎回の出席と授業でのWeb調査、およびその報告を積み重ねることが100%です。議論になかなか参加できない学生さんでも、報告を積み重ねて、100%となることが出来ます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加姿勢 50% ・レポート 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>次の場合には原則失格とします。</p> <p>欠席が6回になった場合 課題を発表しないのが6回になった場合</p> <p>どちらか片方だけで失格にします。</p>
授業計画	<p>基本的には、毎回口頭でのレポートを課します。</p> <p>演習では終始、Webでの調査を基本にします。</p> <p>それをまとめる練習を行い、発表をしてみます。</p> <p>「状況の論理」については、折に触れて担当者の方で提示します。</p> <p>出来れば、後半ではレポートの作成と報告に向けて準備を進めます。</p> <p>そこでは、何を調べたか、どのような状況を発見したかについて、整理して、議論し、書いて行きます。</p> <p>最後に、他者にわかるように説明する、といった一連の作業を行います。</p>
テキスト	適時提示します。
参考書	適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	3密が出来ない様に配慮した上で、できるだけ、授業で発言などをしてもらいます。またGoogle Classroomの課題提出などを通して、文章作成を行います。Web調査も必須になります。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中であれば、何時でも質問してください。 授業時間外であれば、メールで随時対応します。メールアドレス：tkshimo@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	Google Classroomの課題提出について、提出期限終了後通常2～3週間のうちに返却する予定です。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回口頭での発表が必要となります。Google Classroomの課題提出はそのための準備でもあります。このような課題提出に必要な時間や、そのための準備に要する時間を含め、予習と復習に4時間以上必要になります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9.産業と技術革新の基盤をつくろう

SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29205
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	羽田 徹也
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	羽田 徹也 (経済学部)
授業の目標	金融経済に関する基本的な考え方を理解し、金融経済に関する知識を我々の生活に活用することを考える習慣を身に着けること。 <学習成果> 【知識・理解の領域】 金融経済に関する用語や課題を適切に把握している 【思考判断の領域】 論理的思考方法に則って分析を進めている 【関心意欲の領域】 高い関心意欲を持ち、十分な根拠をもとに執筆できる 【態度・志向性の領域】 計画性を持って積極的に取り組むことができる
授業の概要	金融経済に関するフレームワーク（決まり事）を用いて、社会のメカニズム（原因と結果＝因果関係）を検証・分析します。 具体的には、下記を予定 株式学習ゲーム（日本証券業協会の提供）による株式模擬売買 Excelを用いた金融経済データの分析方法の勉強会 名古屋証券取引所の見学 日本銀行本店によるオンライン授業 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンパリングを参照すること
評価方法	授業への参加姿勢により評価を行います
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別欠席を始めとする仕方がない事情以外の欠席や遅刻が多いと不合格になる可能性があります
授業計画	株式学習ゲーム（日本証券業協会の提供）による株式模擬売買 Excelを用いた金融経済データの分析方法の勉強会 名古屋証券取引所の見学 日本銀行本店によるオンライン授業
テキスト	
参考書	演習時間内で参考書を適時紹介します
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・株式学習ゲーム（日本証券業協会の提供）による株式模擬売買 ・名古屋証券取引所の見学
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	日米金融機関において、為替ディーラー、債券トレーダー、金融市場のストラテジストを経験した教員が、ビジネス現場経験および大学院での研究活動を踏まえて指導します
質問への対応方法	個別に演習時間内およびメールにより随時対応します

フィードバックの方法	必要に応じて個別に随時行います
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の目標を達成するために、各自又はグループ毎に計画を立て、計画の進捗状況を随時確認し、目標に近い結果を残すように意識すること
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29206
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)
授業の目標	<p>論文・レポート作成の基本となる読解力や文章構成力を身につけることにくわえ、本ゼミではプレゼンテーションに強くなることを主な目標とします。</p> <p>各自がまとめた情報や知識などを他者と共有する術を身につけることが本演習の目的です。くわえて、受講生には卒業論文のテーマにつながるよう、さまざまな地域課題に関して興味を持って欲しいと考えています。</p> <p>関心意欲の領域 / 態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に関する情報を積極的に入手する態度と技術を学ぶ。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい情報に基づき、新たな知識を他者に対して説明できる。 ・論文やレポート作成に向けて参考文献が正しく引ける。
授業の概要	<p>本演習では、プレゼンテーションを繰り返し行う予定です。</p> <p>そこでは、個人で関心のあるテーマを発表することが基本となりますが、グループ課題に取り組むことも予定しています。</p> <p>また、受講生には「地域に学ぶ」姿勢も身につけてもらいたいと考えているので、学外活動もいくつか企画したいと思っています。たとえば、名古屋大都市圏などについての学外授業をおこなう予定です。</p> <p>ゼミでの学外活動はゼミ時間を振り替えて主に週末に実施します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	報告・発表などに積極的に取り組む姿勢を評価します。各自もしくはグループでの発表 (70%) + 議論への貢献など (30%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	ゼミナールですので、すべての授業への出席は前提になります。事前連絡のない欠席には厳しく対応します。自身の発表に欠席の場合は「失格」とします。
授業計画	<p>授業計画は第1回ゼミにおいて受講生と相談の上で決定したいと思います。そして、講義スケジュールは授業中に改めて提示します。</p> <p>現在の予定では、ビブリオバトル、文献報告、企業研究発表などのプレゼンテーションをおこなう予定です。</p>
テキスト	特になし。必要な場合は授業中に指示します。
参考書	必要な資料などはゼミ内などで適宜配布します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業計画や概要に示したとおり

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	市付置の研究機関での業務経験を有する教員が、まちづくり等の実践的经验をもとにおこなう授業である。
質問への対応方法	ゼミ時間中、オフィスアワー、slackなどの連絡ツールなどで常時受け付ける。
フィードバックの方法	個人面談など通じておこなう予定。また、フィードバックが必要な場合は受け身でなく積極的にアプローチしてもらいたい。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	ゼミ活動に関連する事象など、日頃から新聞などの媒体を通じて情報収集することを勧める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29207
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	奥田 沙織
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	奥田 沙織 (経済学部)
授業の目標	この演習は、21世紀の地球を知ることの主眼に、地球のどこかの出来事が自分に影響していることへの認識をもつことを目標とする。具体的には、地球をとりまく最新の問題を最新の英語・日本語の資料を使って、国内外の問題への視点を養い、問題点について日本語あるいは英語を使って議論し、意見発表を行う。発表は、日本人学生は基本的に英語で行う。留学生は日本語で行う。具体的には、出版されているJapan Times, Newsweek, Asahi Weekly, 天声人語などの英文記事から、国内外の最新の時事問題や国際的な問題を取りあげ、読む英語力をつけながら国内外の問題への視点を養い、問題点について日本語で発表できるようにする。また、簡単な英語を使って説明できることを目指す。クラスでは、積極的な発言をし、他の学生との意見交換をすることが求められる。
授業の概要	上述の目標に向けて、具体的には、とりあげたテーマの中で関心をもった内容について、4名くらいのグループで討論し、PPTを使って、英語でも発表できるよう、授業を進める。この演習では、積極的に英語で意見を発表する意欲をもった学生の参加を期待する。学生からも関心のあるテーマを提案してもらって、提案者を中心とした議論も行いたい。例えば、現代の2022年2月24日に始まるロシアによるウクライナ侵攻をめぐる様々な問題や日本への影響と課題、2021年夏からのアフガニスタンタリバン政権下での問題点、難民問題、環境破壊による自然災害の発生・各地にみる内戦など、最近の国際的に問題となっている話題を取りあげ、日本がどのようにその問題にかかわっているかについても意見交換をする。履修者には、日常的にスマホでニュースを追いかけておくことが求められる。また、パソコンの持参は必須事項であり、毎回、取り上げたテーマについて、できるだけノートに英語で記述する訓練も行う。最後の発表では、PPTを使って行う。その際には、日本人はできるだけ英語でプレゼンを行ってもらう。留学生は日本語で行う。この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	・ 授業への貢献度・参加意欲と姿勢 70% ・ 発表準備と内容 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1) 授業ガイダンス 14回のスケジュールを説明し、日本で出版されているAsahi Weekly, 天声人語などの英文記事から抜粋した英文購読資料を配布する。 2) 配布している英文資料の購読を進める(30分)。その後、テーマについての関心度をはかり、その発表をするグループを決定する。 3) ~ 11) まで、第2回と同じように、演習を進める。計、10テーマの購読を終える。 12) ~ 14) まで、3回に分けて、グループごとに、発表の準備を進める。 15) 各グループ発表を行う。その後、意見交換をする。
テキスト	なし。
参考書	なし。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	各演習の内容について、毎回、簡単な英語によるまとめをレポートで提出してもらい、翌週までに文章校正を行って返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	演習の前までに、英文購読資料を読解し、また、演習後には、テーマに関する簡単な英語による感想を提出する。(40時間) 発表準備(20時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29208
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	金村 久美
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金村 久美 (経済学部)
授業の目標	ディベートの訓練を通じて、次の力を身に付けます。 ・論理的に考えること ・根拠を踏まえた主張をすること ・相手の意見を傾聴すること ・客観的に判断すること
授業の概要	本ゼミではディベートを行います。ディベートの訓練を通して、論理的に考え、根拠を持って主張し、相手の意見を傾聴し、客観的に判断する訓練を行います。留学生の参加を歓迎します。
評価方法	この科目では次の点から成績を評価します。 1 出席 (出席数に満たない場合は失格とします。) 2 提出課題 (提出回数と、課題の質によって評価します。) 3 参加態度 (自らの能力を伸ばすために努力をしたか、クラスメイトを助ける行動をしたか、によって参加態度を評価します)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・ 6 回以上の欠席は失格です。 ・ 所定の課題を一定数提出しない場合は失格です。
授業計画	次の活動を行います。やさしいものから難しいものへと移行します。 ・ ディベートのトレーニング 1) ディベートゲーム ・ ディベートのトレーニング 2) ディベートメモ練習 ・ ディベートのトレーニング 3) ブレインストーミング ・ ディベートのトレーニング 4) ロジックツリー ・ ディベートのトレーニング 5) プレゼンテーション ・ ディベートのトレーニング 6) リサーチ技法 ・ ディベートのトレーニング 7) ミニディベート ・ ディベート実践
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この授業で、アクティブラーニング、ディスカッションを含みます。 ・ 学生は、ディベートのトレーニング及び実践の準備のため、ペア、グループでのディスカッションに積極的に参加しなければなりません。 ・ 授業内でディベートの実戦を行い、これを通じて、論理的に考えること、口頭で発表すること、相手の意見に耳を傾けることを学びます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内での質問には随時対応します。 そのほか、チャットツール(Discordを予定)での質問を随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業内でのフィードバックの他、チャットツール(Discordを予定)で、課題等へのフィードバックを行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	ディベート等の課題の準備のための一定量の予習、及び、コメント提出のための復習が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	29209
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,4
主担当教員 Main Instructor	人見 浩司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	人見 浩司 (経済学部)
授業の目標	現在の日本の教育の課題について少人数で議論し、新たな教育を模索し、提案する。 知識・理解の領域 ・日本の教育と海外の教育について学び、課題を提案する。 技能の領域 ・グループワークを通して、日本の学校教育についてディスカッションができる。 態度・志向の領域 ・他者の考えを受容するとともに自分の考えや意見を述べるができる。
授業の概要	日本の教育と海外の教育について講義で学ぶとともに実際の授業を見学し、日本の教育の課題についてグループでディスカッションを行い、新たな教育を提案する。
評価方法	個人研究 (課題レポート) 30 % グループ研究 (グループワークへの参加態度、ディスカッションの内容) 40 % プレゼンテーション (資料の内容、発表の質) 30 %
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特に基準は設けませんが、グループワークへの参加状況が悪い場合は注意し、改善されない場合は失格とする場合もある。
授業計画	1 年間計画の説明等 2 日本の教育 3 海外の教育 4 高等学校の授業見学 5 中学校の授業見学 6 小学校の授業見学 7 , 8 グループワーク 9 , 10 資料作成 11 , 12 発表準備 13 ~ 15 発表、まとめ
テキスト	特になし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループでディスカッションを行い、発表資料を作成し、プレゼンテーションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	翌週返却

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～3 講義のまとめ 次回まで3時間ずつ 4～6 授業見学の感想 次回まで3時間ずつ 7～8 議論のまとめ 次回まで3時間ずつ 9～10 資料作成 次回まで3時間ずつ 11～12 発表準備 次回まで3時間ずつ 13～15 まとめ 次回まで3時間ずつ
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	29300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	牛山 隆一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 A 多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	牛山 隆一 (経済学部)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビや新聞で伝えられる世界の政治・経済に関するニュースが理解できるようにする。 ・世界の政治・経済を知ること、日本がどのような国が理解できるようにする。 ・世界の政治・経済について、自ら情報を集め、聞き手にうまく伝えるように発表できるようにする。 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 知識・理解の領域 ・世界の政治・経済で何が起きているのか理解を深めることができる。 ・世界にはどのような国があり、どのような特徴があるのか、理解できるようになる。 <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界と日本が政治・経済の双方でどのように結びついているのに関心が持てる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要とする情報やデータを収集し、整理して発表する能力が向上する。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の政治・経済に関連するテーマを各ゼミ生が選び、ゼミで発表、議論する。 ・教員からは、世界の政治・経済を理解するのに必要な基礎的な知識、考え方を伝える。 <p>(ゼミ生の関心等によって授業の進め方を変更する場合がある)。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミへの参加態度を最大の評価ポイントとする。 ・具体的には、報告・発表・議論に取り組む姿勢を最重視する。 ・発表については、どれだけ丁寧に準備したか、が大事な評価ポイントとなる。 ・プレゼン担当者が無断で休んだ場合は、即「失格」になる。 ・授業に出ているだけで、やる気のない態度を見せる者は、大幅に減点し、目に余る場合は「失格」とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	授業概要に基づき、第1回のゼミで受講生の意向も踏まえて作成する。
テキスト	授業で適宜紹介する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	入念な準備を行ったうえで授業に参加し、授業で得た様々なフィードバックを次回以降の授業に活かす。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	29302
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	木村 牧郎
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	木村 牧郎 (経済学部)
授業の目標	<p>私たちが生きている社会で今何が起きているのか。新聞やニュースを理解する力を養うとともに、それらを自分達の問題と捉え、他者と考え話し合います。</p> <p>この演習では人々が抱える「生きづらさ」について追求します。社会政策や労働に関わるさまざまな課題について学習し、ゼミ生自身が将来的に職場や家庭で直面するであろう問題について実践的に考え、卒業後の職業人生をイメージできるようにすることを目指します。またこれらの学びを通して、レポートやレジュメ作り、プレゼンテーションのスキルの向上を目指します。</p> <p>< 学習成果 ></p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会政策や労働に関する知識を増やし理解を高めることができる。 ・職業人生を営むうえで必要なライフレテラシーを獲得し、社会人生活のなかで実践できる。 <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した多くの情報のなかで信頼できる情報を選び出す情報リテラシーの力が身につく。 ・論拠のある主張ができるようになる。 <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動の準備段階で労働に関する知識を深く討論することで、「働く」ことに関して真剣に考え、学んだことを就職活動や卒業後の職業人生につなげることができる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に即して論拠のある見解を述べられる人となることを目指す。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した多くの情報のなかで信頼できる情報を選び出す情報リテラシーの力が身につく。 ・将来、報告書の作成などで必要となる文章力を高めることができる。 ・分かりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 <p>体験探究の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークやさまざまな体験実習などの学習を通じて、将来的な職業人生や地域生活をイメージすることができる。

授業の概要	<p>この専門演習IAでは、人びとの「生きづらさ」に焦点を当て、社会政策や社会保障の観点から解決策を学びます。</p> <p>生きづらさと聞くと、介護が必要な高齢者やさまざまな障害者、貧困家庭で生きる困窮者など特定の人々を思い浮かべるかもしれませんが、もちろんこれらの人々にはその人たちの生きづらさがあるでしょうが、じつは私たちの身近な生活のなかにも潜んでいます。皆さんは一見するとこれまで不自由なく生きてきたと思うかもしれませんが、自分でも気づかないような生きづらさを発見するかもしれません。また、大学を卒業して働き、家族を形成するなかでさまざまな生きづらさに直面することもあります。そんな場合に社会政策や社会保障がどのように人びとの生きづらさの解消につながっているのか、どんな課題を抱えているのか、皆さんとともに考えたいと思います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	報告（40％）、発言（20％）、レポート（40％）の3点を考慮して評価します。報告担当の回に欠席した場合は、単位を修得できません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	毎週の授業に出席すること。とくに報告を担当する授業での欠席は認めません。欠席回数が5回を超えた場合は失格とします。15分以上の遅刻は欠席扱いとします。
授業計画	<p>以下の種類のワークを織り交ぜながら授業を行います。</p> <p>輪読...テキストを熟読し、各回の担当者はレジュメをまとめ授業で報告する。輪読を通じて労働や社会保障分野における近年の論点整理をし、理解を深める。また、読解力や批判的精神、データ・資料の収集方法を身につけ、卒論作成に必要な問題を提起する力を磨く。</p> <p>グループ・ワーク...「働くこと」と「生活すること」をテーマとしたグループワークをする。他者との議論を通じて、コミュニケーション能力や協調性、論理的思考を磨く。</p> <p>アカデミック・ライティング・ワーク...レポートやレジュメの書き方、分かりやすい文章づくり、プレゼン技法を磨くワークをする。ゼミ生同士で互いの成果を評価し合いながら、卒論作成・報告に向けて必要な能力を磨く。</p>
テキスト	特になし。
参考書	授業中に適宜指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークを通じた学習が多くなります。ゼミ生同士の話し合いを通じてアイデアを出し合ったり、試行錯誤しつつもグループ内で役割分担・共同作業の体制を築いたりしながら、ゼミ生自身で共通の目標に到達するような機会を設けます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	疑問やわからないことがあれば、次回に残さずに授業後の時間やオフィスアワー、担当教員へのメール（kimura.makio@nagoya-ku.ac.jp）にて質問できます。
フィードバックの方法	毎回Google・クラスルームを通じて授業の振り返りを提出してもらい、翌週にはそれに対してコメントをつけて返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで集まり、授業回ごとのグループ課題に取り組むこと ・個人レポート課題の提出に向けて、準備すること ・グループ発表に向けて、準備すること
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	29303
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	齋藤 敦
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	齋藤 敦 (経済学部)
授業の目標	<p>○この演習のテーマは「公共の経済(財政)」です。</p> <p>私たちの生活そして社会のあり方は、国や地方自治体の活動と密接にかかわり合っています。この演習では、現代社会、日本社会が抱えている問題について認識を深めていきます。関心に応じて財政や公共政策に関する知識や考え方を学びます。その中で、次のことができるようになることを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を適切にみつけ、整理して、自分の考えを導き出す。 ・自ら確かめる、検証してみようとする態度を備える。 ・論理的に考え、他者にわかるように伝える。 <p>これらは社会に出て仕事をしていく時にも求められる力です。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政や公共政策に関する基礎的な知識を持つことができる。 ・論理的な文章の書き方を知ることができる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会、日本社会が抱えている問題について自ら確かめようとする態度を備える。 ・社会人として必要になる基本的なマナーを身につけようとする。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の関心を洗い出しテーマを定めることができる。 ・信頼できる情報を集め、適切に活用できるようになる。 ・調べたことを文章にまとめ説明することができるようになる。 ・まとめたことを自分の言葉で伝えることができるようになる。
授業の概要	<p>この専門演習 I では、主として日本を取り上げ具体的に考える中で、自分たちが生きている社会や経済、財政や公共政策とのかかわりについて関心を高め理解を深めていきます。その過程で、読む、書く、話すという知的技能の定着を図っていきます。</p> <p>そして、卒業論文の作成に向けて段階的な取組みを進めていきます。2年必要で1年目です。</p> <p>受講生には、主体的に取り組み、ゼミ生同士お互いから学び合うことが求められます。積極的に参加しお互いを高め合ってほしいと思います。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・報告発表・提出物(レジュメ・レポート等)の内容、ゼミへのかかわり方・取組み方、毎回の取組み等で総合的に評価します。試験を行う場合もあります。 ・ゼミは休まず出席し、毎時間取り組む、きちんと連絡に答える、各種の指導をまもることが基本です。 ・学生同士がお互いから学び合う場でもあるので、学びの場の雰囲気を壊すような自分勝手なことは許されません。 ・15分以上の遅刻、正当な理由のない早退は欠席とします。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席や遅刻が多い、無断で欠席する、報告発表の担当や提出物を怠る等、こうしたことは失格や不合格になります。

授業計画	<p>文献資料の読み方・まとめ方、発表の仕方、議論の仕方を確認します。文献の輪読を行っていく中で、以上の確認を行うとともに、論理的な文章の書き方を学んでいきます。</p> <p>そして、受講生各人が自らの関心がどこにあるのかをみつけだし、論じる対象をはっきりさせていきます。</p> <p>以上を内容とする授業計画は、進行状況、受講生の理解度等に応じて適宜設定していきます。ただし、第1～2回にはガイダンス、オリエンテーション、担当決めを行い、第12～15回には最終の発表・課題提出をしてもらう予定です。</p>
テキスト	井手英策(2018)『幸福の増税論－財政はだれのために』岩波新書
参考書	適宜紹介しますが、さしあたり次のものをあげておきます。1. 世界思想社編集部編(2021)『大学生学びのハンドブック[5訂版]』世界思想社。2. 戸田山和久(2022)『論文の教室[最新版]』NHK出版。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問に対しては、主として授業中に対応します。
フィードバックの方法	フィードバックは、適宜、授業中で行うほか、オフィスアワーでの面談やメールでの対応も行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> ・課題等の準備をしっかりと行い、指示された予習等の活動にもよく取り組んでください。 ・グループワークについては、授業時間外にも作業や学習を進める必要があります。 ・理想的には、目安として授業時間の2倍程度の自学が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	29304
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	酒井 愛
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛 (経済学部)
授業の目標	<p>本演習では公共部門の役割を効率性・公平性のトレードオフの観点から検討し、公共財・公共選択といった公共支出の理論を学ぶことを通じて、日本における今後の政策の在り方を一人ひとりの学生が自ら考えられるようになることを目指します。</p> <p>< 学習成果 > 知識・理解の領域 本演習で学んだ理論について、他者に説明し、継続して理解を深めることができる。</p> <p>思考判断の領域 日本の公共政策、広くマクロ政策に関する課題を見出し、アプローチ方法を検討することができる。</p> <p>関心意欲の領域 公共政策をより身近なものとして捉えるべく、現在実施されている政策について制度・課題等を自ら検討しようと試みることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 自身の見解を論理的・整合的に述べることができる。</p> <p>技能の領域 読み手・聴き手への配慮を念頭に、簡潔かつ明瞭なレジюмеを作成したうえで、板書による説明を含めた効果的なプレゼン方法を実践できる。</p>
授業の概要	<p>本演習では公共部門とは何かという問いから始め、公共部門の役割を考えます。その後、公共財・公共選択・外部性といった問題を含め、公共支出の理論を学びます。その後、公共政策、費用・便益分析の基礎を学び、医療、国防・技術、社会保険、福祉・所得再分配、教育などの問題に応用します。専門演習IAおよび専門演習IBを通じて、来たる卒業年次の「卒業論文」執筆に向けて、自分自身の興味・関心を掘り下げ、長期的に取り組みたいと考えられるテーマを模索します。前期（専門演習IA）・後期（専門演習IB）ともに、毎週の輪読報告当番をベースに進めていきます。担当者からの報告後、質疑応答のほか、報告内で提示されていた政策の実施可能性の是非や現実的な実施にあたっての改善点などを含めたディスカッションを行う中で、参加者全員の理解を深めていきます。報告にあたってのレジюме作成や板書・プレゼンテーションは、報告者だけでなく、読み手・聴き手にとっても、社会になる前の準備として、有意義な時間となるはずで</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	<p>参加姿勢：70%（下記項目を目安にして下さい。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告担当者として...十分な事前準備をして報告に臨むほか、質問への適切な対応ができるように心がけて下さい。 ・良き聴き手として...建設的な提案や理解を深めるための質問ができると良いでしょう。 ・グループディスカッションに積極的に参加し、お互いを認め・高め合うことが大切です。 <p>レポート：30%（下記項目を目安にして下さい。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪読報告担当時のレジユメのほか、聴き手としての報告評価シートへの記載内容も評価します。 ・中間レポートや期末レポートの形式で実施することもありますので、演習内でのアナウンスに従って下さい。 今後の卒業論文執筆を念頭に、レポートの書き方等についても、演習内で適宜指導します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>ディスカッションへの積極的な参加の重要性をふまえ、出席回数が12回に満たない場合には失格となり、単位を修得することができません。</p> <p>「報告・連絡・相談」を基本とし、連続して2回無断欠席した場合には失格となり、単位を修得することができません。何事もできる限り、事前に相談するよう心掛けてください。</p>
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	『スティグリッツ 公共経済学(第3版)上』ジョセフ・E・スティグリッツ著/ジェイ・K・ローゼンガード著/藪下 史郎訳、東洋経済新報社、2022年12月2日 発売（ISBN：9784492315446）
参考書	適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	輪読箇所に関する政策実施の是非や政策提言について、グループディスカッションやディベートを交えることで理解を深めます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。そのほか、メール(ai.sakai@nagoya-ku.ac.jp)や本演習用のGoogle classroomでも対応しますので、適宜活用して下さい。 Google classroomは資料配信などに利用します。担当者より招待しますので入室して下さい。
フィードバックの方法	提出された課題については添削を行い、返却時にコメントします。輪読報告にあたってのレジユメ・プレゼンテーションに関する事柄については、報告担当者だけでなく受講学生全員のブラッシュアップに寄与するよう、各回において改善のポイントなどをアドバイスします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	専門共通基礎 科目の「市場の経済学」・「国民経済と政府」および、選択科目の「ミクロ経済学」・「マクロ経済学」などで学習する内容を適宜復習しておくが良いでしょう。財政学・公共経済学といった応用経済学の分野においては、基礎理論のベースの上に議論がなされますので、輪読・報告にあたっては、必要に応じて、上記分野のテキスト等を振り返りながら知識の定着を図ることが重要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>12.つくる責任つかう責任</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>7.課題発見力</p> <p>8.計画立案力</p> <p>9.実践力</p>

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	混合経済と公共部門	混合経済、市場の失敗、政府の失敗	
2	マズグレイブの3つの機能	規範経済学・実証経済学、マズグレイブの3つの機能	
3	移転支出	移転支出、国有化、	
4	租税基礎	所得税、法人所得税、物品税、関税付加価値税、財政赤字	
5	厚生経済学	競争市場、見えざる手、厚生経済学、パレート効率性	
6	市場の効率性	効用可能性曲線、交換の効率性、生産の効率性	
7	市場の失敗	所有権、公共財、外部性、不完備市場	
8	所得再分配	所得再分配、メリット財、規範分析・実証分析	
9	効率と公平	トレードオフ、社会的総便益、非効率性	
10	不平等の尺度	ローレンツ曲線、ダルトン=アトキンソン尺度	
11	公共財	公共財、フリーライダー、排除可能性、純粋公共財	
12	公的に供給される私的財	所得分配の限界・資源分配を歪める課税と公共財の効率的供給	
13	公共選択(1)	顕示選好、投票のパラドックス、アローの不可能性定理	
14	公共選択(2)	リンダール均衡、特殊利益集団、非効率的均衡	
15	公的生産	自然独占、政府の不介入、官僚的手続きと危険回避	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	29305
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	定森 亮
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	定森 亮 (経済学部)
授業の目標	<p>この授業では、履修生が、社会の何に関心をもっているのかを少しずつ明らかにし、その社会に対して、どのように働きかければ、より望ましい環境、組織、人間関係が築けるのかを自分自身で考えらるようになることを目標にする。卒業論文の執筆はその一つの手段になり、前期には、その準備のために次のような点を重視して授業を進めていく。</p> <p>1 . 卒業論文を執筆する準備として、論理的な文章作成の練習をする。その際に、言葉の一つ一つを正確に使っていくことで、自分自身の考えを少しずつ明瞭にし、さらには発展させていく方法を学ぶ。また、各学生が、卒論の主題を扱うに際して、問題提起、議論展開、結論という道筋に従って議論が展開できるように、卒論の設計図を何度も書き直しながら練り上げてもらう。</p> <p>3 . 卒論計画を授業中に報告してもらい、他の学生と議論することを通じて、卒論を通じて何を明らかにしたいのかを精査してもらい、議論をする際には、自分が何を主張するかだけでなく、他人の主張の内容をよりよく理解し、その理解を深めていくための質問の仕方を学ぶ。</p>
授業の概要	<p>1) 指定の書籍を扱って輪読を行なう。</p> <p>2) 各回で報告者と司会を割り当て、レジュメの作り方、司会進行、議論の仕方を学ぶ。</p> <p>3) また、前期には卒論で扱いたい対象を少しずつ明確にし、正確にしていく機会を設ける。</p>
評価方法	<p>報告・司会 4 0 %</p> <p>議論への参加度 2 0 %</p> <p>学期末レポート 4 0 %</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>1 週 ガイダンス</p> <p>2 ~ 4 週 論理的な文章作成の練習</p> <p>5 ~ 1 5 週 輪読、ならびに卒論のテーマに関する報告とその内容に関する議論</p>
テキスト	
参考書	参考資料などは必要に応じて授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	卒論に関しては、各学生の主題に応じて、先行研究を調査し、整理すると同時に、それら先行研究との関係で自らの主張の独自性を追求する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールや研究室での面談などを通じて対応する。
フィードバックの方法	報告やレポートの内容に関しては、授業内、あるいは研究室などでの面談を通じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	レポートや卒業論文の執筆、卒論に関する先行研究の確認などを、授業時間外で行ってもらう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	29306
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 D 1 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 正之 (経済学部)
授業の目標	ゼミ生が主体でゼミ運営を行う。各自の研究テーマを継続あるいは決定し、その進捗を把握し議論をする。 <成果> 【知識・理解の領域】地域の問題・政策課題の背景や現状を理解し説明できる。 【思考判断の領域】問題・課題に対して論理的で説得力のある思考ができる。 【関心意欲の領域】ゼミでの議論（意見交換）ができる。 【態度・志向性の領域】他人の考えの認識、考えの違いの理解、相互に助言ができる。 【技能の領域(情報スキル)】信頼できる情報を効率的に収集し、情報発信（デザイン）することができる。
授業の概要	地域の調査（フィールドワーク・巡検）を実施し、地域の研究を行う。 対象とする地域は、長野県の飯田・下伊那地域を予定。 各自が研究するテーマの範囲や分野を発表しながら整理していく。 ゼミの進行や運営は、ゼミ生が主体で行う。研究内容の発表と意見交換、内容の修正を実施ながらゼミの成果として、研究レポートのまとめ、冊子化を行う。上記の内容を、テーマや進捗に合わせて複数回実施する。 「自分の意見」を「論理的に」伝える、自分が主語の説得力のある思考や技術を養う。
評価方法	課題や研究テーマへの主体的な取り組み、共同作業と議論、成果の発表を踏まえて評価する。特に参加姿勢を重視する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	遅刻・欠席回数が多い、課題への取り組み不足、共同作業の無断欠席については、周りに迷惑がかかるため失格とする。
授業計画	各自が研究テーマを設定し、研究計画を作り、それに基づいて実施する。 各自の研究テーマの進捗を把握、議論、研究へ反映させる。 なお、講義期間外でのゼミ実施も考慮すること。
テキスト	使用しない
参考書	梶田, 他 (2007) 『地域調査ことはじめ あるく・みる・かく』ナカニシヤ出版 吉川, 他 (2011) 『考える 伝える 分かちあう 情報活用力』noa出版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	フィールドワークは、実際に地域に出て、調査や研究につなげる実習である。地域調査の考え方や手法を、体験しながら習得する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	ゼミ中、classroom、メール等で受け付ける。
フィードバックの方法	classroomに情報を集約し、共有する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題やテーマに合わせた、情報収集や整理、集約の時間が、ゼミ時間と同様に必要です。各自の研究テーマを議論するための、準備が必要です。フィールドワークなどの、通常の講義期間外でのゼミを実施するため、夏期、冬期などの通常後期期間外の活動が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	29307
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	羽田 徹也
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	羽田 徹也 (経済学部)
授業の目標	金融経済に関する基本的な考え方を理解し、金融経済に関する知識を我々の生活に活用することを考える習慣を身に着けること。 <学習成果> 【知識・理解の領域】 金融経済に関する用語や課題を適切に把握している 【思考判断の領域】 論理的思考方法に則って分析を進めている 【関心意欲の領域】 高い関心意欲を持ち、十分な根拠をもとに執筆できる 【態度・志向性の領域】 計画性を持って積極的に取り組むことができる
授業の概要	生活を豊かにする道具の一つである金融知識の修得と活用方法を学ぶこと 具体的には、下記を予定 金融論（講義）の復習 現代の金融入門の輪読・報告 株式学習ゲーム（日本証券業協会の提供）による株式模擬売買 名古屋証券取引所の株価コンテストへのエントリー この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること
評価方法	授業への参加姿勢により評価を行います
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別欠席を始めとする仕方がない事情以外の欠席や遅刻が多いと不合格になる可能性があります
授業計画	金融論（講義）の復習 現代の金融入門の輪読・報告 株式学習ゲーム（日本証券業協会の提供）による株式模擬売買 名古屋証券取引所の株価コンテストへのエントリー
テキスト	・金融(Money, Finance, and Financial System) 内田浩史 有斐閣 2016 ・現代の金融入門 池尾和人 ちくま書房 2010
参考書	必要に応じて、随時、参考書を紹介します
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・株式学習ゲーム（日本証券業協会の提供）による株式模擬売買 ・名古屋証券取引所の株価コンテストへのエントリー
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	日米金融機関において、為替ディーラー、債券トレーダー、金融市場のストラテジストを経験した教員が、ビジネス現場経験および大学院での研究活動を踏まえて指導します
質問への対応方法	個別に演習時間内およびメールにより随時対応します
フィードバックの方法	必要に応じて個別に随時行います

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の目標を達成するために、各自又はグループ毎に計画を立て、計画の進捗状況を随時確認し、目標に近い結果を残すように意識すること
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	29308
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	ブ ティ ビック リエン
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 B 3 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ブ ティ ビック リエン(経済学部)
授業の目標	卒業論文作成に向かって必要不可欠な知識やスキルは様々あります。本演習では3年次の段階で専門的な経済学の知識、いわゆる経済発展論の理論知識、およびデータ分析の基本を習得することを目標とします。 そのために、指定するテキストを輪読するパターンでゼミを進めていきます。学生一人一人はテキストの担当章節を発表資料に要約して、クラスの前に自分の言葉で説明・発表します。そのほかに、適宜に応じて参考文献や統計データを収集する練習を行います。
授業の概要	この専門演習Iは下記の学習内容の取得を目指します。 ・卒業論文作成に向けて経済発展論の基礎知識やデータ分析の基本を学びます。 ・個人ワークおよびグループワークを通じて学び方を身につけていきます。 ・ゼミは学生が主体となって進み、お互いに学び合う場をつくる予定です。授業のお邪魔は絶対許されません。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	・ゼミへの出席は全15回必須です。 ・ゼミへの参加態度、発表課題の完成度を重視します。遅刻が多く、無断欠席すると単位はとれません。 ・20分以上の遅刻および正当な理由のない早退は欠席とみなします。 ・出席しても発表をきちんと準備していない場合やゼミの活動に貢献が見られない場合は大幅に減点されます。 ・期末レポートを課す予定です。 なお、詳細な説明は初回講義に行う。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・無断欠席、特に自分の発表日に欠席すると、「失格」になります。 ・2回の遅刻は1回の欠席としてカウントする。 ・2回の早退は1回の欠席としてカウントする。
授業計画	初回ゼミにおいてゼミの進行等を詳細に周知する。
テキスト	1) 岡田朋子 (2023) 『Excel で学ぶ統計学の教科書』(仮名) 近代科学社 2) 河野哲也 (2018) 『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
参考書	1) 渡辺利夫 (2005) 『開発経済学入門』東洋経済新報社 2) 大野健一・桜井宏二郎 (1997) 『東アジアの開発経済学』有斐閣 3) 黒崎卓・栗田匡相 (2006) 『ストーリーで学ぶ開発経済学 途上国の暮らしを考える』有斐閣 ストウディア 4) 山本康平 (2017) 『統計学 15講』新世社 5) 三好大悟 (2021) 『統計学の基礎から学ぶ Excel データ分析の全知識』インプレス
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にゼミの時間内に質疑応答をする。 ・ゼミ時間以外にはオフィスアワーおよびアポイント時間に対応する。
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミの時間内にする。 ・ゼミ時間以外にはオフィスアワーおよびメールの連絡やり取りを通じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の発表担当章の準備時間の他、他のゼミ生の発表担当章も目を通しておくようにする。 ・ゼミの第15回に実施する総まとめと振り返りの祭、話ができるように学習済みの知識を日頃自覚して復習する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 貧困をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	29309
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)
授業の目標	<p>グループワークなど取り組みを通じてゼミ生同士の友好を深めながら、地域課題に関する自身の研究テーマを見つけることを目標とします。</p> <p>ゼミ担当教員の専門はハザードマップや地域防災力の向上、企業によるリスク管理といった「災害」に関するテーマです。ただし、人々の暮らし・働き方に関わる諸問題であれば、卒業論文のテーマは広く受け入れます。一部をあげると、たとえば人口移動、外国人居住、景観保全、商業施設等の立地といった研究テーマなどです。また、犬山市の主要産業である観光をテーマに、インバウンド獲得やシティプロモーションを取り上げてもらっても構いません。</p> <p>4年生になって急に慌てなくて済むように、3年次から卒業論文の作成に適宜取り組み始めてもらいます。そのため、専門演習 A (前期) では、皆さんの地元の社会経済の特徴を理解するための理論と実践を学び、専門演習 B (後期) ではゼミ共同研究を通じて自身の研究テーマについて着想してもらいます。最終的に、卒論の入り口となる3ゼミ・レポートを年度末に執筆してもらい、次年度から本格化する卒論作成に備えます。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が抱えるさまざまな問題を調査し、課題解決のための政策について研究する。 <p>関心意欲の領域 / 態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に関する情報を積極的かつ主体的に入手する態度と技術を学ぶ。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文のための論理的な文章を書く。 ・適切な情報に基づき、独自性ある知見を他者に対して論理的に説明する。

授業の概要	<p>専門演習 A(前期)では、ゼミ生同士の親睦を図るためにも、まちや都市の特徴の分析を目的としたグループワーク等をおこないます。具体的には、地理的な情報を活用した地域課題の「可視化(見える化)」について、その理論と技法を身につけます。そのため、「地域」とはなにか? 「分析」とはなにをすることか? について座学しながら、地域のさまざまな課題を把握するために必要となる情報収集の方法やデータ分析の手段について学習します。</p> <p>また、ゼミ生には「地域に学ぶ」姿勢を身につけてもらいたいと考えているので、地域課題に関するフィールドワークなどキャンパスを飛び出した学外活動に積極的に参加してもらいたいです。</p> <p>本ゼミでは、前期の学習の総まとめとしてゼミ旅行を計画します。場所は岐阜県高山市など近隣の観光地で、夏季休暇中の9月初旬を予定しています(参加は任意)。現地で実地調査をおこないますが、調査テーマは観光だけでなく、中心市街地の空洞化など地方都市が直面する問題について取り上げる予定です。</p> <p>授業内容に関しては受講生の状況を見て流動的に対応します。また、学外活動には多少の出費を伴うこともあります。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>文献・資料調査、発表などに積極的に取り組む姿勢を評価します。</p> <p>発表内容(70%) + 議論等への貢献(30%)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	ゼミナールですので、すべての授業回への出席が前提になります。事前連絡のない欠席には厳しく対応します。自身の発表回に無断欠席の場合は「失格」とします。
授業計画	<p>前年度スケジュールを参考としてアップします(変更の可能性あり)。</p> <p>1週: ゼミ・ガイダンス、自己紹介、slack登録・PC環境の確認 2~3週: 【座学】「地域」は何を指すのか? 「分析」は何をするのか? 4~5週: 【実習】グラフによる「見える化」 6~8週: グループワーク: A市のプロファイリング 9週: 【座学】論理的思考について、過去の優秀卒論の紹介 10~15週: ゼミ旅行と現地調査に向けた事前学習と準備</p>
テキスト	なし
参考書	必要な資料などは、Googleクラスルームやゼミ時間中に適宜配布します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業概要や計画に示すとおり、グループワークや学外活動をおこない地域から多くを学んでもらいます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	市役所付置の自治体シンクタンクでの実務経験を有する教員が、行政の実践など紹介しながら地域課題の解決について解説する科目です。
質問への対応方法	大学が情報発信する「オフィスアワー」を確認してください。指定日時には個人研究室で質問等を受け付けます。また、本ゼミではslackを活用してメンバー間の連絡が円滑になるよう工夫しています。これらのゼミ連絡ツールでは常時質問を受け付けています。
フィードバックの方法	グループワークなどは、発表終了後のゼミ教員からのフィードバックにくわえて、ゼミ生同士のフィードバックを各自が役立てられるように心がけています。また、卒業論文などに関しては個別面談を設けて、各自の構想が具体化するように支援します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>グループワーク、ゼミ旅行と現地調査のための事前学習、卒論テーマの検討など、ゼミ時間外に作業や学習を進める必要のある取り組みが多くあります。目安としては授業時間の2倍程度の自学の時間が理想です。</p> <p>専門科目「地域政策」の受講をお勧めします。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>3.すべての人に健康と福祉を</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p> <p>4.構想力</p>

PROGコンピテンシーの要素

1. 親和力
2. 協同力
3. 統率力
4. 感情制御力
5. 自信創出力
6. 行動持続力
7. 課題発見力
8. 計画立案力
9. 実践力

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	29400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	加藤 秋人
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	加藤 秋人 (経済学部)
授業の目標	<p>本演習では、卒業論文の作成に向けた文献の精読、統計データの整理・分析、その他調査分析とそれに関する中間報告・ゼミ内での議論を通じて、卒業論文作成に向けた知見を深めることを到達目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 ・地域の課題を発見・認識し、それに対する適切なアプローチ方法を選択できる。 ・論文執筆における文献引用や注釈の付加など、種々のルールを理解する。</p> <p>思考判断の領域 問題や課題を整理し、論理的に考えることができる。</p> <p>関心意欲の領域 能動的に地域について考え、積極的に調べることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 自身の考えを論理的に表現するとともに、他者の知見に対して興味を持つとともに、他社の考えを受容しながら議論ができる。</p> <p>技能の領域 データベースなどを駆使して、必要とする文献や統計等の情報を入手したり、必要に応じて自らが対象地域に赴いて検討課題に関して調査することができる。また、得られた情報を正しく読み取り表現することができる。</p>
授業の概要	<p>地域経済や地域政策に関する問題の中から、各自の関心に沿って文献や統計を分析・考察し、その成果を数回程度発表してもらい、ゼミ全体で議論する。また、卒業論文の執筆に関して細かな個別指導も行う。</p> <p>そのために、以下のことを中心に行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域経済や地域政策に関する文献や統計の入手方法や扱い方を身に付ける 2) 知識と分析手法を身に付ける 3) 成果をまとめて発表する 4) ゼミ全体で議論する

評価方法	報告内容（準備状況、専門知識、プレゼンテーション内容）50%、参加態度（議論での発言内容、他者との協調）50%で評価します。 なお、発表に対する議論は全体で行うため、やむを得ない事情がある場合を除き、自身が発表しない回でも必ず出席すること。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	無断欠席を繰り返した場合、また自身の発表日に理由なく欠席した場合などは評価対象とならない「失格」となる場合がある。ただし特段の事情がある場合の欠席についてはこの限りではない。特に就職活動に伴う欠席などは、必ず連絡をすること。
授業計画	1. 卒業論文のテーマに関する個別面談 2. 卒業論文のテーマ確定 3. 研究方法に関する個別面談 4. 卒業論文の進捗状況報告 ただし以上は現段階での予定である。随時変更の可能性がある。
テキスト	特に設定しない予定だが、受講者と相談の上、決定します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	受講生それぞれの卒論の内容に関して、ゼミ全体で議論・意見交換を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間前後およびメールにて対応
フィードバックの方法	随時返答・コメントする
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	随時執筆・文献調査を進めること。就活等で忙しいことも予想されるが、毎週数時間程度時間を取ること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	29401
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	木村 牧郎
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	木村 牧郎 (経済学部)
授業の目標	<p>輪読により、読解力を高め、レジュメにまとめ報告するスキルを高めます。また、卒業論文作成のプロセスを通じて資料収集・分析、執筆、報告のスキルを向上させ、卒業論文にまとめあげます。</p> <p>< 学習成果 ></p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 論文のテーマに関する知識を増やし理解を高めることができる。 他のゼミ生の報告を聞くことで、そのテーマに関する知識を深めることができる。 <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 収集した多くの情報のなかで、論文の主張を支える信頼できる情報を選び出す情報リテラシーの力が身につく。 論拠のある主張ができるようになる。 <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 興味のあるテーマで論文を執筆することにより、そのテーマに関する関心がさらに高まる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料に即して論拠のある見解を述べられる人となることを目指す。 他者との議論を通じて意思疎通や協調性の大切さを覚え、異なる意見を尊重する態度を身につける。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 収集した多くの情報のなかで、論文の主張を支える信頼できる情報を選び出す情報リテラシーの力が身につく。 将来、報告書の作成などで必要となる、文章力を高めることができる。 分かりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 <p>体験探究の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査を行うことで、オリジナルのデータを得る経験をすることができる。

<p>授業の概要</p>	<p>授業では以下のような取り組みを通じて、卒論作成に必要なスキルを学び、労働や社会保障に関する知識や理解を深めます。自分の興味のあるテーマを見つけ、ゼミ報告やワークを経ながら論文にまとめあげます。</p> <p><授業での取り組み> 授業形態は対面授業です。以下のワークを織り交ぜて学習します。</p> <p>輪読...テキストを熟読し、各回の担当者はレジュメをまとめ授業で報告する。輪読を通じて労働や社会保障分野における近年の論点整理をし、理解を深める。また、読解力や批判的精神、データ・資料の収集方法を身につけ、卒論作成に必要な問題を提起する力を磨く。</p> <p>グループ・ワーク...「働くこと」と「生活すること」をテーマとしたグループワークをする。他者との議論を通じて、コミュニケーション能力や協調性、論理的思考を磨く。</p> <p>卒論ワーク...卒論執筆の際に必要な文章作成向けのワークをする。また、卒論のテーマと構成を考え、中間報告会でプレゼンをする。わかりやすい文章作成や論理的な文章展開、プレゼン能力を磨く。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
<p>評価方法</p>	<p>輪読報告（50%）および卒論の中間報告（40%）、質疑応答時やワーク参加時の意欲・関心（10%）を考慮して評価する。</p> <p>毎週の授業に出席すること。とくに報告を担当する授業での欠席は認めない。</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>欠席回数が5回を超えた場合は失格とする。15分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p>
<p>授業計画</p>	<p>ゼミではおもにグループワークや輪読などを行いつつ、並行して卒業論文執筆に向けた卒論ワークと個人指導を織り交ぜ、以下のスケジュールで進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪読（5～7月） ・卒業論文のテーマ決定（4月） ・卒業論文の概要作成（6月） ・卒業論文の構成案作成（7月） ・卒業論文の中間報告（8月）
<p>テキスト</p>	<p>ゼミ生と話し合いによって決める。</p>
<p>参考書</p>	<p>ゼミ中に紹介する。</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含まない</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	
<p>実務経験のある担当教員による授業</p>	<p>該当しない</p>
<p>担当教員の実務経験を活かした授業の内容</p>	
<p>質問への対応方法</p>	<p>疑問やわからないことがあれば、次回に残さずに授業後の時間やオフィスアワー、担当教員へのメール（kimura.makio@nagoya-ku.ac.jp）にて質問できます。</p>
<p>フィードバックの方法</p>	<p>毎回グループ・クラスルームを通じて授業の振り返りを提出してもらい、翌週にはそれに対してコメントをつけて返却します。</p>
<p>予習・復習等、準備学習の内容及び時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで集まり、授業回ごとのグループ課題に取り組むこと ・個人レポート課題の提出に向けて、準備すること ・グループ発表に向けて、準備すること
<p>使用言語</p>	<p>日本語</p>
<p>SDGs 17の目標（1～10）</p>	
<p>SDGs 17の目標（11～17）</p>	
<p>PROGリテラシーの要素</p>	
<p>PROGコンピテンシーの要素</p>	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	29402
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	齋藤 敦
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	齋藤 敦 (経済学部)
授業の目標	<p>卒業論文の作成に携わる中で知的技能を向上させることが目標です。次のことができるようになることを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を適切にみつけ、整理して、自分の考えを導き出す。 ・自ら確かめる、検証してみようとする態度を備える。 ・論理的に考え、他者にわかるように伝える。 <p>< 学習成果 ></p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政や公共政策に関してある程度専門的な知識を持つことができる。 ・論理的な文章を理解し、作成の要領を知ることができる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会、日本社会が抱えている問題について自ら確かめようとする態度を備える。 ・社会人として必要になる基本的なマナーが身につく習慣となる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定めたテーマについて深く調べることができる。 ・信頼できる情報を集め、適切に活用できるようになる。 ・調べたことや自分の考えを文章にまとめて説得的に述べるができるようになる。 ・まとめたことを自分の言葉で説得的に伝えることができるようになる。
授業の概要	<p>3年次の専門演習 I で身につけた知識や技術をもとに、卒業論文を作成します。段階的に2年必要で2年目です。卒業論文のテーマ設定、毎回の授業での報告と討議、中間発表を経て最終的な卒業論文としての完成を目指します。</p> <p>この演習では論文作成のみならず、プレゼンテーション能力の向上も図りたいと考えています。中間発表や最終発表などはパワーポイントを用いて行ってもらう予定です。</p>
評価方法	<p>3年次の専門演習Iにおける評価方法を前提とし、報告発表と討論・提出物(レジュメ・レポート・論文等)等の内容、ゼミへのかかわり方・取組み方等で総合的に評価します。試験を行う場合もあります。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席や遅刻が多かったり、毎回の取組み、担当や課題を怠ると失格や不合格になります。

授業計画	<p>授業中の指導に加え、適宜個別に指導を行い卒業論文をまとめます。以下のスケジュールを目安に進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文のテーマ設定（4月） ・テーマに関する資料文献の収集（4月～完成時まで） ・卒業論文の構成の検討（4～5月） ・卒業論文の概要の作成（6～7月、レポート・小論文兼） ・卒業論文の中間発表（7月） ・卒業論文の下書き（9月） ・卒業論文の原稿提出（初稿）（10月） ・卒業論文の最終原稿提出（11月） ・優秀卒業論文表彰式・報告会への参加（1月）
テキスト	適宜提示します。
参考書	戸田山和久（2022）『論文の教室 [最新版]』NHK出版。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問に対しては、主として授業中に対応します。
フィードバックの方法	フィードバックは、適宜、授業の中で行うほか、オフィスアワーでの面談やメールでの対応も行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> ・準備をしっかりと行い、指示された課題、活動や改善によく取り組んでください。 ・グループワークについては、授業時間外にも作業や学習を進める必要があります。 ・理想的には、目安として授業時間の2倍程度の自学が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	29403
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	酒井 愛
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛 (経済学部)
授業の目標	<p>本演習では租税理論の理解を通じて、政策実施における資金調達上の課題をふまえた議論ができるようになることを目指します。専門演習Iから継続して、日本における今後の政策の在り方を一人ひとりの学生が検討してきた中で、政策の実施可能性や意図した効果・意図せざる効果についても考察を深め、集大成としての政策提言を目標としています。</p> <p>< 学習成果 ></p> <p>知識・理解の領域 本演習で学んだ理論について、他者に説明し、継続して理解を深めることができる。</p> <p>思考判断の領域 日本の公共政策、広くマクロ政策に関する課題を見出し、アプローチ方法を検討することができる。</p> <p>関心意欲の領域 公共政策をより身近なものとして捉えるべく、現在実施されている政策について制度・課題等を自ら検討しようと試みることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 自身の見解を論理的・整合的に述べることができる。</p> <p>技能の領域 読み手・聴き手への配慮を念頭に、簡潔かつ明瞭なレジюмеを作成したうえで、板書による説明を含めた効果的なプレゼン方法を実践できる。</p>

授業の概要	<p>本演習では租税の基礎を学ぶことから始め、租税にかかわる諸理論の考察を行います。その後、税の帰着、効率性、最適課税、資本課税といった問題を扱います。現実の税制への応用として、個人所得税、法人所得税、節税、税制改革にも触れます。専門演習IIAおよび専門演習IIBを通じて、「卒業論文」完成に向けて、問いから予測、結論までをこれまでの学修内容をふまえ、まとめていきます。</p> <p>前期（専門演習IIA）は毎週の輪読報告当番をベースに進めていきます。後期（専門演習IIB）は各自の関心に応じたテーマ設定に基づき、報告と議論へと徐々にシフトします。担当者からの報告後、質疑応答のほか、報告内で提示されていた政策の実施可能性の是非や現実的な実施にあたっての改善点などを含めたディスカッションを行う中で、参加者全員の理解を深めていきます。報告にあたってのレジュメ作成や板書・プレゼンテーションは、報告者だけでなく、読み手・聴き手にとっても、社会になる前の準備として、有意義な時間となるはずで。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>参加姿勢：70%（下記項目を目安にして下さい。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告担当者として...十分な事前準備をして報告に臨むほか、質問への適切な対応ができるように心がけて下さい。 ・良き聴き手として...建設的な提案や理解を深めるための質問ができると良いでしょう。 ・グループディスカッションに積極的に参加し、お互いを認め・高め合うことが大切です。 <p>レポート：30%（下記項目を目安にして下さい。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪読報告担当時のレジュメのほか、聴き手としての報告評価シートへの記載内容も評価します。 ・中間レポートや期末レポートの形式で実施することもありますので、演習内でのアナウンスに従って下さい。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>ディスカッションへの積極的な参加の重要性をふまえ、出席回数が12回に満たない場合には失格となり、単位を修得することができません。</p> <p>「報告・連絡・相談」を基本とし、連続して2回無断欠席した場合には失格となり、単位を修得することができません。何事もできる限り、事前に相談するよう心掛けてください。</p>
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。（初回演習時に輪読分担箇所を決めます。）
テキスト	『スティグリッツ公共経済学 [第3版] 下』（J.E.スティグリッツ著、藪下史郎訳）東洋経済新報社（ISBN：9784492315453）
参考書	適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	輪読箇所に関する政策実施の是非や政策提言について、グループディスカッションやディベートを交えることで理解を深めます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。そのほか、メール（ai.sakai@nagoya-ku.ac.jp）や本演習用のGoogle classroomでも対応しますので、適宜活用して下さい。Google classroomは資料配信などに利用します。担当者より招待しますので入室して下さい。
フィードバックの方法	提出された課題については添削を行い、返却時にコメントします。輪読報告にあたってのレジュメ・プレゼンテーションに関する事柄については、報告担当者だけでなく受講生全員のブラッシュアップに寄与するよう、各回において改善のポイントなどをアドバイスします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業計画詳細情報内の備考欄を参照し、各回の予習・復習を行ってください。専門共通基礎 科目の「市場の経済学」・「国民経済と政府」および、選択科目の「ミクロ経済学」・「マクロ経済学」などで学習する内容を適宜復習しておくといいでしょう。財政学・公共経済学といった応用経済学の分野においては、基礎理論のベースの上に議論がなされますので、輪読・報告にあたっては、必要に応じて、上記分野のテキスト等を振り返りながら知識の定着を図ることが重要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>12.つくる責任つかう責任</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>7.課題発見力</p> <p>8.計画立案力</p> <p>9.実践力</p>

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	租税(1)	租税形態、租税構造	テキスト579-586ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
2	租税(2)	経済効率、補正税、二重の配当、政治的責任	テキスト587-613ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
3	租税(3)	功利主義、ロールズ型社会厚生関数	テキスト614-624ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
4	租税の帰着(1)	企業課税、市場均衡への影響、従価税、従量税	テキスト625-641ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
5	租税の帰着(2)	寡占下での課税、付加価値税、生涯消費税、生涯所得税	テキスト642-650ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
6	租税の帰着(3)	部分均衡・一般均衡での租税帰着、短期的効果、長期的効果	テキスト651-666ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
7	租税と経済効率(1)	死重損失、補償需要、生産者による負担	テキスト667-681ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
8	租税と経済効率(2)	利子所得税、労働所得に対する課税	テキスト682-690ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
9	租税と経済効率(3)	租税と労働供給	テキスト691-702ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
10	最適課税(1)	次善理論、一括税、歪み、非線形租税構造	テキスト703-718ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
11	最適課税(2)	ラムゼー税、差別的物品税	テキスト719-725ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
12	最適課税(3)	線形需要曲線とラムゼー公式	テキスト726-736ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
13	資本課税(1)	資本課税と貯蓄・投資への効果、国民貯蓄、予算中立性	テキスト737-745ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
14	資本課税(2)	リスク・テイキング、キャピタル・ゲイン	テキスト746-755ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。
15	資本課税(3)	減価償却、中立的課税	テキスト756-772ページ 2時間の予習と2時間の復習を課す。

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	29404
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 D 1 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 正之 (経済学部)
授業の目標	ゼミ生が主体でゼミ運営を行う。各自の研究テーマを継続あるいは決定し、その進捗を把握し議論をする。 <成果> 【知識・理解の領域】地域の問題・政策課題の背景や現状を理解し説明できる。 【思考判断の領域】問題・課題に対して論理的で説得力のある思考ができる。 【関心意欲の領域】ゼミでの議論(意見交換)ができる。 【態度・志向性の領域】他人の考えの認識、考えの違いの理解、相互に助言ができる。 【技能の領域(情報スキル)】信頼できる情報を効率的に収集し、情報発信(デザイン)することができる。
授業の概要	各自が研究テーマを設定し、研究計画を作り、それに基づいて実施する。 各自の研究テーマの進捗を把握、議論、研究へ反映させる。 なお、講義期間外でのゼミ実施も考慮すること。
評価方法	毎回の取り組み、演習課題(レポート)を考慮して評価する。 課題や研究テーマへの主体的な取り組み、共同作業と議論、成果の発表を踏まえて評価する。特に参加姿勢を重視する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	遅刻・欠席回数が多い、課題への取り組み不足、共同作業の無断欠席については、周りに迷惑がかかるため失格とする。
授業計画	各自が研究テーマを設定し、研究計画を作り、それに基づいて実施する。 各自の研究テーマの進捗を把握、議論、研究へ反映させる。 なお、講義期間外でのゼミ実施も考慮すること。
テキスト	使用しない
参考書	梶田, 他(2007)『地域調査ことはじめ あるく・みる・かく』ナカニシヤ出版 吉川, 他(2011)『考える 伝える 分かちあう 情報活用力』noa出版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	1. classroomを、講義の計画や内容の確認、受講した際の資料閲覧や課題提出に使用します。 2. ドライブを、講義資料の共有など、自分の資料やレポートを保存に使用します。 3. Gmail、ドキュメントを、各自が提出するレポート作成に使用します。 4. その他、googleformsや会議アプリを必要に応じ使用します。 上記にあたり、ネットワーク環境のあるPCの利用が望ましい。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	大学のgoogleアカウント利用が必須。mailとclassroom、その他、会議アプリも必要に応じて使用する。
フィードバックの方法	大学のgoogleアカウント利用が必須。mailとclassroom、その他、会議アプリも必要に応じて使用する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各自が、研究テーマを設定して研究計画を作るための、準備が必要です。 各自の研究テーマを議論するための、準備が必要です。 フィールドワークなどの、通常の講義期間外でのゼミ実施の場合、準備が必要です。 また、実施後に研究の補完も必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	29405
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	下村 尚司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	下村 尚司 (経済学部)
授業の目標	<p>専門演習 A・Bに引き続き履修します。コロナ感染症の状況によりますが、何れにせよ、Google Classroomも使いたいと思っています。</p> <p>この科目は演習科目群に属している必修科目です。</p> <p>Webによる調査を通して、「状況の論理」について 考えを及ぼせることが 出来ることを目標にしました。この授業では専門演習Iでの学習を踏まえ、卒論の作成を見据えながら、より広範な事柄を学習します。</p> <p>この演習でも、「状況の論理」という考え方で、「自動車と環境の問題」を考えます。</p> <p>この授業を通して、関係の中で考えることができます。担当者の話を聞くだけでなく、各自Webで調べたりしながら、状況の論理をまとめてゆきます。</p> <p>その中で、次のことができるようになることを目指します。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で学んだ社会的な事例について自分が理解したことが説明できる。 <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 状況を調べ整理して考えることができる。 <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら確かめる、検証してみようとする態度を備える。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論理的に考え、他者にわかるように伝える。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウェブ公開の企業情報や政府関連機関の情報にアクセスし、卒業論文に活用するテクニックが身につく。 ・ 文章中に図や表を積極的に扱うことが出来る。 <p>体験探究の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実社会で起きていることを、系統立てて考える体験ができる。

授業の概要	<p>専門演習 で学習した事柄を更に深めてゆきます。この授業は、GIS学術士に対応していません。GISで卒論を書きたい人は受講しないで下さい。</p> <p>この専門演習 Aでは、状況の論理という事柄を理解するためにWebによる探索を通して、「自動車と環境の問題」について調べます。そして調べたことをまとめてゆきます。これは各自で行うのです。</p> <p>地球環境問題と自動車の関係について、例えば「今後電動車が主流になるのはわかったが、そうしてゆくためには、様々な課題がある。そのような課題についてどのようなアプローチがあるのだろうか？」などの疑問を見つけ、自分で答えを探して下さい。</p> <p>その過程で、読む、書く、他者に分かるように話すという知的技能の定着を図りつつ、卒業論文などのまとまった文書の作成にも関わって行きます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンパリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>まず第一に、担当者の信用をなくしたりするような態度、出欠状況は許容しません。本当は1回でも無断欠席すれば、手書きのレポートを1枚以上書いて貰いたい。それをしなければ、失格にしたいと思っています。</p> <p>授業時のことがらについて総合的に評価します。特に、出欠・遅刻等が多ければ許容出来ません。もちろん、授業を受ける態度が悪い場合は、不合格もあり得ます。</p> <p>このように、毎回の出席と授業でのWeb調査、およびその報告を積み重ねることが100%です。議論になかなか参加できない学生さんでも、報告を積み重ねて、100%となることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加姿勢 50% ・レポート 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>次の場合には原則失格とします。</p> <p>欠席が6回になった場合 GoogleClassroomの課題を提出しないのが6回になった場合</p> <p>どちらか片方だけで失格にします。</p>
授業計画	<p>基本的には、前期に履修した専門演習IAに引き続いて学習を深めて行きます。</p> <p>演習では終始、Webでの調査を基本にします。</p> <p>それをまとめる練習を行い、発表をしてみます。</p> <p>「状況の論理」については、折に触れて担当者の方で提示します。</p> <p>そして後半ではレポートの作成と報告に向けて準備を進めます。</p> <p>そこでは、何を調べたか、どのような状況を発見したかについて、整理して、議論し、書いて行きます。</p> <p>最後に、他者にわかるように説明する、といった一連の作業を行います。</p>
テキスト	適時提示します。
参考書	適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	3密が出来ない様に配慮した上で、できるだけ、授業で発言などをしてもらいます。またGoogle Classroomの課題提出などを通して、文章作成を行います。Web調査も必須になります。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中であれば、何時でも質問してください。 授業時間外であれば、メールで随時対応します。メールアドレス：tkshimo@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	Google Classroomの課題提出について、提出期限終了後通常2～3週間のうちに返却する予定です。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回口頭での発表が必要となります。Google Classroomの課題提出はそのための準備でもあります。このような課題提出に必要な時間や、そのための準備に要する時間を含め、予習と復習に4時間以上必要になります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9.産業と技術革新の基盤をつくろう

SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	29406
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	羽田 徹也
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	羽田 徹也 (経済学部)
授業の目標	学生各自が関心のあるテーマについて研究を進め、それをもとに卒業論文を完成すること。 <学習成果> 【知識・理解の領域】 論文テーマに関する用語や課題を適切に把握している 【思考判断の領域】 論理的思考方法に則って分析を進めている 【関心意欲の領域】 高い関心意欲を持ち、十分な根拠をもとに執筆できる 【態度・志向性の領域】 計画性を持って積極的に取り組むことができる
授業の概要	学生各自が関心のあるテーマについて研究を進め、それをもとに卒業論文を完成する。 報告にあたっては、論文本体のほかpowerpointで作成したスライドを共有することを要します。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	卒業論文の内容、報告発表・ディスカッションの内容等で総合的に評価します
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし
授業計画	1, 各自、卒業論文テーマ決定 2, 卒業論文の作成方法の共有 3, 卒業論文に関する研究と報告 4, 卒業論文の執筆および推敲
テキスト	
参考書	必要に応じて、個別に参考書を紹介します
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授 業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授 業の内容	日米金融機関において、為替ディーラー、債券トレーダー、金融市場のストラテジストを経験した 教員が、ビジネス現場経験および大学院での研究活動を踏まえて指導します
質問への対応方法	必要に応じて個別に演習中やメールにより随時対応します
フィードバックの方法	必要に応じて個別に随時対応します
予習・復習等、準備学習の内容及 び時間	卒業論文の提出期限に向けて、卒業論文の作成計画を立て、随時進捗状況を確認し、卒業論文を完 成させること
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	29407
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	ブ ティ ビック リエン
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 B 3 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ブ ティ ビック リエン (経済学部)
授業の目標	1) 前期ゼミの目標は学生各自が関心のあるテーマについて研究を進め、それをもとに卒業論文を作成することである。そのために、最初は卒業論文作成の準備として論文の書き方について復習する。その後、先行研究のサーベイやプレゼンテーションを通じて、学生が興味をもつテーマを絞り込み、卒業論文の原稿作成に取り組む。 2) 夏休みに入る前に、卒業論文の草稿を完成することも目指す。
授業の概要	下記の学習内容を順序に進める。 1. 卒業論文の作成方法について指導する。 2. 卒業論文のテーマを決定する。 3. 先行研究のサーベイおよび発表を行う。 4. 卒業論文のテーマを絞り込み、草稿を作成する。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	・ゼミへの参加積極性・発表の完成度等の総合評価 (50%) ・卒業論文の初回原稿の提出 (50%) なお、詳細の説明は初回講義に行う。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・2回の遅刻 (無断早退) は1回の欠席に見なすため、遅刻 (無断早退) が4回以上・無断欠席が2回以上 ・指導教員の指導に意図的に従わない
授業計画	ゼミの初回に詳細な進行計画を周知する。
テキスト	
参考書	1) 河野哲也 (2018) 『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・基本的にゼミの時間内に行う。 ・ゼミ時間以外にはアポイントを取って、対応する。
フィードバックの方法	・基本的にゼミの時間内に行う。 ・ゼミ時間以外にはアポイントを取って、実施する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・ゼミ回数の経過とともに学習内容が重なっていくパターンなので、前回の復習、および翌回の準備指示にその都度に従ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	29408
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)
授業の目標	<p>卒業論文の枠組みを再検討し、執筆にかかる作業に従事し、期日までに完成させることを目標とします。</p> <p>専門演習 A (前期) では、3年生時に構想した研究テーマをもとに、自身の卒論研究の内容の精緻化に取り組んでもらいます。専門演習 B (後期) では卒業作成の最終段階として、夏季休暇中の作業を取りまとめながら文章を推敲してもらう予定です。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が抱えるさまざまな問題を調査し、課題解決のための政策について研究する。 <p>関心意欲の領域 / 態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に関する情報を積極的かつ主体的に入手する態度と技術を学ぶ。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文のための論理的な文章を書く。 ・適切な情報に基づき、独自性ある知見を他者に対して論理的に説明する。
授業の概要	<p>専門演習 A (前期) では、卒論研究にまつわる地域課題の分析などおこなう。そのために必要となる文献整理や情報処理を具体的内容として予定する。また、適宜、個別相談による卒論指導やゼミ内での進捗報告など実施することで、全員での卒業論文の進捗管理に努める。</p> <p>くわえて、就職活動支援の一環として、ゼミ生同士での模擬面接などおこない、4年生前期までの各自の経験から培った就活のヒントなどを共有できるようにする。</p> <p>授業内容に関しては受講生の状況を見て流動的に対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>文献・資料調査、発表などに積極的に取り組む姿勢を評価します。</p> <p>発表内容 (70%) + 議論等への貢献 (30%)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>ゼミナールですので、すべての授業回への出席が前提になります。事前連絡のない欠席には厳しく対応します。自身の発表回に無断欠席の場合は「失格」とします。</p>
授業計画	<p>前年度の講義スケジュールを参考としてください。(変更の可能性あり)</p> <p>1週: ガイダンス 2~3週: 就職支援 (模擬面接) 4~9週: 卒業研究にまつわる作業 10~12週: 進捗報告会 13~15週: 個別卒論指導</p>
テキスト	なし

参考書	参考資料などは適宜授業中に指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業概要や計画に示すとおり、グループワークや学外活動をおこない地域から多くを学んでもらいます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	市役所付置の自治体シンクタンクでの実務経験を有する教員が、行政の実践など紹介しながら地域課題の解決について解説する科目です。
質問への対応方法	大学が情報発信する「オフィスアワー」を確認してください。指定日時には個人研究室で質問等を受け付けます。また、本ゼミではslackを活用してメンバー間の連絡が円滑になるよう工夫しています。これらのゼミ連絡ツールでは常時質問を受け付けています。
フィードバックの方法	グループワークなどは、発表終了後のゼミ教員からのフィードバックにくわえて、ゼミ生同士のフィードバックを各自が役立てられるように心がけています。また、卒業論文などに関しては個別面談を設けて、各自の構想が具体化するように支援します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	発表、卒論テーマの検討など、ゼミ時間外に作業や学習を進める必要のある取り組みが多くあります。目安としては授業時間の2倍程度の自学の時間が理想です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29509
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	ブ ティ ビック リエン
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ブ ティ ビック リエン (経済学部)
授業の目標	<p>学生各自が関心のあるテーマについて研究を進め、それをもとに卒業論文を完成する。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の生産活動や個人・家計の消費行動に関する考察を行なう。 ・発展途上国の経済発展に関する考察を行なう。 <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的・実証的な思考方法にそって、議論を進める。 ・問題解決のために解決策を考え、他人を説得できるようになる。 <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考文献の検索・輪読・理解をできるようになる。 ・適切な統計データを収集して、活用できるようになる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題と解決策の見出しや解決策への批判的コメントについて自ら調査学習できるようになる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明瞭かつ簡潔に発表資料を作成する。 ・人前に分かりやすく説明・発表するとともに、効率よく文章にまとめ、卒業論文の完成に向かう。
授業の概要	<p>下記の学習内容を順序に進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文の作成方法について指導 2. 研究テーマの決定 3. 先行研究のサーベイと報告 4. 卒論作成の進捗報告と相互議論 5. 卒業論文の執筆・訂正および完成 <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>下記の内容を総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導への対応の取り組み (20%) ・レポート・定期報告・ディスカッションの内容 (20%) ・指定期限内における卒業論文の草稿の提出 (20%) ・指定期限内における卒業論文の完成版の提出 (40%) <p>なお、詳細な説明は初回講義に行う。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・指導教員の指導に意図的に従わない
授業計画	初回講義に詳細な計画を周知する。
テキスト	
参考書	1) 河野哲也 (2018) 『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ オフィスアワーに研究室に聞て対応する。 ・ オフィスアワー以外にはアポイントを取って、対応する。
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ オフィスアワーに研究室に聞て対応する。 ・ オフィスアワー以外にはアポイントを取って、対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・ 卒業論文は進捗報告の積み重ねる内容なので、担当教員のコメントや指導の前後をしっかりと従ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	経営情報論 / Management Informations
時間割コード Course Code	30030
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>情報通信技術が進展していく中で、企業経営の考え方が変化しつつある現状を踏まえ、最新の情報通信技術の動向やトピックを理解しながら、企業経営やビジネスにおける情報通信技術の活用方法や変革方法を理解することを目標とする。</p> <p>< 学習成果 ></p> <p>知識・理解の領域 企業経営における情報の関わり方を理解して、情報通信技術の必要性を説明することができる。</p> <p>技能の領域 経営やビジネスに求められる情報通信技術の基本的な知識を身に付けて、ケースを分析して考察結果を自らの言葉で分かりやすくレポートできる。</p> <p>態度・志向性の領域 企業経営と情報通信技術に関わる最新の話題やトピックなどに興味を示し、自分自身で考察しようとする姿勢が醸成される。</p>
授業の概要	<p>情報通信技術の進展により、サービス形態や働き方が大きく変化するなかで、競争力のある経営やビジネスを展開していくためには、情報通信技術の活用は欠かせない状況にある。</p> <p>この講義では、情報通信技術を経営にどう活用していくのかという視点で、最新の技術や事例などを通じて、企業経営と情報通信技術の関係性について理解する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p>
評価方法	<p>評価方法</p> <p>毎回授業で実施する小テスト (50%)</p> <p>期末レポート (50%)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	第1回 情報社会の特性と変化 第2回 経営情報の役割 第3回 情報通信業界の歴史 第4回 情報通信サービスの特徴と動向 第5回 ビッグデータの価値と活用 第6回 プラットフォームビジネス 第7回 経営情報システム管理・運用 第8回 IoTの特性とビジネスへの活用 第9回 AIの特性とビジネスへの活用 第10回 デジタルトランスフォーメーション 第11回 経営情報システムの課題 第12回 経営情報システムの開発手法 第13回 情報通信技術による働き方への変化 第14回 シェアリングビジネス 第15回 情報通信技術によるビジネスモデルの変化
テキスト	教員が作成する資料を配布して、授業を進める。
参考書	遠山暁・村田潔・古賀広志 『現代経営情報論』有斐閣アルマ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 情報通信業界にて、システム開発やマーケティングなどの業務経験を有する教員が、経営と情報の関わりについて実践的な観点より解説する科目である。
質問への対応方法	基本的にはメールで回答します。
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	消費者商品論
時間割コード Course Code	30090
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業では、最終消費者が消費を目的として家庭に需要とされるような財やサービスである消費者商品を、理論的・実践的なアプローチを通して、次のような学習成果を生み出します。</p> <p>学習成果</p> <p>(1) 消費者起点の商品企画・需要創造活動および消費者ニーズの的確な把握やニーズに対応した商品づくり(商品のコンセプト・デザイン・パッケージ・価格・品質・安全・環境・満足度・商品開発・価値提案など)に関する基本的な知識を身につけることができる。</p> <p>(2) 消費者に対する積極的な企業の情報提供・啓発活動などの成功事例のノウハウを身につけることができる。</p> <p>(3) 消費をめぐる多様な問題と消費生活・消費者問題について説明することができる。</p> <p>(4) 消費者が本当に必要とする商品と消費者に安心して受け入れられるような商品をつくるのに必要な知識・スキルを身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>企業が提供する商品・サービスに価値があるかどうかを決める最終判断を行うのは、あくまでも消費者です。言い換えれば、消費者は企業から提供される商品・サービスのブランド価値を評価し、価格を決定し、最終的な購買への意思決定権や拒否権を握っているといえます。すなわち、市場のパラダイムシフトは、「企業視点」から「消費者視点」へと変わってきています。したがって、本授業では、最終消費者が消費を目的として家庭に需要とされるような財やサービスである消費者商品を、理論的・実践的なアプローチを通して、わかりやすく解説します。</p>
評価方法	授業の姿勢・態度(25点)、中間レポート(25点)、期末テスト(50点)を総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>第1回 授業の概要と進め方、商品の概念</p> <p>第2回 企業の視点から見る3つの目</p> <p>第3回 ブランドの定義とブランドの構成要素</p> <p>第4回 ブランドとステークホルダーとの関係</p> <p>第5回 商品の品質の重要性和知覚品質の定義と構成要素</p> <p>第6回 ブランディングの重要性</p> <p>第7回 マズローの欲求5段階説と事例(1)</p> <p>第8回 マズローの欲求5段階説と事例(2)</p> <p>第9回 マズローの欲求5段階説と事例(3)</p> <p>第10回 小テスト</p> <p>第11回 購買意思決定のプロセスAIDMAとAISAS</p> <p>第12回 消費者の視点から見る購買意思決定のプロセスAIDMAとAISASの事例</p> <p>第13回 コンシューマーインサイト</p> <p>第14回 これまでのまとめ(1)</p> <p>第15回 これまでのまとめ(2)</p>
テキスト	なし

参考書	田中洋(2015)『消費者行動論』中央経済社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	含まない
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。またGmailでも対応する。
フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	12. つくる責任つかう責任 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	国際経済・ビジネス事情
時間割コード Course Code	30100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	李 美善
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)
授業の目標	<p>国際経済の動向や各国のビジネス事情に関する基本的な知識を学び、日本企業の国際経営について理解することである。なお、日本企業を含む各国の企業経営について、ケーススタディを通じて学ぶことによって、ビジネスに関する基礎知識を理解する事を目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識の領域 授業で学んだ国際経済の動向や各国の事情に関する基本的な知識について、自分が理解したことを説明できる。 ・技能の領域 日本企業を含む各国の企業経営についてケーススタディを通じて学ぶことによって、経営の知識が身につく。さらに、毎時限、資料及び映像のポイントを探し、ポイントと関連付けて自分の考えを述べることを行う。それを繰り返すことによって自分の考えをまとめることができる。 ・態度・志向性の領域 様々な角度からものごとを解釈できる人となることを目指す。
授業の概要	<p>1985年の「円高」以降、経済活動のグローバル化の進展とともに、日本企業のグローバル化も一層進んだ。トヨタやパナソニックなどの大企業だけでなく、大企業の協力企業である多くの中小企業も海外現地生産を展開し、グローバル化を加速させた。他方、2000年代以降、韓国、台湾、中国などに新興企業が急速に台頭した。</p> <p>さらに、2008年のリーマンショック後の世界の経済状況は、日本企業の経営環境を大きく変貌させた。第1は、世界経済における日本・アメリカ・EUなどの先進国の相対的地位低下と中国をはじめ新興国の台頭であり、特に中国は「世界の工場」から「世界の市場」へと変化した。そのため、日本企業にとって中国進出への重要性が増す一方で「中国リスク」といった問題も生まれている。第2は、先進諸国の大企業の地位が相対的に低下し、中国、韓国、台湾企業が躍進した。特にエレクトロニクス産業では、韓国のサムスンやLG、台湾の鴻海（ホンハイ）精密など巨大グローバル企業が出現し、競争する一方で国際的な水平分業により日本の大企業や中小企業との合併・提携関係を展開し始めた。さらに、日本企業は「チャイナ・プラス・ワン」としてASEANへの投資を加速させている。</p> <p>また、2020年コロナウィルスの感染拡大により、国際情勢の変化とともに企業の経営はさらなる局面を迎えている。</p> <p>本講義では、世界経済の動きを概観し、日本の企業経営に与える影響をみていく。特に、日本と密接な経済関係を持つアジア諸国の文化、経済事情および企業経営に関する基本知識を身につけ、日本企業の今後の望ましい国際経営について理解を深めることとする。</p>
評価方法	<p>試験60%、平常点40% (授業への積極的参加：発言など取り組み姿勢やグループワーク及び発表・提出レポートの質) レポートなどは翌週にフィードバック</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 13回に満たない場合は失格とする。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 世界経済の動向 3. 世界経済の動向とビジネス事情 4. アメリカ経済・文化事情 5. アメリカのビジネス事情 6. 日本経済と日本企業の国際経営 7. 日本企業の国際経営にとってのアジア 8. 韓国経済・文化とビジネス事情 9. 日本企業と韓国企業とのビジネス関係 10. 中国経済・文化とビジネス事情 11. 日本企業と中国企業とのビジネス関係 12. 日本企業のアジアビジネス 13. 日・米・欧をめぐるビジネス事情とアジア 14. 日本の国際ビジネスの今後 15. 総括 <p>* 本講義では各国の文化・ビジネス事情を学び、日本企業の国際経営について考えるが、内容は受講生の状況に応じて変更する可能性もある。</p>
テキスト	特に指定しない。講義時に必要な資料を提示する。
参考書	<p>吉原英樹（2021）『国際経営 第5版』 有斐閣アルマ。</p> <p>今井齊、宮崎信二、岸川典昭編著（2014）『新版経営から見る現代社会』文真堂出版社。</p> <p>梶浦 雅己（2020）『はじめて学ぶ人のためのグローバル・ビジネス第三版』文真堂出版社。</p> <p>浅川 和宏（2022）『マネジメント・テキスト グローバル経営入門(新装版)』日本経済新聞社。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>本講義では「創造力」、「思考力」、「主体性」、「協調性」、「柔軟性」、「知識」を身につけるため適時に下記のアクティブラーニングを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際経営に関する課題を中心にグループワーク（ブレインストーミングなど）を行う。 ・ グループ毎で課題を議論し、アイデア・解決方法を提案する。 ・ グループ毎に発表を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で課したレポートなどは確認後、随時フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間必要とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容や課題に関連する資料調べおよびレポート作成
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力

PROGコンピテンシーの要素

1. 親和力
2. 協同力
3. 統率力
4. 感情制御力
5. 自信創出力
6. 行動持続力
7. 課題発見力
8. 計画立案力
9. 実践力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	イントロダクション	科目の概要と評価方法等の講義の進め方について説明する。	
2	世界経済の動向	リーマンショック後の世界経済について考える。(先進国と新興国)	
3	世界経済の動向とビジネス事情	世界的経済危機後(とりわけ、コロナショック)の世界経済とビジネス事情について考える。	
4	アメリカ経済・文化事情	世界経済の中心であるアメリカ経済の動向と文化について考える。	
5	アメリカ経済・文化とアメリカビジネス事情(2)	アメリカビジネス事情についてアメリカ企業を事例に考える。	
6	日本経済と日本企業の国際経営	日本経済の動向と日本企業(自動車、エレクトロニクス産業)の海外展開について考察する。	
7	日本企業の国際経営にとってのアジア	日本企業の国際経営にとっての東アジアについて考える。 ・日本企業の海外展開(輸出、海外生産、逆輸入) ・日本企業にとっての東アジアの重要性	
8	韓国経済・文化とビジネス事情	韓国経済と財閥企業の急成長について事例から考える。	
9	日本企業と韓国企業とのビジネス関係	日本企業と韓国企業のビジネス関係(競争と協調)について考える。	
10	中国経済・文化とビジネス事情	・「世界工場」から「世界市場」に変貌した中国について考える。 ・中国企業の台頭について考える。	
11	日本企業と中国企業とのビジネス関係	日本企業と中国企業のビジネス関係(生産拠点、市場)について考える。同時に、「中国リスク」についても考える。	
12	日本企業のアジアビジネス	日本企業にとってのASEANについて考える。	
13	日・米・欧をめぐるビジネス事情とアジア	日・米・欧のアジア展開について考える。	
14	日本の国際ビジネスの今後	今後の日本企業の海外事業展開について展望する。	
15	総括	講義のまとめを行う。	

開講科目名 Course	経営統計論
時間割コード Course Code	30110
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>経営統計論および経営科学の基礎を習得する。それを土台として、経営統計論のさまざまな分析方法を、現実の経営に関する諸問題と関連付けて理解する。また、現実への応用が重要である。現実の経営活動で未知なる問題に出会ったときにも、現象を的確に捉え、本質を見抜いて柔軟に対処できる能力をつけることを目標とする。</p> <p>〔学習成果〕</p> <p>知識・理解の領域 授業で学んだ経営科学や企業事例について説明できる。</p> <p>関心意欲の領域 経営科学の方法論に興味を持ち、概要をおおむね理解することができる。</p> <p>技能の領域 企業の弱点を見つけ出し、改善の方法を提案できる。 情報端末から自分にとって有益な情報を素早く検索できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、今年度は対面授業となる。</p> <p>経営上の諸問題を解決するにあたり、経営統計論は問題の構造を明らかにし、それをモデル化し、そのモデルから導出される解を現実の問題解決に役立てようとするものである。したがって、これらの完全な理解のためには数学的知識が必要なことはいうまでもない。</p> <p>本講義では、まず統計学の初歩を学ぶ。それを礎として、経営統計論のさまざまな分析方法を紹介していく。</p> <p>毎回の授業の終わりに、次回の授業で実施する小レポートの内容を伝えるので、その内容について重点的に復習しておくこと。また、次回の授業で行う内容も伝えるので、それに沿って予習しておくことよ。</p> <p>質問への対応は、授業終了後またはオフィスアワーのときに受け付ける。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p>
評価方法	<p>成績評価のウェイトは以下のとおりとする。</p> <p>通常レポートと小レポート (20%) 期末試験 (60%) 参加姿勢 (20%)</p> <p>授業内で行った小テストは採点する。理解度が良好でないと判断した部分については、次回授業で復習する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が13回に満たない場合 ・連続して3回欠席した場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、統計学の初歩1 2. 統計学の初歩2、線形計画法(1) 3. 線形計画法(2) 4. 線形計画法(3) 5. 回帰分析と需要予測(1) 6. 回帰分析と需要予測(2) 7. 回帰分析と需要予測(3) 8. 日程計画法(1) 9. 日程計画法(2)、在庫管理(1) 10. 在庫管理(2) 11. 在庫管理(3) 12. 在庫管理(4) 13. 在庫管理(5) 14. ABC分析 15. 経営統計論の総復習とまとめ <p>詳細については授業計画表を参照。</p>
テキスト	宮川公男監修「経営情報入門」実教出版
参考書	宮川公男他、「経営科学と情報処理」、実教出版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業終了後に対応 ・ メールで対応 (greatriver-1@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 翌週返却または翌週口頭で述べる
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> 4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 7. 課題発見力 9. 実践力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 統計学の初歩1 出席のとり方や筆記試験の方法について説明する	筆記用具持参のこと	
2	統計学の初歩2 線形計画法(1) 商品の仕入れ問題, 最大化問題	線形計画法について予習しておくのが望ましい。	
3	線形計画法(2) 目的関数, 制約条件, 図的解法	前回の授業の復習しておくのが望ましい。	
4	線形計画法(3) 図的解法の手順, 最小化問題, 解が無い問題	前回の授業の復習しておくのが望ましい。	
5	回帰分析と需要予測(1) 時系列データとは, 移動平均法, 最小二乗法, 誤差とは	前回の授業の復習しておくのが望ましい。	
6	回帰分析と需要予測(2) 説明変数及び被説明変数, 単回帰モデル, 重回帰モデル	前回の授業の復習しておくのが望ましい。	
7	回帰分析と需要予測(3) 単回帰モデルの例, 重回帰モデルの例	前回の授業の復習しておくのが望ましい。	
8	PERT(1) PERTとは, 先行作業表, PERT図, 最早開	前回の授業の復習しておくのが望ましい。	
9	PERT(2) 在庫管理(1) PERTの問題演習と解答 なぜ在庫必要か	前回の授業の復習しておくのが望ましい。	
10	在庫管理(2) 各在庫費用, 最適発注量	前回の授業の復習しておくのが望ましい。	
11	在庫管理(3) 総費用関数と凸性,	前回の授業の復習しておくのが望ましい。	
12	在庫管理(4) EOQモデル, 需要が確率的な場合の期待利益・期待機会損失	前回の授業の復習しておくのが望ましい。	
13	在庫管理(5) 定量発注方式と定期発注方式, ABC分析	前回の授業の復習しておくのが望ましい。	
14	損益分岐点分析 損益分岐点分析とは	前回の授業の復習しておくのが望ましい。	
15	経営統計論の総復習とまとめ	初回の授業からの復習しておくのが望ましい。	

開講科目名 Course	情報システムの世界 / World of Information Systems
時間割コード Course Code	30130
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>【授業の目標】</p> <p>この授業では、我々を取り巻く社会に存在する情報システムや企業及び企業間で使われている情報システムの構造や実態について学ぶ。前者の情報システムでは、どのような情報システムが存在し、我々は生活している上でどのようなサービス・恩恵を受けているかを学ぶ。後者では、情報システムの導入により、ビジネス活動全般がネットワーク化されたシステムで徹底的に効率化されていることを学ぶ。</p> <p>< 学習成果 ></p> <p>知識・理解の観点 情報システムを構築するために必要なコンピュータ及びネットワークの知識を身に着けている。産業社会や企業経営における情報システムの役割や構造が理解できる。</p> <p>思考・判断の観点 企業内の至る所で行われている情報システムの違いや特徴の発見について独自の着眼点を持つことができる。</p> <p>関心・意欲の観点 生活する上で身近な情報システム及び企業の情報システムに関心を持つことができる。情報システム関連の記事に関心を持つことができる。</p> <p>態度の観点 注目を集めている企業の情報システムについて自ら進んで調べるようになる。</p> <p>技能・表現の観点 情報システムの役割や構造を他人に説明できる。 新しい情報システムの設計・開発ができる。</p> <p>体験・探究の観点 同じ業界における情報システムでも、経営戦略の違いなどから異なる部分がある事実を体験できる。</p>

授業の概要	<p>今年度はこの授業は対面授業となる。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>情報社会を到来させ、進展させてきたのは、情報資源を開拓するツールとしてのコンピュータの影響が大きい。また、インターネットをはじめとするIT技術を活用することによって企業内及び企業間において情報システムを構築し、瞬時の情報共有や業務の効率化を目指している。さらに、日々続けられる経営活動により企業などの経営活動体では膨大な情報を抱えており、それを効率よく経営に活用するためにデータベース化されている。そのような背景下、産業界ではインターネットビジネスが隆盛してきている。</p> <p>今日は情報社会と言われ、情報化の進展は、産業社会や企業経営に大きな影響を与えている。社会全体における情報化の進展には目を見張るところがある。本講義では、実社会における情報システムの実態や構造について学び、理解することを目的とする。また、今後誕生するであろう新しいビジネスの様相を捉えて、受講者全員が新しい情報システムの設計・開発について基礎的な知識を持つことができるようになることも視野に入れたい。</p> <p>毎回の授業の終わりに、次回の授業で実施する小レポートの内容を伝えるので、その内容について重点的に復習しておくこと。また、次回の授業で行う内容も伝えるので、それに沿って予習しておくことが望ましい。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p>
評価方法	<p>参加姿勢：20%、ミニレポート：40%、期末試験：40%</p> <p>授業内で課したミニレポートを毎回チェックする。理解が不足していると判断した箇所については、次回の授業の最初に復習する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が13回に満たない場合 ・連続して3回欠席した場合
授業計画	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．ネットワーク全般に関する基礎知識、インターネットの仕組みと役割 2．BtoB、BtoC、CtoC（エスクローサービス）、データベースとは何か 3．我々の暮らしを支える情報システム、グーグルクラスルームによるコンビニやスーパーの情報システム（1） 4．コンビニやスーパーの情報システム（特にPOSシステム）（2） 5．銀行の情報システム 6．証券取引の情報システム 7．自動車産業における情報システム 8．車載情報システム 9．医療情報システム 10．教育現場における情報システム 11．災害発生時、情報システムはどう動くか 12．経営意思決定・企業戦略立案のための情報システムの例 13．情報システムの進化 14．情報システムの課題、情報システムの今後 15．全体のまとめ・補足と振り返り <p>定期試験</p>
テキスト	教員が作成したオリジナルの教材を配布し、授業を進める。
参考書	<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>川合 慧（監修）、駒谷昇一（編著）：ITテキスト（一般教育シリーズ）情報と社会、オーム社</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後に対応 ・メールで対応（greatriver-1@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	・翌週返却または翌週口頭で述べる
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	人的資源管理論
時間割コード Course Code	30150
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大曾 暢烈 (経営学部)
授業の目標	<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 人的資源管理論の基本的な概念や考え方を理解すること。 人的資源管理論の概念や考え方をを用いて、現実の経営現象を理解・分析できるようになること。 <p>【学習成果】</p> <p>知識・理解の領域 人的資源管理（ヒトのマネジメント）の仕組み・全体像を理解することができる。</p> <p>技能の領域 人的資源管理（ヒトのマネジメント）の基本的な知識を用いて、問題発見、問題解決する力を身につけることができる。</p> <p>関心・意欲の領域 人的資源管理（ヒトのマネジメント）に関して、問題意識と洞察を持つことができる</p>
授業の概要	<p>本講義は、「ヒト」のマネジメントについて学習します。不確実な環境の中で、価値を創造し、企業の競争力の源泉となるヒト（人的資源）は、ますます重要な存在となります。そして、ヒトをいかにマネジメントするのかということが、企業経営に大きな影響を与えられています。</p> <p>本講義は、ヒトの採用から育成、評価など、人的資源管理の諸活動を体系的に学ぶことを目指します。</p> <p>授業の進め方・注意事項については、第1回講義にて説明します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が多い場合は、失格となります。

授業計画	第1回 オリエンテーション、人的資源管理とは 第2回 人間モデル 第3回 従業員の心理的側面 第4回 組織設計 第5回 採用・異動 第6回 人材育成 第7回 人事評価 第8回 昇進・昇格 第9回 賃金制度 第10回 安全・衛生のマネジメント 第11回 労使関係 第12回 女性労働・高齢者雇用 第13回 非正規雇用 第14回 裁量労働・在宅勤務 第15回 ワーク・ライフ・バランス
テキスト	上林憲雄・厨子直之・森田雅也（2018）『経験から学ぶ人的資源管理 新版』有斐閣
参考書	以下の書籍についても、参考にしてください。その他、適宜紹介します。 今野浩一郎・佐藤博樹（2020）『人事管理入門 第3版』日本経済新聞出版社 奥林康司・上林憲雄・平野光俊 編著（2010）『入門 人的資源管理 第2版』中央経済社 上林憲雄 編著（2015）『人的資源管理 ベーシック+』中央経済社 佐藤博樹・藤村博之・八代充史（2019）『新しい人事労務管理 第6版』有斐閣 関口倫紀・竹内規彦・井口知栄 編著（2016）『国際人的資源管理ベーシック+』中央経済社 開本浩矢 編著（2019）『組織行動論 ベーシック+』中央経済社 平野光俊・江夏幾多郎（2018）『人事管理 人と企業、ともに生きるために』有斐閣 八代充史（2019）『人的資源管理論【理論と制度】第3版』中央経済社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	授業中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	簿記I(株式会社会計)
時間割コード Course Code	30190
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 壽男(経営学部)
授業の目標	<p>個人企業の会計処理と株式会社の会計処理の相違を把握した後、株式会社の設立、日々の会計業務から決算までのプロセスを理解する。そして、決算書(貸借対照表、損益計算書)を作成するスキルを身につけることができるようにする。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 中小株式会社の決算書を作成するスキルを習得する。</p> <p>技能の領域 複式簿記の原理原則およびその体系と応用力を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 日商簿記検定2級の商業簿記分野をカバーするため、同検定にチャレンジすることを目指す。</p>
授業の概要	<p>本講義は、日本商工会議所簿記検定試験2級の商業簿記分野を対象とする。したがって、株式会社の会計処理がその中心となる。株式会社の設立、日々の会計業務から決算までのプロセスを通じて、各種取引の会計処理・記帳関係を学習するが、その際、単に処理・記帳面にとどまらず、それら会計事象の内容・意味合いをあわせて理解することに努める。また、ひとつの会計事象に複数の会計処理方法が認められているような場合には、それぞれの会計処理方法を比較して、どのような会計効果をもたらされるのかを検討することにより、具体的・事例的に講義を展開していく。なお、講義手法としては例題を提供し、株式会社の決算書(貸借対照表や損益計算書など)を作成するスキルを身につけることができるようにする。そのためには、当該回の例題を再度復習するように努めていただきたい。</p> <p>なお、講義内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。</p>
評価方法	Google Formsなどを活用した課題への取り組み(50%)および期末課題(50%)から、総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合および連続して3回欠席した場合には失格とする。

授業計画	<p>第1回：株式会社の設立と純資産 第2回：増資（新株の発行） 第3回：剰余金の処分 第4回：社債の発行と償還 第5回：株式会社の税金 第6回：有価証券取引（決算整理を含む） 第7回：固定資産取引（決算整理を含む） 第8回：外国企業との取引 第9回：その他の決算整理（商品勘定の整理） 第10回：その他の決算整理（債権の種類と貸倒れの見積もり） 第11回：その他の決算整理（収益・費用の見越しと繰り延べ） 第12回：決算（精算表の作成1） 第13回：決算（精算表の作成2） 第14回：帳簿決算と財務諸表の作成 第15回：キャッシュフロー計算書</p> <p>なお、簿記科目の特徴として前回の講義内容の理解なしに、今回の講義内容を理解することが困難となる。そのため予習はもとより、各回の講義後の復習に相応の時間を確保する必要がある。</p>
テキスト	『要説株式会社簿記』（名古屋経済大学）1,000円（税込） 初回に配本する。
参考書	日本商工会議所簿記検定試験2級に関する問題集等
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	簿記検定試験委員として培った経験より、大学で学ぶ簿記の学習成果を確認するため、日本商工会議所簿記検定試験へのチャレンジを奨励している。
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	今回の課題を配信するので、2時間程度の予習を要す。 また、前回の課題の解答を配信するので、理解度確認のため2時間程度の復習を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	簿記II(製造業会計)
時間割コード Course Code	30200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 壽男(経営学部)
授業の目標	<p>製造業における経理処理のしくみと製品の製造原価算定の構造(個別原価計算)を理解する。</p> <p><学習成果> 知識・理解の領域 製造業の経理処理と個別原価計算構造を習得する。 技能の領域 複式簿記の原理原則およびその体系と応用力を身につける。 態度・志向性の領域 日商簿記検定2級の工業簿記分野(個別原価計算まで)をカバーするため、将来同検定にチャレンジすることを目指す。そのためには簿記(製造業会計)を履修後、後期開講科目「原価計算」を履修されたい。</p>
授業の概要	<p>製造業は、原材料を購入し、それを加工し製品を完成させる。ここで重要なのは、生産された製品の原価を測定することである。そこで、複式簿記の原理を利用して、製品が完成するまでのプロセスを体系的に学習し、製品の製造原価算定の構造を修得する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	Google Formsなどを活用した課題への取り組み(50%)および期末課題(50%)から、総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合および連続して3回欠席した場合には失格とする。

授業計画	<p>第1回：製造業と個別原価計算 第2回：製造業の勘定体系 第3回：材料費の計算（1）材料消費高の算出 第4回：材料費の計算（2）予定価格による材料消費高の計算 第5回：労務費の計算（1）賃金消費高の算出 第6回：労務費の計算（2）予定賃率による賃金消費高の計算 第7回：経費の計算 経費の消費高 第8回：製造間接費の配賦（実際配賦） 第9回：製造原価と原価計算表 第10回：製造間接費の配賦（予定配賦） 第11回：製品の完成と販売 第12回：製造原価報告書 第13回：部門費の計算（1）部門別計算のしくみ 第14回：部門費の計算（2）部門別計算の手順 第15回：本社・工場間の取引</p> <p>なお、簿記科目の特徴として、前回の講義内容の理解なしに、今回の講義内容を理解することは困難となる。そのため、予習はもとより、各回の講義後復習に相応の時間を確保する必要がある。</p>
テキスト	『製造業会計入門 工業簿記と個別原価計算』（名古屋経済大学）1,000円（税込）初回に配本する。
参考書	日本商工会議所簿記検定試験2級に関する問題集等
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	簿記検定試験委員として培った経験より、大学で学ぶ簿記の学習成果を確認するため、日本商工会議所簿記検定試験へのチャレンジを奨励している。
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	今回の課題を配信するので、2時間程度の予習を要す。 また、前回の課題の解答を配信するので、理解度確認のため2時間程度の復習を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	財務会計
時間割コード Course Code	30220
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之 (経営学部)
授業の目標	<p>企業が所有する資産の額や抱えている負債の額、および1年間で得た利益の額などの情報を様々な人々に提供する手続きを会計といいます。それらの情報提供は、財務諸表と呼ばれる媒体によって行われます。</p> <p>情報を受け取った人々は、その企業に投資をするかどうか、資金の貸し付けを行うかどうか、また商品売買などの取引を継続するかどうかといった重要な判断をします。したがって、会計は企業外部の多くの人々の意思決定に重要な影響を与える手続きといえます。</p> <p>本講義においては、このような会計の役割を踏まえた上で、財務諸表がどのようにして作成されるのかを学び、基本的な会計ルールの修得を目標とします。</p> <p>学習成果 知識・理解の領域 財務諸表における項目の記載方法と金額の計算方法といった、財務諸表作成のためのルールを修得します。</p> <p>技能の領域 練習問題を解きながら、財務諸表に記載される金額の計算方法を修得します。</p> <p>態度・志向性の領域 日本の会計ルールのみならず、国際的に統一されたルールに関する知識の修得も目指します。</p>
授業の概要	企業が1年間を通じて行った経営活動の成果が、どのようにして財務諸表に記載されるのかについて、基本的なルールを中心に学びます。また、そのようなルールについての理解を深めるために、問題演習にも取り組みます。
評価方法	<p>期末試験の結果を重視して評価します。</p> <p>期末試験 95%</p> <p>練習課題 5%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	他の授業同様、欠席回数が多い場合は失格になることがあります。

授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 財務会計の基本的役割</p> <p>第3回 貸借対照表とその内容</p> <p>第4回 資産の基礎概念</p> <p>第5回 負債と純資産の基礎概念</p> <p>第6回 損益計算書の概要</p> <p>第7回 利益の計算と区分表示</p> <p>第8回 連結財務諸表の役割と必要性</p> <p>第9回 連結財務諸表原則について</p> <p>第10回 支配の概念と親会社・子会社</p> <p>第11回 資本連結の基礎</p> <p>第12回 外貨換算の会計処理（外貨建取引の換算）</p> <p>第13回 外貨換算の会計処理（外貨建金銭債権・債務の換算）</p> <p>第14回 会計基準の国際的統一化</p> <p>第15回 国際財務報告基準と日本の会計基準</p> <p>各回について、予習・復習時間をしっかりと確保して下さい。</p>
テキスト	必要に応じてプリントを配布します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	日商簿記検定試験委員の担当経験がある教員によって行われる授業です。受講生は「基本簿記」やその他の簿記・会計科目の知識を生かしつつ、仕訳の応用問題に取り組む場合があります。
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	レポート、課題などは翌週に返却して解答・解説を行う予定です。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必要に応じて資料を配付します。配付された資料を事前に目を通し、授業内容の理解度向上に努めます。また、復習については随時課題を課します。理解した内容のアウトプットを行うことで、学習内容の定着を目指します。（予習・復習各2時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	販売管理論 / Sales Management
時間割コード Course Code	30300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>【授業目標】 企業の目的は存続であり、そのための1つの手段として、経済活動による利潤を追求します。例えば、製造業は、製品を生産し販売することで利益を得ます。卸・小売業は、様々な製造業が生産した製品を購入し消費者に販売することで利益を得ます。つまり、企業は製品やサービスを”販売”することで存続が可能となり、企業において販売は極めて重要な経済活動の1つであると言えます。 本講義は、販売を主体とする小売業における販売管理に関する基礎理論を身に付けることを目標とします。販売管理に関する基本理論を身に付けることで、実際の販売業務に携わった際の接客や店舗経営に役立つことが期待できます。</p> <p>【学習成果】 知識・理解の観点 小売業における販売の重要性を認識する。 小売業における販売管理の役割を感覚的に理解でき、販売管理に関する基本的用語が説明できる。</p> <p>思考・判断の観点 小売店の経営状況を販売管理の観点から評価できる。</p> <p>関心・意欲の観点 小売店の販売管理に関する問題について自ら意見を述べることができる。</p> <p>態度の観点 身近にある小売店の販売活動について日頃から関心を持つようになる。</p> <p>技能・表現の観点 販売業務に必要な実践的知識が身につく。</p> <p>体験・探究の観点 講義を通して実際に経験しないと分からない小売店経営の裏側を間接的に体験することができる。</p>
授業の概要	<p>【授業概要】 本講義は、販売管理に関する基礎理論として、1.小売業の種類、2.マーチャндаイジング、3.ストアオペレーション、4.マーケティング、5.販売・経営管理について学びます。この構成は日本商工会議所のリテールマーケティング(販売士)3級に準じており、リテールマーケティング(販売士)3級の受験を推奨します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大により授業形態の変更が必要になった場合は、講義内容や評価方法などを大きく変更する場合があります。</p>

評価方法	期末テスト100%で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席が5回を超えた場合は失格となります。
授業計画	<p>【授業計画】</p> <p>第1回 ガイダンス、小売業とは</p> <p>第2回 小売業の種類(1):小売業の基本</p> <p>第3回 小売業の種類(2):形態別小売業の基本</p> <p>第4回 小売業の種類(3):商業集積の基本</p> <p>第5回 マーチャンダイジング(1):商品とマーチャンダイジングの基本</p> <p>第6回 マーチャンダイジング(2):商品・販売・仕入計画等の基本</p> <p>第7回 マーチャンダイジング(3):価格設定の基本</p> <p>第8回 マーチャンダイジング(4):在庫管理と情報システム</p> <p>第9回 ストアオペレーション(1):ストアオペレーションの基本</p> <p>第10回 ストアオペレーション(2):包装技術・ディスプレイの基本</p> <p>第11回 ストアオペレーション(3):ディスプレイ・作業割当の基本</p> <p>第12回 マーケティング(1):顧客管理と商圈</p> <p>第13回 マーケティング(2):プロモーションと売場づくり</p> <p>第14回 販売・経営管理(1):販売員の役割と法令知識の基本</p> <p>第15回 販売・経営管理(2):計数管理と店舗管理の基本</p> <p>状況に応じて授業計画を変更する場合があります。</p>
テキスト	坪井晋也・河田賢一(編著)「販売管理論入門 改訂版」学文社 2021
参考書	日本商工会議所・全国商工会連合会(編)「販売士ハンドブック(基礎編)」株式会社キャリアック 清水信年・坂田隆文(編)「1からのリテール・マネジメント」碩学舎 高嶋克義・高橋郁夫「小売経営論」有斐閣
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワーと講義終了後に対応します。
フィードバックの方法	講義中に実施します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習として、各回、指定テキストを用いた予習(2時間)と復習(2時間)を必要とします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	ビジネスモデル
時間割コード Course Code	30320
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	植村 眞司
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	植村 眞司 (経営学部)
授業の目標	<p>ビジネスモデルは、企業の事業を支えるビジネスのスキーム（構造）であり、企業が戦略を実現し、成長と収益を確保するための「事業の設計図」といってよいでしょう。ネット通販や無料ゲームなどのほか、最近よく耳にするサブスクリプション、オムニチャネルなど、現在普及しつつあるビジネスのなかには優れたビジネスモデルをもつサービスが少なくありません。本授業では、アマゾンなど著名な企業のビジネスモデルを取り上げて、その中のどの部分が成長のエンジンとなっているのかを解明することを目標としますが、皆さん自身が新しいビジネスモデルのデザインにチャレンジすることも目標に加えたいと思います。</p> <p>< 学習成果 ></p> <p>知識理解の領域 ビジネスモデルを考察するうえで必要な、企業の取引、決済、契約、物流、情報システムなどの基礎知識を習得する。</p> <p>技能の領域 頭のなかで描かれたビジネスモデルのデザインを1枚のパワポにまとめることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 ビジネスモデルに対する興味が、企業の活動それ自体の関心に繋がる。</p> <p>関心意欲・体験探求の領域 これまでにない新しいビジネスモデルを考案してみる。</p>
授業の概要	<p>授業ではいわゆる「ビジネスモデルキャンパス」を活用します。ビジネスモデルキャンパスは、ビジネスで事業の設計図のなかで、特に押さえるべき要素を網羅したフレームワークであり、どのような顧客に対して、どのような価値提案を、どのようなチャネルを通じて行い、収益を上げていくのかを1枚のキャンパスに描いてゆくものです。学生の皆さんには、自分自身の手でビジネスモデルキャンパスを作成してもらい、企業の新規事業やマーケティングの現場だけでなく、起業家たちが創造するビジネスシーンをライブで体験してもらおう - そんな授業を展開したいと考えています。</p>
評価方法	<p>評価は以下の方法で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加姿勢 : 50% (授業を将来のキャリアに活かすなどの意欲と、グループワークなどでの「真摯」な取り組み姿勢を重視して行います。コメントペーパーを求める場合は、その提出を含みます) グループワークの成果発表 : 50% (評価は発表の内容だけでなく、発表資料の作成や調査など発表準備ワークにおけるそれぞれの貢献度も評価の対象とします) <p>注意点 期末試験はありませんが、評価は上記の参加姿勢を最も重要視して行います。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 ビジネスモデルとは (今なぜビジネスモデルか? 企業や起業の現場でどのように議論されているか?)</p> <p>第3回 ビジネスモデルキャンパスとは (ビジネスモデルの作成に必要な基礎知識の習得)</p> <p>第4回 実際にビジネスモデルキャンパスを作成してみよう</p> <p>第5回 コンビニのビジネスモデル研究</p> <p>第6回 アマゾンのビジネスモデル研究 (アマゾンマーケットプレイス)</p> <p>第7回 アマゾンのビジネスモデル研究 (AWS)</p> <p>第8回 ウーバーTaxiのビジネスモデル研究 (米国)</p> <p>第9回 スターバックスのビジネスモデル研究 (サードプレイス)</p> <p>第10回 グループワーク (グループ分け・資料作成)</p> <p>第11回 グループワーク (資料作成)</p> <p>第12回 グループワーク (資料完成・発表準備)</p> <p>第13回 グループワークの成果発表</p> <p>第14回 グループワークの成果発表</p> <p>第15回 グループワーク成果発表の講評・授業の総括</p> <p>【特記】 第1回のイントロダクションでは、今ビジネスモデルを学ぶ意義、授業の進め方、グループ発表のための準備の方法、グループ発表当日の要領などの説明を予定しています。ただそれぞれの内容は皆さんとディスカッションしながら決定したいと思います。</p>
テキスト	必要に応じ、授業の中で紹介する予定です。
参考書	必要に応じ、授業の中で紹介する予定です。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークでは、皆さんがそれぞれ興味をもつ業種・業界毎に分かれて5名前後のグループをつくり、一つの企業のビジネスモデルをとりあげ、調査・分析を行ったうえで、その考察結果をグループワークの成果としてパワポ資料にまとめて頂きます。その作業は、グループの中での役割分担をそれぞれに決めて行う、いわゆる「ワークショップ型」のアクティブラーニングにより実施してもらいます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	教員は企業(総合商社)の中で新しいビジネスモデルを構築し、社内起業と上場を果たした成功体験がありますが、それ以上の数の失敗体験を持っています。その失敗体験は皆さんの将来の成功の手引きになると思いますので、授業では赤裸々に共有します。
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば適宜対応します。また成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	本授業では予習は特に必要ありません。復習を積極的に行ってください。復習は、各回の授業内容の記憶の新しい当日または翌日のうちに行うと効果的です(復習は目安として約2時間程度行ってください)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	メディア表現 / Media Presentation
時間割コード Course Code	30500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	情報実習室 A
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>高度情報化社会において、情報を記録・伝達・保管するための手段がメディア(媒体)である。近年、ネットワーク上のマルチメディア情報を閲覧することは多くの人にとって日常のことであると同時に、情報機器の急速な発達により、個人端末レベルでマルチメディア情報を簡単に処理することが可能になった。</p> <p>本授業では、デジタルメディアコンテンツ制作を通して、マルチメディアによる伝達効果とその特質を理解し、作品を構成し企画する実践的な能力を得ることを目標とする。特に実習を通じて、情報発信方法や表現方法などを身に付けることを目指す。</p> <p><学習成果> 知識・理解の領域 メディアの特性を理解して、現代に合った情報表現方法を身に付けることができる。 技能の領域 画像処理技術を身に付けて、多彩な表現方法を身に付けることができる。 態度・志向性の領域 自身でデジタルメディアコンテンツを制作できるようになる。</p>
授業の概要	<p>本授業では、マルチメディア情報のデジタル化について基本的な知識を身につけた上で、主に画像・動画編集・処理についての演習を行う。合わせて、デジタル写真の撮影方法(ライティング等)についても学ぶ。</p> <p>その後、身近なマルチメディアとしてのWebメディアを取り上げ、画像や動画を用いて、Webサイトを構築する実習を行い、メディアの表現方法等を習得して、メディアの特性について理解する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p>
評価方法	<p>評価方法 レポート、課題提出(70%) 授業への取り組み姿勢(30%)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が12回に満たない場合

授業計画	第1週 コンピュータの基本 第2週 デジタルデータの特徴 第3週 デザインの基本 第4週 デジタル写真撮影 第5週 画像編集・処理 (PhotoShop) 第6週 画像編集・処理 (PhotoShop) 第7週 画像編集・処理 (PhotoShop) 第8週 動画編集・処理 (premiere pro) 第9週 動画編集・処理 (premiere pro) 第10週 動画編集・処理 (premiere pro) 第11週 動画編集・処理 (premiere pro) 第12週 Webメディアの特徴 第13週 Webサイト制作 第14週 Webサイト制作 第15週 Webサイト発表
テキスト	教員が作成する資料を配布して、授業を進める。
参考書	技術評論社『世界一わかりやすいIllustrator & Photoshop & XD Webデザインの教科書』
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	PCを用いた実習形式
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	基本的にはメールで回答する。
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する資料調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	谷川 毅
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	谷川 毅 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39101
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39102
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39103
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	山住 富也
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 A 2 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山住 富也 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39104
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 B 3 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>専門演習I (前期・後期を通して) では、卒業研究の研究計画策定を目標とします。私たちの周りには、たくさん課題がありますが、それらの課題は漠然としており、簡単にアプローチすることはできません。研究計画を策定するためには、漠然とした課題を解ける問題に変換する必要があります。そのための能力 (問題解決能力) を身に付けることを目指します。</p> <p>< 学習成果 > 知識・理解の領域 理論的に問題を説明することができる。 技能の領域 問題を発見し調査計画を立案できる。 態度・志向性の領域 身の回りにある問題に関心を持つようになる。</p>
授業の概要	<p>専門演習IAでは、マーケティング論や消費者行動論を題材に卒業研究を遂行するために必要な基礎的能力を身に付けることを目的とします。</p> <p>そのための演習として、まずはマーケティング分野の代表的な論文や専門書の輪読を行います。論文を読解することで、マーケティングに関する知識を得るだけでなく、研究手法や学術的文章の型を学ぶことも狙いとしています。</p> <p>次に、マーケティング調査の手法を学びます。具体的には、最初にマーケティングに関わらず社会調査全般で用いられるアンケート調査の基本を身に付けます。また、商品やサービスの最適な構成要素を発見するコンジョイント分析やエリアマーケティングで用いられるGIS (地理情報システム) など、進捗状況に応じてマーケティングで用いられる調査手法を学びます。</p> <p>最後に集大成として、これまで学んだことを活かし、身の回りにある問題や興味・関心事についてグループで研究してもらいます (後期ゼミ)。</p> <p>要望や状況に応じて変更することがあります。</p>
評価方法	成績はゼミへの参加態度 (宿題や発表の内容も含む) で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>以下の事由により失格になる場合がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著しく欠席・遅刻が多い場合 ゼミは毎回の出席を前提に進めます。無断欠席は厳禁です。 ・教員の連絡に応じない場合 ・宿題の提出や発表を怠った場合

授業計画	1 回目：演習内容の確認、基礎演習の振り返り 2 回目：PROGテスト 3～4 回目：マーケティング分野(経営学も)の代表的な論文の読解 5～6 回目：マーケティング調査の学習(主に専門書の輪読) 7 回目：PROGテストの解説 8～12 回目：マーケティング調査の学習(主に専門書の輪読) 13 回目～15 回目マーケティング調査手法の演習(進捗状況による) 要望や状況に応じて変更することがあります。
テキスト	恩蔵直人・富田健司「1からのマーケティング分析(第2版)」碩学舎 2022
参考書	授業時に指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	指定されたテキストの章について発表した後、質疑応答を実施し、全員でテキストの理解を深める。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業終了後もしくはオフィスアワーにて対応する。
フィードバックの方法	授業中にフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・指定テキストを用いて予習・復習する。 ・授業内容について復習する。 各回、2時間の予習と2時間の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39105
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	四辻 秀紀
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	四辻 秀紀 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39106
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	李 彩華
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39107
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	李 美善
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39108
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大曾 暢烈 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39109
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 A 1 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39110
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 A多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39111
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	宮島 良子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮島 良子 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力</p>

PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none">1. 親和力2. 協同力3. 統率力4. 感情制御力5. 自信創出力6. 行動持続力7. 課題発見力8. 計画立案力9. 実践力
----------------	--

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39112
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	井土 康仁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	井土 康仁 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	39113
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	郡 麻里
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	郡 麻里 (経営学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語や英語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 キャンパスの美化の提案1 2回目 各ゼミ2 樹木に名札をつけてみよう1 3回目 各ゼミ3 環境改善の提案1 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 竹林の整備1 8回目 各ゼミ5 里山の観察1 9回目 各ゼミ6 地域の特色や発見1 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 オリジナルマップの作成 14回目 各ゼミ8 オリジナルマップのプレゼン 15回目 各ゼミ9 半年の振り返り</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 7.課題発見力

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	谷川 毅
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	14D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	谷川 毅 (経営学部)
授業の目標	<p>経営に大切なものを学ぶと同時に、それを自分でまとめて発表することができるようにしたい。</p> <p><学習成果> 知識・理解の領域 経営に必要な様々な知識を得ることができる。 技能の領域 自分の得た知識をまとめ、プレゼンテーションすることができる。 態度・志向性の領域 経営学部の学生として経営に興味を持ち、更に専門的なものを勉強したいと思うようになる。 思考・判断の領域 経営者になるにはどれほどさまざまなことを考え、アイデアを出さなくてはならないかを学ぶことができる。 関心意欲の領域 普段の生活では目にしないところで様々な会社ががんばっていることを知り、今まで関心の無かったところに興味を持つようになる。</p>
授業の概要	<p>毎回、ビデオ教材を準備する。まずビデオを見る。番組の内容についてのプリントを毎回準備するので、まずプリントで番組の内容、重要なポイントをつかみ、次に内容について図解し、自分の頭の中を整理して、自分が面白いとおもったところ、人に伝えたいと思ったところをはっきりさせる。続いてPowerPointでスライドを作成する作業に入る。できあがったスライドはみんなの前で発表する。発表についてはみんなで意見を出し合う。</p> <p>〔授業形態〕 この授業は対面で実施します。</p>
評価方法	課題への取組み方、課題のでき具合により総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回：動画 1 - 1、内容の整理・把握、スライド作成開始</p> <p>第2回：動画 1 - 2、内容の整理・把握、スライド作成</p> <p>第3回：動画 1 - 3、内容の整理・把握、スライド作成</p> <p>第4回：スライド作成続き</p> <p>第5回：スライド作成続き</p> <p>第6回：スライド作成完成</p> <p>第7回：発表</p> <p>第8回：動画 2 - 1、内容の整理・把握、スライド作成開始</p> <p>第9回：動画 2 - 2、内容の整理・把握、スライド作成</p> <p>第10回：動画 2 - 3、内容の整理・把握、スライド作成</p> <p>第11回：スライド作成続き</p> <p>第12回：スライド作成続き</p> <p>第13回：スライド作成完成</p> <p>第14回：発表</p> <p>第15回：半期のまとめと講評</p>
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問については、授業中であれば適宜こたえ、それ以外であればオフィスアワーやメール等に対応する。
フィードバックの方法	提出物については翌週に返却する。発表については一人一人についてその場で講評を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	特に予習の必要はないが、学習した内容については、自分でインターネットや本で調べて、内容の理解を深め、授業の時間だけでなく、自宅でPowerPointのスライド作成を行い、できるだけ完成度の高いものにするため、毎週4時間は行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39201
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 壽男 (経営学部)
授業の目標	<p>会計学の基礎を学び複式簿記の基礎力向上を目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 企業の会計制度を理解し、中小会社の日々の経理処理から決算書の作成までのプロセスを概観することにより、将来の企業人としての自覚を獲得できる。</p> <p>技能の領域 日本商工会議所簿記検定試験3級にチャレンジする。</p> <p>態度・志向性の領域 簿記会計学習を通して、大学生としての教養と就業意識を高める。</p> <p>近い将来の就職活動のため、社会人としてのマナー・接遇を身につける。 仲間との協調・協働などのゼミ活動を通じて、共通の目標を達成するために積極的な行動に努める。</p>
授業の概要	<p>簿記学・会計学に強い関心を持ち意欲ある学生の参画を希望する。</p> <p>現行の株式会社会計制度を理解した上で、中小株式会社の経理処理方法から貸借対照表および損益計算書を作成するまで一連の会計手続きを修得し、現行の会計処理の本質について議論する。なお、この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	ゼミ課題への取組度 (50%) ・ゼミの諸活動への取組度 (50%) で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション (ゼミの取り組み内容とその進め方および評価方法の説明)</p> <p>第2回 会計の歴史と簿記技術の発達</p> <p>第3回 企業における会計の役割と利害関係者</p> <p>第4回 会計公準と会計原則</p> <p>第5回 複式簿記の基本原則 (勘定記入法則)</p> <p>第6回 現金預金の管理</p> <p>第7回 棚卸資産の管理</p> <p>第8回 営業取引の債権債務の管理</p> <p>第9回 貸倒引当金の本質を考える</p> <p>第10回 営業外取引の債権債務の管理</p> <p>第11回 有形固定資産の管理</p> <p>第12回 減価償却の本質を考える</p> <p>第13回 企業の収益</p> <p>第14回 企業の費用</p> <p>第15回 中小企業の資本</p> <p>なお、4月中旬および5月初旬に、インターンシップにかかる合同ゼミを実施する予定である。</p>

テキスト	使用しない。毎回レジユメを配付する。
参考書	『日商簿記検定模擬試験問題集商業簿記3級』実教出版、税込880円
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	同一テーマにつきグループ単位で議論し、そのとりまとめをゼミ内で報告し合い、比較・検討する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。わからないまま放置することのないようされたい。
フィードバックの方法	ゼミで提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前にGoogle Classroomにより課題の資料を配信するので2時間程度の予習を要す。また理解度確認のため、事後に2時間程度の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39202
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、文化経営学の基礎を学び、地域の文化遺産・歴史的町並み・ミュージアム・芸術などを通して、地域を活性化するための方法を考えます。</p> <p>文化経営学とは、文化や芸術の発展を支える制度や仕組み、博物館・美術館などの文化施設の経営・運営、文化に関わる行政や活動を担う組織（市町村、文化施設、企業、NPOなど）、伝統産業の経営などについて学ぶ学問です。</p> <p>この演習を通して、文化を活かした地域活性化の理論と事例を学び、学んだことを社会の具体的な現場で活かしていくことをめざします。</p> <p>< 学習成果 ></p> <p>知識・理解の領域 文化経営学の理論と事例を学び、文化を活かした地域活性化について考える。</p> <p>技能の領域 まとまった量の文章を読み、そのポイントを理解し、要約することができるようになる。また、自分の考えを他の人に報告することができるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 文化・歴史・社会・芸術・行政・地域などを客観的かつ批判的に理解する態度を持つようになる。</p> <p>思考・判断の領域 文化経営学という考え方が現れた歴史的背景や社会の変化を理解し、それに対するさまざまな意見や批判を知り、自分の考えを持つようになる。</p> <p>関心意欲の領域 文化・歴史・社会・芸術・行政・地域への関心が高まる。</p>
授業の概要	<p>(1) 文化経営学に関する基本文献を読み、文化が地域活性化に果たす役割について考えていきます。</p> <p>(2) 文化経営学の実践例として、東海地方における市町村の取り組みや文化施設の活動について知るために、それらの地域の行政文書や各機関の刊行物を読み、議論します。また、これらを通して、文化や芸術の発展を支えるための行政の制度や仕組み、行政文書の読み方、必要な情報を集める方法を学びます。</p> <p>(3) 地域資源を見学して関係者にインタビューするフィールドワークを行います。</p> <p>(4) 自分の興味のある地域や文化施設を選び、その歴史・特徴・課題について調べ、期末に報告し、演習参加者と議論します。</p> <p>(5) 「あいち観光まちづくりアワード」などに参加することを通して、文化経営学について実践的に学びます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>参加姿勢：50% (課題の取り組み姿勢、授業中の発言)</p> <p>期末発表：50% (報告内容、報告の方法など)</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合には、失格とします。
授業計画	<p>第1週 オリエンテーション</p> <p>第2週 文化経営学の基礎（1）文化経営学とは何か</p> <p>第3週 文化経営学の基礎（2）文化経営と文化資源・文化遺産</p> <p>第4週 文化経営学の基礎（3）文化経営と文化政策・文化行政</p> <p>第5週 文化経営学の基礎（4）文化経営と文化施設</p> <p>第6週 文化経営学の事例研究（1）犬山市</p> <p>第7週 文化経営学の事例研究（2）名古屋市</p> <p>第8週 文化経営学の事例研究（3）美濃市・関市</p> <p>第9週 文化経営学の事例研究（4）高山市・飛騨市</p> <p>第10週 文化経営学の事例研究（5）徳川美術館</p> <p>第11週 文化経営学の事例研究（6）博物館明治村</p> <p>第12週 文化経営学の事例研究（7）ジオパーク</p> <p>第13週 文化経営学の事例研究（8）NPO古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク</p> <p>第14週 期末報告（1）</p> <p>第15週 期末報告（2）</p>
テキスト	必要に応じて文献のコピーを配布します。
参考書	<p>上野征洋編『文化政策を学ぶ人のために』（世界思想社、2002年）</p> <p>小林真里『文化政策の現在（全3巻）』（東京大学出版会、2018年）</p> <p>佐藤健二『文化資源学講義』（東京大学出版会、2018年）</p> <p>東京大学文化資源学研究室編『文化資源学 - 文化の見つけかたと育てかた』（新曜社、2021年）</p> <p>西村幸夫・本中眞編『世界文化遺産の思想』（東京大学出版会、2017年）</p> <p>その他に必要なに応じて参考文献をお知らせします。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>自分の興味のある地域や文化施設を選び、その歴史・特徴・課題について調べ、期末に報告し、演習参加者と議論します。そのために、文化や芸術の発展を支えるための行政の制度や仕組み、行政文書の読み方、必要な情報を集める方法、フィールドワークの方法を授業のなかで学びます。</p> <p>また、「あいち観光まちづくりアワード」などに参加することを通して、文化経営学について実践的に学びます。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	<p>担当教員の犬山市歴史まちづくり協議会委員、犬山市史編纂委員、犬山学研究センター長としての実務経験を活かして、行政文書（歴史的風致維持向上計画、歴史文化基本構想など）を授業のなかで素材として学びます。</p>
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後に対応 ・メールで随時対応（masaki.n@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	<p>期末報告に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>各回の演習では、翌週の演習内容に関わる資料を配布するので、翌週までに各自で予習します。その資料を読んだ前提で、次回の演習を行いますので、予習は必須です。</p> <p>また、演習で配布した資料を家で読み、復習します。</p> <p>これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、期末報告の準備につながります。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>14. 海の豊かさを守ろう</p> <p>15. 陸の豊かさを守ろう</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39203
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	松井 義司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松井 義司 (経営学部)
授業の目標	<p>経営学の3つの視点を通して、3つの活動を行う。</p> <p>経営学の3つの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社の中 (経営資源/組織能力・仕組み) ・会社の外 (顧客・市場へのアプローチ、マーケティング) ・財務 (売上・採算・資金繰り) <p>3つの活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業への訪問と取材 ・グループ学習 ・プレゼンテーションの発表 <p>学びの目標</p> <p>これらを通して以下を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業や社会への理解 (知識・理解の領域) と関心 (態度・至高性の領域) を深める。 ・経営学の理論の理解 (知識・理解の領域) ・グループワークの運営 (技能の領域) ・プレゼンテーションの作成と発表 (技能の領域)
授業の概要	<p>演習の主な活動</p> <p>この演習では、経営学の3つの視点 (会社の中・会社の外・財務) を基礎として、主に3つの活動 (地元企業への訪問と取材・グループ学習・プレゼンテーションの発表) を行う。</p> <p>企業訪問・グループ学習の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期2社・後期は2社の企業訪問を予定している。 製造業・物流業・小売業など、できるだけ異なる業種の訪問を行う。 ・1つの企業について、通常は3テーマ (3グループ) に分けてグループ学習を行う。 (例: 企業の事業システム、CO2排出量対策、人材の育成・多様な人材の活用。) ・企業の訪問後に、グループワークでパワーポイントでの報告を作成し、それを発表する。 <p>グループ学習の方法</p> <p>グループで発表資料を作成する際には、ブレインストーミング (KJ法) の方法を用いる。</p> <p>SDGs</p> <p>SDGsをテーマとしたグループ学習と報告を行う。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・参加姿勢 (企業訪問) 30% ・参加姿勢 (グループワーク) 40% ・プレゼンテーション 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合。

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目（導入）・15回目（まとめ） ・2回目・4回目（合同ゼミ、インターンシップ説明） <p>それ以外の11回の内訳：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsのテーマを1つ選んだグループ学習と発表（計3回） ・企業訪問（1回）+ グループ学習（2回）+ グループ毎の発表（1回）（計4回） ・企業訪問（1回）+ グループ学習（2回）+ グループ毎の発表（1回）（計4回）
テキスト	・演習の資料をグーグルクラスルームに掲載する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>企業訪問と、グループワークによるその報告を通した学びを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問と取材 ・グループディスカッション ・グループワークによる資料のまとめ ・グループ毎のプレゼンテーション形式での発表
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	<p>担当教員は電機メーカーに長年勤務し新興国での市場開発に従事し、販売会社の運営・組織運営や人材育成・販路や物流体制の構築・代金回等に関わって来た。これらを踏まえ、演習活動では地元企業の様々な仕組みや工夫に理解を深めて貰いたい。</p>
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習中やオフィスアワー中に対応。 ・メール対応も行う。matsui-y@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	・演習中に、又は、翌週の演習中にフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	企業訪問前の事前調査と、グループワークによる発表準備のために、事前・事後学習が必要。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ul style="list-style-type: none"> 3.すべての人に健康と福祉を 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	13.気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39204
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	山住 富也
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 A 2 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山住 富也 (経営学部)
授業の目標	さまざまなオブジェクトの特性を理解し、3次元のシーンファイル (静止画) やアニメーションの作成方法が身につく。
授業の概要	3次元CGのプログラミングを行う。システムはフリーウェアのPOV-Rayを活用する。3次元空間の座標系を理解し、物体、カメラ、光源の配置をコーディングで行う。 POV-RayはWindows上で動作するシステムである。各自でノートパソコン (OS: Windows) を持参して授業を行う。
評価方法	授業で出題する課題の提出状況で評価する。課題: 100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第1回 POV-Rayのインストールと3次元CGプログラミングの基礎 第2回 インターンシップ説明会 (1) 第3回 球の描画 第4回 インターンシップ説明会 (2) 第5回 直方体の描画 第6回 円柱の描画 第7回 円錐台の描画 第8回 トーラスの描画 第9回 無限平面の描画 第10回 図形の移動と回転 第11回 図形の拡大縮小 第12回 カラーの指定 第13回 パターンの指定 第14回 テクスチャマッピング 第15回 まとめの課題作成
テキスト	『はじめての3DCGプログラミング - 例題で学ぶPOV-Ray - 』、山住富也著、近代科学社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	反転授業を行う。毎回、各自で例題を予習し、授業中は課題を作成する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。
フィードバックの方法	メールにて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習と、2時間の復習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39205
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	山本 雅也
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山本 雅也 (経営学部)
授業の目標	<p>基礎演習 A、Bで学んだ内容を基に大学卒業後、社会の一員として働くことを想定した3R's (reading、 writing、 arithmetic) のスキルに磨きをかけることを目的とする。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会での業務を想定した3R'sを理解する。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会での業務を想定した3R'sを実践出来るようになる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前の報告連絡相談が出来るようになる。 <p>就職を想定した業界・企業・職業研究を行い各自の将来を思い描き、磨くべきスキルを検討する。</p>
授業の概要	<p>3R'sのトレーニングは主に下記の内容を実施する。</p> <p>reading (=読み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を的確に収集する技術を養う。 ・内容を理解し要約する技術を養う。 <p>writing (=書き)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口語と文語を理解し使い分ける技術を養う。 ・電子メールの雛形を理解し、対外的なやり取りを行う技術を養う。 ・美しいプレゼン資料の作成技術を養う。 <p>arithmetic (=算術 PC)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記 "reading"、"writing" を達成するためのPC活用技術を養う。 <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の判断項目により総合的に判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講態度 30% ・レポート内容 40% ・習得したスキルの実践、活用状況 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・無断欠席が3回以上に達した場合。 ・著しくコミュニケーションが取れない場合。

授業計画	<p>授業は概ね以下に示す計画で行います。本計画は受講者の習熟度や進捗状況に応じて、調整する可能性があります。</p> <p>1回目 インTRODクシヨ 2回目 合同ゼミ（2年生向けインターンシップ説明 1回目） 3回目 業界・企業・職業研究1 4回目 合同ゼミ（2年生向けインターンシップ説明 2回目） 5回目 業界・企業・職業研究2 6回目 業界・企業・職業研究3 7回目 業界・企業・職業研究 成果発表 8回目 業界・企業・職業研究 振り返り 9回目 reading1 10回目 reading2 11回目 writing1 12回目 writing2 13回目 arithmetic1 14回目 arithmetic2 15回目 総合プレゼン</p> <p>----- 前期15回のゼミのうち、2回分を合同ゼミで実施します。</p> <p>自動車業界のTier1サプライヤにおいて、設計開発・技術営業等の経験がある教員が、報告の方法、レポートの作成方法、課題解決のための思考方法を指導します。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	必要に応じて紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>必要な情報を自身で調査し、報告する力を養います。 この報告に対し、受講者でディスカッションを行い互いのスキルアップを図ります。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	<p>自動車業界のTier1サプライヤにおいて、設計開発・技術営業等の経験がある教員が、報告の方法、レポートの作成方法、課題解決のための思考方法を指導します。</p>
質問への対応方法	<p>ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。 手段は対面、メール、オンラインミーティング等、希望の方法で構いませんが、対面やオンラインミーティングを希望する場合、本授業の趣旨に則って、事前にアポイントメントを取っていただくと助かります。</p>
フィードバックの方法	<p>授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も</p>
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39206
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	四辻 秀紀
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	四辻 秀紀 (経営学部)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日々おこる様々な出来事に関心を持ち、新聞や雑誌、ネットなどから情報を収集し、自分独自のデータベースを作成する。特に今後興味を持ちでテーマとしたい事柄を探る。 ・自分自身で調べることの面白さと大切さを知り、その情報や知識を自分のものとして興味の幅を広げ、纏めることができる力を養う。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を収集し、纏め、発表し人に伝える技術を習得する。 ・自己を研ぎ、探求する楽しさや面白さを知る。 ・問題意識を持ち、自己の考えを伝えるために必要な基礎知識を習得する。 ・グループに分かれて、課題とするテーマを選び、これについて発表する。
評価方法	参加姿勢70% 課題提出30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	<p>1 イントロダクション</p> <p>2・4合同ゼミ 2年生向けインターンシップ説明会</p> <p>3・5~9 毎回ゼミの前週に新聞や雑誌などで取り上げられた記事を資料として、その情報を共有するとともに、要約レポートを作成する。</p> <p>10~14 グループによる発表およびディスカッション。</p> <p>15 まとめ</p>
テキスト	必要に応じて配布する。
参考書	必要に応じ紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応・メール対応

フィードバックの方法	翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回ゼミの前週に新聞や雑誌などで取り上げられた記事を資料として、その情報を共有するとともに、関連事項の収集をおこなう。また授業ご要約レポートを作成する。予習・復習は全体で60時間の学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39207
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	李 彩華
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、倫理や理念の視点からビジネス（経営）に関する初歩的な知識について学習します。例えば、企業不祥事の実例分析を通じて、ビジネスをする上で求められる経営理念や企業倫理、リスクマネジメント（risk management）などの基礎知識を理解し、それをレポートにまとめたり、口頭発表したりすることで、他者に説明できることを目標としています。</p> <p>< 学習成果 ></p> <p>知識・理解の観点 企業活動の基礎にまつわるビジネス用語が説明できる。 倫理や理念の視点からとらえた企業活動の基礎用語が説明できる。</p> <p>思考・判断の観点 公開された不祥事の事例を倫理や理念の視点から分析できる。 企業不祥事が多発する時代背景について理解できる。</p> <p>関心・意欲の観点 公開された企業情報（とくに理念や不祥事など）について自らの意見を述べることができる。</p> <p>態度の観点 自ら進んで資料をリサーチするようになる。</p> <p>技能・表現の観点 公開された企業情報を調べる習慣、能力が身につく。 資料を読み解くノウハウが身につく。 調べた資料をレポートにまとめ、プレゼン（口頭発表など）することができる。</p>

授業の概要	<p>前期は主に企業活動の基本という見地から、経営理念と企業倫理、リスクマネジメントの基礎知識について資料に基づいて学びます。理念や倫理の視点からとらえたビジネスの基本について理解を深めます。資料を読み解いたり、企業不祥事の事例を分析したりします。</p> <p>ただし前期のゼミでは、インターンシップの説明会を合同ゼミにて2回実施することが予定されています。</p> <p>後期の基礎演習 Bでは、前期で学習した内容を踏まえて、レポートの作成と口頭発表にチャレンジします。順番を決めて初歩的なプレゼンテーションを行います。（これに関しては、後期の第1回目の講義で詳しく案内します）。</p> <p>演習は一方的に講義する授業ではなく、学生を主役とする双方向の「学びの場」として位置付けられています。みんなで資料を読解し、議論や発表を通じて、自ら考えるという実践力を磨いていく「参加型」の授業です。</p> <p>「この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。」</p>
評価方法	<p>課題提出、質疑応答への参加姿勢、期末試験などにより、総合的に成績評価します。</p> <p>参加姿勢70%</p> <p>期末試験30%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・無断欠席は認めません。 ・やむを得ず欠席となる場合は必ず連絡すること。 ・欠席4回を超えた場合は失格(X)となる場合があります。
授業計画	<p>以下の方式で演習を実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1～2週 オリエンテーションを行います。 自己紹介や他己紹介を行い、理解し合うことをはかります。 ゼミメンバーの親睦が深まることをめざします。 2. 第3～13週 <ul style="list-style-type: none"> ・学習資料について教員の解説を聞きます。 ・各自が学習資料を読み込んで課題に取り組みます。 ・課題は一人取り組むときもあれば、グループワーク形式で取り組むこともあります。 ・毎回ディスカッションと質疑応答の時間を設けます。 ・この10週間の期間中にゼミ活動も行います。 3. 第14～15週 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習の総括をします。 ・学習成果の確認として期末試験を行います。
テキスト	用いません。
参考書	<p>有坂誠人『図解雑学 経営のしくみ』、ナツメ社2001年</p> <p>会社法研究部会『企業不祥事と対応 事例検証』、清文社2009年。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・グループに分けて課題に取り組み、解答について授業内で共有し、ディスカッションをします。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習中に質疑応答の時間を設けます。 ・次の演習時に回答する対応もします。
フィードバックの方法	・課題返却の形でフィードバックします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>【準備学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布した資料および自分のレベルにあった参考書をよく読んで予習・復習してもらいます。一回の講義につき、4時間程度をかけて予習・復習してもらいます。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39208
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 A 1 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	<p>課題解決，課題達成のために，最適な分析方法でデータを処理し，得られた結果を考察したり，それに基づき予測ができたりすることを目標とする．</p> <p>ビッグデータ時代といわれる現在では，文系の学生も統計学を理解し，データ分析ができることがビジネスにおいて不可欠になっている．金融業，製造業，小売業，サービス業，農業，教育，医療など，あらゆる業界において，ビッグデータを活用して合理的な決定を行うために統計学はなくてはならないものになってきているのである．</p> <p>知識・理解の領域 外れ値の検出，データの標準化や季節調整の仕方などのデータ分析の方法を理解する．</p> <p>技能の領域 PC操作に慣れる．エクセルで回帰分析の結果を使ったシミュレーションをすることができる．ソルバーを使って最適化問題を解くことができる．ピボットテーブルで集計することができる．</p> <p>態度・志向性の領域 「データ分析ができる」，「データ活用ができる」人材が社会に必要であるという認識を持つ．</p> <p>思考判断の領域 根拠の確かな事実に基づき統計学的に正しく推論することができる能力を持つ．</p> <p>関心意欲の領域 社会の「デジタル化」に乗り遅れないようにデータサイエンス，統計学の基礎理論を習得し，自分でデータ解析を行う意欲を持つ．</p>

授業の概要	<p>ビジネスの現場でさまざまなデータを活用するための基本的な知識を取得し、エクセルを使った簡単なデータ分析を行う。 教科書にしたがって無理のない進度で進めていき、受講生の知識や能力に合わせ、個別対応する。</p> <p>扱う問題は具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> データを効率よく集める データ分析でよく使うエクセルの機能を確認する データを整える データをまとめる、分解する グラフでデータを可視化する 中長期的な目線で売上推移を分析する 販売計画と実績を比較する ABC分析を実施する 売上金額と粗利益の両方から商品进行评估する 効率よく利益を生みだしている部門を見つける バーゲン効果の高い商品を見つける 粗利益を最大にする販売価格を見つける 販売実績をもとに来期の売上高を予測する 売上変動を考慮した月別販売計画を立てる 複数のデータから新店舗の売上高を予測する 売上を説明する要因の影響力を調べる <p>問題演習や課題の作成は授業中に指導、対話しながら行う。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	演習での作業の内容、提出された課題の内容などを総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと
テキスト	「Excelで学ぶ データ分析本格入門」 火花弘子 著 (SBクリエイティブ株式会社) 2019年 ISBN:978-4-8156-0285-7
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	エクセルを使ってグラフを作成したり、データ分析を行ったりなどの実習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回、授業時間内に終わらなかった課題があったらそれを終わらせる。30分程度以内。復習、予習についての詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	説明 データ分析とは	学生の理解の状況等に応じて、授業内容は変更されることがある。 授業内容の具体的な説明 データ分析はどこからどこまでか データ分析を行う理由 データ分析がもたらす副産物	教科書CHAPTER01の01の復習。4時間程度。
2	合同ゼミ	2年生向けインターンシップ説明(1回目)	教科書CHAPTER01の02の復習。4時間程度。
3	ビジネスデータの収集と加工	集めやすいデータから集める 外れ値を検出する 天気データをデータ分析に使う	教科書CHAPTER02の01の復習。4時間程度。
4	合同ゼミ	2年生向けインターンシップ説明(2回目)	教科書CHAPTER02の01の復習。4時間程度。
5	ビジネスデータの収集と加工	PPDACサイクルとエクセルの関係 エクセルのデータ分析機能	教科書CHAPTER02の02の復習。4時間程度。
6	ビジネスデータの収集と加工	入手したデータを整える 売上日と売上高の散布図を作成する 突出した値と原因を確認する	教科書CHAPTER02の03の復習。4時間程度。
7	ビジネスデータの収集と加工	ピボットテーブルで集計する ピボットテーブルを通常の表にする テーブルの機能を試す	教科書CHAPTER02の04の復習。4時間程度。
8	ビジネスデータの収集と加工	目的に応じたグラフを作成する グラフを編集する 今までの復習	教科書CHAPTER02の05の復習。4時間程度。
9	販売に関するデータ分析	売上変動を除去して図解するZチャートを使う 売上のばらつきを除去する原理を理解する	教科書CHAPTER03の01の復習。4時間程度。
10	販売に関するデータ分析	Zチャートで計画と実績を比較する	教科書CHAPTER03の02の復習。4時間程度。
11	販売に関するデータ分析	重要度をABCランクに仕分けするABC分析を実施する パレード図で可視化する	教科書CHAPTER03の03の復習。4時間程度。
12	販売に関するデータ分析	クロスABC分析を実施する MATCH関数、INDEX関数、IFERROR関数を使う	教科書CHAPTER03の04の復習。4時間程度。
13	販売に関するデータ分析	交差比率で販売効率のいい商品を見つける 交差比率と粗利益のバブルチャートを作成する	教科書CHAPTER03の05の復習。4時間程度。
14	販売に関するデータ分析	需要の価格弾力性で価格に対する反応度を数値化する	教科書CHAPTER03の06の復習。4時間程度。
15	まとめ	ソルバーで粗利益が最大になる需要曲線上の数量と価格の組み合わせを求める 今までの復習	教科書CHAPTER03の07の復習。4時間程度。

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39209
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、デジタルを中心とした広告・マーケティングに関する情報記事を多角的な視点から読み取り、企業の広告・マーケティング活動に関心を持つと同時に、それらを簡潔に整理しプレゼンすることを目指します。</p> <p><学習成果> 知識・理解の領域 広告・マーケティングの視点から見た企業活動に関する理解が深まる。</p> <p>技能の領域 広告・マーケティングの現状と最新動向を把握し、それらの基本的な知識と実践力を身につけることができる。</p> <p>自分の頭を使って理解した知識・情報などを、聴く側にとって簡潔にわかりやすく文章化すると同時に、見やすくビジュアル化して「魅せる」プレゼンのパフォーマンスができる。</p> <p>態度・志向性の領域 企業のさまざまな広告・マーケティング活動を「企業サイド」と「顧客サイド」両サイドの視点から客観的に把握し、何らかの形で売するための新商品のコンセプトをつくるようになる。</p> <p>思考・判断の領域 さまざまな状況変化に合わせて、迅速かつ柔軟に対応することの重要性に気づく。</p> <p>関心意欲の領域 広告・マーケティングのマインドを身につけることで、あらゆる業種(製造業・小売業・サービス業・販売業・通信業など)の仕事への関心が高まる。</p>

授業の概要	<p>1. マーケティング・マインドを身につけることで、どのようなメリットが得られるのかを知ってもらう。</p> <p>2. マーケター向け専門メディア『マーケジン』に頻繁にアクセスし、さまざまな企業の広告・マーケティング活動の最新事例(記事・レポート)を読み通すことで、企業の広告・マーケティング活動に関心を持つ。</p> <p>3. 自分が興味・関心のある広告・マーケティング関連情報(記事・レポート)を選び、その資料の内容を簡潔にまとめ、プレゼンする。</p> <p>4. インターンシップのガイダンスのために振り替えることがある。</p>
評価方法	<p>授業への参加度・取り組み姿勢 40%(ゼミの出席率は100%が基本です。2回以上欠席したら、成績Aはもらえないです。)、課題の完成度 40%(パワーポイントの作り方、プレゼンの姿勢、質疑応答の態度)、ゼミ生同士の相互理解度 20%(基本的にゼミ生全員の名前を覚えることが大事です。教室に入ったらゼミの先生をはじめ、ゼミ生全員の目を見て笑顔で挨拶することが大事です。)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>1. マーケター向け専門メディア『マーケジン』がオンラインで無料配信する情報(記事・レポート)を収集・分析することで、それが将来どれだけ役に立つのかを知ってもらうと同時に、広告・マーケティングに関する基礎的な知識を身につける。</p> <p>2. マーケター向け専門メディア『マーケジン』がオンライン無料配信情報(記事・レポート)を読み通し、簡潔で聞き手が分かりやすいレジюмеを作成する。</p> <p>3. 自分が作成したレジюмеをコピーしゼミ生に配布し、口頭でプレゼンした後、ゼミ生全員から感想・コメントをもらい、レジюмеの書き方やプレゼンの姿勢などを改善する。</p> <p>4. パワーポイントの基本的な使い方を身につけると同時に、人前でプレゼンする時の最も重要な言語的コミュニケーションおよび非言語的コミュニケーションの重要性について理解した上で、上記の資料を読み通してそれをまとめ、パワーポイントを使ってプレゼンする。</p> <p>【言語的コミュニケーション】 1分分かりやすい文章の書き方、2大きな声ではっきり話すこと、3的確な質問力など。</p> <p>【言語的コミュニケーション】 1笑顔で話しながら笑いをとること、2相手と適度な頻度で「アイコンタクト」を取ること、3場の空気を読むこと、4リラックスして身振り手振り(ボディランゲージ)を交えること、5相手のリアクションを見極めることなど。</p> <p>5. 情報室で実際自分がまとめたレジюмеの内容をもとに、パワーポイントを使ってプレゼンする。</p> <p>*2年生向けインターンシップ説明会を合同ゼミで2回実施する予定。1回目:4月中旬(2回目の授業)、2回目:5月初旬(4回目の授業)</p>
テキスト	なし
参考書	<p>井庭崇・井庭研究室[2013]『プレゼンテーション・パターン?創造を誘発する表現のヒント』慶應義塾大学出版会。</p> <p>三谷宏治[2015]『[図解]伝わる書き方超入門?伝わる文にどんどん変わる3つのステップ』PHP。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業後に対応
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>準備学習(予習・復習等)60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。</p> <p>・予習:資料調べ</p> <p>・復習:演習内容に関するレポート作成と発表</p>
使用言語	日本語

SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39210
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	宮島 良子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮島 良子 (経営学部)
授業の目標	<p>自分で考え、調べ、まとめ、発表し、実行に移すことができるようになる。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 経営的な視点を持ち、ビジネスや人生を生き抜く上で必要となる様々な知識を得ることができる。</p> <p>技能の領域 多くの情報の中から、自分の得た知識を簡潔にまとめ、プレゼンテーションして、多くの人に理解してもらうことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 経営学部の学生として経営に興味を持ち、ビジネスを客観的に分析することができ、更に専門的なものを知りたい、学びたいと思うようになります。</p> <p>思考・判断の領域 多角的な視点を持ち、人間の多様性と普遍性を学習と経験を通して学ぶことができます。</p> <p>関心意欲の領域 社会がいかに多くの人々の営みによって形成されているのかを知り、今まで関心が無かった、もしくは薄かったところにも興味を持つようになります。</p>
授業の概要	<p>〔授業形態〕 対面授業ではありますが、この授業では、情報共有や課題提出の手段として、Googleクラスルームなどをを使う可能性があります。</p> <p>課題の提出はEmail、グーグルクラスルームやグーグルフォーム等を利用します。</p> <p>ア) まず、情報収集のためにどのようなものがあるのかを調べます。 次に、得た情報の真偽を確かめること、重要度を意識し、整理します。 関連したテーマを決め、特に興味を持ったものについて、更に調べ、まとめて発表します。 質問づくり、ブレインストーミング、パラグラフライティングなどを扱います。 テーマはSDGsなどを中心に扱います。</p> <p>イ) P(計画)D(実行)C(評価)A(改善)サイクルを体感するため、イベントを企画立案、実行、振り返ります。</p> <p>ウ) インターンシップに関する事前準備活動を実施します。</p> <p>〔この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。〕</p>

評価方法	<p><成績評価> 授業への活動および課題への取り組み（「課題提出」および「質問に対する回答」など）（60%）および前期2回実施する発表（プレゼンテーション）（20%）・レポート作成（20%）などの結果により、総合的に評価します。</p> <p>毎回の授業では、テーマに沿った200字程度の文章を作成します。 授業での活動：4点×15回＝60点 発表・レポート・企画の実施など：40点</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特段の配慮が必要ではない5回以上の欠席があった場合には失格となります。
授業計画	<p><第1週> オリエンテーション</p> <p><第2週～第7週> 「SDGs」「ビジネス」に関連する特集記事等を複数読んだり、視聴したりして、知識を増やします。自分の理解と他の人たちの理解を比較したり、意見を交換しながら、思考を深めます。毎回テーマに沿った200字程度の文章を作成します。 関連したテーマについて調べ、まとめ、パワーポイントを作成し、発表します。</p> <p><第8週> 前半の振り返り</p> <p><第9週～第13週> イベントの企画、提案、実行 P(計画)D(実行)C(評価)A(改善)を体験するため、学内イベント等を企画立案し、プレゼンし、投票し、実行します。</p> <p><第14週～第15週> イベントの報告記事作成 イベントの振り返り</p> <p>なお、もし、後期に大学祭が実行可能な状況になっている場合には模擬店を出店することにより、模擬ビジネスを通じて実際に損益計算を経験することを推奨します。</p>
テキスト	特になし。必要な資料は配布し、また、適宜Google Classroomにアップロードします。
参考書	<p>授業内やGoogle Classroom等で適宜、紹介します。</p> <p>参考URL http://toyokeizai.net/ http://business.nikkeibp.co.jp/ https://jp.reuters.com/</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	2-4名1組となり、主体的に課題に取り組んだり、討論したりする、アクティブラーニングを実施します。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	海外での日本語教育の経験や留学生教育を通じて培った異文化理解などを扱います。
質問への対応方法	<p>授業前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、メールなどでも随時受け付けます。</p> <p>オフィスアワー以外の面談は事前に予約を入れてください。</p>
フィードバックの方法	授業内やオフィスアワー、Google Classroomなどを活用して行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>授業時には話し合い活動やプレゼンテーション、評価活動などを実施しますので、準備として授業外での文献調査、インタビュー調査、アンケート調査、発表資料の作成、レポート作成の活動を求めます。</p> <p>講義（2単位）週1コマ（30時間）につき、60時間の準備時間が必要となります。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>3.すべての人に健康と福祉を</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>

SDGs 17の目標 (11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39211
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	柴田 良一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	柴田 良一 (経営学部)
授業の目標	<p>組織を運営するためには様々な場面で意志決定しなければならない。的確な意志決定を下すためにはその元となる客観的な数値データを読み解くことが不可欠である。この演習では、数値データの持っている意味を読み解き、その意味を文書にすることを目標とする。</p> <p><学習成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 知識・理解の領域 数値データの単位を理解する 技能の領域 数値データの統計的処理とグラフ化 態度・志向性の領域 定量的に物事を捉える姿勢 思考・判断の領域 数値データの変化からその意味を考える 関心意欲の領域 帰納的思考から演繹へ
授業の概要	<p>社会科学における数値データの具体例に基づき、数値データの持っている意味、そして簡単な統計的分析結果の意味を考える。</p> <p>身近な所にある「数」を改めて考えてみる。それらの成り立ちや意味を通して「数」との関わりを再認識する。様々な事象を表現している「数」を再度考える。「数」の性質や統計の知見を応用して客観的に物事を考える。これらの知見に基づきゴールに至るシナリオを考え、文章に構造を導入する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>参加姿勢 60%</p> <p>レポート 40%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	第01回 担当の自己紹介と履修登録確認 第02回 メンバー間の他己紹介、および内容の紹介 第03回 身近にある数 第04回 働くこと意味とインターシップ 第05回 組み合わせを考える 1 第06回 組み合わせを考える 2 第07回 比例と一次関数 第08回 二次関数(最大、最小) 第09回 複利と巾関数 第10回 発想支援 1 第11回 発想支援 2 第12回 論理的思考(帰納、演繹) 第13回 文章のシナリオ 第14回 文章の構造化 第15回 振り返りと補足
テキスト	なし
参考書	大学図書館の「日経BP記事検索サービス」
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループあるいは個人で与えられたテーマに関してその内容をブレインストーミングまたはマインドマップでまとめ、発表する。その後文章としてまとめる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業における情報システムの設計・開発でシステム・コンサルタントとして常に情報システムの持つ意味や外部との関係を考えながら設計・開発の全体を管理・調整を行ってきた。この経験を生かし情報システムという視点で経済・社会を見る目を伝えたい。
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ オフィスアワーで対応 ・ メール (shibata-r@nagoya-ku.ac.jp) で対応
フィードバックの方法	翌週に簡単なコメントとともに返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	翌週の内容を指定したサーバーに公開するので事前に熟読しその内容を理解すること、授業終了後には復習レポートを毎回提出する。授業期間内で60時間超える時間が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 A / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	39212
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	植村 眞司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	植村 眞司 (経営学部)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生生活3年目を迎え、経営学の学びが企業活動の中でどのように生かされているかを発見すること 2. 企業をめぐるマスコミやメディアの報道に興味をもつようになること 3. 就活へ向けて、興味をもつ産業分野(業界)または企業を1つ以上発掘すること、及びその幅を広げること 4. 自分の「強み」を定義できるようになること 5. 以上を踏まえて「大学卒業時にこうなっていたい自分」を見つけること 6. 上記5の「こうなっていたい自分」をゼミの仲間と語り、理解し合い、互いの信頼関係を築くこと
授業の概要	<p>企業自体に「興味」を持ち、企業活動の「仕組み」の習得すること、そのための基礎的な技能を身につける方法などを学ぶ授業を行います。</p> <p>前項の「基礎的な技能」とは、必要な情報を要領よく収集し、それを分析・整理・活用する力、文章を読む力、ひとの話を聴く力、自分の考えを相手方に「感動」とともに伝える力、をさします(いずれも社会に出ると直ちに求められるスキルです)</p>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと 2. 多様なテーマについて学び、どのテーマに対しても自分の考えを述べるができること 3. 都度の課題等に対するレポートを簡潔に作成し、提出すること <p>以上、出席が良好であること(ゼミは出席が基本です)を前提に、上記1から3の基準に沿って総合的に評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・計15回のゼミのうち、第1回ではイントロダクションを行い、ゼミ生ひとりひとりの「ゼミ運営のための役割」を決め、以降のゼミで実践してもらいます。 ・第2回～第12回のゼミは、普段の学生生活と就職希望企業などとの様々な接点(アルバイト、通学で使用する車の購入、外食、インターネットサービスやネットショッピング、ATMなどの銀行サービス、旅行、インターンなど)を取り上げ、それぞれのビジネスシーンをクローズアップして観察を行います。その観察は経営学だけでなく、経済学、法学、政治学、社会学などの多様な観点から試みます。 ・第13回～第15回は、第12回までのゼミでの学びをもとに、グループに分かれ、企業の活動に関係するテーマを1つ決めてグループワークを行います。最終回にはその成果を発表してもらう予定です。
テキスト	特に使用しません。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミの運営のなかで、司会、ディスカッションの進行、成果のとりまとめ、記録などを分担して、学生自らが行う、簡単な「ワークショップ型」のアクティブラーニングを一部に取り入れたいと思います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	ゼミでは、教員が企業で多くの新入社員を迎えてきたなかで、彼らから聞いた学生時代の学び、喜び、楽しみ、反省（もっとこういうことをやっておけばよかった）などをみなさんと共有しながらゼミ授業を行いたいと考えています。
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各ゼミにおいて、予習や準備を必要とする課題を扱う場合、前週のゼミの終了時にその旨を連絡します。復習についても、あれば何をどのように復習してもらうかについて、予習と同様、事前に連絡します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 17. パートナリシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之 (経営学部)
授業の目標	<p>本演習では、1年次・2年次で学んだ簿記・会計に関する知識をもとに、企業が公表した財務諸表（貸借対照表や損益計算書）を分析するための基礎的手法の修得を目標とします。</p> <p>学習成果 知識・理解の観点 会計の基礎知識を修得し、財務諸表がどのようにして作成されているかを理解します。 財務諸表に記載されている専門用語を理解します。 財務諸表に記載されている情報を活用し、企業を分析するための基礎的な手法を修得します。 思考・判断の観点 財務諸表の分析結果から企業の状態や成績を判断します。</p>
授業の概要	<p>貸借対照表や損益計算書といった財務諸表には、その企業が1年間でどれだけの利益（損失）をあげたか、またどれだけの財産を保有しているか、どれだけの借金を抱えているか・・・といった、経営成績や財政状態に関する情報が詳細に示されています。したがって、財務諸表は企業の業績を知る上で非常に重要な書類であると言えます。</p> <p>そこで、まず前期の専門演習では貸借対照表や損益計算書の見方を学び、後期に行う企業分析につながるような学習をします。</p>
評価方法	課題の提出状況や分析結果の報告状況をもとに評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	他の授業同様、欠席回数が多い場合は失格になることがあります。
授業計画	<p>前期の専門演習では、財務諸表を読み解くための基礎的な知識を修得します。後期の専門演習では、企業が公表した財務諸表の実物を入手し、以下のような点を分析するための手法を学びます。前期はそれに向けた準備のための学習をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全性（債務を返済する力がどの程度あるか？） 2. 収益性（利益をあげる力がどの程度あるか？） 3. 成長性（将来的に伸びていく力があるか？） <p>なお、財務諸表の入手については、有価証券報告書の電子開示システムや各企業のホームページを活用します。</p> <p>また、第2週目と第7週目に経営学部全体の合同ゼミを実施し、PROGテストとその解説を行う予定です。</p>
テキスト	古賀智敏『改訂版 財務諸表と企業分析入門』千倉書房
参考書	追って指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	課題について報告を課すことがあります。

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	日商簿記検定試験委員の担当経験がある教員によって行われる授業です。
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	レポート、課題などは翌週に返却して解答・解説を行う予定です。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	テキストを事前に読んだり、ゼミ終了後にテキストに記載された課題に取り組むと、より一層の学習成果が得られます。（予習・復習各2時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39301
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 壽男 (経営学部)
授業の目標	<p>業種・業態別簿記を学び簿記技術の応用力を高める。</p> <p>知識・理解の領域 一般小売・卸売業のほか製造業、建設業、輸出輸入業、割賦販売業など業種・業態別による会計処理技術を学ぶことにより、業種・業態を理解し就職活動のための視野を広げることができる。</p> <p>技能の領域 積極的に日本商工会議所簿記検定試験の上位グレードにチャレンジする。</p> <p>態度・志向性の領域 多様な簿記技術の修得を通じて、大学生としての教養と就業意識を高める。また、就職活動のため、社会人としてのマナー・接遇を身につける。</p>
授業の概要	一般小売・卸売業のほか製造業、建設業、輸出輸入業、割賦販売業など業種・業態別による会計処理技術を学び簿記技術の応用力を高める。なお、この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	ゼミ課題への取組度 (50%)・ゼミの諸活動への取組度 (50%) で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション (ゼミの取り組み内容とその進め方および評価方法の説明)</p> <p>第2回 製造業の利害調整機能と情報提供機能</p> <p>第3回 原価要素と費目別計算 (材料費を中心に)</p> <p>第4回 原価要素と費目別計算 (労務費・経費を中心に)</p> <p>第5回 製造直接費と製造間接費</p> <p>第6回 製造間接費の部門別計算</p> <p>第7回 個別原価計算:造船業を例に考える</p> <p>第8回 仕掛品勘定と製造原価報告書の関係</p> <p>第9回 損益計算書と製造原価報告書の関係</p> <p>第10回 貸借対照表と製造原価報告書の関係</p> <p>第11回 総合原価計算:アパレル業を例に考える</p> <p>第12回 総合原価計算:酒類製造業を例に考える</p> <p>第13回 企業の固定費と変動費</p> <p>第14回 損益分岐点とCVP分析</p> <p>第15回 直接原価計算:飲食業を例に考える</p> <p>なお、4月中旬および5月下旬に、PROGテストにかかる合同ゼミを実施する予定である。</p>
テキスト	使用しない。毎回レジュメを配付する。
参考書	

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	同一テーマにつきグループ単位で議論し、そのとりまとめをゼミ内で報告し合い、比較・検討する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。
フィードバックの方法	ゼミで提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前にGoogle Classroomにより課題の資料を配信するので2時間程度の予習を要す。また理解度確認のため、事後に2時間程度の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39302
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	松井 義司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 3 E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	松井 義司 (経営学部)
授業の目標	<p>経営学の3つの視点を通して、3つの活動を行う。</p> <p>経営学の3つの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社の中 (経営資源/組織能力・仕組み) ・会社の外 (顧客・市場へのアプローチ、マーケティング) ・財務 (売上・採算・資金繰り) <p>3つの活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業への訪問と取材 ・グループ学習 ・プレゼンテーションの発表 <p>学びの目標</p> <p>これらを通して以下を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業や社会への理解 (知識・理解の領域) と関心 (態度・至高性の領域) を深める。 ・経営学の理論の理解 (知識・理解の領域) ・グループワークの運営 (技能の領域) ・プレゼンテーションの作成と発表 (技能の領域)
授業の概要	<p>企業訪問・グループ学習の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期2社・後期は2社の企業訪問を予定している。 製造業・物流業・小売業など、できるだけ異なる業種の訪問を行う。 ・1つの企業について、通常は3テーマ (3グループ) に分けてグループ学習を行う。 (例: 企業の事業システム、CO2排出量対策、人材の育成・多様な人材の活用。) ・企業の訪問後に、グループワークでパワーポイントでの報告を作成し、それを発表する。 <p>グループ学習の方法</p> <p>グループで発表資料を作成する際には、ブレインストーミング (KJ法) の方法を用いる。</p> <p>業界研究</p> <p>グループ学習で様々な業界について研究を行う。</p> <p>4グループに分け、各グループが各2テーマの発表を行う。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・参加姿勢 (企業訪問) 30% ・参加姿勢 (グループワーク) 40% ・プレゼンテーション 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合。

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目（導入）・15回目（まとめ） それ以外の13回の内訳： <ul style="list-style-type: none"> ・業界研究 オリエンテーション（1回）、グループ学習（2回）、発表（2回）（計5回） ・企業訪問（1回）+ グループ学習（2回）+ グループ毎の発表（1回）（計4回） ・企業訪問（1回）+ グループ学習（2回）+ グループ毎の発表（1回）（計4回）
テキスト	・演習の資料をグーグルクラスルームに掲載する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>企業訪問と、グループワークによるその報告を通した学びを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問と取材 ・グループディスカッション ・グループワークによる資料のまとめ ・グループ毎のプレゼンテーション形式での発表
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	担当教員は電機メーカーに長年勤務し新興国での市場開発に従事し、販売会社の運営・組織運営や人材育成・販路や物流体制の構築・代金回等に関わって来た。これらを踏まえ、演習活動では地元企業の様々な仕組みや工夫に理解を深めて貰いたい。
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習中やオフィスアワー中に対応。 ・メール対応も行う。matsui-y@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	・演習中に、又は、翌週の演習中にフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	企業訪問前の事前調査と、グループワークによる発表準備のために、事前・事後学習が必要。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ul style="list-style-type: none"> 3.すべての人に健康と福祉を 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	13.気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39303
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>専門演習I (前期・後期を通して) では、卒業研究の研究計画策定を目標とします。私たちの周りには、たくさんの課題がありますが、それらの課題は漠然としており、簡単にアプローチすることはできません。研究計画を策定するためには、漠然とした課題を解ける問題に変換する必要があります。そのための能力 (問題解決能力) を身に付けることを目指します。</p> <p>< 学習成果 > 知識・理解の領域 理論的に問題を説明することができる。 技能の領域 問題を発見し調査計画を立案できる。 態度・志向性の領域 身の回りにある問題に関心を持つようになる。</p>
授業の概要	<p>専門演習IAでは、マーケティング論や消費者行動論を題材に卒業研究を遂行するために必要な基礎的能力を身に付けることを目的とします。</p> <p>そのための演習として、まずはマーケティング分野の代表的な論文や専門書の輪読を行います。論文を読解することで、マーケティングに関する知識を得るだけでなく、研究手法や学術的文章の型を学ぶことも狙いとしています。</p> <p>次に、マーケティング調査の手法を学びます。具体的には、最初にマーケティングに関わらず社会調査全般で用いられるアンケート調査の基本を身に付けます。また、商品やサービスの最適な構成要素を発見するコンジョイント分析やエリアマーケティングで用いられるGIS (地理情報システム) など、進捗状況に応じてマーケティングで用いられる調査手法を学びます。</p> <p>最後に集大成として、これまで学んだことを活かし、身の回りにある問題や興味・関心事についてグループで研究してもらいます (後期ゼミ)。</p> <p>要望や状況に応じて変更することがあります。</p>
評価方法	成績はゼミへの参加態度 (宿題や発表の内容も含む) で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>以下の事由により失格になる場合がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著しく欠席・遅刻が多い場合 ゼミは毎回の出席を前提に進めます。無断欠席は厳禁です。 ・教員の連絡に応じない場合 ・宿題の提出や発表を怠った場合

授業計画	1 回目：演習内容の確認、基礎演習の振り返り 2 回目：PROGテスト 3～4 回目：マーケティング分野(経営学も)の代表的な論文の読解 5～6 回目：マーケティング調査の学習(主に専門書の輪読) 7 回目：PROGテストの解説 8～12 回目：マーケティング調査の学習(主に専門書の輪読) 13 回目～15 回目マーケティング調査手法の演習(進捗状況による) 要望や状況に応じて変更することがあります。
テキスト	恩蔵直人・富田健司「1からのマーケティング分析(第2版)」碩学舎 2022
参考書	授業時に指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	指定されたテキストの章について発表した後、質疑応答を実施し、全員でテキストの理解を深める。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業終了後もしくはオフィスアワーにて対応する。
フィードバックの方法	授業中にフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・指定テキストを用いて予習・復習する。 ・授業内容について復習する。 各回、2時間の予習と2時間の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39304
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 B 3 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>大学教育においては、文系・理系の学生を問わず教養教育と専門教育の両方が必要である。教養教育では、社会人として最低限身に付けておいてほしい一般常識や数学・英語の基礎、社会人としてのマナーを学ぶ。</p> <p>また、現代は企業を取り巻く環境が短期間で変化する世の中である。変化に適応できる人材を育てることが専門教育の急務である。</p> <p>当ゼミでは、企業などが経営活動を進めていく過程において発生する諸問題を統計学の立場から考察し、問題の本質をつかみとり、自らの力で解決できる能力を身につけることを理想的な目標とする。企業にとって重要な在庫管理の問題にも踏み込み、在庫費用最小化あるいは利益最大化の問題を理解し、自力で解けるようになることも目標とする。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 授業で学んだ専門用語を理解し、説明できる。</p> <p>関心・意欲の領域 教員から与えられたことだけでなく、自分で積極的に新聞や学術雑誌などから、演習で使えるような題材、特集、データなどを探し、教員に提示できる。</p> <p>技能の領域 回帰分析、検定、区間推定、線形計画法などをコンピュータソフトを用いて解析できる。</p>
授業の概要	<p>高度情報化社会といわれる現代において、情報のひとつの形である統計学の理論・実践を学んでいく。本演習の性格上、数学的なことが主になるが、できるだけ分かりやすく解説していく。</p> <p>1990年代に入ってインターネットがビジネスの分野にも広く開放された。それをきっかけに多くのネットビジネスが展開された。英語の論文を全員で講読することにより、ネットビジネスの難しさ、数理的に解を導くためのモデルの構築の仕方、コンピュータを活用した解き方などを学ぶ。</p> <p>また分析にあたって、在庫管理、販売管理などの知識が必要とされるので、こうした実務イメージを通して、経営の実態を知る能力を学ぶ。</p> <p>毎回の授業に関して予習及び復習を必ず行い、かつ受身で参加するのではなく、積極的に学習してほしい。</p>
評価方法	<p>前期・後期ともに参加姿勢、3～4回の課題レポート、期末試験で評価する。</p> <p>具体的に以下のような比重で評価するものとする。</p> <p>参加姿勢 40%</p> <p>レポート 30%</p> <p>期末試験 30%</p> <p>授業内で行ったレポートは採点し、返却する。理解度が良好でないとは判断した部分については、次回授業で復習する。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 15回の出席のうち、出席回数が12回に満たない場合 ・ 特別な理由なしに2回連続で欠席した場合
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス及び履修登録 2. 英語論文の紹介 3. 英語論文の輪講(1) 4. 英語論文の輪講(2) 5. 英語論文の輪講(3) 6. 優良企業の経営を探る(1) 7. 優良企業の経営を探る(2) 8. 優良企業の経営を探る(3) 9. 英語論文の輪講(4) 10. 英語論文の輪講(5) 11. 英語論文の輪講(6) 12. 優良企業の経営を探る(4) 13. 優良企業の経営を探る(5) 14. 優良企業の経営を探る(6) 15. 全体のまとめと振り返り
テキスト	追って指示する .
参考書	追って指示する .
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・ 2名から3名のグループを作り、グループごとに課題を議論し、解決方法をまとめる。パワーポイントなどを使って発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業後に対応する ・ メールで対応する (greatriver-1@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	授業の終りに課したレポートまたは小テストは、採点及び評価をして翌週に返却する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス及び履修登録 前期履修希望科目のシラバスと前期履修登録の手引きをよく読んでくる。2時間の予習と2時間の復習を課す。 2. 英語論文の紹介 2時間の予習と2時間の復習を課す。 3. 英語論文の輪講(1) 論文のアブストラクトを読む。2時間の予習と2時間の復習を課す。 4. 英語論文の輪講(2) 論文のアブストラクトの続きを読む。2時間の予習と2時間の復習を課す。 5. 英語論文の輪講(3) 論文の第1章を読む。2時間の予習と2時間の復習を課す。 6. 優良企業の経営を探る(1) コンビニエンスストアの経営を探る。2時間の予習と2時間の復習を課す。 7. 優良企業の経営を探る(2) コンビニエンスストアの経営を探る。2時間の予習と2時間の復習を課す。 8. 優良企業の経営を探る(3) コンビニエンスストアの経営を探る。2時間の予習と2時間の復習を課す。 9. 英語論文の輪講(4) 論文の第1章の続きを読む。2時間の予習と2時間の復習を課す。 10. 英語論文の輪講(5) 論文の第2章を読む。2時間の予習と2時間の復習を課す。 11. 英語論文の輪講(6) 論文の第2章の続きを読む。2時間の予習と2時間の復習を課す。 12. 優良企業の経営を探る(4) ホームセンターの経営を探る。2時間の予習と2時間の復習を課す。 13. 優良企業の経営を探る(5) ホームセンターの経営を探る。2時間の予習と2時間の復習を課す。 14. 優良企業の経営を探る(6) ホームセンターの経営を探る。2時間の予習と2時間の復習を課す。 15. 全体のまとめと振り返り 第1回目から第14回目を振り返る。2時間の予習と2時間の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39305
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	李 美善
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)
授業の目標	<p>さまざまな企業ケースから経営戦略の知識を理解する。ケーススタディを通じて学ぶことによって、体系的かつ実践的な知識を理解するとともに、経営戦略の有効性を判断できるようになる。なお、「読む、調べる、考える、書く、発表する、魅せる」スキルを養うことを目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 経営戦略とは何かを理解し、研究・報告のスキルを実践できる。</p> <p>技能の領域 -読む、調べる：新聞や雑誌記事及び本を活用する技術を学習する。 -考える：ポイントを掴む、多様な角度から物事を考える力を養う。 -書く：ストーリーの描き方と論理的に述べる技術を学習する。 -発表する：自分自身の考えをまとめ、説明できる力を養う。 *魅せる：「伝える」発表から「伝わる」発表のスキルを習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 さまざまな角度からものごとを解釈でき、自らと異なる考えを受け入れる態度を養う。</p> <p>思考・判断の領域 競争力が高い企業とそうでない企業を見分け、なぜそうなのか？などを論理的に考える力を養う。</p> <p>関心意欲の領域 企業経営について学ぶことによって、将来の仕事への関心が高まる。</p>
授業の概要	<p>急速な技術革新やグローバル化により企業間の競争が激化している今日、企業を取り巻く経営環境は大きく変化している。こうした激しい変化のなかで、企業を持続・発展させることは容易ではない。その中で、高い成果を上げ成功している企業には、必ず理由がある。本演習では、その理由の一つを経営戦略にあると考え、さまざまな企業のケースを取り入れて経営戦略の知識を身につけ、その知識を発表・議論する方法で進めることとする。発表、議論、グループワークなどゼミ活動を通してみなさんに必要な「コミュニケーション能力」、「柔軟性」、「積極性（チャレンジ精神）」、「協調性」、「誠実性」を習得できる。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢（50%）及び課題の完成度（50%）による評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと 2. ゼミの仲間の発表をよく聴き、その発表に学び、それについての自分の考えを述べること 3. 自分の選んだテーマについてレジュメ・パワーポイントにまとめ、ゼミの仲間の前でわかりやすく説明すること 4. 自分の選んだテーマをレポートに仕上げること
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 13回に満たない場合は失格とする。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. さまざまな企業のケースを取り入れ経営戦略の基礎知識を学ぶ 2. 研究を進める：情報（新聞、雑誌記事）を持ち寄って分析しよう 3. 研究報告をまとめる：スライド資料の作り方 プレゼンテーションの方法 報告準備 4. プレゼンテーションとディスカッション：分かりやすく説明することに挑戦してみよう <p>* 適時グループワークを行う。 * 第2回目の講義はPROGテストを実施し、第7回目の講義はPROGテストの解説を行う。</p>
テキスト	なし
参考書	<p>伊丹敬之・西野和美編『ケースブック：経営戦略の論理』 日本経済新聞社 『経営学検定試験公式テキスト2.4』経営能力開発センター 中央経済社 『日経ビジネス』『日本経済新聞』『日経産業新聞』などの記事を積極的に利用する。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>本演習では「プレゼン力」、「思考力」、「知識」を身につけるため下記のアクティブラーニングを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のさまざまなテーマ（SDGsなど）について、グループでディベートを行い、賛成・反対の両方からバランスよく考える。 ・グループ毎で異なる課題を議論し、アイデア・解決方法を提案する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で課したレポートなどは確認後、随時フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>本演習は下記の内容をこなすため、準備学習として各回、予習2時間、復習2時間が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ設定 ・資料調べ ・企画・提案書づくり（ワードで作成） ・発表資料づくり（パワーポイントで作成） ・ゼミメンバーの発表に対する評価資料づくり（ワードで作成） ・レポート課題（ワードで作成）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> 10. 人や国の不平等をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39306
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 A 多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>ICT(Information and Communication Technology : 情報通信技術)は従来の枠組みや概念に変化をもたらし、世の中の仕組みやビジネスの方法を大きく変えるポテンシャルを秘めています。本演習では最新のICT動向を踏まえて、経営とICTの関わりに注目をし、企業の経営戦略、マーケティング、ビジネスモデルなどについて学び、ICTの本質を理解することを目指します。また経営と情報に関するより専門的な知識を扱い、卒業研究のテーマを見つけていきます。</p> <p>< 学習成果 ></p> <p>知識・理解の領域 経営とICTに関する専門的な知識を習得するとともに、習得した知識がどのようにビジネスに関連するかという実践的な視点を身に付けることができる。</p> <p>技能の領域 情報システムの仕組みが理解できるようになる。またプレゼンテーションの発表資料作成と発表ができるようになるとともに、ディスカッションができるようになる。またコンピュータに関する応用力が身に付きます。</p> <p>態度・志向性の領域 情報システムの仕組みを理解することから、経営全体の専門的な知識を学びたいと思うようになる。また最新の経営情報の動向や技術に興味を持ち、主体的に知識の習得に努めることができる。</p> <p>思考・判断の領域 ディスカッションを通じて多様な視点や意見があることに気づき、物事を複数の視点から捉えることができるようになる。</p> <p>関心意欲の領域 ICTを活用したビジネスの仕組みや構造に関心を持ち、本質を知ろうという意欲を持つようになる。</p>
授業の概要	<p>経営や情報通信技術に関わるテーマやケースなどを、グループワークによるディスカッションを通じて、ゼミ内で報告をします。その過程の中で、情報の整理、資料のまとめ方、発表方法、質疑応答のやり方などを習得していき、専門知識とともに社会で求められる力を付けていきます。ICTを活用したビジネスの最新動向などに関するテーマを積極的に扱っていきます。</p> <p>授業内容(シラバス)に関する質問は、授業後やオフィシアワーにしてください。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	主に授業への参加姿勢と課題の内容で評価します。 ・授業への取り組み姿勢：40% ・発表や課題の内容：30% ・グループワークへの参加姿勢：30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別な理由がなく、出席回数が13回に満たない場合
授業計画	< 授業計画 > 第1回 イン트로ダクション、各自の自己紹介 第2回 議論の方法、ディスカッションの練習 第3回 グループワーク・グループディスカッション 第4回 グループワーク・グループディスカッション 第5回 グループからの発表・報告 第6回 グループワーク・グループディスカッション 第7回 グループワーク・グループディスカッション 第8回 グループからの発表・報告 第9回 グループワーク・グループディスカッション 第10回 グループワーク・グループディスカッション 第11回 グループからの発表・報告 第12回 グループワーク・グループディスカッション 第13回 グループワーク・グループディスカッション 第14回 グループからの発表・報告 第15回 前期のまとめ PROGテストの受験・解説が2回実施される。
テキスト	
参考書	授業に必要な資料を都度配布します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	問題発見解決型のアクティブラーニングによって授業を進めていきます。グループ毎で毎回異なるテーマについて議論を重ねて、授業内で報告します。学生には問題に向けた主体的な参加と、他人との対話が求められます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生にとって最善の方法で回答します。(随時対応、オフィスアワー、授業後に対応、メール対応など)
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39307
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 A 1 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大曾 暢烈 (経営学部)
授業の目標	<p>【授業目標】</p> <p>本演習は、(1)人材マネジメント(人的資源管理論・組織行動論)に関する知識を身につけること、(2)人材マネジメントに関する知識を用いて、企業の具体的な事例(ケース)を分析する能力を修得すること、(3)課題発見・課題解決能力を修得することを目標とします。</p> <p>【学習成果】</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献を読み・まとめ、発表し、ディスカッションという一連のプロセスを通じて、企業人として必要なスキルを身につけることができる。 ・人的資源管理論・組織行動論に関する基本的な知識を身につけることができる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告やグループ学習を通して、問題発見力や論理的思考力を身につけることができる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告における質問や議論を通して、自律的な学習姿勢を身につけることができる。
授業の概要	<p>本演習(前期・後期を通じて)は、経営学の中でも、人材マネジメントに関する知識を身につけることを目的としています。具体的に、人的資源管理論・組織行動論などを中心に学びます。</p> <p>専門演習 Aでは、人的資源管理論・組織行動論に関する文献や資料をもとに輪読・発表・ディスカッションという形式で個人ワーク・グループワークに取り組み、基礎的な知識を身につけます。また、数名のグループ単位で、人的資源管理論や組織行動論の知識を用いて、企業の具体的な事例(ケース)を分析してもらいます。</p> <p>* 講義外で、課題を読み、グループで話し合いを行い、発表資料を作成することが必要になります。</p> <p>* 他大学との交流ゼミを行う可能性があります。出席が必須です。</p> <p>* 上記の授業概要については、状況によって変更する可能性があります。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	演習への参加態度、報告・課題内容で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	著しく欠席が多い場合、課題や発表に対する十分な取り組みがなされない場合
授業計画	人的資源管理論、組織行動論の文献・資料の輪読・発表・ディスカッション 企業の具体的な事例(ケース)の分析・発表・ディスカッション
テキスト	西村孝史・島貫智行・西岡由美編著(2022)『1からの人的資源管理』中央経済社 鈴木竜太・服部泰宏(2019)『組織行動 組織の中の人間行動を探る』有斐閣

参考書	必要な資料を適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ディスカッションや発表などを実施する予定である。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	授業中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39308
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、デフレ不況に逆行する数々のヒット商品を次から次へと生み出す大企業・中小企業のブランド・マーケティング戦略の成功事例を通して、顧客に愛され、社員に愛され、社会に信頼される企業における競争力の源泉とは何か、その戦略的な取り組みを理解することを目指します。</p> <p>またこの演習では、中小企業が元気になる事が日本経済の活性化と発展に繋がるということを明確に理解したうえで、中小企業を取り巻く経営環境とブランド・マーケティングに関する基礎的・基本的な知識を習得すると同時に、100年に一度といわれる大不況の中、勝ち残っていく中小企業ならではのユニークなブランド・マーケティング戦略の成功事例のノウハウを学ぶことで、次のような学習成果を生み出します。</p> <p>学習成果</p> <p>(1) 中小企業概念と経営環境などに関する基礎的・基本的な知識を身につけることができる。</p> <p>(2) ブランド構築のための8つのステップ([1]事業目的市場機会の発見:3C分析 [2]市場細分化 [3]見込み顧客の選定 [4]独自性・差別化の発見 [5]ブランド・アイデンティティの構築 [6]マーケティングの目標設定 [7]4P/4Cの情報整理 [8]ブランド要素・ブランド体験の設計)に関する知識・スキルを身につけることができる。</p> <p>(3) 中小企業ならではの強みを活かしたブランド・マーケティング戦略の成功事例のノウハウなどを学ぶことで、ブランドづくりに関する基礎的・基本的な知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>中小企業は、日本経済の発展に欠かせない存在です。しかし、中小企業を取り巻く経営環境は依然として先行きが不透明な状況(1. 世界経済の不安定さ、2. 急激な人口減少による国内市場の縮小、3. 少子・高齢化の進展に伴う国内市場の量的飽和・成熟化)が続いています。このような厳しい状況下にある中小企業に望まれる主なものとして、1. 人材・資金・情報の不足、2. 自社の認知度の低さ、3. 海外市場での販路開拓などのような課題が挙げられます。これらの課題を解決するために、中小企業にとって最も重要な経営戦略の一つが、自社ブランド価値を高めるためのマーケティング戦略です。中小企業だからできるブランド・マーケティング戦略を中長期的観点から行うことで、中小企業は上記の課題を解決し持続的成長を実現することができます。したがって、本授業では、日本経済を根っこから支えている中小企業のブランド・マーケティング戦略について基礎的・基本的な知識を段階的に学習すると同時に、さまざまな事例を用いて学びます。</p>
評価方法	<p>既存の成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>授業への参加度・取り組み姿勢 40%、課題の完成度 40%(パワーポイントの作り方、プレゼンの姿勢、質疑応答の態度)、ゼミ生同士の相互理解度 20%(基本的にゼミ生全員の名前を覚えることが大事です。教室に入ったらゼミの先生をはじめ、ゼミ生全員の目を見て笑顔で挨拶することが大事です。)</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>ガイダンス(演習の目的や進め方など) 中小企業概念と定義、中小企業を取り巻く経営環境 日本経済における中小企業の位置づけと役割 中小企業の海外進出留意点とグローバル人材の確保と育成 ブランド・マーケティングの重要性 ブランドを構築するための8つのステップの概要</p> <p>*3年生のPROGテストを合同ゼミで4月中旬に実施し、5月下旬に解説を行う。</p>
テキスト	徐誠敏・李美善(2022)『ブランド弱者の戦略：インターナル・ブランディングの理論と実践』ミネルヴァ書房。
参考書	<p>徐誠敏[2010]『企業ブランド・マネジメント戦略?CEO・企業・製品間のブランド価値創造』創成社。</p> <p>田中洋編[2014]『ブランド戦略全書』有斐閣。</p> <p>一般財団ブランド法人 ブランド・マネージャー認定協会著[2015]『社員をホンキにさせるブランド構築法』同文館出版。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業後に対応
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>準備学習(予習・復習等)60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。</p> <p>・予習：資料調べ ・復習：演習内容に関するレポート作成と発表</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39309
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70D演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 豊和 (経営学部)
授業の目標	<p>現代の社会経済活動の中心である株式会社の経営につき、主に会計と税の面から分析・理解し、自らのこれからの人生に役立つ実践的な知識を習得し、またそれらを外部にプレゼンテーションできる具体的能力を身につけること。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ会計などの事例について説明できる。 <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが選定した会計や税務のテーマについて説明し、意見を述べることができる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の者の発表テーマおよび内容について意見を述べるができる。
授業の概要	<p>みなさんが社会に出て、就職したり、取引したり、モノを買ったり、サービスを受けたりして生活していく中で、株式会社という企業組織を理解することは避けられないでしょう。直接関わりを持つことになるのは、誰でも知っている有名な大企業よりも中小企業のほうが機会が多くなるかもしれません。大きくても小さくても株式会社はすべて同じ組織なのでしょうか。同じような経営活動、投資活動を行っているのでしょうか。これをみなさんと、主に会計と税金を起点としてこの演習で考えていきます。</p> <p>3年生のみなさんには、株式会社の経営とは何なのだろうか、そこで問題になっていることはいったい何なのか、ということをお自分のアタマで考えていってもらいます。また、できれば会社や工場、その他企業に関わるいろいろな場所を見学して、そこに働く様々な人々から実際にインタビューしてもらい、演習の時間に報告してもらいます(こういう勉強の方法をフィールドワークといいいます)。</p> <p>フィールドワークを通じて、みなさんのひとりひとりが疑問に思ったこと、こうしたほうがいいのか、と思ったことが卒業研究の出発点になります。3年生のうち自分なりの研究テーマを発見しておきましょう。各自の研究テーマに応じて、文献の検索方法と読み方、レポートの書き方、発表の方法などのプレゼンテーションの技法を指導します。</p>
評価方法	報告発表の内容(50%)および討論への参加内容(50%)から総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	第1週 オリエンテーション 第2週 テーマの決め方、発表の仕方 第3週 討論、ディベートの方法 第4週 専門的な分野の発表の仕方（先生の手本） 第5週 批判と意見を述べる時のルール 第6週 各自テーマの発表 第7～14週 発表と討論 第15週 まとめ
テキスト	各自の研究内容に応じて個別に指示します。
参考書	櫻井雅夫『レポート・論文の書き方（上級）改訂版』慶應義塾大学出版会
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	翌週講評。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	自らの研究テーマ発表につき平均70時間の準備時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	39310
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	植村 眞司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	植村 眞司 (経営学部)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生生活3年目を迎え、経営学の学びが企業活動の中でどのように生かされているかを発見すること 2. 企業をめぐるマスコミやメディアの報道に興味をもつようになること 3. 就活へ向けて、興味をもつ産業分野(業界)または企業を1つ以上発掘すること、及びその幅を広げること 4. 自分の「強み」を定義できるようになること 5. 以上を踏まえて「大学卒業時にこうなっていたい自分」を見つけること 6. 上記5の「こうなっていたい自分」をゼミの仲間と語り、理解し合い、互いの信頼関係を築くこと
授業の概要	<p>企業自体に「興味」を持ち、企業活動の「仕組み」の習得すること、そのための基礎的な技能を身につける方法などを学ぶ授業を行います。</p> <p>前項の「基礎的な技能」とは、必要な情報を要領よく収集し、それを分析・整理・活用する力、文章を読む力、ひとの話を聴く力、自分の考えを相手方に「感動」とともに伝える力、をさします(いずれも社会に出ると直ちに求められるスキルです)</p>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと 2. 多様なテーマについて学び、どのテーマに対しても自分の考えを述べるができること 3. 都度の課題等に対するレポートを簡潔に作成し、提出すること <p>以上、出席が良好であること(ゼミは出席が基本です)を前提に、上記1から3の基準に沿って総合的に評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・計15回のゼミのうち、第1回ではイントロダクションを行い、ゼミ生ひとりひとりの「ゼミ運営のための役割」を決め、以降のゼミで実践してもらいます。 ・第2回～第12回のゼミは、普段の学生生活と就職希望企業などとの様々な接点(アルバイト、通学で使用する車の購入、外食、インターネットサービスやネットショッピング、ATMなどの銀行サービス、旅行、インターンなど)を取り上げ、それぞれのビジネスシーンをクローズアップして考察を行います。その考察は経営学部で学んできた企業活動に関する専門的知見をもとに試みます。 ・第13回～第15回は、第12回までのゼミでの学びをもとに、グループに分かれ、企業の活動に関係するテーマを1つ決めてグループワークを行います。最終回にはその成果を発表してもらう予定です。
テキスト	特に使用しません。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミの運営のなかで、司会、ディスカッションの進行、成果のとりまとめ、記録などを分担して、学生自らが行う、簡単な「ワークショップ型」のアクティブラーニングを一部に取り入れたいと思います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	ゼミでは、教員が企業で多くの新入社員を迎えてきたなかで、彼らから聞いた学生時代の学び、喜び、楽しみ、反省（もっとこういうことをやっておけばよかった）などをみなさんと共有しながらゼミ授業を行いたいと考えています。
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各ゼミにおいて、予習や準備を必要とする課題を扱う場合、前週のゼミの終了時にその旨を連絡します。復習についても、あれば何をどのように復習してもらうかについて、予習と同様、事前に連絡します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之 (経営学部)
授業の目標	<p>これまでに学んだ会計学の知識をもとに、企業が実際に作成した財務諸表を教材にして、企業を分析する手法を修得することを目標とします。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の観点 財務諸表に記載されている情報を活用し、企業を分析するための基礎的な手法を修得します。</p> <p>関心・意欲の観点 修得した手法を活用し分析を行うために、興味のある業種・企業を各自で選定します。</p> <p>思考・判断の観点 財務諸表の分析結果から企業の状態や成績を判断します。</p> <p>技能・表現の観点 分析結果から判断したことを正しい日本語で文章にします。</p>
授業の概要	<p>企業が公表した財務諸表の実物を入手し、以下のような点を分析するための演習を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全性 (債務を返済する力がどの程度あるか?) 2. 収益性 (利益をあげる力がどの程度あるか?) 3. 成長性 (将来的に伸びていく力があるか?) <p>後期は情報処理室にてワードやエクセルなどのソフトウェアを活用し、各自で卒業研究の執筆に取り組みます。前期はそのために必要な情報やデータを収集します。</p>
評価方法	課題やレポートの提出状況、および研究成果の発表内容から総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	追って伝えます。
授業計画	専門演習 A・Bで学んだ、安全性・収益性・成長性に関する専門知識を活用し、企業が公表した財務諸表の分析に取り組みます。まずはモデルとなる企業を3社選択し、計算演習に加えて計算結果の評価も行います。
テキスト	専門演習 で活用したテキストを継続して使用します。
参考書	追って指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	課題について報告を課すことがあり、報告内容についてディスカッションします。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	日商簿記検定試験委員の担当経験がある教員によって行われる授業です。
質問への対応方法	随時対応します。

フィードバックの方法	レポート、課題などは翌週返却し、解答・解説を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必要に応じて資料を配付します。配付された資料に事前に目を通し、授業内容の理解度向上に努めます。また、復習については随時課題を課します。理解した内容のアウトプットを行うことで、学習内容の定着を目指します。（予習・復習各2時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39401
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 壽男 (経営学部)
授業の目標	<p>社会人・企業人として必要な租税の知識を身につける。</p> <p>知識・理解の領域 所得税、法人税、消費税の税額算定に至るプロセスを修得する。また、こんにちの租税制度について、公平性という視点からの考察を試みる。</p> <p>技能の領域 こんにちの税制の理解を通じ、批判的考察力を醸成することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 租税教育を通じて、大学生としての教養と就業意識を高める。また、就職活動のため、社会人としてのマナー・接遇を身につける。</p>
授業の概要	こんにちの社会の主要税目である所得税、法人税、消費税の税額算定に至るプロセスを修得する。なお、この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	ゼミ課題への取組度 (50%) ・ゼミの諸活動への取組度 (50%) で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション (ゼミの取り組み内容とその進め方および評価方法の説明)</p> <p>第2回 租税の意義と課税根拠</p> <p>第3回 日本の租税制度を考える</p> <p>第4回 担税力と公平課税の原則</p> <p>第5回 個人所得に対する課税制度</p> <p>第6回 所得の種類を考える：勤労所得と不労所得</p> <p>第7回 事業所得を考える</p> <p>第8回 給与所得を考える</p> <p>第9回 課税標準の算定</p> <p>第10回 所得控除：人的控除を考える</p> <p>第11回 所得控除：物的控除を考える</p> <p>第12回 課税所得金額の算定</p> <p>第13回 納付税額の算出と税額控除</p> <p>第14回 所得税の申告・納付と経理処理</p> <p>第15回 超過累進税率の是非を考える</p>
テキスト	使用しない。毎回レジュメを配付する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	同一テーマにつきグループ単位で議論し、そのとりまとめをゼミ内で報告し合い、比較・検討する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学習内容等の質問については随時対応する。
フィードバックの方法	ゼミで提供した課題については、翌週に講評する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前にGoogle Classroomにより課題の資料を配信するので2時間程度の予習を要す。また理解度確認のため、事後に2時間程度の復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39402
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 B 4 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>専門演習IIの目的は、大学4年間の集大成である「卒業研究」を完成させることです。卒業研究は、「卒業研究のテーマ決定 文献調査 卒業研究計画書作成 卒業研究(情報収集・分析) 報告」という進め方を基本とし、専門演習 Aでは卒業研究計画書の作成することを目標とします。</p> <p><学習成果> 知識・理解の領域 自分の研究テーマに関する社会背景や先行研究が説明できる。 技能の領域 データベースを使い自分の研究テーマに関連する資料を探ることができる。 態度・志向性の領域 計画を立てて実施する姿勢が身につく。</p>
授業の概要	<p>卒業研究テーマ、関連文献(学術論文、書籍、新聞記事など)、研究計画などを発表してもらいます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	ゼミへの参加態度(宿題や発表の内容も含む)で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>以下の事由により失格になる場合がある</p> <ul style="list-style-type: none"> 著しく欠席・遅刻が多い場合 ゼミは毎回の出席を前提に進めます。無断欠席は厳禁です。 教員の連絡に応じない場合 宿題の提出や発表を怠った場合
授業計画	<p>第1週 オリエンテーション 第2週～4週 研究計画書作成と報告 第5週～6週 文献調査と報告 第7週～15週 調査計画作成と報告 状況に応じて授業計画を変更する場合があります。</p>
テキスト	
参考書	各自の卒業研究テーマに応じて個別に指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業終了後もしくはオフィスアワーにて対応する。
フィードバックの方法	授業中にフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習（文献調査、発表準備・修正等）として、各回、4時間の予習・復習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39403
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 B 3 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>卒業論文の作成を行うための土台を築く。 大学教育においては、文系・理系の学生を問わず教養教育と専門教育の両方が必要である。教養教育では、社会人として最低限身に付けておいてほしい一般常識や数学・英語の基礎、社会人としてのマナーを学ぶ。 また、現代は企業を取り巻く環境が短期間で変化する世の中である。変化に適応できる人材を育てることが専門教育の急務である。 当ゼミでは、企業などが経営活動を進めていく過程において発生する諸問題を統計学の立場から考察し、問題の本質をつかみとり、自らの力で解決できる能力を身につけることを理想的な目標とする。企業にとって重要な在庫管理の問題にも踏み込み、在庫費用最小化あるいは利益最大化の問題を理解し、自力で解けるようになることも目標とする。</p> <p><学習成果> 知識・理解の領域 授業で学んだ専門用語を理解し、説明できる。 関心・意欲の領域 教員から与えられたことだけでなく、自分で積極的に新聞や学術雑誌などから、演習で使えるような題材、特集、データなどを探し、教員に提示できる。 技能の領域 回帰分析、検定、区間推定、線形計画法などをコンピュータソフトを用いて解析できる。</p>
授業の概要	<p>専門演習 1 で学んだことについて、より深く学んでいく。 卒業論文を作成する必要があるため、その下地として 前期は主に経営あるいは経済の専門書の輪講を行う。 後期は主に卒業論文の仕上げになる。 質問への対応は、授業終了後またはオフィスアワーのときに受け付ける。</p>
評価方法	<p>出席をとる。レポートを与え、提出してからその内容をチェックする。 授業内で行った課題は採点し、返却する。理解度が良好でないとは判断した部分については、次回授業で復習する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が13回に満たない場合 ・連続して3回欠席した場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、3年次の振り返り、経営・経済専門書の輪講(1) 2. 経営・経済専門書の輪講(2) 3. 経営・経済専門書の輪講(3) 4. 経営・経済専門書の輪講(4) 5. 経営・経済専門書の輪講(5) 6. 経営・経済専門書の輪講(6) 7. 経営・経済専門書の輪講(7) 8. 経営・経済専門書の輪講(8) 9. 経営・経済専門書の輪講(9) 10. 卒業論文の書き方について(1) 11. 卒業論文の書き方について(2) 12. 卒業論文の書き方について(3) 13. 卒業論文の書き方について(4) 14. 卒業論文の書き方について(5) 15. 卒業論文の書き方について(6)、前期のまとめ
テキスト	なし
参考書	追って指示する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業終了後に対応 ・ メールで対応 (greatriver-1@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 翌週返却または翌週に口頭で述べる
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> 4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39404
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 A 1 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大曾 暢烈 (経営学部)
授業の目標	<p>【授業目標】</p> <p>卒業研究作成に向けて、各自が取り組む研究テーマに関する知識を蓄積し、現実の企業活動を考察・分析できる力を身につけることを目標とします。</p> <p>【学習成果】</p> <p>知識・理解の領域 経営学に関する基本的な知識を身につけることができる。</p> <p>技能の領域 ゼミ報告や研究テーマについて学習することで、問題発見力や論理的思考力を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 ゼミ報告を通して、自律的な学習姿勢を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>本演習（前期・後期を通じて）は、卒業研究作成に向けて各自が取り組む研究テーマに関する基本的な知識（先行研究）について学習し、報告を行います。あわせて卒業研究の指導を行います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	演習への参加態度、報告・課題内容で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	著しく欠席が多い場合、課題や発表に対する十分な取り組みがなされない場合
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 各自が関心のある研究テーマの先行研究について学習する。 研究テーマや関連する先行研究について報告を行う。 研究テーマの先行研究の学習を通して、卒業研究の課題や構成について報告を行う。
テキスト	<p>各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。</p> <p>*必要に応じて、購入してもらおう可能性があります。</p>
参考書	各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する。
フィードバックの方法	授業中に行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、予習2時間、復習2時間が必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39405
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	李 美善
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)
授業の目標	<p>さまざまな企業ケースから経営戦略の知識を理解する。ケーススタディを通じて学ぶことによって、体系的かつ実践的な知識を理解する事とともに、経営戦略の有効性を判断できるようになる。なお、「読む、調べる、考える、書く、発表する、魅せる」スキルを養うことを目標とする。さらに、大学生活の締めくくりとして自分の専門分野を深く掘り下げ、卒業研究へ繋げることを目標にする。</p> <p>知識・理解の領域 経営戦略とは何かを理解し、研究・報告のスキルを実践できる。</p> <p>技能の領域 -読む、調べる：新聞や雑誌記事及び本を活用する技術を学習する。 -考える：ポイントを掴む、多様な角度から物事を考える力を養う。 -書く：ストーリーの描き方と論理的に述べる技術を学習する。 -発表する：自分自身の考えをまとめ、説明できる力を養う。 *魅せる：「伝える」発表から「伝わる」発表のスキルを習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 さまざまな角度からものごとを解釈でき、自らと異なる考えを受け入れる態度を養う。</p> <p>思考・判断の領域 競争力が高い企業とそうでない企業を見分け、なぜそうなのか？などを論理的に考える力を養う。</p> <p>関心意欲の領域 企業経営について学ぶことによって、将来の仕事への関心が高まる。</p>
授業の概要	急速な技術革新やグローバル化により企業間の競争が激化している今日、企業を取り巻く経営環境は大きく変化している。こうした激しい変化のなかで、企業を持続・発展させることは容易ではない。その中で、高い成果を上げ成功している企業には、必ず理由がある。本演習では、その理由の一つを経営戦略にあると考え、さまざまな企業のケースを取り入れて経営戦略の知識を身につけ、その知識を発表・議論する方法で進めることとする。
評価方法	授業への積極的な参加による評価 100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 13回に満たない場合は失格とする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. さまざまな企業のケースを取り入れ経営戦略の基礎知識を学ぶ 2. 研究を進める：情報（新聞、雑誌記事）を持ち寄って分析しよう 3. 研究報告をまとめ、課題を提出する 4. 研究報告のフィードバック
テキスト	

参考書	『日経ビジネス』『日本経済新聞』『日経産業新聞』などの記事を積極的に利用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	本演習では「プレゼン力」、「思考力」、「知識」を身につけるため下記のアクティブラーニングを行う。 ・世界のさまざまなテーマについて、グループでディベートを行い、賛成・反対の両方からバランスよく考える。 ・グループ毎で異なる課題を議論し、アイデア・解決方法を提案する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で課したレポートなどは確認後随時フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	本演習は下記の内容をこなすため、準備学習として各回、予習2時間、復習2時間が必要である。 ・テーマ設定 ・資料調べ ・提案書づくり（Wordで作成） ・発表資料づくり（パワーポイントで作成） ・ゼミメンバーの発表に対する評価資料づくり（ワードで作成） ・レポート課題（ワードで作成）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39406
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 4 A多目的室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>卒業論文作成に向けて、主体的に課題や問題を見つけ出して、論理的に分析・解析することができるようになることを目指します。また自身の考えを第三者に説得力を持たせ説明ができるようにします。</p> <p>卒業論文の作成を通じて、論理的な思考、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、資料作成能力などを身に付けることを目指し、社会人へ向けての実践力を養う。</p> <p>学習成果 知識・理解の観点 自身の研究テーマを経営学の専門知識を通じて深く洞察することで、物事の本質を見極めることができるようになる。</p> <p>技能の領域 論文執筆に必要な表現力、文書構成、論理展開などを身に付けることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 ディスカッションを通じて多様な視点や意見があることに気づき、物事を複数の視点から捉えることができるようになる。</p> <p>思考・判断の領域 自ら関心のあるテーマを設定して、それに向けて自律的に研究を進めることができるようになる。</p> <p>関心意欲の領域 研究テーマに関わる先行研究の調査などを通じて、もっと深く経営学を学ぼうとする意欲が湧くようになる。</p>
授業の概要	<p>卒業論文の執筆に向けた準備を行う。自らの研究テーマに基づき、研究テーマの掘り下げ、先行研究調査、リサーチクエスト設定、研究方法の決定を通じて、論文の骨格を作成して説明できるようにする。</p> <p>授業は、各自が設定した研究テーマに基づいて、調査・分析、プレゼンテーション、メンバー間のディスカッションによって進める。学生が自主的に考えたものを発表して、他者を含めた様々な視点で検討することを通じて専門性を高めるとともに、社会に出てから必要なリテラシーを習得する。</p> <p>授業内容（シラバス）に関する質問は、授業後やオフィスアワーにしてください。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	主に授業への参加姿勢と課題の内容で評価します。 ・授業への取り組み姿勢：40% ・発表や課題の内容：30% ・グループワークへの参加姿勢：30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別な理由がなく、出席回数が13回に満たない場合
授業計画	< 授業計画 > 第1回 卒業研究の進め方 第2回 研究テーマの決定 第3回 論文の書き方、論文の構成 第4回 先行研究の調査方法 第5回 研究・調査の進め方 第6～13回 各自の研究進捗報告、グループディスカッション 第14～15回 中間報告会
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	自身が設定した研究テーマに基づいて調査・分析を行った結果を報告をして、教員・学生とディスカッションを通じて研究内容を精査していきます。 学生には主体的な参加姿勢が求められます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生にとって最善の方法で回答します。（随時対応、オフィスアワー、授業後に対応、メール対応など）
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39407
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70D演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 豊和 (経営学部)
授業の目標	3年次に自ら設定したテーマに基づき、研究と理解を深め、それを卒業論文に結実させること。 学習成果 知識・理解の領域 ・授業で学んだ会計などの事例について説明できる。 関心意欲の領域 ・自らが選定した会計や税務のテーマについて説明し、意見を述べることができる。 態度・志向性の領域 ・他の者の発表テーマおよび内容について意見を述べるができる。
授業の概要	みなさんが社会に出て、就職したり、取引したり、モノを買ったり、サービスを受けたりして生活していく中で、株式会社という企業組織体を理解することは避けられないでしょう。直接関わりを持つことになるのは、誰でも知っている有名な大企業よりも中小企業のほうが機会が多くなるかもしれません。では、株式会社とはいったい何なのでしょう。これをみなさんと、主に会計と税金の側面からこの演習で考えていきます。 4年生は、3年生のときに自分で見つけた研究テーマを発表や討論を重ねることでさらに深め、最終的に卒業研究という形でまとめてもらいます。 質問への対応 随時対応します。
評価方法	報告発表の内容 (50%) および討論への参加内容 (50%) から総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1週 オリエンテーション 第2週～15週 個別論文指導
テキスト	各自の研究内容に応じて個別に指示します。
参考書	櫻井雅夫『レポート・論文の書き方(上級)改訂版』慶應義塾大学出版会
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	翌週講評。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	自ら設定した研究テーマの発表につき平均50時間程度の準備時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39408
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>この演習では、デフレ不況に逆行する数々のヒット商品を次から次へと生み出す大企業・中小企業のブランド・マーケティング戦略の成功事例を通して、顧客に愛され、社員に愛され、社会に信頼される企業における競争力の源泉とは何か、その戦略的な取り組みを理解することを目指します。</p> <p>またこの演習では、中小企業が元気になる事が日本経済の活性化と発展に繋がるということを明確に理解したうえで、中小企業を取り巻く経営環境とブランド・マーケティングに関する基礎的・基本的な知識を習得すると同時に、100年に一度といわれる大不況の中、勝ち残っていく中小企業ならではのユニークなブランド・マーケティング戦略の成功事例のノウハウを学ぶことで、次のような学習成果を生み出します。</p> <p>学習成果</p> <p>(1) 中小企業概念と経営環境などに関する基礎的・基本的な知識を身につけることができる。</p> <p>(2) ブランド構築のための8つのステップ([1]事業目的市場機会の発見:3C分析 [2]市場細分化 [3]見込み顧客の選定 [4]独自性・差別化の発見 [5]ブランド・アイデンティティの構築 [6]マーケティングの目標設定 [7]4P/4Cの情報整理 [8]ブランド要素・ブランド体験の設計)に関する知識・スキルを身につけることができる。</p> <p>(3) 中小企業ならではの強みを活かしたブランド・マーケティング戦略の成功事例のノウハウなどを学ぶことで、ブランドづくりに関する基礎的・基本的な知識を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>中小企業は、日本経済の発展に欠かせない存在です。しかし、中小企業を取り巻く経営環境は依然として先行きが不透明な状況(1. 世界経済の不安定さ、2. 急激な人口減少による国内市場の縮小、3. 少子・高齢化の進展に伴う国内市場の量的飽和・成熟化)が続いています。このような厳しい状況下にある中小企業に望まれる主なものとして、1. 人材・資金・情報の不足、2. 自社の認知度の低さ、3. 海外市場での販路開拓などのような課題が挙げられます。これらの課題を解決するために、中小企業にとって最も重要な経営戦略の一つが、自社ブランド価値を高めるためのマーケティング戦略です。中小企業だからできるブランド・マーケティング戦略を中長期的観点から行うことで、中小企業は上記の課題を解決し持続的成長を実現することができます。したがって、本授業では、日本経済を根っこから支えている中小企業のブランド・マーケティング戦略について基礎的・基本的な知識を段階的に学習すると同時に、さまざまな事例を用いて学びます。</p>
評価方法	<p>授業への参加度・取り組み姿勢 40%(ゼミの出席率は100%が基本です。1回以上欠席したら、成績Aはもらえないです。)、課題の完成度 40%(パワーポイントの作り方、プレゼンの姿勢、質疑応答の態度)、ゼミ生同士の相互理解度 20%(基本的にゼミ生全員の名前を覚えることが大事です。教室に入ったらゼミの先生をはじめ、ゼミ生全員の目を見て笑顔で挨拶することが大事です。)</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	ガイダンス(演習の目的や進め方など) 中小企業概念と定義、中小企業を取り巻く経営環境 日本経済における中小企業の位置づけと役割 中小企業の海外進出留意点とグローバル人材の確保と育成 ブランド・マーケティングの重要性 ブランドを構築するための8つのステップの概要
テキスト	なし
参考書	徐誠敏[2010]『企業ブランド・マネジメント戦略?CEO・企業・製品間のブランド価値創造』創成社。 田中洋編[2014]『ブランド戦略全書』有斐閣。 一般財団ブランド法人 ブランド・マネージャー認定協会著[2015]『社員をホンキにさせるブランド構築法』同文館出版。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業後に対応
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習(予習・復習等)60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。 ・予習:資料調べ ・復習:演習内容に関するレポート作成と発表
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 A / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	39409
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	柴田 良一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	柴田 良一 (経営学部)
授業の目標	<p>大学4年間の総仕上げである「卒業研究」を完成させることが目的である。この目的を達成するため、この演習では「卒業研究」を一つのプロジェクトと見なす。卒業研究プロジェクトの経験を通してプロジェクトの管理運営を学ぶことがもう一つの目標である。</p> <p>。知識・理解の領域 テーマに関する幅広い理解を得る 思考・判断の観点 課題や問題を抽出する能力 関心・意欲の観点 テーマから派生する多くの知見から周辺の分野への関心 態度の観点 事実の積み重ねで論理を展開 技能・表現の観点 調査分析の結果をまとめる能力 プロジェクト管理能力</p>
授業の概要	<p>「卒業研究」を一つのプロジェクトと捉える。PDCAを回して「卒業研究」を納期までに完成させる。当該演習の時間は全体プロジェクト進捗会議と見なし毎週個々人の進捗そして作業時の問題や課題を明確にし、その対処を考える。必要であれば計画の見直しも実施する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	参加姿勢 60% レポート 40%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし。

授業計画	第1回 「卒業研究」をプロジェクトと捉える 第2回 成果物（卒業研究のテーマなど）と納期の確認 第3回 作業項目の確認そして計画の作成 第4回 テーマに関する現状 1 第5回 テーマに関する現状 2 第6回 テーマに関する現状 3 第7回 テーマに関する現状 4 第8回 テーマに関する現状 5 第9回 テーマに関する現状 6 第10回 テーマに関する現状 7 第11回 テーマに関する現状 8 第12回 中間報告 1 第13回 中間報告 2 第14回 中間報告 3 第15回 作業計画の見直し
テキスト	
参考書	大学図書館の「日経BP記事検索サービス」、「情報通信白書」
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	企業における情報システムの設計・開発でシステム・コンサルタントとして常に情報システムの持つ意味や外部との関係を考えながら設計・開発の全体を管理・調整を行ってきた。この経験を生かし情報システムという視点で経済・社会を見る目を伝えたい。
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ オフィスアワーで対応 ・ メール (shibata-r@nagoya-ku.ac.jp) で対応
フィードバックの方法	提出したレポートなどは翌週にコメントを付けて返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業終了後には管理レポートを毎回提出する。授業期間外で60時間超える時間が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(前期) / Graduation Research
時間割コード Course Code	39510
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大曾 暢烈 (経営学部)
授業の目標	<p>【授業目標】 それぞれ興味・関心のある研究テーマをもとに、卒業研究の作成に取り組むことを目標とします。</p> <p>【学習成果】 知識・理解の領域 それぞれの研究テーマに関する知識を身につけることができる。 技能の領域 卒業研究の作成を通して、問題発見力や論理的思考力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 卒業研究の作成を通して、自律的な学習姿勢を身につけることができる。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 各自設定した研究テーマ・課題をもとに、卒業研究の作成に取り組みます。 それぞれが興味・関心のある研究テーマを決定し、関連する先行研究をもとに課題を設定する。 進捗状況の報告を行い、ブラッシュアップを図り、卒業研究の作成に取り組みます。 <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	卒業研究の内容にて評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	教員の指導に従わない以外の事由による失格基準は特になし。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 各自の興味・関心をもとに研究テーマに関する先行研究を調査し、研究テーマを決定する。 研究テーマに関連する資料等を収集・調査し、卒業研究の課題を設定する 卒業研究の構成を決定し、執筆する。
テキスト	各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。 *必要に応じて、購入してもらう可能性があります。
参考書	各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	授業中に行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	120時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	情報と法 / Information Law
時間割コード Course Code	40200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	萩原 聡央
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萩原 聡央 (法学部)
授業の目標	<p>〔授業の目標〕 この授業では、「情報の自由」と「情報の保護」の意味や内容について理解を深めるとともに、情報の自由と保護に関する法制度について理解することを目標とします。</p> <p>〔学習成果〕</p> <p>知識・理解の領域 情報および情報法に関する基本的な知識を身につけることができる。</p> <p>技能の領域 「情報法」に係る知識を身に付けることにより、情報に関連して起こりうるさまざまな事象について、法的な解決方策・手法を導くことができるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 情報をめぐるさまざまな事案（プライバシー侵害やインターネット規制など）および情報法制の役割や意義に関心を向けるようになる。</p>
授業の概要	<p>〔授業の概要〕 この講義では、テキストおよび各回における講義資料に基づいて、「情報・通信と憲法の関わり」、「知的財産の法的な保護」、「情報通信の法的な保障」、「サイバースペースにおける表現規制」、「ネット上の名誉毀損・営業妨害」、「ネット上の著作物使用の規制」、「プロバイダの法的責任」、「サイバースペースでの商取引と法」、「電子データの真正性の証明」、「個人情報の保護と利活用」、「商業メールと法規制」、「ネットセキュリティの法制化」、「行政手続のオンライン化」、「民間の電子化に関する法制度」、「行政情報の公開と利活用」の各テーマについて考察します。この授業における学びを通して、情報に関する基本的な知識を身につけることができるとともに、情報法制の役割や意義について理解することができます。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>〔評価方法〕 毎回実施する課題（小テスト）の結果にもとづいて評価します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>〔教員の指導に従わない以外の事由による失格基準〕 原則として、出席回数が10回に満たない場合は失格とします。</p>

授業計画	〔授業計画〕 第1回 ガイダンス・情報や通信は憲法とどのようにかかわっているだろうか 第2回 知的財産はどのような場合に法的に保護されるのだろうか 第3回 情報通信はどのような法的仕組みで保障されるのだろうか 第4回 サイバースペースにおける表現規制はどのようにされているのだろうか 第5回 ネット上の名誉毀損や営業妨害にはどのような特徴があるのだろうか 第6回 ネット上の著作物やドメイン名の使用はどのような規制があるのだろうか 第7回 プロバイダは法的にどのような義務を負っているのだろうか 第8回 サイバースペースでの商取引にはどんな法律が適用されているのだろうか 第9回 電子データの真正性・完全性はどのように証明されるのだろうか 第10回 個人情報の保護と利活用はどのように保障されているのだろうか 第11回 承諾なく送られた商業メールはどのような法規制があるのだろうか 第12回 ネットのセキュリティはどのように法制化されているのだろうか 第13回 行政手続のオンライン化はどのように法規制されているのだろうか 第14回 民間の電子化に関する法制度はどこまで進んでいるのだろうか 第15回 行政情報の公開と利活用はどのように保障されているのだろうか・まとめ
テキスト	〔テキスト〕 米丸恒治編『18歳からはじめる情報法〔第2版〕』（法律文化社、2022年9月）〔ISBN：978-4-589-04234-7〕
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	〔実務経験を活かした授業の内容〕 自治体の情報公開・個人情報保護審査会委員の経験を持つ教員が、情報の自由な流れの保障と情報の保護のバランスが必要であるとの視点から、行政やメディアを含む企業等における情報の取扱いをめぐる課題を解説する。
質問への対応方法	〔質問への対応方法〕 授業の前後およびオフィスアワーなど、質問には随時対応します。
フィードバックの方法	〔フィードバックの方法〕 授業で実施する課題（小テスト）については、翌週以降の授業で解説を行います。 成績評価に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習・復習等、準備学習の内容及び時間〕 テキストに基づいて、各回の授業内容について予習（2時間）および復習（2時間）をしてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	憲法 / Constitutional Law
時間割コード Course Code	40220
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	水島 玲央
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水島 玲央 (法学部)
授業の目標	<p>憲法は国家権力を制限して国民の権利を守るためのものであるということを理解する。</p> <p>知識と理解の領域 ・立法、行政、司法といった、国の統治のシステムを理解する。</p> <p>技能の領域 ・憲法学の学習を通じて、論理的な思考を養う。</p> <p>態度と志向性の領域 ・世の中の理不尽に屈せず、自分の権利をしっかりと認識し、自分の身を自分で守れるようにする。</p>
授業の概要	<p>「憲法」といわれても、あまり身近に感じない者も多いかもしいない。しかしながら、我々が日頃あたりまえのように享受している「自由」や「人権」といったものは、現在の日本国憲法によって保障されているからであり、世界のなかには、こうした「自由」や「人権」といったものが十分に保障されていない国々もまだ多くみられる。この講義を通じて、憲法が我々の日常生活においてどれだけ重要なものであるかを理解していただきたい。質問がある場合は、授業後に随時受け付ける。なおこの授業は「国家と法」をより高度に学習するものなので、「国家と法」の単位を未修得の者には履修を勧めない。</p>
評価方法	<p>初回レポート30%、受講態度（課題を含む）30%、期末試験もしくはレポート40% 遅刻した者の入室は認めない（遅刻しておいて出欠をめぐり不平不満が多いため） 1年次の「国家と法」で教科書と六法を購入済みであろうから、初回の授業では必ず持参すること。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>3分の2以上「出席」しない場合、失格とする。 なお、次の行為は失格となるので絶対にしないこと： ・鞆すら持たずに授業に来る行為（財布やスマホしか入らないポシェット、筆箱だけの登校は認めない） ・授業中のスマホ使用 ・授業中に突っ伏しての居眠り シラバスの字数制限の関係上、詳しくは初回授業で紹介する。</p>

授業計画	<p>第1回 ガイダンス・初回レポート（4時間の予習）</p> <p>第2回 日本憲法史（2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第3回 日本国憲法の基本原理（2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第4回 国民権と象徴天皇制（2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第5回 平和主義（2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第6回 基本的人権（2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第7回 国会（1）衆議院と参議院（2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第8回 国会（2）国会の権能（2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第9回 内閣（2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第10回 裁判所（2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第11回 財政・地方自治（2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第12回 憲法の保障（2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第13回 憲法改正（2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第14回 比較憲法（2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第15回 まとめ（4時間の復習）</p>
テキスト	<p>芦部信喜『憲法 第7版』（岩波書店・2019）</p> <p>教科書も買わずに受講する者が非常に多いように見受けられるが、教科書がなければ授業についていけないのは当然であるため、教科書を購入する費用を惜しまないでほしい。どうしても金銭的に余裕がない場合は、中古の旧版でもよいので購入すること。</p>
参考書	小型の六法
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の後、またはメールで対応する。近年、lineの普及からか、一行でメールを書く者が多いが、メールのマナーを守ること。
フィードバックの方法	授業内で課した課題については、後日解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業計画を参照すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	行政法総論 / Administrative Law (General Theories)
時間割コード Course Code	40240
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	庄村 勇人
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄村 勇人 (法学部)
授業の目標	<p>この授業では行政の授權と統制の法としての行政法を学ぶ。とりわけ、法治主義をはじめとする「行政法の基本原理」、国民に対する行政の作用に関する統制の法としての「行政作用法」について学ぶことを目的とする。</p> <p>知識・理解の領域 行政の目的、手法を踏まえ、行政に関する法（とりわけ法律による行政の原理）について体系立てて理解できるようになる、</p> <p>技能の領域 行政に関する様々な法を、評価し、また「読む＝解釈」した上で具体的事案に適用できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 行政に関する現代の諸課題に対する行政法の意義や役割に関心を向けるようになる。</p>
授業の概要	<p>行政と国民との間の法律関係は、行政が公益を目的とした権力的な手段をも用いることなど、私人間には見られない特殊性を有するため、その法的規律の様相も民事法関係に比して特殊なものとなっている。また、近年、行政民間化やデジタル化などの「改革」によって、行政のあり方やそれを取巻く社会および法制度も大きく変容している。このようなことも視野に入れつつ、行政を授權し統制する法について体系的に考察する。行政に関する法は、大きく行政法の基本原理、行政組織法、行政作用法、行政救済法といった分野に分けられる。本授業では、このうち特に、行政の基本原理、行政組織法、行政作用法の内容について学ぶ。</p> <p>< 授業形態 > 対面授業 < この科目の位置づけ > 本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験 80%、小テスト 20% (感染状況により変更することがある。その場合は授業内で事前に告知する。)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	全授業回数の 1/3 以上の欠席で失格とする。

授業計画	第1回 ガイダンス、現代行政と行政法（1章）、行政法および行政法の法源（2章） 第2回 行政法の基本原理（3章） 第3回 行政体と行政機関（4章）、行政機関相互の関係（5章） 第4回 行政準則（6章） 第5回 行政計画（7章） 第6回 行政行為 その1（8章 分類） 第7回 行政行為 その2（8章 行政行為の効力） 第8回 行政行為 その3（8章 無効・取消・撤回） 第9回 行政指導（9章） 第10回 行政契約（10章） 第11回 行政調査（11章） 第12回 行政の実効性を確保する制度（12章） 第13回 行政手続（各章参照） 第14回 個人情報保護・情報公開（13章） 第15回 全体のまとめ
テキスト	市橋克哉ほか『アクチュアル行政法 第3版補訂版』（法律文化社、2023年）ISBN978-4-589-04252-1 なお、毎時間、レジュメを配布する。
参考書	『行政判例百選1 第8版』（有斐閣、2023年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応する時間を設ける。
フィードバックの方法	Google classroomで対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	テキストに基づいて、各回の授業内容について予習（2時間）および復習（2時間）をしてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 6. 安全な水とトイレを世界中に
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	4. 感情制御力 7. 課題発見力

開講科目名 Course	刑法総論 / Criminal law (General part)
時間割コード Course Code	40250
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	清水 裕樹
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	清水 裕樹 (法学部)
授業の目標	<p>< 授業の目標 > 刑法総論分野における基本的な事項に関する知識や考え方を身につけるとともに、公務員試験や資格試験を受験する際に、各自が学ぶ必要性に応じて教科書類を用いて自ら必要な理解を得ることができるような、刑法の学び方を身につけることができるようになることを目指す。</p> <p>< 学習成果 > 知識・理解の領域 犯罪論の体系に基づいて、犯罪の成立要件をしっかりと説明できる。 技能の領域 学習した分野における刑法総論分野の公務員試験の過去問でも、特に難易度の高くないものであれば規定時間内に正解できる。 態度・志向性の領域 社会規範全体との関連性において、刑法という社会規範が果たす役割について考えることができる。 特に将来の進路として警察官を志望する学生にとって、国家刑罰権発動の謙抑性という性質を理解した上で、自らの行動を律する基本原則とすることができる。</p>
授業の概要	<p>< 授業の概要 > 下記テキストに基づき、刑法総論を学ぶ上で特に重要性の高い内容について講義形式で授業を行う。 カリキュラム上、この科目は「犯罪と法」と接続する内容を有している。履修を希望する者は、事前に「犯罪と法」の授業の単位を取得していることが望ましい。 授業中に複数回小テストを実施する。実施の日程は授業計画表に記載する。 受講者数が少数である場合、期末試験に代えてレポートを実施する。いずれの方式によるかは受講者数確定後に周知する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>小テスト (50%) 期末試験 (50%) 小テスト実施後に問題の解説を行う。 出席はタブレットで確認する。授業開始後20分が経過した時点で、出席管理上欠席として取り扱う。なお、学生である以上、学生証を携帯するのは当然である。紛失して再発行中であるなど、特段の理由がない限り、学生証の不携帯は出席管理上欠席とみなす。ただし、その場合であっても授業の受講は単位取得のために当然すべきである。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>正当な理由のない欠席が授業期間を通じて6回以上となった場合、又は3回以上連続した場合には失格とする。</p>

授業計画	<p>初回授業時に、受講上の注意を行う。積極的に学ぶ姿勢があれば、それも評価する。授業時間中に出る課題や、宿題にはしっかりと取り組むこと。</p> <p>授業時には、テキストと六法を必ず持参すること。</p> <p>法解釈学は「条文ありき」の学問であるので、テキストや六法は必ず最新のを準備すること。</p> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	井田良『入門刑法学 総論 第2版』有斐閣2018年
参考書	松宮・金沢編著『新・コンメンタール刑法【第2版】』日本評論社2021年、前田他編『条解刑法第4版』弘文堂2020年、井田良『入門刑法学 各論 第2版』2018年、山口厚『刑法総論第3版』有斐閣2016年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業に関する質問がある場合、原則として授業中や授業後の休み時間に対応する。内容が複雑であるなど、対応に時間がかかる質問は、メールにて対応する。
フィードバックの方法	授業期間中の小テスト実施後に、解答例を配布し、解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	「授業計画」を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	はじめに	受講上の注意。 「犯罪と法」から「刑法総論」へ。 授業後、配布プリントを読み直し、不明な点は各自で調べること(2時間) 次回の授業までに、テキストを入手し、「第1講 刑法を学ぶということ」を読み、理解すること(2時間)。	
2	刑法は何のためにあるのか	応報と犯罪予防。 犯罪と法益保護。 授業に先立ち、テキストの「第2講 刑法は何のためにあるのか」をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 授業後、テキストの「第2講」を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。	
3	刑法の基本原則	罪刑法定主義。 責任主義。 授業に先立ち、テキストの「第3講 刑法の基本原則」をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 授業後、テキストの「第3講」を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。 小テスト実施(10%)	
4	犯罪論の基本的な考え方(1)	犯罪論の体系の全体像。 授業に先立ち、テキストの「第5講 犯罪論の基本的考え方」の「I はじめに」から「III 犯罪論の概要」をあらかじめ読んでおくこと(1時間)。 授業後、前回の小テストの解説を読み、自分の理解を深めること(1時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。	
5	犯罪論の基本的な考え方(2)	犯罪の本質。 結果無価値と行為無価値。 授業に先立ち、テキストの「第5講 犯罪論の基本的考え方」の「IV 犯罪の本質」以下の部分をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。	
6	構成要件該当性(1)	構成要件とは何か。 構成要件の構成要素。 授業に先立ち、テキストの「第6講 構成要件をめぐって」をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。 小テスト(10%)	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
7	構成要件該当性(2)	刑法における因果関係。 授業に先立ち、テキストの「第7講 未遂犯と不能犯」の「I はじめに」と「II 刑法における因果関係」をあらかじめ読んでおくこと(1時間)。 授業後、前回の小テストの解説を読み、自分の理解を深めること(1時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。	
8	構成要件該当性(3)	未遂犯と不能犯。 故意。 授業に先立ち、テキストの「第7講 未遂犯と不能犯」の「III 未遂犯をめぐる諸問題」以下の部分をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。	
9	構成要件該当性(4)	事実の錯誤。 授業に先立ち、テキストの「第8講 故意と錯誤」をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。 小テスト(10%)	
10	違法性(1)	正当行為。 被害者の同意。 授業に先立ち、テキストの「第9講 違法性とその阻却」の「I はじめに」から「III 違法性阻却事由の統一的原理」までをあらかじめ読んでおくこと(1時間)。 授業後、前回の小テストの解説を読み、自分の理解を深めること(1時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。	
11	違法性(2)	緊急行為としての正当防衛と緊急避難。 授業に先立ち、テキストの「第9講 違法性とその阻却」の「IV 違法性阻却事由の概観」以後の部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	有責性(1)	<p>規範的責任論。 責任能力の基礎。</p> <p>授業に先立ち、テキストの「第10講 責任とその阻却」の「I はじめに」から「III 責任要素」の責任能力に関する部分をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。</p> <p>小テスト(10%)</p>	
13	有責性(2)	<p>責任無能力者・限定責任能力者に対する制度的な手立て。 違法性の意識の可能性。 適法行為の期待可能性。</p> <p>授業に先立ち、テキストの「第10講 責任とその阻却」の「III 責任要素」の違法性の意識の可能性に関する部分以下をあらかじめ読んでおくこと(1時間)。 授業後、前回の小テストの解説を読み、自分の理解を深めること(1時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。</p>	
14	正犯と共犯(1)	<p>正犯とは何か。 共犯とは何か。 単独正犯と狭義の共犯。</p> <p>授業に先立ち、テキストの「第11講 正犯と共犯」をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。</p>	
15	正犯と共犯(2)	<p>共犯従属性。 共同正犯。</p> <p>授業に先立ち、テキストの「第12講 犯罪論から刑罰論へ」の該当部分をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 授業後、予習で読んだテキストの部分を読み直し、自分の理解を確認すること(2時間)。</p> <p>小テスト(10%)</p>	

開講科目名 Course	租税法 / Tax Law
時間割コード Course Code	40260
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山田 麻未
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関岡 誠一 (法学部)、山田 麻未 (法学部)
授業の目標	<p>この授業の目標は、所得税法と相続税法の専門知識を習得することです。</p> <p>知識・理解の領域</p> <p>(1)税法の基本原則を理解できるようになる。 (2)所得税法の考え方と基本的な仕組みを理解できるようになる。 (3)相続税法の考え方と基本的な仕組みを理解できるようになる。</p> <p>技能の領域</p> <p>(1)税法の基本的な仕組みとその問題点を説明することができるようになる。 (2)複雑なルールが設けられた理由を学ぶことで、どのような問題があるのかを発見し、問題解決の方法を理解できるようになる。</p>
授業の概要	<p>私たちは、会社から給与を受け取る際に所得税を支払い、コンビニで買い物をすれば消費税を支払います。このように、税は私たちの日常生活と密接に関係しています。また、経済活動を行う際には、必ずと言っていいほど課税が生じますので、税を知らずに取引をすることはできません。この授業では、社会で実際に生じた紛争事案である判例にも言及しながら、所得税や相続税などの個人に関わる税法の基本的な仕組みとその問題点を理解することを狙いとします。</p> <p>授業で使用するレジュメ等は、事前にGoogle Classroomを通じて配布する予定です。授業前にプリントアウトするか、タブレット・パソコン等で閲覧できるように準備してください。また、Google ドキュメントを使用したり、Google Formを使った確認テストを授業時間内に行う予定です。スマートフォン等の電子機器も持ってきてください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	期末試験 (70%) と、毎回行う小テスト (30%) により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5 回以上欠席した場合は失格とします。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス：日本の税制の概観</p> <p>第2回 租税法の基礎理論：租税法主義と租税公平主義</p> <p>第3回 租税法の基礎理論：税法の解釈と適用</p> <p>第4回 租税法の基礎理論：租税回避</p> <p>第5回 所得税(1)：所得概念</p> <p>第6回 所得税(2)：収入金額と必要経費</p> <p>第7回 所得税(3)：所得の年度帰属</p> <p>第8回 所得税(4)：所得の人的帰属</p> <p>第9回 所得税(5)：所得分類の趣旨と意義</p> <p>第10回 所得税(6)：所得分類（譲渡所得）</p> <p>第11回 所得税(7)：所得分類（給与所得と事業所得）</p> <p>第12回 所得税(8)：損失、損益通算、所得控除</p> <p>第13回 相続税・贈与税：相続税と贈与税の概要</p> <p>第14回 相続税・贈与税：課税物件、財産評価</p> <p>第15回 まとめ</p>
テキスト	レジュメを配布します。
参考書	<p>浅妻章如・酒井貴子『租税法』（日本評論社、2020年）</p> <p>岡村忠生ほか『租税法（第3版）』（有斐閣、2021年）</p> <p>金子宏『租税法（第24版）』（弘文堂、2021年）</p> <p>佐藤英明『スタンダード所得税法（第3版）』（弘文堂、2022年）</p> <p>谷口勢津夫『税法基本講義（第7版）』（弘文堂、2021年）</p> <p>中里実ほか編著『租税法概説（第4版）』（有斐閣、2021年）</p> <p>租税判例百選〔第7版〕（有斐閣、2021年）</p> <p>金子宏編著『ケースブック租税法（第5版）』（弘文堂、2017年）</p> <p>中里実ほか編『租税判例六法（第5版）』（有斐閣、2021年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応します。
フィードバックの方法	<p>小テストは、翌週の授業で解説等を行います。</p> <p>期末試験の結果に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>[予習・復習について]</p> <p>1. 予習：授業で扱われる範囲について、参考書または自分で選んだテキストを読んでください。また、講義資料に目を通しておいてください。（各回2時間程度）</p> <p>2. 復習：講義資料に基づいて、基本的な事項の復習を行ってください。（各回2時間程度）</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	民法総則 / General Rules of Civil Law
時間割コード Course Code	40270
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	近藤 久雄
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 2 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	近藤 久雄 (法学部)
授業の目標	<p>民法は、われわれの日常（市民）生活を規律する最も基本的な法律です。本講義では、その民法の第1編「総則」を学びます。この授業では、市民生活に必要な商品や土地の取引をするうえで必要となる基礎的な約束事を一通り学びます。契約法、物権法の基礎となる法的な知識の習得を目的とします。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 総則分野（市民生活における物の所有や商品の売買など関わる法）の基礎的知識の修得することができる。</p> <p>思考判断の領域 法的なものの見方、考え方（リーガルマインド）を身につけるための基礎作りをします。</p> <p>態度・志向性の領域 法的な生活関係（権利・義務であらわされる世界）とは何かを理解することができます。</p>

<p>授業の概要</p>	<p>授業形態 対面にて授業を行います。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況悪化により、遠隔授業に変更する事も考えられます。G-mail、Google classroomにて、逐次、確認して下さい。</p> <p>概要 われわれの営む私生活関係は大別すると物の所有・売買・取引を中心とする財産関係と夫婦・親子・相続といった家族関係を中心とする生活関係に分かれます。前者を規律する法を財産法、後者を規律する法を家族法と呼んでいます。</p> <p>総則は、財産法・家族法の通則、すなわち両者に通じる規則を定めています。その内容は人・法人・物・法律行為・期間・時効などです。少しわかりやすく書くと、民法の根底にある考え方（基本原理）、誰が私法上の権利を持つのか（自然人と法人）、子供がした契約は有効か（自然人の能力）、賭け麻雀は有効か（法律行為）、本人の意思と異なる約束はどうなる（意思表示）、人に頼んで交渉をしてもらうと（代理）、人にお金を貸しても、請求しないと権利がなくなる（時効）などです。</p> <p>皆さんは、これから市民生活を営むための法律関係を学ぶのですが、法律関係は、権利・義務関係であらわれます。この権利義務関係は、権利は誰が主張できるのか、誰が義務を負担することができるのかということですが、本講義では、この市民生活を営むための法律関係の基礎となる知識を習得することを目指します。</p> <p>おそらく、ほとんどの人が法を学ぶのは初めてだと思います。初学者が法を学ぶには日常生活と密接な関係にある民法は、比較的入りやすい法だと思いますが、それでも基本的な約束事を理解するのは、やはり骨のおれる作業だと思います。「道（4年）は長い？」あせらず、じっくり取り組んでください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照して下さい。</p>
<p>評価方法</p>	<p>小テストと課題の提出（合計50%）及び定期試験（50%）で評価します。小テスト、課題の提出には、Google classroomを使用します。</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>15回の講義を6回以上欠席すると、失格になります。 遅刻、早退は、2回で1回の欠席になりますので、注意して下さい。</p>
<p>授業計画</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 民法とは何か 法体系の中の民法 権利と義務 準備学習 2時間 2. 自然人の能力(1) 権利能力・行為能力・意思能力 準備学習 2時間 3. 自然人の能力(2) 制限行為能力者の保護 準備学習 2時間 4. 法人とは何か 法人のルーツ 有限責任という考え方 準備学習 2時間 5. 法人の能力 法人はなんでもできるか 準備学習 2時間 6. 権利能力なき社団・財団 準備学習 2時間 7. 法律行為とは何か 準備学習 2時間 8. 法律行為の有効要件 準備学習 2時間 9. 意思表示 その1 心裡留保・通謀虚偽表示 準備学習 2時間 10. 意思表示 その2 錯誤 準備学習 2時間 11. 代理とは 代理権・代理行為 準備学習 2時間 12. 無権代理 狭義の無権代理・表見代理 準備学習 2時間 13. 条件、期限、期間 準備学習 2時間 14. 時効制度(債権) 消滅時効 準備学習 2時間 15. 時効制度(所有権) 取得時効 準備学習 2時間
<p>テキスト</p>	<p>中田 邦博ほか「新プリメール民法1（民法入門・総則 第3版）」法律文化社 民法総則の基本書です。予習・復習で活用して下さい。コラム（WINDOW）が設けられており、これを読むのも楽しいと思います。2022年10月に改定され第3版になっていますので、注意して購入して下さい。</p>
<p>参考書</p>	<p>潮見 佳男他『民法判例百選1 総則・物権 第7版』（別冊ジュリストNo.237）有斐閣 総則部分の代表的な判例の解説書です。講義に出てきた判例はチェックして下さい。 図書館に担当者の選定図書コーナーがありますので、併せて参照して下さい。</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含まない</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	<p></p>
<p>実務経験のある担当教員による授業</p>	<p>該当しない</p>
<p>担当教員の実務経験を活かした授業の内容</p>	<p></p>
<p>質問への対応方法</p>	<p>質問には随時対応します。また、ゆっくり話をしたい場合には、オフィスアワーを利用して研究室を訪ねて下さい。</p>
<p>フィードバックの方法</p>	<p>小テスト、課題は、Google classroomを使用しますので、解答後は、直ちに評価を確認することが出来ます。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教科書の使用が必須です。各回それぞれ2時間の予習、復習を義務づけています。シラバスの項目を参考に事前にテキストを読んで講義に臨んで下さい。また、講義の際に次回までに読んでおいて欲しい箇所を指定しますので、必ず実行して下さい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	物権法 / Property Law
時間割コード Course Code	40280
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川 結人
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 結人 (法学部)
授業の目標	<p>「到達目標」：民法第二編に規定のある物権について基本的ルールの習得をめざす。物を排他的に支配する権利としての物権という概念およびそのような権利の変動について、具体的なイメージを持つことができるようになる。</p> <p style="text-align: right;">知識・理解の領域</p> <p style="text-align: center;">個々の物権の内容について正確に理解し説明できる。いかなる場合に物権が移転し、そのことを他人に主張できるかを事例ごとに説明できる。</p> <p style="text-align: right;">技能の領域</p> <p style="text-align: center;">実社会において、どのような物権が利用されているかを発見・理解する能力を身につける。</p> <p style="text-align: center;">態度・志向性の領域</p>
授業の概要	<p>人に対する権利である債権と、物に対する権利としての物権との違いを意識しつつ、物権についての基本的な概念や制度について講義形式で授業を進めていきます。</p> <p>講義での疑問点については、授業後やオフィスアワーを活用して可能な限り対応します。皆さんの</p>
評価方法	<p>平常点 (受講態度、授業への参加姿勢) 30%</p> <p style="text-align: right;">期末試験 70%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で失格とします。
授業計画	<p>第1回 総論</p> <p>第2回 物権とは</p> <p style="text-align: right;">第3回 物権の一般的効力 (物権的請求権、物権の優先的効力)</p> <p style="text-align: center;">第4回 物権変動総論</p> <p>第5回 不動産物権変動 (1)</p> <p style="text-align: right;">第6回 不動産物権変動 (2)</p> <p style="text-align: center;">第7回 動産物権変動</p> <p style="text-align: right;">第8回 所有権</p> <p style="text-align: center;">第9回 占有権・用益物権</p> <p style="text-align: right;">第10回 担保物権総論</p> <p style="text-align: right;">第11回 抵当権 (1)</p>
テキスト	授業前に講義用プリントを配布いたします。

参考書	<p>講義用プリント以外にも、自分にとって読みやすい参考書を持つことが望ましい。</p> <p>○物権法（担保物権を範囲に含まない）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐久間毅『民法の基礎2 物権〔第3版〕』（有斐閣、2023年4月出版予定） ・松岡久和『物権法』（成文堂、2017年） <p>○担保物権法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道垣内弘人『担保物権法〔第4版〕』（有斐閣、2017年） ・松岡久和『担保物権法』（日本評論社、2017年） <p>○物権・担保物権双方を対象とするもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山野目章夫『民法概論2 物権法』（有斐閣、2022年） ・安永正昭『講義 物権・担保物権法〔第4版〕』（有斐閣、2021年） <p>○判例教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選 〔第9版〕』（有斐閣、2023年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>講義後に可能な限り質問の時間を設ける。</p> <p>それ以外でも随時対応する。</p> <p>個別対応希望の場合は、メールにて事前連絡をすること。</p>
フィードバックの方法	講義中に随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>[予習復習について]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予習：授業で扱われる範囲について、参考書または自分で選んだテキストを読む。関係する箇所を六法で確認し、条文に目を通す。 2. 復習：配布したレジュメを中心に、六法・参考書等を用いて再度確認する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	債権各論 / Contract, Torts Law
時間割コード Course Code	40300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	濱口 弘太郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	濱口 弘太郎 (法学部)
授業の目標	<p>債権の発生原因となる各種契約及び法定債権関係(主な内容として不法行為)に関わる各制度について、基礎的な構造と基本原則を理解することができる。</p> <p>学習成果 知識・理解の領域 債権各論分野における基本的な概念や制度の意義・仕組み等について体系的に理解する。これによって、民法総則、債権総則、契約総則、契約各則の関係を見渡すことができる。</p> <p>技能の領域 契約及び法定債権に規定される制度の体系的な理解に基づいて、具体的な問題に対して論理的な考察を展開し、表現することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 日常生活で接しうる契約の場面や不法行為によって生じる権利・義務に関心をもち、法的観点から問題を把握することができる。さらに、具体的な問題に対して解決方法を自分で考察することができる。</p>
授業の概要	<p>民法第3編第2章から第5章に規定される債権の発生原因に関する各制度について学ぶ。債権各論の分野は広範に及ぶが、当該分野の構造を念頭に置き、講義の前半では、契約総論及び13の典型契約について基礎的な知識を身につける。講義の後半では、不法行為を中心に法定債権関係について基本的な概念や制度の意義を正確に理解する。これらの学習を通して、民法総則、債権総論との関係を体系的に把握する。</p> <p>講義では、私たちが日常生活の中で接しうる身近な具体的事例を示しながら重要な点について説明する。社会生活の基本に関わるこれらの法制度を理解することにより、実際の取引関係において生じる具体的な問題について法的な観点から検討する能力を養う。</p> <p>[質問への対応] 講義内容や学習方法に関する質問には、メールで対応します。</p> <p>この科目の位置付けについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>期末試験 70%</p> <p>平常点(小レポート) 30%</p> <p>[期末試験に関するフィードバック] 期末試験に関する質問は、成績疑義申立期間中に受け付ける。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス、契約法総論(1)契約の成立</p> <p>第2回 契約法総論(2)契約の効力</p> <p>第3回 契約法総論(3)契約の解除</p> <p>第4回 財産権移転型の契約(贈与、売買)</p> <p>第5回 財産権移転型の契約(贈与、売買)</p> <p>第6回 財産権移転型の契約(贈与、売買)</p> <p>第7回 賃借型契約(消費貸借、使用貸借、賃貸借)</p> <p>第8回 賃借型契約(消費貸借、使用貸借、賃貸借)</p> <p>第9回 役務提供型契約(雇用、請負、委任、寄託)</p> <p>第10回 役務提供型契約(雇用、請負、委任、寄託)、その他の契約</p> <p>第11回 法定債権関係序論</p> <p>第12回 事務管理・不当利得</p> <p>第13回 一般不法行為の要件</p> <p>第14回 一般不法行為の効果</p> <p>第15回 特殊な不法行為</p>
テキスト	六法は毎回必ず持参すること。
参考書	<p>教科書等</p> <p>本授業の範囲をカバーする比較的コンパクトなものとして、青野博之ほか『新ブリエール民法4 債権各論』(法律文化社、2018年)を挙げておく。</p> <p>判例教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窪田充見・森田宏樹編『民法判例百選2 債権[第8版]』(有斐閣、2018年) ・中原太郎 ほか『民法4債権各論 判例30!』(有斐閣、2017年)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中に質問を受け付け、口頭で回答する。
フィードバックの方法	成績評価に関するフィードバックは、成績疑義申立期間中に、行う
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>[準備学習について]</p> <p>1. 予習：授業で扱われる範囲について、参考書または自分で選んだテキストを読む。関係する箇所を六法で確認し、条文に目を通す。(各回60分程度)</p> <p>2. 復習：講義内容に関するノート等を中心に、六法・参考書等を用いて再度確認する。(各回120分程度)</p> <p>本講義で扱う債権各論は、非常に範囲の広い分野です。授業では特に重要なポイントについて解説しますが、その理解のためには、各自十分な予習・復習が必要です。テキストは指定しませんが、後掲の参考書など自分に合ったものを手元に置いて学習を進めてください。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	<p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p> <p>4.構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	知的財産法 / Intellectual Property Law
時間割コード Course Code	40320
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	白出 博之
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	白出 博之 (法学部)
授業の目標	知的財産法とはどのような情報をどのような形で保護するものかという全体像を把握するとともに、知的財産法の基本的な考え方や制度の概要について、民法の基礎理論に遡り、その応用として理解することを目標とする。
授業の概要	知的財産法は財産的情報の保護に関する法であるが、本講義ではその中から著作権法・特許法を中心に講義する。近時、知的財産法の重要性が高まっており、これに対する社会的ニーズや関心も高まっている。身近なところではレポートの作成・インターネットなど毎日の生活にも密接に関係してくる著作権法、製薬や自動車から金融まで幅広い産業に関係する特許法など、知的財産法は現代社会での生活に重要な関わりを持っている。本講義では著作権法・特許法の基本的な理念や考え方について、常に民法の基礎理論・法原則との比較を念頭に置いて説明をするとともに、これからの知的財産法のあり方を一緒に考えていく。講義は授業計画の通り進行する予定であるが、内容が必要に応じて変更することがある。
評価方法	授業内容の理解を確認・整理するために実施する振り返り課題（40%）および期末試験（60%）の結果によって総合評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン・民法から知的財産法へ（知的財産法の学習の進め方、資料収集の方法について） 本講義の目的：知的財産権保護に関わる法律および本講義の対象について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ1・民法から知的財産法へ：2時間の復習）</p> <p>第2回 著作権法 本講義の目的：著作物性（著作物とは何か）について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ・著作物性：2時間の復習）</p> <p>第3回 著作権法 本講義の目的：著作物性（著作物の種類、既存著作物を基礎とした著作物）について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ・著作物性：2時間の復習）</p> <p>第4回 著作権法 本講義の目的：著作者・職務著作について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ・著作者、職務著作：2時間の復習）</p> <p>第5回 著作権法 本講義の目的：著作権の内容、保護期間等について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ・著作権の内容：2時間の復習）</p> <p>第6回 著作権法 本講義の目的：著作権の内容、制限等について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ・著作権の内容：2時間の復習）</p> <p>第7回 著作権法 本講義の目的：著作者人格権、公表権、氏名表示権、同一性保持権等について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ・著作者人格権：2時間の復習）</p> <p>第8回 特許法 本講義の目的：特許権の客体（発明や特許要件）について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ・特許権の客体：2時間の復習）</p> <p>第9回 特許法 本講義の目的：特許権の主体（発明者、職務発明）について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ・特許権の主体：2時間の復習）</p> <p>第10回 特許法 本講義の目的：権利取得の手続（出願、審査、審判）について手続法の基礎理論から理解する （配布レジメ・権利取得の手続：2時間の復習）</p> <p>第11回 特許法 本講義の目的：特許権の効力（クレームの解釈、均等論など）について民法の基礎理論から理解する （配布レジメ・特許権の効力：2時間の復習）</p> <p>第12回 特許法</p>
テキスト	<p>テキストは指定しませんが、講義の際には最新の改正を反映した条文を持参すること。手持ちの六法が改正に対応していない場合、e-Gov（法令データ提供システム）や、その他インターネット上で最新の条文を入手することができる。それらをプリントアウトやダウンロードするなどして講義中はいつでも参照できるようにすることが望ましい。</p>

参考書	<p>知的財産法全体を概観するテキスト（これ1冊でも基礎的な知識は十分に学習することができるもの）</p> <p>愛知靖之・前田健・金子敏哉・青木大也『知的財産法』（有斐閣、2018年）</p> <p>平嶋竜太・宮脇正晴・蘆立順美『入門知的財産法』（有斐閣、2016年）</p> <p>章末に問題演習も用意されており、基礎的な知識を確実にするためのテキスト</p> <p>駒田泰士・潮海久雄・山根崇邦『知的財産法I 特許法』（有斐閣、2014年）</p> <p>駒田泰士・潮海久雄・山根崇邦『知的財産法II 著作権法』（有斐閣、2016年）</p> <p>各論点に関する論文や判例なども紹介されており、より詳しく学ぶためのテキスト</p> <p>島並良・上野達弘・横山久芳『特許法入門』（有斐閣、2014年）</p> <p>島並良・上野達弘・横山久芳『著作権法入門〔第2版〕』（有斐閣、2016年）</p> <p style="text-align: right;">具体的な事例と裁判例を学ぶ参考書として 小泉直樹・田村善之</p> <p>・駒田泰士・上野達弘編『著作権判例百選〔第6版〕』（有斐閣、2019年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業中に配布する判例資料等を通じて、受講生の見解・意見等を求めることにより、一方的な座学講義形式にならないよう工夫してきます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	弁護士としての知財関連事件の実務経験を活用し、知財関連事件の判例分析等、具体的なケースを題材とした説明を実施していきます。
質問への対応方法	授業の前後およびオフィスアワーなど随時対応します。
フィードバックの方法	講義後に実施する振り返りシートに関しては、次回講義を目処に具体的な判断・評価を示します。また、成績評価に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習2時間、復習2時間を目安として準備学習を心がけてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	法哲学 / Philosophy of Law
時間割コード Course Code	40370
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	清水 裕樹
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	清水 裕樹 (法学部)
授業の目標	<p>「正しさ」について考えられるようになることを目指します。現代の社会では、グローバル化の中でさまざまな文化的背景を有する個人たちが共存する中、多様な価値観が混ざり合っています。その中で、「正しい」とはどのようなことなのだろうか。「それはあなたの感想ですよ」という、単なる相対主義にならずに、「みんな」にとって「正しい」とはどのようなことであるかを受講者のみなさんが考えられるようになることを目指します。</p> <p>態度・志向性の領域：人間世界のさまざまなルールについて、それらを当たり前にあるものとしてではなく、つくられたものとして考えるくせを身につけられる。</p>
授業の概要	<p>下記テキストの問題意識に従い、具体的な問題点に関する問いかけ、それに基づく考察、受講者からの意見聴取、出された意見とテキストの記述に基づく検討を実施します。</p> <p>テキストは、いずれも中古品のみで入手可能であり、読むことで大いに刺激を受けられることが期待できます。しかし、テキストもまた「正解」ではなく、教員の解釈も「正解」ではないという前提で、自ら「正しさ」を追求する姿勢が求められます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照してください</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題 (google フォーム形式を予定) 60% ・レポート (2回実施を予定) 40% <p>課題は正解を求めるものではなく (厳密な採点にはなじみにくい)、疑問に対してどのように取り組んだかの姿勢を評価します。</p> <p>授業中に意見を求める場合、何らかのかたちで学生番号と氏名を確認します。積極的な意見については、加点の対象とします。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>教員個人としては、授業の教室においても自動的に授業に参加しているとは考えたくはありません。いたずらに教室への在室への圧力となる制度を適用しないつもりです。ただし、授業に参加せず教室にいるだけでは、単位の修得は期待できません。</p>

授業計画	<p>下記テキストのうち、『「おろかももの」...』は全体を、『法の臨界<3>』は同書掲載の小林論文を対象に、下記の計画で授業を実施します。なお、受講者の顔ぶれや、参加姿勢などにより、計画どおりとならない場合もあります。</p> <p>第1回 授業の進め方、法と正しさ 第2回 「正義」と「正しさ」 第3回 「正しさ」は必要か 第4回 すべての価値を支える価値は何か 第5回 規範は「死」を決められるか 第6回 事実とは何か 第7回 科学は正義を決められるか 第8回 他人に迷惑をかけてはいけないか 第9回 選択の自由があるのはいいことか 第10回 暴力をどう管理するか 第11回 国家とは何か 第12回 民主政は「正しさ」を実現できるか 第13回 「正しさ」の時代へ 第14回 環境危機にどう立ち向かうか 第15回 「正しさ」から法学へ</p>
テキスト	<p>小林和之『「おろかももの」の正義論』ちくま新書2004年 井上・松浦・嶋津（編）『法の臨界<3> 法実践への提言』東京大学出版会1999年</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>授業の性質上、授業中の質問は歓迎します。 授業時間外は、メール（gmail）で対応します。 google classroomも使用する予定ですが、メールのほうが迅速に対応できるかと思えます。</p>
フィードバックの方法	課題やレポートについては、授業中に口頭またはプリントで解説します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業について、課題への取り組みと予習・復習合わせて少なくとも2時間；レポート2篇の準備・作成についてそれぞれ少なくとも15時間の学習を期待します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	刑法各論 / Criminal law(Specific offences)
時間割コード Course Code	40390
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	清水 裕樹
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	清水 裕樹 (法学部)
授業の目標	<p>< 授業の目標 ></p> <p>下記テキストを用い、刑法第二編「罪」の部分に含まれる犯罪類型のうち、特に重要なものと考えられる犯罪類型について、それぞれの基本的な内容と他の犯罪類型との相違について説明できることを目指す。また、授業では取り扱えなかった犯罪類型についても、自分で調べ、同様に基本的な内容について説明できるようになる力を養うことも目標としている。</p> <p>< 学習成果 ></p> <p>知識・理解の領域 授業で取り扱った犯罪類型のそれぞれについて、その基本的な内容と他の犯罪類型との相違について説明できる。</p> <p>技能の領域 刑法第2編の条文や、特別刑法の犯罪類型に関する条文を、教科書やコンメンタールを参考にして自ら解釈することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 刑法による法益保護のあり方を、法システム全体、さらには法以外の社会規範との関連性の中で考えることができる。</p>
授業の概要	<p>< 注意 ></p> <p>本科目を履修するにあたっては、犯罪と法および刑法総論の単位を習得していることを強く希望する。また、授業前及び授業終了後にしっかりとテキストの関連するページを読んで、その内容を積極的に理解しようという姿勢が必要となるだろう。</p> <p>< 授業について ></p> <p>下記テキストの内容に沿って、刑法各論の中でも特に重要であると考えられる罪の部分について講義形式で授業を行う。授業回数が限られているので、重要性の高い論点を重点的に取り扱う。全15回の授業であるため、取り上げることができない重要な論点が他にもあるが、これらについてはテキストの該当部分をしっかりと読むことで自ら身につけて欲しい。受講者は、この授業へとしっかりと取り組むことで、その能力を十分に身につけることができるだろう。</p> <p>授業への理解度と学習習慣の確認を目的として、授業の区切りごとに小テストを複数回実施する。実施予定の日程については、授業計画票を参照のこと。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	小テスト50%（授業時間中に実施） 期末試験50% 出席はタブレットで確認する。授業開始後20分が経過した時点で、出席管理上欠席として取り扱う。 学生証不携帯の場合、特段の理由のない限り出席管理上欠席として処理する。その場合でも、当然授業は受けるべきであるとともに、小テストを受験した場合には採点の対象とする。 特別欠席は、所定の届の提出があった場合に限り認める。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	正当な理由のない欠席が6回以上、または連続して欠席3回以上となった場合失格とする。
授業計画	下記テキストの内容を踏まえて授業を行う。 初回授業時に受講上の注意を行うが、積極的な学ぶ姿勢が必要となる。 授業時には必ず六法及びテキストを持参すること。 法解釈学は「条文ありき」の学問であるので、六法やテキストは、必ず最新のものを準備すること。 この授業では、教科書出版後に行われた法改正の内容を踏まえ、現に施行されている内容に基づいて講義を行う。予習復習などに際しては、適宜最新の条文やテキストも参照すること。 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	井田良『入門刑法学 各論 第2版』有斐閣2018年
参考書	伊東・松宮編著『新・コンメンタール刑法【第2版】』日本評論社2021年、前田他編『条解刑法第4版』弘文堂2020年、井田良『入門刑法学 総論』有斐閣2013年 その他、必要に応じて紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内容に対して質問がある場合、原則として授業時間中、又は授業後に受け付ける。質問の性質上、短時間での対応が不可能である場合などには、メールにより随時質問を受け付ける。
フィードバックの方法	授業期間中に実施した小テストについて、原則として次回授業時に回答を配布し、解説する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	「授業計画」を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	刑法総論から刑法各論へ	刑法総論の内容の簡単な振り返り 刑法総論と刑法各論の違い 授業終了後に、授業内容の振り返りを行うこと(2時間)	
2	刑法による生命の保護(1)	はじめに 生命保護のための処罰規定の概観 授業開始時までに、テキストの該当部分を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行うこと(2時間)	
3	刑法による生命の保護(2)	人の始期と終期 授業開始時までに、テキストの該当部分を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行うこと(2時間)	
4	刑法による身体の保護(1)	はじめに 傷害の概念 授業開始時までに、テキストの該当部分を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行うこと(2時間)	
5	刑法による身体の保護(2)	暴行罪・傷害罪・傷害致死罪 過失傷害罪 授業開始時までに、テキストの該当部分を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行うこと(2時間)	
6	自由とその保護(1)	はじめに 脅迫罪と逮捕・監禁罪 小テスト実施(10%) 授業開始時までに、テキストの該当部分を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行うこと(2時間)	
7	自由とその保護(2)	住居侵入罪 授業開始時までに、テキストの該当部分を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行うこと(2時間) 授業終了後に、小テストの解説を読み返して理解すること(30分)	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
8	財産犯総論(1)	はじめに 現行刑法による財産の保護 小テスト実施(10%) 授業開始時までに、テキストの該当部分 を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行 うこと(2時間)	
9	財産犯総論(2)	財産犯の保護法益 不法領得の意思 授業開始時までに、テキストの該当部分 を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、小テストの解説を読み返 して理解すること(30分) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行 うこと(2時間)	
10	財産犯各論(1)	はじめに 器物損壊罪、窃盗罪と強盗罪 授業開始時までに、テキストの該当部分 を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行 うこと(2時間)	
11	財産犯各論(2)	詐欺罪と恐喝罪 授業開始時までに、テキストの該当部分 を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行 うこと(2時間)	
12	財産犯各論(3)	横領罪 小テスト実施(10%) 授業開始時までに、テキストの該当部分 を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行 うこと(2時間)	
13	社会的法益に対する罪(1)	超個人的な法益を保護すること 放火罪 授業開始時までに、テキストの該当部分 を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、小テストの解説を読み返 して理解すること(30分) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行 うこと(2時間)	
14	社会的法益に対する罪(2)	賭博罪、富くじ罪 小テスト実施(10%) 授業開始時までに、テキストの該当部分 を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行 うこと(2時間)	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	国家的法益に対する罪	司法作用に対する罪 小テスト実施(10%) 授業開始時までに、テキストの該当部分 を読んでおくこと(2時間) 授業終了後に、小テストの解説を読み返 して理解すること(30分) 授業終了後に、授業内容の振り返りを行 うこと(2時間)	

開講科目名 Course	資格・検定講座III(宅建対策) / Certificate examination course III
時間割コード Course Code	41020
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	福島 崇弘
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	福島 崇弘 (法学部)
授業の目標	<p>本講義は、法律の基礎及び実例（法律の使い方）と宅地建物取引士試験合格について必要な能力を身につける。</p> <p>〔知識・理解の観点〕 各法律の立法の目的、内容について丁寧に説明することで、宅建試験合格に達する力を身につけることができる。</p> <p>〔思考・診断の観点〕 宅建業法を学ぶことで、不動産取引に関する問題点に気づくことができる。</p> <p>〔関心・意欲の観点〕 不動産取引に必要な資格の取得ができる。</p> <p>〔態度の観点〕 現実の不動産取引に関係する制度から、就職について考えるようになる。</p>
授業の概要	<p>宅建資格は、不動産取引業に必須の国家資格であり、法学部の学生が最初に目指す資格といわれている。しかし、学生にとっては理解しにくいものである。本講義は、立法趣旨、イメージ、実例を挙げ、単なる暗記にならない、深い知識を習得することができる。</p> <p>対面講義によって実施します。</p>
評価方法	受講状況(30%)と講義ごとの課題の結果(70%)により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出欠だけとって退出された場合には失格となります。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、法律の学習方法 2. 法令上の制限実践（都市計画法） 3. 法令上の制限実践（都市計画法） 4. 法令上の制限実践（都市計画法） 5. 法令上の制限実践（建築基準法） 6. 法令上の制限実践（建築基準法） 7. 法令上の制限実践（建築基準法） 8. 法令上の制限実践（農地法） 9. 法令上の制限実践（国土利用法） 10. 法令上の制限実践（宅地造成法） 11. 法令上の制限実践（土地区画整理法） 12. 法令上の制限実践（その他の制限、税金） 13. 法令上の制限実践（価格認定） 14. 法令上の制限実践（5問免除分野） 15. 法令上の制限基礎（5問免除分野） <p>テキストは2020どこでも宅建 とらの巻の1冊、出る順宅建 × 1000肢問題集を使用します。大切な教材ですので?のテキストは必ず購入してください。別途LEC 出る順宅建ウォーク問題集などの過去問題集があるので、そちらも必ず使用し各自復習すること。</p>
テキスト	<p>テキストは、</p> <p>LEC 2022年版 どこでも宅建士 とらの巻 と</p> <p>LEC 2023年版（2022年でも可） 出る順宅建士 一問一答 × 1000肢問題集を使用します</p>
参考書	2023年版 出る順宅建士 ウォーク問過去問題集 ~
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールまたは講義後に受付します
フィードバックの方法	メールまたは直接回答させていただきます
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>講義後に該当箇所の1問1答問題を必ず3回解き直してください</p> <p>これを復習とします</p> <p>予習は特に不要です</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	資格・検定講座IV(宅建対策) / Certificate examination course IV
時間割コード Course Code	41030
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	福島 崇弘
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	福島 崇弘 (法学部)
授業の目標	<p>本講義は、法律の基礎及び実例（法律の使い方）と宅地建物取引士試験合格について必要な能力を身につける。</p> <p>〔知識・理解の観点〕 各法律の立法の目的、内容について丁寧に説明することで、宅建試験合格に達する力を身につけることができる。</p> <p>〔思考・診断の観点〕 宅建業法を学ぶことで、不動産取引に関する問題点に気づくことができる。</p> <p>〔関心・意欲の観点〕 不動産取引に必要な資格の取得ができる。</p> <p>〔態度の観点〕 現実の不動産取引に関係する制度から、就職について考えるようになる。</p>
授業の概要	<p>宅建資格は、不動産取引業に必須の国家資格であり、法学部の学生が最初に目指す資格といわれている。しかし、学生にとっては理解しにくいものである。本講義は、立法趣旨、イメージ、実例を挙げ、単なる暗記にならない、深い知識を習得することができる。</p> <p>対面講義によって実施します。</p>
評価方法	受講状況(30%)と講義ごとの課題の結果(70%)により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出欠だけとって退出された場合には失格となります。

授業計画	<p>本講義は、法律の基礎及び実例（法律の使い方）と宅地建物取引士試験合格について必要な能力を身につける。</p> <p>〔知識・理解の観点〕 各法律の立法の目的、内容について丁寧に説明することで、宅建試験合格に達する力を身につけることができる。</p> <p>〔思考・診断の観点〕 宅建業法、その他の関連法令を学ぶことで、不動産取引に関する問題点に気づくことができる。</p> <p>〔関心・意欲の観点〕 不動産取引に必要な資格の取得ができる。</p> <p>〔態度の観点〕 現実の不動産取引に関係する制度から、就職について考えるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.宅建業法実践（免許、事務所、宅地建物取引士） 2.宅建業法実践(保証金、媒介代理、広告) 3.宅建業法実践(重要事項、37条書面) 4.宅建業法実践(業務上規制、自ら売主制限) 5.宅建業法実践(報酬、監督処分、罰則) 6.宅建業法 7.宅建業法まとめ 8.民法実践（意思表示、制限行為能力者、時効） 9.民法実践（代理、債務不履行、危険負担、担保責任） 10.民法実践（相続、物権変動、担保物権） 11.民法実践（保証、共有、区分所有法、不動産登記法） 12.民法実践（賃貸借、借地借家法） 13.民法実践（賃貸借、借地借家法） 14.まとめ 15.まとめ
テキスト	<p>テキストは、 LEC 2022年版 どこでも宅建士 とらの巻 と LEC 2023年版（2022年でも可） 出る順宅建士 一問一答 ×1000肢問題集を使用します</p>
参考書	2023年版 出る順宅建士 ウォーク問過去問題集 ~
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールまたは講義後に受付します
フィードバックの方法	メールまたは直接回答させていただきます
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>講義後に該当箇所の1問1答問題を必ず3回解き直してください</p> <p>これを復習とします</p> <p>予習は特に不要です</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	近藤 久雄
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	近藤 久雄 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 ゼミオリエンテーション、履修登録の確認、他己紹介（インタビューゲーム） 2回目 各ゼミ2 SDGsについて知る SDGsの実践例 ビデオ鑑賞1 3回目 各ゼミ3 SDGsについて知る SDGsの実践例 ビデオ鑑賞2 4回目 合同ゼミ（企画1）「建学の精神」 5回目 合同ゼミ（企画2）「大学生のメンタルヘルス」 6回目 合同ゼミ（企画3）「PROGテスト」 7回目 各ゼミ4 SDGsについて調べる グループ学習1（データ調査、分析） 8回目 各ゼミ5 SDGsについて調べる グループ学習2（データ調査、分析） 9回目 各ゼミ6 SDGsについて調べる グループ学習3（データ調査、分析） 10回目 合同ゼミ（企画4）「国際交流案内」 11回目 合同ゼミ（企画5）「地域連携・犬山学」 12回目 合同ゼミ（企画6）「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」 13回目 各ゼミ7 SDGsについて体験する 現地調査 14回目 各ゼミ8 SDGsについて体験する 調査を基にまとめる 15回目 各ゼミ9 「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	SDGsを实践する人、団体を訪ね、レクチャーを受け実際に体験する。グループ単位にてまとめ、報告してもらいます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49102
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	早川 結人
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 結人 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49103
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	高橋 省三
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 省三 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、6回は合同ゼミ（法学部1年生全員が一つの教室に集合して行う）となります。これ以外の9回は高橋ゼミのメンバーで授業を行います。</p> <p>第1回 高橋ゼミ1 ガイダンス 第2回 高橋ゼミ2 ことばと法 1 第3回 高橋ゼミ3 ことばと法 2 第4回 合同ゼミ（企画1） 第5回 合同ゼミ（企画2） 第6回 合同ゼミ（企画3） 第7回 高橋ゼミ4 法における「ひと」について 第8回 高橋ゼミ5 法における「もの」について 第9回 高橋ゼミ6 意思表示と契約について 第10回 合同ゼミ（企画4） 第11回 合同ゼミ（企画5） 第12回 合同ゼミ（企画6） 第13回 高橋ゼミ7 情報収集の方法（図書館） レポート課題提示（「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」についても説明する。） 第14回 高橋ゼミ8 レポート提出締切 第15回 高橋ゼミ9 レポート講評</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。</p> <p>ゼミの内容は、受講生の関心や理解度に応じて変更することがあります。</p>
テキスト	<p>テキスト（教科書）を購入する必要はありません。 必要な資料は授業中に配布します。</p>
参考書	<p>大学生の学習の方法について解説した書物は多数あります。その一つとして、「世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）」を紹介いたします。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	国家公務員としての行政実務、法運用の経験を踏まえた解説など。
質問への対応方法	ゼミの前後の時間に随時受け付けます。メールでの質問ももちろん歓迎します。研究室に来ていただくことも大いに歓迎します（ただし、事前にメールで連絡してください。）。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、いつでも対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回につき予習及び復習を2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力

PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none">1. 親和力2. 協同力3. 統率力4. 感情制御力5. 自信創出力6. 行動持続力7. 課題発見力8. 計画立案力9. 実践力
----------------	--

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49104
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	謝 芸甜
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 3 E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	謝 芸甜 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 ゼミオリエンテーション、履修登録の確認、他己紹介（インタビューゲーム） 2回目 各ゼミ2 SDGsについて知る SDGsの実践例 ビデオ鑑賞1 3回目 各ゼミ3 SDGsについて知る SDGsの実践例 ビデオ鑑賞2 4回目 合同ゼミ（企画1）「建学の精神」 5回目 合同ゼミ（企画2）「大学生のメンタルヘルス」 6回目 合同ゼミ（企画3）「PROGテスト」 7回目 各ゼミ4 SDGsについて調べる グループ学習1（データ調査、分析） 8回目 各ゼミ5 SDGsについて調べる グループ学習2（データ調査、分析） 9回目 各ゼミ6 SDGsについて調べる グループ学習3（データ調査、分析） 10回目 合同ゼミ（企画4）「国際交流案内」 11回目 合同ゼミ（企画5）「地域連携・犬山学」 12回目 合同ゼミ（企画6）「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」 13回目 各ゼミ7 SDGsについて体験する 現地調査 14回目 各ゼミ8 SDGsについて体験する 調査を基にまとめる 15回目 各ゼミ9 「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	SDGsを实践する人、団体を訪ね、レクチャーを受け実際に体験する。グループ単位にてまとめ、報告してもらいます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	演習 A(再) / SeminarIA
時間割コード Course Code	49105
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	榊原 嘉明
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	榊原 嘉明 (法学部)
授業の目標	この授業では、資料収集の方法や資料・文献を読む力、レジュメ（報告内容の要約）を作成する力、報告する力や質疑応答に関する力など、大学生活において必要となる力の修得を目標にします。 <学習成果> 知識・理解の領域 資料収集やレジュメ作成、ゼミ報告や質疑応答に関する基本的なルール・マナーを十分理解することができる。 技能の領域 ある共通のテーマについて、資料を収集し、その内容をまとめ、ゼミで報告するとともに、その報告発表を前提に、受講者の間で互いに議論し、ともに考えることができる。 態度・志向性の領域 互いの学びあいの中で、自らの大学生活を、より楽しくより有意義に過ごせるよう行動することができる。
授業の概要	この授業は、「読み・書き・話す」といった基礎的な力を身につける取り組みを中心に進めていきます。また、適宜配布する資料や各自が収集した資料などを「読み、報告し、受講者の間で議論して考える」といった取り組みも行います。
評価方法	講義における取り組み状況や報告内容などを総合的に考慮して評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席又は2回以上の無断欠席により、失格とすることがある。
授業計画	第1回 ガイダンス（演習の進め方について） 第2回 課題図書1-3の選定 第3回 課題図書その1を読み、内容を理解し、その成果を発表する（1） 第4回 課題図書その1を読み、内容を理解し、その成果を発表する（2） 第5回 課題図書その1を読み、内容を理解し、その成果を発表する（3） 第6回 課題図書その1を読み、内容を理解し、その成果を発表する（4） 第7回 課題図書その2を読み、内容を理解し、その成果を発表する（1） 第8回 課題図書その2を読み、内容を理解し、その成果を発表する（2） 第9回 課題図書その2を読み、内容を理解し、その成果を発表する（3） 第10回 課題図書その2を読み、内容を理解し、その成果を発表する（3） 第11回 課題図書その3を読み、内容を理解し、その成果を発表する（1） 第12回 課題図書その3を読み、内容を理解し、その成果を発表する（2） 第13回 課題図書その3を読み、内容を理解し、その成果を発表する（3） 第14回 課題図書その3を読み、内容を理解し、その成果を発表する（4） 第15回 振り返りと新たな目標づくり
テキスト	課題図書の候補や選定の仕方については、第1回において指示いたします。

参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	報告者によるプレゼンテーション、コメンテーターによる寸評・質問、それらを前提としたゼミ全体でのディスカッションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問への対応は、オフィスアワー、ゼミの前後、メールにてこれを行うこととする。
フィードバックの方法	学生から出た要望を踏まえて、適宜、フィードバックを行うこととする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	本授業の準備学習は、課題図書の本読（毎回 2時間程度）、新聞の通覧（毎回 2時間程度）である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49106
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	水島 玲央
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水島 玲央 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）で実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）で実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」、「情報モラル」および「大学生のメンタルヘルス」といったテーマについて学びます。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」、「大学生を取り巻く危険（2）振り込め詐欺、マルチ商法など」および「大学生を取り巻く危険（3）ブラックバイトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、9回分の各ゼミのうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。</p> <p>授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	課税実務を経験した職員により、経験を基に社会生活で役立つ法的知識を習得することができる。
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49107
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	水谷 仁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水谷 仁 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49109
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49110
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	福島 崇弘
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	福島 崇弘 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席者は失格とします
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	LEC宅建士合格のトリセツ 基本テキスト の購入をお願いいたします。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIA
時間割コード Course Code	49111
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	張 瑞輝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 A 2 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	張 瑞輝 (法学部)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	佐藤 直史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 直史 (法学部)
授業の目標	<p>演習の目標は、SDGsを法の視点から踏み込んで考え、法学部で学んだことをグローバルレベル及びローカルレベルのそれぞれの社会でどのように活用できるかについての視点を得ることです。グローバル化が進む国際社会では、これまでのルールが見直されるとともに、新しいルールが生まれています。SDGsもその一つです。これらルールの見直しや新しいルールの形成は、私たちの日々の生活や身近なルールとも結びついています。この演習では、現代の国際社会の新しい潮流などから、「法」の多様性を考え、「法」を多角的に分析します。これらの検討を通じて、みなさんが、1年次までに学んだ法の基本的な原理や基礎理論を前提として、グローバルな社会、ローカルな社会、そしてグローバルとローカルが交錯し影響し合う社会で、法学部で学んだことをどのように活用するかについて実践的な視座を得ることを目指します。</p> <p>加えて、1年次までに学んだ内容を踏まえて、資料収集やリサーチの方法、レポート・レジユメの作成方法など、社会において必要となる能力を更に向上させることも目標とします。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 国際社会のルールや身近なルールの検討を通じて、法を学ぶに当たって重要となる基本的な原理や基礎理論を理解するとともに、法学部で学んでいることの意味、法の学び方、法学部で学んだことの活用の方法を理解する。</p> <p>技能の領域 具体的な事例（題材）の問題点を明らかにし、その問題の背景は何か、解決に向けて誰のどのような利益を考慮しなければならないのか、課題に対する短期的な対応及び中長期的な展望は何か、といった分析ができるようになる。 ディスカッションやプレゼンテーション、リサーチや文書作成の能力が向上する。</p> <p>態度・志向性の領域 主体的・積極的に問題点を明らかにし、解決や改善に向けた取組みを行おうとする姿勢が身につく。 自分とは異なる意見や考え方を、違うからといって排除・嫌悪するのではなく、どうして違いが生じるのかを理解するように努める態度が身につく。</p>

授業の概要	<p>演習IIを受講するみなさんは、法を学び始めてから日が浅く、法の学び方や学んだ内容の活用の方法について、更に理解を進める必要があります。</p> <p>そこで、この演習では、法やルールの細かい内容についての知識を得ることに重点を置くのではなく、アジア諸国の法や国際社会のルールを題材にしつつ、法やルールの役割・機能、法やルールと国際社会・地域社会との関係、法やルールの現在と未来などについて、多面的・多角的な視点から検討することに焦点を当てます。</p> <p>この検討のプロセスを通じて、みなさんは、さまざまな分野に共通する法の基本的な原理や基礎理論を理解するとともに、法とは何か、法の役割や機能は何か、法学部で何を学んでいるのか、法学部で学んだことをどのように活用すればよいのか（活用できるのか）について、視点を得ることができるようになるでしょう。</p> <p>なお、法学部で学んだことの活用の方法を理解することは、みなさんが社会に出る準備（就職活動を含む）を行うに際して、また、社会に出てからさまざまな活動を行うに際して、大いに役に立つでしょう。みなさんが法学部で学んでいる意味を、演習を通じて再確認しましょう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	ゼミでの取り組みの態度（40%）、グループディスカッションやプレゼンテーション（30%）、全体討論における発言（30%）で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席5回以上は失格とします（遅刻は2回で欠席1回とみなします。）。 なお、欠席・遅刻とも、やむを得ない理由がある場合を除き、必ず事前に連絡してください。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回から第5回 法やルールの役割・機能 法やルールは社会においてどのような役割・機能を果たしているのだろうか。SDGsなどの国際社会の新しいルールや身近なルールを題材に考えよう。 法を学ぶために必要なスキルやノウハウ、法学部で学んだことの活用の方法などについても随時検討します。以下の各回でも同様です。</p> <p>第6回から第8回 法やルールが社会で機能するための条件 法やルールが社会で機能するためには条件のようなものがあるのだろうか。SDGsなどの国際社会の新しいルールや身近なルールを題材に考えよう。</p> <p>第9回から第11回 法やルールと文化などとの関係 法やルールと、文化、歴史、慣習、風土、既存の制度、人々の考え方などはどのような関係にあるのだろうか。SDGsなどの国際社会の新しいルールや身近なルールを題材に考えよう。</p> <p>第12回から第14回 グローバル社会における国際的なルールとローカルなルール 国際的なルールとローカルなルールはどのように影響し合うのだろうか。SDGsなどの国際社会の新しいルールや身近なルールを題材に考えよう。</p> <p>第15回 振り返り</p> <p>なお、上記は予定であり、進行状況により変更する場合があります。</p>
テキスト	なし。
参考書	授業のトピックに合わせて指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各回において、具体的な事例の検討をした上で、グループディスカッション、ディスカッションの内容のプレゼンテーション及び全体討論を行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	弁護士実務経験に加え、アジア諸国における法整備支援の経験を豊富に有している教員が、学生のみなさんが法学部で学び、身につけたことを社会でどのように活用するかについて、実践的に学ぶ科目である。
質問への対応方法	授業終了後やオフィスアワーのほか、随時対応します。
フィードバックの方法	授業中のディスカッション、プレゼンテーション、意見交換などについては、授業の中でコメントします。レポート等については翌週又は翌々週に返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマについて1時間の復習を行い、次回のテーマについて1時間の予習を行います。具体的な内容は授業の中で指示します。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49202
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	早川 結人
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 結人 (法学部)
授業の目標	法学分野の専門文献を読みこなすために必要な能力・技術 文献に基づき法的な質疑を行うための能力・技術 の両方を獲得する。
授業の概要	このゼミでは、民法(あるいはもう少し広く民事法)に関する基本書の講読・精読を全員で行う。 具体的には、毎週ごとに、テキストの該当部分を事前提示に従って予習、ゼミ中はそれを分担して 音読しつつ、必要な範囲で学生同士の質疑や教員からの質問・解説を加える。
評価方法	ゼミへの出席状況および講読への参加の積極性を基準に総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	5回以上の欠席で、失格とする。
授業計画	初回にガイダンス・自己紹介。 2回目から14回目までかけて、1冊の本を通読する。 最終回にまとめの講義を行う。
テキスト	野村豊弘「民法法入門【第8版補訂版】」(有斐閣、2022年)
参考書	特になし。 必要があれば随時、指摘。
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授 業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授 業の内容	
質問への対応方法	質問については、ゼミ内で随時対応。 また、メールによる連絡についても随時対応する。
フィードバックの方法	ゼミ内で随時行う。
予習・復習等、準備学習の内容及 び時間	該当範囲について、事前にテキストの一読を予習範囲とする。 範囲については、ゼミ内で随時指摘する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49203
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	白出 博之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70D演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	白出 博之(法学部)
授業の目標	ゼミの目標 この演習では、民法に関するニュース、文献・裁判例等の読解を通して、資料・文献を読む力、レジュメ(報告内容の要約)を作成して報告する力、質疑応答に関する力など、大学法学部での学習に必要となる基礎力の修得を目標にします。
授業の概要	目指す学習成果 知識・理解の領域 「わたしたちの暮らしと民法の関係」や「民法とは何か」について、具体的には民法総則、債権編に関わる分野の裁判例を素材として理解し、民法に関する基本的知識を身につける。 態度・志向性の領域 日常生活における民法(具体的には民法総則・債権編)の作用・役割や重要性について関心を向けるようになる。そのうえで法律上の論点に関する自分の考えについて、結論、理由付けを論理的に表現できるようになる。 具体的には「民法判例百選」等を教材として、社会生活の中で発生している民事紛争に関する裁判例について検討しながら、「読み・書き・話す(報告し、受講者の間で議論して考える)」といった取組みを行います。これらの取組みを通して、民事法に関する基礎的知識だけでなく各種資格試験等においてアウトプットする能力の修得を目指します。 前期は主に民法総則をテーマとします。
評価方法	第1に、平常点として、毎回のテーマについて、自己の見解をわかりやすく発表する「アウトプット力」、および他のメンバーの発言内容をよく聞き、理解に努めるための「質問力」を養うために、毎回、最低2回の発言を必須とします(70点)。 第2に、課題レポート又は小テスト(30点)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>前期の演習では、主に民法総則に関する判例を毎回一つずつ報告してもらい、意見交換を実施します。</p> <p>第1回 ガイダンス（演習の進め方、資料収集の方法について） （参考書・一般条項：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第2回 権利の主体・人（1） （参考書・人：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第3回 権利の主体・人（2） （参考書・人：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第4回 権利の主体・法人 （参考書・法人：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第5回 1回～4回の復習と応用</p> <p>第6回 1回～4回の復習と応用</p> <p>第7回 権利の客体・物 （参考書・物：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第8回 法律行為（1） （参考書・法律行為：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第9回 法律行為（2） （参考書・法律行為：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第10回 前回までの復習と応用</p> <p>第11回 前回までの復習と応用</p> <p>第12回 法律行為（3） （参考書・法律行為：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第13回 無効・取消 （参考書・無効・取消：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第14回 代理 （参考書・代理：2時間の予習と2時間の復習）</p> <p>第15回 時効と民法総則のまとめ （参考書・時効：2時間の予習と2時間の復習）</p>
テキスト	潮見佳男、道垣内弘人編『民法判例百選 総則・物権〔第8版〕』（有斐閣，2018年）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	発表担当者の報告内容に対して、他のメンバーとの質疑応答をし、報告者の見解に対する賛否について理由付けを明確に行うようなディスカッションを実施します。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	弁護士として裁判実務、および我が国のODA事業である法整備支援の長期専門家として立法支援業務等の実務経験をこの演習の内容に活用します。
質問への対応方法	講義時間中に適宜回答するほか、オフィスアワー、メール等で対応します。
フィードバックの方法	課題・小テストについてはGoogleフォームで直ちに採点および解説をフィードバックします。レポートについては、全員の提出内容について総評・コメントを実施します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まず発表担当者は、報告用のレジメ資料を作成、配布するための準備作業が必要です。また発表担当者以外のメンバーは、当該分野の復習のために最低1時間を確保してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49204
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	ウミリデノブ アリシエル
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ウミリデノブ アリシエル (法学部)
授業の目標	この演習では、「ビジネス実務法務検定試験」の3級の取得を目指す。
授業の概要	公式テストとして「ビジネス実務法務検定試験」は次のように説明されています。 "Biz法"は、法務部門に限らず営業、販売、総務、人事などあらゆる職種で必要とされる法律知識が習得できます。例えば、営業で取引先との契約書を締結する場面を想像してください。契約内容に不備や不利益がないか発見し、正しい判断ができれば、トラブルを未然に防ぐことができます。身につけた正しい法律知識は、業務上のリスクを回避し、会社へのダメージを未然に防ぐことができます。同時に、自分の身を守ることもなります。
評価方法	授業への参加態度・試験への準備等を総合的に評価して成績を決定する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 ~ 第15回 試験準備
テキスト	
参考書	『ビジネス実務法務検定試験® 3級公式テキスト』2023年(出版予定)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・オフィスアワーで対応
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	『ビジネス実務法務検定試験® 3級公式テキスト』および『ビジネス実務法務検定試験®3級公式問題集』から60分予習と60分復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49205
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	榊原 嘉明
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	榊原 嘉明 (法学部)
授業の目標	<p>本ゼミのテーマは、「教科書を読む」である。とりわけ教科書や新聞を読む習慣がなかなか身につかない学生を対象として、教科書や新聞を読む習慣作りを行うことを授業の目標としている。前期は、「社会調査」の分野を取り扱う。</p> <p>この授業を通して獲得することを目標としている学習の成果は、以下のとおりである。</p> <p>1) キャリアビジョンを身に着ける (関心・意欲、思考・判断) 「働く」とは何なのか? 何のために「学ぶ」のか? 急激に変化する社会状況の中で、より「人間」らしく生きるために、いま何ができるかを考え、課題を発見し、行動できる力を身に着ける。</p> <p>2) 社会人としての振舞の基礎を身に着ける (態度) ゼミ内外における“失敗”を通して、市民社会の一員として求められる最低限の振舞ができるような力を身に着ける。</p> <p>3) 読解・文章作成能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身に着ける (技能・表現) ゼミ内外における様々な学修機会を通して、市民社会の一員としての最低限のスキルを身に着ける。</p>
授業の概要	<p>本ゼミでは、上記目標を達成するため、以下3つのことを行う。</p> <p>1) 教科書の精読 2) レジユメの作成・発表 3) ゼミ員同士の学び合い・議論 + 4) 新聞記事の紹介</p>
評価方法	<p>ゼミ活動 (下調べ、レジユメ作成・発表、討論、等) への参加状況を、総合的に判断して評価する。</p> <p>なお、「事前連絡のない欠席は、やむを得ない理由がある場合を除き、認められない」という共通認識のもと、ゼミ運営を行うこととする。ゼミ員選定の際にも、そのルールが守れるかどうか、その他「最低限のルール」を身に着ける意思があるかどうかを、第一の基準として、選考を行うこととする。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 “労働力”の意味を考える(1) 第3回 “労働力”の意味を考える(2) 第4回 職場調査 第5回 制度調査 第6回 事例研究 第7回 参与観察 第8回 実践記述 第9回 オーラルヒストリー 第10回 テキスト分析 第11回 アクションリサーチ 第12回 カテゴリー析出 第13回 実践：社会調査(1) 第14回 実践：社会調査(2) 第15回 社会調査のまとめ
テキスト	梅崎修ほか『労働・職場調査ガイドブック』（中央経済社、2019年）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	報告者によるプレゼンテーション、コメンテーターによる寸評・質問、それらを前提としたゼミ全体でのディスカッションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問への対応は、オフィスアワー、ゼミの前後、メールにてこれを行うこととする。
フィードバックの方法	学生から出た要望を踏まえて、適宜、フィードバックを行うこととする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	本授業の準備学習は、予習が中心となる。より具体的には、教科書の精読（毎回 30分程度）、教科書の発表準備（約1か月に1回 3時間程度）、新聞記事の渉猟（毎回 30分程度）、新聞記事の発表準備（約1か月半に1回 1時間程度）である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49207
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	山田 麻未
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 H演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 麻未 (法学部)
授業の目標	<p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新書を読み、その内容を正確に理解することができる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読解方法や表現方法、レジュメの作成を行うことができる。 ・他の人の報告を聞き、議論することができる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を説得的に展開することができる。 ・他人の意見を尊重し、理解することができる。 ・社会における様々な問題に関心をもつ。 ・社会の一員としての自己を客観的に見つめ、ゼミの一員として学習に対するモチベーションを高める。
授業の概要	<p>この演習は、いくつかの新書を読んで、ゼミ生全員で議論を行います。 どの新書を読むかについては、ゼミの冒頭で決めたいと思います。 1人1回、報告担当者となり、事前に割り振った担当箇所を要約してレジュメを作成し、報告してください。 発表者以外の人、事前に新書の該当箇所を読んで、ゼミの議論に参加してください。</p> <p>扱う信書については以下のものの中から選ぶ予定です。 木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』 小塚壮一郎『AIの時代と法』 住吉雅美『あぶない法哲学 常識に盾突く思考のレッスン』 三木義一『税のタブー』など。</p>
評価方法	授業への参加姿勢(報告内容及び議論における発言等)と、報告レジュメの内容から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回：ガイダンス 第2回～14回：個別報告 第15回：まとめ ゼミ生の状況等により変更する場合があります。</p>
テキスト	

参考書	木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』 小塚壮一郎『AIの時代と法』 住吉雅美『あぶない法哲学 常識に盾突く思考のレッスン』 三木義一『税のタブー』など。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ディスカッション、ディベート
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	その都度応じる。
フィードバックの方法	その都度フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習2時間 発表担当者は、新書を読んで資料の作成 それ以外の学生は、新書を読むこと。 復習2時間 ゼミでの発表内容や議論を思い出し、再度新書を読み直す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49208
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	法と規範の意義及び役割について考察し、自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する。現代社会の諸問題を解決しようとする姿勢や態度を育成する。
授業の概要	1. 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、法と規範の意義及び役割に関する知識と技能を身に付ける。 2. 法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて論拠をもって表現する。
評価方法	レポート 50 % プレゼンテーション 50 %
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回～第14回：他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動 第15回：まとめ
テキスト	恋ではなく愛で学ぶ政治と経済 清水書院
参考書	特になし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	議論とプレゼンテーションを多く取り入れます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎時間、15分程度フィードバックの時間を設定して、リアクションペーパーの提出により担当教員が状況を把握する。 次の時間の対面による指導の他、メール、グーグルクラスルームを活用してフィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	現代社会における諸課題を把握しておく必要があるため、マスコミュニケーションツールを活用して、ニュースに触れておく。(予習:合計30時間) 現代社会における諸課題と向き合い、解決に向けて方策について検討し、プレゼンテーションを行う。(復習&授業準備:合計30時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49209
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	福島 崇弘
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	福島 崇弘 (法学部)
授業の目標	実例を踏まえ、条文の趣旨を理解する。 趣旨を理解し、どのような論点があるかなど文書の読み込む力を習得していただきます。
授業の概要	このゼミでは、民法、不動産登記法に関する知識を習得するために資格試験参考書や基本書を使用する。 具体的には、毎週ごとに、各分野の基礎知識を説明した上で、その論点を各自で見つけ出す。その後、問題演習を行い、習得した知識を活用できるようにする。必要な範囲で学生同士の質疑や教員からの質問・解説を加える。
評価方法	ゼミへの出席状況および授業への参加意欲、授業態度を基準に総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で、失格とする。
授業計画	初回にガイダンス・自己紹介。 2回目から14回目までかけて、1冊の本を通読する。 最終回にまとめの講義を行う。
テキスト	第1回目の講義で指定します
参考書	特になし。 必要があれば随時、指摘。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問については、ゼミ内で随時対応。 また、メールによる連絡についても随時対応する。
フィードバックの方法	ゼミ内で随時行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	該当範囲について、事前にテキストの一読を予習範囲とする。 範囲については、ゼミ内で随時指摘する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49210
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	高橋 省三
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 省三 (法学部)
授業の目標	映画、ドキュメンタリーの視聴を通じて、社会のあり方、法の果たすべき役割を心で学び、法を学ぶ意義を自覚する。
授業の概要	この演習では、過去・現在の社会問題や法に関する問題を取り扱った映画やドキュメンタリーを視聴し、これを通じて、人間の歴史においてどのような問題が存在し、それを先人はどのように改善し、正義を実現しようとしてきたのかを学ぶ。 そして、現実に、今、我々はどのような問題に直面し、何が必要とされているのかを実感的に学び、考える。 現在の法制度の目的・存在意義・問題点、法運用の実情・問題点を大づかみに理解し、大学において法を学ぶことの意義を自覚する。 この科目の位置付けについては、大学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	成績は、原則として、授業における内容の理解度・議論への取組状況(60%)及び学期中数回提出を指示する課題(40%)により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業に欠かさず出席することは当然のことです。正当な理由なく欠席することは認められません。正当な理由なく4回以上欠席した場合には、無条件に自動的に失格とします。(欠席が3回以下であれば、必ず単位が取得できるという意味ではありません。誤解のないように。)
授業計画	各回の進め方 第1回 ガイダンス 第2回 映像教材の視聴 内容が理解できているかどうかの確認 教員の説明 ゼミ生間の議論、質疑応答 原則として、複数回にわたって1つの教材を取り扱います。学期内に4、5件の教材を取り上げる予定です。 テーマ候補：人権、民主主義、正当な裁判、環境汚染、企業の社会的責任、消費者取引における消費者被害、司法取引、差別など(ゼミ生の関心に応じて選定します。)
テキスト	資料を適宜配布します。ファイリングをきちんとし、資料を保管し、授業に持参するようにしてください。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	映像は教材に過ぎません。これを踏まえたディスカッションが授業の中心となります。

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	国家公務員として、公正取引委員会等において行政実務・法運用に携わった経験を踏まえた具体的・実務的な解説。
質問への対応方法	質問については、授業時間内、授業時間後、メール等、研究室訪問（要事前連絡）などで随時対応します。
フィードバックの方法	授業時間内に伝達する。場合によってはメールで連絡します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内容の復習。提出すべき課題の作成。 授業1回につき2時間の準備時間を確保すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を 14.海の豊かさを守ろう 15.陸の豊かさを守ろう 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A(再) / SeminarIIA
時間割コード Course Code	49211
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	美濃羽正康
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	美濃羽正康(法学部)
授業の目標	<p>演習IIAでは、法的思考の基礎を学ぶ。法律学を学習するための基本ツールの使い方や読み方を学習した後に、グループで法律問題についてテーマを選択して発表形式で、身につけた学習方法を駆使して体験的に学んでいく。後期には、一人で法律問題について報告できること、報告者以外の者としては討論に参加できるようになることを到達目標とする。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 法律学の学習方法の基礎を学び、法的ものの考え方を理解することができる。</p> <p>思考判断の領域 問題発見の仕方、思考方法、問題解決の方法を学び、法的思考力の基礎を身につけることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 自ら課題や問題点を発見し、資料等を収集分析する態度を身につけ、論理的に思考し、説明や提案できることを目指す。</p>
授業の概要	グループで法律問題についてテーマを選択して発表形式で、身につけた学習方法を駆使して体験的に学んでいく。後期の演習IIIBにおいて一人で法律問題について報告できること、報告者以外の者としては討論に参加できるようになることを到達目標とする。
評価方法	ゼミでの学習態度、発表内容、課題提出等で総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で失格とする。

授業計画	1回 ガイダンス・履修指導 2回 教科書の読み方 3回 法律用語入門 4回 条文を読む。 5回 法律文献検索と文献メモの作り方 6回 判例百選を読む。 7回 判例評釈を読む。 7回 判例を読む 8回 グループ報告の仕方 9回 グループ報告 10回 グループ報告 11回 グループ報告 12回 グループ報告 13回 グループ報告 14回 法学レポートの書き方 15回 レポート作成と提出
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ報告と討論を実践的に学ぶ。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ中やオフィスアワー、メール等に対応する。
フィードバックの方法	ゼミ中やオフィスアワー、メール等に対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回、1時間の復習と1時間の予習課題を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIIA
時間割コード Course Code	49300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	佐藤 直史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 直史 (法学部)
授業の目標	<p>演習の目標は、SDGsを法の視点から踏み込んで考え、法学部で学んだことをグローバルレベル及びローカルレベルのそれぞれの社会でどのように活用できるかについての視点を得ることです。グローバル化が進む国際社会では、これまでのルールが見直されるとともに、新しいルールが生まれています。SDGsもその一つです。これらルールの見直しや新しいルールの形成は、私たちの日々の生活や身近なルールとも結びついています。この演習では、現代の国際社会の新しい潮流などから、「法」の多様性を考え、「法」を多角的に分析します。これらの検討を通じて、みなさんが、2年次までに学んだ法の基本的な原理や基礎理論を前提として、グローバルな社会、ローカルな社会、そしてグローバルとローカルが交錯し影響し合う社会で、法学部で学んだことをどのように活用するかについて実践的な視座を得ることを目指します。</p> <p>加えて、2年次までに学んだ内容を踏まえて、資料収集やリサーチの方法、レポート・レジユメの作成方法など、社会において必要となる能力を更に向上させることも目標とします。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 国際社会のルールや身近なルールの検討を通じて、法を学ぶに当たって重要となる基本的な原理や基礎理論を理解するとともに、法学部で学んでいることの意味、法の学び方、法学部で学んだことの活用の方法を理解する。</p> <p>技能の領域 具体的な事例（題材）の問題点を明らかにし、その問題の背景は何か、解決に向けて誰のどのような利益を考慮しなければならないのか、課題に対する短期的な対応及び中長期的な展望は何か、といった分析ができるようになる。 ディスカッションやプレゼンテーション、リサーチや文書作成の能力が向上する。</p> <p>態度・志向性の領域 主体的・積極的に問題点を明らかにし、解決や改善に向けた取組みを行おうとする姿勢が身につく。 自分とは異なる意見や考え方を、違うからといって排除・嫌悪するのではなく、どうして違いが生じるのかを理解するように努める態度が身につく。</p>

<p>授業の概要</p>	<p>演習IIIを受講するみなさんは、2年次までの学びを踏まえて、さまざまな法についての理解や法とグローバルな社会/ローカルな社会との関係についての理解、そして学んだ内容の活用の方法についての理解を更に進める必要があります。そこで、この演習では、SDGsなどの国際社会のルール、そして身近なルールを題材に、法やルールの役割・機能、法やルールと国際社会・地域社会との関係、法やルールの現在と未来などについて、多面的・多角的な視点から検討します。この検討のプロセスを通じて、みなさんは、さまざまな分野に共通する法の基本的な原理や基礎理論の理解を更に掘り下げることができるとともに、法の役割や機能は何か、法学部で何を学んでいるのか、法学部で学んだことをどのように活用すればよいのか(活用できるのか)について、視座を得ることができるようになるでしょう。</p> <p>なお、法学部で学んだことの活用の方法を理解することは、みなさんが社会に出る準備(就職活動を含む)を行うに際して、また、社会に出てからさまざまな活動を行うに際して、大いに役に立つでしょう。みなさんが法学部で学んでいる意味を、演習を通じて再確認しましょう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
<p>評価方法</p>	<p>ゼミでの取り組みの態度(40%)、グループディスカッションやプレゼンテーション(30%)、全体討論における発言(30%)で評価します。</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>欠席5回以上は失格とします(遅刻は2回で欠席1回とみなします。)。なお、欠席・遅刻とも、やむを得ない理由がある場合を除き、必ず事前に連絡してください。</p>
<p>授業計画</p>	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回から第5回 法やルールの役割・機能 法やルールは社会においてどのような役割・機能を果たしているのだろうか。SDGsなどの国際社会の新しいルールや身近なルールを題材に考えよう。 法を学ぶために必要なスキルやノウハウ、法学部で学んだことの活用の方法などについても随時検討します。以下の各回でも同様です。</p> <p>第6回から第8回 法やルールが社会で機能するための条件 法やルールが社会で機能するためには条件のようなものがあるのだろうか。SDGsなどの国際社会の新しいルールや身近なルールを題材に考えよう。</p> <p>第9回から第11回 法やルールと文化などとの関係 法やルールと、文化、歴史、慣習、風土、既存の制度、人々の考え方などはどのような関係にあるのだろうか。SDGsなどの国際社会の新しいルールや身近なルールを題材に考えよう。</p> <p>第12回から第14回 グローバル社会における国際的なルールとローカルなルール 国際的なルールとローカルなルールはどのように影響し合うのだろうか。SDGsなどの国際社会の新しいルールや身近なルールを題材に考えよう。</p> <p>第15回 振り返り</p> <p>なお、上記は予定であり、進行状況により変更する場合があります。</p>
<p>テキスト</p>	<p>なし。</p>
<p>参考書</p>	<p>授業のトピックに合わせて指示します。</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含む</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	<p>各回において、具体的な事例の検討をした上で、グループディスカッション、ディスカッションの内容のプレゼンテーション及び全体討論を行います。</p>
<p>実務経験のある担当教員による授業</p>	<p>該当する</p>
<p>担当教員の实務経験を活かした授業の内容</p>	<p>弁護士実務経験に加え、アジア諸国における法整備支援の経験を豊富に有している教員が、学生のみなさんが法学部で学び、身につけたことを社会でどのように活用するかについて、実践的に学ぶ科目である。</p>
<p>質問への対応方法</p>	<p>授業終了後やオフィスアワーのほか、随時対応します。</p>
<p>フィードバックの方法</p>	<p>授業中のディスカッション、プレゼンテーション、意見交換などについては、授業の中でコメントします。レポート等については翌週又は翌々週に返却します。</p>
<p>予習・復習等、準備学習の内容及び時間</p>	<p>各回のテーマについて1時間の復習を行い、次回のテーマについて1時間の予習を行います。具体的な内容は授業の中で指示します。</p>
<p>使用言語</p>	<p>日本語</p>

SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIIA
時間割コード Course Code	49301
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	張 瑞輝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 A 2 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	張 瑞輝 (法学部)
授業の目標	<p>民事訴訟法における基礎的かつ重要な問題を体系的に学習することを授業目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 民事訴訟法の基本概念と基本構造をおさらい、理解をさらに深めることができる。民事訴訟法の重要問題についてその難点を直撃し、その解法を把握できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 学説の生成過程と判例の変遷を自ら進んで整理できるようになる。</p> <p>技能の領域 民事訴訟法学の学問としての思考様式を解明する能力が鍛えられる。ディベートを行う際に、基本的な攻撃および防御の技法が身につくことができる。</p>
授業の概要	<p>第一部 報告編 報告者が、テーマ・確認事項・参考文献を手がかりに、45分程度の報告を行う。報告後、報告に関する質疑応答、基本知識の確認を行う。演習事例を参加者全員で検討する。</p> <p>第二部 裁判例ディベート編 以下の要領で裁判例ディベートを1~2回程度で実施する。 (1) 事例の説明 (2) Xチームの第1プレゼンテーション・8分 作戦タイム1分 Yチームの尋問・8分 (3) Yチームの第1プレゼンテーション・8分 作戦タイム1分 Xチームの尋問・8分 (4) Xチームの第2プレゼンテーション・6分 Yチームの尋問・6分 (5) Yチームの第2プレゼンテーション・6分 Xチームの尋問・6分 (6) 勝負の判定</p>
評価方法	授業における取り組み状況や報告内容などを総合的に考慮して評価する。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>(1) 無断欠席について 事前の連絡のない欠席が2回を超えた場合は、失格とする。</p> <p>(2) 報告日の欠席について 報告者は報告日に欠席した場合、大学規則に基づく正当な事由がない限り、失格とする。</p> <p>(3) 正当な事由の証明について 大学規則に基づく正当な事由を証明するために、書面にて関係書類を提出し、立証責任を負わなければならない。</p>
授業計画	<p>第01回 ガイダンス（演習の進め方について）</p> <p>第02回 報告編の準備期日 pre報告1&FB 第1審</p> <p>第03回 報告編の準備期日 pre報告2&FB 控訴審</p> <p>第04回 報告編の準備期日 pre報告3&FB 上告審&差戻審</p> <p>第05回 報告編の準備期日 pre報告4&FB 学説</p> <p>第06回 報告編の準備期日 pre報告5&FB 実務</p> <p>第07回 報告編の準備期日 pre報告6&FB 私見・小括</p> <p>第08回 報告編の本報告 第1回期日</p> <p>第09回 報告編の本報告 第2回期日</p> <p>第10回 報告編の本報告 第3回期日</p> <p>第11回 報告編の本報告 第4回期日</p> <p>第12回 報告編の本報告 第5回期日</p> <p>第13回 裁判例ディベート編 作戦会議期日</p> <p>第14回 裁判例ディベート編 実施期日</p> <p>第15回 まとめ</p>
テキスト	<p>小林秀之『判例講義・民事訴訟法』（弘文堂、2019年）</p> <p>三木浩一ほか『民事訴訟法[第3版]』（有斐閣、2018年）</p> <p>潮見佳男『基本講義・債権各論2・不法行為法[第4版]』（新世社、2021年）</p>
参考書	<p>伊藤眞・山本和彦（編）『民事訴訟法の争点』（有斐閣、2009年）</p> <p>高橋宏志・高田裕成・畑瑞穂（編）『民事訴訟法判例百選[第5版]』（有斐閣、2015年）</p> <p>飯倉一郎ほか（編）『演習ノート 民事訴訟法 第5版』（法学書院、2010年）</p> <p>遠藤賢治『事例演習 民事訴訟法』（有斐閣、2013年）</p> <p>吉村良一『不法行為法[第6版]』（有斐閣、2022年）</p> <p>窪田充見『不法行為法[第2版]』（有斐閣、2018年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワー等。相談により随時対応する。
フィードバックの方法	<p>当該授業は、対面方式でありながらも、Google Classroomを使用する予定である。第1回の授業の際にGoogle Classroomへ参加方法また必要な情報を提示する。</p> <p>授業のフィードバックは、原則として、Google Classroomの諸機能（添削、返却、等）を利用して行う。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習復習等、準備学習の内容は、前記テキストと参考書の該当範囲のほか、Google Classroomを利用して配布する予定である。</p> <p>予習復習等、準備学習の時間は、各回で少なくとも4時間以上を要する内容となっているため、該当範囲を事前に閲読した上での受講が必要となる。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p> <p>4.構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	演習 A / Seminar IIIA
時間割コード Course Code	49302
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	早川 結人
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 結人 (法学部)
授業の目標	<p>事例問題を用いて、民法(主に財産法)の重要論点を検討することにより、民法の知識を確認・定着させ、応用力を身につける。また、報告・討論を通じて、資料収集の仕方やレポート・レジユメの作成方法等、社会において必要となる能力を身につけることを目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 判例・学説の検討を通して、民法の知識を身につける。社会における民法の意義及び機能について理解を深める。</p> <p>技能の領域 ・判例を読み、民法の重要論点を整理することができる。その成果をレジユメや発表資料にまとめることができる。 ・研究成果を発表することができる。また、他の人の報告を聞き、議論することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 ・周囲と相談・協力して課題に取り組むことができる。 ・他者の意見を聞くことによって、自分の考えを深めることができる。 ・社会における諸問題に関心を持つ。</p>
授業の概要	民法(主に財産法)の重要論点について、事例問題を用いて学ぶ。いくつかの事例問題について、担当者を割り振り、各回の担当者は、レジユメを作成し、報告を行う。報告を受けて、参加者全員で議論を行う。その後、教員がコメント・解説を加える。
評価方法	授業への参加姿勢(報告内容及び討論における発言等)、報告レポートなどによって総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で失格とする。
授業計画	<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：民法の基礎知識の確認・報告の方法について</p> <p>第3回～第14回：報告・討論</p> <p>第15回：まとめ</p>
テキスト	特に指定しない。

参考書	<p>○判例教材</p> <p>潮見佳男ほか編『民法判例百選1 総則・物権[第8版]』(有斐閣、2018年)</p> <p>中田裕康ほか編『民法判例百選2 債権[第8版]』(有斐閣、2018年)</p> <p>原田昌和ほか『民法1総則 判例30!』(有斐閣、2017年)</p> <p>水津太郎ほか『民法2物権 判例30!』(有斐閣、2017年)</p> <p>田高寛貴ほか『民法3債権総論 判例30!』(有斐閣、2017年)</p> <p>中原太郎 ほか『民法4債権各論 判例30!』(有斐閣、2017年)</p> <p>その他、初回授業で紹介する。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後やオフィスアワーのほか、随時対応する。
フィードバックの方法	ゼミ内で随時、行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>各回ごとに3時間の予習・復習が求められる。</p> <p>特に、担当回においては報告および質疑応答をするため、そのための予習・レジュメ作成が必要となる。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIIA
時間割コード Course Code	49303
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	白出 博之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70D演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	白出 博之(法学部)
授業の目標	ゼミの目標 この演習では、民法に関するニュース、文献・裁判例等の読解を通して、資料・文献を読む力、レジュメ(報告内容の要約)を作成して報告する力、質疑応答に関する力など、大学法学部での学びに必要となる基礎力及び応用力の修得を目標にします。
授業の概要	目指す学習成果 知識・理解の領域 「わたしたちの暮らしと民法の関係」や「民法とは何か」について、具体的には債権編、物権編に関わる分野の裁判例を素材として理解し、民法に関する基本的知識を身につける。 態度・志向性の領域 日常生活における民法(具体的には債権編、物権編)の作用・役割や重要性について関心を向けるようになる。そのうえで法律上の論点に関する自分の考えについて、結論、理由付けを論理的に表現できるようになる。 具体的には「民法判例百選」等を教材として、社会生活の中で発生している民事紛争に関する裁判例について検討しながら、「読み・書き・話す(報告し、受講者の中で議論して考える)」といった取り組みを行います。これらの取り組みを通して、民事法に関する基礎的知識だけでなく各種資格試験等においてアウトプットする能力の修得を目指します。 前期は主に物権編をテーマとします。
評価方法	第1に、平常点として、毎回のテーマについて、自己の見解をわかりやすく発表する「アウトプット力」、および他のメンバーの発言内容をよく聞き、理解に努めるための「質問力」を養うために、毎回、最低2回の発言を必須とします(70点)。 第2に、課題レポート又は小テスト(30点)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	前期の演習では、主に物権編に関する判例を毎回一つずつ報告してもらい、意見交換を実施します。 第1回 ガイダンス（演習の進め方、資料収集の方法について）物権総則（1） 第2回 物権総則（2） 第3回 物権変動（1） 第4回 物権変動（2） 第5回 物権変動（3） 第6回 物権変動（4） 第7回 物権変動（5） 第8回 物権各論（1） 第9回 物権各論（2） 第10回 物権各論（3） 第11回 担保物権・抵当権（1） 第12回 担保物権・抵当権（2） 第13回 担保物権・非典型担保 第14回 担保物権・質権 第15回 担保物権・留置権他
テキスト	潮見佳男、道垣内弘人編『民法判例百選 総則・物権〔第8版〕』（有斐閣，2018年）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	発表担当者の報告内容に対して、他のメンバーとの質疑応答をし、報告者の見解に対する賛否について理由付けを明確に行うようなディスカッションを実施します。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士として裁判実務、および我が国のODA事業である法整備支援の長期専門家として立法支援業務等の実務経験をこの演習の内容に活用します。
質問への対応方法	講義時間中に適宜回答するほか、オフィスアワー、メール等で対応します。
フィードバックの方法	課題・小テストについてはGoogleフォームで直ちに採点および解説をフィードバックします。レポートについては、全員の提出内容について総評・コメントを実施します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まず発表担当者は、報告用のレジメ資料を作成、配布するための準備作業が必要です。また発表担当者以外のメンバーは、当該分野の復習のために最低1時間を確保してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIIA
時間割コード Course Code	49304
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	美濃羽正康
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	美濃羽正康 (法学部)
授業の目標	<p>商法・会社法を中心に企業法の基礎知識を報告・討論を通じて身につける。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 企業法をめぐる諸問題について、自ら、問題点を見つけ出し、調べることで、より深い知識を身につけることができる。</p> <p>関心意欲の領域 自分で報告テーマを選定し調べ、報告することで自分の意見を述べるようになる。 ゼミの仲間との討論を通じて、他の者の視点や価値判断に触れることで関心や学習意欲がさらに増すようになる。</p> <p>技能の領域 資料収集や調査のテクニックが身につく。 レジュメの作成を通じて、要約して説明する能力が向上する。 プレゼンテーション能力を身につけることができる。 議論の仕方を身につけることで、傾聴力、対話力、説得力などを身につけることができる。 ・就職活動対策として、SPI問題集に全員で取り組む。</p>
授業の概要	<p>対面授業で実施します。</p> <p>本演習では、商法および会社法をめぐる諸問題について、全員で質疑、討論をする。 企業法分野では、会社法の施行や金融商品取引法の全面施行といった、諸制度が大きく様変わりしている。新しい局面を迎えた会社法を中心として企業法の基礎知識を身につける。その上で、会社法の基本的な問題を素材に用いて自分で考える力を養うことを主眼とする。</p>
評価方法	<p>ゼミ報告 50%</p> <p>ゼミ報告のための予習成果物の事前提出 20%</p> <p>議論後のグループ報告 10%</p> <p>レポート等課題提出 20%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上欠席した場合は失格とする。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 全員で考える(1)会社の本質</p> <p>第3回 判例を読もう(1)第2回に関連する判例</p> <p>第4回 全員で考える(2)会社の権利能力</p> <p>第5回 判例を読もう(2)第3回に関連する判例</p> <p>第6回 全員で考える(3)株式会社は誰のものか</p> <p>第7回 全員で考える(4)日本の株式会社の実態</p> <p>第8回 グループワーク(1)業務執行機関をめぐる問題</p> <p>第9回 グループ討議(1)9回を題材に</p> <p>第10回 グループワーク(2)監査機関をめぐる問題</p> <p>第11回 グループ討議(2)10回を題材に</p> <p>第12回 個人報告に向けて</p> <p>第13回 10分報告会(全員)</p> <p>第14回 定期試験に向けて</p> <p>第15回 演習IIBに向けて</p> <p>夏休み中の個人課題と報告の順番発表等</p>
テキスト	<p>テキストは使用しない。</p> <p>教材、資料等は、適宜指示する。</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミ報告に基づいて、異なる考え方(解決案)についてグループで議論し、妥当であると考えられる考えを発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	演習中に受け付けるとともに、メール(t10n0283@nagoya-ku.ac.jp)でも対応する。
フィードバックの方法	提出物の返却時や、ゼミ中に講評を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習について</p> <p>報告者は、報告予定日の1週間前までに、報告用のレジюмеを作成、ゼミ性の人数分をコピーし、配布しておくこと(2時間)。</p> <p>報告者以外の者は、報告者から配布されたレジюмеを基に、議論に参加できるように予習をしてゼミに臨むこと。(1時間)</p> <p>復習について</p> <p>報告や議論等に対する講評に基づき、簡単なレポートを作成し、提出する。(1時間)</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / Seminar IIIA
時間割コード Course Code	49305
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	ウミリデノブ アリシエル
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ウミリデノブ アリシエル (法学部)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際経済法の考え方や基礎知識を身につける。 2. 国際経済問題を見る眼を養うことができる。 加えて、この演習では、 <ol style="list-style-type: none"> 3. 国際経済法を学ぶうえで必要となる基礎的な知識 4. 文献を読み、その内容を正確に把握する能力 5. レジюме・レポートを作成する能力の修得を目標とする。
授業の概要	<p>本ゼミでは、国際法の最近発展している新分野ー国際経済法の最先端の問題点を検討する。特に、国際経済活動に対する広法的規制、その中でも国際貿易と国際投資規制の法的枠組みの基礎知識を身につけ、自分の意見をまとめて発表する。</p> <p>参加者の関心を考慮し、国際貿易法グループ、国際投資法グループ及び国際通貨・金融というグループに分けて、それぞれのグループに報告をしてもらう。</p> <p>(1) 国際経済に関して関心を持っている学生の参加を勧める。 (2) 英語ができる学生を歓迎する。 (3) 勇気持って、海外に行ってみたい学生をもっと歓迎する。</p>
評価方法	授業への参加態度・報告への準備等を総合的に評価して成績を決定する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・特になし。
授業計画	<p>報告者が論点を整理した上で報告を行い、参加者との討論を行った後、担当教員からコメントを行う。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 国際経済法の基礎に関するレクチャー (1) 第3回 国際経済法の基礎に関するレクチャー (2) 第4回 国際経済法の基礎に関するレクチャー (3) 第5回 報告者・報告内容等の確定・情報検索の方法 第6回 国際経済活動の問題の研究 (貿易) 第7回 国際経済活動の問題の研究 (貿易) 第8回 国際経済活動の問題の研究 (貿易) 第9回 国際経済活動の問題の研究 (投資) 第10回 国際経済活動の問題の研究 (投資) 第11回 国際経済活動の問題の研究 (投資) 第12回 国際経済活動の問題の研究 (通貨・金融) 第13回 国際経済活動の問題の研究 (通貨・金融) 第14回 国際経済活動の問題の研究 (経済制裁) 第15回 まとめ</p>
テキスト	

参考書	・小林友彦ほか『WTO・FTA法入門：グローバル経済のルールを学ぶ 第2版』（法律文化社、2020年） ・経済産業省通商政策編『2022年版不公正貿易報告書』 その他の資料はゼミで適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ毎で国際経済法の現代的課題を議論し、解決方法をまとめ、授業内で発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・オフィスアワーで対応
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・毎週、日本経済新聞（特に、国際経済法に関連するニュース）から60分予習と60分復習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIIA
時間割コード Course Code	49306
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	榊原 嘉明
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	榊原 嘉明 (法学部)
授業の目標	<p>1) ワークルールの基礎を身に着ける 「ブラック企業」「ブラック・バイト」とは何なのか？ 労働者としてその危険を察知するために、そして、使用者としてその“レッテル”を張られないようにするために、ワーク・ルールの基礎を身に着ける。</p> <p>2) ワークルールの使い方を身に着ける 労働者として、会社の職場環境が「おかしい！」と思ったとき、誰に助けを求めればいいのか。また、使用者として、会社の職場環境が「おかしい！」と指摘されたとき、どのような対処が求められるのか。実際の企業や労働組合の取り組みなどを通して、ワークルールの使い方について考える。</p> <p>3) 読解・文章作成能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身に着ける 授業や課外活動での“失敗”を通して、市民社会の一員としての基礎的能力を身に着ける。</p>
授業の概要	<p>本ゼミでは、上記授業目標を達成するため、以下、3つのことを行う。</p> <p>1) 教科書の輪読 (レジユメ作成 + 発表) テキストを輪読する。報告者グループは、レジユメを作成し、発表を行う。</p> <p>2) 「ワークルール検定」問題集の解答・答え合わせ 時間制限内にグループ内で議論しながら解答を考え、全体で答え合わせを行う。</p> <p>3) 地元企業・労働組合・弁護士や労働NPO等への聞き取り調査 担当教員のサポートのもと、実際の企業や労働組合などに調査依頼を行い、聞き取り調査を行う。なお、聞き取り調査先については、ゼミ員の問題関心などを参考としながら、選定することとする。</p> <p>授業方法としては、原則として、対面で実施する。ただし、必要に応じて、Google FormやZOOMなどのオンライン・ツールを利用して、追加的・補助的な研究指導等を併せて実施することとする。</p>
評価方法	<p>ゼミ活動 (レジユメ作成・発表、討論、下調べ等) への参加状況を、総合的に判断して評価する。</p> <p>なお、「事前連絡のない欠席は、やむを得ない理由がある場合を除き、認められない」という共通認識のもと、ゼミ運営を行うこととする。ゼミ員選定の際にも、そのルールが守れるかどうか、その他「最低限のルール」を身に着ける意思があるかどうかを、第一の基準として、選考を行うこととする。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 “労働力”の意味を考える(1)</p> <p>第3回 “労働力”の意味を考える(2)</p> <p>第4回 労働条件(1) -賃金</p> <p>第5回 労働条件(2) -労働時間・休憩・休日</p> <p>第6回 労働条件(3) -労災</p> <p>第7回 雇用終了(1) -懲戒</p> <p>第8回 雇用終了(2) -退職のパターンと解雇の規制</p> <p>第9回 雇用終了(3) -有期労働契約と雇止め</p> <p>第10回 雇用終了(4) -整理解雇</p> <p>第11回 聞き取り調査・下調べ(1)</p> <p>第12回 聞き取り調査・下調べ(2)</p> <p>第13回 聞き取り調査・下調べ(3)</p> <p>第14回 聞き取り調査・下調べ(4)</p> <p>第15回 聞き取り調査・下調べ(5)</p> <p>必ず、3年次に、専門科目「労働法」、隣接科目「雇用と労働」を履修すること。また、やむを得ない理由により欠席する場合には、その旨、事前連絡を行うこととする。</p>
テキスト	・佐々木亮ほか『まんがでゼロからわかる ブラック企業とのたたかい方』（旬報社）
参考書	・水町勇一郎『労働法〔第9版〕』（有斐閣）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	報告者によるプレゼンテーション、コメンテーターによる寸評・質問、それらを前提としたゼミ全体でのディスカッションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問への対応は、オフィスアワー、ゼミの前後、メールにてこれを行うこととする。
フィードバックの方法	学生から出た要望を踏まえて、適宜、フィードバックを行うこととする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	本授業の準備学習は、予習が中心となる。より具体的には、教科書の精読（毎回 30分程度）、教科書の発表準備（約1か月に1回 3時間程度）、新聞記事の渉猟（毎回 30分程度）、新聞記事の発表準備（約1か月半に1回 1時間程度）である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIIA
時間割コード Course Code	49307
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	清水 裕樹
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	清水 裕樹 (法学部)
授業の目標	<p>本学では、原則として3年4年と2学年同一教員が演習を担当し、卒業時にはこれまでの学びの成果を卒業レポートとしてまとめることを原則としている。</p> <p>今年度は、刑事裁判という営みがどのようなものであるのかを、社会心理学的な観点から考えた図書を輪読することを通じて、「犯罪者を処罰すること」の意味を考えるきっかけとしたい。</p> <p>その前提として、演習（ゼミナール）の授業にふさわしい報告と、それを受けての質疑応答ができるような技法も身につけることを目指す。</p> <p>知識・理解の領域 捜査から判決確定委に至る、刑事手続の「建前」と実態について知る。</p> <p>技能の領域 学部の演習（ゼミナール）という授業にふさわしい、レジュメに基づく報告と、質問に対する的確な応答ができるようになる。</p> <p>また、報告者以外の学生は報告に対して質問ができるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 「死刑のある国」である日本の刑事手続の実態に対する理解をもとに、それが今のままでよいのかどうかを、主体的・批判的に考えることができるようになる。</p>
授業の概要	<p>本授業は、対面授業の形式で実施する。</p> <p>それまで所属していた演習のクラスにより、また学生の授業に向き合う意識により、演習形式の授業での報告を行うスキル、報告を聴き質問をするスキルはバラバラであることが予想されるが、まずはそのスキルがない学生であっても、報告ができる、質問ができるようになることを練習する。</p> <p>ある程度各人が報告できるようになったら、テキストの輪読に基づく報告へ移る。</p> <p><教員とのコンタクト> 授業に関する質問、生活関係などの相談など、教員へのコンタクトは、授業時に対応するほか、メールでの対応、メールで予約の上対面での対応に依る。</p>
評価方法	<p>授業への能動的な参加度合いを評価の基準とする。</p> <p>評価のポイントは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (報告原稿ではなく)レジュメを作成できる。 2. テキストや資料に基づき、調べたことをもとに報告できる。 3. 他の報告者の報告を聴いて、適切に質問ができる <p>という3点である。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>4年次後期は、卒業レポート作成のために、各自の関心での調査・研究を最優先とするが、4年次前期までの演習は、参加することに意義があると考えているので、事前の連絡なしでの遅刻・欠席があった場合、原則失格とする。</p> <p>また、報告者が事前の連絡なし欠席した場合、無条件で失格とする。</p>

授業計画	<p>上記「授業の概要」にしたがって授業を実施する。 学期初めには履修指導を行う。また、キャリア関係をはじめとする演習の時間を利用してのイベントも実施されることがある。 なるべく、メールにて連絡する予定であるが、大学からのお知らせなど各自積極的に情報を収集されたい。</p> <p>初回の授業では、履修状況の確認を行い、以後、まずは『現代の裁判』（「裁判と法」のテキスト）を用いて日本の刑事手続の流れをおさらいした後で、指定テキストである『人が人を裁くということ』を輪読する。</p>
テキスト	小坂井 敏晶『人が人を裁くということ』（岩波新書1292）岩波書店12011年 丸善に販売依頼を行うが、岩波書店の図書は返品に応じないとのことなので、履修者は丸善より必ず購入すること。
参考書	世界思想社編集部（編）『大学生学びのハンドブック（5訂版）』世界思想社2021年 市川正人ほか『現代の裁判 第8版』有斐閣アルマ2022年 （いずれも、授業開始時点までに改訂された場合は、より新しいものを用いる）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	テキストの輪読に際し、指定された報告者の報告に対して、参加者が議論をおこなう。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	教員への質問がある場合、授業中随時対応するほか、email (hirokis@nagoya-ku.ac.jp) で受け付ける。
フィードバックの方法	報告に対しては、原則として学生からの質疑応答の後、授業時間中に教員からの所見を述べる。授業中に適切な対応ができなかった場合は、次回の授業時までに、最後の授業である場合には、学生全員へのメール送信での対応を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>当然であるが、報告者は十分な準備（報告は20分程度であるが、その準備として少なくとも5時間は必要であろう）をするとともに、授業時の質問や意見への対応が求められる。振り返りとして2時間程度は用いてほしい。</p> <p>報告者以外も、事前に報告担当部分のテキストと、必要に応じてその前後の部分进行あらかじめ読み（毎回2時間程度）、授業後には各自考える時間（2時間程度）を持つようにしてほしい。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / Seminar IIIA
時間割コード Course Code	49308
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	遠山 圭一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	遠山 圭一 (法学部)
授業の目標	<p>この演習では、民事事件・刑事事件問わず、個別具体的な事例について検討・議論し、その成果を発表することを通じて、社会人としての基礎力を身に付けることとともに、法的知識や法的解決の手法を修得することを目標とします。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 民法や刑法等を学習することで資格試験や公務員試験に必要な法律知識を習得できる。 身近な法律問題を解決する思考を習得できる。</p> <p>技能の領域 問題点を発見・整理し、資料を作成することができる。 他人の意見を聞き、自分の意見を発表することができる。 常に物事を深く考える習慣を身に付けることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 分析力、対話力などを身に付けることができる。</p>
授業の概要	<p>民事事件・刑事事件問わず、実務家（弁護士）の立場から、個別具体的な事例について検討・議論する形で演習を行います。</p> <p>当事者がどのような請求をするのか、請求が認められるための要件は何か、要件に該当する事実は何か、証拠は何か、また、検察官はどのように犯罪を立証するのか、弁護士はどのような防御活動を行うのか、裁判官はどのような思考で結論を出すのかなど、結論に至る思考過程を意識して、個別具体的な事例の検討・議論を行います。</p> <p>その他、適宜、就職活動の準備のための取り組みも行います。</p>
評価方法	報告内容及び授業態度などを総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>以下の予定は、学生の状況や要望により変更する場合があります。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回～第14回 検討・討論・報告 第15回 まとめ</p>
テキスト	資料を配付します。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この演習は、個別具体的な事例について、グループ毎に調査検討を行い、解決方法をまとめて発表したり、特定の役割（例えば、裁判官、検察官、弁護士など）を前提とした考え方、解決方法を検討するなど、学生による議論や報告などを中心に行います。

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士として、民事事件・刑事事件などに携わっている教員が、個別具体的な事例の検討を通じて、情報収集能力、事案分析能力、文書作成能力、論理的思考力、問題解決能力などの向上を目的とした実践的な教育を行う科目である。
質問への対応方法	授業前後やメールにて対応します。 メールアドレス：tooyama-k@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	授業内で実施する議論・報告およびレポートなどは、授業内に評価を示します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業の内容に応じて、適宜、予習・復習時間を示します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / Seminar IIIA
時間割コード Course Code	49309
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	水島 玲央
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水島 玲央 (法学部)
授業の目標	<p>憲法について研究し、報告する。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に図書館に行って本を借りてみる <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「です・ます」と「だ・である」を混在させないようにする ・文章を書くときは、段落を分ける <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手ぶらで授業に来ないようにする ・遅刻・欠席はしないようにする ・顔を上げて授業を聴けるようにする ・宿題はやってくる ・教科書や六法を購入して授業に臨むようにする
授業の概要	<p>3年ゼミでは、憲法について専門的に学習する。2年生のときに、憲法を履修したことを前提に授業を進めていく。前期は、憲法学におけるさまざまなテーマを各自選択してレジュメを作成して報告する。</p> <p>学生たちのなかには、教材を買わずに授業を受ける者が多くみられるが、教材を買わないと授業についていくことはできないため、各学期の初回の授業までに教科書と六法を持っていない場合、受講を御断りする。</p>
評価方法	<p>評価方法 報告内容 (40%)、授業への積極的な参加度 (質問や討論) (60%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告する際に参照した本やウェブサイトは、すべて参考文献として明記すること。 ・自分の選んだテーマに対して、どれだけ情熱をもって取り組んだかを重視する。自分が報告するときだけ出席するのではなく、他の報告者に失礼にならないように出席すること。 ・ゼミとは学生が発表し、それについて討論する場である。他の学生の発表の日を無断欠席するのは、その学生に対する侮辱行為である。(ゼミの時間に発言をしないということも、相手の発表に関心がないということ) ・感染予防のため、必ず検温を済ませ、マスクを着用すること。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・10回以上、「出席」しない場合 (遅刻は「出席」にカウントしない) ・かばんを持たずに授業に来た場合 (財布やスマホしか入らないポシェット姿又は筆箱だけの通学は認めない) ・伏せての居眠り ・授業中のスマホ使用

授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 サンプルまたは面談 第3回～14回 個別報告 第15回 まとめ
テキスト	芦部信喜『憲法 第七版』（岩波書店・2019）
参考書	六法
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業のあとや、オフィスアワーに対応する。
フィードバックの方法	余裕をもって報告の準備をすること。事前にみせてくれば、コメントを入れて返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習2時間、復習2時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / Seminar IIIA
時間割コード Course Code	49310
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	萩原 聡央
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萩原 聡央 (法学部)
授業の目標	この授業では、行政活動との関わりにおいて現実に起こり得る個別具体的な事例を取り上げ、行政法をめぐる諸問題について、学説や裁判例の検討を行いながら、行政法に関する基礎的な理解を深めることを目標とします。 <学習成果> 知識・理解の領域 「わたしたちの暮らしと行政法の関係」や「行政法とは何か」について理解し、行政法に関する基礎的な知識を身につける。 態度・志向性の領域 わたしたちの日常生活における行政法の役割や重要性について関心を向けるようになる。
授業の概要	この演習では、行政活動との関わりにおいて問題となった個別具体的な事例の検討を通して、行政法に関する原理・原則について学ぶとともに、行政法的な思考の訓練を行います。これらの取組みを通して、行政法に関する基礎的な知識や行政法的思考の修得を図ります。 〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	授業における議論への取組み状況 (30%)、報告内容 (30%) およびレポート (40%) の結果により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	原則として、出席回数が12回に満たない場合は失格とします。
授業計画	第1回 ガイダンス (テキスト「はしがき」「本書の使い方」) 第2回 3年次合同ゼミ (1) (PROGテストの実施) 第3回 法律による行政の原理 (テキスト01) 第4回 行政上の法律関係 (1) 民法の適用 (テキスト02) 第5回 行政上の法律関係 (2) 安全配慮義務・時効 (テキスト03) 第6回 行政上の法律関係 (3) 行政法規違反の法律行為の効力 (テキスト04) 第7回 3年次合同ゼミ (2) (PROGテストの説明・解説) 第8回 法の一般原則 (1) 信義則と租税法律主義 (テキスト05) 第9回 法の一般原則 (2) 行政権の濫用 (テキスト06) 第10回 行政行為 (1) 公定力・不可変更力 (テキスト07) 第11回 行政行為 (2) 行政行為の不可争力と違法性の承継 (テキスト08) 第12回 行政行為 (3) 行政行為の瑕疵 (テキスト09) 第13回 行政行為 (4) 取消しと撤回 (テキスト10) 第14回 行政裁量 (1) 政治的判断 (テキスト11) 第15回 行政裁量 (2) 専門的・技術的判断・前期のまとめ (テキスト12)
テキスト	大橋真由美・北島周作・野口貴公美 『START UP 行政法判例50』 (有斐閣)

参考書	・宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『(別冊ジュリスト235号)行政判例百選〔第7版〕』(有斐閣) ・宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『(別冊ジュリスト236号)行政判例百選〔第7版〕』(有斐閣)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この演習は学生による報告を中心として行うため、しっかり準備をした報告と、積極的な討論を期待します。具体的には、報告者の希望も考慮しながら、各回のテーマについて、次のような形式で15回の授業を進めます。 すなわち、(1)受講者の中で報告者を決める、(2)報告者は、事例の紹介、それに関する裁判例・学説の紹介、議論すべき論点や問題点の指摘を行う、(3)報告者の報告および論点の指摘を前提として、受講者の中で議論する、(4)基本的な論点について、演習担当教員が説明を加える、こととします。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の前後およびオフィスアワーなど随時対応します。
フィードバックの方法	授業内で実施する議論・報告およびレポートに関しては、授業時に具体的な判断・評価を示します。また、成績評価に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回におけるテキストの該当箇所について、毎回2時間の予習と2時間の復習を行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1		ガイダンス、前期における報告内容および報告者の決定	
2		報告・討論	
3		報告・討論	
4		報告・討論	
5		報告・討論	
6		報告・討論	
7		報告・討論	
8		報告・討論	
9		報告・討論	
10		報告・討論	
11		報告・討論	
12		報告・討論	
13		報告・討論	
14		報告・討論	
15		前期のまとめ	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIIA
時間割コード Course Code	49311
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	水谷 仁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水谷 仁 (法学部)
授業の目標	<p>私たちは生きていくうえで、政治と何かしらの形で関係をもたざるをえません。この授業では、そんな政治について自分なりの問題意識や考えを見つけ出し、それを他者に理解してもらいつつ、意見交換を通して、政治についての他者の問題意識や考えを理解していけるようになることを目標とします。</p> <p>知識・理解の領域 私たちの身の回りにある政治の問題を理解することを目標とする。</p> <p>技能の領域 法学部の学習に必要な読解方法、調査方法、表現方法などを身につける。また、大学におけるゼミとしてふさわしい考察を行い、他の人の意見を聞いて質問を行ったり議論したりすることを目標にする。</p> <p>態度・志向性の領域 文化的の発展や産業の発達のために政治はどのようにあるべきかを自発的に考えられることを目標とする。</p>
授業の概要	<p>各自が興味・関心をもった政治に関するトピックについて、専門書や学術論文を取り上げて全員で意見交換を行います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	各自の考察や意見交換への参加など、演習への参加態度を中心に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業中に複数回注意を受けた場合や、正当な理由のない欠席が6回以上となった場合は、失格の対象となります。

授業計画	<p>演習参加者が選んだテーマについての考察と意見交換を中心に進めます。 ただし、現実の政治情勢の変化に応じて、専門的な知識の内容や進行速度は柔軟に変更することがあります。</p> <p>第1回 ガイダンス（自己紹介、演習の進め方の説明、報告日程の調整） 第2回 PROGテスト 第3回 個人報告準備 第4回 個人報告準備 第5回 個人報告 第6回 個人報告 第7回 PROGテスト解説 第8回 個人報告 第9回 グループ報告準備 第10回 グループ報告準備 第11回 グループ報告 第12回 グループ報告 第13回 グループ報告 第14回 個人報告、グループ報告予備日 第15回 まとめ</p>
テキスト	必要に応じて配布します。
参考書	<p>佐々木毅『政治学講義』（東京大学出版会、2005年） 久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『政治学』（有斐閣、2010年） 永井史男・水島治郎・品田裕編『政治学入門』（ミネルヴァ書房、2019年） 田村哲樹・近藤康史・堀江孝司『政治学』（勁草書房、2020年） 杉田敦『政治的思考』（岩波書店、2013年） 新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹『政治学』（有斐閣、2017年） 吉野篤編『政治学〔第2版〕』（弘文堂、2018年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業中や授業後、オフィスアワーに受け付けます。
フィードバックの方法	次回の授業時に、質問やコメントを匿名で他の学生にも紹介し、解説を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習と2時間の復習を行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIIIA
時間割コード Course Code	49312
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	山田 麻未
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 H演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 麻未 (法学部)
授業の目標	<p>この演習では、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 租税法を学ぶうえで必要となる基礎的な知識 2) テキストを読み、その内容を正確に把握する能力 3) レジюме・レポートを作成する能力 4) 議論ができるようになる能力 <p>の修得を目標とします。</p> <p>知識・理解の領域 なぜ税金が課されるのか、どのような税金があるのか、税はどのように使われているのかなど、税について理解を深めるとともに、租税法という法律の理解を深めることを目標とします。</p> <p>技能の領域 ・テキストを読み、書かれていることを正確に理解した上で、他人に伝えることができる能力を身につけること、 ・他の人の報告を聞いて、質問を行ったり自分の意見を述べたりできるようになることを目標とします。</p> <p>態度・志向性の領域 ・市民社会の一員として、現代社会の諸問題に関心を持つ（他人事ではなく、自分の問題として考える） ・周囲と相談・協力して課題に取り組む ・自発的に考えられることを目標とします。</p>

授業の概要	<p>この演習では、テキストの輪読・発表とその後の議論を通じて、租税法の内容を理解するとともに、批判的思考をしながら、お互いの考えを深めあえる議論ができるようになる能力を身につけます。</p> <p>1.日本の税法（所得税法・法人税法・相続税法など）について理解を深める。 具体的には、テキストを輪読・発表してもらいます。また、発表内容に関してゼミで議論したいテーマを発表者が設定し、ゼミで議論を行います。皆さんの積極的な参加を通じて、大きな成長を目指します。</p> <p>2.税制が社会に与える影響や、社会が税制に与える影響を具体的に学ぶ 新聞記事等を使って、税が現実の社会においてどのような役割を果たしているのかを学びます。</p> <p>前期は個人発表を中心に行いますが、グループディスカッションを行うこともあります。 個人発表にあたっては、指定したテキストの他にも、図書館に所蔵されている書籍やオンラインで入手できる資料（財務省ウェブサイト等）を使ってください。 これらの経験を通じて、1つのテーマについて資料を集めて精読し、他者にわかりやすく伝える技術を習得することを狙います。</p> <p>この科目の位置付けについては、本学HPのナンバリングを参照すること。 「租税法」の授業を受講することが望ましい。</p>
評価方法	<p>発表内容と参加姿勢で評価します。</p> <p>発表内容 50% 参加姿勢 50%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 サンプルの報告（教員による） 第3回～第14回 個別報告 第15回 まとめ</p>
テキスト	佐藤英明『プレップ租税法（第4版）』（弘文堂・2021年）
参考書	<p>初級（入門） ・小塚真啓編著『高校生のための税金入門』（三省堂、2020年） 中級 ・三木義一編著『よくわかる税法入門（第16版）』（有斐閣、2022年） ・谷口勢津夫ほか『基礎からわかる租税法（第3版）』（弘文堂、2022年） 上級 ・佐藤英明編著『租税法演習ノート（第4版）』（弘文堂、2021年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ディスカッション
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	随時フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習2時間 発表担当者は、テキストを熟読した上で資料の作成 それ以外の学生は、テキストの該当箇所を読むこと。 復習2時間 ゼミでの発表内容や議論を思い出し、再度テキストを読み直す。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス	演習の内容について概観する	演習で扱うテキストの準備など。 予習2時間、復習2時間
2			予習2時間、復習2時間
3			予習2時間、復習2時間
4			予習2時間、復習2時間
5			予習2時間、復習2時間
6			予習2時間、復習2時間
7			予習2時間、復習2時間
8			予習2時間、復習2時間
9			予習2時間、復習2時間
10			予習2時間、復習2時間
11			予習2時間、復習2時間
12			予習2時間、復習2時間
13			予習2時間、復習2時間
14			予習2時間、復習2時間
15	まとめ	演習の内容についてまとめる	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 直史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 直史 (法学部)
授業の目標	<p>演習の目標は、SDGsを法の視点から踏み込んで考え、法学部で学んだことをグローバルレベル及びローカルレベルのそれぞれの社会でどのように活用できるかについての視点を得ることです。</p> <p>グローバル化が進む国際社会では、これまでのルールが見直されるとともに、新しいルールが生まれています。SDGsもその一つです。これらルールの見直しや新しいルールの形成は、私たちの日々の生活や身近なルールとも結びついています。この演習では、現代の国際社会を取り巻くさまざまな法的問題を通じて、「法」の多様性を考え、「法」を多角的に分析します。これらの検討を通じて、みなさんが、3年次までに学んだ法の基本的な原理や基礎理論を前提として、グローバルな社会、ローカルな社会、そしてグローバルとローカルが交錯し影響し合う社会で、法学部で学んだことをどのように活用するかについて実践的な視座を得ることを目指します。</p> <p>加えて、3年次までに学んだ内容を踏まえて、資料収集やリサーチの方法、レポート・レジュメの作成方法など、社会において必要となる能力を更に向上させることも目標とします。</p> <p>〔知識・理解の観点〕 国際社会のルールや身近なルールを検討を通じて、法を学ぶに当たって重要となる基本的な原理や基礎理論を理解するとともに、法学部で学んでいることの意味、法の学び方、法学部で学んだことの活用の方法を理解する。</p> <p>〔思考・診断の観点〕 具体的な事例（題材）の問題点を明らかにし、その問題の背景は何か、解決に向けて誰のどういった利益を考慮しなければならないのか、課題に対する短期的な対応及び中長期的な展望は何か、といった分析ができるようになる。</p> <p>〔関心・意欲の観点〕 現代社会の課題について、法的な観点から興味を深め、具体的な問題を自分事として捉える力を身につける。</p> <p>〔態度の観点〕 主体的・積極的に問題点を明らかにし、解決や改善に向けた取組みを行おうとする姿勢が身につく。 自分とは異なる意見や考え方を、違うからといって排除・嫌悪するのではなく、どうして違いが生じるのかを理解するように努める態度が身につく。 ディスカッションやプレゼンテーション、リサーチや文書作成の能力が向上する。</p>

授業の概要	<p>演習Ⅳを受講するみなさんは、3年次までの学びを踏まえて、さまざまな法についての理解や法とグローバルな社会 / ローカルな社会との関係についての理解、そして学んだ内容の活用の方法についての理解を更に進める必要があります。そこで、この演習では、法やルールと国際社会・地域社会との関係、法やルールの現在と未来などについて、多面的・多角的な視点から検討します。この検討のプロセスを通じて、みなさんは、さまざまな分野に共通する法の基本的な原理や基礎理論の理解を更に掘り下げることができるとともに、法の役割や機能は何か、法学部で何を学んでいるのか、法学部で学んだことを卒業後どのように活用すればよいのか（活用できるのか）について、視座を得ることができるようになるでしょう。</p> <p>なお、法学部で学んだことの活用の方法を理解することは、みなさんが社会に出る準備（就職活動を含む）を行うに際して、また、社会に出てからさまざまな活動を行うに際して、大いに役に立つでしょう。みなさんが法学部で学んでいる意味を、演習を通じて再確認しましょう。</p> <p>〔この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。〕</p>
評価方法	ゼミでの取り組みの態度（40%）、グループディスカッションやプレゼンテーション（30%）、全体討論における発言（30%）で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席5回以上は失格とします（遅刻は2回で欠席1回とみなします。）。特別欠席は欠席回数に含まれません。 なお、欠席・遅刻とも、やむを得ない理由がある場合を除き、必ず事前に連絡してください。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回から第3回 グループ研究の準備 SDGsなどの国際社会の新しいルールなどを題材に、グループ研究の準備を行います。</p> <p>第4回から第9回 グループ研究の実施 SDGsなどの国際社会の新しいルールなどを題材に、グループ研究を行います。</p> <p>第10回から第14回 グループ研究の発表 グループ研究の成果を、グループごとにプレゼンテーションします。</p> <p>第15回 振り返り</p> <p>なお、上記は予定であり、進行状況により変更する場合があります。</p>
テキスト	なし。
参考書	授業のトピックに合わせて指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ペア又はグループによるディスカッション、リサーチ、プレゼンテーション準備及びプレゼンテーションを行います。ペア又はグループのプレゼンテーションについて全体討論を行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士実務経験に加え、アジア諸国における法整備支援の経験を豊富に有している教員が、学生のみなさんが法学部で学び、身につけたことを社会でどのように活用するかについて、実践的に学ぶ科目である。
質問への対応方法	授業終了後やオフィスアワーのほか、随時対応します。
フィードバックの方法	授業中のディスカッション、プレゼンテーション、意見交換などについては、授業の中でコメントします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	グループ研究の準備、研究の実施、研究成果の報告の準備（レジュメやプレゼンテーション資料の作成を含む。）などのために、各回4時間程度の時間外学習を行います。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	<ol style="list-style-type: none">1. 貧困をなくそう10. 人や国の不平等をなくそう2. 飢餓をゼロに3. すべての人に健康と福祉を4. 質の高い教育をみんなに5. ジェンダー平等を実現しよう6. 安全な水とトイレを世界中に7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに8. 働きがいも経済成長も9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11~17)	<ol style="list-style-type: none">11. 住み続けられるまちづくりを12. つくる責任つかう責任13. 気候変動に具体的な対策を14. 海の豊かさを守ろう15. 陸の豊かさを守ろう16. 平和と公正をすべての人に17. パートナリシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none">1. 情報収集力2. 情報分析力3. 課題発見力4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none">1. 親和力2. 協同力3. 統率力4. 感情制御力5. 自信創出力6. 行動持続力7. 課題発見力8. 計画立案力9. 実践力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49401
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	張 瑞輝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 A 2 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	張 瑞輝 (法学部)
授業の目標	<p>民事訴訟法における基礎的かつ重要な問題を体系的に学習することを授業目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 民事訴訟法の基本概念と基本構造をおさらい、理解をさらに深めることができる。民事訴訟法の重要問題についてその難点を直撃し、その解法を把握できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 学説の生成過程と判例の変遷を自ら進んで整理するようになる。</p> <p>技能の領域 民事訴訟法学の学問としての思考様式を解明する能力が鍛えられる。ディベートを行う際に、基本的な攻撃および防御の技法が身につくことができる。</p>
授業の概要	<p>第一部 報告編 報告者が、テーマ・確認事項・参考文献を手がかりに、45分程度の報告を行う。報告後、報告に関する質疑応答、基本知識の確認を行う。演習事例を参加者全員で検討する。</p> <p>第二部 裁判例ディベート編 以下の要領で裁判例ディベートを1~2回程度で実施する。 (1) 事例の説明 (2) Xチームの第1プレゼンテーション・8分 作戦タイム1分 Yチームの尋問・8分 (3) Yチームの第1プレゼンテーション・8分 作戦タイム1分 Xチームの尋問・8分 (4) Xチームの第2プレゼンテーション・6分 Yチームの尋問・6分 (5) Yチームの第2プレゼンテーション・6分 Xチームの尋問・6分 (6) 勝負の判定</p>
評価方法	授業における取り組み状況や報告内容などを総合的に考慮して評価する。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>(1) 無断欠席について 事前の連絡のない欠席が2回を超えた場合は、失格とする。</p> <p>(2) 報告日の欠席について 報告者は報告日に欠席した場合、大学規則に基づく正当な事由がない限り、失格とする。</p> <p>(3) 正当な事由の証明について 大学規則に基づく正当な事由を証明するために、書面にて関係書類を提出し、立証責任を負わなければならない。</p>
授業計画	<p>第01回 ガイダンス（演習の進め方について）</p> <p>第02回 報告編の準備期日 pre報告1&FB 第1審</p> <p>第03回 報告編の準備期日 pre報告2&FB 控訴審</p> <p>第04回 報告編の準備期日 pre報告3&FB 上告審&差戻審</p> <p>第05回 報告編の準備期日 pre報告4&FB 学説</p> <p>第06回 報告編の準備期日 pre報告5&FB 実務</p> <p>第07回 報告編の準備期日 pre報告6&FB 私見・小括</p> <p>第08回 報告編の本報告 第1回期日</p> <p>第09回 報告編の本報告 第2回期日</p> <p>第10回 報告編の本報告 第3回期日</p> <p>第11回 報告編の本報告 第4回期日</p> <p>第12回 報告編の本報告 第5回期日</p> <p>第13回 裁判例ディベート編 作戦会議期日</p> <p>第14回 裁判例ディベート編 実施期日</p> <p>第15回 まとめ</p>
テキスト	<p>小林秀之『判例講義・民事訴訟法』（弘文堂、2019年）</p> <p>三木浩一ほか『民事訴訟法[第3版]』（有斐閣、2018年）</p> <p>潮見佳男『基本講義・債権各論2・不法行為法[第3版]』（新世社、2017年）</p>
参考書	<p>伊藤眞・山本和彦（編）『民事訴訟法の争点』（有斐閣、2009年）</p> <p>高橋宏志・高田裕成・畑瑞穂（編）『民事訴訟法判例百選[第5版]』（有斐閣、2015年）</p> <p>飯倉一郎ほか（編）『演習ノート 民事訴訟法 第5版』（法学書院、2010年）</p> <p>遠藤賢治『事例演習 民事訴訟法』（有斐閣、2013年）</p> <p>吉村良一『不法行為法[第5版]』（有斐閣、2017年）</p> <p>窪田充見『不法行為法[第2版]』（有斐閣、2018年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワー等。相談により随時対応する。
フィードバックの方法	<p>当該授業は、対面方式でありながらも、Google Classroomを使用する予定である。第1回の授業の際にGoogle Classroomへ参加方法また必要な情報を提示する。</p> <p>授業のフィードバックは、原則として、Google Classroomの諸機能（添削、返却、等）を利用して行う。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習復習等、準備学習の内容は、前記テキストと参考書の該当範囲のほか、Google Classroomを利用して配布する予定である。</p> <p>予習復習等、準備学習の時間は、各回で少なくとも4時間以上を要する内容となっているため、該当範囲を事前に閲読した上での受講が必要となる。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49402
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	濱口 弘太郎
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	濱口 弘太郎 (法学部)
授業の目標	民法について、研究を深め、社会生活において、それぞれの進路を考える。
授業の概要	この授業は、対面授業で行い、4年次後期開講予定の「演習4B」と一体をなすものです。「演習4B」では、卒業レポートの作成を行います。 この授業では、卒業レポート作成に向けて、各自の興味関心に従い、調査を行います。また、卒業に向けて、それぞれの大学卒業後の進路を考えます。
評価方法	受講態度及び卒業レポートの準備状況によって、総合的に判断する。 なお、成績に関する疑義は、不服申立期間内に対応する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 卒業レポート構想報告 第3回 調査(1) 第4回 調査(2) 第5回 進路について考える(1) 第6回 調査(3) 第7回 調査(4) 第8回 卒業レポート経過報告(1) 第9回 進路について考える(2) 第10回 調査(5) 第11回 調査(6) 第12回 卒業レポート経過報告(2) 第13回 卒業レポート検討会 第14回 調査(7) 第15回 まとめ
テキスト	指定しない
参考書	指定しない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 司法修習生として裁判所・検察庁・弁護士事務所の経験のある教員が、法曹有資格者の立場から指導を行い、法律問題の実践的な解決という観点から、卒業レポート作成に向けて、各自の興味関心に従った調査を行う科目である。
質問への対応方法	授業中に質問を受け付け、口頭で回答することによって対応する。
フィードバックの方法	成績評価に関するフィードバックは、成績疑義申立期間中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	民法は1050条までであるため、大凡、1回の授業で70条進むと考えればよい。 1箇条読み込むのに必要な時間は人によって異なるであろうが、民法305条のような単純な規定「第二百九十六条の規定は、先取特権について準用する。」であっても、理解には5分程度を要するであろう。 そのため、準備に要する時間は、概算で、 $1050 \times 5 = 5250$ 分 = 87.5時間となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49403
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	白出 博之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70D演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	白出 博之(法学部)
授業の目標	ゼミの目標 この演習では、民事法(民法・商法・民事訴訟法を含む)に関する文献・裁判例等の読解を通して、資料・文献を読む力、レジюме(報告内容の要約)を作成して報告する力、質疑応答に関する力など、大学法学部での学びに必要な応用力の修得を目標にします。
授業の概要	目指す学習成果 知識・理解の領域 「わたしたちの暮らしと民事法の関係」や「民事法とは何か」について、関連分野の裁判例を素材として理解し、民事法に関する基本的知識を身につける。 態度・志向性の領域 日常生活における民事法の作用・役割や重要性について関心を向けるようになる。そのうえで法律上の論点に関する自分の考えについて、結論、理由付けを論理的に表現できるようになる。 具体的には「判例百選」等を教材として、社会生活の中で発生している民事紛争に関する裁判例について検討しながら、「読み・書き・話す(報告し、受講者の間で議論して考える)」といった取り組みを行います。これらの取り組みを通して、民事法に関する基礎的知識だけでなく各種資格試験等においてアウトプットする能力の修得を目指します。
評価方法	第1に、平常点として、毎回のテーマについて、自己の見解をわかりやすく発表する「アウトプット力」、および他のメンバーの発言内容をよく聞き、理解に努めるための「質問力」を養うために、毎回、最低2回の発言を必須とします(60点)。 第2に、課題レポート又は小テスト(40点)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	前期の演習では、主に民法債権編に関する判例を報告してもらい、意見交換を実施します。
テキスト	指定なし。
参考書	民法判例百選(有斐閣)ほか
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容 発表担当者の報告内容に対して、他のメンバーとの質疑応答をし、報告者の見解に対する賛否について理由付けを明確に行うようなディスカッションを実施します。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士として裁判実務、および我が国のODA事業である法整備支援の長期専門家として立法支援業務等の実務経験をこの演習の内容に活用します。
質問への対応方法	授業の前後およびオフィスアワーで随時対応します。

フィードバックの方法	毎回の講義後に行う振り返りシートについて、原則として次回講義においてコメントします。成績評価については、本学所定の期間に対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	まず発表担当者は、報告用のレジメ資料を作成、配布するために相応する準備作業が必要です。また発表担当者以外のメンバーは、当該分野の復習のために最低1時間を確保してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	5.自信創出力 7.課題発見力 9.実践力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49404
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	美濃羽正康
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70B 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	美濃羽正康 (法学部)
授業の目標	<p>企業法に関する知識を深める。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 企業法をめぐる諸問題について、自ら、問題点を見つけ出し、調べることで、より深い知識を身につけることができる。</p> <p>関心意欲の領域 自分で報告テーマを選定し調べ、報告することで自分の意見を述べるようになる。 ゼミの仲間との討論を通じて、他の者の視点や価値判断に触れることで関心や学習意欲がさらに増すようになる。</p> <p>技能の領域 資料収集や調査のテクニックが身につく。 レジュメの作成を通じて、要約して説明する能力が向上する。 プレゼンテーション能力を身につけることができる。 議論の仕方を身につけることで、傾聴力、対話力、説得力などを身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>本演習では、企業を取り巻く様々な問題について、3年次の演習IIIで学んだ企業法に関する基礎的な知識を活かし、より多角的な視点から問題点を見つめ学んでいくことで、知識を深めていきます(前期15回、後期15回)。まず、3年次の各自のテーマについておさらいをしたうえで、改正新会社法について学んでいく予定です。ゼミ生には、周到な報告の準備、それに基づく報告と積極的な討論への参加を要求します。また、最終的には、各自のテーマで卒業レポートを作成、提出してもらいます。</p> <p>予習について 報告者は、報告予定日の1週間前までに、報告用のレジュメを作成、ゼミ性の人数分をコピーし、配布しておくこと。 報告者以外の者は、報告者から配布されたレジュメを基に、議論に参加できるように予習をしてゼミに臨むこと。</p>
評価方法	ゼミ報告およびゼミ中の学習態度、提出レポートで総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席 ゼミ報告担当日の無断欠席

授業計画	1回 ガイダンス・履修指導 2回 ゼミ報告テーマ選定 SPI 3回 エントリーシートチェック SPI 4回 SPI・模擬面接 5回 SPI・模擬面接 6回 レジюмеチェック SPI 7回 ゼミ報告 SPI 8回 ゼミ報告 9回 ゼミ報告 10回 就活報告会 11回 ゼミ報告 12回 ゼミ報告 13回 ゼミ報告 14回 ゼミ報告 15回 ゼミ報告
テキスト	使用しない
参考書	適宜し紹介する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミ報告に基づいて、異なる考え方(解決案)についてグループで議論し、妥当であると考えた考えを発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	演習中に受け付けるとともに、メール(t10n0283@nagoya-ku.ac.jp)及びgoogle classroomでも対応する。
フィードバックの方法	ゼミ中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習について 報告者は、報告予定日の1週間前までに、報告用のレジюмеを作成、ゼミ性の人数分をコピーし、配布しておくこと(2時間)。 報告者以外の者は、報告者から配布されたレジюмеを基に、議論に参加できるように予習をしてゼミに臨むこと。(1時間) 復習について 報告や議論等に対する講評に基づき、簡単なレポートを作成し、提出する。(1時間) 卒業レポートを作成の準備をする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49405
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	市橋 克哉
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	6 3 E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	市橋 克哉 (法学部)
授業の目標	<p>学習目標</p> <p>知識・理解の領域 行政法の基本的な原理、理論および制度を理解することができる。</p> <p>技能の領域 具体的事例を読み、事案の概要と行政法的論点を簡潔に整理し、これに基づき議論を行うことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 課題について自ら積極的に取り組み、自分の見解をまとめ、これを発言することができる。</p>
授業の概要	<p>わが国においては「行政法」という名の法典は存在しません。行政法とは行政に関する多数の法の総称であり、行政法を勉強するということは、そこに共通する原理、理論、制度などを学ぶということです。この演習は、具体的事例の検討を通じて行われる実践的な「行政法」です。法学を少し学んだ者を念頭におき、行政法に限らず、法律の知識の修得にも留意したいと思います。</p> <p>【授業形態】 対面</p>
評価方法	課題発表による評価。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 法律による行政の原理 (概説)</p> <p>第3回 行政上の一般原則 (事例)</p> <p>第4回 行政上の一般原則 (概説)</p> <p>第5回 行政上の一般原則 (事例)</p> <p>第6回 行政行為 (概説)</p> <p>第7回 行政行為 (事例)</p> <p>第8回 行政手続 (概説)</p> <p>第9回 行政手続 (事例)</p> <p>第10回 行政基準 (概説)</p> <p>第11回 行政基準 (事例)</p> <p>第12回 行政計画 (概説)</p> <p>第13回 行政計画 (事例)</p> <p>第13回 行政指導 (概説)</p> <p>第14回 行政指導 (事例)</p> <p>第15回 振り返り</p> <p>注) 参加者の構成や授業進度により変更の可能性がある。</p>
テキスト	市橋克哉ほか著『アクチュアル行政法【第3版補訂版】』(法律文化社、2023年) 行政法判例百選 および (有斐閣、2022年)

参考書	特になし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間、オフィスアワー、メールで対応。
フィードバックの方法	授業時間内および次回授業で解説。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習復習あわせて2時間程度が目安。 行政法総論および行政救済法の授業受講を必須とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49406
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	ウミリデノブ アリシエル
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ウミリデノブ アリシエル (法学部)
授業の目標	1. 国際経済法の考え方や基礎知識を身につける。 2. 国際経済問題を見る眼を養うことができる。 加えて、この演習では、 3. 国際経済法上の具体的な事例を理解することを目標とする。
授業の概要	本ゼミでは、国際法の最近発展している新分野ー国際経済法の最先端の問題点を検討する。特に、国際経済活動に対する広法的規制、その中でも国際貿易と国際投資活動を伴う法的問題を具体的な事例を使って、勉強する。 参加者の関心を考慮し、国際貿易法グループ、国際投資法グループ及び国際通貨・金融というグループに分けて、それぞれのグループに報告をしてもらう。 (就職活動) キャリアセンターと連携して、適宜就職活動をサポートします。 (その他) 以上のほか、ゼミ生の希望を聞き、適宜対応します。
評価方法	授業への参加態度・報告への準備等を総合的に評価して成績を決定する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	報告者が論点を整理した上で報告を行い、参加者との討論した後、担当教員の方からコメントを行う。 第1回 係り決め、グループ分け 第2回 ～ グループ報告 第14回 第15回 振り返り (* ゼミ内容により変更することがあります)
テキスト	小林友彦ほか『WTO・FTA法入門：グローバル経済のルールを学ぶ[第2版]』(法律文化社、2020年)
参考書	柳赫秀 編『講義 国際経済法』(東信堂、2018年) 松下満雄・中川淳司・清水章雄(編)『ケースブックWTO法』(有斐閣、2009年) 経済産業省通商政策編『2021年版不公正貿易報告書』

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49407
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	清水 裕樹
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	清水 裕樹 (法学部)
授業の目標	<p>後期に卒業レポートを書けるように、学術的なテキストを読む習慣をもち、論理的に物を考え、他の演習参加者たちと議論ができるようになることを目指します。</p> <p>態度・指向性の領域：普段からテキストを読む習慣をもち、疑問に思ったことは調べ、理解したことや調べたことをわかりやすく伝達できるようになることを目指します。</p>
授業の概要	<p>2022年度に続いて、テキストの残る部分を輪読します。特にテキストの最後の部分は難解なので、各自の理解をしっかりと確認しながら進める予定です。</p> <p>就職活動など進路決定に向けての動きは、各人でそれぞれですので、出席状況をみながら授業の進め方（担当部分の分量など）を考えます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	<p>十分に出席できている学生に関しては、授業中にしっかりと参加してくれているかどうかをもとに判断します。</p> <p>就職活動や体調不良等で、十分に出席できていない学生には、別途追加の課題も出します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>演習ですので、真にやむを得ない場合以外は出席するのが当然であると考えております。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は、できる限り早い時点でメールでの連絡を求めます。</p> <p>無断での遅刻や欠席は、その事情や回数を考慮して失格の対象となります。</p>
授業計画	<p>下記「テキスト」欄にあるテキストを参加者みなさんで読んでいきます。</p> <p>4年次であり、全員が毎回出席できないことも予想されますので、あらかじめ担当者を決めるというよりは、出席者に発言を求めながら読んでいくという形式を考えております。</p> <p>とはいえ、受講態度が消極的である場合には、随時課題を出すなども考えております。</p>
テキスト	小坂井敏晶『人が人を裁くということ』（岩波新書）2011年
参考書	必要に応じて指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>毎回テキストの指定した範囲を読み、各自考えたことや調べたことについて発言を求め、それに基づいて議論ができることを目指します。</p> <p>議論にならなかった回については、参加者各自に調査と調査結果の提出を求めます。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>授業時間中には、当然対応します。</p> <p>授業時間外については、メールで対応します。</p>
フィードバックの方法	対面実施の演習ですので、原則としてその場で口頭にて発言に対する評価をおこないます。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回について、少なくとも4時間の予習（指定テキスト読み、わからない語句の調査、考えたことや調べたことの整理など）・復習（授業中の発言の振り返り、テキストの内容に対する理解の整理など）を求めます。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49408
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	遠山 圭一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	70C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	遠山 圭一 (法学部)
授業の目標	<p>この演習では、3年次までに学んだ内容を前提として、様々な紛争に関して検討・議論し、その成果を発表することを通じて、社会人としての基礎力を身に付けることとともに、法的知識や法的解決の手法を修得することを目標とします。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 民法や刑法等を学習することで資格試験や公務員試験に必要な法律知識を習得できる。 身近な法律問題を解決する思考を習得できる。</p> <p>技能の領域 問題点を発見・整理し、資料を作成することができる。 他人の意見を聞き、自分の意見を発表することができる。 常に物事を深く考える習慣を身に付けることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 分析力、対話力などを身に付けることができる。</p>
授業の概要	<p>民事事件・刑事事件問わず、様々な紛争について検討・議論する形で演習を行います。</p> <p>民事事件であれば、当事者がどのような請求をするのか、請求が認められるための要件は何か、要件に該当する事実は何か、証拠は何か、刑事事件であれば、検察官はどのように犯罪を立証するのか、弁護士はどのような防御活動を行うのか、裁判官はどういった思考で結論を出すのかなど、結論に至る思考過程を意識して、個別具体的な事例の検討・議論を行います。</p> <p>その他、適宜、就職活動の準備のための取り組みも行います。</p>
評価方法	報告内容及び授業態度などを総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>以下の予定は、学生の状況や希望により変更する場合があります。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回～第14回 検討・報告・討論 第15回 まとめ</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この演習は、グループ毎に調査検討を行い、解決方法をまとめて発表したり、特定の役割（例えば、裁判官、検察官、弁護士など）を前提とした解決方法を検討するなど、学生による議論や報告などを中心に行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	弁護士として、民事事件・刑事事件などに携わっている教員が、個別具体的な事例の検討を通じて、事案分析能力、問題解決能力、論理的思考力などの向上を目的とした実践的な教育を行う科目である。
質問への対応方法	授業前後やメールにて対応します。 メールアドレス：tooyama-k@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	授業内で実施する議論・報告およびレポートなどは、授業内に評価を示します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業で取り扱う内容によって予習・復習時間が異なるため、適宜、予習・復習時間を示します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49409
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	水島 玲央
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水島 玲央 (法学部)
授業の目標	<p>4年間で学んだことの集大成として、ゼミ論を書く。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に図書館に行って本を借りてみる <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「です・ます」と「だ・である」を混在させないようにする ・文章を書くときは、段落を分ける <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手ぶらで授業に来ないようにする ・遅刻・欠席はしないようにする ・顔を上げて授業を聴けるようにする ・宿題はやってくる ・教科書や六法を購入して授業に臨むようにする
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生のときに学習したテーマをさらに調べて、1年かけてゼミ論を書いてもらう。 ・だが、コロナウイルスが猛威を振っており、図書館に足を運んで資料収集をすることが難しいかもしれない。また、昨年度単位を落とした者もあり、憲法のゼミ論を書くことが著しく困難であることも予想される。 ・そこで今年度は1年かけて、6000字程度のゼミ論、もしくは救済課題として10000字以上（こちらは字数厳守）の「自伝」を書いてもらうことにする。救済課題を選んだ場合、成績は下がるので注意。
評価方法	<p>評価方法 報告内容（40%）、授業への積極的な参加度（質問や討論）（60%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告する際に参照した本やウェブサイトは、すべて参考文献として明記すること。 ・自分の選んだテーマに対して、どれだけ情熱をもって取り組んだかを重視する。自分が報告するときだけ出席するのではなく、他の報告者に失礼にならないよう出席すること。 ・ゼミとは学生が発表し、それについて討論する場である。他の学生の発表の日を無断欠席するのは、その学生に対する侮辱行為である。（ゼミの時間に発言をしないというのも、相手の発表に関心がないということ） ・感染予防のため、必ず検温を済ませ、マスクを着用すること。 <p>シラバスの字数制限の関係上、詳しくは初回授業で紹介する。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・10回以上、「出席」しない場合（遅刻は「出席」にカウントしない） ・かばんを持たずに授業に来た場合（財布やスマホしか入らないポシェットでの通学は認めない） ・伏せての居眠り ・授業中のスマホ使用 シラバスの字数制限の関係上、詳しくは初回授業で紹介する。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 サンプルまたは面談 第3回～14回 個別報告 第15回 まとめ
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業のあとや、オフィスアワーに対応する。
フィードバックの方法	余裕をもって報告の準備をすること。事前にみせてくれば、コメントを入れて返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習2時間、復習2時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49410
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	萩原 聡央
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萩原 聡央 (法学部)
授業の目標	この授業では、行政法の仕組みや原理・原則を把握するとともに、行政法に関わる法的な問題や課題について理解を深めることを目標とします。 <学習成果> 知識・理解の領域 「わたしたちの暮らしと行政法の関係」や「行政法とは何か」について理解し、行政法に関する基礎的な知識を身につける。 態度・志向性の領域 わたしたちの日常生活における行政法の役割や重要性について関心を向けるようになる。
授業の概要	この演習では、行政活動との関わりにおいて問題となった個別具体的な事例の検討を通して、行政法に関する原理・原則について学ぶとともに、行政法的な思考の訓練を行います。 これらの取組みを通して、行政法に関する基礎的な知識や行政法的思考の修得を図ります。 〔この科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	授業における議論への取組み状況 (30%)、報告内容 (30%) およびレポート (40%) の結果により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	原則として、出席回数が12回に満たない場合は失格とします。
授業計画	第1回 ガイダンス・授業の進め方 (テキスト導入部分) 第2回 ライフサイクルと行政法 - 行政法への招待 (テキスト第1章) 第3回 ゴミ屋敷対策 - 法律による行政の原理 (テキスト第2章) 第4回 一発レッドカード - 行政上の一般原則 (テキスト第3章) 第5回 卑弥呼のライバル登場 - 行政上の一般原則 (テキスト第4章) 第6回 お年寄りと子どもを守れ - 行政行為 (テキスト第5章) 第7回 水際作戦と孤独死 - 行政手続 (テキスト第6章) 第8回 保育所落ちたくない - 行政基準 (テキスト第7章) 第9回 マンション選びクイズ - 行政計画 (テキスト第8章) 第10回 江戸の敵を長崎で討つ - 行政指導 (テキスト第9章) 第11回 活かされなかった教訓 - 事実行為 (テキスト第10章) 第12回 ロックダウンは憲法違反? - 実効性確保 (テキスト第11章) 第13回 いじめ事件の真相に迫る - 情報公開 (テキスト第12章) 第14回 タヌキの森はいま - 行政訴訟 (テキスト第13章) 第15回 前期のまとめ (テキスト第1章から第13章まで)
テキスト	大橋洋一『社会とつながる行政法入門 (第2版)』 (有斐閣、2021年)
参考書	

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	この演習は学生による報告を中心として行うため、しっかり準備をした報告と、積極的な討論を期待します。具体的には、報告者の希望も考慮しながら、各回のテーマについて、次のような形式で15回の授業を進めます。 すなわち、(1)受講者の中で報告者を決める、(2)報告者は、事例の紹介、それに関係する裁判例・学説の紹介、議論すべき論点や問題点の指摘を行う、(3)報告者の報告および論点の指摘を前提として、受講者の中で議論する、(4)基本的な論点について、演習担当教員が説明を加える、こととします。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の前後およびオフィスアワーなど随時対応します。
フィードバックの方法	授業内で実施する議論・報告およびレポートに関しては、授業時に具体的な判断・評価を示します。また、成績評価に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回におけるテキストの該当箇所について、毎回2時間の予習と2時間の復習を行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1		ガイダンス、前期における報告内容および報告者の決定	
2		報告・討論	
3		報告・討論	
4		報告・討論	
5		報告・討論	
6		報告・討論	
7		報告・討論	
8		報告・討論	
9		報告・討論	
10		報告・討論	
11		報告・討論	
12		報告・討論	
13		報告・討論	
14		報告・討論	
15		前期のまとめ	

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49411
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	水谷 仁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水谷 仁 (法学部)
授業の目標	<p>私たちは生きていくうえで、政治と何かしらの形で関係をもたざるをえません。この授業では、そんな政治について自分なりの問題意識や考えを見つけ出し、それを他者に理解してもらいつつ、意見交換を通して、政治についての他者の問題意識や考えを理解していけるようになることを目標とします。</p> <p>知識・理解の領域 私たちの身の回りにある政治の問題を理解することを目標とする。</p> <p>技能の領域 法学部の学習に必要な読解方法、調査方法、表現方法などを身につける。また、大学におけるゼミとしてふさわしい考察を行い、他の人の意見を聞いて質問を行ったり議論したりすることを目標にする。</p> <p>態度・志向性の領域 文化的の発展や産業の発達のために政治はどのようにあるべきかを自発的に考えられることを目標とする。</p>
授業の概要	<p>各自が興味・関心をもった政治に関するトピックについて、専門書や学術論文を取り上げて全員で意見交換を行います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照してください。</p>
評価方法	各自の考察や意見交換への参加など、演習への参加態度を中心に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業中に複数回注意を受けた場合や、正当な理由のない欠席が6回以上となった場合は、失格の対象となります。

授業計画	<p>演習参加者が選んだテーマについての考察と意見交換を中心に進めます。 ただし、現実の政治情勢の変化に応じて、専門的な知識の内容や進行速度は柔軟に変更することがあります。 また、他のゼミとの合同ゼミを行う可能性もあります。</p> <p>第1回 ガイダンス（報告日程の調整） 第2回 個人報告準備 第3回 個人報告準備 第4回 個人報告 第5回 個人報告 第6回 個人報告 第7回 個人報告 第8回 グループディスカッション 準備、個人報告予備 第9回 グループディスカッション 準備 第10回 グループディスカッション 準備 第11回 グループディスカッション 第12回 グループディスカッション 準備 第13回 グループディスカッション 準備 第14回 グループディスカッション 準備 第15回 グループディスカッション</p>
テキスト	必要に応じて配布します。
参考書	<p>佐々木毅『政治学講義』（東京大学出版会、2005年） 久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『政治学』（有斐閣、2010年） 永井史男・水島治郎・品田裕編『政治学入門』（ミネルヴァ書房、2019年） 田村哲樹・近藤康史・堀江孝司『政治学』（勤草書房、2020年） 杉田敦『政治的思考』（岩波書店、2013年） 新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹『政治学』（有斐閣、2017年） 吉野篤編『政治学〔第2版〕』（弘文堂、2018年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は授業中や授業後、オフィスアワーに受け付けます。
フィードバックの方法	次回の授業時に、質問やコメントを匿名で他の学生にも紹介し、解説を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回2時間の予習と2時間の復習を行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力</p>

開講科目名 Course	演習 A / SeminarIVA
時間割コード Course Code	49412
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	山田 麻未
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 H演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 麻未 (法学部)
授業の目標	<p>この演習では、租税に関する判例の評釈を行うことを通じて、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 判例を正確に読み込む能力 2) 判例を多角的に分析するために、資料や文献を探し、その内容を正確に把握する能力 3) レジューメ・レポートを作成する能力と、調べた内容をわかりやすく報告する能力の修得を目標とします。 <p>知識・理解の領域 判例を通じて、現代社会において何が問題となっているのかを知り、どのような解決方法が考えられるか、法制度はどのように変わっているかについて理解を深めることを目標とします。</p> <p>技能の領域 ・データベースなどを利用して、必要な資料を収集すること ・資料や文献を読み、書かれていることを正確に理解した上で、他人に伝えることができる能力を身につけること、 ・他の人の報告を聞いて質問を行ったり意見を述べたりすること を目標にします。</p> <p>態度・志向性の領域 ・市民社会の一員として、現代社会の諸問題に関心を持つ（他人事ではなく、自分の問題として考える） ・周囲と相談・協力して課題に取り組む ・自発的に考えられる ことを目標にします。</p>
授業の概要	<p>各自が興味をもった租税法の判例について、判例評釈を作成し、年度末に卒業研究として提出してもらいます。</p> <p>前期のゼミでは、途中経過について、1人ずつもしくはグループで中間発表を行ってもらいます。発表後は、その判例について受講者全員で質疑応答を行います。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	報告内容、質疑応答における積極性、中間発表の内容を総合的に判断して評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>報告者は十分な準備をして望み、他の参加者も予習を怠らないように心がけてください。 以下は例示で、詳細は学生と話し合ってください。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 判例評釈のレクチャー：判例の読み方 第3回 判例評釈のレクチャー：基本書の読み方 第4回 判例評釈のレクチャー：判例評釈の探し方、論文の読み方 第5回 グループ分け 第6回 判例1と判例2の概要 第7回 判例3と判例4の概要 第8回 情報検索の方法（図書館データベースの使い方、文献の探し方の確認） 第9回 租税法の基礎の続き（テキスト28章） 第10回 租税法の基礎の続き（テキスト29章） 第11回 中間発表（判例1） 第12回 中間発表（判例2） 第13回 中間発表（判例3） 第14回 中間発表（判例4） 第15回 まとめ</p>
テキスト	特になし
参考書	<p>三木義一編著『よくわかる税法入門（第16版）』（有斐閣、2022年） 租税判例百選〔第7版〕（有斐閣、2021年） 金子宏『租税法（第24版）』（弘文堂、2021年） その他、適宜紹介します。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	発表されたテーマについて、質疑応答を行う。 1つのテーマについて、グループで議論を行ったり提案を行ったりする。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミの前後やオフィスアワーで直接受け付けるほか、メール等においても対応します。
フィードバックの方法	受講生全体に有益な内容であれば、次回ゼミの時間でフィードバックを行います。 個別にメールで対応することもあります。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>毎回、予習および復習で概ね4時間程度の自己学習を想定しています。 自己学習にあたって、報告者は自身の報告の準備を行うだけでなく、想定される質問に備えて準備をしてください。報告者以外の学生は、事前に配布されるレジュメや資料に目を通し、当日の質疑応答において活発に議論できるように準備してください。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 8.働きがいも経済成長も</p>
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>2.協同力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力</p>

開講科目名 Course	エデュケア入門
時間割コード Course Code	50000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	30A講義室, 31B講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	家接 哲次(教育保育学科)、関谷 みのぶ(教育保育学科)、楯 誠(教育保育学科)、多川 則子(教育保育学科)、飯田 幸恵(教育保育学科)、田中 秀佳(教育保育学科)、秋田 郁(教育保育学科)、日比野 博(教育保育学科)、塚本 敏浩(教育保育学科)、長江 美津子(教育保育学科)、加藤 昇(教育保育学科)、前原 宏一(教育保育学科)、小島 千枝(教育保育学科)、東岡 博(教育保育学科)、早川 健太郎(教育保育学科)
授業の目標	潜在的な能力を引き出すこと(エデュース)と、それを妨げるさまざまな要因をとりのぞくこと(ケア)を統一した「教育福祉」(エデュケア)の視点を習得する。
授業の概要	教育保育学科全教員が、各々の専門分野の視点から「教育福祉(エデュケア)」に関する問題について着目し、講義・演習を通して、受講生が主体的に考え、討議する機会を設ける。 なお、授業時の持ち物、準備物等については各回の授業計画を参考にすること。また、適宜、担当回、内容変更等の連絡をすることがある。 質問への対応は随時担当者が行う。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	授業の参加姿勢(50%)および、各回の授業時における課題・レポート等(50%)により総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回の授業のうち6回以上欠席した場合、失格とする。

授業計画

第1回：4月12日(水)【塚本・飯田】：「オリエンテーション(授業と評価の方法)」「教育・保育思想」について

第2回：4月19日(水)【田中】：教育学入門：身近な問題から教育を考える

- ・なぜ教育学を学ばねばならないのか
- ・教育学とはどのような学問か
- ・教育の専門家、福祉の専門家としての教師・保育士という仕事
- ・君たちは大学生としてどう生きるか

第3回：4月26日(水)【小島】：「言葉の獲得と発達」について

乳幼児の言葉の獲得や発達には、周りの大人の愛情や環境が深くかかわっていることを学ぶ中で、教育と保育について考える。

1. 発語まで
2. 指さしと三項関係
3. 内言と外言

第4回：5月10日(水)【楯】：「特別な支援を必要とする子どもの教育・保育」についてその基本となる事柄を講義する。

1. 特別な支援を必要とする子どもとは
2. 障害の捉え方
3. インクルージョンという考え方など

第5回：5月17日(水)【秋田】：「子どもの表現活動における音楽のあり方」について、理論と実践についての講義を行う。

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領、学習指導要領(音楽科)を持参のこと。

6回：5月24日(水)【日比野】：幼児期の保育内容と小学校の「生活科」及び「理科」の学習内容の連続性について講義をする。

1. 幼児期保育内容と小学校の「生活科」及び「理科」の学習内容の相違点から連続性について考える。
2. 幼児期と小学校「生活科」及び「理科」の見方・考え方について理解する。
3. 理科的な見方・考え方を動画と理科実験を通して考える。

第7回：5月31日(水)【前原】：子どもたちの心と体の健やかな成長を育むための「家庭・学校・地域」の連携の在り方と現状の課題について探り合う。

第8回：6月7日(水)【家接】：「自己理解のための心理学」

まず、心理テストを通して自己理解を深めます。その後、心の健康について解説します。

第9回：6月14日(水)【関谷】：「子どもの貧困」について

1. 子どもの貧困の実態
2. 貧困化の理由
3. 貧困がもたらす多様な問題

を中心に講義する。同時に、保育・教育の役割について考える。

第10回：6月21日(水)【長江】：「保育」とは

1. 「養護と教育が一体的に展開する保育」について理解する
2. 「子ども主体の保育と教育」の重要性を理解する。
3. 映像をとおして、養護と教育が一体的に展開する保育者の援助や関わり方を理解する。

第11回：6月28日(水)【加藤】：「子どもの権利条約」と主権者教育

ア. 「子どもの権利条約」の発効と意義、歴史
イ. 「子どもの権利条約」の日本の現状(学校現場の実態、貧困など)
ウ. 「国語」(5年生)における意見表明の授業実践
エ. 意見表明が政治や社会に果たす役割

第12回：7月5日(水)【東岡】

：小学校教育現場における教育福祉について

第13回：7月12日(水)【塚本】：「造形活動における指導や援助」

以下の事例を挙げ、実践を通して講義する。

1. 幼児の表現形式獲得のための手立て
2. 適切な援助をするための造形原理の理解
3. 保育者が幼児の造形表現を理解すること)

	<p>第14回：7月19日(水)【 】：「運動教材とエデュケア」 子どもの発達課題にもとづいた授業づくりの基本的な視点を獲得することを目指して、次の内容について学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動教材と子どもの発育発達 2. 子どもの実態に合わせた運動教材の工夫 3. 自主性・主体性を大事にした体育の授業づくり <p>第15回：7月26日(水)【多川】： 1. エデュケアの実践 ・保育(Early Childhood Care and Education)の基盤となる「愛着」と、その後の人間形成・関係形成について ・子どもの発達、成長、学びの連続性・循環性について 2. 人間生活科学部教育保育学科の教育目標について</p>
テキスト	特になし
参考書	各担当教員作成のレジюме・資料等を適宜使用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問には随時対応する。
フィードバックの方法	授業、メール等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必要に応じて事前事後学習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11~17)	<ol style="list-style-type: none"> 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	発達心理学II(1組)
時間割コード Course Code	50012
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	楯 誠
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	13D講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	楯 誠 (教育保育学科)
授業の目標	<p>保育を実践するにあたり、その対象となる乳幼児の発達や学習を理解することは不可欠である。乳幼児の理解は対象となる子どもの行動の観察・記録から始まり、その内面の推測と心理学的な知見との対応を通して深まっていく。本授業では、乳幼児理解の意義や方法について解説する。また乳幼児の具体的なつまずきの事例を通して、その発達と学習をとらえる視点の獲得を目指す。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の子どものおもちゃのさまざまな領域の発達、行動特徴が分かる。 ・各領域の発達の関連性が分かる。 ・発達の評価の仕方が分かる。 <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外実習等で観察する子どもの行動特徴と、学習内容を関連付けようとする態度が身につく。
授業の概要	<p>この授業では、乳幼児理解の方法として代表的な観察・記録の仕方（エピソード記録やポートフォリオ、発達のチェックリストも含む）を紹介・説明を行う。また、愛着関係、運動と生活習慣、認知と言語、自己と仲間関係の発達とそのつまずきに関する事例を示して、乳幼児の姿と心理学的知見をすり合わせる学習を行う。加えて、乳幼児の発達や学習に大きく関与する保護者に関する基礎的な情報を解説する。</p> <p>授業は、基本的に板書によって行い、プリント配布等で補足する。</p> <p>授業内容の質問については、随時受け付ける。</p> <p>この授業は対面形式で行われるが、新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、一部遠隔授業形式になる可能性がある。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>評価方法</p> <p>期末試験（持ち込み不可）を実施する（100%）。状況によっては、レポートを課すこともある。出席は期末試験受験資格の有無の判断に使用する。</p> <p>20分以上の遅刻は原則、欠席と見なす（遅刻者は20分以内に申し出ること）。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>私語や大きな音を立てての途中退室は授業妨害と見なす。複数回の警告を受けた者は、失格とする。</p> <p>欠席が6回以上の者は原則失格とする。</p>
授業計画	「詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。」
テキスト	設定しない。
参考書	授業内で適宜紹介する。

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内容の質問に関しては、主に授業後に対応するが、別の時間でも受け付ける。
フィードバックの方法	期末試験の得点や誤答箇所のフィードバックは、希望者に個別にて行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	「詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。」
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 保育実践における乳幼児理解の意義	キーワード 発達段階と発達課題、発達の原理 講義内容について、2時間の復習を課す。	
2	乳幼児理解のための基本姿勢 安全基地としての保育者、環境としての保育者	キーワード 安全基地 (SecureBase)、環境との相互作用、応答的環境 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
3	乳幼児理解のための方法(1) 記録を取る意義、一般的な記録とエピソード記録	キーワード PDCAサイクル 反省的实践省察 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
4	乳幼児理解のための方法(2) ポートフォリオ、発達のチェックリスト	キーワード ポートフォリオとドキュメンテーション 発達検査 スクリーニング検査 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
5	乳幼児の発達(1) (愛着関係の発達)	キーワード: 愛着、内的作業モデル、社会的参照、共同注視 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
6	乳幼児の発達(2) (愛着関係の発達におけるつまずき)	キーワード: 愛着の個人差、愛着障害、児童虐待 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
7	乳幼児の発達(3) (運動と生活習慣の発達)	キーワード: 運動発達のマイルストーン、粗大運動と微細運動、基本的な生活習慣 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
8	乳幼児の発達(4) (運動と生活習慣の発達におけるつまずき)	キーワード: トイレトレーニング、偏食、就寝時間の遅れ これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
9	乳幼児の発達(5) (認知と言語の発達)	キーワード: ピアジェの認知発達理論、内言と外言、言語の行動調整機能 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
10	乳幼児の発達(6) (認知と言語の発達におけるつまずき)	キーワード: ワーキングメモリ、実行機能、知的能力障害 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
11	乳幼児の発達(7) (自己と仲間関係の発達)	キーワード:自己意識、自己制御、共感性、心の理論 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。 また授業内容について、1時間の復習を課す。	
12	乳幼児の発達(8) (自己と仲間関係の発達におけるつまづき)	キーワード:社会的スキル(訓練)、自閉症スペクトラム これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。 また授業内容について、1時間の復習を課す。	
13	保護者の心理と支援(1) (子育て環境の現状)	キーワード 大阪レポートと兵庫レポート NICHHDレポート これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。 また授業内容について、1時間の復習を課す。	
14	保護者の心理と支援(2) (家庭への働きかけの基本的な視点)	キーワード 育児ストレス ソーシャルサポート カウンセリング これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。 また授業内容について、1時間の復習を課す。	
15	子どもと保育を取り巻く現代的な課題 (少子化、ICT化、小学校との接続の問題)	キーワード 少子化 教育保育におけるICT活用のメリットと課題 小1プロブレム これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。 また授業内容について、1時間の復習を課す。	

開講科目名 Course	発達心理学II(2組)
時間割コード Course Code	50013
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	楯 誠
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	楯 誠 (教育保育学科)
授業の目標	<p>保育を実践するにあたり、その対象となる乳幼児の発達や学習を理解することは不可欠である。乳幼児の理解は対象となる子どもの行動の観察・記録から始まり、その内面の推測と心理学的な知見との対応を通して深まっていく。本授業では、乳幼児理解の意義や方法について解説する。また乳幼児の具体的なつまずきの事例を通して、その発達と学習をとらえる視点の獲得を目指す。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の子どものさまざまな領域の発達、行動特徴が分かる。 ・各領域の発達の関連性が分かる。 ・発達の評価の仕方が分かる。 <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外実習等で観察する子どもの行動特徴と、学習内容を関連付けようとする態度が身につく。
授業の概要	<p>この授業では、乳幼児理解の方法として代表的な観察・記録の仕方（エピソード記録やポートフォリオ、発達のチェックリストも含む）を紹介・説明を行う。また、愛着関係、運動と生活習慣、認知と言語、自己と仲間関係の発達とそのつまずきに関する事例を示して、乳幼児の姿と心理学的知見をすり合わせる学習を行う。加えて、乳幼児の発達や学習に大きく関与する保護者に関する基礎的な情報を解説する。</p> <p>授業は、基本的に板書によって行い、プリント配布等で補足する。</p> <p>授業内容の質問については、随時受け付ける。</p> <p>この授業は対面形式で行われるが、新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、一部遠隔授業形式になる可能性がある。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>評価方法</p> <p>期末試験（持ち込み不可）を実施する（100%）。状況によっては、レポートを課すこともある。出席は期末試験受験資格の有無の判断に使用する。</p> <p>20分以上の遅刻は原則、欠席と見なす（遅刻者は20分以内に申し出ること）。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>私語や大きな音を立てての途中退室は授業妨害と見なす。複数回の警告を受けた者は、失格とする。</p> <p>欠席が6回以上の者は原則失格とする。</p>
授業計画	「詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。」
テキスト	設定しない。
参考書	授業内で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内容の質問に関しては、主に授業後に対応するが、別の時間でも受け付ける。
フィードバックの方法	期末試験の得点や誤答箇所のフィードバックは、希望者に個別にて行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	「詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。」
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 保育実践における乳幼児理解の意義	キーワード 発達段階と発達課題、発達の原理 講義内容について、2時間の復習を課す。	
2	乳幼児理解のための基本姿勢 安全基地としての保育者、環境としての保育者	キーワード 安全基地 (SecureBase)、環境との相互作用、応答的環境 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
3	乳幼児理解のための方法(1) 記録を取る意義、一般的な記録とエピソード記録	キーワード PDCAサイクル 反省的实践省察 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
4	乳幼児理解のための方法(2) ポートフォリオ、発達のチェックリスト	キーワード ポートフォリオとドキュメンテーション 発達検査 スクリーニング検査 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
5	乳幼児の発達(1) (愛着関係の発達)	キーワード: 愛着、内的作業モデル、社会的参照、共同注視 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
6	乳幼児の発達(2) (愛着関係の発達におけるつまずき)	キーワード: 愛着の個人差、愛着障害、児童虐待 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
7	乳幼児の発達(3) (運動と生活習慣の発達)	キーワード: 運動発達のマイルストーン、粗大運動と微細運動、基本的な生活習慣 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
8	乳幼児の発達(4) (運動と生活習慣の発達におけるつまずき)	キーワード: トイレトレーニング、偏食、就寝時間の遅れ これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
9	乳幼児の発達(5) (認知と言語の発達)	キーワード: ピアジェの認知発達理論、内言と外言、言語の行動調整機能 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	
10	乳幼児の発達(6) (認知と言語の発達におけるつまずき)	キーワード: ワーキングメモリ、実行機能、知的能力障害 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。また授業内容について、1時間の復習を課す。	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
11	乳幼児の発達(7) (自己と仲間関係の発達)	キーワード:自己意識、自己制御、共感性、心の理論 これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。 また授業内容について、1時間の復習を課す。	
12	乳幼児の発達(8) (自己と仲間関係の発達におけるつまづき)	キーワード:社会的スキル(訓練)、自閉症スペクトラム これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。 また授業内容について、1時間の復習を課す。	
13	保護者の心理と支援(1) (子育て環境の現状)	キーワード 大阪レポートと兵庫レポート NICHHDレポート これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。 また授業内容について、1時間の復習を課す。	
14	保護者の心理と支援(2) (家庭への働きかけの基本的な視点)	キーワード 育児ストレス ソーシャルサポート カウンセリング これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。 また授業内容について、1時間の復習を課す。	
15	子どもと保育を取り巻く現代的な課題 (少子化、ICT化、小学校との接続の問題)	キーワード 少子化 教育保育におけるICT活用のメリットと課題 小1プロブレム これらのキーワードについて、文献・web上の資料を参考に1時間の予習を課す。 また授業内容について、1時間の復習を課す。	

開講科目名 Course	発達心理学 I
時間割コード Course Code	50041
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	多川 則子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	多川 則子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>教育目標 発達とは子どもが大人になることだけを意味するものではなく、生まれてから死ぬまでの一生の間に起こる様々な変化を指します。その中でも乳幼児期は最も変化の大きな時期と言えます。 この授業では、子どもたちの発達や変化が、いつ頃？何が？どのように？起こるのかについて学びます。そして、重要なのは、子どもたちの発達に人との情緒的な交流が必要不可欠であることへの理解を深めることです。さらに、児童期以降の発達についても基本的な事項を理解します。これらの学びや理解と共に、生涯発達の視点を踏まえた子どもに対する支援の在り方について考えることを目指します。</p> <p>学習成果 知識・理解の領域 ・乳幼児期の発達に関する心理学的な知識を習得する。 ・児童期以降の発達に関する基本的な知識を習得する。 ・情緒的な交流を通して発達するとはどういうことかを説明できる。 ・講義内容を整理しまとめる力、疑問点を見出す力がつく。 技能の領域 ・発達心理学の基礎的な知見を、実際の子どもの姿に当てはめて考えられる。 態度・志向性の領域 ・子どもの発達に寄与する援助の在り方について、自分の考えを表明できる。</p>
授業の概要	<p>1. 基本的に講義形式で行う。適宜、グループワーク、発表など行う。 2. 一部、反転授業で実施する。 この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業への取り組みの姿勢(2割)、小テストや課題(2割)、期末試験(持ち込み不可の筆記試験)(6割)により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数が3分の1を超えた場合は失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	『新・育ちあう乳幼児心理学：保育実践とともに未来へ』心理科学研究会編 有斐閣 2019年

参考書	『0歳~6歳 子どもの発達と保育の本 第2版 (Gakken保育Books)』 河原 紀子 (監修) 学研プラス 2018年 『続・発達がわかれば子どもが見える 保育のプロが教える妊娠から4歳までの子育て術』 乳幼児保育研究会 ぎょうせい 2013年 『保育のための心理学ワークブック』 小平英志・田倉さやか(編) ナカニシヤ出版 加藤繁美 (監修) 子どもとつくる保育・年齢別シリーズ ひとなる書房『子どもとつくる0歳児保育 心も体も気持ちいい』 2011年他 『新 保育実践を支える 保育の心理学 』成田他編著 福村出版 2018年 『学びを支える保育環境づくり~幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成~』 高山静子著 小学館 2017年 『おさなごころを科学する: 進化する幼児観』 森口 佑介 新曜社 2014年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ単位のディスカッションを入れる場合がある。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応 メール対応: tagawa@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	小テストや課題などは、後日の授業内にて振り返りを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・予習として、教科書の該当の章やシラバスにあげた参考書を読む(各回1時間程)。 ・復習として、授業内容に関連する書籍やシラバスにあげた参考書を読んでまとめる(各回2~3時間程)。 ・反転授業の課題を実施する(2時間程)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	子どもの発達を見る視点	
2	0歳児(1)	子どもの姿 感覚器官の発達 原始反射 運動機能の発達	
3	0歳児(2)	前言語的コミュニケーション 0歳児の人との関わり(自我の発達)	
4	1,2歳児(1)	子どもの姿 身体運動・手指操作の発達	
5	1,2歳児(2)	1歳児の認知とコミュニケーション(表象能力の芽生え、初語)	
6	1,2歳児(3)	2歳児の認知とコミュニケーション(表象機能の発達) 対人関係と自我の発達	
7	アタッチメント:情緒的絆	アタッチメントの学術的意味 アタッチメントの個人差 安心感の輪	
8	3,4歳児(1)	子どもの姿 身体運動・手指操作の発達	
9	3,4歳児(2)	3,4歳児の認知とコミュニケーション(感覚運動期・前操作期)	
10	5歳児(1)	子どもの姿 身体運動・手指操作の発達	
11	5歳児(2)	5歳児の認知とコミュニケーション(具体的操作期) 小学校への移行期	
12	児童期の発達	児童期の認知とコミュニケーション(形式的操作期) 社会性の発達	
13	青年期(思春期)の発達	第二次性徴と不安 アイデンティティ	
14	成人期・老年期の発達	夫婦関係の成立と子育て 中年期の危機と課題 老化と課題	
15	子育てを取り巻く問題		

開講科目名 Course	教育の方法・技術（幼・小）
時間割コード Course Code	50050
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 5
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 達也
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 達也 (教育保育学科)
授業の目標	不確実な時代に生きる子供たちに求められる教育技術の目的や方法を学び、教育の基礎・基本及び発展・応用できる力を身につける。 【知識・理解】教育者としての指導方法や技術を身につける。 【技能】 学習指導計画を自ら立てることができる。新しい教材・教具を利用したり、自ら作成したりすることができる。 【態度・志向性】新しい時代や社会が求める斬新かつ発展的な教育方法について調べることができる。
授業の概要	授業実践のための事実認識や知識の伝達方法を学ぶだけでなく子供たちが日々の授業の中で「知ること・できるようになる」ことの喜びを獲得するために公正・中立的な評価方法についても学ぶ。
評価方法	平常点30% (実習中の態度・ワークシートの内容を含む) レポート70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業に80%以上出席していない場合。

授業計画	<p>1 授業づくりの基礎理論 概要 わかる授業と楽しい授業・授業を構成する要素</p> <p>2 各領域における授業づくり 概要 教科による授業づくりの特徴</p> <p>3 各領域における授業づくり 概要 道徳・総合的な時間の変遷とこれから</p> <p>4 授業のデザイン 概要 授業によってどんな子どもを育てたいか、その全体像と目標</p> <p>5 授業のデザイン 概要 学習指導案の内容と形式</p> <p>6 学習指導案の作成 実習 概要 授業をシミュレーションして、学習指導案の作成を行う。</p> <p>7 学習指導案の作成と検討 グループワークとプレゼンテーション 概要 個々が作成した学習指導案についてグループでプレゼンし自分の作成した指導案を客観的に検討し 各グループ別にプレゼンを行い振り返りまとめを行う。</p> <p>8 新しい学びのスタイルとは 課題解決学習・アクティブラーニングなど 概要 知識の貯蓄量から実践力を身につけるための学びを理解する。</p> <p>9 教育メディアの活用 概要 新聞・図書・DVD・コンピュータの活用について理解し情報リテラシーについて考える。</p> <p>10 新しい教育メディアの活用と注意点 概要 ICTの活用によるメリットとデメリットを正しく理解し、これからの活用方法について考える。</p> <p>11 学びを生かすための評価のあり方 概要 教育評価の機能 診断的評価 形成的評価 総括的評価の特徴</p> <p>12 学びを生かすための評価のあり方 概要 京大大学院の作成パフォーマンス評価とルーブリックについての説明をネット視聴し、その内容 と特色を理解する。視聴およびグループディスカッション</p> <p>13 パフォーマンス課題とルーブリックの作成 実習 概要 個々にシミュレーション課題を考えて、独自にルーブリックを作成する。</p> <p>14 個々に制作したパフォーマンス課題とルーブリックの検討(モデレーションの実施) 概要 個々に作成した評価基準の妥当性と信頼性の両方をグループ内で検討する。</p> <p>15 めざす教師像と求められる教師像 概要 学習内容の総括として、自分のめざす教師とは、これからの社会で求められる教師とはについて、 自分の考えを発表し他の人の考えを聞くことで理想の教師像とは何かを常に問い続けることが必要であることを理解させる。</p>
テキスト	ワークシート・印刷物
参考書	講義時間内に随時紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>学習指導案作成実習</p> <p>パフォーマンス課題とルーブリック(評価基準表)の作成</p> <p>作成したルーブリックを5人程度のグループで検討(モデレーション)しより公正・中立的な評価基準表を作成する。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各授業時間の後半に感想・質問ペーパーを記入する時間を設定し提出する。
フィードバックの方法	ワークシート・感想・質問ペーパーの提出により状況を把握する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>毎授業に配布されるワークシートをファイリングしておき、授業や実習に活用できるようにしておくこと。</p> <p>30分～60分程度</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	<p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p> <p>4.構想力</p>

PROGコンピテンシーの要素

- 2. 協同力
- 7. 課題発見力
- 8. 計画立案力

開講科目名 Course	教育の方法・技術 / Teaching Methods and Techniques
時間割コード Course Code	50055
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 5
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	伊藤 達也
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 達也 (教育保育学科)
授業の目標	不確実の時代に生きる子供たちに求められる教育技術の目的や方法を学び、教育の基礎・基本及び発展・応用できる力を身につける。 【知識・理解】教育者としての指導方法や技術を身につける。 【技能】 学習指導計画を自ら立てることができる。新しい教材・教具を利用したり、自ら作成した りすることができる。 【態度・志向性】新しい時代や社会が求める斬新かつ発展的な教育方法について調べることができる。
授業の概要	授業実践のための事実認識や知識の伝達方法だけでなく子供たちが日々の授業の中で「知ること・できるようになる」ことの喜びを獲得するために公正・中立的な評価方法についても学ぶ。
評価方法	平常点30% (実習中の態度・ワークシートの内容を含む) レポート70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業に80%以上出席していない場合。

授業計画	<p>1 授業づくりの基礎理論 概要 わかる授業と楽しい授業・授業を構成する要素</p> <p>2 各領域における授業づくり 概要 教科による授業づくりの特徴</p> <p>3 各領域における授業づくり 概要 道徳・総合的な時間の変遷とこれから</p> <p>4 授業のデザイン 概要 授業によってどんな子どもを育てたいか、その全体像と目標</p> <p>5 授業のデザイン 概要 学習指導案の内容と形式</p> <p>6 学習指導案の作成 実習 概要 授業をシミュレーションして、学習指導案の作成を行う。</p> <p>7 学習指導案の作成と検討 グループワークとプレゼンテーション 概要 個々が作成した学習指導案についてグループでプレゼンし自分の作成した指導案を客観的に検討し各グループ別にプレゼンを行い振り返りまとめを行う。</p> <p>8 新しい学びのスタイルとは 課題解決学習・アクティブラーニングなど 概要 知識の貯蓄量から実践力を身につけるための学びを理解する。</p> <p>9 教育メディアの活用 概要 新聞・図書・DVD・コンピュータの活用について理解し情報リテラシーについて考える。</p> <p>10 新しい教育メディアの活用と注意点 概要 ICTの活用によるメリットとデメリットを正しく理解し、これからの活用方法について考える。</p> <p>11 学びを生かすための評価のあり方 概要 教育評価の機能 診断的評価 形成的評価 総括的評価の特徴</p> <p>12 学びを生かすための評価のあり方 概要 京大大学院の作成パフォーマンス評価とルーブリックについての説明をネット視聴し、その内容と特色を理解する。視聴およびグループディスカッション</p> <p>13 パフォーマンス課題とルーブリックの作成 実習 概要 個々にシミュレーション課題を考えて、独自にルーブリックを作成する。</p> <p>14 個々に制作したパフォーマンス課題とルーブリックの検討(モデレーションの実施) 概要 個々に作成した評価基準の妥当性と信頼性の両方をグループ内で検討する。</p> <p>15 めざす教師像と求められる教師像 概要 学習内容の総括として、自分のめざす教師とは、これからの社会で求められる教師とはについて、自分の考えを発表し他の人の考えを聞くことで理想の教師像とは何かを常に問い続けることが必要であることを理解させる。</p>
テキスト	ワークシート・印刷物
参考書	講義時間内に随時紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>指導計画作成実習</p> <p>パフォーマンス課題とルーブリック(評価基準表)の作成実習</p> <p>各自の作成した評価基準表を5人程度のグループで内容を検討(モデレーション)しより公正・中立な評価基準表を作成する。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各時間最後に今回の授業の感想・質問を書く時間を設ける。感想・質問ペーパーは毎時間提出する。
フィードバックの方法	ワークシート・感想・質問ペーパーの提出により把握する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受け身の姿勢でなく、いつも自分の意見や考えが口頭や筆記で表現できるようにする。毎時間のワークシートをファイリングしておき、授業や実習に活用できるようにしておくこと。(30分~60分程度)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 7. 課題発見力 8. 計画立案力

開講科目名 Course	道徳の理論と指導法（小）
時間割コード Course Code	50057
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	水野 達彦
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水野 達彦 (教育保育学科)
授業の目標	道徳教育の歴史や普遍的な理念を踏まえるとともに、教科化を受け、今日的な課題について、多面的にとらえられるようにする。また、児童生徒の道徳性の発達と道徳教育の授業理論をもとにした、学習指導案の作成と模擬授業の実践を通して、教育現場における道徳科の指導の在り方を体感的に学ばせる。
授業の概要	道徳教育の推進に必要な不可欠な知識、教養については、講義形式でわかりやすく教授する。その上で、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、身につけた知識や教養を、具体的実践につなげる汎用的能力の育成を図る。その際、グループディスカッションや模擬授業を取り入れるとともに、自己評価・他者評価を重視する。さらに、「道徳教育に関する課題意識と解決方法について、学修前（第2時）と学修後（第15時）の自らの変容を確認することにより、メタ認知の有効性を体感させる。
評価方法	出席状況・授業への取り組み状況（見とり及びふり返りカードの記載内容）30%、課題小レポート（2回課す）30%、最終筆記試験40%を、総合的に判断し評価する。特に、演習や模擬授業に対する積極性と取り組みの妥当性に重きを置く。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 道徳とは・道徳教育とは（AL 私の受けてきた道徳教育） 2 道徳教育に関する課題意識と解決方法（AL いじめ問題をどう取り上げるか） 3 道徳教育の歴史（AL いのちの教育の進め方） 4 子ども心の成長と道徳性の発達（AL 情報モラルをどう学ばせるか） 5 道徳科の目標と指導計画（AL 「問題解決型」の授業とは） 6 道徳教育の授業理論（AL 「モラルジレンマ」の授業とは） 7 「考え、議論する道徳」とは（AL 授業ビデオの視聴） 8 教材の収集と開発（AL 授業ビデオの分析） 9 多様な考えを表出させる発問の工夫（AL 発問を考える） 10 道徳科の評価（AL 発問を吟味する） 11 読み物教材を用いた授業の在り方（AL 指導案の作成） 12 視聴覚教材を用いた授業の在り方（AL 指導案の検討） 13 授業実践例（低学年）の分析（AL 模擬授業） 14 授業実践例（高学年）の分析（AL 模擬授業） 15 道徳教育に関する課題意識と解決方法の見直し（AL 学びのふり返り） 定期試験
テキスト	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別の教科 道徳編」（文部科学省） 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別の教科 道徳編」（文部科学省）
参考書	なし。必要なものは授業者が用意する。

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業計画にALで記載した内容（毎回実施）
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	毎時間、授業の終了前に受け付ける。また、メールでの質問にも答える。
フィードバックの方法	毎回実施する「学びのふり返しカード」及び課題小レポートには、必ず朱筆を入れ、フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト及び授業者が配布した参考書や資料を読み込み、毎回の授業の予習を行わせる。（15時間） ・毎回の授業について復習を義務づけるとともに、毎回次の授業に関わる課題を提示し、それに答えるよう にさせる。（合計30時間） ・教材の読み込み・発問の吟味等、指導案の作成準備（10時間） ・模擬授業の準備（5時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	教育の方法と技術 / Teaching Methods and Techniques
時間割コード Course Code	50060
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	伊藤 達也
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 達也 (教育保育学科)
授業の目標	不確実の時代に生きる子供たちに求められる授業技術の目的や方法を学び、教育の基礎・基本及び発展・応用できる力を身につける。 【知識・理解】教育者としての指導方法や技術を身につける。 【技能】 学習指導計画を自ら立てることができる。新しい教材・教具を利用したり、自ら作成したりすることができる。 【態度・志向性】新しい時代や社会が求める斬新かつ発展的な教育方法について調べることができる。
授業の概要	授業実践のための事実認識や知識の伝達方法を学ぶだけでなく子供たちが日々の授業の中で「知ること・できるようになる」ことの喜びを獲得するために公正・中立的な評価方法についても学ぶ。
評価方法	平常点30% (実習中の態度・ワークシートの内容を含む) レポート70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業に80%以上出席していない場合。

授業計画	<p>1 授業づくりの基礎理論 概要 わかる授業と楽しい授業・授業を構成する要素</p> <p>2 各領域における授業づくり 概要 教科による授業づくりの特徴</p> <p>3 各領域における授業づくり 概要 道徳・総合的な時間の変遷とこれから</p> <p>4 授業のデザイン 概要 授業によってどんな子どもを育てたいか、その全体像と目標</p> <p>5 授業のデザイン 概要 学習指導案の内容と形式</p> <p>6 学習指導案の作成 実習 概要 授業をシミュレーションして、学習指導案の作成を行う。</p> <p>7 学習指導案の作成と検討 グループワークとプレゼンテーション 概要 個々が作成した学習指導案についてグループでプレゼンし自分の作成した指導案を客観的に検討 し各グループ別にプレゼンを行い振り返りまとめを行う。</p> <p>8 新しい学びのスタイルとは 課題解決学習・アクティブラーニングなど 概要 知識の貯蓄量から実践力を身につけるための学びを理解する。</p> <p>9 学習意欲を高める教授方法 概要 教師の助言・深い思考を促す発問方法・机間指導・非言語的コミュニケーション</p> <p>10 教材の開発と授業構想 概要 教材教具 教材開発 教科書 教室デザイン</p> <p>11 学びを生かすための評価のあり方 概要 教育評価の機能 診断的評価 形成的評価 総括的評価の特徴</p> <p>12 学びを生かすための評価のあり方 概要 京大大学院の作成パフォーマンス評価とルーブリックについての説明をネット視聴し、その内容と 特色を理解する。 視聴およびグループディスカッション</p> <p>13 パフォーマンス課題とルーブリックの作成 実習 概要 個々にシミュレーション課題を考えて、独自にルーブリックを作成する。</p> <p>14 個々に制作したパフォーマンス課題とルーブリックの検討(モデレーションの実施) 概要 個々に作成した評価基準の妥当性と信頼性の両方をグループ内で検討する。</p> <p>15 めざす教師像と求められる教師像 概要 学習内容の総括として、自分のめざす教師とは、これからの社会で求められる教師とはについて、自分の考えを発表し他の人の考えを聞くことで理想の教師像とは何かを常に問い続けることが必要であることを理解させる。</p>
テキスト	ワークシート・印刷物
参考書	講義時間内に随時紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>指導計画作成実習</p> <p>パフォーマンス課題とルーブリック(評価基準表)の作成実習</p> <p>各自の作成した評価基準表を5人程度のグループで内容を検討(モデレーション)しより公正・中立な評価基準表の作成。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各時間の後半に感想・質問ペーパーを記入する時間を設定し提出をする。
フィードバックの方法	ワークシート・感想・質問ペーパーの提出により状況を把握する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>受け身の姿勢ではなく、いつも自分の意見や考えが口頭や筆記で表現できるようにする。</p> <p>毎時間のワークシートをファイリングしておき、授業や実習に活用できるようにしておくこと。</p> <p>30分～60分程度</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	<p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p> <p>4.構想力</p>

PROGコンピテンシーの要素

- 2. 協同力
- 7. 課題発見力
- 8. 計画立案力

開講科目名 Course	教育原理（幼・小）/Principles of Education
時間割コード Course Code	50081
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	飯田 幸恵
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 幸恵 (教育保育学科)
授業の目標	<p>教育の理念・歴史・思想等についての知識を身につけるとともに、教育の意義・内容・方法について考え、実際に指導に生かしていく力を身につける。</p> <p>知識・理解の領域 教育の理念・歴史・思想等についての知識を身につける。</p> <p>技能の領域 教育の内容・方法について理解を深め、実際に指導に生かしていく力を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 教育の意義・教育の現状と課題などについて考えることができるようにする。</p>
授業の概要	教育の理念・歴史・思想等に関する知識について学び、教育の内容・方法について理解を深め、教育の現状と課題について考える。
評価方法	各回の課題提出・課題評価、授業への取り組みなど、総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、失格となる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要・課題説明 2. 教育の理念・目的と意義 3. 子ども観の変遷 4. 西洋教育史・教育思想 古代・中世 5. 西洋教育史・教育思想 近世・近代 6. 西洋教育史・教育思想 現代 7. 日本教育史・教育思想 古代・中世 8. 日本教育史・教育思想 近世・近代 9. 日本教育史・教育思想 現代 10. 子どもの権利と教育 11. 教育の内容・方法 12. 教育課程 13. 教育の制度と法 14. 教育の現状と課題 15. まとめ
テキスト	なし
参考書	適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後に対応する。
フィードバックの方法	次回の授業時にフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回授業の予習・復習を行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	地域福祉概論 / Studies of Community Welfare
時間割コード Course Code	50110
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ (教育保育学科)
授業の目標	地域福祉の歴史・理論の概要を学習して、特に地域における子育て支援の現状を理解する。
授業の概要	地域福祉は幅広い概念であることから、学生の身の回りでおこっている現実の生活課題をテーマとする。制度や方策、具体的な取り組み内容や担い手について、可能な限り、学生自身が生活している地域の現状調査をふまえながら考えていく。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。
評価方法	授業への参加姿勢50% 授業課題30% 期末レポート20%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：私たちの暮らしと地域福祉 第3回：地域福祉の源流 第4回：社会福祉協議会 制度と活動内容 第5回：地域課題の探究（調べ学習） 第6回：地域課題の探究（発表） 第7回：地域課題の探究（意見交流・振り返り） 第8回：ソーシャルワークとコミュニティソーシャルワーカー 第9回：ソーシャルワーカーの倫理綱領 第10回：地域づくりと主体形成 第11回：事例をとおして地域の課題を解決する（例えば、子育て支援に関わる事例） 第12回：事例をとおして地域の課題を解決する（例えば、防災に関わる事例） 第13回：よりよい地域づくりについて考える（調べる） 第14回：よりよい地域づくりについて考える（発表） 第15回：よりよい地域づくりについて考える（意見交流・振り返り）・まとめ
テキスト	特になし
参考書	授業で適宜紹介する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	調査、報告
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業やメール等、随時対応する
フィードバックの方法	授業内で課した課題についての評価に関する質問は随時対応する。期末テストの評価や誤答箇所に関する質問は、希望者に対して個別に対応する。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：各回の授業内容に関する事前学習を行って授業に臨むこと（各回45分程度、ただし、調査については、事前学習4時間程度） 復習：各回の授業後に出される振り返り課題（各回30分程度）、調査レポート作成（2時間程度）、課題レポート作成（1時間程度）、期末レポート作成（5時間程度）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	社会福祉
時間割コード Course Code	50141
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ (教育保育学科)
授業の目標	<p>・教育の目標 老若男女、健常者・障がいをもつ人問わず、全ての人が生活の主体者としてよりよく生きることがどのようなことかを考える。また、「福祉」について、学生各自が自ら考え続けるための多様な観点、柔軟な思考を身につける。その前提として、生活を支える制度の意義や理念、実施体制、などについて学ぶ。</p> <p>知識の領域 ・福祉の理念を理解し、現場での実践と関連づけることができる。 ・私たちの生活を支えるための社会サービスについて列挙し、具体的に説明できる。</p> <p>態度・習慣の領域 ・社会でおこっている事象について、生活者の一人として興味・関心を持つ。</p> <p>技能の領域 ・理解した内容を的確に表現する。 ・これからの福祉社会のあり方について、社会を構成する市民の一人として構想できる。</p>
授業の概要	<p>・社会福祉全般に関する基本的な理解のために、社会福祉の理念、歴史、制度・実施体系等について講義する。「福祉」とは何か、「社会福祉」とは何か、ということについて考えられることをねらいとするため、まず、社会福祉の理念について理解する。そして、現行のシステムについて、総論と、各対象別分野としての各論について理解するなかで、現代社会において求められる福祉サービスについて考える。また、実践の具体的なあり方や考え方について知る。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業中の課題（20％）と期末テスト（80％）により総合的に評価する。 1．生活を支える福祉制度・サービスに興味・関心を持てたかどうか。（興味・関心） 2．社会福祉の理念や制度について理解したかどうか。（知識の獲得）</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	事例検討、自ら課題を設定する調べ学習
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時だけでなく、メール等で随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で課した課題についての評価に関する質問は随時対応する。期末テストの評価や誤答箇所に関する質問は、希望者に対して個別に対応する。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> ・世の中の社会福祉にかかわるニュースなどについて、新聞やwebサイトなどに日常的に触れること。(毎日10分) ・事前学習(15分) ・レポート課題(6時間) ・期末テスト勉強につながる復習(復習1時間+テスト前およそ6時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	<ul style="list-style-type: none"> 11. 住み続けられるまちづくりを 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> 7. 課題発見力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	現代社会と社会福祉 社会福祉の理念・概念	ガイダンスと社会福祉の概念を中心とした総論	
2	現代社会と社会福祉 現代社会の生活問題と社会福祉の対象・ニーズ	社会福祉の対象者について	
3	社会福祉の歴史の変遷 社会福祉の歴史の変遷	日本と諸外国の社会福祉の歴史の変遷について	
4	社会福祉のしくみ 社会福祉の制度と法体系	社会福祉の制度と法体系について	
5	社会福祉のしくみ 社会福祉の主体・機関	社会福祉を構成する機関や主体について	
6	社会福祉のしくみ 社会福祉の専門職	社会福祉を担う専門職と専門職倫理について	
7	社会福祉における相談援助 相談援助の理論と意義	相談援助の理論と意義について	
8	社会福祉における相談援助 相談援助の対象と方法	相談援助の対象とプロセス、方法と技術について	
9	生活保障としての社会保障制度 社会保険の役割	社会保険の概要、年金保険制度について	
10	生活保障としての社会保障制度 社会保険の役割	医療保険、労災保険、雇用保険、介護保険について	
11	生活保障としての社会保障制度 公的扶助の役割	生活保護について	
12	利用者保護 情報提供と権利擁護	社会福祉における利用者の保護に関する仕組みについて	
13	社会福祉の動向と課題 子育て支援	少子高齢社会における子育て支援について	
14	社会福祉の動向と課題 共生社会	共生社会の実現と障害者施策について	
15	社会福祉の動向と課題・まとめ 地域福祉・まとめ	在宅福祉や地域福祉の推進について、今後の社会福祉のあり方について	

開講科目名 Course	子どもの健康と安全
時間割コード Course Code	50234
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	長谷川 明子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	長谷川 明子 (教育保育学科)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育保健的観点を踏まえた保育環境および援助について理解する。 2. 保育における健康および安全の管理について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良などに対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 子どもがよくかかる感染症の対策について、具体的に理解する。 5. 保育で必要な保健的対応の基本的な適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康および安全の管理の実施体制等について、具体的に理解する。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの罹りやすい代表的な病気や対応方法についてできるだけ具体的に提示する。 2) 疾病および対処方法を報道記事などをもとに解説する。 3) 時間内に、小テストを実施して講義の理解度を確認する。状況に応じて、小テストの結果は、評価の補足指標とする場合がある。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの健康と保育環境 (2) 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理 2. 保育における健康及び安全の管理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 衛生管理 (2) 事故防止及び安全対策 (3) 危機管理と災害への備え 3. 子どもの体調不良などに対する適切な対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) 体調不良や傷害が発生した場合の対応と応急処置 (2) 救急処置および肺蘇生法 4. 感染症の対策 <ol style="list-style-type: none"> (1) 感染症の集団発生の予防 (2) 感染症発生時と罹患後の対応 5. 保育で必要な保健的対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育における保健的対応の基本的な考え方 (2) 3歳未満児への対応 (3) 個別的な配慮を要する子どもへの対応 (4) 障害をもつ子どもへの対応 6. 健康および安全の管理の実施体制 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育における保健活動の計画および評価 (2) 保健における職員間の連携・協働と関係機関との連携 (3) 母子保健・地域保健における自治体との連携 (4) 家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携

評価方法	<p>1. 期末試験の結果と講義への取り組み（出席回数、授業態度等）をもって総合的に評価する。 なお、講義時間内に実施する小テストの結果により、加点する場合もある。</p> <p>2. 社会情勢等により、大学側が期末試験を実施しない（できない）場合は、講義への取り組み（出席回数、授業態度等）、小テストの結果で評価する。</p> <p>3. 小テスト及び期末試験の内容は以下の観点から出題する。</p> <p>1) 講義内容を正しく理解できる（理解）。</p> <p>2) 理解した講義内容を正確に表現できる（表現）。</p> <p>3) 子どもの保健に関する社会的事象についての意見表明ができる（分析・表現）。</p> <p>4) 子どもの症状や怪我に対する適切な処置方法が説明できる。（判断・応用・表現）。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>欠席回数（特別欠席を除く）が5回以上の場合 授業中に他人に迷惑をかける行為があったと教員が判断した場合</p>
授業計画	<p>対面授業で実施 授業計画表を参照</p> <p>講義時間内に小テスト（2～3回）実施予定</p> <p>講義中に自分の母子健康手帳を利用</p>
テキスト	<p>「子どもの健康と安全 演習ノート」 編著者 小林美由紀 発行所 診断と治療社</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ毎で課題を議論する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>随時対応 授業後に対応</p>
フィードバックの方法	小テストや授業時間に質問等を実施し、授業内容を理解の程度を確認して今後の授業内容に反映させる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎授業ごとに、授業計画詳細情報に記載されている内容をテキストで確認する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	子どもの健康と保育環境	< 対面授業 > ・子どもの健康を守るための保健的観点を踏まえた保育環境 ・子どもの保健・体調変化の際の個別対応の基本 ・健康診査 ・集団全体の健康および安全管理	
2	衛生管理 事故防止 安全対策	< 対面授業 > ・施設環境 ・屋内外の衛生管理 ・事故の特徴と事故防止の重要性 ・事故防止のための具体的方法と安全対策	
3	危機管理と災害への備え	< 対面授業 > ・保育における危機管理 ・保育における災害への備え ・安全教育	
4	体調不良や傷害が発生した場合の対応と応急処置	< 対面授業 > ・体調不良時の対応 ・傷害時の応急処置	
5	救急処置および心肺蘇生法	< 対面授業 > ・救急処置 ・子どもの心肺蘇生法	
6	子どもがよくかかる感染症	< 対面授業 > ・集団発生の予防 ・子どもがよくかかる感染症の症状と対応	
7	子どもがよくかかる感染症	< 対面授業 > ・子どもがよくかかる感染症の症状と対応 ・感染症の流行予防のための対策	
8	感染症発生時の罹患後の対応	< 対面授業 > ・出席停止期間の基準 ・感染症罹患後の対応 ・保護者および他職種	
9	保育における保健的対応の基本的な考え方	< 対面授業 > ・保育活動における保健的な視点 ・食事における保健的対応 ・排泄における保健的対応	
10	保育における保健的対応の基本的な考え方	< 対面授業 > ・睡眠時における保健的対応 ・外出時における保健的対応 ・保育行事における保健的対応	
11	3歳未満時への対応	< 対面授業 > ・乳児の抱き方 ・おんぶの仕 ・食事の与え方 ・口腔内の衛生	
12	3歳未満時への対応	< 対面授業 > ・衣服の着せ方 ・排泄のさせ方 ・保清・沐浴・入浴のさせ方 ・寝かせ方 等	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	個別的な配慮を要する子どもへの対応	<対面授業> ・慢性疾患や障害をもつ子どもの保育 ・医療費などの援助 ・低出生体重児で生まれた子どもの養護 ・アレルギー疾患をもつ子どもの養護等	
14	障害をもつ子どもへの対応	<対面授業> ・子どもの在宅医療支援 ・医療的、肢体不自由児、呼吸、嚥下障害児等への養護	
15	健康および安全の管理の実施体制	<対面授業> ・保育における保健活動の計画および評価 ・保健活動における職員間の連携・協働と関係機関との連携	

開講科目名 Course	保育の計画と評価
時間割コード Course Code	50236
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	小島 千枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小島 千枝 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1、保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。</p> <p>2、全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。</p> <p>3、子どもの理解に基づく保育の過程について、その全体像を捉え、理解する。</p> <p>知識の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの基礎理論を理解し、指導計画の作成と関連づけることができる。 <p>態度・習慣の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の過程（計画、実践、評価、改善）を理解し、保育に必要な知識、技術の習得に興味・関心を持つ。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達を踏まえた指導計画を作成する。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の計画と評価に関する基本的な理解のために、カリキュラムの考え方、全体像等について理解する。その後、年齢の発達、子どもの見方について講義を聞き、各年齢に即した指導計画の作成をする。その際、発達の理解が深められるよう、関連するビデオ等の教材を必要に応じ視聴する。 ・質問への対応 <p>授業後や課題添削を通じて適宜対応する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>課題提出（70%）と小テスト（30%）により総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの基本的な考え方が理解できているかどうか。 ・指導計画に記載すべき事項が記載されているか、年齢に合った指導計画が作成できているかどうか（理解、表現）
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が10回に満たない場合は、失格とする。
授業計画	指導計画表を参照
テキスト	保育実践につなぐ カリキュラム論 阿部孝編著 みらい
参考書	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	保育、教育の現場で作成する指導計画について、計画の意義や考え方、実際に計画が立案できるよう指導する科目である。40年間にわたり、保育所に勤務してきた経験を生かして、実践的な指導を行う。
質問への対応方法	オフィスアワーで対応
フィードバックの方法	翌週、課題によっては翌々週に返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	指導計画を参照
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション オリエンテーション 保育カリキュラム	授業の進め方、評価について理解する。 保育カリキュラムとは何か、なぜ必要かについて学ぶ。	テキスト p 27 ~ 35 1時間の予習と1時間の復讐を課す
2	保育の計画と評価の基本 カリキュラムの基礎理論	教科的カリキュラム及び保育におけるカリキュラムを理解する。 保育制度、保育の目的、環境の考え方を理解する。 課題：保育所、幼稚園と小学校の学びの違いについて考える。	テキスト p 7 ~ 18 1時間の予習と1時間の復讐を課す
3	保育の計画と評価の基本 保育における計画と評価の意義、保育の質の向上	P D C A サイクルの考え方、主体的学び、養護と教育の一体的な展開、子ども理解について学ぶ。 課題：養護について調べ、自分の考え方をまとめる。	テキスト p 7 ~ 18 1時間の予習と1時間の復讐を課す
4	保育の計画 教育課程・全体的な計画と指導計画	平成29年の3つの改定の社会的背景とその内容を理解する。 教育課程・全体的な計画と指導計画との関係性を理解する。 課題：全体的な計画と指導計画の関連性についてまとめる。	テキスト p 19 ~ 22 1時間の予習と1時間の復讐を課す
5	保育の計画 幼稚園の理解	保育所と幼稚園の違いについて理解する。 幼稚園の基本、教育課程と指導計画の関連性について学ぶ 小テスト：幼稚園について	テキスト p 37 ~ 66 1時間の予習と1時間の復讐を課す
6	保育の計画 保育所の理解	保育所の基本、全体的な計画と保育の実際について学ぶ。 小テスト：保育所について	テキスト p 67 ~ 100 1時間の予習と1時間の復讐を課す
7	保育の計画 指導計画の作成の基本	指導計画の形式、作成手順や方法を学ぶ。 その1	テキスト p 101 ~ 135 1時間の予習と1時間の復讐を課す
8	保育の計画 指導計画作成の基本	指導計画の形式、作成手順や方法を学ぶ。 その2	テキスト p 101 ~ 135 1時間の予習と1時間の復讐を課す
9	保育の計画 指導計画の作成 幼稚園	幼稚園の部分指導計画を作成する。 課題：幼稚園の部分指導計画を作成する。	テキスト p 167 ~ 168 1時間の予習と1時間の復讐を課す
10	保育の計画 指導計画の作成 保育所	保育所の部分指導計画を作成する。 課題：保育所の部分指導計画を作成する	テキスト p 171 ~ 176 1時間の予習と1時間の復讐を課す
11	保育の計画 指導計画の作成 乳児	乳児の各年齢の特徴を理解する。 乳児の指導計画を作成する。 課題：乳児の部分指導計画を作成する。	テキスト p 137 ~ 144 1時間の予習と1時間の復讐を課す
12	保育の計画 指導計画の作成 幼児	幼児の各年齢の特徴を理解する。 課題：幼稚園の全日の指導計画を作成する。	テキスト p 145 ~ 152 1時間の予習と1時間の復讐を課す

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	保育の計画 指導計画の作成	保育所の一日を理解し、デイリープログラムについて学ぶ。 課題：保育所の全日の指導計画を作成する	テキスト p 137 ~ 144 1時間の予習と1時間の復讐を課す
14	保育の評価 保育の記録、省察	評価の考え方、評価の実際について学ぶ。 P D C A サイクルと改善の取り組みについて理解する。	テキスト p 153 ~ 159 1時間の予習と1時間の復讐を課す
15	保育の評価 まとめ 要録及び小学校との連携	生活と発達連続性を踏まえた要録の考え方を理解する。	テキスト p 160 ~ 165 1時間の予習と1時間の復讐を課す

開講科目名 Course	保育者論
時間割コード Course Code	50240
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	長江 美津子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	長江 美津子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>保育者という仕事に関して、様々な角度から考えたり理解を深めたりしながら、保育者像を明確にする。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の役割と倫理について理解する。 ・保育士の制度的な位置づけを理解する。 ・保育士の専門性について考察し、理解する。 ・保育者の連携・協働について理解する。 ・保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを観る目を養う。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもは可能性を持っている。それを最大限に引き出す手伝いをするのが、保育者の役割。」といった、ものの見方・考え方ができることを目指す。 ・保育者の専門性向上のカギは「同僚性」である。自ら目的意識を持ち様々な角度から課題について考えたり、他者の考えを聞いたり認めたりする態度を養う中で、協働的な関係を構築する。
授業の概要	<p>保育者は小さな子どもと一緒に遊んだり、世話をしたりすることが仕事だと漠然と捉えている人が多いようです。</p> <p>しかし、実際は乳幼児期の子どもが人間形成の基礎を培う大切な時期に、ともに過ごす専門家としてどうあるべきか等、質が問われる重要な仕事です。</p> <p>本授業では、保育者の役割や倫理、制度的な位置づけ、保育士の専門性、保育者の連携・協働、保育者の資質向上とキャリア形成といった内容から、保育者やその仕事に対する理解を深めていく。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業参加姿勢 (30%) 提出課題 (30%) 小テスト (40%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回の授業の内、6回以上の欠席は失格。

授業計画	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 保育士の制度的位置付け 2. 保育者の役割と倫理 3. 保育者の一日の様子から保育者の役割を理解する 4. 子ども理解と保育者の役割 5. 子どもと一緒に心と体を動かす仕事（幼稚園の場合） 6. 子どもと一緒に心と体を動かす仕事（保育所の場合） 7. 豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事 絵本をとおして 8. 豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事 自然や行事をとおして 9. 保護者や家庭と一緒に歩む仕事 10. 現代の子育て事情 11. 多様な社会の中で私たちができる支援 12. 学び合う保育者 13. 保育者の成長 14. 保育者の専門性って何だろう 15. まとめ 確認テスト
テキスト	<p>保育者論 汐見稔幸・大豆生田啓友編 ミネルヴァ書房</p>
参考書	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	課題等を自ら調べたりグループで意見交換をしたりしながら、保育の見方・考え方を深めていく。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<p>実務経験のある教員による授業</p> <p>保育士、幼稚園教諭の経験がある教員が、保育現場での様子を子ども、保護者、保育者など様々な視点から考えたり、具体的な事例を交えたりしながら指導する科目である。</p>
質問への対応方法	授業内容に関する質問は随時対応または、授業後に対応。
フィードバックの方法	授業、メール等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>基本的な予習・復習として教科書を熟読して授業に参加したり、授業後に再度読み理解を深める。</p> <p>授業内で配布した資料に関しても同様である。</p> <p>毎回、調べる、検討する、作る等の保育に関する課題を出します。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> 11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 親和力 2. 協同力 5. 自信創出力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 保育士等の制度的位置 付け 保育者になるために必要な免許や資格	・保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の制度及び現状の比較一覧 ・保育士養成課程(教科目、履修単位数) ・児童福祉法における保育士の定義	
2	保育者の役割と倫理 保育の現状	・テキストP13～19 ・1時間の予習と2時間(課題を含)の復習を課す 課題1: 鯉のぼりの泳ぐ姿を見た経験から、あなたはどんなことを感じましたか? 課題2: 倉橋惣三「こころもち」の意味を考える	
3	保育者の一日の様子 保育者の役割を理解する 養護と教育が一体的に展開	・テキストP21～47 ・1時間の予習と2時間(課題を含)の復習を課す 課題3: 養護と教育を考える「朝の受け入れ場面」	
4	保育者の専門性 子ども理解と保育者の役割 子どもをわかるということ	・テキストP50～68 ・1時間の予習と2時間(課題を含)の復習を課す 課題4: 子ども理解と保育者の役割を考える	
5	保育者の専門性 子どもと一緒に心と体を動かす仕事(幼稚園の場合) 遊びを支える5つの役割	・テキストP69～80を読んで授業に参加。 ・1時間の予習と2時間(課題を含)の復習を課す 課題5: 子どもと一緒に心と体を動かす仕事について考える	
6	保育者の専門性 子どもと一緒に心と体を動かす仕事(保育所の場合) 子どもを読み解くということ	・テキストP81～93 ・1時間の予習と2時間(課題を含)の復習を課す 課題6: Exercise 4～6	
7	豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事 絵本をとおして 絵本を通して豊かな生活を生み出す保育者	・テキストP95～111 ・1時間の予習と2時間の復習を課す(課題を含) 課題7: 私のおすすめ絵本 課題8: 伝統行事の由来「ひなまつり」「子どもの日」「七夕」	
8	豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事 自然や行事をとおして 子どもと豊かに生活するための保育者の個性	・テキストP111～122 ・1時間の予習と2時間の復習を課す(課題を含) 課題9: 現代の家庭を取り巻く諸問題について調べる	
9	保護者や家庭と一緒に歩む仕事 なぜ保護者支援が必要なのか	・テキストP125～134 ・1時間の予習と2時間(課題含)の復習を課す 課題10: 子育てのパートナーとして、出来る事を考える	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
10	現代の子育て事情 子育て支援を考える	・テキストP135～146 ・1時間の予習と2時間の(課題含)の復習を課す 課題11: 事例を通して子育て支援を考える「虐待」	
11	多様な社会の中で私たちができる支援 特別な保育ニーズ 気になる子ども 多文化共生	・テキストP148～154 ・1時間の予習と2時間(課題含)の復習を課す 課題12: 事例を通して子育て支援を考える「発達障がい」	
12	学び合う保育者 職場の同僚性「語り合い」・「学び合う」 保育者の専門性とは	・テキストP154～178 ・1時間の予習と2時間(課題含)の復習を課す 課題13: 倉橋惣三の「子どもらが帰った後」から保育者の成長と省察を関連付けて考える 課題14: 「なぜ同僚性が保育者の専門性の一つに含まれるのか」	
13	保育者の成長 資質向上に関する組織的取組	・テキストP179～188 ・1時間の予習と2時間(課題含)の復習を課す 課題15: 保育者としての引き出し	
14	保育者の専門性ってなんだろう 保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義	・テキストP189～201 ・1時間の予習と2時間(課題含)の復習を課す 課題16: 世界的に有名な保育の思想家や保育について調べる 「モンテッソーリ, M」「レッジョ・エミリア」「シュタイナー, R」「コダーイ, Z」	
15	まとめ 確認テスト	・1時間の予習と2時間(課題含)の復習を課す 課題17: 課題9「現代の家庭を取り巻く諸問題について調べる」で、調べた事や資料を使って、保育新聞を完成させる。	

開講科目名 Course	子どもの食と栄養
時間割コード Course Code	50248
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	丸田 星子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	丸田 星子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもに対して栄養的に満たされた安心・安全な食事を提供することの必要性を知り、保護者からの相談にも対応できるようになる。また、食育活動を通じて主体的な経験を積ませることができるようになる。</p> <p>知識・理解の領域 健康な生活の基本である食生活の意義や、栄養に関する基本的な知識を持つことができる。</p> <p>技能の領域 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解し、保育者としての具体的な関わり方に応用することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 栄養の重要性を理解し、自らが望ましい食生活を送るよう心がけると同時に、子どもや保護者に対して食育を実践する必要があることを理解して、食育活動を行うことができる。</p>
授業の概要	<p>子どもたちが、将来にわたり豊かな食生活を送るには、栄養的に満たされた望ましい食事と、楽しくおいしい、豊かな食事の両立が必要である。この授業を通じて、子どもの発達と食生活の関係や子どもの食に関する傾向・問題点について学び、保育者としての適切な関わり方を身に付ける。また、食の大切さを子どもたちに教えられるように、食育の目的や発達に応じた食育活動の取り組みについて理解する。それらを踏まえ、子どもの食事と栄養に関する理解に基づく保護者支援に応用できるよう学ぶを深める。</p>
評価方法	参加姿勢10%、レポート・課題40%、期末試験50%とし、総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が授業全体の2/3を満たさない場合。
授業計画	<p>1 回目 オリエンテーション、子どもの健康と食生活の意義</p> <p>2 回目 栄養に関する制度、栄養に関する基礎知識1 (食品と栄養に関する基礎的な知識)</p> <p>3 回目 栄養に関する基礎知識2 (献立作成・調理の基本)</p> <p>4 回目 妊娠期と授乳期の食生活</p> <p>5 回目 乳時期の食生活1 (母乳栄養・人工栄養)</p> <p>6 回目 乳児期の食生活2 (離乳の意義とその実践)</p> <p>7 回目 幼児期の食生活1 (幼児期の心身の発達と食生活)</p> <p>8 回目 幼児期の食生活2 (間食の意義)</p> <p>9 回目 幼児期の食生活3 (幼児期の栄養の問題)</p> <p>1 0 回目 学童期・思春期の発育・発達と食生活、生涯発達と食生活</p> <p>1 1 回目 食育の基本と内容</p> <p>1 2 回目 食育指導案作成およびグループ討議</p> <p>1 3 回目 家庭や児童福祉施設における食事と栄養</p> <p>1 4 回目 特別な配慮を要する子ども・アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養1 (食物アレルギーの基礎知識)</p> <p>1 5 回目 アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養2 (食物アレルギーがある子どもへの対応)</p>

テキスト	子どもの食と栄養 第2版 保育現場で活かせる食の基本 著者：太田百合子 堤ちはる 出版社：羊土社
参考書	随時紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワークや授業内レポート、食育指導案の作成に取り組む。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後およびメール対応 (seiko.maru625@gmail.com)
フィードバックの方法	ワークシートやレポートについては内容の確認後に返却する。 授業内にてコメント・指導を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業前には、授業で学習する教科書の該当ページを読んでおくこと。(1時間) 授業後には、講義内容を整理し、教科書の関連する部分や配布資料を読み復習を行うこと。(2時間) 日頃より子どもや栄養にかかわる問題に対して気を配り、新しい情報を入手すること。(1時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

開講科目名 Course	保育内容総論II(1組)
時間割コード Course Code	50388
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	長江 美津子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	長江 美津子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>現代社会の中で今を生き、未来を担っていく子ども達にとって、乳幼児期にどんな力を育てていく事が大切なのかを知り、園生活を通して必要な経験や保育内容、保育方法が説明できるようになることを目指す。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び歴史の変遷等を踏まえ、保育の基本的な考え方を子どもの発達や実態に繋げて理解する。 ・保育の多様な展開について具体的に理解する。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習における実践経験や事例検討を活用して、子どもの発達や内面理解、環境構成の力量を高める。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題等に対して、各自目的意識を持ち積極的にグループディスカッションに参加し、保育の遣り甲斐と奥深さに触れ、自身の考えを相手に分かるように伝えたり他者の考えを聞いたり認めたりする態度を養い、協働的な関係を構築する。
授業の概要	<p>保育所保育指針・幼稚園教育要領等に示されている内容について、その基本的な考え方と諸事項を総論的に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の全体構造と保育内容 ・保育の基本を踏まえた保育内容の展開について。 ・保育の内容の歴史の変遷とその社会的背景。 ・家庭や地域との連携をふまえた保育。 ・保育の多様な展開（特別な配慮を要する子ども、多文化共生）。 <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。</p>
評価方法	グループ討論や発表など授業参加姿勢態度（30%）提出課題（30%）小テスト（40%）
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回の授業の内、6回以上の欠席は失格

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 保育の全般構造と保育内容の理解 2. 保育の基本的な考え方(1) 養護と教育の一体性、子どもの主体性の尊重 3. 保育の基本的な考え方(2) 遊びや生活を中心とした園生活、 環境を通して行う保育 4. 保育内容の歴史の変遷(1)戦前の保育内容 5. 保育内容の歴史の変遷(2)戦後の保育内容 6. 多様な保育ニーズ(1)子育て支援 7. 多様な保育ニーズ(2)長時間保育 8. 多様な保育ニーズ(3)特別な配慮を要する子どもの保育 9. 多様な保育ニーズ(4)多文化共生の保育 10. 地域に開かれた保育所・幼稚園等を創造する保育内容 11. 小学校との連携 円滑な接続のために 12. 諸外国の保育所・幼稚園の保育内容 13. これからの保育内容(1) 安全(災害への備え)に関する保育内容 14. これからの保育内容(2) 乳幼児期の食育を進める保育内容 15. まとめ 保育内容の質の向上を目指して
テキスト	子どもと共に学びあう 演習・保育内容総論 株式会社みらい
参考書	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内で出された課題等を自ら調べたりグループで話し合ったりしながら保育における考え方を様々な視点から見たり考えたりしながら深めていく。保育者にとってチームで一つの事に向かう姿勢が保育の質の向上につながる。保育者の養成に関わる科目である。本授業においてもグループのメンバーと協力しようとする意識を持ちグループ活動に臨み作業を行っていく。個々が自発的に動き、メンバー全員が参加して進めて行く。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士、幼稚園教諭の経験がある教員が、保育現場での様子を子ども、保護者、保育者など様々な視点から考えたり、具体的な事例を交えたりしながら指導する科目である。
質問への対応方法	授業内容に関する質問は随時対応または、授業後に対応。
フィードバックの方法	授業、メール等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で出された課題等を自ら調べたりグループで話し合ったりすることが授業の中心となる。それに対して個々が自発的に動き、メンバー全員が参加して進めて行くことを前提として進める。授業時間外に文献を調べたり、グループで話し合ったりまとめる等の作業時間もグループ活動の一環と捉え、2~3時間程度の準備時間を設ける。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	<ol style="list-style-type: none"> 11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 親和力 2. 協同力 7. 課題発見力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 保育の全般構造と保育内容の理解	準備学習として、計画に基づいた章を必ず読んで理解をしておくことと、演習課題のプリントは検討の上、翌授業に持参のこと。 ・授業内としてこれまでの保育内容(保育内容総論1)の振り返りを行う。 ・復習として第1章～第2章を読んでおき更に理解を深める。	
2	保育の基本的な考え方(1) 養護と教育の一体性、子どもの主体性の尊重	・保育内容の振り返りとして保育内容の重要ポイントを抑える。 ・第3章～第5章を読んで、授業に参加する。	
3	保育の基本的な考え方(2) 遊びや生活を中心とした園生活、環境を通して行う保育	・保育内容の振り返りとして保育内容の重要ポイントを抑える。 ・保育内容の振り返り 第6章～第12章を読んで、授業に参加。	
4	保育内容の歴史の変遷(1) 戦前の保育内容	・第13章を読んで、授業に参加する。 ・明治前期・後期、大正期の保育内容について理解する。	
5	保育内容の歴史の変遷(2) 戦後の保育内容	・昭和期・平成期の保育内容について理解する。	
6	多様な保育ニーズ(1) 子育て支援	・第14章を読んで、授業に参加する。 ・子育ての現状と課題。 ・保育所・幼稚園に求められる子育て支援。 ・子育て支援の実践事例と考察。	
7	多様な保育ニーズ(2) 長時間保育	・延長保育・長時間保育の保育内容を理解する。 ・様々な保育ニーズを知る(病児・病後児保育、預かり保育・地域子育て支援センター)。 ・異年齢児保育の実践事例と考察。	
8	多様な保育ニーズ(3) 特別な配慮を要する子どもの保育	・「気になる子ども」について理解を深める。 ・特別な配慮を要する子どもの保育の実践事例と考察。	
9	多様な保育ニーズ(4) ・多文化共生の保育の必要性	・多文化共生の保育の現状を知る。 ・多文化共生の実践事例と考察。	
10	地域に開かれた保育所・幼稚園等を創造する保育内容 乳幼児の発達と、地域社会との関わり	・子どもの育ちの変化と地域の教育力の低下。 ・地域の自然環境を保育に生かす保育内容。 ・地域の人的教育力を生かす保育内容。	
11	小学校との連携 小学校教育との円滑な接続	・就学前教育と初等教育の接続の意義を理解する。 ・幼児期と児童期における「学び」の特徴を理解する。	
12	諸外国の保育所・幼稚園の保育内容 日本の保育の特徴と主要な国々のカリキュラムの概観	・保育をめぐる世界の動向。 ・4つの主要なカリキュラム。	
13	これからの保育内容(1) 安全(災害への備え)に関する保育内容	・保育施設における防災対策の重要性を理解する。	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	これからの保育内容(2) 乳幼児期の食育を進める保育内容	・食育が人間形成にかかわる意義を理解する。 ・「食を営む力」の基礎を培う保育所・幼稚園等での食育について理解する。	
15	保育内容の質の向上を目指して これからの保育と課題 確認テスト	・第15章を読んで、授業に参加する。 ・これまでの授業を振り返るとともに、保育課題について検討を行う。	

開講科目名 Course	保育内容総論II(2組)
時間割コード Course Code	50389
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	長江 美津子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	長江 美津子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>現代社会の中で今を生き、未来を担っていく子ども達にとって、乳幼児期にどんな力を育てていく事が大切なのかを知り、園生活を通して必要な経験や保育内容、保育方法が説明できるようになることを目指す。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び歴史の変遷等を踏まえ、保育の基本的な考え方を子どもの発達や実態に繋げて理解する。 ・保育の多様な展開について具体的に理解する。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習における実践経験や事例検討を活用して、子どもの発達や内面理解、環境構成の力量を高める。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題等に対して、各自目的意識を持ち積極的にグループディスカッションに参加し、保育の遣り甲斐と奥深さに触れ、自身の考えを相手に分かるように伝えたり他者の考えを聞いたりと認めたりする態度を養い、協働的な関係を構築する。
授業の概要	<p>保育所保育指針・幼稚園教育要領等に示されている内容について、その基本的な考え方と諸事項を総論的に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の全体構造と保育内容 ・保育の基本を踏まえた保育内容の展開について。 ・保育の内容の歴史の変遷とその社会的背景。 ・家庭や地域との連携をふまえた保育。 ・保育の多様な展開（特別な配慮を要する子ども、多文化共生）。 <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。</p>
評価方法	グループ討論や発表など授業参加姿勢態度（30%）提出課題（30%）小テスト（40%）
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回の授業の内、6回以上の欠席は失格。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 保育の全般構造と保育内容の理解 2. 保育の基本的な考え方(1) 養護と教育の一体性、子どもの主体性の尊重 3. 保育の基本的な考え方(2) 遊びや生活を中心とした園生活、 環境を通して行う保育 4. 保育内容の歴史的変遷(1)戦前の保育内容 5. 保育内容の歴史的変遷(2)戦後の保育内容 6. 多様な保育ニーズ(1)子育て支援 7. 多様な保育ニーズ(2)長時間保育 8. 多様な保育ニーズ(3)特別な配慮を要する子どもの保育 9. 多様な保育ニーズ(4)多文化共生の保育 10. 地域に開かれた保育所・幼稚園等を創造する保育内容 11. 小学校との連携 円滑な接続のために 12. 諸外国の保育所・幼稚園の保育内容 13. これからの保育内容(1) 安全(災害への備え)に関する保育内容 14. これからの保育内容(2) 乳幼児期の食育を進める保育内容 15. まとめ 保育内容の質の向上を目指して
テキスト	子どもと共に学びあう 演習・保育内容総論 株式会社みらい
参考書	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内で出された課題等を自ら調べたりグループで話し合ったりしながら保育における考え方を様々な視点から見たり考えたりしながら深めていく。保育者にとってチームで一つの事に向かう姿勢が保育の質の向上につながる。保育者の養成に関わる科目である。本授業においてもグループのメンバーと協力しようとする意識を持ちグループ活動に臨み作業を行っていく。個々が自発的に動き、メンバー全員が参加して進めて行く。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	保育士、幼稚園教諭の経験がある教員が、保育現場での様子を子ども、保護者、保育者など様々な視点から考えたり、具体的な事例を交えたりしながら指導する科目である。
質問への対応方法	授業内容に関する質問は随時対応または、授業後に対応。
フィードバックの方法	授業、メール等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業内で出された課題等を自ら調べたりグループで話し合ったりすることが授業の中心となる。それに対して個々が自発的に動き、メンバー全員が参加して進めて行くことを前提として進める。授業時間外に文献を調べたり、グループで話し合ったりまとめる等の作業時間もグループ活動の一環と捉え、2~3時間程度の準備時間を設ける。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	<ol style="list-style-type: none"> 11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 親和力 2. 協同力 7. 課題発見力

開講科目名 Course	健康指導法(1組) / Methods of Early Childhood Education (Health)
時間割コード Course Code	50423
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 C 講義室, 体育館
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	領域「健康」の保育内容と指導方法を学ぶ。はじめに「健康」の概念について考え、乳幼児期の身体発育について概観し、次に運動能力について学んでいく。そして領域「健康」のねらいと内容を踏まえた指導計画の作成と実施ができるようになることを目標とする。
授業の概要	講義とディスカッションを中心に行なう。また講義内ではインターネット等を用いた検索や調査を実施し、収集したデータを用いてディスカッションを行う。さらに指導計画作成と模擬授業を行う。
評価方法	事前学習 25% ディスカッション 25% 模擬授業 25% 指導計画書 25%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	事前学習課題が未提出が続く場合 ディスカッションに不参加の場合
授業計画	1. ガイダンス 2. 領域「健康」のねらいと内容 3. 体の発達と健康 4. 社会性の発達と健康 5. 子どもの生活習慣の理解 6. 基本的な生活習慣の理解と形成 7. 安全管理と安全教育 8. 身体活動と運動遊び 9. 運動遊びの効果 10. 基本的動作と運動遊び指導の留意点 11. 指導案作成 12. 模擬授業 (A班) 観察と評価 13. 模擬授業 (B班) 観察と評価 14. 模擬授業 (C班) 観察と評価 15. まとめ
テキスト	厚生労働省「保育所保育指針解説<平成30年3月>」フレーベル館 文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワーク 模擬授業実施に向けた指導案の作成や実施準備 教材作成、発表

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて随時受け付ける (hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp) 必要であれば授業ご対応する。
フィードバックの方法	レポート等は次週フィードバックする。 発表等はその場にてフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 次回の内容について、テキスト部分を熟読すること。(60分) インターネット等を用いて指導案に作成に向け調べておくこと(30分) 復習 授業で行った内容についてまとめておくこと(90分)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力

開講科目名 Course	健康指導法(2組) / Methods of Early Childhood Education (Health)
時間割コード Course Code	50424
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 C 講義室, 体育館
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	領域「健康」の保育内容と指導方法を学ぶ。はじめに「健康」の概念について考え、乳幼児期の身体発育について概観し、次に運動能力について学んでいく。そして領域「健康」のねらいと内容を踏まえた指導計画の作成と実施ができるようになることを目標とする。
授業の概要	講義とディスカッションを中心に行なう。また講義内ではインターネット等を用いた検索や調査を実施し、収集したデータを用いてディスカッションを行う。さらに指導計画作成と模擬授業を行う。
評価方法	事前学習 25% ディスカッション 25% 模擬授業 25% 指導計画書 25%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	事前学習課題が未提出が続く場合 ディスカッションに不参加の場合
授業計画	1. ガイダンス 2. 領域「健康」のねらいと内容 3. 体の発達と健康 4. 社会性の発達と健康 5. 子どもの生活習慣の理解 6. 基本的な生活習慣の理解と形成 7. 安全管理と安全教育 8. 身体活動と運動遊び 9. 運動遊びの効果 10. 基本的動作と運動遊び指導の留意点 11. 指導案作成 12. 模擬授業 (A班) 観察と評価 13. 模擬授業 (B班) 観察と評価 14. 模擬授業 (C班) 観察と評価 15. まとめ
テキスト	厚生労働省「保育所保育指針解説<平成30年3月>」フレーベル館 文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループワーク 模擬授業実施に向けた指導案の作成や実施準備 教材作成、発表

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて随時受け付ける (hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp) 必要であれば授業ご対応する。
フィードバックの方法	レポート等は次週フィードバックする。 発表等はその場にてフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 次回の内容について、テキスト部分を熟読すること。(60分) インターネット等を用いて指導案に作成に向け調べておくこと(30分) 復習 講義で行った内容についてまとめておくこと(90分)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力

開講科目名 Course	子どもと健康(1組)
時間割コード Course Code	50720
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	本科目では履修者が、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身につけることを目標とする。具体的には、履修者が幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解することが目指される。
授業の概要	授業では、健康とは何か、幼児期の健康や発達の特徴とは何か、そしてそれらを支える環境的要件及び現代的な課題等について理論的に学習し、その上で、子どもの健康や健やかな発達のための、生活習慣や運動遊びの指導において必要となる実践的な学習を進めていく。
評価方法	グループ活動 (40%)、小レポート (30%)、到達度確認レポート (30%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	小レポートが連続して未提出の場合 グループディスカッションに不参加の場合
授業計画	第1回：授業オリエンテーション、領域「健康」の概要 第2回：乳幼児期の健康問題：健康の定義と乳幼児期の健康の意義、現代的な健康問題について 第3回：乳幼児期の身体の発達の特徴と運動遊び：エネルギー系の運動遊び 第4回：乳幼児期の身体の発達の特徴と運動遊び：コーディネーション系の運動遊び 第5回：乳幼児期の生活習慣の形成とその意義 第6回：幼児の安全教育と危険（リスクとハザード）：生活習慣と安全管理 第7回：幼児の安全教育と危険（リスクとハザード）：運動遊びと安全管理 第8回：幼児期の怪我や事故の特徴について 身体的特徴との関連性や近年の傾向 第9回：幼児期の怪我や事故の特徴について 応急処置の基礎及び病気の予防 第10回：乳幼児期の運動発達の特徴：体力の発達の特性 第11回：乳幼児期の運動発達の特徴：多様な運動経験とその効果 第12回：乳幼児期の運動発達の特徴：運動コントロール能力の発達の特性 第13回：日常生活における運動：生活の中の運動経験への配慮について 第14回：幼小接続を意識した運動学習教材の検討 シュートボール教材に着目して 第15回：幼小接続を意識した運動学習教材の検討 マット運動教材に着目して 定期試験は実施しない。
テキスト	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)』 チャイルド本社 2017年
参考書	文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック 毎日、楽しく体を動かすために」サンライフ企画

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループディスカッション 授業で出された課題についてグループで調べ授業内で発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて随時受け付ける (hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp) 必要であれば授業ご対応する。
フィードバックの方法	レポート等は次週フィードバックする。 発表等はその場にてフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 次回行う内容をシラバスにて確認し、該当するテキスト箇所を熟読する。(60分) 次週行う内容に関しインターネットを用いて事前にイメージを持っておくこと。(30分) 予習 授業で取り組んだ内容をレポートとしてまとめておくこと。(90分)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	子どもと健康(2組)
時間割コード Course Code	50721
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	本科目では履修者が、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身につけることを目標とする。具体的には、履修者が幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解することが目指される。
授業の概要	授業では、健康とは何か、幼児期の健康や発達の特徴とは何か、そしてそれらを支える環境的要件及び現代的な課題等について理論的に学習し、その上で、子どもの健康や健やかな発達のための、生活習慣や運動遊びの指導において必要となる実践的な学習を進めていく。
評価方法	グループ活動(40%)、小レポート(30%)、到達度確認レポート(30%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	小レポートが連続して未提出の場合 グループディスカッションに不参加の場合
授業計画	第1回：授業オリエンテーション、領域「健康」の概要 第2回：乳幼児期の健康問題：健康の定義と乳幼児期の健康の意義、現代的な健康問題について 第3回：乳幼児期の身体の発達の特徴と運動遊び：エネルギー系の運動遊び 第4回：乳幼児期の身体の発達の特徴と運動遊び：コーディネーション系の運動遊び 第5回：乳幼児期の生活習慣の形成とその意義 第6回：幼児の安全教育と危険(リスクとハザード)：生活習慣と安全管理 第7回：幼児の安全教育と危険(リスクとハザード)：運動遊びと安全管理 第8回：幼児期の怪我や事故の特徴について 身体的特徴との関連性や近年の傾向 第9回：幼児期の怪我や事故の特徴について 応急処置の基礎及び病気の予防 第10回：乳幼児期の運動発達の特徴：体力の発達的な特性 第11回：乳幼児期の運動発達の特徴：多様な運動経験とその効果 第12回：乳幼児期の運動発達の特徴：運動コントロール能力の発達的な特性 第13回：日常生活における運動：生活の中の運動経験への配慮について 第14回：幼小接続を意識した運動学習教材の検討 ショートボール教材に着目して 第15回：幼小接続を意識した運動学習教材の検討 マット運動教材に着目して 定期試験は実施しない。
テキスト	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)』 チャイルド本社 2017年
参考書	文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック 毎日、楽しく体を動かすために」サンライフ企画
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループディスカッション 授業で出された課題についてグループで調べ授業内で発表する。

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて随時受け付ける (hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp) 必要であれば授業ご対応する。
フィードバックの方法	レポート等は次週フィードバックする。 発表等はその場にてフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 次回行う内容をシラバスにて確認し、該当するテキスト箇所を熟読する。(60分) 次週行う内容に関しインターネットを用いて事前にイメージを持っておくこと。(30分) 予習 授業で取り組んだ内容をレポートとしてまとめておくこと。(90分)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	幼児体育(1組) / Physical Education for Children
時間割コード Course Code	50724
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	本科目では履修者が、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身につけることを目標とする。具体的には、履修者が幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解することが目指される。
授業の概要	授業では、健康とは何か、幼児期の健康や発達の特徴とは何か、そしてそれらを支える環境的要件及び現代的な課題等について理論的に学習し、その上で、子どもの健康や健やかな発達のための、生活習慣や運動遊びの指導において必要となる実践的な学習を進めていく。
評価方法	グループ活動(40%)、小レポート(30%)、到達度確認レポート(30%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	小レポートが連続して未提出の場合 グループディスカッションに不参加の場合
授業計画	第1回：授業オリエンテーション、領域「健康」の概要 第2回：乳幼児期の健康問題：健康の定義と乳幼児期の健康の意義、現代的な健康問題について 第3回：乳幼児期の身体の発達の特徴と運動遊び：エネルギー系の運動遊び 第4回：乳幼児期の身体の発達の特徴と運動遊び：コーディネーション系の運動遊び 第5回：乳幼児期の生活習慣の形成とその意義 第6回：幼児の安全教育と危険(リスクとハザード)：生活習慣と安全管理 第7回：幼児の安全教育と危険(リスクとハザード)：運動遊びと安全管理 第8回：幼児期の怪我や事故の特徴について 身体的特徴との関連性や近年の傾向 第9回：幼児期の怪我や事故の特徴について 応急処置の基礎及び病気の予防 第10回：乳幼児期の運動発達の特徴：体力の発達の特性 第11回：乳幼児期の運動発達の特徴：多様な運動経験とその効果 第12回：乳幼児期の運動発達の特徴：運動コントロール能力の発達の特性 第13回：日常生活における運動：生活の中の運動経験への配慮について 第14回：幼小接続を意識した運動学習教材の検討 ショートボール教材に着目して 第15回：幼小接続を意識した運動学習教材の検討 マット運動教材に着目して 定期試験は実施しない。
テキスト	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)』 チャイルド本社 2017年
参考書	文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック 毎日、楽しく体を動かすために」サンライフ企画
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループディスカッション 授業で出された課題についてグループで調べ授業内で発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて随時受け付ける (hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp) 必要であれば授業ご対応する。
フィードバックの方法	レポート等は次週フィードバックする。 発表等はその場にてフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 次回行う内容をシラバスにて確認し、該当するテキスト箇所を熟読する。(60分) 次週行う内容に関しインターネットを用いて事前にイメージを持っておくこと。(30分) 予習 授業で取り組んだ内容をレポートとしてまとめておくこと。(90分)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	幼児体育(2組) / Physical Education for Children
時間割コード Course Code	50725
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	本科目では履修者が、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身につけることを目標とする。具体的には、履修者が幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解することが目指される。
授業の概要	授業では、健康とは何か、幼児期の健康や発達の特徴とは何か、そしてそれらを支える環境的要件及び現代的な課題等について理論的に学習し、その上で、子どもの健康や健やかな発達のための、生活習慣や運動遊びの指導において必要となる実践的な学習を進めていく。
評価方法	グループ活動(40%)、小レポート(30%)、到達度確認レポート(30%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	小レポートが連続して未提出の場合 グループディスカッションに不参加の場合
授業計画	第1回：授業オリエンテーション、領域「健康」の概要 第2回：乳幼児期の健康問題：健康の定義と乳幼児期の健康の意義、現代的な健康問題について 第3回：乳幼児期の身体の発達の特徴と運動遊び：エネルギー系の運動遊び 第4回：乳幼児期の身体の発達の特徴と運動遊び：コーディネーション系の運動遊び 第5回：乳幼児期の生活習慣の形成とその意義 第6回：幼児の安全教育と危険(リスクとハザード)：生活習慣と安全管理 第7回：幼児の安全教育と危険(リスクとハザード)：運動遊びと安全管理 第8回：幼児期の怪我や事故の特徴について 身体的特徴との関連性や近年の傾向 第9回：幼児期の怪我や事故の特徴について 応急処置の基礎及び病気の予防 第10回：乳幼児期の運動発達の特徴：体力の発達的な特性 第11回：乳幼児期の運動発達の特徴：多様な運動経験とその効果 第12回：乳幼児期の運動発達の特徴：運動コントロール能力の発達的な特性 第13回：日常生活における運動：生活の中の運動経験への配慮について 第14回：幼小接続を意識した運動学習教材の検討 ショートボール教材に着目して 第15回：幼小接続を意識した運動学習教材の検討 マット運動教材に着目して 定期試験は実施しない。
テキスト	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)』 チャイルド本社 2017年
参考書	文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック 毎日、楽しく体を動かすために」サンライフ企画
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループディスカッション 授業で出された課題についてグループで調べ授業内で発表する。

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて随時受け付ける (hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp) 必要であれば授業ご対応する。
フィードバックの方法	レポート等は次週フィードバックする。 発表等はその場にてフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 次回行う内容をシラバスにて確認し、該当するテキスト箇所を熟読する。(60分) 次週行う内容に関しインターネットを用いて事前にイメージを持っておくこと。(30分) 予習 授業で取り組んだ内容をレポートとしてまとめておくこと。(90分)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	子どもと音楽A(1組 秋田)
時間割コード Course Code	50730
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 E レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」

参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。 保育動画作成	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。 保育動画作成	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。 保育動画作成	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習 する。 保育動画作成	
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする 。 保育動画発表	

開講科目名 Course	子どもと音楽A(1組 岡本)
時間割コード Course Code	50731
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	岡本 加奈子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 B レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡本 加奈子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」

参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。 保育動画作成	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。 保育動画作成	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。 保育動画作成	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習 する。 保育動画作成	
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする 。 保育動画発表	

開講科目名 Course	子どもと音楽A(1組 近藤)
時間割コード Course Code	50732
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	近藤 加奈子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 C レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	近藤 加奈子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」

参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。 保育動画作成	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。 保育動画作成	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。 保育動画作成	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習 する。 保育動画作成	
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする 。 保育動画発表	

開講科目名 Course	子どもと音楽A(1組 高橋)
時間割コード Course Code	50733
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	高橋 恵理
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 D レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 恵理 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」

参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。 保育動画作成	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。 保育動画作成	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。 保育動画作成	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習 する。 保育動画作成	
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする 。 保育動画発表	

開講科目名 Course	子どもと音楽A(2組 秋田)
時間割コード Course Code	50735
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 E レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」

参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。 保育動画作成	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。 保育動画作成	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。 保育動画作成	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習 する。 保育動画作成	
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする 。 保育動画発表	

開講科目名 Course	子どもと音楽A(2組 岡本)
時間割コード Course Code	50736
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	岡本 加奈子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 B レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡本 加奈子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」

参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。 保育動画作成	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。 保育動画作成	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。 保育動画作成	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習 する。 保育動画作成	
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする 。 保育動画発表	

開講科目名 Course	子どもと音楽A(2組 近藤)
時間割コード Course Code	50737
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	近藤 加奈子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 C レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	近藤 加奈子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」

参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。 保育動画作成	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。 保育動画作成	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。 保育動画作成	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習 する。 保育動画作成	
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする 。 保育動画発表	

開講科目名 Course	子どもと音楽A(2組 高橋)
時間割コード Course Code	50738
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	高橋 恵理
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 D レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 恵理 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。また、保育動画作成等を行い、ICT技術の使用方法を習得する。
評価方法	授業への参加10% 課題30% テスト60% により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「標準バイエルピアノ教則本」

参考書	「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス 「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社 「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社 「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。 保育動画作成	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。 保育動画作成	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。 保育動画作成	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。 保育動画作成	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習 する。 保育動画作成	
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする 。 保育動画発表	

開講科目名 Course	音楽演習 IA
時間割コード Course Code	50740
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。
評価方法	<p>授業への参加10%</p> <p>課題30%</p> <p>テスト60%</p> <p>により評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	<p>「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社</p> <p>「標準バイエルピアノ教則本」</p>
参考書	<p>「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス</p> <p>「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社</p> <p>「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社</p> <p>「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ</p>

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽棟にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。	
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする。 。	

開講科目名 Course	音楽演習 IA
時間割コード Course Code	50741
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域 読譜（楽譜を読むこと）に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場で必要な音楽能力について、理解する。 園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようにする。</p>
授業の概要	教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、音楽の基礎知識、楽譜の読み方、ピアノ演奏の方法、発声方法、季節・行事や生活に関わる子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌いを行う。
評価方法	<p>授業への参加10%</p> <p>課題30%</p> <p>テスト60%</p> <p>により評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	<p>「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社</p> <p>「標準バイエルピアノ教則本」</p>
参考書	<p>「小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集」大海由佳・古谷和子・長谷川恭子 学研プラス</p> <p>「保育者のためのピアノの基礎」井口太・笠井かほる 朝日出版社</p> <p>「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社</p> <p>「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ</p>

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生自身が弾き歌い演奏を行い個人レッスンを受けるセクションと、一斉授業にて読譜、声楽などを学ぶセクションに分かれており、いずれもアクティブラーニングの要素を含んでいる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には随時音楽棟にて随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	講義とピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、担当教員の紹介と発表 バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を復習する。4時間の復習を課す。	
2	音価について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル12番、季節のうた「朝のうた」を予習する。	
3	付点のリズム ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(リズム打ち課題) バイエル44番、「おかえりのうた」を予習する。	
4	音部記号について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名の早読み) バイエル66番、「さようならのうた」を予習する。	
5	音名と階名について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。(音名早読み) バイエル74番、「チューリップ」を予習する。	
6	拍子について ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル78番、「とんぼのねがね」を予習する。	
7	中間確認(楽譜の読み方) ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 楽譜の読み方チェック バイエル88番、「たなばたさま」を予習する。	
8	中間確認(弾き歌い) ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル89番、「どんぐりころころ」を予習する。	
9	こどものうたについて ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 バイエル90番、「ぶんぶんぶん」を予習する。	
10	発声体操 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「めだかのがっこう」を予習する。	
11	発声練習 ピアノレッスン	2時間の予習と2時間復習を課す。 「おもいでアルバム」を予習する。	
12	こどものうた1 ピアノレッスン	コードによる弾き歌い 2時間の予習と2時間復習を課す。 「あわてんぼうのサンタクロース」を予習する。	
13	こどものうた2 ピアノレッスン	伴奏付け 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。	
14	こどものうた3 ピアノレッスン	こどもの歌の音域について 2時間の予習と2時間復習を課す。 各自で選曲した弾き歌いのうたを1曲予習する。	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	こどものうた4 ピアノレッスン	こどものうた弾き歌い発表 4時間の予習を課す。 弾き歌いテストリハーサルの予習をする。 。	

開講科目名 Course	音楽演習IB(秋田)
時間割コード Course Code	50755
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 1 A 講義室, 3 2 E レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	<p>知識・理解の領域 2年次での幼稚園教育実習に向けて、ピアノの弾き歌いができるよう、コードネーム伴奏、読譜力などを身に付ける。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 子どもと音楽を通してかかわる方法について、自分なりの保育観を持つ。</p>
授業の概要	<p>教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い演習を行う。</p> <p>テキストは指定するが、個人の学習レベルに応じてその他の教材も適宜、紹介する。</p>
評価方法	<p>課題50%</p> <p>テスト50%</p> <p>により評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	<p>「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社</p> <p>「標準バイエルピアノ教則本」</p> <p>「一人一人を大切にユニバーサルデザインの音楽表現」星山麻木編著 板野和彦著 崩文書林等</p> <p>尚、個人指導のためテキストは担当教員より適宜、指示される。</p>
参考書	<p>「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社</p> <p>「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ等</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	毎回の授業で学生自身が弾き歌い演奏、ピアノ演奏を行う。

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には音楽練習室、メール等で随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	ピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、 4時間の復習を課す。	
2	こどものうた1 ピアノレッスン 生活のうた(おべんとう)	『おべんとう』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
3	こどものうた2 ピアノレッスン 生活のうた(あさのうた)	『あさのうた』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
4	こどものうた3 ピアノレッスン 生活のうた(かえりのうた)	『かえりのうた』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
5	こどものうた4 ピアノレッスン 生活のうた(おむねをはりましょ)	『おむねをはりましょ』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
6	こどものうた5 ピアノレッスン 春のうた(ぶんぶんぶん)	『ぶんぶんぶん』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
7	こどものうた6 ピアノレッスン 季節外のうた(おおきなたいこ)	『おおきなたいこ』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
8	こどものうた7 ピアノレッスン 夏のうた(かたつむり)	『かたつむり』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
9	こどものうた8 ピアノレッスン 夏のうた(あめふりくまのこ)	『あめふりくまのこ』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
10	こどものうた9 ピアノレッスン	『こおろぎ』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
11	こどものうた10 ピアノレッスン 秋のうた(まっかな秋)	『まっかな秋』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
12	こどものうた11 ピアノレッスン	『お正月』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
13	こどものうた12 ピアノレッスン 冬のうた(ジングルベル)	『ジングルベル』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
14	こどものうた13 ピアノレッスン 行事のうた(うれしいひなまつり, 1ねんせいになったら)	『うれしいひなまつり』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。 『1ねんせいになったら』の弾き歌い。	
15	テスト	ピアノによるこどものうた弾き歌いテストを行う。	

開講科目名 Course	音楽演習IB(岡本)
時間割コード Course Code	50756
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	岡本 加奈子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 B レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡本 加奈子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>知識・理解の領域 2年次での幼稚園教育実習に向けて、ピアノの弾き歌いができるよう、コードネーム伴奏、読譜力などを身に付ける。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 子どもと音楽を通してかかわる方法について、自分なりの保育観を持つ。</p>
授業の概要	<p>教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い演習を行う。</p> <p>テキストは指定するが、個人の学習レベルに応じてその他の教材も適宜、紹介する。</p>
評価方法	<p>課題50%</p> <p>テスト50%</p> <p>により評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	<p>「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社</p> <p>「標準バイエルピアノ教則本」</p> <p>「一人一人を大切にユニバーサルデザインの音楽表現」星山麻木編著 板野和彦著 崩文書林等</p> <p>尚、個人指導のためテキストは担当教員より適宜、指示される。</p>
参考書	<p>「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社</p> <p>「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ等</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	毎回の授業で学生自身が弾き歌い演奏、ピアノ演奏を行う。

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には音楽練習室、メール等で随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	ピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、 4時間の復習を課す。	
2	こどものうた1 ピアノレッスン 生活のうた(おべんとう)	『おべんとう』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
3	こどものうた2 ピアノレッスン 生活のうた(あさのうた)	『あさのうた』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
4	こどものうた3 ピアノレッスン 生活のうた(かえりのうた)	『かえりのうた』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
5	こどものうた4 ピアノレッスン 生活のうた(おむねをはりましょ)	『おむねをはりましょ』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
6	こどものうた5 ピアノレッスン 春のうた(ぶんぶんぶん)	『ぶんぶんぶん』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
7	こどものうた6 ピアノレッスン 季節外のうた(おおきなたいこ)	『おおきなたいこ』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
8	こどものうた7 ピアノレッスン 夏のうた(かたつむり)	『かたつむり』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
9	こどものうた8 ピアノレッスン 夏のうた(あめふりくまのこ)	『あめふりくまのこ』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
10	こどものうた9 ピアノレッスン	『こおろぎ』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
11	こどものうた10 ピアノレッスン 秋のうた(まっかな秋)	『まっかな秋』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
12	こどものうた11 ピアノレッスン	『お正月』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
13	こどものうた12 ピアノレッスン 冬のうた(ジングルベル)	『ジングルベル』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
14	こどものうた13 ピアノレッスン 行事のうた(うれしいひなまつり, 1ねんせいになったら)	『うれしいひなまつり』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。 『1ねんせいになったら』の弾き歌い。	
15	テスト	ピアノによるこどものうた弾き歌いテストを行う。	

開講科目名 Course	音楽演習IB(近藤)
時間割コード Course Code	50757
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	近藤 加奈子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 C レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	近藤 加奈子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>知識・理解の領域 2年次での幼稚園教育実習に向けて、ピアノの弾き歌いができるよう、コードネーム伴奏、読譜力などを身に付ける。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 子どもと音楽を通してかかわる方法について、自分なりの保育観を持つ。</p>
授業の概要	<p>教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い演習を行う。</p> <p>テキストは指定するが、個人の学習レベルに応じてその他の教材も適宜、紹介する。</p>
評価方法	<p>課題50%</p> <p>テスト50%</p> <p>により評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	<p>「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社</p> <p>「標準バイエルピアノ教則本」</p> <p>「一人一人を大切にユニバーサルデザインの音楽表現」星山麻木編著 板野和彦著 崩文書林等</p> <p>尚、個人指導のためテキストは担当教員より適宜、指示される。</p>
参考書	<p>「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社</p> <p>「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ等</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	毎回の授業で学生自身が弾き歌い演奏、ピアノ演奏を行う。

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には音楽練習室、メール等で随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	ピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、 4時間の復習を課す。	
2	こどものうた1 ピアノレッスン 生活のうた(おべんとう)	『おべんとう』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
3	こどものうた2 ピアノレッスン 生活のうた(あさのうた)	『あさのうた』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
4	こどものうた3 ピアノレッスン 生活のうた(かえりのうた)	『かえりのうた』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
5	こどものうた4 ピアノレッスン 生活のうた(おむねをはりましょ)	『おむねをはりましょ』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
6	こどものうた5 ピアノレッスン 春のうた(ぶんぶんぶん)	『ぶんぶんぶん』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
7	こどものうた6 ピアノレッスン 季節外のうた(おおきなたいこ)	『おおきなたいこ』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
8	こどものうた7 ピアノレッスン 夏のうた(かたつむり)	『かたつむり』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
9	こどものうた8 ピアノレッスン 夏のうた(あめふりくまのこ)	『あめふりくまのこ』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
10	こどものうた9 ピアノレッスン	『こおろぎ』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
11	こどものうた10 ピアノレッスン 秋のうた(まっかな秋)	『まっかな秋』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
12	こどものうた11 ピアノレッスン	『お正月』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
13	こどものうた12 ピアノレッスン 冬のうた(ジングルベル)	『ジングルベル』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
14	こどものうた13 ピアノレッスン 行事のうた(うれしいひなまつり, 1ねんせいになったら)	『うれしいひなまつり』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。 『1ねんせいになったら』の弾き歌い。	
15	テスト	ピアノによるこどものうた弾き歌いテストを行う。	

開講科目名 Course	音楽演習IB(高橋)
時間割コード Course Code	50758
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高橋 恵理
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 D レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 恵理 (教育保育学科)
授業の目標	<p>知識・理解の領域 2年次での幼稚園教育実習に向けて、ピアノの弾き歌いができるよう、コードネーム伴奏、読譜力などを身に付ける。</p> <p>技能の領域 教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 子どもと音楽を通してかかわる方法について、自分なりの保育観を持つ。</p>
授業の概要	<p>教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ピアノ演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ伴奏による弾き歌い演習を行う。</p> <p>テキストは指定するが、個人の学習レベルに応じてその他の教材も適宜、紹介する。</p>
評価方法	<p>課題50%</p> <p>テスト50%</p> <p>により評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	<p>「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社</p> <p>「標準バイエルピアノ教則本」</p> <p>「一人一人を大切にユニバーサルデザインの音楽表現」星山麻木編著 板野和彦著 崩文書林等</p> <p>尚、個人指導のためテキストは担当教員より適宜、指示される。</p>
参考書	<p>「こどものうた200」小林美実・編 チャイルド本社</p> <p>「保育の四季 歌のカレンダー」伊藤嘉子・小川宜子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎編 エー・ティ・エヌ等</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	毎回の授業で学生自身が弾き歌い演奏、ピアノ演奏を行う。

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 保育士研修や子育て応援講座の講師、また演奏家としての経験がある教員が、保育者として音楽をどのように活かすかの指導を行っている科目である。
質問への対応方法	質問には音楽練習室、メール等で随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	ピアノレッスンの受講方法、マナー、評価方法、 4時間の復習を課す。	
2	こどものうた1 ピアノレッスン 生活のうた(おべんとう)	『おべんとう』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
3	こどものうた2 ピアノレッスン 生活のうた(あさのうた)	『あさのうた』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
4	こどものうた3 ピアノレッスン 生活のうた(かえりのうた)	『かえりのうた』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
5	こどものうた4 ピアノレッスン 生活のうた(おむねをはりましょ)	『おむねをはりましょ』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
6	こどものうた5 ピアノレッスン 春のうた(ぶんぶんぶん)	『ぶんぶんぶん』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
7	こどものうた6 ピアノレッスン 季節外のうた(おおきなたいこ)	『おおきなたいこ』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
8	こどものうた7 ピアノレッスン 夏のうた(かたつむり)	『かたつむり』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
9	こどものうた8 ピアノレッスン 夏のうた(あめふりくまのこ)	『あめふりくまのこ』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
10	こどものうた9 ピアノレッスン	『こおろぎ』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
11	こどものうた10 ピアノレッスン 秋のうた(まっかな秋)	『まっかな秋』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
12	こどものうた11 ピアノレッスン	『お正月』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
13	こどものうた12 ピアノレッスン 冬のうた(ジングルベル)	『ジングルベル』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。	
14	こどものうた13 ピアノレッスン 行事のうた(うれしいひなまつり, 1ねんせいになったら)	『うれしいひなまつり』の弾き歌い。 2時間の予習と2時間の復習を課す。 『1ねんせいになったら』の弾き歌い。	
15	テスト	ピアノによるこどものうた弾き歌いテストを行う。	

開講科目名 Course	音楽演習II / Music Practice II
時間割コード Course Code	50770
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 2 E レッスン室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	子どもの育ちを音楽で支えるために必要なピアノ演奏技術を修得する。また、生活の歌だけでなく、発表会・運動会・卒園式といった行事に必要な曲、季節の曲の演奏法及び技術を学ぶ。子どもの育ちを音楽で支えるために必要なピアノ演奏技術を修得する。また、生活の歌だけでなく、発表会・運動会・卒園式といった行事に必要な曲、季節の曲の演奏法及び技術を学ぶ。
授業の概要	ピアノの個人レッスンにより、保育に必要な音楽技術・技能を学ぶ。また、伴奏が複雑な曲や、就職試験によく課される季節の歌も多く取り入れ、弾き歌いの技術を学ぶ。
評価方法	授業への参加、課題、発表により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回の授業のうち、6回以上の欠席で失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	適宜指定する。
参考書	『歌のカレンダール』伊藤嘉子・小川宣子・妹尾美智子・長柄孝彦・早川史郎 編 エー・ティー・エヌ 1,800円+税 『保育のためのマーチ・スキップ・ギャロップ・ワルツ・リズム集』 茂田すすむ編著 全音楽譜出版社 2,500円+税
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	毎回の授業で学生が主体的に選曲、練習、発表を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	音楽練習室にて随時対応する。
フィードバックの方法	研究室、メール等で随時対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	春の歌・マーチを学ぶ	「かめの遠足」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
2	夏の歌・マーチを学ぶ	「南の島のハメハメハ大王」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
3	秋の歌・かけあしの曲を学ぶ1	「まっかな秋」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
4	秋の歌・かけあしの曲を学ぶ2	「きのこ」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
5	冬の歌・スキップの曲を学ぶ	「たきび」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
6	楽器のピアノ伴奏・スキップの曲を学ぶ	「おもちゃのチャチャチャ」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
7	コードによる伴奏・ワルツを学ぶ1	「せかいじゅうのこどもたちが」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
8	コードによる伴奏・ワルツを学ぶ2	「ハッピーチルドレン」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
9	映画の音楽・揺れる曲を学ぶ	「星に願いを」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
10	映画の音楽・動物の動きの曲を学ぶ	「小さな世界」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
11	短調の曲を学ぶ	「うれしいひなまつり」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
12	卒園式の曲・体操の曲を学ぶ1	「1ねんせいになったら」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
13	卒園式の曲・体操の曲を学ぶ2	「ドキドキドン!一年生」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
14	卒園式の曲・わらべうたを学ぶ	「おもいでアルバム」等 毎日30分以上の予習復習を課す。	
15	ふりかえり		

開講科目名 Course	保育実習(保育所)
時間割コード Course Code	50860
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	楯 誠
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	楯 誠(教育保育学科)、長江 美津子(教育保育学科)
授業の目標	<p>実際の保育所における体験を通じて、児童福祉施設としての保育所の社会的機能を理解する。また、実習を通して乳幼児の理解を深め、保育士という職務に対する認識を深める。実習において、学内で学んだ知識・技能を実践し、その結果から、これからさらに学習していくべき自分の課題を見つけることも、この実習科目の大きな目標である。</p> <p>この実習を通して、保育所における子どもの生活や、保育士の役割を知ることができる。また、保育に参加することで、これまで身に着けた保育技能を実践する機会が得られるとともに、自らの課題を体験することができる。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所という場所の機能、およびその現状がおおまかに分かる。 ・保育所で生活する子どもの姿がおおまかに分かる。 ・保育所で働く保育士の職務がおおまかに分かる。 <p>【技能の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育環境の整備に主体的に関与することができるようになる。 ・子どもの発達に応じた保育内容の基礎的事項を記録することができるようになる。 ・保育士の指示に従って、保育内容の一部を実践できるようになる。 <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職としての保育士の職務について、積極的に学ぶ姿勢が身につく。
授業の概要	<p>2週間の期間で、「見学・観察」「参加」「部分」「指導」の各段階の実習を行う。この中には、毎日の「日誌」の記載のほか、「部分案」「日案」の立案など、実習の展開にあわせて取り組まなければならない課題が含まれている。</p> <p>このほか、実習に関する留意事項は、「保育実習指導1」の時間に行うオリエンテーションで詳しく説明する。</p> <p>。この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>実習園が記載した「評価表」(80%)をもとにして、各種提出物(実習日誌、反省会記録など)(20%)を考慮に入れて総合的に判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習指導1の授業で配布された「実習のてびき」に記載された不合格基準に抵触した場合は、単位は認定されない。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園に提出した「誓約書」に反する振る舞いをした場合は、途中で実習を打ち切り失格となる。 ・実習先職員の指導に従わない場合は、失格となる。 ・遅刻や無断欠勤をしたり、実習態度が不適切と教員や実習先職員が判断した場合には、途中で実習を打ち切り失格とする。
授業計画	保育所における、「見学・観察」「参加」「部分」「指導」の各段階の実習を行う。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	保育所での学外実習となる。保育所における保育の観察、参加を行う。また、一部活動の主担当者として保育士に代わって行う「部分実習」、一日の保育を主担当者として行う「指導実習」が主な内容となる。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	実習に関する質問(ガイダンス)は、保育実習指導1で受け付ける。実習内容そのものの質問は、各実習園にて尋ねることとする。
フィードバックの方法	実習の結果のフィードバックは保育実習指導1の事後指導を通して行われる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	保育所実習は1日8時間の保育所内での実習と、最低1時間以上の準備学習(日誌や指導案、教材作成など)が必要となる。2週間の実習では、合計して最低90時間以上の学習を行うことになる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 貧困をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	<ul style="list-style-type: none"> 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	保育実習III
時間割コード Course Code	50900
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ (教育保育学科)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 実習における自己の課題を理解する。
授業の概要	<p>この授業科目は、保育所以外の児童福祉施設等の実践現場で行う実習科目である。また、保育士養成課程の選択必修科目であり、保育所で行う「保育実習2」との間で、いずれかを履修することが保育士資格取得のために必要である。</p> <p>なお、この授業は「保育実習指導3」と連動している。</p> <p>実習内容は、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2. 施設における支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども（利用者）理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子ども（利用者）の家族への支援と対応 (5) 各施設における多様な専門職との連携・協働 (6) 地域社会との連携・協働 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習登録手続きに関する状況、2. 事前の書類（細菌検査・オリエンテーション報告書など）提出の状況、3. 実習中の状況（巡回指導時の状況も含む）、4. 実習への参加状況、5. 実習先からの実習評価、6. 実習日誌提出、事後に必要な書類提出（お礼状・欠席届など）の状況、7. 実習日誌の記述内容をもとに総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	実習先施設職員の指導に従わない場合は失格とする。
授業計画	<p>実習期間及び、その前後において以下のことを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現地オリエンテーションの実施及び必要な準備 2. 現地実習 3. お礼状の送付 4. 日誌の受け取り
テキスト	
参考書	

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	適宜メール等で対応する。
フィードバックの方法	訪問指導やメールにより対応する。 実習施設からの評価については、対面にて個別指導を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前事後の学習については、「保育実習指導3」と連動しつつ、実習中については、その日の実習の振り返りや翌日の実習課題の発見のための時間が必要となる。おおよそ、1日1時間は必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	9.実践力

開講科目名 Course	保育実習指導III
時間割コード Course Code	50907
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ (教育保育学科)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習による総合的な学び <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (2) 子どもの保育と保護者支援 2. 保育実践力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの状態に応じた適切なかわり (2) 保育の表現技術を生かした保育実践 3. 計画と観察、記録、自己評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 4. 保育士の専門性と職業倫理 5. 事後指導における実習の総括と評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習登録手続きに関する状況、2. 事前の書類 (細菌検査・オリエンテーション報告書など) 提出の状況、3. 実習中の状況 (巡回指導時の状況も含む)、4. 実習への参加状況、5. 実習先からの実習評価、6. 実習日誌提出、事後に必要な書類提出 (お礼状・欠席届など) の状況、7. 実習日誌の記述内容をもとに総合的に評価する。 <p>授業確認後、出席確認後、授業開始時刻より20分以内の授業参加は遅刻とする。それ以降の参加は欠席とみなす。2回の遅刻をもって1回の欠席とする。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>実習前の欠席が3回以上となった場合は失格とする。</p> <p>実習後の欠席が3回以上となった場合も失格とする。</p> <p>課題について、期日までの提出がない場合も失格とする。</p>

授業計画	「保育実習（施設）」で学んだことを振り返ったうえで、目標に掲げたことについて、少人数、あるいは個別指導で学ぶ。 第1回 オリエンテーション 第2回 「保育実習（施設）」の振り返り 第3～4回 実習施設についての事前学習・事前の書類に関するガイダンス 第5回 実習目標の設定・事前の書類に関するガイダンス 第6回 実習目標について・日誌について 第7回 記録について 第8回 実習後の手続きについて 第9回 実習後の振り返り 第10～11回 事例検討 第12回 事後指導 第13～14回 事例検討 第15回 まとめ
テキスト	愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会編『保育士をめざす人の福祉施設実習』みらい
参考書	『保育福祉小六法 2023年版』みらい
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	事例検討
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	必要に応じて、適宜対応する。
フィードバックの方法	課題については、その都度、コメントと共に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習前においては、実習施設についての情報収集や実習に向けての自己分析などに授業前後で1時間要する。実習後においては、振り返りシートの記入や事例検討に向けての準備など授業前後で1時間を要する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 7. 課題発見力

開講科目名 Course	実習基礎I
時間割コード Course Code	50909
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	東岡 博
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	多川 則子 (教育保育学科)、東岡 博 (教育保育学科)、早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	<p>本科目と実習基礎 (後期)の単位修得がすべての本実習に出るための基礎要件となる。6月初旬に、保育者(幼稚園教諭・保育士)か小学校教諭のいずれを目指すかの進路選択を行う。</p> <p>保育者・小学校教員の仕事や対象となる子どもについて知り、進路選択に従って、一人ひとりが保育者・小学校教員になるという自覚を持ち、将来へのビジョンを形成する。同時に、自分自身がどのような資質・能力を持つべきかに気づく。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者・小学校教員のそれぞれの仕事について概要を知る。仕事内容、先生の様子、対象となる子どもの様子について知る。(特に進路選択前) ・就学前の保育と小学校教育の共通の要素(基盤になる部分)に気づく。子どもの発達年齢を考えることの重要性、子どもの成長や発達に連続的であること、本学科の教育理念であるエデュケーションの考えの重要性、子どもの意欲・関心を引き出すことの重要性等。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちを支援することのすばらしさやおもしろさを実感する。 ・現場の見学や体験を通して、マナーや学びの姿勢を身につける。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者・小学校教員として必要な資質・能力に気づく。
授業の概要	<p>進路選択までは、保育者・小学校教員の仕事について概要を理解するためのプログラムを中心に実施する。進路選択後は、実践的なプログラムを通して、保育者・小学校教員に必要な資質・能力に気づく。また、現場見学を通して、施設の環境を知り、その意図に気づくことをねらいとした課題に取り組む。同時に、保育者・教育者として、あるいは、実習生としての学び続ける姿勢やマナーを学ぶ。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>単位修得の要件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) テーマ毎にある一般課題(毎回必ずあるわけではない)をすべて合格すること。 2) 学期末に出す最終課題に合格すること。最後の授業で指示する。 3) 授業への出席が10回以上あること。メロス上の出欠記録の「○」が10回以上あることとする。 <p>なお、保育・教育関連施設での見学や体験が実施された場合は、原則、それらに参加し、課題に合格することも含まれる。</p> <p>課題評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的・意欲的に学習に取り組んでいるかどうか 2) 学習の目的を理解し、取り組んでいるかどうか 3) 保育者・教育者の役割について理解したうえで適切な自己評価ができているかどうか。 <p>成績標語について G(合格)/S(不合格)での評価となる。</p> <p>本科目では、授業外に実施する保育・教育に関する施設の見学や体験を含め、すべての課題をクリアすることが単位修得の要件である。不備がある場合は課題の再提出や補充課題等を課す場合もある。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	保育者・教育者としての適格性を欠く態度や行動が見られた場合は失格とする。 (なお、評価方法に記載の単位修得の要件も参照のこと)
授業計画	第1回 前期オリエンテーション 第2回 保育士・幼稚園教諭に関するDVD 第3回 小学校の先生のビデオ講話 第4回 児童養護施設職員DVD 第5回 現職保育士のお話 第6回 附属幼稚園の先生のお話 第7回 進路選択調査ガイダンス・手作りおもちゃガイダンス 第8回 自己紹介課題 ガイダンス 第9回 自己紹介課題 発表 第10回 絵本講話 第11回 手作りおもちゃ発表会 第12回 保育環境見学ガイダンス 第13回 保育環境見学 第14回 保育環境見学課題振り返り 第15回 期末課題・授業評価アンケート 見学体験実習は授業時間外に行う。
テキスト	
参考書	「学びつづける保育者を目指す実習の本 保育所・施設・幼稚園」久富陽子編著 萌文書林 2014年 「よくわかるNew保育・教育実習テキスト 改訂第3版」無藤 隆 (監修) 診断と治療社 2017年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ単位のディスカッション、グループ毎(全体)に発表。 保育現場・小学校現場への見学や体験実習。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	現場と連携した授業内容(現場への見学、現場での体験実習、講話など)
質問への対応方法	随時対応 メール対応 多川則子 tagawa@nagoya-ku.ac.jp 東岡博 higashioka-h@nagoya-ku.ac.jp (もう1名の担当教員メールアドレスは授業時に提示する)
フィードバックの方法	適宜、各課題の振り返りを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	幼稚園、保育所、小学校への見学や体験実習(3時間) 見学や体験の準備と課題実施(7時間) 一般課題と最終課題の実施(35時間)、授業の復習(15時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 5.自信創出力 6.行動持続力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	幼稚園教育実習II
時間割コード Course Code	50941
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁(教育保育学科)、小島 千枝(教育保育学科)
授業の目標	<p>学外の教育実習協力幼稚園において、教育実習を実地体験する。 大学で学習した知識、技能、態度に基づいて、大学では得られない知識、技能、態度を、実習園で集中的に学習する。</p> <p>知識・理解の領域 幼稚園の役割や保育者の責務を理解する。 保育者に求められる実践的な知識と技術を習得する。 園生活の一日の流れを理解した上で、保育者としての役割を理解する。</p> <p>技能の領域 園生活の流れに則って、教育活動・保育実践を行う。</p> <p>態度・志向性の領域 保育者としての資質や態度を身につける。</p> <p>(以上、愛知県私立幼稚園連名・愛知県保育実習連絡協議会「幼稚園教育実習要項」参照)</p>
授業の概要	それぞれの実習園の指導に従い、見学・観察、参加、部分、指導実習をさらに体験する。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	実習園の服務規定に服する。 評価については、実習園の評価表、出席などを考慮しながら、総合的に判断する。 幼稚園教職課程履修費の納入をもって履修登録となる。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	幼稚園での教育実習(見学・観察、参加、部分、指導実習)を行う。
テキスト	なし。
参考書	なし。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学外の幼稚園について実習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問には随時対応する。

フィードバックの方法	メール、電話等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に応じて事前事後学習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	生徒・進路指導論
時間割コード Course Code	51046
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	飯田 勝巳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 勝巳 (管理栄養学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導は、個性の伸長を図りながら、主体的に社会の中で有意義に活動できる人間を育てることであることを理解し、自身の歩みと重ね合わせながらこれからの将来のあり方考えることができる。 ・児童が抱える今日的な課題と生徒指導の意義を知り、生徒理解や集団指導、個別指導の役割とその指導の方法や授業の在り方を実践を通して理解する。 ・個別の課題を抱える生徒の特徴を知り、その子に応じた指導方法とともに学校の生徒指導体制や関係機関との連携協力体制の構築が重要であることを理解し、グループワークを通して多様に考えることができる。 ・キャリア教育(進路指導)の必要性や意義を理解し、キャリア教育(進路指導)で育つべき「基礎的・汎用的能力」について事例を通し理解するとともに、キャリア・カウンセリングの在り方や方法を理解する。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の意義を知り、生徒指導の3つの機能を生かした教科や特別活動等の授業を実践を通して学習する。 ・今日的課題となっている「基本的生活習慣の育成」や「規範意識の確立」「いじめ、不登校への対応」「発達障害の生徒への理解と対応」「校則と懲戒、体罰」等の問題について、それぞれの事例をもとにグループワークやディスカッションを通し協議する。 ・教育相談の教育的意義や人間関係構築を支援する方法を演習を通して体験する。 ・キャリア教育(進路指導)の意義や育つべき能力について理解し、キャリア・カウンセリングの方法を考える。 ・教師として教育理念や指導力向上が重要であることを知り、学年集会や全校集会等での指導講話の立案・実践をし、相互に評価し合う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加姿勢 20% (毎回授業時に配布する)学習プリントの書き込み度 30% ・課題に対する内容(ほめ言葉20、講話発表、グループ作成等) 20% ・指導講話原稿 10% ・授業の振り返りプリント 10% ・記述課題 10%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	<p>第1回 生徒指導の意義と課題、及び オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中高時代の生徒指導に対するイメージをもとに生徒指導の意義・目的を見つけ出す。 ・ オリエンテーション（シラバスの内容、学習の約束事、評価方法・テストについて等） <p>第2回 教科における生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導は、生徒事故対応が主でなく未然防止が重要であることを理解し、教科や道徳と生徒指導の関わり、協同的な学びと「分かる・できる授業」について考える。 <p>第3回 生徒指導と生徒理解1 自主的・自立的な選択・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導の基本は生徒理解であることを知り、自主性と自律性を育む「授業・個の理解・褒める・叱る」の組み合わせを模擬授業を通して考える。 <p>第4回 生徒指導と生徒理解2 生徒指導の3機能と個別指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己存在感、共感的関係、自己決定の場の重要性を理解し、個を生かすための「褒める言葉」をグループワークを通して見つけ出す。 <p>第5回 教育相談1 教育相談の意義と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談に用いるカウンセリング技法を体験し、教育相談の意義と個別指導の方法を理解する。 <p>第6回 教育相談2 人間関係を構築する生徒指導の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャル・スキル・トレーニングやソーシャル・エモーショナル・ラーニング 等による人間関係の構築を演習を通して理解し、生徒指導・教育相談に生かせるようにする。 <p>第7回 個別の課題を抱える児童生徒への指導1 ケーススタディ「いじめ、不登校」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ、不登校の生まれる背景を理解し、事例をもとに生徒や保護者への対応、校内の協力体制、関係機関との連携について考える。 <p>第8回 個別の課題を抱える児童生徒への指導2 ケーススタディ「発達障害の生徒」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害のある生徒の特長とその対応について理解し、事例をもとに生徒や保護者への対応、校内の協力体制、関係機関との連携について考える。 <p>第9回 生徒指導に関する法制度 校則と懲戒、体罰</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 懲戒、体罰について法的根拠やその内容を理解し、問題となる事例を通して社会通念上合理的と認められる指導であるか否かを考える。 <p>第10回 生徒指導と進路指導1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育(進路指導)の必要性や意義を理解し、キャリア教育(進路指導)で育つべき「基礎的・汎用的能力」について事例を通し考える。 <p>第11回 生徒指導と進路指導2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育(進路指導)における「学校から社会・職業への移行」について、自立(精神的自立、生活的自立、経済的自立、社会的自立)をグループワークを通して理解する。 <p>第12回 生徒指導と集団指導 集団指導の意義と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団指導の教育的意義や個別指導とのバランスを理解し、集団指導における指導講話について考える。 <p>第13回 生徒指導と教師の指導力1(指導講話の作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象者(中学生、高校生、保護者)を決め、集会場面(学年集会、全校集会、PTA集会)を想定して、いじめ問題や校則指導等のテーマに基づき、これまでの学習を生かし指導講話を個々で作成する。 <p>第14回 生徒指導と教師の指導力2(指導講話発表と相互評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個々で作成した指導講話を教師になったつもりで発表しそれぞれの良い点を相互評価する。 <p>第15回 生徒指導・進路指導の振り返りと評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の内容を振り返りまとめる。授業を通しての学んだことを作文する。
テキスト	<p>「生徒指導提要」令和4年12月文部科学省版 東洋館出版社 出版予定：2023年3月27日</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループで与えられた課題を議論し発表し、それをもとに全体で論議し個々の考えを深める。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	翌週返却

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1回 生徒指導の意義と課題 教育過程における位置付け 2回 教科における生徒指導 学習ルールについての考えをまとめておく 3回 基本的な生活習慣の確立 校内規律に関する指導の基本テキスト 4回 子を生かす褒める言葉を50個考えてくる 5回 教育相談の意義と課題 6回 教育相談の進め方 7回 個別の課題を抱える児童生徒への指導（いじめ、不登校） 8回 個別の課題を抱える児童生徒への指導（発達障害の生徒） 9回 校則に関する法制度 10回 基礎的・汎用的能力について復習する。 11回 進路選択の能力の育成、教育相談の体制づくり 12回 集団指導と個人指導の方法原理 13回 集団指導としての生徒指導講話を考えてくる 14回 作成した生徒指導講話のスピーチ練習をしてくる 15回 これまでの生徒指導に関わる学習の総復習 8回 個別の課題を抱える児童生徒への指導（発達障害の生徒） 9回 校則に関する法制度 10回 基礎的・汎用的能力について復習する。 11回 進路選択の能力の育成、教育相談の体制づくり 12回 集団指導と個人指導の方法原理 13回 集団指導としての生徒指導講話を考えてくる 14回 作成した生徒指導講話のスピーチ練習をしてくる 15回 これまでの生徒指導に関わる学習の総復習
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 5.ジェンダー平等を実現しよう 8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 4.感情制御力 7.課題発見力

開講科目名 Course	特別活動・総合的な学習の時間の指導法
時間割コード Course Code	51050
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	鎌倉 博
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	鎌倉 博 (教育保育学科)
授業の目標	<p>学校教育活動には、教科教育と教科外教育の2つがあります。本講座は、教科書等の資料を活用し、年間学習指導計画に基づいて系統的に教育活動を展開する教科教育とは別の、教科外としての「特別活動」及び「総合的な学習の時間」についての認識を深め、その指導法について学んでいきます。</p> <p>。知識・理解の領域 「特別活動とは」「総合的な学習の時間とは」そもそもどのような意義をもつ教育活動であるのかが理解できるようになる。</p> <p>技能の領域 児童・生徒の視点に立って特別活動及び総合的な学習の時間を展開できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 児童・生徒の視点に立って特別活動及び総合的な学習の時間を展開しようとする指導性が発揮できるようになる。</p> <p>思考判断の領域 児童・生徒の視点に立って特別活動や総合的な学習の時間を展開していくための題材を見出すことができるようになる。</p> <p>関心意欲の領域 児童・生徒の視点に立った多様な特別活動や総合的な学習の時間の実践事例に自ら触れていこうとする意欲が持てるようになる。</p> <p>体験探求の領域 児童・生徒の視点に立った多様な特別活動や総合的な学習の時間の実践事例に自ら触れていくことで、よりよい教育活動を展開するイメージを深めていくことができるようになる。</p>
授業の概要	<p>現代社会・地域・学校生活における課題や自己の生き方について考え深めながら、児童・生徒達が主体的に問題解決・自己実現していけるような資質を育ていける特別活動や総合的な学習の時間とはどのような教育活動であるのかを、学習指導要領の理解とともに実践記録にも触れながら深め、その指導がイメージできるようにしていきます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>小テスト・ミニレポート課題 80%</p> <p>読後レポート 20%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が12回に満たない場合

授業計画	<p>第1回：「特別活動」とは</p> <p>第2回：児童・生徒の視点での学級づくり</p> <p>第3回：児童・生徒の視点での児童・生徒会活動</p> <p>第4回：児童・生徒の視点での学校行事</p> <p>第5回：児童・生徒の視点でのクラブ活動・部活動</p> <p>第6回：児童・生徒の視点での生活指導</p> <p>第7回：「総合的な学習の時間」とは</p> <p>第8回：地域の活性化に着目する総合的な学習の時間</p> <p>第9回：環境問題を考える総合的な学習の時間</p> <p>第10回：世界の中の日本を考える総合的な学習の時間</p> <p>第11回：人権を考える総合的な学習の時間</p> <p>第12回：実践記録に学ぶ【レポート作成】</p> <p>第13回：国際問題を考える総合的な学習の時間</p> <p>第14回：総合的な学習の時間の指導案</p> <p>第15回：全体のまとめ</p>
テキスト	<p>鎌倉博『きらめく小学生 自由な教育の中で育つ子どもたち』（合同出版）</p> <p>23年間勤めてきた私立小学校では1980年代から総合学習（現「総合的な学習の時間」）に取り組んできていました。その実践として「地域活性化」「河川環境保全」「沖縄」「障がい者理解」を題材に探究していました。小学校でももちろん、中学・高校でも取り組めると評されている実践記録集です。</p>
参考書	<p>小学校学習指導要領（平成29年告示）、中学校学習指導要領（平成29年告示）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）のいずれかの「特別活動」及び「総合的な学習の時間（高校は「総合的な探究の時間」）」の解説書</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>特別活動や総合的な学習の時間で題材としたいテーマについて、児童・生徒の視点で考えるディスカッションを行います。</p> <p>ありきたりでない特別活動や総合的な学習の時間の題材と展開を考えていく意味での教材研究を体験していけるようテキストの読み込みとそのレポート作成を行ってまいります。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	<p>33年間小学校教員を務め、実際に特別活動及び総合学習（現「総合的な学習の時間」）を展開し指導してきました。本属校でも「総合的な学習の時間の指導法」の授業を担当しています。</p>
質問への対応方法	<p>授業時に随時質問できます。遠慮なく質問してください。</p> <p>授業外で急ぎ質問や相談がしたくなった場合にはメールも活用できるようにします。</p> <p>アドレスは授業で伝えます。</p>
フィードバックの方法	<p>毎回の小テスト・ミニレポート課題及びレポートは最終的に返却します。</p> <p>授業でそれらでの全体的な講評も各回でしていきます。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>1 「特別活動」とは 該当学校の学習指導要領の「特別活動」の項目を読み込む。 2時間</p> <p>2 児童・生徒の視点での学級づくり 自身が体験してきた学級を振り返り、好ましいあり方を考え深める。 2時間</p> <p>3 児童・生徒の視点での児童・生徒会活動 自身が体験してきた児童・生徒会を振り返り、好ましいあり方を考え深める。 2時間</p> <p>4 児童・生徒の視点での学校行事 自身が体験してきた学校行事を振り返り、好ましいあり方を考え深める。 2時間</p> <p>5 児童・生徒の視点でのクラブ活動・部活動 自身が体験してきたクラブ活動を振り返り、好ましいあり方を考え深める。 2時間</p> <p>6 児童・生徒の視点での生活指導 自身が体験してきた生活指導を振り返り、好ましいあり方を考え深める。 2時間</p> <p>7 「総合的な学習の時間」とは 該当学校の学習指導要領の「総合的な学習（探究）の時間」の項目を読み込む。 2時間</p> <p>8 地域の活性化に着目する総合的な学習の時間 テキストpp.88～124を読み、地域の活性化に着目する探究学習のあり方を考え深める。 2時間</p> <p>9 環境問題を考える総合的な学習の時間 テキストpp.124～155を読み、河川環境保全に着目する探究学習のあり方を考え深める。 2時間</p> <p>10 世界の中の日本を考える総合的な学習の時間 テキストのpp.158～pp.190を読み、沖縄に着目する探究学習のあり方を考え深める。 2時間</p> <p>11 人権を考える総合的な学習の時間 テキストのpp.191～pp.236を読み、障がい者理解に着目する探究学習のあり方を考え深める。 2時間</p> <p>12 実践記録に学ぶ（レポート作成） 読んだテキストを自分で分析し、整理した内容を活字化する。 2時間</p> <p>13 国際問題を考える総合的な学習の時間 新聞等に目を向け、総合的な学習の時間の探究題材にできないか調べる。 2時間</p> <p>14 総合的な学習の時間の指導案 授業配布資料を読み、児童・生徒間、児童・生徒と教員が話し合いながらよりよい学校生活を築いていく取り組みを考え深める。 2時間</p> <p>15 全体のまとめ 本講義全体を振り返って、児童・生徒の視点で展開する特別活動及び総合的な学習の時間のあり方を考え深める。 2時間</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 13.気候変動に具体的な対策を 14.海の豊かさを守ろう 16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	「特別活動」とは	該当学校の学習指導要領の「特別活動」の位置づけ、学習目標、内容、評定の仕方を学ぶ。	学習指導要領を活用する
2	児童・生徒の視点での学級づくり	好ましい学級づくりのあり方を学び考え深める。	配布資料を活用する
3	児童・生徒の視点での児童・生徒会活動	好ましい児童・生徒会あり方を学び考え深める。	配布資料を活用する
4	児童・生徒の視点での学校行事	好ましい学校行事のあり方を学び考え深める。	テキストを活用する
5	児童・生徒の視点でのクラブ活動・部活動	好ましいクラブ活動・部活動のあり方を学び考え深める。	配布資料を活用する
6	児童・生徒の視点での生活指導	好ましい生活指導のあり方を学び考え深める。	配布資料を活用する
7	「総合的な学習の時間」とは	該当学校の学習指導要領上の「総合的な学習(探究)の時間」の位置づけ、学習目標、内容、評定の仕方を学ぶ。	学習指導要領を活用する
8	地域の活性化に着目する総合的な学習の時間	地域の題材に着目する探究学習の内容と展開を学び考え深める。	テキストを活用する
9	環境問題を考える総合的な学習の時間	河川環境保全に着目する探究学習の内容と展開を学び考え深める。	テキストを活用する
10	世界の中の日本を考える総合的な学習の時間	沖縄に着目する探究学習の内容と展開を学び考え深める。	テキストを活用する
11	人権を考える総合的な学習の時間	障がい者に着目する探究学習の内容と展開を学び考え深める。	テキストを活用する
12	実践記録に学ぶ【レポート作成】	テキスト読んだ実践記録を分析し、整理した内容を活字化する。	テキストを活用する
13	国際問題を考える総合的な学習の時間	関わり合いを通して国際理解する探究学習の内容と展開を学び考え深める。	配布資料を活用する
14	総合的な学習の時間の指導案	様々な指導計画案に触れ、指導計画案のつくりを理解するとともに、創造的な指導計画をイメージできるようにする。	配布資料を活用する
15	全体のまとめ	本講義全体を振り返って、児童・生徒の視点で展開する特別活動及び総合的な学習の時間のあり方を整理して考え深める。	全ての授業プリントを活用する

開講科目名 Course	乳児保育II(1組)
時間割コード Course Code	51192
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	小島 千枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小島 千枝 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助やかかわりの基本的な考え方について理解する。</p> <p>2、養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。</p> <p>3、乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。</p> <p>4、上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</p> <p>知識の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども主体の保育の理念を理解し、乳児保育の現場での実践と関連づけることができる。 ・子どもの育ちを支えるための環境、援助、配慮などについて、具体的に説明できる。 <p>態度・習慣の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育や関連する社会事象について興味・関心を持つ。 ・乳児の理解に積極的に取り組む。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解した内容を的確に実践する。 ・保育の協働性を理解し、チームワークを身に着ける。
授業の概要	<p>・乳児保育に関する基本的な理解のために、乳児の成育、発達、特徴について学ぶ。知識を保育に生かすための具体的方法・技術について、実際の保育場面に照らし合わせながら実践して身に着ける。その際、理解が深められるよう、関連するビデオ等の教材を必要に応じ視聴する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業中の態度（30％）と課題提出（70％）により総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が10回に満たない場合は、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	はじめて学ぶ乳児保育第三版 志村聡子 編著 同文書院
参考書	保育所保育指針
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の保育に即した演習を行う。 ・グループワークによる学び合いの中で、多様な考え方やチームワークの大切さを学ぶ。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	乳児の発達を知り、乳児期の子育ての大切さを理解し、子どもの最善の利益となる乳児保育を目指す科目である。40年間にわたり、保育所に勤務してきた経験を活かして、実践的な指導を行う。
質問への対応方法	オフィスアワーで対応

フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none">・授業内での実技指導。・課題は、翌週に返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ul style="list-style-type: none">3. すべての人に健康と福祉を4. 質の高い教育をみんなに5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<ul style="list-style-type: none">1. 情報収集力3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	<ul style="list-style-type: none">1. 親和力2. 協同力6. 行動持続力9. 実践力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 乳児保育の基本 授業説明 乳児保育とは	授業の進め方、評価について理解する。 乳児保育?での学びを振り返り、子ども主体の保育の考え方、養護と教育の一体性、保育者の存在の重要性について理解する。	課題：乳児保育における保育者のあり方についてレポートする テキスト p 27 ~ 33 1時間の予習と1時間の復讐を課す
2	乳児保育の基本 乳児保育の一日 保育者との関わり	0歳児、1歳児、2歳児の発達の特徴を理解し、デイリープログラムに沿って、一日の生活を学ぶ。 愛着、受容的・応答的な関わり、信頼関係について、事例を通して学ぶ。	テキスト p 96 ~ 107 1時間の予習と1時間の復讐を課す
3	0歳児の発達と生活・遊びの実際 0歳児の発達	0歳児の成育や発達を復習する。 情緒の安定を図る、健康や安全を守る、環境の変化に対応するなど、0歳児の配慮について、具体的に学ぶ。	テキスト p 130 ~ 133 1時間の予習と1時間の復讐を課す
4	0歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 1	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 各自で繰り返し実践する。	テキスト p 134 ~ 139 1時間の予習と1時間の復讐を課す
5	0歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 2	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 各自で繰り返し実践する。	テキスト p 140 ~ 147 1時間の予習と1時間の復讐を課す
6	0歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 3	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 各自で繰り返し実践する。	課題：0歳児の教材を製作する テキスト p 148 ~ 157 1時間の予習と1時間の復讐を課す
7	1歳児の発達と生活・遊びの実際 1歳児の発達	1歳児の成育や発達を復習する。 情緒の安定を図る、健康や安全を守る、環境の変化に対応する、集団での生活に対応するなど、1歳児の配慮について、具体的に学ぶ。	テキスト p 158 ~ 161 1時間の予習と1時間の復讐を課す
8	1歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 1	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 各自で繰り返し実践する。	テキスト p 74 ~ 81 1時間の予習と1時間の復讐を課す
9	1歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 2	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 各自で繰り返し実践する。	テキスト p 162 ~ 165 1時間の予習と1時間の復讐を課す
10	1歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 3	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 各自で繰り返し実践する。	課題：1歳児の教材を製作する テキスト p 166 ~ 173 1時間の予習と1時間の復讐を課す
11	2歳児の発達と生活・遊びの実際 2歳児の発達	2歳児の成育や発達を復習する。 情緒の安定を図る、健康や安全を守る、環境の変化、移行に対応する、集団での生活に対応するなど、2歳児の配慮について、具体的に学ぶ。	テキスト p 174 ~ 181 1時間の予習と1時間の復讐を課す
12	2歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 1	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 各自で繰り返し実践する。	テキスト p 182 ~ 193 1時間の予習と1時間の復讐を課す

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	2歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 2	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 各自で繰り返し実践する。	課題：2歳児の教材を製作する生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 テキスト p 194 ~ 198 1時間の予習と1時間の復讐を課す
14	計画の実際 生全体的な計画と指導計画	長期的な指導計画と短期的な指導計画、個別計画とクラスの計画について学ぶ。	課題：個別指導計画を作成する。 テキスト p 54 ~ 63 1時間の予習と1時間の復讐を課す
15	保育の連携、保護者との連携	保育者間、保護者、地域の関係機関など、様々な連携について実例から学ぶ。	テキスト p 118 ~ 129 1時間の予習と1時間の復讐を課す

開講科目名 Course	乳児保育II(2組)
時間割コード Course Code	51193
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	小島 千枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小島 千枝 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助やかかわりの基本的な考え方について理解する。</p> <p>2、養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。</p> <p>3、乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。</p> <p>4、上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</p> <p>知識の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども主体の保育の理念を理解し、乳児保育の現場での実践と関連づけることができる。 ・子どもの育ちを支えるための環境、援助、配慮などについて、具体的に説明できる。 <p>態度・習慣の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育や関連する社会事象について興味・関心を持つ。 ・乳児の理解に積極的に取り組む。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解した内容を的確に実践する。 ・保育の協働性を理解し、チームワークを身に着ける。
授業の概要	<p>・乳児保育に関する基本的な理解のために、乳児の成育、発達、特徴について学ぶ。知識を保育に生かすための具体的方法・技術について、実際の保育場面に照らし合わせながら実践して身に着ける。その際、理解が深められるよう、関連するビデオ等の教材を必要に応じ視聴する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業中の態度（30％）と課題提出（70％）により総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が10回に満たない場合は、失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	はじめて学ぶ乳児保育第三版 志村聡子 編著 同文書院
参考書	保育所保育指針
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の保育に即した演習を行う。 ・グループワークによる学び合いの中で、多様な考え方やチームワークの大切さを学ぶ。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	乳児の発達を知り、乳児期の子育ての大切さを理解し、子どもの最善の利益となる乳児保育を目指す科目である。40年間にわたり、保育所に勤務してきた経験を活かして、実践的な指導を行う。
質問への対応方法	オフィスアワーで対応

フィードバックの方法	・授業内での実技指導。 ・課題は、翌週に返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 6.行動持続力 9.実践力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 乳児保育の基本 授業説明 乳児保育とは	授業の進め方、評価について理解する。 乳児保育?での学びを振り返り、子ども主体の保育の考え方、養護と教育の一体性、保育者の存在の重要性について理解する。	課題：乳児保育における保育者のあり方についてレポートする テキスト p 27 ~ 33 1時間の予習と1時間の復讐を課す
2	乳児保育の基本 乳児保育の一日 保育者との関わり	0歳児、1歳児、2歳児の発達の特徴を理解し、デイリープログラムに沿って、一日の生活を学ぶ。 愛着、受容的・応答的な関わり、信頼関係について、事例を通して学ぶ。	テキスト p 96 ~ 107 1時間の予習と1時間の復讐を課す
3	0歳児の発達と生活・遊びの実際 0歳児の発達	0歳児の成育や発達を復習する。 情緒の安定を図る、健康や安全を守る、環境の変化に対応するなど、0歳児の配慮について、具体的に学ぶ。	テキスト p 130 ~ 133 1時間の予習と1時間の復讐を課す
4	0歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 1	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 各自で繰り返し実践する。	テキスト p 134 ~ 139 1時間の予習と1時間の復讐を課す
5	0歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 2	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 各自で繰り返し実践する。	テキスト p 140 ~ 147 1時間の予習と1時間の復讐を課す
6	0歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 3	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 各自で繰り返し実践する。	課題：0歳児の教材を製作する テキスト p 148 ~ 157 1時間の予習と1時間の復讐を課す
7	1歳児の発達と生活・遊びの実際 1歳児の発達	1歳児の成育や発達を復習する。 情緒の安定を図る、健康や安全を守る、環境の変化に対応する、集団での生活に対応するなど、1歳児の配慮について、具体的に学ぶ。	テキスト p 158 ~ 161 1時間の予習と1時間の復讐を課す
8	1歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 1	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 各自で繰り返し実践する。	テキスト p 74 ~ 81 1時間の予習と1時間の復讐を課す
9	1歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 2	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 各自で繰り返し実践する。	テキスト p 162 ~ 165 1時間の予習と1時間の復讐を課す
10	1歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 3	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 各自で繰り返し実践する。	課題：1歳児の教材を製作する テキスト p 166 ~ 173 1時間の予習と1時間の復讐を課す
11	2歳児の発達と生活・遊びの実際 2歳児の発達	2歳児の成育や発達を復習する。 情緒の安定を図る、健康や安全を守る、環境の変化、移行に対応する、集団での生活に対応するなど、2歳児の配慮について、具体的に学ぶ。	テキスト p 174 ~ 181 1時間の予習と1時間の復讐を課す
12	2歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 1	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 各自で繰り返し実践する。	テキスト p 182 ~ 193 1時間の予習と1時間の復讐を課す

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	2歳児の発達と生活・遊びの実際 生活や遊び、その援助の方法、 2	生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 各自で繰り返し実践する。	課題：2歳児の教材を製作する生活、遊びの援助の実際について学ぶ。 テキスト p 194 ~ 198 1時間の予習と1時間の復讐を課す
14	計画の実際 生全体的な計画と指導計画	長期的な指導計画と短期的な指導計画、個別計画とクラスの計画について学ぶ。	課題：個別指導計画を作成する。 テキスト p 54 ~ 63 1時間の予習と1時間の復讐を課す
15	保育の連携、保護者との連携	保育者間、保護者、地域の関係機関など、様々な連携について実例から学ぶ。	テキスト p 118 ~ 129 1時間の予習と1時間の復讐を課す

開講科目名 Course	レクリエーション実技 A / Practice of Recreation A
時間割コード Course Code	51470
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高柳 竜一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	体育館
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高柳 竜一 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもは遊び(レクリエーション)を通して、社会性を身に付けたり、達成感や自己肯定感を味わい成長していくと言える。また遊び(レクリエーション)を介して異年齢児や多世代との交流を促すことができるとも言える。その意味で幼稚園教諭や小学校教諭を目指す学生がレクリエーション支援の方法や理論を学ぶ意義は大きい。</p> <p>子どもと教員・保育者、親子、子ども同士、多世代との交流を促すレクリエーションを学ぶ。特にコミュニケーションワークや身近な生活素材を活かしたレクリエーションを学習して、良好な集団づくりに役立つレクリエーションの実践支援能力(1.レクリエーション支援の方法の理解、2.レクリエーション活動そのものの理解と技術の習得、3.レクリエーション支援の実施)を身につける。</p> <p>本科目は、(公財)日本レクリエーション協会の公認指導者:レクリエーション・インストラクター資格取得に必要な実技科目である。</p>
授業の概要	<p>対面授業にて行う。子どもは遊び(レクリエーション)を通して、社会性を身に付けたり、達成感や自己肯定感を味わい成長していくと言える。また遊び(レクリエーション)を介して異年齢児や多世代との交流を促すことができるとも言える。その意味で幼稚園教諭や小学校教諭を目指す学生がレクリエーション支援の方法や理論を対面授業で学ぶ意義は大きい。</p> <p>レクリエーション・インストラクターに必要な活動領域から、コミュニケーションワーク(アイスブレーキング、ホスピタリティ)をベースに、主に「身近な生活素材」を活かした様々な遊びを体験学習し、その支援能力を習得する。支援実践発表会では、レクリエーション支援者役と対象者役に分かれて、活動現場を想定したレクリエーション支援を実施・評価・改善する。</p> <p>< 1 > 信頼関係づくりの方法 < 2 > 良好な集団づくりの方法 < 3 > 自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法 < 4 > モデル・プログラムの習得 < 5 > レクリエーション活動の習得 < 6 > プログラムの実施と評価及び改善 質問等には随時対応する。</p>
評価方法	参加姿勢や実技に取り組む姿勢など受講態度を総合的に評価(60%)、毎回のミニレポート(40%)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>対面授業により以下のように進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. アイスブレイキング 3. ホスピタリティ 4. 生活をより豊かにするアクティビティ 幼稚園や小学校で使える手遊び・指遊び・歌遊び・伝承遊び・季節を育む遊び・手作り遊び用具など 5. 支援実践発表会 6. 総まとめ <p>【学習内容】</p> <p>レクリエーション支援の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アイスブレイキング・モデル 2. アイスブレイキングの効果を高める支援技術 3. 集団がまとまる仕組みを活かすプログラム 4. あたたくもてなすという意識と配慮 5. 対象者の気持ちを受け止めていることを伝える技術 6. 対象者との意思疎通を促進する技術 7. ひとつの活動の中で複数回の成功体験を楽しむための目標設定の方法（ハードル設定） 8. 段階的に成功体験をやすくするアレンジの基本と応用 9. 対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法（CSSプロセス） 10. 目標設定と言葉や表情の活用方法の一体的な実施 <p>レクリエーション活動の習得</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. レクリエーション支援のためのゲーム（子ども同士や子どもと多世代との交流ゲーム） 12. レクリエーション支援のための歌（子どもや親子が親しめる歌遊び） 13. レクリエーション支援のための音楽にあわせた身体活動（子どもが楽しめるリズム遊び） 14. レクリエーション支援のための様々な活動（子どもたちの好奇心をくすぐるレクリエーション） <p>レクリエーション支援の実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 15. プログラムの実施と評価及び改善
テキスト	使用せず・毎回資料配布。
参考書	<p>楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の基本の理論と方法～（公財）日本レクリエーション協会刊</p> <p>そのほか授業内で適宜紹介する。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ミニレポートの内容や質問については翌週の授業で振り返る。
フィードバックの方法	ミニレポートの内容や質問については翌週の授業で振り返る。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>各回の予習と復習をそれぞれ2時間行うこと。</p> <p>1回 予習：自らの生活構造・余暇生活を振り返る。復習：自らの生活構造・余暇生活を改めて文章化・図式化してみる。/2回 予習：アイスブレーキングについて資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。/3回 予習：アイスブレーキングに使えるゲームについて資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。/4回 予習：ホスピタリティについて資料や情報を集め、まとめる。復習：学習内容を振り返り、記録としてまとめる。/5回 予習：ホスピタリティマインドやスキルを高めるゲームについて資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。/6回 予習：じゃんけんの歴史や現状について資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。/7回 予習：体力づくりに使えるようなレクリエーションの資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。/8回 予習：昔あそびや伝承あそびに関する資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。/9回 予習：マジックに関する資料や情報を集めまとめる。復習：学習内容を振り返り、記録としてまとめる。/10回 予習：身近で簡単に手に入る素材は何かを考えまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。/11回 予習：新聞紙（紙）の持つ特性やレクへの利用方法を考えまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。/12回 予習：どのような場面で歌遊びやリズム遊びが活用できるかを考えまとめる。復習：学習内容を振り返り記録としてまとめる。/13回 予習：これまで学んだレクリエーションのアレンジや組み合わせを考え、まとめる。復習：学習内容を振り返り、記録としてまとめる。/14回 予習：支援内容のアイデアを出し、プログラムをつくる。復習：他のメンバーの支援内容のアイデアを記録し、まとめる。/15回 予習：支援内容のアイデアを出し、プログラムをつくる。復習：他のメンバーの支援内容のアイデアを記録し、まとめる。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	音楽
時間割コード Course Code	51600
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	<p>知識・理解の領域 楽典や音楽史を知る事によって音楽をより深く理解する。 幼稚園・小学校における音楽教育の実践方法を修学する。</p> <p>技能の領域 楽譜が深く読めるようになる。 楽曲分析ができる。 様々な楽譜を使った音楽の表現ができる。 楽譜に頼らない音楽表現ができる。</p> <p>態度・志向性の領域 音楽を形作っている要素について興味をもって、分析する。</p>
授業の概要	<p>小学校・幼稚園における音楽教育の実践研究を行う。楽譜に頼らない表現方法の模索、様々な楽譜を使った音楽の表現を学ぶ。 また楽典や音楽史を理解し、楽譜の読み方、楽曲分析などを行う。</p>
評価方法	授業への参加及び課題、試験により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回の授業のうち、6回欠席した場合は失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	「音楽理論ワークブック」熊谷周子・諸田明子著 ドレミ楽譜出版社1200円＋消費税
参考書	DVD資料「小学校音楽映像資料 楽しく実践できる音楽づくり授業ガイド」低学年・中学年・高学年 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター・制作 学事出版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	鑑賞、器楽、歌唱、音楽作りなどの活動や、サウンドエデュケーション、ポディーインストルメント等のグループ活動を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問にはメール、研究室にて対面で随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標 (1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 楽典習熟度チェック	4時間の復習を課す。 過去のテスト課題を復習する。	
2	音楽史、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 音名について予習する。	
3	ボディーパーカッションについて、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 音価について予習する。	
4	手話による歌唱、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 拍子について予習する。	
5	サウンドエデュケーションとは、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 演奏記号について予習する。	
6	サウンドエデュケーション実施、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 強弱記号・速度記号について予習する。	
7	日本伝統音楽とは、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 音程(1・2・3・8度)について予習する。	
8	日本伝統音楽(和楽器の演奏)、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 音程(4・5・6・7度)について予習する。	
9	声のアンサンブルづくり、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 音程(8度以上)について予習する。	
10	合奏(ハンドベル)、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 音階(長音階)について予習する。	
11	合奏(リコーダー)、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 音階(短音階)について予習する。	
12	合唱、楽典	2時間の予習と2時間の復習を課す。 音階(5音音階・その他の音階)について予習する。	
13	さまざまな楽譜	2時間の予習と2時間の復習を課す。 コードについて予習する。	
14	鑑賞曲について	2時間の予習と2時間の復習を課す。 和音(主要3和音)について予習する。	
15	まとめ	2時間の予習と2時間の復習を課す。 楽式について予習する。	

開講科目名 Course	生活
時間割コード Course Code	51602
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	日比野 博
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博 (教育保育学科)
授業の目標	<p>新しい生活科の指導の基本となる目標・内容を理解するとともに、各指導のポイントを把握し、生活科への理解を深めることができる。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 幼児の体験と小学校1・2年「生活」のもつ意味・意義を理解することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 生活で扱う内容の理解と体験に、興味・関心を持って積極的に関わることができる。</p> <p>技能の領域 教師が児童に援助・指導できる「生活」の技能を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>小学校指導要領の解説をもとに、生活科の目標・内容の理解を図る。また、生活科における指導計画の特性や学習指導の特性を理解し、年間計画を地域や児童にあったものにするための工夫を図る。</p> <p>子どもたちが体験する活動を取り入れる。</p> <p>アクティブラーニング的な内容を取り入れ、学生同士の話し合い活動を多く取り入れる。</p> <p>なお、この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p> <p>質問などは、随時受け付ける。</p>
評価方法	<p>受講態度と授業内レポート (30%)</p> <p>発表・体験活動記録, (30%)</p> <p>課題・確認問題 (40%)</p> <p>授業内レポートは、原則的に次週に返却する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席6回以上の場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 学習指導要領の改訂と生活科 3 生活科の目標 4 生活科の内容（具体的な視点） 5 生活科の内容（内容の階層性） 6 指導計画の作成と内容の取扱い 7 指導計画と学習指導 8 年間指導計画の作成 9 単元計画（1年生）の作成 10 自己紹介・友達づくりカード作成(実習) 11 発表・振り返り・評価の仕方 12 単元計画（2年生）の作成 13 季節見つけ(実習) 14 発表・評価の仕方 15 まとめと確認問題
テキスト	小学校学習指導要領解説 生活編 平成29年7月 文部科学省
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体やグループごとで課題を設定し、議論や発表、研究協議等を通して生活科教育についてを深めていく。 ・ 随時、話し合い深めていく活動を取り入れ、実践的な活動を進めていく。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校の現場経験を踏まえた指導を生かし、現場に即した助言や指導をしていく。 ・ 時には、現役の講師による実習や研修、模擬授業を行うことも考えている。
質問への対応方法	授業中・授業後、オフィスアワーなどを通して、随時対応していく。
フィードバックの方法	レポートや活動記録等は翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 学習指導要領の改訂と生活科 新学習指導要領と旧級学習指導要領の比較(予習) 2～3時間 3 生活科の目標 テキストP17・18についての復習と2時間程度の予習(野菜の育て方について)を課す 4 生活科の内容（具体的な視点） 1時間程度の復習を課す テキストP26～28についての予習を課す (3～4時間) 5 生活科の内容（内容の階層性） 1時間程度の復習を課す 6 指導計画の作成と内容の取扱い 1時間程度の復習を課す P52～58までの予習を課す 7 指導計画と学習指導 1時間程度の復習を課す 8 年間指導計画の作成 テキストP78～86まで2時間程度の予習を課す 9 単元計画（1年生）の作成 テキストP87～93までの2時間程度の予習を課す 10 自己紹介・友達づくりカード作成(実習) 記録の取り方について 11 発表・振り返り・評価の仕方 12 単元計画（2年生）の作成 2時間程度の実習準備と予習を課す 13 季節見つけ(実習) 1時間程度の振り返りのレポート（復習）を課す 14 発表・評価の仕方 テキストP92・93の2時間程度の予習を課す 1時間の復習を課す 15 まとめと確認問題
使用言語	日本語

SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	教職論
時間割コード Course Code	51680
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	前原 宏一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前原 宏一 (教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・急激に変化し続ける現代社会において、教職の重要性が一層高まってきていることを把握すると共に教職の意義、教員の役割や職務内容について理解を広げ合ったり深め合ったりすることにより、教職に対する興味関心を高め、それに向かおうとする意欲を育成する。 重点テーマ <ul style="list-style-type: none"> ・教職のもつ意義と責任ある教職員としての立場について ・学び合う子どもたちの育成をめざして、教職員の果たすべき役割について ・教職員の職務内容と教育公務員に課せられる服務義務について ・チーム学校、チーム家庭・学校・地域の一員としての自覚と同僚性について
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・4人グループでの話し合い(学び合い)活動を取り入れながら、教職に関する各テーマについて追究し合い、学び合う子どもたちと協働的な教職員集団づくりをめざす活動の必要性や配慮すべき留意事項について探究し合う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・4人グループや全体での討議の様子 30% ・各テーマに対する見方や考え方の広がりや深まりを記述するふり返し用紙 30% ・確認テストと小レポート 40% <p>を基本とし、教職の意義及び教師の役割などの学びについて総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席回数が5回以上の場合 ・連続して3回欠席した場合
授業計画	<p>毎回実施する前時の確認テストに向けての2時間の復習と授業計画表に基づく次時テーマに関する2時間の予習を課すこととする。</p> <p>第1回：現学習指導要領の基本的な考え方や改訂のポイント 第2回：子どもたちを取り巻く課題 第3回：教職のもつ意義や教職員としての使命 第4回：子どもたちの「生きる力」の育成 第5回：子どもたちの「学ぼうとする力」の育成 第6回：子どもたちの「学び合おうとする力」の育成 第7回：あるべき教師としての考え方や立ち位置 第8回：よりよい学級集団づくり(学級経営) 第9回：教員の職務内容と開かれた学校づくり 第10回：教職員の不祥事撲滅(根絶)に向けた学校の取組 第11回：教職員の職務内容と果たすべき服務義務 第12回：教職員研修の権利と義務 第13回：チーム学校として取り組む意義とその有効性 第14回：チーム家庭・学校・地域の意義とその重要性 第15回：これまでのまとめとふり返し</p> <p>詳細については授業計画表を参照。</p>
テキスト	なし

参考書	・参考書・参考資料等については、授業の中で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・本時の課題に対する「自分の考え」を立てさせた後、4人グループを基本とするグループでの「学び合い」の時間を毎回確保した上で、クラス全体での情報共有（話し合い活動）の時間へ進むこととする。 なお、4人グループについては、固定せず随時グループ編成をし直すこととする。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	・38年間の小・中学校での教職経験を活かし、教職に関する各テーマについて追究し合い、学び合う子どもたちの育成と協働的な教職員集団づくりをめざす活動の必要性や配慮すべき留意事項について探究し合う。
質問への対応方法	質問等への対応 ・授業時及びオフィスアワーで随時対応する。
フィードバックの方法	・毎回のふり返りプリント及び確認テストについては、翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回実施する前時の確認テストに向けての2時間の復習と授業計画表に基づく次時テーマに関する2時間の予習を課す。 第1回：新学習指導要領の基本的な考え方や改訂のポイント 第2回：子どもたちを取り巻く課題 第3回：教職のもつ意義や教職員としての使命 第4回：子どもたちの「生きる力」の育成 第5回：子どもたちの「学ぼうとする力」の育成 第6回：子どもたちの「学び合おうとする力」の育成 第7回：あるべき教師としての考え方や立ち位置 第8回：よりよい学級集団づくり（学級経営） 第9回：教員の職務内容と開かれた学校づくり 第10回：教職員の果たすべき服務義務 第11回：教職員の不祥事撲滅（根絶）に向けた学校の取組 第12回：教職員研修の権利と義務 第13回：チーム学校として取り組む意義とその有効性 第14回：チーム家庭・学校・地域の意義とその重要性 第15回：これまでのまとめとふり返り
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 7. 課題発見力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	教育を取り巻く現状と課題 新学習指導要領の趣旨や考え方	・道徳の教科化や小学校への外国語教育の導入などが盛り込まれた新学習指導要領を資料として活用し、その基本的な考え方や改訂のポイントについて探り合うと共に、生涯にわたって学び続けることの意義について考え合う。	
2	子どもたちを取り巻く現状と課題	・子どもたちを取り巻く課題について、いじめ・不登校などの資料をもとに現状を探り、それに立ち向かう教師としての対応策や責務について考え合う。また、小1プロブレムや中1ギャップの問題、保護者のネグレクト(育児放棄)や家庭及び地域の教育力の低下などについても現状を把握し合う。	
3	教職のもつ意義と教職員の使命	・山積する教育課題(多くの場合、子どもたちに責任はない)を踏まえた上で、教職のもつ意義や教職員としての使命について、互いに考えを深め合う。	
4	生きる力の育成に向けて 生きる力の育成	・子どもたちの「生きる力」を育成する教育活動を推進するため、教師の果たすべき役割や子どもたちへの指導・支援のあり方について探り合う。	
5	学ぼうとする力の育成	・子どもたち一人ひとりの「生きる力」を育むことにつながる「学ぼうとする力」をどう育てていけばよいか、教師としての姿勢や方策について事例をもとに探り合う。	
6	学び合おうとする力の育成	・子どもたちの「学ぼうとする力」をさらに「学び合おうとする力」へと深化させていくためにはどうすればよいか、教師としての姿勢や方策について事例をもとに探り合う。	
7	教師としての考え方や立ち位置	・子どもたちの話す力や聞く力を育成するための1分間スピーチ「先生、あのね」の教育実践を例に取り上げ、その意義と問題点について探り合う。「先生、あのね」と「みんな、あのね」との違いを比較しながら、あるべき教師としての考え方や立ち位置について探り合う。	
8	学びの基盤となる学級集団づくり	・互いに「学び合おうとする子どもたちの良好な人間関係」を構築するため、その基盤となる学級集団づくり(学級経営)をどう進めていけばよいか、様々な実践例をもとにして、その方策について探り合う。	
9	教職員の職務内容及び義務と研修 教職員の職務内容と開かれた学校づくり	・教員の1日の仕事(スケジュール)や学校年間計画を参考資料として、教員の職務内容を総合的に理解すると共に、開かれた学校(内に開かれた学校と外に開かれた学校)づくりに向けての取組とその意義についても探り合う。	
10	不祥事の根絶に向けた学校現場の取組	・事例をもとに教職員の不祥事について把握すると共に、学校教育への信頼を大きく損ねる結果につながることを確認し合う。また、不祥事の撲滅(根絶)に向けて学校として取り組むべき課題についても探り合う。	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
11	教職員の職務内容と服務義務	・法に定められている教職員の職務内容及び教育公務員に課せられる服務義務について、資料をもとに理解を深め合うと共に、教職のもつ責任も重さについても考えを深め合う。	
12	教職員研修の意義	・力量向上をめざす教職員研修の権利と義務について理解し合うと共に、研修における同僚性の重要性や学び合う教職員集団づくりについても考えを深め合う。	
13	チーム学校としての考え方 チーム学校の考え方の意義と有効性	・チーム学校として取り組む意義とその有効性について考え合うと共に、その一員として教師一人ひとりがどう考え、どう活動していくべきかを探り合う。	
14	チーム家庭・学校・地域の意義と重要性	・子どもたちの健やかな心と体の成長のため、家庭・学校・地域がチームとして連携し合うことの重要性を理解し合うと共に、家庭・学校・地域のそれぞれが果たすべき主な役割についても探り合う。	
15	まとめとふり返し 教職論のまとめとふり返し	・これまでの授業のまとめを行うと共に「自分の学び」をふり返し、小レポートにまとめる。	

開講科目名 Course	教育制度論
時間割コード Course Code	51700
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	田中 秀佳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	田中 秀佳 (教育保育学科)
授業の目標	教育に関する法制度の基本的な知識を習得し、社会状況とそれに対応した教育政策の基礎的理解を身につけ、特に学校・家庭・地域の連携や学校安全への対応等、近年重要となっている学校経営の基本的事項について理解する。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教育法・教育制度に関する基礎的な知識を獲得する。 ・教育制度をめぐる現代教育改革の特徴と社会的背景を理解する。 ・教育動向およびそれを取り巻く社会状況を幅広い視野をもって把握し、教育に関する諸問題の現象と本質を構造的に理解する。 ・学校と家庭・地域および三者の連携について、事例を踏まえて理解する。 ・学校事故、災害の状況・事例を学び、学校保健安全法の内容を把握し、危機管理の重要性、学校安全の意義を理解する。
評価方法	各講義内容ごとの小テストおよび小レポートを課す。内容は、(1)教育行政の原理、(2)教育行政の法制度、(3)現代教育改革における教育行政システムの特徴、(4)教育問題の検討である(評価比率40%)。また、最終課題として、授業内容に関する内容確認テストおよびレポートを課す(評価比率60%)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション、教育実践の基盤となる教育の法と制度の意義と役割について法制度の事例を用いて理解する。</p> <p>第2回：学校教育の制度とは何か? 「普通」の学校とフリースクール：学校とは何か、自分自身の学校経験、現在の大学での学びを振り返りつつ、一条校とは異なる「学校」での学びの事例をとおして、学校および学校制度のあり方を逆説的に考える。</p> <p>第3回：戦後日本の教育政策・法制度の変遷：戦後日本の教育政策と教育問題の変遷に関する年表を配布した上で戦後教育の変遷に関する映像を視聴する。その際、戦後政治、教育政策の重要なキーワードが多数出てくるため、メモを取りながら視聴し、自宅学習として各キーワードについて語句調べを次回講義までにおこなう。</p> <p>第4回：教育制度の変遷（戦後-70年代）とその特徴：前回視聴した映像を、各自が調べてきたキーワードを確認しつつ、講師が要点ごとに解説をしながら改めて視聴する。（1）戦後教育がどのような特徴を持って始まり、（2）様々な社会状況の中で教育課程行政がどのように展開されてきたのか、理解をする。</p> <p>第5回：教育制度の変遷（80年代-現代）とその特徴：引き続き、各自が調べてきたキーワードを確認しつつ、講師が要点ごとに解説をしながら改めて視聴する。（1）様々な社会状況の中で教育課程行政がどのように展開され、（2）教育制度と教育課程に関する近年の教育施策がどのような社会状況を踏まえて改正され現在に至っているのか、改革動向を理解する。</p> <p>第6回：公教育制度の原理と構造1：行政とは何か、その機能と役割を理解する。</p> <p>第7回：公教育制度の原理と構造2：戦後教育制度の法体系・関係法規を理解する。</p> <p>第8回：公教育制度の原理と構造3：教育行政の基本原則と改革動向を理解する。</p> <p>第9回：諸外国の教育・子育て制度1：北欧諸国（ノルウェイ）の幼児教育、義務教育および高等教育システムについて、法制度原理と改革動向に焦点化し学ぶ。</p> <p>第10回：諸外国の教育・子育て制度2：北欧諸国（フィンランド）の幼児教育、義務教育システムについて、法制度原理と改革動向に焦点化し学ぶ。</p> <p>第11回：学校・家庭・地域の連携と学校経営1：学校の家庭・地域との協働およびコンフリクトの事例について、グループ・ディスカッションにより、受講者間および受講者講師間での意見交換をおこない、授業・教育課程・学校経営のあり方を検討する。</p> <p>第12回：学校・家庭・地域の連携と学校経営2：前回に引き続き、受講者・講師間で意見交換をおこない、授業・教育課程・学校経営のあり方を理解する。</p> <p>第13回：学校安全への対応1：学校の内外での多様な事故について、何をどのように考えるのか、予防と対応、指導者が配慮すべき点とは何か、具体的事例・裁判例を検討する。</p> <p>第14回：学校安全への対応2：学校内外で起こる事故を、どのように防ぐのか、考え方と配慮すべき点を理解する。</p> <p>第15回：まとめ、法と制度その意義...教師として、教育の内容と方法だけではなく、その基盤となる法制度の理解および保護者や地域との協働など学校の経営的視点が重要であることを改めて確認する。</p>
テキスト	なし
参考書	添田久美子ほか『事例で学ぶ学校の安全と事故防止』（ミネルヴァ書房、2015年）。その他授業内において適宜指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	テーマによりグループディスカッションを実施する（1，2回程度）。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接またはメールにより対応する。
フィードバックの方法	授業時またはクラスルーム上で対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	日常的に新聞に目を通すことを求める。毎日ニュースに触れること、その中で少なくとも教育・保育・福祉の話題について自らの考えを深めることを必須とする。その習慣をつけることが、本講の内容理解の前提となる。その他、授業時に指示する予習・復習等を求める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8. 働きがいも経済成長も</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p> <p>17. パートナリシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	

開講科目名 Course	保育相談支援
時間割コード Course Code	51715
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	堀 美鈴
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	堀 美鈴 (教育保育学科)
授業の目標	<p>保育者の専門性を生かした保護者支援について、その定義や基本となる支援の原理について理解を深める。また、保護者支援の技術力を高める。</p> <p>学習効果</p> <p>知識・理解の領域・・・保育者の専門性を生かした保護者支援の定義や原理を理解できる。</p> <p>技能の領域・・・様々な事例の検討を通し、保護者支援の技術力を高める。</p> <p>態度・志向性の領域・・・保育の場におけるカウンセリングマインドの精神や態度に心がける。</p>
授業の概要	<p>保育相談支援は「子どもの最善の利益」を尽くすという原則のもと、子どもとその保護者を繋ぐ大切な保育者の役割の一つである。講義の前半は主に保護者支援の理論と方法について学ぶ。後半は現代の多くの保護者が抱える問題や不安等に関する事例を使った演習をとおり、保護者と向き合う際の傾聴・共感・受容等の態度を学ぶ。</p>
評価方法	<p>授業中の意欲・態度 (30%) / 提出物(40%) / 小テスト (30%)</p> <p>総合的に評価</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が半数に満たない場合

授業計画	<p>1. 現代の子育てをめぐる課題と相談支援における保育者の役割 テキスト14～22 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>2. 保育相談支援の方法 テキスト26～41 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>3. 保護者との関係づくり テキスト46～53 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>4. 保育の環境構成を生かした支援 テキスト58～67 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>5. 地域の資源の活用と関係諸機関との連携 テキスト70～78 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>6. 地域子育て支援における保育相談支援の実際 テキスト84～96 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>7. 1～6までの振り返り、確認 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>8. 養育力向上を目指した支援の実際 テキスト102～109 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>9. 保護者同士の関係を改善するための支援の実際 テキスト116～125 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>10. 苦情対応から始まる支援の実際 テキスト130～139 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>11. 障がいのある子どもを持つ保護者への支援の実際 テキスト142～151 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>12. 要保護児童の家庭に対する支援の実際 テキスト158～166 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>13. 乳児院・母子生活支援施設等における支援の実際 テキスト170～185 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>14. これからの保育者の役割と課題 どのような課題があるのかレポートにまとめる 1時間の予習と1時間の復習を課す</p> <p>15. まとめ 一つのテーマについてレポートにまとめる。2時間の復習を課す</p> <p>実務経験のある教員による授業 保育園、子育て支援センター・ファミリー・サポート・センター・母子生活支援施設・虐待担当等での現場経験をいかし、例を挙げながら、様々な子育て支援について学生の理解を深めるよう指導する。</p>
テキスト	<p>実践・保育相談支援 青木紀久代編著 (株)みらい</p>
参考書	適宜紹介
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<p>実務経験のある教員による授業 保育園、子育て支援センター・ファミリー・サポート・センター・母子生活支援施設・虐待担当等での現場経験をいかし、例を挙げながら、様々な子育て支援について学生の理解を深めるよう指導する。</p>
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・随時対応 ・メール対応（アドレス記載）
フィードバックの方法	課したレポートについてはコメントを書き翌週返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業計画詳細情報に記載
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	

PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 3. 統率力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	保育相談支援とは 保育相談支援の定義	内容：保育相談支援の定義、また基本について知る(テキストP14～P17) 課題：具体的な相談内容について 1時間の予習と1時間の復習を課す	
2	保育相談支援とは 保育相談支援の構造	内容：保育相談支援の構造の特性と種類について知る(テキストP18～P22) 課題：事例に対する対応 1時間の予習と1時間の復習を課す	
3	保育相談支援の方法 保育者が行う保育相談支援	内容：在園児と地域の子育て家庭への支援(テキストP26～P32) 1時間の予習と1時間の復習を課す	
4	保育相談支援の方法 保護者支援の流れ・方法	内容：保護者支援の流れ・方法を学び演習課題を行う レポート課題を課す(事例より)	
5	保護者との関係づくり 保護者との信頼関係を気づくために	内容：信頼される保育者になるためにどうしたらよいかを学ぶ(テキストP46～P55) 1時間の予習と1時間の復習を課す	
6	保育の環境構成を生かした支援 子ども・保護者を中心とした環境構成	内容：保護者支援における保育の環境構成の意義と課題を知る(テキストP58～P68) 1時間の予習と1時間の復習を課す	
7	地域の資源の活用と関係諸機関との連携 地域の資源・関係機関	内容：地域の資源・関係機関について知る レポート課題を課す(関係機関を調べる)	
8	地域の資源の活用と関係諸機関との連携 地域の資源・関係機関との連携	内容：グループワーク及び発表 地域の資源・関係機関について(自分が調べた関係機関・連携について)	
9	地域子育て支援における保育相談支援の実際 保育所・認定こども園・幼稚園における子育て支援	内容：地域の子育て支援の拠点としての機能、特徴を知る(テキストP84～P96) 1時間の予習と1時間の復習を課す	
10	地域子育て支援における保育相談支援の実際 保育所・認定こども園・幼稚園における子育て支援(実践事例)	内容：保育所・認定こども園・幼稚園における子育て支援(実践事例) 具体的な事例についてグループワーク及び発表、解説。	
11	養育力向上を目指した支援の実際 保護者の養育力の支援の基本	内容：多様な養育困難に対応する保育相談援助(テキストP102～P112) 1時間の予習と1時間の復習を課す	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
12	苦情対応について 保育所における苦情の現状	内容：苦情の実際と対応について学ぶ(テキストP130～P139) 実践事例から考える 1時間の予習と1時間の復習を課す	
13	要保護児童の家庭に対する支援の実際 要保護児童の家庭に対する支援の実際	内容：虐待が疑われるとき、支援の実際について学ぶ レポート課題を課す(虐待について)(クラスルームにて返信)	
14	乳児院・母子生活支援施設等における支援の実際 社会的養護の実際	内容：乳児院・母子生活支援施設における支援の実際 レポート課題を課す(社会資源について)	
15	まとめ	振り返り、要点を確認する。	

開講科目名 Course	保育リーダーシップ論 / Research of Child Care and Development for Nursery Teachers
時間割コード Course Code	51720
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	長江 美津子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	長江 美津子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>幼稚園や保育所等、乳幼児の教育・保育の施設では、子どもの最大限の育ちを保障することが保育者に求められている役割であり、リーダー的立場の保育者は、保育の質の向上を図るスーパーバイザーとして、次に人材育成のリーダー、園全体の環境整備及び安全対策などの管理運営、難しい保護者支援の窓口として、さらに地域の子育て支援の普及など多くの業務をこなしていかなければならない。しかし、近年は職員集団は縦社会ではなく、職員や保育者が個性を發揮させながらもみんなで協力して保育を作り出していける協同組織をつくり、園文化をより一層生き生きとしたものにしていくことが望ましいという考え方に変わってきている。</p> <p>以上のことから、授業では保育における諸課題をとおして「一人ひとりがしっかり考える協同組織」をつくっていくための自覚や意識の向上を図るとともに志向性を養っていく。</p>
授業の概要	<p>保育所等における役割や責務として、保護者との連携や地域・他機関との協同や、子どもの育ちや安全等様々な面から考えていく必要のある園の環境づくりをとおして、グループで検討を行っていく。グループ討議をとおして、自分の考えを持ったり、他者の考えに触れたり中、自らの考えを深めていく。</p> <p>園内研修や保育の記録などを通して職員間の協働性や同僚性を高めていく事が、園の保育の質を向上させていく。また、そうした組織文化を醸成していくことがリーダーの役割であることを理解する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	グループ討論や発表など授業参加姿勢態度 (30%) 提出課題 (30%) 小テスト (40%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回の授業のうち、6回以上の欠席で失格とする。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場の現状と課題 2. 保育現場におけるマネジメントと求められるリーダーとは 3. 保育者の専門性と保育の質 リーダーの役割とスキルとは何か 4. 保護者との連携 これからの園行事に求められるもの 5. 「保育の環境づくり」子どもの主体性を育む園庭環境を考える 6. 「保育の環境づくり」乳幼児の運動能力の低下について考える 7. 「保育の環境づくり」安全な環境の点検と整備 (3歳未満児の午睡から考える) 8. 家庭における食事風景の変化 「食育」 9. 園で行われている食事の事故防止策 (安全な食の提供を3歳未満児の給食場面から考える) 10. 園で行われている食事の事故防止策 「食物アレルギー児への対応」 11. 感染症から子どもの命を守る (保育者の連携から考える) 12. グループ課題(1)園における問題と課題 13. グループ課題(2)園における問題と課題 14. 組織における望ましい文化 保育者間の協働と同僚性 15. まとめ 保育におけるリーダーの研修制度の現状と課題
テキスト	なし
参考書	随時紹介
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実際乳幼児の保育・教育現場で行っている園内研修等を事例検討を通して行い、ロールプレイングや様々な研修の進め方の手法、技法を知り、実践力を身につける。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員の授業 幼稚園や保育所での勤務経験を活かした教員が各回の内容に応じて実践指導を行っていく。
質問への対応方法	メール、授業後等に対応
フィードバックの方法	授業、メール等で必要に応じて対応する
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に応じて事前事後学習を課す
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	<ol style="list-style-type: none"> 11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 2. 協同力 3. 統率力 5. 自信創出力 7. 課題発見力 8. 計画立案力

開講科目名 Course	教科教育法（国語（書写を含む。））
時間割コード Course Code	51741
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	加藤 昇
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	加藤 昇（教育保育学科）
授業の目標	国語科の授業について理論と実践方法を学びます。小学校の国語教師としての地力を高めることをねらいとします。
授業の概要	演習形式。一読総合法とはどのような読みをめざすのかを学びます。教材をもとに教材分析の仕方、指導目標、指導計画などの立て方などについて具体的に学びます。さらに模擬授業をすることでそれらを検証し、改善点を考えることでよりよい授業の在り方を探ります。
評価方法	毎回のレポート提出（50％）とまとめのテスト（50％）により総合的に判定します。出席はして当然ですので、「出席点」という制度はありません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>1、一読総合法の読みと授業展開 4時間の復習を課す</p> <p>2、どのように教材化し指導計画を立てるか(文学の実践例紹介)「ちいちゃんのかげおくり」の教材化の視点と全体の指導目標 2時間の予習と2時間の復習を課す</p> <p>3、どのように教材化し指導計画を立てるか(文学の実践例紹介)「ちいちゃんのかげおくりの」の本時の指導計画について考える 2時間の予習と2時間の復習を課す</p> <p>4、文学作品の教材分析の仕方「ちいちゃんのかげおくり」を使って実践する 2時間の予習と2時間の復習を課す</p> <p>5、模擬授業(文学)「ちいちゃんのかげおくり」の終結部分 2時間の予習と2時間の復習を課す</p> <p>6、どのように教材化し指導計画を立てるか(説明文の実践例紹介)題材研究の重要性について「たんぼぼ」(東京書籍)を使って行う 2時間の予習と2時間の復習を課す</p> <p>7、どのように教材化し指導計画を立てるか(説明文の実践例紹介)題材研究から教材分析をする「たんぼぼ」(東京書籍)を使って 2時間の予習と2時間の復習を課す</p> <p>8、説明文の題材研究と教材分析の仕方「イースター島にはなぜ森林がないのか」(教育出版)を使って 2時間の予習と2時間の復習を課す</p> <p>9、模擬授業(説明文)「イースター島にはなぜ森林がないのか」の終結部分 2時間の予習と2時間の復習を課す</p> <p>10、一読総合法の授業の基礎理論 2時間の予習と2時間の復習を課す</p> <p>11、一読総合法の授業と学習活動の組み立て方 2時間の予習と2時間の復習を課す</p> <p>12、「ヒロシマのうた」の終結部分の模擬授業 2時間の予習と2時間の復習を課す</p> <p>13、話し合い活動における教師の果たす役割 2時間の予習と2時間の復習を課す</p> <p>14、一読総合法と学級作り 2時間の予習と2時間の復習を課す</p> <p>15、授業のまとめと確認テスト 4時間の復習を課す</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学生による模擬授業を取り入れ、授業について相互批判によって実践力量を高める。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	小学校の現場で、国語教育の研究実践を積んできた。多くの文学作品、説明文教材についての教材分析、全体の指導目標、全体の授業計画、本時の目標などについて研究してきた。それらを伝えるとともに、その重要性について説いていきたい。
質問への対応方法	質問は随時受け入れ、それを全体で共有して、課題解決にあたりたい。
フィードバックの方法	各自にファイルを持たせ振り返ることで、自身のこれまでの考えと新しく学んだことをつなげていきたい。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	模擬授業を行う上においての事前準備をする。 また、参考文献の読了、資料のまとめなどを課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	教科教育法（社会）
時間割コード Course Code	51751
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	前原 宏一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前原 宏一（教育保育学科）
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校教員免許状取得の必修科目であることを踏まえつつ、充実した小学校教育実習に向けて、学びを広げ深めることができる。 ・ 現小学校社会科学習指導要領の目標や内容などを理解し、社会科の授業において課題を追究・解決する活動をどう展開するか実践も通して学び合い、社会科の授業を指導できる基本的な資質を身につけることができる。 <p>< 学習成果 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 知識・理解の領域 ・ 社会科の授業を進める上で、社会事象についての基本的な理解を深めるとともに社会的背景についても把握することができる。 技能の領域 ・ 単元構成や授業展開を踏まえた上で、資料(導入資料・追究資料等)づくりや模擬授業の実践に取り組むことができる。 思考判断の領域 ・ 子どもたちによる課題追究活動や学び合い活動を活かした授業展開を工夫しながら、学習指導案に表すことができる。 態度・志向性の領域 ・ 社会科の授業をする上で、教材や資料をより効果的に活用するための工夫を意欲的に提案できる。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4人グループでの話し合い(学び合い)活動を基本とし、小学校社会科における指導内容を理解して、学年の目標及び内容に合った指導方法の研究を進める。また、学習指導案の作成や模擬授業、研究協議の体験を通して、実践的な指導法についてのイメージづくりをする。 <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4人グループや全体での討議の様子 30% ・ 毎回のふり返り用紙への記述 30% ・ 学習指導案づくり及び模擬授業への取組、小レポート 40% <p>を基本とし、社会科の指導法に関する資質向上について総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欠席回数が5回以上の場合 ・ 連続して3回欠席した場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、現学習指導要領小学校社会科の改定ポイント 2 第3学年の目標や学習内容、指導上の留意点 3 第3学年の学習指導案例の検討と「導入段階」の工夫 4 第4学年の目標や学習内容、指導上の留意点 5 第4学年の学習指導案例の検討と「めあてづくり」の工夫 6 第5学年の目標や学習内容、指導上の留意点 7 第5学年の学習指導案例の検討と「追究活動」の工夫 8 第6学年の目標や学習内容、指導上の留意点 9 第6学年の学習指導案例の検討と「評価のあり方や方法」 10 各自の学習指導案づくりと4人グループでの検討 11 最終学習指導案づくりに向けての検討（4人グループ） 12 模擬授業の実践1と授業についての研究協議1 13 模擬授業の実践2と授業についての研究協議2 14 模擬授業の実践3と授業についての研究協議3 15 模擬授業の実践4と授業についての研究協議4、授業全体のまとめとふり返り
テキスト	なし
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校社会科学学習指導要領及び解説〔文部科学省〕 ・その他参考書及び参考資料等は、授業の中で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、課題に対する「自分の考え」を立てさせた後、4人グループを基本とするグループでの「学び合い」の時間を確保した上で、クラス全体での情報共有（話し合い活動）の時間へ進むこととする。なお、4人グループについては、固定せず随時グループ編成をし直すこととする。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・38年間の小・中学校での教職経験を活かし、「資料づくり」「導入の方法（めあての提示も含む）」「子どもたちが思考・判断する時間の確保」等についての指導を通して「互いに学び合う授業」づくりについて探究し合う。
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中や授業後に随時対応すると共に、オフィスアワーでも対応する。
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のふり返り・小レポートは、翌週に返却する。 ・それぞれの学習指導案は、4人グループ分を印刷し、グループでの追究協議の資料とする。 ・模擬授業の学習指導案については、模擬授業後に資料として全員に配布する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>毎回、前時内容についての2時間の復習と授業計画表に基づく次時内容に関する2時間の予習を課すこととする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、新学習指導要領小学校社会科の改定ポイント 2 第3学年の目標や学習内容、指導上の留意点 3 第3学年の学習指導案例の検討と「導入段階」の工夫 4 第4学年の目標や学習内容、指導上の留意点 5 第4学年の学習指導案例の検討と「めあてづくり」の工夫 6 第5学年の目標や学習内容、指導上の留意点 7 第5学年の学習指導案例の検討と「追究活動」の工夫 8 第6学年の目標や学習内容、指導上の留意点 9 第6学年の学習指導案例の検討と「評価のあり方や方法」 10 各自の学習指導案づくりと4人グループでの検討 11 最終学習指導案づくりに向けての検討（4人グループ） 12 模擬授業の実践1と授業についての研究協議1 13 模擬授業の実践2と授業についての研究協議2 14 模擬授業の実践3と授業についての研究協議3 15 模擬授業の実践4と授業についての研究協議4、授業全体のまとめとふり返り
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> 11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 親和力 2. 協同力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	教科教育法（算数）
時間割コード Course Code	51771
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	東岡 博
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	東岡 博 (教育保育学科)
授業の目標	<p>< 授業の目標 > 算数科のねらいを大切にした授業づくりのための基本的な資質を身につける。</p> <p>< 学習成果 > 知識・理解の領域 算数科の背景となる数学の理論的裏付けを大切に、教材研究に努めることができる。</p> <p>技能の領域 単元構成やねらいに沿った導入の在り方、学び合いの授業展開について考えることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 子どもの声をつなぐことで課題解決に導かせるよう授業展開を工夫し、学習指導案に表そうとすることができる。</p>
授業の概要	<p>4人グループやペアでの活動を取り入れた学び合いの授業について理解を深め、小学校算数科の目標やねらいを網羅した指導方法の研究に努める。</p> <p>効率的な教材研究に取り組み、ねらいと評価を意識した課題の研究に努める。また、模擬授業と研究協議を併せて取り組み、ふり返りを生かした模擬授業の工夫に努める。</p> <p>なお、本授業は、小学校教育実習及び小学校免許取得に関して必須である。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	・ 授業での取組の様子、指導案づくりや模擬授業、ふり返りやレポートの内容等を通して総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・ 欠席回数が3分の1を超えた場合は失格とする。

授業計画	<p>第1回：学習指導要領改訂の経緯と基本方針</p> <p>第2回：算数科改訂の趣旨と要点 算数科の目標と内容</p> <p>第3回：算数科の「主体的・対話的で深い学び」について 教材研究の進め方、学習指導案の見方、作成方法について</p> <p>第4回：主体的・対話的で深い学びの数学的活動 模擬授業の意義と研究協議の進め方</p> <p>第5回：新学習指導要領における数学的活動の具体例の提示 単元構成の見方・考え方 模擬授業と研究協議の実際</p> <p>第6回：「A数と計算」領域の指導と内容 整数と計算指導：教材研究，学習指導案作成，模擬授業</p> <p>第7回：「A数と計算」領域の指導と内容 整数と計算指導：教材研究，学習指導案作成，模擬授業</p> <p>第8回：「A数と計算」領域の指導と内容 小数と計算：教材研究，学習指導案作成，模擬授業</p> <p>第9回：「A数と計算」領域の指導と内容 分数と計算：教材研究，学習指導案作成，模擬授業</p> <p>第10回：「B図形」領域の指導と内容：教材研究，学習指導案作成，模擬授業</p> <p>第11回：「B図形」領域の指導と内容：教材研究，学習指導案作成，模擬授業</p> <p>第12回：「C測定」領域の指導と内容：教材研究，学習指導案作成，模擬授業，</p> <p>第13回：「C変化と関係」領域の指導と内容：教材研究，学習指導案作成，模擬授業</p> <p>第14回：「Dデータの活用」領域の指導と内容：教材研究，学習指導案作成，模擬授業</p> <p>第15回：講義のまとめとふり返り 期末テスト</p>
テキスト	・必要な資料を適宜配布する。
参考書	・授業において、適宜伝える。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・模擬授業の実践と研究協議の実施など互いに学び合うことができる課題については、積極的に取り入れていく。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 教育現場において児童に算数等を指導した経験や、研究主任として授業づくりの中心として研鑽してきたことを、系統立てて指導する科目である。
質問への対応方法	・授業時およびオフィスアワーで、随時対応する。
フィードバックの方法	・随時、授業の終わりにふり返りを行うとともに、学習指導案やレポートは、翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・毎回、前時の内容についての2時間の復習と授業計画に基づく次時の内容に関する2時間の予習を課する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	13.気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	教科教育法（理科）
時間割コード Course Code	51781
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	日比野 博
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 C 理化学実験室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博（教育保育学科）
授業の目標	<p>小学校指導要領のねらいを基礎におき、理科教育の目標や内容、及び教材研究や授業設計の方法等について理解することができる。</p> <p>理科学習において、子供が関心や意欲をもって関わっていくことができる活動につながる授業設計について、考え工夫することが出来るようになる。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 学年ごとの学習内容と指導法や安全な対策を、より詳しく理解することができる。</p> <p>態度・志向性の領域 理科の教科に自信を持ち、意欲的に児童の学習活動に関わることができる。</p> <p>技能の領域 授業で使用する教材・教具、ICTの扱いに慣れ、効果的にかつ余裕をもって指示・指導に当たることができる。</p>
授業の概要	<p>【対面授業】</p> <p>小学校理科における指導内容を理解し、理科教育の目標、内容、学習指導、評価など基本的事項は概説するとともに、個人やグループによる演習や発表などを通して授業に在り方について考えていく。</p> <p>また、学年の目標および単元に合わせた指導方法の研究を進めていく。そして、単元構想の検討とアクティブラーニングを取り入れた授業・指導案づくりを進める。ICTの効果的な活用についても検討する。</p> <p>ああ、この科目の位置づけについては、本学HPを参照すること。</p> <p>質問などにおいては、随時対応する。</p>
評価方法	<p>授業態度と授業内レポート（30%）</p> <p>模擬授業、小レポート・発表（30%）</p> <p>課題と指導案（40%）</p> <p>授業内で提出したレポートは、原則として次週に返却する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス，理科教育の変遷等について 2 理科指導の在り方，指導案の書き方について 3 安全な理科指導の在り方，効果的なICT活用について 4 A区分「物質・エネルギー」の単元研究と授業展開の検討 5 B区分「生命・地球」の単元研究と授業展開の検討 6 理科における観察・実験の意義と問題解決学習との関連について 7 A区分の学習指導案の作成 8 模擬授業 9 授業の振り返りと指導案の検討 10 B区分の指導案の作成・検討について 11 模擬授業 12 授業の振り返りと指導案の検討 13 模擬授業構成やICT機器を活用した指導，プログラミング教育に関する指導について 14 学習指導案の作成 15 模擬授業・学習指導案の検討とまとめ
テキスト	小学校学習指導要領解説・理科編（平成29年7月 文部科学省）
参考書	授業の中で紹介する(理科教科書)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導案作成や模擬授業の振り返りを全体やグループごとで議論や発表，研究協議等を通して小学校教育・指導法を深めていく。 ・ 随時，話し合い深めていく活動を取り入れ，実践的な活動を進めていく。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校の現場経験を踏まえた指導を生かし，現場に即した助言や指導をしていく。 ・ 時には，現役の講師による実習や研修を行うことも考えている。
質問への対応方法	授業中・授業後，オフィスアワーなどを通して，随時対応していく。
フィードバックの方法	学習指導案やレポート等は翌週に返却する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス，理科教育の変遷等について テキストP1～8までの予習を課す 2 理科指導の在り方，指導案の書き方について 指導案について1～2時間ぐらいの復習を課す 3 安全な理科指導の在り方，効果的なICT活用について P31～38，P47～51までの予習を1～2時間課す 4 A区分「物質・エネルギー」の単元研究と授業展開の検討 指導案についての復習について1～2時間ぐらいの復習とテキストP39～44，P52～60，P63～66，P77～83まで2時間の予習を課す 5 B区分「生命・地球」の単元研究と授業展開の検討 指導案についての復習について1～2時間ぐらいの復習とP67～74，P84～103まで2時間の予習を課す 6 理科における観察・実験の意義と問題解決学習との関連について 7 A区分の学習指導案の作成 指導案の予習について3～4時間ぐらいの学習を課す 8 模擬授業 9 授業の振り返りと指導案の検討 指導案の検討について3～4時間ぐらいの学習を課す 10 B区分の指導案の作成・検討について 11 模擬授業 12 授業の振り返りと指導案の検討 指導案の検討について3～4時間ぐらいの学習を課す 13 模授業構成やICT機器を活用した指導，プログラミング教育に関する指導について 14 学習指導案の作成 指導案の予習について3～4時間ぐらいの学習を課す 15 模擬授業・学習指導案の検討とまとめ
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11～17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	教科教育法（外国語）
時間割コード Course Code	51844
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	黒川 敦子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	黒川 敦子 (教育保育学科)
授業の目標	小学校において、外国語活動（中学年）、外国語科（高学年）を指導するために必要とされる基本的な知識、理論を学ぶとともに、実践的な指導方法及び指導技術を身につける。
授業の概要	<p>学生が大学卒業後、小学校において外国語活動・外国語科を円滑に指導することができるように、当該科目の歴史的背景・成り立ち、様々な学習法、評価法、指導法（模擬授業を行うことを含む）を、毎回効果的な授業展開ができるよう工夫しながら、教授する。学習指導案（略案）を作成し、模擬授業を行う。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	試験及びレポート（20%）、指導案作成と模擬授業（50%）、授業に取り組む姿勢（30%）
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>欠席が4回を超えると失格となり、単位は与えられません。</p> <p>遅刻（または早退）2回で欠席1回になります。</p> <p>指導案作成、模擬授業の実践は単位取得のために必須となります。</p>
授業計画	<p>第1回：小学校学習指導要領について</p> <p>第2回：授業で使用する教材の構成、特徴、またそれを生かした有効な活用法について</p> <p>第3回：指導環境（児童・学校）の多様性に対応できるような基礎的な事柄を学ぶ重要性について</p> <p>第4回：児童の第二言語習得のための基本的な理論を理解し、指導に生かすことについて</p> <p>第5回：リスニングスキルの向上のプロセスについて学び、どのようにそれを指導に生かすかについて</p> <p>第6回：様々な場面におけるコミュニケーションの機能（使い分け）について</p> <p>第7回：日本語と比較しつつ、音声から入り文字へ抵抗なく移行することができるような指導法について</p> <p>第8回：児童に語りかけ発話を引き出すことができるスピーキングスキル、また児童との英語による意思の疎通を図ることができるコミュニケーションスキルを身につける方法について</p> <p>第9回：文字への移行をスムーズにおこない、リーディング・ライティングスキルを磨く方法について</p> <p>第10回：教材研究の仕方や授業で教えるトピックや教材を選定する方法について</p> <p>第11回：学習到達目標に基づいた学習指導案の立案について</p> <p>第12回：ALTとの関わり方や、ICTの活用方法について。指導案作成。</p> <p>第13回：模擬授業とディスカッション（1）</p> <p>第14回：模擬授業とディスカッション（2）</p> <p>第15回：様々な環境における学習状況の評価方法について</p>
テキスト	『新編 小学校英語教育法入門』 樋口忠彦（編）研究社 ISBN/ISSN 978-4327410988

参考書	『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』文部科学省 『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』文部科学省 『Let's Try! 1』文部科学省 『Let's Try! 2』文部科学省 『New horizon elementary 5』東京書籍 『New horizon elementary 6』東京書籍 『Picture dictionary』東京書籍
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	テキストの輪読を行う。一人につきテキスト一章分を要約し、内容について考えたことを全体で議論する。 英語での活動内容を考え、発表し、全体でディスカッションを行う。 模擬授業をティームティーチングで行い、それに対して相互評価を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	公立小学校で英語指導経験がある教員が、小学校外国語科・外国語活動における指導方法を、現場の経験をふまえながら、理論と実践を教える科目である。
質問への対応方法	随時対応 メール対応：t20n6161@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	提出物は教員が添削し、翌週に返却する。 模擬授業等発表に関しては学生同士の相互評価、教員も合わせてフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 2 時間、復習 2 時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1～10)	
SDGs 17の目標 (11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	外国語教育の目的と目標	テキスト第1章 2時間の予習と2時間の復習を課す	小学校における外国語教育の歴史・背景、外国語活動・外国語科の目標や内容について
2	教材の構成と内容 授業で使用する教材の構成、特徴、またそれを生かした有効な活用法について	テキスト第4章 2時間の予習と2時間の復習を課す	
3	指導者の役割、資質と研修	テキスト第3章 2時間の予習と2時間の復習を課す	指導環境(児童・学校)の多様性に対応できるような基礎的な事柄を学ぶ重要性について
4	関連分野からみる外国語教育の意義と方向性 児童の第二言語習得のための基本的な理論	テキスト第2章 2時間の予習と2時間の復習を課す	
5	教材研究(1)ー児童が英語に楽しく触れ、慣れ親しむ活動	テキスト第7章 2時間の予習と2時間の復習を課す	リスニングスキルの向上のプロセスについて学び、どのようにそれを指導に生かすかについて
6	教材研究(2)ー児童が創意工夫し、生き生きと英語を使う活動	テキスト第8章 2時間の予習と2時間の復習を課す	様々な場面におけるコミュニケーションの機能(使い分け)について
7	文字と音の関連性	フォニックスとは何か調べておく 2時間の予習と2時間の復習を課す	日本語と比較しつつ、音声から入り文字へ抵抗なく移行することができるような指導法について
8	指導方法と指導技術	テキスト第9章 2時間の予習と2時間の復習を課す	児童に語りかけ発話を引き出すことができるスピーキングスキル、また児童との英語による意思の疎通を図ることができるコミュニケーションスキルを身につける方法について
9	言語材料と4技能の指導	テキスト第6章 2時間の予習と2時間の復習を課す	文字への移行をスムーズにおこない、リーディング・ライティングスキルを磨く方法について
10	いろいろな教材、教具の活用法 教材研究の仕方や授業で教えるトピックや教材を選定する方法について	テキスト第10章 2時間の予習と2時間の復習を課す	
11	授業過程と学習指導案の作り方 学習到達目標に基づいた学習指導案の立案について	テキスト第5章・第12章 2時間の予習と2時間の復習を課す	
12	モデル授業と指導案作成	テキスト第13章 2時間の予習と2時間の復習を課す	ALTとの関わり方や、学内の使用可能なICTの活用方法について
13	模擬授業とディスカッション(1)	クラスを数個のグループに分け、これまで学んだことを生かし学生による模擬授業を実施 2時間の予習と2時間の復習を課す	
14	模擬授業とディスカッション(2)	クラスを数個のグループに分け、これまで学んだことを生かし学生による模擬授業を実施 2時間の予習と2時間の復習を課す	
15	評価のあり方、進め方 様々な環境における学習状況の評価方法について	テキスト第11章 2時間の予習と2時間の復習を課す	

開講科目名 Course	子どもと造形(1組)
時間割コード Course Code	51880
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	30A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)
授業の目標	将来の保育士・幼稚園教諭・小学校教諭として必要な造形活動及び図画工作の意義を理解し、活動及び学習を展開するために必要な造形表現の基礎的な知識や技能を習得し、教材や教具・用具についての理解を深め、造形活動に積極的に関われる態度を身に付ける。
授業の概要	自然物や身の回りにあるものを描くことを通して、基本的な描画用具などの扱い方を学習する。色彩の理論を、色光の科学的理解を通して、絵の具の混色や様々なメディアに見られる色彩について理解し、作品制作に応用できるようにする。 凸版画の制作を通して、形と色の変化の楽しさを感じ取る。また、様々な造形活動を通して、素材のよさや性質に気付く。 なお、質問への対応は随時行う。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	課題及び課題への取り組みと探求の姿勢... 60%、小レポート及び授業への参加・発表と鑑賞態度... 40% 以上の内容から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第 1 回 授業の概要説明と進め方（造形活動・図画工作・美術とは何か）</p> <p>第 2 回 造形教育の目的と内容、材料・用具の具体と取り扱いの基本（クレヨン・パス・鉛筆・絵の具・ペン等の描画材）</p> <p>第 3 回 教材づくりの基礎・モダンテクニック（1）...フロッタージュ、ドリッピング、パチック・にじみ・ぼかし等</p> <p>第 4 回 教材づくりの基礎・モダンテクニック（2）...マーブリング・デカルコマニー・スパッタリング、コラージュ等</p> <p>第 5 回 光と色について?（色の三原色の理論と演習、色遊び、混色、重色による作品づくり）</p> <p>第 6 回 光と色について?（光の三原色の理論と演習、様々な配色 [カラースキーム] による作品づくり）</p> <p>第 7 回 見ることと描くこと：素描?...鉛筆・クレヨン・パスによる演習（材料の特性理解と扱い方も含む）</p> <p>第 8 回 見ることと描くこと：素描?...水彩絵の具による演習（材料の特性理解と扱い方も含む）</p> <p>第 9 回 見ることと写し取ること：版画?...コラージュ版画による作品づくり</p> <p>第10回 見ることと写し取ること：版画?...紙版画・凸版画による作品づくり</p> <p>第11回 見ることと写し取ること：版画?...木版画による作品づくり</p> <p>第12回 見ることと写し取ること：版画?...その他の版画・凹版画・平版画による作品づくり</p> <p>第13回 立体に形づくること?...油粘土による演習</p> <p>第14回 立体に形づくること?...紙粘土による演習</p> <p>第15回 造形活動と図画工作における指導と支援、作品づくりの振り返りとまとめ</p>
テキスト	『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形素材』樋口一成（著）萌文書林
参考書	担当教員作成のレジュメ・資料等を適宜使用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	第 1～15各回ともに、シラバスに記載された内容について、事前の配布資料を参考に学習の見通しと疑問点を整理しする等の予習を 1 時間行うこと、また、本時の配布資料及び講義内容を参考に学習内容をノートにまとめ、感想や意見を書き留める等の復習を 1 時間行うこと。（実技の学習課題については、製作活動を復習時間に含めてもよい。）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	子どもと造形(2組)
時間割コード Course Code	51881
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	30A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)
授業の目標	将来の保育士・幼稚園教諭・小学校教諭として必要な造形活動及び図画工作の意義を理解し、活動及び学習を展開するために必要な造形表現の基礎的な知識や技能を習得し、教材や教具・用具についての理解を深め、造形活動に積極的に関われる態度を身に付ける。
授業の概要	自然物や身の回りにあるものを描くことを通して、基本的な描画用具などの扱い方を学習する。色彩の理論を、色光の科学的理解を通して、絵の具の混色や様々なメディアに見られる色彩について理解し、作品制作に応用できるようにする。 凸版画の制作を通して、形と色の変化の楽しさを感じ取る。また、様々な造形活動を通して、素材のよさや性質に気付く。 なお、質問への対応は随時行う。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	課題及び課題への取り組みと探求の姿勢... 60%、小レポート及び授業への参加・発表と鑑賞態度... 40% 以上の内容から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第 1 回 授業の概要説明と進め方（造形活動・図画工作・美術とは何か）</p> <p>第 2 回 造形教育の目的と内容、材料・用具の具体と取り扱いの基本（クレヨン・パス・鉛筆・絵の具・ペン等の描画材）</p> <p>第 3 回 教材づくりの基礎・モダンテクニック（1）...フロッタージュ、ドリッピング、パチック・にじみ・ぼかし等</p> <p>第 4 回 教材づくりの基礎・モダンテクニック（2）...マーブリング・デカルコマニー・スパッタリング、コラージュ等</p> <p>第 5 回 光と色について?（色の三原色の理論と演習、色遊び、混色、重色による作品づくり）</p> <p>第 6 回 光と色について?（光の三原色の理論と演習、様々な配色 [カラースキーム] による作品づくり）</p> <p>第 7 回 見ることと描くこと：素描?...鉛筆・クレヨン・パスによる演習（材料の特性理解と扱い方も含む）</p> <p>第 8 回 見ることと描くこと：素描?...水彩絵の具による演習（材料の特性理解と扱い方も含む）</p> <p>第 9 回 見ることと写し取ること：版画?...コラージュ版画による作品づくり</p> <p>第10回 見ることと写し取ること：版画?...紙版画・凸版画による作品づくり</p> <p>第11回 見ることと写し取ること：版画?...木版画による作品づくり</p> <p>第12回 見ることと写し取ること：版画?...その他の版画・凹版画・平版画による作品づくり</p> <p>第13回 立体に形づくること?...油粘土による演習</p> <p>第14回 立体に形づくること?...紙粘土による演習</p> <p>第15回 造形活動と図画工作における指導と支援、作品づくりの振り返りとまとめ</p>
テキスト	『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形素材』樋口一成（著）萌文書林
参考書	担当教員作成のレジюме・資料等を適宜使用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	第 1～15各回ともに、シラバスに記載された内容について、事前の配布資料を参考に学習の見通しと疑問点を整理しする等の予習を 1 時間行うこと、また、本時の配布資料及び講義内容を参考に学習内容をノートにまとめ、感想や意見を書き留める等の復習を 1 時間行うこと。（実技の学習課題については、製作活動を復習時間に含めてもよい。）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	造形演習(1組) / Arts and Crafts
時間割コード Course Code	51888
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	30A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)
授業の目標	将来の保育士・幼稚園教諭・小学校教諭として必要な造形活動及び図画工作の意義を理解し、活動及び学習を展開するために必要な造形表現の基礎的な知識や技能を習得し、教材や教具・用具についての理解を深め、造形活動に積極的に関われる態度を身に付ける。
授業の概要	自然物や身の回りにあるものを描くことを通して、基本的な描画用具などの扱い方を学習する。色彩の理論を、色光の科学的理解を通して、絵の具の混色や様々なメディアに見られる色彩について理解し、作品制作に応用できるようにする。 凸版画の制作を通して、形と色の変化の楽しさを感じ取る。また、様々な造形活動を通して、素材のよさや性質に気付く。 なお、質問への対応は随時行う。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	課題及び課題への取り組みと探求の姿勢... 60%、小レポート及び授業への参加・発表と鑑賞態度... 40% 以上の内容から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第 1 回 授業の概要説明と進め方（造形活動・図画工作・美術とは何か）</p> <p>第 2 回 造形教育の目的と内容、材料・用具の具体と取り扱いの基本（クレヨン・パス・鉛筆・絵の具・ペン等の描画材）</p> <p>第 3 回 教材づくりの基礎・モダンテクニック（1）...フロッタージュ、ドリッピング、パチック・にじみ・ぼかし等</p> <p>第 4 回 教材づくりの基礎・モダンテクニック（2）...マーブリング・デカルコマニー・スパッタリング、コラージュ等</p> <p>第 5 回 光と色について?（色の三原色の理論と演習、色遊び、混色、重色による作品づくり）</p> <p>第 6 回 光と色について?（光の三原色の理論と演習、様々な配色 [カラースキーム] による作品づくり）</p> <p>第 7 回 見ることと描くこと：素描?...鉛筆・クレヨン・パスによる演習（材料の特性理解と扱い方も含む）</p> <p>第 8 回 見ることと描くこと：素描?...水彩絵の具による演習（材料の特性理解と扱い方も含む）</p> <p>第 9 回 見ることと写し取ること：版画?...コラージュ版画による作品づくり</p> <p>第10回 見ることと写し取ること：版画?...紙版画・凸版画による作品づくり</p> <p>第11回 見ることと写し取ること：版画?...木版画による作品づくり</p> <p>第12回 見ることと写し取ること：版画?...その他の版画・凹版画・平版画による作品づくり</p> <p>第13回 立体に形づくること?...油粘土による演習</p> <p>第14回 立体に形づくること?...紙粘土による演習</p> <p>第15回 造形活動と図画工作における指導と支援、作品づくりの振り返りとまとめ</p>
テキスト	『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形素材』樋口一成（著）萌文書林
参考書	担当教員作成のレジュメ・資料等を適宜使用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	第 1～15各回ともに、シラバスに記載された内容について、事前の配布資料を参考に学習の見通しと疑問点を整理しする等の予習を 1 時間行うこと、また、本時の配布資料及び講義内容を参考に学習内容をノートにまとめ、感想や意見を書き留める等の復習を 1 時間行うこと。（実技の学習課題については、製作活動を復習時間に含めてもよい。）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	造形演習(2組) / Arts and Crafts
時間割コード Course Code	51889
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	30A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩(教育保育学科)
授業の目標	将来の保育士・幼稚園教諭・小学校教諭として必要な造形活動及び図画工作の意義を理解し、活動及び学習を展開するために必要な造形表現の基礎的な知識や技能を習得し、教材や教具・用具についての理解を深め、造形活動に積極的に関われる態度を身に付ける。
授業の概要	自然物や身の回りにあるものを描くことを通して、基本的な描画用具などの扱い方を学習する。色彩の理論を、色光の科学的理解を通して、絵の具の混色や様々なメディアに見られる色彩について理解し、作品制作に応用できるようにする。 凸版画の制作を通して、形と色の変化の楽しさを感じ取る。また、様々な造形活動を通して、素材のよさや性質に気付く。 なお、質問への対応は随時行う。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	課題及び課題への取り組みと探求の姿勢...60%、小レポート及び授業への参加・発表と鑑賞態度...40% 以上の内容から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第 1 回 授業の概要説明と進め方（造形活動・図画工作・美術とは何か）</p> <p>第 2 回 造形教育の目的と内容、材料・用具の具体と取り扱いの基本（クレヨン・パス・鉛筆・絵の具・ペン等の描画材）</p> <p>第 3 回 教材づくりの基礎・モダンテクニック（1）...フロッタージュ、ドリッピング、パチック・にじみ・ぼかし等</p> <p>第 4 回 教材づくりの基礎・モダンテクニック（2）...マーブリング・デカルコマニー・スパッタリング、コラージュ等</p> <p>第 5 回 光と色について?（色の三原色の理論と演習、色遊び、混色、重色による作品づくり）</p> <p>第 6 回 光と色について?（光の三原色の理論と演習、様々な配色 [カラースキーム] による作品づくり）</p> <p>第 7 回 見ることと描くこと：素描?...鉛筆・クレヨン・パスによる演習（材料の特性理解と扱い方も含む）</p> <p>第 8 回 見ることと描くこと：素描?...水彩絵の具による演習（材料の特性理解と扱い方も含む）</p> <p>第 9 回 見ることと写し取ること：版画?...コラージュ版画による作品づくり</p> <p>第10回 見ることと写し取ること：版画?...紙版画・凸版画による作品づくり</p> <p>第11回 見ることと写し取ること：版画?...木版画による作品づくり</p> <p>第12回 見ることと写し取ること：版画?...その他の版画・凹版画・平版画による作品づくり</p> <p>第13回 立体に形づくること?...油粘土による演習</p> <p>第14回 立体に形づくること?...紙粘土による演習</p> <p>第15回 造形活動と図画工作における指導と支援、作品づくりの振り返りとまとめ</p>
テキスト	『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形素材』樋口一成（著）萌文書林
参考書	担当教員作成のレジュメ・資料等を適宜使用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	第 1～15各回ともに、シラバスに記載された内容について、事前の配布資料を参考に学習の見通しと疑問点を整理しする等の予習を 1 時間行うこと、また、本時の配布資料及び講義内容を参考に学習内容をノートにまとめ、感想や意見を書き留める等の復習を 1 時間行うこと。（実技の学習課題については、製作活動を復習時間に含めてもよい。）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	図画工作
時間割コード Course Code	51900
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	30A講義室, 31A講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)
授業の目標	<p>・造形教育・図画工作教育に関する教育内容全般(理論・実技)について理解を深め、技能を習得する。</p> <p>・造形教育・図画工作教育の理論的、実践的研究の主題・テーマについて構想・設定し、個々のテーマに沿って研究・探究する。</p> <p>以上の活動を通して、造形教育・図画工作教育についての総合的実践能力を獲得し、教育展開のための技術・技能を身に付ける。</p>
授業の概要	<p>小学校図画工作科の教科としての意義・内容を理解し、その指導及び評価方法について総合的・実践的な学習を深める。</p> <p>(造形教育・図画工作教育の概要・歴史・内容、幼保における「表現領域」と小学校における各学年の指導内容の理解とその接続、指導の実際と課題及び実技に関する演習、教材・教具についての理解と技能の習得、図画工作の実践的活動等)</p> <p>なお、質問への対応は随時行う。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>課題及び課題への取り組みと探求の姿勢... 60%、小レポート及び授業への参加・発表と鑑賞態度... 40%</p> <p>以上の内容から総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 授業の概要説明と進め方、美術・図画工作教育の歴史と内容（存在意義と社会的役割）</p> <p>第2回 幼保における造形活動「表現領域」の題材とその実践1（自作色紙によるおもちゃ作り）、小学校との接続理解</p> <p>第3回 幼保における造形活動「表現領域」の題材とその実践2（包装紙による飾り作り）、小学校との接続理解</p> <p>第4回 幼保における造形活動「表現領域」の題材とその実践3（廃紙の利用による自由作品）、小学校との接続理解</p> <p>第5回 小学校における各学年の題材とその実践1（低学年編：教科書題材1・2上下から選択して取り組む）</p> <p>第6回 小学校における各学年の題材とその実践2（中学年編：教科書題材3・4上下から選択して取り組む）</p> <p>第7回 小学校における各学年の題材とその実践3（高学年編：教科書題材5・6上下から選択して取り組む）</p> <p>第8回 領域・内容別に見る教材1（「造形遊び」の実践：砂・土・粘土による遊び、紙・ローラー絵、箱・材料ならべ等）</p> <p>第9回 領域・内容別に見る教材2（「絵に表す」の実践：生活画、お話の絵、想像の絵等）</p> <p>第10回 領域・内容別に見る教材3（「立体に表す」の実践：箱、粘土、木材、石等による表現）</p> <p>第11回 領域・内容別に見る教材4（「工作に表す」の実践：身近な素材・材料によるおもちゃ、紙コップ、紙皿等）</p> <p>第12回 領域・内容別に見る教材5（「鑑賞（美術作品と単独鑑賞）」の実践：不思議な絵、アートカード等の使用</p> <p>第13回 領域・内容別に見る教材6（「鑑賞（児童作品と相互鑑賞）」の実践：お気に入り作品と鑑賞の視点の理解</p> <p>第14回 理論的、実践的研究主題の設定と研究・探求1（アクティブラーニングの視点と問題課題設定）</p> <p>第15回 理論的、実践的研究主題の設定と研究・探求2（発表と共有、事例検討と振り返り）</p> <p>【実務経験のある教員による授業】</p> <p>小中学校教育現場での経験がある教員が、小学校で実践されている教科内容やその目的及び構成について解説し、理論と実践の往還を重視し、指導する科目である。</p>
テキスト	『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版（平成29年6月）
参考書	担当教員作成のレジュメ・資料等と適宜使用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	第1～15各回ともに、シラバスに記載された内容について、事前の配布資料を参考に学習の見通しと疑問点を整理しする等の予習を1時間行うこと、また、本時の配布資料及び講義内容を参考に学習内容をノートにまとめ、感想や意見を書き留める等の復習を1時間行うこと。（実技の学習課題については、製作活動を復習時間に含めてもよい。）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体育 / Physical Education of Schoolchild
時間割コード Course Code	51920
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室, 体育館
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学習指導要領に示されている小学校体育科の目標と内容を理解できる。 ・ 運動の特性と子どもの現状を踏まえた教材研究をすることができる。 ・ 各学年に対応した指導計画を作成することができる。 <p>< 授業のテーマ ></p> <p>小学校学習指導要領に示されている小学校体育科の目標と内容についての理解を深め、小学校における体育授業の在り方について追究する。その上で、運動の特性と子どもの現状を踏まえた教材研究、各学年に対応した指導計画を作成することができることを目標とする。</p>
授業の概要	<p>小学校学習指導要領の小学校体育について、その目標と内容について明らかにするとともに、運動の特性と子どもの現状を踏まえた教材研究、学年に対応した指導計画や指導案の作成について学習します。また、教材研究や指導計画作成の実際や模擬授業を通じて、体育授業での効果的な学習指導法についても学習します。さらに、児童期の体力や健康などの心と身体の今日的課題である子どもの現状も明らかにします。</p>
評価方法	1. 受講態度 (30%) 2. レポート提出物 (30%) 3. 到達確認授業内の小テスト (40%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	レポートが連続で未提出の場合 グループワークに不参加の場合

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 小学校学習指導要領の小学校体育の目標と内容について</p> <p>第2回：児童期の体力と運動機能の発達について 体力の分類と適時性について 運動動作の獲得について</p> <p>第3回：児童期の体力と健康の今日的な課題について 体力や運動能力の低下の背景と原因について</p> <p>第4回：体づくり運動系 ねらい及び内容、指導の留意点について 各学年の指導について</p> <p>第5回：器械運動系 ねらい及び内容、指導の留意点について 各学年の指導について</p> <p>第6回：陸上運動系 ねらい及び内容、指導の留意点について 各学年の指導について</p> <p>第7回：水泳運動系 ねらい及び内容、指導の留意点について 各学年の指導について</p> <p>第8回：ボール運動系 ねらい及び内容、指導の留意点について 各学年の指導について</p> <p>第9回：表現運動系 ねらい及び内容、指導の留意点について 各学年の指導について</p> <p>第10回：保健 ねらい及び内容、指導の留意点について 各学年の指導について</p> <p>第11回：指導計画の作成と内容の取り扱いについて 指導計画の作成のポイントと配慮事項について 内容の取り扱い（情報機器の活用も含む）について</p> <p>第12回：模擬授業（1）体づくり運動系・器械運動系・陸上競技系 指導案の作成について 情報機器の活用（DVDやタブレット等の利用）について 模擬授業の質疑応答及び講評について</p> <p>第13回：模擬授業（2）水泳運動系・ボール運動系 指導案の作成について 情報機器の活用（DVDやタブレット等の利用）について 模擬授業の質疑応答及び講評について</p> <p>第14回：模擬授業（3）表現運動系・保健 指導案の作成について 情報機器の活用（DVDやタブレット等の利用）について 模擬授業の質疑応答及び講評について</p> <p>第15回：授業のまとめと到達確認授業</p>
テキスト	文部科学省「小学校学習指導要領解説体育編」東洋館出版社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて随時受け付ける（hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp） 必要であれば授業ご対応する。
フィードバックの方法	レポート等は次週フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習 次回の内容について、テキスト部分を熟読すること。（60分） インターネット等を用いて指導案に作成に向け調べておくこと（30分）</p> <p>復習 講義で行った内容についてまとめておくこと（90分）</p>

使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力

開講科目名 Course	子どもと言葉(1組)
時間割コード Course Code	51950
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	加藤 昇
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	加藤 昇 (教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された保育の基本を踏まえ、「言葉」の領域のねらい及び内容を理解する。 ・ 領域「言葉」に関する理論(言葉の意義や乳幼児の言葉の発達の過程)を理解する。 ・ 領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 ・ 「乳児期における言葉の発達の基礎理論について学び、言葉の機能、体験の省察と表現手段としての言葉の機能について理解を深める。 ・ 言葉を育て、想像する楽しさを広げる。 ・ 領域「言葉」に関して、子どもが経験し獲得する内容と小学校の教科とのつながりを理解する。
授業の概要	<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児期における言葉の発達の基礎理論では、ICTの利活用を試みる。 ・ 子どもの言葉の発達と保育・教育の役割について事例をもとに説明する。 ・ 絵本や紙芝居、言葉遊びなどの教材研究が果たす役割について理解するとともに、実演練習等のアクティブラーニングを通して実践力を身につけられるようにする。 ・ 子どもの言葉と学びの関係について、担当者の小学校教諭の経験を活かし、絵本や紙芝居などの教材研究を中心にグループワークや発表を通して授業を行う。
評価方法	毎回のレポート提出(50%)とまとめのテスト(50%)により総合的に判定します。出席はして当然ですので、「出席点」という制度はありません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 領域「言葉」の確認</p> <p>第2回：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」</p> <p>第3回：乳幼児の言葉の発達（3歳未満児）について概説する。</p> <p>第4回：親や保育者との関係性と言葉の発達</p> <p>第5回：乳幼児の言葉の発達（3歳以上児）について概説する。</p> <p>第6回：幼児の生活や遊びの中にある言葉</p> <p>第7回：自分の考えや思いを伝えるための言葉</p> <p>第8回：体験と言葉</p> <p>第9回：話し言葉による表現</p> <p>第10回：書き言葉による表現</p> <p>第11回：乳幼児期の言葉の発達に応じた指導と援助</p> <p>第12回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「言葉による伝えあい」と小学校との接続</p> <p>第13回：言葉遊びや紙芝居や絵本の読み聞かせが言葉の発達に与える影響について</p> <p>第14回：保育現場において必要な言葉に関する援助や配慮（言葉の障がいや異文化理解）</p> <p>第15回：まとめ</p>
テキスト	<p>「保育と言葉」嵯峨野書院</p> <p>「幼稚園指導要領」フレーベル館</p>
参考書	適宜印刷
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・講義による知識から実際の幼児の行動などについて、学外の生活の中で見つめてくることを課題にする。 ・DVDを鑑賞して、幼児の発達についてグループで考えさせる。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	あらゆる質問について、学生間で共有して学びに繋げる。
フィードバックの方法	毎時間の感想を書かせ振り返ることで、自身の認識の変化に気づかせる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> ・各時間の感想レポートを書く。 ・講義内容に関係する資料を収集してくる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 9.実践力

開講科目名 Course	子どもと言葉(2組)
時間割コード Course Code	51951
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	加藤 昇
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	加藤 昇 (教育保育学科)
授業の目標	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された保育の基本を踏まえ、「言葉」の領域のねらい及び内容を理解する。 ・ 領域「言葉」に関する理論(言葉の意義や乳幼児の言葉の発達の過程)を理解する。 ・ 領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 ・ 「乳児期における言葉の発達の基礎理論について学び、言葉の機能、体験の省察と表現手段としての言葉の機能について理解を深める。 ・ 言葉を育て、想像する楽しさを広げる。 ・ 領域「言葉」に関して、子どもが経験し獲得する内容と小学校の教科とのつながりを理解する。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児期における言葉の発達の基礎理論では、ICTの利活用を試みる。 ・ 子どもの言葉の発達と保育・教育の役割について事例をもとに説明する。 ・ 絵本や紙芝居、言葉遊びなどの教材研究が果たす役割について理解するとともに、実演練習等のアクティブラーニングを通して実践力を身につけられるようにする。 ・ 子どもの言葉と学びの関係について、担当者の小学校教諭の経験を活かし、絵本や紙芝居などの教材研究を中心にグループワークや発表を通して授業を行う。
評価方法	毎回のレポート提出(50%)とまとめのテスト(50%)により総合的に判定します。出席はして当然ですので、「出席点」という制度はありません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 領域「言葉」の確認</p> <p>第2回：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」</p> <p>第3回：乳幼児の言葉の発達（3歳未満児）について概説する。</p> <p>第4回：親や保育者との関係性と言葉の発達</p> <p>第5回：乳幼児の言葉の発達（3歳以上児）について概説する。</p> <p>第6回：幼児の生活や遊びの中にある言葉</p> <p>第7回：自分の考えや思いを伝えるための言葉</p> <p>第8回：体験と言葉</p> <p>第9回：話し言葉による表現</p> <p>第10回：書き言葉による表現</p> <p>第11回：乳幼児期の言葉の発達に応じた指導と援助</p> <p>第12回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「言葉による伝えあい」と小学校との接続</p> <p>第13回：言葉遊びや紙芝居や絵本の読み聞かせが言葉の発達に与える影響について</p> <p>第14回：保育現場において必要な言葉に関する援助や配慮（言葉の障がいや異文化理解）</p> <p>第15回：まとめ</p>
テキスト	<p>「保育と言葉」嵯峨野書院</p> <p>「幼稚園指導要領」フレーベル館</p>
参考書	適宜印刷
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・講義による知識から実際の幼児の行動などについて、学外の生活の中で見つめてくることを課題にする。 ・DVDを鑑賞して、幼児の発達についてグループで考えさせる。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	あらゆる質問について、学生間で共有して学びに繋げる。
フィードバックの方法	毎時間の感想を書かせ振り返ることで、自身の認識の変化に気づかせる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> ・各時間の感想レポートを書く。 ・講義内容に関係する資料を収集してくる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 9.実践力

開講科目名 Course	子どものことばと文学(1組)
時間割コード Course Code	51955
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	加藤 昇
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	加藤 昇 (教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された保育の基本を踏まえ、「言葉」の領域のねらい及び内容を理解する。 ・ 領域「言葉」に関する理論(言葉の意義や乳幼児の言葉の発達の過程)を理解する。 ・ 領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 ・ 「乳児期における言葉の発達の基礎理論について学び、言葉の機能、体験の省察と表現手段としての言葉の機能について理解を深める。 ・ 言葉を育て、想像する楽しさを広げる。 ・ 領域「言葉」に関して、子どもが経験し獲得する内容と小学校の教科とのつながりを理解する。
授業の概要	<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児期における言葉の発達の基礎理論では、ICTの利活用を試みる。 ・ 子どもの言葉の発達と保育・教育の役割について事例をもとに説明する。 ・ 絵本や紙芝居、言葉遊びなどの教材研究が果たす役割について理解するとともに、実演練習等のアクティブラーニングを通して実践力を身につけられるようにする。 ・ 子どもの言葉と学びの関係について、担当者の小学校教諭の経験を活かし、絵本や紙芝居などの教材研究を中心にグループワークや発表を通して授業を行う。
評価方法	毎回のレポート提出(50%)とまとめのテスト(50%)により総合的に判定します。出席はして当然ですので、「出席点」という制度はありません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 領域「言葉」の確認</p> <p>第2回：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」</p> <p>第3回：乳幼児の言葉の発達（3歳未満児）について概説する。</p> <p>第4回：親や保育者との関係性と言葉の発達</p> <p>第5回：乳幼児の言葉の発達（3歳以上児）について概説する。</p> <p>第6回：幼児の生活や遊びの中にある言葉</p> <p>第7回：自分の考えや思いを伝えるための言葉</p> <p>第8回：体験と言葉</p> <p>第9回：話し言葉による表現</p> <p>第10回：書き言葉による表現</p> <p>第11回：乳幼児期の言葉の発達に応じた指導と援助</p> <p>第12回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「言葉による伝えあい」と小学校との接続</p> <p>第13回：言葉遊びや紙芝居や絵本の読み聞かせが言葉の発達に与える影響について</p> <p>第14回：保育現場において必要な言葉に関する援助や配慮（言葉の障がいや異文化理解）</p> <p>第15回：まとめ</p>
テキスト	<p>「保育と言葉」嵯峨野書院</p> <p>「幼稚園指導要領」フレーベル館</p>
参考書	適宜印刷
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・講義による知識から実際の幼児の行動などについて、学外の生活の中で見つめてくることを課題にする。 ・DVDを鑑賞して、幼児の発達についてグループで考えさせる。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	あらゆる質問について、学生間で共有して学びに繋げる。
フィードバックの方法	毎時間の感想を書かせ振り返ることで、自身の認識の変化に気づかせる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> ・各時間の感想レポートを書く。 ・講義内容に関係する資料を収集してくる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 9.実践力

開講科目名 Course	子どものことばと文学(2組)
時間割コード Course Code	51956
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	加藤 昇
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	加藤 昇 (教育保育学科)
授業の目標	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された保育の基本を踏まえ、「言葉」の領域のねらい及び内容を理解する。 ・ 領域「言葉」に関する理論(言葉の意義や乳幼児の言葉の発達の過程)を理解する。 ・ 領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 ・ 「乳児期における言葉の発達の基礎理論について学び、言葉の機能、体験の省察と表現手段としての言葉の機能について理解を深める。 ・ 言葉を育て、想像する楽しさを広げる。 ・ 領域「言葉」に関して、子どもが経験し獲得する内容と小学校の教科とのつながりを理解する。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児期における言葉の発達の基礎理論では、ICTの利活用を試みる。 ・ 子どもの言葉の発達と保育・教育の役割について事例をもとに説明する。 ・ 絵本や紙芝居、言葉遊びなどの教材研究が果たす役割について理解するとともに、実演練習等のアクティブラーニングを通して実践力を身につけられるようにする。 ・ 子どもの言葉と学びの関係について、担当者の小学校教諭の経験を活かし、絵本や紙芝居などの教材研究を中心にグループワークや発表を通して授業を行う。
評価方法	毎回のレポート提出(50%)とまとめのテスト(50%)により総合的に判定します。出席はして当然ですので、「出席点」という制度はありません。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 領域「言葉」の確認</p> <p>第2回：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」</p> <p>第3回：乳幼児の言葉の発達（3歳未満児）について概説する。</p> <p>第4回：親や保育者との関係性と言葉の発達</p> <p>第5回：乳幼児の言葉の発達（3歳以上児）について概説する。</p> <p>第6回：幼児の生活や遊びの中にある言葉</p> <p>第7回：自分の考えや思いを伝えるための言葉</p> <p>第8回：体験と言葉</p> <p>第9回：話し言葉による表現</p> <p>第10回：書き言葉による表現</p> <p>第11回：乳幼児期の言葉の発達に応じた指導と援助</p> <p>第12回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「言葉による伝えあい」と小学校との接続</p> <p>第13回：言葉遊びや紙芝居や絵本の読み聞かせが言葉の発達に与える影響について</p> <p>第14回：保育現場において必要な言葉に関する援助や配慮（言葉の障がいや異文化理解）</p> <p>第15回：まとめ</p>
テキスト	<p>「保育と言葉」嵯峨野書院</p> <p>「幼稚園指導要領」フレーベル館</p>
参考書	適宜印刷
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・講義による知識から実際の幼児の行動などについて、学外の生活の中で見つめてくることを課題にする。 ・DVDを鑑賞して、幼児の発達についてグループで考えさせる。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	あらゆる質問について、学生間で共有して学びに繋げる。
フィードバックの方法	毎時間の感想を書かせ振り返ることで、自身の認識の変化に気づかせる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> ・各時間の感想レポートを書く。 ・講義内容に関係する資料を収集してくる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 9.実践力

開講科目名 Course	幼稚園教育実習(事前事後指導)
時間割コード Course Code	51981
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	3 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁(教育保育学科)、小島 千枝(教育保育学科)
授業の目標	幼稚園教育実習1および2の事前事後指導である。 知識・理解の領域 幼稚園教育の目標、内容、方法を学習する。 幼稚園教諭として、子どもの発達を理解する。 幼稚園教諭として、子どもの遊びの意義を理解する。 技能の領域 幼稚園教諭として、日誌、指導案を作成できるようにする。 幼稚園教諭として、保育実践を立案し、展開できるようにする。 態度・志向性の領域 幼稚園教諭としての心構えを学習する。
授業の概要	幼稚園教諭の職務内容を理解する。幼稚園教諭として、子どもの発達に対応し、毎日の主な活動を選択して配列する。日案や指導案を作成する。導入、展開、まとめに区分し主な活動を設定する。保育技術を習熟し、子どもに指導できるようにする。特別講義として、幼稚園教諭の講義を聴く。以上の学習活動を通して、自己の課題を明確にし、取り組み、自身の保育観・教育観を形成する。 また、日誌と指導案等を手書きとパソコンで作成し、どちらの書式にも対応でき、編集できるようにする。
評価方法	授業への参加度、レポート、課題を総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回の授業のうち、6回以上の欠席で失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	幼稚園教育要領 文部科学省
参考書	無藤隆(監修)『幼稚園教育要領ハンドブック 2017年告示版』Gakken 林幸範・石橋裕子(編著)『最新 保育園・幼稚園の実習完全マニュアル』成美堂出版 阿部恵・鈴木みゆき(編著)『教育・保育実習安心ガイド』ひかりのくに 出雲美枝子著『実習おまかせBOOK』ひかりのくに
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実習に必要な模擬保育、指導案作成と実践などを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員による授業 各回の授業内容に応じて、実務経験のある教員による実践指導が行われる。

質問への対応方法	質問には担当教員が随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に応じて事前事後学習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	幼稚園教諭の職務内容・幼稚園実習の意義と実習の段階	実習の意義について、復習する。	
2	日誌の形式と書き方	事後学習「日誌の記入」授業翌日に提出	
3	幼児の発達段階について	3.4.5歳児の発達段階についてのレポートを課す。	
4	幼稚園教育要領について	幼稚園教育要領のについてのプリント課題を課す。	
5	指導案の形式と書き方 指導案に記入する項目について	事後学習「部分実習指導案の作成」翌週に提出	
6	保育技能の基礎(造形領域)	翌週までに園児に渡すメダルを作成する	
7	保育技能の基礎(ことば領域)	翌週までに年齢に合った絵本を選出し、読み聞かせの練習をする。	
8	子どものうた弾き歌いコンサート	ピアノによる弾き歌い課題を予習する。	
9	幼児の年齢に応じた遊びについて	年齢に応じた遊びを調べ(予習)、グループ別に発表する。	
10	幼稚園教育実習直前指導	事後学習「幼稚園実習1の目標の設定」「日誌の概要欄記入」	
11	お礼状の書き方・自己評価	事後学習「お礼状を書き、郵送する。」	
12	事後指導(エピソード記録)	幼稚園実習で体験したエピソードを記入しておく。	
13	事後指導1 グループ別反省会	次回の実習に向けての目標設定をしておく。	
14	事後指導2 全体発表会	次回の実習に向けての目標設定をしておく。	
15	外部講師による講演 「幼稚園教育実習1を終えて」 幼稚園教諭による講演	講演を振り返り、今後の職業選択に活かす。 復習を課す。	

開講科目名 Course	介護等体験実習 / Practice in Care Service
時間割コード Course Code	51998
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 5
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	田中 秀佳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	田中 秀佳(教育保育学科)、高橋 勝也(法学部)
授業の目標	・介護等の体験を行うことによって、教員の資質向上を図る。 ・社会福祉施設等における介護等体験を通して、社会福祉施設等の役割を知り、施設職員の仕事を理解する。
授業の概要	介護等体験実習では、社会福祉施設等の障害者や高齢者等と生活をともにし、社会福祉施設等の社会的役割や職員の職務内容を理解する。介護等体験の内容は、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験であり、高齢者や障害者の話相手、散歩の付き添い等の交流体験、掃除や洗濯など、施設の職員に必要とされる業務の補助を含む幅広いものである。実習生が実際に行う実習内容は、それぞれの社会福祉施設等の状況に応じて異なるので、社会福祉施設等の指示に従う。 実習を行う施設は、盲学校、聾学校、養護学校、保育所を除く社会福祉施設、その他の施設である。実習期間は、7日以上である。 介護等体験実習を行う者は、事前指導及び事後指導を必ず受けなくてはならない。
評価方法	実習機関の評価、出席を考慮して、総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	事前指導の注意事項、禁止事項に抵触した場合、介護等体験は辞退、中止により失格、または実施後に失格の判定をおこなう。
授業計画	介護等体験実習は後期に予定されている。 そのため、オリエンテーションとして初回講義を年度当初に実施した後、7月に事前指導、9月に直前指導、そして実習後に事後指導をおこなう予定である。
テキスト	全国特別支援学校長会編著『介護等体験ガイドブック 新フィリア』（ジアース教育新社、2020年4月）
参考書	現代教師養成研究会『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（四訂版）』（大修館書店、2014年12月） その他、授業時に指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学外活動に関しては授業時に資料を配布の上、詳細な説明を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験に基づき学校現場の現状、課題、学外活動に必要な事項を教授する。
質問への対応方法	直接またはメールにより随時対応する。
フィードバックの方法	授業時またはクラスルームを通じて実施する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、事前指導時に指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 授業スケジュールの確認、介護等体験実習の概要について。	【留意点1】 本授業は教員になることに強い意欲を有している者を対象とした科目である。教員を志望しない者の受講は原則として出来ないので注意して欲しい。	
2	介護等体験の意義1 介護等体験の意義を学習する。	【留意点2】 講義全体を通して、(1)他者の人生に関わる仕事、他者の人生をより良いものにする仕事の意義と重大さを理解すること、(2)教育施設・福祉施設の意義と職務を理解すること、(3)自らが教員を目指すにあたって、教員という職業に必要な資質とは何かを考え、自らの教員像を具体化していくこと、(4)実習に必要な知識や心構えを身につけることを目指す。	
3	介護等体験の意義2 介護等体験の意義を学習する。		
4	社会福祉施設等の概要1 盲学校、聾学校、養護学校、社会福祉施設等の概要を学習する。		
5	社会福祉施設等の概要2 盲学校、聾学校、養護学校、社会福祉施設等の概要を学習する。		
6	施設職員の職務1 社会福祉施設等の職員の職務を理解する		
7	施設職員の職務2 社会福祉施設等の職員の職務を理解する		
8	実習生の心構え等1 実習生としての心構えや態度を学習する		
9	実習生の心構え等2 実習生としての心構えや態度を学習する		
10	実習生の心構え等3 実習生としての心構えや態度を学習する		
11	ビデオ視聴 ビデオを視聴することによって、社会福祉施設等の実際を学習する。		
12	実習直前指導1 実習に際しての注意事項を伝達し、必要		
13	実習直前指導2 実習に際しての注意事項を伝達し、必要		
14	実習反省会1 実習終了後、反省会を開き、よかった点や悪かった点を話し合う。		
15	実習反省会2 実習終了後、反省会を開き、よかった点や悪かった点を話し合う。		

開講科目名 Course	社会的養護 I
時間割コード Course Code	52054
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	金井 恵史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金井 恵史 (教育保育学科)
授業の目標	聞き慣れない、見慣れない「社会的養護」の概念について学び、子どもから大人への成長を遂げたみなさんとともに「養護」についても掘り下げ、保育士という専門職にとって必要な社会的養護の理念ならびに法制度に関する基礎知識を学ぶ。
授業の概要	社会的養護の基本理念である、「子どもの権利擁護」「子どものアドボカシー（代弁）」を紹介し、理解し、実践のしていく中で体罰など不適切な養育（マルトリートメント）をしない、させない援助者となる。 知識の領域 ・社会的養護に関わる法制度、行政施策についての学び、里親制度や里親支援制度、児童福祉施設についての学び、実践にどのように活かしていくかの知識を習得する。 技能の領域 ・保育士として特に、社会的養護に関わる専門職としての自己覚知とセルフマネジメント能力の必要性を知り、実践に備える。 態度・指向性の領域 ・児童虐待や児童の貧困問題といった社会生活上、避けて通ることの出来ない諸問題に対して、どのように対応していくかを専門職としてできる援助について考察できるようになる。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	講義中の課題（30%）と期末テスト（70%）により総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	1 オリエンテーション 保育士が学ぶ社会的養護 2 現代の子ども養育環境について 社会の諸問題から養育環境について学ぶ 3 社会的養護とは 保育士としてに関わる社会的養護について 4 社会的養護の法制度について こども基本法、児童福祉法ほか法制度について 5 子どもの権利擁護とアドボカシー 権利主体としての子どもと取り巻く養育環境と意見表明について 6 社会的養護の担い手1ー児童相談所 児童相談所の機能と働きについて 7 社会的養護の担い手2ー里親 里親制度について知るとともに、実践について学ぶ 8 社会的養護の担い手3ー児童福祉施設 乳児院・母子生活支援施設について 9 社会的養護の担い手4ー児童福祉施設 児童養護施設について 10 社会的養護の担い手5ー児童福祉施設 児童自立支援施設・心理治療施設について 11 社会的養護の担い手6ー児童福祉施設 自立援助ホーム・児童家庭支援センターについて 12 専門職としての意識 社会的養護にあたる専門職としての学び 13 ソーシャルスキル 対人関係のスキルとしてのソーシャルスキルを学ぶ 14 行動の原理と表現 様々な養育環境における子どもの人格形成について学ぶ 15 まとめー社会的養護の担い手として 個人としてだけでなく、チームとして協働していくために必要な実践を学ぶ

テキスト	
参考書	別途指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業の中で、さまざまなアクティビティを通して、授業課題についての理解を深めるディスカッションや評価を行います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	児童養護施設職員である教員が、自身の実践してきた社会的養護について解説し、実践に必要なスキルを説明し、習得を目指す科目です。
質問への対応方法	授業内で課した課題についての評価に関する質問は随時対応します。期末テストの評価や誤答箇所に関する質問は、希望者に対して個別に対応します。
フィードバックの方法	・翌週までに返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	日頃からメディアの報道に目と耳を向け、社会状況に対しての関心を高めて下さい。 また講義内で自身の養育歴、育成歴についてのレポートを課題としますので、下調べ、調査をじっくり行って下さい。 なお、レポート作成にあたって心配や問題がある時は教員にご相談下さい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	保育士が学ぶ社会的養護	
2	現代の子ども養育環境について	社会の諸問題から養育環境について学ぶ	
3	社会的養護とは	保育士としてに関わる社会的養護について	
4	社会的養護の法制度について	こども基本法、児童福祉法ほか法制度について	
5	子どもの権利擁護とアドボカシー	権利主体としての子どもと取り巻く養育環境と意見表明について	
6	社会的養護の担い手1-児童相談所	児童相談所の機能と働きについて	
7	社会的養護の担い手2-里親	里親制度について知るとともに、実践について学ぶ	
8	社会的養護の担い手3-児童福祉施設	乳児院・母子生活支援施設について	
9	社会的養護の担い手4-児童福祉施設	児童養護施設について	
10	社会的養護の担い手5-児童福祉施設	児童自立支援施設・心理治療施設について	
11	社会的養護の担い手6-児童福祉施設	自立援助ホーム・児童家庭支援センターについて	
12	専門職としての意識	社会的養護にあたる専門職としての学び	
13	ソーシャルスキル	対人関係のスキルとしてのソーシャルスキルを学ぶ	
14	行動の原理と表現	様々な養育環境における子どもの人格形成について学ぶ	
15	まとめ-社会的養護の担い手として	個人としてだけでなく、チームとして協働していくために必要な実践を学ぶ	

開講科目名 Course	障害児保育 I (1組)
時間割コード Course Code	52069
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	楯 誠
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	楯 誠 (教育保育学科)
授業の目標	<p>近年の教育や保育に求められる大きな社会的要請の1つとして、特別の支援を必要とする子ども、特に障害のある子どもへの働きかけが挙げられる。適切にその子どもたちに働きかけ、心身の発達を促していくためには、(1)子どもたちが示すさまざまな困難性(障害に起因するものや、環境との相互作用によるものも含む)を理解すること、(2)具体的な支援の仕方を知ること、(3)その子どもたちを支える教育的なシステムについて把握することが必要不可欠である。本授業は特に幼児期の障害のある子どもを想定し、(1)の目標の達成を目指さずものである(なお、(2)、(3)については、「障害児保育2」で扱う)</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のとらえ方の国際的な枠組みが分かる。 ・障害、特に発達障害の発生機序が理解できる。 ・代表的な子どもの障害の概要が理解できる。 <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な枠組みから、障害のある子どもの抱える困難さや可能性をとらえようとする態度が身につく。 ・障害の特徴や原因に関する知識を基礎に、障害のある子どもへの適切な働きかけを考える態度が身につく。
授業の概要	<p>障害児保育の対象となる子どもについての理解を深め、より適切な保育を行うことができるように学習する。本授業は障害児保育2と連動している科目である。この授業では主に特別支援教育や障害者福祉に関わる基礎的な概念、障害が生じるメカニズム、代表的な子どもの障害(主として発達障害を取り上げる)の特性やその背景にある生理的、心理的特徴について取り上げ、解説を行う。</p> <p>講義内容の質問については、随時受け付ける。</p> <p>この授業は対面形式で行われるが、新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、一部遠隔授業形式になる可能性がある。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>評価方法</p> <p>持ち込み不可の期末試験による(100%)。</p> <p>出席は、期末試験受験資格の有無を判定する際に使用する。</p> <p>20分以上の遅刻は原則、欠席と見なす(遅刻者は20分以内に申し出ること)。</p> <p>学習状況に応じて、授業期間中にレポートを課すことがある。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	私語や大きな音を立てての途中退室は授業妨害と見なす。複数回の警告を受けた者は、失格とする。 欠席が6回以上の者は原則失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	新・障害のある子どもの保育<第3版> 伊藤健次 編 みらい
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内容の質問に関しては、主に授業後に対応するが、別の時間でも受け付ける。
フィードバックの方法	期末試験の得点や誤答箇所のフィードバックは、希望者に個別にて行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 障害とは何か(1) WHOの障害モデル「国際障害分類 (ICIDH)」について	テキスト(p11-13)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。 この部分は極めて難解なため、「ICFの理解と活用(上田敏、萌文社)」を参考図書として挙げる。予習として、書籍やWeb上の資料を参照し、障害者基本法総則部分の確認を加える。	
2	障害と何か(2) WHOの障害モデル「国際性機能分類 (ICF)」について、障害モデルと保育の関連	テキスト(p13-16)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。この部分は極めて難解なため、「ICFの理解と活用(上田敏、萌文社)」を参考図書として挙げる。	
3	障害児保育における重要概念	テキスト(p16-18、21-22、32)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。特に予習として、フルインクルージョンとパーシャルインクルージョンのキーワードの確認を課す。	
4	障害児保育の形態 分類保育と統合保育、障害児保育の場とその現状	テキスト(p19-25)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
5	障害の発生機序(1) 遺伝子と染色体の要因	テキスト(p51-55)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。 また、予習として「フェニルケトン尿症」「ダウン症」の概要をおさえること。	
6	障害の発生機序(2) 胎生期と周産期、出生後の要因	テキスト(p42-44、55-58)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。また、予習として「先天性風疹症候群」「脳室周囲白質軟化症(PVL)」の概要をおさえること。	
7	知的障害とは何か(1) その定義と分類、一般的な特性	テキスト(p58-65)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
8	知的障害とは何か(2) その生理的・心理的特徴(認知・学習面を中心に)	テキスト(p65-70)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
9	自閉症スペクトラム(ASD)とは何か(1) その歴史と定義の変遷、分類	テキスト(p70-72)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。 また、カナーとアスペルガー、ウィングの関係性を予習として調べる。	
10	自閉症スペクトラム(ASD)とは何か(2) 一般的な特性および生理的・心理的特徴	テキスト(p73-77)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
11	注意欠如・多動症(ADHD)とは何か(1) その定義と一般的な特徴	テキスト(p77-80)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。 文科省HPより「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」に予習として目を通しておくこと。	
12	注意欠如・多動症(ADHD)とは何か(2) その生理的・心理的特徴	前回の授業で配布された資料を基に予習(2時間)および授業内容の復習(2時間)を課す。	
13	限局性学習症(SLD)と発達性共著運動症(DCD) その定義と一般的な特徴	テキスト(p80-82)の予習(2時間)および、講義内容の復習(2時間)を課す。	
14	その他の子どもの障害の定義と一般的特性(1) 視覚障害と聴覚障害	テキスト(p93-97)の予習(2時間)および、講義内容の復習(2時間)を課す。	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	その他の子どもの障害の定義と一般的特性(2) 肢体不自由(脳性まひを中心に)	テキスト(p87-92)の予習(2時間)および、講義内容の復習(2時間)を課す。	

開講科目名 Course	障害児保育 I (2組)
時間割コード Course Code	52070
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	楯 誠
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	楯 誠 (教育保育学科)
授業の目標	<p>近年の教育や保育に求められる大きな社会的要請の1つとして、特別の支援を必要とする子ども、特に障害のある子どもへの働きかけが挙げられる。適切にその子どもたちに働きかけ、心身の発達を促していくためには、(1)子どもたちが示すさまざまな困難性(障害に起因するものや、環境との相互作用によるものも含む)を理解すること、(2)具体的な支援の仕方を知ること、(3)その子どもを支える教育的なシステムについて把握することが必要不可欠である。本授業は特に幼児期の障害のある子どもを想定し、(1)の目標の達成を目指さずものである(なお、(2)、(3)については、「障害児保育2」で扱う)</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のとらえ方の国際的な枠組みが分かる。 ・障害、特に発達障害の発生機序が理解できる。 ・代表的な子どもの障害の概要が理解できる。 <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な枠組みから、障害のある子どもの抱える困難さや可能性をとらえようとする態度が身につく。 ・障害の特徴や原因に関する知識を基礎に、障害のある子どもへの適切な働きかけを考える態度が身につく。
授業の概要	<p>障害児保育の対象となる子どもについての理解を深め、より適切な保育を行うことができるように学習する。本授業は障害児保育2と連動している科目である。この授業では主に特別支援教育や障害者福祉に関わる基礎的な概念、障害が生じるメカニズム、代表的な子どもの障害(主として発達障害を取り上げる)の特性やその背景にある生理的、心理的特徴について取り上げ、解説を行う。</p> <p>講義内容の質問については、随時受け付ける。</p> <p>この授業は対面形式で行われるが、新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、一部遠隔授業形式になる可能性がある。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>評価方法</p> <p>持ち込み不可の期末試験による(100%)。</p> <p>出席は、期末試験受験資格の有無を判定する際に使用する。</p> <p>20分以上の遅刻は原則、欠席と見なす(遅刻者は20分以内に申し出ること)。</p> <p>学習状況に応じて、授業期間中にレポートを課すことがある。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	私語や大きな音を立てての途中退室は授業妨害と見なす。複数回の警告を受けた者は、失格とする。 欠席が6回以上の者は原則失格とする。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	新・障害のある子どもの保育<第3版> 伊藤健次 編 みらい
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内容の質問に関しては、主に授業後に対応するが、別の時間でも受け付ける。
フィードバックの方法	期末試験の得点や誤答箇所のフィードバックは、希望者に個別にて行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 障害とは何か(1) WHOの障害モデル「国際障害分類(ICIDH)」について	テキスト(p11-13)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。この部分は極めて難解なため、「ICFの理解と活用(上田敏、萌文社)」を参考図書として挙げる。予習として、書籍やWeb上の資料を参照し、障害者基本法総則部分の確認を加える。	
2	障害と何か(2) WHOの障害モデル「国際性機能分類(ICF)」について、障害モデルと保育の関連	テキスト(p13-16)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。この部分は極めて難解なため、「ICFの理解と活用(上田敏、萌文社)」を参考図書として挙げる。	
3	障害児保育における重要概念	テキスト(p16-18、21-22、32)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。特に予習として、フルインクルージョンとパーシャルインクルージョンのキーワードの確認を課す。	
4	障害児保育の形態 分類保育と統合保育、障害児保育の場とその現状	テキスト(p19-25)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
5	障害の発生機序(1) 遺伝子と染色体の要因	テキスト(p51-55)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。また、予習として「フェニルケトン尿症」「ダウン症」の概要をおさえること。	
6	障害の発生機序(2) 胎生期と周産期、出生後の要因	テキスト(p42-44、55-58)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。また、予習として「先天性風疹症候群」「脳室周囲白質軟化症(PVL)」の概要をおさえること。	
7	知的障害とは何か(1) その定義と分類、一般的な特性	テキスト(p58-65)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
8	知的障害とは何か(2) その生理的・心理的特徴(認知・学習面を中心に)	テキスト(p65-70)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
9	自閉症スペクトラム(ASD)とは何か(1) その歴史と定義の変遷、分類	テキスト(p70-72)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。また、カナーとアスペルガー、ウィングの関係性を予習として調べる。	
10	自閉症スペクトラム(ASD)とは何か(2) 一般的な特性および生理的・心理的特徴	テキスト(p73-77)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。	
11	注意欠如・多動症(ADHD)とは何か(1) その定義と一般的な特徴	テキスト(p77-80)の予習(2時間)および、授業内容の復習(2時間)を課す。文科省HPより「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」に予習として目を通しておくこと。	
12	注意欠如・多動症(ADHD)とは何か(2) その生理的・心理的特徴	前回の授業で配布された資料を基に予習(2時間)および授業内容の復習(2時間)を課す。	
13	限局性学習症(SLD)と発達性共著運動症(DCD) その定義と一般的な特徴	テキスト(p80-82)の予習(2時間)および、講義内容の復習(2時間)を課す。	
14	その他の子どもの障害の定義と一般的特性(1) 視覚障害と聴覚障害	テキスト(p93-97)の予習(2時間)および、講義内容の復習(2時間)を課す。	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	その他の子どもの障害の定義と一般的特性(2) 肢体不自由(脳性まひを中心に)	テキスト(p87-92)の予習(2時間)および、講義内容の復習(2時間)を課す。	

開講科目名 Course	栄養管理学入門（オムニバス） / General Nutritional Management
時間割コード Course Code	53014
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子（管理栄養学科）、山田 貴史（管理栄養学科）、夏目 有紀枝（管理栄養学科）、朱宮 哲明（管理栄養学科）、山岡 由理子（管理栄養学科）
授業の目標	管理栄養士が人々の栄養管理に向き合うとき、栄養に関する知識や理論は、人々に食べていただいてこそ生きてくるものです。栄養管理の現場では、人々が美味しく食べられ、健康維持・増進につながっていく献立を考案する力が求められます。この授業では、献立作成の基本を身に付け、2年次以降のより実践的な専門科目授業や調理実習、さらには臨地実習における給食提供実体験に向けての基礎づくりを目指します。管理栄養士が担う役割を体感し、管理栄養士への意欲を高めることを期待します。
授業の概要	この授業は、 献立作成の基礎知識、 献立作成の応用編（1日の献立作り、集団給食の献立について）、 献立作成の応用編（疾病予防・改善にもつながる献立について、栄養計算ソフトの活用）、の3部構成となります。それぞれの担当教員が、現場における実際の経験を踏まえ、わかりやすく解説します。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	授業への取り組み、各回の授業レポートや課題などを各担当教員が採点し、総合的に評価します。課題の提出については、各回の担当教員が授業内で指示・説明します。欠席や遅刻、私語、課題提出遅延は減点の対象となります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合
授業計画	第01回：管理栄養士とは、献立作成とは 第02回：栄養素について（たんぱく質、脂質、炭水化物） 第03回：栄養素について（ビタミン、ミネラル） 第04回：食品成分表の掲載項目と使い方 第05回：食品の重量把握、栄養計算の基礎 第06-08回：食品成分表の活用法、日本人の食事摂取基準（2020年版）の使い方、献立作成の方法 第09-11回：教育現場での献立作成と栄養管理 第12-15回：献立作成ソフトの実用および修正方法、地中海式食事法について 教員の都合等で、実際の開講日と担当者、授業内容が変更になる場合があります。その場合は別途お知らせします。
テキスト	めざせ！栄養士・管理栄養士 まずはここから・ナビゲーション（第一出版）
参考書	日本人の食事摂取基準 2020年版（第一出版） 八訂食品成分表（女子栄養大学出版部） 調理のためのベーシックデータ（女子栄養大学出版部）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	教員の指示に従い、各自で献立作成や栄養計算などを実施します。 教員の指示に従い、テーマについてディスカッションを行う場合もあります。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院などの施設にて栄養管理や食事提供の経験を持つ教員が、献立作成の基礎や食事管理のコツなどについて、初心者向けにわかりやすく指導する科目です。
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	翌週以降に返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1時間の予習と3時間の復習を課すものとします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	健康管理論(2組)
時間割コード Course Code	53120
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 貴久
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 貴久 (管理栄養学科)
授業の目標	1.健康とはどういう状態かが説明できる。 2.現代の健康問題について説明できる。 3.管理栄養士において食および嗜好品と健康との関係が説明できる。 4.自分の健康管理方法を発表できる。
授業の概要	現代科学における健康との関連を管理栄養士の視点からみてどのような役割をしているかを考察しながら疾病予防を学ぶ。 授業の質問に関しては随時対応する。
評価方法	・筆記試験：60% (授業で学習した内容の理解度を確認する。) ・小試験：10% (各週毎に前回授業の確認をする。) ・成果発表：20% (与えられた課題をまとめ発表する。) ・参加姿勢：10% (学習意欲及び傾聴力を確認する。)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 健康の概念 第2回 健康日本21について 第3回 予防医学とは 第4回 現代の健康問題 第5回 心と健康 第6回 環境と健康(1) 第7回 環境と健康(2) 第8回 運動と健康 第9回 栄養と健康(1) 第10回 栄養と健康(2) 第11回 嗜好品と健康 第12回 社会と健康(1) 第13回 社会と健康(2) 第14回 科学と健康 第15回 健康観と健康法
テキスト	改訂 健康管理論(Nブックス)
参考書	社会・環境と健康(南江堂)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内においては適時質問は受け付ける。 また、授業後は研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎回資料のプリントを配りその内容について説明する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	シラバスを見て次回のところを教科書で事前に調べておく（予習）。 配られたプリントを見て教科書と照らし合わせる（復習）。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	13.気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	健康管理論(1組)
時間割コード Course Code	53121
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 貴久
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 貴久 (管理栄養学科)
授業の目標	1.健康とはどういう状態かが説明できる。 2.現代の健康問題について説明できる。 3.管理栄養士において食および嗜好品と健康との関係が説明できる。 4.自分の健康管理方法を発表できる。
授業の概要	現代科学における健康との関連を管理栄養士の視点からみてどのような役割をしているかを考察しながら疾病予防を学ぶ。 授業の質問に関しては随時対応する。
評価方法	・筆記試験：60% (授業で学習した内容の理解度を確認する。) ・小試験：10% (各週毎に前回授業の確認をする。) ・成果発表：20% (与えられた課題をまとめ発表する。) ・参加姿勢：10% (学習意欲及び傾聴力を確認する。)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 健康の概念 第2回 健康日本21について 第3回 予防医学とは 第4回 現代の健康問題 第5回 心と健康 第6回 環境と健康(1) 第7回 環境と健康(2) 第8回 運動と健康 第9回 栄養と健康(1) 第10回 栄養と健康(2) 第11回 嗜好品と健康 第12回 社会と健康(1) 第13回 社会と健康(2) 第14回 科学と健康 第15回 健康観と健康法
テキスト	改訂 健康管理論(Nブックス)
参考書	社会・環境と健康(南江堂)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内においては適時質問は受け付ける。 また、授業後は研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎回資料のプリントを配りその内容について説明する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	シラバスを見て次回のところを教科書で事前に調べておく（予習）。 配られたプリントを見て教科書と照らし合わせる（復習）。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	13.気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	公衆衛生学I(1組) / Public Health I
時間割コード Course Code	53155
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 貴久
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 貴久 (管理栄養学科)
授業の目標	1. 基本的な健康管理の概念と健康管理におけるライフスタイルを具体的に説明できるようにする。 2. 人間集団における健康および疾病状況を疫学的な観点から理解し基礎的な能力を身につける。 3. 社会的な健康問題に対して、問題解決を見据えた習慣を身につける。
授業の概要	公衆衛生学は疾病の予防、生活の質(QOL)の向上および人間集団における健康というものをどのように維持・増進できるかを考え、それを実践するための必要な知識や技能を学ぶ。単に寿命を延ばすのではなく、健康寿命の延長をさせるにはどうしたらよいか、また健康の維持とは、単に病気にならないという視点ではなく、有意義に生きがいのある人生を全うしていくかということに常に念頭に入れて学習する。 授業に関する質問は随時対応する。
評価方法	・筆記試験：60% (授業で学習した内容の理解度を確認する。) ・小試験：10% (各週毎に前回授業の確認をする。) ・成果発表：20% (与えられた課題をグループで発表する。) ・参加姿勢：10% (学習意欲及び傾聴力を確認する。)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 健康の基本概念 第2回 公衆衛生の概念と意義 第3回 公衆衛生の歴史 第4回 保健統計(1) 第5回 保健統計(2) 第6回 保健統計(3) 第7回 健康状態・疾病の評価 第8回 疫学的方法の種類(1) 第9回 疫学的方法の種類(2) 第10回 疫学的方法と因果関係 第11回 生活習慣と健康(1) 第12回 生活習慣と健康(2) 第13回 主要な生活習慣病(1) 第14回 主要な生活習慣病(2) 第15回 主要な生活習慣病(3)
テキスト	社会・環境と健康 (南江堂)
参考書	国民衛生の動向、国民福祉の動向、厚生労働白書などの各年度版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中での質問は適時受ける。 また、授業後の質問は研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎回復習のための小試験を授業内で行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習に関してはシラバスの授業計画を見て教科書の次のテーマの箇所を読んでおくこと。 復習に関しては授業ノートを見直し次回の小テストの勉強をしておくこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	健康の基本概念 健康とは何かを理解し基本概念を学ぶ。	WHOの健康の定義を述べることができる。	
2	公衆衛生の概念と意義 予防医学と健康増進について学ぶ。	一次予防・二次予防・三次予防について特徴を述べることができる。	
3	公衆衛生の歴史 公衆衛生の歴史および貢献した人物について学ぶ。	代表的な公衆衛生の歴史および貢献した人物について述べることができる。	
4	保健統計(1) 保健統計の基礎知識について学ぶ。	何故人口調査が必要なのか理解し説明できる。	
5	保健統計(2) 人口動態統計と人口静態統計について学ぶ。	日本人の主要死因の推移および高齢化と少子化についての対策を述べることができる。	
6	保健統計(3) 生命表について学ぶ。	生命表の意味が説明でき、国民健康・栄養調査等の各種保健統計の要点を述べることができる。	
7	健康状態・疾病の評価 疫学の基本的な考え方を学ぶ。	疫学の定義が説明でき、罹患率と有病率の違いを述べることができる。	
8	疫学的方法の種類(1) 記述疫学について学ぶ。	記述疫学について、述べるができる。	
9	疫学的方法の種類(2) 分析疫学について学ぶ。	分析疫学について、述べるができる。	
10	疫学的方法と因果関係 スクリーニングについて学ぶ。	スクリーニングに出てくる敏感度、特異度について説明することができる。	
11	生活習慣と健康(1) 飲酒と喫煙について学ぶ。	アルコール及び喫煙の生理的・精神的・社会的な健康影響および最新医学における情報を述べるができる。	
12	生活習慣と健康(2) 運動政策について学ぶ	健康日本21(第2次)における運動政策を述べるができる。 運動の予防医学的な利点を見つけ出すことができる。	
13	主要な生活習慣病(1) 科学的根拠に基づくがん予防について学ぶ。	悪性新生物について学び、最新の予防医学情報を見つけ出し発表する。	
14	主要な生活習慣病(2) 糖尿病・高血圧・脂質代謝異常症の科学的根拠に基づく予防方法を学ぶ	糖尿病・高血圧・脂質代謝異常症について学び、最新の予防医学情報を見つけ出し発表する。	
15	主要な生活習慣病(3) 精神疾患の疫学について学ぶ。	精神疾患の種類を述べることができ、疫学について説明できる。	

開講科目名 Course	公衆衛生学I(2組) / Public Health I
時間割コード Course Code	53156
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 貴久
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 貴久 (管理栄養学科)
授業の目標	1. 基本的な健康管理の概念と健康管理におけるライフスタイルを具体的に説明できるようにする。 2. 人間集団における健康および疾病状況を疫学的な観点から理解し基礎的な能力を身につける。 3. 社会的な健康問題に対して、問題解決を見据えた習慣を身につける。
授業の概要	公衆衛生学は疾病の予防、生活の質(QOL)の向上および人間集団における健康というものをどのように維持・増進できるかを考え、それを実践するための必要な知識や技能を学ぶ。単に寿命を延ばすのではなく、健康寿命の延長をさせるにはどうしたらよいか、また健康の維持とは、単に病気にならないという視点ではなく、有意義に生きがいのある人生を全うしていくかということに常に念頭に入れて学習する。 授業に関する質問は随時対応する。
評価方法	・筆記試験：60% (授業で学習した内容の理解度を確認する。) ・小試験：10% (各週毎に前回授業の確認をする。) ・成果発表：20% (与えられた課題をグループで発表する。) ・参加姿勢：10% (学習意欲及び傾聴力を確認する。)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 健康の基本概念 第2回 公衆衛生の概念と意義 第3回 公衆衛生の歴史 第4回 保健統計(1) 第5回 保健統計(2) 第6回 保健統計(3) 第7回 健康状態・疾病の評価 第8回 疫学的方法の種類(1) 第9回 疫学的方法の種類(2) 第10回 疫学的方法と因果関係 第11回 生活習慣と健康(1) 第12回 生活習慣と健康(2) 第13回 主要な生活習慣病(1) 第14回 主要な生活習慣病(2) 第15回 主要な生活習慣病(3)
テキスト	社会・環境と健康 (南江堂)
参考書	国民衛生の動向、国民福祉の動向、厚生労働白書などの各年度版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業中での質問は適時受ける。 また、授業後の質問は研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎回復習のための小試験を授業内で行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習に関してはシラバスの授業計画を見て教科書の次のテーマの箇所を読んでおくこと。 復習に関しては授業ノートを見直し次回の小テストの勉強をしておくこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	健康の基本概念 健康とは何かを理解し基本概念を学ぶ。	WHOの健康の定義を述べることができる。	
2	公衆衛生の概念と意義 予防医学と健康増進について学ぶ。	一次予防・二次予防・三次予防について特徴を述べることができる。	
3	公衆衛生の歴史 公衆衛生の歴史および貢献した人物について学ぶ。	代表的な公衆衛生の歴史および貢献した人物について述べることができる。	
4	保健統計(1) 保健統計の基礎知識について学ぶ。	何故人口調査が必要なのか理解し説明できる。	
5	保健統計(2) 人口動態統計と人口静態統計について学ぶ。	日本人の主要死因の推移および高齢化と少子化についての対策を述べることができる。	
6	保健統計(3) 生命表について学ぶ。	生命表の意味が説明でき、国民健康・栄養調査等の各種保健統計の要点を述べることができる。	
7	健康状態・疾病の評価 疫学の基本的な考え方を学ぶ。	疫学の定義が説明でき、罹患率と有病率の違いを述べることができる。	
8	疫学的方法の種類(1) 記述疫学について学ぶ。	記述疫学について、述べるができる。	
9	疫学的方法の種類(2) 分析疫学について学ぶ。	分析疫学について、述べるができる。	
10	疫学的方法と因果関係 スクリーニングについて学ぶ。	スクリーニングに出てくる敏感度、特異度について説明することができる。	
11	生活習慣と健康(1) 飲酒と喫煙について学ぶ。	アルコール及び喫煙の生理的・精神的・社会的な健康影響および最新医学における情報を述べるができる。	
12	生活習慣と健康(2) 運動政策について学ぶ	健康日本21(第2次)における運動政策を述べるができる。 運動の予防医学的な利点を見つけ出すことができる。	
13	主要な生活習慣病(1) 科学的根拠に基づくがん予防について学ぶ。	悪性新生物について学び、最新の予防医学情報を見つけ出し発表する。	
14	主要な生活習慣病(2) 糖尿病・高血圧・脂質代謝異常症の科学的根拠に基づく予防方法を学ぶ	糖尿病・高血圧・脂質代謝異常症について学び、最新の予防医学情報を見つけ出し発表する。	
15	主要な生活習慣病(3) 精神疾患の疫学について学ぶ。	精神疾患の種類を述べることができ、疫学について説明できる。	

開講科目名 Course	化学
時間割コード Course Code	53280
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基礎科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	三大栄養素である糖質・脂質・タンパク質は炭素と水素原子を中心とした共有結合化合物である有機化合物である。その特性や生体内での代謝を化学反応として捉えることは栄養学を学ぶ上でもっとも効果的な方法のひとつである。本科目では、その基礎となる化学について学修し、化学の基本的な考え方を身につけた視点で健康と栄養を考える力を育成する。
授業の概要	糖質・脂質・タンパク質はどのようにしてエネルギーを内包しているのか、またどのようにしてその“かたち”にあるのか、原子のレベルから解説し、学修する。分子の性質と反応性について、化学平衡、酸・塩基、酸化・還元の見方とともに学修することで、生化学を理解するために必要な理解を深める。
評価方法	授業態度および期末試験によって評価を行う。授業態度に問題がなければ、期末試験を100点満点として評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 ガイダンス・化学と栄養について 第2回 元素と原子 第3回 電子配置と周期性 第4回 化合物と結合 第4回 化学式と化学反応式 第5回 水の性質とイオン 第6回 溶液と濃度 第7回 溶液の濃度計算(1) 第8回 溶液の濃度計算(2) 第8回 濃度計算のまとめ 第9回 密度と比重 第10回 浸透圧・半透膜 第11回 電解質と電離度 第12回 酸・塩基 第13回 緩衝作用 第14回 平衡と中和 第15回 生体内の酸・塩基
テキスト	栄養科学イラストレイテッド基礎化学 羊土社
参考書	

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問については、随時対応するので、分からない箇所があった場合は必ず質問に来ること。
フィードバックの方法	講義内で実施する小テストを返却し、期末試験の準備教材とする。期末試験の内容についても、試験後に随時解説をする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	原子や分子など、高校で学ぶ化学の基礎知識を予習しておくこと。復習は、講義内容を中心に教科書を熟読し、理解できない箇所は教員に質問し知識を深めること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力

開講科目名 Course	病態学I(1組) / Human Diseases and Pathophysiology I
時間割コード Course Code	53385
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸 (管理栄養学科)
授業の目標	特に内科系の主要疾患、中でも栄養・代謝に関係の深い臓器別に成因・症状・診断・治療について概説を行う。管理栄養学のなかで臨床栄養、すなわち有病者に対する栄養管理の重要性は年々高まっており、それに対応しうるだけの基礎的な医学知識の習得が本講義の目標である。
授業の概要	まず診断のための検査と診察について解説し その後は臓器別に疾患について解説を行う。 頻出重要疾患を中心に、国家試験対策を見据えて、各疾病の要点を概説する
評価方法	試験の成績に、出席やレポート等を加味して行う。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし。
授業計画	テキストに従って講義を進めていきます。
テキスト	テキスト(病態学IIと通年で使用) 栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 第3版:羊土社 田中明 ほか編
参考書	
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授 業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授 業の内容	
質問への対応方法	授業後等適宜
フィードバックの方法	適宜問題演習と解説を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及 び時間	テキストの予習、復習
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第1章診断のための身体診察と検査	身体診察と検査について	状況により変更の可能性 あります。
2	第1章診断のための身体診察と検査	身体診察と検査について	
3	第2章疾患の治療	疾患の治療について	
4	問題演習と解説		
5	第3章栄養・代謝系疾患	栄養代謝性系疾患について	
6	第3章栄養・代謝系疾患	栄養代謝性系疾患について	
7	第4章内分泌系疾患	内分泌系疾患について	
8	問題演習と解説		
9	第5章消化管疾患	消化管疾患について	
10	第5章消化管疾患	消化管疾患について	
11	第6章肝胆膵疾患	肝胆膵疾患	
12	問題演習と解説		
13	第7章循環器疾患	循環器膝下について	
14	第8章腎・尿路系疾患	腎・尿路系疾患について	
15	問題演習と解説		

開講科目名 Course	病態学I(2組) / Human Diseases and Pathophysiology I
時間割コード Course Code	53386
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 5
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸 (管理栄養学科)
授業の目標	特に内科系の主要疾患、中でも栄養・代謝に関係の深い臓器別に成因・症状・診断・治療について概説を行う。管理栄養学のなかで臨床栄養、すなわち有病者に対する栄養管理の重要性は年々高まっており、それに対応しうるだけの基礎的な医学知識の習得が本講義の目標である。
授業の概要	まず診断のための検査と診察について解説し その後は臓器別に疾患について解説を行う。 頻出重要疾患を中心に、国家試験対策を見据えて、各疾病の要点を概説する
評価方法	試験の成績に、出席やレポート等を加味して行う。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし。
授業計画	テキストに従って講義を進めていきます。
テキスト	テキスト(病態学IIと通年で使用) 栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 第3版:羊土社 田中明 ほか編
参考書	
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授 業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授 業の内容	
質問への対応方法	授業後等適宜
フィードバックの方法	適宜問題演習と解説を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及 び時間	テキストの予習、復習
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第1章診断のための身体診察と検査	身体診察と検査について	状況により変更の可能性 あります。
2	第1章診断のための身体診察と検査	身体診察と検査について	
3	第2章疾患の治療	疾患の治療について	
4	問題演習と解説		
5	第3章栄養・代謝系疾患	栄養代謝性系疾患について	
6	第3章栄養・代謝系疾患	栄養代謝性系疾患について	
7	第4章内分泌系疾患	内分泌系疾患について	
8	問題演習と解説		
9	第5章消化管疾患	消化管疾患について	
10	第5章消化管疾患	消化管疾患について	
11	第6章肝胆膵疾患	肝胆膵疾患	
12	問題演習と解説		
13	第7章循環器疾患	循環器膝下について	
14	第8章腎・尿路系疾患	腎・尿路系疾患について	
15	問題演習と解説		

開講科目名 Course	食品学I (1組)
時間割コード Course Code	53400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士としての実務基盤となる食品に関する知識 (分類、食品成分の構造・変化) の修得を目標とする。
授業の概要	食と健康のプロフェッショナルである管理栄養士は、肥満・糖尿病といった生活習慣病など、現代社会の抱える栄養上の諸問題への柔軟な対応も職責の一環である。その基礎となるべき食品学の基本知識を食品成分表の使い方と併せて修得する。 質問は随時対応する。 本授業は原則対面で実施する。
評価方法	授業態度:10% 定期試験 (2回):90% 上記の他、レポート等を総合的に評価する。 レポートの内容は翌講義時に解説をおこなう。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回分の欠席で失格とする。
授業計画	第1回 ガイダンス (授業の進め方、レポートについて) 第2回 人間と食品 第3回 食品成分表 (1) 第4回 食品成分表 (2) 第5回 食品成分の化学:一次機能 (水分、炭水化物) 第6回 食品成分の化学:一次機能 (脂質、タンパク質) 第7回 食品成分の化学:一次機能 (灰分と無機質、ビタミン) 第8回 嗜好成分の化学:二次機能 (色素成分、香気・におい成分) 第9回 嗜好成分の化学:二次機能 (呈味成分) 第10回 食品の機能性:三次機能 第11回 有害成分の化学 第12回 食品成分の変化 (タンパク質、炭水化物、脂質の変化) 第13回 食品成分の変化 (褐変、光による成分変化、高圧処理による変化、酵素による食品成分の変化) 第14回 食品の物性 第15回 まとめ
テキスト	「食べ物と健康 食品学総論」光生館 ISBN:978-4-332-04062-0 「食品成分表」(女子栄養大学出版社)
参考書	講義中に適宜紹介する。

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で実施する小テストならびにミニレポートについては、次回に返却し適宜解説をおこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義内容に該当する教科書部分ならびに配布資料を参考に予習復習を各1時間ずつ求める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	食品学I (2組)
時間割コード Course Code	53401
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士としての実務基盤となる食品に関する知識 (分類、食品成分の構造・変化) の修得を目標とする。
授業の概要	食と健康のプロフェッショナルである管理栄養士は、肥満・糖尿病といった生活習慣病など、現代社会の抱える栄養上の諸問題への柔軟な対応も職責の一環である。その基礎となるべき食品学の基本知識を食品成分表の使い方と併せて修得する。 質問は随時対応する。 本授業は原則対面で実施する。
評価方法	授業態度:10% 定期試験 (2回):90% 上記の他、レポート等を総合的に評価する。 レポートの内容は翌講義時に解説をおこなう。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回分の欠席で失格とする。
授業計画	第1回 ガイダンス (授業の進め方、レポートについて) 第2回 人間と食品 第3回 食品成分表 (1) 第4回 食品成分表 (2) 第5回 食品成分の化学:一次機能 (水分、炭水化物) 第6回 食品成分の化学:一次機能 (脂質、タンパク質) 第7回 食品成分の化学:一次機能 (灰分と無機質、ビタミン) 第8回 嗜好成分の化学:二次機能 (色素成分、香気・におい成分) 第9回 嗜好成分の化学:二次機能 (呈味成分) 第10回 食品の機能性:三次機能 第11回 有害成分の化学 第12回 食品成分の変化 (タンパク質、炭水化物、脂質の変化) 第13回 食品成分の変化 (褐変、光による成分変化、高圧処理による変化、酵素による食品成分の変化) 第14回 食品の物性 第15回 まとめ
テキスト	「食べ物と健康 食品学総論」光生館 ISBN:978-4-332-04062-0 「食品成分表」(女子栄養大学出版社)
参考書	講義中に適宜紹介する。

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で実施する小テストならびにミニレポートについては、次回に返却し適宜解説をおこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義内容に該当する教科書部分ならびに配布資料を参考に予習復習を各1時間ずつ求める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	食品学実験I(1組)
時間割コード Course Code	53440
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 C 理化学実験室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)
授業の目標	食品に含まれる水分、ミネラル、タンパク質、脂質など食品成分表に記載された食品成分の基礎的分析法の理解を目標とする。
授業の概要	食品科学を学ぶ上での基礎となる食品分析法の原理及び実験器具の取り扱いを修得する。 質問は随時対応する。 本授業は原則対面で実施する。
評価方法	授業態度:30% レポート:70% 上記の他、実験内課題等を総合的に評価する。 レポートの内容は次回実験時に解説をおこなう。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	3回分の欠席で失格とする。
授業計画	第1回 ガイダンス (実験の基礎知識、レポートの書き方等) 第2回 pHの測定 第3回 食品成分分析 (水分・粗灰分) 第4回 食品成分分析 (褐変・水硬度) 第5回 粗タンパク質の定量、食品のレオロジー 第6回 タンパク質・アミノ酸・糖の定性反応 第7回 デンプン・グルテンの分離、糊化とヨウ素デンプン反応 第8回 食肉色素の反応、発酵食品の成分解析
テキスト	食品学総論実験 (同文書院) ISBN:978-4-8103-1345-1
参考書	実験中に適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実験で得られた結果についてグループ単位で考察の機会を設ける。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	実験レポートは採点の上、次回時に返却し適宜解説をおこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実験内容に該当する教科書記述を参考に予習復習を1時間ずつ求める。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	食品学実験I(2組)
時間割コード Course Code	53441
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 C 理化学実験室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)
授業の目標	食品に含まれる水分、ミネラル、タンパク質、脂質など食品成分表に記載された食品成分の基礎的分析法の理解を目標とする。
授業の概要	食品科学を学ぶ上での基礎となる食品分析法の原理及び実験器具の取り扱いを修得する。 質問は随時対応する。 本授業は原則対面で実施する。
評価方法	授業態度:30% レポート:70% 上記の他、実験内課題等を総合的に評価する。 レポートの内容は次回実験時に解説をおこなう。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	3回分の欠席で失格とする。
授業計画	第1回 ガイダンス (実験の基礎知識、レポートの書き方等) 第2回 pHの測定 第3回 食品成分分析 (水分・粗灰分) 第4回 食品成分分析 (褐変・水硬度) 第5回 粗タンパク質の定量、食品のレオロジー 第6回 タンパク質・アミノ酸・糖の定性反応 第7回 デンプン・グルテンの分離、糊化とヨウ素デンプン反応 第8回 食肉色素の反応、発酵食品の成分解析
テキスト	食品学総論実験 (同文書院) ISBN:978-4-8103-1345-1
参考書	実験中に適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実験で得られた結果についてグループ単位で考察の機会を設ける。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	実験レポートは採点の上、次回時に返却し適宜解説をおこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実験内容に該当する教科書記述を参考に予習復習を1時間ずつ求める。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	食品衛生学I(1組) / Food Hygiene I
時間割コード Course Code	53490
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男 (管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士に求められる食品衛生の知識・技術・関連法規を学ぶ。
授業の概要	食品と微生物、食中毒、感染症、有害物質による汚染、食品添加物、遺伝子組み換え食品、衛生に関する技法、HACCP、食品衛生関連法規について概説する。
評価方法	学習態度、試験の結果、出席やレポート等を加味して行う。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	Nブックス 「新訂 食品衛生学」
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	講義内で対応、および授業後等に適宜対応する。
フィードバックの方法	適宜、問題演習と解説を行います。 個別で必要な場合はメール等で回答します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	テキストの予習と復習。 その回に行った授業内容の確認 講義 (2 単位) 週1コマ (15時間) 30時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1 ~ 10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標 (11 ~ 17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第1回	ガイダンス 期末試験・受講上の注意点	
2	第2回	食の安全対策と食品安全基本法 食品衛生関連法規	
3	第3回	食品と微生物	
4	第4回	食品の変質と防止	
5	第5回	感染型食中毒	
6	第6回	毒素型食中毒	
7	第7回	経口感染と寄生虫	
8	第8回	飲食品と原虫類	
9	第9回	有害物質による食品汚染	
10	第10回	食品添加物	
11	第11回	農薬・動物用医薬品 放射線照射食品	
12	第12回	遺伝子組み換え食品	
13	第13回	器具及び容器・包装に関する衛生	
14	第14回	HACCPシステムによる衛生管理	
15	第15回	営業者による自主衛生管理 家庭における食中毒防止対策	

開講科目名 Course	食品衛生学I(2組) / Food Hygiene I
時間割コード Course Code	53491
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男 (管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士に求められる食品衛生の知識・技術・関連法規を学ぶ
授業の概要	食品と微生物、食中毒、感染症、有害物質による汚染、食品添加物、遺伝子組み換え食品衛生に関する技法、HACCP、食品衛生関連法規について概説する
評価方法	学習態度、試験の結果、出席やレポート等を加味して行う。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと
テキスト	Nブックス「新訂 食品衛生学」
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	講義内で対応、および授業後等に適宜対応する。
フィードバックの方法	適宜、問題演習と解説を行います。 個別で必要な場合はメール等で回答します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	テキストで予習と復習。 その回に行った授業内容の確認 講義 (2単位) 週1コマ (15時間) 30時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第1回	ガイダンス 期末試験・受講上の注意点	
2	第2回	食の安全対策と食品安全基本法 食品衛生関連法規	
3	第3回	食品と微生物	
4	第4回	食品の変質と防止	
5	第5回	感染型食中毒	
6	第6回	毒素型食中毒	
7	第7回	経口感染と寄生虫	
8	第8回	飲食品と原虫類	
9	第9回	有害物質による食品汚染、	
10	第10回	食品添加物	
11	第11回	農薬・動物用医薬品 放射線照射食品	
12	第12回	遺伝子組み換え食品、	
13	第13回	器具及び容器・包装に関する衛生	
14	第14回	HACCPシステムによる衛生管理	
15	第15回	営業者による自主衛生管理 家庭における食中毒予防対策	

開講科目名 Course	食品衛生学実習I(1組)
時間割コード Course Code	53500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2, 火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 B 生理学実験室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男 (管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士に求められる食品衛生の知識や検査方法を実験を通して学ぶ
授業の概要	本実習では、特に微生物試験 (微生物検査器具の基本操作・食品の細菌検査・食品の真菌検査) 及び、衛生管理手法 (微生物の培養検査・洗浄検査・食中毒事件対応) について実習を行う
評価方法	レポートを中心とした総合評価
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席時限数が19に満たない場合
授業計画	授業計画詳細情報を参照のこと
テキスト	Nボックス実験シリーズ 改訂食品衛生実験
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	毎回提出のレポートの考察部分に質問として記入
フィードバックの方法	次回個人に必要な場合は個人に、全体的に必要な場合は実験開始前に返答をする
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	今回の実験のデータ確認、必要なグラフの作成、次回実験の目的、操作法の確認 実験 (1単位) 隔週3コマ (24時間) 16時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第1回	ガイダンス 期末試験・受講上の注意点	
2	第2回	微生物検査器具の扱い 牛乳の鮮度試験及び規格	
3	第3回	微生物検査 培地作成 グローブジュース法	
4	第4回	微生物検査・スワブ法	
5	第5回	食品の細菌検査	
6	第6回	衛生管理 スタンプ法	
7	第7回	食品の真菌検査	
8	第8回	衛生管理 マスターテーブル法	

開講科目名 Course	食品衛生学実習I(2組)
時間割コード Course Code	53501
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2, 火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 B生理学実験室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男(管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士に求められる食品衛生の知識や検査技法を実験を通じて学ぶ
授業の概要	本実習では、特に微生物試験(微生物検査器具の基本操作・食品の細菌検査・食品の真菌検査)及び、衛生管理手法(微生物の培養検査・洗浄度検査・食中毒事件対応)について実習を行う
評価方法	レポートを中心とした総合評価
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席時限数が19に満たない場合
授業計画	授業計画詳細情報を参照のこと
テキスト	Nボックス実験シリーズ 改定食品衛生学実験
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	毎回提出のレポートの考察部分に質問として記入
フィードバックの方法	次回個人に必要な場合は個人に、全体的に必要な場合には実験開始前に返答する
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	今回の実験のデータ確認必要なグラフ等の作成、次回実験の目的、操作法の確認
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	第1回	ガイダンス・手洗い	
2	第2回	微生物検査 器具の扱い 牛乳の鮮度試験及び規格	
3	第3回	微生物検査 培地作成 グローブジュース法	
4	第4回	微生物検査 スワブ法	
5	第5回	食品の細菌培養	
6	第6回	衛生管理 スタンプ法	
7	第7回	食品の真菌検査	
8	第8回	衛生管理 マスターテーブル法	

開講科目名 Course	調理学(1組)
時間割コード Course Code	53520
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香 (管理栄養学科)
授業の目標	食材の栄養、調理に関する栄養学的・機能的な知識を理解する。食事設計を適切に実施し、健康増進に役立つ献立作成ができる。調理操作による食材の栄養・嗜好成分、物性などの変化および組織・物性の変化、素材の選び方、美味しさについて学習することを目標とする
授業の概要	調理には食品の栄養性の向上や安全性への注意の他に、おいしさが求められる。本授業では、食品が調理過程で起こる成分変化について栄養学的、食品学的な観点から食品の性質や成分、調理操作などについて科学的に学習する。
評価方法	授業への取り組み (10%)、小テストの評価 (15%)、レポートの評価 (5%)、定期試験 (70%) を総合的に評価する。授業の最初に小テストを実施し、前回授業の理解度を評価するとともに解説、質疑応答を行う。授業で学んだ基本的な知識が身についているかを確認する。課題の締め切りは翌日とし、次週返却する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 授業内容のオリエンテーション、調理と嗜好性 おいしさの要因</p> <p>第2回 調理と嗜好性 五感と五基本味</p> <p>第3回 食品の種類と特徴 (資料: 日本食品標準成分表)</p> <p>第4回 調理操作 非加熱調理操作</p> <p>第5回 調理操作 非加熱調理操作</p> <p>第6回 調理操作 加熱操作</p> <p>第7回 調理操作 調味操作</p> <p>第8回 植物性食品の調理性 (米、小麦、雑穀、デンプン)</p> <p>第9回 植物性食品の調理性 (いも、豆、種実類)</p> <p>第10回 植物性食品の調理性 (野菜、果実類)</p> <p>第11回 植物性食品の調理性 (きのこ、海藻、ゲル化剤)</p> <p>第12回 献立作成 動物性食品の調理性 (卵、乳類)</p> <p>第13回 動物性食品の調理性 (肉、魚介類)</p> <p>第14回 献立作成</p> <p>第15回 献立作成</p> <p>授業時間に相当する予習と復習の時間を持ち、日頃から調理や料理に関する情報に関心を持つ。日常的に調理経験を積んでおくこと。</p>
テキスト	食べ物と健康 調理学 山崎英恵編集 津田謹輔、伏木亨、本田佳子監修 中山書店 調理のためのベーシックデータ 第5版 松本仲子 女子栄養大学出版部
参考書	NEW調理と理論 同文書院
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院において管理栄養士経験がある教員が、対象者の特性を理解し、適した食材、調理法を選択し、対象者に適した献立を作成できる内容とする。見た目、味、テクスチャーにおいて対象者に満足してもらえる調理法を教育内容に組込んでいる。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕次回学習する章のテキストを読み要点を把握する。(2h×15回 30時間) 〔復習〕授業中に行う確認問題の誤文訂正を行い、次週の小テストに備える。(2h×15回 30時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	9. 実践力

開講科目名 Course	調理学(2組)
時間割コード Course Code	53521
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香 (管理栄養学科)
授業の目標	食材の栄養、調理に関する栄養学的・機能的な知識を理解する。食事設計を適切に実施し、健康増進に役立つ献立作成ができる。調理操作による食材の栄養・嗜好成分、物性などの変化および組織・物性の変化、素材の選び方、美味しさについて学習することを目標とする。
授業の概要	調理には食品の栄養性の向上や安全性への注意の他に、おいしさが求められる。本授業では、食品が調理過程で起こる成分変化について栄養学的、食品学的な観点から食品の性質や成分、調理操作などについて科学的に学習する。
評価方法	授業への取り組み(10%)、小テストの評価(15%)、レポートの評価(5%)、定期試験(70%)を総合的に評価する。授業の最初に小テストを実施し、前回授業の理解度を評価するとともに解説、質疑応答を行う。授業で学んだ基本的な知識が身についているかを確認する。課題の締め切りは翌日とし、次週返却する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 授業内容のオリエンテーション、調理と嗜好性 おいしさの要因</p> <p>第2回 調理と嗜好性 五感と五基本味</p> <p>第3回 食品の種類と特徴(資料:日本食品標準成分表)</p> <p>第4回 調理操作 非加熱調理操作</p> <p>第5回 調理操作 非加熱調理操作</p> <p>第6回 調理操作 加熱操作</p> <p>第7回 調理操作 調味操作</p> <p>第8回 植物性食品の調理性(米、小麦、雑穀、デンプン)</p> <p>第9回 植物性食品の調理性(いも、豆、種実類)</p> <p>第10回 植物性食品の調理性(野菜、果実類)</p> <p>第11回 植物性食品の調理性(きのこ、海藻、ゲル化剤)</p> <p>第12回 献立作成 動物性食品の調理性(卵、乳類)</p> <p>第13回 動物性食品の調理性(肉、魚介類)</p> <p>第14回 献立作成</p> <p>第15回 献立作成</p> <p>授業時間に相当する予習と復習の時間を持ち、日頃から調理や料理に関する情報に関心を持つ。日常的に調理経験を積んでおくこと。</p>
テキスト	食べ物と健康 調理学 山崎英恵編集 津田謹輔、伏木亨、本田佳子監修 中山書店 調理のためのベーシックデータ 第5版 松本仲子 女子栄養大学出版部
参考書	NEW調理と理論 同文書院
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院において管理栄養士経験がある教員が、対象者の特性を理解し、適した食材、調理法を選択し、対象者に適した献立を作成できる内容とする。見た目、味、テクスチャーにおいて対象者に満足してもらえる調理法を教育内容に組込んでいる。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕次回学習する章のテキストを読み要点を把握する。(2h×15回 30時間) 〔復習〕授業中に行う確認問題の誤文訂正を行い、次週の小テストに備える。(2h×15回 30時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	調理科学実験(1組)
時間割コード Course Code	53530
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 C 調理科学実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香 (管理栄養学科)
授業の目標	調理のプロセス(食品を食べ物にする過程)における様々な現象について、それぞれの理論を科学的に理解し、法則性を広く応用・展開できることを目標とする。調理科学の理論の理解と習得、実験レポートの作成技術の習得を目指す。
授業の概要	身近な食品を材料にし、実験を通して食べ物を調理するコツを科学的に検証し、レポートを作成する。
評価方法	授業への取り組み(40%)、実験レポート(60%)から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 授業内容のオリエンテーション、計量・計測に関する実験、計量器の使用法 第2回 米の調理特性に関する実験 第3回 小麦粉の調理特性に関する実験 第4回 卵の調理特性・凝固性に関する実験 第5回 油の乳化性・砂糖の調理特性に関する実験 第6回 寒天・ゼラチン・乳の調理特性に関する実験 第7回 果物・野菜の調理特性に関する実験 第8回 官能評価・だし汁に関する実験、まとめ
テキスト	調理科学実験 大羽和子・川端晶子編著 学建書院
参考書	調理学 木戸詔子、池田ひろ編 化学同人 調理のためのベーシックデータ 松本仲子 女子栄養大学出版社 NEW調理と理論 同文書院
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院において管理栄養士経験がある教員が、対象者の特性を理解し、適した食材、調理法を選択し、対象者に適した献立を作成できる内容とする。見た目、味、テクスチャーにおいて対象者に満足してもらえる調理法を教育内容に組込んでいる。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。 実験レポートは翌週までに提出し、翌々週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕「調理学」の教科書等で理論の復習を行い授業に臨む。 〔復習〕実験レポートの作成を行う。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	調理科学実験(2組)
時間割コード Course Code	53531
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 C 調理科学実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香 (管理栄養学科)
授業の目標	調理のプロセス(食品を食べ物にする過程)における様々な現象について、それぞれの理論を科学的に理解し、法則性を広く応用・展開できることを目標とする。調理科学の理論の理解と習得、実験レポートの作成技術の習得を目指す。
授業の概要	身近な食品を材料にし、実験を通して食べ物を調理するコツを科学的に検証し、レポートを作成する。
評価方法	授業への取り組み(40%)、実験レポート(60%)から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 授業内容のオリエンテーション、計量・計測に関する実験、計量器の使用法 第2回 米の調理特性に関する実験 第3回 小麦粉の調理特性に関する実験 第4回 卵の調理特性・凝固性に関する実験 第5回 油の乳化性・砂糖の調理特性に関する実験 第6回 寒天・ゼラチン・乳の調理特性に関する実験 第7回 果物・野菜の調理特性に関する実験 第8回 官能評価・だし汁に関する実験、まとめ
テキスト	調理科学実験 大羽和子・川端晶子編著 学建書院
参考書	調理学 木戸詔子、池田ひろ編 化学同人 調理のためのベーシックデータ 松本仲子 女子栄養大学出版社 NEW調理と理論 同文書院
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院において管理栄養士経験がある教員が、対象者の特性を理解し、適した食材、調理法を選択し、対象者に適した献立を作成できる内容とする。見た目、味、テクスチャーにおいて対象者に満足してもらえる調理法を教育内容に組込んでいる。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。 実験レポートは翌週までに提出し、翌々週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕「調理学」の教科書等で理論の復習を行い授業に臨む。 〔復習〕実験レポートの作成を行う。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	基礎栄養学I(2組) / Basic Nutrition I
時間割コード Course Code	53603
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	私たちが健康に生きてゆくためには、多種多様な食物の摂取により、必要な栄養素を過不足なく体内に取り入れることが重要です。取り込まれた栄養素は、体温の維持や運動のためのエネルギーに変換されたり、成長・発達のための体成分等に変えて利用されています。基礎栄養学では、これらの栄養素の消化吸収の仕組み、栄養素の働きを中心に学び、栄養素の摂取と健康の維持・増進、疾病の予防・治療との関連性の基礎を理解することを目標とします。
授業の概要	生化学および生理学で学んだ学習内容を基に、栄養素の体内への消化吸収および栄養素の動きと働きを中心に学ぶ事で、栄養の意味や体内での循環の仕組みを学ぶ。また、体内での栄養素循環に関係する器官と栄養素の関係について理解する。特に、三大栄養素(糖・脂質・タンパク質)と水の栄養素としての役割について学習する。
評価方法	学習態度、期末テストを総合して評価するが、学習態度に特段の問題がない限り、期末テストの結果を100点換算して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、基礎栄養学について 2. 糖質の種類とその特徴・構造 3. 糖質の消化と吸収 4. 糖質の体内動態と代謝(1) 5. 糖質の体内動態と代謝(2) 6. 脂質の種類とその特徴・構造 7. 脂質の消化と吸収 8. 脂質の体内動態と代謝(1) 9. 脂質の体内動態と代謝(2) 10. タンパク質の消化と吸収 11. タンパクの体内動態と代謝 12. タンパクの栄養評価法 13. 食後・空腹時の栄養 14. 水(電解質)の栄・構造養(水分の出納) 15. 水(電解質)の栄養(腎臓の機能と脱水・浮腫) <p>予習復習については、テキストおよび講義内容のノートを併用して行う事が望ましい。</p>
テキスト	栄養科学ファウンデーションシリーズ 生化学・基礎栄養学 池田彩子他 朝倉書店

参考書	カラー図解見て分かる生化学 川村越他 メディカルサイエンスインターナショナル
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	講義内外で、対面およびメールなどで適宜対応する。
フィードバックの方法	期末テストの結果は原則返却しないが、結果の開示や解答についての説明は、随時個別に受け付ける。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習については、生化学および解剖学の知識を必要とするため、これらの科目で学んだ内容を確認すること。 予習については、使用するテキストに目を通しておき、復習については、講義で説明した内容をノートに板書し、講義内容に沿って再度テキストを読み込むこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	15. 陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 9. 実践力

開講科目名 Course	基礎栄養学I(1組) / Basic Nutrition I
時間割コード Course Code	53604
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	私たちが健康に生きてゆくためには、多種多様な食物の摂取により、必要な栄養素を過不足なく体内に取り入れることが重要です。取り込まれた栄養素は、体温の維持や運動のためのエネルギーに変換されたり、成長・発達のための体成分等に変えて利用されています。基礎栄養学では、これらの栄養素の消化吸収の仕組み、栄養素の働きを中心に学び、栄養素の摂取と健康の維持・増進、疾病の予防・治療との関連性の基礎を理解することを目標とします。
授業の概要	生化学および生理学で学んだ学習内容を基に、栄養素の体内への消化吸収および栄養素の動きと働きを中心に学ぶ事で、栄養の意味や体内での循環の仕組みを学ぶ。また、体内での栄養素循環に関係する器官と栄養素の関係について理解する。特に、三大栄養素(糖・脂質・タンパク質)と水の栄養素としての役割について学習する。
評価方法	学習態度、期末テストを総合して評価するが、学習態度に特段の問題がない限り、期末テストの結果を100点換算して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、基礎栄養学について 2. 糖質の種類とその特徴・構造 3. 糖質の消化と吸収 4. 糖質の体内動態と代謝(1) 5. 糖質の体内動態と代謝(2) 6. 脂質の種類とその特徴・構造 7. 脂質の消化と吸収 8. 脂質の体内動態と代謝(1) 9. 脂質の体内動態と代謝(2) 10. タンパク質の消化と吸収 11. タンパクの体内動態と代謝 12. タンパクの栄養評価法 13. 食後・空腹時の栄養 14. 水(電解質)の栄・構造養(水分の出納) 15. 水(電解質)の栄養(腎臓の機能と脱水・浮腫) <p>予習復習については、テキストおよび講義内容のノートを併用して行う事が望ましい。</p>
テキスト	栄養科学ファウンデーションシリーズ 生化学・基礎栄養学 池田彩子他 朝倉書店

参考書	カラー図解見て分かる生化学 川村越他 メディカルサイエンスインターナショナル
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	講義内外で、対面およびメールなどで適宜対応する。
フィードバックの方法	期末テストの結果は原則返却しないが、結果の開示や解答についての説明は、随時個別に受け付ける。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	準備学習については、生化学および解剖学の知識を必要とするため、これらの科目で学んだ内容を確認すること。 予習については、使用するテキストに目を通しておき、復習については、講義で説明した内容をノートに板書し、講義内容に沿って再度テキストを読み込むこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	15. 陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 9. 実践力

開講科目名 Course	応用栄養学I(1組)
時間割コード Course Code	53620
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 5
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝(管理栄養学科)
授業の目標	この科目では、妊娠期、乳児期、幼児期、学童期、青年期に至る成長・発達過程や成人期から老年期に至るまでの各ライフステージの生理的特性および栄養ケアマネジメントの基本を学び、対象者に合わせた効果的な栄養管理を実践できるようになることを目指します。また、日本人の食事摂取基準についての基礎的知識を学び、他の授業における献立の作成に活かすことができます。
授業の概要	各ライフステージの生理的特性および生理的变化を理解し、それぞれの年代に適した栄養摂取方法やマネジメントの基本を学習します。なぜ栄養ケアマネジメントが必要であるのか、成長・発達・加齢に伴う変化に即した対応が求められるのか、その意義を知り、対象者としてしっかり向かい合っている確かな栄養管理を行うための知識を習得します。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	中間テスト(30%、授業時間内に実施)および期末テスト(70%)により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合。
授業計画	第01回：オリエンテーション、栄養ケア・マネジメント(概念) 第02回：栄養ケア・マネジメント(栄養アセスメント) 第03回：食事摂取基準の基礎的理解(意義と策定の基礎理論) 第04回：成長、発達、加齢 第05回：妊娠期、授乳期(生理的特徴) 第06回：妊娠期、授乳期(栄養アセスメントと栄養ケア) 第07回：新生児期、乳児期(生理的特徴) 第08回：新生児期、乳児期(栄養アセスメントと栄養ケア) 第09回：中間テスト、幼児期(生理的特徴) 第10回：幼児期(栄養アセスメントと栄養ケア) 第11回：学童期、思春期(生理的特徴、栄養アセスメント) 第12回：学童期、思春期(栄養ケア、摂食障害) 第13回：成人期(生理的特徴、栄養アセスメントと栄養ケア) 第14回：成人期(生活習慣病) 第15回：総括
テキスト	栄養科学イラストレイテッド応用栄養学(羊土社)

参考書	栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方考え方ケーススタディ第2版演習問題付き（医歯薬出版） 日本人の食事摂取基準2020年版（第一出版）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は、授業後やメールなど、随時対応します。
フィードバックの方法	随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	2時間の予習と2時間の復習を課すものとします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

開講科目名 Course	応用栄養学I(2組)
時間割コード Course Code	53621
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝(管理栄養学科)
授業の目標	この科目では、妊娠期、乳児期、幼児期、学童期、青年期に至る成長・発達過程や成人期から老年期に至るまでの各ライフステージの生理的特性および栄養ケアマネジメントの基本を学び、対象者に合わせた効果的な栄養管理を実践できるようになることを目指します。また、日本人の食事摂取基準についての基礎的知識を学び、他の授業における献立の作成に活かすことができます。
授業の概要	各ライフステージの生理的特性および生理的变化を理解し、それぞれの年代に適した栄養摂取方法やマネジメントの基本を学習します。なぜ栄養ケアマネジメントが必要であるのか、成長・発達・加齢に伴う変化に即した対応が求められるのか、その意義を知り、対象者としてしっかり向かい合っている確かな栄養管理を行うための知識を習得します。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	中間テスト(30%、授業時間内に実施)および期末テスト(70%)により評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合。
授業計画	第01回：オリエンテーション、栄養ケア・マネジメント(概念) 第02回：栄養ケア・マネジメント(栄養アセスメント) 第03回：食事摂取基準の基礎的理解(意義と策定の基礎理論) 第04回：成長、発達、加齢 第05回：妊娠期、授乳期(生理的特徴) 第06回：妊娠期、授乳期(栄養アセスメントと栄養ケア) 第07回：新生児期、乳児期(生理的特徴) 第08回：新生児期、乳児期(栄養アセスメントと栄養ケア) 第09回：中間テスト、幼児期(生理的特徴) 第10回：幼児期(栄養アセスメントと栄養ケア) 第11回：学童期、思春期(生理的特徴、栄養アセスメント) 第12回：学童期、思春期(栄養ケア、摂食障害) 第13回：成人期(生理的特徴、栄養アセスメントと栄養ケア) 第14回：成人期(生活習慣病) 第15回：総括
テキスト	栄養科学イラストレイテッド応用栄養学(羊土社)

参考書	栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方考え方ケーススタディ第2版演習問題付き（医歯薬出版） 日本人の食事摂取基準2020年版（第一出版）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問は、授業後やメールなど、随時対応します。
フィードバックの方法	随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	2時間の予習と2時間の復習を課すものとします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

開講科目名 Course	応用栄養学演習(1組)
時間割コード Course Code	53660
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	2 B 2 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝 (管理栄養学科)
授業の目標	応用栄養学IおよびIIで学んできた知識を基に、各ライフステージの具体的事例を取り上げた演習を行うことにより、栄養ケアマネジメントの実践的で確実な知識と技能を高めることができます。栄養管理が人々の健康をサポートできることを体感し、管理栄養士への意欲を持って演習に取り組むことを期待します。
授業の概要	身体計測のテクニックを学び、得られたデータのアセスメントについて理解を深めていきます。また、各ライフステージの症例(事例)から栄養学的問題点を読み取り、自らの考えによって栄養ケア計画を立案します。対象者に具体的な支援を行い、栄養ケアの評価とフィードバックができることを目指します。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	演習レポート内容(80%)、演習に取り組む姿勢(20%)を総合して評価します。 自由課題レポート提出により加点します。 欠席、遅刻、レポート提出遅延により減点します。 私語などの授業態度により減点する場合があります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合
授業計画	第01回：オリエンテーション、献立作成 第02回：栄養ケアマネジメントの演習(妊娠期、授乳期) 第03回：栄養ケアマネジメントの演習(乳児期) 第04回：栄養ケアマネジメントの演習(成人期) 第05回：身体計測、栄養アセスメント 第06回：栄養ケアマネジメントの演習(幼児期、学童期) 第07回：栄養ケアマネジメントの演習(高齢期) 第08回：福祉施設の栄養ケアマネジメント
テキスト	栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学(羊土社)
参考書	八訂 日本食品成分表(女子栄養大学出版部) 日本人の食事摂取基準 2020年版(第一出版) 栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方考え方ケーススタディ 第2版演習問題付き(医歯薬出版) 改訂6版 臨床栄養ディクショナリー(メディカ出版) "超"実践! 高齢者の栄養ケアー病院・高齢者施設でいかせる(メディカ出版)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	期末に返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業の前後に1時間の予習と3時間の演習レポート作成および自習（自由課題レポート作成）を課すものとします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	応用栄養学演習(2組)
時間割コード Course Code	53661
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	2 B 2 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝 (管理栄養学科)
授業の目標	応用栄養学IおよびIIで学んできた知識を基に、各ライフステージの具体的事例を取り上げた演習を行うことにより、栄養ケアマネジメントの実践的で確実な知識と技能を高めることができます。栄養管理が人々の健康をサポートできることを体感し、管理栄養士への意欲を持って演習に取り組むことを期待します。
授業の概要	身体計測のテクニックを学び、得られたデータのアセスメントについて理解を深めていきます。また、各ライフステージの症例(事例)から栄養学的問題点を読み取り、自らの考えによって栄養ケア計画を立案します。対象者に具体的な支援を行い、栄養ケアの評価とフィードバックができることを目指します。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	演習レポート内容(80%)、演習に取り組む姿勢(20%)を総合して評価します。 自由課題レポート提出により加点します。 欠席、遅刻、レポート提出遅延により減点します。 私語などの授業態度により減点する場合があります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合
授業計画	第01回：オリエンテーション、献立作成 第02回：栄養ケアマネジメントの演習(妊娠期、授乳期) 第03回：栄養ケアマネジメントの演習(乳児期) 第04回：栄養ケアマネジメントの演習(成人期) 第05回：身体計測、栄養アセスメント 第06回：栄養ケアマネジメントの演習(幼児期、学童期) 第07回：栄養ケアマネジメントの演習(高齢期) 第08回：福祉施設の栄養ケアマネジメント
テキスト	栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学(羊土社)
参考書	八訂 日本食品成分表(女子栄養大学出版部) 日本人の食事摂取基準 2020年版(第一出版) 栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方考え方ケーススタディ 第2版演習問題付き(医歯薬出版) 改訂6版 臨床栄養ディクショナリー(メディカ出版) "超"実践! 高齢者の栄養ケアー病院・高齢者施設でいかせる(メディカ出版)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	期末に返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業の前後に1時間の予習と3時間の演習レポート作成および自習（自由課題レポート作成）を課すものとします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	応用栄養学実習(1組)
時間割コード Course Code	53680
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2, 火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 1 D調理・食品加工実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝(管理栄養学科)
授業の目標	各ライフステージにおける身体特性および栄養特性に応じた栄養管理の考え方をもち、それぞれのステージに適した調理実習と献立作成を行います。実習を通じてより具体的に食事摂取基準の概要を理解し、栄養マネジメント能力を高めることを目指します。
授業の概要	ライフステージに合わせた調理上の工夫を習得していきます。離乳食、アレルギー児や咀嚼・嚥下障害のある高齢者の食事など、様々な対象者に対応できる実践力を養い、さらに、食事摂取基準や栄養素バランス、食品構成比率などを考慮した献立を作成する力を身につけていきます。実習後に、実習内容をレポートでまとめ、実習に関連した自習(テーマ自由)を行います。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	実習姿勢(20%)、実習レポートおよび献立作成(80%)を総合して評価します。 遅刻、欠席、レポート提出遅延により減点します。 私語などの授業態度により減点する場合があります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合
授業計画	第01回：オリエンテーション、献立作成 第02回：調理実習(乳児期の調乳・離乳食) 第03回：調理実習(幼児期) 第04回：調理実習(学童期、アレルギー対応) 第05回：調理実習(妊娠期) 第06回：調理実習(成人期、減塩食) 第07回：調理実習(高齢期、咀嚼障害対応) 第08回：調理実習(介護食、嚥下障害対応)
テキスト	栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学(羊土社)
参考書	八訂日本食品成分表(女子栄養大学出版部) 日本人の食事摂取基準 2020年版(第一出版) 調理のためのベーシックデータ(女子栄養大学出版部) 家庭のおかずのカロリーガイド(女子栄養大学出版部)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループごとに役割分担をして調理実習を行い、試食後に各ライフステージ向けの食事の特徴を考察します。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	期末に返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業の前後に1時間の予習と3時間の復習（レポート作成、自由課題）を課すものとします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	応用栄養学実習(2組)
時間割コード Course Code	53681
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2, 火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 1 D調理・食品加工実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝(管理栄養学科)
授業の目標	各ライフステージにおける身体特性および栄養特性に応じた栄養管理の考え方をもち、それぞれのステージに適した調理実習と献立作成を行います。実習を通じてより具体的に食事摂取基準の概要を理解し、栄養マネジメント能力を高めることを目指します。
授業の概要	ライフステージに合わせた調理上の工夫を習得していきます。離乳食、アレルギー児や咀嚼・嚥下障害のある高齢者の食事など、様々な対象者に対応できる実践力を養い、さらに、食事摂取基準や栄養素バランス、食品構成比率などを考慮した献立を作成する力を身につけていきます。実習後に、実習内容をレポートでまとめ、実習に関連した自習(テーマ自由)を行います。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	実習姿勢(20%)、実習レポートおよび献立作成(80%)を総合して評価します。 遅刻、欠席、レポート提出遅延により減点します。 私語などの授業態度により減点する場合があります。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合
授業計画	第01回：オリエンテーション、献立作成 第02回：調理実習(乳児期の調乳・離乳食) 第03回：調理実習(幼児期) 第04回：調理実習(学童期、アレルギー対応) 第05回：調理実習(妊娠期) 第06回：調理実習(成人期、減塩食) 第07回：調理実習(高齢期、咀嚼障害対応) 第08回：調理実習(介護食、嚥下障害対応)
テキスト	栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学(羊土社)
参考書	八訂日本食品成分表(女子栄養大学出版部) 日本人の食事摂取基準 2020年版(第一出版) 調理のためのベーシックデータ(女子栄養大学出版部) 家庭のおかずのカロリーガイド(女子栄養大学出版部)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループごとに役割分担をして調理実習を行い、試食後に各ライフステージ向けの食事の特徴を考察します。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	期末に返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業の前後に1時間の予習と3時間の復習（レポート作成、自由課題）を課すものとします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	栄養教育論II(1組)
時間割コード Course Code	53715
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	多様な場(セッティング)におけるライフステージ別の栄養教育の場と方法について説明できるようになることを目指す <学習成果> 知識・理解の領域 栄養教育における学習者の発達段階やライフスタイルなどの特徴を説明することができる 技能の領域 発達段階に応じた栄養教育のポイントを踏まえ、栄養教育に応用する視点をもつことができる 態度・志向性の領域 QOLを高めるための栄養教育にかかわる環境づくりや支援体制について自分の意見をのべることができる
授業の概要	各ライフステージの特徴や背景などを理解し、栄養・健康課題を学び知る。各ライフステージの対象に適したアセスメント内容や教材学習形態を学ぶ。行動変容技法やマネジメントサイクルに基づき、多様な場における栄養教育を実践できるようになる この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること
評価方法	参加姿勢 20% 定期テスト 80%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 10 回に満たない場合
授業計画	1 理論や技法を応用した栄養課養育の展開の概説、オリエンテーション 2 妊娠期の栄養教育の特徴 3 授乳期の栄養教育の特徴 4 乳児期の栄養教育の特徴 5 幼児期の栄養教育の特徴 6 学童期の栄養教育の特徴 7 思春期の栄養教育の特徴 8 成人期の栄養教育の特徴 9 傷病者の栄養教育の特徴 10 障がい者の栄養教育の特徴 11 災害時・非常時の栄養教育 12 高齢期の栄養教育 自立している高齢者 13 高齢期の栄養教育 要介護高齢者 14 栄養と環境に配慮した栄養教育の展開 15 多様な場におけるライフステージ別の栄養教育の展開のまとめ 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと

テキスト	笠原賀子・斎藤トシ子編『栄養科学シリーズNEXT 「栄養教育論 第4版」』講談社、2022年 ISBN : 978-4-06-155398-9
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	管理栄養士としてクリニック、在宅、老健入所・通所において栄養管理・栄養指導の実務経験を有する教員が、栄養教育の実践的な教育を行う科目である
質問への対応方法	授業後に対応
フィードバックの方法	次回授業時
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義2単位の場合、60時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	理論や技法を応用した栄養課養育の展開の概説、オリエンテーション	本科目の説明と授業の進め方を確認する	事前学修として栄養教育論Iで学んだことを事前に確認しておく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
2	妊娠期の栄養教育の特徴	妊婦を対象とした栄養教育の場と方法について学ぶ	テキストp.114-118 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
3	授乳期の栄養教育の特徴	授乳婦を対象とした栄養教育の場と方法について学ぶ	テキストp.118-122 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
4	乳児期の栄養教育の特徴	新生児・乳児を対象とした栄養教育の場と方法について学ぶ	テキストp.123-125 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
5	幼児期の栄養教育の特徴	保育所・認定こども園・幼稚園における栄養教育の展開について学ぶ	テキストp.126-130 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
6	学童期の栄養教育の特徴	小学校における栄養教育の展開について学ぶ	テキストp.131-138 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
7	思春期の栄養教育の特徴	中学校・高等学校における栄養教育の展開について学ぶ	テキストp.139-145 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
8	成人期の栄養教育の特徴	地域職域における栄養教育の展開について学ぶ。(肥満・痩せ)	テキストp.146-153 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
9	傷病者の栄養教育の特徴	地域職域における栄養教育の展開について学ぶ。(糖尿病)	テキストp.163-167 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
10	障がい者の栄養教育の特徴	地域職域における栄養教育の展開について学ぶ。(ノーマライゼーションと栄養教育)	テキストp.167-171 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
11	災害時・非常時の栄養教育	地域職域における災害時・非常時の栄養教育及び外国人に対する栄養教育の展開について学ぶ	テキストp.153-155、172 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
12	高齢期の栄養教育 自立高齢者	高齢者、福祉施設や在宅介護の場における栄養教育の展開について学ぶ。(自立高齢者)	テキストp.156-159 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
13	高齢期の栄養教育 要介護高齢者	高齢者、福祉施設や在宅介護の場における栄養教育の展開について学ぶ。(要介護高齢者)	テキストp.159-162 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
14	栄養と環境に配慮した栄養教育の展開	地球の食を考える。持続可能な食生活について学ぶ。(食品ロス・世界の栄養不足)	事前学修として授業範囲に関連する書物や新聞等を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	多様な場におけるライフステージ別の栄養教育の展開のまとめ	多様な場におけるライフステージ別の栄養教育を振り返る	事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)

開講科目名 Course	栄養教育論II(2組)
時間割コード Course Code	53716
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	多様な場(セッティング)におけるライフステージ別の栄養教育の場と方法について説明できるようになることを目指す <学習成果> 知識・理解の領域 栄養教育における学習者の発達段階やライフスタイルなどの特徴を説明することができる 技能の領域 発達段階に応じた栄養教育のポイントを踏まえ、栄養教育に応用する視点をもつことができる 態度・志向性の領域 QOLを高めるための栄養教育にかかわる環境づくりや支援体制について自分の意見をのべることができる
授業の概要	各ライフステージの特徴や背景などを理解し、栄養・健康課題を学び知る。各ライフステージの対象に適したアセスメント内容や教材学習形態を学ぶ。行動変容技法やマネジメントサイクルに基づき、多様な場における栄養教育を実践できるようになる この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること
評価方法	参加姿勢 20% 定期テスト 80%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 10 回に満たない場合
授業計画	1 理論や技法を応用した栄養課養育の展開の概説、オリエンテーション 2 妊娠期の栄養教育の特徴 3 授乳期の栄養教育の特徴 4 乳児期の栄養教育の特徴 5 幼児期の栄養教育の特徴 6 学童期の栄養教育の特徴 7 思春期の栄養教育の特徴 8 成人期の栄養教育の特徴 9 傷病者の栄養教育の特徴 10 障がい者の栄養教育の特徴 11 災害時・非常時の栄養教育 12 高齢期の栄養教育 自立している高齢者 13 高齢期の栄養教育 要介護高齢者 14 栄養と環境に配慮した栄養教育の展開 15 多様な場におけるライフステージ別の栄養教育の展開のまとめ 詳細は授業計画詳細情報を参照のこと

テキスト	笠原賀子・斎藤トシ子編『栄養科学シリーズNEXT 「栄養教育論 第4版」』講談社、2022年 ISBN : 978-4-06-155398-9
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	管理栄養士としてクリニック、在宅、老健入所・通所において栄養管理・栄養指導の実務経験を有する教員が、栄養教育の実践的な教育を行う科目である
質問への対応方法	授業後に対応
フィードバックの方法	次回授業時
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義2単位の場合、60時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	理論や技法を応用した栄養課養育の展開の概説、オリエンテーション	本科目の説明と授業の進め方を確認する	事前学修として栄養教育論Iで学んだことを事前に確認しておく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
2	妊娠期の栄養教育の特徴	妊婦を対象とした栄養教育の場と方法について学ぶ	テキストp.114-118 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
3	授乳期の栄養教育の特徴	授乳婦を対象とした栄養教育の場と方法について学ぶ	テキストp.118-122 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
4	乳児期の栄養教育の特徴	新生児・乳児を対象とした栄養教育の場と方法について学ぶ	テキストp.123-125 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
5	幼児期の栄養教育の特徴	保育所・認定こども園・幼稚園における栄養教育の展開について学ぶ	テキストp.126-130 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
6	学童期の栄養教育の特徴	小学校における栄養教育の展開について学ぶ	テキストp.131-138 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
7	思春期の栄養教育の特徴	中学校・高等学校における栄養教育の展開について学ぶ	テキストp.139-145 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
8	成人期の栄養教育の特徴	地域職域における栄養教育の展開について学ぶ。(肥満・痩せ)	テキストp.146-153 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
9	傷病者の栄養教育の特徴	地域職域における栄養教育の展開について学ぶ。(糖尿病)	テキストp.163-167 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
10	障がい者の栄養教育の特徴	地域職域における栄養教育の展開について学ぶ。(ノーマライゼーションと栄養教育)	テキストp.167-171 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
11	災害時・非常時の栄養教育	地域職域における災害時・非常時の栄養教育及び外国人に対する栄養教育の展開について学ぶ	テキストp.153-155、172 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
12	高齢期の栄養教育 自立高齢者	高齢者、福祉施設や在宅介護の場における栄養教育の展開について学ぶ。(自立高齢者)	テキストp.156-159 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
13	高齢期の栄養教育 要介護高齢者	高齢者、福祉施設や在宅介護の場における栄養教育の展開について学ぶ。(要介護高齢者)	テキストp.159-162 事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)
14	栄養と環境に配慮した栄養教育の展開	地球の食を考える。持続可能な食生活について学ぶ。(食品ロス・世界の栄養不足)	事前学修として授業範囲に関連する書物や新聞等を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	多様な場におけるライフステージ別の栄養教育の展開のまとめ	多様な場におけるライフステージ別の栄養教育を振り返る	事前学修として授業範囲に関連する教科書や書物を読んでおく(2時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(2時間)

開講科目名 Course	栄養教育論実習II(1組)
時間割コード Course Code	53775
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	現場での栄養教育を想定し、集団に応じた情報源、媒体、学習方法、学習形態について、スキルを使って模擬栄養教育を行うことで管理栄養士の心構えを理解する <学習成果> 知識・理解の領域 栄養教育のイメージを描き、マネジメントサイクルに沿った栄養教育を提案できる 技能の領域 模擬栄養教育の体験を行動変容の視点から考察できる 態度・志向性の領域 模擬栄養教育の企画に自ら取り組める
授業の概要	集団を対象にした栄養教育プログラムの立案をグループごとに実施する。食生活と健康づくり対策を踏まえた栄養指導計画の作成、指導媒体の作成及び評価法を検討・企画する。最後に企画した栄養教育実施計画に基づき指導媒体を活用して模擬授業を実施し、評価をする この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること
評価方法	参加姿勢 30% 実習課題 70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が2/3に満たない場合
授業計画	1 栄養教育の方法、オリエンテーション 2 情報収集の方法、教育媒体の種類 3 栄養教育計画の立案、指導案の作成 4 指導案の作成、媒体作成 5 媒体作成 6 媒体作成、リハーサル 7 模擬栄養指導と評価：前半（媒体を活用したプレゼンテーション） 8 模擬栄養指導と評価：後半（媒体を活用したプレゼンテーション）
テキスト	笠原賀子・斎藤トシ子編『栄養科学シリーズNEXT 「栄養教育論 第4版」』講談社、2022年 ISBN：978-4-06-155398-9)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ライフステージにおける健康課題の解決に向けて、グループ活動をする。グループ毎に異なる健康課題について、情報収集・プログラム計画を作成する。指導案を作成し栄養教育を授業内で実践発表する
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	管理栄養士としてクリニック、在宅、老健入所・通所において栄養管理・栄養指導の実務経験を有する教員が、栄養教育の実践的な教育を行う科目である
質問への対応方法	授業後に対応
フィードバックの方法	次回授業時
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習1単位の場合、15時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	栄養教育の方法、オリエンテーション	本科目の説明と授業の進め方を確認する	事前学修として栄養教育論で学んだことを事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
2	情報収集の方法、教育媒体の種類	栄養教育に必要な情報収集と適した媒体の種類を学ぶ	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
3	栄養教育計画の立案、指導案の作成	栄養教育計画の立案及び指導案の作成ができるようになる	前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
4	指導案の作成、媒体作成	栄養教育計画の立案及び指導案の作成ができるようになる	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
5	媒体作成	栄養教育に適した媒体を作成する	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
6	媒体作成、リハーサル	栄養教育に適した媒体を作成する。プレゼンテーションの練習をする	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
7	模擬栄養指導と評価：前半(媒体を活用したプレゼンテーション)	プレゼンテーションを実施し、評価する	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
8	模擬栄養指導と評価：後半(媒体を活用したプレゼンテーション)	プレゼンテーションを実施し、評価する	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)

開講科目名 Course	栄養教育論実習II(2組)
時間割コード Course Code	53776
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	現場での栄養教育を想定し、集団に応じた情報源、媒体、学習方法、学習形態について、スキルを使って模擬栄養教育を行うことで管理栄養士の心構えを理解する <学習成果> 知識・理解の領域 栄養教育のイメージを描き、マネジメントサイクルに沿った栄養教育を提案できる 技能の領域 模擬栄養教育の体験を行動変容の視点から考察できる 態度・志向性の領域 模擬栄養教育の企画に自ら取り組める
授業の概要	集団を対象にした栄養教育プログラムの立案をグループごとに実施する。食生活と健康づくり対策を踏まえた栄養指導計画の作成、指導媒体の作成及び評価法を検討・企画する。最後に企画した栄養教育実施計画に基づき指導媒体を活用して模擬授業を実施し、評価をする この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること
評価方法	参加姿勢 30% 実習課題 70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が2/3に満たない場合
授業計画	1 栄養教育の方法、オリエンテーション 2 情報収集の方法、教育媒体の種類 3 栄養教育計画の立案、指導案の作成 4 指導案の作成、媒体作成 5 媒体作成 6 媒体作成、リハーサル 7 模擬栄養指導と評価：前半（媒体を活用したプレゼンテーション） 8 模擬栄養指導と評価：後半（媒体を活用したプレゼンテーション）
テキスト	笠原賀子・斎藤トシ子編『栄養科学シリーズNEXT 「栄養教育論 第4版」』講談社、2022年 ISBN : 978-4-06-155398-9)
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ライフステージにおける健康課題の解決に向けて、グループ活動をする。グループ毎に異なる健康課題について、情報収集・プログラム計画を作成する。指導案を作成し栄養教育を授業内で実践発表する
実務経験のある担当教員による授業	該当する

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	管理栄養士としてクリニック、在宅、老健入所・通所において栄養管理・栄養指導の実務経験を有する教員が、栄養教育の実践的な教育を行う科目である
質問への対応方法	授業後に対応
フィードバックの方法	次回授業時
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習1単位の場合、15時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	栄養教育の方法、オリエンテーション	本科目の説明と授業の進め方を確認する	事前学修として栄養教育論で学んだことを事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
2	情報収集の方法、教育媒体の種類	栄養教育に必要な情報収集と適した媒体の種類を学ぶ	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
3	栄養教育計画の立案、指導案の作成	栄養教育計画の立案及び指導案の作成ができるようになる	前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
4	指導案の作成、媒体作成	栄養教育計画の立案及び指導案の作成ができるようになる	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
5	媒体作成	栄養教育に適した媒体を作成する	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
6	媒体作成、リハーサル	栄養教育に適した媒体を作成する。プレゼンテーションの練習をする	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
7	模擬栄養指導と評価：前半(媒体を活用したプレゼンテーション)	プレゼンテーションを実施し、評価する	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)
8	模擬栄養指導と評価：後半(媒体を活用したプレゼンテーション)	プレゼンテーションを実施し、評価する	事前学修として授業範囲の教科書を事前に確認しておく(1時間) 事後学習として授業中に示した重要ポイントを中心に授業内容をまとめておく(1時間)

開講科目名 Course	臨床栄養学II(1組)
時間割コード Course Code	53820
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>栄養治療の意義を理解し、慢性期疾患における各病態の具体的な栄養治療法を修得することを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 生活習慣病の病態と治療指針が説明できる</p> <p>思考判断の領域 生活習慣病における食生活のリスクが判断できる</p> <p>関心意欲の領域 自身が健康的な食生活を実践し、家族や知人の食生活改善を支援する</p> <p>態度・志向性の領域 管理栄養士として働くことに誇りと責任を持ち、自ら進んで学習が深められるようになる</p> <p>技能の領域 栄養カウンセリング技法、栄養カルテの記録方法、栄養アセスメント、栄養診断、栄養処方、栄養治療計画など、慢性期疾患における栄養治療法のスキルが身につく</p> <p>体験探究の領域 食生活を変えることで生活習慣病が改善できることを日々の実生活の中で体験する</p>
授業の概要	<p>メタボリック症候群をはじめとする非感染性疾患 (noncommunicable diseases, NCD) の各疾患における原因や病態を理解し、各疾患に対する栄養診断、栄養治療法の知識について学習します。</p> <p>質問は授業後に対応します。</p>
評価方法	<p>以下の方法で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加姿勢 20% ・確認テスト 30% ・定期テスト 50%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	出席回数が 10 回に満たない場合

授業計画	<p>1. オリエンテーション</p> <p>2. 栄養カウンセリング技法、栄養診断の手順、栄養記録の書き方</p> <p>3. 栄養アセスメント技法（食生活調査）</p> <p>4～6. 栄養アセスメント技法（各種計測）</p> <p>7. 高度肥満症患者の栄養アセスメントと栄養診断</p> <p>8～9. 高度肥満症患者の栄養治療計画（目標栄養素量の算定、低カロリーの献立作成、教育媒体の作成）</p> <p>10. 2型糖尿病患者の栄養アセスメントと栄養診断</p> <p>11～12. 2型糖尿病患者の栄養治療計画目標栄養素量の算定、低糖質の献立作成、教育媒体の作成）</p> <p>13～14. 2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の病態調理実習、報告会</p> <p>15. 慢性腎臓病患者の栄養アセスメントと栄養診断</p> <p>16～18. 慢性腎臓病患者の栄養治療計画（目標栄養素量の算定、低たんぱく食の献立作成、教育媒体の作成）</p> <p>19～21. 慢性腎臓病患者の病態調理実習、報告会</p> <p>22～24. グループ発表会</p> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	美味しいダイエット革命 / 美杜統合ヘルスケア研究所
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	病院やクリニックで栄養指導や入院栄養管理の経験を有し、管理栄養士や医師に対して指導的立場の教員が、高度肥満症や脂肪肝、糖尿病、慢性腎臓病など、慢性期疾患に対する病態と効果的な栄養治療法の実際を具体的な事例に基づいて解説する科目です
質問への対応方法	授業後、その他の時間帯はメール等で対応します（m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	次回の授業開始時に返却および解説を行う
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義（2単位）週1コマ（30時間）の場合、60時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>14. 海の豊かさを守ろう</p> <p>15. 陸の豊かさを守ろう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	本科目の説明と進め方、医療現場で働く管理栄養士の心得について確認する	予習として1時間、医療現場で働く管理栄養士の役割について事前に確認しておく。
2	栄養治療の意義とNutrition Care Process (NCP)	食生活と疾病の関連性についてエビデンスを基に解説し、Nutrition Care Process (NCP)のステップを説明	予習として2時間、どのような食生活によってどのように健康が損なわれるのかを考えておく。
3	栄養カウンセリング技法	栄養カウンセリングにおけるコミュニケーションスキルとカウンセリングの手順について説明する	予習として2時間、コミュニケーションスキルについて調べておくといよい。
4	栄養アセスメントと栄養診断	どのような方法で栄養アセスメントに必要なデータを手にするのか、それをSOAPで記録する方法を述べる	復習として2時間、栄養アセスメントに必要なデータの基準値を覚え、SOAPを理解しておく。
5	SOAP記録法とPES記録法	栄養アセスメントから得られたデータから栄養問題を特定する方法とその記録方法(PES)について解説する	復習として2時間、PESで栄養診断が書けるようにしておく。
6	栄養介入と栄養治療計画	栄養診断を基に栄養処方を行う栄養治療計画の進め方と書き方、モニタリング、アウトカム評価について解説する	復習として3時間、栄養アセスメント、栄養診断について実践できるようにしておく。
7	メタボリック症候群の栄養治療法(確認テスト1)	第1回～第6回までの確認テスト。メタボリック症候群の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	復習として2時間、第1～6回までの講義について振り返り確認テストの準備をする。予習として2時間、メタボリック症候群について調べておく。
8	肥満症の栄養治療法	肥満症の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ肥満症の診断基準と治療方法について学習しておく。
9	脂質異常症、高血圧症および動脈硬化症の栄養治療法	脂質異常症、高血圧症の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ脂質異常症、高血圧症の診断基準と治療方法について学習しておく。
10	脂肪肝、肝硬変、慢性膵炎、胆のう炎の栄養治療法	脂肪肝、肝硬変、慢性膵炎、胆のう炎の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	復習として2時間、第7～10回までの講義について振り返り確認テストの準備をする。予習として2時間、病態学で学んだ脂肪肝、肝硬変、慢性膵炎、胆のう炎の診断基準と治療方法について学習しておく。
11	糖尿病の栄養治療法(確認テスト2)	糖尿病の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ糖尿病の診断基準と治療方法について学習しておく。
12	糖尿病の合併症と対策	糖尿病の合併症(細小血管症、大血管症、感染症)、シックデイ、ケトアシドーシスとその対策について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ糖尿病合併症について学習しておく。
13	腎臓病、高尿酸血症の栄養治療法	腎臓病、高尿酸血症の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ胃腸疾患の診断基準と治療方法について学習しておく。

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	胃腸疾患の栄養治療法	胃腸疾患の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ食物アレルギー、先天性代謝異常症の診断基準と治療方法について学習しておく。
15	食物アレルギー、先天性代謝異常症の栄養治療法(確認テスト3)	食物アレルギー、先天性代謝異常症の原因、病態、治療方法、栄養問題、食事療法について解説する。	復習として2時間、第11~14回までの講義について振り返り確認テストの準備をする。予習として2時間、病態学で学んだ老年症候群の診断基準と治療方法について学習しておく。

開講科目名 Course	臨床栄養学II(2組)
時間割コード Course Code	53821
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)
授業の目標	<p>栄養治療の意義を理解し、慢性期疾患における各病態の具体的な栄養治療法を修得することを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 生活習慣病の病態と治療指針が説明できる</p> <p>思考判断の領域 生活習慣病における食生活のリスクが判断できる</p> <p>関心意欲の領域 自身が健康的な食生活を実践し、家族や知人の食生活改善を支援する</p> <p>態度・志向性の領域 管理栄養士として働くことに誇りと責任を持ち、自ら進んで学習が深められるようになる</p> <p>技能の領域 栄養カウンセリング技法、栄養カルテの記録方法、栄養アセスメント、栄養診断、栄養処方、栄養治療計画など、慢性期疾患における栄養治療法のスキルが身につく</p> <p>体験探究の領域 食生活を変えることで生活習慣病が改善できることを日々の実生活の中で体験する</p>
授業の概要	<p>メタボリック症候群をはじめとする非感染性疾患(noncommunicable diseases, NCD)の各疾患における原因や病態を理解し、各疾患に対する栄養診断、栄養治療法の知識について学習します。</p> <p>質問は授業後に対応します。</p>
評価方法	<p>以下の方法で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加姿勢 20% ・確認テスト 30% ・定期テスト 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 10 回に満たない場合

授業計画	<p>1. オリエンテーション</p> <p>2. 栄養カウンセリング技法、栄養診断の手順、栄養記録の書き方</p> <p>3. 栄養アセスメント技法（食生活調査）</p> <p>4～6. 栄養アセスメント技法（各種計測）</p> <p>7. 高度肥満症患者の栄養アセスメントと栄養診断</p> <p>8～9. 高度肥満症患者の栄養治療計画（目標栄養素量の算定、低カロリーの献立作成、教育媒体の作成）</p> <p>10. 2型糖尿病患者の栄養アセスメントと栄養診断</p> <p>11～12. 2型糖尿病患者の栄養治療計画目標栄養素量の算定、低糖質の献立作成、教育媒体の作成）</p> <p>13～14. 2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の病態調理実習、報告会</p> <p>15. 慢性腎臓病患者の栄養アセスメントと栄養診断</p> <p>16～18. 慢性腎臓病患者の栄養治療計画（目標栄養素量の算定、低たんぱく食の献立作成、教育媒体の作成）</p> <p>19～21. 慢性腎臓病患者の病態調理実習、報告会</p> <p>22～24. グループ発表会</p> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	美味しいダイエット革命 / 美杜統合ヘルスケア研究所
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	病院やクリニックで栄養指導や入院栄養管理の経験を有し、管理栄養士や医師に対して指導的立場の教員が、高度肥満症や脂肪肝炎、糖尿病、慢性腎臓病など、慢性期疾患に対する病態と効果的な栄養治療法の実際を具体的な事例に基づいて解説する科目です
質問への対応方法	授業後、その他の時間帯はメール等で対応します（m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	次回の授業開始時に返却および解説を行う
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義（2単位）週1コマ（30時間）の場合、60時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>2. 飢餓をゼロに</p> <p>3. すべての人に健康と福祉を</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>12. つくる責任つかう責任</p> <p>14. 海の豊かさを守ろう</p> <p>15. 陸の豊かさを守ろう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	本科目の説明と進め方、医療現場で働く管理栄養士の心得について確認する	予習として1時間、医療現場で働く管理栄養士の役割について事前に確認しておく。
2	栄養治療の意義とNutrition Care Process (NCP)	食生活と疾病の関連性についてエビデンスを基に解説し、Nutrition Care Process (NCP)のステップを説明	予習として2時間、どのような食生活によってどのように健康が損なわれるのかを考えておく。
3	栄養カウンセリング技法	栄養カウンセリングにおけるコミュニケーションスキルとカウンセリングの手順について説明する	予習として2時間、コミュニケーションスキルについて調べておくといよい。
4	栄養アセスメントと栄養診断	どのような方法で栄養アセスメントに必要なデータを手にするのか、それをSOAPで記録する方法を述べる	復習として2時間、栄養アセスメントに必要なデータの基準値を覚え、SOAPを理解しておく。
5	SOAP記録法とPES記録法	栄養アセスメントから得られたデータから栄養問題を特定する方法とその記録方法(PES)について解説する	復習として2時間、PESで栄養診断が書けるようにしておく。
6	栄養介入と栄養治療計画	栄養診断を基に栄養処方を行う栄養治療計画の進め方と書き方、モニタリング、アウトカム評価について解説する	復習として3時間、栄養アセスメント、栄養診断について実践できるようにしておく。
7	メタボリック症候群の栄養治療法(確認テスト1)	第1回～第6回までの確認テスト。メタボリック症候群の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	復習として2時間、第1～6回までの講義について振り返り確認テストの準備をする。予習として2時間、メタボリック症候群について調べておく。
8	肥満症の栄養治療法	肥満症の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ肥満症の診断基準と治療方法について学習しておく。
9	脂質異常症、高血圧症および動脈硬化症の栄養治療法	脂質異常症、高血圧症の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ脂質異常症、高血圧症の診断基準と治療方法について学習しておく。
10	脂肪肝、肝硬変、慢性膵炎、胆のう炎の栄養治療法	脂肪肝、肝硬変、慢性膵炎、胆のう炎の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	復習として2時間、第7～10回までの講義について振り返り確認テストの準備をする。予習として2時間、病態学で学んだ脂肪肝、肝硬変、慢性膵炎、胆のう炎の診断基準と治療方法について学習しておく。
11	糖尿病の栄養治療法(確認テスト2)	糖尿病の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ糖尿病の診断基準と治療方法について学習しておく。
12	糖尿病の合併症と対策	糖尿病の合併症(細小血管症、大血管症、感染症)、シックデイ、ケトアシドーシスとその対策について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ糖尿病合併症について学習しておく。
13	腎臓病、高尿酸血症の栄養治療法	腎臓病、高尿酸血症の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ胃腸疾患の診断基準と治療方法について学習しておく。

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
14	胃腸疾患の栄養治療法	胃腸疾患の原因、病態、治療方法、栄養問題、食生活の改善方法について解説する。	予習として2時間、病態学で学んだ食物アレルギー、先天性代謝異常症の診断基準と治療方法について学習しておく。
15	食物アレルギー、先天性代謝異常症の栄養治療法(確認テスト3)	食物アレルギー、先天性代謝異常症の原因、病態、治療方法、栄養問題、食事療法について解説する。	復習として2時間、第11~14回までの講義について振り返り確認テストの準備をする。予習として2時間、病態学で学んだ老年症候群の診断基準と治療方法について学習しておく。

開講科目名 Course	臨床栄養学演習(1組)
時間割コード Course Code	53860
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	10D臨床栄養実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)
授業の目標	<p>栄養指導や保健指導に関わる管理栄養士として、集団指導の企画やプレゼンテーションが実践できるようになることを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 高度肥満症、糖尿病、高血圧症、高コレステロール血症の病態と食事の関連性についてプレゼンテーションができる</p> <p>思考判断の領域 対象者の理解度が判断できる</p> <p>関心意欲の領域 実際に地域社会の中で食生活改善のために関わりを持つ</p> <p>態度・志向性の領域 管理栄養士として働くことに誇りと責任を持ち、自ら進んで学習が深められるようになる</p> <p>技能の領域 多数の患者を対象とした集団指導の企画、運営、プレゼンテーション等のスキルが身につく</p> <p>体験探究の領域 模擬患者として学生を対象に実際に集団指導を運営することで体験する</p>
授業の概要	<p>生活習慣病患者に対する集団栄養指導が実践できるようになるために、提示した疾患の集団栄養指導の計画書、予算書、スライド、配布資料等を作成し、さらにグループごとで模擬集団指導の運営の準備を行い、実際に体験することによって学びます。</p> <p>質問は授業後に対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の方法で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加姿勢 20% ・確認テスト 30% ・課題レポート 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 集団栄養指導計画書の作成(個人) 3. 集団栄養指導を運営するための企画書、予算書の作成(個人) 4. 集団栄養指導で用いる資料の作成(個人) 5. 集団栄養指導の運営方法の検討(グループワーク) 6. 集団栄養指導運営のための資料作り(グループワーク) 7. 高度肥満症患者の模擬集団栄養指導(食事) 8. 高度肥満症患者の模擬集団栄養指導(間食) 9. 2型糖尿病の模擬集団栄養指導(食事) 10. 2型糖尿病の模擬集団栄養指導(間食) 11. 高血圧症の模擬集団栄養指導(食事) 12. 高血圧症の模擬集団栄養指導(間食) 13. 高LDLコレステロール血症の模擬集団栄養指導(食事) 14. 高LDLコレステロール血症の模擬集団栄養指導(間食) 15. 確認テスト、まとめ <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	自身のテーマで作成した模擬集団栄養指導案をグループ内で発表し合うことで知識を深め、ディスカッションすることにより能動的思考力、協働力を高めます。また、健康経営における管理栄養士の役割を理解し、マネジメント能力を養います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院やクリニックで集団指導の経験を有する教員が、高度肥満症、糖尿病、高血圧症、慢性腎臓病に対する集団指導を実際に運営できるように実践する科目です。
質問への対応方法	授業後、その他の時間帯はメール等で対応します(m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	次回の授業開始時に返却を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義(2単位)週1コマ(30時間)の場合、60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	17. パートナースhipで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	集団栄養指導の必要性和運営方法について解説する。	予習として1時間、集団栄養指導について事前に確認しておく。
2	集団栄養指導計画書の作成(個人)	高度肥満症、糖尿病、高血圧症、高LDLコレステロール血症の中からテーマ選び、集団栄養指導の運営に必要な計画書を作成する。	予習として3時間、各疾患の病態、薬物療法、運動療法、食事療法を確認しておく。
3	集団栄養指導を運営するための予算書の作成(個人)	集団栄養指導に必要な食材や文房具等を挙げて予算書を作成し、準備すべきことを具体化する。	予習として2時間、自分が選んだテーマで用いるレシピの食材や文房具の値段を調べておく。
4	集団栄養指導で用いる資料の作成(個人)	集団栄養指導で使用するプレゼンテーションのスライドおよび配布資料、受講アンケートを作成する。	予習として2時間、パワーポイントの使い方を確認し、予めプレゼンテーションの流れを決めておく、
5	集団栄養指導の運営方法を検討(グループワーク)	個人で作成した集団栄養指導計画をグループ内で発表し合い、グループとしての模擬集団栄養指導のテーマを決め、運営方法を検討し、計画書と予算書を作成する。	復習として1時間、配布資料および受講アンケートを見直して加筆修正し仕上げる。予習として1時間、グループ内での発表の練習をする。
6	集団栄養指導運営のための資料作り(グループワーク)	グループで決めたテーマのプレゼンテーションのスライドおよび配布資料、受講アンケートを作成する。	復習として2時間、グループのテーマについて発表のシミュレーションを行う。
7	高度肥満症の模擬集団栄養指導(食事)	高度肥満症の食事を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
8	高度肥満症の模擬集団栄養指導(間食)	高度肥満症の間食を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
9	糖尿病の模擬集団栄養指導(食事)	糖尿病の食事を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
10	糖尿病の模擬集団栄養指導(間食)	糖尿病の間食を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
11	高血圧症の模擬集団栄養指導(食事)	高血圧症の食事を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
12	高血圧症の模擬集団栄養指導(間食)	高血圧症の間食を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	高LDLコレステロール血症の模擬集団栄養指導(食事)	高LDLコレステロール血症の食事を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
14	高LDLコレステロール血症の模擬集団栄養指導(間食)	高LDLコレステロール血症の間食を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく、授業終了時に模擬集団栄養指導の計画書、予算書、スライド、配布資料、受講アンケートを提出する。
15	確認テスト、まとめ	各疾患に関する確認テストを30分間行った後に、60分間その解説を行う。	予習として3時間、各疾患の病態、栄養アセスメント、薬物療法、食事療法について再確認しておく。

開講科目名 Course	臨床栄養学演習(2組)
時間割コード Course Code	53861
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	10D臨床栄養実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)
授業の目標	<p>栄養指導や保健指導に関わる管理栄養士として、集団指導の企画やプレゼンテーションが実践できるようになることを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 高度肥満症、糖尿病、高血圧症、高コレステロール血症の病態と食事の関連性についてプレゼンテーションができる</p> <p>思考判断の領域 対象者の理解度が判断できる</p> <p>関心意欲の領域 実際に地域社会の中で食生活改善のために関わりを持つ</p> <p>態度・志向性の領域 管理栄養士として働くことに誇りと責任を持ち、自ら進んで学習が深められるようになる</p> <p>技能の領域 多数の患者を対象とした集団指導の企画、運営、プレゼンテーション等のスキルが身につく</p> <p>体験探究の領域 模擬患者として学生を対象に実際に集団指導を運営することで体験する</p>
授業の概要	<p>生活習慣病患者に対する集団栄養指導が実践できるようになるために、提示した疾患の集団栄養指導の計画書、予算書、スライド、配布資料等を作成し、さらにグループごとで模擬集団指導の運営の準備を行い、実際に体験することによって学びます。</p> <p>質問は授業後に対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の方法で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加姿勢 20% ・確認テスト 30% ・課題レポート 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 集団栄養指導計画書の作成(個人) 3. 集団栄養指導を運営するための企画書、予算書の作成(個人) 4. 集団栄養指導で用いる資料の作成(個人) 5. 集団栄養指導の運営方法の検討(グループワーク) 6. 集団栄養指導運営のための資料作り(グループワーク) 7. 高度肥満症患者の模擬集団栄養指導(食事) 8. 高度肥満症患者の模擬集団栄養指導(間食) 9. 2型糖尿病の模擬集団栄養指導(食事) 10. 2型糖尿病の模擬集団栄養指導(間食) 11. 高血圧症の模擬集団栄養指導(食事) 12. 高血圧症の模擬集団栄養指導(間食) 13. 高LDLコレステロール血症の模擬集団栄養指導(食事) 14. 高LDLコレステロール血症の模擬集団栄養指導(間食) 15. 確認テスト、まとめ <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	自身のテーマで作成した模擬集団栄養指導案をグループ内で発表し合うことで知識を深め、ディスカッションすることにより能動的思考力、協働力を高めます。また、健康経営における管理栄養士の役割を理解し、マネジメント能力を養います。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院やクリニックで集団指導の経験を有する教員が、高度肥満症、糖尿病、高血圧症、慢性腎臓病に対する集団指導を実際に運営できるように実践する科目です。
質問への対応方法	授業後、その他の時間帯はメール等で対応します(m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	次回の授業開始時に返却を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義(2単位)週1コマ(30時間)の場合、60時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	17. パートナースhipで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	集団栄養指導の必要性和運営方法について解説する。	予習として1時間、集団栄養指導について事前に確認しておく。
2	集団栄養指導計画書の作成(個人)	高度肥満症、糖尿病、高血圧症、高LDLコレステロール血症の中からテーマ選び、集団栄養指導の運営に必要な計画書を作成する。	予習として3時間、各疾患の病態、薬物療法、運動療法、食事療法を確認しておく。
3	集団栄養指導を運営するための予算書の作成(個人)	集団栄養指導に必要な食材や文房具等を挙げて予算書を作成し、準備すべきことを具体化する。	予習として2時間、自分が選んだテーマで用いるレシピの食材や文房具の値段を調べておく。
4	集団栄養指導で用いる資料の作成(個人)	集団栄養指導で使用するプレゼンテーションのスライドおよび配布資料、受講アンケートを作成する。	予習として2時間、パワーポイントの使い方を確認し、予めプレゼンテーションの流れを決めておく、
5	集団栄養指導の運営方法を検討(グループワーク)	個人で作成した集団栄養指導計画をグループ内で発表し合い、グループとしての模擬集団栄養指導のテーマを決め、運営方法を検討し、計画書と予算書を作成する。	復習として1時間、配布資料および受講アンケートを見直して加筆修正し仕上げる。予習として1時間、グループ内での発表の練習をする。
6	集団栄養指導運営のための資料作り(グループワーク)	グループで決めたテーマのプレゼンテーションのスライドおよび配布資料、受講アンケートを作成する。	復習として2時間、グループのテーマについて発表のシミュレーションを行う。
7	高度肥満症の模擬集団栄養指導(食事)	高度肥満症の食事を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
8	高度肥満症の模擬集団栄養指導(間食)	高度肥満症の間食を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
9	糖尿病の模擬集団栄養指導(食事)	糖尿病の食事を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
10	糖尿病の模擬集団栄養指導(間食)	糖尿病の間食を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
11	高血圧症の模擬集団栄養指導(食事)	高血圧症の食事を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
12	高血圧症の模擬集団栄養指導(間食)	高血圧症の間食を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	高LDLコレステロール血症の模擬集団栄養指導(食事)	高LDLコレステロール血症の食事を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく。
14	高LDLコレステロール血症の模擬集団栄養指導(間食)	高LDLコレステロール血症の間食を担当するグループが60分間の模擬集団指導を行った後に、30分間全体で検討会を行う。	担当するグループは予習として2時間準備をし、受講する学生は予習として2時間調べ質問を考慮しておく、授業終了時に模擬集団栄養指導の計画書、予算書、スライド、配布資料、受講アンケートを提出する。
15	確認テスト、まとめ	各疾患に関する確認テストを30分間行った後に、60分間その解説を行う。	予習として3時間、各疾患の病態、栄養アセスメント、薬物療法、食事療法について再確認しておく。

開講科目名 Course	臨床栄養学実習I(1組)
時間割コード Course Code	53880
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	10D臨床栄養実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)
授業の目標	<p>管理栄養士として、慢性期疾患に対する実践的な個人栄養指導ができるようになることを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 高度肥満症、非アルコール性脂肪肝炎、脂質異常症、高血圧症、2型糖尿病、慢性腎臓病、肝硬変の病態と食事の関連性について説明できる</p> <p>思考判断の領域 対象者の関心度、知識レベルに合わせたコミュニケーションができる</p> <p>関心意欲の領域 自身が健康的な食生活を実践し、家族や知人の食生活改善を支援する</p> <p>態度・志向性の領域 管理栄養士として働くことに誇りと責任を持ち、自ら進んで学習が深められるようになる</p> <p>技能の領域 栄養カウンセリング技法、栄養カルテの記録方法、栄養アセスメント、栄養診断、栄養処方、栄養治療計画など、慢性期疾患における栄養治療法の実務スキルが身につく</p> <p>体験探究の領域 実習の中で得た食生活改善方法を自らの実生活の中で体験する</p>
授業の概要	<p>提示した各症例に対して栄養アセスメントを行い、その栄養診断に基づいた栄養治療計画(栄養処方)を立案し、1日分の献立および栄養指導媒体を作成します。さらにグループ内でディスカッションして知識を深め、作成した献立を実際に調理し、実践力を身に付けます。</p> <p>質問は授業後に対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の方法で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加姿勢 40% ・課題レポート 60%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が16回に満たない場合

授業計画	<p>1. オリエンテーション</p> <p>2. 栄養カウンセリング技法、栄養診断の手順、栄養記録の書き方</p> <p>3. 栄養アセスメント技法（食生活調査）</p> <p>4～6. 栄養アセスメント技法（各種計測）</p> <p>7. 高度肥満症患者の栄養アセスメントと栄養診断</p> <p>8～9. 高度肥満症患者の栄養治療計画（目標栄養素量の算定、低カロリーの献立作成、教育媒体の作成）</p> <p>10. 2型糖尿病患者の栄養アセスメントと栄養診断</p> <p>11～12. 2型糖尿病患者の栄養治療計画目標栄養素量の算定、低糖質の献立作成、教育媒体の作成）</p> <p>13～14. 2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の病態調理実習、報告会</p> <p>15. 慢性腎臓病患者の栄養アセスメントと栄養診断</p> <p>16～18. 慢性腎臓病患者の栄養治療計画（目標栄養素量の算定、低たんぱく食の献立作成、教育媒体の作成）</p> <p>19～21. 慢性腎臓病患者の病態調理実習、報告会</p> <p>22～24. グループ発表会</p> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	臨地実習マニュアル（臨床栄養学）/ 健帛社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	症例を通じて、実際の個人栄養指導の手順、コミュニケーション、栄養アセスメント栄養治療計画の立案を実践し、的確な栄養記録が書けるようになるよう実習を行う。またグループや全体でディスカッションすることにより自身の課題に気づき、さらに知識や技能を高めるために、積極的に参加し意見を述べること。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院やクリニックで個人栄養指導の経験を有する教員が、高度肥満症、2型糖尿病、慢性腎臓病、肝硬変の患者の症例を通じて、個人栄養指導を実践できるようにする科目です
質問への対応方法	授業後、その他の時間帯はメール等で対応します（m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	次回の授業開始時に返却を行う
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習（1単位）隔週3コマ（48時間）の場合、96時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	本科目の内容と進め方を説明し、グループ分け、リーダー(主・副)を決める。各自の患者役を決め、シナリオを作成する。	予習として1時間、病態学で学んだ生活習慣病について確認しておく。
2	栄養カウンセリング技法、栄養診断の手順、栄養記録の書き方	コミュニケーションスキルと栄養カウンセリングの手順について説明し、学生同士ペアで栄養カウンセリングの問診を行い、SOAPで栄養診断をPESで記載し、栄養治療計画(Mx, Rx, Ex)を書く。	予習として2時間、栄養教育論で学んだコミュニケーションスキル、カウンセリング技法、栄養記録の書き方について見ておく。
3	栄養アセスメント技法(食生活調査)	自身の食生活調査を実施し、その結果から学生同士ペアで栄養カウンセリングを実践する。	予習として、自身の日頃の食生活を2週間記録する。
4	栄養アセスメント技法(各種計測)	身長、体重、体組成、身体計測、血圧、骨密度、肺機能、ヘモグロビン濃度、ヘモグロビンA1c、脂質などを測定する。	予習として2時間、各種測定項目と基準値について調べておく。
5	栄養アセスメント技法(各種計測)	同上	同上
6	栄養アセスメント技法(各種計測)	同上	同上
7	高度肥満症患者の栄養アセスメントと栄養診断	高度肥満症の症例の栄養アセスメントを行って栄養診断を行う。	予習として2時間、病態学で学んだ高度肥満症の病態と合併症の関連性を確認しておく。
8	高度肥満症患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、低カロリーの献立作成、教育媒体の作成)	高度肥満症の症例の栄養診断から、栄養治療計画を立案する。	予習として2時間、高度肥満症に関わる食生活の原因について調べておく。
9	高度肥満症患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、低カロリーの献立作成、教育媒体の作成)	同上	復習として3時間、高度肥満症患者の献立作成、教育媒体を仕上げる。
10	2型糖尿病患者の栄養アセスメントと栄養診断	2型糖尿病の症例の栄養アセスメントを行って栄養診断を行う。	予習として2時間、病態学で学んだ糖尿病の病態と合併症を確認しておく。
11	2型糖尿病患者の栄養治療計画目標栄養素量の算定、低糖質の献立作成、教育媒体の作成)	2型糖尿病の症例の栄養診断から、栄養治療計画を立案する。	予習として2時間、2型糖尿病の食事について調べておく。
12	2型糖尿病患者の栄養治療計画目標栄養素量の算定、低糖質の献立作成、教育媒体の作成)	同上	復習として3時間、2型糖尿病の献立作成、教育媒体を仕上げる。
13	2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の病態調理実習	2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の昼食分の献立を用いて調理実習を行う。	予習として2時間、2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の献立、調理手順を確認し、シミュレーションしておく。
14	2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の病態調理実習	同上	同上
15	2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の病態調理実習、報告会	同上	同上
16	慢性腎臓病患者の栄養アセスメントと栄養診断	慢性腎臓病の合併症についてまとめ、グループディスカッションを行って発表し、全体で検討する。	予習として2時間、病態学で学んだ慢性腎臓病の病態と合併症を確認しておく。
17	慢性腎臓病患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、低たんぱく食の献立作成、教育媒体の作成)	慢性腎臓病の症例の栄養アセスメントを行って栄養診断を行う。	予習として2時間、慢性腎臓病の食事について調べておく。
18	慢性腎臓病患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、低たんぱく食の献立作成、教育媒体の作成)	慢性腎臓病の症例の栄養診断から、栄養治療計画を立案する。	復習として3時間、慢性腎臓病の献立作成、教育媒体を仕上げる。

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
19	慢性腎臓病患者の病態調理実習	肝硬変の合併症についてまとめ、グループディスカッションを行って発表し、全体で検討する。	予習として2時間、慢性腎臓病患者の献立、調理手順を確認し、シュミレーションしておく。
20	慢性腎臓病患者の病態調理実習	肝硬変の症例の栄養アセスメントを行って栄養診断を行う。	同上
21	慢性腎臓病患者の病態調理実習、報告会	肝硬変の症例の栄養診断から、栄養治療計画を立案する。	同上
22	グループ発表会	グループで立てた献立を用いて、疾患ごとに患者の栄養士指導をプレゼンテーションする。	予習として2時間、各自、グループ発表会の準備をしておく。
23	グループ発表会	同上	同上
24	グループ発表会	同上	同上

開講科目名 Course	臨床栄養学実習I(2組)
時間割コード Course Code	53881
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	10D臨床栄養実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)
授業の目標	<p>管理栄養士として、慢性期疾患に対する実践的な個人栄養指導ができるようになることを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 高度肥満症、非アルコール性脂肪肝炎、脂質異常症、高血圧症、2型糖尿病、慢性腎臓病、肝硬変の病態と食事の関連性について説明できる</p> <p>思考判断の領域 対象者の関心度、知識レベルに合わせたコミュニケーションができる</p> <p>関心意欲の領域 自身が健康的な食生活を実践し、家族や知人の食生活改善を支援する</p> <p>態度・志向性の領域 管理栄養士として働くことに誇りと責任を持ち、自ら進んで学習が深められるようになる</p> <p>技能の領域 栄養カウンセリング技法、栄養カルテの記録方法、栄養アセスメント、栄養診断、栄養処方、栄養治療計画など、慢性期疾患における栄養治療法の実務スキルが身につく</p> <p>体験探究の領域 実習の中で得た食生活改善方法を自らの実生活の中で体験する</p>
授業の概要	<p>提示した各症例に対して栄養アセスメントを行い、その栄養診断に基づいた栄養治療計画(栄養処方)を立案し、1日分の献立および栄養指導媒体を作成します。さらにグループ内でディスカッションして知識を深め、作成した献立を実際に調理し、実践力を身に付けます。</p> <p>質問は授業後に対応します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下の方法で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加姿勢 40% ・課題レポート 60%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が16回に満たない場合

授業計画	<p>1. オリエンテーション</p> <p>2. 栄養カウンセリング技法、栄養診断の手順、栄養記録の書き方</p> <p>3. 栄養アセスメント技法（食生活調査）</p> <p>4～6. 栄養アセスメント技法（各種計測）</p> <p>7. 高度肥満症患者の栄養アセスメントと栄養診断</p> <p>8～9. 高度肥満症患者の栄養治療計画（目標栄養素量の算定、低カロリーの献立作成、教育媒体の作成）</p> <p>10. 2型糖尿病患者の栄養アセスメントと栄養診断</p> <p>11～12. 2型糖尿病患者の栄養治療計画目標栄養素量の算定、低糖質の献立作成、教育媒体の作成）</p> <p>13～14. 2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の病態調理実習、報告会</p> <p>15. 慢性腎臓病患者の栄養アセスメントと栄養診断</p> <p>16～18. 慢性腎臓病患者の栄養治療計画（目標栄養素量の算定、低たんぱく食の献立作成、教育媒体の作成）</p> <p>19～21. 慢性腎臓病患者の病態調理実習、報告会</p> <p>22～24. グループ発表会</p> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	臨地実習マニュアル（臨床栄養学）/ 健帛社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	症例を通じて、実際の個人栄養指導の手順、コミュニケーション、栄養アセスメント栄養治療計画の立案を実践し、的確な栄養記録が書けるようになるよう実習を行う。またグループや全体でディスカッションすることにより自身の課題に気づき、さらに知識や技能を高めるために、積極的に参加し意見を述べること。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院やクリニックで個人栄養指導の経験を有する教員が、高度肥満症、2型糖尿病、慢性腎臓病、肝硬変の患者の症例を通じて、個人栄養指導を実践できるようにする科目です
質問への対応方法	授業後、その他の時間帯はメール等で対応します（m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	次回の授業開始時に返却を行う
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習（1単位）隔週3コマ（48時間）の場合、96時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション	本科目の内容と進め方を説明し、グループ分け、リーダー(主・副)を決める。各自の患者役を決め、シナリオを作成する。	予習として1時間、病態学で学んだ生活習慣病について確認しておく。
2	栄養カウンセリング技法、栄養診断の手順、栄養記録の書き方	コミュニケーションスキルと栄養カウンセリングの手順について説明し、学生同士ペアで栄養カウンセリングの問診を行い、SOAPで栄養診断をPESで記載し、栄養治療計画(Mx, Rx, Ex)を書く。	予習として2時間、栄養教育論で学んだコミュニケーションスキル、カウンセリング技法、栄養記録の書き方について見ておく。
3	栄養アセスメント技法(食生活調査)	自身の食生活調査を実施し、その結果から学生同士ペアで栄養カウンセリングを実践する。	予習として、自身の日頃の食生活を2週間記録する。
4	栄養アセスメント技法(各種計測)	身長、体重、体組成、身体計測、血圧、骨密度、肺機能、ヘモグロビン濃度、ヘモグロビンA1c、脂質などを測定する。	予習として2時間、各種測定項目と基準値について調べておく。
5	栄養アセスメント技法(各種計測)	同上	同上
6	栄養アセスメント技法(各種計測)	同上	同上
7	高度肥満症患者の栄養アセスメントと栄養診断	高度肥満症の症例の栄養アセスメントを行って栄養診断を行う。	予習として2時間、病態学で学んだ高度肥満症の病態と合併症の関連性を確認しておく。
8	高度肥満症患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、低カロリーの献立作成、教育媒体の作成)	高度肥満症の症例の栄養診断から、栄養治療計画を立案する。	予習として2時間、高度肥満症に関わる食生活の原因について調べておく。
9	高度肥満症患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、低カロリーの献立作成、教育媒体の作成)	同上	復習として3時間、高度肥満症患者の献立作成、教育媒体を仕上げる。
10	2型糖尿病患者の栄養アセスメントと栄養診断	2型糖尿病の症例の栄養アセスメントを行って栄養診断を行う。	予習として2時間、病態学で学んだ糖尿病の病態と合併症を確認しておく。
11	2型糖尿病患者の栄養治療計画目標栄養素量の算定、低糖質の献立作成、教育媒体の作成)	2型糖尿病の症例の栄養診断から、栄養治療計画を立案する。	予習として2時間、2型糖尿病の食事について調べておく。
12	2型糖尿病患者の栄養治療計画目標栄養素量の算定、低糖質の献立作成、教育媒体の作成)	同上	復習として3時間、2型糖尿病の献立作成、教育媒体を仕上げる。
13	2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の病態調理実習	2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の昼食分の献立を用いて調理実習を行う。	予習として2時間、2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の献立、調理手順を確認し、シミュレーションしておく。
14	2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の病態調理実習	同上	同上
15	2型糖尿病と高度肥満症を併存した患者の病態調理実習、報告会	同上	同上
16	慢性腎臓病患者の栄養アセスメントと栄養診断	慢性腎臓病の合併症についてまとめ、グループディスカッションを行って発表し、全体で検討する。	予習として2時間、病態学で学んだ慢性腎臓病の病態と合併症を確認しておく。
17	慢性腎臓病患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、低たんぱく食の献立作成、教育媒体の作成)	慢性腎臓病の症例の栄養アセスメントを行って栄養診断を行う。	予習として2時間、慢性腎臓病の食事について調べておく。
18	慢性腎臓病患者の栄養治療計画(目標栄養素量の算定、低たんぱく食の献立作成、教育媒体の作成)	慢性腎臓病の症例の栄養診断から、栄養治療計画を立案する。	復習として3時間、慢性腎臓病の献立作成、教育媒体を仕上げる。

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
19	慢性腎臓病患者の病態調理実習	肝硬変の合併症についてまとめ、グループディスカッションを行って発表し、全体で検討する。	予習として2時間、慢性腎臓病患者の献立、調理手順を確認し、シュミレーションしておく。
20	慢性腎臓病患者の病態調理実習	肝硬変の症例の栄養アセスメントを行って栄養診断を行う。	同上
21	慢性腎臓病患者の病態調理実習、報告会	肝硬変の症例の栄養診断から、栄養治療計画を立案する。	同上
22	グループ発表会	グループで立てた献立を用いて、疾患ごとに患者の栄養士指導をプレゼンテーションする。	予習として2時間、各自、グループ発表会の準備をしておく。
23	グループ発表会	同上	同上
24	グループ発表会	同上	同上

開講科目名 Course	公衆栄養学II(1組)
時間割コード Course Code	53940
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	-
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	- (大学共通)
授業の目標	<p>知識・理解の領域 地域、職域といった集団の健康栄養問題とそれらを取り巻く環境要因に関する情報を収集・分析する理論・手法を学習し、栄養疫学の内容を理解することができる。</p> <p>技能の領域 分析結果を総合的に評価・判定する能力を養い、栄養疫学研究について説明できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 わが国および諸外国において実施されている公衆栄養プログラムの習得を目指す。</p>
授業の概要	「公衆栄養学」での学びをさらに技術的に発展させ、保健・医療・福祉・介護の各分野におけるE B Nの考え方を理解し、集団特性に対し適切な栄養関連サービスを提供できるプログラムの作成・実施・評価の総合的マネジメントについて学ぶ。疫学手法を理解・学習する技術も同時に取得する。
評価方法	受講状況20%、課題提出状況30%、期末試験50%の成績を総合して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業回数の3分の2以上の出席がない場合。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 栄養疫学の概要</p> <p>第3回 暴露情報としての食事摂取状況</p> <p>第4回 個人内変動と個人間変動</p> <p>第5回 日常的、平均的な食事摂取量</p> <p>第6回 食事摂取量の測定方法 1</p> <p>第7回 食事摂取量の測定方法 2</p> <p>第8回 食事摂取量の測定方法 3</p> <p>第9回 食物摂取量と生物化学的指標・身体測定法</p> <p>第10回 栄養素密度法と残渣法</p> <p>第11回 疾病頻度と曝露効果の測定</p> <p>第12回 特定健診・特定保健指導</p> <p>第13回 公衆栄養マネジメントとアセスメント</p> <p>第14回 公衆栄養プログラムの計画・実施・評価</p> <p>第15回 本授業のまとめ</p>
テキスト	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 第10巻 公衆栄養学 日本栄養改善学会監修 医歯薬出版株式会社

参考書	食事調査マニュアル 著者：伊藤ちぐさ他 南江堂 データ栄養学のすすめ 著者：佐々木敏夫 女子栄養大学出版部 栄養データはこう読む！ 著者：佐々木敏夫 女子栄養大学出版部
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワーで対応する。
フィードバックの方法	提出物等は回収し、内容を確認後に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業前には、授業で学習するテキストの該当ページを読んでおくこと。(2時間) 授業後には、配布した資料・ワークシート・テキスト該当ページを使用して復習を行うこと(2時間) 詳細については、各授業で指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	栄養疫学 栄養疫学の意義やその沿革について学ぶ。	筆記用具を持参のこと。	
2	食品と栄養素の暴露 栄養の暴露について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
3	個人内変動と個人外変動 食事の個人内変動と個人外変動について	前回の授業内容を復習のこと。	
4	日常的、平均的な食事摂取量 日常的、平均的な食事摂取量の疑念について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
5	食事摂取量の測定法 秤量法について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
6	食事摂取量の測定法 24時間食事思い出し法について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
7	食事摂取量の測定法 食物記録法について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
8	食事摂取量の測定法 食物摂取頻度調査法について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
9	食物摂取量と生化学的指標 食物摂取量を反映する生化学的指標について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
10	食物摂取量と身体計測値 食物摂取量を反映する身体計測値について	前回の授業内容を復習のこと。	
11	栄養素密度 栄養素密度の概念について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
12	栄養と残渣法 栄養と残渣法の概念について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
13	栄養と多変量解析 栄養と多変量解析の概念について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
14	疾病頻度、暴露効果の測定 栄養疫学で扱う暴露指標について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
15	まとめ 授業のまとめを行う。	本授業関連の管理栄養士国試対策等ポイント学習を行う。	

開講科目名 Course	公衆栄養学II(2組)
時間割コード Course Code	53941
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	-
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	- (大学共通)
授業の目標	<p>知識・理解の領域 地域、職域といった集団の健康栄養問題とそれらを取り巻く環境要因に関する情報を収集・分析する理論・手法を学習し、栄養疫学の内容を理解することができる。</p> <p>技能の領域 分析結果を総合的に評価・判定する能力を養い、栄養疫学研究について説明できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 わが国および諸外国において実施されている公衆栄養プログラムの習得を目指す。</p>
授業の概要	「公衆栄養学」での学びをさらに技術的に発展させ、保健・医療・福祉・介護の各分野におけるEBNの考え方を理解し、集団特性に対し適切な栄養関連サービスを提供できるプログラムの作成・実施・評価の総合的マネジメントについて学ぶ。疫学手法を理解・学習する技術も同時に取得する。
評価方法	受講状況20%、課題提出状況30%、期末試験50%の成績を総合して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業回数の3分の2以上の出席がない場合。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 栄養疫学の概要</p> <p>第3回 暴露情報としての食事摂取状況</p> <p>第4回 個人内変動と個人間変動</p> <p>第5回 日常的、平均的な食事摂取量</p> <p>第6回 食事摂取量の測定方法 1</p> <p>第7回 食事摂取量の測定方法 2</p> <p>第8回 食事摂取量の測定方法 3</p> <p>第9回 食物摂取量と生物化学的指標・身体測定法</p> <p>第10回 栄養素密度法と残渣法</p> <p>第11回 疾病頻度と曝露効果の測定</p> <p>第12回 特定健診・特定保健指導</p> <p>第13回 公衆栄養マネジメントとアセスメント</p> <p>第14回 公衆栄養プログラムの計画・実施・評価</p> <p>第15回 本授業のまとめ</p>
テキスト	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 第10巻 公衆栄養学 日本栄養改善学会監修 医歯薬出版株式会社

参考書	食事調査マニュアル 著者：伊藤ちぐさ他 南江堂 データ栄養学のすすめ 著者：佐々木敏夫 女子栄養大学出版部 栄養データはこう読む！ 著者：佐々木敏夫 女子栄養大学出版部
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワーで対応する。
フィードバックの方法	提出物等は回収し、内容を確認後に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業前には、授業で学習するテキストの該当ページを読んでおくこと。(2時間) 授業後には、配布した資料・ワークシート・テキスト該当ページを使用して復習を行うこと(2時間) 詳細については、各授業で指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	栄養疫学 栄養疫学の意義やその沿革について学ぶ。	筆記用具を持参のこと。	
2	食品と栄養素の暴露 栄養の暴露について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
3	個人内変動と個人外変動 食事の個人内変動と個人外変動について	前回の授業内容を復習のこと。	
4	日常的、平均的な食事摂取量 日常的、平均的な食事摂取量の疑念について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
5	食事摂取量の測定法 秤量法について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
6	食事摂取量の測定法 24時間食事思い出し法について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
7	食事摂取量の測定法 食物記録法について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
8	食事摂取量の測定法 食物摂取頻度調査法について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
9	食物摂取量と生化学的指標 食物摂取量を反映する生化学的指標について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
10	食物摂取量と身体計測値 食物摂取量を反映する身体計測値について	前回の授業内容を復習のこと。	
11	栄養素密度 栄養素密度の概念について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
12	栄養と残渣法 栄養と残渣法の概念について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
13	栄養と多変量解析 栄養と多変量解析の概念について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
14	疾病頻度、暴露効果の測定 栄養疫学で扱う暴露指標について学ぶ。	前回の授業内容を復習のこと。	
15	まとめ 授業のまとめを行う。	本授業関連の管理栄養士国試対策等ポイント学習を行う。	

開講科目名 Course	公衆栄養学実習(1組)
時間割コード Course Code	53942
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	-
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	2 B 3 情報処理室, 2 B 4 情報処理室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	- (大学共通)
授業の目標	公衆栄養学マネジメント、食事調査や統計解析など栄養疫学に関する事項について理解し実践できるようにする。
授業の概要	公衆栄養学Iおよび公衆栄養学IIの授業を踏まえて、公衆栄養プログラムの策定や栄養調査などを体験し、公衆栄養活動の総合的なマネジメントについての理解を深める。
評価方法	受講状況20%、課題提出状況30%、試験50%の成績を総合して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業回数の3分の2以上の出席がない場合。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 地域社会診断 第3回 インターネットを使用した情報収集 第4回 食事調査法 第5回 栄養状態の判定と評価 第6回 栄養疫学演習 第7回 まとめ 第8回 課題
テキスト	公衆栄養学ワークブック(株式会社 みらい)
参考書	食事調査マニュアル 著者:伊藤ちぐさ他 南江堂 データ栄養学のすすめ 著者:佐々木敏夫 女子栄養大学出版部 栄養データはこう読む! 著者:佐々木敏夫 女子栄養大学出版部
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	提出物等は随時返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業前には、授業で学習するテキストの該当ページを読んでおくこと。(2時間) 授業後には、配布した資料・ワークシート・テキスト該当ページを使用して復習を行うこと(2時間) 詳細については、各授業で指示する。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	地域診断のすすめ方 実習についての説明をしてから、地域における栄養行政の実態の把握と分析をす	第1回から3回まで集中して本演習を行う。	
2	公衆栄養プログラムの実際 公衆栄養プログラムの計画策定と実施および評価など公衆栄養マネジメントをす	第4回から9回まで集中して本演習を行う。	
3	インタ-ネットを利用した情報検索 食物摂取と疾病発症リスクに関する学術論文を検索し、その関連性をまとめる。	第10回から12回まで集中して本演習を行う。	
4	インタ-ネットを利用した情報検索 地域の食生活に関する情報検索をして、栄養問題をまとめる。	第13回から15回まで集中して本演習を行う。	
5	栄養疫学演習 栄養関連のいろいろな事象について、その頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を明らかにする。	第16回から18回まで集中して本演習を行う。	
6	栄養状態の判定と評価 身体計測などによって得られた情報にもとづいて、栄養状態の判定と評価をする	第19回から21回まで集中して本演習を行う。	
7	公衆栄養施策 自分の住んでいる都道府県の健康増進計	第22回から24回まで集中して本演習を行う。	

開講科目名 Course	公衆栄養学実習(2組)
時間割コード Course Code	53943
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	-
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	2 B 3 情報処理室, 2 B 4 情報処理室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	-(大学共通)
授業の目標	公衆栄養学マネジメント、食事調査や統計解析など栄養疫学に関する事項について理解し実践できるようにする。
授業の概要	公衆栄養学Iおよび公衆栄養学IIの授業を踏まえて、公衆栄養プログラムの策定や栄養調査などを体験し、公衆栄養活動の総合的なマネジメントについての理解を深める。
評価方法	受講状況20%、課題提出状況30%、試験50%の成績を総合して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業回数の3分の2以上の出席がない場合。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 地域社会診断 第3回 インターネットを使用した情報収集 第4回 食事調査法 第5回 栄養状態の判定と評価 第6回 栄養疫学演習 第7回 まとめ 第8回 課題
テキスト	公衆栄養学ワークブック(株式会社 みらい)
参考書	食事調査マニュアル 著者:伊藤ちぐさ他 南江堂 データ栄養学のすすめ 著者:佐々木敏夫 女子栄養大学出版部 栄養データはこう読む! 著者:佐々木敏夫 女子栄養大学出版部
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	提出物等は随時返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業前には、授業で学習するテキストの該当ページを読んでおくこと。(2時間) 授業後には、配布した資料・ワークシート・テキスト該当ページを使用して復習を行うこと(2時間) 詳細については、各授業で指示する。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	地域診断のすすめ方 実習についての説明をしてから、地域における栄養行政の実態の把握と分析をす	第1回から3回まで集中して本演習を行う。	
2	公衆栄養プログラムの実際 公衆栄養プログラムの計画策定と実施および評価など公衆栄養マネジメントをす	第4回から9回まで集中して本演習を行う。	
3	インターネットを利用した情報検索 食物摂取と疾病発症リスクに関する学術論文を検索し、その関連性をまとめる。	第10回から12回まで集中して本演習を行う。	
4	インターネットを利用した情報検索 地域の食生活に関する情報検索をして、栄養問題をまとめる。	第13回から15回まで集中して本演習を行う。	
5	栄養疫学演習 栄養関連のいろいろな事象について、その頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を明らかにする。	第16回から18回まで集中して本演習を行う。	
6	栄養状態の判定と評価 身体計測などによって得られた情報にもとづいて、栄養状態の判定と評価をする	第19回から21回まで集中して本演習を行う。	
7	公衆栄養施策 自分の住んでいる都道府県の健康増進計	第22回から24回まで集中して本演習を行う。	

開講科目名 Course	給食経営管理論I(1組)
時間割コード Course Code	53980
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	朱宮 哲明
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 4 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	朱宮 哲明(管理栄養学科)
授業の目標	給食経営管理とは、給食施設において給食運営や関連資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面等のマネジメントを行い、その運営をシステム化し動かしていくことである。本講義では、給食経営管理を実践するための基本的な考え方や理論、方法について基礎知識を習得することを目標とする。 (1) 特定給食施設の定義、目的、特徴と関連法規を理解し、給食システムについて説明することができる。 (2) 給食経営管理における組織運営を理解し、マーケティング手法を説明できる。 (3) 給食経営における品質管理を理解し、献立計画の立案ができる。
授業の概要	(1) 特定給食施設の定義、目的、特徴および法的根拠を理解し、給食管理業務、給食システム、関連法規の内容を習得する。 (2) 給食経営管理、組織の仕組み、マーケティング手法を学び、給食運営能力を習得する。 (3) 栄養・食事管理を理解し、食事計画を立案、実施、評価、改善のPDCAサイクルを習得する。
評価方法	小テスト、試験(60%)、提出物・ノート(20%)、授業態度(20%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 オリエンテーション、給食の概念(1) 給食の概要、給食システム 第2回 給食の概念(2) 給食施設の特徴と関連法規 第3回 給食の概念(3) 各種施設における給食の意義 第4回 給食経営管理の概念(1) 給食経営と献立 第5回 給食経営管理の概念(2) 給食とマーケティング 第6回 給食経営管理の概念(3) 給食経営と組織 第7回 給食経営管理の概念(4) アクティブラーニング(給食やマーケティングについて発表) 第8回 栄養・食事管理(1) 栄養・食事のアセスメント 第9回 栄養・食事管理(2) 食事の計画 第10回 栄養・食事管理(3) 食事計画の実施、評価、改善 第11回 特定給食施設の各論(1) 医療施設 第12回 特定給食施設の各論(2) 高齢者・介護福祉施設 第13回 特定給食施設の各論(3) 児童福祉施設、障害者福祉施設、学校 第14回 特定給食施設の各論(4) 事業所、自衛隊・矯正施設、給食サービス事業者 第15回 まとめ
テキスト	「給食経営管理論(第3版)」片山直美、原正美編著(株式会社 みらい) 「給食経営管理用語辞典」日本給食経営管理学会監修(第一出版)
参考書	「日本人の食事摂取基準(2020年版)」伊藤貞嘉、佐々木敏監修(第一出版)

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	給食運営の実際やマーケティングについてディスカッションや発表を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際に施設で実施されている給食管理の事例を示し、実践的な給食経営管理について学ぶ。
質問への対応方法	講義前後を含め随時対応。
フィードバックの方法	小テストや配布資料を使用。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教科書、配布資料での予習・復習、提出物の作成等で15回×4時間=60時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	給食経営管理論I(2組)
時間割コード Course Code	53981
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	朱宮 哲明
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	朱宮 哲明 (管理栄養学科)
授業の目標	給食経営管理とは、給食施設において給食運営や関連資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面等のマネジメントを行い、その運営をシステム化し動かしていくことである。本講義では、給食経営管理を実践するための基本的な考え方や理論、方法について基礎知識を習得することを目標とする。 (1) 特定給食施設の定義、目的、特徴と関連法規を理解し、給食システムについて説明することができる。 (2) 給食経営管理における組織運営を理解し、マーケティング手法を説明できる。 (3) 給食経営における品質管理を理解し、献立計画の立案ができる。
授業の概要	(1) 特定給食施設の定義、目的、特徴および法的根拠を理解し、給食管理業務、給食システム、関連法規の内容を習得する。 (2) 給食経営管理、組織の仕組み、マーケティング手法を学び、給食運営能力を習得する。 (3) 栄養・食事管理を理解し、食事計画を立案、実施、評価、改善のPDCAサイクルを習得する。
評価方法	小テスト、試験(60%)、提出物・ノート(20%)、授業態度(20%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回 オリエンテーション、給食の概念(1) 給食の概要、給食システム 第2回 給食の概念(2) 給食施設の特徴と関連法規 第3回 給食の概念(3) 各種施設における給食の意義 第4回 給食経営管理の概念(1) 給食経営と献立 第5回 給食経営管理の概念(2) 給食とマーケティング 第6回 給食経営管理の概念(3) 給食経営と組織 第7回 給食経営管理の概念(4) アクティブラーニング(給食やマーケティングについて発表) 第8回 栄養・食事管理(1) 栄養・食事のアセスメント 第9回 栄養・食事管理(2) 食事の計画 第10回 栄養・食事管理(3) 食事計画の実施、評価、改善 第11回 特定給食施設の各論(1) 医療施設 第12回 特定給食施設の各論(2) 高齢者・介護福祉施設 第13回 特定給食施設の各論(3) 児童福祉施設、障害者福祉施設、学校 第14回 特定給食施設の各論(4) 事業所、自衛隊・矯正施設、給食サービス事業者 第15回 まとめ
テキスト	「給食経営管理論(第3版)」片山直美、原正美編著(株式会社 みらい) 「給食経営管理用語辞典」日本給食経営管理学会監修(第一出版)

参考書	「日本人の食事摂取基準（2020年版）」伊藤貞嘉、佐々木敏監修（第一出版）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	給食運営の実際やマーケティングについてディスカッションや発表を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際に施設で実施されている給食管理の事例を示し、実践的な給食経営管理について学ぶ。
質問への対応方法	講義前後を含め随時対応。
フィードバックの方法	小テストや配布資料を使用。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教科書、配布資料での予習・復習、提出物の作成等で15回×4時間＝60時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	栄養調理学実習(1組)
時間割コード Course Code	54210
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	朱宮 哲明
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 D調理・食品加工実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	朱宮 哲明(管理栄養学科)
授業の目標	豊かな食生活と健康を創造することができる管理栄養士を目指し、日本料理、西洋料理、中国料理を中心とした基礎調理を実践する中で、調理の目的と方法や種類、加熱の仕方と調理器具の特徴、食品の特徴、調理による栄養の変化など、調理の知識の習得と調理技術の向上、衛生的で安全な調理ができるようになることを目標とする。 (1) 料理において頻出する食材の切り方を習得する。 (2) 食品重量の概量、料理に適する分量を把握できる。 (3) 料理の栄養価を把握できる。 (4) 焼く、煮る、揚げる、蒸すなど調理の基本を身につける。 (4) 献立を作る一連の作業手順を習得し、献立を作成できる。
授業の概要	豊かで健康的な食生活の創造を実践できることを目指し、食品の知識や調理の基礎を学び、食品の特性を活かした料理に仕上げられる力を身につける。献立作成の手順については、地域性や対象者を考え「給与栄養目標量」の決定と「加重平均栄養成分表」の作成から「食品構成」の作成を経て献立を作る一連の作業手順を習得する。
評価方法	実習態度(行動力、積極性、協調性)70%、課題提出30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第1回 ガイダンス、献立作成 第2回 班ごとに献立決定及び発注書作成 第3回 各班で作成した献立の試作 1 (和食) 第4回 各班で作成した献立の試作 2 (洋食) 第5回 各班で作成した献立の試作 3 (中華) 第6回 指定献立実習 1 (給食実習室にて) 第7回 指定献立実習 2 (給食実習室にて) 第8回 まとめ
テキスト	「献立作成の基本と実践」藤原政嘉、河原和枝編著(講談社) 「食事コーディネートのための主食・主菜・副菜料理成分表 第4版」釘谷順子、足立己幸編著(群羊社) 「調理場における 食品衛生&調理技術マニュアル」文部科学省 著作権所有(学健書院)
参考書	「料理のためのベーシックデータ第6版」女子栄養大学出版部(女子栄養大学出版部) 「日本食品成分表2022 八訂」医歯薬出版(医歯薬出版) 「日本人の栄養摂取基準2020年度版」伊藤貞嘉、佐々木敏監修(第一出版)

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	作成した献立や調べてきた食材の特徴についてグループディスカッションを行い、効率的な作業手順を計画し調理実習を実施する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	長年、特定給食施設にて経験を積んだ教員より調理の基本を習得し、作成した献立の栄養価・原価計算や効率的な調理作業工程など実践的な給食経営管理について学ぶ。
質問への対応方法	講義前後を含め、随時対応
フィードバックの方法	参考資料を配布
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教科書、配布資料での予習・復習・提出物の作成等で8回×4.5時間=36時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	栄養調理学実習(2組)
時間割コード Course Code	54211
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1, 金 / Fri 2, 金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	朱宮 哲明
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 1 D調理・食品加工実習室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	朱宮 哲明(管理栄養学科)
授業の目標	豊かな食生活と健康を創造することができる管理栄養士を目指し、日本料理、西洋料理、中国料理を中心とした基礎調理を実践する中で、調理の目的と方法や種類、加熱の仕方と調理器具の特徴、食品の特徴、調理による栄養の変化など、調理の知識の習得と調理技術の向上、衛生的で安全な調理ができるようになることを目標とする。 (1) 料理において頻出する食材の切り方を習得する。 (2) 食品重量の概量、料理に適する分量を把握できる。 (3) 料理の栄養価を把握できる。 (4) 焼く、煮る、揚げる、蒸すなど調理の基本を身につける。 (4) 献立を作る一連の作業手順を習得し、献立を作成できる。
授業の概要	豊かで健康的な食生活の創造を実践できることを目指し、食品の知識や調理の基礎を学び、食品の特性を活かした料理に仕上げられる力を身につける。献立作成の手順については、地域性や対象者を考え「給与栄養目標量」の決定と「加重平均栄養成分表」の作成から「食品構成」の作成を経て献立を作る一連の作業手順を習得する。
評価方法	実習態度(行動力、積極性、協調性)70%、課題提出30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第1回 ガイダンス、献立作成 第2回 班ごとに献立決定及び発注書作成 第3回 各班で作成した献立の試作 1 (和食) 第4回 各班で作成した献立の試作 2 (洋食) 第5回 各班で作成した献立の試作 3 (中華) 第6回 指定献立実習 1 (給食実習室にて) 第7回 指定献立実習 2 (給食実習室にて) 第8回 まとめ
テキスト	「献立作成の基本と実践」藤原政嘉、河原和枝編著(講談社) 「食事コーディネートのための主食・主菜・副菜料理成分表 第4版」釘谷順子、足立己幸編著(群羊社) 「調理場における 食品衛生&調理技術マニュアル」文部科学省 著作権所有(学健書院)
参考書	「料理のためのベーシックデータ第6版」女子栄養大学出版部(女子栄養大学出版部) 「日本食品成分表2022 八訂」医歯薬出版(医歯薬出版) 「日本人の栄養摂取基準2020年度版」伊藤貞嘉、佐々木敏監修(第一出版)

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	作成した献立や調べてきた食材の特徴についてグループディスカッションを行い、効率的な作業手順を計画し調理実習を実施する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	長年、特定給食施設にて経験を積んだ教員より調理の基本を習得し、作成した献立の栄養価・原価計算や効率的な調理作業工程など実践的な給食経営管理について学ぶ。
質問への対応方法	講義前後を含め、随時対応
フィードバックの方法	参考資料を配布
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教科書、配布資料での予習・復習・提出物の作成等で8回×4.5時間=36時間
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	フードスペシャリスト論
時間割コード Course Code	54220
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	専門科目群 専門関連科目
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香 (管理栄養学科)
授業の目標	フードスペシャリストの資格取得に必要な関連知識を身につけることができる。資格検定試験の合格を目指して幅広い知識と情報を理解することを目標とする。フードスペシャリストという専門職に必要な知識、教養の習得を目指す。
授業の概要	フードスペシャリストの意義とその概要、活用を知るための科目である。フードスペシャリストとは、食に関する高度な専門知識・技術を身につけ、食べ物や食生活について、流通・販売者と消費者に品質、安全性、機能性、栄養と健康などの的確な情報を提供し、レストランや食堂などで快適な飲食ができるよう食空間をコーディネートし、「食」に関する消費者の苦情処理ができる専門職に与えられる資格である。この授業では、フードスペシャリストに関わる基本的な知識を学ぶ。フードスペシャリストとしての教養を高めるため、食文化への興味と理解を深めるアクティブラーニング(グループ学習、プレゼンテーション)を取り入れる。
評価方法	授業への取り組み(10%)、課題(40%)、レポート(50%)を総合的に評価する。課題の詳細は授業内で説明する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、フードスペシャリストとは</p> <p>第2回 おいしさの追求</p> <p>第3回 人類と食物</p> <p>第4回 日本の食</p> <p>第5回 世界の食</p> <p>第6回 世界の食文化に関するグループ学習(基礎編)</p> <p>第7回 世界の食文化に関するグループ学習(応用編)</p> <p>第8回 世界の食文化に関するグループ学習(発表)</p> <p>第9回 現代日本の食生活</p> <p>第10回 食品産業の役割</p> <p>第11回 食品の品質規格と表示</p> <p>第12回 食の情報とその活用</p> <p>第13回 フードスペシャリストの役割と展望(基礎編)</p> <p>第14回 フードスペシャリストの役割と展望(応用編)</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>授業時間に相当する予習と復習の時間を持ち、日頃から調理や料理に関する情報に心掛けて接する機会を作る。また、日常的に調理する習慣を付けること。</p>
テキスト	四訂フードスペシャリスト論 (公社)フードスペシャリスト協会編
参考書	フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集 (公社)日本フードスペシャリスト協会編

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	随時対応
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は教科書の次回授業で取り扱う該当箇所を熟読する(2h×15回 30時間)。 復習は教科書と配布資料で理解を深めること(2h×15回 30時間)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	8. 計画立案力

開講科目名 Course	解剖生理学I(1組)
時間割コード Course Code	54340
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>人体の成り立ちを、発生学的な視点から経過を踏まえて概観する。構造的な成り立ちの理解を通じて、生理学的に正常な機能とはどういったものかを理解する。</p> <p>暗記に偏らず、順序立てて理解することが重要である。</p> <p>本講義から管理栄養士国家試験で求められる、医学の基本的事項について理解することを目標としたい。</p>
授業の概要	<p>まずは全ての基本となる細胞の構造を理解する。人体発育の過程において細胞がいかに分化し、正常な構造や機能を獲得していくのかを理解する。発生学的見地を概説するため、この機会に併せて生殖についても講義を行う。</p> <p>その上で、解剖生理学I(前期)では、主に消化器系、循環器系、呼吸器系、血液系などについて講義を行う。これらの領域は特に栄養士にとって、確実に理解が必要な範疇にあるため、学びを怠らないようにしたい。</p>
評価方法	試験に加えて出席やレポート等
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	教科書に沿って講義を進めていきます。
テキスト	<p>テキスト(解剖生理学IIと通年で使用)</p> <p>主テキスト: 管理栄養士のためのイラスト解剖生理学: 講談社 開道貴信 編集</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後等適宜
フィードバックの方法	適宜問題演習と解説を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	テキストの予習と復習、問題演習の復習。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	解剖生理学I(2組)
時間割コード Course Code	54341
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 C 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>人体の成り立ちを、発生学的な視点から経過を踏まえて概観する。構造的な成り立ちの理解を通じて、生理学的に正常な機能とはどういったものかを理解する。</p> <p>暗記に偏らず、順序立てて理解することが重要である。</p> <p>本講義から管理栄養士国家試験で求められる、医学の基本的事項について理解することを目標としたい。</p>
授業の概要	<p>まずは全ての基本となる細胞の構造を理解する。人体発育の過程において細胞がいかに分化し、正常な構造や機能を獲得していくのかを理解する。発生学的見地を概説するため、この機会に併せて生殖についても講義を行う。</p> <p>その上で、解剖生理学I(前期)では、主に消化器系、循環器系、呼吸器系、血液系などについて講義を行う。これらの領域は特に栄養士にとって、確実に理解が必要な範疇にあるため、学びを怠らないようにしたい。</p>
評価方法	試験に加えて出席やレポート等
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	教科書に沿って講義を進めていきます。
テキスト	<p>テキスト(解剖生理学IIと通年で使用)</p> <p>主テキスト: 管理栄養士のためのイラスト解剖生理学: 講談社 開道貴信 編集</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後等適宜
フィードバックの方法	適宜問題演習と解説を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	テキストの予習と復習、問題演習の復習。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	生化学I(1組) / Biochemistry I
時間割コード Course Code	54380
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	岸上 明生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岸上 明生 (管理栄養学科)
授業の目標	細胞の構造と機能、組織、臓器、人体の構造と機能を化学的な切り口で学び、生命活動の化学反応を説明できるようになる。
授業の概要	すべての生物は細胞からできており、細胞は生命の基本単位であり、細胞の活動は、化学反応で記述されることを学ぶ。特に、細胞は食べ物を素材にして、エネルギーをつくり、また自分自身をつくる化学反応を中心に学ぶ。
評価方法	定期テスト(40%)、授業内の課題(40%)、学修態度(20%)で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が授業回の2/3に満たない場合
授業計画	第1回 授業ガイダンス(授業概要・受講上の注意等)、生化学とはどのような学問か 第2回 代謝とエネルギーの生産 (1) 第3回 代謝とエネルギーの生産 (2) 第4回 代謝とエネルギーの生産 (3) 第5回 アミノ酸、タンパク質、酵素 (1) 第6回 アミノ酸、タンパク質、酵素 (2) 第7回 核酸とタンパク質の合成 (1) 第8回 核酸とタンパク質の合成 (2) 第9回 脂質 (1) 第10回 脂質 (2) 第11回 炭水化物 (1) 第12回 炭水化物 (2) 第13回 炭水化物、脂質、タンパク質の代謝 (1) 第14回 炭水化物、脂質、タンパク質の代謝 (2) 第15回 炭水化物、脂質、タンパク質の代謝 (3)
テキスト	スミス基礎生化学、J. G. Smith (著), 村田 滋 (翻訳)、東京化学同人、ISBN-13 : 978-4807920150

参考書	<p>レーニンジャーの新生化学 上 生化学と分子生物学の基本原理、廣川書店; 第7版、ISBN-13 : 978-4567244084</p> <p>レーニンジャーの新生化学 下 生化学と分子生物学の基本原理、廣川書店; 第7版、ISBN-13 : 978-4567244091</p> <p>ペインズ・ドミニチャク生化学 原書4版、John Baynes (著, 編集), Marek Dominiczak (著, 編集), 丸善出版, ISBN-13 : 978-4621301692</p> <p>ポルハルト・ショアー現代有機化学(第8版)上 K.P.C.Vollhardt, N.E.Schore (著) 978-4759820294</p> <p>ポルハルト・ショアー現代有機化学(第8版)下 K.P.C.Vollhardt, N.E.Schore (著) 978-4759820300</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内で問題演習, 課題演習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生への質問に対して, 授業中は随時対応する。時間外においては、オフィスアワー、メールなどで対応する。
フィードバックの方法	授業内で、必要に応じてアドバイする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習: 授業範囲の内容を事前調査する。(1.5時間) 復習: 授業内容や考察をまとめる。(1.5時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	生化学I (2組) / Biochemistry I
時間割コード Course Code	54381
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	岸上 明生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 3 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岸上 明生 (管理栄養学科)
授業の目標	細胞の構造と機能、組織、臓器、人体の構造と機能を化学的な切り口で学び、生命活動の化学反応を説明できるようになる。
授業の概要	すべての生物は細胞からできており、細胞は生命の基本単位であり、細胞の活動は、化学反応で記述されることを学ぶ。特に、細胞は食べ物を素材にして、エネルギーをつくり、また自分自身をつくる化学反応を中心に学ぶ。
評価方法	定期テスト(40%)、授業内の課題(40%)、学修態度(20%)で評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が授業回の2/3に満たない場合
授業計画	第1回 授業ガイダンス(授業概要・受講上の注意等)、生化学とはどのような学問か 第2回 代謝とエネルギーの生産 (1) 第3回 代謝とエネルギーの生産 (2) 第4回 代謝とエネルギーの生産 (3) 第5回 アミノ酸、タンパク質、酵素 (1) 第6回 アミノ酸、タンパク質、酵素 (2) 第7回 核酸とタンパク質の合成 (1) 第8回 核酸とタンパク質の合成 (2) 第9回 脂質 (1) 第10回 脂質 (2) 第11回 炭水化物 (1) 第12回 炭水化物 (2) 第13回 炭水化物、脂質、タンパク質の代謝 (1) 第14回 炭水化物、脂質、タンパク質の代謝 (2) 第15回 炭水化物、脂質、タンパク質の代謝 (3)
テキスト	スミス基礎生化学、J. G. Smith (著), 村田 滋 (翻訳)、東京化学同人、ISBN-13 : 978-4807920150

参考書	<p>レーニンジャーの新生化学 上 生化学と分子生物学の基本原理、廣川書店；第7版、ISBN-13 : 978-4567244084</p> <p>レーニンジャーの新生化学 下 生化学と分子生物学の基本原理、廣川書店；第7版、ISBN-13 : 978-4567244091</p> <p>ペインズ・ドミニチャク生化学 原書4版、John Baynes (著, 編集), Marek Dominiczak (著, 編集), 丸善出版, ISBN-13 : 978-4621301692</p> <p>ポルハルト・ショアー現代有機化学(第8版)上 K.P.C.Vollhardt, N.E.Schore (著) 978-4759820294</p> <p>ポルハルト・ショアー現代有機化学(第8版)下 K.P.C.Vollhardt, N.E.Schore (著) 978-4759820300</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内で問題演習，課題演習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生への質問に対して，授業中は随時対応する。時間外においては、オフィスアワー、メールなどで対応する。
フィードバックの方法	授業内で、必要に応じてアドバイする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習：授業範囲の内容を事前調査する。(1.5時間)</p> <p>復習：授業内容や考察をまとめる。(1.5時間)</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<p>1.情報収集力</p> <p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>6.行動持続力</p> <p>7.課題発見力</p> <p>8.計画立案力</p>

開講科目名 Course	生化学実験I(1組) / Practice in Biochemistry I
時間割コード Course Code	54390
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	岸上 明生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 A 栄養化学実験室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岸上 明生 (管理栄養学科)
授業の目標	人体を構成する生体物質の化学特性と生体内での役割について、実験を通じて理解を深める。また、食品分析に必要な基礎的技術を習得するとともに、考察力・伝える力を醸成する。
授業の概要	酸と塩基、糖質・タンパク質の性質、糖質の代謝について、実験を通じて学修する。生化学Iおよび化学において学修する項目について、理解の深化を図る。特にレポート作成については、質問を積極的にして完成させることを求める。質問については随時受け付けることとする。 授業は対面でおこなう。
評価方法	実験毎のレポート課題(70%)および毎回の実習時における質疑応答(30%)に基づいて評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が授業回の2/3に満たない場合
授業計画	1回目 授業ガイダンス・安全講習 2回目 酸と塩基・レポートの書き方 3回目 中和滴定 4回目 糖の定性反応 5回目 糖質実験 I 6回目 糖質実験 II 7回目 タンパク質・アミノ酸の定性反応 8回目 実験内容のまとめと発表
テキスト	イラスト栄養生化学実験 相原英孝、竹中晃子、田村明、長谷川昇 著 東京教学社
参考書	生化学実験 (栄養科学イラストレイテッド) 鈴木敏和 (著), 杉浦千佳子 (著), 高野 栞 (著) 羊土社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実験を行い、測定結果をまとめて、レポート作成する過程とまとめた内容を発表形式で行う

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生への質問に対して、授業中は随時対応する。時間外においては、オフィスアワー、メールなどで対応する。
フィードバックの方法	提出されたレポートの返却時、必要に応じてアドバイする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習・復習 予習：授業内容範囲の教科書内容を事前確認する。(3時間) 復習：実験測定結果や考察をまとめて、レポート提出する。(6時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	生化学実験I(2組) / Practice in Biochemistry I
時間割コード Course Code	54391
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2, 木 / Thu 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	岸上 明生
科目区分 Course Group	専門科目群 専門基幹科目
教室 Classroom	1 2 A 栄養化学実験室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岸上 明生 (管理栄養学科)
授業の目標	人体を構成する生体物質の化学特性と生体内での役割について、実験を通じて理解を深める。また、食品分析に必要な基礎的技術を習得するとともに、考察力・伝える力を醸成する。
授業の概要	酸と塩基、糖質・タンパク質の性質、糖質の代謝について、実験を通じて学修する。生化学Iおよび化学において学修する項目について、理解の深化を図る。特にレポート作成については、質問を積極的にして完成させることを求める。質問については随時受け付けることとする。 授業は対面でおこなう。
評価方法	実験毎のレポート課題(70%)および毎回の実習時における質疑応答(30%)に基づいて評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が授業回の2/3に満たない場合
授業計画	1回目 授業ガイダンス・安全講習 2回目 酸と塩基・レポートの書き方 3回目 中和滴定 4回目 糖の定性反応 5回目 糖質実験 I 6回目 糖質実験 II 7回目 タンパク質・アミノ酸の定性反応 8回目 実験内容のまとめと発表
テキスト	イラスト栄養生化学実験 相原英孝、竹中晃子、田村明、長谷川昇 著 東京教学社
参考書	生化学実験 (栄養科学イラストレイテッド) 鈴木敏和 (著), 杉浦千佳子 (著), 高野 栞 (著) 羊土社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実験を行い、測定結果をまとめて、レポート作成する過程とまとめた内容を発表形式で行う

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生への質問に対して、授業中は随時対応する。時間外においては、オフィスアワー、メールなどで対応する。
フィードバックの方法	提出されたレポートの返却時、必要に応じてアドバイする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習・復習 予習：授業内容範囲の教科書内容を事前確認する。(3時間) 復習：実験測定結果や考察をまとめて、レポート提出する。(6時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	基礎演習 I A / Introductory Study Group IA
時間割コード Course Code	59500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	岸上 明生
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳(管理栄養学科)、岸上 明生(管理栄養学科)、荒川 和幸(管理栄養学科)、前田 真男(管理栄養学科)、太田 貴久(管理栄養学科)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生活全般に必要な技能</p> <p>必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。</p> <p>文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。</p> <p>学習および大学生活全般に必要な態度</p> <p>自らを律して行動できる。</p> <p>約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。</p> <p>仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール(通常「ゼミ」と呼んでいます)の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること(毎週出席が基本です)を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>このうち、企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 そして、各ゼミ1～9では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんで組み立ててください。なお、各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。 授業に必要な資料については、適宜配布します。</p>
参考書	<p>世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）。</p> <p>この本には、ノートの取り方、レポートの書き方やゼミ発表の仕方など、みなさんがこれから4年間、大学で学んでいくうえで役立つ情報が詰まっています。はじめにざっと見ておいて、必要になった時に必要な箇所をじっくり読むと、貴重なアドバイスが得られるでしょう。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習IIA / Introductory Study Group IIA
時間割コード Course Code	59600
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)、夏目 有紀枝(管理栄養学科)、庄司 吏香(管理栄養学科)、朱宮 哲明(管理栄養学科)、山岡 由理子(管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士としての使命感をもって職務を遂行できる実践力(態度)を身に付ける。
授業の概要	1.管理栄養士としての実践力を高める取組 管理栄養士が社会で活躍している場面や職務内容を学ぶことを通じて使命感や責任感をもたせる。 2.学生指導 学生生活および学習態度等に対する指導助言 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	参加態度、課題提出
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1.授業ガイダンス 2.個別面談による学生指導 3.管理栄養士の職務についての講義 4.管理栄養士として活躍している地域の特別講師から学ぶ 5.課題レポート
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	管理栄養士としても使命感を高めるために行政や地域等から講師を招いて指導する。

質問への対応方法	・授業後に対応
フィードバックの方法	・随時返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・管理栄養士の職務（事前学習） ・管理栄養士として活躍できる職場（事前学習） ・自己管理能力を高める方法（事前学習）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(教)教育原理(中・高・栄養) / Principles of Education
時間割コード Course Code	60001
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	飯田 幸恵
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 幸恵(教育保育学科)
授業の目標	教育の理念・歴史・思想等についての知識を身につけるとともに、教育の意義・内容・方法について考え、実際に指導に生かしていく力を身につける。 知識・理解の領域 教育の理念・歴史・思想等についての知識を身につける。 技能の領域 教育の内容・方法について理解を深め、実際に指導に生かしていく力を身につける。 態度・志向性の領域 教育の意義・教育の現状と課題などについて考えることができるようにする。
授業の概要	教育の理念・歴史・思想等に関する知識について学び、教育の内容・方法について理解を深め、教育の現状と課題について考える。
評価方法	各回の課題提出・課題評価、授業への取り組みなど、総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	全授業回数数の3分の1を超えて欠席した場合は、失格となる。
授業計画	1. 授業概要・課題説明 2. 教育の理念・目的と意義 3. 子ども観の変遷 4. 西洋教育史・教育思想 古代・中世 5. 西洋教育史・教育思想 近世・近代 6. 西洋教育史・教育思想 現代 7. 日本教育史・教育思想 古代・中世 8. 日本教育史・教育思想 近世・近代 9. 日本教育史・教育思想 現代 10. 子どもの権利と教育 11. 教育の内容・方法 12. 教育課程 13. 教育の制度と法 14. 教育の現状と課題 15. まとめ
テキスト	なし
参考書	適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後に対応する。
フィードバックの方法	次回の授業時にフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回授業の予習・復習を行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(教)教育・青年心理学 / Educational and Adolescent Psychology
時間割コード Course Code	60005
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 5
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	家接 哲次
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	家接 哲次 (教育保育学科)
授業の目標	乳幼児から青年期にかけての心身の発達について理解する。そのうえで、子どもたちの学びを支援するために必要な基礎知識について理解する。 知識・理解の領域】 ・教育心理学についての基本的な知識を獲得する 【態度・志向性の領域】 ・心理学の知識を教育・保育の現場で活用できる
授業の概要	子どもの発達および支援に関する心理学の基本的事項(運動機能、情動、社会性、認知、学習、教育評価、発達障害、カウンセリング)について、できるだけ具体的に提示する。 * 予習復習について 1) 予習: シラバスをみて、その日のキーワードについて調べてくる 2) 復習: 習った内容を深めるため、図書館等で関連の文献を探し、それを読む * 質問には随時対応する。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	レポートで下記の点について評価する 1) 教育心理学について関心をもち、正しく理解ができている (関心・理解) 2) 理解したことを正確に表現できる (表現) 3) 教育・保育現場で適切な対処ができる準備ができている (応用・表現)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席数が多い場合は失格となることがある。

授業計画	第1回 オリエンテーション、教育心理学とは 第2回 乳幼児から児童期までの発達（キーワード：離巢性、就巢性、二次的離巢性、生理的早産、反射） 第3回 乳幼児から児童期までの発達（キーワード：情動、感情、気分、一次的情動、気質） 第4回 乳幼児から児童期までの発達（キーワード：自発的微笑、社会的微笑、愛着、社会性） 第5回 乳幼児から児童期までの発達（キーワード：喃語、初語、一語文、統語、集団内独語） 第6回 青年期の発達（キーワード：発達課題、自我同一性） 第7回 学習（キーワード：条件づけ、動機づけ、原因帰属） 第8回 パーソナリティとアセスメント（キーワード：類型論、特性論、心理尺度） 第9回 発達障害1（キーワード：知能検査、精神遅滞） 第10回 発達障害2（キーワード：学習障害） 第11回 発達障害3（キーワード：注意欠陥・多動性障害） 第12回 発達障害4（キーワード：アスペルガー症候群） 第13回 心の問題（キーワード：うつ、パニック障害） 第14回 学校カウンセリング（キーワード：傾聴） 第15回 まとめ
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の中で基本的に対応するが、授業前後でも対応可能である。
フィードバックの方法	必要に応じて、口頭またはメール等でフィードバックを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業中に提示する参考図書を読むこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(教)道徳の理論と指導法 / The Study of Moral Education
時間割コード Course Code	60008
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	水野 達彦
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水野 達彦 (教育保育学科)
授業の目標	道徳教育の歴史や普遍的な理念を踏まえるとともに、教科科を受け、今日的な課題について、多面的にとらえられるようにする。また、児童生徒の道徳性の発達と道徳教育の授業理論をもとにした、学習指導案の作成と模擬授業の実践を通して、教育現場における道徳の時間の指導の在り方を体感的に学ばせる。
授業の概要	道徳教育の推進に必要な不可欠な知識、教養については、講義形式でわかりやすく教授する。その上で、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、身につけた知識や教養を、具体的実践につなげる汎用的能力の育成を図る。その際、グループディスカッションや模擬授業を積極的に取り入れるとともに、自己評価・他者評価活動を重視する。さらに、「道徳教育に関する課題意識と解決方法」について、学修前(第2時)と学修後(第15時)の自らの変容を確認することにより、メタ認知の有効性を体感させる。
評価方法	出席状況・授業への取り組み状況(見とり及び振り返りカードの記載内容)30%、課題小レポート(2回課す)30%、最終筆記試験40%を、総合的に判断し評価する。特に、演習や模擬授業に対する積極性と取り組みの妥当性に重きを置く。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、道徳教育とは(AL私にとっての道徳教育) 2 学校教育における道徳的課題と解決方法(ALいじめ問題をどう取り上げるか) 3 道徳教育の歴史(ALいのちの教育をどう進めるか) 4 子ども心の成長と道徳性の発達(AL情報モラルをどう学ばせるか) 5 中学校新学習指導要領における「特別の教科 道徳」と高等学校新学習指導要領における「道徳教育」のねらいと指導計画(AL問題解決型の授業とは) 6 道徳教育の授業理論(ALモラルジレンマの授業とは) 7 「考え、議論する道徳」とは(AL授業ビデオの視聴) 8 教材の収集と開発(AL授業ビデオの分析) 9 多様な考えを表出させる発問の工夫(AL発問を考える) 10 道徳教育における評価(AL発問を吟味する) 11 読み物教材を用いた授業の在り方(AL指導案の作成) 12 視聴覚教材を用いた授業の在り方(AL指導案の検討) 13 授業実践例(中1)分析(AL模擬授業) 14 授業実践例(中3)分析(AL模擬授業) 15 道徳的課題と解決方法の見直し(AL学びの成果のふり返し) <p>定期試験</p> <p>* (AL) は、アクティブラーニング(主体的で深い学修を意識した授業)を意味する。</p>
テキスト	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説「特別の教科 道徳編」(文部科学省) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「特別の教科 道徳編」(文部科学省)
参考書	なし。必要なものは授業者が用意する。

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業計画にALで記載した内容（毎回実施）
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	毎時間、授業の終了時に受け付ける。また、メールでの質問にも答える。
フィードバックの方法	毎回実施する「学びのふり返しカード」及び課題小レポートには、必ず朱筆を入れ、フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト及び授業者が配布した参考書や資料を読み込み、毎回の授業の予習を行わせる。（合計15時間） ・毎回の授業について復習を義務づけるとともに、毎回次の授業に関わる課題を提示し、それに答えさせる。（合計30時間） ・教材の読み込み・発問の吟味等、指導案の作成準備（10時間） ・模擬授業の準備（5時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(教)道徳の理論と指導法(栄養) / The Study of Moral Education
時間割コード Course Code	60009
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	水野 達彦
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水野 達彦(教育保育学科)
授業の目標	道徳教育の歴史や普遍的な理念を踏まえるとともに、教科化を受け、今日的な課題について、多面的にとらえられるようにする。また、児童生徒の道徳性の発達と道徳教育の授業理論をもとにした、学習指導案の作成と模擬授業の実践を通して、教育現場における道徳科の指導の在り方を体感的に学ばせる。
授業の概要	道徳教育の推進に必要な不可欠な知識、教養については、講義形式でわかりやすく教授する。その上で、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、身につけた知識や教養を、具体的実践につなげる汎用的能力の育成を図る。その際、グループディスカッションや模擬授業を取り入れるとともに、自己評価・他者評価を重視する。さらに、「道徳教育に関する課題意識と解決方法について、学修前(第2時)と学修後(第15時)の自らの変容を確認することにより、メタ認知の有効性を体感させる。
評価方法	出席状況・授業への取り組み状況(見とり及びふり返しカードの記載内容)30%、課題小レポート(2回課す)30%、最終筆記試験40%を、総合的に判断し評価する。特に、演習や模擬授業に対する積極性と取り組みの妥当性に重きを置く。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1 ガイダンス 道徳とは・道徳教育とは(AL 私の受けてきた道徳教育) 2 道徳教育に関する課題意識と解決方法(AL いじめ問題をどう取り上げるか) 3 道徳教育の歴史(AL いのちの教育の進め方) 4 子ども心の成長と道徳性の発達(AL 情報モラルをどう学ばせるか) 5 道徳科の目標と指導計画(AL 「問題解決型」の授業とは) 6 道徳教育の授業理論(AL 「モラルジレンマ」の授業とは) 7 「考え、議論する道徳」とは(AL 授業ビデオの視聴) 8 教材の収集と開発(AL 授業ビデオの分析) 9 多様な考えを表出させる発問の工夫(AL 発問を考える) 10 道徳科の評価(AL 発問を吟味する) 11 読み物教材を用いた授業の在り方(AL 指導案の作成) 12 視聴覚教材を用いた授業の在り方(AL 指導案の検討) 13 授業実践例(低学年)の分析(AL 模擬授業) 14 授業実践例(高学年)の分析(AL 模擬授業) 15 道徳教育に関する課題意識と解決方法の見直し(AL 学びのふり返し) 定期試験
テキスト	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「特別の教科 道徳編」(文部科学省) 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説「特別の教科 道徳編」(文部科学省)
参考書	なし。必要なものは授業者が用意する。

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業計画にALで記載した内容（毎回実施）
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	毎時間、授業の終了前に受け付ける。また、メールでの質問にも答える。
フィードバックの方法	毎回実施する「学びのふり返しカード」及び課題小レポートには、必ず朱筆を入れ、フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト及び授業者が配布した参考書や資料を読み込み、毎回の授業の予習を行わせる。（15時間） ・毎回の授業について復習を義務づけるとともに、毎回次の授業に関わる課題を提示し、それに答えるよう にさせる。（合計30時間） ・教材の読み込み・発問の吟味等、指導案の作成準備（10時間） ・模擬授業の準備（5時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ul style="list-style-type: none"> 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(教)特別活動・総合的な学習の時間の指導法 / Instructional Method of Special Activities and the Period for Integrated Studies
時間割コード Course Code	60010
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	鎌倉 博
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	鎌倉 博 (教育保育学科)
授業の目標	<p>学校教育活動には、教科教育と教科外教育の2つがあります。本講座は、教科書等の資料を活用し、年間学習指導計画に基づいて系統的に教育活動を展開する教科教育とは別の、教科外としての「特別活動」及び「総合的な学習の時間」についての認識を深め、その指導法について学んでいきます。</p> <p>。知識・理解の領域 「特別活動とは」「総合的な学習の時間とは」そもそもどのような意義をもつ教育活動であるのかが理解できるようになる。</p> <p>技能の領域 児童・生徒の視点に立って特別活動及び総合的な学習の時間を展開できるようになる。</p> <p>態度・志向性の領域 児童・生徒の視点に立って特別活動及び総合的な学習の時間を展開しようとする指導性が発揮できるようになる。</p> <p>思考判断の領域 児童・生徒の視点に立って特別活動や総合的な学習の時間を展開していくための題材を見出すことができるようになる。</p> <p>関心意欲の領域 児童・生徒の視点に立った多様な特別活動や総合的な学習の時間の実践事例に自ら触れていこうとする意欲が持てるようになる。</p> <p>体験探求の領域 児童・生徒の視点に立った多様な特別活動や総合的な学習の時間の実践事例に自ら触れていくことで、よりよい教育活動を展開するイメージを深めていくことができるようになる。</p>
授業の概要	<p>現代社会・地域・学校生活における課題や自己の生き方について考え深めながら、児童・生徒達が主体的に問題解決・自己実現していけるような資質を育ていける特別活動や総合的な学習の時間とはどのような教育活動であるのかを、学習指導要領の理解とともに実践記録にも触れながら深め、その指導がイメージできるようにしていきます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>小テスト・ミニレポート課題 80%</p> <p>読後レポート 20%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が12回に満たない場合

授業計画	<p>第1回：「特別活動」とは</p> <p>第2回：児童・生徒の視点での学級づくり</p> <p>第3回：児童・生徒の視点での児童・生徒会活動</p> <p>第4回：児童・生徒の視点での学校行事</p> <p>第5回：児童・生徒の視点でのクラブ活動・部活動</p> <p>第6回：児童・生徒の視点での生活指導</p> <p>第7回：「総合的な学習の時間」とは</p> <p>第8回：地域の活性化に着目する総合的な学習の時間</p> <p>第9回：環境問題を考える総合的な学習の時間</p> <p>第10回：世界の中の日本を考える総合的な学習の時間</p> <p>第11回：人権を考える総合的な学習の時間</p> <p>第12回：実践記録に学ぶ【レポート作成】</p> <p>第13回：国際問題を考える総合的な学習の時間</p> <p>第14回：総合的な学習の時間の指導案</p> <p>第15回：全体のまとめ</p>
テキスト	<p>鎌倉博『きらめく小学生 自由な教育の中で育つ子どもたち』（合同出版）</p> <p>23年間勤めてきた私立小学校では1980年代から総合学習（現「総合的な学習の時間」）に取り組んできていました。その実践として「地域活性化」「河川環境保全」「沖縄」「障がい者理解」を題材に探究していました。小学校でももちろん、中学・高校でも取り組めると評されている実践記録集です。</p>
参考書	<p>小学校学習指導要領（平成29年告示）、中学校学習指導要領（平成29年告示）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）のいずれかの「特別活動」及び「総合的な学習の時間（高校は「総合的な探究の時間」）」の解説書</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>特別活動や総合的な学習の時間で題材としたいテーマについて、児童・生徒の視点で考えるディスカッションを行います。</p> <p>ありきたりでない特別活動や総合的な学習の時間の題材と展開を考えていく意味での教材研究を体験していけるようテキストの読み込みとそのレポート作成を行ってまいります。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	<p>33年間小学校教員を務め、実際に特別活動及び総合学習（現「総合的な学習の時間」）を展開し指導してきました。本属校でも「総合的な学習の時間の指導法」の授業を担当しています。</p>
質問への対応方法	<p>授業時に随時質問できます。遠慮なく質問してください。</p> <p>授業外で急ぎ質問や相談がしたくなった場合にはメールも活用できるようにします。</p> <p>アドレスは授業で伝えます。</p>
フィードバックの方法	<p>毎回の小テスト・ミニレポート課題及びレポートは最終的に返却します。</p> <p>授業でそれらでの全体的な講評も各回でしていきます。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>回 主題と位置づけ 学習方法と内容 時間</p> <p>1 「特別活動」とは 該当学校の学習指導要領の「特別活動」の項目を読み込む。 2時間</p> <p>2 児童・生徒の視点での学級づくり 自身が体験してきた学級を振り返り、好ましいあり方を考え深める。 2時間</p> <p>3 児童・生徒の視点での児童・生徒会活動 自身が体験してきた児童・生徒会を振り返り、好ましいあり方を考え深める。 2時間</p> <p>4 児童・生徒の視点での学校行事 自身が体験してきた学校行事を振り返り、好ましいあり方を考え深める。 2時間</p> <p>5 児童・生徒の視点でのクラブ活動・部活動 自身が体験してきたクラブ活動を振り返り、好ましいあり方を考え深める。 2時間</p> <p>6 児童・生徒の視点での生活指導 自身が体験してきた生活指導を振り返り、好ましいあり方を考え深める。 2時間</p> <p>7 「総合的な学習の時間」とは 該当学校の学習指導要領の「総合的な学習（探究）の時間」の項目を読み込む。 2時間</p> <p>8 地域の活性化に着目する総合的な学習の時間 テキストpp.88～124を読み、地域の活性化に着目する探究学習のあり方を考え深める。 2時間</p> <p>9 環境問題を考える総合的な学習の時間 テキストpp.124～155を読み、河川環境保全に着目する探究学習のあり方を考え深める。 2時間</p> <p>10 世界の中の日本を考える総合的な学習の時間 テキストのpp.158～pp.190を読み、沖縄に着目する探究学習のあり方を考え深める。 2時間</p> <p>11 人権を考える総合的な学習の時間 テキストのpp.191～pp.236を読み、障がい者理解に着目する探究学習のあり方を考え深める。 2時間</p> <p>12 実践記録に学ぶ【レポート作成】 読んだテキストを自分で分析し、整理した内容を活字化する。 2時間</p> <p>13 国際問題を考える総合的な学習の時間 新聞等に目を向け、総合的な学習の時間の探究題材にできないか調べる。 2時間</p> <p>14 総合的な学習の時間の指導案 授業配布資料を読み、児童・生徒間、児童・生徒と教員が話し合いながらよりよい学校生活を築いていく取り組みを考え深める。 2時間</p> <p>15 全体のまとめ 本講義全体を振り返って、児童・生徒の視点で展開する特別活動及び総合的な学習の時間のあり方を考え深める。 2時間</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 13.気候変動に具体的な対策を 14.海の豊かさを守ろう 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	「特別活動」とは	該当学校の学習指導要領の「特別活動」の位置づけ、学習目標、内容、評定の仕方を学ぶ。	学習指導要領を活用する
2	児童・生徒の視点での学級づくり	好ましい学級づくりのあり方を学び考え深める。	配布資料を活用する
3	児童・生徒の視点での児童・生徒会活動	好ましい児童・生徒会あり方を学び考え深める。	配布資料を活用する
4	児童・生徒の視点での学校行事	好ましい学校行事のあり方を学び考え深める。	テキストを活用する
5	児童・生徒の視点でのクラブ活動・部活動	好ましいクラブ活動・部活動のあり方を学び考え深める。	配布資料を活用する
6	児童・生徒の視点での生活指導	好ましい生活指導のあり方を学び考え深める。	配布資料を活用する
7	「総合的な学習の時間」とは	該当学校の学習指導要領上の「総合的な学習(探究)の時間」の位置づけ、学習目標、内容、評定の仕方を学ぶ。	学習指導要領を活用する
8	地域の活性化に着目する総合的な学習の時間	地域の題材に着目する探究学習の内容と展開を学び考え深める。	テキストを活用する
9	環境問題を考える総合的な学習の時間	河川環境保全に着目する探究学習の内容と展開を学び考え深める。	テキストを活用する
10	世界の中の日本を考える総合的な学習の時間	沖縄に着目する探究学習の内容と展開を学び考え深める。	テキストを活用する
11	人権を考える総合的な学習の時間	障がい者に着目する探究学習の内容と展開を学び考え深める。	テキストを活用する
12	実践記録に学ぶ【レポート作成】	テキスト読んだ実践記録を分析し、整理した内容を活字化する。	テキストを活用する
13	国際問題を考える総合的な学習の時間	関わり合いを通して国際理解する探究学習の内容と展開を学び考え深める。	配布資料を活用する
14	総合的な学習の時間の指導案	様々な指導計画案に触れ、指導計画案のつくりを理解するとともに、創造的な指導計画をイメージできるようにする。	配布資料を活用する
15	全体のまとめ	本講義全体を振り返って、児童・生徒の視点で展開する特別活動及び総合的な学習の時間のあり方を整理して考え深める。	全ての授業プリントを活用する

開講科目名 Course	(教)教育の方法・技術(中・高・栄養) / Teaching Methods and Techniques
時間割コード Course Code	60011
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 5
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 達也
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	13D講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 達也(教育保育学科)
授業の目標	不確実な時代に生きる子供たちに求められる教育技術の目的や方法を学び、教育の基礎・基本及び発展・応用できる力を身につける。 【知識・理解】教育者としての指導方法や技術を身につける。 【技能】 学習指導計画を自ら立てることができる。新しい教材・教具を利用したり、自ら作成した りすることができる。 【態度・志向性】新しい時代や社会が求める斬新かつ発展的な教育方法について調べることができる。
授業の概要	授業実践のための事実認識や知識の伝達方法だけでなく子供たちが日々の授業の中で「知ること・できるようになる」ことの喜びを獲得するために公正・中立的な評価方法についても学ぶ。
評価方法	平常点30%(実習中の態度・ワークシートの内容) レポート70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業に80%以上出席していない場合。

授業計画	<p>1 授業づくりの基礎理論 概要 わかる授業と楽しい授業・授業を構成する要素</p> <p>2 各領域における授業づくり 概要 教科による授業づくりの特徴</p> <p>3 各領域における授業づくり 概要 道徳・総合的な時間の変遷とこれから</p> <p>4 授業のデザイン 概要 授業によってどんな子どもを育てたいか、その全体像と目標</p> <p>5 授業のデザイン 概要 学習指導案の内容と形式</p> <p>6 学習指導案の作成 実習 概要 授業をシミュレーションして、学習指導案の作成を行う。</p> <p>7 学習指導案の作成と検討 グループワークとプレゼンテーション 概要 個々が作成した学習指導案についてグループでプレゼンし自分の作成した指導案を客観的に検討し各グループ別にプレゼンを行い振り返りまとめを行う。</p> <p>8 新しい学びのスタイルとは 課題解決学習・アクティブラーニングなど 概要 知識の貯蓄量から実践力を身につけるための学びを理解する。</p> <p>9 教育メディアの活用 概要 新聞・図書・DVD・コンピュータの活用について理解し情報リテラシーについて考える。</p> <p>10 新しい教育メディアの活用と注意点 概要 ICTの活用によるメリットとデメリットを正しく理解し、これからの活用方法について考える。</p> <p>11 学びを生かすための評価のあり方 概要 教育評価の機能 診断的評価 形成的評価 総括的評価の特徴</p> <p>12 学びを生かすための評価のあり方 概要 京大大学院の作成パフォーマンス評価とルーブリックについての説明をネット視聴し、その内容と特色を理解する。視聴およびグループディスカッション</p> <p>13 パフォーマンス課題とルーブリックの作成 実習 概要 個々にシミュレーション課題を考えて、独自にルーブリックを作成する。</p> <p>14 個々に制作したパフォーマンス課題とルーブリックの検討(モデレーションの実施) 概要 個々に作成した評価基準の妥当性と信頼性の両方をグループ内で検討する。</p> <p>15 めざす教師像と求められる教師像 概要 学習内容の総括として、自分のめざす教師とは、これからの社会で求められる教師とはについて、自分の考えを発表し他の人の考えを聞くことで理想の教師像とは何かを常に問い続けることが必要であることを理解させる。</p>
テキスト	ワークシート・印刷物
参考書	講義時間内に随時紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>学習指導案作成実習</p> <p>パフォーマンス課題とルーブリック(評価基準表)の作成</p> <p>作成したルーブリックを5人程度のグループで検討(モデレーション)しより公正・中立的な評価基準表を作成する。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各時間最後に今回の授業の感想・質問を書く時間を設ける。感想・質問ペーパーは毎時間提出する。
フィードバックの方法	ワークシート・感想・質問ペーパーの提出により状況を把握する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受け身の姿勢ではなく、いつも自分の意見や考えが口頭や筆記で表現できるようにする。毎時間ワークシートをファイリングしておき、授業や実習に活用できるようにしておくこと。(30分~60分程度)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	<p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p> <p>4.構想力</p>

PROGコンピテンシーの要素

- 2. 協同力
- 7. 課題発見力
- 8. 計画立案力

開講科目名 Course	(教)教育の方法・技術 / Teaching Methods and Techniques
時間割コード Course Code	60012
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 5
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	伊藤 達也
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 達也 (教育保育学科)
授業の目標	不確実な時代に生きる子供たちに求められる教育技術の目的や方法を学び、教育の基礎・基本及び発展・応用できる力を身につける。 【知識・理解】教育者としての指導方法や技術を身につける。 【技能】 学習指導計画を自ら立てることができる。新しい教材・教具を利用したり、自ら作成した りすることができる。 【態度・志向性】新しい時代や社会が求める斬新かつ発展的な教育方法について調べることができる。
授業の概要	授業実践のための事実認識や知識の伝達方法だけでなく子供たちが日々の授業の中で「知ること・できるようになる」ことの喜びを獲得するために公正・中立的な評価方法についても学ぶ。
評価方法	平常点30% (実習中の態度・ワークシートの内容) レポート70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業に80%以上出席していない場合。

授業計画	<p>1 授業づくりの基礎理論 概要 わかる授業と楽しい授業・授業を構成する要素</p> <p>2 各領域における授業づくり 概要 教科による授業づくりの特徴</p> <p>3 各領域における授業づくり 概要 道徳・総合的な時間の変遷とこれから</p> <p>4 授業のデザイン 概要 授業によってどんな子どもを育てたいか、その全体像と目標</p> <p>5 授業のデザイン 概要 学習指導案の内容と形式</p> <p>6 学習指導案の作成 実習 概要 授業をシミュレーションして、学習指導案の作成を行う。</p> <p>7 学習指導案の作成と検討 グループワークとプレゼンテーション 概要 個々が作成した学習指導案についてグループでプレゼンし自分の作成した指導案を客観的に検討し 各グループ別にプレゼンを行い振り返りまとめを行う。</p> <p>8 新しい学びのスタイルとは 課題解決学習・アクティブラーニングなど 概要 知識の貯蓄量から実践力を身につけるための学びを理解する。</p> <p>9 教育メディアの活用 概要 新聞・図書・DVD・コンピュータの活用について理解し情報リテラシーについて考える。</p> <p>10 新しい教育メディアの活用と注意点 概要 ICTの活用によるメリットとデメリットを正しく理解し、これからの活用方法について考える。</p> <p>11 学びを生かすための評価のあり方 概要 教育評価の機能 診断的評価 形成的評価 総括的評価の特徴</p> <p>12 学びを生かすための評価のあり方 概要 京大大学院の作成パフォーマンス評価とルーブリックについての説明をネット視聴し、その内容と特色を理解する。視聴およびグループディスカッション</p> <p>13 パフォーマンス課題とルーブリックの作成 実習 概要 個々にシミュレーション課題を考えて、独自にルーブリックを作成する。</p> <p>14 個々に制作したパフォーマンス課題とルーブリックの検討(モデレーションの実施) 概要 個々に作成した評価基準の妥当性と信頼性の両方をグループ内で検討する。</p> <p>15 めざす教師像と求められる教師像 概要 学習内容の総括として、自分のめざす教師とは、これからの社会で求められる教師とはについて、自分の考えを発表し他の人の考えを聞くことで理想の教師像とは何かを常に問い続けることが必要であることを理解させる。</p>
テキスト	ワークシート・印刷物
参考書	講義時間内に随時紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>学習指導案作成実習</p> <p>パフォーマンス課題とルーブリック(評価基準表)の作成</p> <p>作成したルーブリックを5人程度のグループで検討(モデレーション)しより公正・中立的な評価基準表を作成する。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各時間の後半に感想・質問ペーパーを記入する時間を設定し提出する。
フィードバックの方法	ワークシート・感想・質問ペーパーの提出により状況を把握する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	受け身の姿勢ではなく、いつも自分の意見や考えが口頭や筆記で表現できるようにする。毎時間ワークシートをファイリングしておき、授業や実習に活用できるようにしておくこと。(30分～60分程度)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	<p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p> <p>4.構想力</p>

PROGコンピテンシーの要素

- 2. 協同力
- 7. 課題発見力
- 8. 計画立案力

開講科目名 Course	(教)教育の方法と技術 / Teaching Methods and Techniques
時間割コード Course Code	60013
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	伊藤 達也
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 達也 (教育保育学科)
授業の目標	不確実の時代に生きる子供たちに求められる教育技術の目的や方法を学び、基礎・基本及び発展・応用できる力を身につける。 【知識・理解】教育者としての指導方法や技術を身につける。 【技能】 学習指導計画を自ら立てることができる。新しい教材・教具を利用したり、自ら作成したりすることができる。 【態度・志向性】新しい時代や社会が求める斬新かつ発展的な教育方法について調べることができる。
授業の概要	授業実践のための事実認識や知識の伝達方法を学ぶだけでなく子供たちが日々の授業の中で「知ること・できるようになる」ことの喜びを獲得するために公正・中立的な評価方法についても学ぶ。
評価方法	平常点30% (実習中の態度・ワークシートの内容を含む) レポート70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業に80%以上出席していない場合。

授業計画	<p>1 授業づくりの基礎理論 概要 わかる授業と楽しい授業・授業を構成する要素</p> <p>2 各領域における授業づくり 概要 教科による授業づくりの特徴</p> <p>3 各領域における授業づくり 概要 道徳・総合的な時間の変遷とこれから</p> <p>4 授業のデザイン 概要 授業によってどんな子どもを育てたいか、その全体像と目標</p> <p>5 授業のデザイン 概要 学習指導案の内容と形式</p> <p>6 学習指導案の作成 実習 概要 授業をシミュレーションして、学習指導案の作成を行う。</p> <p>7 学習指導案の作成と検討 グループワークとプレゼンテーション 概要 個々が作成した学習指導案についてグループでプレゼンし自分の作成した指導案を客観的に検討し 各グループ別にプレゼンを行い振り返りまとめを行う。</p> <p>8 新しい学びのスタイルとは 課題解決学習・アクティブラーニングなど 概要 知識の貯蓄量から実践力を身につけるための学びを理解する。</p> <p>9 学習意欲を高める教授方法 概要 教師の助言・深い思考を促す発問方法・机間指導・非言語的コミュニケーション</p> <p>10 教材の開発と授業構想 概要 教材教具 教材開発 教科書 教室デザイン</p> <p>11 学びを生かすための評価のあり方 概要 教育評価の機能 診断的評価 形成的評価 総括的評価の特徴</p> <p>12 学びを生かすための評価のあり方 概要 京大大学院の作成パフォーマンス評価とルーブリックについての説明をネット視聴し、その内容と特色を理解する。 視聴およびグループディスカッション</p> <p>13 パフォーマンス課題とルーブリックの作成 実習 概要 個々にシミュレーション課題を考えて、独自にルーブリックを作成する。</p> <p>14 個々に制作したパフォーマンス課題とルーブリックの検討(モデレーションの実施) 概要 個々に作成した評価基準の妥当性と信頼性の両方をグループ内で検討する。</p> <p>15 めざす教師像と求められる教師像 概要 学習内容の総括として、自分のめざす教師とは、これからの社会で求められる教師とはについて、 自分の考えを発表し他の人の考えを聞くことで理想の教師像とは何かを常に問い続けることが必要であることを理解させる。</p>
テキスト	ワークシート・印刷物
参考書	講義時間内に随時紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>指導計画作成実習</p> <p>パフォーマンス課題とルーブリック(評価基準表)の作成実習</p> <p>各自の作成した評価基準表を5人程度のグループで内容を検討(モデレーション)しより公正・中立な評価基準表の作成。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	各時間の後半に感想・質問ペーパーを記入する時間を設定し提出をする。
フィードバックの方法	ワークシート・感想・質問ペーパーの提出により状況を把握する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>受け身の姿勢ではなく、いつも自分の意見や考えが口頭や筆記で表現できるようにする。</p> <p>毎時間のワークシートをファイリングしておき、授業や実習に活用できるようにしておくこと。</p> <p>30分～60分程度</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	<p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p> <p>4.構想力</p>

PROGコンピテンシーの要素

- 2. 協同力
- 7. 課題発見力
- 8. 計画立案力

開講科目名 Course	(教)教育相談(中・高・栄養) / School Counseling
時間割コード Course Code	60017
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	多川 則子
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	14B講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	多川 則子(教育保育学科)
授業の目標	<p>教育目標</p> <p>子ども(児童や生徒)を取り巻く環境は複雑化し、絶えず変化をしています。そのことにより子どもは辛さや困難を抱えることが少なくありません。そこで、この授業では、子どもたちの抱える困難を理解し、子どもたちの育ちや学びを支援するために教育者が知っておくべき知識やスキルについて理解を深めます。また、子どもを支えるためには、他の教職員との連携や、学校内外の他職種他機関の連携も重要であることを理解します。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童期や青年期に抱えやすい心理的な問題や課題に関する心理学的な知識を習得する。 ・教育相談の意義を説明できる。 ・様々な意見を整理しまとめる力、疑問点を見出す力がつく。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育者として必要なカウンセリングスキルを知る。 ・子どもが置かれた環境を想像し、あらゆる角度から子どもの気持ちを推測する。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な価値観や考え方に触れ、子どもの支援に関して柔軟で多様な態度をもつ。 ・子どもの成長発達を支えるための援助を模索し探求し続ける姿勢をもつ。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童期や青年期の心理学的な問題にかかわるワークを行ったり、資料(事例、動画など)を提示したり、講義を行ったりする。まず、個人のシンキングタイムを取り、各自の気づきや感想をまとめる。 2. 各自の気づきや感想を、グループワークにより共有する。全体に向けた発表により受講生全員での共有を行う。 3. 各自の気づき感想、グループメンバーや他の受講生の意見、本時の気づき感想等を毎回記入する。適時提出を求める。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 適宜提出を求める気づき感想の用紙、特別課題、最終課題のすべてを実施し、提出することが、単位修得の要件である。 2. 毎回の授業に出席しワーク等を実施することが重要なため、欠席した場合は、欠席の理由にかかわらず、その日の内容に相当する補充課題を課す。補充課題をすべて提出しなければ、単位修得は不可とする。 3. 授業への取り組みの姿勢(2割)、気づき感想の用紙と特別課題(6割)、最終課題(2割)により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数が3分の1を超えた場合は失格とする。

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：この授業で大切にしていること</p> <p>第2回 教育者に求められるカウンセリングスキル</p> <p>第3回 学校における教育相談1：支援とは</p> <p>第4回 学校における教育相談2：教育相談の三つの機能</p> <p>第5回 思春期の心理的問題1：思春期の発達と不登校</p> <p>第6回 思春期の心理的問題2：いじめ</p> <p>第7回 思春期の心理的問題3：中学校の事例</p> <p>第8回 発達障害・特別支援教育1：調べ学習1</p> <p>第9回 発達障害・特別支援教育2：調べ学習2</p> <p>第10回 発達障害・特別支援教育3：調べ学習発表</p> <p>第11回 思春期の心理的問題4：様々な問題行動</p> <p>第12回 エピソード記録1：エピソードを読む</p> <p>第13回 エピソード記録2：検討ワークと発表</p> <p>第14回 子育てを取り巻く問題、他職種他機関との連携</p> <p>第15回 まとめ</p>
テキスト	指定しない。
参考書	<p>『教師・保育者のための教育相談』大野精一（編） 萌文書林 2017年</p> <p>『ロールプレイで学ぶ 教育相談ワークブック：子どもの育ちを支える』 向後礼子・山本智子（著） ミネルヴァ書房 2014年</p> <p>『教師のための教育相談の技術』 吉田圭吾（著）金子書房 2007年</p> <p>『よくわかる教育相談』 春日井敏之・伊藤美奈子（編著） ミネルヴァ書房 2011年</p> <p>『あの子どもたちが変わった驚きの授業：授業崩壊を立て直すファシリテーション』 木原雅子 ミネルヴァ書房 2019年</p> <p>『体験型ワークで学ぶ教育相談』 小野田正利ら（編著） 大阪大学出版会 2015年</p> <p>『インクルーシブ教育を通常学級で実践するってどういうこと？』 青山 新吾・岩瀬 直樹著 学事出版 2019年</p> <p>『グローバル化とインクルーシブ教育』 安藤 正紀（編著） 北大路書房 2020年</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ単位のディスカッション、全体に向けた発表など。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>随時対応</p> <p>メール対応：tagawa@nagoya-ku.ac.jp</p>
フィードバックの方法	課題提出後の回にて、振り返りを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>・予習として、シラバスにあげた参考書等を読む（各回1時間程）。</p> <p>・復習として、授業内容に関連する実習での経験や個人の体験などを振り返る、授業内容に関連する書籍やweb資料を探してまとめる（各回2時間程）。</p> <p>・特別課題と最終課題を実施する（6時間程）。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3.すべての人に健康と福祉を</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5.ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1.親和力</p> <p>2.協同力</p> <p>4.感情制御力</p> <p>7.課題発見力</p>

開講科目名 Course	(教)教育実習II / Student Teaching II
時間割コード Course Code	60022
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	中学校又は高校において教育実習を実地体験することにより、大学で学習した知識、技能、態度にもとづいて、大学では得られない知識、技能、態度を、実習校で集中的に習得する。
授業の概要	それぞれの実習校の指導に従い、観察、参加、実習を体験する。教科の指導はもちろん、教科以外の活動にも、積極的に参加することが求められる。機会があれば、学校経営や学級経営にも取り組む。 < 質問への対応 > 随時対応します。
評価方法	実習校の評価表、取り組みなどを考慮しながら、総合的に判断します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	< 授業のテーマ > 教育実習 < 授業内容 > 中学校又は高校での教育実習、観察実習、参加実習、指導実習
テキスト	なし
参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	中学校・高等学校での実習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	担当教員は中学校・高等学校で25年間の経験があります。実践的な指導を行っていきます。
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	実習校への訪問によって、丁寧に指導します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前での指導 (予習: 合計30時間) 事後での指導 (復習 & 授業準備: 合計30時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	8.働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標 (11~17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう

PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none">1. 情報収集力2. 情報分析力3. 課題発見力4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none">1. 親和力2. 協同力3. 統率力4. 感情制御力5. 自信創出力6. 行動持続力7. 課題発見力8. 計画立案力9. 実践力

開講科目名 Course	(教)社会科教育法Ⅰ / Social Studies Education Ⅰ
時間割コード Course Code	60030
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	中学校社会科における教育目標を理解し、それを実現する教育者としての資質・能力を育成する。 学習指導要領に示された学習内容については着実に理解し、その内容を踏まえた実践的な授業設計 を実行できるようにする。
授業の概要	1 学習指導要領を基に、社会科教員が行うべき授業を考察する。 2 学習目標、指導目標を確実なものとする学習指導案を作成する。 3 模範授業を参観することで、これからあるべき生徒の主体的な学びを考察する。 4 生徒の学ぶ意欲を高める授業における「問い」のあり方について、追究する。
評価方法	模擬授業 (40%) 学習指導案 (40%) プレゼンテーション能力 (20%)
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし
授業計画	第1回：これまでの授業とこれからの授業～社会科の授業において～ 第2回：学習指導要領 社会編の変遷 第3回：社会科と道徳の授業の違い 第4回：社会科における知識注入的授業と主体的な学び～ICTを活用して～ 第5回：学習指導案の書き方～学習目標と指導目標～ 第6回：学習指導案の書き方～授業の実際～ 第7回：担当教員による模範授業～政治とは、何だろう？～ 第8回：担当教員による模範授業～経済とは、何だろう？～ 第9回：担当教員による模範授業～平等権について、考えよう～ 第10回：担当教員による模範授業～租税について、考えよう～ 第11回：模擬授業～政治学習の実際～ 第12回：模擬授業～経済学習の実際～ 第13回：模擬授業～地理学習の実際～ 第14回：模擬授業～歴史学習の実際～ 第15回：教育実習に向けて～教材研究のあり方～ 実務経験のある教員による授業 学校教育において教育現場での活動の経験を有する教員が、社会科指導法について実践的な指導を行 い、授業力の向上を実現する科目である。
テキスト	授業で説明します。
参考書	中学校学習指導要領解説 社会編 (文部科学省) 新しいみんなの公民 (教科用図書 育鵬社)

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	模範授業を多く、取り入れます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は中学校・高等学校で25年間の経験があります。模範授業を中心とした実践的な指導を行っています。
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎時間、15分程度フィードバックの時間を設定して、リアクションペーパーの提出により担当教員が状況を把握する。 次の時間の対面による指導の他、メール、グーグルクラスルームを活用してフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	模範授業を実践できるように、現代社会における諸課題を把握しておく。(予習：合計30時間) 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の学習指導案を作成する。(復習&授業準備：合計30時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	(教)社会科・公民科教育法Ⅰ / Social and Civil Studies Education I
時間割コード Course Code	60032
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	高橋 勝也
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	3 1 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 勝也 (法学部)
授業の目標	高等学校公民科における教育目標を理解し、それを実現する教育者としての資質・能力を育成する。学習指導要領に示された学習内容については着実に理解し、その内容を踏まえた実践的な授業設計を実行できるようにする。
授業の概要	1 学習指導要領を基に、公民科教員が行うべき授業を考察する。 2 表現力を高める授業のあり方～議論を通じて～ 3 法と倫理に関する模範授業を参観することで、これからあるべき生徒の主体的な学びを考察する。 4 模擬授業を実施することで、自らの授業の成果と課題を整理する。
評価方法	模擬授業 (40%) 学習指導案 (40%) プレゼンテーション能力 (20%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第1回：これまでの授業とこれからの授業～公民科において～ 第2回：学習指導要領 公民編の変遷 第3回：学習指導要領解説 公民編の読み方 第4回：学習指導案の書き方～学習目標と指導目標～ 第5回：学習指導案の書き方～授業の実際～ 第6回：公民科教科書の分析 第7回：外部人材を活用する実践例～法教育～ 第8回：担当教員による模範授業～環境倫理について、考えよう～ 第9回：担当教員による模範授業～生命倫理について、考えよう～ 第10回：担当教員による模範授業～情報倫理について、考えよう～ 第11回：担当教員による模範授業～法(ルール)について、考えよう～ 第12回：模擬授業～法教育～ 第13回：模擬授業～倫理教育～ 第14回：模擬授業～政治教育～ 第15回：模擬授業～経済教育～ 実務経験のある教員による授業 学校教育において教育現場での活動の経験を有する教員が、社会科指導法、公民科指導法について実践的な指導を行い、授業力の向上を実現する科目である。
テキスト	授業で説明します。
参考書	高等学校学習指導要領解説 公民編 (文部科学省) 高等学校現代社会 一人ひとりが考える自分・社会・世界 (教科用図書 清水書院)

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	模範授業を多く、取り入れます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は中学校・高等学校で25年間の経験があります。模範授業を中心とした実践的な指導を行っています。
質問への対応方法	毎時間、質問対応の時間を設定する。 オフィスアワー以外の時間帯でも、研究室にて受け付ける。
フィードバックの方法	毎時間、15分程度フィードバックの時間を設定して、リアクションペーパーの提出により担当教員が状況を把握する。 次の時間の対面による指導の他、メール、グーグルクラスルームを活用してフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	模範授業を実践できるように、現代社会における諸課題を把握しておく。（予習：合計30時間） 公共、政治・経済、倫理の学習指導案を作成する。（復習&授業準備：合計30時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	(教)商業科教育法Ⅰ / Business Education Ⅰ
時間割コード Course Code	60034
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	杉原 誠志
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	杉原 誠志 (経営学部)
授業の目標	商業教育の理念と概要を理解し、作成した学習指導案から授業指導力を身に付けることができる。商業科の各分野の学習指導ができるように、各分野の各科目についての内容を理解し、教育実習をするための学習指導の教科指導力を身に付けるための準備ができる。授業内での発表や意見交換により、「相手に解りやすく説明する話法」と発表に対して「自分の意見や考えを述べる力」を身に付けることができる。この授業から指導者になるために必要な人間性を高めることを目標とする。商業科教員としての学びを教育課程編成の基礎から習得し、商業科の学習指導案を作成できるようになる。教科教育法 (商業)の基礎となる科目である。
授業の概要	商業教育に関して、配付プリントから 商業教育の意義と必要性 商業教育の歩み 高等学校学習指導要領と商業教育 商業科の教育課程 商業科の学習指導 商業科の各分野の学習指導 指導計画 (学習指導案等) の作成 学習評価の理念と実際、この8項目の学習を通して、商業科教員になるための基礎知識と基礎技能を習得する。『ビジネス基礎』の教科書から「ビジネスとは」を考える時間から、自らの答えを導き出すことができるようになる。レポートや課題については指示された内容で、E-mailにて提出をする。『やぶつばき』『市邨先生語集』から訓話を選び、発表もしくはディスカッションも行う。
評価方法	授業参加姿勢20%、レポート30%、小テスト50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと
テキスト	・「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 商業編」 ISBN978-4-407-34863-7 実教出版 令和元年9月30日 初版第2刷発行 ・「ビジネス基礎」 ISBN978-4-407-20497-1 実教出版 令和2年12月25日検定済
参考書	・21世紀の商業教育を創造する「商業科教育論」日本商業教育学会編 実教出版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・動画を各自が自宅で視聴して、授業の中にディスカッションをする ・『やぶつばき』『市邨先生語集』より「訓話」を決めてディスカッションをする ・各自の発表後にもディスカッションをする ・学習内容「商業科の学習指導」にあるブレインストーミングを1回授業で実施する
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ オフィスアワーで対応 ・ 授業時及び授業前と授業後に対応 ・ メール対応
フィードバックの方法	基本的には翌週返却するが 当日返却するもの 返却しないレポート等もある。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>【毎回の授業後】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 授業内容の「まとめとキーワードの整理」をしておく(1時間) (2) 次回用「授業プリントを配付します」ので予習をしておく(1時間～2時間) <p>【第7回・第9回・第11回指導案作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> (3) 「学習指導案を作成」(3時間×3回) <p>【第2回・第4回・第6回・第8回・第10回・第12回】</p> <ul style="list-style-type: none"> (4) 「やぶつばき」の指定されて訓話についての学習(1時間×6回)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標(11～17)	11. 住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 講義方針等の学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト等の使用方法の確認 ・授業を受けるにあたって ・評価の方法(テストと提出物) ・「市邨芳樹翁」と商業教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回授業用プリント配付 ・『やぶつばき』配付
2	商業教育の意義と必要性 「商業教育」とは (歴史からも学ぶ)	配付プリントの解説 <ul style="list-style-type: none"> ・「コンテンツベース」と「コンピテンシーベース」 ・その他その他キーワードを理解する ICTを活用して情報を収集する 	第3回授業用プリント配付
3	学習指導要領と商業教育 法的な位置付けと理念	配付プリントの解説 <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化と商業科の改善 ・商業科の構造 ・商業科の学習指導 ICTを活用して情報を収集する 	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回授業用プリント配付 ・『やぶつばき』訓話学習
4	商業科の教育課程の編成と実施 教育課程の意義	配付プリントの解説 <ul style="list-style-type: none"> ・専門性の深化 ・カリキュラム・マネジメント ・文部科学省検定済教科用図書等の使用義務 ICTを活用して情報を収集する 	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回授業用プリント配付 ・『やぶつばき』訓話学習
5	基礎的科目「ビジネス基礎」 商業教育の目指す資質・能力	配付プリントの解説 <ul style="list-style-type: none"> ・商業の基礎的な知識と技能 ・唯一絶対の答えがないことの多い 経済社会 ・身近な社会問題を理解 ICTを活用して情報を収集する 	第6回授業用プリント配付
6	マーケティング分野 マーケティングを中心 にした流通	配付プリントの解説 <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングに必要な情報の収集 ・製品政策 価格政策 チャネル政策 プロモーション政策 ・商品開発と流通 ICTを活用して情報を収集する 	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回授業用プリント配付 ・『やぶつばき』訓話学習 ・第7回実施「学習指導案」 の課題指示
7	マネジメント分野 マネジメントの役割と知識	配付プリントの解説 <ul style="list-style-type: none"> ・経営資源のマネジメント ・企業の秩序と責任 ・経済のグローバル化と日本 ICTを活用して情報を収集する 	第8回授業用プリント配付
8	会計分野 「簿記」「会計」「原価計算」 の意味と意義	配付プリントの解説 <ul style="list-style-type: none"> ・「簿記」の知識と「会計」の意義 ・「原価計算」の意義 ・「財務会計」「管理会計」 ・財務諸表 ICTを活用して情報を収集する 	<ul style="list-style-type: none"> ・第9回授業用プリント配付 ・『やぶつばき』訓話学習 ・第9回実施「学習指導案」 の課題指示

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
9	ビジネス情報分野 情報の収集と分析、ビジネス文書の作成、プレゼンテーション	配付プリントの解説 ・企業活動と情報処理 ・情報通信ネットワーク ・ビジネス文書の作成とプレゼンテーション ICTを活用して情報を収集する	第10回授業用プリント配付
10	総合的な科目 「課題研究」「総合実践」	配付プリントの解説 ・二つの科目の教科商業での位置づけ ・「課題研究」の目標と指導項目 ・「総合実践」の目標と指導項目 ICTを活用して情報を収集する	・第11回授業プリント配付 ・『やぶつばき』訓話学習 ・第11回実施「学習指導案」の課題指示
11	指導計画の理念と作成 学習指導計画を中心として 各指導計画を理解	配付プリントの解説 ・年間指導計 ・単位時間計画(学習指導計画) ・学習形態と指導方法の設定 ・板書計画の作成方法 ICTを活用して情報を収集する	・第12回授業プリント配付
12	学習評価の理念と実際 評価の対象と目的	配付プリントの解説 ・評価の留意点 ・評価の観点 知識及び技能 思考力、判断力 表現力等 学びに向かう力 ・評価の方法 ICTを活用して情報を収集する	・第13回授業プリント配付 ・『やぶつばき』訓話学習
13	魅力ある商業教育 これからの商業教育	配付プリントの解説 ・これまでの商業教育 ・「生きる力」を育む商業教育 ・商業高校の存在意義 ICTを活用して情報を収集する	第14回授業プリント配付
14	「商業科教育法」のまとめ 「前期のまとめ」と 「ディスカッション：30分」	配付プリントの解説 ・提出済み「学習指導案」について ・第1回～第13回の授業について 「ディスカッション：30分」 ・「尾張富士の石上祭」(市邨先生語集より) ・第15回「小テスト」の確認と予告 ICTを活用して情報を収集する	提出物(学習ノート等)の確認
15	「前期小テスト」と 「前期のまとめ」 総復習と前期を振り返る	・第1回～第14回の内容で 「小テストを実施」 ・前期の総復習 ・教育実習で授業を行う心構え	・提出物(学習ノート等) を小テスト中に評価する 「商業科教育法」の準備とし、後期に備える

開講科目名 Course	(教)情報科教育法Ⅰ
時間割コード Course Code	60036
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	2 A 2 情報処理室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>専門教育における情報科教育の目標は、「情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における情報の意義や役割を理解させるとともに、高度情報通信社会の諸課題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。」である。</p> <p>本講義では、情報科教育の目的と内容を理解するとともに、上で掲げた目標を「教師と生徒」が具体的に達成するための課題と方法について研鑽する。</p>
授業の概要	<p>まず、本講義は今年度は対面授業を行う。</p> <p>本講義では、情報科の学習指導要領を教材に用いる。</p> <p>普通教育では「情報化の進展に＜主体的に対応できる＞能力と態度」の育成を目標としていた。専門教育ではさらに一歩進んで「＜高度情報通信社会の諸課題＞を＜主体的、合理的に解決＞し、社会の発展を図る＜創造的な能力＞と＜実践的な態度＞」の育成を目標としている点に注意されたい。</p> <p>ここでは明らかに社会の課題をも自らの課題として引き受けることの出来る高度の専門能力と意欲を持つ人間の育成が求められている。そのためには＜各分野の基礎知識・基礎技術の習得＞は最低限必要なマナーとなる。そこで本講義では、これらの内容を適切に教えることの出来る人物の育成を目指す。</p> <p>とくに、情報科の理念やもくろみを基礎から理解することに力を入れる。</p> <p><学習成果></p> <p>当科目の目指す学習成果は、上記のように明記された学習指導要領に沿った授業はどのようにすれば構成できるか、受講者が自ら考えて実践する体験の蓄積である。</p> <p>授業内容（シラバス）に関する質問は担当教員のオフィスアワーの時間にしてください。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p>
評価方法	<p>授業態度(10%)、模擬授業(30%)、ミニレポート(30%)、期末試験(30%)で評価を行う。</p> <p>毎回必ず出席すること。やむを得ず欠席となる場合は、メールにて必ず連絡すること。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が13回に満たない場合 ・連続して3回欠席した場合

授業計画	<p>1. 「情報産業と社会（教育上の留意点）」 【一般的な考察と理解】</p> <p>2. 「課題研究(1)（情報に関する課題の設定）」マインドマップを活用したグループワーク 【一般的な考察と理解】</p> <p>3. 「課題研究(2)（問題分析と解決方策の検討）」マインドマップを活用したグループワーク 【一般的な考察と理解】</p> <p>4. 「情報実習」教師役・生徒役に分かれての模擬授業と教授法をめぐる討論 【一般的な考察と理解】</p> <p>5. 「情報と表現（教育上の留意点）」 【一般的な考察と理解】</p> <p>6. 「アルゴリズム（教育上の留意点）」 【一般的な考察と理解】</p> <p>7. 「情報システムの開発（教育上の留意点）」 【一般的な考察と理解】</p> <p>8. 「ネットワークシステム（教育上の留意点）」 【一般的な考察と理解】</p> <p>9. 「モデル化とシミュレーション（教育上の留意点）」 【一般的な考察と理解】</p> <p>10. 「コンピュータデザイン（教育上の留意点）」 【一般的な考察と理解】</p> <p>11. 「図形と画像の処理（教育上の留意点）」 【一般的な考察と理解】</p> <p>12. 「マルチメディア処理（教育上の留意点）」 【一般的な考察と理解】</p> <p>13. 専門教育「情報」における指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>14. 模擬授業1（第1グループ）</p> <p>15. 模擬授業2（第2グループ）</p>
テキスト	実教出版 社情303 高校社会と情報 ISBN：978-4-407-20226-7
参考書	文部科学省 『高等学校学習指導要領解説（情報編）』 PDF版を文部科学省サイトから入手して使います。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後に対応 ・メールで対応（greatriver-1@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	・翌週返却または翌週口頭で述べる
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>6. 行動持続力</p> <p>7. 課題発見力</p> <p>8. 計画立案力</p> <p>9. 実践力</p>

開講科目名 Course	(教)介護等体験実習 / Practice in Care Service
時間割コード Course Code	60040
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 5
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	田中 秀佳
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	田中 秀佳(教育保育学科)、高橋 勝也(法学部)
授業の目標	・介護等の体験を行うことによって、教員の資質向上を図る。 ・社会福祉施設等における介護等体験を通して、社会福祉施設等の役割を知り、施設職員の仕事を理解する。
授業の概要	介護等体験実習では、社会福祉施設等の障害者や高齢者等と生活をともにし、社会福祉施設等の社会的役割や職員の職務内容を理解する。介護等体験の内容は、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験であり、高齢者や障害者の話相手、散歩の付き添い等の交流体験、掃除や洗濯など、施設の職員に必要とされる業務の補助を含む幅広いものである。実習生が実際に行う実習内容は、それぞれの社会福祉施設等の状況に応じて異なるので、社会福祉施設等の指示に従う。 実習を行う施設は、盲学校、聾学校、養護学校、保育所を除く社会福祉施設、その他の施設である。実習期間は、7日以上である。 介護等体験実習を行う者は、事前指導及び事後指導を必ず受けなくてはならない。
評価方法	実習機関の評価、出席を考慮して、総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	事前指導の注意事項、禁止事項に抵触した場合、介護等体験は辞退、中止により失格、または実施後に失格の判定をおこなう。
授業計画	介護等体験実習は後期に予定されている。 そのため、オリエンテーションとして初回講義を年度当初に実施した後、7月に事前指導、9月に直前指導、そして実習後に事後指導をおこなう予定である。
テキスト	全国特別支援学校長会編著『介護等体験ガイドブック 新フィリア』（ジアース教育新社、2020年4月）
参考書	現代教師養成研究会『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（四訂版）』（大修館書店、2014年12月） その他、授業時に指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学外活動に関しては授業時に資料を配布の上、詳細な説明を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験に基づき学校現場の現状、課題、学外活動に必要な事項を教授する。
質問への対応方法	直接またはメールにより随時対応する。
フィードバックの方法	授業時またはクラスルームを通じて実施する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回、事前指導時に指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 授業スケジュールの確認、介護等体験実習の概要について。	【留意点1】 本授業は教員になることに強い意欲を有している者を対象とした科目である。教員を志望しない者の受講は原則として出来ないので注意して欲しい。	
2	介護等体験の意義1 介護等体験の意義を学習する。	【留意点2】 講義全体を通して、(1)他者の人生に関わる仕事、他者の人生をより良いものにする仕事の意義と重大さを理解すること、(2)教育施設・福祉施設の意義と職務を理解すること、(3)自らが教員を目指すにあたって、教員という職業に必要な資質とは何かを考え、自らの教員像を具体化していくこと、(4)実習に必要な知識や心構えを身につけることを目指す。	
3	介護等体験の意義2 介護等体験の意義を学習する。		
4	社会福祉施設等の概要1 盲学校、聾学校、養護学校、社会福祉施設等の概要を学習する。		
5	社会福祉施設等の概要2 盲学校、聾学校、養護学校、社会福祉施設等の概要を学習する。		
6	施設職員の職務1 社会福祉施設等の職員の職務を理解する		
7	施設職員の職務2 社会福祉施設等の職員の職務を理解する		
8	実習生の心構え等1 実習生としての心構えや態度を学習する		
9	実習生の心構え等2 実習生としての心構えや態度を学習する		
10	実習生の心構え等3 実習生としての心構えや態度を学習する		
11	ビデオ視聴 ビデオを視聴することによって、社会福祉施設等の実際を学習する。		
12	実習直前指導1 実習に際しての注意事項を伝達し、必要		
13	実習直前指導2 実習に際しての注意事項を伝達し、必要		
14	実習反省会1 実習終了後、反省会を開き、よかった点や悪かった点を話し合う。		
15	実習反省会2 実習終了後、反省会を開き、よかった点や悪かった点を話し合う。		

開講科目名 Course	(教)職業指導
時間割コード Course Code	60050
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	大黒 光一
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	6 3 E 演習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大黒 光一 (経済学部)
授業の目標	商業科、情報科の教員として進路指導・職業指導をおこなう際に必要なキャリア、職業に関する基礎知識を身につけると共に、指導スキルの基礎を学ぶ
授業の概要	<p>本科目では、職業指導からキャリア教育に至るまで、進路指導は歴史的にどのように展開してきたのかをテキストを土台に学ぶ。</p> <p>また同時に、実際の商業高校教員は何に留意して職務に取り組んでいるのか、教える立場にあってどんなことを学んでいるのかを実際に使用されているアセスメントテストや事例を通して学ぶ。</p> <p>就職指導やキャリア教育に関する現状の取り組み、課題点について、自身で調べ、履修学生と共有し、お互いに意見を出し合う。</p> <p>以上のプロセスの中で、より実践的かつ学生にとって有益な就職指導やキャリア教育の知識を修得することを最終目的とします。</p>
評価方法	<p>合計4回の欠席で失格となります。</p> <p>定期試験期間中には筆記試験を実施しません。</p> <p>毎回の授業レポートの提出 (90%)</p> <p>アセスメントテストの受験 (10%)</p> <p>全体で12回以上の出席を評価の前提とします。遅刻、早退は原則として認めません。</p> <p>毎授業後に必ず授業内にて指定された方法で期限までにレポートを提出すること。</p> <p>レポートを含めた提出物の提出期限を厳守すること。</p> <p>提出期限を過ぎた提出については未提出とみなします。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	レポートの未提出4回で失格とします。

授業計画	<p>基本的には授業計画通り進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ず前の授業でお伝えします。 職業を知るためのアセスメントテストを自身で受検して頂きます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 授業の進め方（なぜ教員を目指すのか・職業とは） 2. キャリア教育、職業（就職）指導の目的とその必要性（キャリア教育・就職指導は必要か） 3. 職業（就職）指導・キャリア教育の歴史と展開（日米比較） 4. アセスメントテスト受検 5. 職業（就職）指導に必要な統計情報 6. アセスメント結果の見方と職業指導において必要な職業に関する基礎知識 7. 高校での就職指導に関する調査（実例・問題点） 8. 高校での就職指導に関する調査結果の発表 9. 高校でのキャリア教育に関する調査（実例・問題点） 10. 高校でのキャリア教育に関する調査の発表 11. 進路指導・キャリア教育をサポートする組織と運営 12. 進路指導に必要な法令、慣習など 13. 進路指導に必要なスキル、スタンスなど 14. 実際の進路指導のケース事例を学ぶ 15. アセスメントテストの活用、教員組織・担任の役割（理想とする就職指導） <p>授業で気になったことなどをメモするために、ノートを準備しておいてください。</p>
テキスト	<p>学事出版 望月由紀 著 学生・教員・研究者に役立つ進路指導・キャリア教育論 ISBN978-4-7619-2689-2 C3037 定価2420円(2200円+税10%)</p>
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	毎回の授業内で履修学生全員でのディスカッションの時間を必ず設けます。 積極的な自身の意見、感想の発言を心がけて下さい。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問については基本授業内にて受け付けます。
フィードバックの方法	質問への回答についても基本授業内に行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎週の授業の最後にレポートの課題を提示します。 毎週のレポートは次の回の授業までに取り組み、提出していただきます。 目安時間毎週4時間（計60時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力 8. 計画立案力

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス 授業の進め方	自身が高校生だった時を振り返り職業指導、進路指導の教員がどんなことを生徒たちに提供していたのか、を振り返る。	
2	職業指導・キャリア教育の目的とその必要性	テキストを使用します。購入しておくこと。 商業科、情報科などで職業指導を担当する教員の役割、生徒との接し方、学ぶべきことなどを知る。 本科目が目指すところ、現在、求められる役割を実社会と生徒たちの様子から逆算的に知り、高校教員として必要かつ、重要な取り組みであると知る	
3	職業指導・キャリア教育の歴史と展開(日米の比較) テキストを用いて学ぶ		
4	職業指導・キャリア教育・進路指導に必要な統計情報 テキスト・配布資料を用いて学ぶ		
5	職業指導において必要な職業に関する基礎知識 アセスメントテストおよびその結果を用いて学ぶ		
6	高校への取材、調査 実在する高等学校の進路指導担当教員を訪問し、取材を行う。	・取材先との日時の調整などは事前に学生が行う。 ・予め、聞きたいこと、知りたいこと、疑問点などは各自で整理、ダブリ、モレが無いように受講生間で調整を行うこと。 ・欲しい資料などがある場合は、予め取材先と調整のうえ入手すること。	
7	取材、調査のまとめ 職業指導・キャリア教育と保護者の理解 取材内容を整理し、模造紙に発表内容をまと	・模造紙、マーカー等は教員が準備する	
8	職業指導・キャリア教育をサポートする組織と運営	とりわけ、愛知県内の私立、公立高校と協力体制を築いている団体の存在とその役割、機能、どのような人材が働いているのかについて学ぶ。	
9	職業指導・キャリア教育の実践1 テキストを用いて学ぶ		
10	サポート組織への取材、調査 高校生向けのキャリア教育に力を入れる組織、団体を取材する。	・取材先との日時の調整などは事前に学生が行う。 ・予め、聞きたいこと、知りたいこと、疑問点などは各自で整理、ダブリ、モレが無いように受講生間で調整を行うこと。 ・欲しい資料などがある場合は、予め取材先と調整のうえ入手すること。	
11	取材、調査のまとめ 職業指導・キャリア教育の実践2 取材内容を整理し、模造紙に発表内容をまとめる。	・模造紙、マーカー等は教員が準備する	
12	公的部門との連携について	・取材先との日時の調整などは事前に学生が行う。 ・予め、聞きたいこと、知りたいこと、疑問点などは各自で整理、ダブリ、モレが無いように受講生間で調整を行うこと。 ・欲しい資料などがある場合は、予め取材先と調整のうえ入手すること。	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
13	アセスメントの活用 教員組織・担任の役割 自己理解のためのツールを試す	・アセスメントを実際に体験し、そのテストが何を明らかにすることを目的としているのかを知る。	
14	4つの能力 4つの能力を養うための具体的方法やプログラムを考える		
15	提案の発表、フィードバック、レポート パワーポイント、模造紙など媒体は自由です。	詳細は履修者が確定したら決めますが、取材内容によって発表の善し悪しが決まります。 しっかりと準備してください。 このクラスを通じての体験、学び、履修者どうしのやり取りからの気づきなどが何であったのか、教員という職業に対してどんな認識になったか、などを発表する。 プレゼンが上手にできることも評価しますが、より大切なのは中身です。 パワーポイントを使用する場合は4ページまでとします。模造紙は1枚。	

開講科目名 Course	(教)メディア表現 / Media Presentation
時間割コード Course Code	60051
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	情報実習室 A
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>高度情報化社会において、情報を記録・伝達・保管するための手段がメディア(媒体)である。近年、ネットワーク上のマルチメディア情報を閲覧することは多くの人にとって日常のことであると同時に、情報機器の急速な発達により、個人端末レベルでマルチメディア情報を簡単に処理することが可能になった。</p> <p>本授業では、デジタルメディアコンテンツ制作を通して、マルチメディアによる伝達効果とその特質を理解し、作品を構成し企画する実践的な能力を得ることを目標とする。特に実習を通じて、情報発信方法や表現方法などを身に付けることを目指す。</p> <p><学習成果> 知識・理解の領域 メディアの特性を理解して、現代に合った情報表現方法を身に付けることができる。 技能の領域 画像処理技術を身に付けて、多彩な表現方法を身に付けることができる。 態度・志向性の領域 自身でデジタルメディアコンテンツを制作できるようになる。</p>
授業の概要	<p>本授業では、マルチメディア情報のデジタル化について基本的な知識を身につけた上で、主に画像・動画編集・処理についての演習を行う。合わせて、デジタル写真の撮影方法(ライティング等)についても学ぶ。</p> <p>その後、身近なマルチメディアとしてのWebメディアを取り上げ、画像や動画を用いて、Webサイトを構築する実習を行い、メディアの表現方法等を習得して、メディアの特性について理解する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p>
評価方法	<p>評価方法 レポート、課題提出(70%) 授業への取り組み姿勢(30%)</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が12回に満たない場合

授業計画	第1週 コンピュータの基本 第2週 デジタルデータの特徴 第3週 デザインの基本 第4週 デジタル写真撮影 第5週 画像編集・処理 (PhotoShop) 第6週 画像編集・処理 (PhotoShop) 第7週 画像編集・処理 (PhotoShop) 第8週 動画編集・処理 (premiere pro) 第9週 動画編集・処理 (premiere pro) 第10週 動画編集・処理 (premiere pro) 第11週 動画編集・処理 (premiere pro) 第12週 Webメディアの特徴 第13週 Webサイト制作 第14週 Webサイト制作 第15週 Webサイト発表
テキスト	教員が作成する資料を配布して、授業を進める。
参考書	技術評論社『世界一わかりやすいIllustrator & Photoshop & XD Webデザインの教科書』
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	PCを用いた実習形式
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	基本的にはメールで回答する。
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する資料調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	(教)情報処理特論(火1,火2)
時間割コード Course Code	60054
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山本 雅也
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	3 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山本 雅也 (経営学部)
授業の目標	<p>本授業のテーマは、コンピュータおよび情報処理に関する中級者から上級者向けの知識・技術としてハードウェア、ソフトウェア、アルゴリズム、プログラミング、計測・制御などを学習し実践的に修得をすることである。</p> <p><学習成果の領域と到達目標></p> <p>知識・理解の領域 コンピュータを動かすソフトウェア・アルゴリズムの基本的な構造が説明できる。 プログラミングのアルゴリズムや言語の命令や文法が理解できる。</p> <p>技能の領域 プログラミング手法が理解できる。 高等学校の生徒を対象としたプログラミング教育ができる。</p> <p>態度・志向性の領域 ソフトウェアを設計する際の着眼点が分かる。 コーディングができる。 デバッグによりプログラミングを完成できる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、コンピュータを使った情報処理を行うためにプログラミング言語「Python」を修得することを目指す。「情報処理概論」、「プログラム入門」で修得したハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの知識や技術を連携させ実践的なプログラミング演習を行う。</p> <p>コンピュータに与える命令の論理的な処理構造をアルゴリズムと呼び、ヒトがコンピュータを意図している通り動かすためには、コーディングとデバックの技術が求められる。本授業では、Pythonを用い講義形式により理論を学び、演習により実践的な能力の育成を行い目標への到達を目指す。高等学校教諭一種免許状(情報)の取得に必要な教職課程科目である。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照のこと。</p>
評価方法	<p>以下の観点から総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への参加姿勢 40% ・ 課題(提出物) 60%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無断欠席が3回以上に達した場合。 ・ 著しくコミュニケーションが取れない場合。

授業計画	<p>授業は概ね以下に示す計画で行います。本計画は受講者の習熟度や進捗状況に応じて、調整する可能性があります。</p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：プログラミングに関する学習と実践 第3回：ハードウェアとソフトウェアに関する学習 開発環境構築の学習と実践 第4回：コーディングの学習と実践 第5回：文字列の表示，文字列と数値の組み合わせ表示の学習と実践 第6回：ファイルシステム 記憶領域におけるファイル制御，拡張子，階層構の学習と実践 第7回：簡易的なプログラムの作成，保存，実行の学習と実践 第8回：お絵かきプログラムによる空間把握の学習と実践 第9回：プログラムの基本1 順次，分岐，反復の学習と実践 第10回：プログラムの基本2 変数の学習と実践 第11回：プログラムの基本3 文字列の操作の学習と実践 第12回：プログラムの基本4 データの型の学習と実践 第13回：プログラムの基本5 if文の学習と実践 第14回：プログラムの基本6 for文の学習と実践 第15回：プログラムの基本7 関数の学習と実践 第16回：プログラムの基本8 モジュール組み込みの学習と実践 第17回：Pythonプログラミング演習1 GUIを有するアプリ 第18回：Pythonプログラミング演習2 GUIを有するアプリ 第19回：Pythonプログラミング演習3 画像ファイル表示アプリ 第20回：Pythonプログラミング演習4 画像ファイル表示アプリ 第21回：Pythonプログラミング演習5 画像ファイル表示アプリ 第22回：Pythonプログラミング演習6 画像ファイル表示アプリ 第23回：AI（人工知能）活用1 機械学習の学習と実践 第24回：AI（人工知能）活用2 機械学習の学習と実践 第25回：AI（人工知能）活用3 機械学習の学習と実践 第26回：AI（人工知能）活用4 機械学習の学習と実践 第27回：プログラム設計、アルゴリズム、プログラミングの総復習 第28回：プログラム設計、アルゴリズム、プログラミングの総復習 第29回：プログラム設計、アルゴリズム、プログラミングの総復習 第30回：プログラム設計、アルゴリズム、プログラミングの総復習</p>
テキスト	・Python1年生 体験してわかる！会話でまなべる！プログラミングのしくみ（翔泳社）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・最短距離でゼロからしっかり学ぶ Python入門 必修編（技術評論社） ・スラスラ読める Pythonふりがなプログラミング（インプレス）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>実践的なプログラミング演習を行う。</p> <p>自身でデバッグを行い課題を達成するアクティブラーニングを行う。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	自動車業界のTier1サプライヤにおいて、設計開発の経験がある教員が、実践的な演習課題を用意し指導します。
質問への対応方法	授業時間中に対応いたします。
フィードバックの方法	成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ8時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1. 親和力</p> <p>2. 協同力</p> <p>3. 統率力</p> <p>6. 行動持続力</p> <p>7. 課題発見力</p> <p>8. 計画立案力</p> <p>9. 実践力</p>

開講科目名 Course	(教)栄養教諭実習II / Practice in TeachingII (Nutrition Teacher)
時間割コード Course Code	60504
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	教職に関する専門科目群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	栄養教諭実習では、学外において協力いただいた実習校にて教育実習を行う。教育実習は、観察・参加・授業を通して、教育の理論と実際を習得しようとするものである。これまで学修してきた成果を実践的な体験の中で、主体的に再構築し教育の現場に適応させることを目標とする。
授業の概要	実習校の指導において、学校経営、学級経営の原理と方法、児童生徒を理解するための適切な方法、生徒指導や学習指導の原理と方法を具体的に理解し、指導上必要な技能と態度を習得する。また、栄養教諭として行う食に関する指導を具体的に理解し技能と方法を習得する。この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	評価については、実習校の評価等を考慮しながら、総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	教育実習校において、観察、参加・全体実習、研究授業、教材研究などを行う。
テキスト	後日指示します。
参考書	食に関する指導の手引きー第二次改訂版ー (文部科学省) 金田雅代編著 「栄養教諭論 理論と実際」建ぱく社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・随時対応
フィードバックの方法	・随時返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教育実習 準備 学習指導案作成 準備 実習のまとめ 復習
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション1	栄養教諭実習の意義と目的を十分理解する。「栄養教諭実習1」の概要を説明する。筆記具を持参すること。また、この科目の受講するにあたって必要なものを指示する。	
2	学習指導案の意義	学習指導案の意義について講義	
3	学習指導案作成	学習指導案の様式・書き方の説明	
4	学習指導案作成	題材の設定	
5	学習指導案作成	願う子どもの姿・題材(教材観)の作成	
6	学習指導案作成	目標・食に関する指導の観点の考え方	
7	学習指導案作成	学習過程の検討	
8	学習指導案作成	評価・板書計画の作成	
9	講演会 特別講師による授業者の心得を学ぶ	特別講師より、授業の進め方、子どもへの支援方法を学ぶ	
10	教材作成	学習指導の沿った教材検討・作成	
11	教材作成	同上	
12	模擬授業	模擬授業の実践	
13	模擬授業	同上	
14	模擬授業	同上	
15	授業参観	実践を踏まえ、授業を参観する	

開講科目名 Course	(教)栄養教諭論Ⅰ / Theory of Nutrition TeacherⅠ
時間割コード Course Code	60506
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	栄養に係る教育に関する科目
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>学校における食育の意義と具体的な取り組み方法を理解することが目標です。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 栄養教諭の果たす役割を説明することができる 学校における児童生徒の食に関する問題が説明できる</p> <p>技能領域 食に関する指導を栄養教諭としての専門性の観点から必要性を見いだせる 児童生徒の食に関する指導の進め方を管理栄養士の視点から評価できる</p> <p>態度・志向性の領域 学校における食育活動について自ら進んで調べるようになる。</p>
授業の概要	<p>栄養教諭の役割、学校教育の仕組み、学校給食の教育的意義を学びます。特に学校給食については、学校給食の指導、栄養管理、衛生管理等の知識を習得し、学校給食における献立の教材化を献立作成から教材のためプレゼンテーションまでをグループ学習にて学びます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	参加姿勢50%、課題レポート50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.学校教育の仕組み、栄養教諭の職務 3.学習指導要領における食に関する指導の位置づけ 4.学校給食の教育的意義と役割 5.学校給食管理（栄養管理） 6.学校給食管理（衛生管理） 7.学校給食における献立の教材化(1) 8.学校給食における献立の教材化(2) 9.学校給食における献立の教材化(3) 10.学校給食における献立の教材化(4) 11.プレゼンテーション作成 12.プレゼンテーション 13.献立の教材化（食育だより） 14.献立の教材化（食育だより） 15.食育だより発表、まとめ <p>実務経験のある教員による授業 栄養教諭の経験をもつ教員が、学校現場が求める栄養教諭の在り方や役割そして課題などに関して実践例を示しながら指導する。</p>
テキスト	特に指定しない。その都度資料配布します。
参考書	学習指導要領（文部科学省） 食に関する指導の手引き－第二次改訂版－（文部科学省）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	献立の教材化では、地域の学校給食を具体的作成し、授業内で発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業後に対応
フィードバックの方法	・随時返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ol style="list-style-type: none"> 1回 学習指導要領における食に関する指導 予習5時間と復習5時間を課す。 2回 食に関する指導の手引 予習5時間と復習5時間を課す。 3回 学校給食の栄養管理、衛生管理 予習5時間と復習5時間を課す。 4回 学校給食の教材化 準備5時間・予習5時間と復習5時間を課す。 5回 献立の教材化 準備5時間・予習5時間と復習5時間を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 授業計画とねらい	栄養教諭制度の理解および授業の大切さについて講義	
2	学校教育の仕組み・栄養教諭の職務 学校教育の仕組み 栄養教諭の位置づけ・職務	学校教育の仕組み・栄養教諭の職務について講義	
3	食に関する指導の位置づけ 学習指導要領における食に関する指導の	学習指導要領から食に関する指導の位置づけを考える	
4	学校給食の教育的意義と役割 学校給食の教育的意義と役割	学校給食の教育的意義と役割を調べ発表	
5	学校給食管理 1	栄養管理の考え方を資料から学ぶ	
6	学校給食管理 2	衛生管理の考え方を資料から学ぶ	
7	学校給食における献立の教材化 1 学校給食の献立作成	献立のねらい	
8	学校給食における献立の教材化 2 学校給食の献立作成	コンセプトをもとに献立作成	
9	学校給食における献立の教材化 3 調理実習による検証	考案した献立を調理実習し検証	
10	学校給食における献立の教材化 4 提案献立の決定	提案する献立を決定	
11	プレゼンテーション作成 献立を提案するためのプレゼンテーショ	プレゼンテーションを作成	
12	プレゼンテーション	提案献立をプレゼンテーションにて発表	
13	献立の教材化 1 (食育だより) 資料作成	食育だよりのテーマを決定	
14	献立の教材化 2 (食育だより) 資料作成	各自のテーマごとに食育だよりを作成	
15	食育だよりの発表および授業評価 レポート, 授業評価	レポート, 授業評価	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(A)映画 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13600
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	榊原 嘉明
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	榊原 嘉明 (法学部)
授業の目標	本プランの目標は、(1)基礎的なアカデミックスキル及びコミュニケーションスキルを修得する、並びに(2)社会科学の学修に向けた端緒の獲得にある。
授業の概要	上記の目標を達成するため、(i)参考文献の講読を通じて鑑賞の視点を獲得した上で、映画視聴とディスカッションを行うこと、(ii)名経祭〔例年：10月開催予定〕において映画の上映会を主催し、場合によっては、その場に映画監督を招聘することを基本的な内容とする。
評価方法	G/Sで評価する。 その際の評価の視点は、(I)担当回のレジュメを作成し、毎回のグループワークで発言・質問ができたか、(II)自分の強み・弱みを発見し、他人の強み・弱みを理解し生かすことを通じて、共通の目標に向かい共同作業をすることができたか、(III)映画の視聴を通じ、社会科学の学修に向けた興味・関心・イメージを持つことができたか、の3点である。 なお、欠席をする場合には、原則として事前に、担当教員にその旨を連絡すること。具体的な方法等については、ガイダンスの場において指示することとする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	(a)欠席につき、事前の連絡がなく、また事前連絡がなかった場合に合理的な理由が見いだせない場合、(b)授業中又はその準備等の時間において、他人の人格を著しく毀損する行為があったと認められる場合、(c)その他これらに準ずる場合に、失格とすることがある。

授業計画	<p>【予定：5月～6月頃】</p> <p>第1回・第2回 ガイダンス（アイスブレイク、役職者・レジユメ作成担当者の決定、レジユメ作成方法講習など）</p> <p>第3回・第4回 三浦大輔『何者』（2016年・日）98分</p> <p>第5回・第6回 石井裕也『川の底からこんにちは』（2009年・日）112分</p> <p>第7回・第8回 周防正行『それでもボクはやってない』（2007年・日）143分</p> <p>第9回・第10回 Frank Darabont『ショーシャンクの空に』（1994年・米）142分</p> <p>第11回・第12回 想田和弘『選挙』（2007年、日本）120分</p> <p>第13回・第14回 Stephen Daldry『リトル・ダンサー』（2000年・英）111分</p> <p>第15回・第16回 Ken Loach『この自由な世界で』（2007年・英）97分</p> <p>第17回・第18回 Roberto Benigni『ライフ・イズ・ビューティフル』（1997年・伊）117分</p> <p>第19回・第20回 Éric Toledano/Olivier Nakache『最強のふたり』（2011年・仏）112分</p> <p>【予定：7月、9月、10月頃】</p> <p>第21回・第22回 上映会の準備（映画選び・準備プラン作成）</p> <p>第23回・第24回 上映会の準備（映画監督との予定調整・事前打ち合わせ）</p> <p>第25回・第26回 上映会の準備（チラシ・看板づくり）</p> <p>第27回・第28回 上映会（名経祭）</p> <p>第29回・第30回 振り返り・まとめ</p> <p>第17回～第20回は、「映画選び」に変更となる可能性がある。</p> <p>第21回～第26回は、名経祭準備・参加のため、学期外・土日祝日にこれを実施する可能性がある。</p> <p>上記予定はすべて、参加者の人数・性格・希望など必要に応じて、予告なく変更となる場合がある。</p>
テキスト	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・志田陽子編『映画で学ぶ憲法』（法律文化社、2014年） ・野田・松井編『新・シネマで法学』（有斐閣、2014年） ・梅崎・松繁・脇坂『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』（有斐閣、2020年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、映画視聴後の意見交換など、グループワーク（主にディスカッション）を行う。 ・名経祭における映画上映会の準備・開催のために、種々の共同作業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時間の前後、google classroom、電子メール等を用いて対応する。
フィードバックの方法	適宜、授業時間、google classroom等を用いて実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>(i)映画視聴期には、文献抄読、レジユメ作成、授業ノート提出のため、予習・復習に週平均2時間程度を要する。</p> <p>(ii)映画上映会準備期には、個人又は小グループでの準備作業のため、準備学習に週平均2時間程度を要する。加えて、映画上映会の直前・直後・当日の準備・後片付け作業のため、合計10時間程度の時間を要する。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(F)大学祭 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13601
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	萩原 聡央
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	7 5 C 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	萩原 聡央 (法学部)
授業の目標	<p>10月に行われる名経祭 (名古屋経済大学大学祭) を企画・運営し成功させることを目標とします。</p> <p>< 学習成果 ></p> <p>知識・理解の領域 大学祭の意義を理解し、学生が主体となって大きなイベントを運営するためにどのようなことが重要であるかを学ぶことができる。</p> <p>技能・思考・判断の領域 企画を立案し、それを実施するためには、まず現状を分析し課題を明らかにすることが必要になる。次に発見した課題をどうやって解決するかを考える。そのような力が身につく。</p> <p>関心・意欲の領域 物事に積極的に取り組むことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 他のメンバーや教職員と協力することが大切である。その中で相手の考えを理解する、自分の意見をわかりやすく伝えることが求められる。それを通じて柔軟性や協調性を学ぶことができる。</p> <p>体験探究の領域 様々な困難を克服し時間と労力を費やしながら大きなイベントを運営し成功につなげた経験が「やればできる」という大きな自信となる。</p>
授業の概要	<p>大学祭実施当日にむけて、各段階ごとに、検討会の開催や準備作業などを行っていきます。大まかな手順は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 立案段階 <ul style="list-style-type: none"> テーマ・目的を決める 他大学の大学祭を調べる (過去の実施情報など) 企画準備段階 <ul style="list-style-type: none"> 実施概要の作成 予算書案の作成・成立 ポスター・チラシの作成 協賛企業のリストアップと提案書作成 犬山市産業振興企画会議への参加 (予定) 企画実施段階 <ul style="list-style-type: none"> 大学祭当日の運営 企画評価段階 <ul style="list-style-type: none"> 反省会と打ち上げ <p>〔科目の位置づけ〕 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>大学祭実施に向けた事前事後の検討会における議論への参加状況 (20%)、大学祭準備作業への取り組み状況 (30%) および大学祭当日の運営における取り組み状況 (50%) を総合的に考慮して評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	原則として、欠席6回以上は失格とする。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（授業概要の説明）</p> <p>第2回 大学祭の概要を知る（大学祭の概要説明）</p> <p>第3回 過去の「名経祭」の実施状況や他大学の大学祭を調べて特徴をまとめる</p> <p>第4回 犬山の城下町を知る（犬山散策）</p> <p>第5回 大学祭のテーマ・目的を決める</p> <p>第6回 大学祭の「目玉」を決める</p> <p>第7回 大学祭における各企画の担当を決める</p> <p>第8回 大学祭の実施概要書を作成する</p> <p>第9回 大学祭の予算書案を作成する</p> <p>第10回 大学祭の協賛企業のリストアップと提案書を作成する</p> <p>第11回 模擬店出店に関する各ゼミへの協力依頼書を作成する</p> <p>第12回 ポスター・チラシを作成する</p> <p>第13回 大学祭運営に係る最終確認（役割分担等の最終確認）</p> <p>第14回 大学祭運営に係る最終確認（準備活動等の最終確認）</p> <p>第15回 大学祭前日における準備活動（金3限）</p> <p>第16回 大学祭前日における準備活動（金4限）</p> <p>第17回 大学祭前日における準備活動（金5限）</p> <p>第18回 大学祭1日目の運営（土1限）</p> <p>第19回 大学祭1日目の運営（土2限）</p> <p>第20回 大学祭1日目の運営（土3限）</p> <p>第21回 大学祭1日目の運営（土4限）</p> <p>第22回 大学祭1日目の運営（土5限）</p> <p>第23回 大学祭2日目の運営（日1限）</p> <p>第24回 大学祭2日目の運営（日2限）</p> <p>第25回 大学祭2日目の運営（日3限）</p> <p>第26回 大学祭2日目の運営（日4限）</p> <p>第27回 大学祭2日目の運営（日5限）</p> <p>第28回 大学祭後の運営（大学祭の片付け・機材返却業務等）</p> <p>第29回 大学祭後の運営（大学祭の片付け・機材返却業務等）</p> <p>第30回 まとめと振り返り</p> <p>このプランは、授業時間（火3限・4限）以外にも活動します。このプランの受講生は、大学祭前日（10/13金曜日の午後）および大学祭当日（10/14土曜日と10/15日曜日）にも活動します。犬山城見学などの学外活動を行う予定です。犬山市産業振興企画会議にも参加する予定です。</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	大学祭の企画・立案や準備作業において、グループワークを実施する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	〔質問への対応〕 質問については授業時またはオフィスアワーにおいて対応します。
フィードバックの方法	授業時間内または次回授業で解説します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の授業テーマについて、事前準備を2時間程度、事後学習を2時間程度行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(N)農業 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13602
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	2 D 1 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	美濃羽正康(法学部)、早川 結人(法学部)、張 瑞輝(法学部)、佐藤 正之(経済学部)
授業の目標	<p>学ぶことは、本来、楽しいことなのです。本学の周りは未知の学びの体験ゾーンです。グループ仲間と助け合って学びを味わう活動をプロジェクトと呼びます。あなたは、この体験型プロジェクトで何を見つけるでしょうか？</p> <p>この学びのプランでは、農家の方や農協の指導の下でコメ作りを体験したり、学内の小さな農地を耕し、野菜等の作物栽培実験をしたり、「地域の農」に関するフィールドワークを通じて、「農業」や「食料生産」に係わる経済・社会のしくみを理解し、そのありかたを考えてもらいます。</p> <p>< 学習成果 ></p> <p>知識・理解の観点 「農業」や「食料生産」とは何かを、コメ作りの実践の中で体得し説明することができる。</p> <p>思考・判断の観点 コメ作りを実践する過程や、自然農法の体験で出会う問題について、自主的に考え判断し適切に対応することができる。</p> <p>関心・意欲の観点 「地域の農」に関わる経験をすることにより、農業の厳しさや喜びを体で覚え、自ら学び続ける自覚を高めることができる。</p> <p>食料生産に関する経済・社会のしくみについて関心を持つようになる。</p> <p>態度の観点 熱意をもって農作業体験を行うことができる。</p> <p>農業生産の効果的な方法を自ら進んで考えたり調べたりするようになる。</p> <p>技能・表現の観点 農作業を体感することで、農業の現状の理解に役立てる。</p> <p>「農業」や「食料生産」などについて理解が深化し、まとめを自らの言葉で作成することができる。</p> <p>プロジェクトメンバー自らが、様々な取り組みを立案し協力して実施することで、社会人基礎力を養成することができる。</p> <p>体験・探究の観点 農業・食料生産の現場、地域を深く知ることを通じて自主的に学習することの大切さを再認識し、新たな問題を探求する力を育ててゆく。</p>

授業の概要	<p>このプロジェクトでは、(1)地域のコメ生産者や農協、市役所等の支援を受けながらの大学周辺の水田を活用してのコメ作り、(2)学内農地における自然農法による野菜づくりなどを行います。</p> <p>日頃食べているお米が、どのような作業を通じて生産され、流通過程を経て私たちに届けられているか、興味ありませんか？</p> <p>また、畑を耕し除草し水をやるといった地道な作業を通じて、安全安心な食糧生産の大変さや大切さを学ぶことも重要です。自分たちがつくった農作物を、プログラムを通じて知り合った友人たちと一緒に食べたり、誰かに食べてもらえるように工夫することは素晴らしいことだと思いますか？</p> <p>このような経験を通じて、農業や食料生産の大切さ、大学と地域との連携のあり方について深く学び、大学における社会科学を学びへとつなげていくことができるプログラムです。</p>
評価方法	<p>AA A B C D方式で評価します。</p> <p>評価基準 プロジェクト活動への取組姿勢（70パーセント） 振り返りレポート（10パーセント） 個別報告（20パーセント）</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>全出席回数数の3分の1を越えて欠席した者は失格とする。遅刻は2回で欠席1回として扱う。</p> <p>なお、地域への対外的責任がありますので、正当な理由なくまたは無断で欠席したり遅刻したりした場合は失格にすることがあります。</p> <p>農作物に関わるプロジェクトのため、繰り返しの作業が多くあります。作業に参加しない者は失格となるため、決められた活動が出来ない人は単位がとれません。</p>
授業計画	<p>この授業は対面方式で行います。</p> <p>第1週 全体説明、プログラム概要の学習（ガイダンス） 第2・3週 農業・食料に関する講義／プロジェクト運営会議 第4・5週 農作業 第6週 調査・地域見学 第7・8週 農作業 第9週 調査・地域見学 第10・11週 小まとめ・ワークショップ 第12・13週 農作業 第14週 ワークショップ／プロジェクト運営会議 第15週 中間振り返り、まとめ／プロジェクト運営会議 第16週 農地整備 第17・18週 農作業 第19週 ワークショップ／プロジェクト運営会議 第20・21・22週 農作業 第23・24週 調査・地域見学（47～48回）農作業 第25・26週 ワークショップ／プロジェクト運営会議 第27・28・29週 報告会準備／報告会（収穫祭） 第30週 振り返り、まとめ</p> <p>注：授業計画は、気象条件等による農作業時期のずれや地域・施設等の都合により、曜日や時間帯等変更の可能性があります、一応の目安です。</p> <p>必要に応じて適宜スケジュール調整を行います。</p>
テキスト	指定しない
参考書	指定しない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>「農業」「地域連携」をキーワードに、社会科学への興味や学習意欲へつなげることが目標ですので、皆さんにプロジェクトの運営を担ってまいります。</p> <p>農作業体験だけでなく、収穫物の食べ方や使い方についても、アイデアを出し合いながら考えていきましょう。</p> <p>また、皆さんに地域農業を支える水利組織や施設の見学、里山散策、専門家からのレクチャーなどの企画をしてもらい実行することで、農業と地域がどのように結びついているのかについても学びを深めていく予定です。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>体験に関する質問は、学習中に随時受け付けます。なお大学のgoogleアカウント利用が必須です。classroomを使用します。</p>
フィードバックの方法	<p>実際に会社や行政で行われているように、皆さんにプロジェクトの運営を担ってもらい、メンバーとして活躍してくれることを期待しています。リアクションへの教員からリプライはもちろんですが、各メンバーが相互に情報を共有することを推奨します。</p>

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	皆さんにプロジェクトの運営を担ってもらうためには、授業時間と同等の準備学習，体験と記録，事後学習とリアクションが必要です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 15.陸の豊かさを守ろう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(0)日本語パートナー / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13603
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	宮島 良子
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	1 4 F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	金村 久美 (経済学部)、宮島 良子 (経営学部)
授業の目標	<p>・知識・理解の領域 日本語を母語としない人々（外国にかかわりのある子ども、留学生、技能実習生など）への日本語教育について基礎的な知識を持ち、日本語学習者の日本語パートナーとなる。 多様な文化や日本語について知り、日本語の特徴や表現のあり方などについて認識する。 国際交流、異文化理解や多様性に関する基本的な知識を持ち、日本語を学ぶ人々に対する「やさしい日本語」などについての知識を得る。</p> <p>・技能の領域 日本語パートナーとして、多様な情報の受信、選択、分析、発信を基本とするコミュニケーション能力の基礎を身につける。 学修を通じて得た、多様性理解（多文化共生、異文化理解など）の意味を理解し、日本語学習支援の方法を身につける。 日本語パートナーとして活動する際に必要な配慮を理解し、身につけようという気持ちを養う。 日本語パートナーとして、必要な異文化理解能力を身につけ、そのためにどのような働きかけが必要であるかを考え、実施する。 日本語パートナーとして交流活動の実施の際に活用可能な水準のコンピューター運用力を身につける。</p> <p>・態度・志向生の領域 知識や経験を自律的に学修しようとする態度を身につける。 他者との交流や異なる価値観などの受容を通じて、自身の視野を広げ、他者との協働により自己を客観視し、他者を尊重する態度を示す。 地域の文化、世界の文化に触れることにより、多様性を理解し、尊重する姿勢を身につける。</p> <p>・思考判断の領域 日本語や国際理解につながる知識・理解をもとに、寛容性や柔軟性を持ち、多角的に思考・判断する。</p> <p>・関心意欲の領域 日本語や地域の文化や他国の文化、マナーについて興味、関心を持ち、社会でともに生きていくためにできることが何かを考える。</p>

授業の概要	<p>・この授業の参加者は、日本語を母語としない人々（外国につながるのある子ども、留学生、技能実習生など）に対して、彼らが日本語を学習する際に日本語パートナーとして協力、活動します。活動体験を通して、多様な人々と知り合い、助け合い、協力し合う中で人間関係を作り、グローバル人材としての基礎を作ります。</p> <p>・学内や地域において日本語パートナーとしての活動に積極的に参加し、交流します。</p> <p>・日本語パートナーとして協力、活動するために必要な日本語教育や国際理解などに関する入門的な知識を学び、日本語学習に励む人々のパートナーとなり、温かい人間関係を築き、良好な関係を作れるということを学びます。</p> <p>〔この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。〕</p>
評価方法	<p>・参加度の評価：基礎的な知識の修得状況と日本語パートナーとしての活動をどのように行ったかを、学生の活動報告や担当教員の観察をもとに評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>この科目は通年の科目であるが、特別な配慮を必要としない欠席が半期で5回以上ある場合には失格となる。</p> <p>日本語パートナーとしての活動を実施しない場合には失格となる。</p>
授業計画	<p>・日本語教育についての入門的な基礎知識を身につけ、日本語パートナーとして活動する</p> <p>・この授業は通年で行う科目である。通年で30コマ分の授業を実施する。</p> <p>・原則として火曜日3限（場合によっては4限）の時間帯を利用する。</p> <p>・ただし、日本語パートナーとしての活動する等の内容によっては別の曜日時限に行うことがある。</p> <p>・場合によっては夕方～夜間、休日に実施する場合もある。</p> <p>・場所は教室、大学内または大学近隣とする。</p> <p>・場所、日時についてはグーグルクラスルームを使って共有するため、必ず確認をすること。</p> <p>以下、内容の順番は入れ替わる可能性がある。</p> <p>第1回 オリエンテーション&アイスブレイク（コミュニケーションゲームなどを体験する）、日本語を学ぶ人にはどのような人がいるかなど</p> <p>第2回 日本語学習者の背景について知る</p> <p>第3回 日本語学習者の背景について調べる</p> <p>第4回 日本語学習者の背景について調べたことを共有する</p> <p>第5回 日本語教育について知る</p> <p>第6回 日本語教育について調べる</p> <p>第7回 日本語教育について調べたことを共有する</p> <p>第8回 日本語教育の教材について知る</p> <p>第9回 日本語教育の教材について調べる</p> <p>第10回 日本語教育の教材について調べたことを共有する</p> <p>第11回 国別事情について知る</p> <p>第12回 国別事情について調べる</p> <p>第13回 国別事情について調べたことを共有する</p> <p>第14回 学習支援の技術について知る</p> <p>第15回 日本語の漢字の学習方法について知る</p> <p>第16回 日本語の漢字を教える</p> <p>第17回 日本語の文法について知る</p> <p>第18回 日本語の文法について教える</p> <p>第19回 日本語の作文について知る</p> <p>第20回 日本語の作文について助言、添削してみる</p> <p>第21回 日本語の発音について知る</p> <p>第22回 日本語の発音と他の国の言語の発音について調べたことを共有する</p> <p>第23回 日本語の会話について知る</p> <p>第24回 日本語パートナー実践（留学生）</p> <p>第25回 日本語パートナー実践（留学生）</p> <p>第26回 活動の振り返り</p> <p>第27回 日本語パートナー実践（子ども）</p> <p>第28回 日本語パートナー実践（子ども）</p> <p>第29回 日本語パートナー実践（日本語学習支援イベント）</p> <p>第30回 活動の振り返り</p>
テキスト	なし
参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	日本語パートナーとしての活動準備や振り返りの際にグループに分かれて実施する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業前後の時間やオフィスアワーの時間に対応する。適宜メールやGoogleクラスのコメントなどでも受け付ける。
フィードバックの方法	授業時間内やGoogleクラスのコメントを活用して行なう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前に調べたり、事後に報告書をまとめたりなど、120時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	体験型プロジェクト(XJ)犬山学/犬山創業 / Hand-on Learning
時間割コード Course Code	13604
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	木全 啓
科目区分 Course Group	共通科目群 体験型探究
教室 Classroom	6 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	木全 啓 (法学部)
授業の目標	<p>【授業の目標】</p> <p>犬山で、また、尾張・美濃その他ご縁がある地域にて創業をするために必要な本学・知識・ノウハウを学びます。自分が創業・起業をする場合に必要な趣意書を纏めることを目標とします。既に、準備が固まっているケースは、詳細な事業計画の策定にも挑戦します。</p> <p>学ぶことは、元来、楽しいことで、可能性は無限大です。本学犬山の周りは未知の学びが豊富にある体験ゾーンです。グループ仲間と助け合って学びを味わう活動をプロジェクトと呼びます。あなたは、この体験型も含む授業・プロジェクトで何を見つけるのでしょうか？</p> <p>この授業では、本学が所在する犬山市や関連する地域において、特に若者が、新たなビジネスを立ち上げ、持続可能な成長を遂げるための秘訣を探究します。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の観点 「新規創業」についての考え方、基礎知識を身につけることができる。 地域と連携した新規創業について知ることができる。</p> <p>思考・判断の観点 地方都市での創業で出会う問題について自主的に考え、解決の道を探ることができる。</p> <p>関心・意欲の観点 創業者や創業支援関係者（自治体、金融機関などを含む）からの話を通じて、創業の厳しさや喜びを肌で知り、自ら学び続ける自覚を高めることができる。</p> <p>態度の観点 「創業」というテーマを主題とすることで、実際の観点から進んで考えたり調べたりするようになる。</p> <p>技能・表現の観点 創業をめぐる種々の疑問に対しリサーチするノウハウが身につく。 「創業」や「地域振興」などについて理解が深化し、まとめを自らの言葉で作成することができる。</p> <p>体験・探究の観点 創業者を実際に知り、また創業を応援する地域を深く知ることを通じて自主的に学習することの大切さを再認識し、新たな問題を探究する力を育てゆく</p>

授業の概要	<p>【授業の概要】</p> <p>どの自治体もそうであるように犬山市もまた、新規創業、つまり新たなビジネスを起こして雇用を創出し、地元経済を活性化してくれる担い手の登場を願っています。しかし誰もが自ら起こした事業を大きく成長させることができるわけではありません。成功する者とそうでない者の違いは何なのか？ 成功するための条件は何なのか？ ほかならぬ犬山で創業を成功させるためには何が必要か？ 答えはあるのでしょうか？</p> <p>この授業では、そうした基礎的な疑問から取り組みます。(1) 様々な文献を通して創業物語を学ぶと同時に、(2) 創業の経験がある実務者からのレクチャーを受け、その上で、(3) 犬山に関連する幹部人材(犬山市長など)からは新規創業に対する期待と取り組みをお話しいただきます。また(4) 犬山で最近創業した事業者や、(5) 近隣で創業した本学卒業生に対する取材をし、これらを通して、「創業のリアル」について学びを深めます。</p> <p>そうした臨場感ある学びを積み重ねた後に、「では自分達がもし犬山や関連の地域で創業しようとするならば、どうするか？ なにが必要か？」というテーマでグループでも討議し、個人、もしくは、チームで、趣意書と事業計画をまとめます。</p>
評価方法	体験型の授業ですので、毎回出席を前提とします。授業への参加、レポート、期末課題制作への貢献に基づいて、G/S方式によって評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 犬山創業と趣意書の講義 + 予習</p> <p>第3回 創業の考え方、志の共有 + 全員発表</p> <p>第4回 復習 + 予習 + グループディスカッション</p> <p>第5回 犬山市の基本情報の共有(犬山市役所)</p> <p>第6回 復習 + 予習 + 取材</p> <p>第7回 地方創生のトップランナーの研究</p> <p>第8回 復習 + 予習 + 熊野学の分析</p> <p>第9回 ブランディング・マーケティング・広報について</p> <p>第10回 復習 + 予習 + 期末課題準備</p> <p>第11回 犬山市内・城下町などのマーケットリサーチ(犬山市内)</p> <p>第12回 復習 + 予習 + グループディスカッション</p> <p>第13回 事業計画について</p> <p>第14回 復習 + 期末課題制作(1) + グループディスカッション</p> <p>第15回 期末課題制作(2) + 発表 (訪問先の都合などにより変更される可能性があります)</p>
テキスト	追って指示する。
参考書	追って指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	対面、電話、オンライン、メール、ライン。
フィードバックの方法	対面、電話、オンライン、メール、ライン。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	合計で60時間程度の予習・復習時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	8.働きがいも経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	2.協同力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	(遠)(ス)専門スポーツ実習Ⅰ(通)
時間割コード Course Code	19660
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 1
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	吉澤 洋二
科目区分 Course Group	専門科目群 強化指定クラブ所属学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉澤 洋二(経営学部)
授業の目標	<p>【授業方針】 新型コロナウイルスの感染状況、そして強化クラブの活動状況に照らし合わせて、授業を展開していくので、担当者からのメール連絡には十分注意するようにお願いします。</p> <p>【授業目標】 高いレベルの意識を持ちながら常に自分でよく考え、感染対策にも十分に配慮ができるようにしていきましょう。結果として、強化クラブの活動が継続して行なえるように、メンバーとしての自覚を備えたプレーヤーを目指して取り組んでいただくようにお願いします。この授業の目標は、強化指定クラブの活動を通して、より専門性の高いスポーツ実践能力を身につけることです。</p>
授業の概要	<p>【強化クラブの中で実践を学ぶ】 専門スポーツ実習Ⅰは、硬式野球、ラグビー、バスケットボール、剣道、サッカー、硬式テニスの6種目で授業を展開します。</p> <p>【振り返りの重要性を学ぶ】 1年をかけて、専門スポーツを十分に理解できるように活動しましょう。そして、正しい技術をマスターするとともに競技の理論と指導法について、自らの活動を振り返ることで、さらなるレベルへと能力を高めていきましょう。そうすることによって、選手としてのみならず、指導者として必要な正しい知識を習得することができます。</p>
評価方法	レポート 60% 確認テスト 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>*前期</p> <p>1週 学び 『国を越えたライバルの友情(2018年平昌オリンピック)から学ぼう』 実戦 メンタルトレーニングの有効性を理解しよう!</p> <p>2週 学び あなたが行っている競技の発祥について調べてみよう 実戦 マンダラチャートを完成させよう</p> <p>3週 学び あなたが行っている競技の競技場と用具の変遷について調べてみよう 実戦 筋弛緩法と自律訓練法にチャレンジしよう</p> <p>4週 学び あなたが行っている競技の誕生初期のルールについて調べてみよう 実戦 あなたの行っている競技の『注意集中』について特徴を調べてみよう</p> <p>5週 学び あなたの行っている競技の現在のルールに至った経緯を調べてみよう 実戦 あなたの行っている競技で『イメージ技法』の利用方法を調べてみよう</p> <p>6週 学び あなたの行っている競技の誕生・ルールからみた競技の特徴を考えよう 実戦 あなたの行っている競技で『情動のコントロール』を必要としている場面について考えてみよう</p> <p>7週 学び あなたの行っている競技のおもしろさを考えよう 実戦 あなたの行っている競技で『暗示技法』を使って落ち着けるような場面を考えてみよう</p> <p>8週 中間のまとめ</p> <p>9週 学び あなたの行っている競技の素晴らしさ、或いはすごいことを考えましょう 実戦 競技活動中に『ネガティブ』な考えになった時、どのように対処すべきか</p> <p>10週 学び あなたの行っている競技で『トッププレイヤー』の凄さを考えてみよう 実戦 競技意欲を高める・維持するための方法について考えてみよう</p> <p>11週 学び あなたの行っている競技の改良を加える点を考えてみよう 実戦 緊張・不安を統制することでどのような良い競技結果が得られるか</p> <p>12週 学び あなたの行っている競技で世界進出するには、どのような素質が必要か 実戦 『集中力』の高め方について方法を考えてみよう</p> <p>13週 学び あなたの行っている競技で優秀な指導者になるための資質を考えよう 実戦 競技に関する『自信』を高めるために必要なことを考えよう</p> <p>14週 学び あなたの行っている競技は、あなたにとってどのようなものなのか 実戦 あなたのコンディショニングについて考えてみよう</p> <p>15週 まとめ</p> <p>*後期</p> <p>16週 心理的スキルトレーニングとは? 1</p> <p>17週 心理的スキルトレーニングとは? 2</p> <p>18週 選手の「強み」を育む必要性 1</p> <p>19週 選手の「強み」を育む必要性 2</p> <p>20週 アドラー心理学の理論的枠組み 1</p> <p>21週 アドラー心理学の理論的枠組み 2</p> <p>22週 アドラー心理学の理論的枠組み 3</p> <p>23週 アドラー心理学の理論的枠組み 4</p> <p>24週 アドラー心理学で心を整える 1</p> <p>25週 アドラー心理学で心を整える 2</p> <p>26週 アドラー心理学で心を整える 3</p> <p>27週 アドラー心理学で心を整える 4</p> <p>28週 アドラー心理学で心を整える 5</p> <p>29週 アドラー心理学で心を整える 6</p>
テキスト	特になし
参考書	特になし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにより対応します。
フィードバックの方法	特になし
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	特になし
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	(遠)(ス)専門スポーツ実習II(通)
時間割コード Course Code	19680
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 1
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	吉澤 洋二
科目区分 Course Group	専門科目群 強化指定クラブ所属学生対象科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉澤 洋二(経営学部)
授業の目標	<p>【授業方針】 新型コロナウイルスの感染状況、そして強化クラブの活動状況に照らし合わせて、授業を展開していくので、担当者からのメール連絡には十分注意するようにお願いします。</p> <p>【授業目標】 高いレベルの意識を持ちながら常に自分でよく考え、感染対策にも十分に配慮ができるようにしていきましょう。結果として、強化クラブの活動が継続して行なえるように、メンバーとしての自覚を備えたプレーヤーを目指して取り組んでいただくようにお願いします。この授業の目標は、強化指定クラブの活動を通して、より専門性の高いスポーツ実践能力を身につけることです。</p>
授業の概要	<p>【強化クラブの中で実践を学ぶ】 専門スポーツ実習IIは、硬式野球、ラグビー、バスケットボール、剣道、サッカー、硬式テニスの6種目で授業を展開します。</p> <p>【振り返りの重要性を学ぶ】 1年をかけて、専門スポーツを十分に理解できるように活動しましょう。そして、正しい技術をマスターするとともに競技の理論と指導法について、自らの活動を振り返ることで、さらなるレベルへと能力を高めていきましょう。そうすることによって、選手としてのみならず、指導者として必要な正しい知識を習得することができます。</p>
評価方法	レポート 60% 確認テスト 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>*前期</p> <p>1週 学び 『国を越えたライバルの友情(2018年平昌オリンピック)から学ぼう』 実戦 メンタルトレーニングの有効性を理解しよう!</p> <p>2週 学び あなたが行っている競技の発祥について調べてみよう 実戦 マンダラチャートを完成させよう</p> <p>3週 学び あなたが行っている競技の競技場と用具の変遷について調べてみよう 実戦 筋弛緩法と自律訓練法にチャレンジしよう</p> <p>4週 学び あなたが行っている競技の誕生初期のルールについて調べてみよう 実戦 あなたの行っている競技の『注意集中』について特徴を調べてみよう</p> <p>5週 学び あなたの行っている競技の現在のルールに至った経緯を調べてみよう 実戦 あなたの行っている競技で『イメージ技法』の利用方法を調べてみよう</p> <p>6週 学び あなたの行っている競技の誕生・ルールからみた競技の特徴を考えよう 実戦 あなたの行っている競技で『情動のコントロール』を必要としている場面について考えてみよう</p> <p>7週 学び あなたの行っている競技のおもしろさを考えよう 実戦 あなたの行っている競技で『暗示技法』を使って落ち着けるような場面を考えてみよう</p> <p>8週 中間のまとめ</p> <p>9週 学び あなたの行っている競技の素晴らしさ、或いはすごいことを考えましょう 実戦 競技活動中に『ネガティブ』な考えになった時、どのように対処すべきか</p> <p>10週 学び あなたの行っている競技で『トッププレイヤー』の凄さを考えてみよう 実戦 競技意欲を高める・維持するための方法について考えてみよう</p> <p>11週 学び あなたの行っている競技の改良を加える点を考えてみよう 実戦 緊張・不安を統制することでどのような良い競技結果が得られるか</p> <p>12週 学び あなたの行っている競技で世界進出するには、どのような素質が必要か 実戦 『集中力』の高め方について方法を考えてみよう</p> <p>13週 学び あなたの行っている競技で優秀な指導者になるための資質を考えよう 実戦 競技に関する『自信』を高めるために必要なことを考えよう</p> <p>14週 学び あなたの行っている競技は、あなたにとってどのようなものなのか 実戦 あなたのコンディショニングについて考えてみよう</p> <p>15週 まとめ</p> <p>*後期</p> <p>16週 心理的スキルトレーニングとは? 1</p> <p>17週 心理的スキルトレーニングとは? 2</p> <p>18週 選手の「強み」を育む必要性 1</p> <p>19週 選手の「強み」を育む必要性 2</p> <p>20週 アドラー心理学の理論的枠組み 1</p> <p>21週 アドラー心理学の理論的枠組み 2</p> <p>22週 アドラー心理学の理論的枠組み 3</p> <p>23週 アドラー心理学の理論的枠組み 4</p> <p>24週 アドラー心理学で心を整える 1</p> <p>25週 アドラー心理学で心を整える 2</p> <p>26週 アドラー心理学で心を整える 3</p> <p>27週 アドラー心理学で心を整える 4</p> <p>28週 アドラー心理学で心を整える 5</p> <p>29週 アドラー心理学で心を整える 6</p>
テキスト	特になし
参考書	特になし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにより対応します。
フィードバックの方法	特になし
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	特になし
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	インターンシップⅠ / Internship Ⅰ
時間割コード Course Code	19710
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	筒井 徹也
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	筒井 徹也 (法学部)
授業の目標	<p>インターンシップ ・ ・ は通年科目のため、後期からの履修登録は出来ません。とくに、インターンシップ の履修登録を削除しないでください</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就業体験を通し、自分自身にとって、そもそも働くとはどんなことか、働くことの意味・意義を考えるきっかけとする。 ・ 多様な社会人と触れ合うことで、自分自身の将来を考えるきっかけとする。 ・ 企業などの組織で必要なルール、ビジネスマナー、能力、スキルとは何か？を知るきっかけとする。 ・ 実際に就業体験をすることで、キャリアを考える際の自身の志向や社会人基礎力などの自身の能力レベルを知るきっかけとする。 ・ 書類作成、提出など、就職活動を疑似的に体験する。 <p>学習成果 技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内での事前指導やインターンシップの実習の過程を通じて、社会人に必要な報告・連絡・相談ができるようになる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会で働くうえで必要な社会の規範やルールを理解できるようになる ・ 自らやるべきことを明確化し、計画を立て実施できるようになる

<p>授業の概要</p>	<p>インターンシップ（以下、本科目）は合計で10日間以上の就業体験への参加、事前のガイダンス、授業への参加、事前事後の必要書類の提出、事後のインターンシップ報告会の参加、発表を以て2単位を認定する。</p> <p>本科目は選択必修科目です（インターンシップ、 、 の中から少なくとも1科目は選択し単位取得することが卒業要件）。</p> <p>ただし、本学規定に記載する例外基準を満たす場合は、担当教員との協議の上、必修科目より除外する場合もある。</p> <p>本科目は履修制限（年間48単位）に含まない。</p> <p>原則として学外の企業、行政団体、社会福祉事業所等の各種団体においてインターンシップを行う。</p> <p>原則として実習先選び、決定は学生自ら行う。（特定の個人が取りまとめ、団体で参加することを認めない）</p> <p>本科目の履修に際しては、労働基準法に定められている法令を遵守すること。</p> <p>実施期間が1日しかないインターンシップは単位修得に必要な日数に加算をしない。</p> <p>授業のある曜日、補講が行われる可能性のある日のインターンシップは認めない。</p> <p>実習先については、キャリアセンターが用意した受入先、愛知中小企業家同友会、三重県経営者協会、岐阜県インターンシップ推進協議会などのインターンシップマッチングサイトの掲載企業、J-NET、リクナビ、マイナビ、自治体、商工会議所、新卒就職情報提供団体・企業などが運営する新卒求人検索NAVIサイトに掲載されている企業に限る。</p> <p>ただし、該当企業の中でも下記条件に当てはまる企業はこの科目のインターンシップ先として認めない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、親類や知人が経営する会社 2、事業所として実態が無い（実習先がアパートやマンションの1室、社員を雇用していない、連絡先が携帯電話のみ、自社ドメインのホームページが無い、など） 3、実習に指導者、監督者がおらず、実習中の取り組み、態度、結果に対して評価が出来ない 4、実習内容がアルバイト等、非正規雇用者と同一で、キャリア教育としての効果が見込めない 5、学生受入れそのものが営利事業に結びついているなど学生の不利益につながる可能性がある場合（資格ビジネス など） 6、ホームページに新卒採用のページが無い 7、国外の事業所で、日本語を話せる指導者、監督者がいない <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
<p>評価方法</p>	<p>この科目の評価は合格（G）、不合格（S）のみで評価し、その成績はGPAには反映されない。期限までに必要書類の提出がなされない場合、不合格とする。</p> <p>実習先への事前訪問、インターンシップ期間中において無断遅刻、無断欠勤、無断早退があった場合は不合格とする。また、実習先機関が期間中、事後に開催する行事においても同様とする。</p> <p>本科目は「市民生活とキャリア形成」の単位を修得済み（修得見込みも含む）の学生に単位を認定する。修得が見込めない場合、単位は認めない。</p> <p>[評価の対象となるインターンシップ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインインターンシップは単位修得に必要な参加日数に加算されない。ただし、事前にキャリアセンターに申し出て承認されたインターンシップ及び名経枠に該当する企業のオンラインインターンシップは参加日数に加算される。（オンラインインターンシップへの参加の際には、PCでの参加を必要条件とする） ・インターンシップは2日以上の複数日で開催されているものに参加すること。ただし、実習日が連続している必要はない。 ・本科目は2024年2月上旬までにキャリアセンターへのインターンシップの必要書類の提出、報告が完了し、指定された日時のインターンシップ報告会に参加した者のみ評価する。（学年により必要書類の最終提出期限は異なる）
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>必要な参加日数に加算されない事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前承認を得ていないオンラインインターンシップへの参加 ・スマートフォンでのオンラインインターンシップへの参加 ・1日のみのインターンシップや1DAY仕事体験への参加 ・受け入れ決定から一週間以内に受け入れ決定報告書が提出されていない

授業計画	<p>基本的にはシラバス通り授業を進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ずお伝えします。</p> <p>本科目で指定する事前指導の開催日時、場所、そしてインターンシップ報告会の開催日時、場所については、後日決定次第連絡します。</p> <p>そのため大学指定のGmailは必ずチェックするようにして下さい。</p> <p>その他、必要に応じて大学が発行したGmailアドレス宛に資料やURLを配布することがあります。必ず、大学から発行されたGmailの受信を可能にしてください。</p> <p>プライバシー・著作権法の侵害を招く恐れのある以下の行為を行わないよう注意してください。</p> <p>(1)配布された Zoom、動画配信サイトなどのURL、ミーティング ID やパスワードを他人と共有すること。</p> <p>(2)オンラインで行われる授業等の様子を出席者の許可なく写真にとること。それをSNSなどで共有すること。また、担当教員の許可なく、授業の内容を録音・録画し、それを公開すること。</p> <p>(3)配布された資料等を、担当教員の許可なく再配布すること。</p> <p>以上の3項目に反する行為を発見した場合、その時点で失格とします。</p> <p>必ず守ってください。</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	企業等各種団体で就業の体験を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシッププログラム構築等に関与した経験を持つ教員がインターンシップを経験する意義、内容、メリットを解説されたうえで、学生は企業等各種団体で就業する体験(学外でのインターンシップ)を行う。
質問への対応方法	<p>キャリアセンター(グローバルスクエア1階)にて、基本的には対面で平日(月～金)9～17時まで対応</p> <p>注)各種書類提出日は非常に込み合いますので、相談及び添削指導などは早めにしましょう!</p> <p>キャリアセンター開室時間：平日(月～金)9-17時 〒484-8504 愛知県犬山市内久保61-1 名古屋経済大学 グローバルスクエア1F 電話：0568-67-7254 メール：intern@nagoya-ku.ac.jp</p>
フィードバックの方法	企業からの意欲・態度・能力に関する定量評価、フィードバックコメントを希望者に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>事前オリエンテーション 3時間</p> <p>企業調査 5時間</p> <p>書類作成 4.5時間</p> <p>事前訪問 2時間</p> <p>インターンシップ 60時間</p> <p>インターンシップ中の日報作成 6時間</p> <p>インターンシップ報告書の作成 8時間</p> <p>インターンシップ成果報告会 1.5時間</p> <p>合計:90時間</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	インターンシップII / InternshipII
時間割コード Course Code	19711
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	筒井 徹也
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	筒井 徹也 (法学部)
授業の目標	<p>インターンシップ . . . は通年科目のため、後期からの履修登録は出来ません。とくに、インターンシップ の履修登録を削除しないでください</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就業体験を通し、自分自身にとって、そもそも働くとはどんなことか、働くことの意味・意義を考えるきっかけとする。 ・多様な社会人と触れ合うことで、自分自身の将来を考えるきっかけとする。 ・企業などの組織で必要なルール、ビジネスマナー、能力、スキルとは何か?を知るきっかけとする。 ・実際に就業体験をすることで、キャリアを考える際の自身の志向や社会人基礎力などの自身の能力レベルを知るきっかけとする。 ・書類作成、提出など、就職活動を疑似的に体験する。 <p>学習成果 技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内での事前指導やインターンシップの実習の過程を通じて、社会人に必要な報告・連絡・相談ができるようになる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で働くうえで必要な社会の規範やルールを理解できるようになる ・自らやるべきことを明確化し、計画を立て実施できるようになる

<p>授業の概要</p>	<p>インターンシップ（以下、本科目）は合計で10日間以上の就業体験への参加、事前のガイダンス、授業への参加、事前事後の必要書類の提出、事後のインターンシップ報告会の参加、発表を以て2単位を認定する。</p> <p>本科目は選択必修科目です（インターンシップ、 、 の中から少なくとも1科目は選択し単位取得することが卒業要件）。</p> <p>ただし、本学規定に記載する例外基準を満たす場合は、担当教員との協議の上、必修科目より除外する場合もある。</p> <p>本科目は履修制限（年間48単位）に含まない。</p> <p>原則として学外の企業、行政団体、社会福祉事業所等の各種団体においてインターンシップを行う。</p> <p>原則として実習先選び、決定は学生自ら行う。（特定の個人が取りまとめ、団体で参加することを認めない）</p> <p>本科目の履修に際しては、労働基準法に定められている法令を遵守すること。</p> <p>実施期間が1日しかないインターンシップは単位修得に必要な日数に加算をしない。</p> <p>授業のある曜日、補講が行われる可能性のある日のインターンシップは認めない。</p> <p>実習先については、キャリアセンターが用意した受入先、愛知中小企業家同友会、三重県経営者協会、岐阜県インターンシップ推進協議会などのインターンシップマッチングサイトの掲載企業、J-NET、リクナビ、マイナビ、自治体、商工会議所、新卒就職情報提供団体・企業などが運営する新卒求人検索NAVIサイトに掲載されている企業に限る。</p> <p>ただし、該当企業の中でも下記条件に当てはまる企業はこの科目のインターンシップ先として認めない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、親類や知人が経営する会社 2、事業所として実態が無い（実習先がアパートやマンションの1室、社員を雇用していない、連絡先が携帯電話のみ、自社ドメインのホームページが無い、など） 3、実習に指導者、監督者がおらず、実習中の取り組み、態度、結果に対して評価が出来ない 4、実習内容がアルバイト等、非正規雇用者と同一で、キャリア教育としての効果が見込めない 5、学生受入れそのものが営利事業に結びついているなど学生の不利益につながる可能性がある場合（資格ビジネス など） 6、ホームページに新卒採用のページが無い 7、国外の事業所で、日本語を話せる指導者、監督者がいない <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
<p>評価方法</p>	<p>この科目の評価は合格（G）、不合格（S）のみで評価し、その成績はGPAには反映されない。期限までに必要書類の提出がなされない場合、不合格とする。</p> <p>実習先への事前訪問、インターンシップ期間中において無断遅刻、無断欠勤、無断早退があった場合は不合格とする。また、実習先機関が期間中、事後に開催する行事においても同様とする。</p> <p>本科目は「市民生活とキャリア形成」の単位を修得済み（修得見込みも含む）の学生に単位を認定する。修得が見込めない場合、単位は認めない。</p> <p>[評価の対象となるインターンシップ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインインターンシップは単位修得に必要な参加日数に加算されない。ただし、事前にキャリアセンターに申し出て承認されたインターンシップ及び名経枠に該当する企業のオンラインインターンシップは参加日数に加算される。（オンラインインターンシップへの参加の際には、PCでの参加を必要条件とする） ・インターンシップは2日以上の複数日で開催されているものに参加すること。ただし、実習日が連続している必要はない。 ・本科目は2024年2月上旬までにキャリアセンターへのインターンシップの必要書類の提出、報告が完了し、指定された日時のインターンシップ報告会に参加した者のみ評価する。（学年により必要書類の最終提出期限は異なる）
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>必要な参加日数に加算されない事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前承認を得ていないオンラインインターンシップへの参加 ・スマートフォンでのオンラインインターンシップへの参加 ・1日のみのインターンシップや1DAY仕事体験への参加 ・受け入れ決定から一週間以内に受け入れ決定報告書が提出されていない

授業計画	<p>基本的にはシラバス通り授業を進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ずお伝えします。</p> <p>本科目で指定する事前指導の開催日時、場所、そしてインターンシップ報告会の開催日時、場所については、後日決定次第連絡します。</p> <p>そのため大学指定のGmailは必ずチェックするようにして下さい。</p> <p>必要に応じて大学が発行したGmailアドレス宛に資料やURLを配布します。必ず、大学から発行されたGmailの受信を可能にしてください。</p> <p>プライバシー・著作権法の侵害を招く恐れのある以下の行為を行わないよう注意してください。</p> <p>(1)配布された Zoom、動画配信サイトなどのURL、ミーティング ID やパスワードを他人と共有すること。</p> <p>(2)オンラインで行われる授業等の様子を出席者の許可なく写真にとること。それをSNSなどで共有すること。また、担当教員の許可なく、授業の内容を録音・録画し、それを公開すること。</p> <p>(3)配布された資料等を、担当教員の許可なく再配布すること。</p> <p>以上の3項目に反する行為を発見した場合、その時点で失格とします。</p> <p>必ず守ってください。</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	企業等各種団体で就業の体験を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシッププログラム構築等に関与した経験を持つ教員がインターンシップを経験する意義、内容、メリットを解説されたうえで、学生は企業等各種団体で就業する体験(学外でのインターンシップ)を行う。
質問への対応方法	<p>キャリアセンター(グローバルスクエア1階)にて、基本的には対面で平日(月～金)9～17時まで対応</p> <p>注)各種書類提出日は非常に込み合いますので、相談及び添削指導などは早めにしましょう!</p> <p>キャリアセンター開室時間：平日(月～金)9-17時 〒484-8504 愛知県犬山市内久保61-1 名古屋経済大学 グローバルスクエア1F 電話：0568-67-7254 メール：intern@nagoya-ku.ac.jp</p>
フィードバックの方法	企業からの意欲・態度・能力に関する定量評価、フィードバックコメントを希望者に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>事前オリエンテーション 3時間</p> <p>企業調査 5時間</p> <p>書類作成 4.5時間</p> <p>事前訪問 2時間</p> <p>インターンシップ 60時間</p> <p>インターンシップ中の日報作成 6時間</p> <p>インターンシップ報告書の作成 8時間</p> <p>インターンシップ成果報告会 1.5時間</p> <p>合計:90時間</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	インターンシップIII / Internship III
時間割コード Course Code	19712
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	筒井 徹也
科目区分 Course Group	専門科目群 専門科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	筒井 徹也 (法学部)
授業の目標	<p>インターンシップ . . . は通年科目のため、後期からの履修登録は出来ません。とくに、インターンシップ の履修登録を削除しないでください</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就業体験を通し、自分自身にとって、そもそも働くとはどんなことか、働くことの意味・意義を考えるきっかけとする。 ・多様な社会人と触れ合うことで、自分自身の将来を考えるきっかけとする。 ・企業などの組織で必要なルール、ビジネスマナー、能力、スキルとは何か?を知るきっかけとする。 ・実際に就業体験をすることで、キャリアを考える際の自身の志向や社会人基礎力などの自身の能力レベルを知るきっかけとする。 ・書類作成、提出など、就職活動を疑似的に体験する。 <p>学習成果 技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内での事前指導やインターンシップの実習の過程を通じて、社会人に必要な報告・連絡・相談ができるようになる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で働くうえで必要な社会の規範やルールを理解できるようになる ・自らやるべきことを明確化し、計画を立て実施できるようになる

<p>授業の概要</p>	<p>インターンシップ（以下、本科目）は合計で5日間以上の就業体験への参加、事前のガイダンス、授業への参加、事前事後の必要書類の提出、事後のインターンシップ報告会の参加、発表を以て1単位を認定する。</p> <p>本科目は選択必修科目です（インターンシップ、 、 の中から少なくとも1科目は選択し単位取得することが卒業要件）。</p> <p>ただし、本学規定に記載する例外基準を満たす場合は、担当教員との協議の上、必修科目より除外する場合もある。</p> <p>本科目は履修制限（年間48単位）に含まない。</p> <p>原則として学外の企業、行政団体、社会福祉事業所等の各種団体においてインターンシップを行う。</p> <p>原則として実習先選び、決定は学生自ら行う。（特定の個人が取りまとめ、団体で参加することを認めない）</p> <p>本科目の履修に際しては、労働基準法に定められている法令を遵守すること。</p> <p>実施期間が1日しかないインターンシップは単位修得に必要な日数に加算をしない。</p> <p>授業のある曜日、補講が行われる可能性のある日のインターンシップは認めない。</p> <p>実習先については、キャリアセンターが用意した受入先、愛知中小企業家同友会、三重県経営者協会、岐阜県インターンシップ推進協議会などのインターンシップマッチングサイトの掲載企業、J-NET、リクナビ、マイナビ、自治体、商工会議所、新卒就職情報提供団体・企業などが運営する新卒求人検索NAVIサイトに掲載されている企業に限る。</p> <p>ただし、該当企業の中でも下記条件に当てはまる企業はこの科目のインターンシップ先として認めない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、親類や知人が経営する会社 2、事業所として実態が無い（実習先がアパートやマンションの1室、社員を雇用していない、連絡先が携帯電話のみ、自社ドメインのホームページが無い、など） 3、実習に指導者、監督者がおらず、実習中の取り組み、態度、結果に対して評価が出来ない 4、実習内容がアルバイト等、非正規雇用者と同一で、キャリア教育としての効果が見込めない 5、学生受入れそのものが営利事業に結びついているなど学生の不利益につながる可能性がある場合（資格ビジネス など） 6、ホームページに新卒採用のページが無い 7、国外の事業所で、日本語を話せる指導者、監督者がいない <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
<p>評価方法</p>	<p>この科目の評価は合格（G）、不合格（S）のみで評価し、その成績はGPAには反映されない。期限までに必要書類の提出がなされない場合、不合格とする。</p> <p>実習先への事前訪問、インターンシップ期間中において無断遅刻、無断欠勤、無断早退があった場合は不合格とする。また、実習先機関が期間中、事後に開催する行事においても同様とする。</p> <p>本科目は「市民生活とキャリア形成」の単位を修得済み（修得見込みも含む）の学生に単位を認定する。修得が見込めない場合、単位は認めない。</p> <p>[評価の対象となるインターンシップ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインインターンシップは単位修得に必要な参加日数に加算されない。ただし、事前にキャリアセンターに申し出て承認されたインターンシップ及び名経枠に該当する企業のオンラインインターンシップは参加日数に加算される。（オンラインインターンシップへの参加の際には、PCでの参加を必要条件とする） ・インターンシップは2日以上の複数日で開催されているものに参加すること。ただし、実習日が連続している必要はない。 ・本科目は2024年2月上旬までにキャリアセンターへのインターンシップの必要書類の提出、報告が完了し、指定された日時のインターンシップ報告会に参加した者のみ評価する。（学年により必要書類の最終提出期限は異なる）
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>必要な参加日数に加算されない事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前承認を得ていないオンラインインターンシップへの参加 ・スマートフォンでのオンラインインターンシップへの参加 ・1日だけのインターンシップや1DAY仕事体験への参加 ・受け入れ決定から一週間以内に受け入れ決定報告書が提出されていない

授業計画	<p>基本的にはシラバス通り授業を進めますが、必要に応じて授業の内容を変更することがあります。その場合は必ずお伝えします。</p> <p>本科目で指定する事前指導の開催日時、場所、そしてインターンシップ報告会の開催日時、場所については、後日決定次第連絡します。</p> <p>そのため大学指定のGmailは必ずチェックするようにして下さい。</p> <p>必要に応じて大学が発行したGmailアドレス宛に資料やURLを配布します。必ず、大学から発行されたGmailの受信を可能にしてください。</p> <p>プライバシー・著作権法の侵害を招く恐れのある以下の行為を行わないよう注意してください。</p> <p>(1)配布された Zoom、動画配信サイトなどのURL、ミーティング ID やパスワードを他人と共有すること。</p> <p>(2)オンラインで行われる授業等の様子を出席者の許可なく写真にとること。それをSNSなどで共有すること。また、担当教員の許可なく、授業の内容を録音・録画し、それを公開すること。</p> <p>(3)配布された資料等を、担当教員の許可なく再配布すること。</p> <p>以上の3項目に反する行為を発見した場合、その時点で失格とします。</p> <p>必ず守ってください。</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	企業等各種団体で就業の体験を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業の採用やインターンシッププログラム構築等に関与した経験を持つ教員がインターンシップを経験する意義、内容、メリットを解説されたうえで、学生は企業等各種団体で就業する体験(学外でのインターンシップ)を行う。
質問への対応方法	<p>キャリアセンター(グローバルスクエア1階)にて、基本的には対面で平日(月～金)9～17時まで対応</p> <p>注)各種書類提出日は非常に込み合いますので、相談及び添削指導などは早めにしましょう!</p> <p>キャリアセンター開室時間：平日 9-17時 〒484-8504 愛知県犬山市内久保61-1 名古屋経済大学 グローバルスクエア1F 電話：0568-67-7254 メール：intern@nagoya-ku.ac.jp</p>
フィードバックの方法	企業からの意欲・態度・能力に関する定量評価、フィードバックコメントを希望者に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>事前オリエンテーション 3時間</p> <p>企業調査 2.5時間</p> <p>書類作成 3時間</p> <p>事前訪問 2時間</p> <p>インターンシップ 30時間</p> <p>インターンシップ中の日報作成 2.5時間</p> <p>インターンシップ報告書の作成 3時間</p> <p>インターンシップ成果報告会 1.5時間</p> <p>合計:45時間</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	加藤 秋人
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	加藤 秋人 (経済学部)
授業の目標	<p>これまでの学生生活を通じて得たあらゆる知識・技能を活用し、各自が関心を持つ課題に対して文献調査、統計分析、フィールドワーク等によるオリジナルなデータの収集を通じ、その課題を分析し、またゼミ内での議論を経て、課題に対する何らかの答えを提示できるような質の高い卒業論文を完成させる。</p> <p>知識・理解の領域 ・地域の課題を発見・認識し、それに対する適切なアプローチ方法を選択できる。 ・論文執筆における文献引用や注釈の付加など、種々のルールを理解する。</p> <p>思考判断の領域 問題や課題を整理し、論理的に考えることができる。</p> <p>関心意欲の領域 能動的に地域について考え、積極的に調べることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 自身の考えを論理的に表現するとともに、他者の知見に対して興味を持つとともに、他社の考えを受容しながら議論ができる。</p> <p>技能の領域 ・データベースなどを駆使して、必要とする文献や統計等の情報を入手したり、必要に応じて自らが対象地域に赴いて検討課題に関して調査することができる。また、得られた情報を正しく読み取り表現することができる。 ・論文執筆時における適切な構成、適切な日本語の使用、文献の引用に関するルールなどに基づいた論文執筆ができる。</p>
授業の概要	文献調査、統計分析、フィールドワーク等によるオリジナルなデータ等に基づく分析・考察と、それに関するゼミメンバーとの議論を通じて、各自で論文を執筆する。執筆に関して細かな個別指導も行う。
評価方法	執筆態度、論文のテーマ設定の適切さ、論文の構成・論理性・オリジナリティ、調査・分析内容の充実度、テーマに対する結論の整合性、論文執筆におけるルールの理解度等に基づき総合的に判断する。1年かけて取り組む課題であるため、その論旨のオリジナリティ、調査・分析の充実度を特に重視します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	専門演習IIA・Bの中で指導します
テキスト	特に設定しない
参考書	卒業論文の内容に応じて適宜提示します
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	受講生それぞれの卒論の内容に関して、ゼミ全体で議論・意見交換を行う
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	専門演習IIA・Bの授業時間前後およびメールにて対応
フィードバックの方法	随時返答・コメントする
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	なるべく週に1度は文献調査やデータ分析を行い、執筆を進めること
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29501
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	木村 牧郎
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	木村 牧郎 (経済学部)
授業の目標	<p>卒業論文作成のプロセスを通じて資料収集・分析、執筆、報告のスキルを向上させ、卒業論文にまとめあげます。</p> <p>< 学習成果 ></p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 論文のテーマに関する知識を増やし理解を高めることができる。 <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 収集した多くの情報のなかで、論文の主張を支える信頼できる情報を選び出す情報リテラシーの力が身につく。 論拠のある主張ができるようになる。 <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 興味のあるテーマで論文を執筆することにより、そのテーマに関する関心がさらに高まる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料に即して論拠のある見解を述べられる人となることを目指す。 最終ゴールまでの工程を考え、必要な計画と無理のない日程を組むことができる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 収集した多くの情報のなかで、論文の主張を支える信頼できる情報を選び出す情報リテラシーの力が身につく。 将来、報告書の作成などで必要となる、文章力を高めることができる。 分かりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 <p>体験探究の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査を行うことで、オリジナルのデータを得る経験をすることができる。
授業の概要	<p>3年次までに身に付けた知識や技術を活かして卒業論文を作成します。自分の興味のあるテーマを見つけ、ゼミ報告・討議を経ながら論文にまとめあげます。調査を行いオリジナルのデータを用いて執筆します。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>卒業論文としてまとめ上げるまでの取り組み方についても評価の対象とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 執筆姿勢 20% 卒論報告 20% 卒業論文 60%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	ゼミ報告と個人指導を織り交ぜ、以下のスケジュールで進めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文のテーマ決定（4月） ・参考文献の渉猟・読み込み（5月） ・卒業論文の概要作成（6月） ・卒業論文の構成案作成（7月） ・卒業論文の執筆（9～10月） ・卒業論文初稿の提出（11月初旬） ・卒業論文最終稿の提出（12月中旬）
テキスト	特になし。
参考書	特になし。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	疑問やわからないことがあれば、次回に残さずにオフィスアワーや担当教員へのメール（kimura.makio@nagoya-ku.ac.jp）にて質問ができます。
フィードバックの方法	論文作成に関する問い合わせには担当教員のメールによるフィードバックを行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でテーマを決め、それに関する参考文献を探すこと。 ・参考文献を読み、それに対する疑問や論点を探すこと。 ・自分の問題提起や主張の根拠となるデータや資料を探すこと。 ・問題提起に対する明確な結論を導くこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29502
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	齋藤 敦
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	齋藤 敦 (経済学部)
授業の目標	<p>大学生生活の総まとめとして卒業論文を完成させる。学生自らが設定する卒業論文のテーマに対して、参考文献・参考資料を収集し、分析して学術論文の形式でまとめあげることとする。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 論文の書き方を理解して、各自の論文テーマに沿った構成の論文作成を適切にできる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文のテーマの問題意識を、卒業後においても、継続的に持ち続けて、引き続き自ら関心を持って探求していく姿勢を身に着ける。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自の卒業論文のテーマに即して課題を適切に見つけ、整理して、自分の考えを導き出すことができる。 論文のテーマに応じた信頼できる情報を集め、適切に活用できるようになる。 自ら調べたことや自分の考えを論理的な文章にまとめて展開することができるようになる。 長い論文の論旨を明確な文章で過不足のない文章表現で適切に記述することができるようになる。 論文発表会において、設定された時間内に各自の論文の主旨をわかりやすく発表することができる。
授業の概要	各自が設定した卒業論文のテーマに基づき、論文の作成に取り組み、論文を完成させます。論文作成の進捗状況に応じて、卒業論文のテーマ設定時の個別面談、中間段階での報告発表と討議、適宜の個別面談による指導助言等を通じて、最終的な卒業論文としての完成を支援します。
評価方法	卒業論文の論文としての完成度、中間段階での報告発表と討論、最終報告会でのプレゼンテーションなどを総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	個別面談への無断欠席に対しては、厳しく対応します。
授業計画	1~30週：卒業論文の作成について、指導を進めていきます。
テキスト	使用しない。
参考書	各自の論文テーマに応じ、適宜、紹介します。 なお、論文の書き方に関する参考文献としては、さしあたり次のものをあげておきます。 戸田山和久 (2022) 『論文の教室 [最新版]』NHK出版。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問へは主にオフィスアワーの中で対応しますが、空き時間などでも適宜対応します。また、メールでの対応も可能です (sai tou-a@nagoya-ku.ac.jp)。
フィードバックの方法	各自の進捗状況に応じて、論文の内容についてその都度講評・助言を行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	卒業論文のテーマ選定、参考文献・参考資料の収集と分析、原稿執筆、原稿の整理と推敲、完成稿の提出と報告の各段階で、準備に相当の時間をかけることが必須です。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1～10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29503
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	酒井 愛
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	酒井 愛 (経済学部)
授業の目標	<p>執筆した論文を自分自身で客観的に読み直すことに加え、論文を他のゼミメンバーに読んでもらい、そのコメントを受け止めて再度論文に磨きをかけるというサイクルを繰り返す中で、明瞭かつ論理的な文章で表現できるようになることを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 論文テーマに関する用語や問題点の的確な理解に加え、現状理解と課題把握を適切に行うことができる。</p> <p>思考判断の領域 主張の根拠となる事柄を整理し、経済学的思考方法に則って分析を進めることができる。</p> <p>関心意欲の領域 意欲的な調査を行う中で、選択したテーマに隣接する分野への関心を忘れずに執筆活動を進めることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 他者の意見に耳を傾けながら、計画性を持って積極的に取り組むことができる。</p>
授業の概要	<p>専門演習Iおよび専門演習IIにおける実践内容を踏まえて、執筆作業を計画的に進める必要性を理解することから始めます。各自の興味・関心に沿ったテーマを設定後、卒業論文の核となる「問い」と「答え」を検討する作業に入ります。最終的な「答え」、すなわち主張の根拠となる事柄を文献・資料等から見出します。論理展開に矛盾がないよう、また独りよがりな文章にならないよう、随時ゼミメンバー間で進捗を確認するとともにコメントを出し合い、補足・修正を行います。中間報告の通過が必要ですので、中間報告に至るまでの各ステップでの進捗報告を欠かさず実施して下さい。最終稿を繰り返し手直しすることで論文に磨きがかかりますので、指導中に指示する期日までに最終稿を提出し、最後のブラッシュアップ作業も入念に実施して下さい。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 論文執筆に対する意欲的な姿勢・計画性：25% 論文全体を通しての明瞭性・論理性：25% 論文テーマに対する着眼点・結論の妥当性：50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	各ステップでの進捗報告および中間報告は卒業論文完成・提出にあたっての必須項目です。報告の無断欠席は卒業論文の提出・単位修得の対象外となります。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。

テキスト	石井一成著『ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社 (ISBN978-4-8163-5057-3)
参考書	適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	報告者の主張について、グループディスカッションやディベートを交えることで理解を深め、卒業論文の質の向上につなげます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。メール (ai.sakai@nagoya-ku.ac.jp) でも対応しますので、適宜活用して下さい。
フィードバックの方法	提出された原稿については添削を行い、返却時にコメントします。報告にあたり、報告担当者だけでなく受講学生全員のブラッシュアップに寄与するよう、改善のポイントなどをアドバイスします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業計画詳細情報内の備考欄を参照し、各回の予習・復習を行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1 ~ 10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標 (11 ~ 17)	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	【前期 1 回目】年間執筆計画の確認	学内スケジュールを確認し、ステップごとの報告日程を策定します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。
2	思考マップ報告(第1グループ報告日)	問題意識を明らかにし、卒業論文テーマとしての妥当性を視野に検討します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに思考マップを提出。
3	思考マップ報告(第2グループ報告日)	問題意識を明らかにし、卒業論文テーマとしての妥当性を視野に検討します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに思考マップを提出。
4	問いと答えリスト報告(第1グループ報告日)	卒業論文の核となる問いと答えのリストを複数作成し、議論・検討のうえ、絞りこみを行います。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに問いと答えリストを提出。
5	問いと答えリスト報告(第2グループ報告日)	卒業論文の核となる問いと答えのリストを複数作成し、議論・検討のうえ、絞りこみを行います。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに問いと答えリストを提出。
6	資料収集状況報告(第1グループ報告日)前半	事前に資料収集状況を情報カードに記すなどして整理しておいてください。報告用レジюмеにまとめたうえで報告とします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに資料収集状況報告を提出。
7	資料収集状況報告(第1グループ報告日)後半	事前に資料収集状況を情報カードに記すなどして整理しておいてください。報告用レジюмеにまとめたうえで報告とします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第2グループ報告日前の水曜日13時までに資料収集状況報告を提出。
8	資料収集状況報告(第2グループ報告日)前半	事前に資料収集状況を情報カードに記すなどして整理しておいてください。報告用レジюмеにまとめたうえで報告とします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第2グループ報告日前の水曜日13時までに資料収集状況報告を提出。
9	資料収集状況報告(第2グループ報告日)後半	事前に資料収集状況を情報カードに記すなどして整理しておいてください。報告用レジюмеにまとめたうえで報告とします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第2グループ報告日前の水曜日13時までに資料収集状況報告を提出。
10	目標規定文・論証方法に関する報告(第1グループ報告日)	自身の主張を文章にした目標規定文を作成し、予定している論証方法を確認・検討します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
11	目標規定文・論証方法に関する報告(第2グループ報告日)	自身の主張を文章にした目標規定文を作成し、予定している論証方法を確認・検討します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
12	項目アウトラインへの発展作業	論文の設計図としての項目アウトラインを作成します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。
13	序論・本論・結論の展開に関する検討	論文全体としての論理展開を考え、整合性が保たれているか確認します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。
14	夏期休暇執筆計画の報告(第1グループ報告日)	項目アウトライン、序論・本論・結論の展開について明記したレジюмеに、夏季休暇中の執筆計画を加え、完成までのスケジュールを確認します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
15	夏期休暇執筆計画の報告第(2グループ報告日)	項目アウトライン、序論・本論・結論の展開について明記したレジюмеに、夏季休暇中の執筆計画を加え、完成までのスケジュールを確認します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
16	【後期1回目】夏期休暇後報告(第1グループ報告日)	夏期休暇中の執筆状況の確認を行います。具体的には完成版アウトラインまでの文章化とします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
17	夏期休暇後報告(第2グループ報告日)	夏期休暇中の執筆状況の確認を行います。具体的には完成版アウトラインまでの文章化とします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
18	中間報告(第1グループ報告日)前半	最終チェック前に一度、中間報告を実施することとします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
19	中間報告(第1グループ報告日)後半	最終チェック前に一度、中間報告を実施することとします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
20	中間報告(第2グループ報告日)前半	最終チェック前に一度、中間報告を実施することとします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第2グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
21	中間報告(第2グループ報告日)前半	最終チェック前に一度、中間報告を実施することとします。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第2グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
22	原稿点検作業(第1グループ報告日)前半	ゼミメンバー間で原稿を読み合い、説明の不足・論理展開の不自然さなどを含めた原稿の点検・改善作業を行います。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
23	原稿点検作業(第1グループ報告日)後半	ゼミメンバー間で原稿を読み合い、説明の不足・論理展開の不自然さなどを含めた原稿の点検・改善作業を行います。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第1グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
24	原稿点検作業(第2グループ報告日)前半	ゼミメンバー間で原稿を読み合い、説明の不足・論理展開の不自然さなどを含めた原稿の点検・改善作業を行います。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第2グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
25	原稿点検作業(第2グループ報告日)後半	ゼミメンバー間で原稿を読み合い、説明の不足・論理展開の不自然さなどを含めた原稿の点検・改善作業を行います。	2時間の予習と2時間の復習を課す。第2グループ報告日前の水曜日13時までに報告原稿を提出。
26	最終添削作業(1)	添削作業はWord校閲機能を実施して行います。自身で修正できる点はすべて修正したうえで提出してください。提出期日は追って指示します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。
27	最終添削作業(2)	添削作業はWord校閲機能を実施して行います。自身で修正できる点はすべて修正したうえで提出してください。提出期日は追って指示します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。
28	最終報告(第1グループ報告日)	完成原稿をふまえ、最終報告を行います。報告用原稿、資料については追って指示します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。
29	最終報告(第2グループ報告日)	完成原稿をふまえ、最終報告を行います。報告用原稿、資料については追って指示します。	2時間の予習と2時間の復習を課す。
30	振り返り	執筆内容・計画・残された課題を含め、今後にかけるよう、自身の振り返りを行います。	2時間の予習と2時間の復習を課す。

開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29504
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 正之 (経済学部)
授業の目標	<p>< 成果 ></p> <p>【知識・理解の領域】研究内容を自らの言葉で説明できる。</p> <p>【思考判断の領域】研究内容について論理的で説得力のある思考ができる。</p> <p>【関心意欲の領域】論文執筆を計画的に実施できる。</p> <p>【態度・志向性の領域】他人の考えを理解し、議論できる。</p> <p>【技能の領域(情報スキル)】研究成果を情報発信(デザイン)することができる。</p>
授業の概要	<p>授業形態(対面授業を基本としますが、状況によって遠隔となる場合もあります)各自が進める研究テーマの進捗管理と論文の完成、発表。</p> <p>研究テーマは自由に設定できるが、オリジナリティを必要とする。</p> <p>なお、論文制作の過程で以下の点が不可欠である。</p> <p>1. テーマの情報収集において、参考にした部分の明示。</p> <p>2. 主述でのオリジナリティ(仮説と考察と結論)の明示。自分の文章であること。</p>
評価方法	<p>1. 計画的な研究テーマ選定</p> <p>2. 事前の文献調査・リサーチ</p> <p>3. 仮説と結論の論理的整合性</p> <p>【1.~3.のオリジナリティ含め総合的に評価する】</p> <p>・当科目は各自が蓄積してきた伎倆を自由に発揮できる場である。大胆な仮説と検証の経過を重視する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	課題への取り組み不足、無断欠席については、周りに迷惑がかかるため失格とする。
授業計画	<p>1. 疑問・問題意識の具体化(テーマ選定・提出)(4~6月)</p> <p>2. 研究手法の検討(文献調査・リサーチ・章立て完成)(6~8月)</p> <p>3. 仮説、論旨、結論の明瞭化(中間発表1,2)(8~10月)</p> <p>4. 卒業論文締め切り(ゼミ内11月末、12月上旬提出)</p> <p>【1.~3.の計画的な実施、論理性、オリジナリティも評価する】</p>
テキスト	使用しない
参考書	参考書 戸田山和久(2012)『論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	大学のgoogleアカウント利用が必須。mailとclassroom、その他、会議アプリも必要に応じて使用する。
フィードバックの方法	大学のgoogleアカウント利用が必須。mailとclassroom、その他、会議アプリも必要に応じて使用する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各自が、研究テーマを設定して研究計画を作るための準備と、それに沿って各自の研究テーマを議論するための準備時間を、講義時間と同量以上確保すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29505
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	下村 尚司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	下村 尚司 (経済学部)
授業の目標	<p>大枠は状況の論理と幅が広いが、これでは、焦点が得られないので、「自動車と環境」という焦点に基づき、各自でテーマ設定を行う。それをもとに卒業論文を完成させる。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が収集した資料を基に、卒業論文作成へ向けて準備を進めることができる。 <p>思考・判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係の中で事象が起こる。このことに気づき、状況を調べることの重要性に気が付く。 <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら確かめる、検証してみようとする態度を備える。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的に考え、他者にわかるように伝える。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブ公開の企業情報にアクセスするテクニックが身につく。 ・文章中に図や表を積極的に扱うことが出来る。 <p>体験探究の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実社会で起きていることを、系統立てて考える体験ができる。
授業の概要	<p>この科目は演習群に属している4単位の必修科目です。</p> <p>4年間の大学生生活の総まとめとして、卒業論文を完成させます。 3年次で収集した資料や考え方に基づき、更にデータを収集しながら、卒業論文を作成してゆきます。</p>
評価方法	<p>常日頃の論文作成過程を重視し、また論文そのものの完成度を加味し、総合的に評価します。</p> <p>卒論作成の過程 50% 卒論の出来映え 50%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>卒業論文を提出しないこと。 卒論の中身が、全体として、コピーであることが明確になった場合。</p>

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文のテーマ設定（4月） ・テーマに関する資料文献の収集（4月～完成時まで） ・卒業論文の構成の検討（5～8月） ・卒業論文の概要の作成（7月～8月） ・卒業論文の中間発表（9月） ・卒業論文の原稿提出（初稿）（10～11月） ・卒業論文の最終原稿提出（11～12月） ・優秀卒業論文表彰式・報告会への参加（1月）
テキスト	適宜提示する
参考書	適宜提示する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	卒論の作成時には、受講生自身による積極的なWeb等での調査活動が必要である。また、卒論をまとめる際には、受講生同士や担当教員との間でディスカッションが必要となる。これらは、専門演習IIA・Bの授業中に加えて、メールやGoogle Classroomの課題提出によって為される。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	専門演習IIA・Bの授業中に対応する。 また別途メールによって対応する。メールアドレス：tkshimo@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	卒論の作成過程に於いて、随時行う。卒論の事務的提出以前に、担当教員の許可を得る必要がある。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	専門演習IIA・Bの授業に於いては、卒論の進展状況に関与する。従って専門演習IIA・Bの各授業の前後に於いて、毎回2時間程度の予習と2時間程度の復習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29506
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	羽田 徹也
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	羽田 徹也 (経済学部)
授業の目標	学生各自が関心のあるテーマについて研究を進め、それをもとに卒業論文を完成すること。 <学習成果> 【知識・理解の領域】 論文テーマに関する用語や課題を適切に把握している 【思考判断の領域】 論理的思考方法に則って分析を進めている 【関心意欲の領域】 高い関心意欲を持ち、十分な根拠をもとに執筆できる 【態度・志向性の領域】 計画性を持って積極的に取り組むことができる
授業の概要	報告にあたっては、論文本体のほかpowerpointで作成したスライドを共有することを要します。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	卒業論文の内容、報告発表・ディスカッションの内容等で総合的に評価します
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし
授業計画	1, 各自テーマ決定 2, 卒業論文の作成方法の共有 3, 卒業論文に関する研究と報告 4, 卒業論文の執筆および推敲
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授 業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授 業の内容	日米金融機関において、為替ディーラー、債券トレーダー、金融市場のストラテジストを経験した 教員が、ビジネス現場経験および大学院での研究活動を踏まえて指導します
質問への対応方法	必要に応じて個別に演習中やメールにより随時対応します
フィードバックの方法	必要に応じて個別に随時対応します
予習・復習等、準備学習の内容及 び時間	卒業論文の提出期限に向けて、卒業論文の作成計画を立て、随時進捗状況を確認し、卒業論文を完 成させること
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	

開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29507
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	ブ ティ ビック リエン
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ブ ティ ビック リエン (経済学部)
授業の目標	<p>学生各自が関心のあるテーマについて研究を進め、それをもとに卒業論文を完成する。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の生産活動や個人・家計の消費行動に関する考察を行なう。 ・発展途上国の経済発展に関する考察を行なう。 <p>思考判断の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的・実証的な思考方法にそって、議論を進める。 ・問題解決のために解決策を考え、他人を説得できるようになる。 <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考文献の検索・輪読・理解をできるようになる。 ・適切な統計データを収集して、活用できるようになる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題と解決策の見出しや解決策への批判的コメントについて自ら調査学習できるようになる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明瞭かつ簡潔に発表資料を作成する。 ・人前に分かりやすく説明・発表するとともに、効率よく文章にまとめ、卒業論文の完成に向かう。
授業の概要	<p>下記の学習内容を順序に進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文の作成方法について指導 2. 研究テーマの決定 3. 先行研究のサーベイと報告 4. 卒論作成の進捗報告と相互議論 5. 卒業論文の執筆・訂正および完成 <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>下記の内容を総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導への対応の取り組み (20%) ・レポート・定期報告・ディスカッションの内容 (20%) ・指定期限内における卒業論文の草稿の提出 (20%) ・指定期限内における卒業論文の完成版の提出 (40%) <p>なお、詳細な説明は初回講義に行う。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・指導教員の指導に意図的に従わない
授業計画	初回講義に詳細な計画を周知する。
テキスト	
参考書	1) 河野哲也 (2018) 『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・ オフィスアワーに研究室に聞いて対応する。 ・ オフィスアワー以外にはアポイントを取って、対応する。
フィードバックの方法	・ オフィスアワーに研究室に聞いて対応する。 ・ オフィスアワー以外にはアポイントを取って、対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・ 卒業論文は進捗報告の積み重ねる内容なので、担当教員のコメントや指導の前後をしっかりと従ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業論文 / Thesis
時間割コード Course Code	29508
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	村山 徹
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	村山 徹 (経済学部)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の学びを結実させる研究課題・テーマを設定できる。 ・選択した研究課題・テーマについての研究資料を卒業論文の展開に用いることができる。 ・問題提起から結論にいたるまで、厳密で緻密な展開を卒業論文に示すことができる。 ・専門演習で示された書式で卒業論文を作成できる。
授業の概要	<p>専門演習 Aまたは Bを担当する教員が、専門演習とは別に、個人または複数名を対象に卒業論文作成のための指導をおこなう。受講者は、講義科目や演習科目によって獲得した知見を総合し、学部における学習の集大成として卒業論文を完成させる。具体的には、担当教員の指導の下、論文のテーマを設定し、研究資料を収集、活用して、卒業論文を完成させる。</p>
評価方法	卒業論文の内容 (100%) : テーマ設定 + 研究資料 + 論文の展開と書式より評価する
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	個別面談などの無断欠席には厳しく対応する
授業計画	1~30週 : 卒業論文の作成指導
テキスト	なし
参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<p>大学が情報発信する「オフィスアワー」を確認してください。指定日時には個人研究室で質問等を受け付けます。また、本ゼミではslackを活用してメンバー間の連絡が円滑になるよう工夫しています。これらのゼミ連絡ツールでは常時質問を受け付けています。</p>
フィードバックの方法	卒業論文などに関しては個別面談を設けて、各自の構想が具体化するように支援します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>発表、卒論テーマの検討など、ゼミ時間外に作業や学習を進める必要のある取り組みが多くあります。目安としては授業時間の2倍程度の自学の時間が理想です。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 8.計画立案力

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39500
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之 (経営学部)
授業の目標	<p>財務諸表を読み解くことによって企業を分析し、その結果、どのようなことが分かったかを正しい日本語で文章にすることを目標とします。</p> <p>学習成果 思考・判断の観点 専門演習で修得した財務諸表の分析手法を活用し、各自で選定した企業の状態や成績を判断します。</p> <p>技能・表現の観点 分析結果から判断したことを正しい日本語で文章にします。 文章を研究成果としてまとめ、「卒業研究」を完成させます。</p>
授業の概要	<p>各自で一つの業種を選択し、その業種に属する企業の財務諸表（貸借対照表や損益計算書）を入手します。そして、入手した財務諸表をもとに次のような点を分析します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全性（債務を返済する力がどの程度あるか？） 2. 収益性（利益をあげる力がどの程度あるか？） 3. 成長性（将来的に伸びていく力があるか？） <p>このような財務諸表分析の結果を「卒業研究」としてまとめます。業種・企業の選択は、各自で自由に行ってもらって結構です。また、財務諸表の入手方法および分析方法については授業中に指導します。</p>
評価方法	研究成果に基づいて評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	情報処理室において、各自卒業研究の執筆に取り組みます。
テキスト	専門演習 で活用したテキストを継続して使用します。
参考書	追って指示します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	卒業研究報告会を開催し、各自卒業研究の内容を報告し、ディスカッションする予定です。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	日商簿記検定試験委員の担当経験がある教員によって行われる授業です。
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	レポート、課題などは翌週返却して指導します。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各自研究内容の発表ができるよう準備をします。他のゼミ生からの意見を自身の研究内容に反映し、卒業研究の完成度を高めます。(予習・復習各2時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39501
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	中村 壽男
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 壽男 (経営学部)
授業の目標	<p>大学生生活の総まとめとして「卒業研究」を完成させる。学生自らが設定する研究テーマに対して、参考文献・参考資料を収集・分析し学術論文形式でまとめあげることが目標とする。</p> <p>知識・理解の領域 論文の書き方を理解・修得し、各自の研究テーマに沿った構成等が適切にできる。</p> <p>技能の領域 各自の研究テーマに則して、必要となる資料を収集し、論文を書き進めることができる。 研究テーマ報告会および卒業研究報告会において、設定された時間内で各自の研究内容の主旨を発表できる。</p> <p>態度・志向性の領域 研究テーマの内容を、卒業後社会人・企業人としての行動に反映させ、引き続き探求する姿勢を示すことができる。</p> <p>体験探究の領域 未知のことで、じっくり構えて調査・考察すれば多くの知見が得られ、独自の分析結果が得られることを体験できる。</p>
授業の概要	<p>各自が策定した研究テーマをもとに、卒業研究の作成に取り組む。卒業研究作成の進捗状況を勘案し、報告発表をとおして、完成までを支援していく。</p> <p>なお、この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	卒業研究の完成度および最終報告会のプレゼンにより評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：卒業研究完成までの年間スケジュール調整と確認</p> <p>第2回 過年度生の卒業研究の紹介：研究テーマ探索の参考として</p> <p>第3回 過年度生の卒業研究の講評：論旨の整合性の参考として</p> <p>第4回 卒業研究テーマの探索と絞り込み</p> <p>第5回 参考文献・参考資料の収集：図書館の活用を中心に</p> <p>第6回 参考文献・参考資料の収集：インターネットの活用を中心に</p> <p>第7回 研究テーマ報告会（各自のテーマを発表）</p> <p>第8回 研究テーマにかかる先行研究の確認調査</p> <p>第9回～第15回 各自卒業研究1次稿の執筆 この間、進捗状況に応じ、対面およびメールにて個別対応</p> <p>第16回 卒業研究にかかる各自の進捗状況報告と確認</p> <p>第17回～第23回 各自卒業研究完成作業 この間、進捗状況に応じ、対面およびメールにて個別対応</p> <p>第24回～第25回 卒業研究最終稿の整理と提出手続き</p> <p>第26回～第30回 卒業研究報告会（一人あたり報告時間15分・質疑応答10分）各回報告者3名を予定</p>
テキスト	使用しない。
参考書	各自の研究テーマに応じ、適宜指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	卒業研究完成後、各自パワーポイントにて研究内容の報告をおこない、その報告内容にもとづき質疑応答等ディスカッションする。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワーはもちろんのこと、空き時間など随時対応する。メール対応も可（h-nakamura@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	各自の進捗状況に応じ、研究内容につきその都度講評・助言する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	卒業研究の資料収集、原稿執筆、原稿整理および完成稿の提出と報告の各段階で相当の準備と時間を要す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39502
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	山下 幸裕
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山下 幸裕 (経営学部)
授業の目標	<p>大学4年間の集大成である「卒業研究」を完成させる。自ら設定した研究テーマに対して、データを収集し分析し学術論文形式で結論をまとめます。</p> <p><学習成果> 知識・理解の領域 研究テーマについて深い知識を獲得することができる。 技能の領域 情報機器を活用して体裁が整った報告書が作成できる。 態度・志向性の領域 自分の意見に対して根拠を持って発言することができる。</p>
授業の概要	<p>研究テーマ、研究(調査)計画、データ収集・分析、学術論文の書き方などを指導します。また、進捗状況を逐次、報告してもらいます。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	卒業研究内容
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	教員の指導に従わない以外の事由による失格基準は特になし。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマ決定 ・文献調査 ・研究(調査)計画 ・データの収集と分析 ・論文執筆 ・最終報告
テキスト	
参考書	各自の卒業研究テーマに応じて個別に指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	質問は授業（専門演習）終了後もしくはオフィスアワーにて対応する。
フィードバックの方法	授業（専門演習）中にフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	120時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39503
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	吉川 伸一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	吉川 伸一 (経営学部)
授業の目標	<p>卒業研究の題目を自分で決める。執筆・作成にあたり、必要な資料を自分で探す。担当教員の支持を受けながら論文を仕上げる。</p> <p>大学教育においては、文系・理系の学生を問わず教養教育と専門教育の両方が必要である。教養教育では、社会人として最低限身に付けておいてほしい一般常識や数学・英語の基礎、社会人としてのマナーを学ぶ。</p> <p>また、現代は企業を取り巻く環境が短期間で変化する世の中である。変化に適応できる人材を育てることが専門教育の急務である。</p> <p>当ゼミでは、企業などが経営活動を進めていく過程において発生する諸問題を統計学の立場から考察し、問題の本質をつかみとり、自らの力で解決できる能力を身につけることを理想的な目標とする。企業にとって重要な在庫管理の問題にも踏み込み、在庫費用最小化あるいは利益最大化の問題を理解し、自力で解けるようになることも目標とする。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 授業で学んだ専門用語を理解し、説明できる。</p> <p>関心・意欲の領域 教員から与えられたことだけでなく、自分で積極的に新聞や学術雑誌などから、演習で使えそうな題材、特集、データなどを探し、教員に提示できる。</p> <p>技能の領域 回帰分析、検定、区間推定、線形計画法などをコンピュータソフトを用いて解析できる。</p>
授業の概要	<p>前期は卒業研究の進め方に関する基礎を学んでいく。</p> <p>後期は、実際に研究内容の各章の構成を考える。各章ごとに仕上げていく。</p> <p>参考文献の引用の仕方、記入の仕方、章末における参考文献の列挙の仕方も重視して学ぶ。</p>
評価方法	<p>成績評価のウェイトは以下のとおりである。</p> <p>参加姿勢：30%</p> <p>卒業研究に関するレポート：30%</p> <p>中間報告・発表：40%</p> <p>授業内で行ったレポートは採点し、返却する。理解度が良好でないと判断した部分については、次回授業で復習する。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が13回に満たない場合 ・連続して3回欠席した場合
授業計画	<p>主に以下の内容となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業研究の進め方 2. 必要となる資料・文献の収集(1) 3. 必要となる資料・文献の収集(2) 4. 必要となる資料・文献の収集(3) 5. 資料・文献の読み方(1) 6. 資料・文献の読み方(2) 7. 論文とは何かを学ぶ(1) 8. 論文とは何かを学ぶ(2) 9. 論文とは何かを学ぶ(3) 10. 経営上の急所をめぐる文献による問題共有(1) 11. 経営上の急所をめぐる文献による問題共有(2) 12. 発表による問題共有(1) 13. 発表による問題共有(2) 14. 論文チェック作業(1) 15. 論文チェック作業(2)、全体のまとめ
テキスト	なし
参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後に対応 ・メールで対応 (greatriver-1@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・翌週返却または翌週に口頭で述べる
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> 4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39504
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	大曾 暢烈
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大曾 暢烈 (経営学部)
授業の目標	<p>【授業目標】 それぞれ興味・関心のある研究テーマをもとに、卒業研究の作成に取り組むことを目標とします。</p> <p>【学習成果】 知識・理解の領域 それぞれの研究テーマに関する知識を身につけることができる。 技能の領域 卒業研究の作成を通して、問題発見力や論理的思考力を身につけることができる。 態度・志向性の領域 卒業研究の作成を通して、自律的な学習姿勢を身につけることができる。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 各自設定した研究テーマ・課題をもとに、卒業研究の作成に取り組みます。 それぞれが興味・関心のある研究テーマを決定し、関連する先行研究をもとに課題を設定する。 進捗状況の報告を行い、ブラッシュアップを図り、卒業研究の作成に取り組みます。 <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	卒業研究の内容にて評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	教員の指導に従わない以外の事由による失格基準は特になし。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 各自の興味・関心をもとに研究テーマに関する先行研究を調査し、研究テーマを決定する。 研究テーマに関連する資料等を収集・調査し、卒業研究の課題を設定する 卒業研究の構成を決定し、執筆する。
テキスト	各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。 *必要に応じて、購入してもらう可能性があります。
参考書	各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	授業中に行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	120時間の準備学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39505
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	李 美善
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 美善 (経営学部)
授業の目標	<p>自らが設定した卒業研究のテーマに沿って、研究対象となる企業を決定し、フィールドワーク(企業訪問など企業へ直接コンタクトをとる)を通じて企業経営の本質や戦略を解明する。それらをまとめ、大学生生活4年間の締めくくりとして論文を作成する。</p> <p>知識・理解の領域 経営戦略とは何かを理解し、研究・報告のスキルを実践できる。</p> <p>技能の領域 -読む、調べる：新聞や雑誌記事及び本を活用する技術を学習する。 -考える：ポイントを掴む、多様な角度から物事を考える力を養う。 -書く：ストーリーの描き方と論理的に述べる技術を学習する。 -発表する：自分自身の考えをまとめ、説明できる力を養う。 *魅せる：「伝える」発表から「伝わる」発表のスキルを習得する。</p> <p>態度・志向性の領域 様々な角度からものごとを解釈でき、自らと異なる考えを受け入れる態度を養う。</p> <p>思考・判断の領域 競争力が高い企業とそうでない企業を見分け、なぜそうなのか？などを論理的に考える力を養う。 課題や問題を抽出する能力を養う。</p> <p>関心意欲の領域 企業経営について学ぶことによって、将来の仕事への関心が高まる。</p>
授業の概要	まず、専門演習で習得した経営学の基礎知識および経営戦略の知識を整理する。次に、研究テーマを決定し、先行研究を調べ、卒業研究を作成していく。最後に、専門演習で取り組んだ個人発表、グループワーク、企業調査(インタビュー調査)、プレゼン大会で得た実践的な内容を論理的に組み合わせ卒業研究の執筆につなげる。
評価方法	研究への取り組み姿勢および研究結果(パワーポイントを用いたプレゼンテーションと卒業研究)による評価100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業研究テーマの確認と設定 2. テーマに関する課題と問題の探究 3. 資料収集(文献調査および企業へ直接コンタクトを試みる) 4. 研究の進捗状況に関する発表の実施 5. 卒業研究の作成 6. 卒業研究の提出
テキスト	

参考書	伊丹敬之・西野和美編『ケースブック：経営戦略の論理』日本経済新聞社 『日経ビジネス』『日本経済新聞』『日経産業新聞』などの記事を積極的に利用する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	授業内で課したレポートや卒業研究などは確認後、随時フィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	本演習は下記の内容をこなすため、準備学習（予習・復習等）の時間として各回4時間以上要する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ設定 ・ 資料調べ ・ 企画・提案書づくり（ワードで作成） ・ 発表資料づくり（パワーポイントで作成） ・ ゼミメンバーの発表に対する評価資料づくり（ワードで作成） ・ レポート課題（ワードで作成） ・ 論文執筆（ワードで作成）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 7. 課題発見力 8. 計画立案力

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39506
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	小川 哲司
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小川 哲司 (経営学部)
授業の目標	<p>卒業研究は大学での学びの集大成であり、教育的に最も重要な活動です。各自でテーマを設定して、調査・分析を通じて、自分なりの答えを導き出して、卒業論文を完成させることが本授業の目標になります。</p> <p>学習成果 知識・理解の観点 自身の研究テーマを経営学の専門知識を通じて深く洞察することで、物事の本質を見極めることができるようになる。</p> <p>技能の領域 論文執筆に必要な表現、文書構成、論理展開などを身に付けることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 ディスカッションを通じて多様な視点や意見があることに気づき、物事を複数の視点から捉えることができるようになる。</p> <p>思考・判断の領域 自ら関心のあるテーマを設定して、それに向けて自律的に研究を進めることができるようになる。</p> <p>関心意欲の領域 研究テーマに関わる先行研究の調査などを通じて、もっと深く経営学を学ぼうとする意欲が湧く。</p>
授業の概要	<p>卒業論文の執筆に向けた準備を行った後、論文を完成させる。自らの研究テーマに基づき、先行研究の調査、リサーチクエスチョン設定、研究方法の決定、研究テーマの掘り下げなどを通じて論文を完成させる。</p> <p>授業は各自が設定した研究テーマに基づく調査・分析、研究進捗報告、メンバー間のディスカッションによって進める。学生が自主的に考えたものを発表して、他者を含めた様々な視点で検討することを通じて、論文のブラッシュアップを図っていく。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への参加姿勢で評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み姿勢：50% ・発表や論文の内容：50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別な理由がなく、出席回数が13回に満たない場合

授業計画	<p>授業では、学生からの研究進捗報告をベースに、全員でディスカッションを行う。</p> <p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究調査、研究テーマの決定 ・研究計画書作成、研究進捗報告 ・中間報告会 <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自による研究進捗報告 ・論文執筆、論文指導 ・最終報告会
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	自身が設定した研究テーマに基づいて調査・分析を行った結果を報告をして、教員・学生とディスカッションを通じて研究内容を精査していきます。 学生には主体的な参加姿勢が求められます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生にとって最善の方法で回答します。（随時対応、オフィスアワー、授業後に対応、メール対応など）
フィードバックの方法	翌週の授業までに返却します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39507
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 豊和 (経営学部)
授業の目標	各自が選定したテーマに応じて卒業研究を進め、その成果物を作成する。 学習成果 知識・理解の領域 ・自らの卒業研究の内容について口頭で説明できる。
授業の概要	3年次に各自設定した研究テーマについて随時文献の収集をすすめ、タイトルの確定、項目の選定(理論構成)、論文、レポートなどの成果物作成の過程につき個別に指導する。 また進度に応じて、ゼミ全体での発表会を行なう。 質問への対応 随時対応します。
評価方法	指導教員の指導を随時受け、卒業研究要項にしたがって作成され完成させた論文、レポートなどの成果物について評価する(100%)。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	4月 テーマ(タイトル)と理論構成の完成と発表 5月 資料収集と修正(個別指導) 6月 資料収集と修正(個別指導) 7月 タイトルと目次と研究概要(完成版)についての発表会 8月 論文、レポートなどの作成(個別指導) 9月 論文、レポートなどの作成(個別指導) 10月 論文、レポートなどの作成(個別指導) 11月 完成版の発表会(お互いに批評しあう) 12月 最終チェック(個別指導) 1月 卒業研究発表会
テキスト	
参考書	個別に指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。

フィードバックの方法	翌週講評。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	自ら設定した研究テーマの発表に対して準備時間50時間を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39508
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	徐 誠敏
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	徐 誠敏 (経営学部)
授業の目標	<p>卒業論文では、激変するグローバル市場環境の中で、「売れ続ける仕組み」を戦略的に構築・強化し、全社的に取り組むことで、持続的な成長を実現している現代企業のブランド・マーケティング戦略の本質をそれぞれの成功事例の考察を通して解明することを目指す。</p> <p><学習成果> 知識・理解の観点 論文の基本的な書き方を習得し、論理的に自分の主張を展開することができる。 思考・判断の観点 いくつかの先行研究の論文を読み通していく中で、論理的な書き方のコツがわかってくる。 関心・意欲の観点 自分で決めた研究テーマに関する問題意識やその背景などについて論理的に述べるができる。 態度の観点 自分で決めた研究論文の目的を明らかにするための文献サーベイを積極的に行う習慣を身につけることができる。 技能・表現の観点 自分で決めた研究論文で考察した結果を論理的に展開することができる。</p>
授業の概要	<p>まず第1に、自分の興味・関心のある分野と研究対象となる企業を取り巻くマクロ環境(政治的・制度的変化要因、経済的变化要因、社会文化的変化要因、)がどのように変化しているのか、そのトレンドや潜在的なニーズの変化などを分析・考察する。</p> <p>第2に、上記のマクロ環境分析に加え、ミクロ環境(主に3C: 自社、顧客、競合他社)を戦略的な視点から分析することで、研究対象となる企業がどのように市場機会を発見していくのかを分析・考察する。</p> <p>第3に、研究対象となる企業が「誰に対して」「どのような価値を」「どのような流通チャネルを通して提供しているのか」「どのような表現方法でその価値をわかりやすく伝えているのか」を明らかにするための市場細分化(Segmentation)戦略と見込み客の選定(Targeting)戦略、独自性の発見(Positioning)戦略を検証する。</p> <p>第4に、研究対象となる企業自体のアイデンティティや製品・サービスのアイデンティティを確立するためにどのようなグローバルマーケティング戦略やブランド・マーケティング戦略を行うことで、その目標を達成することができたのかを明らかにする。</p>
評価方法	研究姿勢、研究内容などを総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>(1) 卒業論文の現状および研究テーマを設定する</p> <p>(2) 研究テーマの現状報告を実施し、文献サーベイを行う</p> <p>(3) 研究テーマに関する明確な問題意識を設定し、先行研究をレビューする</p> <p>(4) 研究論文のアウトラインを作成し、それに関する報告を実施する</p> <p>(5) これまで取り組んできた成果をもとに論じたものを深く考察することで、卒業論文を完成させる 最終原稿の提出は年末とする</p> <p>(6) 論文の型式を整え、論文を提出する</p>
テキスト	<p>徐誠敏・李美善(2015)「地域専門家制度から見たサムスン電子の「グローバル・マインドセット」の構築戦略?複眼的・多角的な視点による考察を中心に」『経済経営論集』第23巻第1号、11-26頁。</p> <p>徐誠敏・李美善(2016)「サムスン電子の地域専門家制度の普遍的適用可能性に関する研究?韓国企業の先進的取組事例を中心に」『経済経営論集』第23巻第2号、69-81頁。</p> <p>徐誠敏(2016)「不況でも勝ち続ける日本の中小製造企業の「ものづくり競争力」と「市場づくり競争力」のバランス戦略?本多プラスの5つの革新期に着目して」『経済経営論集』第23巻第2号、49-67頁。</p> <p>徐誠敏・李美善(2016)「「ブランド創発型企業 (Brand-Inspired Company)」を構築・強化するための戦略的なインターナル・ブランディングに関する研究」『経済経営論集』第24巻第1号、13-28頁。</p>
参考書	<p>徐誠敏(2010)『企業ブランド・マネジメント戦略?CEO・企業・製品間のブランド価値創造のリンケージ』創成社。</p> <p>田中洋編(2014)『ブランド戦略全書』有斐閣。</p> <p>一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会(2015)『社員をホンキにさせるブランド構築法』同文館出版。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業後に対応
フィードバックの方法	・翌週返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>準備学習(予習・復習等)60時間の時間の予習復習の時間を必要とする。</p> <p>・予習:資料調べ</p> <p>・復習:演習内容に関するレポート作成と発表</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>8.働きがいも経済成長も</p> <p>9.産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>12.つくる責任つかう責任</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究 / Graduation Research
時間割コード Course Code	39509
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	柴田 良一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	柴田 良一 (経営学部)
授業の目標	<p>大学4年間の総仕上げである「卒業研究」を完成させることが目的である。</p> <p>専門演習IIで作成計画と進捗管理を実施する。この授業では「卒業研究」を実際に取り上げることである。</p> <p>知識・理解の領域 テーマに関する幅広い理解を得る 思考・判断の観点 課題や問題を抽出する能力 関心・意欲の観点 テーマから派生する多くの知見から周辺の分野への関心 態度の観点 事実の積み重ねで論理を展開 技能・表現の観点 調査分析の結果をまとめる能力 プロジェクト管理能力</p>

授業の概要	<p>「卒業研究」は、大学4年間の集大成となるものである。研究の標準的な構成は以下の様になる。</p> <p>第1章 はじめに 「卒業研究」のテーマを選択した意義や思い、そして研究の概要を述べる。</p> <p>第2章 現状 テーマに関する現状を記す。 その内容は、テーマに関しての歴史を通して現状を見る。抽象的なテーマであれば複数の具体的な事例を述べる。テーマに類似する事例、例えば同業他社、海外の事例などに触れる。さらに、異なる視点からテーマを見るということで反対の事例に触れる。また、テーマに関して数値的なデータがあればそのデータは必ず本文に書き入れる。数値データは客観的なものであるので物事を考える基礎となる。</p> <p>第3章 課題・問題 現状を調べることで自分が考えているテーマとのギャップが明らかになる。これが課題であり問題である。この章ではこれらのことを客観的にまとめる。できれば数値データを分析してそこから課題や問題を明らかにすることが望まれる。</p> <p>第4章 考え 前章で明らかになったテーマに関する課題や問題をどのように考え、克服できるのかを述べる。そのためのヒントは歴史や類似する事例に隠されていることが多い。そのため、第2章の現状をもう一度参照する。</p> <p>第5章 おわりに 「卒業研究」を書き上げた過程で様々なことを考えたことと思います。</p> <p>参考文献</p> <p>単行本 著者名、書名、出版社、出版年 例 坂村 健、TRONからの発想、岩波書店、1987</p> <p>論文 著者名、論文名、誌名、出版年、巻数、号数、始めのページ-終わりのページ 例 山田 太郎、ソフトウェアによる文献管理、ユサコ学会誌、2022、No.3、p.123-147</p> <p>ネット上の情報 著者名、“ウェブページの題名”、ウェブサイトの名称、[更新日付]、入手先(URL)、(入手日付) 例 杉沼浩司、グーグルのAI「アルファ碁」が人間に勝った理由とその意味とは？、日経クロステック(xTECH)、2016/03/25、 https://xtech.nikkei.com/it/atcl/column/14/255608/032200180/、2020/10/23</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	レポート 100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>4月 作成のための作業計画</p> <p>5月と6月 テーマに関する現状の原稿作成</p> <p>7月 中間報告での手直し</p> <p>10月 テーマに関する課題と問題の原稿作成</p> <p>11月 中間報告での手直し</p> <p>12月 結論の作成と「卒業研究」の完成</p>
テキスト	
参考書	卒業研究のテーマに沿った参考書を各自に紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	企業における情報システムの設計・開発でシステム・コンサルタントとして常に情報システムの持つ意味や外部との関係を考えながら設計・開発の全体を管理・調整を行ってきた。この経験を生かし情報システムという視点で経済・社会を見る目を伝えたい。
質問への対応方法	・ オフィスアワーで対応 ・ メール (shibata-r@nagoya-ku.ac.jp) で対応
フィードバックの方法	提出したレポートなどは随時コメントを付けて返却
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	卒業研究の作成のため、授業期間外で120時間超える時間が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	小学校教育実習(事前事後指導)(通)
時間割コード Course Code	51985
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	前原 宏一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博(教育保育学科)、塚本 敏浩(教育保育学科)、前原 宏一(教育保育学科)、東岡 博(教育保育学科)
授業の目標	<p>・小学校教育実習(事前事後指導)は、小学校における教育実習の事前・事後指導である。互いに学び合う活動を通して、小学校での教育実習を円滑かつ有意義に行うため、教員として必要な知識、技術、態度を修得し合うことができる。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員として必要な知識や小学校現場の状況を理解することができる。 ・教育実習に必要な知識や心構えを理解することができる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を行う上で必要な学習指導案を作成することができる。 ・模擬授業の実践を通して、教師や仲間から指導・助言・評価を受けながら、授業力を高めることができる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで学習に取り組み、小学校実習に向けての準備を進めることができる。
授業の概要	<p>・小学校教育実習についての理解を深め、教育実習の目的や内容に習熟する。具体的には、教育実習に関する事前の心構えや教育実習中の心得を理解する。また、教科書を手掛かりにして、学習指導案を作成して授業実践をしたり、小学校での仕事内容を系統的に理解したりする。</p> <p>・実習前に現職の教師を講師として招き、実習生に対する思いや教科指導等についての特別講義を予定している。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>・学び合う活動や全体討議の様子、毎回のふり返りプリントへの記述、学習指導案作成及び模擬授業への取組などをもとに総合的に評価する。</p> <p>授業には必ず出席すること。遅刻・欠席の多い場合は、教育実習を許可しない。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習とは（ガイダンス、心構え、実習の種類） 2 教育実習に向けて（内容、教育実習までの流れ） 3 教育実習に向けて（事前打ち合わせ） 4 実習中の心得・その1 5 実習中の心得・その2 6 現職教員による講話1（小学校現場の現状と課題） 7 現職教員による講話2（教育実習に向かう姿勢） 8 実習中の心得・その3 9 現職教員による模範授業1 10 現職教員による模範授業2 11 実習中の心得・その4 12 実習中の心得・その5 13 実習前模擬授業・その1 14 実習前模擬授業・その2 15 授業指導技術の基本 16 授業指導技術の基本 17 実習直前の心構え 18 教育実習のふり返し 19 教育実習のふり返し、お礼状、模擬授業の計画・準備 20 模擬授業の実践と協議・その1 21 模擬授業の実践と協議・その2 22 模擬授業の実践と協議・その3 23 模擬授業の実践と協議・その4 24 模擬授業の実践と協議・その5 25 模擬授業の実践と協議・その6 26 模擬授業の実践と協議・その7 27 模擬授業の実践と協議・その8 28 教員採用選考試験に向けて・その1（教職教養） 29 教員採用選考試験に向けて・その2（教科） 30 事前事後指導のまとめとふり返し
テキスト	「教育実習完璧(パーフェクト)ガイド」 小学館
参考書	・テキスト以外の参考書及び参考資料等は、授業の中で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習に向けての各テーマに対して「自分の考え」を立てさせた後、4人グループでの「学び合い」の時間を確保した上で、クラス全体での情報共有（話し合い活動）の時間をとることとする。 ・教育実習後の授業では、実習時に実施した授業を仲間を対象にして互いに模擬授業を行い、その後、研究協議も実施する。 ・なお、4人グループについては、固定せず随時グループ編成をし直すこととする。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	小・中学校現場での教職経験を活かして指導・助言を適宜行うと共に、テキストに掲載されていない学校現場の現状や課題についても必要に応じて資料提供する。
質問への対応方法	・授業中や授業後に随時対応すると共に、オフィスアワーでも対応する。
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートやふり返しプリントは、次回の授業で返却する。 ・模擬授業者への事後指導・助言については、オフィスアワーの時間を使って個別に実施する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>・毎回、前時学習内容の復習 2 時間と授業計画表に基づく次時テーマに関する予習 2 時間を課すこととする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習とは（ガイダンス、心構え、実習の種類） 2 教育実習に向けて（内容、教育実習までの流れ） 3 教育実習に向けて（事前打ち合わせ） 4 実習中の心得・その 1 5 実習中の心得・その 2 6 現職教員による講話 1（小学校現場の現状と課題） 7 現職教員による講話 2（教育実習に向かう姿勢） 8 実習中の心得・その 3 9 現職教員による模範授業 1 10 現職教員による模範授業 2 11 実習中の心得・その 4 12 実習中の心得・その 5 13 実習前模擬授業・その 1 14 実習前模擬授業・その 2 15 授業指導技術の基本 16 授業指導技術の基本 17 実習直前の心構え 18 教育実習のふり返し 19 教育実習のふり返し、お礼状、模擬授業の計画・準備 20 模擬授業の実践と協議・その 1 21 模擬授業の実践と協議・その 2 22 模擬授業の実践と協議・その 3 23 模擬授業の実践と協議・その 4 24 模擬授業の実践と協議・その 5 25 模擬授業の実践と協議・その 6 26 教員採用選考試験に向けて・その 1 27 教員採用選考試験に向けて・その 2 28 教員採用選考試験に向けて・その 3 29 教員採用選考試験に向けて・その 4 30 事前事後指導のまとめとふり返し
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	小学校教育実習I
時間割コード Course Code	51990
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	前原 宏一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博(教育保育学科)、塚本 敏浩(教育保育学科)、前原 宏一(教育保育学科)、東岡 博(教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学外の教育実習協力校において、教育実習を実地体験する。 ・大学で学んだ知識、技能、態度を活かしながら、実習校で大学では得られない知識、技能、態度を集中的に習得する。 ・自己の学びを広げたり深めたりする貴重な体験の機会とする。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの実習校での指導に従い、教科や特別の教科：道徳、総合的な学習の時間、特別活動等の観察、参加、授業実習を体験する。 質問等への対応 ・オフィスアワーで随時対応する。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習校の服務規定に服する。 遅刻や欠席は、一切認められない。 実習校への通学の際、自動車やバイクの使用は禁止する。 評価については、実習校での評価や出席などを考慮しながら、総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	小学校での教育実習(観察、参加、授業実習)
テキスト	なし
参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学外の教育実習協力校において、教育実習を実地体験する。 ・大学で学んだ知識、技能、態度を活かしながら、実習校で大学では得られない知識、技能、態度を集中的に習得する。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	教育実習の前後や実習中に小学校現場の実務経験を活かした助言や指導を行う。
質問への対応方法	必要に応じて、教育実習の前後や実習中においても、随時、対応出来るような体制を整えておく。
フィードバックの方法	実習後に、実習の振り返りをさせながら、個々の面談や模擬授業を通して、できるだけストラテジー型フィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教育実習に必要とされること、大切なことなど、教育実習事前事後指導と関連付けながら滞りなく指導と復習・予習をさせる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	小学校教育実習II
時間割コード Course Code	51995
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	前原 宏一
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博(教育保育学科)、塚本 敏浩(教育保育学科)、前原 宏一(教育保育学科)、東岡 博(教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学外の教育実習協力校において、教育実習を実地体験する。 ・大学で学んだ知識、技能、態度を活かしながら、実習校で大学では得られない知識、技能、態度を集中的に習得する。 ・自己の学びを広げたり深めたりする貴重な体験の機会とする。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの実習校での指導に従い、教科や特別の教科：道徳、総合的な学習の時間、特別活動等の観察、参加、授業実習を体験する。 質問等への対応 ・オフィスアワーで随時対応する。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習校の服務規定に服する。 遅刻や欠席は、一切認められない。 実習校への通学の際、自動車やバイクの使用は禁止する。 評価については、実習校での評価や出席などを考慮しながら、総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	小学校での教育実習(観察、参加、授業実習)
テキスト	なし
参考書	なし
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学外の教育実習協力校において、教育実習を実地体験する。 ・大学で学んだ知識、技能、態度を活かしながら、実習校で大学では得られない知識、技能、態度を集中的に習得する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	教育実習の前後や実習中に小学校現場の実務経験を活かした助言や指導を行う。
質問への対応方法	必要に応じて、教育実習の前後や実習中においても随時、対応出来るような体制を整えておく。
フィードバックの方法	実習後に、実習の振り返りをさせながら、個々の面談や模擬授業を通して、できるだけストラテジー型フィードバックを行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教育実習に必要とされること、大切なことなど、教育実習事前事後指導と関連付けながら滞りなく指導と復習・予習をさせる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	総合演習(通) / General exercises
時間割コード Course Code	53012
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2, 火 / Tue 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 3 A 講義室, 1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)、夏目 有紀枝(管理栄養学科)、庄司 吏香(管理栄養学科)、朱宮 哲明(管理栄養学科)
授業の目標	臨地実習において、実践に必要な知識・心構えを身につけることを目標とする、
授業の概要	臨地実習に必要なこれまでに学んだ関連教科の知識・技術を基に、各実習施設(病院・学校・事業所・福祉施設・保健所等)の実践の場において栄養管理業務を体験し、管理栄養士に必要な健康の維持増進、疾病の予防、疾病の治療・重症化予防において栄養管理及び栄養指導業務ができる知識、技術を身に付ける。本教科では、4単位(4週間)の実習が必要である。具体的には、臨床栄養実習(病院)2単位、行政栄養実習(保健所・保健センター)、および給食管理実習(学校給食センター・事業所・福祉施設)のうちから2単位を修得し、各実習施設の概要や目的についても学んだ上で臨地実習に臨めるようにする。
評価方法	授業態度(10%)、課題(10%)、提出物(10%)、実習への取り組み(20%)、報告発表等(20%)、確認テスト(30%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>第1回 臨地実習についてのガイダンス（臨地実習の基本的事項、各施設の種類と特性（病院、福祉、保健所、事業所））</p> <p>第2回 実習のノートの書き方や礼状の書き方等について</p> <p>第3回 臨地実習全体の流れの等の説明</p> <p>第4回 先輩の体験談報告会</p> <p>第5回 行政栄養実施施設の種類と役割、マネジメントについて</p> <p>第6回 福祉施設の給食について、学校（病院）給食について</p> <p>第7回 事業所給食について</p> <p>第8回 臨床における糖尿病の栄養ケアマネジメント・アセスメント等について</p> <p>第9回 臨床における腎臓病の栄養ケアマネジメント・アセスメント等について</p> <p>第10回 福祉施設における栄養ケアマネジメント等について</p> <p>第11回 福祉施設の役割、嚥下食等について</p> <p>第12回 褥瘡および医療用語について</p> <p>第13回 臨床における輸液、経腸栄養等について</p> <p>第14回 報告会 1（4年生：給食、福祉）</p> <p>第15回 報告会 2（4年生：病院、福祉）</p> <p>第16回 ガイダンス（各先生方より臨地実習の注意点や反省点等）</p> <p>第17回 課題作成等各施設について</p> <p>第18回 課題作成等各施設について</p> <p>第19回 報告会 3</p> <p>第20回 報告会 4</p> <p>第21回 報告会 5</p> <p>第22回 報告会 6</p> <p>第23回 報告会 7</p> <p>第24回 報告会 8</p> <p>第25回 報告会 9</p> <p>第26回 報告会 10</p> <p>第27回 報告会 11</p> <p>第28回 報告会 12</p> <p>第29回 報告会 13</p> <p>第30回 報告会 14</p>
テキスト	臨地・郊外実習 加藤昌彦 續順子 塚原丘美 建帛社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院、学校、事業所において管理栄養士経験がある教員が、臨地実習を円滑に受けるための基礎知識や技術について、専門的知識および技術への統合につなげるための教育内容を組み込んでいる。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕学習内容のテキストの項目を読んでおく。（2h×15回 30時間） 〔復習〕講義内で配布されるプリントおよびテキストの内容をまとめる。（2h×15回 30時間）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	8.計画立案力

開講科目名 Course	基礎演習 I (通) / Introductory Study Group I
時間割コード Course Code	59000
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	家接 哲次
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 J 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	家接 哲次 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。後期は、15回のゼミのうち、4回分を合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）で実施します。</p> <p>〔前期〕</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>〔後期〕</p> <p>16回目 各ゼミ10 17回目 各ゼミ11 18回目 各ゼミ12 19回目 各ゼミ13 20回目 合同ゼミ（企画A） 21回目 合同ゼミ（企画B） 22回目 各ゼミ14 23回目 各ゼミ15 24回目 各ゼミ16 25回目 合同ゼミ（企画C） 26回目 合同ゼミ（企画D） 27回目 各ゼミ17 28回目 各ゼミ18 29回目 各ゼミ19 30回目 各ゼミ20</p> <p>前期の企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 後期の企画Aと企画Bの合同ゼミでは、大学生を取り巻く危険として、「振り込め詐欺・マルチ商法」および「ブラックバイト」の各テーマについて学びます。また、企画Cと企画Dの合同ゼミでは、「ダイバーシティ」および「新聞活用講座」の各テーマについて学びます。</p> <p>そして、各ゼミ1～20では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんと組み立ててください。なお、前期各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。また、「PROGテスト解説」も行います。</p>
テキスト	世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 I (通) / Introductory Study Group I
時間割コード Course Code	59001
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 I 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ (教育保育学科)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。後期は、15回のゼミのうち、4回分を合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）で実施します。</p> <p>〔前期〕</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>〔後期〕</p> <p>16回目 各ゼミ10 17回目 各ゼミ11 18回目 各ゼミ12 19回目 各ゼミ13 20回目 合同ゼミ（企画A） 21回目 合同ゼミ（企画B） 22回目 各ゼミ14 23回目 各ゼミ15 24回目 各ゼミ16 25回目 合同ゼミ（企画C） 26回目 合同ゼミ（企画D） 27回目 各ゼミ17 28回目 各ゼミ18 29回目 各ゼミ19 30回目 各ゼミ20</p> <p>前期の企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 後期の企画Aと企画Bの合同ゼミでは、大学生を取り巻く危険として、「振り込め詐欺・マルチ商法」および「ブラックバイト」の各テーマについて学びます。また、企画Cと企画Dの合同ゼミでは、「ダイバーシティ」および「新聞活用講座」の各テーマについて学びます。</p> <p>そして、各ゼミ1～20では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんと組み立ててください。なお、前期各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。また、「PROGテスト解説」も行います。</p>
テキスト	世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 I (通) / Introductory Study Group I
時間割コード Course Code	59002
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	田中 秀佳
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	田中 秀佳 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。</p> <p>自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。後期は、15回のゼミのうち、4回分を合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）で実施します。</p> <p>〔前期〕</p> <p>1回目 各ゼミ1 全体オリエンテーション</p> <p>2回目 各ゼミ2 個別面談、アイスブレイキング、テキストを用いた演習を実施</p> <p>3回目 各ゼミ3 個別面談、アイスブレイキング、テキストを用いた演習を実施</p> <p>4回目 合同ゼミ（企画1）</p> <p>5回目 合同ゼミ（企画2）</p> <p>6回目 合同ゼミ（企画3）</p> <p>7回目 各ゼミ4 テキストを用いた演習を実施、ノートテイク・要約などの力を身につける</p> <p>8回目 各ゼミ5 テキストを用いた演習を実施、ノートテイク・要約などの力を身につける</p> <p>9回目 各ゼミ6 テキストを用いた演習を実施、ノートテイク・要約などの力を身につける</p> <p>10回目 合同ゼミ（企画4）</p> <p>11回目 合同ゼミ（企画5）</p> <p>12回目 合同ゼミ（企画6）</p> <p>13回目 各ゼミ7 テキストを用いた演習を実施、レポートの書き方を身につける</p> <p>14回目 各ゼミ8 テキストを用いた演習を実施、レポートの書き方を身につける</p> <p>15回目 各ゼミ9 前期まとめ、個別面談等</p> <p>〔後期〕</p> <p>16回目 各ゼミ10 後期オリエンテーション</p> <p>17回目 各ゼミ11 テキストを用いた演習を実施、ゼミ発表・プレゼンテーションについて</p> <p>18回目 各ゼミ12 テキストを用いた演習を実施、プレゼンテーション準備</p> <p>19回目 各ゼミ13 テキストを用いた演習を実施、プレゼンテーション準備</p> <p>20回目 合同ゼミ（企画A）</p> <p>21回目 合同ゼミ（企画B）</p> <p>22回目 各ゼミ14 テキストを用いた演習を実施、プレゼンテーション</p> <p>23回目 各ゼミ15 テキストを用いた演習を実施、プレゼンテーション準備</p> <p>24回目 各ゼミ16 テキストを用いた演習を実施、プレゼンテーション準備</p> <p>25回目 合同ゼミ（企画C）</p> <p>26回目 合同ゼミ（企画D）</p> <p>27回目 各ゼミ17 教育活動を企画・運営する</p> <p>28回目 各ゼミ18 教育活動を企画・運営する</p> <p>29回目 各ゼミ19 教育活動を企画・運営する</p> <p>30回目 各ゼミ20 まとめ</p> <p>前期の企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。</p> <p>また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。</p> <p>後期の企画Aと企画Bの合同ゼミでは、大学生を取り巻く危険として、「振り込め詐欺・マルチ商法」および「ブラックバイト」の各テーマについて学びます。また、企画Cと企画Dの合同ゼミでは、「ダイバーシティ」および「新聞活用講座」の各テーマについて学びます。</p> <p>そして、各ゼミ1～20では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんと組み立ててください。なお、前期各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。また、「PROGテスト解説」も行います。</p>
テキスト	世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	教育現場、一般企業、官公庁で在職経験のある者および在職中の者による授業が実施される。
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。
フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	基礎演習 I (通) / Introductory Study Group I
時間割コード Course Code	59003
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	前原 宏一
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前原 宏一 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1. 大学生生活を楽しく有意義に過ごすために必要な情報を得ること、また、その情報の収集の仕方を身につけること。</p> <p>2. 大学での学び方の基本を理解し、身につけること。</p> <p>3. ゼミナールにみんなで参加し、さまざまなテーマについてみんなで考えることにより、互いの信頼関係を築くこと。</p> <p>4. 将来社会人として活躍するための基礎的な力を身につけること。</p> <p>5. 大学生生活においてゼミナールの果たす役割を理解すること。</p> <p>〔この授業を通じて達成したい学習成果〕</p> <p>学習および大学生生活全般に必要な技能 必要な情報を要領よく収集し、それを整理し活用できる。 文章を読む力、ひとの話を聴く力、正しく美しい日本語を書いたり話したりする力を伸ばすことができる。 自分の考えをまとめ、表現できる。 学習および大学生生活全般に必要な態度 自らを律して行動できる。 約束を守ることなど、大学の構成員として自分の責任を果たすことができる。 仲間と協調・協働し、共通の目標を達成するために積極的に行動できる。</p>
授業の概要	<p>この授業は、みなさんが大学生になって、はじめて所属するゼミナール（通常「ゼミ」と呼んでいます）の授業です。みなさんは、これから4年間ずっと、いずれかのゼミナールに所属します。授業は週に1回行われます。</p> <p>大学のゼミは、みなさんの学生生活の中心となるものです。毎週のさまざまな授業のローテーションの中心です。ゼミに集まって、みんなで1週間を振り返り、次の1週間の目標を立てます。ゼミは勉強するところであり、そして、共通の課題に取り組むところです。互いに学び合い、互いに刺激し合うことによって、自分を磨く場所です。</p> <p>この1年次前期のゼミナールは、みなさんにとって最初のゼミなので、大学生生活や勉強の仕方について手ほどきをします。また、社会の変化やICTの急速な発展のなかで、大学生を取り巻く環境も大きく変わっていることから、みなさんを取り巻く学生生活上の危険についても考えていきます。このゼミナールが、みなさんの学生生活において思い出深いものになるように期待しています。</p> <p>〔この科目の位置づけ〕</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>成績評価の基準は次の通りです。</p> <p>1. ゼミの学習、行事に積極的に参加し、自分の役割をきちんと果たすこと。</p> <p>2. ゼミにおけるさまざまなテーマについて学び、自分の考えを述べられること。</p> <p>3. 授業における課題等をレポートにまとめて提出すること。</p> <p>出席が良好であること（毎週出席が基本です）を前提に、上記1から3の基準にしたがって、総合的に評価します。</p>

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	失格基準については、第1回目の授業において説明します。
授業計画	<p>前期15回のゼミのうち、9回分は各ゼミ（それぞれのゼミナール単位）を実施し、6回分は合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）を実施します。後期は、15回のゼミのうち、4回分を合同ゼミ（それぞれの学部学科単位）で実施します。</p> <p>〔前期〕</p> <p>1回目 各ゼミ1 2回目 各ゼミ2 3回目 各ゼミ3 4回目 合同ゼミ（企画1） 5回目 合同ゼミ（企画2） 6回目 合同ゼミ（企画3） 7回目 各ゼミ4 8回目 各ゼミ5 9回目 各ゼミ6 10回目 合同ゼミ（企画4） 11回目 合同ゼミ（企画5） 12回目 合同ゼミ（企画6） 13回目 各ゼミ7 14回目 各ゼミ8 15回目 各ゼミ9</p> <p>〔後期〕</p> <p>16回目 各ゼミ10 17回目 各ゼミ11 18回目 各ゼミ12 19回目 各ゼミ13 20回目 合同ゼミ（企画A） 21回目 合同ゼミ（企画B） 22回目 各ゼミ14 23回目 各ゼミ15 24回目 各ゼミ16 25回目 合同ゼミ（企画C） 26回目 合同ゼミ（企画D） 27回目 各ゼミ17 28回目 各ゼミ18 29回目 各ゼミ19 30回目 各ゼミ20</p> <p>前期の企画1から企画3の合同ゼミでは、「建学の精神」および「大学生のメンタルヘルス」のテーマについて学ぶとともに、「PROGテスト」を実施します。 また、企画4から企画6の合同ゼミでは、「国際交流案内」、「地域連携・犬山学」および「大学生を取り巻く危険（1）薬物・カルトなど」のテーマについて学びます。 後期の企画Aと企画Bの合同ゼミでは、大学生を取り巻く危険として、「振り込め詐欺・マルチ商法」および「ブラックバイト」の各テーマについて学びます。また、企画Cと企画Dの合同ゼミでは、「ダイバーシティ」および「新聞活用講座」の各テーマについて学びます。</p> <p>そして、各ゼミ1～20では、それぞれのゼミごとに授業を実施します。各ゼミで実施する内容は、ゼミ担当教員と学生のみなさんと組み立ててください。なお、前期各ゼミ9回のうち1回は、「レポート・卒業論文の書き方（引用の方法）、期末試験の不正防止など」のテーマについて学びます。また、「PROGテスト解説」も行います。</p>
テキスト	世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック〔5訂版〕』（世界思想社、2021年）1,200円（税別）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミ単位での活動の折には、保育・教育に関する現代的課題をテーマとして設定し、それに対する自分の考えを立てさせた後、4人グループを基本とするグループでの「学び合い活動」の時間をとる。その上で全体で情報を共有し合う活動へと進むこととする。 なお、4人グループについては、固定せず随時グループ編成をし直す。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	ゼミ前後の時間やオフィスアワーの時間も含め、随時受け付けます。

フィードバックの方法	授業における課題やレポートに係る判断・評価について疑問等があれば、適宜対応します。また、成績評価については、評価に関する疑問等申出期間において対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回のテーマに係る予習や復習を、それぞれ2時間行ってください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	2. 協同力 7. 課題発見力

開講科目名 Course	基礎演習II(通) / Introductory Study Group I
時間割コード Course Code	59100
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	飯田 幸恵
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 1 A 保育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 幸恵 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1年次基礎演習1に引き続き、教育保育職を目指す学生にとって必要な基本的知識と技能の習得を目指す。また、教育保育職についての理解を深め、自分の進路を方向付ける。</p> <p>知識・理解の領域 基礎演習1での学び、他の授業で得た知識、実践や実習を通しての学びを踏まえ、教育保育職についてのより深い理解につなげる。 専門知識の理解と共に、人間的・社会的な視野を広げること、社会人として教養・見識を深める。</p> <p>技能の領域 これまで学んだ教育保育にかかわる基礎的な技能のレベルアップを図る。 大学生として自ら学ぶスキルのレベルアップを図り、専門演習の学習へつなげる。</p> <p>態度・志向性の領域 保育職(幼稚園、保育所、施設)・小学校教員など、自分のキャリアビジョンについて考える。 また、それに向けてやるべきことや自らの課題を見つけ、取り組むことができる。 ゼミ活動、全体活動を通し、自らの行動をコントロールすること、他者と協働的に活動することを体験し、その意義を知る。</p>
授業の概要	この授業は、各ゼミで行うゼミ活動と、2年生全体で行う全体活動がある。いずれの活動も、授業目標を達成するために、様々な学習活動を行う。そのため、授業時間外での学習、準備等が必須である。
評価方法	授業への参加姿勢、課題への取り組みの姿勢、課題や提出物により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、失格となる。
授業計画	この授業は、各ゼミで行うゼミ活動と、2年生全体で行う全体活動がある。いずれの活動も、授業目標を達成するために、様々な学習活動を行う。
テキスト	指定しない
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	アクティブラーニング
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	授業終了後に対応する。
フィードバックの方法	次回の授業時にフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回授業の予習・復習を行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 全体活動	授業の説明、担当教員の紹介、ゼミメンバー顔合わせ	
2	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	1組は竹林整備の体験、2組は伝承遊びの体験 これらの体験に関するレポートを作成する(2時間の復習)	
3	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	1組は伝承遊びの体験、2組は竹林整備の体験 これらの体験に関するレポートを作成する(2時間の復習)	
4	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	自己分析を行い、自身のキャリアビジョンについて考える 自分にはどのような仕事に向いているか、ワークシートに記入し確認しておく(2時間の復習)	
5	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	10月に開催される大学祭で、子ども向け企画についての紹介・説明 これまでの大学祭の企画について説明 ゼミでどのような企画を行うのか話し合い、結果をまとめておく(2時間の復習)	
6	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	(活動例) 個人面談、絵本の読み聞かせの練習 絵本の読み聞かせを行うため、事前に図書館や絵本ライブラリーで絵本を選び、読み聞かせの練習をしておく(3時間の予習)	
7	ゼミで計画した内容	(活動例) 親睦会	
8	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	(活動例) 実習の日誌 指導案の書き方 実習に向けて指導案を作成する(4時間の復習)	
9	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	(活動例) 実習の反省会 学外実習中においてどのようなことを学んだか、ワークシートに記入しておく(2時間の復習)	
10	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	(活動例) 課題設定 教育・保育に関わる現代的課題についてトピックを取り上げディスカッションを行う ニュースを見たり、新聞を読んだりして、自分が関心のあるテーマを選んでおく(2時間の予習)	
11	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	(活動例) 話し合い・討論会 効果的なプレゼン方法について調べておく。(2時間の予習) ゼミメンバーが選んだテーマについて、自分でも資料を読んでおく(2時間の復習) レポート作成のための資料を収集しておく。	
12	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	(活動例) レポート作成 レポートを完成できるように書き進めておく(3時間の復習)	
13	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	(活動例) 計画立案 大学祭の企画について意見交換を行う。 どのような企画が実行可能か調べておく(2時間の予習)	
14	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	(活動例) 準備・練習(1) 企画の準備をする(2時間の復習)	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
15	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	(活動例) 準備・練習(2) 企画の準備をする(2時間の復習)	

開講科目名 Course	基礎演習II(通) / Introductory Study Group I
時間割コード Course Code	59101
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	加藤 昇
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 L 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	加藤 昇 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1年次基礎演習Iに引き続き、教育保育職を目指す学生にとって必要な基本的知識と技能の習得を目指す。また、教育保育職についての理解を深め、自分の進路を方向付ける。</p> <p>知識・理解の領域 基礎演習Iでの学び、他の授業で得た知識、実践や実習を通しての学びを踏まえ、教育保育職についてのより深い理解につなげる。 専門知識の理解と共に、人間的・社会的な視野を広げること、社会人として教養・見識を深める。</p> <p>技能の領域 これまで学んだ教育保育にかかわる基礎的な技能のレベルアップを図る。 大学生として自ら学ぶスキルのレベルアップを図り、専門演習?の学習へつなげる。</p> <p>態度・志向性の領域 保育職(幼稚園、保育所、施設)・小学校教員など、自分のキャリアビジョンについて考える。 また、それに向けてやるべきことや自らの課題を見つけ、取り組むことができる。 ゼミ活動、全体活動を通し、自らの行動をコントロールすること、他者と協働的に活動することを体験し、その意義を知る。</p>
授業の概要	<p>この授業は、各ゼミで行うゼミ活動と、2年生全体で行う全体活動がある。いずれの活動も、上述の授業目標を達成するために、様々な学習活動や体験活動を行う。そのため、授業時間外での学習、準備等が必須である。</p> <p>ゼミ活動 担当教員と相談しながら、学生自ら主体的に様々な学習活動、体験活動を計画し、学びを深める。</p> <p>前年度の活動例 ・実習関係の活動(教材作り、日誌指導案の書き方、反省会など) ・課題・レポート作り(書き方、プレゼン、小論文作成など) ・話し合いや討論会など ・大学祭や地域のお祭りへの参加 ・親睦会などのレクリエーション ・個人面談</p> <p>全体活動 学年全体での、実践的な学び、キャリアビジョン形成、ゼミ活動の共有のためのプログラムを展開する。なお、大学祭での子ども向け企画にゼミ毎の参加を推奨する。積極的に参加してほしい。</p> <p>本授業に関する質問へは随時対応するので、ゼミ教員または他の担当教員へ申し出てほしい。 本授業は対面授業で行います。</p>
評価方法	授業への参加姿勢、課題への取り組みの姿勢、課題や提出物により評価する。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>1回 全体の年間計画についての話</p> <p>2～3回 個人面談</p> <p>4回～10回 学級作り、朝の会、清掃、給食、帰りの会、教師の1日の仕事などについて話をし、その意義について考えさせる。</p> <p>11回～14回 文学教材の模擬授業</p> <p>15回 前期の反省会</p> <p>16回、17回 個人面談</p> <p>18回～28回 文学作品、説明文の模擬授業</p> <p>29回、30回 一年の反省会</p>
テキスト	指定しない
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	小学校の学級経営、及び授業実践など多方面にわたって、授業に取り入れる。
質問への対応方法	・個人及び全体を問わず、随時受け入れ全体で共有して問題解決にあたる。
フィードバックの方法	・個人ファイルを作成し、授業及び個人で振り返りができるようにする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・模擬授業の準備、参考文献の学習など、授業に合わせて課題を提示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	<p>1. 情報収集力</p> <p>2. 情報分析力</p> <p>3. 課題発見力</p> <p>4. 構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>2. 協同力</p> <p>7. 課題発見力</p> <p>8. 計画立案力</p> <p>9. 実践力</p>

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション 各ゼミ	授業の説明、担当教員の紹介、ゼミメンバー顔合わせ、オリエンテーションテキスト「子どもはみんな問題児」予習・・・指定されたページまで読む。	
2	教育者としての教養 各ゼミ	テキスト「子どもはみんな問題児」ディスカッション 予習・・・指定されたページまで読む。	
3	教育者としての教養 各ゼミ	(テキスト「子どもはみんな問題児」ディスカッション 予習「教育とはなにか」第1章を読む。	
4	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第1章 レポーターによる報告とディスカッション 予習「教育とはなにか」第2章を読む。	
5	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第2章 レポーターによる報告とディスカッション 予習「教育とはなにか」第3章を読む。	
6	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第3章 レポーターによる報告とディスカッション 予習「教育とはなにか」第4章を読む。	
7	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第4章 レポーターによる報告とディスカッション 予習「教育とはなにか」第5章を読む。	
8	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第5章 レポーターによる報告とディスカッション 予習「教育とはなにか」第6章を読む。	
9	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第6章 レポーターによる報告とディスカッション 予習「教育とはなにか」第7章を読む。	
10	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第7章 レポーターによる報告とディスカッション 予習「教育とはなにか」第8章を読む。	
11	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第8章 レポーターによる報告とディスカッション 予習「教育とはなにか」第9章を読む。	
12	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第9章 レポーターによる報告とディスカッション 予習「教育とはなにか」第10章を読む。	
13	教育者としての教養 各ゼミ	教育とはなにか第10章 レポーターによる報告とディスカッション	
14	教育者としての教養 各ゼミ	「教育者としての教養」について、学んだことをまとめる。	
15	教育者としての教養 各ゼミ	「どのような教育者になりたいか」を考え、まとめる。	

開講科目名 Course	基礎演習II(通) / Introductory Study Group I
時間割コード Course Code	59102
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	多川 則子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 K 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	多川 則子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1年次基礎演習Iに引き続き、教育保育職を目指す学生にとって必要な基本的知識と技能の習得を目指す。また、教育保育職についての理解を深め、自分の進路を方向付ける。</p> <p>知識・理解の領域 基礎演習Iでの学び、他の授業で得た知識、実践や実習を通しての学びを踏まえ、教育保育職についてのより深い理解につなげる。 専門知識の理解と共に、人間的・社会的な視野を広げること、社会人として教養・見識を深める。</p> <p>技能の領域 これまで学んだ教育保育にかかわる基礎的な技能のレベルアップを図る。 大学生として自ら学ぶスキルのレベルアップを図り、専門演習?の学習へつなげる。</p> <p>態度・志向性の領域 保育職(幼稚園、保育所、施設)・小学校教員など、自分のキャリアビジョンについて考える。 また、それに向けてやるべきことや自らの課題を見つけ、取り組むことができる。 ゼミ活動、全体活動を通し、自らの行動をコントロールすること、他者と協働的に活動することを体験し、その意義を知る。</p>
授業の概要	<p>この授業は、各ゼミで行うゼミ活動と、2年生全体で行う全体活動がある。いずれの活動も、上述の授業目標を達成するために、様々な学習活動や体験活動を行う。そのため、授業時間外での学習、準備等が必須である。</p> <p>ゼミ活動 担当教員と相談しながら、学生自ら主体的に様々な学習活動、体験活動を計画し、学びを深める。</p> <p>前年度の活動例 ・実習関係の活動(教材作り、日誌指導案の書き方、反省会など) ・課題・レポート作り(書き方、プレゼン、SDGs調べ学習など) ・話し合いや討論会など ・大学祭や地域のお祭りへの参加 ・親睦会などのレクリエーション ・個人面談</p> <p>全体活動 学年全体での、実践的な学び、キャリアビジョン形成、ゼミ活動の共有のためのプログラムを展開する。なお、大学祭での子ども向け企画にゼミ毎の参加を推奨する。積極的に参加してほしい。</p> <p>本授業に関する質問へは随時対応するので、ゼミ教員または他の担当教員へ申し出てほしい。</p>
評価方法	授業への参加姿勢、課題への取り組みの姿勢、課題や提出物により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席回数が3分の1を超えた場合は失格とする。

授業計画	ゼミ活動 担当教員と相談しながら、学生自ら主体的に様々な学習活動、体験活動を計画し、学びを深める。 。前年度の活動例 ・実習関係の活動（教材作り、日誌指導案の書き方、反省会など） ・課題・レポート作り（書き方、プレゼン、SDGs調べ学習など） ・話し合いや討論会など ・大学祭や地域のお祭りへの参加 ・親睦会などのレクリエーション ・個人面談 全体活動 学年全体での、実践的な学び、キャリアビジョン形成、ゼミ活動の共有のためのプログラムを展開する。なお、大学祭での子ども向け企画にゼミ毎の参加を推奨する。積極的に参加してほしい。
テキスト	指定しない
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループ単位のディスカッション、グループ毎（全体）に発表、学外での体験活動など。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応 メール対応：tagawa@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	随時対応
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	レジメ作成、体験活動の準備等（60時間程）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 7. 課題発見力

開講科目名 Course	基礎演習II(通) / Introductory Study Group I
時間割コード Course Code	59103
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2
主担当教員 Main Instructor	長江 美津子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 E 多目的講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	長江 美津子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1年次基礎演習1に引き続き、教育保育職を目指す学生にとって必要な基本的知識と技能の習得を目指す。また、教育保育職についての理解を深め、自分の進路を方向付ける。</p> <p>知識・理解の領域 基礎演習1での学び、他の授業で得た知識、実践や実習を通しての学びを踏まえ、教育保育職についてのより深い理解につなげる。 専門知識の理解と共に、人間的・社会的な視野を広げること、社会人として教養・見識を深める。</p> <p>技能の領域 これまで学んだ教育保育にかかわる基礎的な技能のレベルアップを図る。 大学生として自ら学ぶスキルのレベルアップを図り、専門演習?の学習へつなげる。</p> <p>態度・志向性の領域 保育職(幼稚園、保育所、施設)・小学校教員など、自分のキャリアビジョンについて考える。 また、それに向けてやるべきことや自らの課題を見つけ、取り組むことができる。 ゼミ活動、全体活動を通し、自らの行動をコントロールすること、他者と協働的に活動することを体験し、その意義を知る。</p>
授業の概要	<p>この授業は、各ゼミで行うゼミ活動と、2年生全体で行う全体活動がある。いずれの活動も、上述の授業目標を達成するために、様々な学習活動や体験活動を行う。そのため、授業時間外での学習、準備等が必須である。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業への参加姿勢、課題への取り組みの姿勢、課題や提出物により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	通年授業の内、12回以上の欠席は失格。

授業計画	<p>ゼミ活動 担当教員と相談しながら、学生自ら主体的に様々な学習活動、体験活動を計画し、学びを深める。</p> <p>前年度の活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習関係の活動（教材作り、日誌指導案の書き方、反省会など） ・課題・レポート作り（書き方、プレゼン、小論文作成など） ・話し合いや討論会など ・大学祭や地域のお祭りへの参加 ・親睦会などのレクリエーション ・個人面談 <p>全体活動 学年全体での、実践的な学び、キャリアビジョン形成、ゼミ活動の共有のためのプログラムを展開する。なお、学外での子ども向け企画にゼミ毎の参加を推奨する。積極的に参加してほしい。</p>
テキスト	指定しない
参考書	随時紹介
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<p>保育者に必要な保育実技や資質能力等を実践をとおして身に付けていくことを中心に行っていく。例えば、子育て支援や保育施設での活動等。従って、その内容や進め方等、学生間の話し合いや教員とのやり取りを交わしながら進めていくことになる。</p>
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	<p>教員の幼稚園や保育所勤務経験を活かし、保育現場に生かせる遊びや保育技術を教授する。また、積極的に保育や子育て支援の場に出かけ体験から保育者として必要な資質が養われるようにする。</p>
質問への対応方法	本授業に関する質問へは随時対応
フィードバックの方法	<p>ゼミで進めている内容について、学生全員が共通理解を図りながら同じゼミ目標に向かい進めて行けるように、毎回確認作業を行う。方法は、授業内またはクラスルーム等を通して行う。</p>
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>本授業は、各ゼミで行うゼミ活動と、2年生全体で行う全体活動がある。いずれの活動も、授業目標を達成するために、様々な学習活動や体験活動を行う。そのため、授業時間外での学習、準備等が必須となる。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>3.すべての人に健康と福祉を</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	<p>1.親和力</p> <p>2.協同力</p> <p>8.計画立案力</p> <p>9.実践力</p>

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション ゼミ活動	授業の説明、担当教員の紹介、ゼミメンバー顔合わせ	
2	読書感想文 ゼミ活動	1組は竹林整備の体験、2組は伝承遊びの体験 これらの体験に関するレポートを作成する(2時間の復習)	
3	読書感想文 ゼミ活動	伝承遊びの体験 折り紙(紙でっぼう、紙風船、ツル等) けん玉(大皿・中皿、小皿、剣先)、あやとり(パンパンほうき、1段梯子~5段梯子)、指編み、コマ回し(綱渡り、お盆返し) これらの体験に関するレポートを作成する(2時間の復習)	
4	読書感想文 ゼミ活動	伝承遊びの体験 折り紙(紙でっぼう、紙風船、ツル等) けん玉(大皿・中皿、小皿、剣先)、あやとり(パンパンほうき、1段梯子~5段梯子)、指編み、コマ回し(綱渡り、お盆返し) これらの体験に関するレポートを作成する(2時間の復習)	
5	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	伝承遊びの体験 折り紙(紙でっぼう、紙風船、ツル等) けん玉(大皿・中皿、小皿、剣先)、あやとり(パンパンほうき、1段梯子~5段梯子)、指編み、コマ回し(綱渡り、お盆返し) これらの体験に関するレポートを作成する(2時間の復習)	
6	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	伝承遊びの体験 折り紙(紙でっぼう、紙風船、ツル等) けん玉(大皿・中皿、小皿、剣先)、あやとり(パンパンほうき、1段梯子~5段梯子)、指編み、コマ回し(綱渡り、お盆返し) これらの体験に関するレポートを作成する(2時間の復習)	
7	ゼミで計画した内容 ゼミ活動	伝承遊びの体験 折り紙(紙でっぼう、紙風船、ツル等) けん玉(大皿・中皿、小皿、剣先)、あやとり(パンパンほうき、1段梯子~5段梯子)、指編み、コマ回し(綱渡り、お盆返し) これらの体験に関するレポートを作成する(2時間の復習)	
8	大学祭子ども向け企画について ゼミ活動	10月に開催される大学祭で、子ども向け企画についての紹介・説明 これまでの大学祭の企画について説明 ゼミでどのような企画を行うのか話し合う。 大学祭の企画について意見交換を行う。 どのような企画が実行可能か調べておく(2時間の予習)	
9	大学祭子ども向け企画の計画 ゼミ活動	計画立案 調べてきたことをもとに具体的な計画を立てる 話し合いの内容や今後の予定をまとめる(2時間の復習)	
10	大学祭子ども向け企画準備 ゼミ活動	準備・練習(1) 企画の準備をする(2時間の復習)	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
11	大学祭子ども向け企画準備 ゼミ活動	準備・練習(2) 企画の準備をする(2時間の復習)	
12	大学祭子ども向け企画準備 ゼミ活動	準備・練習(3) 企画の準備をする(2時間の復習)	
13	大学祭子ども向け企画準備 ゼミ活動	準備・練習(4) 企画の準備をする(2時間の復習)	
14	大学祭子ども向け企画準備 ゼミ活動	準備・練習(5) 企画の準備をする(2時間の復習)	
15	前期の振り返り ゼミ活動	(活動例) 課題設定 教育・保育に関わる現代的課題について トピックを取り上げディスカッションを行う ニュースを見たり、新聞を読んだりして 、自分が関心のあるテーマを選んでおく (2時間復習)	

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59200
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	<p>知識・理解の領域 様々な音楽教育法を理解する。</p> <p>技能の領域 自ら興味を持ったテーマについて、資料収集し、まとめ、プレゼンテーションする力を培う。 様々な音楽教育法を実践するための技術を身につける。</p> <p>態度・志向性の領域 自ら進んで子ども向けのイベント企画したり、子どもと関わったりする。また、子どものための教材開発を行う。</p>
授業の概要	<p>【対面授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.音楽教育分野の文献購読を行い、理解したことをレジュメにまとめ、ゼミ内で発表する。 2.ゼミ内で意見交換を行う。 3.実践を通して各教育法の特徴をつかむ。 4.子どもと関わりながら、実践する。 5.子どもが興味をもって音楽を学べるような教材開発を行う。
評価方法	授業・イベントへの参加、課題により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業への参加 (授業回数の2/3以上の参加が求められる。)
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2.3. カール・オルフ 4.5. コダーイ・ゾルタン 6.7. エミール=ジャック・ダルクローズ 8.9. ルドルフ・シュタイナー 10.11. マリー・シェーファー 12.13 伊沢修二 14.15 ローヴェル・メーソン 16.17 ルーサー・ホワイトティング・メーソン 18.19 鈴木鎮一 20. まとめ 21.22. 研究テーマ設定 23.24. 資料収集 25.26. 発表準備 27.28. 発表 29.30. 発表とまとめ
テキスト	適宜紹介する。

参考書	適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・各自が卒論のテーマとして興味のあることについて調べ、発表をし、討議を行う。 ・子どもの音楽技術技能・知識習得のための教材を開発し、ゼミ内外で発表実践する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	適宜、研究室、メール等にて対応する。 また、研究室隣にピアノ練習室や音楽室等を適宜解放し、授業時間外にも練習・研究が出来る環境を整える。
フィードバックの方法	適宜個人面談を行い、それぞれの課題発見、課題解決に向けてアドバイスを行う。また、ゼミ全体でのフィードバックも半期に一度程度行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	発表のための資料収集、他のゼミ生の発表の振り返り、教材作成等、適宜行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59201
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	飯田 幸恵
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 A 1 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 幸恵 (教育保育学科)
授業の目標	1. 文献講読を行い、教育学・保育学の基礎知識を習得する。 2. 各自の関心に合わせてテーマ設定、資料収集、発表原稿作成、発表ができるようにする。 3. 課題意識を持ち、考察を行う姿勢を身につける。
授業の概要	前期は、教育学・保育学の文献を講読し、自らの関心に合ったテーマの設定を行い、研究計画を作成する。 後期は、自ら設定したテーマに沿って資料収集、発表原稿作成、発表を行い、全体で検討を行う。
評価方法	授業への取り組み・課題等から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	全授業回数数の3分の1を超えて欠席した場合は、失格となる。

授業計画	1. 授業の説明 2. 教育学の文献講読（教育思想） 3. 教育学の文献講読（教育思想） 4. 教育学の文献講読（教育思想） 5. 教育学の文献講読（教育思想） 6. 保育学の文献講読（保育思想） 7. 保育学の文献講読（保育思想） 8. 保育学の文献講読（保育思想） 9. 保育学の文献講読（保育思想） 10. 子どもの遊び・創造活動・絵本等に関する文献講読 11. 子どもの遊び・創造活動・絵本等に関する文献講読 12. 子どもの遊び・創造活動・絵本等に関する文献講読 13. 子どもの遊び・創造活動・絵本等に関する文献講読 14. テーマの設定と研究計画作成 15. テーマの設定と研究計画作成 16. 資料収集 17. 資料収集 18. 資料収集 19. 資料収集 20. 資料収集 21. 発表原稿作成 22. 発表原稿作成 23. 発表原稿作成 24. 発表原稿作成 25. 発表原稿作成 26. 発表・検討会 27. 発表・検討会 28. 発表・検討会 29. 発表・検討会 30. まとめ
テキスト	授業時に指示する。
参考書	適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	アクティブラーニング
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後に対応する。
フィードバックの方法	次回の授業時にフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回授業の予習・復習を行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59202
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	家接 哲次
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 J 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	家接 哲次 (教育保育学科)
授業の目標	<p>近年注目されてきているマインドフルネスは今後の心理療法の中核になっていくと思われる。本講ではこのマインドフルネスを中心に様々な臨床心理学的知識と体験を深める。</p> <p>学習成果として下記の点が期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学について興味を持つ。 2. 臨床心理学の基本的知識とスキルを獲得する。 3. 臨床心理学の知識とスキルを利用して、初歩的な援助ができる。 <p>また、下記の能力および力が得られるのが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人に相応しい論理的思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力。 ・社会にしっかり向き合い、習得した知見に基づいて人の成長と社会のあり方に関心を持ち続ける力。 ・それまでに出会ったことのない出来事に遭遇した時に、適切な対応ができる「考える力」。
授業の概要	<p>対面授業</p> <p>まず心の健康とマインドフルネスの関係を学ぶ。それを土台にして、臨床現場で実施されているマインドフルネス瞑想およびムーブメントを体験し、振り返りを行う。</p>
評価方法	<p>授業への参加態度で評価する。また授業中にレポートを課す場合があるが、その際の評価基準は下記である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 心の病の対処法について関心をもち、正しく理解ができている (関心・理解) 2) 理解したことを正確に表現できる (表現) 3) 心の健康に関して適切な対処ができる準備ができている (応用・表現)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席数が多い場合は失格となることがある。

授業計画	1 ガイダンス 2 臨床心理学 3 デフォルトモードネットワーク (1) 4 デフォルトモードネットワーク (2) 5 デフォルトモードネットワーク (3) 6 デフォルトモードネットワーク (4) 7 反すう 8 脳の可塑性 9 自動操縦状態 10 脱中心化 11 セルフコンパッション 12 マインドフルネス瞑想 (ボディスキャン 1) 13 マインドフルネス瞑想 (ボディスキャン 2) 14 マインドフルネス瞑想 (ボディスキャン 3) 15 マインドフルネス瞑想 (ボディスキャン 4) 16 マインドフルネス瞑想 (呼吸) 17 マインドフルネス瞑想 (呼吸と身体) 18 マインドフルネス瞑想 (呼吸、身体、音、身体、無選択の意識) 19 マインドフル立位ムーブメント (1) 20 マインドフル臥位ムーブメント (1) 21 マインドフル立位ムーブメント (2) 22 マインドフル立位ムーブメント (2) 23 マインドフル立位ムーブメント (3) 24 マインドフル臥位ムーブメント (3) 23 マインドフル立位ムーブメント (4) 24 マインドフル臥位ムーブメント (4) 25 マインドフル立位ムーブメント (5) 26 マインドフル臥位ムーブメント (5) 27 マインドフル立位ムーブメント (6) 28 マインドフル臥位ムーブメント (6) 29 マインドフルネス瞑想 (ボディスキャン 5) 30 マインドフルネス瞑想 (サイレント)
テキスト	適宜紹介する
参考書	適宜紹介する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	臨床現場で実施されているマインドフルネス瞑想およびムーブメントを体験し、振り返りやディスカッションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の中で基本的に対応するが、授業前後でも対応可能である。
フィードバックの方法	必要に応じて、口頭またはメール等でフィードバックを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業中に提示する参考図書を読むこと
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1 ~ 10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標 (11 ~ 17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59203
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	早川 健太郎
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 L 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川 健太郎 (教育保育学科)
授業の目標	この授業では、子どもの心身の発達や健康などについて探求していく。また、学生自身の研究テーマの設定や研究手法を検討していくなかで、卒業論文を構想していくことが目標となる。具体的には、子どもの健康に関連する論文の検索の仕方や読み方、研究方法の立て方が分かる。また簡単な統計手法による研究結果の内容を理解できる。
授業の概要	保育者や教師の視点に立って、子どもの健康に関して知識を深め、どのような課題があるのかを正確に認識した上で、問題を探求していく。具体的には以下のような学習を行う。 先行研究における子どもの心身の健康についての課題の探求 先行研究から研究の視点や研究の方法を学び、データ処理やレポート作成の仕方 自分の研究テーマの設定 なお、学習は教員からの一方的な指導ではなく、学生同士の議論を中心に進めていきたい。能動的、積極的な参加を期待する。
評価方法	課題の遂行状況や取り組みの姿勢・受講態度、レポート等の内容で総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	課題が連続で未提出の場合 ディスカッションに不参加の場合
授業計画	授業の具体的な内容は次の通りである。 1．子どもの心身の健康に関する先行研究について(1-10回) ・先行研究の紹介 ・先行研究の読み方と検索の仕方について ・先行研究から読み解く子どもの心身の健康指導の在り方について 2．実験・調査について(11-20回) ・実験・調査を行うための準備の仕方と注意事項について ・実験・調査を実施について ・実験・調査結果のデータ処理について ・レポートの作成について ・発表の仕方について 3．卒業論文のテーマ課題設定について(21-30回) ・テーマの探し方 ・テーマの明確化
テキスト	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて随時受け付ける (hayakawa-k@nagoya-ku.ac.jp) 必要であれば授業ご対応する。
フィードバックの方法	その場にてフィードバックする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 毎回の課題に対してインターネット等を使用し情報を収集する。(90分) 予習 行った内容を整理しまとめておくこと(90分)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59204
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	小島 千枝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 H演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小島 千枝 (教育保育学科)
授業の目標	<p>人間形成の基礎を育む大事な時期である幼児期を理解するための理論を理解し、実践例や文献を通して、体験からの学びを読み取る。同時に実際の現場からの体験や映像を通して、理解を深め、卒業研究を行うための基盤となる知識や技術を取得する。</p> <p>【知識・理解の領域】 保育実践事例の内容について、子どもの発達面と内面理解の両面から説明ができる。</p> <p>【技能の領域】 ・保育実践記録や映像から、子どもが生活や遊びの中で体験していることの意味を読み取り、レポートにまとめることができる。 ・分かりやすい研究発表ができる。 ・子どもたちの多様な経験に繋がる保育技術が身につく。</p> <p>【態度・志向性の領域】 ・子どもの育ちに繋がる保育者の援助の重要性について、自らの意見を持ち、ゼミの中で積極的な議論を交わす姿勢が身につく。 ・より専門的な知見を自ら収集、保育の内容を深めようとする態度が身につく。</p>
授業の概要	<p>本演習は子どもたちの発達を促す遊びや保育技術の習得と、「子どもたちが日々の遊びや生活の中で体験していることは何か、学んでいることは何か」を読み取る力を身につけるために、保育実践記録からの子どもの心と体の育ちの検討や、子どもたちが発達に必要な体験が得られるための保育者による保育環境の構成や保育者の援助について学んでいく。</p> <p>また、各自の興味や関心に基づく保育実践事例の収集、要約、検討、まとめの文章化、発表へと進めていく。</p>
評価方法	<p>出席と発表内容、及び参加姿勢で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加姿勢50% ・レポート発表30% ・自己向上への取り組み20%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 遊びを中心とした保育をめざす 3. 領域の理解 4. 領域の理解 5. 領域の理解 6. 領域の理解 7. 領域の理解 8. 領域の理解 9. 保育実践を支える研究的姿勢 10. 保育実践を支える研究的姿勢 11. 保育実践を支える研究的姿勢 12. 保育実践の振り返り 13. 保育実践の振り返り 14. 3歳未満児の子どもの遊びと発達 15. 前半のまとめ 16. テーマ設定 17. 事例収集 18. 事例収集 19. 事例収集 20. 事例分析 21. 事例分析 22. 事例分析 23. 発表に向け原稿作成 24. 発表に向け原稿作成 25. 発表に向け原稿作成 26. 中間発表 質疑応答 27. 発表1 質疑応答 28. 発表2 質疑応答 29. 発表3 質疑応答 30. まとめ
テキスト	授業内で、適宜提示する
参考書	授業内で、適宜提示する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育・教育に関する諸課題についてグループワークを行い、多角的な視点を学ぶ。 ・犬山市内の各施設を見学し、現場からの学びの意見交換を行う。 ・遊びの研究を行い、実践をする。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	40年間犬山市公務員、保育職として勤務し、保育士、管理職として実績を積む。その経験を生かして子どもの見方、保育の方法、保護者の立場に立った支援などについて授業を行う。
質問への対応方法	オフィスアワーで対応
フィードバックの方法	・実技を通して指導・助言する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	子どもの行動、心理についての観察記録。 保育方法についての具体的なやり方の研究、実施後の反省をまとめる。自分自身のフォローアップにつなげる学習を行う。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	オリエンテーション		
2	遊びを中心とした保育をめざす	事例検討・・・遊びの理解、心の安定の必要性	
3	領域の理解	事例検討・・・養護と教育の理解、相互の関連性、保育士の役割	
4	領域の理解	事例検討・・・健康の領域 事例を通して学ぶ、「健康」の内容、子どもの体について	
5	領域の理解	事例検討・・・人間関係 事例を通して学ぶ、「人間関係」の内容、子どもの心と行動について	
6	領域の理解	事例検討・・・環境 事例を通して学ぶ、「環境」の内容、良い環境を作るといこと、保育士の役割	
7	領域の理解	事例検討・・・言語 事例を通して学ぶ、「言語」の内容、コミュニケーションについて	
8	領域の理解	事例検討・・・表現 事例を通して学ぶ、「表現」の内容、子どもにとっての表現について	
9	保育実践を支える研究的姿勢	体験から学ぶ(保育所) 現場体験を通して保育を感じる、自分の言葉で語る、養護と教育について	
10	保育実践を支える研究的姿勢	体験から学ぶ(子育てひろば) 現場体験を通して保育を感じる、自分の言葉で語る、保護者支援について	
11	保育実践を支える研究的姿勢	体験から学ぶ(幼稚園) 現場体験を通して保育を感じる、自分の言葉で語る、子どもの学びについて	
12	保育実践の振り返り	保育所実習記録から子ども理解や保育者の役割を考える1	
13	保育実践の振り返り	保育所実習記録から子ども理解や保育者の役割を考える2	
14	3歳未満児の子どもの遊びと発達	保育所における3歳未満児の保育の理解 家庭生活と保育所、生活と遊びの世界、一人一人の保育について	
15	前半のまとめ	ゼミ反省会	

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59205
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 I 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもの幸せを第一に考えて実践できる保育者・教育者、または、地域を構成する一員となることを目標に演習をすすめる。</p> <p>以下3点を本授業の目標に設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを取り巻く環境について、多角的に分析し、課題を発見する力を養う。 2. 学んだ成果から子どもの育ちを支えることのできる実践力を養う。 3. 4年次の専門演習で深めてみたい受講者各自の研究テーマを発見する。
授業の概要	<p>子どもを取り巻く環境について、調査報告書や統計資料などから現状を把握し、課題発見にむけての意見交換を行う。</p> <p>同時に、実践活動も実施しながら、実践での学びを題材に、子どもの最善の利益の保障に関する理念や実態の理解をより深める。</p> <p>いずれの活動も学生相互、学生と教員の学び合いを大切に、意見交流を中心に進める。</p> <p>なお、学外で実施する実践活動については、状況により実施の有無を判断する。</p> <p>授業へは、授業外での事前の準備を要することもある。事後もその日の演習内容を振り返るとともに、次の準備活動へつなげる事が必要となる。</p> <p>質問へは、その都度対応する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	演習や授業課題への取り組み姿勢 (70%)、提出物の成果など (30%) から総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1回オリエンテーション</p> <p>第2～7回保育者・教育者 (社会人) に必要な専門的力について考える (1)</p> <p>第8～11回設定したテーマの資料読解、及び、意見交換</p> <p>第12～14回保育者・教育者 (社会人) に必要な専門的力について考える (2)</p> <p>第15回前期のまとめ</p> <p>第16回夏休みの振り返り、後期の活動のオリエンテーション</p> <p>第17～19回オレンジリボン運動 (児童虐待防止啓発活動) への参加: 資料分析、発表による学び合い、啓発活動への参加</p> <p>第20～21回各自のキャリア形成につなげる研究テーマ設定</p> <p>第22～24回設定したテーマに沿った資料収集、実践、プレゼンテーションの準備</p> <p>第25～26回プレゼンテーションを中心とした学び合い</p> <p>第27回プレゼンテーションの振り返り、改善</p> <p>第28～29回プレゼンテーションを中心とした学び合い</p> <p>第30回1年間のまとめ、次年度に向けて</p> <p>学外における保育実践への参加可能状況によって、上記授業計画を変更する場合もある。</p>

テキスト	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が準備した課題について、自らの力で、あるいは、受講学生同士が協力して正答を導く。 ・教員が準備した課題について、受講学生自らが調べ、発表の準備をし、討議を通して学び合う。 ・各自が設定したテーマについて、受講学生が発表の準備をし、討議を討議を通して学び合う。 ・教員あるいは各自が設定したテーマについて、学んだことを多様な方法で表現する（表現方法も受講学生間で検討する）。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内外問わず、適宜対応する。
フィードバックの方法	各回の授業や活動の区切りなど、適切なタイミングで、口頭・提出物へのコメント記載、メールなどを用いて行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業で扱うテーマについて、また、各自が設定したテーマについて、事前の調べ学習、発表に向けての準備、発表後の振り返りのために少なくとも1時間は要する。その他、学外活動を実施する際は、授業時間外に準備を行うこともある。ゼミの時間を有効に使用するためにも、各自が事前の学習を行っておくこと、事後には各自が振り返りをあらかじめ行っておくことが求められる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 貧困をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59206
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	多川 則子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 K 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	多川 則子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>子どもとかかわる体験活動(学外)や大学祭などの実践を通して、保育者・教育者としての力量を身に付ける。また、卒論に向けて、興味を持ったテーマについて調べ、レジメやレポートにまとめるなどのスキルの獲得を目指す。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達段階毎の子どもの姿を捉える。 学術的な先行知見のまとめ方を知る。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの育ちを支援することのすばらしさやおもしろさを実感する。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもへ関わる、接する、声をかける、経験をする。 学術的な知見の調べ方、引用の仕方を知る。
授業の概要	<p>4年生ゼミ生と合同で活動を行う。</p> <p>1) 地域の体験活動への参加: 小牧市ジュニアセミナー(7月予定)を含め、いくつかの活動へ参加予定。計画立案、準備活動、振り返りの一連の活動を行う。</p> <p>2) 研究課題: 体験に絡めたテーマを設定したり、各自で関心のあるテーマを選ぶなどする。文献を探し、レジメやレポートにまとめる、発表するを繰り返し実施する。</p> <p>3) 4年生の卒論経過報告、中間発表会、卒論発表会等に参加する。</p> <p>4) 実習の報告会を適宜実施する。</p>
評価方法	出席状況、授業・課題への取り組む姿勢、最終レポートなどにより総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席過多の場合。
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回 オリエンテーション・活動計画</p> <p>第2回～14回</p> <p>子どもとかかわる体験活動__学習・企画・準備・実践・振り返り(7回)</p> <p>研究課題__文献学習・資料作成・発表(5回)</p> <p>実習振り返り(1回)</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>後期</p> <p>第1回 オリエンテーション・活動計画</p> <p>第2回～14回</p> <p>子どもとかかわる体験活動__学習・企画・準備・実践・振り返り(7回)</p> <p>研究課題__文献学習・資料作成・発表(5回)</p> <p>実習振り返り(1回)</p> <p>第15回 まとめ</p>

テキスト	指定しない。
参考書	『造形あそび- “体験”が感性を育む (これからの保育シリーズ6)』 深谷ベルタ 風鳴舎 2018年 『子どもの発達と描画活動の指導 描く楽しさを子どもたちに』 田中義和 ひとなる書房 2011年 『幼・保・小 で役立つ絵本から広がる表現教育のアイデア-子供の感性を豊かに育むために-』 山野てるひ・岡林典子・水戸部修治 一藝社 2018年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループによるディスカッション、造形活動、実践および準備活動等。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。メール対応可。 tagawa@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	活動後は、随時振り返りのディスカッションを行う。また、個別面談にて伝達する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	学外での実践日は授業外の時間となり、実践準備活動では授業外作業もある（合計16時間程）。また、発表時には文献研究やレジメやレポート作成が宿題となる（合計14時間程）。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59208
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	田中 秀佳
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	田中 秀佳 (教育保育学科)
授業の目標	1 教育・保育・福祉の実践的内容ではなく、それらを枠付け、保障 するための行政・制度に焦点を当て、テキストをもとに、当該分野の行政・制度の特徴と課題を学び取る。 2 行政・制度の面からみた教育・保育・福祉の諸課題について、それらを理解し、分析する力を身につける。 3 演習を通じて、論理的な思考と表現 (文献をはじめとする様々な 情報を読み取ること、それらをまとめること、まとめた内容を他 者に伝え、説明すること、自らの考えを持ち、他者の考えを理解 し、議論すること) を修得する。
授業の概要	本授業は対面授業で行います。 前半は、テキストを参考文献や行政資料を用いて読み取り、各自が要約と論点提示をおこない、参加者によって検討をおこなう。 後半は、各自の関心に基づいて、教育・保育・福祉分野の課題を検討する。 また、教育・保育の現場や地域を知る目的から、いずれかの日程において学外の施設や機関でのフィールド・ワークを実施する予定である。
評価方法	ゼミでの活動状況 (報告にあたっての準備状況、レジュメ・報告の内容、ディスカッションへの参加程度等) により総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	活動の際に各自に求められる課題をおこなわない場合、あるいは参加の程度が著しく不十分な場合、失格となる。
授業計画	1 オリエンテーション 2から14 文献の講読、報告、議論およびそれらのための資料収集 15 まとめ 16 テーマ設定 17から25 検討課題に関する文献・資料収集、報告レジュメ作成、中間報告 26から29 報告・質疑 30 まとめ
テキスト	ゼミ内で検討の上、指示をする。
参考書	適宜、指示・紹介をする。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	毎回、設定したテーマについてディスカッションを実施することを基本とする。また前提として、事前および事後の主体的な時間外学習が必須となる。また、学生の関心に応じて、学外の教育・保育・福祉に関する機関等への見学やフィールドワークをおこなう場合がある。

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	現職の教育委員によって行われる授業であり、現在の教育現場・教育行政の知見や状況を直接的に反映させた、実践的・実地的な教育内容を提供する。
質問への対応方法	授業時、授業開始時、授業終了時、およびオフィス・アワーにおいて直接対応するほか、メール等ICTを用いて随時対応する。
フィードバックの方法	授業時、各回において過去の学習内容やディスカッションの内容を振り返ったり、再度学習素材とすることがあるほか、メール等ICTを用いてフィードバックをおこなう。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回、設定したテーマについてディスカッションを実施することを基本とする。また前提として、事前および事後の主体的な時間外学習が必須となる。また日常的に新聞を読む習慣をつけておくことをゼミ参加の前提とする。単位数に応じた課外学習が必須となることは言うまでもない。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59209
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	30A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)
授業の目標	<p>1. 美術・図画工作科教育に関する教育法全般 (理論・実技) について理解を深め、技能を習得する。</p> <p>2. 美術・図画工作科教育の理論的、実践的研究の主題・テーマについて構想・設定し、個々のテーマに沿って研究・探究する。</p> <p>3. 以上の活動を通して、美術・図画工作科教育についての総合的実践能力を獲得し、社会展開のための技術・技能を身に付ける。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・美術・図画工作科教育の概要 ・美術・図画工作科教育の歴史と内容 ・幼保における「表現領域」小学校における各学年の指導内容の理解 ・指導の実際と課題及び実技に関する演習 ・教材・教具についての理解と技能の習得 ・美術・図画工作科の実践的活動 <p>なお、質問への対応は随時行う。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	出席状況・参加態度・レポート・課題等から総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>1. ガイダンス、オリエンテーション</p> <p>2～3. 美術・図画工作科教育の概要</p> <p>4～5. 美術・図画工作科教育歴史と内容</p> <p>6～8. 幼稚園・保育所における造形活動「表現領域」の理解</p> <p>9～11. 小学校における各学年の指導内容の理解 (低学年)</p> <p>12～14. 小学校における各学年の指導内容の理解 (中学年)</p> <p>15～17. 小学校における各学年の指導内容の理解 (高学年)</p> <p>18～20. 指導の実際と課題及び実技に関する演習</p> <p>21～23. 教材・教具についての理解と技能の習得</p> <p>24～26. 美術・図画工作科の実践的活動</p> <p>27～30. 理論的、実践的研究の主題・テーマについて、構想・設定・探究</p>
テキスト	適宜、授業内にて紹介する。
参考書	適宜、授業内にて紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>1．ガイダンス、オリエンテーション</p> <p>2～3．美術・図画工作科教育の概要……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p> <p>4～5．美術・図画工作科教育歴史と内容……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p> <p>6～8．幼稚園・保育所における造形活動「表現領域」の理解……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p> <p>9～11．小学校における各学年の指導内容の理解（低学年）……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p> <p>12～14．小学校における各学年の指導内容の理解（中学年）……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p> <p>15～17．小学校における各学年の指導内容の理解（高学年）……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p> <p>18～20．指導の実際と課題及び実技に関する演習……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p> <p>21～23．教材・教具についての理解と技能の習得……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p> <p>24～26．美術・図画工作科の実践的活動……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p> <p>27～30．理論的、実践的研究の主題・テーマについて、構想・設定・探究……各回、配布資料を参考に、予習1時間・復習1時間行うこと</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59210
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	東岡 博
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 G 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	東岡 博 (教育保育学科)
授業の目標	<p>【目標】</p> <p>小学校教員として必要な資質・能力等を身につけ、小学校教員を目指す意欲を高め合う。授業づくりについての理解を深め、児童への指導・支援のあり方について学び合う。</p> <p>[重点努力目標]</p> <p>小学校教員の職務や現場の状況・課題についての把握に積極的に努め、小学校教員を目指す意欲を高めることができる。</p> <p>主体的・対話的で深い学びの授業について探求し、授業づくりに生かすことができる。実際の教育現場を知るために、学習支援ボランティアに積極的に参加することができる。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員に求められる資質・能力についての把握 ・小学校教員の職務や現場の状況・課題についての把握 ・課題を生かした教材研究及び教具の研究 ・授業のねらいを踏まえた学習指導案づくりや指導法の研究 ・研究内容の発表と研究協議 ・小学校教育実習に向けての心構えと準備 <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	探究活動や学び合いの様子、学習指導案づくりや模擬授業、レポートの内容等を通して総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>教師の果たすべき役割と求められる資質・能力について</p> <p>小学校学習指導要領の内容と改訂ポイントについて</p> <p>～ 教育現場の取り組みや課題の把握と検討</p> <p>～ 授業づくりに向けての基礎的な知識理解と工夫について</p> <p>～ 教材研究 (課題・導入の工夫)</p> <p>～ 主体的・対話的で深い学びのある授業展開の工夫について</p> <p>～ 学習指導案づくり</p> <p>～ 模擬授業の実践と研究協議の実施</p> <p>～ 評価の観点と評価方法について</p> <p>～ 研究内容のまとめと発表</p> <p>適宜、小学校教育実習の準備を取り入れる。</p>
テキスト	なし
参考書	・参考書および参考資料については、演習の中で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・模擬授業の実践と研究協議の実施など互いに学び合うことができる課題については、積極的に取り入れていく。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	・この授業では教育現場において、児童に算数等を指導した経験や、研究主任として授業づくりの中心として研究発表をした経験を生かし、探究活動を支えていく。
質問への対応方法	・授業時およびオフィスアワーで随時対応する。
フィードバックの方法	・随時、講義の終わりにふり返しを行うとともに、学習指導案やレポートは、翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・毎回、前時の内容についての2時間の復習と授業計画に基づく次時の内容に関する2時間の予習を課する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	13.気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I (通) / Advanced Study Group I
時間割コード Course Code	59211
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	日比野 博
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博 (教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校教育の理解を深めることにより、自信を持って児童に指導やかかわりをもつ方法を学び合う。 ・ 教員として必要な知識、技量等を身につけるための学習を進めるとともに、小学校教員の仕事の概要を把握し教諭を目指す意欲を高める。 <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 小学校の授業の組み立て方が理解できる。</p> <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業のねらいに則した授業展開や学習指導案の作成ができる。 ・ 指導のねらいに則した模擬授業ができる。 ・ 授業を行うために必要な教材・教具等の準備ができる。 <p>関心意欲の領域 分かる授業・楽しい授業をするための工夫をすることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 将来、小学校教員をめざす意欲を持つことができる。</p> <p>体験探求の領域 より教育現場を知るために、学習チューター等の教育ボランティアへの参加意欲を持つことができる。</p>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校教員の仕事や活動の概要把握 ・ 小学校教育の基礎分野の演習や授業づくり・指導法の研究 ・ 学習指導案作成や採用試験に向けての取組 ・ 教材の開発や活用についての研究 ・ 研究内容の発表・検討、研究協議 <p>質問等への対応 授業時およびオフィスアワーで随時対応する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること</p>
評価方法	参加姿勢・意欲、学習指導案作成、発表・研究協議、討論・レポート内容などを、総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	1～2 ガイダンス，小学校の学習指導要領の内容確認と把握 3～6 教員の仕事や現場での活動や課題の情報把握と検討 7～9 授業を目指すにあたっての基礎知識・心構えの習得 10～12 授業づくりについて研究やICTの活用法研究 13～16 授業を行うための教材研究・教材教具の工夫 17～22 指導案作成，模擬授業および研究協議，評価方法についての検討 23～27 教師として必要な知識，教職教養などの確認 28～30 研究内容のまとめ，発表
テキスト	
参考書	小学校学習指導要領
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ゼミ全体やグループごとで課題を設定し，議論や発表，研究協議等を通して小学校教育・指導法を深めていく。 随時，話し合い深めていく活動を取り入れ，実践的な活動を進めていく。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校の現場経験を踏まえた指導を生かし，現場に即した助言や指導をしていく。 時には，現役の講師による実習や研修を行うことも考えている。
質問への対応方法	授業中・授業後，オフィスアワーなどを通して，随時対応していく。
フィードバックの方法	学習指導案やレポート等は翌週に返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1～2 ガイダンス，小学校の学習指導要領の内容確認と把握 学習指導要領の予習と復習に計4時間課す 3～6 教員の仕事や現場での活動や課題の情報把握と検討 教員の仕事や様々な課題についての把握について6時間とまとめに2時間課す。 7～9 授業を目指すにあたっての基礎知識・心構えの習得 授業をするために必要なことについての予習に4時間とそのまとめに2時間を課す。 10～12 授業づくりについて研究やICTの活用法研究 ICTの活用事例や問題点の予習に4時間，そのまとめに2時間課す。 13～16 授業を行うための教材研究・教材教具の工夫 与えられた課題の指導案の教材研究に6時間，振り返りに2時間課す。 17～22 指導案作成，模擬授業および研究協議，評価方法についての検討 指導案作成に9時間，研究協議のまとめに3時間課す。 23～27 教師として必要な知識，教職教養などの確認 過去問等の復讐に5時間，振り返りに2時間課す。 28～30 研究内容のまとめ，発表 これまでのまとめに4時間，発表後のまとめに2時間課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group I I
時間割コード Course Code	59300
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	3 1 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	専門演習Iにおいて各自で設定した音楽と教育・保育に関わるテーマを研究をし、卒業論文を作成する。
授業の概要	音楽と教育・保育に関わる研究を計画する。その計画を元に文献購読・調査などを実施し、卒業論文を作成する。
評価方法	授業への積極的参加, 研究発表の内容, 研究の進捗状況などから評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	15回授業のうち、6回以上欠席した場合、失格とする。
授業計画	ディスカッション形式で行う。発表者は、自らのテーマ, 研究方法, 得られたデータ等を発表する。研究に対する感想, 疑問, 問題点について討論し, 発表者にフィードバックすることで, 研究のさらなる進行につなげていく。 前期 1 3回 テーマに即した参考文献購読 4 10回 論文に必要な情報の取捨選択 11 15回 研究計画の立案 後期 1 7回 アウトラインを作成し、収集した情報に自己分析を加える。 8 15回 論文執筆
テキスト	なし
参考書	石井一成 『ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方』 株式会社ナツメ社1,100円+税 白井利明・高橋一郎 『よくわかる卒論の書き方』 ミネルヴァ書房2,500円+税
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	随時、卒論テーマについてレジюме作成し、発表を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	質問には随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に応じて事前事後学習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group I I
時間割コード Course Code	59301
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	飯田 幸恵
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	2 A 1 情報処理室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 幸恵 (教育保育学科)
授業の目標	1. 文献講読を行い、教育学・保育学の専門知識を習得する。 2. 各自の関心に合わせてテーマ設定、資料収集、論文作成、発表ができるようにする。 3. 課題意識を持ち、考察を行う姿勢を身につける。
授業の概要	まず、自らの関心に合ったテーマの設定を行い、研究計画を作成する。次に、自ら設定したテーマに沿って資料収集、文献講読、論文作成を行う。さらに、論文の発表を行い、全体で検討を行う。
評価方法	授業への取り組み・論文内容等から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、失格となる。

授業計画	1. 授業の説明 2. テーマの設定と研究計画作成 3. テーマの設定と研究計画作成 4. 資料収集・文献講読 5. 資料収集・文献講読 6. 資料収集・文献講読 7. 資料収集・文献講読 8. 資料収集・文献講読 9. 資料収集・文献講読 10. 卒業論文作成 11. 卒業論文作成 12. 卒業論文作成 13. 卒業論文作成 14. 卒業論文作成 15. 中間発表会 16. 卒業論文作成 17. 卒業論文作成 18. 卒業論文作成 19. 卒業論文作成 20. 卒業論文作成 21. 卒業論文作成 22. 卒業論文作成 23. 卒業論文作成 24. 卒業論文作成 25. 卒業論文作成 26. 発表・検討会 27. 発表・検討会 28. 発表・検討会 29. 発表・検討会 30. まとめ
テキスト	授業時に指示する。
参考書	適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	アクティブラーニング
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業終了後に対応する。
フィードバックの方法	次回の授業時にフィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回授業の予習・復習を行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group I I
時間割コード Course Code	59302
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	家接 哲次
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 J 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	家接 哲次 (教育保育学科)
授業の目標	<p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 論文の書き方を理解し、各自の論文テーマに沿った構成等が適切にできる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自の論文テーマに則して、必要となる資料を収集し、論文を書き進めることができる。 アンケート調査などを通じ、結果と考察を記述することができる。 ゼミ内の報告会において、設定された時間内で各自の論文の主旨を発表できる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒論テーマの内容を、各自の今後の仕事等で生かしたり、引き続き探求する姿勢を示すことができる。
授業の概要	<p>研究テーマの設定、先行研究のレビューおよび問題点の同定、研究方法、データ分析、結果と考察の記載など研究の一連の流れを理解しながら、一つの論文を仕上げていく。</p> <p>*質問には随時対応する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業の参加態度、研究報告内容などで、総合的に評価する
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席数が多い場合は失格となることがある。
授業計画	<p>1 : ガイダンス</p> <p>2 ~ 6 : 先行研究のレビューおよび問題点の同定</p> <p>7 ~ 9 : 研究計画の作成</p> <p>10 ~ 15 : データ収集</p> <p>16 ~ 20 : データ分析</p> <p>21 ~ 25 : 結果と考察</p> <p>26 ~ 29 : 論文作成</p> <p>30 : 発表会</p>
テキスト	随時紹介する
参考書	随時紹介する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の中で基本的に対応するが、授業前後でも対応可能である。

フィードバックの方法	必要に応じて、口頭またはメール等でフィードバックを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業中に提示する参考図書を読むこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group I I
時間割コード Course Code	59303
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	久我 アレキサンデル
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 L 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	久我 アレキサンデル (教育保育学科)
授業の目標	<p>この授業では、領域「健康」の保育内容やその展開方法、幼・小体育の教科内容やその指導方法、そして子どもの心身の発達や健康などについて探求していく。また、学生自身の研究テーマの設定や研究手法と一緒に検討しながら、卒業論文の執筆に向けた学習を進めていく。</p> <p>具体的には、次のような目標を設定する。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の健康に関連する論文の検索の仕方や読み方が分かる ・研究計画や研究方法の立て方が分かる ・統計手法による研究結果の内容を理解できる <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究から、学術的な研究課題が分かる ・研究結果のデータ処理（グラフ化や統計処理など）ができる ・研究結果を理論的に考察することができる <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら興味を持って新たな知見を発見し、保育観や教育観の見識を高めようとする態度が身につく ・自ら設定した卒論論文のテーマに沿って積極的に執筆活動を進める姿勢が身につく
授業の概要	<p>近年子どもの心身の健康への関心が高まっており、体育においては、子どもたちが「生涯にわたって運動やスポーツに親しむ」ことが目指されるようになってきている。しかしながら、「体育嫌い」「運動嫌い」のように、長年に渡って解決できないままの課題が数多く残されているのが現状である。</p> <p>この授業では保育者や教師の視点に立って、子どもの心身の健康に関して知識を深め、どのような課題があるのかを正確に認識した上で、必要な指導・実践の在り方を探求していく。</p> <p>具体的には、次のような学習を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 現代社会における子どもの心身の健康についての課題を整理する 2) 先行研究から、子どもの心身の健康指導のあり方やその根拠について理解する 3) 先行研究の実験・調査を追体験し、研究の視点や研究の方法を学び、データ処理やレポートを作成する 4) 卒業論文を構想し、執筆していく <p>なお、学習は教員からの一方的な指導ではなく、学生同士の議論を中心に進めていきたい。能動的、積極的な参加を期待する。</p>
評価方法	課題の遂行状況や取り組みの姿勢・受講態度、レポート等の内容で総合的に評価する。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>授業の具体的な内容は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の健康に関する先行研究について(1-10回) <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究の紹介 ・先行研究の読み方と検索の仕方について ・先行研究から読み解く子どもの心身の健康指導の在り方とその根拠について 2. 実験・調査について(11-20回) <ul style="list-style-type: none"> ・実験・調査の仕方と注意事項について ・実験・調査の実施について ・実験・調査結果のデータ処理について ・レポートの作成について ・発表の仕方について 3. 卒業論文の執筆について(21-30回) <ul style="list-style-type: none"> ・章立てについて ・論文の論理性、一貫性について ・考察等、論文のまとめ方について
テキスト	特になし。
参考書	適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	全授業を通して、学生同士のディスカッションを通じて学習を深めていくこととし、ローテーション制で、ディスカッションの内容をレポートとしてまとめたものを、授業内で発表する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・メールにより随時受け付ける (alexander.kuga@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	・学生主体のディスカッションの後、総括する形で、その場で即時的にフィードバックを与える
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の研究する分野について、論文、本、インターネットなどを通じて情報を集め、まとめていくこと。(3時間) <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が発表した際に受けたフィードバックを基に、再度調べ学習に取り組み、情報を再整理していくこと。(3時間) <p>なお、予習も復習も同一のノートに記録していき、情報を蓄積していくこと。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	<ol style="list-style-type: none"> 16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group I I
時間割コード Course Code	59304
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	小島 千枝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 H演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小島 千枝 (教育保育学科)
授業の目標	<p>保育分野に関するテーマを各自で見つけ、文献や実態調査に基づいた研究を実施する。自らが設定したテーマについて研究を実施し、その成果を論文としてまとめることができるようになる。</p> <p>具体的には、以下の4点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 興味・関心のあるテーマについて、資料収集ができる。 2. 興味・関心のあるテーマにアプローチする具体的研究手法がわかると同時に、必要な技能が身につく。 3. 興味・関心のあるテーマについて先行研究や実態調査からその成果と課題がわかる。 4. 研究したことを論文にまとめることができる。
授業の概要	<p>興味・関心のあるテーマの選定とともに、研究計画を立てる。個々に立てた研究計画をもとに卒業論文を作成する。</p> <p>その過程で、資料収集の方法、調査方法、論文作成の作法を身に付ける。</p> <p>前半は、ゼミ内の意見交換を中心に進める。したがって、発表者は、自らの研究の進捗状況を報告し、他のゼミメンバーの助言にを基に、改善を含めた上で、さらに研究を進めていく。</p> <p>授業へは、授業外での事前の準備を要する。事後もその日の演習内容を振り返るとともに、次の準備活動へつなげる事が必要となる。</p> <p>質問へは、その都度対応する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業への積極的な参加を前提に、資料収集や研究に必要な知識技能の獲得状況、発表の内容などから総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>研究テーマや研究計画が作成されたのちには、基本的にディスカッション形式で行う。発表者は、自らのテーマ、研究方法、得られたデータ等を発表する。聞き手は発表を元に研究に対する感想、疑問、問題点について討論し、発表者にフィードバックすることで、研究のさらなる進行につなげていく。</p> <p>第1回ガイダンス（卒論とは何か）、テーマ設定 第2・3回テーマ設定と研究計画の作成 第4回テーマ設定（ゼミ内発表） 第5回先行研究・資料収集の方法について 第6回資料収集 第7回資料収集（進捗状況報告会） 第8～10回テーマトピック 問いの設定へ 第11～13回序論執筆 第14回序論発表 第15回研究計画の見直し</p> <p>第16回進捗状況報告 第17～22回論文執筆 第23回論文8割完成 第24～27回論文執筆 第28回論文完成 第29回報告会 第30回1年間の振り返りとまとめ</p>
テキスト	なし
参考書	適宜指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミ内では、常に意見交換を行い互いを高め合う。多様な意見や考え方について深く学び、他者とのコミュニケーションの必要性や仕方も同時に学ぶ。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	保育、教育の現場で40年間にわたり勤務してきた経験を生かして、実践的な指導を行う。犬山市とのパイプを活用し、必要な情報収集、現場の意見集約やアンケート等の実施の橋渡しをする。
質問への対応方法	オフィスアワーで対応
フィードバックの方法	アドバイス、添削等は随時行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必要な調べを随時課題としていく。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group I I
時間割コード Course Code	59305
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 I 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ (教育保育学科)
授業の目標	<p>社会福祉分野に関するテーマを各自で見つけ、文献や実態調査に基づいた研究を実施する。自らが設定したテーマについて研究を実施し、その成果を論文としてまとめることができるようになる。具体的には、以下の4点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 興味・関心のあるテーマについて、資料収集ができる。 2. 興味・関心のあるテーマにアプローチする具体的研究手法がわかると同時に、必要な技能が身につく。 3. 興味・関心のあるテーマについて先行研究や実態調査からその成果と課題がわかる。 4. 研究したことを論文にまとめることができる。
授業の概要	<p>興味・関心のあるテーマの選定とともに、研究計画を立てる。個々に立てた研究計画をもとに卒業論文を作成する。</p> <p>その過程で、資料収集の方法、調査方法、論文作成の作法を身に付ける。</p> <p>前半は、ゼミ内の意見交換を中心に進める。したがって、発表者は、自らの研究の進捗状況を報告し、他のゼミメンバーの助言にを基に、改善を含めた上で、さらに研究を進めていく。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業への積極的な参加を前提に、資料収集や研究に必要な知識技能の獲得状況 (30%)、発表の内容 (30%)、発言などの学び合う姿勢 (40%) から総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<p>研究テーマや研究計画が作成されたのちには、基本的にディスカッション形式で行う。発表者は、自らのテーマ、研究方法、得られたデータ等を発表する。聞き手は発表を元に研究に対する感想、疑問、問題点について討論し、発表者にフィードバックすることで、研究のさらなる進行につなげていく。</p> <p>第1回ガイダンス（卒論とは何か）、テーマ設定 第2・3回テーマ設定と研究計画の作成 第4回テーマ設定（ゼミ内発表） 第5回先行研究・資料収集の方法について 第6回資料収集 第7回資料収集（進捗状況報告会） 第8～10回テーマトピック問いの設定へ 第11～13回序論執筆（授業時に進捗状況を報告し、助言する） 第14回序論発表 第15回研究計画の見直し</p> <p>第16回進捗状況報告（夏季休暇の間の進捗状況を報告・アドバイスし合う） 第17～22回論文執筆（執筆そのものについては、各自課外で進めること） 第23回論文執筆（論文8割完成、報告会） 第24～27回論文執筆（執筆そのものについては、各自課外で進めること） 第28回論文完成（報告会に向けての準備） 第29回報告会 第30回1年間の振り返りとまとめ</p>
テキスト	なし
参考書	適宜指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	論文作成に必要なレジюме作成、資料検索、発表、討論などの実施
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問へは、その都度対応する。
フィードバックの方法	授業時やその他、必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業へは、授業外での事前の準備を要する。事後もその日の演習内容を振り返るとともに、次の準備活動へつなげる事が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group I I
時間割コード Course Code	59306
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	多川 則子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 K 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	多川 則子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>専門演習1での学びを基に、一人ひとりの研究課題を見つける。研究課題について調べる、まとめる、プレゼンを繰り返し、卒論へとつなげる。子どもとかかわる体験活動(学外)や大学祭などの実践を通して、保育者・教育者としての力量を身に付ける。</p> <p>知識・理解の領域 ・学術的な先行知見をまとめることができる。</p> <p>技能の領域 ・学術的な知見を検索し、適切な引用で論文に記述できる。 ・子どもへ関わる、接する、声をかける、経験をする。</p> <p>態度・志向性の領域 ・自分なりの問いに対し、先行知見を探究することの面白さを知る ・子どもの育ちを支援することのすばらしさやおもしろさを実感する。</p>
授業の概要	<p>専門演習1で行ってきたことを踏まえ、卒論へ向けて、どのように準備していくかを考える。研究課題について調べたら、適宜、プレゼン・発表や経過報告を行い、学び合いながらすすめていく。卒論中間発表会、卒論発表会を行う。</p> <p>また、地域のイベント、大学祭、子育て支援活動などの実践活動にも可能な範囲で参加していきたい。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	出席状況、授業・課題への取り組む姿勢、課題内容などにより総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席過多の場合。
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回 オリエンテーション・活動計画1</p> <p>第2回 活動計画2</p> <p>第3回～14回 研究課題__調べる・資料作成・プレゼン・研究計画 実践活動、大学祭 レクリエーション</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>後期</p> <p>第1回～14回 研究課題__経過報告・調査・分析報告・卒論執筆 実践活動 レクリエーション</p> <p>第15回 卒論発表会</p>

テキスト	指定しない。
参考書	随時紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループによるディスカッション、造形活動、実践および準備活動等。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。メール対応可。 tagawa@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	活動後は、随時振り返りのディスカッションを行う。また、個別面談にて伝達する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	学外での実践日は授業外の時間となり、実践準備活動では授業外作業もある（合計16時間程）。また、発表時には文献研究やレジメやレポート作成が宿題となる（合計14時間程）。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group I I
時間割コード Course Code	59307
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	楯 誠
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	楯 誠 (教育保育学科)
授業の目標	<p>発達と教育・保育に関わるテーマを各自で見つけ出し、心理学的な方法に基づいた研究を実施する。このゼミ活動のなかで、自らテーマ設定した研究を実施し、その結果を論文としてまとめることができるようになる。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関心のあるテーマについて、これまでの研究成果及び課題が分かる。 ・ 関心のあるテーマにアプローチするための具体的な研究方法とその問題点が分かる。 <p>【技能の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査、実験をするための基礎的な技術が身につく。 ・ 収集したデータのタイプや研究の目的にあった分析手段の選択と実施ができるようになる。 ・ 自らが行った研究を論文にまとめる技能が身につく。
授業の概要	<p>保育に関わる人々(子ども, 保護者, 保育者, 保育者志望者など)を対象とした心理学的な研究を計画させる。その計画を元に実験・調査を準備, 実施, 結果処理をさせ, 卒業論文作成へとつなげていく。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の状況によっては一部遠隔授業形式の演習となることがある。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>授業への積極的参加(35%), 研究発表の内容(35%), 研究の進捗状況(30%)から評価する。レジュメや作成途中の論文については、朱書きにてフィードバックする。研究に関する質問、相談は随時受け付ける。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	前期、後期それぞれ6回以上の欠席があった場合は失格とする。

授業計画	<p>基本的にディスカッション形式で行う。発表者は、自らのテーマ，研究方法，得られたデータ等を発表する。聞き手は発表を元に研究に対する感想，疑問，問題点について討論し，発表者にフィードバックすることで，研究のさらなる進行につなげていく。</p> <p>前期 1回 卒業研究のガイダンス（卒論と研究計画の概要） 2回 先行研究の収集方法についてのガイダンス 3-4回 研究テーマについての発表・討論 5-10回 先行研究のレビュー 11回 13回 研究計画の作成・発表・討論 14-15回 具体的な実験・調査方法の作成・発表・討論</p> <p>後期 1回 夏季休業期間での進行状況の報告 2 5回 データ収集 6回 データ分析のガイダンス 7-9回 データ分析の実施と結果の報告 10-14回 論文執筆・発表・討論 15回 全体のまとめと振り返り</p>
テキスト	なし
参考書	適宜指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問、相談は随時対面、あるいはメールにて受け付ける。
フィードバックの方法	授業時やその他の時間に必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	報告に必要な資料作成、およびその日の演習内容の振り返りが準備学習の内容になる。この繰り返し、論文作成能力の涵養につながるため、丁寧に行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group I I
時間割コード Course Code	59308
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	田中 秀佳
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 E 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	田中 秀佳 (教育保育学科)
授業の目標	<p>大学での4年間の学習の成果としての卒業論文の完成に向け、以下のことを獲得することを目指す。</p> <p>1 教育・保育・福祉の実践的内容ではなく、それらを枠付け、保障 するための行政・制度に焦点を当て、テキストをもとに、当該分野の行政・制度の特徴と課題を学び取る。</p> <p>2 行政・制度の面からみた教育・保育・福祉の諸課題について、それらを理解し、分析する力を身につける。</p> <p>3 演習を通じて、論理的な思考と表現 (文献をはじめとする様々な 情報を読み取ること、それらをまとめること、まとめた内容を他 者に伝え、説明すること、自らの考えを持ち、他者の考えを理解 し、議論すること) を修得する。</p>
授業の概要	<p>前半は、卒業論文執筆に必要な文献や行政資料を各自が用意し、読み取り、要約および論点提示をおこない、参加者によって検討をおこなう。</p> <p>夏季休暇期間には、卒業論文の中間発表会を実施する。</p> <p>後半は、作成段階の卒業論文を個別的・集団的に検討する。</p>
評価方法	ゼミへの参加の程度により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2から15 卒業論文のテーマ、問題意識および課題設定の検討、卒業論文作成に必要な文献の講読、報告、議論およびそれらのための資料収集</p> <p>16から30 卒業論文の個別的・集団的検討</p>
テキスト	
参考書	適宜、指示・紹介をする。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	毎回ディスカッションを実施することを基本とする。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接またはメールにより対応する。

フィードバックの方法	授業時またはクラスルーム上で対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	日常的に新聞に目を通すことを求める。毎日ニュースに触れること、その中で少なくとも教育・保育・福祉の話題について自らの考えを深めることを必須とする。その習慣をつけることが、本講の内容理解の前提となる。その他、授業時に指示する予習・復習等を求める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group I I
時間割コード Course Code	59309
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	30A講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)
授業の目標	<p>・各々が設定したテーマ・課題について追究し、卒業研究・卒業論文に結実させること。 ・保育士・幼稚園・小学校教員採用試験、就職活動に向けて、必要な社会的素養を身に付け、卒業に向けた学修を発展的に進めること。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 ・論文の書き方(制作の方法)を理解し、各自の論文(制作)テーマに沿った構成等が適切にできる。</p> <p>技能の領域 ・各自の論文(制作)テーマに則して、必要となる資料を収集し、論文を書き進める(制作)ことができる。 ・アンケート調査などを通じ、結果と考察を記述することができる。(制作に反映させることができる。)</p> <p>・ゼミ内の報告会(発表会)において、設定された時間内で各自の論文(制作)の主旨を発表できる。</p> <p>態度・志向性の領域 ・卒論(制作)テーマの内容を、各自の今後の仕事等で生かしたり、引き続き探求する姿勢を示すことができる。</p>
授業の概要	<p>・3年次に蓄積してきたものを基礎として卒業論文(制作)のテーマを決定し、前期は論文の書き方(制作の方法)に関する基礎を学ぶ。 ・後期は、各自の論文(制作)テーマに基づき、各章(各作品)の構成を考え、各章(各制作工程)ごとに仕上げていく。 なお、質問への対応は随時行う。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>探究姿勢・態度と報告会・発表会の内容で総合的に判断する 各課題への探究の姿勢・態度・・・40% 発表及び報告内容・・・60%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>1 ・ガイダンス・オリエンテーション 2～14 ・教員・保育採用試験、就職試験に向けての学習等準備 ・各自の卒業論文(卒業制作)の研究内容に応じて個別に指導 15～28 ・各自の研究内容の進捗状況に応じて個別に指導 29・30 ・卒業論文(卒業制作)報告会及び発表会</p>
テキスト	担当教員作成のレジュメ・資料等と適宜使用する。

参考書	各自の論文（制作）テーマに応じて個別に案内する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	第1～15各回ともに、シラバスに記載された内容について、事前の配布資料を参考に学習の見通しと疑問点を整理しする等の予習を1時間行うこと、また、本時の配布資料及び授業内容を参考にノートにまとめ、感想や意見を書き留める等の復習を1時間行うこと。（実技の学習課題については、製作活動を復習時間に含めてもよい。）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group I I
時間割コード Course Code	59310
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	東岡 博
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 G演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	東岡 博 (教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員をめざして、資質や力量の向上に努め合うことができる。 ・教員採用選考試験に向けて、必要な学びを深め合うことができる。 ・自らが設定したテーマに基づいて研究を深め、卒業研究としてまとめることができる。 <p><学習の成果></p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員としての知識や指導法について理解することができる。 ・論文の書き方を把握し、自分のテーマに沿った論文を仕上げることができる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深め合う授業づくりを工夫することができる。 ・テーマに則して書き上げた論文について、主旨を分かりやすく発表することができる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いに学び合う活動を通して、積極的に自分の見方を広げたり、考えを深めたりすることができる。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員の仕事や活動の把握 ・小学校実習に向けての心構えと準備 ・教員採用選考試験に向けての心構えと準備 ・数学的活動(導入・展開)の工夫 ・授業づくり(課題提示・授業展開)の工夫 ・卒業研究についての報告会と意見交換 <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合う活動や探求活動の様子 50% ・ふり返りシートや研究の内容 50% <p>を基本とし、総合的に評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>1～4 小学校教員の仕事の把握と実習準備</p> <p>5～8 小学校実習に向けての事前研修</p> <p>9～12 小学校教員採用選考試験に向けての対策と準備</p> <p>13～16 卒業論文についての意見交換</p> <p>17～20 数学的活動(導入・展開)の工夫</p> <p>21～25 授業づくり(課題提示・授業展開)の工夫</p> <p>26～29 卒業論文の報告会と意見交換</p> <p>30 まとめとふり返り</p>
テキスト	なし
参考書	・参考書及び参考資料等は、演習の中で適宜紹介する。

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・毎回、教育現場の現状・取組・課題に関するテーマを設定し「自分の考え」を持たせ、互いの考えや思いについて「意見交換し合う」時間を確保して、視野を広げ合ったり考えを深め合ったりする。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	・小・中学校での教職経験を活かし、小学校教員免許状の取得や小学校教員をめざす学生たちに、教育現場の現状・取組・課題についての資料を提示して検討・考察し合わせる。
質問への対応方法	・授業時及びオフィスアワーで随時対応する。
フィードバックの方法	・テーマについての話し合いの概要をまとめ、翌週の授業で資料として配布する。 ・ふり返しシートは、コメントを書き加えて翌週返却する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回、前時学習内容の復習2時間と授業計画表に基づく次時テーマに関する予習2時間を課すこととする。 1～4 小学校教員の仕事の把握と実習準備 5～8 小学校実習に向けての事前研修 9～12 小学校教員採用選考試験に向けての対策と準備 13～16 卒業論文についての意見交換 17～20 数学的活動（導入・展開）の工夫 21～25 授業づくり（課題提示・授業展開）の工夫 26～29 卒業論文の報告会と意見交換 30 まとめとふり返し
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習II(通) / Advanced Study Group I I
時間割コード Course Code	59311
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	日比野 博
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博 (教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら設定したテーマに基づき研究を深め、それを卒業論文に結実させること。 ・採用試験対策として、必要な学習を進める。 <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 論文の書き方を理解し、各自の論文テーマに沿った構成等が適切にできる。</p> <p>技能の領域 ・各自の論文テーマに則して、必要となる資料を収集し論文を書き進めることができる。 ・ゼミ内の報告会において、設定された時間内で各自の論文の主旨を要領よく発表できる。</p> <p>態度・志向性の領域 卒論テーマの内容を各自の今後の仕事等で生かしたり、引き続き探求する姿勢を示すことができる。</p>
授業の概要	<p>卒論テーマを決定し、前期は論文の書き方に関する基礎を学んでいく。後期は、各自の論文テーマに基づき各章の構成を考え各章ごとに仕上げていく。 質問などは、随時対応する。</p>
評価方法	<p>出席回数態度と報告会の内容で総合的に判断する</p> <p>レポート、発表・・・40%</p> <p>参加姿勢・・・40%</p> <p>報告内容・・・20%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>1 ガイダンス</p> <p>2～14 採用試験に向けての学習等準備 各自の卒論の研究内容に応じて個別に指導</p> <p>15～28 各自の論文の進捗状況に応じて個別に指導</p> <p>29・30 卒業論文報告会</p>
テキスト	
参考書	各自の論文テーマに応じて個別に案内する

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	研究テーマにそって、お互いに何をどのように調べ、研究していくかを話し合いながら進めていく。 時には、お互いの中間発表を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	研究の進め方について、教員の実践を交えながら説明し、 学生のテーマに合った研究内容をアドバイスする。
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	研究の進み具合によって、随時フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各個人に合わせ計画をしていく。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59400
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	秋田 郁
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	秋田 郁 (教育保育学科)
授業の目標	専門演習2において各自で設定した音楽と教育・保育に関わるテーマを研究をし、卒業論文を作成する。
授業の概要	【対面授業】 音楽と教育・保育に関わる文献を購読、調査などを実施し、卒業論文を作成する。また、自己の教育保育における音楽観を確立し、卒業後も研鑽できる力を培う。
評価方法	卒業論文の内容を審査する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	卒業論文が提出されない場合は、失格となる。
授業計画	計画的に卒業論文執筆活動を行う。
テキスト	なし。
参考書	石井一成『ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方』株式会社ナツメ社1,100円+税 白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房2,500円+税
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問には随時対応する。
フィードバックの方法	メール、授業等で必要に応じて対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	課題に応じて事前事後学習を課す。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	17. パートナースhipで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59401
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	飯田 幸恵
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	飯田 幸恵 (教育保育学科)
授業の目標	自らの関心に合ったテーマの設定を行い、卒業論文を作成する。
授業の概要	自ら設定したテーマに沿って資料収集、文献講読を行い、卒業論文を作成する。
評価方法	卒業論文の内容により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	自ら設定したテーマに沿って資料収集、文献講読を行い、卒業論文を作成する。
テキスト	なし
参考書	適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	専門演習 の授業終了後やメール等、随時対応する。
フィードバックの方法	随時フィードバックを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	資料収集、文献講読、卒業論文の作成。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1～10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59402
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	家接 哲次
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	家接 哲次(教育保育学科)
授業の目標	大学4年間の学びの集大成および就職への橋渡しとしての卒業論文を完成させる。
授業の概要	詳細は専門演習IIと同様であるが、専門的な論文作成の手順やルールについて学ぶ。
評価方法	卒業論文の内容および研究に取り組む姿勢によって評価をおこなう。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席数が多い場合は失格となることがある。
授業計画	卒業論文は各自がそれぞれ異なったトピックで作成を進めるため、個別指導で実施する。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の中で基本的に対応するが、授業前後でも対応可能である。
フィードバックの方法	必要に応じて、口頭またはメール等でフィードバックを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業中に提示する参考文献(論文も含む)を読むこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59403
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	久我 アレキサンデル
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	久我 アレキサンデル(教育保育学科)
授業の目標	この授業の目標は、これまでの大学での学習を通じて身に付いた知識・技能等すべてを駆使して、卒業研究を進め、卒業論文を執筆することである。
授業の概要	自分で設定した卒業論文のテーマをもとに、文献研究、実験、調査などを実施し、その結果をまとめ、考察を加え、論文としての体裁を整えて卒業論文を執筆していく。 なお、論文執筆についてはゼミメンバーとの議論や基礎知識の共有の他、個別対応の時間を設定して進めていくこととする。
評価方法	卒業論文の内容に関する評価 100%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・卒業論文の未完成・未提出等
授業計画	ゼミメンバーとの議論や基礎知識の共有の他、個別対応の時間を設定して進めていくこととする。したがって、執筆の進捗状況をみて計画的に指導の時間・内容等を計画していくこととする。
テキスト	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ゼミメンバーとの議論や基礎知識の共有において、ディスカッションを通じて研究分野の理解を深めていき、卒業論文の記述内容に反映させていくこととする。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・メールにより随時受け付ける(alexander.kuga@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	ゼミメンバーでのディスカッションの後、議論の総括として、フィードバックを与える。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習 ・卒業論文に関わる文献探しや情報収集、そして情報の整理を進めていくこと。(3時間) 復習 ・ディスカッションを通じて得られた気づき等を卒業論文に反映させていくこと。(3時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59404
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	小島 千枝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小島 千枝(教育保育学科)
授業の目標	大学4年間の学習成果として卒業論文を完成させる。
授業の概要	詳細については専門演習IIのシラバスと同様であるが、論文の内容的検討に加えて、「論文」とは何か、論文の作成に関する作法、校正のルールについても学修する。
評価方法	卒業論文の内容によって評価をおこなう。分量については、12,000字を目安とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	論文の提出がない時には失格となる。
授業計画	・専門科目IIのシラバスを参照
テキスト	
参考書	適宜指示・紹介をするが、論文の書き方については、 ・斉藤孝 『学術論文の技法』(日本エディタースクール出版部,2005年)など、参考となる文献が多く出版されているので、各自1冊は目を通すことが望ましい。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	保育、教育の現場で40年間にわたり勤務してきた経験を生かして、実践的な指導を行う。
質問への対応方法	オフィスアワーで対応
フィードバックの方法	アドバイス、添削等は随時行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	必要な調べを随時課題としていく。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	4.感情制御力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59405
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	関谷 みのぶ
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ(教育保育学科)
授業の目標	大学4年間の学習成果として卒業論文を完成させる。
授業の概要	<p>本科目は、専門演習IIのシラバスと連動している。論文の内容的検討に加えて、「論文」とは何か、論文の作成に関する作法、校正のルールについても学修する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	卒業論文の内容によって評価をおこなう。分量については、12,000字を目安とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	原則、各自で時間を確保し、作成を行う。専門演習IIにおいても連動して指導を行うが、専門演習では、互いの学び合いの時間が中心となる。卒論指導にあたっては、個別に執筆指導計画を作成する。
テキスト	
参考書	適宜指示・紹介をするが、論文の書き方については、 ・斉藤孝 『学術論文の技法』(日本エディタースクール出版部,2005年)など、参考となる文献が多く出版されているので、各自1冊は目を通すことが望ましい。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	論文執筆に必要な主体的な学習
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	論文作成に関して、「専門演習2」の授業外においても、メール添削も含め随時対応する。
フィードバックの方法	必要に応じて適宜対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	卒論作成に必要な時間要する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	

PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59406
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	多川 則子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	多川 則子 (教育保育学科)
授業の目標	<p>専門演習1での学びを基に、一人ひとりの研究課題を見つける。研究課題について調べる、まとめる、プレゼンを繰り返すことで、課題について探究を深める。各自の課題について、現状や問題点の把握、既存の考え方を知る、独自の視点を持つなどを旨とする。 知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術的な先行知見をまとめることができる。 技能の領域 ・学術的な知見を検索し、適切な引用で論文に記述できる。 態度・志向性の領域 ・自分なりの問いに対し、先行知見を探究することの面白さを知る
授業の概要	<p>まず、興味のあることからすすめ、研究課題の設定、卒論の手法の検討を行う(調査・実験・文献研究など)。研究計画を立て、研究を行う。</p> <p>適宜、プレゼン・発表や経過報告を行い、学び合いながらすすめていく。中間発表会、卒論発表会を行う。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	取り組みの姿勢、卒業論文の内容を基に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席過多の場合。
授業計画	<p>前期</p> <p>興味あるテーマの設定 調べる・資料作成・プレゼン 研究課題を見つける 調べる・資料作成・プレゼン 研究計画としてまとめる</p> <p>後期</p> <p>研究課題について文献研究もしくは調査研究を行う 経過報告・分析報告 中間発表会 卒論執筆・提出 卒論発表会</p>
テキスト	指定しない。
参考書	随時紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループによるディスカッション、発表等。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。メール対応可。 tagawa@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	活動後は、随時振り返りのディスカッションを行う。また、個別面談にて伝達する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	文献検索、文献内容をまとめる、レジメ・レポート作成、卒論執筆（60時間程）。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 5.自信創出力 6.行動持続力 7.課題発見力

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59407
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	楯 誠
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	楯 誠 (教育保育学科)
授業の目標	大学4年間の学習成果として卒業論文を完成させる。
授業の概要	<p>詳細については専門演習IIのシラバスと同様であるが、論文の内容的検討に加えて、「論文」(特に心理系論文)の形式や引用の仕方といった論文執筆における作法を学修する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	卒業論文の内容によって評価をおこなう。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	原則、各自で時間を確保し、作成を行う。
テキスト	
参考書	適宜指示・紹介をする。松井豊著「心理学論文の書き方」などは参考になる。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	論文作成に関して、「専門演習2」の授業外においても、メール添削も含め随時対応する。
フィードバックの方法	必要に応じて適宜対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	卒論作成に必要な時間要する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59408
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	田中 秀佳
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	田中 秀佳(教育保育学科)
授業の目標	大学での4年間の学習の成果としての卒業論文の完成に向け、以下のことを獲得することを目指す。詳細は専門演習IIのシラバスを参照。
授業の概要	詳細については専門演習IIのシラバスと同様であるが、論文の内容的検討に加えて、「論文」とは何か、論文の作成に関する作法、校正のルールについても学修する。
評価方法	卒業論文の質的、量的妥当性によって評価をおこなう。分量については、原稿用紙50枚分とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	・専門科目IIのシラバスを参照
テキスト	
参考書	適宜指示・紹介をするが、論文作成の手法については、例えば、 ・斉藤孝 『学術論文の技法』(日本エディタースクール出版部,2005年) ・戸田山和久 『新版 論文の教室-レポートから卒論まで』(NHK出版,2012年) など、参考となる文献が多数出版されているので、各自で最低1冊は入手すること。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ディスカッションをおこなうことを基本とする。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	直接またはメールにより対応する。
フィードバックの方法	授業時またはクラスルーム上で対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	自らのテーマおよび教育・保育・福祉の話題について日常的に考えを深めることを必須とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59409
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	塚本 敏浩
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	塚本 敏浩 (教育保育学科)
授業の目標	各自の研究テーマを明確にし、まとまりのある論文(制作)を仕上げることができる。 <学習成果> 知識・理解の領域 ・論文(制作)の形式を把握し、分かりやすい文章(制作)にまとめることができる。 態度・志向性の領域 ・一貫した研究テーマで論文作成(制作)に当たることができる。 技能の領域 ・研究テーマについての考察結果を、分かりやすく論文(制作)にまとめることができる。
授業の概要	・卒業論文(または卒業制作・卒業関連論文)テーマの検討・決定 ・論文(制作)テーマに沿って、資料収集・検討 ・論文(制作)内容の検討・協議 ・論文の作成(制作) ・論文(制作)の内容検討・修正 ・論文(制作)完成・提出 なお、質問への対応は随時行う。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	各回での検討参加の評価、論文作成(制作)への取り組み・論文(制作)内容・論文(制作)発表等、総合的に評価
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1～3 ・論文(制作)テーマの検討 4～6 ・論文(制作)テーマの決定 7～12 ・論文(制作)資料の収集・論文作成行程(制作工程)の構築 13～16 ・論文(制作)内容検討・編集 17～22 ・論文作成(制作) 23～26 ・論文(制作)検討・点検・修正 27～29 ・論文(制作)完成・提出 30 ・まとめ・反省会(発表会)
テキスト	担当教員作成のレジュメ・資料等と適宜使用する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実際の教育及び保育現場における喫緊の課題や実践的な指導方法・教材について適宜扱い、指導、教授する。
質問への対応方法	随時対応する（研究室訪問やメール等）
フィードバックの方法	課題については随時返却し、個別指導する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	第1～15各回ともに、シラバスに記載された内容について、事前の配布資料を参考に学習の見通しと疑問点を整理しする等の予習を1時間行うこと、また、本時の配布資料及び授業内容を参考にノートにまとめ、感想や意見を書き留める等の復習を1時間行うこと。（実技の学習課題については、製作活動を復習時間に含めてもよい。）
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59410
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	東岡 博
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	東岡 博 (教育保育学科)
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動につながる研究テーマを明確にし、まとまりのある卒業研究を仕上げることができる。 <p><学習成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 知識・理解の領域 ・卒業研究の形式を把握し、正確で分かりやすい文章でまとめることができる。 技能の領域 ・教育に関わるテーマで分析・考察した結果を、分かりやすくまとめることができる。 態度・志向性の領域 ・広く教育に関心を持ち続けるとともに、一貫した研究テーマで作成に取り組むことができる。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究テーマの検討・決定 ・研究テーマに沿った資料収集及び分析・考察 ・論述構成についての検討 ・卒業研究の作成 ・卒業研究の内容検討・校正 ・卒業研究の完成・提出 <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	・研究テーマに対する追究活動の様子・研究内容・研究発表等を総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし
授業計画	1～3 研究テーマの検討 4～6 研究テーマの決定 7～12 資料収集及び分析・考察 13～16 構成についての検討 17～22 卒業研究の執筆 23～26 研究内容の検討・校正 27～29 卒業研究の完成・提出 30 まとめと振り返り
テキスト	なし
参考書	・参考文献及び参考資料等は、授業の中で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授 業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業時及びオフィスアワーで随時対応する。
フィードバックの方法	・研究テーマや資料収集・分析・考察、研究文の構成について、随時指導をする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>毎回、授業内容に関する2時間の準備と次時の内容に関する2時間の追究活動を課すこととする。</p> <p>1～3 研究テーマの検討 4～6 研究テーマの決定 7～12 資料収集及び分析・考察 13～16 構成についての検討 17～22 卒業研究の執筆 23～26 研究内容の検討・校正 27～29 卒業研究の完成・提出 30 まとめとふり返し</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	<p>4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう</p>
SDGs 17の目標(11～17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59411
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	日比野 博
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	日比野 博 (教育保育学科)
授業の目標	<p>教育活動につながる研究テーマを明確にし,まとまりのある論文を仕上げることができる。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 論文の形式を把握し,分かりやすい文章でまとめることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 教育に携わる気持ちを持ち続け,一貫した研究テーマで論文作成に当たることができる。</p> <p>技能の領域 教育に関わる課題についての考察結果を分かりやすくまとめ発表する。</p>
授業の概要	<p>以下の内容を個別に指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文テーマの検討・決定 論文テーマに沿って,資料収集・検討 論文内容の検討・協議 論文の作成 論文の内容検討・修正 論文完成・提出
評価方法	各回での検討参加の評価、論文作成への取り組み・論文内容・論文発表等、総合的に評価
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	<p>1～3 論文テーマの検討</p> <p>4～6 論文テーマの決定</p> <p>7～12 論文資料の収集・論文構築</p> <p>13～16 論文内容検討・編集</p> <p>17～22 論文作成</p> <p>23～26 論文検討・点検・修正</p> <p>27～29 論文完成・提出</p> <p>30 まとめ・反省会</p>
テキスト	
参考書	授業の中で,適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	教員の現場における研究や実践について、学生の研究に沿った話や助言を行う。
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	各個人の進み具合に応じて、随時対応
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各個人の進み具合に応じて、随時対応し、必要なアドバイスをする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59700
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸 (管理栄養学科)
授業の目標	これまでに学習したことや、管理栄養士試験の問題演習や、公務員試験等で必要な一般教養的なことについて、問題演習や解説等を適宜行っていく。
授業の概要	既習事項の問題演習や、公務員試験等で必要な一般教養的なことについて、問題演習や解説等を適宜行っていく
評価方法	出席や授業態度
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	問題演習と解答解説など。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業時や授業後等適宜
フィードバックの方法	問題演習などで
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	復習を欠かさずに。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59701
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)
授業の目標	専門知識はもとより発信力や課題解決力の養成にも重点をおく。
授業の概要	食品化学ならびに食品加工学、製造学、機能学に関する知識と技術を学ぶ。 本演習は原則として対面で実施する。
評価方法	自己学習必須。コミュニケーション力を重視。教員との対話を通じて積極的に課題に取り組む学生のみ評価対象とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で失格。 教員からの各種連絡に対し、1回でも応じないことがあれば失格。 その他、演習内での取り組みに対して非協力的な態度が見られた場合も即刻失格。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～3回 個別面談 第4～7回 食品化学分野における学術調査 第8～14回 食品加工・製造学分野における学術調査 第15回 総括
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	調査内容に関して、教員とのディスカッションおよび発表を実施する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	レポート等の次回に解説を実施。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回予習復習で1時間ずつの予備学習を求める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1～10)	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11～17)	
PROGリテラシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59702
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	岸上 明生
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岸上 明生 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>少人数制のクラス編成によるきめ細かな指導により、管理栄養士の国家試験合格に必要な基礎知識を深めるとともに、主に食と健康の関係を科学的に把握する。また、科学的な手法を身につけることを目標とする。また、卒業後に社会で活躍できるようにするため、主に民間企業や病院等で働く際に必要な問題解決力を指導する。更に、解剖生理学・病態学の国家試験対策も行い、実験の空き時間は、国試対策勉強を行う。質問は随時受け付ける。</p> <p>授業は対面にて実施する。</p>
授業の概要	<p><テーマ1></p> <p>まず、生理学的に重要な役割を持つタンパク質についての情報を収集する。特に、細胞内情報伝達系に関与すると考えられるタンパク質を研究対象と定め、分子の立体構造と機能の関係を考えてゆく。</p> <p>1-1. タンパク質の立体構造についての情報を検索し、PDB (Protein Data Bank) などから構造を取得し、原著文献を用いながらそのタンパク質の生理機能やその機能が発現する生理的条件を検討する。</p> <p>1-3. 生化学的な実験の方法で検討する。</p> <p>1-4. 得られた結果を集約して発表用スライドにまとめ、プレゼンテーションを行う。</p> <p><テーマ2></p> <p>栄養学に係る生理現象の測定を行い、測定データを統計学的方法論によって解析し、細胞内情報伝達機構との関連性とマクロの現象の間のつながりを考えてゆく。</p> <p>2-1. 栄養学との関係を考慮して、食事と関連するようにヒトの生理現象 (睡眠や体温など) の測定を行う。</p> <p>2-2. 測定結果の解析に基づいて、生理機能の分子レベルの仕組みや健康との関係性のモデル創出を試みる。</p> <p>2-3. 得られた結果を集約して発表用スライドにまとめ、プレゼンテーションを行う。</p> <p>本授業は対面授業で行います。</p>
評価方法	授業内における取り組み (60%)、課題発表 (40%) を総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が授業回の2/3に満たない場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. プレゼンテーションのデモ (教員の研究発表) 3. 研究テーマの説明 4. 関心のある研究テーマの選択と内容の詳細の確認 5. Rを用いた統計処理のトレーニング 6. 高分子における物理学と化学法則について 7. タンパク質の構造について 8. タンパク質の機能について 9. 科学手法について 10. 生体分子の生化学的実験方法について 11. 生体分子の分子生物学的実験方法について 12. 研究発表について 13. スライド作成および発表原稿の作成 14. 研究テーマに関する実験 15. 研究成果のまとめ
テキスト	なし。
参考書	Rをはじめよう生命科学のためのRStudio入門, Andrew P. Beckerman, Dylan Z. Childs, Owen L. Petchey, 富永大介(翻訳)、羊土社、ISBN-13 : 978-4758120951
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内で課題演習、議論、発表などを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生への質問に対して、授業中は随時対応する。時間外においては、オフィスアワー、メールなどで対応する。
フィードバックの方法	授業内で、必要に応じてアドバイする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：授業範囲の内容を事前調査する。(1.5時間) 復習：授業内容や考察をまとめる。(1.5時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59703
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	公衆衛生・公衆栄養学領域の知識・理解の上、どのような食事や生活習慣が健康維持や生活習慣病の発症予防・重症化予防にはよいのかを検討できるようになる。 卒業研究として取り組む課題を決定する。
授業の概要	主に卒業論文の意義、卒業論文のテーマの決定、卒業論文の作成方法、卒業論文の作成について理解する。 栄養疫学領域の卒業研究を行うための、栄養疫学や統計解析の学習を行う。 地域や職域における健康の維持・増進を目的として、それらを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報の収集、分析、評価、判定を行う。
評価方法	授業参加状況やレポート提出状況などを総合的に判断する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	・栄養疫学研究について (栄養疫学を中心とした文献を読み、発表や討論を行う。栄養疫学を中心とするが、健康心理学、公衆衛生・栄養学などの様々な分野の論文を抄読することで、その分野の最新情報を得るだけでなく、データの読み方、研究の進め方を学ぶ。) ・基本的な統計解析についての学習、演習
テキスト	必要に応じて指示する。
参考書	随時紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応する。
フィードバックの方法	提出物等は随時返却する。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業前に予習時間として2時間、授業後に復習時間として2時間確保しておく。 詳細については授業内で指示する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59704
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	太田 貴久
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 貴久 (管理栄養学科)
授業の目標	基礎的な統計学および論文の読み方等の勉強会を行い基本的な統計処理ができるようにする。その後、各自もしくは各グループにてテーマを絞り研究を遂行して行き、4年生になった時に学会及び学内等で発表することを最終目的とする。
授業の概要	基本的な統計処理を学び、データ収集及び解析ができるようにする。また、卒業研究に必要な参考文献を自ら探し出しその論文の批判的吟味ができるようになり、4年生に向けて卒業論文を作成していく準備をする。
評価方法	レポート提出 (進捗状況等)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な統計学演習 ・ 参考論文の批判的吟味 ・ データ収集及び解析 ・ 発表準備
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内での質問には適時対応する。 また、授業後の質問に対しては研究室にて受ける。
フィードバックの方法	4年時に学会発表もしくは学内にて発表をする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	模擬データを使い統計解析を行う (復習)。 公衆衛生学実習で使用した教科書を読んでおく (予習)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	17. パートナースhipで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59705
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 I 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香 (管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士は食材や分量を正確にデータ化する目測精度の能力が必要とされる。このデータ化には、経験によりデータ化の精度に大きな格差が認められる。この格差解消に向けた教育プログラムの構築を目的に、目測精度のデータ化能力の実態調査およびその能力の評価を行うことを目標とする。
授業の概要	写真法による食事調査では、管理栄養士は食材や分量を正確にデータ化する能力が必要とされる。しかしこのデータ化には、経験によりデータ化の精度に大きな格差が認められると言われている。卒業後即戦力となりうる質の高い管理栄養士の養成には、この格差解消に向けた教育プログラムが必須であると考えられており、この目測力の向上に向けた研究を実施する。
評価方法	授業への取り組み、調査結果、発表内容
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1、2回 オリエンテーション、調査方法の検討 3、4回 関連文献の検索と講読 5から10回 調査方法の設計 11から15回 調査 16から20回 データの収集と分析 21から25回 考察 26から30回 まとめと発表
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院において管理栄養士経験がある教員が、対象者の特性を理解し、適した食材を正確にデータ化できる能力が身につくように、目測精度の向上に向けた教育内容に取り組んでいる。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。 その都度アドバイスをを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕次週のシラバスを確認し、該当する項目について調べておく。 〔復習〕疑問に思ったこと等、関連論文を検索し課題を解決する。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	9.実践力

開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59706
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 H演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝 (管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士は、様々な年代の人を対象にして栄養管理を行います。この授業では、各ライフステージの特徴を考えた栄養管理を軸として、食事・運動・休養の習慣が健康に与える影響を考察し、その改善策を検討する力を高めることを目指します。科学的根拠のある情報の選び方、論文の読み方を学び、時代に即した栄養管理を主体的に実施できる管理栄養士になることを目標とします。国家試験対策の勉強はもちろん、教養と人間力向上につながる勉強にも取り組んでいきます。
授業の概要	卒業研究を意識した演習を行います。論文の検索方法や解釈の仕方、統計の方法、発表の工夫などを学んだ上で、各自の研究テーマに取り組みます。わかりやすくプレゼンテーションするスキルも習得していきます。また、授業計画の内容は変更する場合があります。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	出席率、授業への取り組み、発表の内容などを総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2回に満たない場合
授業計画	第01回：オリエンテーション 第02回：ディスカッション 第03回：ディスカッション 第04-05回：関心のあるテーマを決めて情報収集、発表 第06-07回：関心のあるテーマについてのゼミナール 第08-10回：栄養に関するトピックス 第11-12回：文献の検索方法 第13-14回：論文の読み方 第15回：総括
テキスト	必要に応じて指示します。
参考書	必要に応じて紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問や相談には随時対応します。
フィードバックの方法	随時返却します。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1時間の予習と1時間の復習を課します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59707
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	10D臨床栄養実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>この演習では、未病や生活習慣病の予防および改善を目的とした楽しい自然療法とは何かを調査することで、地域や医療分野で活躍できる管理栄養士のコミュニケーションスキルと豊かな発想力を身につけることを目指します。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 体組成と食事・運動との関連性が説明できる</p> <p>思考判断の領域 健康的な食事かどうかの判断ができ、ポイントが述べられる</p> <p>関心意欲の領域 健康食品の市場を調査し、自ら意見を述べられる</p> <p>態度・志向性の領域 エビデンスに基づいた考え方ができる</p> <p>技能の領域 webで検索ができ、調査結果をまとめ、簡潔に伝えることができる</p> <p>体験探究の領域 健康食に対する実社会の動向を捉えることで、新しい発想を生み出す体験をする</p>
授業の概要	エビデンスに基づいた美味しく体に良い食事やデザート、ボディメイクに効果的な食事と運動、香りを医療に用いたアロマセラピーの活用など、患者さんが実社会で楽しんで取り組んでいる自然療法について、多様性や異文化も視野に入れた調査を行います。
評価方法	<p>参加姿勢および成果で評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加姿勢 50% ・レポート 20% ・発表 30%
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	出席回数が 2 / 3 に満たない場合

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、エビデンスの検索の仕方 2. 課題を検索しリサーチするテーマを決定、個人面談 3. Web検索、論文検索 4. リサーチ項目と方法を決定 5. リサーチ実施 6. リサーチ結果を2枚のスライドにまとめて発表 7. テーマの絞り込み 8~9. 自然農法の農園や食品加工の体験 10~11. 美味しい健康食品の企画 12~13. 美味しい健康食品の試作 14. 模擬販売 15. 報告会
テキスト	随時、資料を配布します
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	どんな些細なことでも自由に発言でき、他人のアイデアに敬意を示しながらも自分のアイデアを発展させていく、そんなポジティブシンキングを身にけるトレーニングをします
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院やクリニックで、給食管理、栄養管理、栄養指導、在宅栄養指導の経験を有する教員が、治療のために必要な食事であったとしても美味しく楽しくなければ食事としては意味が成さないことを痛感し、これまでの経験を生かしながら学生の皆さんと知恵を出し合う
質問への対応方法	随時、またはメールで対応します (m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	その都度、返却を行う
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	演習(2単位)週1コマ(30時間)の場合、60時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習 I A (通) / Advanced Study Group IA
時間割コード Course Code	59708
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 A 栄養化学実験室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	栄養学・食品学に関連する研究についての知識収集および研究、地域色産業・食育のアプローチ方法を研究し、収集した情報をまとめ、発表する能力を習得する事を目的とする。
授業の概要	次の4点のいずれかについての活動を行う。活動は 1. 栄養学の基礎研究 (実験動物を用いた機能性食品の機能解析) 2. 栄養学の応用研究 (ヒトを対象とした官能検査試験) 3. 地域の食品産業に対する管理栄養学的なアプローチの考案 4. 管理栄養士として必要な知識の復習 上記の点について、 授業では、教員の実施する文献紹介および研究報告などを聴講し、まず、研究の趣旨を理解する。また、研究活動や地域との連携活動に参加し、研究に必要な知識や技術を身につける。可能であれば、活動内容をまとめる。 授業の性質から、所定の講義時間外に活動を実施する場合がある。 加えて、管理栄養士として必要な知識の復習を行い、試験等を行う事で知識の定着度を確認する。
評価方法	1. 取り組む姿勢 50% 2. 活動の達成度 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	毎週実施する打ち合わせ (教員の文献紹介および研究に必要な知識の講義や解説) を行い、各テーマグループごとに研究活動を実施する。 初回講義はガイダンスを実施する。
テキスト	適宜配布する
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	対面やメールなど、随時対応する。
フィードバックの方法	定期的な研究打ち合わせや発表に対しての指導を行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教員と定期的に打ち合わせを行い、その中で適宜指示をする。また、自分の関心のある研究テーマに関連する科学論文（和文・英文）を探し、読むことが予習・復習・準備学習として望ましい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	専門演習 I B (通) / Advanced Study Group IB
時間割コード Course Code	59751
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	2年次までに学習した管理栄養領域の基礎科目の復習を行うとともに、臨床科目や応用科目との関連性について学ぶ事を目的とする。
授業の概要	管理栄養学科3年次では、学修基礎力と実践力の強化を目的として、専門演習IA・専門演習IBを設置している。 専門演習IBでは、前期に、主に2年次までに学んだ科目の復習を行うとともに、それぞれの科目との関連性あるいは、3年次で学ぶ科目との関連性について学習する。
評価方法	定期テストの成績により、評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	2年次までに学んだ管理栄養領域における科目についての復習講義を行う。特に栄養学に関連する内容を中心に講義を進める。講義内で定期的に講義内容についての小テストおよび期末テストを実施する。 初回講義はガイダンスを実施する。
テキスト	講義内に適宜配布する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学習内容の質問や学習方法についての質問は、講義時間外に個別に対応します。
フィードバックの方法	定期試験の試験問題と同様の内容を含む課題資料を配付する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義内容は、基礎栄養学を中心とした内容となるため、1,2年次に学習した生化学I、生化学II、基礎栄養学I、基礎栄養学IIおよび解剖生理学I、解剖生理学IIで使用したテキストの内容を準備、予習すること。復習については、講義内で配布した資料に沿って、適宜上記テキストを利用した復習をすること。
使用言語	日本語

SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 6. 安全な水とトイレを世界中に
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59800
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 E 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸 (管理栄養学科)
授業の目標	3年時より進めてきた卒業論文や国試に向けての問題演習等
授業の概要	卒業論文を進めること、適宜問題演習や解説を行っていくこと。
評価方法	出席態度や卒業論文
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし
授業計画	卒業論文についての指導等や問題演習などを適宜行っていく。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授 業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授 業の内容	
質問への対応方法	授業中や授業後等適宜
フィードバックの方法	適宜、卒論や国試対策の進捗状況を確認していく。
予習・復習等、準備学習の内容及 び時間	授業において指示されたことや学習したことを適宜確認していく。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59801
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 3 A 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)
授業の目標	論文作成に際し、課題解決力と多角的視点で事象を観察する力を養う。
授業の概要	食品化学ならびに食品加工学、製造学、機能学に関する知識と技術を学ぶ。 また卒業研究の準備的指導や確認を含むものとする。 本演習は原則として対面で実施する。
評価方法	自己学習必須。コミュニケーション力を重視。教員との対話を通じて積極的に課題に取り組む学生のみ評価対象とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	5回以上の欠席で失格。 教員からの各種連絡に応じない場合も即刻失格。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～7回 文献調査 第8～14回 調査内容に関する教員とのディスカッション 第15回 総括
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各テーマに応じた定期発表会を実施
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	課題に関しては即日回答。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	論文作成に各回3時間の予習復習を求める。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59802
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	岸上 明生
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 F 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岸上 明生 (管理栄養学科)
授業の目標	少人数制のクラス編成によるきめ細かな指導により、管理栄養士の国家試験合格に必要な基礎知識を深めるとともに、主に食と健康の関係を科学的に把握する。また、科学的な手法を身につけることを目標とする。また、卒業後に社会で活躍できるようにするため、主に民間企業や病院等で働く際に必要な問題解決力を指導する。更に、解剖生理学・病態学の国家試験対策も行い、実験の空き時間は、国試対策勉強を行う。質問は随時受け付ける。 授業は対面にて実施する。
授業の概要	栄養学に関係する生理現象の測定を行い、測定データを統計学的方法論によって解析し、細胞内情報伝達機構との関連性とマクロの現象の間のつながりを考えてゆく。 栄養学との関係を考慮して、食事と関連するようにヒトの生理現象（睡眠や体温など）の測定を行う。測定結果の解析に基づいて、生理機能の分子レベルの仕組みや健康との関係性のモデル創出を試みる。得られた結果をまとめ、プレゼンテーションを行う。 質問については、演習時間内だけでなく随時受け付ける。 本授業は対面授業で行います。
評価方法	授業内における取り組み（60％）、課題発表（40％）を総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が授業回の2/3に満たない場合
授業計画	1.オリエンテーション 2.プレゼンテーションのデモ（教員の研究発表） 3.研究テーマの説明 4.研究テーマの決定 5.Rなどの研究遂行に必要なソフトウェアの使い方のトレーニング 6.文献検索について 7.実験手技について 8.理論について 9.科学的な実験研究について 10.生理学における理論モデルの活用について 11.研究テーマに基づいた研究計画の立案について 12.テーマに関連する論文講読 13.スライド作成および発表原稿の作成 14.研究テーマに関する実験 15.研究成果のまとめ
テキスト	なし。必要に応じて資料配布などを行う

参考書	Rをはじめよう生命科学のためのRStudio入門 , Andrew P. Beckerman, Dylan Z. Childs, Owen L. Petchey, 富永大介(翻訳)、羊土社、ISBN-13 : 978-4758120951
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内で課題演習、議論、発表などを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生への質問に対して、授業中は随時対応する。時間外においては、オフィスアワー、メールなどで対応する。
フィードバックの方法	授業内で、必要に応じてアドバイする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：授業範囲の内容を事前調査する。(1.5時間) 復習：授業内容や考察をまとめる。(1.5時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59803
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 D 栄養教育実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>食・栄養教育に関連する研究分野において管理栄養士業務に必要な栄養教育ツール・媒体等を知る。自分の興味が湧く研究テーマを設定し、研究を進めながら、基本的な研究方法を習得する</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 健康・栄養教育の実践が理解できる</p> <p>思考判断の領域 多様な栄養教育の場における伝え方や適したツール選定ができる</p> <p>関心意欲の領域 管理栄養士業務に必要とされる栄養教育ツールの提案ができる</p> <p>態度・志向性の領域 研究活動において他者と協調し、積極的に関与できる</p> <p>技能の領域 研究を通して、問題を発見できる力、問題解決力を身につける</p> <p>体験探究の領域 研究を通して、管理栄養士として学び続ける大切さを知る</p>
授業の概要	<p>以下を参考に自分が興味を持ってできる研究テーマを、教員と相談し決定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低糖質のおやつ ・嚥下調整食に使用できる市販食品 ・管理栄養士業務に役立つツール作成 ・栄養教育のICT活用 <p>各自の研究テーマに沿ってスケジュールをたて、実施する。最終的に、スライドを作成し発表をする</p>
評価方法	<p>研究に取り組む姿勢 50%</p> <p>課題発表 50%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<p>1 オリエンテーション 2 研究の紹介 3 論文検索の方法 4 研究テーマの選択 5 研究テーマの決定 6 研究の対象と方法の決定 7 研究テーマに沿った情報の収集</p> <p>8 各自のテーマに沿った研究の実施 9 各自のテーマに沿った研究の実施 10 各自のテーマに沿った研究の実施 11 各自のテーマに沿った研究の実施 12 研究成果発表の準備 13 研究成果発表の準備 14 研究成果発表の練習 15 研究成果の発表</p>
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ICT（情報通信技術）を効果的に利用して情報収集をする。グループディスカッション、プレゼンテーションを実施する
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	クリニックや介護老人保健施設で、栄養管理、栄養指導、在宅栄養指導の経験を有する教員がこれまでの経験を活かしながらかある管理栄養士が、現場における栄養教育の在り方やその課題を解説する。
質問への対応方法	授業時間内は、随時。時間外はメールなどで対応する
フィードバックの方法	授業時間内
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	研究の進行状況に合わせて
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59805
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	太田 貴久
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 4 B 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 貴久 (管理栄養学科)
授業の目標	専門演習 Aでは、卒業研究につながる基礎的な統計学の勉強を行い基本的な統計処理ができるようにする。また、様々な研究の種類が理解できるように多くの論文を読み、授業内で各々発表をして、卒業研究に応用できるようにする。
授業の概要	統計ソフト (EZR) を使いこなせるように繰り返し基本的な統計処理を行う。また、様々な論文を読み抄読会を行う。
評価方法	レポート課題提出
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な統計学演習 ・ 参考論文の批判的吟味 ・ データ収集及び解析 ・ 授業内における抄読会での発表
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業内での質問には適時対応する。 また、授業後の質問に対しては研究室にて受ける。
フィードバックの方法	学会発表もしくは学内にて発表をする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	研究により収集したデータを使い統計解析を行う (復習)。 公衆衛生学実習で使用した教科書 (統計解析) を読んでおく (予習)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	17. パートナリーシップで目標を達成しよう

PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59806
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 I 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香(管理栄養学科)
授業の目標	写真法による食事調査では、管理栄養士は食材や分量を正確にデータ化する目測精度の能力が必要とされる。このデータ化には、経験によりデータ化の精度に大きな格差が認められる。卒業後即戦力となり得る質の高い管理栄養士の養成には、この格差解消に向けた教育プログラムの構築を目的に、目測精度のデータ化能力の実態調査およびその能力の評価を行うことを目標とする。
授業の概要	・ 関連文献の検索と講読 ・ 調査紙によるアンケートを行う
評価方法	授業への取り組み(20%)、調査結果(35%)、発表内容(45%)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	1、2回 オリエンテーション、調査方法の検討 3、4回 関連文献の検索と講読 5から10回 調査方法の設計 11から15回 調査 16から20回 データの収集と分析 21から25回 考察 26から30回 まとめと発表
テキスト	研究テーマにあわせて、必要な書籍や資料を紹介する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	病院において管理栄養士経験がある教員が、対象者の特性を理解し、適した食材を正確にデータ化できる能力が身につくように、目測精度の向上に向けた教育内容に取り組んでいる。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。 その都度アドバイスをを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕次週のシラバスを確認し、該当する項目について調べておく。 〔復習〕疑問に思ったこと等、関連論文を検索し課題を解決する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を

SDGs 17の目標 (11~17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	8.計画立案力

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59807
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 H演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝(管理栄養学科)
授業の目標	管理栄養士は、様々な年代の人を対象にして栄養管理を行います。この授業では、各ライフステージの特徴を考えた栄養管理を軸として、食事・運動・休養の習慣が健康に与える影響を考察し、その改善策を検討する力を高めることを目指します。科学的根拠のある情報の選び方、論文の読み方を学び、時代に即した栄養管理を主体的に実施できる管理栄養士になることを目標とします。国家試験対策の勉強はもちろん、教養と人間力向上につながる勉強にも取り組んでいきます。
授業の概要	卒業研究を意識した演習を行います。論文の検索方法や解釈の仕方、統計の方法、発表の工夫などを学んだ上で、各自の研究テーマに取り組みます。わかりやすくプレゼンテーションするスキルも習得していきます。また、授業計画の内容は変更する場合があります。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	出席率、授業への取り組み、発表の内容などを総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合
授業計画	第01回：オリエンテーション 第02回：ディスカッション 第03回：ディスカッション 第04-05回：関心のあるテーマの発表 第06回：文献検索方法、論文の読み方 第07回：研究テーマ確認 第08回：情報収集、研究方法の検討 第09-10回：研究実施 第11-14回：結果のまとめ、発表準備 第15回：発表、ディスカッション
テキスト	必要に応じて指示します。
参考書	必要に応じて紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問や相談には随時対応します。

フィードバックの方法	随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	1時間の予習と1時間の復習を課します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59808
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	10D臨床栄養実習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)
授業の目標	<p>研究活動を通じて、医療分野で活躍できる管理栄養士の素養を身につけ、学習意欲を高めます。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 体組成と食事・運動との関連性が説明できる</p> <p>思考判断の領域 的確な栄養診断ができる</p> <p>関心意欲の領域 食事調査を基に自らの意見が述べられる</p> <p>態度・志向性の領域 エビデンスを作ることができる</p> <p>技能の領域 検索した論文を要約し、自身のアイデアが述べられる</p> <p>体験探究の領域 研究を通して、商品開発の疑似体験をする</p>
授業の概要	<p>美味しく体に良い食事やデザートの開発、ボディメイクに効果的な食事と運動、香りを医療に用いたアロマセラピーの活用など、実際に患者さんが楽しんで取り組める自然療法について研究開発を行います。</p> <p>この研究を通して、管理栄養士としてのやりがいを感じ、さらに科学的な視野を広げるために、自ら意欲的に進化させ能動的な学習習慣を身につけます。</p>
評価方法	<p>参加姿勢および成果で評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加姿勢 50% ・レポート 20% ・発表 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が 2 / 3 に満たない場合

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、論文の書き方 2. 研究テーマの決定、個人面談 3. 関係論文の検索とまとめ 4. 抄読会 5. 研究背景、抄読会 6. 対象と方法の検討、抄読会 7. 倫理的配慮について 8～9. 研究データの収集 10～11. 研究データの分析、グラフ化 12～13. 研究の考察 14. 発表と修正 15. 最終報告会
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	研究テーマについて調べた論文を要約して発表する抄読会を重ね、活発なディスカッションをすることで、先行研究を熟読し、研究の再現性を確認し、新規性を探り、新しいアイデアを発想できる思考力を身につけます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	病院やクリニックで、給食管理、栄養管理、栄養指導、在宅栄養指導の経験を有する教員が、食事療法のエビデンスが乏しいことに課題を感じ、学生の皆さんと食べ方、食材、調理・加工でエビデンスをつくる科目です
質問への対応方法	随時、またはメール等で対応します (m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	その都度、返却を行う
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	演習(2単位)週1コマ(30時間)の場合、60時間の準備学習を必要とする
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	<ul style="list-style-type: none"> 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11～17)	<ul style="list-style-type: none"> 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59809
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 A 栄養化学実験室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	栄養学・食品学に関連する研究についての知識および研究方法や、最新の食品栄養学分野の情報収集や実験を実施する。収集した情報や実験結果をまとめ、発表する能力を習得する事を目的とする。または、地域コミュニティと関わり、管理栄養士としての地域と連携した活動について学習、実践を行う事を目的とする。
授業の概要	次の4点のいずれかについての活動を行う。 1. 栄養学の基礎研究 (実験動物を用いた機能性食品の機能解析) 2. 栄養学の応用研究 (ヒトを対象とした官能検査試験) 3. 地域の食品産業に対する管理栄養学的なアプローチの考案 4. 管理栄養士として必要な知識の復習 上記の点について、 文献紹介、研究報告あるいは試験を実施する。また、研究活動やゼミでの教育活動に参加し、研究や地域コミュニティとの関わりに必要な知識や技術を身につける。また、参加した活動内容をまとめて報告する。 授業の性質から、所定の時間外に活動を実施する場合がある。
評価方法	1. 取り組む姿勢 50% 2. 活動の達成度 20% 3. 活動発表 30%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	毎週実施する打ち合わせ (教員の文献紹介および研究に必要な知識の講義や解説) を行い、研究活動を実施する。 初回講義はガイダンスを実施する。
テキスト	適宜配布する
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	対面やメールなど、随時対応する。
フィードバックの方法	定期的な研究打ち合わせや発表に対しての指導を行う。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教員と定期的に打ち合わせを行い、その中で適宜指示をする。また、自分の関心のある研究テーマに関連する科学論文（和文・英文）を探し、読むことが予習・復習・準備学習として望ましい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	専門演習IIA(通) / Advanced Study Group IIA
時間割コード Course Code	59810
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	1 2 C 理化学実験室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男(管理栄養学科)
授業の目標	食品衛生学に関する研究について最新の知識や研究方法を習得する方法を学ぶ。最新の情報や研究結果を収集して発表する能力を習得することにより、将来、科学的な視点で食の安全について考えられる管理栄養士になることを目標とする。 空き時間を利用して、管理栄養士の国試対策勉強も行う。
授業の概要	受講生自らが、食品の安全について、食品衛生学に関係する研究テーマをみつけ、ゼミの研究テーマに関する最新の研究について文献等でデータ収集する。得られたデータを分析して発表する。空き時間に、食品衛生学分野や生化学を中心とした国家試験対策も行う。
評価方法	授業内における取り組み 60% 課題発表 40% 以上を総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・研究テーマの決定 ・文献検索の方法 ・情報収集(研究テーマに関する文献の収集など) ・得られたデータや情報の解析 ・解析結果の検討 ・発表
テキスト	特になし。 必要に応じて指示する。
参考書	特になし。 必要に応じて指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	

質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：授業範囲の内容を事前に調べておく（1時間）。 復習：疑問に思ったこと等、関連論文で調べる（1時間）。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	専門演習II B (通) / Advanced Study Group II B
時間割コード Course Code	59851
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	1.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	これまでに学習してきた科目を再度理解するとともに、それぞれの科目の関連性を学ぶ。これにより、管理栄養士としての専門的・実践的な知識を身につけることを目的とする。
授業の概要	管理栄養学科4年次では、学修基礎力の再確認と実践力の強化を目的として、専門演習IIA・専門演習IIBを設置している。 専門演習IIBでは、複数教員の講義により、これまで学んできた科目の再確認を行うとともに、それぞれの科目のつながりについて総合的な学習を行う。また、適宜補講を行う場合がある。
評価方法	前期、後期それぞれにおいて定期的を実施する試験の得点および、課題により評価を行う。また、補講内容も評価対象になる場合がある。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	管理栄養領域における科目についての復習講義を行い、定期的に講義内容についての試験を実施する。前期では人体の機能と構造および疾病の成り立ち(生化学を中心とする)、基礎栄養学に関する科目について学習し、後期には臨床領域や栄養指導に関する科目について主に学習する。初回講義では、ガイダンスを行う。
テキスト	適宜指定する。
参考書	適宜提示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学習内容の質問や学習方法についての質問は、講義時間外に個別に対応します。
フィードバックの方法	定期試験の試験問題と同様の内容を含む課題資料を配付する。 定期試験の結果について開示するとともに、学習のサポート資料を配付する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義内容は、管理栄養領域の内容を広範に含むため、これまでの講義で使用したテキストの内容について準備、予習すること。復習については、講義の内容や講義内で配布した資料に沿って、適宜上記テキストを利用した復習をすること。前期は特に、人体の機能と構造および疾患の成り立ち(生化学、解剖生理学)、基礎栄養学分野について、後期は人体の機能と構造および疾患の成り立ち(病態学)、臨床栄養学に加え、食べ物と健康、社会・環境と健康、講習栄養学領域を中心に学習を進めることが望ましい。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 6. 安全な水とトイレを世界中に
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59900
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	荒川 和幸
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒川 和幸(管理栄養学科)
授業の目標	各自のテーマに沿って、調査、解析、論文作成を行っていく。
授業の概要	計画に応じて、文献検索、解析、調理などを行う。
評価方法	研究に取り組む姿勢、内容などを総合的に評価。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし。
授業計画	教員と打ち合わせの上適宜研究を実施。
テキスト	特になし。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカ ッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授 業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授 業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	適宜、質疑等を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及 び時間	必要に応じ指示。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59901
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	太田 和徳
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 和徳 (管理栄養学科)
授業の目標	論文作成に必要な文献読解力を身に付けるとともに、研究の動向や世間のニーズに敏感に反応でき、かつ、そこから展開するビジネスモデルの提案が可能な文理融合型の思考を養うことを目標とする。
授業の概要	多くの時間を教員との対話・議論に要する(原則対面での実施とする)。 学生個別に論文テーマに沿った指導を行う。
評価方法	文献読解力、自己学習能力、コミュニケーション力必須。教員と積極的に議論し、論文あるいは課題の作成に取り組む学生のみ評価対象とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	教員の連絡に対し、1回でも応じない場合は即刻失格。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～7回 文献調査 第8～14回 調査に基づくディスカッション 第15回 総括
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	教員および他ゼミ生とのディスカッションを実施
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	即日回答
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	研究活動及び論文作成に各回3時間の予習復習を求める
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11～17)	
PROGリテラシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59903
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	岸上 明生
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岸上 明生 (管理栄養学科)
授業の目標	少人数制のクラス編成によるきめ細かな指導により、管理栄養士に必要な基礎知識を深めるとともに、科学的な研究方法を取得する。また、特に生理学分野における研究活動を実施する際に必要な知識・技能を身につけることを目標とする。栄養研究所、食品会社、製薬会社等で、研究補助員としても活躍できるよう指導する。また、生理学分野や病態学を中心とした国家試験対策も行う。授業は、対面授業にて実施する。
授業の概要	栄養学に関係する生理現象に注目して、現象測定の結果を解析して、生理機能の分子レベルの機構との関係を解析する。あるいは、細胞内情報伝達機構に関係するタンパク質分子の構造と機能についてミクロとマクロの関係を解析する。解析結果からモデル考案を試みるまでの活動を通じて、科学的手法の理解を深める。まず、生理学的に重要な役割を持つタンパク質についての情報を収集する。原著文献を通して、研究論文のまとめ方を取得する。
評価方法	授業態度を特に重視する。 実験の空き時間は、国試対策勉強を行う。 授業態度(50%)、レポート(30%)、作成した卒業論文(20%)を総合的に評価する。レポートについては評価後に返却する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が授業回の2/3に満たない場合
授業計画	研究を通して科学的手法を学ぶために、テーマの設定、実験、測定活動、データ解析、発表のための作図、論文作成の手順を、各人の進行に応じた議論や助言によって、進める。随時、必要に応じた指導教員と対面討論を実施する。
テキスト	なし。 必要に応じて資料配布などを行う
参考書	Rをはじめよう生命科学のためのRStudio入門 , Andrew P. Beckerman, Dylan Z. Childs, Owen L. Petchey, 富永大介(翻訳)、羊土社、ISBN-13 : 978-4758120951
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内で課題演習、議論、発表などを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生への質問に対して、授業中は随時対応する。時間外においては、オフィスアワー、メールなどで対応する。
フィードバックの方法	授業内で、必要に応じてアドバイする。

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：授業範囲の内容を事前調査する。(1.5時間) 復習：授業内容や考察をまとめる。(1.5時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	12.つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59904
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	山岡 由理子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山岡 由理子 (管理栄養学科)
授業の目標	<p>食・栄養教育に関連する研究分野において管理栄養士業務に必要な栄養教育ツール・媒体等を知る。自分の興味が湧く研究テーマを設定し、研究を進めながら、基本的な研究方法を習得し、発表・論文にまとめることができるようになる</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 健康・栄養教育の実践が理解できる</p> <p>思考判断の領域 多様な栄養教育の場における伝え方や適したツール選定ができる</p> <p>関心意欲の領域 管理栄養士業務に必要とされる栄養教育ツールの提案ができる</p> <p>態度・志向性の領域 研究活動において他者と協調し、積極的に関与できる</p> <p>技能の領域 研究を通して、問題を発見できる力、問題解決力を身につける</p> <p>体験探究の領域 研究を通して、管理栄養士として学び続ける大切さを知る</p>
授業の概要	<p>以下を参考に自分が興味を持ってできる研究テーマを、教員と相談し決定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低糖質のおやつ ・嚥下調整食に使用できる市販食品 ・管理栄養士業務に役立つツール作成 ・栄養教育のICT活用 <p>各自の研究テーマに沿ってスケジュールをたて、実施する。最終的に、研究発表および論文にまとめる</p>
評価方法	<p>研究に取り組む姿勢 50%</p> <p>論文の内容 50%</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 論文検索の方法 ・ 研究テーマの決定 ・ 研究の対象と方法を決定 ・ 研究の実施 ・ 発表の練習 ・ 発表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 論文作成
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	ICT（情報通信技術）を効果的に利用して情報収集をする。グループディスカッション、プレゼンテーションを実施する
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	クリニックや介護老人保健施設で、栄養管理、栄養指導、在宅栄養指導の経験を有する教員がこれまでの経験を活かしながらある管理栄養士が、現場における栄養教育の在り方やその課題を解説する。
質問への対応方法	クリニックや介護老人保健施設で、栄養管理、栄養指導、在宅栄養指導の経験を有する教員がこれまでの経験を活かしながらある管理栄養士が、現場における栄養教育の在り方やその課題を解説する。
フィードバックの方法	授業時間内
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	研究の進行状況に合わせて
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ul style="list-style-type: none"> 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59906
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	太田 貴久
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	太田 貴久(管理栄養学科)
授業の目標	基礎的な統計学および論文の読み方等の勉強会を行い基本的な統計処理ができるようにする。その後、各自もしくは各グループにてテーマを絞り研究を遂行して行き、栄養改善学会東海支部会もしくは東海公衆衛生学会等にて発表することを最終目的とする。
授業の概要	基本的な統計処理を学び、データ収集及び解析ができるようにする。また、卒業研究に必要な参考文献を自ら探し出しその論文の批判的吟味ができるようになり、卒業論文を作成していく。
評価方法	レポート提出(進捗状況等)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な統計学演習 ・ 論文の批判的吟味 ・ データ収集の方法 ・ データ解析 ・ 学会発表準備 ・ 論文作成
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	卒業研究に関する質問は適時研究室にて受ける。
フィードバックの方法	学内での掲示をする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	テーマに関連した参考文献を読んでおく(予習)。 読んだ参考文献の批判的吟味を行う(復習)。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59907
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香 (管理栄養学科)
授業の目標	卒業研究では、学生それぞれが興味を持っているテーマについて、研究計画から情報収集、データ分析、まとめ、プレゼンテーションまでの総合的な研究能力を身につけることを目標とする。
授業の概要	管理栄養学科で学んだ4年間での学修の集大成とし、学生が望むテーマに沿ってグループで研究を行う。これまで修得した基礎・専門知識を基に研究計画を立て、データ収集・分析・科学的に解析し発表能力を高めるための適切な指導を行う。論理的な文章で研究論文としてまとめる。
評価方法	授業(研究)への取り組みを特に重視する。 卒業論文、発表等を総合的に評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 教員による研究課題のテーマ説明 第3回 情報収集の方法 第4回 情報収集(練習) 第5回 情報収集(実践) 第6回 研究テーマに関連する論文購読(基礎) 第7回 研究テーマに関連する論文購読(応用) 第8回 論文作成に関する演習(基礎) 第9回 論文作成に関する演習(応用) 第10回 研究活動の計画 第11回 研究活動(アンケートの作成) 第12回 研究活動(アンケートの作成) 第13回 研究活動(写真法による目測食品の選定) 第14回 研究活動(写真法による目測食品の選定) 第15回 研究活動(現場調査及び写真法食品の撮影、重量計測の実施) 第16回 研究活動(大学生へのアンケートの実施) 第17回 研究活動(大学生へのアンケートの実施) 第18回 研究活動(アンケートの集計) 第19回 研究活動(アンケートの集計) 第20回 研究活動(アンケートの集計) 第21回 中間発表(準備) 第22回 中間発表(発表) 第23回 中間発表(研究活動の評価) 第24回 中間発表(研究活動の再計画) 第25回 研究活動(再計画の実施) 第26回 研究活動(再計画の評価) 第27回 論文作成 第28回 論文提出 第29回 研究発表 第30回 まとめ
テキスト	必要に応じて指示する。関連する論文は図書館やインターネットを活用し検索する。
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。 研究データ、集計、統計解析、論文執筆等、その都度アドバイスをを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕関連する論文を図書館等で検索し知識や理解を深める。 〔復習〕研究上生じた疑問点は、関連する論文を図書館等で調べ課題を解決する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	9.実践力

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59908
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	夏目 有紀枝
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	夏目 有紀枝(管理栄養学科)
授業の目標	食事の摂り方(欠食、間食など)、身体活動を含めた運動習慣、生活習慣(シフトワーカー、食後すぐ寝るなど)が健康に与える影響を、ライフステージの身体的特徴を考慮した上で検討していく研究の基礎的手法を習得します。身近な問題に関心を持ち、広い視野で現状を把握でき、文献・報告を検討し、目的を持って研究・調査し、考察できる力を育むことを目標とします。研究を通じて、必要な情報を見極め、探究していけるような主体性のある管理栄養士、社会人を目指します。
授業の概要	担当教員の主な研究テーマは、「ライフステージにおける食習慣および運動習慣が健康にもたらす効果」ですが、学生は各自で関心のある研究テーマを決め、必要な情報を収集し、研究デザインを構築し、研究に取り組みます。収集した情報を分析して結論を導き出し、文献を引用して質の高い考察を目指します。自らの研究をわかりやすくプレゼンテーションするスキルも習得していきます。また、授業計画の内容は変更する場合があります。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。
評価方法	研究に取り組む姿勢、発表の内容などを総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	第01回：オリエンテーション 第02-04回：研究テーマの指導および文献調査 第05-09回：調査の実施と結果のまとめ 第10-13回：卒業論文の作成と指導 第14回：発表、ディスカッション 第15回：総括
テキスト	必要に応じて指示します。
参考書	必要に応じて紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問や相談には、随時対応します。
フィードバックの方法	随時対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	2時間の予習と2時間の復習を必要とします。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59909
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	早川麻理子
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	早川麻理子(管理栄養学科)
授業の目標	健康増進や疾病の予防や治療に関連する研究分野においての情報収集および基本的な研究方法を習得し、 研究テーマに沿った実験の実施、結果の分析、考察、発表ができる能力の習得を目指します。 <学習成果> 知識・理解の領域 体組成と食事・運動との関連性が説明できる 思考判断の領域 的確な栄養診断ができる 関心意欲の領域 食事調査を基に自らの意見が述べられる 態度・志向性の領域 エビデンスを作ることができる 技能の領域 検索した論文を要約し、自身のアイデアが述べられる 体験探究の領域 研究を通して、商品開発の疑似体験をする
授業の概要	以下を参考に教員と相談の上、研究テーマを決定します。 1．美味しく体に良い食事やデザートの開発 2．ボディメイクに効果的な食事と運動 3．香りを医療に用いたアロマセラピーの活用 研究に関連する文献検索、抄読会、研究の実施、結果の分析、報告会で発表し、その成果を論文にまとめて提出します。 なお、研究日程は、教員と打ち合わせ、年間を通して適切に実施します。
評価方法	研究に取り組む姿勢 50% 論文の内容 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	・研究テーマの決定 ・関係論文検索から研究背景を書く ・研究の対象と方法を決定 ・研究の実施 ・結果の分析 ・発表とディスカッション ・論文を作成して提出
テキスト	

参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	研究の実施、発表、活発なディスカッションを行うことで、簡潔にまとめられる理論的思考（ロジカルシンキング）を身につけ、伝えるプレゼンテーション能力を向上させる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	病院やクリニックで、給食管理、栄養管理、栄養指導、在宅栄養指導の経験を有する教員が、食事療法にエビデンスが乏しいことを課題とし、これまでの経験を生かしながら学生の皆さんとエビデンスをつくっていく科目です
質問への対応方法	その都度、またはメール等で対応します（m-hayakawa@nagoya-ku.ac.jp）
フィードバックの方法	その都度、返却を行う
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	研究の進行状況に合わせて、必要な内容および学習時間をお伝えします。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59910
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	山田 貴史
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	山田 貴史 (管理栄養学科)
授業の目標	栄養学・食品学に関連する研究についての知識および研究方法の基礎を習得するとともに、最新の食品栄養学分野の情報の収集を実施する。 ゼミの研究テーマに沿った実験を実施し、結果についてまとめ、発表する能力を習得する事を目的とする。
授業の概要	次の3点のいずれかについての活動を行う。 1. 栄養学の基礎研究 (実験動物を用いた機能性食品の機能解析) 2. 栄養学の応用研究 (ヒトを対象とした官能検査試験) 3. 地域の食品産業に対する管理栄養学的なアプローチの考案 上記の点について、 研究に関連する文献検索、研究の実施、報告会での発表を行う。 研究は、教員との打ち合わせの上、年間を通し適切に実施する。 研究テーマの詳細については、教員と相談の上で決定する。
評価方法	1. 研究に取り組む姿勢 50% 2. 卒業論文の内容 25% 3. 研究発表 25%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	定期的な研究のや発表が著しく実施できないときは失格とする場合がある。
授業計画	教員と打ち合わせの上適宜研究を実施する。 初回講義では、ガイダンスを行う。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	対面やメールなど、随時対応する。
フィードバックの方法	定期的な研究打ち合わせや発表に対しての指導を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	教員と定期的に打ち合わせを行い、その中で適宜指示をする。また、自分の研究に関連する科学論文(和文・英文)を探し、読むことが予習・復習・準備学習として望ましい。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	1. 親和力 2. 協同力 3. 統率力 4. 感情制御力 5. 自信創出力 6. 行動持続力 7. 課題発見力 8. 計画立案力 9. 実践力

開講科目名 Course	卒業研究(通)
時間割コード Course Code	59911
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	4
主担当教員 Main Instructor	前田 真男
科目区分 Course Group	演習群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	前田 真男(管理栄養学科)
授業の目標	食品衛生学に関する最新の知識や基礎研究等についての知識を習得するとともに情報の収集の仕方を学び、研究テーマについて結果をまとめて論文にする能力を習得する。 また、空き時間を利用して、管理栄養士の国試対策勉強も行う。
授業の概要	食品の安全について、食品衛生学に関係する研究テーマを見つける。ゼミの研究テーマに関する最新の研究について文献等でデータ収集する。得られたデータを分析して論文にまとめる。 空き時間に、食品衛生学分野や生化学を中心とした国家試験対策も行う。
評価方法	研究に取り組む姿勢 50% 卒業論文の内容 50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究テーマの決定 ・ 情報収集(研究テーマに関する文献の収集など) ・ 得られたデータや情報の解析 ・ 解析結果の検討 ・ 論文作成
テキスト	なし。 必要に応じて指示する。
参考書	なし。 必要に応じて指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	定期的な打ち合わせや発表などに対して指導を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	定期的な打ち合わせを行い、その中で適宜指示する。

使用言語	日本語
SDGs 17の目標 (1~10)	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標 (11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	保育実習指導 I (年)23前-24前
時間割コード Course Code	50904
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 1
開講区分 semester offered	年度またがり / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3
主担当教員 Main Instructor	楯 誠
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	1 3 D 講義室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	関谷 みのぶ(教育保育学科)、楯 誠(教育保育学科)、長江 美津子(教育保育学科)
授業の目標	<p>この授業は「保育実習(保育所)」および「保育実習(施設)」を履修する学生への事前事後指導を行うものである。この授業を通して、保育実習を行うにあたっての実習生としての姿勢・態度、実習参加における基本的な視点、日誌や指導案の書き方(形式)の基礎を身に付けることができる。また、実習後の反省会や個別指導を通して保育士としての自己の課題を明確にしていけるようにする。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所をはじめとする様々な児童福祉施設の意義や活動(保育)内容、そこでの保育士の役割を知ることができる。 ・実習日誌の基本的な形式を理解するとともに、具体的な内容表現などを知ることができる。また、指導案における「ねらい」の基本的な意味を知り、実際の活動とのつながりを理解できるようになる。 <p>【技能の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下級生への保育技能の指導を通して、自らの技能向上につなげていくことができる。 ・保育内容関連の担当の指導により、保育技能のチェックができる。 <p>【態度・指向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留意事項の確認を通して、実習生としての基本的な心構えを身に付けることができる。 ・実習後の振り返り、施設からの評価によって自らの保育士として課題に気づくことができる。
授業の概要	<p>1 学外実習(保育所といわゆる施設)4単位を取得するための事前のオリエンテーションを行ない、保育実習の意義と目的、実習の際の留意事項、実習日誌・指導案の書き方などを理解する。なお、施設実習については、オリエンテーションの中で実習施設を選択・決定する。また、現職の保育士や施設職員を招いて講演会(特別講義)を開催し、日頃の疑問などについて意見交換を行う。</p> <p>2 保育内容関連の担当による保育技能のブラッシュアップを行う。また、下級生への保育技能の指導を行い、自己の保育技能の確認を行う。</p> <p>3 実習終了後に全体反省会もしくはゼミ別反省会を開いて、実習の成果と課題を共有するとともに、個別指導を通して個人的な評価・反省を行い、選択必修の実習に向けての新たな目標設定をおこなう。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>

評価方法	授業への参加態度（50％）、課題の提出（50％）などを総合的に勘案して評価する。 また、この科目は保育実習（保育所）および保育実習（施設）と連動したもののため、2つの実習科目両方の単位認定が認められたのちに、単位認定される。 出席確認後、授業開始時刻より20分以内の授業参加は遅刻とする（1限の場合は、9時50分まで）。それ以降の参加は欠席とする。遅刻した学生は、当日の主担当以外の教員に時間内に申し出ること。 2回の遅刻をもって1回の欠席とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	学外実習では出欠（遅刻を含む）の有無、および期限内での課題提出についてきわめて厳格であるため、この授業においても、それに準じて厳格に出欠を取ること、課題提出の期限の遵守を基本方針とする。 <ul style="list-style-type: none">・保育実習（保育所）の事前事後指導で4回以上の欠席があった場合、失格とする。・保育実習（施設）の事前事後指導で4回以上の欠席があった場合、失格とする。・課題について期限までに提出がない場合は失格とする。

授業計画

第1回～第15回は2年次前期、第16回～第30回は3年次前期に開講する。
また、事後の指導については、学外実習の時期、事後指導に要する書類の準備に応じて別途設定する場合もある。

第1回 保育実習の概要、授業オリエンテーション
すべての回において、事前に配布された資料の予習に1時間程度、授業後に、ガイダンス事項の確認・振り返りに1時間程度の学習を課す。その他、別途課される課題や学外実習のための資料収集、制作、立案に2～4時間程度を課す。

第2回 保育実習(保育所)の基本的留意事項(実習の目的、内容、心構え)について

第3回 保育所の概要と保育士の役割1(乳児の保育について)
乳幼児の発達についての復習ワークシート課題を課す。

第4回 保育所の概要と保育士の役割2(障害児の保育について)
障害児保育に関する復習ワークシート課題を課す。

第5回 保育所の概要と保育士の役割3(一日の生活、食と栄養の場面から)
実習時の観察の視点に着目した復習ワークシートを課す。

第6回 事前の手続きガイダンス(事前訪問、提出書類、訪問教員、特別欠席届など)、実習目標設定について
実習目標設定に関する課題を課す。

第7回
・実習中(出勤簿、欠席など)事後(日誌、お礼状など)の手続きガイダンス、評価について
・実習目標設定に関する課題についてのフィードバック、改善について
実習目標の改善に関する課題を課す。

第8回 保育実習(保育所)における実習日誌の扱いとその形式、内容について
実習日誌に関する課題(資料の確認、書き写しなど)を課す。

第9回 保育実習(保育所)における指導案の形式と内容について
指導案に関する課題(資料の確認、書き写し、参考となる指導案の収集など)を課す。
部分指導案作成を課す。

第10回-11回 保育技能のブラッシュアップ
(手遊び、絵本の読み聞かせ、紙芝居といった保育技能を発表し、グループ内での批評、フィードバックの実施)
これらの保育技能の調査、事前習得のための学習を課す。また、フィードバックをもとにした振り返りを課す。

第12回 実習における不測の事態への対応のガイダンス(事故、自然災害等)、保育実習(保育所)直前の確認

第13回 保育実習(保育所)ゼミ別反省会
事後指導のための「自己反省シート」作成のために2時間、実習日誌および指導案の実習園からの指導箇所を確認・抽出のためのワークシート作成のために2時間の授業外の学習を課す。

第14回
・保育実習(保育所)振り返り
・「保育実習(施設)」および「保育実習?・?」履修に向けてのガイダンス

第15回 保育実習(保育所)個別事後指導

第16回 保育実習(施設)ガイダンス、施設配分

第17回 保育実習(施設)の基本的留意事項(実習の目的、内容、心構え)について

第18回 保育実習(施設)の事前・実習中・事後の手続き、実習目標設定について
実習目標設定に関する課題を課す。

第19回 乳児院の概要と保育士の役割
予習: 児童福祉法、児童福祉施設に関する設備及び運営に関する基準の復習を課す。
復習: 乳児院で勤務する保育士の役割についての振り返りを課す。

第20回 児童養護施設の概要と保育士の役割
予習: 児童福祉法、児童福祉施設に関する設備及び運営に関する基準の復習を課す。
復習: 児童福祉施設で勤務する保育士の役割についての振り返りを課す。

第21回 障害児・者施設の概要と保育士の役割
予習: 児童福祉法、児童福祉施設に関する設備及び運営に関する基準の復習を課す。
復習: 障害児・者施設で勤務する保育士の役割についての振り返りを課す。

第22回 その他の児童福祉施設(保育所を除く)の概要と保育士の役割
予習: 児童福祉法、児童福祉施設に関する設備及び運営に関する基準の復習を課す。
復習: 各自の実習課題に関する振り返りを課す。

第23回 保育実習(施設)における実習日誌の扱いとその形式、内容
日誌の書き方について、振り返りを課す。

第24回 施設実習に向けて施設別ワーク(実習施設の理解を深める)

第25回 施設実習に向けて先輩による講演
先輩講師による講演の感想と目標の再設定のため課題を課す。

第26回 施設実習に向けて施設別ワーク、課題の明確化
各自の実習課題の完成(書類記入)を課す。

第27回 保育実習(施設)直前の確認

	<p>第28回 保育実習（施設）施設別反省会 事後指導のための「自己反省シート」「エピソード記録」作成を課す。 第29回 保育実習（施設）振り返り、「保育実習?・?」に向けてのガイダンス 第30回 保育実習（施設）個別事後指導</p>
テキスト	
参考書	『保育福祉小六法2021年版』みらい 愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会編『保育士をめざす人の福祉施設実習』（第2版）、みらい、1,900円
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	模擬保育や事例検討を行う
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	保育士経験のある教員が担当者に含まれる
質問への対応方法	授業内容の質問に関しては、主に授業後に対応するが、別の時間でも受け付ける。
フィードバックの方法	確認課題（書き写し等）については、特に返却はしない。自己反省シートについては、事後指導にてフィードバックする（再回収も行う）。施設実習に関するワークシートについては、実習前までに返却をする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業計画を参照のこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長も</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	9. 実践力

開講科目名 Course	臨地実習Ⅰ(年)23前-24後
時間割コード Course Code	54045
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	年度またがり / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香(管理栄養学科)
授業の目標	臨地実習は、学外において学内で学んだ知識・技術をさらに深く学びます。臨地実習は、保健所、学校、事業所、福祉施設等の特定給食施設で、実際に業務を体験し、管理栄養士としての技術を体得することを目的とします。
授業の概要	各特定給食施設の給食の意義・目的やその特質および栄養士・管理栄養士の業務を知る。栄養アセスメント、給食システム、生産管理、工程管理、食材管理、品質管理、原価管理、衛生管理、施設設備管理、帳票類管理、人事労務管理と人材教育、危機管理等を理解し、経営管理の視点から、給食業務の流れをシュミレーションできる。給食資源の具体的な活用法がわかり、給食の評価など理解できる。給食における多職種連携や地域連携がわかる。喫食者の基本的権利・個人情報保護等が理解できる。
評価方法	事前・事後指導および提出物，実習先管理栄養士の評価などを含め，総合的に評価します。 実習時間 45時間 ×2回
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	よる失格基準 特になし
授業計画	3年次～4年次の間に，管理栄養士の勤務経験のある教員の指導の下で病院・学校・事業所・福祉施設等の実習を1週間×2回行う。 臨地実習に伴う事前事後指導を行う。
テキスト	なし
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学外実習で実際に働いている管理栄養士の仕事について学ぶ。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員から学外実習の指導を受け、実際に働いている管理栄養士の先生から実践的な指導を受ける。
質問への対応方法	随時対応
フィードバックの方法	随時対応
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	実習施設からの事前・実習中・事後課題及び心構えなどに対する事前準備に20時間×各2施設、ノート作成及び報告会資料作成10時間×各2施設
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11～17)	12. つくる責任つかう責任

PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	9. 実践力

開講科目名 Course	臨地実習II(年)23前-24後
時間割コード Course Code	54065
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他
開講区分 semester offered	年度またがり / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	3,4
主担当教員 Main Instructor	庄司 吏香
科目区分 Course Group	専門科目群 専門展開科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	実験・実習・実技科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	庄司 吏香(管理栄養学科)
授業の目標	臨床栄養学、臨床栄養学実習などで学んだ医療現場における栄養管理を体験させ、管理栄養士の責務および傷病者に対する栄養管理の実務を修得することができる。
授業の概要	医療施設における「臨床栄養管理」の実務について、現場の管理栄養士の指導の下2週間にわたって体験する。傷病者の栄養管理の実際について理論と現実の統合を図り、随時、実務的な課題を与え問題意識を持ちながら学習する。また医療チームの一員として、コミュニケーション能力、守秘義務、個人情報保護などについて、医療倫理を踏まえた全人的な管理栄養士としての素養を身につける。
評価方法	出欠席(1日でも欠席した場合には不可)、事前・事後指導および提出物、実習先管理栄養士の評価などを含め、総合的に評価する。 実習時間 90時間
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	3年次～4年次の間に、医療現場で勤務する管理栄養士の指導の下に、臨床栄養管理の実務を2週間行う。 また、臨地実習に伴う事前事後指導を行う。 実務経験のある教員による授業 臨床栄養管理経験を持つ教員が、医療保険制度、他職種とのチーム医療、栄養食事指導、入院栄養管理等の事前教育を行い、実際の医療現場の実習を通して管理栄養士の責務を学ぶ科目である。
テキスト	なし
参考書	臨地・校外実習 加藤昌彦、續順子、塚原丘美 健帛社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	学外実習で実際に働いている管理栄養士の仕事について学ぶ。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	実務経験のある教員から学外実習の指導を受け、実際に働いている管理栄養士の先生から実践的な指導を受ける。
質問への対応方法	随時対応。
フィードバックの方法	随時対応。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	〔予習〕学習内容のテキストの項目を読んでおく。(2h×15回 30時間) 〔復習〕講義内で配布されるプリントおよびテキストの内容をまとめる。(2h×15回 30時間)
使用言語	日本語

SDGs 17の目標（1～10）	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	12. つくる責任つかう責任
PROGリテラシーの要素	3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	9. 実践力

開講科目名 Course	文学と現代 / Literature in the Modern Age
時間割コード Course Code	10010
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	香川 由紀子
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	香川 由紀子 (法学部)
授業の目標	本授業では、文学を通して現代社会の諸相や問題を捉え、意見を述べることを目標としています。とりわけ、今「多様性」という言葉が注目されていますが、それが文学ではどのように扱われているか(あるいは扱われていないのか)をたどり、自分自身で捉えなおし、クラスメイトと意見を交わし合うことを目指します。
授業の概要	主に1980年代以降の日本文学作品(小説(児童文学を含む)、短歌など)を講読し、そこに描かれる現代社会の諸相について、特徴、経緯、理由などを考えます。日本独自の現象であるのか、他言語で表現しうるかなどについても検討します。授業はディスカッションを含みます。作者の意図や歴史的・社会的背景について「正解」は何かを求めるのではなく、作品に現われる様々なできごとを自分の体験と照らし合わせたり、前後の時代や他の文化に考えを巡らせたりして問題を身近に引き寄せて作品を読み、自分の考えをクラスメイトと分かち合って整理することを目指します。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。
評価方法	授業参加度 20% コメントシート 40% 課題 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席率が70%(11回)に満たない場合は失格となる。
授業計画	1. オリエンテーション: 授業の概要、現代文学とテーマについて 2. 吉本ばなな(1) 3. 吉本ばなな(2) 4. 児童文学 江國香織 5. 児童文学 その他 6. 短歌 俵万智(1) 7. 短歌 俵万智(2) 8. 中間振り返り、まとめ、補足 9. 村田沙耶香(1) 10. 村田沙耶香(2) 11. 課題(授業中に実施し提出)、推理小説 歌野晶午(1) 12. 推理小説 歌野晶午(2) 13. 羽田圭介(1) 14. 羽田圭介(2) 15. 振り返りとまとめ 受講者の状況によって変更することがあります。

テキスト	教科書は使用しません。適宜、資料を配布します。 ただし、課題のために読んでおく作品を授業内で指示しますので、各自入手して講読してください。
参考書	授業で適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループまたはクラスでディスカッションを行い、意見をまとめて発表します。 積極的に発言してください。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後またはコメントシートへの回答で対応します。
フィードバックの方法	次の授業での口頭によるフィードバック、または課題にコメントをつけて返却をします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	日ごろから社会問題について関心を持ち、授業で扱う文学作品を読んだり、テーマに関連する事項について調べたりしておいてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	文学と現代 / Literature in the Modern Age
時間割コード Course Code	10011
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	香川 由紀子
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	香川 由紀子 (法学部)
授業の目標	本授業では、文学を通して現代社会の諸相や問題を捉え、意見を述べることを目標としています。とりわけ、今「多様性」という言葉が注目されていますが、それが文学ではどのように扱われているか(あるいは扱われていないのか)をたどり、自分自身で捉えなおし、クラスメイトと意見を交わし合うことを目指します。
授業の概要	主に1980年代以降の日本文学作品(小説(児童文学を含む)、短歌など)を講読し、そこに描かれる現代社会の諸相について、特徴、経緯、理由などを考えます。日本独自の現象であるのか、他言語で表現しうるかなどについても検討します。授業はディスカッションを含みます。作者の意図や歴史的・社会的背景について「正解」は何かを求めるのではなく、作品に現われる様々なできごとを自分の体験と照らし合わせたり、前後の時代や他の文化に考えを巡らせたりして問題を身近に引き寄せて作品を読み、自分の考えをクラスメイトと分かち合って整理することを目指します。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。
評価方法	授業参加度 20% コメントシート 40% 課題 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席率が70%(11回)に満たない場合は失格となる。
授業計画	1. オリエンテーション: 授業の概要、現代文学とテーマについて 2. 吉本ばなな(1) 3. 吉本ばなな(2) 4. 児童文学 江國香織 5. 児童文学 その他 6. 短歌 俵万智(1) 7. 短歌 俵万智(2) 8. 中間振り返り、まとめ、補足 9. 村田沙耶香(1) 10. 村田沙耶香(2) 11. 課題(授業中に実施し提出)、推理小説 歌野晶午(1) 12. 推理小説 歌野晶午(2) 13. 羽田圭介(1) 14. 羽田圭介(2) 15. 振り返りとまとめ 受講者の状況によって変更することがあります。

テキスト	教科書は使用しません。適宜、資料を配布します。 ただし、課題のために読んでおく作品を授業内で指示しますので、各自入手して講読してください。
参考書	授業で適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループまたはクラスでディスカッションを行い、意見をまとめて発表します。 積極的に発言してください。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後またはコメントシートへの回答で対応します。
フィードバックの方法	次の授業での口頭によるフィードバック、または課題にコメントをつけて返却をします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	日ごろから社会問題について関心を持ち、授業で扱う文学作品を読んだり、テーマに関連する事項について調べたりしておいてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	文学と現代 / Literature in the Modern Age
時間割コード Course Code	10012
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	香川 由紀子
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	香川 由紀子 (法学部)
授業の目標	本授業では、文学を通して現代社会の諸相や問題を捉え、意見を述べることを目標としています。とりわけ、今「多様性」という言葉が注目されていますが、それが文学ではどのように扱われているか(あるいは扱われていないのか)をたどり、自分自身で捉えなおし、クラスメイトと意見を交わし合うことを目指します。
授業の概要	主に1980年代以降の日本文学作品(小説(児童文学を含む)、短歌など)を講読し、そこに描かれる現代社会の諸相について、特徴、経緯、理由などを考えます。日本独自の現象であるのか、他言語で表現しうるかなどについても検討します。授業はディスカッションを含みます。作者の意図や歴史的・社会的背景について「正解」は何かを求めるのではなく、作品に現われる様々なできごとを自分の体験と照らし合わせたり、前後の時代や他の文化に考えを巡らせたりして問題を身近に引き寄せて作品を読み、自分の考えをクラスメイトと分かち合って整理することを目指します。 この科目の位置づけについては、本学HPのナンパリングを参照すること。
評価方法	授業参加度 20% コメントシート 40% 課題 40%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席率が70%(11回)に満たない場合は失格となる。
授業計画	1. オリエンテーション: 授業の概要、現代文学とテーマについて 2. 吉本ばなな(1) 3. 吉本ばなな(2) 4. 児童文学 江國香織 5. 児童文学 その他 6. 短歌 俵万智(1) 7. 短歌 俵万智(2) 8. 中間振り返り、まとめ、補足 9. 村田沙耶香(1) 10. 村田沙耶香(2) 11. 課題(授業中に実施し提出)、推理小説 歌野晶午(1) 12. 推理小説 歌野晶午(2) 13. 羽田圭介(1) 14. 羽田圭介(2) 15. 振り返りとまとめ 受講者の状況によって変更することがあります。

テキスト	教科書は使用しません。適宜、資料を配布します。 ただし、課題のために読んでおく作品を授業内で指示しますので、各自入手して講読してください。
参考書	授業で適宜紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	グループまたはクラスでディスカッションを行い、意見をまとめて発表します。 積極的に発言してください。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後またはコメントシートへの回答で対応します。
フィードバックの方法	次の授業での口頭によるフィードバック、または課題にコメントをつけて返却をします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	日ごろから社会問題について関心を持ち、授業で扱う文学作品を読んだり、テーマに関連する事項について調べたりしておいてください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標（11～17）	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	アジアの中の思想 / Thoughts in Asia
時間割コード Course Code	10021
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	李 彩華
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	7 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華 (経営学部)
授業の目標	<p>日本を軸に据えながら、アジア、なかでも特に東アジアの歴史の中で培われた様々な思想を広く学習・理解してゆくことをこの授業の目標とします。</p> <p>社会科学としての思想は、哲学や歴史・文学・政治学といった学問と広く関連しています。この講義は、思想を対話・メッセージ、総合的な学知としてとらえ、特に思想の結びつき、価値観の相互の影響という思想連鎖の視点から、アジア、とりわけ東アジアの様々な思想について学習していきます。多様な思想及びその連鎖について学ぶことにより、自らの認識を相対化し思考の幅を広げることがめざします。</p> <p>知識・理解の領域 アジアの中の思想を、アジア、特に東アジア各国の関係性の中で理解することができる。</p> <p>思考判断の領域 アジアにおける多様な思想を自分の中に取り込んで考えることにより、自らの認識を相対化し思考の幅を広げることができる。</p> <p>態度・志向性の領域 アジアの中の思想のつながりをとらえ直すことにより、アジアに関わる今日的な問題について、よりグローバルな視点から展望することができる。</p>
授業の概要	<p>本講義では、まずインドの仏教と中国の儒教、西洋のキリスト教思想のアジア、特に東アジアへの展開の様相を概説します。そのうえで近世と幕末期に目を転じ、日本・中国と朝鮮との間で、相互に影響しあいながら繰り広げられた様々な革新思想の足跡を辿ってゆきます。さらに近代の思想として、自由、平等、民権、平和、日本とアジアといったモチーフをベースに説き明かされた様々な言説に触れてみたいと思います。こうした過去の思想との対話を通して、皆さんとともに「今日」を考える何らかのヒントをつかむことができればと考えています。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題提出、授業態度、期末試験などにより、総合的に成績評価します。 ・課題提出、授業態度：30% ・期末試験70%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、欠席が6回を超えた場合は失格(X)となります。無断欠席は認めません。

授業計画	第1回 導入：「空間アジア」と「東アジア文化圏」（ガイダンスを含む） 第2回 儒教・儒学と東アジア 第3回 仏教の東アジアへの展開と影響 第4回 東アジアにおけるキリスト教思想の受容 第5回 幕末期における東アジアの思想連鎖 第6回 幕末期における東アジアの維新革命思想 第7回 アジアの平和思想の水脈 第8回 福沢諭吉の思想と東アジア 第9回 中江兆民の思想と東アジア 第10回 日本の初期社会主義思想とアジア 第11回 明治中後期のアジア主義とアジア諸国からの反応 第12回 岡倉天心のアジア主義とインド 第13回 孫文・南方熊楠・宮崎滔天 第14回 大正デモクラシーと中国・朝鮮 第15回 まとめと振り返り
テキスト	
参考書	初級 菊地章太『儒教・仏教・道教/東アジアの思想空間』講談社2015年 中級 山室信一『アジアの思想史脈』人文書院2017年 上級 溝口雄三他編『（アジアから考える）【1】交錯するアジア』東京大学出版会1993年
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・提出した課題について、授業中で講評し、ポイントについてまとめて、できる限り隣同士で確認してもらいます。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	・授業の後やメールなどで対応します。
フィードバックの方法	・授業中に講評するといった方法でフィードバックします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・配布した資料および自分のレベルにあった参考書をよく読んで予習・復習してもらいます。一回の講義につき、4時間程度をかけて予習・復習してもらいます。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	アートと現代社会 / Art in contemporary Society
時間割コード Course Code	10031
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	小西 信之
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	小西 信之(法学部)
授業の目標	現代アートとは何かについて理解する。 現代アートに対して自分の考えを持てるようになる。
授業の概要	世界と日本の近代から現代までのアートについて、その歴史と現況について学ぶ。 そのことを通じて、アートに対する認識を深め、知識と感性を高めてもらうため、多くのアーティストやその作品を紹介していく。
評価方法	参加態度50%。「レポート」50%。 注意事項；レポートのほとんどがいわゆる「コピペ」である場合、評価対象とならないので注意されたい。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が8回に満たない場合
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	教員作成のパワーポイント。
参考書	『カラー版 20世紀の美術』『現代アート事典』（美術出版社） 西村清和『現代アートの哲学』（産業図書）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業後に対応します。
フィードバックの方法	授業中に対応します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業で知って関心を持ったアーティストがいたら、後でインターネットで調べるなどして復習しましょう。また見るべき展覧会が開催される時はお知らせしますので、見に行きアートについての知見を深めましょう。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	ガイダンス。 アートとは何か?そして現代アートとは		
2	トピック1:「アート・ワールド」について。 高度資本主義社会の中のアートについて		
3	現代アートの歴史I 写真、印象派、キュビズム、フォーヴィ		
4	現代アートの歴史II 表現主義、ダダ、シュルレアリスム		
5	現代アートの歴史III 抽象絵画、抽象表現主義		
6	現代アートの歴史IV ポップ・アート、ミニマル・アート		
7	現代アートの歴史V コンセプチュアル・アート、アースワーク、インスタレーション		
8	日本の現代アートの歴史1 明治・大正・昭和(戦前)の美術		
9	日本の現代アートの歴史2 昭和(戦中・戦後)の美術		
10	日本の現代アートの歴史3 昭和後期・平成以降の美術		
11	日本の現代アートの歴史4 漫画、アニメーションはアートなのか?		
12	現代アートの歴史VI フェミニズム・アート、ポスト・モダン		
13	現代アートの歴史VII 文化多元主義、ニューフォトグラフィー、ポスト植民地主義		
14	現代アートの歴史VIII 1990年代のアート、リレーショナル・		
15	現代アートの歴史IX 政治とアート。アーティストはどのように社会と関わるか?		

開講科目名 Course	犬山学入門 / Introduction to Inuyama Regions
時間割コード Course Code	10040
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の自然・歴史・産業を学び、地域を総合的に理解する。 2. 犬山文化圏の歴史的役割とその現代的意義を理解する。 3. 講義と課題を通して、対話する力、考える力、考えを表現する力を身につける。
授業の概要	<p>本講義では、名古屋経済大学の所在する犬山市と周辺地域の地理的特性、歴史的展開、産業の特徴などを学ぶことにより、地域を総合的に理解する経験を積む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 犬山学研究センターの支援を受けて、地質学・地理学・歴史地理学・歴史学・地域経済の側面から犬山について考えていく。 2. 文献やインターネットのツールを使って、地域について調べるための方法を学ぶ。 3. 犬山の特徴と魅力について、自分の考えを他者に説明できるようになる。
評価方法	<p>授業における課題と期末レポートの提出により、総合的に成績評価します。 授業への参加などの学習態度（毎回の課題）は75点、期末レポートの成績を25点という割合で成績を判定します。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合には、失格とします。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 第1回．はじめに～犬山の魅力とは～ 第2回．古墳時代の犬山 第3回．中世の犬山 第4回．犬山城主・成瀬氏 第5回．幕末の犬山 第6回．犬山城 第7回．入鹿池 第8回．犬山のキリシタン史跡 第9回．尾張古窯・犬山焼 第10回．犬山商人 第11回．犬山・尾北の産業 第12回．犬山と名鉄 第13回．犬山城下町の再生 第14回．犬山の観光戦略 第15回．まとめ：犬山の未来
テキスト	とくに定めない
参考書	溝口常俊『古地図で楽しむ尾張』（風媒社、2017年） 丸山和成『写真アルバム 犬山・江南・大口・扶桑の今昔』（風媒社、2020年）

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業後に対応 ・ メールで随時対応 (masaki.n@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>各回の授業では、翌週の授業内容に関わる参考文献の該当箇所を指示するので、翌週までに各自で予習します。</p> <p>その参考文献を読んだ前提で、次回の授業を行いますので、予習は必須です。</p> <p>また、授業で配布した資料を家で読み、復習します。</p> <p>これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、期末レポートの準備につながります。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11.住み続けられるまちづくりを</p> <p>15.陸の豊かさを守ろう</p> <p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	地理学II / Geography II
時間割コード Course Code	10060
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 正之
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 正之 (経済学部)
授業の目標	<p>【地理学と地図利用手法の理解】</p> <p>世界のさまざまな地域の特徴や、地域区分の表現、分析手法として地図の利用手法および、作成手法を理解し、地理的事象の分析ができるようになる。</p> <p>知識・理解の領域 球面を平面化する方法について、説明することができる。 日本の代表的な地図および地図データを利用するための知識を習得する。</p> <p>思考判断の領域 地図から地域の特徴とその要因を見つけ出すことができる。</p> <p>態度・志向性の領域 地図化することの有用性を理解し、統計資料等の地図化を試みる。</p> <p>技能の領域 地形図からさまざまな地理情報を読み取る手法を身につけることができる。</p> <p>なお、本講義はGISや経済地理学、地域政策を学ぶ上での基礎知識習得科目に位置づけられるため、上記科目を履修する予定のある者は、履修しておくことが望ましい。</p>
授業の概要	<p>授業形態</p> <p>講義は、対面での読図（地形図の加工・編集）を基本とする。 読図を通して、様々なスケールでの地図化の原理や地図の正しい利用手法を学ぶ。さらに、断面図をつくる、水系図をつくる、面積を求めるなど、地形図から地理情報を読み取ることのできる、地理的思考の基本を身につける。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・読図作業が、講義へのリアクションの前提である（単に聴講するだけでは単位取得できない）。 ・講義のなかで求める作業や課題の作成（リアクションペーパー（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%））で評価する。ただしレポートの未提出が1回でもあれば不合格とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・地形図を用意しない者、読図作業をしない者、無断欠席3回以上の者は失格とする。なお、欠席した場合も次の講義で課題を提出すること。「欠席届」の提出は無効である。講義開始後25分を越えての入室は認めない。講義の妨げになると判断した場合、退出させることがある。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	<p>地形図を各自購入するのが受講の前提（必要な図幅は講義時に説明するが、国土地理院「2万5千分の1地形図『犬山』図幅」を予定している）。</p> <p>毎回の講義内容に応じて内容を記載した資料がテキストとなる。</p>
参考書	<p>参考図書：「ジオ・パルNEO」（2012）海青社。「地理学演習帳」（2010）古今書院。「フィールド映像術」古今書院（2015）。「フィールド写真術」古今書院（2016）。「情報科教育法 改訂2版」オーム社（2009）。その他、参考図書・文献については適宜紹介する。</p>

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	実際に、地形図を使った読図作業を実施する。読図という演習作業(work)が基本となる。読図のために鉛筆、色鉛筆(赤、緑、青、黄色)、定規が必要となる。その他必要なものは、講義時に説明する。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	内容についての質問は授業後およびオフィスアワーで受け付ける。大学のgoogleアカウント利用が必須。mailとclassroomも必要に応じて使用する。
フィードバックの方法	大学のgoogleアカウント利用が必須。mailとclassroomを使用する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義ではリアクションについて補足を行う。それを踏まえた読図作業が必須である。講義時間以上の、復習(読図)時間を確保し、レポートとしての提出が不可欠である。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	地球と地図 地図の歴史	各回、講義内容を記載したプリントを使用する。	
2		位置情報の現在	
3		地物の間引き	
4		立体の平面化	
5	読図の基本 地図の作り方と地図情報の基礎	授業で、2万5千分の1の地形図を使用する。詳細については授業で説明するが、地形図は各自用意すること。地図記号、等高線の判読。判読のために鉛筆、色鉛筆(赤、緑、黄色)が必要となるため、各自用意すること。	
6	地形図の読図	地形を読み取る1 基本情報を確認する	
7		地形を読み取る2 尾根と谷を読む	
8		農業的土地利用を読み取る1	
9	土地利用2	農業的土地利用を読み取る2 面積を求める	
10		地図のつくり方	
11		水系網の表記と意味	
12		地形図から歴史を読み取る	
13		分布図、等値線図	
14		統計、空中写真を活用する	
15	判読結果の解説	判読した地図情報をまとめて解説する	

開講科目名 Course	心の科学I / Psychology I
時間割コード Course Code	10071
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	家接 哲次
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	家接 哲次 (教育保育学科)
授業の目標	<p>心理学は、人間の「こころ」を探求する学問である。心理学は、近年目覚ましい発展をとげ、その研究分野も大きな広がりを見せてきている。一方、一般社会も複雑化の一途をたどり、「こころ」に対する関心が急激に高まってきているといえる。このような社会背景にある中で、心理学を学ぶことは非常に重要になってきている。心理学の分野でも、近年特に注目を浴びているのが臨床心理学である。この臨床心理学とは、「こころ」の問題に対する理解と援助を扱うものである。そこで本講では、主に臨床心理学的視点から「こころ」の理解を進める予定である。</p> <p>【知識・理解の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の科学についての知識を獲得する <p>【態度・志向性の領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理学についての関心をもつ ・心理学の知識を利用して、自他を理解する
授業の概要	<p>1．授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 様々な心理学の概念を解説する 2) 心理テストで理解を深める 3) 日常生活での応用を理解する <p>2．予習復習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 予習：シラバスをみて、その日のキーワードについて調べてくる 2) 復習：習った内容を深めるため、図書館等で関連の文献を探し、それを読む <p>* 質問には随時対応する。</p>
評価方法	<p>期末試験で下記の点について評価する(100%)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 心理学について関心をもち、正しく理解ができている (関心・理解) 2) 理解したことを正確に表現できる (表現) 3) 日常生活で適切に応用する準備ができている (応用・表現)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席数が多い場合は失格となることがある。

授業計画	<p>1. ガイダンス：授業方針、心理学の諸領域</p> <p>2. 学習心理学1：知能とEQ（キーワード：知能、家庭環境、知能検査、EQ）</p> <p>3. 学習心理学2：記憶（キーワード：記銘、保持、再生、感覚記憶、短期記憶、長期記憶、意味記憶、エピソード記憶）</p> <p>4. 学習心理学3：学習理論（キーワード：古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、試行錯誤学習、洞察学習、学習性無力感、原因帰属、動機づけ）</p> <p>5. 社会心理学1：人との出会い（キーワード：親和欲求、自己呈示、ステレオタイプ、ハロー効果、論理的過誤、時間的拡張、ピグマリオン効果）</p> <p>6. 社会心理学2：人と人の関わり方（キーワード：攻撃性、攻撃本能説、攻撃学習説、敵意帰属バイアス、援助行動、傍観者効果）</p> <p>7. 社会心理学3：集団（キーワード：集団凝集性、規範、社会的促進、社会的抑制、社会的手抜き、集団思考、リーダーシップ）</p> <p>8. 性格心理学：性格（キーワード：類型論、特性論、質問紙法、作業検査法、投影法）</p> <p>9. 発達心理学1：心の発達（キーワード：初期体験、刻印づけ、愛着、ベビースキーマ、ピアジェの発達段階説）</p> <p>10. 発達心理学2：自己意識の発達（キーワード：自己意識、自我、公的自己意識、私的自己意識、自己注目、自己没入）</p> <p>11. 発達心理学3：青年期の問題（キーワード：発達課題、基本的信頼感、自我同一性、モラトリアム、同一性拡散）</p> <p>12. 臨床心理学1：自己理解（キーワード：心理テスト、心の健康）</p> <p>13. 臨床心理学2：無意識（キーワード：精神分析、防衛機制、分析心理学、個性化）</p> <p>14. 臨床心理学3：ストレス（キーワード：ストレスサー、ストレス反応、タイプA性格、ピーク・パフォーマンス・ストレス・レベル）</p> <p>15. まとめ</p>
テキスト	なし
参考書	適宜紹介する
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業の中で基本的に対応するが、授業前後でも対応可能である。
フィードバックの方法	必要に応じて、口頭またはメール等でフィードバックを実施する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業中に提示する参考図書を読むこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	3. すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	心の科学II / Psychology II
時間割コード Course Code	10080
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	野副 紫をん
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	野副 紫をん (経済学部)
授業の目標	<p>「心理学」は「心の科学」と言われる。「心理学」というと特殊なものと思われるかもしれないが、実は普通の何気ない生活の中に心理学の理論が多数活かされている。本講義では、身近な生活の中から心理学的なトピックスを取り上げ、社会の中で「人間の心理」がどのように活用されているかについて理解を深めるとともに、心理テスト等を用いて自分自身の心と体について探究し、自己の内面について理解を深めることを目標とする。</p> <p>学習成果 知識・理解の領域～日常の社会的な事柄を心理学的な視点から考える枠組みを持てる。自分の内面に触れ、自己理解を深めることができる。 技能の領域～心の病気について理解し、心の健康に役立つ方法を習得できる。 態度・志向性の領域～人間の心の多様性に気づき、“心”について日頃から関心を持つことができる。</p>
授業の概要	<p>例えば公衆の場で見かける貼り紙、営業マンのテクニクなど、普段、身の周りにある題材を使って、それが心理学のどのような知見に基づいたものであるのかを学習する。また、心理テストやワーク等、心理学の手法を用いて自分の内面をふり返り、自己理解を深める。</p> <p>講義に加え各種ワークを取り入れる予定である。</p> <p>また、原則として毎回、学習した内容について小レポートを提出してもらう。</p> <p>前期に「心の科学1」が開講されるが、素材とするトピックが異なるだけで、「心の科学1」を受講していないと理解できないということではない。1か2いずれかのみを受講も可能であるが、両講義を受講することで、人間の“心”についてさらに理解を深めることができる。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>1．授業によく出席し、まじめな態度で講義・ワークに取り組むこと（20％）。</p> <p>2．小レポート（60％）および最終レポート（20％）に自分の考えを明確に記述できること。学んだことをそのまま書くのではなく、特に自分の「感じたこと」や「考えたこと」を「自分の言葉」で書くことが求められる。</p> <p>第1回目の授業で評価の詳細を述べるため、必ず出席すること。</p> <p>また、私語、スマートフォンの使用、新型コロナウイルス感染予防等の受講態度について、注意しても行動が改善されない場合は、失格とする場合もあるので注意すること。</p> <p>また、遠隔授業の場合、配布された資料を視聴せずに課題のみ提出していることが確認された場合は、減点する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>欠席が5回以上の場合には原則失格（遅刻は3回で欠席1回とする。学生証不携帯の場合は欠席とするので、受講時は必ず学生証を携帯すること）。</p> <p>また、他者のレポートを代行して作成した場合や写して提出した場合、あるいは他者に自分のレポートをコピーさせた場合等、不正行為が認められた時は、失格とする。</p>

授業計画	<p>1回目：初回ガイダンス・“こころ”とは？</p> <p>2回目：人に好かれるには？：対人魅力・印象形成</p> <p>3回目：ほめて伸ばす：ビッグマリオン効果</p> <p>4回目：初めてなのに、前に見た気がするのはなぜ？：記憶の不思議</p> <p>5回目：上司や同僚と仲よくやるには？：職場で活かす心理学</p> <p>6回目：セールストークで顧客をつかむ：販売に活かす心理学</p> <p>7回目：仕草から人の心を読む：ノンバーバル・コミュニケーション</p> <p>8回目：なぜパチンコはやめられないのか？：強化の理論</p> <p>9回目：人はなぜストーカーになるのか？：恋愛トラブルの心理を読む</p> <p>10回目：ネットはどうして炎上するのか？：ネット中傷の心理</p> <p>11回目：ストレスと上手につき合おう：ストレスチェック・リラクゼーション法</p> <p>12回目：あなたは大丈夫？：身近な心の病気</p> <p>13回目：自己理解を深める（1）：心理テスト（エゴグラム）</p> <p>14回目：自己理解を深める（2）：自分でできる心の健康法</p> <p>15回目：まとめと振り返り・最終レポート</p>
テキスト	<p>使用しない。</p> <p>適宜、プリントを配布する。</p>
参考書	参考文献は講義の中で紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	インターネット依存度テスト、ストレスマネジメント法、心理テスト（エゴグラム）、自律訓練法等、実習を多数取り入れ、その結果を自ら分析してレポートにまとめる。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	公認心理師及び臨床心理士の資格を有し心理治療の経験を持つ教員が、授業の中で一般的によく見られる精神疾患やストレスマネジメント等、学生の心身健康に関する知識や対処法を教授し、学生のメンタルヘルスの維持増進に寄与する。
質問への対応方法	授業中、もしくは授業後に随時、質問を受け付ける。
フィードバックの方法	授業内で課したレポートや質問に対して、翌週、コメントを行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回、当該回の授業テーマに関する課題を課し、レポートを作成させる（復習2時間）。また、同様に次回の授業テーマに関する課題を課し、予習に取り組みさせる（予習2時間）。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	日本の文化と社会 / Japanese Culture and Society
時間割コード Course Code	10091
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	四辻 秀紀
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	1 4 A 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	四辻 秀紀 (経営学部)
授業の目標	日本人が育んできた美意識に内在する本質について、変革期の時世粧を通じて考え、理解すること。 日本の歴史の中で培われてきた文化諸相において、大きく変革を遂げていった三つの時代について理解を深めること。
授業の概要	日本の歴史の中で培われてきた文化諸相において、大きく変革を遂げていった三つの時代について理解を深めること。
評価方法	レポートが50%、授業参加への意欲度が50%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合。
授業計画	1 概説 2 仏教の伝来と寺院 3 天平の美術 4 空海と密教寺院 5 末法の時代 弥勒信仰・浄土教信仰・法華経信仰 6 造寺造仏と風流・過差 7 写経の盛行と風流・過差・美麗 8 王朝の生活と風流 9 鎌倉時代の信仰と美術 8 婆娑羅の時代 唐物数寄と茶寄合 9 室町將軍家のコレクション 10 花道・香道・茶の湯の文化 11 戦国武将たちの美意識 12 桃山から江戸時代へ 金と銀が湧き出た時代 13 かぶく美の時代—近世初期の美意識 1 14 かぶく美の時代—近世初期の美意識 2 15 まとめ
テキスト	必要に応じて資料を配信します。
参考書	授業の中で随時紹介します。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	この科目は、徳川美術館で学芸員の経験を有する教員が、日本の歴史の中で培われてきた文化諸相を通覧し、内在する伝統と変遷を探究する「実務経験のある教員による授業科目」です。
質問への対応方法	随時、メール対応。
フィードバックの方法	翌週に返却。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習・復習は全体で60時間の学習を必要とする。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROGリテラシーの要素	4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	地域創生と文化遺産 / Cultural Heritage and Regional Revitalization
時間割コード Course Code	10101
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	木 / Thu 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	赤塚 次郎
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	赤塚 次郎 (法学部)
授業の目標	名古屋経済大学が存在する犬山・小牧地域には数多くの有形無形の文化遺産が存在し、その多様性は当地域の特色であり、またその特色をいかした街づくりが積極的に行われています。そこには一般の文化財の枠を超えて、さまざまな関連性の総体が、何となくその場の雰囲気を作っている場合が多いようです。 本授業では地域に残るこうした多様な文化遺産を具体的に学びながら、特色ある地域の街づくり・地域創生の柱を「文化遺産」と考え、文献資料を交えて地域の伝承や残されてきた文化財との関係を総合的に理解する「文化遺産学」を学びます。 また街づくりの具体的なヒントや現代社会の出来事を的確にとらえる力を身につけることができます。
授業の概要	文化遺産を活用した地域創生・街づくりに生かす活動を 1) 文化遺産学の基礎講座、日本を中心とする文化遺産(日本遺産・世界遺産を含む)をはじめ、地域にのこる有形無形の文化財について学ぶことができます。 2) 犬山・小牧地域の具体的な事例などを利用し、文化遺産を文化資源として広く地域社会で活用してもらうための機会と場を考えていきます。
評価方法	主に各授業内での課題解答の集計により実施。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第1～3回：日本の世界遺産と日本遺産の概要 第4～9回：桃太郎伝承・日本100名城・妖怪・狛犬・街道など、身近な文化遺産を通じて街づくりとその歴史を考える。 第10～15回：無形文化財や伝統的な街並みから地域の歴史・観光、その街づくりの具体例を学ぶ。
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	授業単位での回答用紙に記載
フィードバックの方法	次の授業等にてまとめて回答

予習・復習等、準備学習の内容及び時間	なるべく次の授業の内容等を簡潔にテキスト化 提示した情報内で事前にHP等を確認
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 13.気候変動に具体的な対策を
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	人間社会と文化形成 / Cultural Anthropology
時間割コード Course Code	10120
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	長澤 壮平
科目区分 Course Group	共通科目群 文化と社会
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	長澤 壮平 (法学部)
授業の目標	<p>暮らしの中で当たり前になっているさまざまな文化について、学術的視点から考察する。私たちが生きる現代日本の文化は、温帯の山岳的地勢、民主主義、産業文明といった限定的な条件のうえに形成されたものにすぎない。さまざまな文化形成のありようを考察することで、公正な視点から文化一般を理解し、さらには結局のところ人間にとって何が大切であり、よりよい世界はいかにして可能か探求する思考を身につけることができる。</p> <p>知識・理解の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な文化の成り立ちや意義を深く理解することができる。 ・多様な文化についての情報を知ることができる。 <p>技能の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当たり前として認識されている文化を考えるうえでの、理論的思考法を身につけることができる。 <p>態度・志向性の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論的に文化形成を学ぶことで、文化がはらむ諸問題に対して真剣に向き合う態度を身につけることができる。 <p>関心意欲の領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化の多様性を学ぶことで、他の文化や文化形成の歴史について関心意欲をもつことができる。
授業の概要	<p>人間はその社会的いとなみのなかでさまざまな文化を形成してきた。それらは風土や自然環境のなかで生き抜いていくうえで形成されたもの、信念や創造力にもとづいて形成されたもの、政治経済や科学技術といった文明状況のなかで形成されたものなど、きわめて重層的である。人間の幸福に寄与する文化もあれば、ストレスや危害を加える矛盾に満ちた文化もある。また、今日、環境破壊につながっている文化や、持続可能性に寄与する文化について考える重要性が高まっている。本講義では以上のような文化の重層的で多様なありようについて考察し、現代文明を生き抜くうえでのヒントを探っていく。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	コメントペーパー80% 最終レポート20%
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「社会」と「文化」の定義 2. 労働と交換 文化生成の基盤を考える 3. 利己と利他 協力・貢献・寄付の文化 4. 階層と「民族」 構造化された差別の文化 5. 宗教文化1 キリスト教文化圏 6. 宗教文化2 日本の宗教意識 7. ポピュラー音楽文化 8. 伝統的精神文化と現代映像文化 9. 戦前から戦後へ 「イエ」の放棄と未来への希望 10. 葬送文化の衰退 11. 「美」がつくる文化 12. 商業化と消費文化 13. 結婚文化の変容 14. 構築される「至高」の祝祭 15. まとめ
テキスト	
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応します。
フィードバックの方法	翌週の講義で取り上げ、議論のテーマとする場合がある。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	講義の内容に即したテキストを各自選択し、2時間の予習と2時間の復習を課す
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<ol style="list-style-type: none"> 10. 人や国の不平等をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 5. ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 2. 情報分析力 3. 課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	政治の世界 / The World of Politics
時間割コード Course Code	10131
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	水谷 仁
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 4 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水谷 仁 (法学部)
授業の目標	政治は私たち自身と密接な関りをもたざるをえないものです。そのため、この授業を通して、政治についての基礎的な知識や様々な考え方を身につけ、政治に関して主体的に考え、自ら行動できるようになることを目標とします。
授業の概要	この授業では、「政治とは何か」「政治はどのように行われるのか」「政治を行う手段にはどのようなものがあるのか」「どのような政治が行われるべきなのか」「政治が行われるうえで、どのような手段が用いられてはならないのか」「どのような政治は行われてはならないのか」など、政治の世界と切っては切れない問題について、概念・理論・制度・歴史などから丁寧に説明していきます。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	期末レポート(100%)で評価します。ただし、受講態度によって加点or減点を行います。特に、授業妨害に当たる行為(私語、飲食など)は大幅な減点となるので十分注意してください。授業の進め方については初回ガイダンスで説明するので注意してください。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業中に複数回注意を受けた場合や、正当な理由のない欠席が6回以上となった場合は、失格の対象となります。
授業計画	第1回 ガイダンス：なぜいま政治を学ぶのか 第2回 権力：政治権力と権力分立 第3回 政治過程：政治システムと選挙 第4回 執政制度：議院内閣制と大統領制 第5回 二つの政府：中央政府と地方政府 第6回 政党：政党の機能と政党システム 第7回 官僚制：官僚制の特徴と逆機能 第8回 国家：主権国家と国民国家・ナショナリズム 第9回 ガバメントからガバナンスへ：福祉国家からローカル・ガバナンスへ 第10回 ポピュリズム：適切な国民の政治参加に向けて 第11回 支配の正統性：正統性のタイプと見直し 第12回 「行政国家」の歴史的事例(1)：ヒトラーの政権掌握 第13回 「行政国家」の歴史的事例(2)：ナチス・ドイツの政治・行政 第14回 「行政国家」の歴史的事例(3)：「行政国家」による悲劇 第15回 まとめ 受講生の興味・関心や社会情勢の変化によって、上記の授業計画は一部変更になることがあります。
テキスト	レジュメを配布します。

参考書	<p>授業全体を通して関係するもの（個別のものは適宜紹介します） （個別のテーマの参考文献については、各回の授業で紹介しします。） 佐々木毅『政治学講義』（東京大学出版会、2005年） 久米郁男・川出良枝・古城住子・田中愛治・真淵勝『政治学』（有斐閣、2010年） 永井史男・水島治郎・品田裕編『政治学入門』（ミネルヴァ書房、2019年） 田村哲樹・近藤康史・堀江孝司『政治学』（勤草書房、2020年） 杉田敦『政治的思考』（岩波書店、2013年） 新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹『政治学』（有斐閣、2017年） 吉野篤編『政治学〔第2版〕』（弘文堂、2018年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問やコメントは、授業後もしくはオフィスアワーに受け付けます。
フィードバックの方法	受け付けた質問やコメントは、次回以降の授業でフィードバックします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習（1時間）・復習（1時間）として、毎日新聞を読んだりニュースを見たりする時間を取ると、授業内容がとてもよく定着します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 2.協同力 3.統率力 4.感情制御力 6.行動持続力 7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	歴史との対話 / Dialogue with History
時間割コード Course Code	10141
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	水谷 仁
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	7 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	水谷 仁 (法学部)
授業の目標	歴史とは、単なる過去に起こった出来事のことではなく、「過去と現在の対話」(E. H. カー『歴史とは何か』)です。ただし、一口に「歴史」といっても、様々な切り口があることはたしかです。そこでこの授業では、人間が生きていくうえで避けて通ることのできない政治という営みに着目して、歴史との対話を試みます。私たちもその一部である歴史との対話を通して、私たちの過去・現在・未来を考えていくことが、この授業の目的です。
授業の概要	この授業は「政治思想史」という学問を通して歴史との対話を行います。具体的には、「政治思想史」の講義を行います。政治思想史とは、「政治とは何か」「政治は何のためのものか」「政治はどのように行われるべきなのか」といった政治をめぐる様々な問いについて、過去の思想家たちが考えていたことを学ぶ学問です。 政治は、私たちの生存、日常生活、人生、そして生きるということと、否が応にも関係せざるをえないものです。この授業では、こうした政治と私たちの生との関係について、過去の思想家たちの思想と彼らが生きた時代の政治状況とを結びつけながら学んでいきます。過去の思想家の考えは、ときには古臭いものや当然のものに感じることもあるかもしれませんが、しかし彼らの政治思想は、そのほとんどが、彼らの置かれた歴史的な状況下で、彼ら自身が生きていく中で直面した問題との命がけの格闘から生み出されてきたものです。彼らの政治思想から、時代や地域を超え、現代の日本で生きる私たち自身が直面する問題を乗り越え、生き抜いていくためのヒントを学び取っていきましょう。 今年度は、特に近現代以降の政治思想を中心的に取り扱います。 この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照してください。
評価方法	期末レポート(100%)で評価します。ただし、受講態度によって加点or減点を行います。特に、授業妨害に当たる行為(私語、飲食など)は大幅な減点となるので十分注意してください。授業の進め方については初回ガイダンスで説明するので注意してください。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	授業中に複数回注意を受けた場合や、正当な理由のない欠席が6回以上となった場合は、失格の対象となります。

授業計画	<p>第1回 ガイダンス：政治思想史を通じた歴史との対話</p> <p>第2回 古代の政治思想（古代ギリシャの民主主義）</p> <p>第3回 古代の政治思想（古代ローマの共和主義）</p> <p>第4回 近代の政治思想（マキアヴェリ）</p> <p>第5回 近現代の政治思想（マルクスI）</p> <p>第6回 近現代の政治思想（マルクスII）</p> <p>第7回 近現代の政治思想（ヴェーバーI）</p> <p>第8回 近現代の政治思想（ヴェーバーII）</p> <p>第9回 現代の政治思想（シュミットI）</p> <p>第10回 現代の政治思想（シュミットII）</p> <p>第11回 現代の政治思想（アーレントI）</p> <p>第12回 現代の政治思想（アーレントII）</p> <p>第13回 現代の政治思想（レーヴィットI）</p> <p>第14回 現代の政治思想（レーヴィットII）</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>受講生の興味・関心によって、上記の授業計画は一部変更になることがあります。</p>
テキスト	レジュメを配布します。
参考書	<p>授業全体を通して関係するもの（個別のものは適宜紹介します）</p> <p>小笠原弘親他『政治思想史』（有斐閣、1987年）</p> <p>中谷猛他『概説西洋政治思想史』（ミネルヴァ書房、1994年）</p> <p>佐々木毅他『西洋政治思想史』（北樹出版、1995年）</p> <p>藤原保信他『西洋政治思想史 1 2』（新評論、1995、1996年）</p> <p>宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問やコメントは、授業後もしくはオフィスアワーに受け付けます。
フィードバックの方法	受け付けた質問やコメントは、次回以降の授業でフィードバックします。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	参考書の該当箇所を読んで予習（1時間）し、授業中の説明と参考文献を基に授業内容を自分で説明できるように復習（1時間）すると、内容理解が非常に深まります。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>10.人や国の不平等をなくそう</p> <p>3.すべての人に健康と福祉を</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>16.平和と公正をすべての人に</p> <p>17.パートナーシップで目標を達成しよう</p>
PROGリテラシーの要素	<p>2.情報分析力</p> <p>3.課題発見力</p> <p>4.構想力</p>
PROGコンピテンシーの要素	<p>1.親和力</p> <p>2.協同力</p> <p>3.統率力</p> <p>4.感情制御力</p> <p>6.行動持続力</p> <p>7.課題発見力</p> <p>8.計画立案力</p>

開講科目名 Course	情報と社会行動の科学 / Informatics and the Science of Social Behaviors
時間割コード Course Code	10152
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	大谷 尚
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大谷 尚 (教育保育学科)
授業の目標	<p>社会の急速な情報化によって、人々の行動が変わってきているだけでなく、人々の価値観や社会的な規範も徐々に変化し続けている。またそこには、さまざまな問題や課題が生じている。この授業では、まず情報技術の基礎について学ぶ。つづいて社会の情報化のさまざまな事例について学びながら、それらが社会とそこでの人々の行動に与える影響について理解する。これらを通して、情報化社会の人間の行動について理解する。またこの理解をとおして、将来の一層の情報化によって生じる問題や課題を予測するとともに、それに対応するための考え方の基礎を獲得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報技術の基礎について理解し説明できる。 ・情報化による人々の行動や社会の変化の具体的な例について理解し説明できる。 ・情報化のもたらす問題や課題について理解し説明できる。 ・情報化社会における非情報技術の意義について理解し説明できる。 ・今後の社会の情報化によって生じる可能性のあることについて自分で予測し考え説明することができる。
授業の概要	<p>他に比べるもののないほどの情報技術の急速な発展について理解する。文字情報や音声情報の記録の仕組みについて理解する。そのような情報技術が人々の生活に与える影響について事例を通して理解する。また情報技術が引き起こす問題とそれへの社会の対応について理解する。情報技術に囲まれた社会において、非情報技術にどのような意義があるかを理解する。これらを各回のトピックとし、授業者は各回のトピックに応じた具体的な事例を紹介する。その際、映像資料などを用いるように努める。受講者はそれに関連する自身の体験等について、受講者同士少人数で、または隣席の受講者と情報交換し、その問題や課題を検討した上で、それを他の受講者全体に紹介する。これらを通して、各回のトピックについての理解を得、それを深める。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における課題提出と期末試験により総合的に行う。授業への参加度などの学習態度・姿勢（毎回の課題を含む）を60%、期末試験を40%とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は失格となる。 ・出席不正（いわゆる「ビ逃げ」や、トイレに行くと言って教室を出て帰って来ないなど）を行った受講者は失格とする。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとイントロダクション：今のパソコンは受講者が生まれた頃のパソコンと比べて何倍高性能なのか？ 他に比べるものがないほどの情報技術の急速な発展について理解する。 2. USBメモリー1個に新聞何日分が入るのか？ 文字情報の記録の仕組みを理解する。 3. 音楽はスマホの中でデータとしてどのように記録されているのか？ 音声情報の記録の仕組みを理解する。 4. ケータイ・スマホは若者に何を与え若者から何を奪うのか？ 若者の暮らしへの携帯情報端末の影響を考える。 5. コンパガチャはどうして違法とされたのか？ ソーシャルゲームの社会的問題を検討し理解する。 6. 仮想通貨のお金を現金でやりとりできるのか？ ゲームマネーのリアルマネートレードの問題を考える。 7. インターネットは人権にとって敵か味方か？ インターネットと人権侵害・人権擁護について考える。 8. ネットで誰かを誹謗中傷した者はどう特定されるのか？ 投稿者の特定のためのプロバイダ責任制限法の意義を理解する。 9. 企業はなぜ就活生の裏アカ特定をしようとするのか？ ネット上の多重人格の行為の危険性について理解する。 10. カーシェアで借りた車を4割もの人が移動させないで使いたいと考えているのはなぜか？ 対面だとしにくい非本来の利用を可能にする非対面的契約について考える。 11. 最新の情報テクノロジーは今後の社会をどう変えるか？ スーパーコンピュータ、ビッグデータ、AI、量子コンピュータなどが社会に与える影響を理解する。 12. Society 5.0の時代における Society 4.0までの古いメディアの意義は何か？ Society 4.0までのメディアの意義を考える。 13. ペルーのボラ族の伝統的太鼓「マンガワレ」で何が通信できるのか？ 「非」情報メディアに固有の機能を考える。 14. 中国チベット自治区の巡回映画隊は何を運んでいるのか？ 人と社会にとっての「非」情報メディアの意義を考える。 15. 情報化は社会をどう変えていくのか？ 授業全体を振り返り受講者が全体から得たものを確認する。
テキスト	
参考書	・必要に応じて授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・受講者同士の対話・話し合いとその発表に基づく討論。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	・2010-2012の3年度に渡る名古屋大学教育学部附属中・高等学校長としての実務経験を、本授業の学校教育に関する内容に反映させる。
質問への対応方法	・随時対応 ・メール対応
フィードバックの方法	・毎回の課題に対するフィードバックは授業のなかで行う。 ・必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・準備学習として、シラバスに示された各回のトピックについて図書、雑誌、インターネット等で調べ、予備知識や疑問を持って授業に参加すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	情報と社会行動の科学 / Informatics and the Science of Social Behaviors
時間割コード Course Code	10153
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	大谷 尚
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	大谷 尚 (教育保育学科)
授業の目標	<p>社会の急速な情報化によって、人々の行動が変わってきているだけでなく、人々の価値観や社会的な規範も徐々に変化し続けている。またそこには、さまざまな問題や課題が生じている。この授業では、まず情報技術の基礎について学ぶ。つづいて社会の情報化のさまざまな事例について学びながら、それらが社会とそこでの人々の行動に与える影響について理解する。これらを通して、情報化社会の人間の行動について理解する。またこの理解をとおして、将来の一層の情報化によって生じる問題や課題を予測するとともに、それに対応するための考え方の基礎を獲得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報技術の基礎について理解し説明できる。 ・情報化による人々の行動や社会の変化の具体的な例について理解し説明できる。 ・情報化のもたらす問題や課題について理解し説明できる。 ・情報化社会における非情報技術の意義について理解し説明できる。 ・今後の社会の情報化によって生じる可能性のあることについて自分で予測し考え説明することができる。
授業の概要	<p>他に比べるもののないほどの情報技術の急速な発展について理解する。文字情報や音声情報の記録の仕組みについて理解する。そのような情報技術が人々の生活に与える影響について事例を通して理解する。また情報技術が引き起こす問題とそれへの社会の対応について理解する。情報技術に囲まれた社会において、非情報技術にどのような意義があるかを理解する。これらを各回のトピックとし、授業者は各回のトピックに応じた具体的な事例を紹介する。その際、映像資料などを用いるように努める。受講者はそれに関連する自身の体験等について、受講者同士少人数で、または隣席の受講者と情報交換し、その問題や課題を検討した上で、それを他の受講者全体に紹介する。これらを通して、各回のトピックについての理解を得、それを深める。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における課題提出と期末試験により総合的に行う。授業への参加度などの学習態度・姿勢（毎回の課題を含む）を60%、期末試験を40%とする。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<ul style="list-style-type: none"> ・全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は失格となる。 ・出席不正（いわゆる「ビ逃げ」や、トイレに行くと言って教室を出て帰って来ないなど）を行った受講者は失格とする。

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとイントロダクション：今のパソコンは受講者が生まれた頃のパソコンと比べて何倍高性能なのか？ 他に比べるものがないほどの情報技術の急速な発展について理解する。 2. USBメモリー1個に新聞何日分が入るのか？ 文字情報の記録の仕組みを理解する。 3. 音楽はスマホの中でデータとしてどのように記録されているのか？ 音声情報の記録の仕組みを理解する。 4. ケータイ・スマホは若者に何を与え若者から何を奪うのか？ 若者の暮らしへの携帯情報端末の影響を考える。 5. コンパガチャはどうして違法とされたのか？ ソーシャルゲームの社会的問題を検討し理解する。 6. 仮想通貨のお金を現金でやりとりできるのか？ ゲームマネーのリアルマネートレードの問題を考える。 7. インターネットは人権にとって敵か味方か？ インターネットと人権侵害・人権擁護について考える。 8. ネットで誰かを誹謗中傷した者はどう特定されるのか？ 投稿者の特定のためのプロバイダ責任制限法の意義を理解する。 9. 企業はなぜ就活生の裏アカ特定をしようとするのか？ ネット上の多重人格の行為の危険性について理解する。 10. カーシェアで借りた車を4割もの人が移動させないで使いたいと考えているのはなぜか？ 対面だとしにくい非本来の利用を可能にする非対面的契約について考える。 11. 最新の情報テクノロジーは今後の社会をどう変えるか？ スーパーコンピュータ、ビッグデータ、AI、量子コンピュータなどが社会に与える影響を理解する。 12. Society 5.0の時代における Society 4.0までの古いメディアの意義は何か？ Society 4.0までのメディアの意義を考える。 13. ペルーのボラ族の伝統的太鼓「マンガワレ」で何が通信できるのか？ 「非」情報メディアに固有の機能を考える。 14. 中国チベット自治区の巡回映画隊は何を運んでいるのか？ 人と社会にとっての「非」情報メディアの意義を考える。 15. 情報化は社会をどう変えていくのか？ 授業全体を振り返り受講者が全体から得たものを確認する。
テキスト	
参考書	・必要に応じて授業内で指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・受講者同士の対話・話し合いとその発表に基づく討論。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	・2010-2012の3年度に渡る名古屋大学教育学部附属中・高等学校長としての実務経験を、本授業の学校教育に関する内容に反映させる。
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・随時対応 ・メール対応
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の課題に対するフィードバックは授業のなかで行う。 ・必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	・準備学習として、シラバスに示された各回のトピックについて図書、雑誌、インターネット等で調べ、予備知識や疑問を持って授業に参加すること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集力 2. 情報分析力 3. 課題発見力 4. 構想力
PROGコンピテンシーの要素	7. 課題発見力

開講科目名 Course	日本史 / Japanese History
時間割コード Course Code	10161
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	中村 真咲
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	1. 歴史を学ぶ意味を理解する。 2. 歴史教育の意義を理解する。 3. 日本史の論点を理解する。 4. 対話する力、考える力、考えを表現する力を身につける。
授業の概要	1. 日本史の流れと時代ごとの論点を理解する。 2. 文献を使って日本史に必要な事項を調べるための方法を学ぶ。 3. 日本史を外国史との比較から特徴を理解する比較史の視点を学ぶ。 4. 日本史について自分の考えを他者に説明できるようになる。
評価方法	授業における課題提出と期末試験により、総合的に成績評価します。 授業への参加などの学習態度 (毎回の課題) は75点、期末レポートの結果は25点という割合で成績を判定します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合には、失格とします。
授業計画	第1回．歴史を学ぶ意味、感染症の歴史から考える 第2回．日本の古代国家 第3回．律令国家の光と影 第4回．摂関政治の時代 第5回．武士の時代 第6回．鎌倉幕府 第7回．南北朝の動乱 第8回．南北朝の統一から応仁の乱へ 第9回．戦国時代 第10回．織豊政権 第11回．江戸幕府 第12回．江戸時代の社会と文化 第13回．江戸幕府の動揺 第14回．幕末・維新 第15回．日本近代史の論点
テキスト	とくに定めなし
参考書	木村茂光他編『大学でまなぶ日本の歴史』（吉川弘文館、2016年） 外園豊基他編『概論 日本歴史』（吉川弘文館、2000年） 阿部謹也『日本人の歴史意識』（岩波書店、2004年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない

アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業後に対応 ・ メールで随時対応 (masaki . n@nagoya-ku. ac. jp)
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>各回の授業では、翌週の授業内容に関わる参考文献の該当箇所を指示するので、翌週までに各自で予習します。</p> <p>その参考文献を読んだ前提で、次回の授業を行いますので、予習は必須です。</p> <p>また、授業で配布した資料を家で読み、復習します。</p> <p>これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、期末レポートの準備につながります。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>10. 人や国の不平等をなくそう</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p>
SDGs 17の目標（11～17）	<p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>16. 平和と公正をすべての人に</p>
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	アジア史 / Asian History
時間割コード Course Code	10180
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	李 彩華
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華 (経営学部)、中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	(1) 東アジアの歴史に関する基本的な知識を学ぶ。 (2) 東アジア各国・地域に共通する特徴と差異について学ぶ。 (3) 現在の東アジアが直面する課題を歴史的な視点から理解し、説明できるようになる。
授業の概要	この授業では、東アジアの歴史について近現代史を中心に学びます。 まず総論で東アジア各国・地域に共通する特徴と差異について学び、その後で地域別の歴史(中国、朝鮮・韓国、モンゴル)について学んでいきます。とりわけ、東アジアの伝統的な知・制度の体系と西欧の近代思想・制度・科学技術の衝突、東アジアの知識人の思想と行動、植民地化と独立・革命、現在の東アジアが直面する課題の歴史的な意味について理解を深め、受講者が自分なりの考えを説明できるようになるための基本的な知識を提供します。 この授業を学ぶことにより、現在の東アジアがどのような歴史を経て成立したのか、東アジア各国・地域に共通する特徴と差異とは何か、現在の東アジアが直面する課題を歴史的な視点から理解することなどをめざします。
評価方法	各回の課題75%、期末レポートの内容25%で総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合には、失格とします。
授業計画	第1回 東アジア(1) 東アジアとは何か(ガイダンスを含む) 第2回 東アジア(2) 前近代の中国・朝鮮 第3回 東アジア(3) 西洋列強の東アジア侵略と不平等条約 第4回 東アジア(4) 東アジアの「近代化」の開始 第5回 東アジア(5) 東アジアと帝国主義 第6回 東アジア(6) 第一次世界大戦期と東アジア 第7回 東アジア(7) 第二次世界大戦と東アジア 第8回 東アジア(8) 戦後冷戦体制の形成と東アジア 第9回 東アジア(9) 東アジアにおける冷戦体制の変容 第10回 東アジア(10) 冷戦体制崩壊後の東アジア 第11回 内陸アジア(1) 遊牧帝国の盛衰 第12回 内陸アジア(2) 清朝支配下の内陸アジア 第13回 内陸アジア(3) 自治モンゴル 第14回 内陸アジア(4) モンゴル革命と社会主義建設 第15回 内陸アジア(5) モンゴルの民主化・市場経済化
テキスト	必要に応じて授業中に配布する。

参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 濱下武志ほか編『中国の歴史 東アジアの周辺から考える』有斐閣2015年 2. 上原一慶ほか著『東アジア近現代史』有斐閣Sシリーズ、2015年新版 3. 田中明彦・川島真編『20世紀の東アジア史』東京大学出版会2020年版 4. 小松久男編『中央ユーラシア史（新版世界各国史）』（山川出版社、2000年） 5. 間野英二ほか編『内陸アジア（地域からの世界史6）』（朝日新聞社、1992年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後に対応 ・メールで随時対応 (masaki.n@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>各回の授業では、翌週の授業内容に関わる参考文献の該当箇所を指示するので、翌週までに各自で予習します。</p> <p>その参考文献を読んだ前提で、次回の授業を行いますので、予習は必須です。</p> <p>また、授業で配布した資料を家で読み、復習します。</p> <p>これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、期末レポートの準備につながります。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	アジア史 / Asian History I
時間割コード Course Code	10181
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	李 彩華
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	李 彩華 (経営学部)、中村 真咲 (経営学部)
授業の目標	(1) 東アジアの歴史に関する基本的な知識を学ぶ。 (2) 東アジア各国・地域に共通する特徴と差異について学ぶ。 (3) 現在の東アジアが直面する課題を歴史的な視点から理解し、説明できるようになる。
授業の概要	この授業では、東アジアの歴史について近現代史を中心に学びます。 まず総論で東アジア各国・地域に共通する特徴と差異について学び、その後で地域別の歴史(中国、朝鮮・韓国、モンゴル)について学んでいきます。とりわけ、東アジアの伝統的な知・制度の体系と西欧の近代思想・制度・科学技術の衝突、東アジアの知識人の思想と行動、植民地化と独立・革命、現在の東アジアが直面する課題の歴史的な意味について理解を深め、受講者が自分なりの考えを説明できるようになるための基本的な知識を提供します。 この授業を学ぶことにより、現在の東アジアがどのような歴史を経て成立したのか、東アジア各国・地域に共通する特徴と差異とは何か、現在の東アジアが直面する課題を歴史的な視点から理解することなどをめざします。
評価方法	各回の課題75%、期末レポートの内容25%で総合的に評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が10回に満たない場合には、失格とします。
授業計画	第1回 東アジア(1) 東アジアとは何か(ガイダンスを含む) 第2回 東アジア(2) 前近代の中国・朝鮮 第3回 東アジア(3) 西洋列強の東アジア侵略と不平等条約 第4回 東アジア(4) 東アジアの「近代化」の開始 第5回 東アジア(5) 東アジアと帝国主義 第6回 東アジア(6) 第一次世界大戦期と東アジア 第7回 東アジア(7) 第二次世界大戦と東アジア 第8回 東アジア(8) 戦後冷戦体制の形成と東アジア 第9回 東アジア(9) 東アジアにおける冷戦体制の変容 第10回 東アジア(10) 冷戦体制崩壊後の東アジア 第11回 内陸アジア(1) 遊牧帝国の盛衰 第12回 内陸アジア(2) 清朝支配下の内陸アジア 第13回 内陸アジア(3) 自治モンゴル 第14回 内陸アジア(4) モンゴル革命と社会主義建設 第15回 内陸アジア(5) モンゴルの民主化・市場経済化
テキスト	必要に応じて授業中に配布する。

参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 濱下武志ほか編『中国の歴史 東アジアの周辺から考える』有斐閣2015年 2. 上原一慶ほか著『東アジア近現代史』有斐閣Sシリーズ、2015年新版 3. 田中明彦・川島真編『20世紀の東アジア史』東京大学出版会2020年版 4. 小松久男編『中央ユーラシア史（新版世界各国史）』（山川出版社、2000年） 5. 間野英二ほか編『内陸アジア（地域からの世界史6）』（朝日新聞社、1992年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後に対応 ・メールで随時対応 (masaki.n@nagoya-ku.ac.jp)
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックは、授業のなかで行うとともに、必要に応じてコメントや助言をメールでも行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>各回の授業では、翌週の授業内容に関わる参考文献の該当箇所を指示するので、翌週までに各自で予習します。</p> <p>その参考文献を読んだ前提で、次回の授業を行いますので、予習は必須です。</p> <p>また、授業で配布した資料を家で読み、復習します。</p> <p>これらの予習・復習（計60時間）を行うことが、期末レポートの準備につながります。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 貧困をなくそう 10. 人や国の不平等をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	<ol style="list-style-type: none"> 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	交通と社会 / Transportation and Society
時間割コード Course Code	10201
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	伊藤 博司
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	伊藤 博司 (経済学部)
授業の目標	<p>我々の誰もが日常生活の中で直面し、或いは生涯に亘って暮らしの中にある、現代日本の生活基盤でもある“交通”について、その本質に戻って検討しそれぞれ自分の意見を述べられるようにする。</p> <p>○知識・理解の領域 = 交通経済学の基本的な考え方や交通に関する知識を身に付けることができる。</p> <p>○思考判断の領域 = 様々な情報から必要なものを選び、自らの知見と照らして物事を考える訓練ができる。</p> <p>○関心意欲の領域 = 交通は与えられるものではなく、我々は自ら創り上げていくものである、という積極的な認識を得ることが出来る。</p> <p>“交通”という日常的な素材を使って、我々の社会の在り方、将来像を考えて行く授業とする。</p>
授業の概要	<p>我が国は高齢化・人口減少・経済的停滞という避け難い新しい時代を迎えており、これまでは「利用者」「受益者」として接して来た“交通”について、我々自身が“交通主体”としてどのように考え、行動して良好なモビリティを確保・維持していくのか、自ら考えるためのきっかけを作る授業とする。</p> <p>従って“正解”や“結果”を求めるものではなく、受講者自らが当事者として主体的に考えることを重視する。</p> <p>そして、授業時に提供した素材(教材)に基づいてひとり一人が自ら考えることを目指しており、そのような意味で大学教育の入口として新入生・低学年(1・2年生)を主たる受講対象としたい。</p>
評価方法	<p>基本的には期末試験の成績により評価を行うが、授業への参加姿勢(授業内での質疑応答や意見陳述、コメントなどの提出内容ほか)、受講態度などを一定程度重視したい。</p> <p>出席回数による加点・減点を行わないが、授業内での提出物(ワークシート・コメントなど)の記述内容などについては、最終評価の際にある程度考慮する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	詳細は「授業改革詳細情報」による。
テキスト	テキストは使用しないが、各授業の1週間前を目途にGoogle Classroomで講師作成の「教科書」を告知するので、これに基づいて予習を行うことを受講の前提とする。授業の際には、講師が作成したレジュメ(作業シート)や資料集などを適宜配布する。配布する資料集は、統計資料や新聞記事のコピーなどで構成し、これらを授業内での検討材料(教材)とする。
参考書	参考文献などは授業内で適宜紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	

実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	担当教員は、教員着任以前に大手私鉄企業の企画部門で、約10年間に亘り交通政策の調査・企画業務を担当した。この経験に基づいた授業内容とする予定である。
質問への対応方法	質問などがあれば、授業内または授業前後の時間帯に個別に対応する。
フィードバックの方法	提出されたワークシート・コメントなどについては、点検検討を行った上で、授業内で受講生全体に対して解説・論評を行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各授業の1週間前を目途に、Google Classroomにより「教科書(各回8ページ程度)」と「資料(各回2~6ページ程度)」を告知するので、これらをよく読解して概要を理解してから授業に臨むことを受講生に期待したい。各回の授業に先立って、それに対応する「教科書」と「資料」を精読理解して関連情報などをチェックするには、正味の授業時間の2倍程度の予習時間を要するものと考えられる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 3.すべての人に健康と福祉を 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標(11~17)	11.住み続けられるまちづくりを 12.つくる責任つかう責任 13.気候変動に具体的な対策を 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力 9.実践力

開講科目名 Course	イスラーム入門 / Introduction to Islam
時間割コード Course Code	10210
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	ウミリデノブ アリシエル
科目区分 Course Group	共通科目群 社会と歴史
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	ウミリデノブ アリシエル(法学部)、島田 弦(法学部)、クレシ サラ好美(法学部)
授業の目標	(1) イスラームについての基礎知識を得る (2) ムスリム(イスラーム信徒)の多様な生き方を知る (3) イスラームに対する誤解や偏見を持つ日本人に向けて、その誤解や偏見の問題点を指摘できるようになる
授業の概要	ムスリム(イスラーム信徒)は世界に19億人いると推計されます。グローバル化が進む現代、日本にいてもムスリムと出会う機会はますます増えていくでしょう。しかしながら、メディアが報道する一部のムスリムのイメージが先行して、イスラームについてたくさんの誤解や偏見を抱く日本人が多いのも現状です。 そこでこの授業では、映像資料や具体的なデータを用いて、そうした誤解や偏見をひとつずつ検証していきます。第1回目の授業時に抱いていたイスラームのイメージが、15回目の授業時にどれだけ変化するか、楽しみにしててください。
評価方法	参加姿勢 : 75% (毎回の課題の取り組み姿勢、5点×15回) 発表 : 10% (第14~15回でのグループ発表の内容、10点) 期末レポート : 15% (レポートの内容、15点)
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし
授業計画	第1回 基礎知識(1)~ムスリムってどんな人たち? 第2回 基礎知識(2)~アッラーって何? 第3回 誤解を解く(1)~ムスリムは厳しいルールに縛られている? 第4回 誤解を解く(2)~ムスリムの女性はかわいそう? 第5回 誤解を解く(3)~ムスリムは過激で危険? 第6回 理解を深める(1)~イスラーム金融では利息はなぜ禁止なのか? 第7回 理解を深める(2)~イスラーム法とはクルアーンのこと? 第8回 理解を深める(3)~一番大事なものはお母さん? 第9回 理解を深める(4)~ハラールマークのないものを食べてもいい? 第10回 理解を深める(5)~遺体は火葬にするか土葬にするか? 第11回 ムスリムの多様性(1)~日本のムスリムはどんな暮らしをしている? 第12回 ムスリムの多様性(2)~東南アジアで一番ムスリムが多い国はどこ? 第13回 ムスリムの多様性(3)~中央アジアのムスリムはどのように結婚相手を選ぶのか? 第14回 グループ発表(1) 第15回 グループ発表(2)
テキスト	毎回の配布資料

参考書	・樋口美作・佐藤裕一監修『Q&Aで知る中東・イスラーム3 イスラームの人々・ムスリム そのくらしと宗教』(偕成社、2018年) ・長沢栄治監修『13歳からのイスラーム』(かもがわ出版、2021年)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	第1～10回のテーマのうちひとつについて、関心が同じ学生同士でグループを作り、イスラームに対する誤解や偏見を持つ日本人に向けて、その誤解や偏見を解くためのプレゼンテーションを行ってもらいます。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	名古屋のムスリム・コミュニティにおける30年余の参与観察の経験を活かし、現代に生きるムスリムの事例を取り上げます。また多くの教育機関・自治体・諸団体の要請に応えて行ってきた講演で提示してきた映像資料や具体的なデータを共有します。
質問への対応方法	メール対応 qureshi-y@nagoya-ku.ac.jp
フィードバックの方法	各回の課題に対するフィードバックは、次回の授業の中で行います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習は不要ですが、授業後に配布資料を参考に復習することを期待します。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1～10)	10.人や国の不平等をなくそう 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11～17)	16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	2.情報分析力 3.課題発見力
PROGコンピテンシーの要素	1.親和力 7.課題発見力

開講科目名 Course	生活と数 / Mathematics in Everyday Life
時間割コード Course Code	10221
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	下村 尚司
科目区分 Course Group	共通科目群 科学と自然
教室 Classroom	6 4 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	下村 尚司 (経済学部)
授業の目標	<p>数の世界は、実は皆さんの生活にもひそんでいるのです。例えばWebページの色やその他の多くの情報が「16進法」で記述されています。生活にひそんでいる数の世界を探り、2進法・16進法の基礎計算ができるようになります。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 Webページなどにひそんでいる数の世界に触れることが出来る。</p> <p>技能の領域 2進法・16進法についての計算ができる。</p> <p>態度・志向性の領域 数理的技能の幾ばくかについて、初心者的な探求をはじめることが出来る。</p> <p>思考判断の領域 数の世界が私たちの生活を支えていること、こうした技術の習得が社会にとって有意義であることを知ることができる。</p> <p>関心意欲の領域 世の中の様々な場所で、どんな数の世界がひそんでいるか興味を持てる。</p> <p>体験探究の領域 数の世界に興味を持てます。</p>
授業の概要	<p>対面授業で行われます。しかし毎回 Google Classroom で課題を提出します。対面授業の場合でも Google Classroomの課題提出は同じようにあります。</p> <p>この科目は共通科目群に属している選択科目です。</p> <p>まず、指数計算の基礎をもとにして、情報技術で基礎的に使われる、2進法や16進法の計算を行います。</p> <p>対面授業の場合は、毎回の授業で、ノートを取り、その日のうちにGoogle Classroomにログインして、Googleフォームで回答することが基本です。オンデマンドの場合は、Google Classroomにログインして、資料を読んでから課題に回答します。</p> <p>オンデマンドの場合でも資料を読んでノートを取ることで、これまで数学が苦手だった学生諸君も、数学の修得のコツを得ることになるでしょう。</p> <p>質問への対応方法 授業中とGoogle Classroomおよびメールで対応する。 「この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。」</p>

評価方法	<p>対面授業の場合は毎回授業を受けた後で、Google Classroomに入ってもらって、資料を読みGoogleフォームでレポートを回答してもらうことで評価します。</p> <p>オンデマンド授業の場合は、Google Classroomに入ってもらって、資料を読みGoogleフォームでレポートを回答してもらうことになります。</p> <p>毎回のレポート評価で100%</p> <p>欠席した場合は課題を提出しても0点ですよ。ただし、特別欠席など例外もありますよ。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	欠席6回で一応失格とします。
授業計画	<p>おおよその方針は以下のとおりですが、授業の進展によって、一部変更があり得ます。</p> <p>第1回 2進法的前提になる指数の計算を学びましょう。その後Google Formで課題を提出します。指数の計算に慣れていない人には2時間の復習を課します。</p> <p>第2回 2進法の基礎となる計算を学びます。その後Google Formで回答してもらいます。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第3回 2進法の基礎的計算を発展させます。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第4回 2進法の基礎的計算を発展させて、応用力を養います。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第5回 16進法の基礎を学びます。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第6回 2進法を16進法に直す方法を学びます。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第7回 10進法, 2進法, 16進法の関係を学びます。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第8回 16進法を2進法に直す方法を学びます。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第9回 16進法を10進法に直す方法を学びます。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第10回 16進法を10進法に直すことをもう一度練習しましょう。Google Formを回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第11回 10進法を2進法に直す方法を学びます。GoogleFormで回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第12回 10進法を2進法に直す方法をもう一度練習します。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には2時間の練習を課します。</p> <p>第13回 これまでの練習を復習します。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には4時間の復習を課します。</p> <p>第14回 これまでの練習を復習します。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には4時間の復習を課します。</p> <p>第15回 これまでの計算内容について、練習します。Google Formで回答します。レポート結果の良くなかった人には4時間の復習を課します。</p>
テキスト	追って指示する。
参考書	追って指示する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	対面授業がある場合は、時間内であれば、自由に質問してもらって構いません。ただし、授業後まで回答を待ってもらう場合もあるかも知れません。 オンデマンド授業の場合は、Google Classroomの個別質問の方法や私宛 tkshimo@nagoya-ku.ac.jp のメールを送って下さい。通常2～3日中には回答出来ていると思います。
フィードバックの方法	Google Classroomの課題提出時に、回答が分かると思います。質問などが多い場合は、別途コンテンツを作成してメールやGoogle Classroomを使って配信したいと思います。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	初回の授業を受けるときは、資料や板書を見てノートを取りましょう。 次回以後は、前回に勉強した内容をくり返し練習してくださいね。このように予習しましょう！ 毎回、Googleフォームに回答したあとで、もう一度回答してみましょう！このように復習しましょう！
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	

開講科目名 Course	生命の科学 / Bioscience
時間割コード Course Code	10240
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	岸上 明生
科目区分 Course Group	共通科目群 科学と自然
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岸上 明生 (管理栄養学科)
授業の目標	生命を理解するためには、なぜ地球上に生命が存在するかや、生物の特性を科学的に理解する必要がある。本科目では生命科学の基礎概念を理解するとともに、科学的根拠に基づいた考察力を育成する。
授業の概要	生命科学の広範囲な基礎概念をヒトを中心に説明を展開する。、現代社会における科学的関心事について適宜トピックとして挙げて解説する。生命科学について 分子レベルのしくみから環境とのかわりまでをヒトとの関係のもとで理解することを目的とする。 生命活動に貢献する科学的事例について、実社会における例とその諸問題について解説する。 講義内容についての質問は、講義中に随時対応する。 本授業は、対面による授業で実施する。
評価方法	成績評価は、授業回ごとに指示する提出課題(90%)と学習態度(10%)に基づいておこなう。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席回数が授業回の2/3に満たない場合
授業計画	第1回 授業ガイダンスと生命科学への導入 (ミクロとマクロ) 第2回 細胞 (1) 第3回 細胞 (2) 第4回 細胞 (3) 第5回 脳と行動 (1) 第6回 脳と行動 (2) 第7回 脳と行動 (3) 第8回 脳と行動 (4) 第9回 生理機能 (1) 第10回 生理機能 (2) 第11回 生理機能 (3) 第12回 生理機能 (4) 第13回 生態系 (1) 第14回 生態系 (2) 第15回 生態系 (3)
テキスト	使用しない

参考書	Essential細胞生物学(原書第5版)、中村桂子(翻訳)、松原謙一(翻訳)、榊佳之(翻訳)、水島昇(翻訳)、南江堂、 ISBN-13 : 978-4524226825
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	授業内で課題作成の演習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	学生への質問に対して、授業中は随時対応する。時間外においては、オフィスアワー、メールなどで対応する。
フィードバックの方法	授業内で、必要に応じてアドバイする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	予習：授業範囲の内容を事前調査する。(1.5時間) 復習：授業内容や考察をまとめる。(1.5時間)
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	3.すべての人に健康と福祉を
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力

開講科目名 Course	統計学入門 / Introduction to Statistics
時間割コード Course Code	10250
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	共通科目群 科学と自然
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	<p>エクセルの操作を通じて初歩的な統計学の概念を理解し、簡単なデータ分析ができるようになることを目的とする。</p> <p>知識・理解の領域 平均値などの基本的な統計量の意味を理解する。</p> <p>技能の領域 PC操作に慣れ、表計算ソフトを使いこなせるようにする。</p> <p>態度・志向性の領域 データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)を知り、「データ分析ができる」、「データ活用ができる」人材が社会に必要であるという認識を持つ。</p> <p>思考判断の領域 データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方を身につけ、根拠の確かな事実に基づき統計学的に正しく推論することができる能力を持つ。</p> <p>関心意欲の領域 統計学の基礎を習得し、自分でデータ解析を行う意欲を持つ。</p>
授業の概要	<p>対象とする受講生は、数学や統計学の知識を持っていない、そして、エクセルの使用に慣れていない初心者とする。 受講条件は、教科書と「エクセルのインストールされたPC」を講義に持参することである。</p> <p>エクセルの作業によって授業を進めていく。 自分のペースで作業を進めることができる。不明点があれば、個別対応も可能。 予備知識のない初心者でも十分理解できる内容であり、エクセルに数字を入力することから始める。 初めてデータサイエンスを学習する際の最初の授業として無理がないように、易しい内容をゆっくり学習していく予定である。</p> <p>課題の作成は授業中に指導、対話しながら行う。 受講生の知識や理解度を毎回確認して、それに応じて授業内容を合わせる予定である。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業中にエクセルで作成した課題などを提出し、その評価の合計で総合評価する。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	エクセルではじめるデータサイエンスの基礎（統計学の入門編）（仮） 岡田朋子 著 ISBN：9784764960565（近代科学社）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	エクセルを使ってグラフを作成したり，データ分析を行ったりなどの実習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応．Teamsのチャットでも対応． メールでも対応（tomoko@nagoya-ku.ac.jp）．
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の内容についての予習や復習をそれぞれ2時間行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	データの並べ替え, ランキング データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)	授業内容の具体的な説明と準備。 データ分析を学習する理由を考える。 (下記の内容はすべてエクセルを使って学習する。) 計算式を入力することによって、足し算、引き算、かけ算、割り算を行う。 データを大きさの順に並べ替える。	
2	代表値(平均値)	データの合計をデータの個数で割ることによって平均値を求める。 平均値を関数で求める。	
3	代表値(中央値, 最頻値) 代表値の性質の違い	データを大きさの順に並べ替え, 真ん中の値を求める。 最も頻りに現れるデータを求める。	
4	データの範囲 データの抽出	最大値と最小値を除いて平均値を求める。 最大値から最小値を引いて範囲を求める。 ピボットテーブルを使って, 集計する。	
5	データのばらつき(分散, 標準偏差, 偏差値) データ解析ツール データ表現(棒グラフ)	データ分布のばらつきの大きさをひとつの数値で表すにはどうすればいいのかを考える。	
6	データの比較(条件をそろえた比較)	それぞれ分布の様子が異なるデータの集合間のデータ同士を比較する。	
7	データの種類(量的変数, 質的変数) データ可視化(2軸グラフ, 関係性の可視化)	データの種類分けをする。 エクセルで折れ線グラフ, 散布図を作成する。	
8	データ表現(折れ線グラフ, 散布図) 相関と因果(相関係数, 疑似相関)	散布図を見て直線的な関係を確認し, その強さをひとつの数値で表す。	
9	データの分析(単回帰分析) データを起点としたものの方見方, 人間の知的活動を起点としたものの方見方	散布図を見て直線的な関係を確認し, 因果関係を想定する。 結果を予測する。	
10	データ解析(最適化, シミュレーション) 教師あり学習による予測	予測利益が最大になるような価格はいくらになるかを求める。	
11	時系列データ データ解析(パターン発見)	時間の経過順に並んだデータの周期的な動きを折れ線グラフで確認する。 期間を移動させながら平均をとり, データの動きをなめらかにする。	
12	季節調整, 移動平均	季節に影響されないデータの動きを確認する。	
13	データの分布(ヒストグラム) 不適切なグラフ表現 優れた可視化事例の紹介	データを小区間ごとに分けて, その小区間に入っているデータの個数を数える。 ヒストグラムを作成する。	
14	データベース データの集計(和, 平均) データの図表表現(チャート化)	ピボットテーブルでクロス集計を行う。	
15	データクレンジング(外れ値, 異常値, 欠損値の処理)	大きく外れている極端な値を見つける。	

開講科目名 Course	統計学入門 / Introduction to Statistics
時間割コード Course Code	10251
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	共通科目群 科学と自然
教室 Classroom	7 2 B 講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	岡田 朋子 (経営学部)
授業の目標	<p>エクセルの操作を通じて初歩的な統計学の概念を理解し、簡単なデータ分析ができるようになることを目的とする。</p> <p>知識・理解の領域 平均値などの基本的な統計量の意味を理解する。</p> <p>技能の領域 PC操作に慣れ、表計算ソフトを使いこなせるようにする。</p> <p>態度・志向性の領域 データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)を知り、「データ分析ができる」、「データ活用ができる」人材が社会に必要であるという認識を持つ。</p> <p>思考判断の領域 データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方を身につけ、根拠の確かな事実に基づき統計学的に正しく推論することができる能力を持つ。</p> <p>関心意欲の領域 統計学の基礎を習得し、自分でデータ解析を行う意欲を持つ。</p>
授業の概要	<p>対象とする受講生は、数学や統計学の知識を持っていない、そして、エクセルの使用に慣れていない初心者とする。 受講条件は、教科書と「エクセルのインストールされたPC」を講義に持参することである。</p> <p>エクセルの作業によって授業を進めていく。 自分のペースで作業を進めることができる。不明点があれば、個別対応も可能。 予備知識のない初心者でも十分理解できる内容であり、エクセルに数字を入力することから始める。 初めてデータサイエンスを学習する際の最初の授業として無理がないように、易しい内容をゆっくり学習していく予定である。</p> <p>課題の作成は授業中に指導、対話しながら行う。 受講生の知識や理解度を毎回確認して、それに応じて授業内容を合わせる予定である。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	授業中にエクセルで作成した課題などを提出し、その評価の合計で総合評価する。

教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。
テキスト	エクセルではじめるデータサイエンスの基礎（統計学の入門編）（仮） 岡田朋子 著 ISBN：9784764960565（近代科学社）
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	エクセルを使ってグラフを作成したり、データ分析を行ったりなどの実習を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	随時対応。Teamsのチャットでも対応。 メールでも対応（tomoko@nagoya-ku.ac.jp）。
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中に行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の内容についての予習や復習をそれぞれ2時間行うこと。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) Time (date and time)	主題と位置付け(担当) Subjects and instructor's position	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	データの並べ替え, ランキング データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)	授業内容の具体的な説明と準備. データ分析を学習する理由を考える. (下記の内容はすべてエクセルを使って学習する.) 計算式を入力することによって, 足し算, 引き算, かけ算, 割り算を行う. データを大きさの順に並べ替える.	
2	代表値(平均値)	データの合計をデータの個数で割ることによって平均値を求める. 平均値を関数で求める.	
3	代表値(中央値, 最頻値) 代表値の性質の違い	データを大きさの順に並べ替え, 真ん中の値を求める. 最も頻りに現れるデータを求める.	
4	データの範囲 データの抽出	最大値と最小値を除いて平均値を求める. 最大値から最小値を引いて範囲を求める. ピボットテーブルを使って, 集計する.	
5	データのばらつき(分散, 標準偏差, 偏差値) データ解析ツール データ表現(棒グラフ)	データ分布のばらつきの大きさをひとつの数値で表すにはどうすればいいのかを考える.	
6	データの比較(条件をそろえた比較)	それぞれ分布の様子が異なるデータの集合間のデータ同士を比較する.	
7	データの種類(量的変数, 質的変数) データ可視化(2軸グラフ, 関係性の可視化)	データの種類分けをする. エクセルで折れ線グラフ, 散布図を作成する.	
8	データ表現(折れ線グラフ, 散布図) 相関と因果(相関係数, 疑似相関)	散布図を見て直線的な関係を確認し, その強さをひとつの数値で表す.	
9	データの分析(単回帰分析) データを起点としたものの方見方, 人間の知的活動を起点としたものの方見方	散布図を見て直線的な関係を確認し, 因果関係を想定する. 結果を予測する.	
10	データ解析(最適化, シミュレーション) 教師あり学習による予測	予測利益が最大になるような価格はいくらになるかを求める.	
11	時系列データ データ解析(パターン発見)	時間の経過順に並んだデータの周期的な動きを折れ線グラフで確認する. 期間を移動させながら平均をとり, データの動きをなめらかにする.	
12	季節調整, 移動平均	季節に影響されないデータの動きを確認する.	
13	データの分布(ヒストグラム) 不適切なグラフ表現 優れた可視化事例の紹介	データを小区間ごとに分けて, その小区間に入っているデータの個数を数える. ヒストグラムを作成する.	
14	データベース データの集計(和, 平均) データの図表表現(チャート化)	ピボットテーブルでクロス集計を行う.	
15	データクレンジング(外れ値, 異常値, 欠損値の処理)	大きく外れている極端な値を見つける.	

開講科目名 Course	科学と人間社会I / Science and Human Society I
時間割コード Course Code	10260
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	火 / Tue 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	栗本 英和
科目区分 Course Group	共通科目群 文理ハイブリッド
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	栗本 英和 (法学部)
授業の目標	<p>本授業は、名古屋経済大学の建学の精神である「円満に発達せる常識を有し、社会人生に対して正 当なる理解あり、同情あり、頭の人たり、手の人たると同時に、情の人たり、徳の人」に資する、 分野横断的な基礎知識や基本概念であるCommon Senseの理解、科学的思考法による伎倆の育成、豊 かな人間性の醸成を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解の領域 ・人や社会を支えるシステム、マネジメント、情報の基礎知識と基本概念を学ぶ。 2. 技能の領域 ・目的目標、計画実行、調査分析、構想企画等など、仕事や業務を円滑に進めるうえで必要な科学 的に思考するプロセスを学修する。 3. 態度・志向性の領域 ・人と調和するシステムのあり方やデザインのセンスを養う。 4. 思考判断の領域 ・意思決定を科学的、合目的に行う手法を活用する。 5. 関心意欲の領域 ・企業、医療、行政、教育・サービス等の業種業態を超えて共通する、人や組織が持続的に成長・ 向上するためのマネジメントと情報システムの仕組みを理解する。 6. 体験探究の領域 ・受講生数に応じたWorkshop等の協働学修から、正解がない課題への姿勢を学ぶ。
授業の概要	<p>本授業は、人が社会的・経済的・文化的な生活を営むうえで不可欠な、学術や科学技術がもつ役割 , 機能, 課題等を理解する。とくに、人・組織・社会の持続可能な発展に資する学術や科学技術を , マネジメント, システム, 情報等の観点から考察する。また、多様な事例を通して、企業, 医療 , 行政, 教育, サービス等の業種業態を超えて共通する、顧客価値創造のあり方や実現する仕組み を探究する。</p> <p>この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照すること。</p>
評価方法	<p>以下を基本とし、詳細な割合等は初回講義で示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各主題に対する課題レポートにおける表現力・構想力・分析力等 (70%) ・授業への積極的な参画、態度、自己観照(Self-Assessment)等 (30%) <p>課題レポートや内省的な考察を重視し、期末の筆記試験は実施しない予定である。</p>
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	<p>特になし。 子細は初回講義で説明する。</p>

授業計画	<p>次のような構成で行う予定である。 なお、受講者の理解状況や対面・遠隔等の学修環境に応じて内容の順序や水準を変更する場合もある。詳細は初回講義で示す。</p> <p>第01回 科学と人間社会を学修する目的と目標 人間社会をマネジメント学、システム学、データ・情報学から考察する背景と必要性を学ぶ。 講義の概要と計画、評価方法と基準等、進め方を理解する。</p> <p>第02回 データ・情報・知識とは何か データ、情報、知識の構造を理解し、情報と伝えたい想いや概念との関係を学ぶ。</p> <p>第03回 情報と概念表現 情報学の概念を構造化・可視化する手法を学ぶ。</p> <p>第04回 情報と意思決定 意思決定を科学的に導く手法である階層別分析法を学ぶ。</p> <p>第05回 意思決定プロセスの解析 ワークシートによって階層別分析法を実習する。</p> <p>第06回 システムとは何か システムの概念、特徴、考え方を学ぶ。</p> <p>第07回 システム思考と問題解決 二律背反の事象を構造化し、解決するための方法を理解する。</p> <p>第08回 システム思考と現象のダイナミクス 基本となるシステムのアーキタイプを学ぶ。</p> <p>第09回 情報システムとは何か 情報システムで発生する問題と解決方法を検討する。</p> <p>第10回 マネジメントとは何か PDCAの基本概念、戦略経営と組織経営、経営の質の基礎を学ぶ。</p> <p>第11回 人間社会と経営情報システムのケース・スタディ 1 サービス系業務における価値創造の仕組みを事例から考察する。</p> <p>第12回 人間社会と経営情報システムのケース・スタディ 2 流通・販売系業務における価値創造の仕組みを事例から考察する。</p> <p>第13回 人間社会と経営情報システムのケース・スタディ 3 食品・製造系業務における価値創造の仕組みを事例から考察する。</p> <p>第14回 人間社会と経営情報システムのケース・スタディ 4 医療・福祉系業務における価値創造の仕組みを事例から考察する。</p> <p>第15回 人間社会と経営情報システムのケース・スタディ 5 公共系業務における価値創造の仕組みを事例から考察する。</p>
テキスト	必要時にはプリント等を配布する。もしくはインターネット上で入手可能な資料を示す。
参考書	<p>以下を含め、必要に応じて授業で示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マシュー・サイド：『多様性の科学』，ディスカヴァー・トゥエンティワン ・野中郁次郎，竹内 弘高：『知識創造企業』，『ワイズカンパニー』，東洋経済新報社 ・ピーター M センゲ：『学習する組織』，英治出版 ・前田明洋，栗本英和：『ネクサス・コモンズ』，白揚社
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	受講生数と講義室に応じたWorkshop等の協働学修によって、正解がない課題への姿勢を学ぶ。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	科学技術・学術政策に掛かる研究開発評価やEBPM支援，大学や認証評価機関の経営企画支援や評価委員として内部質保証システム構築や事業計画策定支援等，の実務経験に拠る現実的視点を講義に反映する。
質問への対応方法	授業終了後に対応する。
フィードバックの方法	共通する提出課題や質問内容に対して，総括や講評の形で解説及び例示する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>事前の学修は，情報学・データ学，システム学，マネジメント学に関する用語と概念の整理など，授業への準備を予定している。</p> <p>事後の学修は，課題レポートや振り返りレポートの作成等を予定している。</p> <p>単位の実質化（Study Load）に関する事項も初回講義で説明する。</p>
使用言語	日本語

SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 17の目標（11～17）	12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力 4.構想力
PROGコンピテンシーの要素	7.課題発見力 8.計画立案力

開講科目名 Course	科学と人間社会II / Science and Human Society II
時間割コード Course Code	10271
開講所属 Course Offered by	大学共通 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 3
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	高橋 裕平
科目区分 Course Group	共通科目群 文理ハイブリッド
教室 Classroom	6 5 B 大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	高橋 裕平 (法学部)、野口 道代 (法学部)
授業の目標	地質・鉱物・環境について学び、それらと人間社会とのかかわりを理解し説明できるようになる。 1. 知識・理解の領域 ・資源の地域的な偏りは地質の違いによることを理解する。 2. 技術の能力 ・資源調査のための地質学の体系と資源開発に伴う環境負荷を理解する。 3. 態度・志向性の領域 ・資源開発とそれに伴う環境問題から、科学と人間社会を考える。
授業の概要	授業で講じる内容 地学の基礎を知った上で、鉱物資源と環境問題にからめて科学と人間社会を以下の章立てで論じる。 第1回 資源と地質入門、第2回 資源開発と経済、第3回 地球の歴史、第4回 地球の仲間、第5回 日本の地質・鉱床、第6回 地学史、第7回 測量と地形図、第8回 地質調査と地質図、第9回 岩石と鉱物、第10回 資源各論(その1)、第11回 資源各論(その2)、第12回 2030持続可能な社会へ-SDGs、第13回 化石燃料と地球温暖化、第14回 調査事例1、第15回 調査事例2 なお、この科目の位置づけについては本学HPのナンバリングを参照する。
評価方法	・随時小レポートを課す。そのレポートの内容(50%)。 ・発言などの授業への取り組み態度(50%) 遠隔となった場合、出欠確認、小レポート提出、発言をグーグルフォーム利用で代替する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	出席(特別欠席を含む)が半分に満たない場合

授業計画	<p>第1回 資源と地質 a. 鉱物資源のかたより(その1), b. 元素の復習, c. 地質序論</p> <p>第2回 資源開発と経済 a. 資源のかたより(その2), b. 鉱物資源と経済, c. 鉱物資源の動向</p> <p>第3回 地球の歴史 a. 相対年代, b. 地質時代区分, c. 放射年代</p> <p>第4回 地球の仲間 a. 惑星, b. 月と隕石, c. 地球の運動</p> <p>第5回 日本の地質・鉱床 a. 日本の地質, b. 日本の鉱物資源, c. 日本の鉱山例</p> <p>第6回 地学史 a. ギリシャ時代と中世ヨーロッパ, b. 地質学の近代化, c. グローバルテクトニクスの導入</p> <p>第7回 測量と地形図 a. 国土の基本-地形図, b. 測量とその応用, c. 測量技術の進展</p> <p>第8回 地質調査と地質図 a. 地質学黎明期(れいめいき), b. 日本の地質図, c. 地質図の書き方と読み方</p> <p>第9回 岩石と鉱物 a. 主な鉱物, b. 岩石の分類, c. 偏光顕微鏡</p> <p>第10回 資源各論(その1) a. 金, b. 白金, c. 銅</p> <p>第11回 資源各論(その2) a. 花こう岩とは, b. 花こう岩系列, c. タングステンとモリブデン鉱床</p> <p>第12回 2030持続可能な社会へ-SDGs a. 持続可能な開発目標(SDGs), b. 地方におけるSDGsの推進, c. 海洋プラスチックごみ問題</p> <p>第13回 化石燃料(石炭)と環境問題 a. 石炭生産と二酸化炭素, b. 地球温暖化, c. 二酸化炭素地中貯留</p> <p>第14回 調査各論1(モンゴル) a. モンゴル概略, b. モンゴルの地質調査史, c. パンペリーの業績</p> <p>第15回 調査各論2(南極) a. 南極概略, b. 南極点をめざして, c. 日本の南極観測</p>
テキスト	なし。資料を用意する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・もういちど読む数研の高校地学。数研出版, pp. 400。 ・ウェブサイト(一人で学ぶ地質学) <p>日本語: http://y95480.g1.xrea.com/indexjp.htm#CH4 英語版: http://y95480.g1.xrea.com/indexen.htm#Ch4</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	岩石・鉱物試料の実物観察。 地形図や地質図に関する作図実習。
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	地質調査所技官、南極地域観測隊隊員、JICA専門家(地質学)の経験を授業に反映する。
質問への対応方法	授業の中で対応する。遠隔となった場合、Google Classroomで対応する。
フィードバックの方法	授業の中で対応する。遠隔となった場合、Google Classroomで対応する。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	<p>毎回の授業について内容を深める資料のウェブサイトを設ける。また、そのサイトには関連するYouTubeや参考文献を紹介する。これらを利用して準備学習・予習と復習にあてる。</p> <p>準備学習と予習: 参考資料サイトを参照し、さらにサイト中の問いを解く。</p> <p>復習: 関連動画を見る。参考文献(e-Bookを含む)を読む。質問や感想に対するフィードバックを参照し理解を深める。</p>
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	<p>1. 貧困をなくそう</p> <p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
SDGs 17の目標(11~17)	<p>13. 気候変動に具体的な対策を</p> <p>14. 海の豊かさを守ろう</p> <p>15. 陸の豊かさを守ろう</p>
PROGリテラシーの要素	1. 情報収集力
PROGコンピテンシーの要素	<p>2. 協同力</p> <p>3. 統率力</p>